日本古典作者事典 た ２６００・２７００

目次にもどる

2601 **他阿**（初世たあ、他阿弥陀仏/眞教、俗姓；壬生みぶ）1237-131983 時宗2世遊行上人；1277一遍門、諸国遊行/1303相州当麻金光院道場開、歌・法語・和讃、家集「大鏡集（他阿上人家集）」、以後相州藤沢清浄寺住職は「遊行上人他阿弥陀仏」と称する

他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *智得*（ちとく；法諱、3代遊行上人/時宗僧）Ｆ２８０２
他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *託阿*（たくあ；法諱、7代遊行上人/時宗僧）Ｅ２６１７
他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *尊皓*（そんこう・19代遊行上人/時宗僧） Ｆ２５３５
他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *知蓮*（智蓮ちれん、21代遊行上人/時宗僧）Ｋ２８５１
他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *其阿*（きあ、仏天、25代遊行上人/時宗僧）Ｊ１６１４
他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *体光*（たいこう・29代遊行上人/時宗僧） Ｊ２６９３
他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *普光*（ふこう・32代遊行上人/時宗僧） Ｉ３８４０
他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *満悟*（まんご・33代遊行上人/時宗僧） Ｋ４０４８
他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *法爾*（ほうに；法諱、金光寺20世/35代遊行上人/時宗僧）Ｃ３９４３
他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *尊任*（そんにん・42代遊行上人/時宗僧） Ｆ２５６９
他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *尊遵*（そんじゅん・45代遊行上人/時宗僧）Ｌ２５０２
他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *一法*（いっぽう・49代遊行上人/時宗僧） Ｈ１１８４
他阿（たあ、他阿弥陀仏）→ *快存*（かいぞん・其阿・50代遊行上人/時宗僧）Ｉ１５９１
茶庵（だあん） → *杉風*（さんぷう・杉山、商家/俳人） ２０５６
兌庵（だあん） → *十口*（じっこう・青木/柳/広瀬、俳人） Ｅ２１８５

2600 **岱**（たい・岸きし、別名；昌岱/国章/成章、岸駒男/本姓佐伯）1782-186584歳 京絵師；父門、有栖川宮家出仕/1802筑前守・従五上/越前守、父と金沢城障壁画制作、1830「夷曲ひなぶり月次草」画、「地震考」著、
［岱の字/号］字；君鎮/雲倬、 号；岸岱がんたい/卓堂/虎岱/虎頭館/紫人/紫水/同功館

体（たい・上田） → *公鼎*（こうてい・上田うえだ、眼科医/国学） Ｋ１９７１
岱（たい・久貝） → *蓼湾*（りょうわん・久貝くがい、幕臣/詩人） Ｊ４９６９
泰（たい・岡井） → *碧庵*（へきあん・岡井、儒者） ２７８５
泰（たい・吉田） → *竹窓*（ちくそう・吉田、藩士/儒者） Ｄ２８３６
泰（たい・橘） → *泰*（とおる・橘たちばな、書肆/国学/篆刻） Ｉ３１７８
泰（たい・竹村） → *雲麟*（うんりん・竹村たけむら、絵師） Ｅ１２１４
泰（たい・勝原/小田） → *済川*（さいせん・小田/勝原、藩校医者/儒者）Ｇ２０８６
泰（たい・金井） → *烏洲*（うしゅう・金井かない、農家/儒/絵師）Ｂ１２７５
泰（たい・茅根） → *寒緑*（かんりょく・茅根ちのね、藩士/儒者） Ｒ１５８２
泰（たい・磌はざま） → *師古*（しこ・磌はざま、絵師） Ｔ２１２９
泰（たい・吉田） → *竹窓*（ちくそう・吉田よしだ、藩士/儒者） Ｄ２８３６
泰（たい・松原） → *櫟園*（れきえん・松原まつばら、儒者/史学） ５１７３
泰（たい・市島） → *屏山*（へいざん・市島いちじま、詩人/弾琴） ２７４０
泰（たい・宮河/塩田） → *順庵*（じゅんあん・塩田/宮河、幕臣/医者）Ｊ２１２０
泰（たい・佐藤/高津） → *淄川*（しせん・高津たかつ、藩儒/従軍記録）Ｅ２１４３
退（たい・佐藤/新山） → *退甫*（たいほ・新山にいやま/佐藤、相法家） Ｌ２６０１
駘（たい・村上） → *石田*（せきでん・村上むらかみ、篆刻家） Ｋ２４４３
大（だい・鈴木） → *楳林*（ばいりん・鈴木すずき、儒者） Ｃ３６２８
大（だい・武田） → *琴亭*（きんてい・武田たけだ、儒者/卜筮） Ｒ１６４７
台（だい・福山/林） → *天真*（てんしん・林はやし/福山、書家） Ｄ３０９０
台（だい・樋口） → *子星*（しせい・樋口ひぐち、眼科医） Ｕ２１０９
鼐（だい・岡井） → *赤城*（せきじょう・岡井、藩儒/詩人） Ｄ２４５４

B2601 **岱阿**（たいあ） ？－ ？ 俳人；佃房の指示で1756其角50忌追膳「思亭」編（松宇と）

B2600 **大阿**（だいあ・萩原はぎわら、別号；磨花園）?-? 江後期1818-44頃越後糸魚川藩士/俳人；沙羅門、

1825「熱海日記」著
大阿(だいあ;通称)　→　*増応*(そうおう;法諱、真言僧)　Ｇ２５３７
大阿(だいあ;字)　→　*月海*(げっかい:法諱、真宗僧/奇物蒐集)Ｇ１８９１
J2600 **太愛**(たいあい;法諱・了賢りょうけん;号)?-?　江前期1661-73頃佐渡椎泊の真宗永善寺僧、音韻学研究、「尋出人名了賢記」
J2601 **太安**(泰安たいあん:道号・養康/永泰ようこう:法諱)?-?　武州の曹洞宗宝持寺2世、1569「太安養康行録記」(宝持寺3世大雲宗珠著)
J2602 **退庵**(たいあん・山本やまもと、名;宗謙)?-?　江中期近江堅田の茶人:藤村庸軒門、庸軒の弟?、米川流香道/能書家、「茶席夜話」著、[退庵(;号)の通称/別号]通称;堅田退庵、別号;屯翁/屯竜/屯豪
J2603 **泰庵**(たいあん・服部はっとり、名;元伯/元珀)?-1833　越後魚沼郡十日町の人/儒;関口雪翁門、1787頃江戸/医者:吉田快庵門、奥羽歴遊/蝦夷松前奉行に出仕;宗谷に4年滞在、帰郷後;弟道斎と父の医業を支援/弟を嗣子、伊勢山田で客死、「医聖心印」著、[泰庵(:通称)の字/号]字;松卿、号;積翠堂/大衡道人/黙仙
泰安(たいあん;号)　→　*永恩*(えいおん;法諱・春澤、臨済僧)　１３１６
泰安(たいあん・小川)　→　*泰堂*(たいどう・小川おがわ、医者/日蓮研究)Ｋ２６７８
泰庵(たいあん)　→　*加友*(かゆう・荒木、医者/俳人)　Ｄ１５３０
泰庵(たいあん・安藤)　→　*為章*(ためあき・安藤あんどう、国学/歌人)　２６５４
泰庵(たいあん・片岡)　→　*眞鉄*(まがね・片岡、儒医/仮名研究)　４０５５
退庵(たいあん・生田)　→　*精*(くわし・生田いくた、藩士/国学)　Ｄ１７５７
退庵(たいあん・八木)　→　*文琳*(文林ぶんりん・八木やぎ、藩士/儒者)Ｇ３８７８
J2604 **大安**(だいあん:道号・浄桃じょうとう:法諱、寿軒居士男)?-? 1735存　黄檗僧:雪門元亨門/1702嗣法、1728摂津昆陽新田村の常休寺住持、「弊帚子」著
J2605 **大安**(だいあん)　? - 1803　江中期伊勢香取の真宗大谷派法泉寺住職、高倉寮に修学;慧琳門/1795擬講、慧琳門下四天王の1、「浄土和讃分科」「浄土和讃私科」、「蓮華蔵界義」「阿弥陀経指讃」「阿弥陀経聞記」「讃阿弥陀仏偈聞記」「御伝鈔聴記」外著多数
大庵(大菴だいあん)　→　*大三*(だいぞう・大倉、歌人)　Ｂ２６８２
大安院(だいあんいん)　→　*光道*(てるみち・松平まつだいら、藩主)　Ｆ３００１
胎安斎(たいあんさい)　→　*桃塢*(とうう・小森、蘭方医/御典医)　Ｂ３１１８
大安寺和尚(だいあんじおしょう)→　*行教*(ぎょうきょう、法相/三論僧)　Ｇ１６６６
大遺斎(だいいさい)　→　*鞏革斎*(きょうかくさい・三宅みやけ、儒者)　Ｇ１６６３
大医淖翁沙彌(だいいどうおうしゃみ)→*淖翁*(どうおう・安藤あんどう、医者/教育)Ｕ３１０４
退一(たいいち・安田/山県)→　*璣*(たまき・山県/宍戸、藩士/儒者)　Ｓ２６２３
大一(だいいち・古賀)　→　*素堂*(そどう・古賀こが/劉、藩儒)　Ｋ２５２３
B2602 **太一庵**(たいいちあん・下流かりゅう)?-　?　江後期俳人、1803「俳諧社の梅」編(米花庵田社の句集)、1804「玉花勝覧」校
太一庵(たいいちあん)　→　*快台*(かいだい・麦阿、俳人1762-1848)　Ｉ１５９２
太一院(たいいちいん:法号)→　*信成*(のぶなり・前田、家老/古学)　Ｃ３５６１
第一園(だいいちえん)　→　*梅人*(ばいじん・平山、俳人)　Ｂ３６６３
退一郎(たいいちろう・河村/北条)→　*悔堂*(かいどう・北条ほうじょう、儒者)　Ｈ１５１８
退一郎(たいいちろう・田中)→　*為善*(ためよし・田中たなか/桑原、藩士/国学)Ｘ２６８８
泰一郎(太一郎たいいちろう・松本)→　*古堂*(こどう・松本、儒者/勤王)　Ｄ１９４３
大一郎(だいいちろう・古賀)→　*素堂*(そどう・古賀こが/劉、藩儒)　Ｋ２５２３
大一郎(だいいちろう・土方)→　*久元*(ひさもと・土方ひじかた、藩士/政治家)Ｋ３７７５
第一楼芝仙(だいいちろうしせん)→*蛙水*(あすい・後藤ごとう/桐山、国学/歌)　Ｈ１０５２
B2603 **太乙**(たいいつ/たいおつ・村瀬むらせ、名;黎/藜/青黎)1803-81*79* 美濃武儀郡有知の儒者/村瀬藤城の一族、京の頼山陽門/師没後帰郷/名古屋で開塾/1844藤城の代行で尾張犬山藩の儒臣、藩校敬道館で講説、経史/詩文/書画、1849「幼学詩選」53「菅茶山翁詩鈔」編、「太乙堂詩鈔」、[太乙(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;外太郎、字;泰乙、通称;泰一、

別号;晦園/濃山樵夫/濃山散人/翠仙/白雲/太一/放屁先生、法号;独尊院

太一(泰乙/泰一たいいつ・村瀬)→太乙(たいいつ/たいおつ・村瀬、藩士/儒者)Ｂ２６０３

太一(たいいつ・津田/田) → 養(よう・津田つだ/修姓;田、医者/俳人)４７５３

太一(たいいつ・飯田) → 篤老(とくろう/あつおい・飯田、医者/俳人) Ｌ３１６２

太一(たいいつ・永沢) → 躬国(みくに・永沢ながさわ、歌人) ４１８０

太乙(太一たいいつ・赤沢)→ 一堂(いちどう・赤沢あかざわ、儒者/詩人) Ｅ１１１５

太乙(太一たいいつ・石川)→ 金谷(きんこく・石川いしかわ、儒者) Ｉ１６９７

太逸(太乙たいいつ・伊東)→ 太逸(ひろはや・伊東いとう/藤原、医者) Ｌ３７１１

太逸(たいいつ・小野) → 正博(まさひろ・小野おの、商家/歌人) Ｏ４０１６

D2698 **大一**(だいいつ) ？－ ？ 江中期俳人;超波[1702-40]門、
1756超波追善「わかな」共編(;玉峨・桑也らと)

退一歩堂(たいいっぽどう) → 峒陽(とうよう・千村、儒者) Ｈ３１８７

太乙楼(たいいつろう) → 近儔(ちかとも・松平、藩主/俳人) Ｂ２８３４

泰胤(たいいん・土御門) → 泰胤(やすたね・土御門つちみかど/安倍、廷臣/記録)Ｂ４５９３

大蔭(だいいん・中村) → 大蔭(おおかげ・中村なかむら、大庄屋/国学)Ｅ１４０２

大隠斎(だいいんさい) → 孝庵(2世こうあん・栗山、医者/解剖) Ｈ１９２２

J2606 **帯雨**(たいう・井口いぐち) ？－ ？ 江戸中期大阪の戯作者、
1772「今様こけころも」73「道普請」著

B2604 **対雨**(たいう) ？－ ？ 雑俳人、1834一声「歌羅衣」入

大雨(たいう・車軸亭) →車軸亭大雨(しゃじくていたいう、戯作者) Ｗ２１３０

帯雨(たいう・安藤) → 因蔭(よりかげ・安藤あんどう/河村、国学) Ｌ４７３３

待雨老人(たいうろうじん) → 瑞杲(ずいこう:法諱・旭岑、臨済僧) ２３５３

J2607 **泰運**(たいうん:道号・了啓りょうけい:法諱、俗姓;宮原)1690-177182 肥前佐賀の曹洞僧;13歳で了翁門、
佐賀宗竜寺黙堂日枢の法嗣/1742宗竜寺住寺/肥前来迎寺村に観音院開山、伊勢泰運寺開、
1736「経寺山観音記」70「豌豆稿」、「泰運了啓禅師語録」著

J2608 **対雲**(たいうん・佐藤さとう、通称;利右衛門)?-? 1779存 江中期江戸の書家:長雄耕雲[1688-1749]門、
1765「長雄書礼文集」68「長雄年中往来」71「隅田川往来」著、
1773「長雄手紙文集」書、76「故年暦帖」著

J2609 **泰運**(たいうん:法諱) ？－ ？ 江中期河内の真宗本願寺派僧、「東丘詩稿」、
1771「日渓学則解」75「御文章匡興記」、「五重義弁」「真宗論衡」著

X2692 **待雲**(たいうん:法諱) 1707 － 178478 播磨姫路の生/比叡山天台宗巧安院先住、
歌人;武者小路実岳さねおか門、備中浅口郡住

J2610 **泰雲**(たいうん:法諱、俗名;岡田おかだ起山)?-1799 尾張の真宗僧、
1776「本願興起鈔」81「愚禿鈔要解」著

J2611 **泰運**(たいうん・神馬じんば、名;善継)1785-185672歳 羽後豊岡の儒/蘭医;鈴木朴隣門/俳人、
戯作/狂歌/狂詩、「笠の雫」「俗語正字使覧」「飢饉百人一首」著、
[泰運(;号)の別号] 敬益/善眞/千松/銚子坊/敬天山人/卜遊斎/巴斎/渥涯あくがい/泰雪

泰芸(たいうん;字) → 日意(にちい;法諱、日蓮僧) ３３４０

泰芸(たいうん;字) → 日善(にちぜん;法諱・蓮成院、日蓮僧) Ｃ３３６２

泰雲(たいうん;号) → 梵桂(ぼんけい;法諱/維馨いけい;道号、臨済僧)Ｆ３９２９

泰雲(たいうん;法号) → 忠利(ただとし・酒井さかい、藩主) Ｑ２６０２

岱雲(たいうん;号) → 直容(なおかた・新庄しんじょう、幕臣/歌) Ｋ３２４４

対雲(たいうん;号) → 竜門(りゅうもん;道号・承猷;法諱、臨済僧)Ｆ４９７６

太雲(たいうん・佐和) → 莘斎(しんさい・佐和さわ、儒者/勤王/僧) Ｏ２２４４

待雲(たいうん・岡本) → 一方(いっぽう・岡本おかもと、藩士/儒者) Ｈ１１９４

J2612 **大雲**(だいうん:道号・永瑞えいずい:法諱、俗姓;織田)1482-156281 尾張曹洞僧;祥巌秀麟門、
嗣法/雲興寺7世、1540信秀開基の尾張万松寺開山、「大雲禅師録」著、織田信秀の伯父

J2613 **大雲**(だいうん:道号・宗珠そうじゅ:法諱)?-1569 武州曹洞僧:宝持寺2世太安養康門、宝持寺3世
1569「太安養康行録記」著

J2614 **大雲**(だいうん:法諱) ？－ ？ 江中期宝暦-天明1751-89頃武州真言宗普門寺の初世、

長谷寺で修行、1761「以呂波万年草」編、79「二王門功徳鑑」著

J2615 **大雲**(だいうん:法諱・澍**法**じゅほう;字、俗姓;上原)1742-1813*72* 真言律僧:霊雲寺法明門/1766衣鉢戒を受/84衣具足戒を受、武州蔵春庵3世、1791「安流聖教伝授録」、「安流聖教対受録」著

J2616 **大運**(だいうん:法諱、俗姓;永末)1757-1800*44歳* 安藝山県郡寺原の真宗本願寺派僧、広島報専坊慧雲門/安藝畑賀の品秀寺9世、「自省録」「述懐和讃録」「正像末和讃録」著、「阿弥陀経録」「易行品管蠡記」「高僧和讃講録」「孝経録」「日渓学則」「二門偈録」著

J2617 **大雲**(だいうん:法諱、法名;興蓮社法誉仁阿義寛、北尾彦兵衛男)1817-76*60* 京の浄土僧;義聞門、芝増上寺修学/太田大光院大休門、無量覚院住、浄土宗三部経の法式の統一(大雲点)尽力、幕末期の仏教排撃に対し著書で仏教擁護、「仏道問答」「無名抄」「訓蒙十科」「啓蒙随録」、「刻訓点清濁三部経凡例」「訓蒙小字彙」「三経字音考」「富士日記」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[山吹の八重咲く花の散る頃は春もかへるの声あはれなり](大江戸倭歌;春339/蛙)

大云(だいうん・近衛) → *信尋*(のぶひろ・近衛、関白/書/連歌) Ｄ３５０９
大雲(だいうん;号) → *了恵*(りょうえ;法諱・大雲、天台僧) Ｇ４９４３
大雲(だいうん;字) → *亮潤*(りょうにん;法諱、天台僧/大僧正) Ｊ４９１８
泰雲院(たいうんいん) → *立孝*(たつたか・細川ほそかわ、武将/歌人) Ｒ２６６５
泰雲院(たいうんいん) → *忠寛*(ただひろ・酒井、藩主) Ｑ２６７３
泰雲院(たいうんいん) → *重教*(しげみち・前田/菅原、藩主) Ｓ２１８０
泰雲院(たいうんいん) → *高泰*(たかやす・毛利もうり、藩主/歌) Ｕ２６２３
泰雲院(たいうんいん) → *村年*(むらとし・伊達だて、藩主) Ｄ４２８９
大雲院(だいうんいん;法号)→ *輝澄*(てるずみ・池田いけだ、藩主/日記) Ｃ３０７７
大運院陽翁(だいうんいんようおう)→ *陽翁*(ようおう・日応、軍記作者) ４７６６
堆雲和尚(たいうんおしょう) → *大愚*(だいぐ;道号・性智;法諱、臨済僧) Ｊ２６７０
大運阿闍梨(たいうんのあじゃり)→ *日調*(にっちょう;法諱、日蓮僧) Ｆ３３１５
大雲坊(だいうんぼう) → *光平*(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌/尊王) ４１３０
大雲又玄(だいうんゆうげん) → *為尹*(ためまさ・ためただ・冷泉、廷臣/歌人) Ｈ２６４３
大慧(だいえ;法諱) → *癡兀*(ちこつ;道号・大慧;法諱、天台/のち臨済僧) Ｅ２８２１
泰栄(たいえい・土御門) → *泰栄*(やすなが・土御門/安倍/倉橋、陰陽家) Ｃ４５４０

J2618 **大瀛**(だいえい:法諱、森もり養哲男)1759-1804*46* 安藝山県郡中筒賀の医家の生/真宗僧;11歳出家、本願寺派広島報専坊の慧雲門/本山学林で修学/備後甲山の正満寺住職;3年後門弟に譲渡、安藝山県郡可部の勝円寺住職、石見小原浄土寺転住/安藝広島城西に隠棲;芿園と号す、藝轍芿園派の祖、1804三業惑乱で諦忍たいにんと共に江戸に下り寺社奉行所で智洞と対論/没、1806弟子たちにより一宗の擾乱は鎮圧、
「三業惑乱さんごうわくらん大瀛問尋」「金剛錍三難通釈」「安心大要」「芿園法語」「東行詩草」、「大瀛小部集」「往生論註原要」「閑廬漫草」「藝州廓亮安心書」「信楽一念義」外著多数、
[大瀛(:法諱)の別諱/字/号]別法諱;廓亮、 字;子容、
号;芿園じょうえん、瑞華/天城/金剛庵/寂忍/葆眞/朗然/円海/宝梁、諡号;眞実院
大瀛の門人;道命・道振・普巖ふごん・曇竜など

大贏(だいえい・上田) → *生々*(せいせい・上田/楢林、儒/医者) Ｊ２４００
大栄院(だいえいいん) → *鏡子*(けいこ・戸田とだ/稲葉、藩主室/歌) Ｎ１８８４
大栄山人(だいえいさんじん、黄表紙)→ *馬琴*(ばきん・曲亭・滝沢、読本) ３６０７
大英山荘主人(だいえいさんそうしゅじん)→ *匡平*(まさひら・堀内、国学/勤王) Ｇ４０８５
太液(たいえき・御粥) → *安本*(やすもと・御粥おかゆ、和算家) Ｄ４５２７
大益居士(だいえきこじ) → *斗南*(となん・細合ほそあい、儒/詩/書家) Ｏ３１５８
太益須(たいえきす・巨勢) → *多益須*(多益首/太益須たやす・巨勢、廷臣/詩人)Ｈ２６７１

J2619 **太悦**(たいえつ:号・快空:法諱)?-1686 浄土宗西山派西谷流の僧;快南門/紀伊総持寺26世、山城栗生の光明寺34世、1671「曼荼羅縁起」、「曼荼羅註記聞書合集抄」著

大悦(だいえつ) → *通言*(みちのぶ・久我こが/源、右大臣) Ｃ４１１８
大右衛門(だいえもん・石橋)→ *日藻*(にっそう・報寿院、日蓮僧/俳人) Ｅ３３９１

大右衛門(だいえもん・山口)→　*九腕*(きゅうえん・山口やまぐち、藩士/儒者)Ｍ１６３２
代右衛門(だいえもん/よえもん・満野)→ *荷洲*(かしゅう・満野みつの、藩士/儒)Ｌ１５８２
代右衛門(だいえもん・軽森)→　*野楊*(やよう・軽森かるもり、藩士/俳人)　Ｅ４５３３
台右衛門(だいえもん・吉見)→ *経武*(つねたけ・吉見よしみ、藩士/弓術家)　Ｃ２９３９
台右衛門(大右衛門だいえもん・滝沢)→*羅文*(らぶん・滝沢/源/松沢、俳人)Ｂ４８５１

J2620 **泰延**(たいえん:法諱、俗姓;大谷/本姓;高階、通称;刑部卿、泰儼男)?-?　天台宗青蓮院坊官、法印、青蓮院門跡尊応・尊鎮に近侍、歌人;1524慈鎮遠忌百首歌参加、連歌;新撰菟玖波集入

J2621 **泰円**(たいえん:道号・守見しゅけん:法諱)1535-? 1600存　薩摩の曹洞僧/加世田の日新寺8世、「日新菩薩記」著(;島津家中興日新斎忠良の伝記)

U604 **泰円**(たいえん:法諱)　? -　?　江前期京の顕本法華宗の寂光寺住僧、俳人、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、[千草せんざうのかへり花かや野辺の霜](手鑑/千草;秋の千草ちぐさ)

泰淵(たいえん・山本)　→ *簡斎*(かんさい・山本/館たち、医者/本草)　Ｑ１５７０
待園(たいえん・阪田)　→ *雅夫*(まさお・阪田さかた、医者/国学)　Ｐ４０９９

J2622 **大円**(だいえん:道号・禅雄ぜんゆう/ぜんおう:法諱)?-? 1412存 加賀曹洞僧:能登総持寺普済善救門/嗣法、総持寺住/越前正覚寺開山/能登曹竜寺開山、「普済禅師語録」編

J2623 **大円**(だいえん:道号・正密しょうみつ:法諱)?-1560　美濃曹洞宗;竜泰寺8世、1559「竜泰寺行事次第」

J2624 **大淵**(だいえん:道号・文刹もんさつ:法諱)?-1636　江前期曹洞僧;下総総寧寺の勝国良尊門/嗣法、1634総寧寺住職、「大淵代」「大淵代鈔」「大淵和尚再吟」著

2764 **大淵**(だいえん:法諱)　? -　?　江前期;上方の僧/歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]3首入、[三輪の山麓の野辺に妻を置きてかよふをしかもひるは見えこず](林葉累塵;秋465)

J2625 **大円**(だいえん:道号・還道げんどう:法諱)?-1776　安房の曹洞僧/大幡村の竜江寺6世、1759「竜江寺地蔵菩薩縁起」著

X2696 **大円**(だいえん:法諱)　? - 1786　紀伊日高郡財部村の浄土宗往生寺7世、徳本とくほんの師;天明(1781-)頃に門弟修行の徳本と共に本堂を建立し往生寺の隆興を図る

J2626 **大円**(だいえん:道号・宝鑑ほうかん/正鑑:法諱)?-1789or70?　曹洞僧:智灯照玄門/法嗣、上野館林の茂林寺住持、和泉貞光寺開山、「大円宝鑑和尚茂林寺語録」、「茂林寺什物譜」編

J2627 **大円**(だいえん:法諱)　? -　?　江後期寛政1789-1801頃能登真宗本願寺派僧、1790「笑盲訣」、「大円記」著

J2628 **大円**(だいえん・山田やまだ、名;久重)1765-1831*67*　越前福井の医者;橘南谿門/長崎で西洋医学;オランダ眼科学を日本に紹介、歴遊後近江膳所藩出仕、1815法橋、1816近江の鉄砲鍛冶国友藤兵衛と空気銃製造、変名して肥前平戸藩に出仕、「眼科提要」著、[大円(;通称)の字/号/変名]字;士遠、号;謙斎、変名;松原見朴

J2629 **大円**(だいえん:法諱、号;白堂/如是院、俗姓;安部)1809-80*72*　河内黒土の真宗大谷派:宜成に養育、河内金田の照光寺門徒/高倉学寮に修学/1835寮司/1858近江日野の晴明寺住職、67擬講、1849「唯識論記」58「唯識三類境温知録」60「成唯識論述記随聞記」、「唯識三類境記」外著多

大縁(だいえん;法諱・竹庵)→　*竹庵*(ちくあん;道号・大縁、臨済僧)　Ｃ２８４６
大淵(だいえん・富田)　→ *大鳳*(たいほう・富田、医/儒者/詩人)　Ｃ２６１９
大淵(だいえん・池田)　→ *京水*(きょうすい・池田いけだ、医者)　Ｏ１６１３
大淵(だいえん・木沢)　→ *天童*(てんどう・木沢きざわ、藩儒)　Ｅ３００9
大円(だいえん;字)　→ *良胤*(りょういん;法諱・大円、真言僧)　Ｇ４９２３
大円(だいえん:法名)　→ *稙家*(たねいえ・近衛このえ、関白/歌/連歌)２６４１
大円(だいえん;字)　→ *日伝*(にちでん;法諱・建立院、日蓮僧)　Ｃ３３９１
大円庵(だいえんあん)　→ *治郷*(はるさと・松平、藩主/茶道)　Ｇ３６３８
大円院(だいえんいん)　→ *日妙*(にちみょう;法諱・如海、日蓮僧)　Ｄ３３２４
大円覚心照国師(だいえんかくしんしょうこくし)→*俊芿*(しゅんじょう;法諱、戒律復興)Ｊ２１９７
泰円公(たいえんこう)　→ *勝清*(かつきよ・板倉いたくら、藩主/記録)　Ｎ１５２６
大円広慧国師(だいえんこうえこくし)→ *性激*(しょうとん;法諱・高泉;道号、黄檗僧)Ｐ２１５７
大円国師(だいえんこくし)　→ *疎石*(そせき;法諱・夢窓;道号、臨済僧)２５２４

大円国師(だいえんこくし)　→　*無住*(むじゅう;道号・道暁;法諱、臨済僧/説話集編)４２０４
大樞舎(だいえんしゃ)　→　*三由*(かずよし・平野ひらの、藩士/歌人)　Ｖ１５５０
大円正覚禅師(だいえんしょうかくぜんじ)→*蓬洲*(ほうしゅう;道号・禅苗;法諱、臨済僧)Ｂ３９５３
大円禅師(だいえんぜんじ)　→　*覚円*(かくえん;法諱・鏡堂、臨済僧)　Ｂ１５３６
大円禅師(だいえんぜんじ)　→　*東渓*(とうけい;道号・宗牧、臨済僧)　Ｄ３１０１
大円堂(だいえんどう)　→　*玄智*(玄知/元智げんち・千田せんだ、医者)Ｌ１８１０
大衍房(だいえんぼう;号)　→　*証印*(しょういん;法諱、真言僧)　Ｇ２２７６
大円宝鑑国師(だいえんほうかんこくし)→　*愚堂*(ぐどう・東寔とうしょく、臨済僧)Ｃ１７５２
大円房僧都(だいえんぼうそうず)→　*海恵*(かいえ;法諱、真言僧)　１５８８
大円霊光禅師(だいえんれいこうぜんじ)→*孤岫*(こしゅう;道号・宗竣、臨済僧)Ｍ１９７２

B2605 **苔翁**(初世たいおう・古寿衣こじゅい、下村提亭男)?-?　江中期江戸吉原の雑俳点者;下村提亭門、
1730吟蝉撰「俳諧塵塚」点入、1730松宝堂編「誹諧桜狩」入/「誹諧宝の山」「俳諧雪の梅」入、
1732「誹諧両面鏡」入、32「表若葉」「裏若葉」「俳諧見物左衛門」編、江戸雑俳界で収月と活躍、
「誹風柳多留拾遺」に選句入、
[古寿衣苔翁(;号)の別号]　金龍洞閑人/堤亭斎/真乳散人

J2630 **苔翁**(2世たいおう)　？－　？　江中期江戸雑俳点者、万句合興行の一枚刷刊、
1759「誹諧夜明烏」「誹諧おふむ石」「誹諧口車」、64「苔翁評万句合集」編、
「万句合集」「はいかい千代美艸」「名登里艸」「世富子鳥」編

体翁(たいおう・松平)　→　*康成*(やすなり・松平、藩家老/漢・国学)　Ｃ４５４８
袋翁(俗翁たいおう・横田)→　*茂語*(しげつぐ・横田、和学者)　Ｃ２１４４
袋翁(たいおう・堀田)　→　*喜之*(よしゆき・堀田ほった、国学者)　Ｏ４７９９
岱翁(たいおう・伊藤)　→　*佐越*(さえつ・伊藤いとう/遠坂、俳人)　Ｂ２０２０
対翁(たいおう・賀茂)　→　*規清*(のりきよ・賀茂/梅辻、烏伝神道家)Ｅ３５４４
対鷗(たいおう・堀)　→　*季雄*(ときかつ・堀、奉行/方言研究)　Ｊ３１０５
対鷗(たいおう・金井)　→　*万戸*(ばんこ・金井かない、俳人)　Ｈ３６５７
対鷗(たいおう・三宅)　→　*高炳*(たかあき・三宅みやけ、絵師)　Ｚ２６７０
泰応(泰翁たいおう;号)　→　*正則*(まさのり・稲葉いなば、藩主/幕政)　Ｆ４０９７
頽翁(たいおう・渡辺)　→　*富秋*(とみあき・渡辺、船問屋/国学者)　Ｏ３１７９
退翁(たいおう・溝口)　→　*直諒*(なおあき・溝口、藩主/文筆)　３２５９
退翁(たいおう・高木)　→　*永年*(ながとし・高木たかぎ、伊勢神道家)　Ｅ３２８２
退翁(たいおう・犬塚)　→　*印南*(いんなん・犬塚いぬづか、儒者)　Ｄ１１２８
退翁(たいおう・本多)　→　*康桓*(やすたけ・本多ほんだ、藩主/詩歌)　Ｇ４５６０
退翁(たいおう・賀茂)　→　*清茂*(きよしげ・岡本/賀茂/中大路、神職/故実)Ｈ１６４１
退翁(たいおう・今村)　→　*蓮坡*(れんぱ・今村いまむら、藩士/詩人)　Ｂ５１３１
退翁(たいおう・中野)　→　*敬斎*(けいさい・中野なかの、儒者/医者)　Ｆ１８６１
退翁(たいおう・石居)　→　*元暁*(もとあき・石居いしい、藩士/歌人)　Ｊ４４１９

J2631 **大応**(だいおう;道号・知有ちゆう;法諱)?-1790　曹洞僧:頑極官慶門/嗣法、摂津仏眼寺3世、
加賀天徳院13世/河内竜光寺11世、摂津栄松寺開山、「大応禅師語録」著

大応(大翁だいおう・高木)→　*秀真*(ひでざね・高木、藩士/歌人)　Ｄ３７０６
大翁(だいおう・松平)　→　*頼救*(よりすけ・松平/徳川、藩主/俳人)　Ｉ４７８１
大往院(だいおういん;号)　→　*尊勢*(尊政そんせい;法諱、一乗院門跡/歌・連歌)Ｆ２５１４
大応国師(たいおうこくし・円通)→　*紹明*(じょうみょう/じょうみん・南浦、臨済僧)２２０５
対鷗亭(たいおうてい)　→　*梅葉*(ばいよう・奥田おくだ、藩士/俳人)　Ｃ３６１４
対鷗亭(たいおうてい)　→　*謙谷*(けんこく・三野みの、藩士/漢学者)　Ｅ１８１０

J2632 **太乙**(たいおつ)　？－　？　越中井波俳人;樗良門/1776樗良「月の夜」入

J2633 **太乙**(たいおつ・山口、名;恭)1800-54*55歳*　摂津伊丹の酒造業/茶・俳人;林曹門、
茶室;早稲庵、1846「なつころも」編、「加茂の芥葉」「ななやひら」「八月々並五題発句合」編、
追善集「なこり月」(妻の米女と息子梅賀の共編)、
[太乙(;号)の通称/別号]通称;平右衛門、別号;臥雲、法号;景誉義翫太乙居士

妻;米よねも俳人　→　*米女*(よねじょ・山口、俳人)　Ｉ４７２０
太乙(たいおつ・村瀬)　→　*太乙*(たいいつ・村瀬、儒者/詩人)　Ｂ２６０３
太乙眞人(たいおつしんじん)　→　*斗南*(となん・細合ほそあい、儒/詩/書家)　Ｏ３１５８

J2634 **泰温**(たいおん;法諱、俗姓;大谷/本姓;高階、通称;治部卿、泰兼男)?-1491　天台宗青蓮院坊官/法印、1442尊応の得度式に御簾役/75尊応天台座主補任式に御出奉行、連歌:新撰菟玖波集入

J2635 **泰温**(たいおん;法諱)　？－　？　江末期出雲の天台宗鰐淵寺住僧、宗淵門?、1854「諸尊法」、「十八道聞書」「新三位泰温蔵書目録」著

J2636 **大音**(だいおん;法諱)　？－　？　江後期文化1804-18頃真宗本願寺派:智洞門、智洞の命を受け大瀛だいえい「金剛錍」に反駁;「金剛錍略破」著

泰遠(たいおん;字)　→　*日寿*(にちじゅ;法諱・事成院、日蓮僧)　Ｃ３３１１
泰音(たいおん;字)　→　*実貫*(じっかん;法諱、真言僧/詩人)　Ｕ２１５４
泰温(たいおん・加藤)　→　*泰温*(やすあつ・加藤かとう、藩主/倹約令)　Ｆ４５６５
泰温(たいおん・松元)　→　*泰温*(やすよし・松元まつもと、儒者/侍読)　Ｇ４５７５
戴恩(たいおん・美玉)　→　*三平*(さんぺい・美玉みたま、高橋、尊攘派)　Ｍ２０７４

J2637 **太華**(たいか・丹羽にわ、名;諄徳/惇徳)1726-1745夭逝*20*　伊勢の儒者、詩人/篆刻、「太華遺稿」[太華(:号)の字/別号]字;元張、別号;允富

B2606 **太華**(大華たいか・佐久間さくま、名;盛明/包照)?-1783　讃岐の儒者;経史を修学/丸亀藩儒、1778「和漢明弁」、-83「断復讐論」著、[太華(;号)の字/通称]字;文明、通称;作之進/立僊/立仙

B2607 **太華**(たいか・荏戸のぞき、名;政種/**善政**よしまさ/鵬、英政男/本姓;源)1735-1803*69歳*　羽前米沢藩士;175祖父政共の家督相続;中之間詰、1767から上杉治憲(鷹山)明和・安永改革に参画、;財政再建に尽力;1769町奉行/72小姓頭(300石);改革の中心人物,83退隠,1791(寛政3)中老職(国老);改革の大綱[総紕][樹畜建議]を作成、94奉行、藩校興譲館基礎を築く、「興譲館規」著、和漢学者、政以(妻;喜知)の父、1717「かてもの」/74「宝暦随筆」75「好古堂随筆」77「焉度篇えんそうへん」89「政語」著、鷹山言行録[翹楚編ぎょうそへん]を撰す、「寡婦の利」外著多、[太華(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;孫惣(代々の名)、字;士雲、通称;九郎兵衛(代々の称)/六郎兵衛、別号;南溟/好古堂/既酔亭、法号;好古院

B2608 **太華**(たいか・山県やまがた/初姓;吉田、名;禎)1781-1866*86*　周防吉敷の人;萩藩士、1803藩命で山県家を継嗣、儒:亀井南冥門(;徂徠学)、江戸遊学;朱子学に転ず、1810藩校明倫館学頭助役;側儒、35役人格;学頭/52隠居、「国史纂論」「芸窓筆記」、「太華詩集」「太華文鈔」「救弊談」外著多、[太華(;号)の字/通称/別号]字;文祥、通称;半七、別号;芸窓うんそう/芸窓主人

B2609 **太華**(たいか・福田ふくだ、名;蘊よう/川象かわのり、五左衛門男/本姓;藤原)1796-1854*59歳*　熊本藩士、1810稽古料三人扶持/26中小姓、馬医、武術;弓・馬・刀・槍・火術・水練に通達、天文/兵法、画;村井樵雪門;肥後土佐派の祖、「後三年合戦及蒙古襲来絵辨」画、[太華(;号)の字/通称/別号]字;収蔵/子寿、通称;儀右衛門、藤原川象、別号:大華/無量/観山/五千仞居士/千仞居士

大可(たいか;号)　→　*知空*(ちくう;法諱・性応;字、真宗本願寺派能化)Ｃ２８５６
大可(たいか・仲島/角田)→　*九華*(きゅうか・角田つのだ、藩士/儒者)　Ｂ１６９３
大化(たいか・後藤)　→　*眞守*(まもり・後藤/枚岡、国学者/神職)　Ｋ４０１３
大夏(たいか・奈古屋)　→　*以忠*(いちゅう・奈古屋なごや、藩士/儒者)　Ｄ１１６７
大家(たいか・上田)　→　*甲斐子*(かいこ・上田/千村、国学/歌人)　１５９８
帯霞(たいか・原田)　→　*永寛*(ながひろ・原田はらだ、神職/医者/詩歌)Ｏ３２４６
泰夏(たいか・小野)　→　*諸雄*(もろお・小野おの、伊勢屋/歌)　Ｊ４４４８

J2638 **大雅**(たいが;道号・**嵩匡**たんきょう;法諱、諡号;一灯広照禅師)?-1518　美濃臨済僧:東陽英朝門/法嗣、美濃少林寺住持、尾張瑞泉寺住持/妙心寺住持、「大雅和尚語録」著

B2610 **大我**(たいが/だいが;法諱・絶外ぜつがい;字)1709-82*74*　武州足立郡の僧;播州赤穂藩士某の庶子という、出家;初め湯島真言宗霊雲寺慧光門/のち鎌倉浄土宗光明寺眞察門/山城八幡正法寺22世、洛東の夢庵・江戸浅草の愛蓮庵を創建;文筆と談話説法、俳人/歌人、1740「唯称安心鏡」、

1751「鼎足論」61「浄業論」「楠石論」63「紫朱論」67「夢庵戯歌集」70「浅草遊文」72「夢菴記」、
1773「俳諧論」74「遊江吟」76「厭欣詠」78「円教論」/79家集「蓮葉和歌集」/80「玉石論」外著多、
[大我の号/法名]号;孤立/夢庵、孤立道人/草端房そうたんぼう、　法名;白蓮社天誉、天誉

B2612 **大雅**(たいが・池;修姓/本姓;池野、名;勤/亮/耕/無名、池野嘉左衛門男)1723-7654 京の南画絵師、
初め土佐光芳門/南画に傾倒、詩文;柳沢淇園・祇園南海門、富士白山立山に登山;写生、
文人画を大成/書、逸事奇聞多し、妻は玉瀾、海量「ひとよばな」挿画、高野山「山亭雅会図」、
万福寺「西湖図」、「楼閣山水図」「洞庭赤壁図」「大雅堂画法」、「日出東南隅行」著、
「老境八友記」著、
[大雅(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;又次郎、字;公敏/子職/貸成、通称;秋平、
別号;大雅堂/待賈堂/九霞山樵/霞樵/玉海/竹居/鳧澖釣叟ふこちょうそう/
三岳道者(;高芙蓉・韓天寿と白山立山浅間山に登山し3人とも共通号)
妻　→ *玉瀾*(ぎょくらん・徳山町まち、茶屋/画/歌)　Ｐ１６４０

J2639 **帯河**(たいが・小西こにし、名;貞盈)1727-8256　讃岐観音寺の酒家摺木屋の生/俳人:竹阿門、
1764上京;1775宗鑑二百年忌「犾之牟始露うめのむしろ」編、「俳諧ふたつ笠」「華洛日記」著、
[帯河(;号)の通称/別号]通称;五郎右衛門、別号;山幸舎

J2640 **大雅**(たいが・斎藤さいとう、名;実延、政右衛門実行男)1755-180652　和歌山藩士;1765小姓/小普請、
書院番/1792兄病没;名跡継承/99目付、儒:片山兼山門、「論語正文」、「席上腐談」(1807刊)、
[大雅(;号)の字/通称]字:世父、通称;文次郎/政右衛門

J2641 **対我**(たいが・渓嵐たにあらし)？-　？　江後期文化1804-18頃名古屋の俳人、
1812「文化五歌僊」編
[対我(;号)の通称/別号]通称;藤左衛門、別号;梅樹園

大雅(たいが・谷口)　→ *元淡*(げんたん・谷口たにぐち、儒者/古典)　Ｃ１８６３
大雅(たいが:名・藤森)　→ *弘庵*(こうあん・藤森、儒者)　１９０３
大雅(たいが・恩田)　→ *鶴城*(かくじょう・恩田おんだ、藩士/儒者)　Ｈ１５３２
大雅(たいが・岩下)　→ *探春*(たんしゅん・岩下、藩士/儒者/詩)　Ｉ２６３４
大河(たいが)　→ *魯洲*(ろしゅう;法諱・愚公;道号、臨済僧)Ｂ５２６６
泰雅(たいが・吉尾)　→ *泰雅*(やすまさ・吉尾よしお、華道家)　Ｃ４５９６
泰峨(たいが・佐竹)　→ *義和*(よしまさ・佐竹、藩主/藩政改革)　Ｈ４７０９
戴賀(たいが)　→ *北雲*(ほくうん・葛飾かつしか、大工/絵師)　Ｃ３９９０

J2642 **岱海**(たいかい・市島いちじま、名;粛文)1757-181357歳　越後水原の儒者/詩文;竜草廬門、医学修得、
「擅言」「岱海雑撰」「岱海雑録」/1801・08「岱海堂文集」著、
[岱海(;号)の字/通称/別号]字;敬季、通称;次郎吉、別号;楽文/易翁

J2643 **大塊**(たいかい・富川とみかわ、名;温/直温、大橋白鶴男)1799-185557 越後古志郡橡尾町の名家の生、
伯父富川玄嶽の養子/本家の検断職(大庄屋)を継承/江戸で儒・詩文・書を修学、
香道・茶・挿花を嗜む、1854郷の一揆を鎮圧、「大塊道人詩文稿」著、
[大塊(;号)の字/通称/別号]字;士良/春風、通称;衛門/伊右衛門、別号;大晦/塊庵/蒙斎

台界(たいかい・渡辺)　→ *白壺堂*(はっこどう、俳人)　Ｆ３６２３
大海(たいかい・鬼沢)　→ *大海*(おおみ・鬼沢、国学/歌人)　Ｃ１４８４
大海(たいかい・小浜)　→ *清渚*(せいしょ・小浜おばま、藩儒/詩人)　Ｃ２４１２
大海(たいかい・斎藤)　→ *南溟*(なんめい・斎藤さいとう、儒者)　３２３８
大海(たいかい・新岡)　→ *旭宇*(きょくう・新岡にいおか、書家)　Ｏ１６７９
大海(たいかい・寒川)　→ *直方*(なおかた・寒川さむかわ、神職/国学)　Ｎ３２２６
大海(たいかい・山室)　→ *明則*(あきのり・山室やまむろ/白井、藩士/歌)Ｉ１０７１
大晦(たいかい・富川)　→ *大塊*(たいかい・富川/大橋、大庄屋/詩文)Ｊ２６４３
大魁(たいかい・杉山)　→ *竹外*(ちくがい・杉山/杉、儒者)　Ｃ２８７９
大澥(たいかい・浜村)　→ *蔵六*(4世ぞうろく・浜村/塩見、篆刻家)　Ｊ２５２６
大塊舎(たいかいしゃ)　→ *百明*(ひゃくめい・杉坂すぎさか、俳人)　３７１３
大海舎金竜(たいかいしゃきんりゅう)→　*玉蘭斎*(ぎょくらんさい・橋本貞秀、絵師)Ｄ１６１１
待花園(たいかえん)　→ *月坡*(げっぱ・三好、俳人)　Ｈ１８３３

B2614 **泰覚**(たいかく;法諱、法橋泰尋男、俗姓;高階)?-? 平安末鎌倉初期の天台園城寺僧;法勝寺上座、

1185法橋/法眼/後鳥羽院時代の栗本[無心]衆(井蛙抄入)、
藤原季経との逸話(古今著聞集)、「法鏡」著、
歌人;1173三井寺新羅社歌合参加、1200若宮歌合参、千載1243、
[朽ちはててあやふく見えしをばただの板田いただの橋も今渡すなり](千載;釈教1243、
勧持品くわんじほんを詠む/をばただは小墾田の訓;叔母を掛る/危うい橋も今架け渡す、
授記を得られず嘆く釈迦の叔母憍曇彌きょうどんみも今授記された/板田橋は摂津か)

B2615 **大角**(たいかく) ？－ ？ 俳、俳文集「鳥なき嶋」:玉晃「続学舎叢書」所収
泰角(たいかく) → *不扃*(ふけい・立羽たちば、俳人) Ｂ３８７４
対鶴(たいかく・岩倉) →*具視*(ともみ・岩倉/堀河、廷臣/公武合体)Ｑ３１６２

J2644 **泰岳**(たいがく;道号・穏禅おんぜん;法諱)?-1798 曹洞僧;三州白竜門/卍海宗珊瑚の法嗣、
加賀祇陀寺31世、京源光庵6世、「卍海宗珊まんかいそうさん語録」編

J2645 **大壑**(たいがく・川合/初姓;喜多村、名;鼎/字;子長)1777-1808*32* 和歌山藩儒;川合春川門/養嗣子、
藩校学習館助教、1805「日課新題」編、
女(娘) → *小梅*(こうめ・川合かわい、日記) Ｌ１９３１

B2616 **大壑**(たいがく;号・稲葉いなば、名;直好/通称;徳一郎)1807-57*51* 豊後臼杵藩士/儒者;亀田綾瀬門、
藩校学古館の学頭/寺社奉行、「大壑文集」著

J2646 **大壑**(たいがく・油井ゆい、名;元徳/徳、牧山男)1825-65刑死*41歳* 仙台の儒者、1865罪を得て処刑、
1848「鳴盛集」編、慷慨奇節の人であった、
[大壑(;号)の字/通称]字;順之、通称;順之輔

J2647 **対岳**(たいがく・渡辺わたなべ) ？－ ？ 江後期安藝の絵師、
1830千歳園藤彦「厳島絵馬鑑」を縮図(白井南章・丸茂文陽らと)
泰岳(たいがく・松浦) → *久信*(ひさのぶ・松浦まつら、藩主/記録) Ｂ３７７４
泰岳(たいがく・佐竹) → *義敦*(よしあつ・佐竹さたけ、藩主/書画) Ｃ４７１３
泰岳(たいがく・桜山) → *池天*(ちてん・桜山、俳人) Ｅ２８８２
泰岳(たいがく・幡頭/吉野/杉田)→ *玄端*(げんたん・杉田すぎた、医者) Ｋ１８３６
泰岳(たいがく・菅原) → *元道*(もとみち・菅原すがわら、修験/絵師) Ｋ４４１５
対岳(対鶴たいがく・岩倉)→ *具視*(ともみ・岩倉、公武合体派) Ｑ３１６２
戴岳(たいがく・葛飾) → *北泉*(ほくせん・葛飾かつしか、絵師) Ｄ３９５８
太嶽(たいがく・多田/田) → *弘武*(ひろたけ・多田ただ/田、和算家) Ｇ３７２４
太岳(たいがく・村田) → *嘉言*(よしこと・村田/平、春門男/国学者/絵師)Ｄ４７３０
岱学(たいがく・釧) → *雲泉*(うんせん・釧くしろ、絵師) Ｄ１２８７
岱嶽(たいがく;道号) → *洞嶽*(とうがく;道号・魯宗、曹洞僧) Ｃ３１２１
大壑(たいがく・平田) → *篤胤*(あつたね・平田、国学) １０２２
大覚(だいかく;法号) → *親隆*(ちかたか・藤原、廷臣/歌人) Ｂ２８０９
大角(だいかく・平田) → *篤胤*(あつたね・平田、国学) １０２２
大角(だいかく・平田) → *銕胤*(鉄胤かねたね・平田、篤胤嗣/国学)Ｃ１５７６
大角(だいかく・丹蔵) → *光業*(みつなり・丹蔵たんぞう/杉原、神職/国学) Ｊ４１７３

J2648 **大学**(だいがく・今中いまなか、名;相親、相尹[相安]男)1784-1857*74歳* 広島藩士/馬廻/1817大目付、
1846年寄上座/1830幼主浅野斉粛を擁立;藩政の実権/放漫な財政で批判され;54辞職、
1807-56「日記」、1851「慶熾公御元服帳」著、
[大学(;通称)の別通称]他人太郎/権六/丹後

X2669 **大学**(だいがく・杉浦すぎうら、甘露寺愛長なるなが2男)1830-73*744* 京の生、尊攘運動家、
遠江浜松の諏訪神社神職杉浦比隈麿ひくまろの養子、戊辰戦争で遠州報国隊結成に参加、
報国隊取締に就任;征東軍に参加、1871(明治4)東京招魂社社司、
[大学(;通称)の名/変名]名;都麿、変名;三浦一衛/三浦謙
大学(だいがく・山鹿) → *高恒*(たかつね・山鹿/兼松/岡/津軽、藩士/兵学)Ｍ２６２９
大学(だいがく・沢村) → *吉重*(よししげ・沢村さわむら、藩の重臣) Ｄ４７５７
大学(だいがく・大河内) → *輝規*(てるのり・大河内/松平、藩主) Ｃ３０８５
大学(だいがく・今宮) → *義透*(よしすく・今宮いまみや、家老/記録) Ｄ４７７４
大学(だいがく・松本) → *尚絅*(なおあや・松本、家老/儒者) ３２６８

大学(だいがく・松本)　→　*交山*(こうざん・松本/上条、茶屋/絵師)　Ｊ１９３１
大学(だいがく・堀田)　→　*一平*(かずひら・堀田ほった、幕臣/歌人)　Ｖ１５６３
大学(だいがく・堀田)　→　*正高*(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家)　Ｄ４０１８
大学(だいがく・戸村)　→　*義見*(よしあき・戸村とむら、藩家老)　Ｂ４７９０
大学(だいがく・磯部)　→　*正富*(まさとみ・磯部いそべ、神職/国学)　Ｎ４０６５
大学(だいがく・磯部)　→　*正紳*(まさのぶ・磯部、正富男/神職/歌)　Ｎ４０６６
大学(だいがく・小沢)　→　*蘆庵*(ろあん・小沢おざわ/平、歌人)　５２０１
大学(だいがく・福井)　→　*末盈*(すえみつ・福井ふくい/度会、神職)　Ｆ２３６８
大学(だいがく・谷)　→　*時中*(じちゅう・谷たに、僧/儒者/南学)　Ｅ２１５９
大学(だいがく・堀)　→　*直虎*(なおとら・堀ほり、藩主/桜研究)　Ｂ３２９０
大学(だいがく・村田)　→　*春海*(はるみ・村田、商家/国学/歌)　３６３６
大学(だいがく・泉いずみ)　→　*舎暉*(いえてる・泉/荒木田、神職/詩歌)　Ｅ１１８７
大学(だいがく・山田)　→　*以文*(もちぶみ・山田/藤とう、神職/故実)　Ｂ４４６３
大学(だいがく・神村)　→　*正鄰*(まさちか・神村かみむら、国学/神道家)Ｄ４０７５
大学(だいがく・渡辺/杉浦)→　*国頭*(くにあきら・杉浦すぎうら、神職/国学)１７１７
大学(だいがく・渡辺/杉浦)→　*国満*(くにまろ・杉浦、国頭養嗣/神職/国学)１７２２
大学(だいがく・松前)　→　*広長*(ひろなが・松前、藩家老/修史事業)Ｇ３７５９
大学(だいがく・三国)　→　*幽眠*(ゆうみん・三国みくに、尊攘/詩歌)　Ｄ４６８２
大学(だいがく・藤堂)　→　*高菘*(たかすけ・藤堂、国学者)　Ｃ２６８９
大学(だいがく・末川)　→　*久救*(ひさひら・末川/島津、歌人)　Ｂ３７７２
大学(だいがく・藤堂)　→　*高猷*(たかゆき・藤堂とうどう、藩主/歌)　Ｎ２６６６
大学(だいがく・阿部)　→　*正信*(まさのぶ・阿部あべ、幕臣/文筆家)　Ｆ４０７７
大学(だいがく・香山)　→　*適園*(てきえん・香山かやま、詩人)　Ｂ３０８７
大学(だいがく・益谷)　→　*末寿*(すえほぎ・益谷/荒木田/菊屋、神職/国学)Ｂ２３４３
大学(だいがく・庵原)　→　*朝成*(ともなり・庵原/廬原いおはら、史学者)Ｐ３１５５
大学(だいがく・深川)　→　*元儁*(もとよし・深川/深河/小林、本草家)Ｅ４４７９
大学(だいがく・池内)　→　*奉時*(まさとき・池内いけうち、医/漢学/尊攘)Ｅ４０４０
大学(だいがく・伊藤)　→　*泰歳*(やすとし・伊藤/中臣/朝野、国学)　Ｃ４５２７
大学(だいがく・松平)　→　*近韶*(ちかつぐ・松平まつだいら、幕臣/歌)　Ｌ２８６６
大学(だいがく・赤松)　→　*祐以*(すけもち/すけゆき・赤松/福田、国学/歌)Ｈ２３１２
大学(だいがく・牛尾)　→　*毎敏*(常敏つねとし・牛尾うしお、神職/国学)Ｆ２９３１
大学(だいがく・井上)　→　*頼囿*(よりくに・井上、国学者/歌人)　Ｉ４７６０
大学(だいがく・景山)　→　*豊城*(とよき・景山かげやま/河村、神職/歌)Ｕ３１７１
大学(だいがく・重村)　→　*栄孝*(しげたか・重村しげむら/林、神職/国学)Ｏ２１７５
大学(だいがく・宮川)　→　*経猶*(つねなお・宮川みやがわ/山部、神職/国学)Ｇ２９５５
大学(だいがく・山内)　→　*豊栄*(とよよし・山内、藩士/文武教育)　Ｒ３１７０
大学(だいがく・新庄)　→　*直賢*(なおかた・新庄しんじょう、幕臣/国学)　Ｎ３２４０
大学(だいがく・増山)　→　*正同*(まさとも・増山ますやま/永井、藩主)　Ｓ４０５９
大岳(たいがく/だいがく;道号)→　*周崇*(しゅうそう;法諱・大岳、臨済僧)　Ｈ２１９５
大嶽(たいがく・大鳥居)　→　*信賢*(しんけん・大鳥居/菅原/高辻、社僧/連歌)Ｏ２２１４
大嶽(たいがく・沖/沖野)　→　*南溟*(なんめい・沖野おきの、儒者/詩)　Ｊ３２５４
大壑(だいがく・平田)　→　*篤胤*(あつたね・平田、国学)　１０２２
台岳(だいがく・一条)　→　*忠良*(ただよし・一条いちじょう、関白/歌人)　Ｇ２６０８
大鶴庵(たいかくあん)　→　*塊翁*(かいおう・竹内、俳人)　１５９０
大鶴庵(たいかくあん)　→　*茂東*(もとう・竹内、塊翁の弟/医者/俳人)Ｃ４４１３
岱岳院(たいがくいん)　→　*定静*(さだきよ・松平、藩主/歌/紀行)　Ｉ２０１２
泰岳院(たいがくいん)　→　*親貴*(ちかとう・松平まつだいら、藩主/歌人)　Ｌ２８５７
大覚院(だいかくいん)　→　*日肇*(にちじょう;法諱・義道、日蓮僧)　Ｃ３３４９
胎岳院雲外(たいがくいんうんがい)→　*国臣*(くにおみ・平野/大中臣、国学/勤王/歌)１７０６
大覚院法印(だいかくいんほういん)→　*能禅*(のうぜん、真言僧)　３５４５

大学軒(だいがくけん・土橋)→ *宗静*(そうじょう・土橋、商家/連歌/俳人)Ｃ２５０９
大覚寺義俊(だいかくじぎしゅん)→ *義俊*(ぎしゅん・大覚寺、連歌) Ｂ１６２３
大覚寺義性(だいかくじぎせい)→ *義性*(ぎせい・大覚寺、連歌) Ｆ１６６０
大覚寺准后(だいかくじじゅごう)→ *義俊*(宜俊ぎしゅん、真言僧/門跡、連歌)Ｂ１６２３
大覚寺殿(だいかくじどの) → *後宇多天皇*(ごうだてんのう、歌人) Ｂ１９６５
大覚寺殿(だいかくじどの) → *後亀山天皇*(こがめやまてんのう、南朝最後/歌)Ｃ１９２８
大覚寺二品親王(だいかくじにほんしんのう)→ *寛尊法親王*(かんそんほっしんのう、門跡/歌)Ｅ１５０８
大覚寺法皇(だいかくじのほうおう)→ *後亀山天皇*(こがめやまてんのう、南朝最後/歌)Ｃ１９２８
台岳樵者(だいがくしょうしゃ)→ *介石*(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) Ｂ１５０９
大覚禅師(だいかくぜんじ) → *道隆*(どうりゅう・蘭渓、臨済僧) ３１２８
大学堂(だいがくどう) → *伊浜*(いひん・矢島やじま、藩士/儒者) Ｅ１１３８
大学頭(だいがくのかみ・玉松)→ *操*(みさお・玉松たままつ/山本、僧/国学/政治)Ｊ４１７２
大学助(だいがくのすけ・井上)→ *正利*(まさとし・井上いのうえ、藩主/歌人) Ｎ４０３２
大学助(だいがくのすけ・井上)→ *正任*(まさとう・井上、正利男/藩主/歌)Ｌ４０２１
大学助(だいがくのすけ) → *高次*(たかつぐ・藤堂とうどう、藩主/文学) Ｍ２６２６
大学大允(だいがくのだいじょう)→ *資之*(すけゆき・松波/岡田、廷臣/歌人)Ｄ２３２３
泰窩散人(たいかさんじん) → *直条*(なおえだ・鍋島、藩主/詩歌) ３２７７
大可子(たいかし;号) → *知空*(ちくう;法諱、真宗本願寺派能化) Ｃ２８５６
大雅舎其鳳(たいがしゃきほう)→ *其鳳*(きほう・大雅舎、浮世草子作者) Ｂ１６７７

B2617 **大活**(だいかつ;道号・元用げんよう;法諱)?-? 江前期黄檗僧:1687千丈道巌の法嗣、「千丈巌和尚末後事実附行状」著

待賈堂(たいかどう) → *五一*(ごいち・達摩屋初世・岩本、書肆) Ｅ１９８２
泰河堂(たいがどう) → *信復*(のぶなお・松平、藩主/儒/詩歌) Ｃ３５４９
待賈堂(たいかどう) → *大雅*(たいが・池/池野、絵;文人画) Ｂ２６１２
大雅堂(たいがどう) → *毛紈*(もうがん・大雅堂、喜多山/藩士/俳人)４４４９
大雅堂(たいがどう) → *義亮*(ぎりょう;法諱、絵師/天台僧) Ｕ１６１１
碓花坊(たいかぼう) → *也寥*(やりょう、環中道一;禅僧、俳人) ４５２９
胎下丸(たいかまる) → *正村*(せいそん、浅井,俳人) Ｃ２４５５

B2618 **大観**(たいかん・田中たなか/修姓;田でん、名;瓚、由真男)1710-35早逝*26* 京の暦算家・儒者:華音韻、和算;川田申易門/暦学;中根元圭門、儒/経学;宇野明霞門、「天経枢要」「天経或問解」「天学指要」「暦学指要」「声韻微闡」「月出算法解」「大観随筆」著、[大観(;号)の字/通称]字;文瑟ぶんしつ、通称;与三郎

J2650 **諦観**(たいかん) ？－ ？ 江中期下野足利の真言宗鑁阿寺ばんなじの住僧、1736「足利鑁阿寺縁起」著

X2694 **諦観**(たいかん;法諱、俗姓;山本)?-1790 佐渡の真言僧/大和長谷能満院住持、1768(明和5)佐渡畑野の長谷寺ちょうこくじ26世;経蔵を造立・諸堂を再建/1777本堂再建

J2651 **大観**(たいかん;道号・文珠もんじゅ;法諱、俗姓;佐藤)1766-1842*77* 美濃乙坂臨済僧;1774福井の泰崇門、東嶺円慈門/諸師に参禅、1797定渓の法嗣/丹波法常寺住持、1820-40京南禅寺僧堂の師家、1840但馬玉蔵院に退隠、1799「東嶺慈老和尚年譜」編/「独妙禅師年譜補註」著、[大観文珠の号] 号;不二身、諡号;普照恵灯禅師

J2652 **泰款**(たいかん・山口やまぐち、初名;遼、小野寺清胤男)?-? 花巻生/盛岡の山口権左衛門泰寛の養嗣子、文政天保1818-44頃盛岡藩士、南部旧記抄録「泰款雑秘抄」著、[泰款(;名)の通称] 六郎/忠兵衛

大乾(たいかん・本多) → *猗蘭*(いらん・本多、藩主/詩歌人) Ｂ１１９３
大幹(たいかん・高宮) → *環中*(かんちゅう・高宮たかみや、医者/国学) Ｇ１５５３
大幹(たいかん・難波) → *義材*(よしき・難波なんば、医者/詩歌人) Ｄ４７０６
大観(たいかん・菱川) → *秦嶺*(しんれい・菱川/菱、儒者/藩儒) ２２９４
大観(たいかん・小林) → *卓斎*(たくさい・小林こばやし、書家) Ｎ２６９９
大観(たいかん・松村) → *昌直*(まさなお・松村、藩士/刀剣研究) Ｆ４００４

大寛(たいかん;字)　→　*宥宗*(ゆうそう;法諱・大寛、真言僧)　Ｄ４６３０
大館(だいかん・中村)　→　*大館*(おおだち・中村なかむら/長谷川、神職/歌)Ｅ１４０３
太侃(たいかん)　→　*理峯*(りほう;法諱・春応房、真言僧/梵曲)Ｃ４９５１
泰幹(たいかん・加藤)　→　*泰幹*(やすもと・加藤かとう、藩主/詩文)　Ｄ４５２８
泰幹(たいかん・松居)　→　*安国*(やすくに・松居/松井まつい/源、国学)Ｅ４５８５
泰寛(たいかん・有馬)　→　*泰寛*(やすひろ・有馬ありま、藩家老/国学)　Ｆ４５２２
諦観(たいかん;字)　→　*僧亮*(そうりょう;法諱、真宗本願寺派僧)Ｊ２５１９

J2653 **泰巖**(たいがん;法諱、諡号;菩提院)1802-68*67*　安藝安藝郡大屋の真宗安定寺の生、
安藝郡中野の専念寺住職、真宗学;筑前の宝雲門/僧乗;安藝の僧叡門、1866勧学、
「往生要集記」「文類聚鈔聴記」著、
「三経往生文類聴記」「高僧和讃天親章聴記」著
泰巖(たいがん;字・憲栄)　→　*憲栄*(けんえい;法諱・泰巖、真宗僧)　Ｈ１８８４
泰巖(泰岸たいがん・毘尼薩)→*泰巖*(たいごん・毘尼薩びにさつ、日蓮僧/詩歌)Ｚ２６２０
大簡(だいかん・菅沼/阮)　→　*東郭*(とうかく・菅沼/阮、医者/儒者)　Ｃ３１０９
大簡(だいかん・島津)　→　*久光*(ひさみつ・島津、領主/藩政実権)　Ｃ３７０１
大含(だいがん;法諱)　→　*雲華*(うんげ;号・大含、真宗大谷派僧/詩人)Ｂ１２０７
大含(だいがん;字)　→　*道猷*(どうゆう;法諱・大含、真言僧)　Ｈ３１６５
大願(だいがん;字)　→　*憲海*(けんかい;法諱・大願、真言僧)　Ｉ１８０８
泰巖院(たいがんいん・毛利)→　*綱広*(つなひろ・毛利もうり、藩主)　Ｂ２９２６
苔巖舎(たいがんしゃ)　→　*昌保*(まさやす・山県やまがた/工藤、藩士/歌)Ｔ４０４１
大鑑真宗禅師(だいかんしんしゅうぜんし)→*湘南*(しょうなん・宗沅そうげん、臨済僧)Ｌ２２２６
大鑑禅師(だいかんぜんし;諡号)→　*正澄*(しょうちょう;法諱、清拙;道号、渡来臨済僧)Ｕ２２２４
大観堂(たいかんどう)　→　*実如*(じつにょ:法諱、天台僧/悉曇学者)Ｖ２１０１
大観堂(たいかんどう)　→　*長英*(ちょうえい・高野、蘭医)　Ｈ２８３９
大観堂(だいかんどう)　→　*為親*(ためちか・中川なかがわ、歌人)　Ｙ２６５２
対巖堂(たいがんどう)　→　*二丘*(にきゅう・半沢はんざわ、豪農/俳人)　Ｇ３８８
大岩祐夢(たいがんゆうむ)　→　*盛親*(もりちか・長宗[曾]我部ちょうそかべ、武将/城主)Ｆ４４７１
大官令(だいかんれい)　→　*広元*(ひろもと・大江おおえ、武将/幕臣)　３７２９
大観廬(だいかんろ)　→　*鴛湖*(がこ・千村ちむら、藩士/儒者)　Ｃ１５０１

J2654 **大器**(たいき)　？－　？　越中生地俳人;1775自邸に樗良を迎える、76樗良「月の夜」入

B2619 **太寄**(太奇たいき・平沢ひらさわ、名;常房、手柄岡持[平沢常富]男)1769-1842*74*　羽後秋田藩士;江戸詰、
1824用人、俳人/狂歌;父門、画、「乗合船」、1819「岡持狂歌家集我おもしろ」編、19「二番舟」著、
[太寄(;号)の通称/別号]通称;為八、別号;年々斎花人/無量
太奇(たいき;法諱・瑞峰)→　*瑞峰*(ずいほう;道号・太奇、曹洞僧)　Ｆ２３００
岱其(たいき・百々)　→　*糾照*(ただてる・百々どど、藩士/医者/歌)　Ｙ２６３８
泰基(たいき・後藤)　→　*泰基*(やすもと・後藤ごとう/藤原、武家/歌)Ｄ４５２４

B2620 **泰義**(たいぎ)　？－　？　連歌、1588「了意千句」山何追加入

2602 **太祇**(たいぎ・炭すみ/たん、一説に坂上氏)1709-71*63*　江戸の俳人;初め水国[沾洲門]門・のち紀逸門、
1748太祇名、江戸座宗匠、51上京、大徳寺真珠庵入;僧名;道源、還俗;島原廓内に不夜庵を結、
晩年に蕪村と三菓社結成、「長崎紀行」「都のつと」、「紫狐菴聯句集」編、
1766-70「三菓舎中句集」69「平安二十歌仙」/70「不夜庵春帖」編、「長崎記行春夏」著、
「もゝちどり」編、追善集;3回忌「石の月」(五雲編)/25回忌「その秋」(五雲編)、
句は「太祇句集」「太祇句撰」「太祇句撰後篇」に纏められている、
[行く先に都の塔や秋の空](太祇句撰/長い旅路の目的地)、
[太祇の号]　号;水語[;初号水国門の時]、宮商洞/三亭/不夜庵/徳母(;一時的)、
法名;道源、法号;蓮誉道源法師、五雲が不夜庵2世を継承

B2621 **大蟻**(たいぎ・松岡まつおか、名;柏、信篤男/本姓;大原)?-1800　姫路藩士/江戸巣鴨住、御勘定所勤務、
和算・暦学に精通、俳;舅の大魚門、1783「翁反故」編/83「翁反故塚碑記」著、
「翁反故」所収の芭蕉書簡220余通は美濃陽花庵の梅石所持のものという[実は偽書簡]、
[大蟻(;号)の字/別号]字;義進/儀之進、別号;伯義

B2622 **戴儀**(たいぎ・北明楼)　？－　？　江戸期絵師、1820京山作「小桜姫後記」画
B2623 **大蟻**(たいぎ・桃雪亭)　？－　?1830-44没　俳人、野州黒羽浄法寺斎官
太義(たいぎ・秋田/津田)→　*鳳堂*(ほうどう・秋田/津田、和算家)　Ｃ３９４１
泰義(たいぎ)　→　*泰義*(やすよし、連歌作者)　Ｄ４５４８
泰義(たいぎ・加藤)　→　*泰義*(やすよし・加藤かとう、神道/藩主嫡子)Ｆ４５８２
泰儀(たいぎ・山本)　→　*由之*(よしゆき・山本、良寛弟/国学/歌)　Ｋ４７３１
J2655 **大機**(だいき;道号・祖全そぜん;法諱、俗姓後藤)1647-99*53歳*　臼杵の臨済宗多福寺で修業;賢巌門、1659妙心寺に出家、69黄檗僧;隠元門/単宗の号、再び臨済宗に転向:81賢巌の法嗣、「半雲稿」著、
[大機祖全の号]半雲(;臨済僧)/単宗(;黄檗僧)
J2656 **大機**(だいき;道号・道範どうはん;法諱)?-?　1677(延宝5)黄檗僧;木庵性滔門、1680?刊「木菴老人稀齢賀集」編
J2657 **大基**(だいき;法諱、俗姓;吉村)1785-1870*86歳*　肥前島原の浄土僧:久留米の心光寺弁乗門;出家、江戸小石川伝通院に修学/のち上京;天台・華厳修学、1832尾張徳川斉温の招聘で建中寺住、「当麻曼荼羅略讃」、1862「遍照院権大僧都伝」著、
[大基の法名/号]法名;常蓮社立誉/行阿、如法、　号;金剛志
J2658 **大機**(だいき;道号・眞活しんかつ;法諱)?-1871　江後期黄檗:青州如杉門/嗣法、1824河内法雲寺43世、1842萩東光寺住持/55退山、1842「黄檗遁代譜略」、「黄檗山歴代記」「大機和尚語録」著
大熙(だいき・大館)　→　*高門*(たかかど・大館おおだち、医者/国学者)Ｃ２６６４
大基(だいき;字)　→　*寛隆*(かんりゅう;法諱・大基、真宗僧)　Ｒ１５８０
大季(だいき・船曳)　→　*磐主*(いわぬし・船曳ふなびき、神職/国学)　Ｂ１１８４
大記(だいき・小篠)　→　*敏*(御野みぬ・小篠/篠/田淵、藩士/儒・国学)Ｆ４１４２
J2659 **大義**(だいぎ;道号・宗孝そうこう;法諱)?-1750　江中期遠州の曹洞僧:徳翁良高門/嗣法、安藝玉泉寺6世、加賀天徳院6世/備前円通寺4世/越中万年寺2世、「大義孝禅師語録」著
大機庵(たいきあん)　→　*玄宰*(はるなか・田中、藩家老/儒/歌)　Ｇ３６６２
太亀院(たいきいん;法号)　→　*寅直*(とらなお・土屋つちや、藩主)　Ｒ３１７７
大義院(たいぎいん;法号)　→　*正親*(まさちか・稲葉/大田原、藩主)　Ｄ４０７３
大機院(だいきいん;法号)　→　*利明*(としあき・前田まえだ、藩主)　Ｌ３１９０
大機院(だいきいん;法号)　→　*治道*(はるみち・池田いけだ/源/松平、藩主)Ｊ３６３６
大魏院(だいじいん;法号)　→　*直幸*(直英なおひで・井伊いい、藩主/大老)Ｋ３２９３
大菊庵(だいきくあん)　→　*呂蛤*(ろこう・西村にしむら、俳人)　Ｂ５２４６
大規綱宗禅師(たいきこうそうぜんじ)→*蘭渓*(らんけい;道号・宗瑛;法諱、臨済僧)Ｂ４８７９
大機弘宗禅師(だいきこうそうぜんじ)→*宗曇*(そうどん;法諱・華叟かそう;道号、臨済僧)Ｉ２５６０
大機居士(だいきこじ)　→　*重孟*(しげたけ・水野みずの、藩士)　Ｒ２１２７
泰吉(たいきち・朝比奈)　→　*泰吉*(やすよし・朝比奈あさいな、神職/歌人)Ｄ４５５９
大吉(だいきち・富田/林)　→　*錦峰*(きんぽう・林やはし、幕府儒官)　Ｉ１６２４
大吉(だいきち・三輪)　→　*秀富*(ひでとみ/ほさき・三輪、藩士/歌人)　Ｄ３７３６
大吉(だいきち・青木)　→　*周弼*(周祐しゅうすけ・青木あおき、蘭医)　Ｈ２１８２
大吉(だいきち・熊谷)　→　*直輔*(なおすけ・熊谷くまがい、国学/藩校学監)Ｌ３２９７
大吉(だいきち・沢野)　→　*明善*(あきよし・沢野さわの/藤原、藩士/歌)Ｈ１０７０
大吉庵(だいきちあん)　→　*凡十*(ぼんじゅう・串田くしだ、藩士/俳人)　Ｆ３９４２
大吉房(だいきちぼう)　→　*徳成*(とくじょう;法諱、真宗大谷派僧)　Ｌ３１００
J2660 **太橘**(たいきつ・竹田たけだ)　？－　？　江後期羽前長井小出の俳人/米沢俳壇の指導者、1827「五とせ集」編/31「子午園集」編/34「紅摘集」編、44芭蕉150回忌追善「さゝなき」編、前句付の判者;川柳作者・判者(緑庵の号)、弟文秀が緑庵2世継承(3世まで続く)、
[太橘(;号)の別号]　子午園/緑庵(;川柳号)
大義堂(たいぎどう)　→　*訒斎*(じんさい・遠藤えんどう、儒者/詩文)　Ｏ２２５５
太気綾足(たいきのあやたり)　→　*綾足*(あやたり・建部)　１０２８
大機盤空禅師(たいきばんくうぜんじ)→*月舟*(げっしゅう;道号・宗林、曹洞僧)Ｈ１８０７
2784 **太久**(たいきゅう・那波なば)　？－　？　江中期/歌人;宮川松堅門、

1722松堅[倭謌五十人一首]入、
[心なき雲も千里ちさとにはれにけり今宵の月の名を惜しむらん]、
(倭謌五十人一首;45/八月十五夜)

J2661 **退休**(たいきゅう・石川)1762? － ? 三河岡崎藩士、1831「稀の春」著
袋弓(たいきゅう・榊原) → *職尹*(もとただ・榊原/源、幕臣/記録) Ｃ４４９３

J2662 **大休**(だいきゅう;道号・宗休そうきゅう;法諱、円満本光国師)1468-1549 臨済僧;東福寺永明庵で出家、のち特芳禅傑門/印可を受;竜安寺住持/1516妙心寺住持/今川義元の招聘;駿河臨済寺開、清範尼(赤松家の女)の妙心寺霊雲院に招かれた/晩年;竜安寺傍に見桃院創設;退隠、「大休和尚法語」「下火拈香」「偈頌並法語」、「妙応禅師語録」編/1549「見桃録」著、

J2663 **大休**(だいきゅう;道号・善遊ぜんゆう;法諱)?-? 江前期曹洞僧:命菴寿朔門/法嗣、陸奥円通寺6世、1657「碧巌集再吟」著
大休(だいきゅう;道号) → *正念*(しょうねん;法諱・大休、仏源禅師、臨済僧)Ｂ２２１４
大休(だいきゅう;道号) → *了然尼*(りょうねんに;道号・元聡;法諱、黄檗僧/歌人)Ｊ４９２１
大玖(だいきゅう・利光) → *仙庵*(せんあん・利光としみつ、藩医者) Ｌ２４５７
大休山人(だいきゅうさんじん)→ *梅翁*(ばいおう・田尻たじり、藩士/国学者) ３６６８
大休寺殿(だいきゅうじどの) → *直義*(ただよし・足利、武将/歌人) Ｇ２６０４

J2664 **太虚**(たいきょ;道号・道清どうせい;法諱、広瀬郷右衛門男)1629-73*45歳* 彦根黄檗僧:木庵性瑫門、近江成仏寺住持/1671近江下日吉正瑞寺再興開山、「太虚和尚遺稿」

B2624 **太虚**(たいきょ;号) ？－ ? 美濃武儀郡関の俳人:丈草門?、1698「千句のあと」編
大挙(たいきょ・武藤) → *直達*(なおたつ・武藤、和算/天文暦算) Ｂ３２６０

B2625 **大魚**(たいぎょ;号) 1670 － 1759*90歳* 因幡俳人:東潮門、1696「留主見舞」図牛らと共編

J2665 **大魚**(たいぎょ;号・山口やまぐち、墨山[延年]男)?-1801 尾張知多大高の俳人:士朗門、1796「杉本尊」編(士峰と共編)/97「雲無心」編、
[杉本尊];鳴海千代倉家の芭蕉手植の杉が台風で倒れその材で墨山が翁像を刻み開眼供養、その供養時の人々の俳諧を集録したもの
大魚(たいぎょ・児玉) → *北溟*(ほくめい・児玉こだま、医/詩人/商家)Ｄ３９９９

J2666 **大虚**(だいきょ;道号・喝玄かつげん;法諱)?-1736 下総の曹洞宗総寧寺住持/1729永平寺40世、1721「安国山総寧寺雑誌」32「永平和尚安心要訣」著
大虚(だいきょ・三条) → *公敦*(きんあつ・三条/転法輪三条、歌人)Ｑ１６６４
太虚庵(たいきょあん) → *光悦*(こうえつ・本阿弥、書・茶人) １９０５
太虚庵(たいきょあん) → *雲竹*(うんちく・北向きたむき/林/野田、書家)Ｄ１２９５
大虚庵(だいきょあん) → *晃演*(光演こうえん;法諱、真言僧/歌) Ｈ１９６８
大虚院(だいきょいん) → *定芳*(さだよし・菅沼すがぬま、幕臣/城主) Ｋ２０２２
泰亨(たいきょう・久保) → *盅斎*(ちゅうさい・久保、詩文) Ｇ２８０５
泰郷(たいきょう・佐藤) → *泰郷*(やすさと・佐藤さとう、国学・歌) Ｆ４５５２
逮境(たいきょう:初法諱) → *逮神*(たいしん:法諱・游空:字、真言律僧)Ｋ２６３９
戴尭(たいぎょう・伊藤) → *圭介*(けいすけ・伊藤、医者/植物学者) １８７９

J2667 **大鏡**(だいきょう;道号・寛嶺かんれい;法諱)?-1810 丹波の曹洞僧:豁道自眼門/法嗣、丹波円通寺31世、丹波瑞光寺5世、「永谷列祖伝」著

J2668 **大慶**(だいきょう;法諱) 1732 － 1818*87歳* 大和の真宗大乗寺住僧、良空「親鸞聖人正統伝」を論破、1787「非正統伝」、「磨光韻鏡聞記」著

J2669 **大慶**(だいきょう) ？－ ? 1854存 長門真宗僧、1854口述「願々鈔華嶽録」道潮筆記
大笳(たいきょう・青野) → *大笳*(たいこう・青野、俳人) Ｂ２６３７
大郷(だいきょう・河合) → *正阿*(しょうあ/せいあ・河合、医者/俳人) Ｑ２２７０
大暁(だいぎょう;法諱) → *天露*(てんろ;道号・大暁、曹洞僧) Ｅ３０６１
大業(だいぎょう・青山/井口)→ *機山*(きざん・井口いぐち、儒者) Ｋ１６６２
大業(だいぎょう・赤松) → *蘭室*(らんしつ・赤松あかまつ、藩儒者/詩) Ｃ４８４６
大業(だいぎょう・間) → *重富*(しげとみ・間はざま/羽間、商家/天文暦算)Ｒ２１７１

大鏡院(だいきょういん)　→　*定綱*(さだつな・松平、藩主/儒/詩文)　Ｆ２０３４
大暁院(だいぎょういん)　→　*幸専*(ゆきたか・真田/井伊、藩主/歌人)　４６１９
待暁翁(たいぎょうおう)　→　*残口*(ざんこう・増穂/十寸穂ますほ、神道家)Ｆ２０７９
大鏡禅師(だいきょうぜんじ・仏照)→　*宗悟*(そうご・悦渓、臨済僧)　Ｈ２５２５
大教阿闍梨(だいきょうのあじゃり)→　*日輪*(にちりん;法諱、日蓮僧)　Ｄ３３６７
大教房(だいきょうぼう)　→　*忠快*(ちゅうかい;法諱、平教盛男/天台僧)Ｆ２８８４
大経房(だいきょうぼう)　→　*日眞*(にっしん;法諱・慧光、日蓮僧)　Ｅ３３３９

B2626 **大極**(たいきょく/たいぎょく;道号、俗姓;鞍智[佐々木])1421-? 1472存 近江臨済僧;勗仲きょくちゅう澄遵門、隆中門(南源昌詵門人);嗣法、聖一派、学芸;建仁寺霊泉院瑞巌竜惺・雲章一慶・竺雲等連門、さらに九淵竜睨りゅうちん・華岳建胄・景南英文門、鞍智家の庇護のもと東福寺内霊隠院開創、霊隠院碧山佳処(のち吾雲軒)に住/1468戦乱避け木幡に隠棲、正宗竜統らと交流、五山の外南都の法相華厳・東寺や醍醐寺の密教修学;八宗兼学者、地蔵・浄土も信仰、読書・詩作の生活、1459-68日記「碧山日録」、詩語音韻索引「押韻集」・群書抄出「手捜録」著、
［大極の号］　碧山/雲川、雲泉野衲

堆玉園(たいぎょくえん)　→　*梅廊*(ばいろう・堆玉園、俳人)　Ｃ３６３９
大漁夫(だいぎょふ)　→　*河鳥*(かちょう・都曲園、田口/向後、狂歌)Ｎ１５１５
大均(だいきん・須子/大郷)→　*浩斎*(こうさい・大郷おおごう/須子すご、儒者)Ｇ１９３２
台近(だいきん/かつちか・金森)→　*頼錦*(よりかね・金森かなもり、藩主/歌/俳)Ｉ４７５７
太矩(大矩たいく・原)　→　*鳳山*(ほうざん・原はら、藩士/兵学者)　Ｃ３９１０
体具(たいぐ;字)　→　*実観*(じっかん;法諱、天台大僧正)　Ｕ２１５５
大矩(だいく・恩田)　→　*石峰*(せきほう・恩田おんだ、絵師)　Ｋ２４４８

J2670 **大愚**(だいぐ;道号・性智しょうち;法諱、通称;堆雲和尚)?-1439 山城の臨済僧:大海寂弘門/嗣法、諸山住寺ののち;1413東福寺89世/天竜寺57世/南禅寺93世、伊予保国寺開山、堆雲軒に没、「堆雲和尚七処九会録」著

J2671 **大愚**(だいぐ;道号・宗築そうちく;法諱、俗姓武藤)1584-166986 美濃臨済僧:1594(11歳)乾徳寺状元門、京妙心寺雑華院一宙東黙門、美濃南泉寺智門玄祚の法嗣、1615頃江戸南泉寺開山、美濃南泉寺5世/1626妙心寺住持/近江円鏡寺・越前坂井郡大安寺開山、播磨法幢寺再興、大安寺没、「大愚築和尚語録」著、
［大愚宗築の号］　諸相非相禅師

J2672 **大愚**(だいぐ;道号・衍操えんそう;法諱)1738-182487 黄檗僧:拙源浄清門/1759嗣法、1801長門萩藩主菩提寺の東光寺15世、菊舎尼と交流、江戸安福寺住、晩年;萩に祇樹亭結庵(高安寺)、茶室思君亭で茶を嗜む、「大愚和尚語録」著

大愚(だいぐ;道号)　→　*良寛*(りょうかん;法諱・大愚、曹洞僧/詩歌)４９１７
大愚(だいぐ;法諱)　→　*無倫*(むりん;道号・大愚;法諱、曹洞僧)Ｄ４２２９
大愚(だいぐ;字)　→　*慈延*(じえん;法諱・大愚、天台僧/歌人)２１０５
大愚(だいぐ;号)　→　*慧恭*(えきょう;法諱・可円、浄土僧)　Ｄ１３６９
大愚(だいぐ;字)　→　*乗阿*(じょうあ;法諱、浄土僧/増上寺貫主)Ｕ２２９６
大愚(だいぐ;字)　→　*金洞*(きんどう・井田いだ、日蓮僧/詩人)　Ｒ１６５２
大愚(だいぐ・新宮)　→　*凉庭*(りょうてい・新宮しんぐう、蘭医)　Ｉ４９９９
大愚(だいぐ;号)　→　*元俊*(げんしゅん・小石こいし、医者)　Ｊ１８７３

J2673 **大空**(だいくう:道号・玄虎げんこ:法諱、仏性活通禅師/瀾通仏性禅師)1428-150578 武蔵?の曹洞僧:遠州石雲院の崇芝性岱門/嗣法、1472伊勢浄眼寺を開山/88越前竜沢寺住寺、伊勢広台寺開山;隠棲、「碧巌大空抄」/1501「崇芝性岱大和尚行状記」著

X2697 **大空**(だいくう;法諱)　？-　？　江後期天台僧;比叡山安楽律院の輪番住職、のち信濃伊那郡に住、国学者

台嵎(だいぐう・山本)　→　*重胤*(しげたね・山本やまもと/賀茂、国学者)ａ２１０１
泰寓斎(たいぐうさい)　→　*周信*(ちかのぶ・狩野かのう、絵師)　Ｌ２８１５
大空斎(だいくうさい)　→　*信正*(のぶまさ・飯尾いいのお/藤原、絵師)　Ｄ３５３３
大空霊瑞(だいくうれいずい)　→　*霊瑞*(れいずい;法諱、真言僧)　Ｂ５１４３

B2627 **大圭**(大径たいけい・児島こじま、別号;錦綾室)1691-1734*44歳* 京の俳人;正宣・淡々門、1718宗匠立几、
のち大阪住、1719「花月六百韻」23「晋子十七回忌句集」25「梅若葉」35「捜し章」編、
1729隆志「俳諧草結」(序/発句/評点句29句)入、
[浦島や明けば桂の痩せ男](俳諧草結;207/桂の痩せ男は三日月/夜明けの心もとなさ)
B2628 **泰渓**(たいけい) ? - ? 俳人、1799「菊のうわさ」編(:去来百回忌追善集)
J2674 **泰敬**(たいけい:法諱) ? - ? 磐城の曹洞宗竜門寺僧、
「磐城禅勝山竜門禅寺記」「磐城世系」著
大渓(たいけい・月岡) → *雪鼎*(せってい・月岡つきおか/木田、絵師) Ｅ２４６０
大慶(たいけい) → *大慶*(だいきょう、大和真宗僧) Ｊ２６６８
大慶(たいけい) → *大慶*(だいきょう、長門真宗僧) Ｊ２６６９
大慶(たいけい・奈古屋) → *以忠*(いちゅう・奈古屋なごや、藩士/儒者) Ｄ１１６７
大恵(たいけい;法諱) → *東水*(とうすい;号・大恵、羽黒修験僧) Ｆ３１７１
大経(たいけい・河野) → *魯斎*(ろさい・河野こうの/赤松、藩儒者/兵学) Ｂ５２５３
太卿(たいけい・高尾たかお) → *篤太郎*(とくたろう・高尾、藩士/儒者) Ｌ３１１８
泰恵(たいけい・石川) → *憲之*(のりゆき・石川いしかわ、藩主/儒者) Ｇ３５１０
泰渓(たいけい・合田) → *華陽*(かよう・合田あいだ、漢学者) Ｐ１５５５
泰経(たいけい・加藤) → *泰恒*(やすつね・加藤かとう、藩主/画/歌人) Ｆ４５６６
泰卿(たいけい・佐藤) → *尚中*(たかなか・佐藤/山口、藩士/蘭医) Ｍ２６５９
J2675 **泰芸**(たいげい:法諱) 1444 - ? 1472存 武蔵の天台宗金鑽山仏乗坊の僧;栄源門、
1471「第二重私聞書」、「天台雑々鈔名目」「一流相伝法門私見聞」著
J2676 **大圭**(大奎だいけい;道号・宗价そうかい;法諱、号;金華)?-1470 臨済僧;相国寺叔英宗播門、
1454建仁寺186世/64南禅寺97世、相国寺靄雲軒創;退隠、「大圭和尚語録」「臨済録大奎鈔」
J2677 **大渓**(だいけい;道号・紹琢しょうたく;法諱)?-? 室町後期美濃の臨済僧;景聡興勘門、妙心寺65世、
「五家正宗賛鈔」「五家正宗賛臆断」「保寧語録」著
J2678 **大渓**(だいけい;道号・浄高じょうこう;法諱、号;竺峰/天山/燕石)?-1757 筑後柳川黄檗僧・悦堂元逸門、
筑後吉祥寺2世/霊明寺住寺、宇野明霞・服部南郭と交流、
「天山詩稿」「雪峰大渓禅師遺稿」著
大恵(だいけい;法諱) → *東水*(とうすい;号・大恵、修験僧) Ｆ３１７１
大卿(だいけい・日根野) → *鏡水*(きょうすい・日根野ひねの、藩士/儒者) Ｊ１６１３
大卿(だいけい・石崎) → *文雅*(ふみまさ・石崎いしざき/一志、医/漢学) Ｅ３８０２
大猊(だいげい;法諱) → *癡学*(ちがく;道号・大猊、曹洞僧) ２８８６
大慶喜心院(たいけいきしんいん)→ *摂信*(せっしん・華園はなぞの、真宗僧) Ｌ２４１２
大慧院(だいけいいん・法号)→ *宗直*(むねなお・徳川とくがわ/松平、藩主/歌) Ｅ４２０３
大恵堂(だいけいどう) → *樹水*(じゅすい、俳人) Ｙ２１９３
大慶房(だいけいぼう) → *自謙*(じけん;法諱、真宗本願寺派僧) Ｔ２１２７
J2679 **大歇**(だいけつ;道号・了心りょうしん;法諱、号;般若房)?-? 鎌倉期鎌倉の臨済僧;退耕行勇門/嗣法、
入宋、帰国後鎌倉寿福寺3世/鎌倉建仁寺9世、「楞厳経心書りょうげんきょうしんしょ」著
大潔(だいけつ・宇都宮) → *大潔*(ひろきよ・宇都宮、国学/歌/地誌) Ｆ３７７７
J2680 **退結**(たいけつ・小林こばやし、名;円)1761-1836*76* 岡山船頭町の兵法家;岡山藩の船手に出仕、
兵器・射御・刀槍・水軍・天文暦数の研究;免許22流を集成、旋回砲器・近着弾などを発明、
「野島流海賊伝書」「艦法一簣造船乗組秘訣」著、
[退結(;号)の字/別号]字;方卿、別号;退結舎
B2629 **泰月**(たいげつ) ? - ? 雑俳点者、万句合:1796「古今前句集」(柳多留拾遺)入
W2686 **対月**(たいげつ・葛原くずはら、旧姓;工藤)1826-1910*85* 陸奥盛岡の曹洞僧;龍谷寺16世(1871-95)、
歌人、石川啄木の母の[カツ]の兄、啄木の父[一禎]の師/甥啄木の詩歌の師、
のち野辺地の常光寺に移住
待月(たいげつ・入谷) → *澄士*(すみお・入谷いりや、藩士/歌人) Ｉ２３０９
帯月庵(たいげつあん;号) → *芝石*(しせき・西川にしかわ、俳人) Ｕ２１１２
帒月庵(たいげつあん、帒月楼)→ *美角*(びかく・帒月楼、商家/俳人) ３７４３
退結舎(たいけつしゃ) → *退結*(たいけつ・小林、兵法家/兵器改良) Ｊ２６８０

J2681 **大軒**(たいけん・屋代やしろ、名；元久)1630-94*65歳*　高知藩士；代々馬廻格/1648家督、67普請奉行、郡方・郡方代官、能書家、「墨池全書」編、馬場一梯の師、
［大軒(；ごう)の通称/別号］通称；淺右衛門/太左衛門、別号；桜渓亭

J2682 **台軒**(たいけん)　？－　？　江前期熊本俳人/宇鹿と交流、1706「蟻の宿」

T2694 **岱畝**(たいけん・大幸おおさか、名；清方きよかた、児玉忠久4男)1707-57　加賀大聖寺藩士大幸清信の養嗣子、儒；大宰春台門、古学を主唱、家督継嗣；大聖寺藩士/禄150石、藩主前田利道・利精に出仕、門弟多数；前田信成・那古屋良富の師、春台「倭楷正訛」の跋文、「論語解」著、
［岱畝(；号)の字/通称］　字；義卿ぎけい、通称；伴［鍋］十郎/百助

B2630 **耐軒**(たいけん・乙骨おっこつ、名；完/寛、鳥羽半七男)1806-59*54歳*　乙骨家の養嗣子/江戸の儒者；昌平黌に修学、1829助教/43甲府徽典館学頭/58天守番、詩人、古賀侗庵・野村篁園・友野霞舟らと交流、1846「遊御嶽記」、「杜律解」著、「読瀛奎律髄刊誤条記」編、「耐軒詩文選遺稿」、向山黄村の師、
［耐軒(；号)の字/通称/別号］字；栗甫、通称；彦四郎、別号；碧僊/菊甫/乙事山人、法号；正覚院

J2685 **太賢**(たいけん；法諱、別法；快識、太賢房)?-1867　真言僧：慈眼院住僧/1847武州新井の総持寺住、江戸湯島根生院・小池坊住/悉曇学に精通/権僧正、「悉曇18章切継秘事」著

B2631 **耐軒**(たいけん・曾我そが・伊藤、名；知章/景章、春田道碩男)1816-70*55歳*　岡崎藩江戸藩邸に生、同藩士伊藤家の養子/儒；昌平黌入；古賀侗庵・松崎慊堂こうどう門、1839藩主水野忠邦密命で山陰陽歴遊；45帰藩/忠邦失脚後脱藩/曾我に改姓、1854岡崎で氷玉社創設；漢学・詩文を教授、1868政府の招聘；忌憚に触れ京岡崎藩邸幽閉、1869藩校允文館設立に尽力；70文学、「五倫名義辨証」、1852「幽討余録」60「耐軒詩草」著、
［耐軒(；号)の字/通称/別号］字；子明/子直、通称；大三郎、別号；詩仏/蘭雪、諡号；簡文

兄も儒者 → *九皐*(きゅうこう・春田、儒者)　Ｉ１６７３

大賢(たいけん；道号)　→ *大賢*(だいけん；道号・鳳樹；法諱、曹洞僧)Ｊ２６８９
大賢(たいけん；法諱)　→ *大賢*(だいけん；法諱・玄城；字、真宗僧)　Ｊ２６８３
大賢(たいけん；法諱)　→ *大賢*(だいけん、珊瑚寺僧/国学)　Ｊ２６８４
大賢(たいけん；法諱)　→ *大賢*(だいけん、真宗仏光寺派僧)　Ｊ２６８６
太賢(たいけん・浅利)　→ *太賢*(もとかた・浅利あさり、神道家)　Ｃ４４３３
泰賢(たいけん・有馬)　→ *泰賢*(やすかた・有馬ありま、藩家老/歌人)　Ｆ４５２０
泰軒(たいけん・高木)　→ *雪渓*(せっけい・高木たかぎ、歌人)　Ｅ２４８４
泰見(たいけん・加藤)　→ *泰温*(やすあつ・加藤かとう、藩主/倹約令)　Ｆ４５６５
泰憲(たいけん・藤原)　→ *泰憲*(やすのり・藤原ふじわら、権中納言)　Ｈ４５１７
退軒(たいけん・大橋)　→ *白鶴*(はっかく・大橋/富川とみかわ、儒者)　Ｆ３６０８
退軒(たいけん・新井)　→ *雨窓*(うそう・新井あらい、儒者/詩歌)　Ｃ１２０２

J2687 **太原**(たいげん；道号・崇孚そうふ；法諱、庵原左衛門尉男)1496-1555*60*　駿河今川家の家臣/出家、臨済僧；建仁寺で修学/妙心寺の大休宗休門、駿河に臨済寺を開山(2世：大休を初祖とす)、妙心寺35世、駿河清見寺中興、今川義元を支援；戦国大名間の和議斡旋、駿河長慶寺隠棲、「護国禅師語録」、「護国禅師雪斎遠諱香語」著、
［太原崇孚の号］　初号；九英承菊、雪斎、宝珠護国禅師

B2632 **太玄**(たいげん・平賀ひらが)　？－　？　安藝広島の漢詩人、1795平賀蕉斎「白山集」を編修

J2688 **太元**(たいげん；道号・孜元しげん；法諱、平田房近男)1769-1837　備中賀陽郡穴粟の臨済僧；13歳出家、豊後の春沢門/美濃の隠山惟琰門、1802備前曹源寺住持、29妙心寺住持、「太元和尚語録」著、
［太元孜元の号］　無学/五斗室

太玄(たいげん・尾崎)　→ *日々坊*(にちにちぼう・尾崎、俳人)　Ｄ３３００
太玄(たいげん・日比野)　→ *秋江*(しゅうこう・日比野ひびの、医/儒者)　Ｈ２１３４
太玄(たいげん・柚木)　→ *綿山*(めんざん・柚木ゆのき、眼科医/儒者)　４３４７
太玄(たいげん・中村)　→ *竜庵*(りゅうあん・中村なかむら、医者)　Ｃ４９７０
太玄(たいげん・中村)　→ *柳坡*(りゅうは・中村/麻場、医者/儒者)　Ｆ４９４２
太玄(たいげん・土岐)　→ *秀文*(ひでぶみ・土岐とき、医者)　Ｋ３７２５
大原(たいげん・奈古屋)　→ *以忠*(いちゅう・奈古屋なごや、藩士/儒者)　Ｄ１１６７

大彦(たいげん・高山)　→　*眞淹*(まひさ・高山たかやま、神職/国学)　Ｑ４０７５
大絃(たいげん・谷)　→　*琴峨*(きんが・谷たに、篆刻家)　Ｑ１６７４
泰彦(たいげん・草刈)　→　*泰彦*(やすひこ・草刈くさかり、藩士/歌人)　Ｃ４５７０
泰彦(たいげん・朝野)　→　*泰彦*(やすひこ・朝野あさの、国学/神職)　Ｃ４５７１

J2689 **大賢**(だいけん;道号・鳳樹ほうじゅ;法諱、俗姓;桑島)1758-1822*65歳*　仙台の曹洞宗輪王寺住持、詩;志村五城らと唱和、1820「仏道手引草」、「参同契宝鏡」著、「丁丁余音」編

J2683 **大賢**(だいけん;法諱・玄城;字、号;東溝、俗姓;古賀)1777-1826*50*　筑後生葉郡浮羽真宗僧;満願寺入、豊前正行寺の鳳嶺門/大谷派高倉学入;寮司、鎌倉長谷観音堂で天台の宗義を修学、「東溝一夜物語」「金七十論提要」著

J2684 **大賢**(だいけん;法諱)　？－　？　江後期和歌山珊瑚寺僧/国学;大平門、1832「門出乃志久礼」

J2686 **大賢**(だいけん)　？－　？　越後真宗円光寺僧/仏光寺派副講師、「八轉声記」「六合釈聴記」「因明入生理論記」著

大軒(だいいけん・屋代)　→　*大軒*(たいけん・屋代、藩士)　Ｊ２６８１
大堅(だいけん・山田)　→　*大堅*(ひろかた・山田やまだ、大肝煎/歌人)　Ｍ３７２１
台賢(だいいけん・飯田)　→　*正紀*(まさのり・飯田いいだ、神職/国学/歌)Ｎ４０４９

J2690 **大玄**(だいげん;法諱、御宿おんじゅく友行男)1680-1756*77歳*　下野氏家の浄土僧;黒羽の長松院俊能門、下総飯沼の弘経寺で修学/上京;法相・戒律の研究、弘経寺や小石川檀林住職、1753増上寺45世/大僧正;僧の戒律の乱れを正す、「有戒繁盛章」「布戒五条」「蓮門学則」、1751「円戒問答」55「円戒帰元鈔」「五重綱要義」、「古本戒儀授法記」「三脈私記」外著多数、[大玄の法名/号]法名;速蓮社成誉/信阿、号;単直水月/聖引/烏有子

J2691 **大玄**(だいげん;法諱・無休;字、号;五楽隠)?-1871　伊勢水沢の真宗常願寺の生、福井の真宗大谷派専念寺住職、大谷派本願寺の説経師、「真宗要義書」「聖人一流湛々録」、「執持鈔勧録」「竜樹和讃乗船鈔」、1857「小人訓」63「歎異鈔悪人成仏法語」著

大元(だいげん;法名)　→　*尚嗣*(ひさつぐ・近衛/藤原、関白/日記)　Ｂ３７３６
大原(だいげん・奈古屋)　→　*以忠*(いちゅう・奈古屋なごや、藩士/儒者)　Ｄ１１６７
大絃(だいげん・谷)　→　*琴峨*(きんが・谷たに、篆刻家)　Ｑ１６７４
大源(だいげん・多賀)　→　*高忠*(たかただ・多賀たが、武将/故実)　Ｃ２６９３
大幻(大玄だいげん;字)　→　*智暉*(ちき;法諱・大幻;字、真言僧)　Ｃ２８３７
大幻(だいげん・伊達)　→　*綱村*(つなむら・伊達だて、藩主/歌人)　Ｂ２９３７
大玄(だいげん・大口)　→　*樵翁*(しょうおう・大口おおぐち、茶人/香道)　Ｈ２２３７
大玄(だいげん)　→　*才玄*(さいげん、真宗本願寺派僧/詩人)　Ｇ２０６６
太原庵(たいげんあん)　→　*竹洞*(ちくどう・中林なかばやし、絵師/詩歌)　Ｄ２８６０
大建庵(だいけんあん)　→　*宗中*(そうちゅう・小堀こぼり/源、幕臣/茶人)Ｂ２５８６
泰源院(たいげんいん)　→　*行孝*(ゆきたか・細川ほそかわ/源、藩主/歌)　４６１８
大玄院(だいげんいん・寂然宗外)→　*親昌*(ちかまさ・堀ほり、藩主/歌人)　Ｂ２８８２
大玄院(だいげんいん;法号)→　*綱貴*(つなたか・島津、藩主/財政再建)　Ｂ２９１０
大源院(だいげんいん;法号)→　*重信*(しげのぶ・南部・花輪/七戸、藩主/歌)Ｃ２１７０
大源院(だいげんいん;法号)→　*茂韶*(もちあき・蜂須賀はちすか、藩主/政治)Ｋ４４９９
大幻窟(だいげんくつ・松本)→　*亀岳*(きがく・松本まつもと、絵師)　Ｊ１６８６
対硯斎(たいけんさい)　→　*玉晃*(ぎょくちょう・小寺こでら、随筆家)　Ｈ１６３１
太玄斎(たいげんさい・松平)→　*頼救*(よりすけ・松平/徳川、藩主/俳人)　Ｉ４７８１
太賢房(たいけんぼう)　→　*太賢*(たいけん;法諱、真言僧;悉曇学)　Ｊ２６８５
待賢門院(たいけんもんいん)　→　*璋子*(しょうし、鳥羽天皇皇后)Ｎ２１１３
待賢門院安藝(たいけんもんいんのあき)　→　*安藝*(あき・待賢門院、歌人)１０４１
待賢門院加賀(たいけんもんいんのかが)　→　*加賀*(かが・待賢門院、歌人)Ｂ１５１７

B2633 **待賢門院中納言**(たいけんもんいんのちゅうなごん、藤原定実女)?-?　平安後期鳥羽后璋子女房/歌人、1142出家、「法家経廿八品和歌」勧進、小倉山・高野山麓隠棲、歌;金葉Ⅱ40(Ⅲ46)、[白雲にまがふ桜のこずゑにて千年ちとせの春をそらにしるかな](金葉;春40、

新院[鳥羽院]にて花契遐年を詠む)
待賢門院長門(たいけんもんいんのながと) → *長門*(ながと・待賢門院)
待賢門院兵衛(たいけんもんいんのひょうえ) → *兵衛*(ひょうえ・上西門院) ３７３７
待賢門院堀河(たいけんもんいんのほりかわ) → *堀河*(ほりかわ・待賢門院) Ｅ３９８２
待賢門院后宮時のある局の女房(たいけんもんいんのきさいのみやのときのあるつぼねのにょうぼう)→
→ *ある局の女房*(あるつぼねのにょうぼう) Ｉ１０９０

J2692 **大湖**(たいこ・村山むらやま、通称;弥五郎)?-? 江中・後期天明1781-89頃広島俳人;蓼太門、
同門窓五や野坡系の六合と親交、1781「深川集初編」編

B2634 **大瓠**(たいこ・菊池/菊地きくち、名;一孚)1808-68*61* 陸中一関の儒者;志村蒙庵門/昌平黌入;舎長、
古賀侗庵・安積艮斎門、一関藩儒;藩校教成館教授/1842学頭・侍講、「周易注」「酔余放言」、
「呂覧觿りょらんけい」「大瓠先生文稿」著、
[大瓠(;号)の字/通称/別号]字;缶卿ふけい、通称;幸蔵/文六/善九郎、別号;松墩/衣関漫士

G2644 **大古**(たいこ・北林きたばやし、名;良八/別号;静斎)?-? 江末期秋田の商人/俳人;御風[1795-1866]門、
1850頃「鶏肋集」著

B2635 **大湖**(たいこ・谷、鉄心)1822 - 1905*84歳* 近江の儒者・復斎門、
「類語類編心解」著、「如意遺稿」

大瓠(たいこ・岡) → *熊臣*(くまおみ・岡おか、神職/国学) １７２４
太古(たいこ・山田) → *松斎*(しょうさい・山田、儒者;農事改善) Ｊ２２０１
太古(たいこ・生駒) → *魯斎*(ろさい・生駒いこま/岡野、家老/詩歌/兵学) Ｂ５２５２
太古(たいこ・潮田) → *万李*(ばんり・潮[塩]田しおだ/桑野、俳人) Ｉ３６６２
太古(たいこ・柴山) → *老山*(ろうざん・柴山/菅原/菅、儒/詩) ５２３１
泰古(たいこ・加藤) → *泰温*(やすあつ・加藤かとう、藩主/倹約令) Ｆ４５６５
泰護(たいご・真崎/山方)→ *泰護*(やすもり・山方やまがた/真崎、藩家老) Ｄ４５３１

B2636 **大庸**(だいこ) ? - ? 俳人、
1796屠竜(抱一)「江戸続八百韻」百韻入(;屠龍・雁々・素兄と4吟百韻)

Y2659 **大悟**(だいご;法諱・中野なかの、)1814-98*85* 周防徳山の真宗僧/安藝広島の本願寺派専勝寺住職、
国学者、維新後;権大講義
[大悟(;法諱)の号]天映/悟秀

J2693 **体光**(たいこう;法諱・他阿;号)1501-62*62歳* 時宗29代遊行上人/連歌:宗牧と親交、「石苔」著

B2637 **大笏**(たいこう/たいきょう/たきょう/たきゅう/たこう・青野あおの)1764-1828*65歳* 下総香取郡小南の酒造業、
俳人:恒丸門、江戸住、一茶・成美と親交、
晩年は越後長岡にも半年庵結庵;江戸と半年ずつ生活、
1808「犬古今」12「玉笹集」13「ひさこものかたり」20-23「俳諧発句題叢」24「寂砂子集」編、
[大笏の通称/別号]通称;慶次郎、別号;蕙芝/椿丘/猫頭庵/青猿翁/迎風道人/鶯笠/半年庵

泰光(たいこう・源) → *泰光*(やすみつ・源みなもと、廷臣/歌人) Ｄ４５１１
泰光(たいこう・安倍) → *泰光*(やすみつ・安倍あべ、廷臣/歌人) Ｄ４５１３
泰交(たいこう・宇津木) → *泰交*(やすとも・宇津木うつき/平、家老/歌) Ｆ４５３６
泰行(たいこう・倉橋) → *泰行*(やすゆき・倉橋/安倍、陰陽家/歌) Ｄ４５４０
泰行(たいこう・中野) → *泰行*(やすゆき・中野なかの、神職/国学) Ｇ４５３３
泰広(たいこう・松前) → *泰広*(やすひろ・松前まつまえ、幕臣/連歌) Ｃ４５８６
泰広(たいこう・加藤) → *泰広*(やすひろ・加藤かとう、藩主/歌人) Ｆ４５６８
泰侯(たいこう・加藤) → *泰侯*(やすとき・加藤かとう、藩主/焼物/書) Ｆ４５６７
泰好(たいこうし・宮田) → *泰好*(やすよし・宮田みやた、神職/記録) Ｄ４５５５
泰亨(たいこう・久保) → *盍斎*(ちゅうさい・久保、儒者/詩文) Ｇ２８０５
泰恒(たいこう→やすつね・山県)→ *棠園*(とうえん・山県やまがた、藩士/儒者) Ｂ３１４６
泰恒(たいこう・加藤) → *泰恒*(やすつね・加藤かとう、藩主/画/歌人) Ｆ４５６６
泰綱(たいこう・宇都宮) → *泰綱*(やすつな・宇都宮/藤原、武将/歌) Ｃ４５０８
泰綱(たいこう・沢田) → *泰綱*(やすつな・沢田/荒木田/薗田、神職) Ｃ４５１０
太公(たいこう・谷) → *斗南*(となん・谷たに、医/詩人) Ｏ３１６３
退耕(たいこう・中村) → *民一*(たみかず・中村なかむら、歌人) Ｙ２６６４

J2695 **大功**(だいこう;道号・円忠;法諱)?-1473　大隅の曹洞僧;園林寺了巌元明門、周防の覚隠永本門、1431嗣法/周防宮野荘に竜華院を開/1449周防闢雲寺住持、「大功円忠和尚語録附行実」著

J2694 **大江**(だいこう;法諱・南楚;字)1592-1671*80歳*　紀州六十谷の浄土僧;同村法念寺入/長感応沽門、天海・霊巌門、西山派総持寺住職、「西鎮興記」「往生論註随聞記」「観経新記」「具書重笠」著、「無門関金鑰」「光明寺縁起」「随身抄」著、門人;古鑑/俊良/倍山/積峰/善岌/俊山/圭道ら

J2696 **大光**(だいこう;道号・寂照;法諱、俗姓山田)1660-1726*67歳*　佐賀の曹洞僧;1671高伝寺賢渚門、長崎で微一・心越興儔門/下総正泉寺徳翁良高門/法嗣、1707佐賀高伝寺住寺、1713「徳翁高禅師語録」編、「大光照禅師語録」著

J2697 **大衡**(だいこう;道号・海権かいけん;法諱、俗姓;翁)1651-1715*65* 福建省の黄檗僧;幼時に叔祖吼山門、1664黄檗山で千指・広超門、1693長崎渡来:崇福寺輪番住寺/94千呆せんがい性佼門、崇福寺3世、1705万福寺住寺を固辞、「千呆禅師語録」編、「大衡禅師語録附行実」「大衡禅師語唱和集」著、[大衡海権の別法諱] 澹休(;初法諱)/海慧

B2638 **大綱**(だいこう;道号・**宗彦**そうげん;法諱、号;向春庵)1772-1860*89*　京の臨済僧;融谷宗通門/嗣法、1820大徳寺435世、大徳寺黄梅院14世/禅通寺15世、詩人/画、歌人;賀茂季鷹・鴨祐為門、「黄梅院大綱日記」著

乃侯(だいこう;字・松浦) → *篤所*(とくしょ・松浦まつうら、儒者)　Ｋ３１９４
大光(だいこう;号) → *演冏*(えんけい;法諱・大光、浄土僧)　Ｅ１３６３
大巧(だいこう・花井) → *一好*(かずよし・花井はない、蘭学/崋山を密告)Ｍ１５５８
大巧(だいこう・河田) → *小竜*(しょうりゅう・河田/土生、絵師)　Ｂ２２９６
大港(だいこう・野見) → *嶺南*(れいなん・野見のみ、医者/郷土史家)５１５８
大綱(だいこう・朽木) → *大綱*(おおつな・朽木くつき/源、幕臣/歌人)Ｄ１４７１
大綱(大弘だいこう) → *春枝*(はるすえ・玉井たまい、神道/国学)　Ｋ３６４３
台光(だいこう・毛) → *盛綱*(せいこう・豊見城とみぐすく/毛、廷臣/舞踊)Ｏ２４３１
代耕(だいこう・上原) → *建胤*(たけたね・上原うえはら、国学者/歌)　Ｏ２６４４

B2639 **大業**(だいごう;道号・徳基とくき;法諱)1337-1414*78* 京の臨済僧;了堂素安門/法嗣、建仁寺73世、南禅寺68世、北山の金地院開山(将軍義持の帰依)、「金地院祖師法語」著

體孝院(たいこういん) → *信明*(のぶあきら・津軽つがる、藩主/財政再建)Ｊ３５１０
大光院(だいこういん) → *慶熾*(よしてる・浅野あさの、藩主/書/歌)　Ｋ４７６１
大光院桂葉(だいこういんけいよう)→ *尊為*(たかため・役えき、修験僧/俳人)　Ｍ２６２２
大光院里鶯(だいこういんりおう)→ *尊閑*(たかやす・役えき、尊為男/修験/歌)Ｎ２６５２
大孝斎(だいこうさい・田中)→ *訥言*(とつげん・田中、土佐派絵師/狂歌)Ｏ３１４６
退耕処子(たいこうしょし) → *赤城*(せきじょう・井田いだ/長尾、儒者)　Ｋ２４１９
大興心宗禅師(だいこうしんそうぜんじ)→ *悟渓*(ごけい・宗頓そうとん、臨済僧)　Ｍ１９３０
大綱正宗禅師(たいこうせいそうぜんじ)→ *羅山*(らざん;道号・元磨、臨済僧)Ｂ４８３７
大興正法国師(だいこうせいほうこくし)→ *俊芿*(しゅんじょう;法諱、戒律復興)Ｊ２１９７
大光禅師(だいこうぜんじ) → *宗己*(そうき;法諱・復庵;道号、臨済僧)２５９３
大光宗猷禅師(だいこうそうゆうぜんじ)→*曇英*(どんえい:道号・慧応えおう、曹洞僧)Ｓ３１０２
太皇太后宮(たいこうたいごうぐう、新千歌人)→*穏子*(おんし・おだいこ、醍醐皇后:885生)　Ｂ１４２６
太皇太后宮(たいこうたいごうぐう、拾遺歌)→*昌子内親王*(しょうし―、朱雀皇女/冷泉皇后:950生)Ｊ２２４７
太皇太后宮(たいこうたごうのみや)→ *昌子内親王*(しょうしないしんのう、/歌人)Ｊ２２４７
太皇太后宮(たいこうたいごうぐう、拾遺歌人)→*遵子*(じゅんし・三条太皇太后宮:957生)　Ｊ２１８０
太皇太后宮(たいこうたいごうぐう、歌合催)→*寛子*(かんし・藤原、四条宮;1036生)　Ｄ１５８２
太皇太后宮(たいこうたいごうぐう、千載歌人)→*近衛太皇太后宮*(このえ―・多子;1140生)Ｄ１９５０
太皇太后宮越前(たいこうたいごうぐうのえちぜん)→ *越前*(えちぜん・大宮、歌人)１３７４
太皇太后宮甲斐(たいこうたいごうぐうのかい)→ *甲斐* ④(かい・太皇太后宮)Ｅ１５２９
太皇太后宮小侍従(たいこうたいごうぐうのこじじゅう)→*小侍従*(こじじゅう・大宮、歌人)Ｃ１９７７
太皇太后宮摂津(たいこうたいごうぐうのせっつ) → *摂津*(せっつ)　Ｅ２４５８
太皇太后宮大弐(たいこうたいごうぐうのだいに) → *大弐*(だいに)　Ｂ２６９９
太皇太后宮丹後(たいこうたいごうぐうのたんご) → *丹後*(たんご)
太皇太后宮肥後(たいこうたいごうぐうのひご) → *肥後*(ひご・京極前関白家)３７５１

大綱智海禅師(たいこうちかいぜんじ)→ *江雪*(こうせつ;道号・宗立、臨済僧/詩) Ｋ１９１２
大皇弟(たいこうてい) → *天武天皇*(てんむてんのう) ３０１５
大行天皇(たいこうてんのう) → *文武天皇*(もんむてんのう) ４４３８
退耕道人(たいこうどうじん) → *慧堅*(えけん;法諱・戒山、天台/真言律僧)Ｄ１３７８
大衡道人(だいこうどうじん) → *泰庵*(たいあん・服部はっとり、医者) Ｊ２６０３
大光普照国師(たいこうふしょうこくし、諡号)→ *隠元*(いんげん、隆琦、黄檗宗祖)Ｃ１１０３
大光仏国禅師(たいこうぶっこくぜんじ)→*独峰*(どくほう;道号・存雄、曹洞僧)Ｌ３１４１
大光明院上人(だいこうみょういんしょうにん)→ *覚空*(かくくう、観恵坊、歌人)Ｂ１５４１
大晃明覚禅師(だいこうめいかくぜんじ)→*童竜*(どうりゅう;法諱・臥雲;道号、曹洞僧)Ｉ３１２６
大江隣(たいこうりん) → *大江丸*(おおえまる・安井、俳人) １４０３
帯江楼(たいこうろう) → *三千雄*(みちお・松田、酒造業/俳/詩) Ｂ４１２７

J2698 **台谷**(だいこく・翠雲堂) ？－ ？ 江後期江戸下谷文筆家、1803「両面年代早見略服忌」著
大黒庵(だいこくあん) → *道閑*(初世どうかん・清水しみず、茶人) Ｃ３１３５
大黒庵(だいこくあん) → *紹鷗*(しょうおう・武野/武田、商家/茶人)Ｆ２２５８
大黒庵(だいこくあん) → *奇淵*(きえん・菅沼、俳人) １６８３
大黒庵(だいこくあん) → *鼎左*(ていさ・藤井、奇淵門/俳人) ３０７９
大黒庵(だいこくあん) → *鼠公*(そこう・辻つじ、俳人) Ｊ２５６９
体国院(たいこくいん) → *吉長*(よしなが・浅野あさの、藩主/詩文) Ｆ４７２９
泰国院(たいこくいん) → *治茂*(はるしげ・鍋島なべしま、藩主) Ｇ３６４１
大黒上人(だいこくしょうにん)→ *日円*(にちえん;法諱、日蓮僧) ３３７０
大極堂有長(だいごくどうありなが、 洒落本)→ *定雅*(ていが・西村、俳人) ３０４１
大黒屋海音(だいこくやかいおん)→ *海音*(かいおん・紀きの、浄瑠璃作者/狂歌)１５０１
大黒屋光太夫(だいこくやこうだゆう)→ *光太夫*(かこうだゆう・大黒屋、船頭/ロシア漂流)Ｇ１９６８
大黒屋庄兵衛(だいこくやしょうべえ)→ *文篁*(ぶんこう・林はやし、書肆/俳人)Ｆ３８１９
太古山樵(たいこさんしょう) → *圭介*(けいすけ・伊藤、医者/植物学者) １８７９

2603 **醍醐天皇**(だいごてんのう、名;維城/敦仁、宇多天皇皇子)885-930*46* 母;藤原高藤女の贈太后胤子、
897-930在位/930出家、土地改革中心の律令制維持/「延喜格式」を制定、
宇多天皇からの「日本三代実録」を編纂完成、第一勅撰「古今集」撰集宣旨、「延喜御記」著、
紀貫之に「新撰和歌集」撰集を命、913「内裏菊合」等多くの屏風歌・歌合・菊合など主催、
「醍醐天皇御集」、勅撰43首入;後撰(69/278/641/653)拾遺(2首)新古(9首)新勅(3首)以下、
[醍醐天皇の法名/通称]法名;金剛宝、通称;延喜帝/小野天皇/後山階太上天皇
醍醐天皇の同母弟;敦慶/敦固/敦実親王、中宮・女御・更衣など20人近い妃;36人の子女、
中宮;藤原穏子(基経女)・為子内親王(光孝天皇皇女)
女御;源和子(光孝天皇皇女)・藤原能子(定方女)・藤原和香子(定国女)
更衣;源封子(旧鑑女)・藤原鮮子(連永女)・源昇女・源周子(近江更衣/唱女)・
満子女王(相輔王女)・藤原淑姫(菅根女)・藤原桑子(楓御息所/兼輔女)・
中将更衣(藤原伊衡女)・外多数
保明親王・代明親王・重明親王・源高明・兼明親王・朱雀天皇・村上天皇らの父、
[近江更衣あふみのかうい源周子の歌;
母の服ぶくにて里に侍りけるに先帝(醍醐天皇)の御文たまへりける御返ごとに、
五月雨に濡れにし袖にいとゞしく露置きそふる秋のわびしさ、
御返し(醍醐天皇)、
おほかたも秋はわびしき時なれど露けかるらん袖をしぞ思ふ](後撰集;秋中278)
醍醐天皇母(だいごてんのうのはは)→ *胤子*(いんし・藤原、宇多帝女御、歌人)Ｉ１１５８
太鼓堂(たいこどう) → *治兵衛*(2世じへえ・津打つうち、歌舞伎作者)２１３４
醍醐入道前太政大臣女(だいごにゅうどうさきのだいじょうだいじんのむすめ)→*良平女*(よしひらのむすめ・九条)Ｇ４７５２
醍醐入道前太政大臣(だいごにゅうどうさきのだいじょうだいじん;続古など)→*良平*(よしひら・九条)Ｇ４７４９
醍醐入道太政大臣(だいごにゅうどうだいじょうだいじん;続後撰など)→*良平*(よしひら・九条)Ｇ４７４９
醍醐僧都(だいごのそうず) → *元杲*(げんこう;法諱・真言房、真言僧) Ｂ１８７２
醍醐太政大臣(だいごのだいじょうだいじん)→*良平*(よしひら・九条/藤原、歌人)Ｇ４７４９

醍醐眉山(だいごのびざん)　→　*眉山*(初世びざん・中山なかやま、俳人)　Ｃ３７２５
2772 **醍醐の童**(だいごのわらわ)　？－　？　鎌倉期;醍醐寺住の童、
歌人;1237刊[楢葉集]入;
[実玄法師(東寺の僧?)さくら会み侍りけるにいかなる事をか契りけむ,
醍醐に侍りける童のもとより、
さらぬだにかはるはやすきことのはを花のたよりときくぞあだなる](楢葉;雑童681)
醍醐法印(だいごほういん)　→　*定為*(じょうい;法諱、真言僧/歌人)　Ｆ２２０１
醍醐法師(だいごほうし)　→　*喜撰*(きせん・法師/歌人)　Ｂ１６４０
第五隆(だいごりゅう)　→　*介石*(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師)　Ｂ１５０９
B2640 **大五郎**(だいごろう・初世三桝)1718-80*63歳*　江中期上方の歌舞伎役者
大五郎(だいごろう・富永)　→　*竹村*(ちくそん・富永、医/儒学/歌)　Ｄ２８４１
大五郎(だいごろう・錺屋かざりや)→*慈悲成*(じひなり・桜川、錺職/戯作/落語)２１３０
大五郎(だいごろう・日野)　→　*資始*(すけもと・日野/藤原、歌人/狂歌)　Ｈ２３１６
J2699 **大厳**(だいごん;法諱・僧具;字、宮内恒助男)1791-1856*66*　石見高津の真宗僧;
教西寺義蘊の養子;出家、浄泉寺履善門/1823長門江崎の教専寺住職、儒学/詩文に造詣、
学生・民衆の教育の教化、「閔斎詩文藁」「往生要集講」「真宗行信論」「韓文鈔録」著、
1816「阿弥陀経紀聞」37「竹窓閑話」著、
[大厳の号]　号;閔斎/硯州、
Z2620 **泰巖**(たいごん;号、姓;毘尼薩びにさつ)1828-1909*81*　京の日蓮宗僧;東寺住、1891京深草瑞光寺12世、
後深草元政庵住、歌;香川景桓門、詩歌を嗜む、「法華礼誦らいじゅ要文集」編、
家集・深草元政に関する著あり、青山霞村(歌人)の師、
[泰巖の字/別号]字;泰岸たいがん、別号;呉竹
大金剛院(だいこんごういん)　→　*信助*(しんじょ;法諱、真言仁和寺僧)　Ｏ２２８２
大金剛院(だいこんごういん)　→　*深守法親王*(しんしゅほっしんのう、真言僧/門跡/歌人)Ｅ２２４９
泰佐(たいさ/やすすけ?・安倍/阿部)→　*完堂*(かんどう・安倍/阿部、儒者/詩人)Ｒ１５５６
大佐(たいさい・伊藤)　→　*霞台*(かだい・伊藤いとう、儒者)　Ｍ１５８９
B2641 **退斎**(たいさい・山内やまうち/やまのうち、名;久作/字;新民、黙運男)1684-1718*35* 大阪の儒者;父門/程朱学、
「辨語孟字義」「辨論語古義」「三才辨義」「理気辯論」1714「梧窓客談」著、元春の弟
B2642 **大済**(たいさい)　？－　？　俳人;巴人門、
1775「夜半亭発句帖」雁宕らと共編:巴人13回忌追善
B2643 **退斎**(たいさい・脇山わきやま、名;該)1793-1831*39歳* 丹波篠山の人/江戸で相撲取/儒;倉成竜渚門、
仁斎学を修め一家を成す、1818越後村上藩儒/29藩校師範;学制改革・文教刷新に尽力、
「退斎文鈔」「退斎集」著、
[退斎(;号)の字/通称]字;子郁、通称;郁蔵
泰斎(たいさい・毛利)　→　*斉広*(なりとお・毛利、藩主/文筆)　Ｈ３２７１
泰斎(たいさい・岡田)　→　*寒泉*(かんせん・岡田おかだ、幕府儒官)　Ｅ１５０６
泰歳(たいさい・伊藤)　→　*泰歳*(やすとし・伊藤/中臣/朝野、国学)　Ｃ４５２７
泰済(たいさい・加藤)　→　*泰済*(やすずみ・加藤かとう、藩主/詩歌人)　Ｂ４５７９
泰最(たいさい・松原)　→　*櫟園*(れきえん・松原まつばら、儒者/史学)　５１７３
退斎(たいさい)　→　*芝塢*(しお・村山、儒者)　Ｂ２１２３
退斎(たいさい)　→　*安固*(やすかた・山口やまぐち、藩士/儒者/用人)Ｇ４５９５
退斎(たいさい)　→　*春水*(しゅんすい・山口、藩士/儒者)　Ｋ２１０１
退斎(たいさい・村山)　→　*芝塢*(しう・村山むらやま、藩士/儒者)　Ｂ２１２３
嬉斎(たいさい・宮地)　→　*畏山*(いざん、宮地みやじ、藩士/武術/詩)　Ｆ１１５７
大斎院(だいさいいん・おおさいいん)　→　*選子内親王*(せんしないしんのう、歌人)　２４３２
大斎院中将(だいさいいんのちゅうじょう)→*中将*(ちゅうじょう、斎院中将)　Ｇ２８３６
大歳慧嶰(たいさいえかつ)　→　*慧嶰*(えかつ;法諱・鄂隠がくいん、臨済僧)　１３５４
太作(たいさく・蔵田)　→　*重時*(しげとき・蔵田くらた/藤原、役人/歌)Ｏ２１３１
太作(たいさく・中村)　→　*愈積*(まさかず・中村なかむら、歌人)　Ｒ４０１９
泰作(たいさく・三谷)　→　*守元*(もりもと・藤林ふじばやし/三谷、医者)　Ｌ４４５０

大作(だいさく・近藤)　→　*棠軒*(とうけん・近藤、藩儒/経史)　Ｄ３１３５
大作(だいさく・千村)　→　*重治*(しげかる・千村ちむら、藩士/記録)　Ｓ２１２６
大作(だいさく・豊島とよしま)→　*宗七*(そうしち・本屋、歌舞伎作者)　Ｆ２５１７
大作(だいさく・西大和屋)→　*正宣*(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者)Ｆ４０７９
大作(だいさく・豊島)　→　*宗七*(そうしち・本屋ほんや、歌舞伎作者)　Ｆ２５１７
大作(だいさく・佐藤)　→　*祐之*(すけゆき・佐藤さとう、和算・天文家)　Ｈ２３２３
大作(だいさく・佐伯)　→　*桜谷*(おうこく・佐伯さえき、儒者/詩人)　Ｃ１４１２
大作(だいさく・森田)　→　*良郷*(よしさと・森田/山川、藩士/文筆)　Ｄ４７４２
大作(だいさく・藤川)　→　*冬斎*(とうさい・藤川ふじかわ、藩儒/教育)　Ｅ３１３０
大作(だいさく・石井)　→　*貞輿*(さだおき・石井いしい/櫛山、藩士/歌)Ｎ２０８４
代作屋大作(だいさくやだいさく)→　*文京*(ぶんきょう・花笠、合巻・歌舞伎作者)Ｆ３８０２

K2600 **大察**(だいさつ;法諱・観阿;号)1760-1802*43歳*　京の浄土僧:専念寺16世仏定門、
1804「専念仏定和尚行業記」著

K2601 **代三郎**(たいざぶろう・村上むらかみ、名;広之、良八男)1823-82*60* 播州上福田村代々医者/儒;竜田謙益門、
蘭医;1840緒方洪庵門/49同門大鳥圭介と江戸に出て伊東玄朴門/帰郷後開塾、
1857幕府講武所に招聘;師範/蕃所取調;西洋兵学の指導、眼疾のため帰郷、
「砲台築造軌範」著、
[代三郎(;通称)の号]　木洲、　江藤新平・新宮凉閣の師

K2675 **大三郎**(だいざぶろう;通称・赤松あかまつ、名;則良、吉沢政範男)1841-1920*80*　父の生家赤松良則の養子、
幕臣/砲術・兵学;江川坦庵門/蘭学;坪井信良門、海軍伝習生として長崎留学/軍艦操練方、
1860遣米使節に従い渡米/62オランダ留学/68帰国;兵学教授/鎮守府司令長官、
「亜墨利加行航海日記」著

大三郎(だいざぶろう・春田/曾我)→　*耐軒*(たいけん・曾我/春田/伊藤、儒/詩)Ｂ２６３１
大三郎(だいざぶろう・加藤)→　*大弐*(だいに・加藤かとう、藩家老/儒者)　Ｂ２６９７
大三郎(だいざぶろう・西大和屋)→*正宣*(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者)Ｆ４０７９
大三郎(だいざぶろう・鎌田)→　*碩庵*(せきあん・鎌田かまた、医者/歌人)　Ｊ２４９１
大三郎(だいざぶろう・中里)→　*常嶽*(つねおか・中里なかざと、商家/歌人)　Ｂ２９７８
大三郎(だいざぶろう・伊藤)→　*鳳山*(ほうざん・伊藤いとう、漢学者)　Ｂ３９１４

K2602 **太山**(たいさん;道号・如元にょげん;法諱)?-?　室町期築紫の曹洞僧:諸師遍歴/峨山韶碩門;法嗣、
通幻寂霊のあと加賀聖興寺住寺/能登総持寺6世、「如元格外集」編

B2645 **太山**(たいざん)　？－　？　江中期狂歌、俳人、1742潘山「時雨の橋」入、
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、
[桜木は昔の陰や一しろき](しぐれの碑)

B2646 **泰山**(たいざん・小川おがわ、名;信成、顕道男)1769-85夭逝*17歳* 相模大山山麓の人、
幼時より「大山の奇童」と称、儒者;江戸の山本北山門/折衷学に通ず、
「経子考証」「四十首遺藻」「墨子闡微」著、
[泰山(:号)の字/通称/法号]字;誠甫、通称;藤吉/藤吉郎、法号;皎月院

B2647 **対山**(たいざん・岡本おかもと)？－　？　江中期俳人;雑俳点者、大阪小咄作者、
1776噺本「年忘噺角力」著

K2607 **台山**(たいざん・広瀬ひろせ、名;清風、義平宅路男/本姓;源)1751-1813*63*　大阪生/代々美作津山藩士、
江戸藩邸近習/1779家督;大番組/目代、1803致仕;江戸麻布住/11帰郷、絵師;福原五岳門、
兵学/詩歌/琴に通ず、谷文晁・大窪詩仏らと交流、1797「台山随筆」「淫渭辨」著、
[台山(;号)の字/通称/別号]字;穆甫ぼくほ、通称;周蔵/雲太夫/運太夫うんだゆう、
別号;白雲窩/六無斎

B2648 **黛山**(たいざん)　？－　？　江戸の雑俳点者;前句付、万句合評、
1796「古今前句集」著(誹風柳多留拾遺入)

K2608 **対山**(たいざん・大島おおしま)1787-1843*57歳*　江戸の俳人;完来門、1818「雪中庵評連月十句合」編、
1818「歳旦歳暮」/19「空華集」/「完来発句集」編、29「文政俳諧」、36「稲むしろ」38「摭葉大成」編、
[対山(;号)の別号]　雪中庵5世/震柳舎/震柳亭/南港

K2609 **台山**(たいざん・勝野かつの、名;正道まさみち、六大夫正弘男)1809-59*51歳*　先祖は信州仁科氏、

旗本阿部四郎五郎に出仕(父の跡嗣)、水戸藩の藤田東湖・安藤帯刀らと親交;尊攘派、
安政大獄後逃亡:水戸藩士大野謙介家で没、正満まさみつの父、「光被盛典」「服経子遺説」著、
[台山(;号)の通称/変名]通称;豊作、変名;仁科太一郎、

K2610 **対山**(たいざん・日根野ひねの/本姓;中原、名;盛長)1813-6957　和泉佐野の絵師;
京御幸町二条住南住、のち聖護院村住、「対山印譜」著、
[対山(;号)の字/通称/別号]字;小年/成言/成之、通称;盛/長/長和、初号;茅海

T2672 **泰山**(たいざん)　？－　？　備後上下の俳人;尾道の梅臣と親交、
[暮かゝる雪にも春のゆきゝ哉](短冊)

対山(たいざん・立花)　→　*鑑寛*(あきとも・立花、藩主/文筆)　Ｄ１０１０
対山(たいざん;出家号)　→　*光貞*(みつさだ・徳川/松平/源、藩主)　Ｄ４１４４
対山(たいざん・平尾)　→　*意美*(のりよし・平尾ひらお、藩士/和学)　Ｊ３５８４
台山(たいざん・大村)　→　*純熙*(すみひろ・大村、藩主/兵学)　Ｄ２３９６
泰山(たいざん;字)　→　*日心*(にっしん;法諱・報智院、日蓮僧)　Ｅ３３５７
泰山(たいざん・小川)　→　*泰堂*(たいどう・小川おがわ、医者/日蓮研究)Ｋ２６７８
泰山(たいざん・畠山)　→　*泰全*(たいぜん・畠山、実録/軍記作者)　Ｂ２６７７
泰山(たいざん・永田)　→　*忠宜*(ただよし・永田、藩士/音律研究)　Ｒ２６３１
泰山(たいざん・河合)　→　*宗裕*(むねひろ・河合かわい、藩士/国学)　Ｄ４２７１
泰山(たいざん・野沢)　→　*信元*(のぶもと・野沢のざわ/藤原、神職/国学)Ｊ３５５４
大山(たいざん・児玉)　→　*延年*(のぶとし・児玉こだま、藩士/兵学)　Ｃ３５３５
岱山(たいざん・伊藤)　→　*佐越*(さえつ・伊藤いとう/遠坂、俳人)　Ｂ２０２０
岱山(たいざん・藤江)　→　*梅軒*(ばいけん・藤江ふじえ、藩儒者/詩文)　Ｂ３６０９
岱山(たいざん・本所)　→　*保盛*(やすもり・本所/木戸、陪臣/歌人)　Ｇ４５５９
退山(たいざん・岡本)　→　*継業*(つぐなり・岡本おかもと、藩士/歌人)　Ｆ２９４７

B2649 **泰山蔚**(たいさんうつ)　？－　？　国学、語学、1799「音韻断」:文雄もんのうを批判
太山亭(たいざんてい)　→　*素迪*(そてき・太山亭、俳人)　Ｅ２５０５
対山亭(たいざんてい)　→　*邦孝*(くにたか・池上いけがみ、商家/国学)　Ｅ１７００
太山夫(たいざんふ・中村)　→　*鳳岡*(ほうこう・中村なかむら、俳人)　Ｆ３９２１
大山房(たいざんぼう;通称)→　*日堯*(にちぎょう;法諱・/自成院、日蓮僧)Ｂ３３３５

K2611 **大旨**(たいし:号・唐翁とうおう:字、姓名不詳)?-?　江中期享保1711-36頃摂津の儒者/詩文、
1715刊「唐翁詩集」著

B2650 **大至**(たいし・桐江亭)　？－　？　江中期俳人;烏明門、
1776「松露庵夜話」編(:康工と百明の論争)

大使(たいし・派遣新羅使けんしらぎし:万葉集)→　*継麿*(つぎまろ・阿倍)　２９０５
太氏(たいし・座田)　→　*太氏*(ひろうじ・座田さいだ/賀茂、神職/歌)Ｆ３７５７
太師(たいし)　→　*聖昭*(しょうしょう;法諱、天台僧/穴太流祖)Ｊ２２７７
泰氏(たいし・平)　→　*泰氏*(やすうじ・平たいら、廷臣/続千載歌人)４５９８
泰之(たいし→やすゆき・中島)→　*竜橋*(りゅうきょう・中島なかじま、藩士/儒者)Ｄ４９３６
泰之(たいし・宮崎)　→　*泰之*(やすゆき・宮崎みやざき、幕臣/和学者)Ｇ４５８４
退二(たいじ・菫庵)　→　*菫庵退二*(きんあんたいじ、狂歌作者)　Ｈ１６７２
対時(たいじ・堀井)　→　*元仙*(げんせん;通称・堀井ほりい、医者)　Ｋ１８６４
泰時(たいじ・北条)　→　*泰時*(やすとき・北条ほうじょう/平、執権/歌)４５２６
泰二(泰次たいじ/やすじ・鏡味)→　*敬義*(甲鶺たかよし・鏡味かがみ、楽人)　Ｎ２６７４
泰治(たいじ・三好)　→　*長善*(ながよし・三好みよし、医者)　Ｏ３２９９
大芝(だいし;号)　→　*聞中*(もんちゅう;道号・浄復;法諱、黄檗僧)Ｉ４４６６
大士(だいし・熊谷)　→　*直輔*(なおすけ・熊谷くまがい、国学/藩校学監)Ｌ３２９７
大士(だいし・高子)　→　*大士*(おおこと・高子たかこ/土佐、神職/国学)Ｄ１４９４
大枝(だいし・船曳)　→　*大枝*(おおえ・船曳ふなびき/宮崎、神職/歌)Ｅ１４１０
大滋(だいじ・船曳)　→　*大滋*(おおしげ・船曳、大枝男/国学/歌)　Ｅ１４１１
大耳(だいじ;号)　→　*聞中*(もんちゅう;道号・浄復;法諱、黄檗僧)Ｉ４４６６
大次(だいじ・村山)　→　*芝塢*(しう・村山むらやま、藩士/儒者)　Ｂ２１２３

大慈院(だいじいん;法号) → *満高*(みつたか・六角/佐々木/源、武将/守護)Ｄ４１７１
大慈院(だいじいん;法号) → *忠宗*(ただむね・伊達、藩主/詩歌・連歌) Ｑ２６９６
大慈院(だいじいん;法号) → *頼僮*(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) Ｊ４７９３
大識(だいしき;字) → *宥豊*(ゆうほう;法諱・大識;字、真言僧) Ｄ４６７９
対此君堂(たいしくんどう) → *樸仙*(朴仙ぼくせん・宇佐美うさみ、医者/儒)Ｄ３９６５
退市軒(たいしけん) → *五仙*(ごせん・都賀、俳人/雑俳点者) Ｄ１９１６
大字軒(だいじけん) → *春林*(しゅんりん・土橋、俳人/書家) Ｍ２１０３
大慈広照禅師(だいじこうしょうぜんじ)→ *古渓*(こけい;道号・宗陳;法諱、臨済僧)Ｍ１９２４

2604 **太室**(大室たいしつ・渋井しぶい/修姓;井せい、名;孝徳、重之男)1720-88*69* 下総佐倉の人/1733江戸へ、儒;井上蘭台・林櫟宇てきう門、1743佐倉藩主堀田正亮に出仕/53江戸藩邸の聖堂建立に尽力、藩の政事参加、1787世子正順の大阪城代に老職として随伴、林述斎の師、1748「献紂稿」、1768「扶桑名勝」、71「国史」125巻、「太室集」「太室文集」「太室雑集」「太室山人集」外著多数、[太室(;号)の字/通称]字;子章、 通称;平左衛門

K2612 **太室**(たいしつ・小幡おばた、名;文華/字;君英/通称杏仙[吉仙])?-? 江中期京の医者/儒・詩;草廬門、1753-95「草廬草」、1759「大室集初編」著

K2613 **太室**(たいしつ・福田ふくだ/ふくた/修姓;田、名;元秀)?-1756 常陸の出身?/江戸の商家に奉公、学門に励む;書を求め幕府典医越智雲夢(曲直瀬正珪)の下僕を志望・客として遇される、荻生徂徠門/美濃大垣藩に招聘;藩儒となる、1727「蓑園けんえん名公四序」編、「名家文章」編、[太室(;号)の字/通称]字;俊卿、 通称;助右衛門、法号;俊誉太室元秀、 少室しょうしつの父

K2614 **太室**(たいしつ:道号・玄昭:法諱、号;松月叟、俗姓;坂梨)1726-96*71* 肥後阿蘇内牧の臨済僧、熊本見性寺の清巌門;出家、炉鞴門/法嗣、1760見性寺住持;72退隠、86大宰府戒壇院住、「太室玄昭禅師遺稿」

大室(たいしつ・松平/中川)→ *久貞*(ひささだ・中川なかがわ/松平、藩主) Ｂ３７０５
退室(たいしつ:号) → *玉周*(ぎょくしゅう;法諱・円巌/退室、律宗僧)Ｐ１６０５
苔室(たいしつ・竹下) → *草丸*(くさまる・竹下、俳人) Ｃ１７４０
泰室(たいしつ・前田) → *青峨*(2世せいが・前田、春来、俳人) ２４８３
泰室(たいしつ・橋本) → *泰里*(たいり・橋本、俳人) Ｃ２６２８
太子堂(たいしどう) → *貞融*(さだみち・岩下/滋野、国学者/歌) Ｃ２０４９

B2651 **大事三味**(だいじのさんみ) ？- ？ 狂歌:朱楽連、1785「後万載集」2首入、[そのばんのそろそろかけし月影をみやさん七の二十一日](後万載;168、はつき廿一日の夜月を見侍りて/みやは見よ)

大使之第二男(たいしのだいになん)→ *継人*(つぎひと、安倍継麿第二男) ２９５５
大慈普応国師(だいじふおうこくし)→ *鉄牛*(てつぎゅう;道号・道機、黄檗僧)Ｃ３０２５
大慈普応禅師(だいじふおうぜんじ)→ *元選*(げんせん;法諱・無文、臨済僧) Ｃ１８５０
大至坊(だいしぼう) → *百明*(ひゃくめい・杉坂すぎさか、俳人) ３７１３
大慈坊(だいじぼう) → *聖昭*(しょうしょう;法諱、天台僧/穴太流祖) Ｊ２２７７
大車(たいしゃ・福井/福) → *楓亭*(ふうてい・福井/福、医者) ３８９５
大車(たいしゃ・興野) → *成信*(なりのぶ・興野おきの、藩士/歌人) Ｌ３２５１

T2679 **大寂**(だいじゃく;法諱) 1748 - 1819*72歳* 武蔵多摩の真言僧;高野山・智積院で修学、武蔵竜華院で著述、1801「文殊霊験集」02「鳴鐘雑録」13「寄題観音大士霊場詩集」15「梵漢標目」19「梵漢名句」著

大寂(だいじゃく;字) → *香遠*(こうおん;法諱・大寂、真宗僧) Ｈ１９７５
大寂庵(だいじゃくあん) → *立綱*(りゅうこう、本願寺派僧/国学/歌) Ｄ４９８３
大寂常照禅師(だいじゃくじょうしょうぜんじ)→*特芳*(とくほう;道号・禅傑、臨済僧)３１３９
泰珠(たいしゅ・大野) → *泰珠*(やすよし・大野おおの、藩老/歌人) Ｆ４５１７

K2615 **諦濡**(たいじゅ/ていじゅ;法諱・明堂;字、号;拙葬せつあん、久米八男)1751-1830*80* 紀州海士郡真言僧、慈雲[飲光]門、1780河内高貴寺で灌頂を受/長栄寺4世、慈雲の「梵学津梁」編纂に参加、「慈雲尊者略伝」、「金仙閣文集」「金仙閣詩集」「人となる道随行記」著、「十善略法語随行記」「畳峰和上略伝并讃」著

泰樹(泰寿たいじゅ;字) → *日量*(にちりょう;法諱・泰樹院、日蓮僧) Ｄ３３６１

泰樹(たいじゅ・松居)　→　*安国*(やすくに・松居/松井まつい/源、国学)Ｅ４５８５
泰樹(たいじゅ・松本)　→　*泰樹*(やすき・松本なまつもと、国学者/歌人)Ｇ４５７６
泰壽(たいじゅ・寺村)　→　*泰壽*(やすひさ・寺村てらむら、医者/歌人)　Ｇ４５２９
大殊(だいしゅ・別峰)　→　*別峰*(べっぽう・大殊、円光国師、臨済僧)Ｂ２７０５
大殊(だいしゅ;法諱)　→　*別峰*(べっぽう;道号・大殊、臨済僧)　Ｂ２７０５
大珠(だいしゅ;号)　→　*永琢*(ようたく;法諱・盤珪;道号、臨済僧)Ｂ４７４４
大珠(だいしゅ;号)　→　*乗恩*(じょうおん;法諱・湛然、真宗本願寺派僧)Ｈ２２４３
大種(だいしゅ・樋口)　→　*大種*(おおたね・樋口ひぐち、国学者)　Ｅ１４０７
大壽(だいじゅ・大西)　→　*椿年*(ちんねん・大西、絵師)　Ｋ２８９５
大受(だいじゅ・野村)　→　*西巒*(せいらん・野村/丹治比、藩儒/香道)Ｄ２４０８
大受(だいじゅ・島本)　→　*誠*(まこと・島本しまもと、医者/蘭学)　４０７９
泰樹院(太寿院たいじゅいん)→　*日量*(にちりょう;法諱・泰樹、日蓮僧)　Ｄ３３６１
泰寿院(たいじゅいん)　→　*日逢*(にっぽう;法諱・泰寿院、日蓮僧)　Ｆ３３６２
大珠院(だいしゅいん)　→　*日建*(にちごん;法諱・自在院、日蓮僧)　Ｂ３３９９

K2616 **泰秀**(たいしゅう;道号・宗韓そうかん;法諱、諡号;大猷慈済禅師)?-1551　臨済僧:大徳寺興宗宗松門、興宗の法嗣/美濃大宝寺・妙心寺住/1549瑞竜寺僧、「永泉余滴集」著

B2652 **泰舟**(たいしゅう・長谷川はせがわ)?-　?　俳人、1660一雪「歌林鋸屑集」入60句

K2617 **大舟**(たいしゅう・鈴木すずき、名;重修、通称;弥三左衛門やそうざえもん)?-?　美濃大垣藩士/御用人、俳人;芭蕉門、1698続猿蓑入、95芭蕉百箇日追善「後の旅」(如行編)入
[寝所ねどころや梅のにほひをたて籠めん](続猿蓑;巻之下梅)

B2653 **大湫**(たいしゅう・南宮なんぐう、名;岳、井上勝春[仲八]男)1728-78*51* 美濃今尾の儒者:中西淡淵門、折衷学、伊勢桑名/安濃津に住/江戸日本橋で開塾、日向延岡藩主の賓師、細井平洲と親交、「大学考」「漁翁私言」「芸窓うんそう放言」「茶談」「君道六要」「講余独覧」、「大湫先生集」外著多、
[大湫(;号)の字/通称/別号]字;文太/喬卿、通称;弥太郎/弥六、
別号;積翠楼/晴雪楼/煙波釣叟、萱洲けんしゅう、　藍川らんせん父

2605 **台州**(たいしゅう・熊坂くまさか、名;定邦/邦、定昭[覇陵]男)1739-1803*65* 岩代伊達郡高子の農家;豪農、儒者;1760江戸で入江南冥門/松崎観海門、帰郷;窮民救済・教育に尽力;高子先生と称さる、1771「永慕編」72「観海集」編、1781狂文「魚籃ぎょらん先生春遊記」([東奥陳奮翰著;変名])、1788「白雲館罫」97「白雲館近代詩式」98「律詩天眼」1801「文章緒論」、「道術要論」外著多数、
[台州(;号)の字/通称/別号]字;子彦、通称;宇右衛門/璜たまき、
別号;白雲館/曳尾堂えいびどう/東奥陳奮翰とうおうちんぷんかん/大通館、磐谷の父

K2618 **大洲**(たいしゅう・伊良子いらこ/伊良いら、名;憲、文蔵男)1763-1829*67* 因幡鳥取新町の儒者;安藤箕山門、さらに箕浦靖山・河田東岡門、鳥取藩乾長孝に出仕/私塾で教授、「大洲集」「大洲文集」、「大洲東遊紀行」「大洲雑記」、「四十六士論」「論語影響解」、1793「知難録」著、
[大洲(;号)の幼名/字/通称]幼名;吉太郎、字:子典/子成、通称;弥左衛門/忠蔵/中蔵

K2619 **諦州**(たいしゅう;道号・至信ししん;法諱)1774-1849*76*　豊後浜脇の臨済僧;1783(10歳)崇福寺篆山門、性堂慧杲門/法嗣、周防常栄寺住寺(30余年在任)/1835東福寺275世/47南禅寺320世、「又玄集」著

K2620 **泰洲**(たいしゅう;道号・弘恭;法諱、俗姓:酒井/山本)1806-77*72* 尾張小口の黄檗僧;東山通関門、近江政宗寺・長福寺住持、1862退隠/尾張知多竜雲寺12世/長福寺退隠、1834「竹林軒詩集」著、[泰洲弘恭の号]竹林軒/無能

太州(たいしゅう・太田)　→　*澄元*(澄玄ちょうげん・太田/岩、本草家)　Ｉ２８１２
台州(たいしゅう・荻てき/荻野)→　*元凱*(げんがい、荻野、医者/詩)　Ｂ１８４０
岱宗(たいしゅう;道号)　→　*承岳*(しょうがく;法諱・岱宗、臨済僧/漢学)Ｆ２２８５
岱洲(たいしゅう;字)　→　*無所得*(むしょとく:号、真言僧)　４２７１
泰州(たいしゅう・富田)　→　*泰州*(やすくに・富田とみた/源、藩士/歌人)Ｂ４５３４
泰周(たいしゅう・大関)　→　*増業*(ますなり・大関/加藤、藩主/国学)　Ｊ４０１１
泰秋(たいしゅう/やすあき・荒木)→　*右一*(ゆういつ・荒木あらき、藩士/俳人)　４６５６
泰脩(たいしゅう・富田)　→　*泰脩*(やすなが・富田とみた、歌人)　Ｆ４５０２
待秋(たいしゅう・新保)　→　*磐根*(いわね・新保しんぼう/にいほ、国学者)　Ｋ１１３４

玳洲(たいしゅう・山澄)　→　*延年*(えんねん・山澄やまずみ、医者)　Ｆ１３３０
B2654 **泰重**(たいじゅう)　？－　？　俳人、立圃門、1661立以「烏帽子箱」・立圃「あだ花千句」入
B2655 **待充**(たいじゅう)　？－　？　大阪俳人、1791「五十能可美いそのかみ」編
泰重(たいじゅう・土御門)　→　*泰重*(やすしげ・土御門つちみかど/安倍、陰陽家)Ｂ４５６５
泰重(たいじゅう・中川)　→　*千町*(ちまち・宝田、中川、藩士/合巻)　Ｆ２８４２
泰従(たいじゅう・権太)　→　*泰従*(やすより・権太ごんた/藤原/幕臣/歌)Ｄ４５６２
諦住(たいじゅう;法諱)　→　*義圭*(ぎけい;字、真宗/唱導)　１６６６
K2621 **大宗**(だいしゅう/たいそう;道号・玄弘げんこう/宗弘;法諱)?-?　室町後期臨済僧:天縦宗受門/嗣法、
1525尾張瑞泉寺住寺/妙心寺20世、「大宗録」著
K2622 **大岫**(だいしゅう;道号・宗般そうはん;法諱、号;一滴)1703-70*68*　泉州堺の臨済僧:竜岫宗広門/法嗣、
1752大徳寺357世、碧玉庵5世・祥瑞寺兼知/近江堅田満月寺を重興、
「大岫和尚語録」(門人瑞巌宗頊編)
K2623 **大周**(だいしゅう;法諱・朝空ちょうくう;号)?-?　江後期浄土宗西山派深草流の僧、
1816「深草復興記」19「深草正義決」、「白木法語辨釈」「三心章」著
K2624 **大周**(だいしゅう;法諱・牧野まきの)1808-1883*76歳*　美濃稲葉郡本荘の真宗本願寺派快楽寺の生、
1828美濃山県郡掛村の大性寺智周の養子/住職/1861司教/67勧学職、
詩・仏典・宗乗;杳旭門、「観念法門筆記」「改邪鈔筆記」「尊号真像銘文筆記」外著多数、
[大周の字/号]字;泡影、号;竹谷/聞信房、諡号;最精院
大周(だいしゅう;法諱)　→　*周奄*(しゅうちょう;道号・大周、臨済僧)　Ｉ２１１１
大舟(だいしゅう:法諱・東溟)→　*東溟*(とうめい:道号・大舟、曹洞僧)　Ｈ３１３５
大秀(だいしゅう・田中)　→　*大秀*(おおひで・田中、歌人)　１４０６
大秀(だいしゅう;字)　→　*宝観*(ほうかん;法諱・大秀、真宗学僧)　３９３１
大秀(だいしゅう・窓岡)　→　*硯寿*(けんじゅ・窓岡まどおか、真宗僧/歌)　Ｎ１８９７
大洲(だいしゅう・太田)　→　*澄元*(ちょうげん・太田、本草家)　Ｉ２８１２
大洲(だいしゅう・宇都宮)　→　*安浦*(やすうら・宇都宮うつのみや/渡部、神職)Ｆ４５３８
大洲(だいしゅう・水間)　→　*大洲*(おおくに・水間みずま、国学/歌)　Ｅ１４１６
大住院(だいじゅういん:号)　→　*以信*(いしん:法諱、僧/華道家)　Ｆ１１６８
大洲上人(たいしゅうしょうにん)→　*雲室*(うんしつ;号、真宗僧/絵師)　Ｂ１２１６
泰十郎(たいじゅうろう・久保、幕臣)→　*文々舎蟹子丸*(初世ぶんぶんしゃかにこまる、狂歌)Ｇ３８３８
大殊円光国師(だいしゅえんこうこくし)→*別峰*(べっぽう;道号・大殊、臨済僧)Ｂ２７０５
B2656 **大叔**(たいしゅく;法諱・季弘きこう;道号)1422-87*66*　備前臨済僧:竹庵大縁門、1480東福寺174世、
1481菩提院荘厳蔵院塔主/83堺海会寺住持、詩文:信仲以篤/雲章一慶門、
「蔗軒日録」「入寺法語並詩偈集」、「東福寺季弘禅師開堂疏」「蔗菴遺稿」著、
[季弘大叔の号]　蔗庵/蔗軒/竹谷、備陽山人/竹谷道人/山陽山散
K2625 **大淑**(大叔たいしゅく、別号;金剛玄翁)?-?　安藝広島の浄土宗広陵区海雲山妙慶院住職、
1749刊「邪掇猱轡じゃたくどうひ録」51「蓮語自面放痾笑」著
大珠法光禅師(たいしゅほうこうぜんじ)→*宗圭*(そうけい;法諱・雪庵;道号、臨済僧)Ｇ２５９２
大寿老人(だいじゅろうじん)　→　*幹雄*(みきお・三森みつもり、俳人)　４１６８
泰俊(たいしゅん・星野)　→　*泰俊*(やすとし・星野ほしの、神職/歌人)　Ｇ４５５６
B2657 **泰順**(たいじゅん・坂井さかい、就安[2世]男)?-1688　加賀藩士;父に先立ち没、「加能所産薬種考」
K2626 **泰順**(たいじゅん・山本やまもと、別名;尚勝、友我男)1636-69刑死*34*　江前期京の儒者:冷泉為景門、詩人、
為景没後;松永尺五・宇都宮遯庵門、長崎糸荷の偽物入質事件が発覚し刑死;
父友我ゆうがも連座刑死、1658「洛陽名所集」66「節序詩集」67「四家絶句」編、
「大和鑑」「山谷絶句」「元白絶句」「李杜絶句」「都名所記」著、
[泰順(;名)の字/通称]　字;三径、通称;内蔵助、
参考　→　*友我*(ゆうが・山本/狩野、絵師)　４６９３
K2627 **太淳**(たいじゅん;道号・宗古そうこ;法諱)1700-77*78*　薩摩の曹洞僧;江戸長慶寺8世道契良夫門/法嗣、
下野成高寺27世/常陸安祥寺住、1738「撃節録余音」編、「大空玄虎蔵主註抄心経」
K2628 **諦順**(たいじゅん;法諱・逸叟;号)?-？　江中期大阪の天台宗天王寺明静院・塩町定恵院住僧、
1779-80頃木村巽斎(蒹葭堂)と交流、1786「扶桑考」著

K2629 **太淳**(たいじゅん・柚木ゆのき、字；仲素/尭民、綿山男)1762-1803　代々近江の眼科医；父門、京で医業、儒/経書；江村北海門、内科；荻野元凱門/産科；賀川有斎門、1797人体解剖、太輔たいゆうの兄、「銀海浮槎」「都民歳時」「分量彙攷」「鶴橋志異」「柚木流眼療秘伝書」、1799「解体瑣言」著、
[太淳の号]　鶴橋、 法号；貞明院

K2630 **泰純**(たいじゅん・岡宗おかむね、名；登)1768-1833*66*　土佐高知城西川岸端の医者；藩家老深尾家抱に出仕、1831(天保2)稲毛実・岡本真古まふるらと「土佐畸人伝」編集、「西郊余翰」「西郊余翰拾遺」著、
[泰純(；号)の通称/別号]通称；良蔵、 号；拙斎/養拙斎/雲突房

大淳(たいじゅん・大友)　→　*正文*(まさぶみ・大友おおとも、医者/歌人)　Ｏ４０３６
泰淳(たいじゅん・大山；改名)→*東海*(とうかい・牧/橘、儒者/兵学/脱藩)Ｂ３１９１
泰順(たいじゅん・高川)　→　*楽真*(がくしん・高川たかがわ、藩士/詩/書)　Ｋ１５１０
泰順(泰純たいじゅん・和田)→　*東郭*(とうかく・和田わだ、医者)　Ｃ３１１３
泰順(たいじゅん・宮川)　→　*弘充*(ひろみつ・宮川みやがわ、医者/国学)　Ｌ３７４１
泰純(たいじゅん・山方)　→　*泰純*(やすずみ・山方やまがた藩士)　Ｂ４５７８
諦純(たいじゅん；字)　→　*榮性*(えいしょう・諦純、真言僧)　Ｄ１３００

K2631 **大順**(だいじゅん；法諱)　1711 － 1779*69歳*　伊勢浄土僧；安濃津阿弥陀寺空誉門、関東檀林で修学/阿弥陀寺・天然寺に住、当麻曼荼羅の研究/高野山で入滅、1772「当麻曼荼羅捜玄疏」74「当麻曼荼羅捜玄疏図本」78「善導曼荼羅略讃」著
法名；玉蓮社震誉/専阿/慈航

大順(だいじゅん・金井)　→　*岱路*(たいろ・金井かない、僧/俳人)　Ｌ２６３５
大順(だいじゅん；通称)　→　*慈観*(じかん；法諱、天台僧)　Ｐ２１９３
大純(だいじゅん・万年)　→　*櫟山*(れきざん・万年まんねん、医者)　５１７７
大淳(だいじゅん；法諱)　→　*嬾菴*(らんあん；道号・大淳、曹洞僧)　Ｂ４８５５
大準(だいじゅん・滝山)　→　*大準*(ひろのり・滝山たきやま、国学者)　Ｋ３７１５
大順堂(だいじゅんどう)　→　*広居*(こうきょ・堀田ほった、医/儒者)　Ｉ１９３０
大順堂(だいじゅんどう)　→　*養斎*(ようさい・鈴木すずき、儒者)　４７９３

K2632 **太初**(たいしょ・高こう)?-　?　江中期安永天明1772-89頃俳人：柳居門、1778「名農始」80「閑古鳥」編、87「旅の筆はじめ」著、
[太初(；号)の別号]　無由庵/渉無庵/指象坊/菜窓/夜庭

泰初(たいしょ；字)　→　*慈本*(じほん；法諱・泰初；字、天台僧/詩)Ｖ２１７７
泰女(たいじょ)　→　*泰女*(やすじょ、歌人)　Ｆ４５０３

K2633 **大初**(だいしょ；道号・啓原けいげん；法諱、初号太初)1333-1407*75*　臨済僧；1341(9歳)出家；物外可什門、1351(19歳)入明；諸師参禅・浙江省径山の傑峰世愚門/嗣法、浙江の三峰寺・竜護院住：没、「大初啓原禅師語録」著

大初(だいしょ・中島)　→　*黄山*(こうざん・中島なかじま、儒者/書)　Ｊ１９３５
大初(だいしょ・岡田)　→　*栗園*(りつえん・岡田おかだ、藩儒)　Ｂ４９５７
大所(だいしょ・池原)　→　*香稚*(かわか・池原いけはら、医者/国学)　Ｔ１５６３

B2658 **泰昭**(たいしょう・大谷おおたに/在原、泰諶男)?-?　室町期歌学者：鳥居小路経厚つねあつ門、古今伝授を受、1520(永正17)頃「古今集聞書(別名；古今伝授聞書/泰昭聞書)」著、
(父からの講説と経厚からの声句相伝を付加した注釈書)

B2659 **大笑**(たいしょう)　？－　？　俳人、1690不卜「続の原」入
[稲妻に歩みさしたる兎かな](続の原：三番左53)

B2660 **泰昌**(たいしょう、別号；冬日居)?-　?　江後期俳人、道彦・成美と交流、1794「丸一年」編、97成美「随斎句稿」序

K2634 **大笑**(たいしょう・恵美えみ/初性；長尾、名；貞璋さだあき)1745-1820*76歳*　周防小松の人、医者；広島の恵美三白門、三白男の三圭が幼少のため恵美家を嗣ぐ、広島藩主浅野家の侍医、弓砲隊頭次席、多くの諸侯を診察；名医の称、「晩成堂経験方函」著、
[大笑(；号)の字/通称]字；君達、 通称；三白さんぱく

大尚(たいしょう・吉)　→　*吉大尚*(きったいしょう、百済の渡来学者)　Ｆ１６９６

大章(太章たいしょう・加賀美)→*光章*(みつあき・加賀美/源/間宮/飯田、神道/国学)Ｃ４１９９
対松(たいしょう:号)　→　*周麟*(しゅうりん:法諱・景徐、臨済僧)　Ｐ２１４５
X2695 **諦盛**(たいじょう;法諱、号;弘宣庵、俗姓;竹内)1787-1857*71*　三河碧海郡の真宗大谷派僧、
尾張津島の本住寺16世、権律師、本住寺17世**諦霊**たいれいの父、詩歌
X2693 **泰成**(泰乗たいじょう;法諱、号;呑阿)1799-1858*60* 長門萩の真宗本願寺派光山寺主僧;10世住職
大常/太常(たいじょう・香山)→　*崇峰*(すうほう・香山かやま、儒者/詩)　Ｂ２３０３
泰常(たいじょう・加藤)　→　*泰恒*(やすつね・加藤かとう、藩主/画/歌人)Ｆ４５６６
諦浄(たいじょう)　→　*玄仗*(げんじょう;法諱、真宗本願寺派僧)Ｋ１８０５
B2662 **台簫**(だいしょう)　？－　？　俳人、1759芝立「暗夜訓蒙図彙」に紀逸との歌仙入
大章(だいしょう・雨森)　→　*笠山*(りゅうざん・雨森あめのもり/雨、儒/詩)　Ｅ４９２１
大匠(だいしょう・平田)　→　*職俊*(もととし・平田/出納/中原、故実)　Ｄ４４２８
大証(だいしょう・後法成寺)→　*尚通*(ひさみち・近衛、歌・連歌)　Ｂ３７９４
大升(だいしょう・伊沢)　→　*信階*(のぶしな・伊沢いざわ、蘭軒父/医者)　Ｂ３５６２
K2635 **大成**(だいじょう;道号・照漢しょうかん;法諱、俗姓;林)1709-84*76* 清の福建省延平府尤渓県の黄檗僧、
1723長崎に渡来、崇福寺道本寂伝に随侍/嗣法、万寿庵住/1775宇治万福寺21世、
書画/詩文、「間居七吟」著、
[大成照漢の初道号/号]初道号法諱;仲瑛際眘ちゅうえいさいてい、　号;清間道人/独楽
K2636 **大乗**(だいじょう;法諱・慧運えうん;字)1751-1823*73* 筑紫上座郡田中の真宗本願寺派僧;勧正寺で出家、
大同門;宗乗を修学/諸国で講席;子弟教育、帰郷;福岡の光円寺住職、
1798「閲寮対話」、「易行品毛諦録」「聖道浄土門分別」「観経講述」著、
[大乗の号]　幻園/遍照庵、諡号;遍照院
B2661 **大常**(だいじょう)　1772 － 1842*71歳*　加賀金沢英町の足袋・蓑商/俳人:梅室門、
「明ぼの」編、「新畚しんぼん」著、大夢の師、
[大常(;号)の通称/別号]通称;越前屋次郎兵衛/次郎右衛門、別号;竜居/槐庵5世
K2638 **大乗**(だいじょう;法諱・三玄;字)1803-1858*56歳*　越後新潟の真宗長音寺の生/曹洞宗に転向、
敦賀永建寺・有馬善福寺・常陸浄春院・村上安泰寺住;藩主の詩会を支援、
佐渡相川の万福院住、詩/書に長ず、「奥羽紀行」著、
[大乗の号]　雲外/雪釣
大浄(だいじょう)　→　*敬順*(けいじゅん:法諱、真宗僧/茶/紀行)Ｄ１８４９
大譲(だいじょう・木村)　→　*履軒*(りけん・木村きむら、儒者/書家)　４９９５
大乗(だいじょう・伊藤)　→　*鑑幸*(てるゆき・伊藤いとう、神職/国学)　Ｆ３００２
対松院(たいしょういん;法号)→　*利義*(としのり・土井/井伊、藩主/詩人)Ｎ３１３５
泰勝院(たいしょういん)　→　*幽斎*(ゆうさい・細川/源、武将/歌/連歌)４６０２
大昌院(だいしょういん;法号)→　*豊敷*(とよのぶ・山内やまのうち、藩主/歌)　Ｒ３１４３
大照院(だいしょういん;法号)→　*秀就*(ひでなり・毛利もうり、藩主/連歌)　Ｄ３７４８
大聖院(だいしょういん)　→　*道深親王*(どうじんしんのう、真言僧/歌)　Ｆ３１６６
大常院(だいじょういん;法号)→　*親足*(ちかたり・津軽つがる/黒田、藩主/歌)Ｌ２８４０
大乗院(だいじょういん)　→　*日随*(にちずい;法諱・智教、日蓮僧)　Ｃ３３５６
大乗院(だいじょういん)　→　*百叡*(ひゃくえい;法諱、真宗本願寺派僧)Ｅ３７４４
大乗院(だいじょういん)　→　*信岳*(しんがく;法諱・大乗院、高田たかだ、浄土僧/歌)Ｖ２２１２
大乗院殿(だいじょういんどの)→　*尋憲*(じんけん;法諱、法相僧/門跡)　Ｏ２２２４
大乗院宮(だいじょういんのみや)→*尊円親王*(そんえんしんのう、天台座主/書・歌)２５３２
泰勝軒(たいしょうけん)　→　*貞俊*(さだとし・添田そえだ、藩家老/武術)　Ｉ２０８３
B2663 **大丈軒**(だいじょうけん・小原おはら、名;正義、弥右衛門正休男/本姓;伴)1637-1712*76* 美濃加納藩士の生、
藩主移封で父と肥前唐津に移住、禅;真教門/医・神道・儒学を修学;程朱学、
1673岡山藩に招聘;藩主侍講・閑谷学校教授・学監歴任、中村惕斎てきさい・市浦毅斎らと交流、
「牛窓詩藻」編、1694「大丈軒詩集」1694-1710「大丈軒集」、「大丈軒別集」「野遊余話」外著多、
[大丈軒(;号)の字/通称/別号]字;伯実、通称;朝倉庄太郎/善助、別号;丈夫軒
大将軍贈右大臣大伴卿(だいしょうぐんぞうゆうだいじんおおとものきょう)→　*御行*(みゆき)Ｇ４１０３
大照国師(だいしょうこくし・仏智)→　*慧心*(えしん:法諱・竺雲;道号、臨済僧)１３６６

大勝寺(だいしょうじ)　→　*忠良*(ただよし・一条いちじょう、関白/歌人)　Ｇ２６０８
大定聖応国師(だいじょうしょうおうこくし)→　*慧玄*(えげん;法諱・関山、臨済僧)１３６１
大紹正宗国師(だいしょうしょうそうこくし)　→　*弁長*(べんちょう;法諱、浄土僧)Ｂ２７３６
大照禅師(だいしょうぜんじ・宗恵そうけい)→　*宗頤*(そうい・養叟、臨済僧)　２５５３
太常宗(たいじょうそう)　→　*接伝*(しょうでん、臼井うすい/平、神職)Ｌ２２１０
太政僧正(だいじょうそうじょう)→　*覚雄*(かくおう:法諱、真言僧)　Ｊ１５５６
太政大臣(だいじょうだいじん:後撰集)→　*忠平*(ただひら・藤原)　Ｆ２６７１
太政大臣(だいじょうだいじん:金葉集)→　*雅実*(まさざね・源/久我こがの祖)Ｃ４０６０
太政大臣(だいじょうだいじん:詞花集)→　*実行*(さねゆき・三条/藤原、歌)　Ｄ２０７５
太政大臣(だいじょうだいじん:新後撰)→　*公孝*(きんたか・徳大寺)　Ｅ１６２６
太政大臣(だいじょうだいじん:続千載)→　*実重*(さねしげ・三条)　Ｄ２００５
太政大臣(だいじょうだいじん:新後拾)→　*良基*(よしもと・二条、歌/連歌)　４７２９
太政大臣室(だいじょうだいじんのしつ/続千載)→*実重室*(さねしげのしつ・三条、歌人)Ｄ２００６
太政大臣僧正(だいじょうだいじんのそうじょう)→　*杲守*(こうしゅ・ごうしゅ、真言僧/歌/連歌)Ｂ１９２７
太政大臣法印(だいじょうだいじんのほういん)→*実勝*(じっしょう;法諱、真言醍醐寺座主)Ｕ２１７８
対松堂(たいしょうどう)　→　*正興*(まさおき・竹本たけもと石亭、幕臣/絵師)Ｑ４０８１
大少納言入道(だいしょうなごんにゅうどう)→*良賢*(よしかた・清原きよはら、廷臣/漢学者)Ｃ４７６２
大将御息所(だいしょうのみやすどころ、実頼女)→　*慶子*(けいし、朱雀院女御)１８６３
　参照　実頼女は３人　→　*実頼女*(さねよりのむすめ)①～③
大将御息所(だいしょうのみやすどころ)　→*宣耀殿女御*(せんようでんのにょうご、藤原芳子/歌)Ｇ２４７４
大成弁阿闍梨(だいじょうべんのあじゃり)→　*日昭*(にっしょう・不軽院、日蓮僧)Ｅ３３１６
大乗房(だいじょうぼう;号)　→　*証印*(しょういん;法諱、真言僧)　Ｇ２２７６
大織冠(たいしょくかん)　→　*鎌足*(かまたり・藤原朝臣、廷臣/改新政治)１５３９
太四郎(たいしろう・稲垣)　→　*方之*(まさゆき・稲垣いながき、歌人)　Ｎ４０７１
太二郎(泰次郎たいじろう・八田)→　*華陽*(かよう・八田はった、儒者)　Ｐ１５５８
太次郎(たいじろう・大草)　→　*公弼*(きみすけ・大草おおくさ、幕臣/国学/史家)Ｇ１６２３
太次郎(たいじろう・羽田)　→　*眞足*(またり・羽田はねだ、藩士/歌人)　Ｒ４０８５
泰次郎(たいじろう・吉井/貫名)→　*海屋*(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人)１５９１
退次郎(泰次郎たいじろう・加藤)→　*直蔭*(なおかげ・加藤かとう、国学者)　Ｌ３２５７
帯次郎(たいじろう・目賀田)→　*文村*(ぶんそん・目賀田めがた、絵師)　Ｇ３８０９
B2664 **大四郎**(だいしろう・里見さとみ)?-　?　江後期蘭学者/蘭語に精通、
　1857「銃技範」著(;西洋手銃操作法の抄訳)
大二郎(大次郎だいじろう・八田)→　*華陽*(かよう・八田はった、儒者)　Ｐ１５５８
大二郎(だいじろう・大場)　→　*南湖*(なんこ・大場おおば、藩士/暦算)　Ｉ３２９２
大二郎(大次郎/代二郎だいじろう・宮本/敷田)→　*年治*(としはる・敷田/吉松、神職/国学)Ｎ３１４３
大二郎(だいじろう・福島)　→　*末晨*(すえあき・福島ふくしま/度会/亀田、神職)Ｊ２３１３
大二郎(だいじろう・福島)　→　*末美*(すえよし・福島ふくしま/谷田、神職)　Ｊ２３１５
大次郎(だいじろう・吉田)　→　*松陰*(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育)２１６７
大次郎(だいじろう・加藤/大原)→　*観山*(かんざん・大原おおはら、儒者)　Ｈ１５６５
大次郎(だいじろう・大草)　→　*公弼*(きみすけ・大草おおくさ、幕臣/国学/史家)Ｇ１６２３
大次郎(だいじろう・大草)　→　*公明*(きみあき・大草おおくさ、公弼男/幕臣/儒官)Ｇ１６２２
大次郎(だいじろう・鳥居)　→　*清経*(きよつね・鳥居とりい、絵師)　Ｄ１６３７
大次郎(だいじろう・永井)　→　*雪峯*(せっぽう・永井ながい、絵師)　Ｌ２４３６
大次郎(だいじろう・斎藤)　→　*実村*(さねむら・斎藤さいとう、藩士/日記)　Ｌ２０３８
大次郎(だいじろう・篠木)　→　*信嘉*(のぶよし・篠木しのき/藤原、幕臣/歌)Ｇ３５７９
大次郎(だいじろう・歌川)　→　*芳房*(よしふさ・歌川うたがわ、絵師)　Ｇ４７７６
大次郎(だいじろう・陸原)　→　*之淳*(ゆきあつ・陸原くがはら、藩儒/詩人)　Ｅ４６２４
大次郎(だいじろう・長山)　→　*忠敏*(ただとし・長山ながやま、商家/歌人)　Ｙ２６７３
大治郎(だいじろう・阿部)　→　*千秋*(ちあき・阿部あべ/梅内、代官/俳人)Ｌ２８７５
代次郎(だいじろう・太田)　→　*光当*(みつまさ・八羽はっぱ/太田、神道家)　Ｋ４１１１

代次郎(だいじろう・若松屋)→ *言方*(ことかた・林はやし、商家/国学/歌) Ｒ１９１５
第次郎(だいじろう・岡部) → *長慎*(ながちか・岡部おかべ、藩主/藩史/歌)Ｋ３２３３
第治郎(だいじろう・大隈;変名)→ *年治*(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学)Ｎ３１４３

K2639 **逮神**(たいしん:法諱・游空ゆうくう:字、初法諱;逮境)?-1765 真言律僧・1707灌頂を受、江戸霊雲寺法明より1784衣鉢戒・52具足戒を受、鹿島神宮寺住/武州足立の寶蔵寺3世、1743「水原観音堂十景詩歌」、「鹿島大神宮年譜」「神代系統」著

K2640 **泰深**(たいしん:法諱・貫道:字)?-1830 京城南鳳貫毛宮の真言僧/智山派の学匠、1809金蔵院住持、23山城安楽寿院住、1804「安楽院原要記」/17「鳳池壮観」、「形影偶語」外著多
太清(たいしん/たいせい;道号)→ *宗渭*(そうい;法諱・太清、臨済僧) ２５５２
太申(たいしん・和泉屋) →*甚助*(じんすけ・和泉屋いずみや、材木商/国学)Ｕ２２６７
泰親(たいしん・安倍) → *泰親*(やすちか・安倍、廷臣/陰陽・天文博士)Ｂ４５９９
泰信(たいしん・武田) → *泰信*(やすのぶ・武田たけだ、藩士/泳法) Ｃ４５５９
焞辰(たいしん・矢島) → *伊浜*(いひん・矢島やじま、儒者) Ｅ１１３８
体信(たいしん/なりのぶ・青木)→ *雲岫*(うんしゅう・青木あおき、儒者/兵学) Ｄ１２８３

B2665 **泰諶**(たいじん;法諱、称;治部卿/青蓮院泰諶、泰温男、俗姓;大谷)?-? 天台青蓮院しょうれんいん坊官、法印、1465室町殿の尊応の尊勝法修法に随伴/尊応尊伝の門跡に出仕、連歌;宗祇門、1487「葉守千句」・93「清水本式百韻」参加/91?「古今集聞書」著、1508?肖柏「池田千句」参加、新莵玖波5句入、泰昭の父

B2666 **泰人**(たいじん) ？- ？ 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」2句入(745/753)
泰尋(たいじん) → *頓阿*(とんあ・とんな、時宗僧/歌学) ３１６７
大人(たいじん) → *浅鶏庵大人*(せんけいあんたいじん、狂歌) Ｍ２４２０

B2667 **大進**(だいしん・輔仁親王家すけひとしんのうけ、三宮さんのみやの大進)?-? 平安後期女房歌人、後三条天皇皇子輔仁親王家の女房、菅原在良の妻、小大進の母、
歌:1128(大治3)源顕仲主催「西宮歌合」「南宮歌合」参加、
金葉集2首(222/410、Ⅲ219/416)、
［妻恋ふる鹿ぞ鳴くなるひとり寝のとこの山風身にやしむらん](金葉;秋222)

B2668 **大進**(だいしん・俊子内親王しゅんしないしんのう[後三条天皇皇女]家)?-? 平安後期女房/歌人、詞花集257
［訪はぬ間をうらむらさきにさく藤の何なにとてまつにかゝりそめけむ］
(詞花;八恋257/不実な男と関わった後悔、末紫と恨む・松と待つを掛ける)

K2641 **大心**(だいしん;道号・義統ぎとう;法諱、俗姓下村)1657-1730*74* 京の臨済僧;清涼院天倫宗忽門/嗣法、1706大徳寺273世、泉州禅楽寺・品川東海寺等輪番職、1680「霊会日鑑」86「墨江紀略」、1686「礼敬三宝諸天説」1703「七会懺儀」05「蓮華功格」15「功格図式」17「墨業油薪」、「高野志略」「禅宗廿四流図」「国朝姓名通」「清規略要」「転経譜」「天倫和尚語録」編外著多数、
［大心義統の号］ 蓮華庵、蓮華童子/巨妙子/小心子/金剛童
大進(だいしん・郁芳門院)→ *郁芳門院大進*(いくほうもんいんのだいしん) Ｃ１１１８
大進(だいしん・皇太后宮)→ *若水*(わかみず・皇太后宮、後白河皇后忻子女房)５３１２
大進(だいしん・中院右大臣家)→ *夕霧*(ゆうぎり・中院右大臣家) Ｂ４６２２
大進(だいしん・林) → *伯英*(はくえい・林はやし、儒者) Ｃ３６６３
大進(だいしん・福井) → *末美*(すえよし・福井/度会/檜垣/久志本、神職)Ｆ２３７６
大進(だいしん・左合) → *竜山*(りゅうざん・左合さごう/左、詩人/能書)Ｅ４９１４
大進(だいしん・宇都宮) → *大潔*(ひろきよ・宇都宮うつのみや、博学/地誌)Ｆ３７７７
大進(だいしん・青木) → *永古*(ながひさ・青木あおき、神職/歌人) Ｋ３２７２
大進(だいしん・八幡) → *光保*(みつやす・八幡、光瓊男/神職/国学)Ｋ４１８４
大進(だいしん・鹿之木) → *春民*(はるたみ・鹿之木かのこぎ、医者/神職)Ｊ３６８９
大進(だいしん) → *澄意*(ちょうい;法諱・仙蔵坊、白山本宮長吏)Ｈ２８１９
大進(だいしん・松田) → *一直*(かずなお・松田まつだ、神道/歌人) Ｖ１５７５
大信(だいしん・前田) → *斉広*(なりなが・前田まえだ、藩主/謡曲) Ｈ３２８８
大心(だいしん・上田) → *白水*(はくすい・上田うえだ、儒/兵学) Ｄ３６４０
大心(だいしん;法諱) → *増隆*(ぞうりゅう;法諱、真言僧/神道) Ｊ２５１６
大辰(だいしん・宮崎) → *元胤*(もとたね・宮崎みやざき/安曇、神職/国学)Ｌ４４５６

大進庵(だいしんあん;号)　→　*行願*(ぎょうがん;法諱、真言僧)　Ｎ１６７１
大真庵(だいしんあん・渡辺)→　*直麿*(なおまろ・渡辺わたなべ、国学/歌)　Ｋ３２１６
体眞院(体信院たいしんいん)→　*日頒*(にちりょう;法諱、日蓮僧)　Ｄ３３６２
太心院(たいしんいん)　→　*泰温*(やすあつ・加藤かとう、藩主/倹約令)　Ｆ４５６５
大進院(だいしんいん)　→　*日進*(日心/日眞にっしん、日蓮僧)　Ｅ３３３６
大心院(だいしんいん)　→　*胤将*(たねのぶ・遠藤えんどう、藩主/歌人)　Ｇ２６３９
大信院(だいしんいん)　→　*重豪*(しげひで・島津/松平、藩主/諸学)　Ｃ２１９０
大心海(だいしんかい)　→　*義教*(ぎきょう;法諱・了翁、真宗僧)　Ｊ１６９４
大神君(だいしんくん)　→　*家康*(いえやす・徳川、将軍/武家法度)　１１０４
大進公(だいしんこう)　→　*俊恵*(しゅんえ/すんえ;法諱、僧/歌人)　２１５５
大進公(だいしんこう;字)　→　*日善*(にちぜん;法諱・大宝房、日蓮僧)　Ｃ３３５９
大進公(だいしんこう)　→　*日進*(日心/日眞にっしん、日蓮僧)　Ｅ３３３６
大神女郎(だいしんじょろう→おおみわのいらつめ)→　*大神女郎*(おおみわのいらつめ、万葉歌人)１４６６
大瞋道人(だいしんどうじん)　→　*実雄*(じつゆう・小原おはら/原、僧/国学)　Ｎ２１６８
大進阿闍梨(だいしんのあじゃり)→*日進*(日心/日眞にっしん、日蓮僧)　Ｅ３３３６
大進法印(だいしんほういん)　→　*行寛*(ぎょうかん;法諱、真言僧)　Ｇ１６６４
泰神霊神(たいしんれいしん)　→　*兼起*(かねおき・卜部うらべ/吉田、神職)　Ｏ１５３８

B2669 **岱水**(岱翠たいすい;号)　？－　？　江前期江戸深川俳人;芭蕉門、師と両吟12句、
1694洒堂「俳諧深川」入/94炭俵15句入・98続猿蓑2句入、1704「木曽の谿」編、
嵐雪戊辰歳旦帖・幽蘭集などに入句、
[浦風やむらがる蠅の離れぎは](炭俵;上/旅に出る芭蕉を川崎まで送る惜別の情)

B2670 **苔翠**(たいすい)　？－　？　蕉門俳人、1688嵐雪「若水」入

B2671 **大睡**(だいすい/たいすい・岸きし、通称;弥左衛門/徳右衛門)1684-1775*92*　加賀本吉の商人/町吏、
俳人:若推門、1726(43歳)致仕/家督を甥に譲渡/剃髪、諸国行脚、千代尼の師、
1733「二人笠」、40「追川」44「俳諧のきれ」編/48「山津登」、63八十賀集「硯あらい」(;亀選編)、
[大睡(;号)の別号]別号;帆吹/半睡/山歩人/雪中花/雪花堂/三葉庵、屋号;北潟屋

K2642 **大随**(だいずい;道号・道機どうき;法諱、葛山為久男)1652-1717*66* 京の黄檗僧/初;臨済南禅寺英中門、
1691黄檗僧:高泉性潡門/嗣法、岩代二本松珊瑚寺3世/伏見仏国寺5世/但馬豊岡興国寺4世、
「大随和尚語録」「鉄笛艸」「木禅外集」「禅門解縛集」著、姉;了然元聡・兄;雲峰元冲も黄檗僧、
[大随道機の号]初名;大方玄機(;臨済名)、号;木禅叟、別法諱;道亀/道圀どうき
兄　→　*元冲*(げんちゅう):法諱・雲峰、臨済/黄檗僧)Ｌ１８２０
大瑞(だいずい・佐井)　→　*聞庵*(ぶんあん;通称・佐井さい、医者)　Ｅ３８７７
大瑞(だいずい・潮田)　→　*藻苅*(もかり・潮田うしおだ、藩士/国学)　Ｊ４４３６
大数院釈覃茎(だいすういんしゃくたんけい)→　*英綱*(ひでつな・渡辺、和算家)　Ｄ３７２５

B2673 **当助**(たいすけ・たえすけ・河竹かわたけ)?－ ？　江後期歌舞伎作者、
1822如皐2世「御摂曽我閏正月」番付作者
退輔(たいすけ・河村/北条)→　*悔堂*(かいどう・北条ほうじょう、儒者)　Ｈ１５１８
退輔(たいすけ・中村)　→　*大蔭*(おおかげ・中村なかむら、大庄屋/国学)Ｅ１４０２
退助(たいすけ・三上)　→　*是庵*(ぜあん・三上みかみ、藩士/儒者)　２４４６
退助(たいすけ・法花津屋)→　*長徳*(ながのり・高月たかつき、商家/歌人)　Ｎ３２７４
泰助(泰輔/泰介たいすけ・藤林)→　*普山*(ふざん・藤林、医者/蘭学)　Ｃ３８３３
泰助(たいすけ・山田)　→　*清房*(きよふさ・山田やまだ、和算家)　Ｑ１６２７
泰助(たいすけ・神谷)　→　*潤亭*(じゅんてい・神谷かみや、医/音曲家)　Ｌ２１５２
泰助(たいすけ・高野)　→　*余慶*(よけい・高野たかの、藩儒/藩政)　Ｂ４７７７
泰輔(たいすけ・鈴木)　→　*泰輔*(やすすけ・鈴木すずき/水野、国学/歌)Ｇ４５０６
泰輔(たいすけ・山田)　→　*東園*(とうえん・山田やまだ、儒者/随筆)　Ｂ３１５４
太輔(たいすけ・伊東)　→　*奚疑*(けいぎ・伊東いとう、藩士/儒/易学)　Ｆ１８４２
太輔(たいすけ・市川)　→　*晩斎*(ばんさい・市川いちかわ、藩儒)　Ｈ３６６９
太輔(たいすけ・伊高)　→　*重雄*(しげお・伊高いだか、神職/歌人)　Ｎ２１８２

B2674 **大輔**(だいすけ・篠原しのはら) ？－　？　室町期歌人・連歌、1410了俊より「了俊歌学書」を贈らる

K2643 **大助**(だいすけ・小出こいで、名；照方、寛等男)1743-181977　幕臣：支配勘定/1778御勘定/90組頭、寛政改革で財政再建に功/武州下総下野内5万石を宰領/1800飛騨郡代/03江戸二丸留守居、1784?「御冥加自普請御称詞之記」著、
[大助(；通称)の別通称]伊之輔/源之丞

K2644 **大助**(大輔だいすけ・英はなぶさ、名；顕こう、平吉男)?-?　江後期江戸本石町の書肆；万笈堂[英屋]主人、父の遺志を受け「王荊公絶句」刊行、
「書籍目録」「諸家蔵印譜」編、「万笈堂製本略書書目録」著、
[大助(；通称)の屋号]　万笈堂まんきゅうどう/英屋はなぶさや

B2611 **大介**(だいすけ・柴田しばた、名；昌吉、馬田永成男)1841-190161　長崎出身、1847医者柴田方庵の養子、儒；山本晴海門/蘭学；名村花渓門/1858英語伝習所入学；何礼之・平井義十郎門、1863江戸洋学所教授/65英語小通詞/67横浜裁判所勤務、「英字小銃論」訳、1873「附音挿図英和字彙」(英和辞書)刊行、
[大介(；通称)の号]　榎江かこう

大介(だいすけ・日野)　→　*醸泉*(じょうせん・日野/岡田、儒者)　Ｋ２２５０
大介(だいすけ・佐野)　→　*琴壑*(きんがく・佐野さの、藩士/儒者)　Ｉ１６９５
大介(だいすけ・山口)　→　*厚菴*(こうあん・山口やまぐち、儒者/医/歌)　Ｈ１９２４
大介(だいすけ・岩本)　→　*贅庵*(ぜいあん・岩本/巌本/巌、儒者/詩)Ｈ２４３４
大介(大助だいすけ・堤)　→　*新甫*(しんぽ・堤つつみ、儒者/教育)　Ｐ２２８６
大介(だいすけ・安部井)　→　*櫟堂*(れきどう・安部井あべい/佐々木、篆刻家)５１８１
大佐(大助だいすけ・山田)→　*麟嶼*(りんしょ・山田/菅原/菅、幕臣/儒)Ｋ４９４３
大助(大介だいすけ・河津/加藤)→　*宇万伎*(美樹うまき・加藤、幕臣/国学)１２８５
大助(だいすけ・大塚)　→　*孝綽*(たかやす・大塚おおつか、儒者)　Ｃ２６８４
大助(だいすけ・菊池)　→　*桐江*(とうこう・菊池きくち、儒者)　Ｄ３１７７
大助(だいすけ・南宮)　→　*藍川*(らんせん・南宮なんぐう、儒者)　Ｃ４８８４
大助(だいすけ・橘)　→　*保国*(やすくに・橘たちばな、絵師)　Ｂ４５３３
大助(だいすけ・立花)　→　*鑑虎*(あきとら・立花、藩主/連歌)　Ｄ１０６５
大助(だいすけ・美濃部)　→　*貞休*(さだやす・美濃部みのべ/柳沢、幕臣)　Ｐ２０５２
大助(だいすけ・中林)　→　*竹洞*(ちくどう・中林なかばやし、絵師/詩歌)　Ｄ２８６０
大助(だいすけ・楢村)　→　*守国*(もりくに・橘たちばな/楢村、絵師)　Ｆ４４３７
大助(だいすけ・福島)　→　*末茂*(すえしげ・福島/度会、神職/詩文)　Ｂ２３１７
大助(だいすけ・花房)　→　*正矩*(まさのり・花房はなぶさ、幕臣/歌)　Ｆ４０９８
大助(だいすけ・橘村)　→　*正長*(まさなが・橘村はしむら/度会、神職/歌)Ｒ４０７０
大助(代助だいすけ・山口)→　*安良*(やすよし・山口やまぐち、醸造業/国学)Ｄ４５５７
大助(だいすけ・伊藤)　→　*鹿里*(ろくり・伊藤いとう、儒者/巷説)　Ｂ５２１７
大助(だいすけ・大庭)　→　*松風*(しょうふう大庭おおば、商人/紀行文)　Ｌ２２５０
大助(だいすけ・岡田)　→　*武辰*(たけとき・岡田おかだ、歌人)　Ｕ２６５５
大助(だいすけ・鄭てい)　→　*敏斎*(びんさい：号・鄭、通事/語学教育)　Ｈ３７８２
大助(大佐だいすけ・馬場)→　*仲達*(ちゅうたつ・馬場ばば、幕臣/本草家)　Ｇ２８６３
大助(だいすけ・伊東)　→　*祐春*(すけはる・伊東いとう、幕臣/旗本)　Ｌ２３２９
大助(だいすけ・渡辺)　→　*清*(きよし・渡辺わたなべ/周渓、絵師/故実)Ｖ１６６５
大助(だいすけ・岩橋)　→　*友勝*(ともかつ・岩橋いわはし、藩士/国学)　Ｕ３１３３
大助(だいすけ・宇高)　→　*信任*(のぶとう・宇高うだか、藩士/歌人)　Ｈ３５４７
大助(だいすけ・遠藤)　→　*元孚*(もとのぶ・遠藤えんどう、国学/歌・俳)　Ｊ４４４２
大助(だいすけ・小槫)　→　*惟徳*(これのり・小槫こぐれ、国学/歌)　Ｑ１９６９
大助(だいすけ・磯野/大島)→　*直章*(なおあき・磯野いその/大島おおしま、歌)　３２６１
大助(だいすけ・水野)　→　*保豊*(やすとよ・水野みずの、神職/国学)　Ｇ４５８２
大助(だいすけ・宮西)　→　*諸助*(もろすけ・宮西みやにし/本間、神職/国学)Ｌ４４６０
大輔(だいすけ・菊池)　→　*小三馬*(こさんば・式亭、商家/合巻作者)Ｃ１９７２

大輔(だいすけ・村井)　→　*昌弘*(まさひろ・村井むらい、兵学・測量家)　Ｇ４０９４
大輔(だいすけ・山島)　→　*守良*(もりよし・山島やましま、和算家)　Ｇ４４９３
大輔(だいすけ・馬場)　→　*若水*(じゃくすい・馬場ばば、藩士/詩)　Ｗ２１０１
大輔(大介/大助だいすけ・村田)→*泰足*(安足やすたり・村田むらた、藩士/国学)Ｂ４５９６
大輔(だいすけ・臼井)　→　*貞安*(さだやす・臼井うすい、国学者・歌人)　Ｎ２０９７
大輔(だいすけ・大石礒)　→　*眞素美*(ますみ・大石礒おおいしごり/望月/大伴、国学)Ｏ４０２６
大輔(だいすけ・宮原)　→　*積*(つもる・宮原みやはら/荒武、藩士/歌人)Ｆ２９７７
大輔(だいすけ・諏訪)　→　*安明*(やすあき・諏訪すわ、大庄屋/歌人)　Ｇ４５０２
大輔(だいすけ・松木)　→　*仙彦*(のりひこ・松木まつき/度会/檜垣、神職)Ｋ３５００
大輔(だいすけ・宮崎)　→　*玉緒*(たまお・宮崎みやざき/榊、医者/故実)Ｚ２６８２
大輔(だいすけ・村田)　→　*延年*(のぶとし・村田むらた、藩士/国学/歌)Ｋ３５１５
代助(だいすけ・長尾)　→　*保躬*(やすみ・長尾ながお、歌人通称;)Ｅ４５９６
台輔(だいすけ・松倉)　→　*恂*(じゅん・松倉まつくら、藩士/財政/記録)２１８７

B2675 **岱青**(たいせい・渡辺わたなべ、台界[白壺庵]男)?-1799　尾張藩士/名古屋の俳人:暁台門、枇杷園所属、台界門の四天王、国学;本居宣長門、1798刊「法々華経」編/98刊「暁台七回忌」編、1801「藁集」編、「こしかた草紙」編、
[岱青(;号)の通称/別号]通称;源右衛門、別号;五老峰/雲外

大成(たいせい;禅号)　→　*宗臨*(そうりん・谷、呼雲斎、商家/連歌)　Ｄ２５２０
大成(たいせい・葛井)　→　*大成*(おおなり・葛井ふじい連、万葉歌人)　１４２９
大成(たいせい・宍戸)　→　*大成*(おおなり・宍戸/柿島、藩士/国学)　Ｃ１４８１
大声(たいせい・広江)　→　*秋水*(しゅうすい・広江ひろえ、商家/詩人)　Ｘ２１７１
大青(たいせい・原)　→　*健*(たけし・原はら/戸田、医者/国学/歌)　Ｚ２６１０
退省(たいせい・林)　→　*確軒*(かくけん・林、儒者・詩人)　Ｅ１５６６
泰成(たいせい;法諱)　→　*泰成*(泰乗たいじょう、号;呑阿/真宗僧)　Ｘ２６９３
泰世(たいせい・進藤)　→　*泰世*(やすよ・進藤しんどう、商家/国学者)　Ｇ４５０１
泰世(たいせい・山本)　→　*泰世*(やすよ・山本やまもと/橘、国学/歌人)Ｇ４５９９
泰誠(たいせい・土御門)　→　*泰誠*(やすのぶ・土御門/安倍、廷臣/日記)Ｃ４５５５
泰盛(たいせい・安達)　→　*泰盛*(やすもり・安達あだち、武将/幕府実権)Ｄ４５３０
泰盛(たいせい・豊島)　→　*泰盛*(やすもり・豊島とよしま/平、勤王家)　Ｄ４５３３
泰昌(たいせい・佐々木)　→　*泰昌*(やすまさ・佐々木ささき、旗本/剣客)　Ｅ４５９０
太清(たいせい/たいしん;道号)→　*宗渭*(そうい;法諱・太清、臨済僧)　２５５２
太清(たいせい・矢野)　→　*玄道*(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者)　Ｃ１８８４
太清(たいせい・石川)　→　*慎斎*(しんさい・石川、儒者/詩人)　Ｏ２２４７
太青(たいせい・立林)　→　*何帠*(かげい・立林たてばやし、絵師)　Ｆ１５７７
大星(たいせい・佐久間)　→　*象山*(しょうざん・佐久間、儒/蘭学/兵学)Ｓ２２５４
貸成(たいせい)　→　*大雅*(たいが・池/池野、絵;文人画)　Ｂ２６１２
戴星(たいせい・三井)　→　*高敏*(たかとし・三井みつい、商家/国学)　Ｄ２６２１
泰正院(たいせいいん;法号)→　*政邦*(まさくに・榊原/源、藩主/歌人)　Ｃ４０３７
泰清院(たいせいいん)　→　*綱久*(つなひさ・島津しまづ、藩世嗣/歌人)　Ｆ２９８２
大盛院(だいせいいん)　→　*忠洪*(ただひろ・森もり、藩主/俳人)　Ｑ２６６８
退静翁(たいせいおう)　→　*鎮信*(しげのぶ・松浦まつら、藩主/茶道)　Ｃ２１７１
大清居(だいせいきょ・鈴木)→　*秀外*(しゅうがい・鈴木すずき、商家/俳人)　Ｗ２１８２
太清軒(たいせいけん)　→　*氏康*(うじやす・北条、武将/城主/歌人)　１２５５
対青軒(たいせいけん)　→　*正信*(まさのぶ・水野みずの、陪臣/国学者)　Ｆ４０８２
対青軒(たいせいけん)　→　*宗達*(そうだつ・俵屋たわらや、絵師)　Ｃ２５４４
泰成親王(たいせいしんのう)　→　*泰成親王*(やすなりしんのう・後村上天皇皇子/南朝歌人)Ｃ４５５
泰西堂(たいせいどう)　→　*泉石*(せんせき・鷹見たかみ、家老/和漢学)　Ｍ２４７８
大生堂(だいせいどう)　→　*淵竜*(えんりゅう・有元ありもと、医者/俳人)　Ｆ１３４７
台西堂主人(たいせいどうしゅじん、戯作筆名)→　*国芳*(くによし・歌川、絵師)Ｂ１７０１

大清撫国禅師(たいせいぶこくぜんじ)→*承天*(しょうてん:道号・則地、曹洞僧/義士伝)Ｌ２２０９
苔石(たいせき・近藤)　→　*国昌*(くにまさ・近藤こんどう、国学者)　Ｅ１７１９
苔石(たいせき・土屋)　→　*邦敬*(くにたか・土屋つちや、農業/庄屋)　Ｅ１７３５
泰節(たいせつ・西河)　→　*白水*(はくすい・西河にしかわ、儒者)　Ｄ３６４４
泰雪(たいせつ)　→　*泰運*(たいうん・神馬じんば、儒/医/俳人)　Ｊ２６１１
戴雪(たいせつ)　→　*隆正*(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌)２６１７

T2680 **大拙**(だいせつ;道号・元錬げんれん;法諱)?-? 1754存　黄檗僧;鉄禅道広門;侍者/1706嗣法、
1743頃摂津北野村の善通寺住寺、1715「慈悲水懺法備撿」、「鉄禅和尚末後事実」「喫茶論」著

B2676 **大拙**(だいせつ)　？－　？　洒落本、雪厳玩世道人門、1768雪厳「閑居放言」注解

T2681 **大拙**(だいせつ;道号・承演しょうえん;法諱、俗姓;友本)1797-1855*59*　若狭大嶋の臨済僧;東源菴実道門、
諸国遍歴/備中宝福寺妙峰玄実・備前曹源寺太元孜元に参禅:太元の法嗣、
京の相国寺心華院入住、威容儼然のため鬼大拙と称される、「無為和尚語録」著

大拙(だいせつ・石川)　→　*丈山*(じょうざん・石川、儒者/詩人)　Ｓ２２５７
大拙(だいせつ・中山)　→　*愛徳*(あいとく/よしのり・花山院かざんいん/藤原/中山、右大臣/詩歌)Ｍ４７１５
大節(だいせつ・宮内)　→　*嘉雄*(よしお・宮内みやうち/吉川、和漢学/詩)Ｐ４７３６

K2645 **帯川**(たいせん)　？－　？　俳人;1777蕪村「夜半楽」入
[門かどをたゝけば隣家に声す](夜半楽;歌仙の12句)
(前句;卯の花に萩の若枝もうちそよぎ;三貫)

帯川(たいせん・橋本)　→　*政孝*(まさたか・橋本/中条、政方養子/与力/槍術)Ｄ４０２９

2770 **泰然**(たいぜん;法諱)　？－　？　平安鎌倉期;南都の僧/法橋、
歌人;1237刊[楢葉集]入、
[すがもかるやそうぢ河のはやき瀬もたぐつなみ□□さみだれの比](楢葉;夏151)

K2646 **太禅**(たいぜん;法諱)　？－　？ 1486存　大和の僧侶/連歌:新菟入

B2677 **泰全**(たいぜん・畠山はたけやま、名;群興/郡興)?-?　大坂伏見町の実録/軍記作者、穂積以貫と親交、
1691「三楠実録」1735「小栗実記」「大友真鳥実記」著、
[泰全(;号)の別号]　別号;泰山/竹隠/竹隠斎

W2612 **泰然**(たいぜん・大黒おおぐろ、求迪の長男)17764-1869長寿*94*　土佐幡多郡の医者;家業継嗣、
和漢学修学/歌・俳諧;葛西鵲巣門、
[泰然(;名)の通称/別号]通称;十太郎/竜吾、別号;歩山/橘斎

K2648 **泰然**(たいぜん・佐藤さとう、名;信圭のぶかど、信隆藤佐男)1804-72*69*　母;和田ふぢ、武州川崎在稲毛の人、
旗本伊奈家出仕/医:足立長雋・高野長英門、長崎留学;蘭語・医学修得、1836薬研堀和田塾開、
1843下総佐倉藩主の招聘;順天堂を創設/藩医官、1859横浜に隠居;ヘボン等と交流、
「接骨備要」「整骨備要」「謨斯篤牛痘編」訳、「模私篤眼科書」著、
[泰然(;字)の幼名/号]幼名;昇太郎、号;紅園/蘭翁

泰禅(たいぜん:法諱)　→　*雲櫺*(うんれい;道号・泰禅;法諱、曹洞僧)１２９４

T2683 **大仙**(だいせん;道号・良碩りょうせき;法諱)?-1458　曹洞僧;源翁能照(心昭)門/法嗣、
磐城白河の常在院2世/下総結城の安穏寺2世、「源翁能照和尚行状記」著

T2682 **大僊**(だいせん;道号・道竜どうりゅう;法諱、初号;大潜、俗姓;薬師寺)1657-1738*82*　磐城白河の生、
父没後主家本多家に出仕/黄檗僧;高泉性**潡**しょうとん門/嗣法、出羽の栗棘庵を建立、
1704山城伏見仏国寺6世;3度住寺、唐僧を万福寺へ招聘誓願中に江戸で没、
1743「大僊禅師語録」、「隠祖東来避乱弁疑偈」著

B2678 **大川**(だいせん・戸田とだ、名;信易/通称;外記)1677-1714*38*　大垣藩祖戸田氏鉄の孫、俳人;木因門、
1周忌追善「梅のわかれ」吾仲編

K2649 **大泉**(だいせん:法諱・玉洲:道号)1739-1814*76*　上州曹洞僧:鶴天門、1790上州宗永寺/双林寺住持、
1767能登総持寺妙高庵輪住、「説戒略要」「伝衣象鼻章稿巴歌」著

大川(だいせん・児島)　→　*利渉*(としただ・児島こじま、国学者)　Ｖ３１１７
大仙(だいせん・武田)　→　*信豊*(のぶとよ・武田、武将/故実)　Ｃ３５４３
大仙(だいせん;字)　→　*亮盛*(りょうせい;法諱・大仙、真言僧)　Ｉ４９４８
大宣(だいせん;法諱)　→　*虎伯*(こはく;道号・大宣;法諱、臨済僧)Ｎ１９４２
大箭(だいせん・平)　→　*致経*(致恒むねつね・平たいら、武将/歌)　Ｂ４２６５

台川(だいせん・松岡)　→　*次郎*(じろう・松岡まつおか/那須、家老/儒)Ｎ２２０６
K2650 **大膳**(だいぜん・栗山くりやま、名;利章、利安男)1591-1652*62歳*　筑前福岡藩家老:2万石、黒田長政の遺言で2代目藩主忠之を補佐、藩主に諫言を繰り返すため藩主と対立、1632忠之に謀反の企ありと幕府に訴訟(黒田騒動);33藩は存続/大膳は盛岡藩御預、但し公儀より扶持あり、「栗山大膳諫言書」著、
[大膳(;通称)の初通称/号]初通称:五兵衛、 号;西木子/雖失、 法号;西木紹山居士
大膳(だいぜん・横山)　→　*長知*(ながちか・横山、武将/藩重臣)　Ｅ３２２６
大膳(だいぜん・反町)　→　*幸定*(ゆきさだ・反町そりまち、武将)　Ｅ４６４７
大膳(だいぜん・伊達)　→　*敏親*(としちか・伊達だて、領主/詩歌人)　Ｍ３１８２
大膳(だいぜん・水野)　→　*元朗*(もとあきら・水野みずの、家老/儒者)　Ｃ４４０２
大膳(だいぜん・山澄)　→　*英貞*(ひでさだ・山澄やまずみ、藩士/故実)　Ｄ３７０４
大膳(だいぜん・松平)　→　*康済*(やすなり・松平まつだいら、藩家老)　Ｃ４５４６
大膳(だいぜん・岩橋)　→　*広持*(ひろもち・岩橋いわはし/大江、神職/国学)Ｉ３７３８
大膳(だいぜん・花房)　→　*職朝*(もととも・花房はなぶさ/堀田、幕臣)　Ｄ４４３４
大膳(だいぜん・植村)　→　*政行*(まさゆき・植村うえむら、幕臣/家伝)　Ｉ４０２０
大膳(だいぜん、松本/大山)→*為起*(ためおき・大山/秦/松本、神職/国学)Ｓ２６３６
大膳(だいぜん・小堀)　→　*宗中*(そうちゅう・小堀こぼり/源、幕臣/茶人)Ｂ２５８６
大膳(だいぜん・白玖)　→　*武文*(たけふみ・白玖はく/しらく、神職/歌)　Ｖ２６１５
大膳(だいぜん・中山)　→　*信治*(のぶはる・中山なかやま、藩当主/和学)Ｊ３５３９
大膳(だいぜん・八幡)　→　*光保*(みつやす・八幡、光瓊男/神職/国学)Ｋ４１８４
大膳(だいぜん・葦名)　→　*盛倫*(もりとも・葦名あしな、邑主/国学)　Ｊ４４０８
大膳(だいぜん・跡部)　→　*良弼*(よしすけ・跡部あとべ、幕臣/奉行/歌)Ｋ４７９５
大膳(だいぜん・宮沢)　→　*清房*(きよふさ・宮沢みやざわ、神職/国学)　Ｔ１６４６
大膳(だいぜん・益)　→　*元永*(もとなが・益ます/二本杉、神職/国学)Ｌ４４３３
大膳(だいぜん・鈴木)　→　*重生*(しげなり・鈴木すずき、国学者/歌人)　Ｚ２１１４
大膳(だいぜん・三宅)　→　*経香*(つねか・三宅みやけ/賀茂県主、神職/書・歌)Ｇ２９４４
台前(だいぜん・飯田/加賀美)→　*光章*(みつあき・加賀美/源/間宮/飯田、神道/国学)Ｃ４１９９
大闡院(だいせんいん)　→　*祐秀*(ゆうしゅう;法諱、真宗大谷派僧)　Ｃ４６２９
大善院(だいぜんいん)　→　*道貫*(みちつら・本庄/本荘、藩主/歌)　Ｂ４１９１
大善院(だいぜんいん;諡号)→　*浄眞*(浄信じょうしん;法諱、本願寺派僧)Ｋ２２０８
帯川居(たいせんきょ・森本)→　*沙鷗*(さおう・森本/平、酒造業/俳人)　Ｂ２０２３
大染金剛院(だいせんこんごういん、入道前関白太政大臣)→　*持通*(もちみち・二条、歌・連歌)Ｂ４４７１
対仙酔楼(たいせんすいろう)　→　*清憲*(きよのり・上杉うえすぎ、商家/歌人)　Ｔ１６５９
大膳太夫(だいぜんだいぶ・毛利)→　*元就*(もとなり・毛利/大江、武将/連歌)Ｄ４４６１
大膳大夫(だいぜんだいぶ・奥平)→　*昌男*(まさお・奥平おくだいら/源、藩主/歌)Ｌ４０７５
大膳大夫(だいぜんだいぶ・岡本)→　*清令*(きよのり・賀茂/岡本、神職/日記)Ｑ１６１３
大膳大夫(だいぜんだいぶ・岡本)→　*経賢*(つねかた・岡本おかもと/賀茂、神職)　Ｆ２９４８
胎仙堂(たいせんどう)　→　*蓬陽*(ほうよう・前島まえじま、俳人)　Ｃ３９６４
大箭の左衛門尉(だいせんのさえもんのじょう)→*致経*(致恒むねつね・平、武将/歌)Ｂ４２６５
大膳亮(だいぜんのすけ・反町)→　*幸定*(ゆきさだ・反町そりまち、武将)　Ｅ４６４７
大膳亮(だいぜんのすけ・佐瀬)→　*常尚*(つねなお・佐瀬させ/笹原、神職/神道)Ｆ２９７０
大仙房(だいせんぼう;号)　→　*源豪*(げんごう:法諱、天台僧)　Ｉ１８８５
大膳亮好庵(だいぜんりょうこうあん)→*読人志礼多*(よみひとしれた、医官、狂歌)Ｉ４７２９
K2651 **太素**(たいそ:道号・宗謁そうえつ:法諱、号;臥牛)1533-94*62* 若狭の臨済僧;大徳寺督宗紹董門/嗣法、1582大徳寺125世、「太素和尚語録」著
B2679 **苔蘇**(たいそ・岡本おかもと、名;正次)?-1709;*50余歳* 伊賀上野藩士;城代藤堂長定家臣、俳人:芭蕉門、伊賀蕉門の高弟/椿を愛した、1704「つゞれ日記」、1694其角「枯尾花」入/猿蓑・炭俵・続猿入
[苔蘇(;号)の通称/別号]通称;治右衛門、 別号;木白(;初号)/瓢竹庵[亭]
K2652 **大蘇**(たいそ:道号・智玲ちれい:法諱/初法諱;梵玲、天遊道人)?-1793　肥前臨済僧;泰勝寺入;出家、日向大光寺拙堂元敬門/開善寺蘭山正隆門;嗣法、1770日向開善寺住持、「大蘇録」

B2680 **大蘇**(たいそ・高橋)　？－1822　尾張大曽根の紙屑寄商/俳人;士朗・塊翁門、枇杷園所属、1803「庵の犬」著
[大蘇(;号)の通称]　山城屋佐兵衛/弥四郎
太素(たいそ・新渡戸)　→　*伝*(つとう・新渡戸にとべ、藩士/開拓事業)２９９６
太素(たいそ;別法諱)　→　*無著*(むぢゃく;法諱、真宗本願寺派僧)　４２６４
太素(たいそ・木田/月岡)→　*雪斎*(せっさい・月岡つきおか/木田、絵師)　Ｋ２４９４
泰徂(たいそ・黒田くろだ)　→　*汲泉*(きゅうせん・黒田くろだ、酒造業/彫刻)Ｕ１６２８
大素(だいそor太素・伊形)→　*霊雨*(れいう・伊形いがた、儒者/詩人)　５１１１
大蘇(だいそ・月岡)　→　*芳年*(よしとし・月岡/歌川、吉岡、絵師)　Ｅ４７９６

K2653 **泰叟**(たいそう:道号・妙康みょうこう:法諱、俗姓;平)1406-8580 対島の曹洞僧;相模最乗寺大綱明宗門、上州補陀寺月江正文門、相模最乗寺住持、月江の嗣法;補陀寺3世、1472太田道灌に招聘され武州越生竜穏寺の中興開山、「泰叟妙康禅師語録」著

K2654 **大巣**(たいそう・高橋/平井)？－1837　名古屋和泉町の商人/俳人:士朗・塊翁門、大蘇と同門、1812-「鈴の音」15「鳥の道」編/31「木の葉懐紙」37「ちまちた集」編、「俳諧師人名録」編、
[大巣(;号)の通称/別号]通称;橘屋弥四郎、別号;九皐/草木庵/懐仙堂

K2655 **大倉**(たいそう・宮永みやなが、名;虞臣、正好男)1798-185558 越中砺波郡下川崎村の儒者:古賀精里門、剃髪;播磨善定村大法寺住/高野山修行3年、大阪の篠崎小竹邸で漢学講義/美作でも講義、「周易象解」「助語放言解」「老子連山帰蔵」「履随象解」「酔余漫筆」外著多数、菽園しゅくえんの弟、
[大倉(;号)の字/通称/別号]字;淵晦、通称;才五郎/川崎半仏、別号;半儒半仏通
大宗(たいそう・玄弘;法諱)→　*大宗*(だいしゅう・玄弘、臨済僧)　Ｋ２６２１
大壮(たいそう・田中)　→　*履堂*(りどう・田中、儒者)　Ｃ４９３２
岱宗(たいそう・横井)　→　*時文*(ときぶみ・横井、藩士/儒者)　Ｋ３１００
岱宗(たいそう・南合/駒井)→　*晩翠*(ばんすい・駒井、儒者)　Ｉ３６１９
泰窻(たいそう・石川)　→　*憲之*(のりゆき・石川いしかわ、藩主/儒者)　Ｇ３５１０
泰宗(たいそう・猪苗代/神戸)→　*兼郁*(けんいく・猪苗代/神戸、連歌)　Ｂ１８２６
泰宗(たいそう・宇都宮)　→　*泰宗*(やすむね・宇都宮/藤原、武将/歌)　Ｄ４５２０
泰聡(たいそう・倉橋)　→　*泰聡*(やすとし・倉橋くらはし/安倍、廷臣)　Ｃ４５２３
退叟(たいそう・永山)　→　*外記*(げき;通称・永山ながやま、藩士/歌)　Ｇ１８８７

L2657 **退蔵**(たいぞう・赤石あかいし/明石、希范[希範]きはん男)1837-190569　備前の医者:父門;1850家督、1859緒方洪庵門;西洋医学修得/岡山藩医、1863-67「赤石退蔵歴年日記」著
大三(たいぞう・大倉)　→　*大三*(だいぞう・大倉おおくら、歌人)　Ｂ２６８２
太造(たいぞう・近藤)　→　*至邦*(むねくに・近藤こんどう、国学者/歌人)Ｄ４２８４
太蔵(たいぞう・浅野)　→　*韞玉*(おんぎょく・浅野あさの、医者)　Ｄ１４４０
退蔵(たいぞう・杉浦)　→　*南陰*(楠陰なんいん・杉浦、藩士/儒者)　Ｉ３２４９
退蔵(たいぞう・河村/北条)→　*悔堂*(かいどう・北条ほうじょう、儒者)　Ｈ１５１８
退蔵(たいぞう・留守)　→　*希斎*(きさい・留守るす/遊佐ゆさ、儒者)　Ｉ１６５２
退蔵(たいぞう・赤石)　→　*希范*(希範きはん・赤石あかいし/明石、医者)Ｌ１６８１
退蔵(たいぞう・近藤)　→　*謙山*(兼山けんざん・近藤こんどう、医者)　Ｊ１８２５
退蔵(たいぞう・宮南)　→　*耕斎*(こうさい・宮南みやなみ、書家)　Ｉ１９８８
退蔵(たいぞう・井上)　→　*赤水*(せきすい、井上/修姓;井、儒者)　Ｋ２４２３
退蔵(たいぞう・松崎)　→　*慊堂*(こうどう・松崎まつざき、儒者)　１９１７
退蔵(泰蔵たいぞう・太田)→　*熊山*(ゆうざん・太田おおた、藩儒/詩人)　Ｃ４６００
退蔵(たいぞう・田代/長川)→　*東洲*(とうしゅう・長川、儒者/教育)　Ｅ３１９８
退蔵(たいぞう・木原)　→　*俊徳*(としのり・木原きはら、歌人)　Ｕ３１９２
退蔵(たいぞう・松岡)　→　*蘆堤*(ろてい・松岡まつおか、儒者/教育)　Ｃ５２１８
退蔵(たいぞう・池内)　→　*奉時*(まさとき・池内いけうち、医/漢学/尊攘)Ｅ４０４０
退蔵(たいぞう・河鰭)　→　*省斎*(せいさい・河鰭かわばた、藩儒)　Ｂ２４６４
退蔵(たいぞう・室田)　→　*謙*(ゆずる・室田むろた/泉せん、医者/国学)　Ｇ４６９６
退蔵(たいぞう・南部)　→　*広矛*(ひろほこ・南部なんぶ、藩士/歌人)　Ｋ３７５２
退蔵(たいぞう・巻)　→　*密*(ひそか・前嶋/前島、諸学/郵便制度)Ｃ３７５５

退蔵(たいぞう・志賀)　→　*巽軒*(そんけん・志賀/杉森、藩儒/教育)　Ｅ２５７８
退蔵(たいぞう・関)　→　*良致*(よしむね・関せき、医者/神職/教育)　Ｎ４７５６
鯛蔵(たいぞう・坂東、役者名)→　*俵蔵*(2世ひょうぞう・勝、歌舞伎作者)　Ｆ３７３１
鯛蔵(たいぞう・吉川きっかわ)→　*国直*(初世くになお・歌川うたがわ、絵師)　１７７９
泰蔵(たいぞう・川治)　→　*南山*(なんざん・川治かわじ、儒者/詩)　Ｊ３２１１
泰蔵(たいぞう・沢田)　→　*英*(えい/さかる・沢田さわだ、藩士/儒者)　Ｃ１３４４
泰蔵(たいぞう・小阪)　→　*北嵩*(ほくすう・小阪/郷、儒者/詩)　Ｄ３９５２
泰蔵(たいぞう・中林)　→　*竹洞*(ちくどう・中林なかばやし、絵師/詩歌)　Ｄ２８６０
泰蔵(たいぞう・恒川)　→　*樸巖*(ぼくがん・恒川つねかわ、藩士/儒者)　Ｄ３９００
泰蔵(たいぞう・福井)　→　*松山*(しょうざん・福井/佐藤、儒者/兵法家)　Ｊ２２２２
泰蔵(大蔵たいぞう・伊藤)→　*臨皐*(りんこう・伊藤いとう、儒者)　Ｋ４９２５
泰蔵(たいぞう・有元)　→　*淵竜*(えんりゅう・有元ありもと、医者/俳人)　Ｆ１３４７
泰蔵(たいぞう・安藝)　→　*文江*(ぶんこう・安藝あき、材木商/俳人)　Ｆ３８１８
泰蔵(たいぞう・高橋)　→　*惟政*(これまさ・高橋たかはし、庄屋/歌人)　Ｑ１９９７
泰蔵(たいぞう・中山)　→　*千鶴*(ちづる・中山なかやま、商家/歌人/書)　Ｎ２８１８
泰蔵(たいぞう・名越)　→　*時行*(ときゆき・名越なごや/なごえ、民俗研究)　Ｋ３１２９
泰造(たいぞう・中川)　→　*狂言堂*(きょうげんどう・近松、浄瑠璃/図会/雑俳)　Ｎ１６６７
台蔵(たいぞう・藤森)　→　*信道*(のぶみち・藤森、和算家)　Ｄ３５４１

K2656 **大倉**(だいそう・遠藤えんどう)1717-1789*73歳*　岩代安達郡本宮の医者;松本雲東門、二本松藩侍医、詩歌/俳諧、井上金峨・滝鶴台らと交流、1780「麻疹一呛」著、
［大倉(;号)の字/通称/別号］字;説夫、通称;雲沢、別号;千里、法号;暁雲院

大壮(だいそう・田中)　→　*履堂*(りどう・田中たなか/青山、儒/講説)　Ｃ４９３２
大惣(だいそう)　→　*惣八*(そうはち・大野屋、貸本屋)　Ｃ２５７４

B2682 **大三**(だいぞう・大倉おおくら、号;大庵/一瓢軒)?-?天保1830-44頃没　江戸後期京の歌人、1837歌学歌集「大菴だいあん窓の塵」著

大蔵(だいぞう・木下)　→　*長嘯子*(ちょうしょうし・木下/豊臣、武将/歌)　２８２３
大蔵(題蔵だいぞう・坂根/桃)→　*白鹿*(はくろく・桃もも/とう・桃井もものい、儒者)　Ｅ３６１９
大蔵(だいぞう・本多)　→　*忠籌*(ただかず・本多ほんだ、藩主/改革)　Ｐ２６３０
大蔵(だいぞう・升屋)　→　*大梁*(だいりょう・増谷ますや/増舎、書肆/浮世草子)　Ｃ２６３４
大蔵(だいぞう・山田)　→　*鼎石*(貞石ていせき・山田/山、詩人)　Ｂ３０３４
大蔵(だいぞう・橋村)　→　*正甫*(まさなみ・橋村/度会/村山、神職)　Ｒ４０７１
大蔵(だいぞう・橋村)　→　*正衛*(まさえ・橋村/度会、神職/書)　Ｂ４０３５
大蔵(だいぞう・築山)　→　*通明*(みちあき・築山つきやま、藩士/故実家)　Ｂ４１０９
大蔵(だいぞう・田中)　→　*履堂*(りどう・田中たなか/青山、儒/講説)　Ｃ４９３２
大蔵(だいぞう・飯田)　→　*正房*(まさふさ・飯田いいだ/源、神職/国学)　Ｎ４０５０
大蔵(だいぞう・蒲原)　→　*十九*(じっく・一編舎いっぺんしゃ、藩士/戯作者)　Ｅ２１８１
大蔵(だいぞう・桃)　→　*好裕*(よしひろ・桃もも/杉、儒/和学/歌)　Ｐ４７６２
大蔵(題蔵だいぞう・桃井)→　*翠庵*(すいあん・桃井/桃/坂根、藩儒/詩)　２３２０
大造(だいぞう・谷口)　→　*渭陽*(いよう・谷口たにぐち、儒者/詩人)　Ｉ１１３５
代蔵(だいぞう・福田)　→　*貞斎*(ていさい・福田/井上、儒者/詩)　３０８１
大草園(だいそうえん)　→　*鳥岳*(ちょうがく・熊井、俳人)　Ｈ２８６７
大艸園(だいそうえん)　→　*文海*(ぶんかい・熊井くまい、俳人)　Ｅ３８９０

K2657 **大象軒**(たいぞうけん・杉山すぎやま、名;当太まさと、二本松藩士吉周男)1677-1750*74*　母;石山真道女、江戸に出て1705幕府の与力、兵法;菅生六左衛門・山鹿高基門、山鹿流兵法学を受ける、眞心流を創始;剣術槍術居合柔術に精通、1719磐城三春藩主に招聘され山鹿流学統を伝授、侍用三全集」「鎗術麓草」「眞心流素鎗制作」「山本勘介流兵学道統之伝書」外著多数、
［大象軒(:号)の字/通称］字;大陸/大六、通称;勘右衛門/治大夫/治左衛門

戴藻舎(たいそうしゃ)　→　*北秀*(ほくしゅう・葛飾かつしか、絵師)　Ｄ３９４１
大宗性統禅師(たいそうしょうとうぜんじ)→　*竜渓*(りょうけい;道号・性潜、黄檗僧)　Ｈ４９２１
太痩生(たいそうせい)　→　*一庵*(いちあん・高橋たかはし、儒者)　Ｆ１１９５

大痩堂(だいそうどう)　→　*橘庵*(きつあん・田宮たみや、戯作者/随筆)　Ｉ１６６４
大束(だいそく、俳名)　→　*宗七*(そうしち・本屋ほんや、歌舞伎作者)　Ｆ２５１７
泰足(たいそく・村田)　→　*泰足*(安足やすたり・村田むらた、藩士/国学)Ｂ４５９６
大足軒(だいそくけん)　→　*長松*(ながまつ・滋岡しげおか、連歌)　Ｆ３２８２
太素軒(たいそけん)　→　*鉄翁*(てっとう・;道号・祖門そもん;法諱、臨済画僧)Ｆ３０１６
大祖正眼禅師(だいそせいがんぜんじ)→　*徹翁*(てっとう;道号・義亨、臨済僧)Ｅ３０７６
大体(だいたい・青木)　→　*北海*(ほっかい・青木/殿岡、和漢学者)　Ｅ３９５３
枕々庵(だいだいあん)　→　*乙州*(おとくに・川井・河合、俳人)　１４８９
大沢(だいたく)　→　*広通*(ひろみち・石野、幕臣/歌人)　Ｈ３７２７
大沢(だいたく・藪)　→　*孤山*(こざん・藪やぶ、藩士/儒者/詩文)　Ｃ１９６８
大宅女(だいたくじょ→おおやけめ)→　*大宅女*(おおやけめ、万葉歌人)　１４６７
大脱像雲(だいだつぞううん;号)→　*実巌*(じつがん;道号・照海;法諱、曹洞僧)Ｕ２１５６
大太郎(だいたろう・江村/清田)→　*公績*(こうせき・清田せいた、藩儒/詩人)Ｆ１９２２
大太郎(だいたろう・小野)　→　*顕駿*(あきとし・小野おの、国学者)　Ｈ１０１６
B2683 **泰湛**(たいたん)　？－　？　連歌、1518?肖柏亭「池田千句」参
太一(たいち・石川太乙)　→　*金谷*(きんこく・石川いしかわ、儒者)　Ｉ１６９７
太一(たいち・加藤猪吉)　→　*如禅道人*(にょぜんどうじん、浄土僧/書画)　Ｇ３３０５
太一(太市たいち・山本)　→　*荷兮*(かけい・山本、俳人/連歌)　１５１０
太一(たいち・樋口)　→　*義所*(ぎしょ・樋口ひぐち、藩士/儒者)　Ｆ１６５２
太一(たいち・村瀬泰乙/泰一)→太乙(たいいつ/たいおつ・村瀬、藩士/儒者)Ｂ２６０３
太一(たいち・赤沢太乙)→　一堂(いちどう・赤沢あかざわ、儒者/詩人)　Ｅ１１１５
太一(たいち・津田/田)　→　*養*(よう・津田つだ/修姓;田、医者/俳人)４７５３
太一(たいち・飯田)　→　*篤老*(とくろう/あつおい・飯田、医者/俳人)　Ｌ３１６２
太一(たいち・原田)　→　*正貞*(まささだ・原田はらだ、医者/詩人)　Ｒ４０９９
太一(たいち・永沢)　→　*躬国*(みくに・永沢ながさわ、歌人)　４１８０
太一(たいち・近藤)　→　*至邦*(むねくに・近藤こんどう、国学者/歌人)Ｄ４２８４
他市(たいち・丸橋屋)　→　*春満*(はるまろ・平林ひらばやし、商家/国学)　Ｋ３６７２
B2685 **大智**(だいち;法諱・祖継?)1290-1366*77*　肥後宇土郡長崎の曹洞僧;1296(7歳)出家;寒巌義尹門、建長寺南浦紹明・加賀の瑩山紹瑾門、1314-24入元、明峰素哲の法嗣、加賀祇陀寺開山、肥後広福寺開山/水月庵に退隠、「無尽集」「十二時法語」「逸偈録」「大智禅師法語」著、「大智禅師偈頌」(侍者光厳こうげん編)、1336「覚阿上人に与ふる法語」(祖継)
祖継と同一?　→　*祖継*(素渓そけい;道号・大智;法諱)　Ｄ２５６０
K2658 **大癡**(大痴だいち;道号・堅諄/堅淳/賢淳けんじゅん;法諱)1485-1552　伊勢の臨済僧;載之徳輿門/嗣法、東福寺210世、「法語」著
K2659 **大智**(だいち;道号・元極げんきょく;法諱)?-?　江中期黄檗僧;黙堂道轟門/1707嗣法、「黙堂禅師語録」編
大智(だいち;法名)　→　*政家*(まさいえ・近衛/藤原、関白/日記/歌)Ｂ４０２９
大痴(だいち;号)　→　*鉄文*(てつもん:道号・道智、黄檗僧)　Ｃ３０６５
大痴(だいち;号)　→　*克譲*(こくじょう;法諱、真宗僧)　Ｃ１９３６
大痴(だいち;字)　→*鳳鳴閣思文*(ほうめいかくしぶん、天台僧/狂歌)Ｃ３９５８
大智院(だいちいん)　→　*徳霖*(とくりん・大智院、真宗大谷派僧)　Ｌ３１６０
大智院(だいちいん)　→　*円識*(えんしき;法諱、本願寺派僧)　Ｅ１３８２
大智院(だいちいん)　→　*近禎*(ちかよし・松平まつだいら、藩主/歌人)　Ｎ２８８４
大智院(だいちいん)　→　*信充*(のぶみつ・松平まつだいら/藤原、藩主/歌)Ｇ３５６２
大智円応禅師(だいちえんおうぜんし)→*祖応*(そおう;法諱・夢巌;道号、臨済僧)Ｄ２５３７
太竹(たいちく・森川)　→　*百親*(ももちか・森川もりかわ、医者/歌人)　Ｌ４４７２
対竹(たいちく・田川)　→　*鳳朗*(ほうろう・田川たがわ/永井、俳人)　３９５８
対竹斎(たいちくさい)　→　*章夫*(しょうふ・山本、本草家/写生画)　Ｌ２２４６
大痴軒主人(だいちけんしゅじん)→*拙谷*(せっこく・矢尾板やおいた、藩医/儒者)Ｋ２４９０
大痴大夫(だいちたいふ)　→　*春庵*(しゅんあん・江嵜えばた/田口、藩士/儒/医)２１９７

太市兵衛(たいちべえ・山室)→ *明則*(あきのり・山室やまむろ/白井、藩士/歌) Ｉ １０７１
大智房(だいちぼう) → *基舜*(きしゅん;法諱、真言僧) Ｋ１６８４
K2660 **太仲**(たいちゅう・宮地みやじ、初名;簡、号;果仙、文仲男)1769-1842*74* 土佐安藝郡田野の医:岡澹斎門、経書;篠崎小竹門/俳諧;双松庵の舎頭、農学者、藩に呼ばれ診療;1827御目見御免;直支配、書画/茶道も嗜む、1840「農家須知」(土佐初の農書)著、
K2661 **太冲**(たいちゅう・滝川たきがわ、名;善、雲石男)1804-68*65歳* 上州前橋の医者:原南陽門、1831磐城泉藩首松平積翠の侍医:教授兼任、水戸藩騒乱の際勤王の士を救護、楠木正成研究、「藺郊雑録」「仰止録」著、
[太冲(;通称)の字/号]字:士潤、 号;鮫水
K2662 **泰仲**(たいちゅう・草鹿くさか、名;璋/朝璋、玄竜男)1834-67*34* 代々加賀大聖寺藩医;父門/三角東圃門、儒;東方芝山門、詩文:巽遜斎門・池内陶所・家里松嶠門、昌平黌で塩谷宕陰門、明画/書、11856「家里松島文会録」著、
[泰仲(;通称)の字/号]字;公裳、 号;蓮浦/一峰/睡仏斎/天爵楼
袋中(たいちゅう・弁蓮社) → *良定*(りょうじょう;法諱、浄土僧/琉球に布教) ４９１８
太中(たいちゅう・安見) → *晩山*(ばんざん・安見やすみ、幕府儒官) Ｈ３６８６
太中(たいちゅう・若月) → *大野*(だいや;号・若月わかつき、藩士/儒者) Ｌ２６１０
太中(たいちゅう・菅波/菅)→ *茶山*(ちゃざん・菅/菅波、儒/詩/教育者) ２８４０
太中(たいちゅう・蔵田) → *茂樹*(しげき・蔵田/藤原、役人/歌人) Ｑ２１９１
太中(たいちゅう・大場) → *重光*(しげみつ・大場おおば/藤原、神職/歌) Ｎ２１８１
太冲(たいちゅう・亘理) → *往斎*(おうさい・亘理わたり、兵学者) Ｃ１４４０
太冲(たいちゅう・畑中) → *荷澤*(かたく・畑中、藩儒/詩歌) Ｃ１５３２
太冲(太仲たいちゅう・後藤)→ *梨春*(梨春りしゅん・後藤/多田、蘭学/本草/談義本) Ｂ４９２３
太冲(太仲たいちゅう・大竹/岳)→ *東海*(とうかい・大竹/浅井/岳、儒者) Ｂ３１８９
太冲(太仲たいちゅう・香川)→ *修庵*(秀庵しゅうあん・香川、医;古医方) Ｇ２１７８
太冲(たいちゅう・箕浦) → *節山*(せつざん・箕浦みのうら、藩士/儒者) Ｌ２４０６
太沖(たいちゅう・油井) → *牧山*(ぼくざん・油井ゆい、藩儒/詩人) Ｄ３９２８
太沖(たいちゅう・長島) → *千秋*(ちあき・長島ながしま、歌人) Ｎ２８２２
太沖(たいちゅう・西村) → *太中*(たちゅう、西村、暦算家) Ｒ２６４８
太仲(たいちゅう・松村) → *太中*(たちゅう、松村、蘭学/翻訳) Ｒ２６５０
太仲(たいちゅう・山本) → *南陽*(なんよう・山本、儒者) Ｊ３２６０
太仲(たいちゅう・岡部/岡)→ *白駒*(はっく・岡部/修姓;岡、儒/語学) ３６２１
太仲(たいちゅう・臼杵) → *鹿垣*(ろくえん・臼杵うすき、藩儒/詩文) ５２７７
太仲(たいちゅう・近藤/藤井)→*晋流*(晋柳しんりゅう・藤井/近藤、商家/俳人) ２２９１
太仲(たいちゅう・東条) → *直記*(なおのり・東条とうじょう、神職) Ｎ３２９６
太仲(たいちゅう・司馬) → *凌海*(りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学) Ｇ４９８２
太仲(たいちゅう・大江) → *有邦*(ありくに・大江おおえ、医者;種痘/歌) Ｈ１０２０
太仲(たいちゅう・三浦) → *尚之*(ひさゆき・三浦みうら、藩侍医/国学) Ｌ３７３０
太忠(たいちゅう・野村/三河口)→*輝昌*(てるまさ・三河口、幕臣/代官/日記) Ｃ３０９３
太忠(たいちゅう・福田) → *宗禎*(そうてい・福田ふくだ、蘭医者) Ｉ２５５２
太狆(太中たいちゅう・満山)→ *雷夏*(らいか・満山みつやま、藩儒;教育者) ４８２４
泰中(泰仲/泰沖たいちゅう・和田)→ *哲*(てつ・和田わだ/中村、医者) Ｃ３０１２
K2663 **大虫**(だいちゅう;道号・宗岑そうしん;法諱、号;一鷗子)?-1600 臨済僧;江南殊栄門/法嗣、1563常陸小田の巣月院住持、磐城常陸会津下総下野等の諸寺住寺、北関東の五山派寺院の多くをを妙心寺派下関山派に転派させた、「大虫岑和尚語集」著
B2686 **大蟲**(だいちゅう・池永) ？－1870/72説あり 江戸俳人;大梅門、「芭蕉真蹟拾遺」「芭蕉翁年譜」著、
[大蟲の別号] 藻魚庵/無弦、 法号;無弦大蟲居士
大鋳(だいちゅう・山脇) → *東門*(とうもん・山脇、医者/俳) Ｈ３１４３
大虫(だいちゅう) → *水簾*(すいれん;号、俳人) Ｆ２３１８
大虫(だいちゅう・石尾) → *洋方*(ひろかた・石尾いしお/荒木、藩士/歌) Ｌ３７１８
大忠(だいちゅう・渋谷) → *桂窓*(けいそう・石山いしやま、僧/歌人) Ｎ１８６０

大忠(だいちゅう・稲束)　→　*嘉包*(よしかね・稲束いなづか、商家/記録)　Ｌ４７６０
大沖(だいちゅう・依田)　→　*正純*(まさずみ・依田よだ、国学/歌人)　Ｐ４０５２
太中庵(たいちゅうあん)　→　*畝波*(ぼうは、俳人)　Ｃ３９４８
太中庵(たいちゅうあん)　→　*彫波*(ちょうは、俳人)　Ｊ２８６７
大中庵(だいちゅうあん)　→　*立志*(5世りゅうし・関せき、俳人)　Ｅ４９４１
大中院(だいちゅういん)　→　*日孝*(にちこう;法諱・慈忍、日蓮僧)　Ｂ３３８１
泰忠先生(たいちゅうせんせい)→　*衡岳*(こうがく・菊池、藩儒/詩人)　１９８５
太仲太(たいちゅうたい・原田)→　*君熙*(くんき・原田はらだ、和算家)　Ｄ１７６１
大中道人(だいちゅうどうじん)→　*万*(よろづ・生田いくた、藩士/国学/救民)　４７４２
大猪(だいちょ・和田)　→　*大猪*(おおい・和田わだ、神職/国学者)　Ｅ１４２６

B2687 **大町**(たいちょう・中西)　？－1728　江戸大川端の富商/俳人・其角門、弄石家、
1701「涼み石」編(版下は其角)、大梅の父、
[大町(;号)の通称/別号]通称;伊勢屋七郎兵衛/七兵衛、別号;腥鳶子

K2664 **大朝**(たいちょう・中野)　？－1778　尾張犬山城主成瀬家の家臣/のち僧;音羽山に草庵結、
俳人;馬州門、「卯の花の初音」「かたみ不二」「萩陰斎句集」著、
[大朝(;号)の通称/別号]通称;定蔵、別号;萩陰斎しゅういんさい

泰朝(たいちょう)　すべて　→　*泰朝*(やすとも)
泰長(たいちょう・氷室)　→　*泰長*(やすなが・氷室ひむろ、神職/歌人)　Ｇ４５４６
泰長(たいちょう・宍戸)　→　*泰長*(やすなが・宍戸ししど、国学者)　Ｆ４５９８
太朝(たいちょう・藤)　→　*広則*(ひろのり・藤とう/藤原、暦算家)　Ｇ３７８８

B2688 **大潮**(だいちょう;道号・元皓げんこう;法諱、俗姓諫早いさはや)1678-1768*91*　肥前松浦の黄檗僧;化霖道竜門、
古文辞学;徂徠門/護園けんえん派の人々と交流、1723肥前竜津寺3世、詩文/中国語に精通、
1728「松浦詩集」/44「魚寮詩偈」「魚寮文集」61「魚寮尺牘集」、「瓊浦遊草」「西溟余稿」外著多、
[大潮元皓の号]　魚寮/月枝/西溟

対潮庵(たいちょうあん)　→　*花嬌*(かきょう・織本園その、俳人)　Ｊ１５３４
兌長老(たいちょうろう)　→　*承兌*(じょうたい;法諱・西笑;道号、臨済僧/詩文)Ｕ２２０８
大直(だいちょく・松田)　→　*大直*(もとなお・松田まつだ、神道/国学)　Ｌ４４３８

K2665 **多一郎**(たいちろう・高橋たかはし、名;愛諸ちかゆき、諸往男)1814-60自刃*47歳*　水戸藩士;国友善庵門/
藩主斉昭宥免のため奔走;1844禁錮/1849復職;寺社奉行/奥右筆、尊攘運動に没頭、
井伊直弼襲撃の首謀者;桜田門外変後四天王寺で幕官に追われ息子諸徳と自刃、
1844「遠近橋」、「高橋愛諸詩」「信越遊草」「東奥遊記」「両毛紀遊」、58「高橋愛諸意見書」著、
[多一郎(;通称)の字/号]字;敬卿けいきょう、号;柚門ゆうもん/水哉堂/幽竹窓、
変名;磯辺三郎兵衛

多一郎(太一郎たいちろう・赤沢)→　一堂(いちどう・赤沢あかざわ、儒者/詩)Ｅ１１１５
多一郎(たいちろう・川村)　→　*長賜*(ながやす・川村かわむら/源、国学者)　Ｌ３２７１
太一郎(たいちろう・大塚)　→　*観瀾*(かんらん・大塚おおつか、藩士/儒者)　Ｈ１５７５
太一郎(たいちろう・樋口)　→　*義所*(ぎしょ・樋口ひぐち、藩士/儒者)　Ｆ１６５２
太一郎(たいちろう・松本)　→　*古堂*(こどう・松本、儒者/勤王)　Ｄ１９４３
太一郎(たいちろう・宇津木)→　*昆台*(こんだい・宇津木[-城]/于、医者)　Ｇ１９５９
太一郎(たいちろう・仁科;変名)→　*台山*(たいざん・勝野かつの、勤王家)　Ｋ２６０９
他一郎(たいちろう・神尾)　→　*良忠*(よしただ・神尾かみお、藩士/歌)　Ｍ４７２９

K2666 **大椿**(たいちん・石川いしかわ、名;広亮、広豊男、母;田伏喜兵衛女)1736-99*64*　秋田藩士/儒者、
1751大番組、1767家督相続、詩人、「鶴鳴館詩稿」「論語同義伝」「天台詩稿」著、
[大椿(;号)の通称/別号]通称;勇太/直右衛門/兵左衛門、別号;天台

大椿(たいちん・人見)　→　*雪江*(せっこう・人見、幕臣/儒者/詩)　Ｋ２４８８
泰珍(たいちん・沢田/中川)→　*経林*(つねしげ・中川/荒木田/沢田、神職)Ｃ２９２３

K2667 **大珍**(だいちん;道号・彭僊ほうせん;法諱)1748-1820*73*　三河橋尾の曹洞僧;出雲桐岳寺14世大洲豊仙門、
三河吉田の竜拈寺26世、1817「法界或問止啼銭」著、20「地蔵尊詠歌」編

大椿翁(だいちんおう)　→　*百年*(ひゃくねん・鈴木すずき、絵師)　Ｅ３７７３

大椿堂(だいちんどう)　→　*正直*(まさなお・太田おおた、藩家老/歌人)　Ｏ４０４９
大椿堂(だいちんどう)　→　*真*(まこと・田中たなか、神道家)　Ｑ４０５６
泰通(たいつう・藤原)　→　*泰通*(やすみち・藤原ふじわら、廷臣/歌)　Ｄ４５０３
泰通(たいつう・神保)　→　*泰和*(やすかず・神保じんぼ、和算/地誌家)　Ｂ４５１１
泰通(たいつう・山方)　→　*泰通*(やすみち・山方やまがた、藩士/歌人)　Ｄ４５０８

K2668 **大通**(だいつう;道号・沢舟たくしゅう;法諱、号;智勝、俗姓白石)1644-1715*72* 常陸茨城筥田郷曹洞僧;
1657(14歳)富峰山入;出家;月堂恵明門/甲斐広厳院養屋純孝門;嗣法、諸国遍歴、
1675甲斐山梨の景徳院住寺/89広厳院住持、八代郡普門院退隠、「広厳大通禅師譫語集」著

大通(だいつう;字)　→　*融観*(ゆうかん;法諱、;融通念仏僧)　Ｂ４６０６
大通(だいつう;道号)　→　*宗達*(そうたつ;法諱・津田、豪商/茶人)　Ｃ２５４３
大通庵(だいつうあん・戯場)→　*戯場大通庵*(しばいだいつうあん、役者論)　Ｆ２１１２
泰通院(たいつういん)　→　*義教*(ぎきょう;法諱・了翁、真宗僧)　Ｊ１６９４
大通院(だいつういん)　→　*頼俊*(らいしゅん、社僧/歌人)　４８６１
大通院(だいつういん)　→　*高次*(たかつぐ・藤堂とうどう、藩主/文学)　Ｍ２６２６
大通院(だいつういん)　→　*義順*(ぎじゅん;法諱、真宗僧)　Ｋ１６８８
大通館(だいつうかん)　→　*台洲*(たいしゅう・熊坂くまさか、儒者/教育)　２６０５
大通禅師(だいつうぜんじ;諡号)→*子曇*(しどん/すどん;法諱・西澗;道号、渡来臨済僧)Ｆ２１３５
大通智勝国師(だいつうちしょうこくし)→*紹喜*(じょうき;法諱・快川かいせん;道号、臨済僧)Ｈ２２９５
大通文智(だいつうぶんち)　→　*文智女王*(ぶんちじょおう、歌人)　Ｇ３８１４

K2669 **大鼎**(たいてい;道号・禅圭ぜんけい;法諱、定水湛然たんねん禅師)?-?　江中期江戸臨済僧:伊予逸山祖仁門、
のち石霜慧譚門、江戸牛込の済松寺住、「正眼国師逸事状」編

B2681 **大鼎**(たいてい・蔡さい)　？－　？　琉球漢詩人;1848「漏刻楼集」73「北燕遊草」、
1873「閩山びんざん遊草」、84「北上雑記」「欽思堂詩文集」著

大禘(たいてい・池田)　→　*長発*(ながおき・池田いけだ、幕臣/文筆)　Ｄ３２３４
泰貞(たいてい・源)　→　*泰貞*(やすさだ・源みなもと、詩歌人)　Ｂ４５５５
大汀(だいてい・神戸)　→　*大汀*(おおはま・神戸かんべ、藩士/国学/歌)　Ｄ１４９１
泰定広済禅師(たいていこうさいぜんじ;諡号)→　*智明*(ちみょう・ちみん;法諱・蒙山;道号、臨済僧)Ｆ２８４３
大堤道(だいていどう)　→　*凹居士*(おうこじ・洒落本)　Ｂ１４６６

K2670 **大鉄**(だいてつ;法諱)　？－1829or31　越前の真宗大谷派蓮光寺住職/高倉学寮寮司、
1820学寮の擬講、「一枚起請水乳辨」著

K2671 **大徹**(だいてつ;道号・仁応にんのう;法諱)?-?　江後期信州の曹洞僧:元室大祐門/法嗣、
信州更科郡岡田村の玄峰院18世、1862刊「釈書百詠」、「海印余光」著

大徹(だいてつ;道号)　→　*宗令*(そうりょう/そうれい;法諱・大徹、曹洞僧)Ｄ２５１６
大徹正源禅師(だいてつしょうげんぜんじ)→*棠林*(とうりん;道号・宗寿、臨済僧)Ｉ３１４０
大徹明応禅師(だいてつみょうおうぜんじ)→　*宗璠*(そうはん・玉舟、臨済僧)　Ｉ２５７４

B2690 **大典**(だいてん;号、梅荘ばいそう;道号・顕常けんじょう;法諱、今堀東安男/実は園基勝男)1719-1801*83歳*
近江伊庭の僧;1728(10歳)宇治の黄檗宗万福寺入/29臨済宗相国寺慈雲庵の慈秀独峰門、
1772相国寺慈雲庵主/77相国寺114世/81幕府の朝鮮修文職;2年間対馬以酊庵滞在、
儒;宇野明霞門、詩;「昨非集」「北禅詩草」「唐詩集註」、国史;「皇朝事苑」「柿本人丸事蹟考」、
記録「平安鬱文談」、「小雲棲稿」「小雲棲詩書鈔説」「俗語字訓」「朝鮮小記」「北禅法語」外著多、
[釈大典(;号)の別号]東湖/淡海/竺常/蕉中/不生主人/小雲棲居/自牧斎/北禅書院

K2672 **大顛**(だいてん;道号・梵千ぼんせん;法諱)1629-85*57* 美濃の臨済僧:甘棠印岫雲玄端門/法嗣、
伊豆の浄因寺・長勝寺・国清寺住寺/1676円覚寺164世、俳諧/漢学/詩文、其角・自悦の師、
1666刊「四六文章図」編、
[大顛梵千の別法諱/号]別法諱;梵通、 号;幻吁

K2673 **大巔**(だいてん;道号・性愚しょうぐ;法諱)?-?　江中期京の曹洞僧;湛堂円澄門/法嗣、
京の慈眼寺6世、「雪竇**明**覚せっとうみょうかく禅師語録転字輪」著

K2674 **大巔**(だいてん;道号・宗碩そうせき;法諱)1735-98*64* 武州の臨済僧;渋谷祥雲寺香林院の東天門;出家、
麻布天眞院の実門の侍者/月船禅慧の印可を受;天眞院住持、松江藩主松平治郷の禅の師、
1799禅師号、1790「捃拾録」編/「沢庵和尚一円相」注、

［大巓宗碩の号］　号；山庵、諡号；眞定良鑑禅師
大椽（だいてん・松本）　→　*交山*（こうざん・松本/上条、茶屋/絵師）　Ｊ１９３１
台天（だいてん・鶴見）　→　*園女*（そのめ/そのじょ・鶴見つるみ、俳人）　Ｋ２５３０
大伝（だいでん・司馬）　→　*凌海*（りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学）Ｇ４９８２
大伝（だいでん・島）　→　*弘通*（こうつう・島しま/中島、浄土僧/歌）　Ｑ１９９２
大天法印（だいてんほういん）　→　*禅覚*（ぜんかく；法諱・五智房、天台僧）　Ｌ２４９７

B2691 **戴斗**（2世たいと・葛飾、姓；近藤/本姓；藤原、名；文雄）?-?　江後期1818-54頃但馬豊岡藩士、
江戸上野山下住/麹町平河町住の絵師：北斎門、文化1804-18頃戴斗号を師から7両で譲受、
篆書に長ず、絵本・挿絵本が多い、1820「昔語茨の露」22「絵本二十四孝」24「英雄図絵」画、
1835「万職図考」36-43「絵本通俗三国志」画/48-49「花鳥画伝」、「稿本庭訓往来」著、
［葛飾戴斗2世の通称/別号］通称；伴右衛門、　別号；斗円楼北泉/洞庭/洞庭舎/昇山、
玄竜斎/米華斎/米華山人/米華道人/野竹/閑観翁、　屋号；亀屋、　葛飾北涯の父
戴斗（初世たいと・葛飾/1845「画本柳樽」7編以後画）→*北斎*（ほくさい・葛飾、絵師）３９６２
泰都（たいと→やすさと・加藤）→　*文麗*（ぶんれい・加藤かとう、幕臣/絵師）　Ｇ３８８０

B2692 **台斗**（だいと）　？－　？　俳人、1784吾山「朱紫あけむらさき」序
大度（だいど・菊池）　→　*巻石*（けんせき・菊池きくち、藩士）　Ｋ１８４７
泰統（たいとう・加藤）　→　*泰統*（やすむね・加藤かとう、藩主/歌人）　Ｆ４５６９

B2693 **泰道**（たいどう・林はやし）　？－　？　江中期江戸座金羅の俳人：柳尾門、
1775「安永犬筑波：春部」編
［泰道の別号］　了雲坊/屯侯斎/茄廬山人

K2676 **泰道**（たいどう；法諱）　？－　？　江中期近江葛川の天台宗観音院住僧、
「最略護摩秘法」著

K2677 **退堂**（たいどう・森もり、名；嵩）?-1821　京の儒者；亀井南冥・井上四明門、
1793伊達村芳に招聘；伊予吉田藩に出仕/94藩校時観堂創設に参画/儒官として教授、
1818太刀格/20小姓頭、詩文・書・俳諧を嗜む、1793「自怡堂詩稿」編/1817「藤蔓延年譜」著、
［退堂（；号）の字/通称/別号］字；峻夫、　通称；峻蔵、　別号；華山/雨外、　秋水の父

K2678 **泰堂**（たいどう・小川おがわ、名；孝栄、天祐男）1814-7865 相模藤沢の医者；父門/長崎修学、
1836江戸で医を開業、日蓮の研究；日治・日教・日妙門、
1865「高祖遺文録」校（15年を費し遺文の全面校訂）、
1839「曲林一斧」48「花之旅寝」61「登波須加多利」、「鎌倉忍草」「観海漫録」「我棲里」外著多、
［泰道（；通称）の幼名/号］幼名；泰二郎、　号；泰安/泰山
泰道（たいどう；法諱）　→　*心阿*（しんあ；号・泰道、時宗僧/俳人）　Ｎ２２２７
泰道（たいどう→やすみち・山県）→　*東原*（とうげん・山県やまがた、藩士/儒者）Ｄ３１４６
泰堂（たいどう）　→　*元政*（げんせい、日政、日蓮僧/詩歌）　１８２３
体道（たいどう；号）　→　*天真親王*（てんしんしんのう、輪王寺門跡）　Ｄ３０９１
退堂（たいどう；字）　→　*善悦*（ぜんえつ；法諱・退堂、浄土僧）　Ｌ２４７２
退道（たいどう・黒田）　→　*倫忠*（のりただ・黒田/樽井、藩士/故実）　Ｅ３５９６
耐堂（たいどう・深田）　→　*康守*（やすもり・深田ふかだ、藩士/国学）　Ｇ４５５０
諦道（たいどう）　→　*智幢*（ちどう；法諱、真宗僧/詩文）　Ｅ２８９５

K2679 **大洞**（大同/大投だいとう；道号・正桃しょうとう；法諱）?-1605　越後の曹洞僧；梅翁正嶺門/法嗣、
美濃竜泰寺11世、1572「祥雲山竜泰禅寺略記」著

K2680 **大棟**（だいとう；道号・法本ほうほん；法諱）?-1839　播磨の曹洞宗正禅寺11世/長門功山寺29世、
「燃犀録」著（1846刊）
大濤（だいとう・慈潮；法諱）→　*慈潮*（じちょう・円照寺、真宗本願寺派僧）Ｅ２１６４

K2681 **大道**（だいどう；道号・一以いちい；法諱、俗姓；平）1292-137079　出雲島根の天台僧；叡山修業/受戒、
臨済宗に転向：備前光明院の蔵山順空門/嗣法、約翁徳倹/一山一寧/虎関師錬門、
夢窓疎石の命で1342阿波の補陀寺住持、阿波の棲賢寺（安国寺）開山/56東福寺28世、
南禅寺31世/淡路安国寺退隠、「大道和尚語録」/1370「赤肉団」/「普門院経論章等書目編」著

K2682 **大道**（だいどう；道号・文可ぶんか；法諱、白川四郎左衛門男）1680-175273　武州堀田村の人、
1698（19歳）大井村本浄院で出家/黄檗僧潮音道海門/臨済僧；節外祖貞・霊源周蔭門、

豊後多福寺賢巖禅悦門/印可を受、1720丹波法常寺住持、59禅師号;実相無相禅師
1754「大道和尚法語」著

K2683 **大同**(だいどう:法諱・玄瀾げんかい;号)1731-86*56歳* 筑前甘木の真宗本願寺派教法寺住職;僧樸門、筑前派の祖、真宗律と称された/詩人;亀井南冥門、「玄瀾げんかい余稿」「東遊漫録」「雑草録」、「改悔文要義録」「自警録」「陳善院僧樸年譜」「領解文要義編叙」「瓊浦草自警録」著

K2684 **大道**(だいどう;法諱) ? - ? 江中期浄土僧;大我門、1779大我「蓮葉和歌集」編序

大道(だいどう・佐藤) → *一斎*(いっさい・佐藤、儒者) １１２２
大道(だいどう・佐瀬/葦名)→ *主計*(かずえ・佐瀬させ/させ、藩家老/狂歌)Ｍ１５０９
大道(だいどう・和気) → *柳斎*(りゅうさい・和気わけ/半井、藩儒) Ｅ４９０４
大道(だいどう・佐田) → *竹水*(ちくすい・佐田さだ、藩士/儒者) Ｄ２８２６
大道(だいどう・川崎) → *多豆雄*(たずお・川崎かわさき/高原、神職/国学)Ｗ２６６０
大道(だいどう・宮沢) → *大道*(ひろみち・宮沢みやざわ、神職・国学) Ｌ３７４５
大洞(だいどう;号) → *獅絃*(しげん;号・恵明;法諱/真宗僧/詩)Ｔ２１２４
大堂(だいどう・福田) → *行誡*(ぎょうかい;法諱・姓;福田、浄土僧)Ｎ１６４６
大幢(だいどう;字) → *信海*(しんかい;法諱、大幢、真言僧) Ｎ２２６２
対塔庵(対塔菴たいとうあん)→ *蒼虬*(そうきゅう・成田なりた、藩士/俳人) ２５０７
大道円鑑禅師(だいどうえんかんぜんじ)→ *卓洲*(たくしゅう:道号・故僊、臨済僧)Ｏ２６０２
帯藤軒(たいとうけん) → *牧童*(ぼくどう・立花、研刀業/俳人) Ｄ３９８０
大燈国師(だいとうこくし) → *宗峰*(しゅうほう;道号・妙超、臨済僧) Ｙ２１３８
退道山人(たいどうさんじん) → *定資*(貞資さだすけ・藤田/滕/本田、和算家)Ｂ２０９１
大道真源禅師(だいどうしんげんぜんじ)→ *英朝*(えいちょう:法諱・東陽、臨済僧)１３４２
大唐大使卿(だいとうたいしのきょう)→ *広成*(ひろなり・丹比真人) Ｇ３７６３
大童子(だいどうじ) → *寅吉*(とらきち・高山、天狗小僧、国学) Ｒ３１７２
大同房(だいどうぼう) → *其弁*(きべん;法諱、法相僧) Ｌ１６９１

B2694 **泰徳**(たいとく) ? - ? 江前期江戸の俳人、1676蝶々子「当世男」入、1678「江戸八百韻」(幽山らと八吟八百韻興行)、78春澄「江戸十歌仙」入/81言水「東日記」入

大徳(だいとく・岩城) → *蟾居*(せんきょ・岩城、商家/俳人) Ｍ２４０５
大暾(だいとん;法諱) → *扶桑*(ふそう;道号・大暾、曹洞僧) Ｈ３８２９
太内(たいない・石井) → *宗澄*(そうちょう・石井いしい、名主/歌人) Ｃ２５５５
大内記(だいないき・林) → *述斎*(じゅっさい・林/松平、幕府儒官) Ｉ２１９４
大内記(だいないき・松平) → *勝定*(かつさだ・松平、幕臣/記録) Ｎ１５３１
大奈権厚紀(だいなごんあつき:狂名) → *裏住*(うらずみ・大家、狂歌) １２９８

B2695 **大納言**(だいなごん・七条院、藤原実綱女/母;藤原為業女の三河内侍)?-? 平安末/鎌倉初期の歌人、高倉天皇に出仕/のち七条院藤原殖子(1157-1228/後鳥羽天皇の母)の女房、1203影供歌合/04春日社歌合/05元久詩歌合参加、建礼門院右京大夫集の自筆本を所持、勅撰4首:新古今(402/562/1496)新勅撰(1332)、
[こととはん野島が崎の海人衣あまごろも波と月とにいかゞしほるる](新古今;四秋402)

B2696 **大納言**(だいなごん・昭訓門院しょうくんもんいん、西園寺さいおんじ実時さねとき女)?-? 鎌倉期女房歌人:亀山天皇妃の昭訓門院瑛子[1273-1336]の女房、内裏五首歌合参加、続現葉入、勅撰5首;新後撰1088/玉葉1319/続千載1326/風雅654・1259、
[昭訓門院大納言の別女房名] 昭訓門院権大納言/昭訓門院冷泉、
[ふみみてもうらみぞ深き浜千鳥まれになり行く跡のつらさは](新後撰;1088/欲絶恨恋)

K2685 **大納言**(だいなごん・誉子内親王家)?-? 鎌倉後期女房歌人、章義門院誉子内親王(1288?-1336;伏見天皇皇女)家出仕、1297永仁五年八月十五夜歌合参加、
[夜すがらの浅茅が庭の虫の音も月にはたへぬうれへなるらし](歌合八月十五夜;五番左)

参考 → *章義門院*(しょうぎもんいん、誉子内親王/歌人)Ｌ２１９５
大納言(だいなごん;称) → *雲聖*(うんしょう、天台僧/歌人) Ｂ１２１８
大納言(だいなごん;称) → *善如*(ぜんにょ;号・俊玄;法諱、本願寺4世)Ｇ２４４８
大奈権厚紀(だいなごんあつき)→ *裏住*(うらずみ・大屋、商家/狂歌) １２９８
大納言大伴卿(だいなごんおおとものきょう) → *旅人*(たびと・大伴) ２６４７

大納言兼大将軍大伴卿(だいなごんけんだいしょうぐんおおとものきょう)→ *安麻呂*(やすまろ) ４５１０
大納言巨勢朝臣(だいなごんこせのあそみ) → *奈弖麿*(なでまろ・巨勢) Ｇ３２７５
大納言経信母(だいなごんつねぶのはは)→*経信母*(つねのぶのはは、源国盛女、歌)Ｄ２９０６
大納言の君(だいなごんのきみ)→ *廉子*(れんし・源みなもと、彰子女房/歌) Ｂ５１１１
大納言三位(だいなごんのさんみ) → *廉子*(れんし・源、女房/歌人) Ｂ５１１１

B2698 **大納言典侍**(だいなごんのすけ・後嵯峨院ごさがいんの、名;為子ためこ、藤原為家女)1233-63?*31歳?* 鎌倉期歌人、
母;宇都宮頼綱女、後嵯峨院の女房、1250?左大臣二条道良(みちよし、1234-59)の妻、
夫没後に後嵯峨院に再出仕、祖父定家に愛され定家書写の古典を受、
家集「秋夢集」、雲葉集入、
勅撰13首;続後撰1335/続古59/1253/1440続拾遺1027/1056新後撰784/1202玉1963以下、
[色変へぬときはの松のかげそへて千世に八千世にすめる池水](続後撰;賀1335)
[後嵯峨院大納言典侍(;女房名)の通称]二条禅尼にじょうのぜんに、 為氏・為教の同母妹
大納言典侍(だいなごんのすけ・伏見院) → *親子*(しんし/ちかこ・北畠/源、歌人)Ｅ２２３６
大納言典侍(だいなごんのすけ・後二条院)→ *為子*(ためこ、二条為世女) Ｇ２６８０
大納言典侍(だいなごんのすけ・新葉集歌人)→ *後醍醐天皇*(ごだいごてんのう)Ｄ１９２１
大納言典侍(だいなごんのすけ・後醍醐院)→ *権大納言典侍*(ごんだいなごんのすけ、為世女) Ｅ１９７５
大納言僧正(だいなごんのそうじょう)→ *道我*(どうが:法諱、真言僧/歌) Ｂ３１８０
大納言僧正(だいなごんのそうじょう)→ *覚恵*(かくえ;法諱、真言僧) Ｊ１５５３
大納言僧正(だいなごんのそうじょう)→ *寛伊*(かんい;法諱、真言僧) Ｄ１５４０
大納言僧正(だいなごんのそうじょう)→ *尭淵*(ぎょうえん;法諱、歌/連歌/鞠) Ｃ１６２２
大納言僧正(だいなごんのそうじょう)→ *尭円*(ぎょうえん;法諱、真言僧) Ｎ１６３１
大納言局(だいなごんのつぼね)→ *為道女*①(ためみちのむすめ、二条関白女房/後醍醐妃)Ｈ２６４７ ①
大納言局(だいなごんのつぼね)→ *大納言*(だいなごん・七条院、歌人) Ｂ２６９５
大納言法印(だいなごんのほういん)→ *隆弁*(りゅうべん;法諱、天台大僧正/歌人)Ｆ４９５６
大納言法印(だいなごんのほういん)→ *道禅*(どうぜん;法諱、真言醍醐寺座主)Ｇ３１２１
大納言法印(だいなごんのほういん)→ *静遍*(浄遍じょうへん;法諱、真言僧) Ｌ２２５８
大納言法印(だいなごんのほういん)→ *定為*(じょうい;法諱、真言僧/歌人) Ｆ２２０１
大納言法印(だいなごんのほういん)→ *乗基*(じょうき;法諱、真言僧/歌人) Ｆ２２９７
大納言法印(だいなごんのほういん)→ *親快*(しんかい;法諱、真言僧) Ｎ２２５８
大納言法印(だいなごんのほういん)→ *定耀*(じょうよう;法諱、真言僧) Ｌ２２８２
大納言法印(だいなごんのほういん)→ *隆淵*(りゅうえん;法諱、歌人) Ｃ４９９２
大楠公(だいなんこう) → *正成*(まさしげ・楠木/楠/橘、武将) Ｃ４０６７
大南北(だいなんぼく/おおー) → *南北*(なんぼく・四世鶴屋、歌舞伎作者) ３２３５

B2699 **大弐**(だいに・二条太皇太后宮にじょうたいこうたいごうぐうの、名;宗子、高階成章女or藤原通宗女)1065?-1134?
母:大弐三位賢子女、初め郁芳門院媞子(白河天皇皇女、令子内親王の姉)女房(:女院大弐)、
源師頼の妻か?、のち二条太皇太后宮(令子内親王)の女房、歌人、叔父;通俊、隆源の姉妹、
1093郁芳門院根合、95郁芳門院前栽合参加、1116雲居寺結縁経後宴歌合参加、
「二条太皇太后宮大弐集」(1113-21頃の歌を自撰?;群書類従279所収)、
源師時・国信・俊頼らと親交、「後拾遺集」の資料蒐集に関与、後葉・秋風・雲葉集入集、
勅撰20首;金葉(593)詞花(79)千載(706)新勅(8首138/546以下)続後撰(281)続拾以下、
[常よりも嘆きやすらむたなばたは逢はまし暮をよそにながめて](詞花集;二夏79、
詞書;閏六月七日詠める)、
[二条太皇太后宮大弐の別の女房名]前斎宮さきのさいぐうの大弐/皇后宮大弐/女院にょういんの大弐

C2601 **大弐**(だいに、修明門院しゅうめいもんいんの、石清水社別当の成清女)?-? 1239存 鎌倉前期歌人、母;宗俊女、
修明門院重子(藤原範季女、後鳥羽天皇妃、順徳の母)に出仕、藤原光親の妻/光氏の母、
鷹司院按察の母?、勅撰6首;新古1393(;弁)続後撰977続古1350/1838続千2029続後拾1210、
[つらしとは思ふものから有明のうかりし月ぞかたみなりける](続後撰集十五恋;977)
[修明門院大弐の別の女房名] 土佐局/弁

C2602 **大弐**(だいに、安嘉門院あんかもんいんの、藤原為継女)?-? 1265頃存 鎌倉期女房歌人、三条公種の妻、
三条実任[1264-1338]の母、安嘉門院[邦子内親王1209-83]に出仕、

勅撰13首;続古今(1444)続拾遺(1110/1328)新後撰(629/974/1544)玉葉(1120)以下
[みたらしや身は沈むともながき世に名を流すべきうたかたもがな](続拾遺集;1110)

B2697 **大弐**(だいに・加藤かとう、名;政発/啓発、加藤伝左衛門高直男)1675-1741*67* 加藤太左衛門の養嗣子、庄内藩士;家督/1709中老/11家老、儒;佐藤直方門/庄内藩儒学の鼻祖と称さる、31隠居、「秋夜長物語」1725「御上京御用留帳」著、
[大弐(;通称)の別通称/号]別通称;大三郎/多左衛門/揚甫、号;寛斎

C2603 **大弐**(だいに・山県やまがた/村瀬、名;惟貞/**昌貞**、山県山三郎男)1725-67刑死*43* 甲斐篠原村の漢学者、父が府中藩与力村瀬家を継承;府中に移住、闇斎学;加賀美桜塢門/徂徠学;五味釜川門、1745兄の致仕;家督相続/府中藩与力(;村瀬軍治名)/1751弟の不祥事で改易追放、江戸で儒医開業/開塾(;山県洞斎名)、1754上総勝浦藩主大岡忠光に出仕;勝浦陣屋代官、藩主移封で武州岩槻藩江戸詰め儒医/忠光没後致仕/江戸八丁堀で開塾、藤井右門らと尊王論を主唱;1767(明和4)幕府忌諱に触れ藤井右門と刑死(明和事件)、のち吉田松陰ら討幕思想に影響、
「大弐集」「柳子新論」「省私録」「孫子講義」、1762「山老上書」63「琴学撥乱」65「医事撥乱」外多、
[大弐(;通称)の幼名/字/別通称/号]幼名;山之助、字;子恒/士明/公勝、別通称;村瀬軍治(軍次)、号;柳荘/洞斎、法号;俊昌院、野沢昌樹の弟、齋藤好春の父、

兄	→	*昌樹*(まさき・野沢/村瀬/山県、与力/詩歌)	Ｃ４０２２
大弐(だいに;字)	→	*元瑜*(げんゆ:法諱、真言僧)	Ｍ１８５５
大弐(だいに・薗田)	→	*守諸*(もりつら・薗田、神職/国学)	Ｆ４４８６
大弐(だいに・薗田)	→	*守良*(もりよし・薗田、守諸男/神職/故実)	Ｇ４４８８
大弐(だいに・薗田)	→	*守胤*(もりたね・薗田/荒木田、守良男/神職/国学)	Ｋ４４２１
大弐(だいに・矢野)	→	*公紀*(きみのり・矢野やの、神職)	Ｍ１６０５
大弐(だいに・松平)	→	*康済*(やすなり・松平まつだいら、藩家老)	Ｃ４５４６
大弐(だいに・松平)	→	*康正*(やすまさ・松平、藩家老/尊攘派)	Ｃ４５９８
大弐(だいに・堀)	→	*杏庵*(きょうあん・堀ほり、医者/儒者)	１６２９
大弐(だいに・船曳)	→	*磐主*(いわぬし・船曳ふなびき、神職/国学)	Ｂ１１８４
大弐(だいに・根本)	→	*為胤*(ためたね・根本ねもと/平、神職)	Ｙ２６８７
大弐(だいに・松木)	→	*俊章*(としあき・松木まつき/大神、神職/国学)	Ｗ３１０７
大弐阿闍梨(だいにのあじゃり)	→	*日寛*(にちかん・堅樹院、日蓮僧)	Ｂ３３１０

2606 **大弐三位**(だいにのさんみ、賢子けんし、藤原宣孝女)999or1000?-1082?or83? 母;紫式部、中宮彰子(上東門院)に出仕;女房名越後弁、藤原兼隆の妻;1025女児出産、1025親仁(後冷泉天皇)の乳母(;弁の乳母)、従三位、のち高階成章の妻;1038為家を出産、後冷泉即位により典侍(;弁典侍)、1054成章が大宰大弐で赴任(;大弐三位);2度筑紫に赴く、歌人;1032上東門院規矩合参加、1049内裏歌合・66皇后宮寛子歌合参加、「大弐三位集」(藤三位集)、続詞花集5首入、勅撰37首;後拾遺(9首143/202/290/348以下)金葉(617)詞花(327)千(4首)新古(6首)以下、
[有馬山猪名の笹原風吹けばいでそよ人を忘れやはする](後拾遺;十二恋709)
[大弐三位の別称] 越後弁えちごのべん/弁典侍べんのないし/弁乳母べんのめのと/藤三位とうさんみ

大弐僧正(だいにのそうじょう)	→	*公胤*(こういん・三井寺歌僧)	１９７２
大弐高遠(だいにのたかとう)	→	*高遠*(たかとう・藤原、歌人)	２６１２
大弐法印(だいにのほういん)	→	*晴喜*(せいき:法諱、社僧/記録)	Ｈ２４８３
大弐法橋(だいにのほうきょう)	→	*探元*(たんげん・木村/平、絵師)	Ｔ２６４０
大弐房(だいにぼう)	→	*宥範*(宥鑁ゆうばん;法諱、真言僧)	Ｄ４６６１
大日本茶博士(だいにほんちゃはかせ)	→	*宗達*(そうたつ・速水はやみ、医者/茶人)	Ｉ２５３９

K2686 **体如**(たいにょ;法諱) ？- ？ 江中期天台僧:本純門/比叡山麓瑞光庵住、1732「中興和尚事蹟」著

C2604 **諦忍**(たいにん;字・妙竜みょうりゅう;法諱、仙石忠続男)1705-86*82* 美濃加茂山上の浄土僧;1713壇道門、1721尾張興正寺点阿門;28具足戒を受/常照より小野流諸尊法・浄土鎮西白旗流璽書を受、1734尾張興正寺5世、真言律を主唱、1732「阿弥陀如来和讃」48「蓮華標名録」、「空華随筆」、1749「諦忍律師語録」63「以呂波問辨」70「無住国師道跡考」75「臨終要訣」外著多数、

［諦忍の号］　雲蓮社空華

K2687 **諦忍**(たいにん;法諱・道隠どういん;字)1741-1813*73歳*　薩摩の真宗本願寺派僧;僧樸・僧鎔門、豊前長久寺住職、本山の学林教授;智洞一派により排斥、三業惑乱の時智洞と対立、1804大瀛だいえいと江戸に下り寺社奉行所で智洞と対論;一宗の擾乱鎮圧、堺空華の祖、空華三師の1、河内西念寺住/晩年は豊前長久寺に戻る、1798「閲寮対話」1804「安心大要」、「宗義大要鈔」「道隠演説記」「三業帰命弁義評」、「空華制約」編/「文類聚法鑑」外著多数、［諦忍の号］薩州、諡号；浄信院

諦忍(たいにん;号)　→　*蓮光*(れんこう;法諱、真言律僧)　５１７６
泰任(たいにん・浅岡)　→　*泰任*(やすとう・浅岡あさおか/藤原、歌人)　Ｅ４５９４

K2688 **大任**(だいにん;法諱・墨庵:号)?-　?　江後期江戸山谷の浄土宗瑞泉寺住僧、1799-諸国歴遊、詩文;1802「雲遊文**蔚**」(;抱一・江漢・文晁らの絵を付す)、「元亨釈書輔玷」著

T2684 **大忍**(だいにん;道号・魯仙ろせん;法諱)1781-1811早世*31*　越後出雲崎曹洞僧;1787(7歳)双善寺で出家、宇治興聖寺の玄楼奥竜門/同寺の霊潭魯竜に嗣法/武洲深谷の慶福寺15世/諸国行脚、詩人、良寛と交流、1805「無礙集」著

大任(だいにん・館/巻)　→　*菱湖*(りょうこ・巻まき/館/池田/小山、書家)Ｈ４９４２
体仁親王(たいにんしんのう)　→　*近衛天皇*(このえてんのう、鳥羽皇子/歌)　Ｄ１９５１
大忍兵士(だいにんへいし)　→　*影面*(かげも/かげおも・村上、藩士/国学者)Ｂ１５９７
大寧(だいねい・物/荻生)　→　*金谷*(きんこく・荻生おぎゅう/物、儒者)　Ｄ１６９９
大寧寺殿(だいねいじどの)　→　*義統*(よしむね・畠山、武将/守護/連歌)　Ｈ４７５８

K2689 **泰然**(たいねん;法諱・千吉:号)?-　? 1687存　天台宗叡山僧、西塔浄泉院住/摂津天鷲寺住、1687「浄土境観要門略解」「天台伝仏心印記詳解」著

K2690 **大年**(たいねん・亀井かめい、名;万、南冥男)1777-1812*36*　筑前の儒者・医者;父門、詩に長ず、筑前早良郡姪浜の祖父聴因旧宅で開業医、「大年遺稿」、［大年(;字)の号］　天地房

K2691 **諦然**(たいねん;法諱、号;月花堂激昂道人、俗名;吉蔵)?-1825　近江膳所の真宗大谷派響忍寺住職、儒仏書画に通ず、皆川淇園と交流、「勧録雑記」著

K2692 **岱年**(たいねん・花守/早川/森/守)1798-1852*55*　讃岐丸亀藩家老佐々木氏家臣、俳人;臥鵬門、京で活動、駿河見付で宗匠?、1829「種木槿」46「月時雨」編、47「半百賀」著、「花押窓句集」「類題発句集」著、
［岱年(;号)の別号］　北映(;初号)/亀耳道人/無時庵/三露園/猩々翁

K2693 **大年**(たいねん・春秋園)　?-　?　江後期大阪の俳人;天来[1786-1861]門、1829「東国俳諧名人三十六歌仙橋つくし」画/53刊「俳諧種瓢」著

K2694 **大年**(だいねん;道号・法延ほうえん;法諱、俗姓;藤原)?-1363　伊予の僧/臨済僧;竺仙梵僊門/嗣法、若狭守護大高氏の招聘;高成寺開山、「大年和尚開堂録」「大年和尚履践集」著

泰年(たいねん・大坪)　→　*泰年*(やすとし・大坪おおつぼ/佐藤、国学者)Ｆ４５５３
大年(だいねん・斎藤)　→　*妙椿*(みょうちん;法諱・斎藤、武将/連歌)４１４２
大年(だいねん・森もり)　→　*東郭*(とうかく・森、儒者;宋学)　Ｃ３１１２
大年(だいねん・南宮)　→　*藍川*(らんせん・南宮なんぐう、儒者)　Ｃ４８８４
大年(だいねん/おおとし・三浦)→　*葛山*(かつざん・三浦みくら、藩士/儒者)　Ｎ１５３５
大年(だいねん・奥山)　→　*四絢*(しけん、奥山おくやま、漢学者)　Ｔ２１２１
大年(だいねん・村井)　→　*琴山*(きんざん・村井/邨井、医者/詩文)　Ｊ１６０１
大年(だいねん・青木)　→　*天壽*(てんじゅ・韓かん/青木/中川、書家)　Ｄ３０７２
大年(だいねん・松山)　→　*道善*(どうぜん・松山まつやま、医者/海防)　Ｇ３１２４
大年(だいねん・中川)　→　*世量*(せいりょう・中川なかがわ、医者)　Ｊ２４８３
大年(だいねん・名和)　→　*大年*(おおとし・名和なわ、神道家/廃仏)　Ｅ１４０１
大年斎(だいねんさい・田中)→　*訥言*(とつげん・田中、土佐派絵師/狂歌)Ｏ３１４６
大年寺(だいねんじ;法号)　→　*綱村*(つなむら・伊達だて、藩主/歌人)　Ｂ２９３７
大鯰堂(だいねんどう)　→　*呑湖*(どんこ・瓢箪坊、俳人)　Ｓ３１１７
大年堂(だいねんどう)　→　*世量*(せいりょう・中川なかがわ、医者)　Ｊ２４８３
大年万年(だいねんまんねん)　→　*法樹*(ほうじゅ;法諱・智幢;字、真言僧)　Ｂ３９３２

太年廬(たいねんろ)　→　*寥松*(りょうしょう・蘡みね、俳人)　Ｉ４９１４
対の子(たいのこ)　→　*たいふのご*（女房歌人）　Ｃ２６１４
大之丞(だいのじょう・細川)→　*興文*(おきのり・細川/源、藩主/詩歌人)　１４７６
大之丞(だいのじょう・前野)→　*包広*(かねひろ・前野まえの、国学者/歌)　Ｏ１５８９
大之丞(だいのじょう・中島)→　*秋挙*(しゅうきょ・中島なかじま、藩士/俳人)　Ｈ２１０８
大之進(だいのしん・中島)　→　*秋挙*(しゅうきょ・中島なかじま、藩士/俳人)　Ｈ２１０８
大之進(だいのしん・藤塚)　→　*図書*(ずしょ・藤塚ふじつか/源、神職)　Ｄ２３７８
大之進(だいのしん・岡本/小川)→　*友忠*(ともただ・小川、藩士/天文)　Ｐ３１６９
大之進(だいのしん・江田)　→　*霞村*(霞邨かそん・江田えだ、儒者/詩)　Ｍ１５８５
大之進(だいのしん・小幡/鈴木)→　*重嶺*(しげね・鈴木/穂積/小幡、幕臣/歌)Ｃ２１６５
大之進(だいのしん・池原)　→　*香稚*(かわか・池原いけはら、医者/国学)　Ｔ１５６３
儓之助(たいのすけ・高橋)　→　*由一*(ゆいち・高橋たかはし、藩士/絵師)　４６４３
大之助(だいのすけ・小原)　→　*梅坡*(ばいは・小原おばら正修、儒者)　Ｂ３６９４
大之助(だいのすけ・堀田)　→　*通右*(みちすけ・堀田ほった、幕臣/歌人)　Ｋ４１１０
大之助(だいのすけ・尾崎)　→　*忠征*(ただゆき・尾崎、藩士/国事奔走)　Ｒ２６１９
大の鈍金無(だいのどんかねなし;狂歌)→　*帰橋*(ききょう・蓬莱山人、藩士/戯作)１６９３

T2685 **大梅**(たいばい;道号・天常てんじょう;法諱)1663-1746*84*　肥後飽託郡走潟村の曹洞僧、能書家、川尻大慈寺78世、「大慈禅師記録」著

K2695 **大梅**(たいばい・中西なかにし、大町たいちょう男)?-1751　江戸の商人/俳人:珪琳門、1739「親子艸」編、1735洒堂「ひさご」再刊校、36竹郎「茶話稿」入/51「つゆ六かせん」「二十番句合」編
[大梅(;号)の通称/別号]通称;伊勢屋七郎兵衛、別号;漁房/存古庵/江南舎

C2608 **大梅**(たいばい:号、圭立けいりゅう;道号・法璞ほうせん;法諱、大日方直泰男)1682-1757*76* 信州の曹洞僧;鼓山門、1707量外頑器門:嗣法、信濃佐久の正安寺住持(山号を宝寿山と改名)、1753能登総持寺輪住、慈雲の師、
「大梅和尚夜話」「宝寿大梅禅師語録」著/「大梅老人遺録」

C2605 **岱貝**(たいばい・高橋たかはし、無徳庵/来笑庵)?-?　江後期江戸俳人・沾山門、沾徳座沾山側点者、1754竹翁「俳諧童の的」点句入

C2606 **帯梅**(たいばい・村瀬むらせ、名;祥副、木鶏子如東男)1758-1826*69* 尾張知多郡横須賀の商家;両口屋、俳人;暁台/臥央門/士朗門、1801暮雨巷踏襲、1774美角「ゑぼし桶」入、1792「曙日記」著、1816「竜の登」編、18「萍水奇画」、「鶴のかしら集」編/「九駄加計」著、[蚊の声の畳にあたる夜明哉](ゑぼし桶;87/明るくなると声が畳に当るほど低く飛ぶ)、
[帯梅(;号)の通称/別号]通称;弥四郎、別号;暮雨巷ぼうこう3世/狐塚古観、温山玄良菴主、屋号;両口屋

C2609 **大梅**(だいばい・小島/児島こじま、名;筠いん、洪卿男)1772-1841*70* 江戸の商人;札差/菓子屋?、詩:市河寛斎門/江湖詩社で活躍、1804頃家業衰退;父伝来の書籍を売却;家督を弟に譲渡、俳諧;道彦門、「梅外詩集」「大梅居家集」「大梅居士文集」、「青かつら」編/「耳扼父みみたぶ集」「ささ啼」「さゞれ石」「掃よせ」1833「松堡里山荘に遊ふの記」40「ちかき頃の俳諧とめ」著、
[大梅(;号)の字/通称/別号]字;克従/稚節、通称;酉之助/吉右衛門、別号;大梅居/梅外/孤山/唯阿弥、孤山堂/剰庵瓢斎、屋号;小島屋、法号;境智院

対梅宇乙彦(たいばいうおとひこ)→　*谷峨*(2世こくが・梅暮里うめぼり、戯作/音曲)Ｃ１９３５
大梅軒(たいばいけん)　→　*梅叔*(ばいしゅく;道号・法霖、臨済僧)　Ｂ３６５０
大梅堂(たいばいどう)　→　*晋如*(しんじょ、石内いしうち、俳人)　Ｅ２２５２

K2696 **太白**(たいはく;道号・眞玄しんげん;法諱)?-1415　室町期臨済僧;南禅寺太清宗渭門/嗣法、詩文;義堂周信・絶海中津門/1411建仁寺90世/南禅寺雲門庵に大同軒開;退隠、四六文が得意、「峨眉鴉臭集」「太白和尚語録」「柳文抄」「太白玄禅師疏」、
[太白眞玄の別道号/号]別道号;図南(;初道号)/要中、号;河東/慕山老人

T2686 **太白**(たいはく;道号・克酔こくすい;法諱)?-1700　江前期下総結城の曹洞宗安穏寺18世、1674「太白行脚袋」75「夏山草」76「曹洞護国辨」、「洞上古轍口辨」著

太白(たいはく・村山)　→　*漢古*(かんこ・村山むらやま、役人/漢学/詩歌/教育)Ｖ１５９６

太伯(たいはく・和田)　→　*則孝*(のりたか・和田、医者)　Ｅ３５８８
退伯(たいはく・三井)　→　*高匡*(たかまさ・三井、商家/国学者/歌)　Ｎ２６１９
大璞(たいはく・藤堂)　→　*高文*(たかふみ・藤堂、藩国老/漢学者)　Ｄ２６６９
大莫(だいばく・鈴木)　→　*太老*(たいろう・鈴木すずき、俳人)　Ｃ２６４０
大白庵金糖(だいはくあんきんとう)→　*金糖*(きんとう・大白庵、狂歌)　Ｉ１６１９
太白山人(たいはくさんじん)　→　*洞巌*(とうがん・佐久間、儒者/詩文)　Ｃ３１３１
太白山人(たいはくさんじん)　→　*漢古*(かんこ・村山むらやま、役人/漢学/詩歌/教育)Ｖ１５９６
太白堂(たいはくどう、初世)→　*桃隣*(とうりん・天野、蕉門俳人)　３１２９
太白堂(たいはくどう、２世)→　*桃隣*(２世とうりん・切部、枳南舎)　Ｉ３１３５
太白堂(たいはくどう、３世)→　*桃隣*(３世とうりん・村田、漱石)　Ｉ３１３６
太白堂(たいはくどう、４世)→　*桃隣*(４世とうりん・加藤、桃雨)　Ｉ３１３７
太白堂(たいはくどう、５世)→　*桃隣*(５世とうりん・山口、桃雪)　Ｉ３１３８
太白堂(たいはくどう、６世)→　*孤月*(こげつ・江口、桃翁)　Ｃ１９４４
大八(だいはち・朽木)　→　*大綱*(おおつな・朽木くつき/源、幕臣/歌人)Ｄ１４７１
台八(だいはち;通称・久徳)→　*直利*(なおとし・久徳きゅうとく、藩士/財政改革)Ｂ３２８１
台八(だいはち・広瀬)　→　*蒙斎*(もうさい・広瀬、儒者/藩政参与)　４４５３
第八(だいはち・小寺/木村)→　*玉晃*(ぎょくちょう・小寺こでら、随筆家)　Ｈ１６３１
第八郎(だいはちろう・小寺/木村)→*玉晃*(ぎょくちょう・小寺こでら、随筆家)　Ｈ１６３１
大八郎(だいはちろう・高橋/近藤)→　*篤山*(とくざん・近藤、儒/詩歌/教育)Ｋ３１７７
大判官(だいはんがん・遣新羅使;万葉集)→*宇太麻呂*(うだまろ・壬生使臣みぶのおみ)１２６９
耐煩居(たいはんきょ)　→　*美成*(よししげ・山崎やまざき、商家/国学者)４７１２
大盤山人偏直(だいばんさんじんへんちき)→　*偏直*(へんちき、大盤山人、洒落本)Ｂ２７３５
待伴舎(たいばんしゃ)　→　*渡*(わたる・六橋園ろっきょうえん、狂歌作者)　５３４５
大班廛(だいはんじん)　→　*益江*(ますえ・松井まつい、藩士/本草/歌)　Ｓ４０６１

K2697 **大眉**(だいび;道号・性善しょうぜん;法諱、許きょ瑞宇男)1616-73*58*　明福建省晋江県の黄檗;隠元門/嗣法、1653隠元招請の事情調査で渡日/1654師と共に長崎到着/隠元の万福寺経営を援助、万福寺東林庵開、1655「隠元禅師語録」編、73「黄檗国師書問集」編、「東林大眉和尚夢語」著、[大眉性善の初号]　良者性光りょうしゃしょうこう

大眉(たいび、俳名)　→　*南北*(なんぼく・４世鶴屋、大南北)　３２３５
大飛(だいひ・萩原)　→　*秋巌*(しゅうがん・萩原はぎわら、書家/詩)　Ｗ２１８７
大斐(だいひ・長沼)　→　*采石*(さいせき・長沼、藩士/国学者)　Ｇ２０８４
大悲(だいひ;字)　→　*願海*(がんかい;法諱、天台僧/千日回峰)Ｑ１５０７
大悲院(だいひいん)　→　*慈音*(じおんに:法諱・水原、真宗勤王僧)Ｚ２１９０
大悲円満国師(だいひえんまんこくし)→　*雲居*(うんご;道号・希膺、臨済僧)Ｂ１２１２
大悲広通禅師(だいひこうつうぜんじ)→　*玉甫*(ぎょくほ;道号・紹琮じょうそう、臨済僧)Ｐ１６３４

T2674 **大必**(たいひつ・梶山かじやま、橘中庵)1820-84*65歳*　安藝広島藩士/俳人/俳画、1841和切「養花集」入、1856菊年「やまかつら」入、[餌にさへもむかはぬ鳥のあつさかな](短冊)
[橘中庵大必(;号)の通称/別号]通称;一仙、別号;魚鳶(画号)

大必山人(たいひつさんじん)　→　*成美*(せいび・夏目、俳人)　２４１２
大悲菩薩(だいひぼさつ;諡号)→　*覚盛*(かくじょう;法諱、律僧)　Ｅ１５７６
泰品(たいひん・石原)　→　*恭品*(泰品やすしな・石原いしはら、幕臣/歌)Ｈ４５１１
大品(だいひん・黒沢)　→　*道形*(みちかた・黒沢/二階堂、郷土史家)Ｂ４１３４
大愍(だいびん・磯貝)　→　*大愍*(たいみん・磯貝いそがい、浄土僧/歌人)Ｖ２６６３

C2610 **大輔**(たいふ/おおすけ・源弼たすくの女)?-?　平安前期女房、父が宮内大輔(877-89頃)頃の出仕、醍醐天皇皇子保明親王の乳母?、恵(忠)ほどこすの姉妹、歌人、古今1056、
[なげきこる山とし高くなりぬればつらづゑのみぞまづつかれける](古今;十九雑1056)
穏子女房の大輔と同一か?　→　*大輔*(たいふ・延喜皇后宮、後撰歌人)Ｃ２６１１

C2611 **大輔**(たいふ/おおすけ・延喜皇后宮えんぎこうごうぐう)?-?　平安前期女房歌人;
醍醐天皇皇后穏子(藤原基経女885-954)の女房、のち康子内親王付歌人、

醍醐天皇皇子保明親王の乳母子?(大鏡)、後撰集に保明親王の死を悼む歌あり、
魅力ある女性で藤原実頼・師輔・朝忠・敦忠・雅正・橘敏仲・小野道風と交渉、
956康子内親王に随行して坊城右大臣師輔殿歌合に参加、
977三条左大臣頼忠前栽合参加(;女房)、
勅撰17首;後撰(16首282/284/611/883/885/889/951以下)続古今(1549)玉葉(1066)、
[いとかくて止みぬるよりは稲妻の光の間にも君を見てしが](後撰;恋883/道風へ贈歌)
[今はとてみやまをいづるほととぎすいかなる宿に鳴かんとすらん](続古;十七1549)

源弼女と同一? → *大輔*(たいふ/おおすけ・源弼女、古今歌人) Ｃ２６１０
大ふ蔵人と同一? → *大ふ蔵人*(たいふのくらひと、966内裏前栽合歌人)Ｌ２６００
たいふのごと同一? → たいふのご(大夫御、対の子?、後撰集553)Ｃ２６１４

K2698 **岱布**(たいふ) ? - ? 江中期陸中南部の生/播磨住の俳人;
1773几董「明烏」1句/76樗良「月の夜」1句入、
[日の洩らで里守る神の新樹しんじゅ哉](あけ烏;170/夏の鬱蒼としたより神々しい鎮守様)

K2699 **大阜**(たいふ/だいふ・村瀬)1745- 1820*76歳* 尾張知多横須賀の古書肆(米津屋)/のち没落/清貧、
俳人;暁台・士朗門、1800「かりむくら」編/03「老楽」「清友篇」、08「古茂嘉浮離」「雪の夜」編、
1809「帰去来」「於宝路夜」編、10「阿沙野」「なきふくへ」編、「誹諧古々路葉」「誹諧其文月」編、
「こもたる」「誹諧三つかなわ」「はつ夢」編、四絃琴を楽しむ、
[百年も活てくれうぞけふの月]、
[大阜(;号)の通称/別号]通称;兵庫屋弥四郎/弥五助、別号;海翁、蝸庵、熊四絃ゆうしげん

大輔(たいふ・伊勢) → *伊勢大輔*(いせのたいふ、輔親女) １１１４
大輔(たいふ・殷富門院、信成女) → *殷富門院大輔*(いんぷもんいんのたいふ)Ｃ１１０９
大輔(たいふ・皇后宮) → *殷富門院大輔*(いんぷもんいんのたいふ) Ｃ１１０９
大輔(たいふ・修学房) → *修学房大輔*(しゅうがくぼうのたいふ、童/歌人)ａ２１４６
大輔(たいふ・長束) → *正家*(まさいえ・長束なつか、武将) Ｂ４０３０
太阜(たいふ) → *花足*(かそく・金井・岩下、弓術/俳人) Ｍ１５８２
泰夫(たいふ・島田) → *泰夫*(やすお・島田/横山、医者) Ｂ４５０４

C2613 **大蕪**(たいぶ・鼠屋九兵衛、吹万堂/風々曲)?-? 江後期鳥取の俳人;月居門、「俳道片言」著

C2612 **大夫**(だいぶ・延明門院えんめいもんいん、源みなもと家清女)?-? 鎌倉期歌人;源家長の孫/藻壁門院但馬の姪、
延明門院(伏見天皇皇女延子内親王[1291-?])家女房、1315延子内親王出家(院号)、
勅撰3首;新後撰1072(;源家清女名)/玉葉2509(;延子内親王家大夫名)、
続千載684(延明門院大夫名)、
[なれし夜の床はかはらぬ思ひねにまた見る夢のおもかげぞなき](新後撰;恋1072)

大夫(だいぶ・紀) → *俊和*(としかず・紀きの、神道/国学) Ｕ３１９４
大夫(だいぶ・黒瀬) → *田弘*(ただひろ・黒瀬くろせ、神職/国学) Ｗ２６９４
大部(だいぶ・安藤) → *重満*(しげまろ・安藤あんどう、神職/国学) Ｐ２１２９
泰風(たいふう・今泉) → *泰風*(やすかぜ・今泉いまいずみ、国学者) Ｆ４５３２
待風(たいふう・今田) → *知貞*(ともさだ・今田いまだ、藩士/歌人) Ｕ３１２８
大仏餅屋庄左衛門(だいぶつもちやしょうざえもん)→ *其碩*(きせき・江島) １６１７
泰福(たいふく・土御門) → *泰福*(やすとみ・土御門/安倍、陰陽家/神道)Ｃ４５２９
体福(たいふく・浮田) → *秀家*(ひでいえ・浮田/宇喜多うきた、武将) ３７０８
大夫公(たいふこう) → *俊恵*(しゅんえ/すんえ;法諱、僧/歌人) ２１５５
大夫公(たいふこう) → *覚綱*(かくこう;法諱、天台僧/歌人) １５６１
大夫阿闍梨(たいふのあじゃり)→ *仁寛*(任寛にんかん;法諱、真言僧) Ｇ３３２５
大夫阿闍梨(たいふのあじゃり)→ *寛命*(かんみょう;法諱、真言僧) Ｒ１５６５
大夫阿闍梨(たいふのあじゃり)→ *円嘉*(えんか・爪木阿闍梨、天台僧/歌) １３９０
大輔阿闍梨(たいふのあじゃり)→ *日穆*(にちぼく;法諱、日蓮僧) Ｄ３３２０
大輔阿闍梨(たいふのあじゃり)→ *日祐*(にちゆう;法諱・浄行院、日蓮僧) Ｄ３３２８
大夫の上(だいぶのうえ/修理大夫顕季室)→*長実母*(ながざねのはは・藤原、経平女/歌)Ｄ３２７７

L2600 **大ふ蔵人**(たいふのくらひと) ? - ? 平前期歌人:966内裏前栽合に参加、
大輔(康子内親王付)と同一?

→ *大輔*(たいふ/おおすけ、後撰集歌人)　Ｃ２６１１

C2614 **たいふのご**(大夫御、対の子?)?-?　平安前期女房、歌人:後撰553、
大輔(康子内親王付)と同一?
→ *大輔*(たいふ/おおすけ、後撰集歌人)　Ｃ２６１１

C2615 **大夫典侍**(たいふのすけ・たいふのてんじ、神祇伯源顕仲女)?-?　平安後期待賢門院or鳥羽院の女房、
歌人;1121白川院の花見御行に供奉/28顕仲主催の西宮・南宮・住吉社歌合に姉妹と参加、
勅撰2首;金葉集Ⅱ81・326(Ⅱ85・331)、続詞花集入、
[色かへぬ松によそへてあづまぢの常磐ときはの橋にかゝる藤波](金葉;春81、
詞書;院北面にて橋上の藤花といふ事を詠める)、
[子におくれてはべりける比　かへる雁をききてよみ侍りける、
故郷へかりぞゆくなるかなしきは又もかへらぬ別れなりけり](続詞花;哀傷392)、
[*姉 妹*]　→ *堀河*(ほりかわ・待賢門院、金葉歌人)　Ｅ３９８２
→ *兵衛*(ひょうえ・待賢門院/上西門院女房、金葉歌人)３７３７
→ *顕仲女*(あきなかのむすめ・源、重通妾?、金葉歌人)　１０７６

太夫助(たいふのすけ・下郷/千代倉)→ *常和*(じょうわ・下郷、商家/俳人)Ｃ２２２０
大夫僧正(だいぶのそうじょう)→ *印性*(いんしょう;法号、真言僧)　Ｃ１１０５
大夫僧都(だいぶのそうず)　→ *実賢*(じっけん;法諱・胎蓮;字、真言醍醐寺座主)Ｕ２１６０
大夫判官(だいふのはんがん)　→ *氏頼*(うじより・六角/佐々木、武将/連歌)１２５９
大夫法印(たいふのほういん)　→ *隆海*(りゅうかい;法諱、真言僧)　Ｄ４９１４
大輔法眼(たいふのほうげん)　→ *浄寿*(じょうじゅ・榎えのき、和算家)　Ｊ２２５２
大輔乳母(たいふのめのと)　→ *命婦乳母*(みょうぶのめのと、源憲子/歌人)　Ｇ４１６７

C2616 **大輔命婦**(たいふのみょうぶ、大臣の女と自称)?-?　母;小輔命婦(中宮女房;栄花物語)、
左大臣源雅信家の女房;雅信女倫子に出仕、道長女(倫子の女)彰子に出仕;中宮の女房、
藤原景理の妻、1008敦成親王(後一条)誕生時は「いと年経たる女房」(紫式部日記)、
1026彰子落飾時に出家、歌:後拾遺682(景理への恋歌)
[夕つゆは浅茅がうへと見しものを袖におきても明かしつるかな](後拾遺;十二恋682)

大夫律師(たいふのりっし)　→ *宗意*(そうい;法諱、真言安祥寺流開祖)Ｆ２５９５
大夫律師(たいふのりっし)　→ *仁聖*(にんしょう、天台宗小坂流僧)　Ｇ３３４９
大輔房(たいふぼう;号)　→ *聖守*(しょうしゅ;法諱、真言僧)　Ｓ２２８５
大夫房覚明(たいふぼうかくめい、義仲の右筆)→ *信救*(しんぎゅう;法諱)　Ｎ２２８１③
大文(だいぶん・川口)　→ *清常*(きよつね・川口いかわぐち、藩士/歌人)　Ｔ１６９７
泰文堂(たいぶんどう)　→ *春樹*(はるき・山本、書肆/歌)　Ｇ３６２８
大平(たいへい・藪)　→ *鶴堂*(かくどう・藪やぶ、儒者/詩)　Ｋ１５２９
大平(たいへい・根岸/岸)　→ *典則*(つねのり・根岸/中原/岸、商家/歌/禅)Ｄ２９１７
太平(たいへい・深井)　→ *象山*(しょうざん・深井、藩士/兵学/歌人)Ｊ２２２６
太平(たいへい・深井)　→ *彰*(あきら・深井/今村、象山養子/藩士/兵学)Ｉ１０３５
太平(たいへい・池辺)　→ *眞榛*(まはり・池辺いけべ、国学者)　Ｋ４００４
太平(たいへい・国方)　→ *豊民*(とよたみ・国方くにかた、藩士/国学)　Ｖ３１０４
太平(たいへい・大高坂)　→ *南海*(なんかい・大高坂おおたかさか/山本、藩士/詩/画)Ｏ３２９４
台平(たいへい・浜野)　→ *建雄*(たけお・浜野はまの、網元/国学)　Ｏ２６２８
泰平(たいへい・山田)　→ *泰平*(やすひら・山田やまだ、歌人)　Ｃ４５８３
泰平(たいへい・倉知)　→ *正修*(まさなが・倉知くらち、国学者)　Ｐ４０４７
泰平(たいへい・鈴木)　→ *泰平*(やすひら・鈴木すずき、医者/歌人)　Ｇ４５０７
太平庵(たいへいあん)　→ *鳳声*(ほうせい・川瀬かわせ、藩士/俳人)　Ｂ３９９９
太平逸史(たいへいいっし)　→ *春三*(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者)Ｋ２１２１
太平館主人(たいへいかんしゅじん)→ *胴脈先生*(どうみゃくせんせい、畠中観斎、狂詩)３１２２
太平軍師(たいへいぐんし)　→ *秀雄*(ひでお・小早川/土肥/吉田、郷土史家)Ｃ３７８４
太平山人(たいへいさんじん)　→ *竜池*(りゅうち・猿**山**さやま、書家)　Ｆ４９１８
大平山人(たいへいさんじん)　→ *眞人*(まひと・まこと・林はやし/原、藩士/歌)　Ｒ４０９０
太平太(たいへいた・吉田/土肥/小早川)→*秀雄*(ひでお・小早川/土肥/吉田、郷土史家)Ｃ３７８４

大米子(だいべいし・船曳) → *磐主*(いわぬし・船曳ふなびき、神職/国学) Ｂ１１８４
太平道人(たいへいどうじん) → *胴脈先生*(どうみゃくせんせい、畠中観斎、狂詩) ３１２２

L2601 **退甫**(たいほ・新山にいやま、名;退、佐藤常香男)1723-1775*53* 仙台の相法家、江戸で新山姓を名乗る、
江戸・京で修学/大阪住、武術も嗜む/晩年は仏法を主唱、1764「人相筆話」著、
[退甫(;字)の号] 紫輪/六足翁/天橋窟主人/天橋堂/六足善相人
泰輔(たいほ)すべて → *泰輔*(やすすけ)
大輔(だいほ・越村) → *徳基*(とくき・越村こしむら、蘭方医/蘭語) Ｋ３１５６

C2617 **大鵬**(たいほう;道号・正鯤しょうこん;法諱、初め其儼道徽、号;笑翁、俗姓王)1691-1774*84* 清福建黄檗僧、
1722渡来/24長崎福済寺7世/45宇治万福寺15世/58同18世/65保寿園に退隠、画、
「印章篆説」「大鵬和尚進山語録」「大鵬禅師竹林稿」著

C2618 **大峯**(たいほう・冢田つかだ/塚田/修姓;冢ちょう、名;虎、行宜[旭嶺]男)1745-1832*88* 信州長野村の儒者、
初め父門/1760江戸増上寺で仏学修学、独学で儒学修得;折衷学派/1769雄風館を開塾、
細井平洲塾の助講;古注学研究、1781(天明元)尾張藩主徳川宗睦の侍講;
尾張藩校明倫館督学/1785(天明5)江戸で私塾[雄風館]開設、寛政異学禁に対し上書;
古学学問所設置を提言;亀田鵬斎らと寛政の五鬼と称される、
1811(文化8)尾張藩校明倫堂督学;学制改革推進/1818君命で名古屋移住、
養子;渡辺美綱男慤四郎有志(のち1868お家騒動青松葉事件で処刑)が家督嗣、
1775「解慍」1801「冢註毛詩」03「冢註周易」05「管子牋註」07「昇平日新録」14「論語群疑考」、
1821「昼錦行」「江尾往還蹤」、「大峯先生詩集」「大峯先生文集」「大峯先生歌集」外著多数、
子常の弟/慈延の兄/簡かんの父、養子嗣;謙堂
[大峯(;号)の字/通称/別号]字;叔貔しゅくひ、通称;多門、別号;雄風館

C2619 **大鳳**(たいほう・富田とみた、初名;鯤こん、春山男)1762-1803*42* 肥後熊本藩士/医者;1791中小姓官医、
再春館師役/医業吟味役兼帯、藩主家の診察、儒;経史・詩文、尊王思想;高山彦九郎と親交、
「傷寒温知論」「論語知新編」「大観医事」「大観随筆」「日岳先生文集」「蒼莨亭詩集」外著多数、
[大鳳(;名)の字/通称/号]字;伯図/大鵬、通称;守善/大淵、号;日岳

C2620 **大方**(たいほう・服部はっとり/初姓;沢、名;誼/宜)1770-1846*77* 信州の儒者;京・江戸で開塾;子弟教育、
1817岩代二本松藩に出仕;藩校敬学館教授/侍医、1805「古書編図」「古文胚」「易通」、
1808「古書編図」18「子そだて草」26「人事原」35「名言通」36「大日本風土略」、
1838「古事記上代実疏」40「魯西亜志略」46「和訓六帖」、「天人雑記」「学庸考」「読春秋」外著多、
[大方(;号)の字/通称/法号]字;和甫/義平/誼平、通称;典学/半十郎/星渓、法号;豊興院
大方(たいほう・服部) → *大方*(ひろかた・服部はっとり、伊賀衆/歌人)Ｋ３７６４
大峰(たいほう・広岡) → *正恭*(まさたか・広岡ひろおか/藤原、神職/尊皇)Ｓ４０１７
大鵬(たいほう) → *一憩*(一憬いっけい、真宗僧) Ｇ１１９８
大鵬(たいほう・富田) → *大鳳*(たいほう・富田、藩士/医者/詩) Ｃ２６１９
大彭(たいほう・中川) → *憲斎*(けんさい・中川なかがわ、書家) Ｉ１８９４
大豊(たいほう;字) → *桂潭*(けいたん;法諱、窪盈わえい、真宗僧) Ｇ１８３４
泰方(たいほう・大中臣) → *泰方*(やすかた・大中臣おおなかとみ、神職/歌)Ｂ４５１３
泰邦(たいほう・土御門) → *泰邦*(やすくに・土御門つちみかど/安倍、陰陽家)Ｂ４５３２
大法(たいぼう;法号) → *観秀*(かんしゅう;法諱、真宗僧) Ｑ１５９３
大宝(たいぼう;字) → *守脱*(しゅだつ;法諱・大宝、天台僧) Ｕ２１５１
碓坊(たいぼう) → *伯兎*(はくと・石川、俳人) Ｄ３６６３
碓房(たいぼう:号) → *巨海*(こかい:道号・東流:法諱、曹洞僧)Ｌ１９８４

Y2632 **大防**(だいぼう・堤つつみ、良懐よしかね男)1739-1809*71* 近江坂田郡の医者;父門、
歌人;[彦根歌人伝・亀]入、義府よしもと・宣信のりのぶの父、
[大防(;名)の字/通称/号]字;子聞、通称;俊造、号;寿軒
子聞(しぶん・堤) → *大防*(だいぼう・堤つつみ、医者/歌人) Ｙ２６３２
対法院(たいほういん;諡号)→ *玄珠*(げんしゅ:法諱・藤井、真宗僧) Ｊ１８４８
大宝院(だいほういん;法号)→ *政房*(まさふさ・榊原/源、藩主/歌人) Ｈ４００９
大宝院(だいほういん;号) → *崇言*(そうごん;法諱、真宗大谷派僧) Ｈ２５３２
大法院(だいほういん) → *日東*(にっとう;法諱・唯妙、日蓮僧) Ｆ３３３８

大法院(だいほういん;法号)→　*宗翰*(むねもと・伊達だて、藩主/歌)　Ｄ４２５２
大峯院(だいほういん)　→　*貞泰*(さだやす・加藤/藤原、藩主/連歌)　Ｋ２００２
大宝円鑑国師(たいほうえんかんこくし)→*宗園*(そうえん;法諱・春屋;道号、臨済僧)Ｇ２５３１
大方玄機(たいほうげんき、臨済僧)→　*大随*(だいずい・道機どうき、黄檗僧)　Ｋ２６４２
太忘軒(たいぼうけん)　→　*丈草*(じょうそう・内藤ないとう、藩士/俳人)　２２２５
大法源禅師(だいほうげんぜんじ)→　*秋澗*(しゅうかん;道号・道泉;法諱、臨済僧)Ｗ２１８３
大法師(だいほうし)　→　*増春*(ぞうしゅん;法諱、華厳学僧)　Ｃ２５００
大法師(だいほうし)　→　*祐盛*(ゆうしょう;法諱、源俊頼男/天台僧/歌人)Ｃ４６４４
大法正眼国師(たいほうしょうげんこくし)→　*永琢*(ようたく・盤珪、臨済僧)　Ｂ４７４４
大方禅尼(たいほうぜんに)　→　*清子*(せいし・上杉/足利、尊氏の母/歌)Ｂ２４８０
大宝阿闍梨(たいほうのあじゃり)→　*日善*(にちぜん;法諱・大進公、日蓮僧)Ｃ３３５９
大宝房(大法房たいほうぼう)→　*西行*(さいぎょう;号、法諱;円位、歌人)　２００３
大宝房(たいほうぼう)　→　*日善*(にちぜん;法諱・大進公、日蓮僧)　Ｃ３３５９
大法房得業(だいほうぼうとくぎょう)→　*慶俊*(きょうしゅん、華厳僧)　Ｓ１６３０
代北(だいほく・竹内)　→　*恭通*(たかみち・竹内たけうち/古川、国学)　Ｙ２６０８

L2602 **大朴**(太朴たいぼく・伊形いがた、名;淳/通称;伊作)1756-82早世*27歳* 肥後の儒者;熊本藩校に修学、肥前平戸侯に招聘されたが応ぜず病没、詩人、「大朴詩稿」著

大樸(たいぼく・村山)　→　*拙軒*(せっけん・村山/塩田、幕府医官)　Ｋ２４８５
大輔公(だいほこう)　→　*宗佐*(しゅうさ;法諱、天台僧)　Ｈ２１４０
大圃老人(たいほろうじん)　→　*資胤*(すけたね・山本やまもと、庄屋/国学)　Ｊ２３３７

L2603 **泰本**(たいほん;法諱、泰俊or泰忍男?、俗姓;高階/大谷)?-1527 戦国期天台宗青蓮院坊官/法印、尊応・尊伝・尊鎮門跡に出仕/1497平等院執行、連歌;1488宮中の「伊呂波文字鎖くさり聯句」参加、1489宮中で重阿と囲碁対局(後土御門天皇の叡覧)、連歌;新撰菟玖波集入、泰存の父
[泰本の通称]通称;左公/伊予法橋

L2604 **大本**(たいぼん/だいほん;道号・良中りょうちゅう;法諱)1325-66*42* 南北期信濃の臨済僧;東林友丘門/法嗣、入元;15年滞在、帰国後甲斐浄居寺住寺/上野長楽寺30世、信濃保福寺住、義堂周信と親交/詩文;「大本中禅師外集」;「大本中禅師疏」著

C2621 **大凡**(たいぼん・石川/石河いしかわ、修姓;石、名;之清、政秀男)?-1741　幕臣/儒者;荻生徂徠門、1749幕命で安藤東野の遺稿「東野遺稿」を山井崑崙と共編、1733尾張藩に出仕、1728「唐詩礎」編、「聯偶唐詩礎」「大凡山人集」著、
[大凡(;号)の字/通称/別号]字;叔潭、通称;重次郎/十次郎、別号;黙斎

L2605 **大凡**(たいぼん・鈴木、重宣/俊卿)1751-1823*73*　常陸水戸藩士;1769彰考館入、大日本史編纂参加、「風詠集」「江戸遊覧」著、「国姓爺伝」「戦国名将伝」「足利伝」「古戦一覧」編
[大凡の別号]　風詠亭/檻泉

戴盆子(たいぼんし)　→　*香坡*(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王)Ｆ１９３４
大本禅師(だいほんぜんじ)　→　*嵩山*(すうざん:道号・居中ごちゅう、臨済僧)Ｆ２３２６
大本房(だいほんぼう)　→　*西行*(さいぎょう;号、法諱;円位、歌人)　２００３
大麿(だいま・三輪)　→　*大麿*(おおまろ・三輪みわ、神職/歌人)　Ｄ１４８３
帯万(たいまん・太田)　→　*春平*(春比良はるひら・太田おおた、狂歌師)Ｋ３６７６

L2606 **大味**(だいみ・相沢あいざわ、名;玄東/通称;玄伯)1689-? 1776存　越後糸魚川の医者、禅に精通/詩、「八十八春稿」著

L2607 **台眠**(台珉たいみん・北原きたはら、名;光久)?-?　江後期甲斐台ヶ原俳人:闌更門、同門可都里と親交、1799「にふなひ鳥」編、
[台眠(;号)の通称/別号]通称;市之丞、別号;台珉たいみん/朧亭

V2663 **大愍**(たいみん・磯貝いそがい、)1822-1902*81*　三河刈谷郡の浄土宗実相寺15世住職、国学;山中信夫翁門、歌;香川景樹門、
[大愍(;法諱)の名]名;義賢/明阿みょうあ、法名常連社精譽上人/明問義天大愍和尚

大民(だいみん・権藤)　→　*延陵*(えんりょう・権藤ごんどう、医者)　Ｆ１３４９

C2622 **太無**(たいむ・古川)　？－1774　水戸出身/江戸深川住/俳人:柳居門、

「うしのゆめ」編、「俳諧なゝわらひ」「俳諧二十三章」著、
「太無発句集」(1790刊花屋久次郎板;17回忌に門人霜後の編)、霜後・止弦の師、
[太無(;号)の別号]　義斎/秋瓜2世/吐花/松籟庵2世

C2623 **大夢**(たいむ・直山なおやま)1794-187481歳　　加賀金沢藩御算用場勤務/寺子屋を経営、
俳人:大常門、師の槐庵を継承;6世/梅室より忘庵の号を受;南無庵3世と称す、
1839-43「忘庵ちり嚢」著、1847「東遊日記」著、49「加賀千代尼発句集」編、
1852「蒼虬そうきゅう発句集」54「能登めぐり」著、1852/55「累葉集」編、59「千代尼発句集」編、
[鶯や柄杓もなくて寺厠てらかはや]、
[大夢(;号)の通称/別号]通称;宗四郎、別号;貴蒂/槐庵6世/忘庵/南無庵3世

大夢(たいむ・本多)　→ *政重*(まさしげ・本多/倉橋/直江、藩国老)Ｃ４０６９
大夢(たいむ・島)　→ *霞卜*(かぼく、島しま、商家/俳人)　Ｐ１５４０
大無(たいむ・松平)　→ *斉民*(なりたみ・松平、藩主/詩)　Ｈ３２５９
大夢庵(だいむあん)　→ *庸*(もちう・内田うちだ、商家/歌人)　Ｂ４４３０
大夢覚(だいむかく)　→ *宏源*(こうげん;法諱・覚翁;字、真言僧)　Ｉ１９６５

L2608 **大冥**(たいめい;道号・恵団えだん;法諱)?-?　江後期文化1804-18頃尾張葉栗郡の臨済宗妙光寺住僧、
徳秀院退隠、中年に失明;経典多数諳んず;1805「釈迦応化略諺解」09刊「宗門略列祖伝」著

L2609 **退溟**(たいめい・西山にしやま、名;義寅/氏寅、大衛[6代]男)1824-9067　1841兄の養子;家督/熊本藩士、
儒/詩、1859隠居;藩校時習館訓導/67病気のため致仕、「廻遊記」、「退溟詩文集」著、
[退溟(;号)の通称/別号]通称;直次郎/八郎兵衛、別号;尾池鑑水(;隠居号)

泰明(たいめい・度会)　→ *泰明*(やすあき・度会わたらい、神職/歌人)　Ｈ４５１０
泰明(たいめい・東海林)　→ *順泰*(じゅんたい・東海林しょうじ、医者)　Ｌ２１４５
泰明(たいめい・山本)　→ *泰明*(やすあき・山本やまも、神職/国学)　Ｇ４５９８
大明(だいめい・中村)　→ *中倧*(ちゅうそう・中村、藩士/医/儒者)　Ｇ２８５６
大明(だいめい・東海林)　→ *順泰*(じゅんたい・東海林しょうじ、医者)　Ｌ２１４５
大明(だいめい・谷口)　→ *藍田*(らんでん・谷口たにぐち、儒者/国事)　Ｄ４８０７
大鳴(だいめい・新保)　→ *磐根*(いわね・新保しんぼう、国学者)　Ｋ１１３４
大明院准三宮(だいめいいんじゅんさんぐう)→*公弁法親王*(こうべんほっしんのう、天台座主)Ｂ１９９１
太明山洞道士(たいめいざんどうどうし)→*義恭*(よしたか・毛束けつか、名主/神職/歌)Ｍ４７６７
大明寺(だいめいじ;号)　→ *時熙*(ときひろ・山名やまな/源、武将/歌人)Ｊ３１９３
代明親王(だいめいしんのう)　→ *代明親王*(よりあきらしんのう、醍醐天皇皇子)４７３２
大明堂(だいめいどう)　→ *元華*(げんか・内野うちの、儒者/農政)　Ｉ１８０３
大夢(だいむ、大夢庵)　→ *毛越*(もうおつ、俳人)　４４４５
大茂(だいも・小林)　→ *大茂*(おおしげ・小林こばやし/三宅、藩士/歌)Ｄ１４８２
大黙(だいもく;字)　→ *曇華*(どんげ;号、真宗大谷派僧)　Ｓ３１１６
題目坊(だいもくぼう)　→ *日覚*(にちがく;法諱・菩提心院、日蓮僧)Ｂ３３０１
題目房(だいもくぼう)　→ *日導*(にちどう;法諱・勧持院、日蓮僧)　Ｃ３３９８
大門(だいもん・宮崎)　→ *眞澄*(ますみ・宮崎みやざき、神職/国学者)　Ｊ４０２６
大門(だいもん・道家)　→ *大門*(ひろかど・道家どうけ/遠藤/津田、藩士/神職)Ｋ３７２９
待問斎(たいもんさい;号)　→ *林篁*(りんこう、真宗僧/俳人)　Ｋ４９２４
大門寺僧正(だいもんじのそうじょう)→ *定清*(定誓じょうせい;法諱、真言僧)　Ｋ２２２７
大門供奉(だいもんのぐぶ;号)→　*良勢*(りょうせい;法諱、天台僧/歌)　Ｉ４９４０

C2624 **退野**(たいや・大塚おおつか、名;久成)1677-175074　熊本藩士/儒者・佐藤竹塢門;朱子学/陽明学に転、
のち朱子学に戻る、致仕後;肥後玉名村で子弟教育;西依成斎・草野潜渓・森省斎の師、
1741「紫陽言仁要録」編、「大塚退野軒集」「大塚退野翁語録」「君子重習録」「大学体験説」、
「よめのしるべ・女るいに与ふ」「竹馬歌」著、「退野先生遺集」「孚斎存稿」「孚斎遺書」著、
[退野(;号)の幼名/通称/別号]幼名;又十郎、通称;藤左衛門/丹左衛門、
別号;蹇斎けんさい/孚斎ふさい

L2610 **大野**(だいや・若月わかつき、名;太中、秀富男)1721-9070歳　長門萩の儒者;滝鶴台門/明倫館入学、
山県周南門、藩の勘定方/右田毛利家の郷校時観園教授;1783督学、「大野詩集」著、

［大野(;号)の字］ 字;伯礼
大野(だいや・牧園) → *茅山*(ぼうざん・牧園まきぞの、藩儒) Ｂ３９１９
鯛屋海音(たいやかいおん) → *海音*(かいおん・紀きの、浄瑠璃作者/狂歌) １５０１
大薬大師(だいやくだいし) → *恵亮*(慧亮えりょう;法諱、天台僧) Ｅ１３３５
C2625 **大庾**(太庾だいゆ・赤松あかまつ/大川、名;弘、赤松沙鷗男) 1709-67*59* 江戸の儒者;父門・太宰春台門、
磐城侯に仕、「論語述」「九経述」「孝経述」「詩経述」「礼記述」「赤草子」「初学聖賢問辨初篇」著、
［大庾(;号)の字/通称/別号］字;毅甫、通称;良平、別号;太庾/述斎/赤草/木瓜亭/木瓜翁、
L2611 **太輔**(たいゆう・柚木ゆのき、字;舜民/号;竹亭、綿山男) ?-1796 代々近江の眼科医/京で医業、
「坐右方略」「本草私記」「温疫論校正私記」著、太淳たいじゅんの弟
泰友(たいゆう・森) → *泰友*(やすとも・森もり、神職/国学) Ｇ４５８９
L2614 **大有**(たいゆう・福家ふけ) ？- ？ 江中期讃岐高松の儒者/遊歴;生涯仕官せず、
奇行多し、1764刊「国策異同考」著、
［大有(;名)の字/通称］ 字;隆卿、通称;才右衛門
L2612 **大有**(だいゆう;道号・有諸ゆうしょ;法諱) ?-? 室町中期臨済僧:南禅寺天境霊致門/大鑑派、
一山派に転向;太清宗渭門/播磨宝林寺住寺/建仁寺141世/1447南禅寺160世、同雲門院退隠、
1413「南禅寺記」32「雪村和尚行道記」著、「獅子吼集」「摩訶獅子吼集」、「岷峨集」編、
［大有有諸の初号］ 無漏清霤むろうせいりゅう
L2613 **大用**(だいゆう/だいよう;道号・慧照えしょう;法諱、俗姓:山田) 1665-1729*65歳* 伯耆の曹洞僧:
1679(15歳)伯耆の竜徳寺大安門:出家、諸師に参禅/月澗義密(卍山道白の嗣)門;嗣法、
1700伯耆総泉寺住持、越前永建寺・加賀宝円寺の住寺、丹波亀岡に西光庵を開く、
「慧照禅師語録」著
大有(だいゆう) → *遠州*(えんしゅう・小堀政一、藩主/茶/造園) １３０１
大有(だいゆう・村上) → *仏山*(ぶつざん・村上むらかみ、庄屋/詩人) Ｄ３８３５
大有(だいゆう・東条) → *方庵*(ほうあん・東条とうじょう、儒者) ３９１０
大由(だいゆう) → *文斎万陀伎*(ぶんさいまだき、書肆/絵師) Ｆ３８３２
大猷(だいゆう・巌村) → *南里*(なんり・巌村いわむら、儒者) Ｊ３２６２
大猷院(だいゆういん) → *家光*(いえみつ・徳川、3代将軍/歌/連歌) １１６５
大雄院(だいゆういん) → *日恩*(にちおん;法諱、日蓮僧) ３３９４
大雄院(だいゆういん) → *正弘*(まさひろ・山口やまぐち、武将/領主) Ｇ４０９３
大猷慈済禅師(だいゆうじさいぜんじ)→*泰秀*(たいしゅう;道号・宗韓、臨済僧) Ｋ２６１６
大誉(たいよ:法号・白蓮舎)→ *大我*(だいが・絶外、浄土僧/俳/歌) Ｂ２６１０
L2615 **太容**(たいよう;道号・梵清ぼんせい;法諱) ?-1427 南北・室町期薩摩の曹洞僧・福昌寺石屋眞梁門、
了堂眞覚門/嗣法、丹波玉雲寺・徳雲寺開山/1422能登総持寺45世、
「正法眼蔵綱目」編、「太容禅師語録」著、寧中梵康・希曇崇璵・古澗仁泉・華翁禅灯らの師
L2616 **大用**(だいよう;道号・無用むよう;法諱) ?-?(*71歳没*) 室町前期臨済宗南禅寺雲門庵の住僧/詩人、
南禅寺132世景南英文[1365-1454(90歳)]と同時代の人、「一源五派辨」著
L2617 **大陽**(だいよう;道号・観月かんげつ;法諱) 1672-1731*60* 羽後横手の曹洞僧;1678(7歳)来屋策伝門;出家、
1702安栄正穏門;嗣法、羽後宝蔵寺11世、1713秋田天徳寺22世、「大陽和尚語録」著、
高林観尚・少流観印・観円独照・潜巌観機らの師
大用(だいよう;道号) → *大用*(だいゆう;道号・慧照、曹洞僧) Ｌ２６１３
台陽(だいよう・梅沢) → *敬典*(たかのり・梅沢、書家) Ｍ２６８１
泰陽院(たいよういん) → *晴朝*(はるとも・結城ゆうき/小山、武将) Ｇ３６６１
大用国師(だいようこくし;諡号)→*誠拙*(せいせつ;道号・周樗;法諱、臨済僧) Ｃ２４４５
大養生堂(だいようじょうどう)→ *玄碩*(げんせき・三村みむら、医/薬剤研究) Ｋ１８４９
泰翼(たいよく・宇津木) → *泰翼*(やすすけ・宇津木うつき/平、藩士/歌) Ｆ４５３７
泰誉如俊(たいよにょしゅん;法名)→ *孝一*(考一こういち・波多野、平曲) Ｅ１９８６
C2626 **対来**(たいらい) ？- ？ 俳人、1822「俳諧古池ぶり」著(俳論)
大賚(たいらい) → *米華*(べいか・中島、儒/詩) ２７１５
大賚(たいらい・富田) → *景周*(かげちか・富田とだ/とみた、藩士/儒者) Ｅ１５９６
大賚(たいらい・坂口) → *公弼*(きみすけ・坂口さかぐち、藩士/国学) Ｕ１６４０

大来(たいらい・千村)　→　*峒陽*(とうよう・千村ちむら/木曾、儒者/詩)Ｈ３１８７
大来(たいらい・碉はざま)　→　*師古*(しこ・碉はざま、絵師)　Ｔ２１２９
大頼((たいらい・宗岳)　→　*大頼*(おおより・宗岳むねおか、算博士/歌)　Ｂ１４９５
大賚(だいらい・中島)　→　*米華*(べいか・中島なかじま、藩士/儒者)　２７１５
台頼(だいらい/かつより・金森)→　*頼錦*(よりかね・金森かなもり、藩主/歌/俳)　Ｉ４７５７
大来堂(たいらいどう)　→　*百池*(ひゃくち・寺村、俳人)　Ｅ３７６６
大来堂(たいらいどう)　→　*鉄僧*(てっそう・雨森あめのもり、医/俳人)　Ｃ３０５４
大楽(たいらく・小池)　→　*桃洞*(とうどう・小池、藩士/儒/暦算)　Ｇ３１７５
大楽(たいらく・大場)　→　*南湖*(なんこ・大場おおば、桃洞門/藩士/暦算)Ｉ３２９２
大楽王院(だいらくおういん;諡号)→*慈性親王*(じしょうしんのう、天台座主/日記)Ｔ２１８６
大楽心院(だいらくしんいん)　→　*寛深*(かんしん;法諱、真言大僧正)　Ｒ１５１１

C2627 **平子**(たいらけいこ、橘公頼女?)?-　?　平安前期内侍:938掌侍/961典侍、村上天皇中宮安子の女房、歌人;中宮の父藤原師輔もろすけ・伯父実頼と贈答、後撰949、
[絶えぬとも何思ひけん涙河流れあふ瀬もありけるものを](後撰集;十三恋949/実頼に贈)
平関白(たいらのかんぱく)　→　*時忠*(ときただ・平たいら、廷臣/歌人)　Ｊ３１２１
平相国(たいらのしょうこく)　→　*清盛*(きよもり・平たいら、武将/廷臣/権勢)Ｄ１６６７
平禅門(たいらのぜんもん)　→　*清盛*(きよもり・平たいら、武将/廷臣/権勢)Ｄ１６６７
平大納言(たいらのだいなごん)→　*時忠*(ときただ・平たいら、廷臣/歌人)　Ｊ３１２１

C2628 **泰里**(たいり・橋本はしもと)1741- 1819*79歳*　江戸深川俳人;初世存義門、1769上京;蕪村・太祇と交流、1777姉の古友(存義門俳人)と吉野・伊勢に遊ぶ、1772几董「其雪影」2句入、84「松かさね」著、1779「其しをり」「のこるきく」編/82「聴雪園追善集」「葵足追悼」編/84「十二のしらべ」著、1802「卯の花くもり」「ふるうちは」/16「おやこ草」編、「五畳敷」「春雨百韻」「河上庵発句集」著、
[泰里の別号]　泰室/河上庵かしょうあん/五席庵、有無庵2世/存義2世、俳人古友尼こゆうにの弟

C2629 **袋裡**(たいり)　?-　?　雪門系俳人、1781「両岸行」編(雪門7部集の1)
泰里(たいり・馬場)　→　*存義*(初世ぞんぎ・馬場、俳人)　Ｅ２５７３
泰利(たいり・小林)　→　*泰利*(やすとし・小林こばやし、和算家)　Ｃ４５２５
岱里(たいり・大野)　→　*景山*(けいざん・大野、俳人)　１８５８
太理(たいり・全/金・神宅)→　*全太理*(まさたり・神宅臣、出雲風土記)Ｄ４０６７
大里(だいり・富田)　→　*畦臣*(うねおみ・富田とみた、軍学者/歌)　Ｄ１２２３
大璃寛(だいりかん)　→　*璃寛*(初世りかん・嵐あらし、歌舞伎役者)　４９５０

C2630 **大陸**(たいりく・都賀つが、名;枝春、庭鐘[1718-94?]男)?-? 江中期大阪天満の医者/読本など戯作者、1769絵本「投壺今格とうこきんかく」編/88「画本三国志」(:源吾画)、
1780父庭鐘ていしょうが「康熙字典琢屑」刊行時に大陸が凡例「初学索引」を付す、
[大陸(;号)の字/通称]字;直丞、通称;直之丞
大陸(たいりく→だいろく・杉山)→　*大象軒*(たいぞうけん・杉山当太、兵法家)Ｋ２６５７
大陸山人(たいりくさんじん)　→　*上山*(じょうざん・浅田あさだ、儒者/詩/書)　Ｊ２２３８
大律(たいりつ)　→　*文暁*(ぶんぎょう;法諱・藁井、真宗僧/俳人)Ｆ３８０４
岱立(たいりつ・菅野)　→　*彊斎*(きょうさい・菅野すげの、医/儒者/詩)　Ｉ１６７８

X2698 **台律**(だいりつ;法諱・字;紅林、)1763-1833*71*　近江犬上郡の真宗本願寺派正蓮寺住職、歌人;[彦根歌人伝・亀]入
対栗山房(たいりつさんぼう)　→　*弘斎*(こうさい・揚あげ/上野あげの、藩士/国学)Ｉ１９９５

L2618 **太竜**(たいりゅう:道号・禅驪ぜんれい:法諱、俗姓松原)1661-1721*61*　美濃加納臨済僧;1672光国寺白翁門、受戒後に諸国行脚/京の妙心寺住/名古屋の総見寺7世、「詩集」「語録」著、
[太竜禅驪の別道号/初法諱]別道号;径珠/興雲、　初法諱;智梵

C2631 **大立**(たいりゅう・竜田たつた/飛騨ひだ)1676-1744*69歳*　京の生/大阪住の俳人:来山門/のち才麿門、雑俳点者、1712「みちのかたち」編、雑俳点;1725「和国丸わこくまる」入、「俳諧毛登乃水」、「俳諧もとの水」「太平楽」著、「奉納住吉大明神壱万句集」評、「若むらさき」著、
[大立(;号)の別号]　立甫りゅうほ/水足軒

C2632 **泰竜**(たいりゅう)　?-　?　雑俳、1702鷺水「若えびす」入
V2612 **泰竜**(たいりゅう;法諱)　?-　?　江後期;日向延陵の法師、

［草枕旅はいそげど風流の門をたゞにもゆかしと思ふ］、
（1857大沢深臣「巨勢総社千首」入/美作の医者久山好進よしおを訪ひて）

泰竜（たいりゅう）　→　*尚顕*（ひさあき・勧修寺かじゅうじ、廷臣/日記）３７７９
泰隆（たいりゅう・磯谷）　→　*泰隆*（やすたか・磯谷いそがや/加藤、幕臣/国学）Ｆ４５２９
戴笠（たいりゅう；号）　→　*独立*（どくりゅう；道号・性易しょうえき、黄檗僧/医）Ｌ３１５６

L2619 **大竜**（だいりゅう；法諱・光海；字、門林利兵衛男）1713-79*67歳*　江戸神田鍛冶町の金属商、
真言律僧：湯島霊雲寺慧光門；1720出家/慧曦門、32衣鉢戒を受/56湯島霊雲寺5世、
豊島郡大竜寺の開山、1754「宝篋印陀羅尼功徳集」56「霊雲第五代住持録」、「普賢菩薩法」、
「自恣要軌」「光網菩薩法」「金剛語菩薩法要」「生念処菩薩法要」「摩迦羅天神行法」外著多数、
［大竜の通称/号］通称；一宇道人、号；円々堂、

大竜（だいりゅう；字）　→　*頼如*（らいにょ；法諱・大竜、真言僧）　４８８９
乃竜（だいりゅう）　→　*乃竜*（ないりゅう、俳人）　３２５５
泰竜院（たいりゅういん；法号）→　*貞長*（さだなが・牧野まきの/源、藩主/日記）Ｊ２００７
大隆院（だいりゅういん；法号）→　*資愛*（すけよし・太田おおた/源、藩主/老中）Ｄ２３７２
対柳居（だいりゅうきょ）　→　*是真*（ぜしん・柴田しばた、絵師/漆芸家）　Ｄ２４９９
大竜公（だいりゅうこう）　→　*斉裕*（なりひろ・蜂須賀、藩主/歌人）　Ｉ３２０８
大竜堂（だいりゅうどう）　→　*長英*（ちょうえい・高野たかの、蘭学者/医者）Ｈ２８３９
戴笠道人（たいりゅうどうじん）→　*秋台*（しゅうだい・浅野屋、畳業/書家）　Ｘ２１９８
対榴屋（たいりゅうや）　→　*寛斎*（かんさい・加藤、藩士/地歴/俳人）　Ｑ１５５７

L2620 **太呂**（たいりょ・安楽院）1771 － 1836*66歳*　陸前丸森の修験僧、陸前白石光明院（安楽院）住、
画；菅井梅関門/俳人；乙二門；乙二の箱館行に随行、1811「醒斎稿」編、「筥館紀行」編、
［安楽院太呂（；号）の名/別号］名；教宥/久宥、別号；あられ庵/醒斎
泰閭（たいりょ/やすむら?・松賀）→　*紫塵*（しじん・松賀まつが、藩家老/俳人）Ｅ２１１９

C2633 **大梁**（たいりょう：法諱、宗欣：道号）1579-1649*71*　駿河清水の巨鼇山清見興国禅寺（清見寺）住職、
詩：1635烏丸光広「春の曙の記」入；左大臣二条康道と光広一行を迎える、
［絶妙の新詩聴きて更に佳なり　推して酬和を儲けて天涯を隔つ、
芳声世を驚かす京花けいかの客　月に嘯き風に吟じて雅懐を伸ぶ］（春の曙の記；28）

L2621 **泰亮**（たいりょう：道号・愚海ぐかい：法諱）?-?　江後期曹洞僧；1751-81頃上野総社曹洞釈迦尊寺住持、
「行脚随筆」著、1774「上毛伝説雑記」編、「上毛伝説雑記拾遺」編

L2622 **大陵**（たいりょう・小松こまつ、通称；久安/別号；如水堂）?-?　江後期土佐の医者：和田東郭門、
大坂鰹座橋畔で開業医；痘瘡治療で名声、
「傷寒正義」「水腫加言」「治水加言」「如水堂医譚」著

L2623 **太亮**（たいりょう・渋江しぶえ）？－　？　江後期産科医、1850「産家教草」著

2719 **泰霊**（たいりょう：法諱・山宮やまみや、号；梅園）1832-1909*78*　越後蒲原郡の真宗大谷派の永閑寺住職、
国学；大国隆正門/歌；清水完和さだかず・大橋長憙ながよし・太田垣蓮月門

泰亮（たいりょう/やすすけ?・朝比奈）→　*南山*（なんざん・朝比奈あさいな、儒/詩）Ｊ３２０２
太了（たいりょう；字）　→　*栄天*（えいてん：法諱・太了、真言僧）　Ｄ１３２０
大亮（たいりょう・新井）　→　*明卿*（あきのり・新井あらい、儒者）　Ｄ１０７４
大亮（たいりょう/おおすけ?・村田）→　*春野*（はるの・村田、春門男/国学者）Ｇ３６６８
大亮（たいりょう・関/川越）→　*衡山*（こうざん・川越かわごえ/関、医者）　Ｊ１９２７

L2624 **大了**（だいりょう：道号・愚門ぐもん：法諱、俗姓；源）1613-87*75* 上州の曹洞僧：1624（12歳）竜門寺日照門、
諸師参禅/永平寺月洲尊海門/嗣法、上州大雲寺住寺/1656江戸青松寺住持/76永平寺32世、
1668月洲尊海・一間祖峰と「掟」提出、78「永平紀年録」著

C2634 **大梁**（だいりょう・増谷ますや/増舎）?-? 大阪心斎橋書肆：1767四代自笑より八文字屋本版木購入、
版元として1773まで活動/74隠居；書物屋久蔵の後見人、浮世草子執筆/小咄創作、
1770「世間化物気質」/72「桜御殿邯鄲之枕」「世間自慢顔」/77「順会咄献立」編、
［増谷大梁（；号）の本姓/通称/別号/屋号］本姓；渋川、通称；彦太郎、
別号；大蔵、屋号；升屋

X2639 **大梁**（だいりょう；法諱・桜部さくらべ、実英の長男）1837-1900*64*　三河幡豆郡の真宗大谷派正覚寺僧、

国学者、「癸巳泉彙」編(1893刊)、
[大梁の名/号/法名]名;峰丸、号;聚墨庵/華陰山房/春潭、法名;城英

大梁(だいりょう・奥山) → *源蔵*(げんぞう・奥山おくやま、和算家) Ｋ１８８３
泰量院(たいりょういん) → *義和*(よしより・松平/徳川、藩主/日記) Ｉ４７０５
泰領院(たいりょういん) → *広運*(ひろたか・久世くぜ、藩主/歌) Ｌ３７５５
体量院(たいりょういん) → *日耀*(にちよう;法諱・観寿、日蓮僧) Ｄ３３５１
大梁院(だいりょういん) → *忠雅*(ただまさ・松平まつだいら、藩主/詩人) Ｑ２６８０
大梁院(だいりょういん) → *忠韶*(ただてる・水野みずの、藩主/記録) Ｐ２６９３
大量院(だいりょういん) → *隆都*(たかひろ・九鬼くき、藩主/江戸開城) Ｎ２６０９
太梁院(たいりょういん) → *治脩*(はるなが・前田まえだ、藩主/日記) Ｇ３６６３
大量館(たいりょうかん) → *百親*(ももちか・森川もりかわ、医者/歌人) Ｌ４４７２
太亮軒(たいりょうけん) → *庄兵衛*(しょうべえ・高木、藩士/地誌家) Ｌ２２５５
大梁興宗禅師(だいりょうこうそうぜんじ)→ *江月*(こうげつ・宗玩、臨済僧) Ｉ１９４８
対緑(たいりょく・藤堂) → *高潔*(たかきよ・藤堂とうどう、藩主/書画) Ｌ２６７９

L2625 **泰林**(たいりん:道号・光心こうしん:法諱、俗姓;陳)1667-1728*62* 長崎の曹洞僧;1686出家;永昌寺参禅、諸方遊歴;1700永昌寺住持/肥前天草東光寺住持/同寺迦葉軒に退隠、1711「大乗中興記」13「徳翁高禅師塔銘並序」15「東向禅寺記」26「東向禅寺再興記」著
泰臨(たいりん・青木) → *東庵*(とうあん・青木/本姓;余、儒者/詩) ３１７６

L2626 **大林**(だいりん:道号・宗套そうとう:法諱、俗姓;藤原)1480-1568*89* 京臨済僧;天竜寺粛元寿厳門;出家、大徳寺東渓宗牧・伊勢玉英宗冏に参禅/古岳宗亘門;嗣法、1536大徳寺90世、56堺南宗寺開、「大林和尚法語」「泉州達山二師遺藁」著、
[大林宗套の号/諡号]号;仏印円証禅師(;後奈良天皇より)、
諡号;正覚普通国師(;正親町天皇より)

L2627 **大麟**(だいりん:法諱) ？－ ？ 江中期天明1781-89頃和泉浜寺の真宗本願寺派元立寺住職、僧樸門、三業惑乱の際;興正寺法高の意を受け能化功存と対立、「真宗裂網記」「法令論艸」、「真宗金剛杵」「真宗安心正偽編」「法令論艸」「検校異学対辨」「讃州法義邪正実録」著
大臨(だいりん・大鳥居) → *信観*(しんかん・大鳥居/高辻/二条、社僧/連歌) Ｎ２２７５
台鄰居(だいりんきょ) → *黒露*(こくろ・山口やまぐち、俳人) Ｃ１９４０
大林堂(だいりんどう) → *英斎*(えいさい・長島ながしま、書家/歌) Ｃ１３７９

C2636 **碓嶺**(たいれい・仁井田にいだ)1781-1847*67歳* 上野碓氷坂本の俳人;小蓑庵長翠門/のち破門、長翠没後;道彦門/江戸本町に小蓑庵を結庵、1817「さらしな紀行」19「続の原」再刊、1820「続都築の原」21「越簑眞集」26「雨夜集」34「続々続の原」38「簑屋集」42「阿李安計集」編、1843「俳諧初時雨集」46「今人題林集」編、「小蓑庵月次集」「山曾岐集」「古人名家録」外多数、[碓嶺(;号)の通称/別号]通称;中村かずよし、別号;橋梁/小蓑庵2世/九十九坊

L2628 **泰嶺**(たいれい・吉村よしむら) ？－ ？ 江中期備後三原の医者:明和1764-70頃長崎で外科修学、「杏花園随筆」著

L2629 **台嶺**(たいれい・勾田まがた/修姓;勾、名;寛宏/字;文饒)?-? 江後期文化1804-18頃尾張の絵師;中林竹洞門/のち元・明の古画を独学;山水画に秀でる、1814「嚢中錦心」編

L2630 **諦霊**(たいれい:法諱、諦盛たいじょう男)1818-62*45歳* 尾張津島の真宗大谷派本住寺17世;父の後継、「乎波里三十六歌仙」「尾藩三十六詩僊」著、号;偃松院えんしょういん
[諦霊の号]号;偃松院えんしょういん/偃松/六々主人

L2631 **大霊**(だいれい:法諱、権律師)？－ ？ 江後期真宗大谷派僧、文政1818-30頃遠州横須賀の長円寺住職、日蓮宗批判の著書、「仏海舵艋」「二解妨経」「問答抄裂網」「浄業金櫃」著

L2632 **大嶺**(だいれい:法諱、俗姓;牧野)?-? 1903存 幕末明治期真宗本願寺派僧;行照門、播磨川辺郡尼崎の常性寺住職、1903勧学、1847刊「阿毘達磨倶舎論大科図」著
大礼(たいれい・斎/斎藤) → *静斎*(せいさい・斎いつき/斎藤/斎宮、儒者) Ｂ２４５７
台嶺(たいれい・大沼) → *枕山*(ちんざん・大沼、詩人) Ｋ２８７６
泰衒(たいれい・加藤) → *泰衒*(やすみち・加藤かとう、藩主) Ｄ４５０６
泰霊(たいれい・山宮) → *泰霊*(たいりょう・山宮やまみや、真宗僧/歌) ２７１９

泰嶺(たいれい・佐竹)　→　*義敦*(よしあつ・佐竹さたけ、藩主/書画)　Ｃ４７１３
大嶺(だいれい・和田)　→　*邦孝*(くにたか・和田わだ、酒造業/歌人)　Ｅ１７６１
泰嶺院(たいれいいん;法号)→　*豊策*(とよかず・山内やまのうち、藩主/歌人)　Ｒ３１０９
碓嶺居(たいれいきょ)　→　*鹿鳴*(ろくめい・中村屋、旅宿業/俳人)　Ｂ５２１０
泰連(たいれん・土御門)　→　*泰連*(やすつら・土御門つちみかど/安倍、陰陽家/記録)Ｃ４５１１
胎蓮(たいれん;字)　→　*実賢*(じっけん;法諱・胎蓮;字、真言醍醐寺座主)Ｕ２１６０

L2633 **大廉**(だいれん:法諱)　1767 － 1844*78歳*　飛騨吉城郡新名の真宗本願寺派願念寺の生、
同寺の住職となる、宗乗・余乗学;柔遠門、摂津富田の本照寺得聞院の教授;同地で教育、
のち諸国行脚;学徒を指導/1831(天保2)助教、「選択集講録」「文類聚鈔記」著、
[大廉(:法諱)の別法諱/号]別法諱;眞教、 号;鳥渓

体蓮院(たいれんいん)　→　*日凝*(にちぎょう・最誠、日蓮僧)　Ｂ３３４４
大練舎(だいれんしゃ)　→　*桃隣*(3世とうりん・村田、幕臣/俳人)　Ｉ３１３６
大練舎(だいれんしゃ)　→　*桃翁*(とうおう・瀬尾せのお、俳人)　Ｂ３１６１
泰蓮社琴誉(たいれんしゃきんよ)→　*琴誉*(きんよ・泰蓮社、「謡抄」注釈)　Ｉ１６３０
大蓮社酉誉(だいれんしゃゆうよ)→　*聖聡*(しょうそう;法諱、浄土僧)　Ｔ２２９７
台蓮社霊誉洞阿光音(だいれんしゃれいよとうあこうおん)→*鸞宿*(らんしゅく;法諱、浄土僧)Ｃ４８６５
大蓮坊覚智(だいれんぼうかくち)→　*景盛*(かげもり・安達、武将/真言僧)　Ｃ１５００

C2638 **苔路**(たいろ・荒巻あらまき、通称;甚三郎、別号;厭吾亭)?-?　筑前内野の俳人:野坡門、
1739「冬紅葉」編(:師の序)、野坡追善「みどり塚」建立(杏風・鳧牧と);記念集「松の中」編

C2637 **大魯**(たいろ・吉分/吉別よしわけ/司、本姓;今田、名;為虎)?-1778(*49歳?*)　徳島藩士;新蔵奉行、
1766頃脱藩上洛、俳人;文誰/蕪村門、1773几董「明烏」(;几董と巻頭両吟興行)、
暁台・麦水らの新運動に呼応、1773夏に剃髪:改号大魯、大阪で蘆陰舎結庵、
1777東萠とうしと絶交事件;蕪村らの支持者を失う、兵庫に三遷居を結ぶ、
1778京で幽憤の裡に没、吉分禎吉が相続、1774「道の枝折」75「去来句集」編、
1775「ちぐさのかをり」著、句集「蘆陰句選」、追善集;33回忌追善「霜月十三日」(青彦編)、
[われが身に故郷ふるさとふたつ秋の暮]、
(蘆陰句選/前書;国を辞して九年の春、都を出て一とせの秋/1774[安永3]大坂)
[霜に嘆たんず蝉こおろぎ髭を握りけり](蘆陰句選/老いを嘆く自身の投影)、
[大魯(;号)の字/通称/別号]字;君威、 通称;文左衛門、
別号;馬南(;初号)/月下庵/蘆陰舎/三遷居/三選居、 法号;大応全魯居士

L2634 **大路**(たいろ・山口やまぐち、別号;素仙堂/遅日庵)?-?　江中期俳人、
1776(安永5)「草の霜」編、79「誹かい青簾」編

L2635 **岱路**(たいろ・金井かない)　？ － 1793　江中期上州引馬の僧;幼時に出家/俳人:白雄門、
諸国行脚/群馬郡渋川在御幸田に結庵;門弟指導、「霊山紀行」「毛原状」著、
追善集「俳諧三とせぶり」(門弟玉蕗ぎょくろ編)、
[岱路(;号)の通称/別号]通称;、 別号;日庵/耕淵

太呂(たいろ)　→　*太呂*(たいりょ・安楽院、修験僧/俳人)　Ｌ２６２０
退魯(たいろ;字)　→　*貞安*(ていあん、聖誉、浄土僧)　３０２２

C2639 **乃露**(だいろ)　？ －　？　小松河北俳人、1715「八ゆふぐれ」編

L2636 **大魯**(だいろ:法諱)　1768 － 1836*69歳*　泉州堺の真宗本願寺派慈光寺住職/宗乗:智洞門、
三業惑乱の際幕府に監禁;1806脱衣軽追放の刑、諸国流浪;熊本光永寺に寄宿、
肥前船津蓮光寺に隠棲/晩年は薩摩日置郡上草田に寓居、流浪の身ながら各地で法語、
「講余茶話」「亥秋老話」「選択集玄談講録」著、
[大魯の号] 西山せいざん/蔡華/学西隠師/西隠師(同門で北陸流浪の正運の北隠師に対す)

大魯(だいろ・吉分)　→　大魯(たいろ・吉分[別]、藩士/俳人)　Ｃ２６３７
大鷺(だいろ→おおさぎ)　→　*仁右衛門*(にえもん・鷺さぎ、能楽師)　３３１０
大路(だいろ・幡野)　→　*忠孚*(ただざね・幡野はたの、藩士/国学者)　Ｐ２６５２
大路(だいろ・橋本)　→　*香坡*(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王)Ｆ１９３４

L2637 **大浪**(たいろう・石川いしかわ、名;乗加、乗益男/本姓;源)1762-1817*56* 幕臣;1771家督/78大番組、
洋画家、「玄白肖像」画、1802「聚珍画帖」、「鹿角図譜」画/「仁言私説」編、

南畝・磐水・文晁と交流、
[大浪(;号)の幼名/通称/別号]幼名;甲吉、通称;七左衛門、別号;薫松軒、法号;智徳院
C2640 **太老**(たいろう・鈴木すずき)?-1866(*90余歳*) 江戸の武士;阿部伊勢守家臣/致仕、俳人:梅室門、信州諏訪の大祝霞朝子の招聘で俳諧指導、1835松本に滞在、1836「更科七部集」編纂指導、
[太老(;号)の通称/別号]通称;名倉玄翁、別号;大莫/空羅/栗庵/有序庵/盧魚庵/蔵拙庵
大滝庵(だいろうあん) → *簾水*(れんすい・武田たけだ、俳人) Ｂ５１２１
L2638 **台麓**(たいろく・鳥羽とば、名;希聡)1739-1823*85歳* 京の絵師、1784「本朝黄色白志」95「和漢研譜」著、1801「捺印補正」編/「芥子園画伝考」著、09「文林花押集」10「捺印補遺」12「壬申銷夏記」編、
[台麓(;号)の字/通称/別号]字;叡父、通称;万次郎、別号;石隠/石隠老人
太六(たいろく・久間) → *修文*(ひさふみ・久間くま、和算家) Ｂ３７８９
C2641 **大麓**(だいろく・萩原はぎわら、名;万世)1752-1811*60* 上野緑野郡萩原村の農業、漢学・江戸片山兼山門、松下葵岡と兼山門双璧、江戸両国薬研堀で講説業、「鶴堂全集」「大麓文稿」「大麓詩稿」著、「淮南子考」「韓子考」「韓非考」「孟子考」「荀子考」「老子考」「墨子考」「五経閉解」「類譚」著、
楽亭・緑野の父、西疇の祖父、門人;浜松藩主井上正定・二本松藩主丹波長祥など、
[大麓(;号)の字/通称]字;休卿、通称;英助、法号;鳥遍院
C2642 **大麓**(だいろく・たいろく・松浦まつうら、名;鴻、主膳男)?-1856 阿波鳴戸の儒医;父の業継承;大阪で開業医、大坂本町二丁目住、詩・書に通ず、頼山陽・篠崎小竹・田能村竹田らと親交、「酔烟斎吟稿」、
[大麓(;号)の字/通称/別号]字;鴻遠、通称;安道/式部、
別号;酔烟[煙]斎/酔烟居士/清癡
L2639 **大麓**(だいろく・たいろく・満生みつお、名;冕)?-? 江中期和泉の儒者:斎いつき静斎[1729-78]門、「静斎学三典」/1778「静斎学論語詁」著、
[大麓(;号)の字/別号]字;成章、別号;静学斎
大麓(だいろく・二条/九条)→ *兼孝*(かねたか・九条くじょう、関白/故実) Ｏ１５５６
大麓(だいろく・佐竹) → *義敦*(よしあつ・佐竹さたけ、藩主/書画) Ｃ４７１３
大六(だいろく・唐牛) → *東洲*(とうしゅう・唐牛からうし、藩士/儒者) Ｅ３１９５
大六(大陸だいろく・杉山)→ *大象軒*(たいぞうけん・杉山当太、兵法家) Ｋ２６５７
大六(だいろく・人見) → *璣邑*(きゆう・人見ひとみ、藩士/随筆/歌) Ｇ１６３０
大六(だいろく・和泉屋/和田)→*正主*(まさぬし・和田わだ/橘、商家/国学) Ｌ４０８７
大禄(だいろく・陶山) → *尚迪*(ひさみち・陶山すやま、医者) Ｂ３７９８
大録(代録/大六だいろく・渓)→*百年*(ひゃくねん・渓たに/河田、儒者/兵学) Ｅ３７７２
台六(だいろく・世継) → *直員*(直負なおかず・世継よつぎ、商家/絵師) Ｐ３２２４
台麓(だいろく・村田) → *了阿*(りょうあ・村田むらた、和漢学/書) Ｇ４９０１
台麓(だいろく・野村) → *文紹*(ぶんしょう・野村のむら、幕臣/絵師) Ｆ３８７７
大麓斎(だいろくさい;号) → *春登*(しゅんとう;法諱、時宗僧/国学者) ２１６３
泰和(たいわ・神保) → *泰和*(やすかず・神保じんぼ、和算/地誌家) Ｂ４５１１
乃和庵(だいわあん) → *栄忠*(しげただ・勝部かつべ、大庄屋/歌人) Ｏ２１０３
C2643 **打雨**(だう) ？－ ？ 俳人、1672?重徳「俳諧塵塚」百韻入
C2644 **朶雲**(だうん・一封亭) ？－ ？ 江中期俳人:素丸門/狂歌・芙蓉花門、
1743「芭蕉林」編、83「一本亭追福集」編
C2645 **妙**(たえ) ？－ ？ 平安末鎌倉初期の摂津江口の遊女、
西行と贈答:新古今979、
[世を厭ふ人とし聞けば仮のやどに心とむなと思ふばかりぞ](新古;十979/西行への答歌)
(世の中を厭ふまでこそかたからめかりのやどりをもをしむ君かな;978西行法師)
多益首(たえきしゅ・巨勢) → *多益須*(多益首/太益須たやす・巨勢、廷臣/詩人)Ｈ２６７１
多益須(たえきす・巨勢) → *多益須*(多益首/太益須たやす・巨勢、廷臣/詩人)Ｈ２６７１
W2605 **妙子**(たえこ・大池おおいけ、地役人富田道彦長女)1857-77早世*21歳* 飛騨高山詩歌人;祖父富田節斎門、母;栄えい(大池家出身)、高山の神職大池真澄(敏国男/水無神社宮司)と結婚/伏見にて没
当助(たえすけ・河竹)→ *当助*(たいすけ・たえすけ・河竹、歌舞伎作者) Ｂ２６７３
妙之助(たえのすけ・山寺) → *北雅*(ほくが・葛飾かつしか/山寺、絵師) Ｃ３９９４
妙観(たえみ) → *妙観*(みょうかん・薩さつ・河上、万葉歌人) Ｇ４１２３

L2640 **太右衛門**(たえもん・十一屋じゅういちや:通称)?-?　江前期京の華道家:2世池坊専好門、
1683刊「立花大全」著(;専好の理論の集大成)

太右衛門(たえもん・清水)→ *貞徳*(さだのり・清水しみず、測量家)　Ｃ２０２０
太右衛門(たえもん・武藤)→ *吉紀*(よしのり・武藤むとう、藩儒者/侍講)　Ｆ４７８７
太右衛門(たえもん・山田)→ *長堅*(ながかた・山田やまだ、藩士/歌人)　Ｐ３２７２
太右衛門(たえもん・高瀬)→ *梅盛*(ばいせい・高瀬、俳人/狂歌)　３６０６
太右衛門(たえもん・出島)→ *天山*(てんざん・出島でじま、俳人)　Ｄ３０５８
太右衛門(たえもん・本間)→ *有隣*(ゆうりん・本間ほんま、俳人)　Ｅ４６１０
太右衛門(たえもん・酒屋)→ *一酌*(いっしゃく、俳人)　Ｈ１１２８
太右衛門(たえもん・大森)→ *杖信*(じょうしん・大森おおもり、茶道家)　Ｋ２２０６
太右衛門(たえもん・米屋)→ *蘭渓亭泉*(らんけいていいずみ、田中、狂歌)　Ｂ４８９１
太右衛門(たえもん・小池)→ *信之*(のぶゆき・小池こいけ、国学者)　Ｉ３５３７
太右衛門(たえもん・山田)→ *得閑斎*(初世とっかんさい・山田繁雅、狂歌)Ｏ３１４２
太右衛門(たえもん・石尾)→ *正義*(まさよし・石尾いしお/荒木、藩士/歌)Ｎ４０５６
太右衛門(たえもん・竹村)→ *盈仲*(みつなか・竹村たけむら/松尾、庄屋/歌)Ｊ４１６７
他右衛門(たえもん・桜井)→ *勝成*(かつなり・桜井さくらい、陪臣/歌人)　Ｕ１５７３
鳥(たお/多保・江馬)　→ *細香*(さいこう・江馬えま、絵師/詩人)　２０７５
柁翁(だおう・牧野)　→ *成憲*(なりのり・牧野まきの、藩士/奉還論)　Ｉ３２０１
多乎理(たおり・小山)　→ *川蔭*(かわかげ・小山おやま、藩士/画/歌人)Ｓ１５８４
隆(たか・鷹司/前田)　→ *隆子*(たかこ・前田まえだ、歌人)　Ｌ２６８５
鷹(たか→よう・中山)　→ *城山*(じょうざん・中山/藤原、儒者/詩)　Ｓ２２６０

L2641 **隆顕**(たかあき・四条しじょう、隆親男/本姓;藤原)1243-? 1277存 母;足利義氏女、善勝寺長者、廷臣;
1257参議;従三位/66正二位/69権大納言/76辞任/77父と不和;出家、
姪の後深草院二条「とはずはたり」に屢々登場、1259正嘉三年来たやめ行幸和歌入、
1276「伏見院御伝受催馬楽ノ事」著、
歌;1259[正嘉三年北山行幸和歌]入、
[松よりも花ぞひさしき君が代のいくその春のかざしと思へば](行幸歌;22)、
[隆顕(;名)の通称/号]通称;善勝寺大納言、号;大宮、法名;顕空

C2646 **隆章**(たかあき・藤原ふじわら、法名;覚智/如心にょしん)?-? 鎌倉南北期絵師;京祇園社の大絵師職、因幡守、
1351従覚「慕帰絵詞」(本願寺3世覚如の伝記絵)の画を制作(藤原隆昌と)、
1356「諏訪大明神演義並祭礼絵」制作に参加

C2648 **高明**(たかあき・赤上あかがみ、通称;助左衛門)?-? 江初期尾張の兵法家、武将服部小平太一忠かずただ門、
「中段註釈」(口述)/「勤務要録」「将史勢節録」「甲陽軍鑑伝解」著

L2642 **隆亮**(たかあき・荻野おぎの)1639- 1709*71歳*　筑前福岡藩士、物産本草学;宮崎安貞に私淑、
「博物類海」著

L2643 **高顕**(たかあき・勧修寺かじゅうじ、初名;敬孝、尹隆ただたか長男)1695-1737*43* 母;清閑寺熙房女、廷臣;
1719高顕に改名/1723(享保8)参議/24左大弁/権中納言/28(享保13)大納言/31従二位、
「改元職事要」「公事奉公記」「節会愚抄」「節会参議至要抄」「節会外辨至要」著、
「勧修寺家執奏之始書留」「高顕御日次」著、1735「勧顕愚記」外著多数

L2644 **敬明**(たかあき・吉川よしかわ、信就のぶなり男)?-? 江中期越中富山藩士;普請奉行/勘定奉行、
若年寄/用人兼務、寄合所加判、祖父長能の「随筆」を父より継承;19巻に編纂整理、
[敬明(;名)の通称/号]通称;唯右衛門、号;容山軒

W2651 **誉章**(たかあき・桂かつら) 1733 - 1795*63*　越後蒲原郡新津組大庄屋の桂家4代、
国学/歌;松岡雄淵門、京都で書籍を収集;文庫[萬巻楼]設置;新津の文化交流、
俳諧;1773(安永2)「俳諧十論衆議拾遺」編(;許虹編「俳諧十論衆議」に洩れた作品の拾遺)、
1794(寛政6)俳諧三祖塔を秋葉山に建立、
[誉章(;名)の通称/号]通称;六郎左衛門、号;万巻楼/些兮さけい/遊宇庵

L2645 **敬明**(たかあき・野田のだ)1759 - 1825*67歳*　江戸の金工家;彫金/書画、
1810「江都金工名譜」/20「金工鑑定秘密訣」著、
[敬明(;名)の通称/法号]通称;四郎兵衛、法号;詮要心禅定門

L2646 **孝章**(たかあき・尾藤びとう、字;闇叔、温州[宣邕]3男)1761-82早世*22* 伊予川之江の代々廻船業、
儒者:長兄尾藤二州じしゅう[1747-1813]門、のち頼春水門、「奇峰詩文稿」著

2712 **敬明**(たかあき・山崎やまざき、通称;滝右衛門)1766-1841*76* 信濃更級郡の国学者、
国学・心学;興津湖山(方副)門、神道;吉川従方門

L2647 **貴明**(たかあき・丹羽にわ、庸栄男)1771-1845*75歳* 岩代二本松藩士;1788出仕/92家督/番頭に就任、
1806執政/20家老上座、文武奨励;藩校・手習所設立、消防組編成・土木工事実施、窮民救済、
他方で城下に遊郭・劇場など娯楽施設設置、1835「名実大意」「因果可咲説」著、
良臣三介(土方有経・河合道臣ひろおみ)の1、
[貴明(;名)の通称/号]通称;久馬介くまのすけ/喜久治/門十郎/備中、号;煥斎/寛斎、
法号;大乗院

Z2608 **敬明**(たかあき・原はら、通称;荘蔵)?-? 江後期;信濃伊那郡の国学者/歌人;
国学・歌;森広主(?-1825)・福住清風せいふう(1778-1848/伊那歌壇の中心)門

Z2652 **高明**(たかあき・町田まちだ、)1807-1873*67* 武蔵秩父郡の国学・歌;加藤千蔭(1735-1808)門、
[高明(;名)の通称/号]通称;半蔵、号;望雲亭/無食道人/如山

L2648 **高朗**(たかあき・梶村/柁村かじむら)1808-63*56* 京四条の儒者;摩島松南門、
墓碑銘「松南摩島先生行状」著、
[高朗(;名)の字/通称/号]字;伯令、通称;謙吉、号;李北/鴛堂いつどう

Z2670 **高炳**(たかあき・三宅みやけ、安兵衛高甫2男)1810-1881*72* 備中浅口郡玉島村の商家、高翰たかもとの弟、
絵師;本家の三宅西浦せいほ門、妻;入江美津(28歳没)/後妻;入江愛(美津の妹)、
養子;娘婿の三宅高茂(兄高翰2男)、
[高炳(;名)の字/通称/号]字;仲虎、通称;虎吉/安八郎、号;対鷗

Y2683 **高煥**(たかあき・西川にしかわ、)1814-1874*61* 紀伊和歌山藩士;江戸詰、国学/歌人、
[高煥(;名)の字/通称/号]字;孟章、通称;専助、号;修竹

Z2626 **敬明**(たかあき・広田ひろた、字;仲吾)1824-94*71* 陸奥津軽郡深浦村の素封家/和学者;歌・俳人、
戊辰戦争時;郷兵組織の隊長として沿岸を警護、
古稀に息雄太郎が「養老集」刊(;全国に祝寿作品要請/詩歌俳8百首/清人王治本の詩入)

Y2644 **高朗**(たかあき・名越なごや/なごえ、高福たかとみ男)1827-1906*80* 薩摩谷山郡谷山郷郷士(41石の上層郷士)、
農耕記録「耕作萬之覚」著(1864-71記録著/以後1876までは父高福著?)
[高朗(;名)の通称] 平八郎/源左衛門

L2649 **高明**(たかあき・楢林ならばやし)1830-1860早世*31歳* 阿蘭陀通詞;1837稽古通詞/46小通詞末席、
1847小通詞並/53小通詞助/55小通詞過人/57大通詞:エゲレス語辞書和解、
1858岩原屋敷内の英語伝習所初代頭取/59長崎奉行支配定役格、1851「エゲレス語辞書和解」、
「香港奉行ボウリング江被遣候御返事書蘭文和解」、
[高明(;名)の通称] 孝太郎/栄七郎/栄左衛門

X2683 **隆明**(たかあき・仙石せんごく、)1842-1863自刃*22歳* 因幡鳥取新田藩士/鳥取支藩池田仲建の家臣、
江戸詰右筆、国学者;平田銕胤門、尊攘運動:1863(文久3)京等持院尊氏像鳩首事件に連座、
幕吏に追われ自刃、
[隆明(;名)の別名/通称]別名;**佐多雄**/貞雄/道明、通称;司馬/泰輔

Y2684 **高陽**(たかあき・西村にしむら、通称;文四郎)1844-1904*61* 近江大津の歌人;[鳰のうみ]入、
維新後;1899大津市長, 妻;敏子(木下熙女)

高明(たかあき・京極) → *高門*(たかかど・京極、歌人) Ｃ２６６３
高明(たかあき・野村) → *文紹*(ぶんしょう・野村のむら、幕臣/絵師) Ｆ３８７７
高明(たかあき・川崎/小島)→ *有卿*(ゆうけい・小島こじま、藩医) Ｂ４６３５
孝明(たかあき・日比野/水谷)→ *民彦*(たみひこ・水谷、商家/国学) Ｓ２６２８
孝章(たかあき・柏原) → *学而*(がくじ、柏原かしわばら、蘭医/詩歌) Ｊ１５９３
敬顕(たかあき・田村) → *宗顕*(むねあき・田村たむら/中村、藩主/歌) Ｄ４２５７
隆明(たかあき・横山) → *政礼*(まさのり・横山/山、藩士/文筆家) Ｇ４００３
好謙(たかあき・吉沢) → *尺龍*(せきりゅう・吉沢、国学/俳人) Ｄ２４９６
喬明(たかあき・児玉) → *卜嵐*(ぼくいん・児玉こだま、神職/俳人) Ｃ３９８９

2607 **高明**(たかあきら・源みなもと、醍醐天皇皇子)914-98269 母;源唱女の更衣源周子、920源姓;臣籍降下、
939(天慶2)参議、946従三位/947権中納言/953大納言/955正三位、藤原師輔の支援を受、、
967右大臣/968正二位左大臣、969安和の変に連座/筑紫配流;大宰権帥;長男と出家、
972帰京;山城葛野に隠棲、没後従一位追贈、妻;藤原実頼女/藤原師輔女/同愛宮/源泉女、
朝儀故実に精通;「西宮記」著、歌人;家集「西宮左大臣集」、万代・秋風集入、
勅撰23首;後拾遺(10首528/652/653/675/以下)新古今(999/1418/1818)玉葉(1345)以下、
[七日なぬかにもあまりにけりな便りあらば数へきかせよ沖の島守]、
(後拾;羇旅528/筑紫への道中にての詠)
琵琶・笛にも長ず;秘伝相承に名がある、栄光と悲運な生涯は光源氏のモデルに擬される、
[高明(;名)の通称]西宮殿/西宮左大臣/帥殿/四条、法名;覚念、
忠賢・俊賢・経房・高松殿明子(道長妻/頼宗の母)の父

L2650 **高明**(たかあきら・京極きょうごく、初名;善勝、水野義興[京極高住]男)1735-7945 幕臣;1747家督;小普請、
父は水野を称したが高明は1747京極に復した/1762西丸書院番、詩:鵜殿士寧門、
江東公子と称される、「陽春館遺稿」(息高亮たかすけ編)、
[高明(;名)の字/通称/号]字;君柔、通称;豊作/乙三郎/三右衛門、 号;陽春館/法号;有隣

C2647 **孟卿**(たかあきら・近藤こんどう/本姓;藤原、保好男)1746-181873 母;設楽能賢女、幕臣;1767家督;
1777奥右筆;91同組頭、1806「藩翰譜続編」編纂に参加、歌;冷泉家門、1814「詠源和歌」入、
五葉類題和歌入/1798石野広通「霞関集」入(父と共に入集)、
1814堀田正敦催[源氏物語巻名和歌]参加、
[もらさねば人の心も知らぬまにまだき立つ名ぞうき契なる](霞関;712/歎無名恋)、
[孟卿(;名)の幼名/通称]幼名;虎之助、 通称;吉左衛門

X2622 **孝徴**(たかあきら・佐藤さとう、)1754-183279 江中後期;陸奥会津藩の神学師、
神道;木本成善なりよし(1735-1801)門;1795師の代行で教授、
1797(寛政9)藩命で杉本則恒・野口成意ら4人と輪年で教授、
1801(享和元)神道の秘蘊ひうんを受け神学師となる、1811(文化8)垂加派神道廃止;免職、
功績が認められ錦一把を受領、孝典たかのりの父、
[孝徴(;名)の通称/号]通称;平蔵、 号;隠山/隠山翁

L2651 **高朗**(たかあきら・京極きょうごく、高中男)1798-187477 讃岐丸亀藩主;1811襲封、長門守/従五下、
文武奨励/地誌「西讃府志」編纂を命ず、1850致仕、
詩人;1万余首の詩篇;1864「琴峰詩集」「巡封詩草」著、
[高朗(;名)の字/通称/号]字;季融、通称:友三郎/源三郎、 号;陶水/琴峰きんぽう、
神号;薦枕高朗比古命 、養嗣子;朗徹

L2652 **隆章**(たかあきら・横山よこやま、隆盛男)1805-6056歳 金沢藩士;1816家督/27従五下山城守/43遠江守、
代々家老、1823「横山家譜」編/54「愼徳院御法事之節覚」著、
[隆章(;名)の通称/法号]通称;三郎/求馬、 法号;賢松院

C2649 **高敦**(たかあつ・木村きむら、根岸直利男)1680-174263 母;一色氏の女、幕臣;木村義久の養嗣、
1707武蔵豊島郡の養家の家督嗣、大番、 西ノ丸賄頭、1741西ノ丸広敷用人、騎馬/撃剣、
巷談の研究;史伝を記述、春台と交流、1708「武徳安民記」21「武家閑談」40「武徳編年集成」、
「昭代実録」「武野燭談」「続武家閑談」著、
[高敦の字/通称/号]字;世美、通称;弥十郎、 号;毅斎

U2609 **高亶**(たかあつ・京極きょうごく、旧姓;稲垣、高門の孫)1719-8567歳 幕臣;
1751陸奥会津藩主松平容頌かたのぶを補佐;国目付とし陸奥に赴く、のち使番/目付/日光奉行、
大坂町奉行、1781御持筒頭、伊予守、幕命で薩摩に赴く;紀行あり、
歌;広通「霞関集」入(祖父と)、
[おくれつる船待ちわびし鞆の浦の浪の枕は寝いこそねられね](霞関;旅1123、
命を受け隼人はやとの薩摩に赴く途中鞆の浦で友船を待つ夜の詠)、
[高亶(;名)の初名/通称]初名;高味、通称;八之助/兵部/伊予守、

L2653 **高厚**(たかあつ・山鹿やまが、高美男)1775-184369 陸奥弘前藩士;1799中小姓/1825側用人/39隠居、
剣術家;江戸下谷の中西道場門/中西派一刀流奥義、狂歌・俳諧、「たより草」「昔噺し」著、
[高厚(;名)の通称/号]通称;次郎作、 号;橘山/玉斗庵素石/浜辺の石成

高明(たかあきら・京極)　→　*高門*(たかかど・京極[1658-1721]、歌人)Ｃ２６６３
高敦(たかあつ・藤堂)　→　*高嶷*(たかさど・藤堂、藩主/詩文)　Ｌ２６９１
高惇(たかあつ・牟田)　→　*高惇*(こうとん・牟田、剣術)　Ｆ１９３２
孝篤(たかあつ・前田)　→　*矩貫*(のりつら・前田、幕臣)　Ｆ３５１６

L2654 **隆有**(たかあり・四条しじょう/西大路:四条庶流、四条隆政男/本姓;藤原)1292-1329*38歳* 鎌倉期廷臣;
1317参議、1318加賀権守/20正三位、1313「広義門院御産御祈記」「広義門院御産記」著

L2655 **孝在**(たかあり・今大路いまおおじ、光好男/本姓;藤原)1672-1730*59*　近衛家家臣;諸大夫/1707大輔、
1709東市正兼任/23正四下、「石山要録」著

多賀庵(初世たがあん)　→　*風律*(ふうりつ・木地屋、商家/俳人)　Ｂ３８０９
多賀庵(2世たがあん)　→　*六合*(りくごう・茶屋、商家/俳人)　４９７１
多賀庵(3世たがあん)　→　*玄蛙*(げんあ・小田、俳人)　Ｈ１８５９
多賀庵(4世たがあん)　→　*筵子*(えんし・茶屋、俳人)　Ｅ１３８０
多賀庵(5世たがあん)　→　*菊年*(きくねん・藤井、俳人)　Ｋ１６２１
多賀庵(6世たがあん)　→　*由池*(ゆうち、俳人)　Ｇ４６２０

C2650 **隆家**(たかいえ・藤原ふじわら、関白道隆男)979-1044*66*　母;高階成忠女、廷臣;993従三位/権中納言、
996花山院奉射事件で出雲権守に左遷;病と称し但馬に止まる/998詮子の病で恩赦;帰京、
復任/1009中納言/1014宋医の眼病治療のため太宰権帥を兼ね下向/15正二位、
1019刀伊の来襲を撃退/帰京後大蔵卿/太宰権帥、伊周・定子の弟、詩歌人;和漢兼作集入、
万代集入、勅撰3首;後拾遺530/994・新古今874、
[さもこそは都のほかに宿りせめうたて露けき草枕かな](後拾;羇旅530、
出雲に配流される道中での詠)
[隆家(;名)の通称]　大炊帥おおいのそち、

L2656 **隆家**(たかいえ・油小路あぶらのこうじ、隆蔭男/本姓;藤原)1338-67早世*30歳*　南北期北朝廷臣;
1358参議/権中納言、歌;1350頃光厳院催「後光厳院歌合」参加
[しぐれつる雲のたえまに日影見えてあきすさまじき夕暮れのいろ](後光厳院歌合;2)

高子(たかいこ・二条后)　→　*高子*(こうし・藤原、清和天皇女御)　Ｂ１９２２
高井山人(たかいさんじん)　→　*春嶺*(しゅんれい・富田とみた、医者/歌人)　Ｐ２１２２
高石垣(たかいしがき)　→　*光忠*(みつただ・木下きのした、商家/歌人)　Ｉ４１７９
多介知(たかいち・富永)　→　*芳久*(よしひさ・富永とみなが、神職/国学者)Ｇ４７３２
鷹一叟(たかいっそう)　→　*乾什*(けんじゅう・岩本、俳人)　Ｃ１８０７

L2658 **隆純**(たかいと・鷲尾わしのお/本姓;藤原、油小路あぶらのこうじ隆前男)1775-1857*83*　母;久世栄通女、
鷲尾隆建たかたけの養嗣子、1782家督/廷臣;1813参議/20権大納言/57従一位、隆敬・隆賢の父、
1808「亀代宮親王宣下留」09「豊受大神宮造替正遷宮東庭下御申沙汰之記」著
[咲き満ちし盛り長閑けき花の枝に霞をしむる色鳥の声](松平春嶽「古今百人一首」31)

C2651 **隆氏**(たかうじ・四条しじょう、隆康男/本姓;藤原)?-?夭逝　13ct鎌倉期廷臣;従四上左少将、
歌;続千載1668・新千載1522、
[しのびねの涙宿さん花薄はなすすき秋おく露は人もとがめじ](新千載集;十四恋1522)

C2652 **尊氏**(たかうじ・足利あしかが、初名;高氏、貞氏男/本姓;源)1305-58*54* 母;上杉頼重女清子、武将;
室町幕府初代将軍1338-58在位、1331元弘乱で六波羅陥落;1333後醍醐天皇と幕府を滅亡、
建武新政の契機を作る/1335後醍醐天皇に離反;光明天皇擁立/36光厳院を奉じ入京、
1336・11月室町幕府を開く(12月吉野朝成立)、権大納言/征夷大将軍、50弟直義ただよしと不和、
1351南朝に帰順/52-53京の攻防をめぐり南朝と戦闘/55京を奪還/58従一位左大臣、
妻;北条久時女登子、直義の兄/直冬・義詮・基氏・頼子の父、連歌/歌人;二条為定・頓阿門;
為定より三代集の伝授を受、「等持院殿御集」、1335千首歌人数、1335尾道浄土寺33首奉納、
1336住吉法楽歌、46等持院殿貞和百首詠、豊浦宮法楽和歌/北野社奉納百首外多数、
1345?小倉実教[藤葉集]8首入/56延文百首参加、菟玖波集68句入、
勅撰86首;続後拾(1084)風雅(16首86/128以下)新千載(22首)新拾遺(17首)以下、
[かきすつる藻屑なりとも此度はかへらでとまれ和歌の浦波](続後拾;雑1084/高氏名)
[咲く梅の花はさながらうづもれて雪こそ匂へ軒の春風](藤葉集;春11/前大納言名)
[尊氏(;名)の通称/法号]通称;等持院贈左大臣(;等持院を創建)、法号;等持院仁山妙義

高氏(たかうじ・京極/源) → *道誉*(導誉どうよ・佐々木、武将/歌/連歌) ３１１１

L2659 **隆謌**(たかうた・四条しじょう、隆生2男/本姓;藤原)1828-1898*71* 廷臣;1841昇殿/62侍従:
尊攘派七卿の1、1863(文久3)政変で長州へ(;七卿落)、王政復古で復位入京/戊辰戦で戦功、
軍事参謀となり元老院議官兼任、1846-62「四条隆謌日記廻文帳」/1850-「四条隆謌日記」著

C2653 **高朶**(たかえだ・藤堂とうどう、高豊[高朗]男)1746-1801*56* 兄高嶷たかさどの嗣子;伊勢久居藩主;1770家督、
兄は宗家を継承、1774勅使接伴/75病で隠居/89巽岡住、歌/茶道/香道/弾琴、「高朶公集」著、
[高朶(;名)の幼名/通称/法号]幼名;胆三郎、通称;左京、法号;浄心院

高枝(たかえだ・藤井) → *高雅*(たかまさ・藤井ふじい、神職/歌人) Ｄ２６７４

2758 **堂雄**(たかお・望月もちづき、) ? - ? 江前期;武士/歌人:1682河瀬菅雄[麓の塵]入、
[信易のぶやす(・藤原)のがりまかりて(歌会)、
難波女やおのれとどめぬ梅がかも袖に入江の夜はの春風](麓の塵;春42/江辺梅)

L2660 **喬緒**(たかお・沢野さわの)1736 - 1776*41歳* 三河吉田札木町の詩人・竜草廬門、詩書に精通、
1775「豊水連珠」編、
[喬緒(;名)の通称/号]通称;半蔵/沢喬緒、号;雲台/中谷/白柯園/汝葉/算杜

L2661 **隆雄**(たかお・興野おきの、通称;市左衛門、幕臣杉浦熊蔵男)1790-1862*73* 下野黒羽藩士興野隆中養子、
養父の植林作業に惹かれ造林業、杉・檜を殖林、「杉檜山林江仕立様」/1849「太山能散遅」著

C2654 **敬雄**(たかお・羽田野はたの/はだの、山本茂義4男)1798-1882*85* 江後期三河の神職、国学;本居大平門、
三河吉田の羽田神明宮神主羽田野敬道の養嗣、1818家督嗣;羽田神明宮・八幡宮両社祠官、
1825国学;平田篤胤門、平田銕胤と親交、1848羽田八幡宮文庫創設/来遊する志士を庇護、
1868皇學所御用掛/豊橋藩皇学教授、重雄の父、
1825「古事記歌傍註」編/33「高師山考」37「能里等碁等合鏡」38「三河国総国風」著、
1857「賢樹さかき聞見集」編/59「吾妻路日記」「吾嬬之家苞」、60「きゝんこゝろえ」編、
1867「官社詣記行」、「古風土記逸文」「豊川詠草」編/「栄樹園類集」「三河国神社考」外著多数、
[敬雄の別名/通称/号]別名;兵作/茂雄/高呼/高乎、通称;常陸/栄木さかき/佐可喜さかき、
号;栄樹さかき園/佐加伎さかき園/賢樹さかき園/琴書堂文英、飯田昌秀まさひでの弟

L2662 **嵩雄**(たかお・檀だん、通称;甚右衛門)?-? 江後期摂津御影の歌人;足代弘訓門、
「壇嵩雄詠草」著

V2657 **恭雄**(たかお・飯田いいだ、)1828- 1885*58* 伊豆田方郡三島神社禰宜の飯田守年の養子、
国学;平田篤胤・鉄胤門、文人画を能くす、1877「皇朝史略便蒙」編、
[恭雄(;名)の通称/号]通称;源兵衛/年寛、号;雪城

孝夫(たかお・高根) → *敬節*(けいせつ・高根たかね、藩士/儒者) Ｇ１８２２

敬夫(たかお・齋藤) → *鶴磯*(かくき・齋藤さいとう、儒者) Ｈ１５２４

貴雄(たかお・加藤) → *歩簫*(ほしょう・加藤かとう、国学者/俳人) Ｅ３９２７

Y2656 **高岳**(たかおか・中務なかつかさ、)?- 1847 河内渋川郡の国学者・歌;香川景樹・伴林光平門、
[高岳(;名)の字/通称/号]字;光穂、通称;貞右衛門、号;亀石/好日軒

L2663 **高岳**(たかおか・片山かたやま/本姓;藤原/初姓;蔵重/倉重くらしげ)1830-74*45* 長門萩藩士;
藩命で周防三田尻の片山家を嗣ぐ、国学者・鈴木高鞆・平田鉄胤門、
儒仏を排し神道主唱;尊攘派、三田尻郷校助教、維新後1872学制頒布の学校設立に尽力、
1854「波のしたくさ」、奇兵隊「桜山歌集」跋文、
[高岳(;名)の別名/通称]別名;高邨/高訓/高庭たかにわ、通称;貫一郎

殷阜(たかおか・古屋) → *太郎兵衛*(たろべえ・古屋、商家/読書家)Ｔ２６７５

L2664 **高岳親王**(高丘-たかおかしんのう、眞如、平城天皇皇子)799-865?不明 母;伊勢老人女継子、809皇太子、
810薬子の変により廃止/出家、三論;東大寺道詮門/法相;修円門/真言密教;空海門、
855修理東大寺大仏司検校;861任終了、862(64歳)宗叡らと入唐/長安青龍寺の法全門;
伝法灌頂を受、遍明と改名、
865(67歳)天竺への旅;広州から雲南を経て天竺へ向うが行方不明、
「胎蔵界次第」著、伊勢興房「眞如親王入唐記」がある、壱演・由蓮・隆海らの師、
[高岳親王(;俗名)の法諱]眞忠/眞如しんにょ/遍明へんみょう
参考 → *興房*(おきふさ・伊勢、官人/通事) Ｃ１４９７

V2644 **殷興**(たかおき・伊藤いとう、通称;磯次郎)1748-1778*31* 伊勢奄芸あんき郡の国学者;本居宣長門

V2699 **殷興**(たかおき・小野おの、字;千舟/通称;清右衛門)?-1802　備後福山藩士/国学者

L2665 **高起**(たかおき・梅田うめだ/本姓;平)1786-1858*73*　代々越前今立郡池田総社の神官/大宮司・正五下、国学;巌垣松苗・足代弘訓・田中大秀門、国典に精通、1803「南越温故集」32「国史神名考」、[高起(;名)の通称/神号]通称;式部/長門守、神号;高起神

2729 **隆興**(たかおき・横山よこやま、俳号;居中、家老横山隆章3男)1848-1916*69* 加賀金沢藩校明倫堂に入学、和漢学修学、大阪開成学校で洋学を修学/1880(明治13)吉田八百松の銅山協同採掘に関与、1881甥の横山隆平と尾小屋銅山を経営/飛騨の平金銅山等に事業拡大;北陸の銅山王の称、加州銀行頭取/金沢電気瓦斯取締役

高起(たかおき・藤井)　→　*高雅*(たかまさ・藤井ふじい、神職/歌人)　Ｄ２６７４

高興(たかおき・山鹿)　→　*素行*(そこう・山鹿やまが、兵学者)　２５２２

隆音(たかおと・細井)　→　*隆音*(たかね・細井/杉、廷臣/歌人)　Ｃ２６５５

高雄御室(たかおのおむろ)　→　*性仁親王*(しょうにんしんのう、真言仁和寺僧)Ｂ２２１１

高雄僧正(たかおのそうじょう)→　*真済*(しんぜい;法諱、紀僧正、真言僧)　２２３９

高雄僧都(たかおのそうず)　→　*寛耀*(かんよう;法諱、真言僧/歌人)　Ｅ１５１９

Z2586 **孝臣**(たかおみ・宗崎むねざき、)1827-1887*61*　筑後久留米藩士、国学者、一宮高良大社大宮司家、[孝臣(;名)の通称]丹後守/宰記

C2656 **隆蔭**(たかかげ・油小路あぶらのこうじ、西大路[四条]隆政男/本姓藤原)1295-1364*70* 油小路家の祖、廷臣、1331元弘の変には持明院統に立つ;参議従三位、33後醍醐天皇帰京で一時停職/34復職、1347北朝方で権大納言/49正二位/64出家、1318「隆蔭卿記」21「広義門院御産記」、1331「剣璽渡御記」著、　[隆蔭(;名)の法号]　頼乗

C2657 **隆景**(たかかげ)　？-　？　南北期;連歌1385良基「石山百韻」連衆(2句)、[行きくらす関より末やかすむらん](石山百韻;賦何船;名残表7、終日歩き着く東路の関、その先は霞の中、前句;任阿;春はすぐるにのこる東路あづまぢ/東国の春は遅い)

L2666 **孝景**(たかかげ・朝倉あさくら、家景男/本姓;日下部くさかべ)1428-81*54*　室町期武将、足利義政の家臣、斯波義敏と戦闘/1467応仁乱では西軍:のち東軍に属し軍功、1471室町幕府越前守護代、一乗谷に住;没、「朝倉繁景十七箇条」「朝倉英林入道家誡」「朝倉英林入道子孫へ一書」、[孝景(;名)の幼名/初名/通称/法号]幼名;甚之助、初名;教景/繁景、通称;孫右衛門尉/弾正左衛門尉/英林入道、法号;英林宗雄

C2658 **隆景**(たかかげ・小早川こばやかわ、毛利元就3男)1533-1602*70*　戦国・安桃期武将、隆元・元春の弟、安藝竹原沼田の小早川家の家督を嗣、元春と共に甥(隆元男)毛利輝元を補佐、秀吉と和睦;筑紫肥前の領主、文禄役で明軍に勝利、[梓弓春の山辺にかすみたつもゆとも見えぬひざくらの花](;萩の歌人入)

L2667 **良景**(たかかげ・山村やまむら、初名;良林/良頼、良忠2男)1683-1710早世*28* 父;名古屋藩木曽代官、1706家督を嗣;木曽代官となる、1706「木曾考」著(;木曾領主の興廃を記録)、[良景(たかかげ;名)の通称/法号]通称;三郎九郎/甚兵衛/外記、法号;紫嶂院/凝翠院

C2659 **高蔭**(たかかげ・三井みつい、初名;高照、松坂北家三井高路養嗣)1759-1839*81* 伊勢松阪の豪商/家祖、国学:本居宣長門、歌/故実/書、「弁玉霰二論」「三井高蔭書簡」「月次会歌集」著、[高蔭の通称/号]通称;岩三郎/亀之助/宗十郎/総十郎、号;藁廕舎わらびさしのや/宗養　宗十郎家;高蔭一高延一高潔一高猷

尭景(たかかげ・里村)　→　*昌休*(しょうきゅう・里村さとむら、連歌師;家祖)Ｓ２２０３

高蔭(たかかげ・松平)　→　*正広*(まさひろ・松平まつだいら、藩士/国学)　Ｓ４０７０

高景(たかかげ・朝倉/長坂)→　*雲楽斎*(うんらくさい・長坂、幕臣/狂歌/戯作)Ｂ１２２３

L2668 **隆量**(たかかず・四条しじょう、隆盛男/本姓;藤原)1429-1503*75*　室町戦国期廷臣;1468善勝寺長者、1490権大納言/97従一位/98出家、文明1469-87頃美濃住;「花鳥余情」書写、1494「伊予旧紀編神祇部」編、連歌;新菟玖波1句入

L2669 **隆量**(たかかず・鷲尾わしのお/本姓;藤原、広橋兼勝男)1606-62*57*　鷲尾隆尚の養嗣子/廷臣;1639参議、1648権大納言/54正二位、「羽林家貫首拝賀次第」著

C2660 **孝和**(たかかず・関せき、内山永明男)1640/43-1708*66-69* 母;湯浅与右衛門女、関家の養子、甲府府中藩士、勘定吟味役/1704藩主綱豊が将軍綱吉の世子となり幕臣御納戸組頭に就任、和算家・中国の楊輝算法を研究し天竄てんさん術;1674「発微算法」出版、80授時を発明、

筆算式代数学を考案;関流和算を創始、方程式論・行列式論・幾何学・暦術を研究、
「大成算経」「解伏題」/「方陣円攅」「容術図解」編/「授時暦経立成」「三体集」など著多数、
[孝和(;名)の字/通称/号]字;子豹、通称;新助、 号;自由亭、 法号;法行院

W2640 **敬和**(たかかず・加藤かとう、)1685-1759*70* 播磨揖保郡の里正、屋号;小倉屋、
歌人;東ひがし知退ちたい・門、
[敬和(;名)の別名/通称/号]別名;敬信たかのぶ、通称;彦五郎/権平、号;艮斎/南山

L2670 **孝和**(たかかず・前田まえだ、孝貞男)1692-1749*58* 金沢藩士;如来寺請取火消/小松城番/江戸留守居、
1728家老;35解任;47再任、「前田孝和覚書」「系図帳」「江戸火消行列覚帳」著、
[孝和(;名)の通称] 左門/勘解由かげゆ

L2671 **高般**(たかかず・藤堂とうどう、津藩主藤堂高治男)1731-54早世*24* 津藩主藤堂高豊[高朗]の養子;世子、
大学頭/従四下、早世24歳(法号;本寂院)、詩、「佩蘭はいらん余音」著、
[高般(;名)の字/号] 字;子儀、
号;篠岳/中山長/彷徉ほうよう主人/休々子/懿章亭/雨蕉園/采桑居/佩蘭斎はいらんさい

L2672 **隆師**(たかかず・四条しじょう、隆叙男/本姓;藤原)1756-1811*56* 江中期廷臣;1804権大納言/正二位、
1789-90「禁中非常附日誌」著

W2698 **敬一**(たかかず・小出こいで、)1816-1899*84* 尾張海東郡の郷社国玉神社祠官、
神道・歌;深田香実こうじつ(正韶)門、
[敬一(;名)の通称/号]通称;定吉、号;聚斎

尊算(たかかず・千家) → *尊茂*(たかしげ・千家せんげ、国学者/歌人) Ｘ２６８０
天壽(たかかず・青木) → *天壽*(てんじゅ・韓かん/青木/中川、書家) Ｄ３０７２

C2661 **高風**(たかかぜ・宮道みやじ、義名男)?- ? 940存 平安前期廷臣;従五下/右京亮、歌人:後撰72、
[春の池の玉藻に遊ぶ鳰鳥にほどりの脚のいとなき恋もするかな]、
(後撰集;二春72、脚のいとなきは脚を休めるひまがないの意)

雄風(たかかぜ・清原) → *雄風*(おかぜ・清原・森、医/儒/歌) １４３２
隆風(たかかぜ・大河平/後醍院)→ *真柱*(みはしら・後醍院ごだいいん、国学者)Ｆ４１７１

C2662 **隆方**(たかかた・藤原ふじわら、隆光男/母;源国挙女)1014-78*65* 平安中後期廷臣;1044右衛門少尉、
蔵人/備後守/1075権左中弁/77但馬守;任国で没/正四上、源俊房の家人、家暦「但御記」、
歌人;1041師房歌合に方人参加/56殿上詩合参加(;詩人)、出羽弁集・四条宮下野集に入、
和漢兼作・万代・秋風集入集、後拾遺2首;667/865、風雅1045詞入、
通称;但馬弁、祖父;宣孝(紫式部の夫)/叔母;大弐三位、隆成の兄、
妻;平行親女/為房(参議)・家実(左衛門少尉)の父、
[暮るゝまの千歳を過ぐす心地して松はまことに久しかりけり](後拾;恋667、
行平女の許に通い初めて翌朝の詠/松と待つを掛る)

L2673 **高堅**(たかかた・藤堂とうどう、高次たかつぐ男)1650-1715*66* 母;香雲院(側室/黒川氏)、伊勢久居藩主、
1697兄高通の遺領襲封/1706将軍家の命で江戸根津権現社造営手伝、
歌人;「高堅公歌集」、高陳たかのぶの父、
[人なみに求むる事のなき身にもをしむは同じ年の名残か](茂睡[鳥の迹]冬529)、
[高堅(;名)の幼名/別名/通称/法号]幼名;正次郎/庄次郎、別名;高登/高忠/高隆、
通称;図書ずしょ/備前守、法号;顕輝院

L2674 **高堅**(たかかた・橢島ぬでしま、改姓;島、重栄男)1763-1848*86* 上野矢田藩士/1782手代見習/83手代、
1805代官・中小姓格/1832致仕、自伝的回想録「島高堅自記」「多胡旧記」著、
[高堅(;名)の通称/号]通称;栄助/丹治、号;丹斎、法号;善学院

L2675 **高堅**(たかかた・那須なす) ? - ? 江後期;越後の国学者、
「歌文沿革考」「古今集評註」「百人一首撰次第」著

U2669 **隆方**(たかかた・有田ありた/本姓;源)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[み渡しの外山の雲はかつはれぬあなた面や今しぐるらん]、
(大江戸倭歌;冬1068/遠時雨)

Z2621 **尊賢**(たかかた・匹野ひきの/旧姓;岡野、)1795-1859*65* 遠江周智郡の国学者、駿河府中に住;組頭役、
妻;万世子ませこ

隆賢(たかかた・藤原) → *隆資*(たかより・藤原、安隆男?) Ｅ２６０９

隆賢(たかかた・鷲尾/藤原)→　*隆資*(たかます・鷲尾、隆純男)　　Ｎ２６２５

L2676 **隆勝**(たかかつ・建部たけべ、号;留守斎)?-?　　室町後期戦国期香道家:志野宗温門;志野流香道、
1573名香70種を分類;「雪月花集」編、香道建部流の祖、1560茶会で蘭奢待らんじゃたいを使用、
1573「建部隆勝筆記」、「香道秘伝書」「香品目」著、蜂谷宗悟・氏卿・有楽斎・利休らの師、
賢文と同一人説あり→　*賢文*(かたぶみ・建部、伝内、武将/書家)　１５１９

X2641 **孝勝**(たかかつ・指田さしだ、旧姓;加藤)?-1875　　飛騨高山の地役人;越中中街道口留番所など歴任、
国学者;田中大秀門、「飛騨かな山絵図」著、
1852(嘉永5)東屋勇吉(白真弓しらまゆみ肥太右エ門ひだえもん)を相撲力士に推薦;浦風部屋入門、
[孝勝(;名)の通称]　織之助

Y2639 **高克**(たかかつ・たかよし・藤堂とうどう、高芬たかか男)1816-1887*72*　伊勢津藩支藩久居藩支流の一族;
1840(天保11)家督嗣;本家津藩主藤堂高猷の番頭、1866(慶応2)第2次長州征伐の津藩総督、
功績により津藩家老、藩主病弱となり世子高潔を支え藩政執行、国学者、
1852武蔵忍藩浪人の宮信徳の泳法を[観海流]と名付け藩校有造館武道科に採用、
妻;藤堂長教女、
[高克(;名)の字/通称/号]字;士義(儀)、通称;出雲/帰雲、号;雲逸/常山/聴海庵

C2663 **高門**(たかかど・京極きょうごく、初名;高明、但馬豊岡・丹波田辺城主京極高直2男)1658-1721*64*　幕臣、
1663家督;2千石;寄合、堂上派歌人;中院通茂門、武術を修得、禅門に帰依;碩徳門、
黄檗宗;梅峰・鉄眼道光門/次に宝洲道聡門;金粟居士と称す、鉄牛道機・潮音道海にも参禅、
1684「湯沢紀行」97「隅田川十五番自歌合」著(;基賢判)、1715家集「曲妙きょくみょう集」著、
「三蛙文集」「浦のしほかひ」著、茂睡[鳥の迹]・広通「霞関集」入集、
1728(享保13)宝山企画「諏訪浄光寺八景詩歌」入(利根遠帆とねのえんぱん/歌は琢玉)、
[あづさ弓やしまの外も日本の光にもれぬ春や立つらむ](霞関集;春1/冒頭歌)、
[明けわたる雲間にみえて行く舟の帆かげも白し利根の川波](八景歌)、
[高門(;名)の通称/号/法号]通称;兵部、号;三蛙軒/煙霞病客/金粟居士/槐老和尚、
法名;密林、法号;金粟院

Y2680 **隆廉**(たかかど・西大路にしのおおじ/本姓;藤原、隆栄男)1703-39*37*　廷臣;参議西大路隆業の養子、
左近中将/正四下、妻;桜井兼供女、和学者、隆共(1738-99)の父

V2670 **隆圭**(たかかど・今木いまき、医者伊沢敬忠男)?-1837　　信濃伊那郡大出村の生、医者;父門、
歌;実父(桃沢夢宅門)門、知久町の今木知足の養子/飯田で医業、
国学・歌;森広主・服部菅雄・植松茂岳門、塩沢亮雄・福住清風・森本真弓・丸山真篶と交流、
妻;とぢ(旧姓;森本/歌人)、鼎の父、法号;珠臺院

C2664 **高門**(たかかど・大館おおだち/本姓;源、名;大熙/信熙、信勝男)1766-1839*74*　尾張海東郡木田村の農業、
国学/歌;本居宣長門、医;吉田玄覚門、1833上京;一条家侍医、煎茶修得、上田秋成と交流、
1821古書「口遊」版に尽力;所蔵古文書現存、高庸・林梅うめの弟、
妻;横江土佐とさ(1776-1848/宣長門国学者)、
「清廬すがいお集」「岐阜の道草」1826-27「年越もうての記」著、
[高門(;号)の通称/別号]通称;左市、別号;瓊主/清廬すがいお/梅の屋

U2629 **孝門**(たかかど・筑紫つくし、仙石淡路守政寅3男)1775-1838*64*　筑紫惟門の養子旗本/幕臣;3千石、
従五下/佐渡守、市谷船河原町住、奥小姓/浦賀奉行/日光奉行/西丸新番頭;隠居、
妻;貞子(青木氏の女/歌人)、息子;徳門・義処・鹿島則孝(のりたか・3男/神職)・正路など、
則孝「桜斎随筆」に入、
妻　→　*貞子*(さだこ・筑紫つくし/青木、歌人)　　Ｎ２０３３
息則孝　→　*則孝*(のりたか・鹿島/中臣、神職/文筆)　Ｅ３５８６

U2634 **高門**(たかかど;名・石場いしば/本姓;藤原、通称;斎宮)?-?　江後期幕臣;蝦夷箱館奉行所支配調役並、
初め1845-49頃松浦武四郎の探検調査に同行;書類作成・保管を担当;「夕張日誌」跋文執筆、
1854(安政元)下田・箱館開港;箱館奉行所開設;1856(安政3)奉行所支配調役並に就任、
1856室蘭に在勤し山越内まで支配;箱館奉行所に伺文書提出、
1857登別温泉への道路開通に尽力、歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[千代経ふてふ田鶴のむらとりうち群れて雛を育む舞のめでたき](沙流川踏査後)、
[夏野行くむしのたれぎぬ吹きかへし夕立過ぐる風の涼しき](大江戸倭歌;夏618)

Z2604 **高廉**(たかかど・早雲はやくも、高古たかふる[1802-71]男)?-1872　江後期;阿波徳島の神職;
富田八幡・国端彦神社祠官、阿波国触頭、国学・歌;父門、
[高廉(;名)の別名/通称]別名;高韶/春樹、通称;美濃守

C2665 **高兼**(たかかぬ/たかかね・藤原ふじわら、家名;星野、初名;高実?、藤原教房男?)?-? 鎌倉期廷臣;
摂津守/美濃守、従五上、歌人:続現葉集入集、続後拾遺874、
[あま小舟はつせをとめの花かづらかけても今はとはぬころかな](続後拾;恋874、
あま小舟;泊はつ[初]にかかる枕詞/初瀬女はつせめは木綿花を造る/花かづらまで序詞)

L2677 **隆兼**(たかかね・大江おおえ、匡房まさふさ男)?-1102　母;藤原重経女、廷臣;1079対策/加賀権守/式部少輔、
従四上/詩人:紀伝道に修学、「本朝無題詩」入・続文粋入

C2666 **隆兼**(たかかね・高階たかしな、号;春日/土佐)?-?　鎌倉後期大和絵師;右近将監/絵所預
「石山寺縁起」1-3巻/1309「春日権現験記」、「春日大明神影向図」「伊勢物語絵巻」画、
「法相宗秘事絵詞」「常磐井殿牛の図」「矢田地蔵縁起」画

Y2666 **高包**(たかかね・中山なかやま、通称;長右衛門)?-1857　信濃福島の歌人;香川景樹門、
木曾代官山村家の年寄役

Y2698 **孝包**(たかかね・橋本はしもと/本姓;藤原、通称;播磨)?-1851　伊勢安濃郡の美濃夜みのや神社神主、
国学者;本居宣長門

高権(たかかり・大倉)　→　*鷲夫*(わしお・大倉おおくら、商家/歌人)　５３０５

W2618 **喬樹**(たかき・大橋おおはし、)1787-1860*74*　越中高岡の商家/国学者;富士谷成章門、
[喬樹(;名)の通称/号]通称:八左衛門/八三郎、号;侗斎、屋号;鷲塚屋

X2675 **高樹**(たかき・菊池きくち/本姓;藤原、)1810-59*50*　伊予八幡浜の神職/国学者/歌人、
歌;近田八束判[四拾番歌合(八幡浜歌人歌合)]12首入/[ひなてぶり]6首入

喬木(たかき・志賀)　→　*巽軒*(そんけん・志賀/杉森、藩儒/教育)　Ｅ２５７８

多嘉喜(たかき・大山)　→　*時里*(ときさと・大山おおやま、国学/歌人)　Ｕ３１５４

W2620 **隆公**(たかきみ・大森おおもり/本姓;藤原、旧姓;大守)1821-87*67*　備前御津郡吉備津神社社務、
国学者;平賀元義門、
[隆公(;名)の別名/通称]別名;隆友/隆範、通称;光之助/浪江/肥後守/古野

高子(たかきこ・二条后)　→　*高子*(こうし・藤原、清和天皇女御)　Ｂ１９２２

高畿舎(たかぎのや・内池)　→　*永年*(ながとし・内池うちいけ、商業/国学)　Ｅ３２８５

2776 **孝清**(たかきよ・藤原ふじわら、良綱男)?-?　祖父;範永/母;美濃守源頼国女、平安期後期廷臣;正五下、
伊賀守/周防守、宗覚・後二条関白師通家女房・高倉泰仲室の兄弟、
妻;外記清原顕俊女、宗隆(拾遺抄歌人)・範清(待賢門院蔵人)・祐勝の父、
宗隆の子孫は高倉家・堀河家・樋口家、歌人;1165[続詞花集]入、
[我のみと思はじ今は花すすきゆきかふ人をまねくなりけり](続詞花;秋231)

C2667 **隆清**(たかきよ・九条くじょう、隆教男/本姓藤原)?-? 1350存　廷臣;従四上、歌人:1346仙洞詩歌会参、
1346風雅集竟宴に参加/1350仙洞御遊・和歌御会に参加、明題歌全集・類題集入、風雅1294、
[変らぬもなかなかつらしもろともに見し夜の月は同じおもかげ](風雅;恋1294)

C2668 **高清**(たかきよ・勘解由小路かげゆこうじ・海住山かいじゅせん、清房男/本姓;藤原)1435-88*54*　廷臣;1358参議、
1475従二位/80権大納言、歌人;内裏・近衛家・幕府等の歌会・連歌会に参加、
1373親長歌合/75公武歌合/84歌合に参加、1481和漢聯句2度・83和漢聯句参加、新菟4句入、
[諏訪の海や浪路はれたる秋風に月のこほりをわたる船人](公武歌合;一番左)

L2678 **隆清**(たかきよ・香西こうざい/かさい、守清2男)1641-1720*80*　出雲松江藩家老;1665家督;父の家老職2千石、
1674(延宝2)出雲鰐淵寺に隠居を命じられる;出家、篠崎霊山寺薬師堂の住持、
「七種宝納記」著、
[隆清(;名)の通称/号]通称;源五左衛門/茂左衛門、号;浮水/頼山

C2669 **高潔**(たかきよ・小野おの、初名;高成、高尚男/本姓;平)1747-1829*83*　母;石野喜蔵広道の妹、
幕臣;家督嗣;小普請/大番、1791致仕、正室;量子ますこ(蜂須賀昭順女)、幽軒の父
江戸の国学者、歌/本草に精通、霞関集入、「古今集聞書」「敷浪草」、1782「倭薬考」85「鈴考」、
1811「倭方類纂」12「納涼問答」13「夏越茅輪辨」17「古語拾遺筆録」18「日向草」外著多数、
1798刊広通「霞関集」入、

［あさ戸吹く風もいつしか寒からで起出づる袖に匂ふ梅が香］(霞関;春54)、
［高潔(;名)の通称/号］通称;幾之助/斎宮、
号;探頤堂/反古ほうぐ亭/玄々亭/有隣軒/三近舎/竹叢/佚泰子/牛隠/東山/五樹亭
正室;量子ますこ(蜂須賀昭順女)、幽軒の父

L2680 **生静**(たかきよ・山科やましな/本姓;紀、紀生民男)1759-1834*76* 母;山科(紀)以方女、廷臣;式部大丞、玄蕃権助、1817但馬守、27従四下、1807「亮深伝法灌頂参向記」著、生直たかなおの父

L2679 **高潔**(たかきよ・藤堂とうどう、高猷たかゆき男)1837-89*53* 伊勢津藩主;従三位/1851世子/64左近権少将、父に代わり京の守護/1868鳥羽伏見戦には政府軍に参加/71家督相続;藩知事、書画・喜多流の能に堪能、1866「鳳暦帖」書、
［高潔(;名)の幼名/字/号］幼名;禄千代/大助、字;明卿、号;二洲/対緑/容斎、法号;高寒院

C2670 **駝岳**(陀岳だがく・竹下たけした/初姓;絹原きぬはら/本姓;村上)1742-1815*74* 信州某侯京屋敷留守居役、駝岳の時に浪人、大阪に移住;寺子屋の師匠となる、俳人;舎椁しゃばっ門、
1777(安永6)八千房を継承;1809(文化6)門弟屋烏に譲渡、
1781「誹諧五色舟」82「西遊吟」編、83「淡々発句集続篇」編、86「明五集」93「蟋蟀巻」編、
1794「河図巻かわずのまき」98「こしあふき」、1805「大江丸追善集」「百不二」編、
1807「枯野集」「丁卯青陽集」編、「夕がほの巻」著/外編著多数、
［駝岳の別号］ 夷柏(;初号)/八千房はっせん［はっち］ぼう2世、(晩年号;)五竹庵/木仙(木僊)

2608 **隆国**(たかくに・源みなもと、初名;宗国、俊賢2男/母;藤原忠尹女)1004-77*74* 廷臣;1034参議/46正二位、1067権大納言/関白頼道と親密でその女寛子の皇后宮・太皇太后宮大夫を務める、
1074(承保元)致仕/77出家、歌人、
晩年;宇治平等院南泉房に籠り説話集「宇治大納言物語」(原今昔物語/散佚)を編したか、「安養集」著、藤原頼道歌合・1056四条宮春秋歌合参加、
勅撰5首;後拾遺(556)千載(6)新古今(725)続古今(1403)玉葉(2027)、
［思ふらん別れし人の悲しさは今日まで経ふべき心地やはせん］(後拾遺;哀傷556、
出羽弁いではのべんの親の死を聞き自分の父俊賢の死[1027万寿4]の悲しさを思い贈る、
出羽弁の返歌557;悲しさのたぐひに何を思はまし別れを知れる君なかりせば)
［隆国(;名)の通称］宇治大納言、 顕基の弟、妻;源経頼女、隆俊・隆綱・俊明・覚猷の父
参照 → *出羽辨*(いではのべん、平たいらの季信女)Ｂ１１６８

C2671 **高国**(たかくに・畠山はたけやま、時国男/本姓;源)1305-1351奥州討死*47* 武将;北朝尊氏家臣、伊勢守護、1336-38南朝方と戦う/1345嫡子国氏の奥州一方管領に伴い奥州下向;国氏の後見、観応の擾乱勃発で他方の管領吉良貞家と対立;陸前岩切城で父子共に自害、
歌人;風雅1487/新続古1095、藤葉集2首(畠山上野入道名)入、
［春といへば昔だにこそかすみしか老いのたもとにやどる月かげ］(風雅集;十五1487)、
［今朝はまづたがあとつけてとはれましひとりみるよの庭の白雪］(藤葉;冬368)、
［高国(;名)の通称/法名］通称;小太郎/蔵人/上野介、法名;信元

C2672 **高国**(たかくに・細川ほそかわ、政春男/政元の養子)1484-1531自刃*48* 武将/従四下民部少輔/武蔵守、1507政元を暗殺した香西元長を討伐/政元の相続者澄元を追放/管領;大内氏と幕政運営、1521足利義晴を将軍に擁立;実権掌握/25出家、三好元長と対峙;31摂津天王寺で敗北、尼崎で捕縛:大物広徳寺で自刃、武芸/諸道に通ず;歌/連歌、「細川左京大夫自歌合」、1509「石清水初千句三物」催、1522宗長宗碩両吟「伊勢千句」願主、30「高国独吟歌仙連歌」、宗碩「細川高国追善懐旧百韻」(:高国辞世句を発句とする)、
辞世詠「なしといひありと又いふ言の葉や法のまことの心なるらん」、
［高国(;名)の通称/法名/道号/法号］通称;六郎、法名;道永/常桓、道号;松岳、法号;三友院

U2628 **隆国**(たかくに・九鬼くき、隆張の長男)1781-1852*72歳* 母;島津久柄女、摂津三田藩江戸藩邸の生、1798(寛政10)父隠居により摂津三田藩10代藩主/九鬼宗家11代、従五下、勅使饗応役・奏者番に就任、藩財政悪化対策、京より近藤顧一郎招聘し藩校国光館を造士館に発展、正室;蜂須賀重喜女の理、隆徳の父、1839城主格に昇格;しかし城郭は建造しなかった、1843(天保14)家督を隆徳に譲渡;隠居;南嶽と号す、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入(息子隆徳たかのりと共に入集)、
［夕ばぐれ思はぬ空の一声はげにめづらしき初郭公］(大江戸倭歌;夏434)、

[隆国(;名)の通称/号]通称;仙次郎/和泉守/長門守、号;南岳、法号;承烈院

U2677 **隆国**(たかくに・篠崎しのざき) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[月影も今宵はもらじ不破の関あれし庇も雪に埋れて](大江戸倭歌;冬1291/関雪)

L2681 **孝弟**(たかくに・前田まえだ、通称;才記、前田孝享の養嗣子)?-? 江後期金沢藩士:1800家督/人持組頭、
1828-35越中魚津在住、「前田才記留記」著

隆国(たかくに・大中臣) → *親守*(ちかもり・大中臣、歌人) Ｂ２８９７
高国(たかくに・足利) → *直義*(ただよし・足利、武将/歌人) Ｇ２６０４
高国(孝国たかくに・浜田/本居)→ *内遠*(うちとお・本居もとおり、国学者) １２７４
孝国(たかくに・和田) → *大猪*(おおい・和田わだ、神職/国学者) Ｅ１４２６
全都(たかくに・照井) → *一宅*(いったく・照井、儒者) Ｅ１１２０

C2673 **高倉**(たかくら・八条院はちじょういん、法印澄憲女)?-? 1237存(60歳) 鎌倉中期歌人、祖父;藤原通憲信西、
兄;聖覚・海恵、八条院暲子(鳥羽天皇皇女1137-1211)家の女房、
歌;後鳥羽院から歌才を認証、
1204春日社歌合/16内裏百番歌合/32八月十五夜歌合/37名号七十首和歌参加、雲葉集入、
勅撰40首;新古(7首54/208/525/1146/1201/1270/1841)新勅(13首219-)続後撰(6首)以下、
[ひとりのみながめて散りぬ梅の花知るばかりなる人は訪とひこず](新古;春54、
本歌;古今紀友則;君ならで誰にか見せむ梅の花色をも香をも知る人ぞ知る)
☆父澄憲と高松院姝子内親王との密通説あり;母は兄海恵と共に姝子内親王か?

C2674 **高倉**(たかくら・安嘉門院、興福寺別当親縁女)?-? 鎌倉中期安嘉門院(邦子内親王1209-83)家女房、
歌人、1248宝治百首参、勅撰10首;続古今(1275/1317)続拾(888/1021)風(2首)新千/新後拾、
[恨みけん心さへこそこひしけれつらきになれぬ昔と思へば](続古今;恋1275)

高倉(たかくら・延政門院)→ *新大納言*(しんだいなごん・延政門院、女房歌人) ２２５５
高倉一宮(たかくらいちのみや)→ *祐子内親王*(ゆうしないしんのう、後朱雀天皇皇女/歌合催) Ｃ４６２４
高倉一宮紀伊(たかくらいちのみやのきい)→*祐子内親王家紀伊*(ゆうしないしんのうけのきい) ４６０３
高倉院帥局(たかくらいんのそちのつぼね)→*公重女*(きんしげのむすめ・藤原、功子内親王母) Ｓ１６０９
高倉散人(たかくらさんじん) → *直方*(なおかた・中西、神道) ３２８５

C2675 **高倉天皇**(たかくらてんのう、名;憲仁、後白河天皇皇子)1161-81早世*21* 母;建春門院(平時信女)滋子、
在位12年/1168-80、在位中は清盛が執政/中宮;建礼門院徳子、詩文、1178中殿作文会催、
「高倉院御記」著、歌人;月詣集・玄玉集・和漢兼作集入、
寵姫小督(藤原成範しげのり女/琴の名手)との悲恋(平家物語など)、
勅撰5首;新古今(275/524/668/1163)続後拾(460)、
[白露の玉もてゆへるませのうちに光さへそふ常夏の花](新古;夏275/常夏;瞿麦なでしこ、
ませ;前栽に結った垣)

高倉殿(たかくらどの) → *直義*(ただよし・足利、武将/歌人) Ｇ２６０４
高倉尼上(たかくらのあまうえ)→ *経信母*(つねのぶのはは・源、歌人) Ｄ２９０６

L2682 **高倉三位**(たかくらのさんみ、成子/播磨局、藤原季成女)1126-71*46歳* 後白河天皇の妃、
守覚・以仁王・式子内親王の母

高倉大納言(たかくらのだいなごん)→ *経通*(つねみち・藤原ふじわら、廷臣/歌人)Ｄ２９８４
高倉女御(たかくらのにょうご)→ *延子*(えんし・麗景殿前女御、後朱雀帝妃/歌人)Ｃ１３１６
多稼軒(たかけん) → *錦城*(きんじょう・大田、儒者/詩文) １６６２

2699 **貴子**(たかこ/きし、高内侍こうのないし、高階成忠女)?-996/*50歳前後没* 円融天皇内侍/藤原道隆の室、
伊周・隆家・定子の母、儀同三司母ぎどうさんしのはは(准大臣[伊周]の母)/帥殿母上そちどののははうえと称、
明順・積前・光子(妹)の姉妹、道隆の死後出家/伊周・隆家配流直後に病死、大鏡に逸話入、
後葉集入(527高内侍/412成忠卿母[成忠女の誤写])、
歌人;勅撰6首;拾遺(1206)後拾(701/906)金葉(Ⅲ430)詞花(340)新古今(1149)、
[忘れじの行末まではかたければ今日を限りの命ともがな](新古1149)

L2683 **隆子**(たかこ、浜田藩主松平康定の側室)?-? 江中期歌人:1795本居宣長門、「隆子ノ御方歌」著

L2684 **隆子**(たかこ・井関いせき、幼名;キチ、旗本の庄田安僚4女)1785-1844*60歳* 旗本松波源右衛門と婚約、
結婚?、故あって破談:離縁、幕府大奥勤務/30歳頃旗本西納戸組頭井関弥右衛門親興の妻、

1826(安政9)夫と死別、国学・歌;林国雄門、親戚の新見正路や屋代弘賢・杉嶋勾当と交流、
法号;知清院、
「神代のいましめ」「井関隆子長短歌」、1840-44「井関隆子日記」著

X2631 **多香子**(たかこ・西郷さいごう、号;友蘭、旧姓;宇佐美)1785-1859*75* 紀伊和歌山の国学・歌人

L2685 **隆子**(たかこ・前田まえだ、関白鷹司政熙2女)1787-1870*84* 母;家女房、鷹司政通の姉、
1807(文化4)加賀金沢藩12代藩主前田斉広の継室;江戸藩邸上屋敷入、1824夫と死別、
落飾;眞龍院と称す;1833駒込中屋敷に移る、夫との間に子なし/1838金沢に入る、
13代藩主斉泰により隠居所[巽御殿]が建設され入居;1870(明治3)同所に没、
歌人、「こしの山婦美」「道の記」「眞竜院詠歌」「眞竜院若留」/1838「眞竜院様紀行」著、
[隆子(名)の別名/法号]初名;夙、別名;隆、 法号;眞龍院瑞円慈光大禅定尼

W2697 **隆子**(たかこ・小出こいで、旧姓;九鬼)1788-1871*84* 紀伊和歌山藩士の妻/小出平九郎の母、
国学・歌;本居大平・福田和夫門

C2676 **高子**(たかこ・川路かわじ、別名;佐登子、号;松操、大越喬久女)1803-1884*82* 歌人:前田夏蔭門、文章家、
広島藩江戸屋敷の奥女中/1838川路聖謨としあきら妻、幕臣の夫の奈良奉行時に多くの歌紀行、
1832「青葉の道のき」、「寺めくり」「笹の一葉」「ふるの道くさ」「よしの行記」「歌稿」著、
「女子のかゝみ」「花弐百首」「高子詠草」、「遊糸」編、1848「たけ狩」/51「川路佐登子日記」著、
夫;聖謨 → *聖謨*(としあきら・川路、幕臣/奉行/歌) Ｍ３１０２

U2665 **孝子**(たかこ・速水はやみ) ？－ ？ 江後期;歌人、宮中に出仕?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[秋の夜もまだ長からじ心して舟とく渡せ天の川をさ](大江戸倭歌;秋722/七夕船)
[雪降ればひとつ花とも見ゆるかな左の桜右の橘](大江戸倭歌;冬1275/禁中雪)

X2603 **挙子**(たかこ・小山こやま、旧姓;小田)1820-1905*86* 播磨赤穂郡の生/歌人、備前邑久郡住

X2667 **高子**(たかこ・末光すえみつ、) ？－ ？ 伊予大洲の歌人;近田八束やつか(1785-1863)門

X2691 **孝子**(たかこ・伊達だて、初名;八代姫;徳川斉昭9女)1841-69早世*29* 母;松波貞子(光寧女の春子)、
南部利剛室明子(松姫)・池田慶徳・池田茂政の妹、
1852陸奥仙台藩13代藩主伊達慶邦よしくに(1825-74)の継室(正室は近衛備子ともこ/1828-52)
歌人、法名;文靖夫人

たか子(誉子たかこ・中西)→ *為子*(ためこ・中西なかにし、歌人) Ｙ２６５７
孝子(たかこ・北野きく/安斎)→*教子*(のりこ・安斎あんざい/北野、歌人) Ｈ３５１９
高子(たかこ・高橋) → *田鶴子*(鶴子・多豆子たづこ・高橋たかはし、歌人)Ｙ２６０３
敬子(たかこ・近衛) → *天瑋院*(てんしょういん、篤子、公武合体) Ｂ３０７０
隆子(たかこ・源) → *顕房室*(あきふさのしつ・源、歌人) １０８１
隆子(たかこ・源) → *源三位*(げんさんみ、源致時女/女房歌人)Ｂ１８９５

L2686 **隆誨**(たかこと・横山よこやま、隆達男)1764-1819*56歳* 加賀金沢藩士、1786大小将近習番/麦小将横目、
小将頭、隆従たかよりの弟、1795「早打御使覚書」1805「聖堂火消方被仰出等一巻」著、
1815「横山隆誨江戸日記」、「奥御納戸方手帳」「奥御横目方覚」「小将頭当用抜書」著、
「上使御刀直之次第」「使番勤方帳」「備忘遍」「備忘録」著、
[隆誨(;名)の通称] 豹蔵/引馬

L2687 **隆功**(たかこと・中嶋なかじま/本姓;藤原、備中松山藩主板倉勝政男)1806-58*53* 幕臣中嶋勝邦の養嗣子、
三河渥美郡大崎領主;6百7石、国学;本居大平門、勤王家、1831(天保2)「玉椿日記」著、
大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[豊受の神のさきはふ秋の田のみづ穂の国のさかえたふとし](八十浦;837)、
[隆功(;名)の初名/通称]初名;勝潔、 通称;与五郎/阿曾美

孝言(たかこと・惟宗) → *孝言*(たかとき・惟宗これむね、廷臣/詩人) Ｄ２６１５
尊子内親王(たかこないしんのう)→*尊子内親王*(そんしないしんのう、冷泉天皇皇女/円融妃/歌)Ｅ２５８５
隆前(たかさき・油小路) → *隆前*(たかちか・油小路、歌人/記録) Ｍ２６２４

Q2613 **高砂**(たかさご;組連) ？－ ？ 江戸青山御手大工町の組連、
取次;1763/66「川柳評万句合」入;
取次例:[高野山能よひ衆のそりに行く所](明和三1766/桜1)

T2692 **高砂**(たかさご;組連) ？－ ？ 江戸麹町の組連、

1786高砂連句集「柳籠裏やなぎごり第三篇」(初代川柳評/近江屋治助板)刊行

C2677 **高定**(たかさだ・堀川ほりかわ、初名;高雅、右大辨光俊男/本姓;藤原)1233-80*48歳* 母;藤原盛季女、
叔父葉室定嗣の猶子、廷臣;右大辨/蔵人頭/1259(正元元)参議/従三位/62正三位、
1265左兵衛督/従二位/66(文永3)山門強訴により督停止;正三位、68従二位;復任、
1269(文永6)権中納言/70正二位;辞任/77按察使(建治3)、80(弘安3)没
歌人:1259後嵯峨院[正嘉三年北山行幸和歌]入、65八月十五夜歌合参加/弘安百首入、
和漢兼作集・閑月集入集、
勅撰11首;続古今(1499/1773)続拾遺(190/340/828/843/957/1189)新後撰(1452)以下、
[袖ふればなほいかならん梅の花立ち寄るだにも人とがめけり](続古今;雑1499)

L2688 **隆貞**(たかさだ・油小路あぶらのこうじ、初名;隆親/隆房、法号;寛裕院、隆基男)1622-99*78* 廷臣;1652参議、
1660権大納言/66正二位、神道;吉川従時門/香道;烏丸資慶門、香道の門人;猿島帯刀、
「職方問答覚」編/「僧官徳位記」「僧官大概」「僧官条目」「諸宗僧宦記」「僧官相当次第」著

L2689 **高定**(たかさだ・馬淵まぶち、加右衛門高倫男)1657-1722*66* 加賀金沢藩士;1671藩主の奥小姓、
1705-18宮腰町奉行、弓馬の故実に精通、仲暢なかのぶの父、1708「馬淵家譜」12「武家昆目集」編、
「加越能城主記」「畿内遊覧」「本藩譜略」「本朝尊卑過去帳」「馬淵私伝」「笈捜追加之記」著、
「武士勝負交名」「武人隕命之稔日」編、
[高定(;名)の通称]通称;友之助

V2602 **隆貞**(たかさだ・阿部あべ、通称;忠之進)1778-1851*74* 備中浅口郡の神職;熊野神社祠官、
神道;卜部家門、歌;梨木祐為・香川景樹門、

高定(たかさだ・久留島/毛利)→ *高慶*(たかやす・毛利もうり、藩主/歌) Ｎ２６５３
高定(たかさだ・黒河内) → *十太夫*(じゅうだゆう・黒河内くろこうち、藩士/兵学)Ｘ２１９９
高定(たかさだ・京極) → *高矩*(たかのり・京極きょうごく、藩主/国学) Ｗ２６８１
高貞(たかさだ・中原) → *高真*(たかざね・中原、平安期歌人) Ｃ２６７８
高貞(たかさだ・宇都宮) → *綱世*(つなよ・宇都宮うつのみや/藤原、武将/歌)Ｇ２９８１
高貞(たかさだ・三浦) → *道意*(どうい・三浦みうら/小林、藩医/歌) ３１９７
隆貞(たかさだ・山本) → *極斎*(きょくさい・山本やまもと、和算家) Ｏ１６９３

L2690 **隆祐**(たかさち・八条はちじょう、隆礼男/本姓;藤原)1795-1872*78* 廷臣;1867正二位/68権大納言;辞退、
1858九条尚忠の勅裁案に反対し対外意見三箇条を上呈、「群書抜英」編、「隆祐卿手録」著、
「八条正三位隆祐卿詠草ノトメ」「八条隆祐御献之記」著

高郷(たかさと・谷) → *高當*(たかまさ・谷たに、国学者) Ｙ２６１４
竹里(たかさと・加藤) → *景範*(かげのり・加藤、歌学) Ｂ１５９０

L2691 **高嶷**(たかさど・藤堂とうどう、津藩主藤堂高豊長男)1743/or46-1806*61-63歳* 高朶たかえだ・高悠の兄、
久居藩主藤堂高雅の養嗣子、1762養家継嗣;伊勢久居藩主/和泉守、70実弟高悠が病没;
宗家を嗣ぎ津藩主、高朶が久居藩主嗣、1792(寛政4)菓木役所を設置;農政に尽力;
施策の誤解から1796農民一揆発生、高朶たかえだの兄、
高崧たかすけ・高允たかさわ・高邁・順子まさこ(土佐藩主山内豊策室)の父、
詩文;「静好堂集」「遊阿弥陀瀑記」「嘽咳ひんがい余稿」著、
[高嶷(;名)の幼名/別名/字/号]幼名;初次郎、初名;高敦/高疑、字;義卿/徳卿、号;鶴汀、
法号;祐信院

C2678 **高真**(たかざね・中原なかはら、高貞たかさだ)?-? 1074存 平安後期廷臣;五位、歌人、
大江匡房の美作守下向に同道途中播磨二見浦で郭公の詠歌:[江帥集]入、金葉Ⅱ122、
[聞きもあへず漕ぎぞわかるゝ時鳥わが心なる舟出ならねば](金葉集;二夏122)

L2692 **隆実**(たかざね・藤原ふじわら、隆仲男or基成男)?-? 鎌倉期廷臣;散位、
歌人;1200俊成判の院当座歌合参加、藤原隆実(1200正治後度百首参加)か?、
隆仲男なら;左近将監/孝範[文章博士/詩人1158-1233]の甥
基成男なら;本名経成、太皇太后宮権亮従五下、姉妹に秀衡妻[泰平(-1189)の母]がいる
☆藤原隆実 → *信実*(のぶざね、藤原、寂西、絵師/歌人) ３５０６

C2679 **隆実**(たかざね・大中臣おおなかとみ、隆蔭男)1272or74-1335*62-64* 母;大中臣長有女、鎌倉期神職;
1321従三位/29従二位伊勢神宮祭主、神祇権大副、造内外宮使、歌人;新葉1255、
[数ならずなるにつけても君をのみ祈るや身をも思ふなるらん](新葉集;十八1255)

V2624 **隆眞**(たかざね・油小路あぶらのこうじ/本姓;藤原、隆貞男)1660-1729*70*　母;谷(藤原)衛利女、廷臣;
1675右中将/81正四下蔵人頭/82正四上/83(天和3/24歳)参議/84従三位左衛門督/
1686東照宮奉幣使/88(元禄元/29歳)正三位権中納言/改元并条事定参仕/94従二位、
1701中納言辞任/1703(元禄16/44歳)権大納言/04賀茂伝奏/例幣上卿/大納言辞任、
1705正二位/1716(享保元)改元定伝奏/20民部卿/29(享保14)民部卿辞任;没/歌人

Y2628 **尊実**(たかざね・塚本つかもと、本姓;藤原)1698-1767*70*　近江彦根藩老長野家の家臣、
儒/歌;沢村琴所きんしょ(維顕)門、歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、
[尊実(;名)の通称]光三郎

Z2651 **高実**(たかざね・増島ますじま、通称;百助)1786-1813早世*28* 近江彦根藩士、歌;[彦根歌人伝・続寿]入

隆実(たかざね・藤原)　→　*信実*(のぶざね、藤原、寂西、絵師/歌人)　３５０６

隆実(たかざね・山田)　→　*盛実*(もりざね・山田やまだ、神職/歌人)　Ｌ４４８１

L2693 **高兌**(たかさわ・藤堂とうどう、高嶷たかさど男/高菘たかすけの弟)1781-1824*44*　伊勢津藩主;左近将監/侍従、
久居藩主藤堂高矗たかなおの養嗣;1790伊勢久居藩主/1806宗家津藩主に就任;藩政改革、
1820藩校有道館を創設、21伊賀上野崇広堂開設;教育振興、
1818「聿修録いっしゅうろく」、「国訳聿脩録」著、高崧たかすけの弟、
[高兌(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;庚千代、字;沢卿、通称;左近、号;、鶴堂、法号;誠徳院

L2694 **棟**(たかし・松浦まつら、藩主鎮信しげのぶ男/本姓;源)1646-1713*68*　母;松平忠国女、肥前平戸5代藩主;
1689襲封、1691奏者番・寺社奉行・長崎検察;幕政参画、1695雁間/1709柳間に伺候/13致仕、
平戸に住、兵法;1663山鹿素行門/1681兵法受講、「家世伝」著、「履担斎遺文」、
[棟(;名)の通称/号]通称;源三郎、 号;雄香/履担斎、 法号;雄香院
家系については　→　*静山*(せいざん・松浦まつら)Ｂ２４７６　の**平戸の松浦家**参照

X2643 **高**(たかし・都筑まつづき、)1678 －　?長寿　1781(104歳)存　尾張名古屋の儒者/詩人、
1781(安永10/93歳)絵師内藤東甫(閑水)主催の金剛山長栄寺尚歯会に参加(9人);詠詩賦
[高(;名)の字/通称/号]字;柔克、 通称;道喜、 号;千秋斉

L2695 **喬**(たかし・野々村ののむら、字;伯遷/通称;純治)?-? 江中期近江の医者、
1758「温故秘録」著、「温故病因」編

W2691 **崇**(たかし・三品みしな、高橋甚内[坦斎]男)1769-1847*79* 伊予宇摩郡小林村の儒者/国学、
近藤篤山の弟、儒;尾藤二洲門/父の命で医学;蘭医小林見宜堂門、
帰郷後;西条藩士三品為堂の養嗣子/西条藩士;藩主松平頼啓・世子頼学の侍読、
藩校択善堂の教授;文教振興に50年間尽力/馬廻組頭に就任、
[崇(;名)の字/通称/号]字;隆甫たかすけ、 通称;宅平、 号;**容斎**

L2696 **喬**(たかし・沢さわ、味木あじき新左衛門忠郷2男)1772-1853*82歳*　安藝広島藩士;1785部屋住、
1787藩主浅野重晟の奥小姓、沢靱負の養嗣子;跡目知行8百石/騎馬弓筒頭/番頭、
1831(天保2)年寄、43致仕、書画を嗜む/門人に教授、1842「竹館遺事」著、
[喬(;名)の字/通称/号]字;伯遷、 通称;左仲/兵蔵/讃岐、 号;梅塢/三石/磊翁らいおう

Z2609 **隆**(たかし・原はら、字;道卿/通称;平次)1782-1844*63*　江戸の剣術家;山瀬源太門;信抜しんぬき流、
安藝広島藩士/国学者

Y2620 **俊**(たかし・千々和ちぢわ、)1790-1867*78*　筑前遠賀郡の医者、国学/歌;伊藤常足門、
国学・歌;西田直養なおかい門、
[俊(;名)の字/通称/号]字;好琢、 通称;由太、 号;往来庵/五日庵

W2696 **恭**(たかし・小池こいけ、名;和麿/通称;一庵)1792-1856*65*　三河吉田藩医/国学;本居大平門

Z2650 **喬**(たかし・益ます、旧姓;井上)1818-85*68*　伊勢度会郡の医者/のち伊勢神宮主典、
[喬(;名)の初名/字/通称/号]初名;正治、 字;子和、 通称;左京、 号;沼南

W2604 **孝**(たかし・小山おやま、) 1819 －　?　陸奥本吉郡唐桑村の国学;本田春雄門、
経書;堀籠胆水門、歌・俳諧を能くす、
[孝(;名)の通称/号]通称;幸七/孝七こうしち、 号;釣月舎

V2676 **孚**(たかし・宇都宮うつのみや、)? － 1887　周防岩国藩の国学/歌;熊谷直好・直輔門、
歌;八田知紀門
[孚(;名)の別名/通称/号]別名;成孚、 通称;勇/房之助/藤二郎、 号;石叟

2724 **喬**(たかし・湯谷ゆや、通称;行蔵)1841-91*51*　　但馬出石郡の国学者、維熙これひろの一族?

Z2635 **尚**(たかし・藤田ふじた、通称;深耕/号;為廼屋)1846-1916*71*　陸奥(陸中)磐井郡の商家/国学者

孚(たかし・宮城)　→　*春意*(しゅんい・宮城/宮木、神道/儒者)　Ｍ２１３７
喬(たかし・日置/今枝)　→　*直方*(なおかた・今枝、家老/国学/詩)　３２８８
喬(多嘉士たかし・原田)　→　*復初*(ふくしょ・原田はらだ、儒者)　Ｂ３８５７
喬(たかし・松本)　→　*賀慶*(がけい・松本まつもと、和算家)　Ｋ１５７８
節(たかし・人見)　→　*鶴山*(かくざん・人見、儒・詩、俳)　Ｂ１５４９
隆(たかし・野呂)　→　*介石*(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師)　Ｂ１５０９
隆(たかし・辻)　→　*好庵*(興庵こうあん・辻つじ、儒者)　Ｈ１９１９
隆(たかし・端)　→　*春荘*(しゅんそう・端たん/はし、儒者/詩人)　Ｋ２１１８
隆(たかし・小山)　→　*親頼*(ちかより・小山こやま、神職/歌人)　Ｍ２８５２
隆(たかし・丸山)　→　*閑山*(かんざん・丸山まるやま、藩士/絵師)　Ｖ１５８１
峻(たかし・安藤/司馬)　→　*江漢*(こうかん・司馬しば/安藤、絵師/蘭学)１９９１
峻(たかし・真山)　→　*雲外*(うんがい・真山まやま、和漢学者)　Ｅ１２８８
崇(たかし・塚村)　→　*嘉伝太*(かでんた・塚村つかむら、里正/歌)　Ｏ１５１３
孝(たかし・岡本)　→　*況斎*(きょうさい・岡本、儒/国学者)　Ｉ１６７９
孝(たかし・三雲)　→　*仙嘯*(僊嘯せんしょう・三雲みくも、篆刻家)　Ｆ２４９５
孝(たかし・田中)　→　*五橘*(ごきょう・田中たなか、書肆/俳人)　Ｍ１９１１
孝(たかし・脇屋)　→　*恕亭*(じょてい・脇屋わきや、儒者)　Ｍ２２７１
孝(たかし・太田)　→　*久孝*(ひさたか・太田おおた、藩士/国学者)　Ｉ３７８９
孝思(たかし・志賀)　→　*節庵*(せつあん・志賀、儒者)　Ｋ２４６８

C2680 **隆成**(たかしげ・たかなり・藤原ふじわら、隆光男/母;源国挙女)?-?　平安中期廷臣;上西門院蔵人、従五下、玄蕃助、歌人:105(永正6)内裏根合に宿侍として参加/後拾遺263、
母;源国挙女、隆方の弟、祖父;宣孝/叔母;大弐三位、
[憂きまゝにいとひし身こそ惜しまるれあればぞ見ける秋の夜の月](後拾遺;秋263)

L2697 **孝重**(たかしげ・安倍あべ、季弘男)?-　?*61歳没*　　鎌倉初期陰陽家;陰陽博士/密奏宣旨/右京亮、正四下、「陰陽博士安倍孝重勘進記」、1210「朝儀吉凶勘例」編

L2698 **隆重**(たかしげ・藤原ふじわら、播磨守隆親男)?-?　　鎌倉前期廷臣;常陸介/宮内少輔/従五下、
歌;1203(建仁3)影供歌合参加、家賢の父、
[夏深き野原の色にさそはれて露にしをるゝ秋の面影](影供歌合;草野秋近15番右)

2773 **隆重**(たかしげ・大中臣おおなかとみ、隆行[1175-1206]男)1194-1250*57*　伊勢神職;権少副/従四下、造外宮使隆通の名代/のち改名;**隆繁**、1250(建長2)没、能繁の父、
歌人;1233寂延(荒木田長延)撰[御裳濯集]6首入、
[野辺はみな同じみどりに雪消えてかきねの梅に春風ぞ吹く](御裳濯集;春58)

L2699 **隆茂**(たかしげ・藤原ふじわら、隆兼男)?-?　　鎌倉中期廷臣;右近少将/左中将/従四下、
歌;1261(弘長元)宗尊親王百五十番参加、
[谷陰はまだ雪深き鶯の何を春とか鳴きはじむらん](宗尊百五十番;春四番左)

M2600 **孝重**(たかしげ・藤原ふじわら、孝秀男)?-1343　　鎌倉南北期廷臣/楽人、1307右兵衛尉/08左衛門尉、1314従四下木工権頭/修理権大夫/43従三位、1329「太食調雙調黄鐘調盤渉調目録」著

C2681 **尭重**(たかしげ、平たいら)　?-　?　　南北期連歌作者、1356刊菟玖波集;2句入、没後;1633刊重頼「犬子えのこ集」入、
[杣木そまき引く正木の綱に手をかけて](菟玖波;雑1270、正木;柾木の蔓かづら、前句;人の顔こそあまた見えけれ)

M2601 **隆重**(たかしげ・四条しじょう、隆永男/本姓;藤原)1507-39早世*33*　母;四条隆量たかかず女、廷臣;1537参議、駿河下向/1638父の喪に上京;所労により精神障害;没、1535「調味故実」(伝)

2762 **隆重**(たかしげ・柳沢やなぎさわ)?　-　?　　江前期;上方の武士/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]54首入、
[春も猶花さかぬまは鶯の物うきふしを竹に鳴くなり](林葉累塵;春38)
[見し人はよそになり行く天雲のなごり有りとや袖のしぐるる](同集:恋876)

M2602 **隆重**(たかしげ・藤橋ふじはし) ？－　？　江前期元禄1688-1704頃磐城標葉郡藤橋の文筆家、「東奥標葉記」著

M2603 **高恵**(たかしげ・原田はらだ/本姓;藤原、号;惶斎)1743-9351 周防玖珂郡岩隈八幡宮宮司、河上妙見宮の大宮司/越前守従五下、国学/歌、国史・漢文に通ず、幕臣・旗本に国学を教授、1791「稲荷大明神神験恩頼記」1805「稲荷大明神御利生記」、「猿田彦大神縁起」著

M2604 **高茂**(たかしげ・加地井かじい、号;九畹きゅうえん)?-?　安永1772-81頃和泉佐野の薬学者、1778「薬品手引草」編

2728 **高重**(たかしげ・横地よこぢ、旧姓;中川)1778-184467 伊勢度会郡の内宮権禰宜、国学者、[高重(;名)初名/通称]初名;高根、通称;一学

2720 **隆林**(たかしげ・山本やまもと、通称;民助)1779-185072 阿波徳島の国学者/歌人;冷泉為則門

M2605 **喬樹**(たかしげ・野口のぐち、初名;憲古)1782-184564 佐賀藩士/江戸住、剣術/歌:道雄・亞元・景樹門、「笹園集」著、[喬樹(;名)の通称/号]通称;十郎左衛門、号;笹園ささぞの

W2647 **高茂**(たかしげ・片岡かたおか、)1795-186975　讃岐香川郡の国学者、[高茂(;名)の通称/号]通称;直右衛門、号;藻溟そうめい

Z2699 **高樹**(たかしげ・森もり/本姓;橘、旧姓;露木)1797-185963 阿波の国学者、大坂住[高樹(;名)の通称/号]通称 淳蔵、号;金菓

C2682 **誉重**(たかしげ・桂かつら、誉裕長男/伯父誉正たかまさの養嗣)1817-7155 越後新発田藩新津組大庄屋を嗣、農業・民政に尽力、国学;養父と鈴木重胤門、重胤「日本書紀伝」出版を大滝光憲と共に助力、1852家督を息子誉恕に譲渡、勤王派/佐藤信淵の学説に傾倒;農政に尽力、1863「済世要略」、「曲直小言」「神習考」「天朝窮歴試式」「世継草摘分」著、歌;「桂誉正・とき子・誉重歌集」入(桂尚樹編)、[誉重(;名)の通称/号]　通称:慎吾、号;方正居

V2614 **孝茂**(たかしげ・山本やまもと、号;寿山)?-?　江後期;美作英多郡福本村の医者、歌;平賀元義門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入

W2626 **高重**(たかしげ・岡崎おかざき、通称;喜兵衛)?-1871　紀伊田辺の国学;本居内遠・加納諸平門、歌人;能代繁里(1818-1876)門

X2680 **尊茂**(たかしげ・千家せんげ、尊昌[?-1866]の長男)?-1875 江後期;出雲出雲郡の国学者;国学・歌;千家尊孫(1794or96-1873)門、歌;[類題和歌玉藻集]入、[尊茂(;名)の別名/通称]初名;勝麻呂/尊算、通称;恒主

Z2624 **敬重**(たかしげ・平岡ひらおか、)1822-187756　山城紀伊郡の国学・歌人;香川景樹門、[敬重(;名)の通称/号]通称;孫左衛門/三助、号;竹庵

X2671 **隆重**(たかしげ・杉本すぎもと/本姓;中臣、樋口秀惇5男)1827-8357 伊勢度会郡田中中世古の生、浦口町堤世古の杉本喜重の養嗣子、国学者・歌人;足代弘訓門、俳諧;淇石・角洲・只青門、さらに麦慰舎梅通門、初め師職の代官、1871(明治4)師職廃止;和泉貝塚の感田神社祠官、地租改正事務従事/1877(明治10)神風講社祭典係/78神風館16世、教導職補、中村杏宇の父[隆重(;隠居後名)の通称/号]通称;寛蔵/荘司/荘右衛門/荘陸、号;松柏

Z2628 **孝茂**(たかしげ・福岡ふくおか、孝察男)1827-190680 土佐高知藩士;福岡家10代/藩老3千石;重臣、和国学;鹿持雅澄門、藩主山内豊熙を支える/豊惇が幼没後;藩主豊信の奉行;藩政を総轄、吉田東洋を活躍させる;1862(文久2)東洋横死後人事更迭があり孝茂は罷免/のち再登用、藩兵を統轄し上京;清和院門を警護、維新後は辞任、孝順の父、福岡家所蔵の鹿持雅澄[葉集古義]稿本を宮内省に献納;正本として刊行、[孝茂(;名)の通称/号]通称;宮内/健三、号;麗水

M2608 **孝成**(たかしげ・千屋ちや、孝即男/孝健たかたけ弟)1843-64自刃23歳 土佐安藝郡和食村の生、孝健の弟、父が高岡郡半山村の庄屋に赴任;共に移住、医者:戸田隆蔵門・のち大坂の緒方研堂門、土佐勤王党に参加、1862(文久2)五十人組に参加;東上し山内容堂の護衛/63時事探索掛、帰国;八月の政変後藩論が佐幕に傾く;1864脱藩し長州へ;兄の遺書に感奮、同志を求め山陰を遊説中美作の守兵に怪しまれを守兵を斬殺;のち旅宿で自刃、1864(元治元)「千屋孝成手記」著、

［孝成(;名)の通称/変名］通称;金作/金策、変名;桜山春次郎/神崎駒吉

Y2695 **誉重**(たかしげ・能田のうだ/よしだ、通称;右近)1849-1919*71*　阿波板野郡堀江村の大麻比古神社神職、
漢学;四十宮石田門/神道・国学・歌;近藤忠直門/神典・史学;多田直清なおきよ門
帰郷後独学で万葉集研究;「古万葉集」著(20巻/自注付)、二等司業、
徳島県皇典講究分所試験委員兼理事/同県神職取締所理事/徳島県神道分局長、
大講義から少教正、徳島県神職会板野郡支部長を歴任、大講義/少教正

孝成(たかしげ・佐野)　→　*竹亭*(ちくてい、佐野、儒者)　Ｄ２８５２

孝成(たかしげ・竹中/河田)→　*東岡*(とうこう・河田、儒者)　Ｄ３１７６

M2609 **教品**(たかしな・太田おおた)1683-　1731*49歳*　岩城梁川藩士/藩主松平宗春の尾張7代藩主就任、
そのため尾張藩士、長沼流兵学;1709佐枝採玉軒門/1716免許/26藩士を致仕、
古学;宮崎文忠門、「丸箇問答」「草教制」著、「兵要録備考」編、
［教品(;名)の通称/法号］通称;忠蔵、法号;一透普関居士

高品(たかしな・山口)　→　*高品*(たかただ・山口、幕臣)　Ｍ２６２１

高島太夫(たかしまだゆう)　→　*弘佐*(ひろすけ・中西/度会、神職/歌)　Ｇ３７１１

2609 **孝標**(たかすえ・菅原)　？- 1032　平安中期廷臣;上総介、道真五世の末裔、
妻;藤原倫寧女(道綱母の異母妹)、息女;更級日記作者

C2683 **隆季**(たかすえ・藤原ふじわら、家成男)1127-85*59*　母;高階宗章女、平安後期廷臣;1161参議、
1168権大納言/71正二位/息隆房に平清盛女を配し1172清盛女徳子の立后の際に中宮大夫、
大宰帥、1182病気出家、善勝寺長者、歌人;1149右衛門督家成歌合/50久安百首参加、
1166中宮亮重家歌合/70建春門院北面歌合/78別雷社羽化合参加、後葉・続詞花・月詣集等入、
勅撰11首;詞花(285)千載(125/236/392/1261)新古(694)新勅(752)続後撰(257)以下、
［雲ゐより貫きかくる白玉をたれ布引きの滝といひけん］(詞花;雑285/後葉集483、
摂津歌枕布引の滝の命名をいぶかる)
［隆季(:名)の号］　四条/大宮、隆房の父/四条隆衡の祖父

C2685 **高標**(たかすえ・毛利もうり、高丘男)1755-1801*47*　豊後佐伯藩主;1760襲封、母;壬生藩主鳥居忠瞭女、
学問;矢野黙斎門、城中の文庫「佐伯蔵書目録」8万巻、教育振興;1776四教堂設立、「雅衍」著、
［高標(;名)の幼名/字/号］幼名;彦三郎、字;培松、号;霞山/寛竜、法号;寛竜院

孝標(たかすえ→たかひで・畑中)→*青霞*(せいか・畑中はたなか、藩士/詩文)　Ｈ２４５４

孝綽(たかすえ→たかひろ・津阪)→　*東陽*(とうよう・津阪、儒者/詩)　Ｈ３１８２

孝綽(たかすえ・大塚)　→　*孝綽*(たかやす・大塚おおつか、儒者)　Ｃ２６８４

2610 **孝標女**(たかすえのむすめ・菅原)1008?-1060?*53歳?*　平安期の歌人、母;藤原倫寧女(道綱母の異母妹)、
1018父孝標の上総介と任地へ/20上京、1039祐子内親王(後朱雀天皇皇女)家に出仕、
1040橘俊通[1002-58]の妻、仲俊の母、1058夫と死別、日記「更級日記」/物語「夜半寝覚」、
「浜松中納言物語」「みづからくゆる」「朝倉」、歌;勅撰15首;新古今(56)新勅撰(1074)以下、
［月も出でで闇にくれたる姥捨をばすてになにとて今宵たづね来つらむ］(更級日記)

C2686 **隆祐**(たかすけ・藤原ふじわら、家隆男)?-?　1251存　鎌倉期廷臣;従四下侍従、母;藤原雅隆女、
妻;津守経国女、歌人;家集「隆祐朝臣集」、「隆祐朝臣百番自歌合」、200院当座歌合参加、
1232石清水若宮歌合・洞院摂政家百首/36遠島歌合/48宝治百首/51影供歌合参加、
1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勧進)に歌入、
現存六帖・万代・秋風・雲葉(7首)・閑月集等入集、連歌式制定?(散佚)/菟玖波5句入、
勅撰41首;新勅撰(102/813)続後撰(76/107/295/1114)続古(655以下6首)続拾(5首)以下、
［葛城かづらきや高峯たかねの雲をにほひにてまがひし花の色ぞうつろふ］(新勅;春102)
［前内大臣(九条基家)家三十首歌(1225/嘉禄元)に　旅行を、
けふはなほ都もちかし逢坂の関のあなたにしる人もがな］(雲葉集;羇旅955)

C2687 **隆資**(たかすけ・四条しじょう、隆実男/祖父隆顕の猶子/本姓;藤原)1292-1352討死*61*　南朝廷臣;
父早世のため祖父大納言隆顕の養子;四条家を継嗣、1327参議/正三位、30検非違使別当、
1330権中納言/31後醍醐天皇笠置寺臨幸供奉/36大乱後解任/36南朝正二位大納言/従一位、
1352(正平7)石清水八幡で戦死/四条贈左大臣(南朝)、南朝重臣で活躍(大平記・増鏡入)
歌人;1321十五夜歌会/30元徳二年八月御会参加、44(興国5)南朝内裏七夕歌会参加、
探題歌会参加、新葉9首;263/360/775/848/973/1358/1367以下、徒然草219段入、

[今年より君にし契れ雲の上に二の星のゆきあひの空](新葉;秋263/七夕歌会)

C2688 **高輔**(たかすけ・平たいら、範輔男)?-1270　母;源仲章女、鎌倉中期廷臣;皇后宮亮/蔵人頭、1259「高輔朝臣記」、「金部記」著

M2610 **孝亮**(たかすけ・小槻おづき・壬生みぶ、幼名;千勝丸、小槻朝芳男)1575-1652*78* 廷臣;左近将監/中務大輔、算博士/1612左大史/27主殿頭/31正四上/34解官、妻;織田信貞(信長9男)女、忠利ただとしの父、「小槻孝亮宿禰記」著

X2685 **隆輔**(たかすけ・八条はちじょう/本姓;藤原、隆英男)1736-1790*55* 廷臣;1740従五下/49侍従/55刑部大輔、1764左近少将/68右近中将/69(明和6)従三位/80(安永9)正三位/89(寛政元)参議従二位、妻:毛利美代子(周防徳山藩主毛利広豊女、隆世・隆礼・尊観(石山寺大僧正)の父、国学者

C2689 **高菘**(たかすけ/たかたけ・藤堂とうどう、伊勢津藩主高嶷たかさど男)1773-1828*56* 伊勢津藩の世子、国学;加藤千蔭門、主殿頭/1806病気のため世子の地位を退き家督を弟高兌たかさわに譲渡、「静好堂文集」著、高兌たかさわの兄
[高菘(;名)の幼名/通称/号]幼名;五瀬千代、通称;主殿/大学、号;静好堂、法号;謙光院

C2691 **高助**(2世たかすけ・助高屋すけたかや、2世沢村長十郎男)1748-1818*71歳* 歌舞伎役者、和事実事/当り役;手習鑑の源蔵・忠臣蔵の勘平など、
[高助の号]　初名;沢村金平/沢村四郎五郎・瀬川雄次郎・3世市川八百蔵
[高助の俳名]庶莫/亀音/路舟/中車/高賀こうが

M2611 **高亮**(たかすけ・京極きょうごく、高明たかあきら男)1759-188早世*30* 幕臣;1779家督嗣/80徳川家治に出仕、1780高明「陽春館遺稿」編、
[高亮(;名)の通称/法名]通称;弓太郎/左衛門、法名;浄光

隆資(たかすけ・藤原)　→ *隆資*(たかより・藤原、武蔵入道観心、歌)　Ｅ２６０９
隆助(たかすけ・西尾)　→ *公龍*(きみたつ・西尾にしお、医者/歌人)　Ｋ１６４６
隆輔(たかすけ・藤原)　→ *隆長*(たかなが・藤原、歌人)　Ｍ２６６０
隆甫(たかすけ・三品)　→ *崇*(たかし・三品みしな/高橋、儒者/文教)　Ｗ２６９１
隆甫(隆輔たかすけ・山中)→ *秀之*(ひでゆき・山中/秦、医者/救民活動)Ｅ３７０６
隆佐(たかすけ・内山)　→ *良隆*(よしたか・内山うちやま、藩士/儒・兵学)Ｅ４７１１
高亮(たかすけ・藤堂/中川)→　*久昭*(ひさあき・中川、藩主/覚書)　３７８２
高介(たかすけ・成瀬/城所)→ *正観*(まさみ・成瀬/城所、藩士/儒者)　Ｈ４０３７
高祐(たかすけ・山鹿)　→　*素行*(そこう・山鹿やまが、兵学者)　２５２２
高助(初世たかすけ・助高屋)→*宗十郎*(初世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者/俳)２５１０
高助(3世助高屋)　→　*宗十郎*(5世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者)Ｂ２５９１
高甫(たかすけ・荒居)　→　*朗*(あきら・荒居あらい、藩士/歌人)　Ｇ１０８７
高輔(たかすけ・中川)　→　*狂言堂*(きょうげんどう・近松、浄瑠璃/図会/雑俳)Ｎ１６６７

M2612 **孝純**(たかずみ・岩松いわまつ、初名;慶純、富純男/本姓;源)1708-89*82歳* 幕臣;1734家督嗣、67致仕、1749「源富純君御年譜」、明和(1764-72)頃「西廟温故記事」著、
[孝純(;名)の通称/号]通称;半蔵/太郎/兵庫/満次郎、号;閑湖(;致仕後)

M2613 **隆純**(たかずみ・寺尾てらお)　?-　?　江中期常陸笠間の医者/本草学研究、1784「十四経絡腧穴弁解」、「秘伝花鏡会識」著

C2692 **尊澄**(たかずみ/たかすみ・千家せんげ、尊孫たかひこ男)1800-78*79*　出雲杵築の神職:出雲大社神職、1869出雲大社御杖代みつえしろ/出雲国造こくぞう職、78致仕、尊朝たかともの兄、国学;千家俊信・岩政信比古・本居内遠門、歌人、妻;広橋婦美子(准大臣広橋光成女)、1851「古語拾遺参解」「遠止美乃水考」/52「和歌の浦鶴」54「歌神考」56「桜の林」、1863「松壷文集」、「山路の日次」「湯あみの日なみ」「麻奈飛乃当都伎」著、尊福・尊賀の父、
[尊澄(;名)の幼名/通称/号]幼名;国麿、通称:杖代彦つえしろひこ、号;松壷/千歳舎ちとせのや、法号;正源院

W2665 **孝澄**(たかずみ・神田かんだ、)1801-1878*78*　伊勢度会郡の鑑識家、国学;足代弘訓門、
[孝澄(;名)の字/通称/号]字;子精、通称;弥八郎、号;竹堂

貴澄(たかずみ・島津)　→　*元直*(もとなお・島津しまづ、領主/詩文)　Ｄ４４４２

M2614 **孝祖**(たかそ・土山つちやま/初姓;大野)1707-56*50*　幕臣;1728出仕/支配勘定/評定所留役、妻の姓に改姓、1754越後を検地/55勘定組頭/56再び越後を検地、

致仕後に息子孝之が家督を嗣ぐが刑死;家は断絶、「浦佐村年中行事」著、
[孝祖(;名)の通称/法号]通称;幸右衛門/藤右衛門、法号;忠山
高田安立坊(たかたあんりつぼう)→*周玉*(しゅうぎょく・安立坊、真宗僧/華道)Ｗ２１９３
高隆(たかたか・藤堂)　→　*高堅*(たかかた・藤堂、藩主/歌人)　Ｌ２６７３
M2615 **隆建**(たかたけ・鷲尾わしのお、法号;顕忠院、隆熙男)1741-1804*64*　母;津守国輝女、廷臣;1771参議、
1785正二位/87権大納言、1770「立后記」、「光祖隆建紀光等書状」著、嗣子;隆純たかいと
M2616 **孝健**(たかたけ・千屋ちや、孝則男/孝成たかしげの兄)1837-64自刃*28歳*　土佐安藝郡和食村の生、
1849半山村移住(父が当村の庄屋)、上方遊学後土佐勤王党参加、
1863諸国歴訪;同志と脱藩、禁門変で忠勇隊参加;敗退、天王山で眞木和泉らと自刃、
1862-3「再遊筆記」「千屋孝健日記」著、
[孝健(;名)の通称]　菊次郎/栄
M2617 **敬武**(たかたけ・藤原ふじわら)？－　？　江後期蝦夷松前の福山八幡宮神主/従五下、
1801「中臣要指解」著
W2689 **敬武**(たかたけ・国田くにた、通称;弥五郎)1827-73*47*　能登羽咋郡の国学者;平田鉄胤門、神職、
さらに佐藤清臣(昌信)門
高菘(たかたけ・藤堂)　→　*高菘*(たかすけ・藤堂、国学)　Ｃ２６８９
隆武(たかたけ・大河平/後醍院)→　*真柱*(みはしら・後醍院ごだいいん、国学者)Ｆ４１７１
M2618 **孝忠**(たかただ・藤原)　？－　？　平安前期廷臣、
歌;972規子内親王前栽(女四宮)歌合参加、
[秋深く色うつりゆく野辺ながらなほ常夏に見ゆる瞿麦なでしこ](四宮歌合;16/大系23)
3人考えられる;
①式家孝忠(たかただ/斯生男/従五上/蔵人所雑色/因幡守)
②南家藤原挙直(たかただ/利博男/従五下信濃守・三河守)
③北家藤原孝忠(たかただ/永頼男/蔵人/従四下伊勢守)
C2693 **高忠**(たかただ・多賀たが、高長男)1425-86*62歳*　室町期武将:侍所所司代、近江京極家の重臣、歌人、
弓馬故実;「弓矢相伝之事」「射手具足秘伝」「犬追物初心抄」「犬追物射鏡」「犬追物眞鏡」著、
「犬追物検見記」/1473「流鏑馬射手目録」82「射手検見次第」/84「八廻日記」、「美人草」外著多、
[高忠(;名)の通称/号]通称;新左衛門/豊後守、号;大源、
法名;宗本、法号;宗仙寺喜山洞悦大居士
2785 **高忠**(たかただ・今村いまむら、)？－　？　江中期;肥前佐賀の人/歌人、
1722頃内海顕糺[倭謌五十人一首追加]入、
[おのづから心の塵も払へとや苔むす岩根くゞる白浪](-追加;波洗石苔)
M2619 **敬忠**(たかただ・安井やすい、別名;重具)?-? 1747存　名古屋の広井八幡神主/1734山王稲荷神主兼任、
1747退隠、神道/国学;吉見幸和よしかず門、1704「伊勢参道里程抄」、「七夕説」「倭姫命考異」、
[敬忠(;名)の通称]　下総守
M2620 **高忠**(たかただ・山鹿やまが、通称;源之進、義著男)?-1821　山鹿高賀の養嗣子;平戸藩士/山鹿流兵学、
「武教全書」/1789「山本勘助晴幸大星伝口伝覚書　山鹿五左衛門高祐三重伝口伝覚書」著
M2621 **高品**(たかただ・山口やまぐち、通称;鉄五郎)?-1838　江後期幕臣;1785幕命で蝦夷調査(普請役)
1786調査中止;同行5人で北方地誌著、1807-21下野下総支配の代官(;本陣は下野吹上)、
1786「蝦夷地意見」編/「蝦夷覧察記」「蝦夷拾遺」著
U2659 **孝忠**(たかただ・飯田いいだ)　？－　？　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[心とく乗りて誰がこし花の陰つなぎすてたる駒の見ゆるは]、
(大江戸倭歌;春290/花時鞍馬多)
敬忠(たかただ・平山)　→　*敬忠*(よしただ・平山らやま/黒岡、幕臣/神道)Ｏ４７８０
恭忠(たかただ・菅野)　→　*恭忠*(やすただ・菅野すがの、音韻学者)　Ｂ４５９０
高忠(たかただ・藤堂)　→　*高堅*(たかかた・藤堂、藩主/歌人)　Ｌ２６７３
高忠(たかただ・寺田)　→　*思明*(しめい・寺田/田、書肆/音曲関係)Ｖ２１８０
高忠(たかただ・藤井)　→　*高久*(たかひさ・藤井ふじい/藤原、神職/歌)Ｈ２６９８
高胤(たかたね・大須賀)　→　*政岑*(まさみね・榊原さかきばら、城主/豪遊)　Ｈ４０７３

2611 **高田女王**(たかたのおおきみ、高安王[739大原眞人姓]の女)?-?　奈良期万葉四期歌人;7首入、
巻四537-542・八1444;今城王に贈歌、新続古今1156、
[我が背子し遂げむと言はば人言は繁くありとも出でて逢はましを](万葉集;四539)
参考　→　今城(いまき・大原眞人/今城王、歌人)　１１２９

C2694 **田形皇女**(たがたのひめみこ、天武天皇皇女)?-728?　母;蘇我赤兄あかえ女大蕤娘おおぬのいらつめ、
706(慶雲3)伊勢神宮出仕、724二品にほん、穂積皇子・紀皇女の同母妹、
万葉集八1611題によると六人部王むとべのおおきみの妻、笠縫女王かさぬいのおおきみの母

Y2607 **堯民**(たかたみ・竹内たけうち、通称;孫六/五兵衛)1756-1805*50* 伊勢度会郡の国学者

M2622 **尊為**(たかため・役えき、俗姓;平賀、尊栄男)1624-1706*83*　修験者;父門/羽後能代八幡・山王両者別当、
大光院別当職/1681秋田藩初の修験大頭職、俳人、和漢学;北村季吟門、「人麿秘密抄」著、
「仇花記」「山水記」「褪の記」「千鳥足」「屏風の声」著、1680「八束穂集」編、「俳諧小相撰」著、
1682風黒「高名集」入、
[漫そぞろ言ごといふ間まに年や暮れんとぞ](高名集;漫ろ言はとりとめのないこと)、
[役尊為の称/号]称;大光院、号;桂葉/晩翠堂　、役尊閑えきたかやすの父

C2695 **高為**(たかため・京極きょうごく、稲垣昭友男、京極高門たかかどの養子)1692-1732*41*　幕臣;寄合、歌人、
「霞関集直秀詞書」著

C2696 **挙周**(たかちか・大江おおえ、通称;多幸、匡衡まさひら男、母:赤染衛門)?-1046　漢学者;紀伝道に修学、
1001対策、丹波・三河・和泉守、文章博士/式部権大輔/大学頭/1023後一条天皇侍読、
1031正四下、詩人、「後江李部集」編纂?/本朝文粋2首入、
☆和泉守の任果て後重病を患い母赤染衛門が住吉社に祈願の歌奉納の逸話;
[代らんと思ふ命は惜しからでさても別れんことぞ悲しき]など3首(赤染衛門集)

C2697 **孝親**(たかちか・橘たちばな)　？－　？　平安中期廷臣;1039大内記・文章博士、詩人、
1040改元年号の勘申/同年致仕、1027師房と重陽の酬和詩:「行成詩稿」入、
「後一条天皇朔旦冬至大赦詔」「北野廟供養仏経願文」著(ともに本朝文集入)、
右大臣橘氏公の子孫、大江成衡室(大江匡房の母)の父

C2698 **隆親**(たかちか・藤原ふじわら:道兼流、隆教男、母;平忠盛女)?-?　平安末期廷臣;従五下播磨守・河内守、
歌人;「前播磨守隆親歌合」主催、1172広田社/91若宮社/95経房歌合参加、
一品経和歌懐紙・言葉集・月詣・玄玉集入集、勅撰;千載3首830/932/1008、
[いとはるゝ身を憂しとてや心さへ我を離れて君に添ふらん](千載;恋830)

C2699 **隆親**(たかちか・四条しじょう、号;大宮、隆衡2男/本姓;藤原)1202-79*78*　母;藤原信清女、左中将、
1222正四下蔵人/24(元仁元23歳)参議/25従三位讃岐権守・右衛門督兼任/26正三位、
1227別当宣旨/28従二位/31権中納言/32正二位/35中納言/36太宰府権帥兼任、
1238(37歳)権大納言、43中宮大夫兼任/48皇后宮大夫兼任/50大納言/57致仕/59還任、
160致仕/64(63歳)兵部卿/76(建治2/74歳)大納言還任/77大納言辞職/兵部卿、
歌人/料理家、1248宝治百首/51影供歌合参加、1265十五夜歌合/亀山五首歌合参加、
徒然草182段に乾鮭の逸話/後深草院二条「とはずがたり」登場、
勅撰27首;新勅(229/349)続後撰(726/877/1206)続古今(5首)続拾遺(7首)新後撰(3首)以下、
[へだてこし宿のあしがき荒れ果てて同じ庭なる秋萩の花](新勅;秋229)

M2623 **孝親**(たかちか・中山なかやま、康親男)1512-78*67歳*　母;正親町公兼女、廷臣;蔵人頭/1538(天文7)参議、
権中納言/1549権大納言/65致仕/78准大臣従一位、1531「貫首拝賀記」、「中山家記」著、
「孝親公記」著、連歌:1553-57百韻3度(曼殊院宮と一字露顕百韻・何人百韻・何路百韻)、
[孝親(;名)の法名/法号]法名;臨空、法号;光恩院、親綱の父

M2624 **隆前**(たかちか・たかさき・油小路あぶらのこうじ、初名;隆義、隆典たかつね3男/本姓;藤原)17330-181788
母;家女房の田中政種女、兄早世;家督継嗣/廷臣;1751正四上/53改名;陸前、
1755(宝暦6/27歳)参議;従三位/56左衛門督/検非違使別当、57(宝暦8)権中納言,
1758賀茂伝奏/59正三位/63従二位/64(明和元/35歳)権大納言/65織仁親王二品随身上、
1766叙位宣下上卿/67例幣上卿/68正二位/69神宮上卿/民部卿66叙位宣下上卿、
1767例幣上卿/68正二位/69神宮上卿/民部卿、79権大納言辞任/80本座/83民部卿辞任、
1808(文化5/79歳)従一位、歌人/1757-61「隆前卿記」、17「備忘記」著、
[隆前(;名)の法号]　恭靖院

D2600 **敬親**(たかちか・毛利もうり/本姓;大江、別名;慶親よしちか、福原房昌[毛利斉元]長男)1819-71*53歳*
母;側室(原内氏)、1819(文政2)父が毛利本家に戻り斉元と改名;長門萩藩11代藩主となる、
1836父没後毛利斉広が藩主継嗣;すぐ没/1837(天保8)斉広の養嗣;長州萩藩13代藩主襲封、
従四下/侍従/大膳大夫、慶親よしちかに改名、藩政改革;有能な家臣登用・若い才能を庇護、
村田清風・坪井九右衛門を登用;富国強兵策、萩藩校明倫館再興、1853相模周辺警備、
1858密勅受け尊王に尽力、周布政之助登用;藩是三大綱を決定/長井雅楽登用;航海遠略策、
1859左近衛中将/63参議、1863藩庁を山口に移設(山口移鎮)、
藩論は周布・桂小五郎らの主導で攘夷論、外国船打払い実施;米仏軍艦から報復を受、
長州藩士は幕府に京を追われ1864新撰組に捕縛/1864禁門の変を起し朝廷を敵に回す、
英仏蘭米の連合艦隊が下関襲来;下関戦争に敗北、第一次長州征伐で家老切腹・
慶親は官位剥奪;国許謹慎/敬親たかちかに改名、1865幕府との交渉決裂;倒幕を決断、
松下村塾出身の高杉晋作らが馬関で挙兵/のち各地で諸隊が結成、大村益次郎を登用;
西洋式軍制・新式兵器の配備、1866第二次長州征伐(四境戦争)に勝利、
1867英国と関係修復、討幕の密勅により薩長で官軍を組織し上洛、敬親上洛;左近権中将、
版籍奉還後;権大納言、養子元徳に家督譲渡;隠居、山口藩庁にて没す、贈正一位、
「露山集」著、「敬親遺草」「毛利斉熙斉元敬親書状」あり、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(;中将慶親名)、
[村雨よなどさは降るぞ秋の田の刈りほすひまもあらじと思ふを]、
(大江戸倭歌;秋1013/秋雨)
[敬親(;名)の別名/号]幼名;猶之進、別名;教明(;初名)/慶親よしちか、法号;忠正公
神号;敬親命、綽名;そうせい侯

M2625 **孝弟**(たかちか・福岡ふくおか、孝順男)1835-1919*85* 高知藩士/儒;吉田東洋門;大監察/1863藩主側役、
勤王運動に参加/1867参政/藩主容堂の命で徳川慶喜に大政奉還を進言/公議政体論を主唱、
維新後は朝幕諸藩間の調整;議事制度確立に尽力/枢密顧問官、「壬戌事」「孝弟談話筆記」著、
[孝弟(;名)の通称/号]通称;藤次、号;南嶺、 福岡考令の養子説あり、考済たかのりの弟

隆親(たかちか・油小路) → *隆貞*(たかさだ・油小路あぶらのこうじ、故実/香)Ｌ２６８８
高親(たかちか・島津) → *道義*(どうぎ;法名、武士/歌人) Ｃ３１５７
高近(たかちか・三井) → *高猷*(たかのり・三井みつい、商家/国学) Ｚ２６７９
高千穂(たかちほ・鎌垣) → *春岡*(はるおか・鎌垣かまがき/大伴/児玉、国学/歌)Ｊ３６９５
鷹司院按察(たかつかさいんのあぜち)→ *按察*(あぜち・鷹司院、女房/歌人) Ｂ１０２０
鷹司院帥(たかつかさいんのそち)→ *帥*(そち・鷹司院、女房/歌人) Ｄ２５９９
鷹司院兵衛督(たかつかさいんのひょうえのかみ)→*兵衛督*(ひょうえのかみ・鷹司院/歌人)Ｆ３７０６
鷹司左大臣(たかつかさだいじん)→ *雅信*(まさのぶ・源、催馬楽/歌) Ｆ４０４９
鷹司殿(たかつかさどの) → *倫子*(りんし/ともこ・源みなもと、道長妻/歌) Ｋ４９３６

D2601 **孝継**(たかつぐ・藤原ふじわら、家名;上杉、藤原孝道男?)?-? 鎌倉中期廷臣;五位/蔵人?、
歌人;1218「道助法親王五十首和歌」参加/現存六帖・雲葉集入集、勅撰;続後撰1053
[枕とてむすぶばかりぞあやめ草寝ぬにあけぬる夏の夜なれば](続後撰集;十六1053)

D2602 **高嗣**(たかつぐ・安富やすとみ/本姓;源)?-? 廷臣;五位加賀守、歌人:1364成立「新拾遺」1620
[秋寒きころとやよわる浅茅生の露のやどりの松虫のこゑ](新拾遺和歌集;十八1620)

M2626 **高次**(たかつぐ・藤堂とうどう、高虎長男)1601-76*76* 母;長連久女、伊予板島城に生;学問・風流を好む、
1630(寛永7)遺領継嗣;伊勢津藩主/侍従/大学頭・左少将、新田開発/城下町整備に尽力、
江戸城修築、1669致仕、江戸深川・染井に別邸を構え伊賀丸柱の窯場で藤堂焼を制作、
文学/画/陶器に精通、「八条宮諸家書翰集」著、連歌;1673昌陸らと「寛文十三年正月百韻」、
[高次(;名)の幼名/通称/法号]幼名;大助、通称;大学助、法号;大通院

V2672 **隆韶**(たかつぐ・岩城いわき、仙台藩主伊達村興2男)1707/08-45*39or38* 母;三沢宗直女/江戸の生、
1718(享保3)出羽亀田藩主岩城秀隆(1683-1766)の養嗣子/家督嗣;亀田藩5代藩主、
1721従五下但馬守/24河内守/28公家衆御馳走役/30(享保15)駿府加番/1738隆韶に改名、
儒(朱子学);稲葉迂斎門/室鳩巣門の山宮維深(雪楼)を侍講に招聘、国学・歌・書を修学、
亀田藩学の基礎を成す、正室;津軽信寿女の負正院寿法栄心、

没後;伊達家出身の隆恭が家督嗣、
[隆韶(;名)の初名/通称]初名;村良/清隆、通称;久之助/左京/但馬守/河内守
W2656 **孝継**(たかつぐ・樺島かばしま、通称;小助、石梁[公礼]男)1776-1834*59* 筑後久留米藩士、
和漢学;父樺島石梁門、歌;歌僧白蓉軒桂谿門
D2603 **孝継**(たかつぐ・吉田、正準まさとし男)?-? 江後期土佐高知国学者/歌;父正準[1790-1846]門、
父と高知の和歌撰集「採玉集」初篇10巻を編集(父没後も継承し1862完成)、
1867「採玉集」後篇6巻を編集(未完)
V2637 **敬秩**(たかつぐ・井口いぐち、通称;源右衛門)?-? 江後期天保1830-44頃;紀伊和歌山藩士、
御小姓組番頭格、国学者
W2695 **孝継**(たかつぐ・黒田くろだ、)1829-1909*81* 備前岡山藩士、国学者/歌人、
[孝継(;名)の通称/号]通称;塡一郎てんいちろう、号;半窓
高継(たかつぐ・中御門なかみかど)→ *経季*(つねすえ・中御門/藤原、廷臣/歌)Ｃ２９２５
高嗣(たかつぐ・葉室) → *定嗣*(さだつぐ・葉室/藤原、廷臣/歌人) Ｃ２００３
高辻斎宮(たかつじのいつきのみや)→ *粛子内親王*(しゅくしないしんおう、歌人) Ｉ２１６１
D2604 **隆綱**(たかつな・源みなもと、宇治大納言隆国男)1044-1074早世*31* 母;源経頼女、廷臣;蔵人頭、
左近中将/1068(治暦4)参議/74正三位、兄隆俊と後三条天皇の近臣、隆俊・俊明の兄弟、
隆綱の書いた定文を見て後三条天皇がその器量に感嘆した逸話あり(;故事談)、
歌;四条宮下野集入(下野との贈答歌)、源経信と交流、[隆綱卿歌合]催(;袋草紙入)、
勅撰2首;後拾727・続古922、
[帰るべきほどをかぞへて待つ人は過ぐる月日ぞうれしかりける](後拾遺;恋727、
東あづまにいる康資王母への贈歌、返歌728;
東屋あづまやの萱がしたにし乱るればいさや月日のゆくも知られず/康資王母集入)
M2627 **高綱**(たかつな・亀田かめだ、溝口半兵衛[亀田宗俊]男)1558-1633*76歳* 尾張葉栗郡の武将、
1573(16歳)柴田勝家越前入国時の一揆の戦闘で一番槍の高名/賤ヶ岳では勝豊側で戦功、
のち浅野幸長の臣;亀田と改姓、朝鮮出征/大坂両度の陣に従軍/浅野家家老職、
論功のことで致仕;堺・高野山に閑居、1615「樫井戦記事」28「泉州樫井表合戦次第覚書」、
「亀田大隅一代働覚」著、
[高綱(;名)の通称/号]通称;半之丞/権兵衛/大隅守おおすみのかみ、号;哲斎/鉄斎員徳、
D2605 **隆綱**(たかつな・宇都宮うつのみや)?- ? 江前期;水戸中納言家の家士/下野守、歌人、
1691了然尼撰(茂睡編)「若むらさき」入、
[さりともと思ふ行方は世の中のうきにならはぬ頼みなりけり](若むらさき;181述懐、
それにしても何とかと将来を頼みにして世の辛さに慣れようとしない)
D2606 **高津内親王**(たかつないしんのう、桓武天皇皇女)?-841 母;坂上苅田麿女全子、嵯峨天皇妃/三品;のち廃、
歌人;古今959?(左注;ある人の説)・後撰1155、業良親王・業子内親王の母、
[直き木に曲れる枝もあるものを毛を吹き疵きずを言ふがわりなさ](後撰集;十六1155)
D2607 **高経**(たかつね・藤原ふじわら、長良男/母;総継女乙春)835-893*59* 平安前期廷臣;蔵人頭/890従四下、
右衛門督、888意見五条を奏上、基経の弟/二条后高子の兄/兵衛の父、歌;後撰集169、
[夏の夜は逢ふ名のみして敷妙しきたへの塵はらふ間まに明けぞしにける](後撰集;夏169)
D2608 **隆経**(たかつね・藤原ふじわら、美濃守頼任男)1009?-1072*64?* 母:伊予守藤原済家女、歌の六条藤家の祖、
平安前後期廷臣;甲斐・摂津・美濃守、尊仁親王(後三条天皇)の春宮大進/正四下、
妻;白河天皇乳母の親子、顕季の父/顕輔の祖父/清輔の曾祖父、歌人;
四条宮下野・藤原範永ら和歌六人統との交流、私撰集「隆経三巻集」撰(散佚)、後葉集入、
勅撰7首;後拾遺(12/78/683[童木わらわぎに贈])金葉(183/198/271[Ⅲ175/273]詞花(390)
[春ごとに野辺のけしきの変らぬはおなじ霞や立ちかへるらん](後拾遺;春12)
☆[袋草紙];本は[空のけしきの]とあるを入集時に[野辺]に直された;清輔は批判的見解、
参照 → *童木*(わらわぎ、後拾遺歌人;684返歌) ５３６３
M2628 **高経**(たかつね・斯波しば/足利、足利宗氏or家貞男/本姓源)1305-67*63* 母;毛利(大江)時秀女、武将、
足利尊氏の臣;元弘乱に従軍、建武政権の越前守護/新田義貞を制す/1340若狭守護兼任、
尊氏に疎まれ足利家の内紛に直義に次いで直冬に党し1356尊氏に下り解任;剃髪、

尊氏没後義詮を助け幕府執権・管領となる/讒訴により失脚;越前杣山城で没、
連歌:菟玖波8句入(法名;導朝名:1356頃に剃髪)、氏経/義将よしまさ/義種の父、
[花に吹くあらしは夜の枕にて](菟玖波;春119/導朝法師、
前句;夢もうつゝも見る程ぞかし)
[高経(;名)の幼名/通称/法名/法号]幼名;千鶴丸、通称;孫三郎/七条修理大夫入道、
法名;導朝/道朝、 法号;霊源院

Z2681 **孝庸**(たかつね・宮城みやぎ/宮木、)1585-166783 桃山・江前期;近江の生、歌人、
歌学・連歌;細川幽斎(藤孝)門、因幡鳥取藩士、
[孝庸(;名)の通称/号]通称;万満丸/善左衛門、 号;癖山子

M2629 **高恒**(たかつね・山鹿やまが/兼松/岡/賜姓;津軽、兼松久義男)1650-171364 母;山鹿素行の姉(or妹)、
備後三次藩士/兵学;素行門/1668素行の長女亀と結婚(娘婿);75家督相続/三次藩致仕、
1679陸奥弘前藩士/藩主津軽信政に重用;81家老/知行4千石の第一家老;軍事国政に権勢、
津軽山鹿流兵学の祖、義弟高基の平戸山鹿流に対抗、1697家老罷免;知行没収、
1709「武事提要」著、
[高恒(;名)の別名/通称/法号]別名;興信/政実、通称;八郎左衛門/大学/将監、法号;良俊院

V2625 **隆典**(たかつね・油小路城あぶらのこうじ/本姓;藤原、隆貞男)1684-174663 兄隆眞の養子;家督嗣、
1700右中将/06蔵人頭/07正四上/1708(宝永5/25歳)参議/右衛門督、09従三位/11左衛門督、
1713正三位/14東照宮奉幣使/15(正徳5/32歳)権中納言/1716従二位;条事定并改元定参仕、
1724賀茂伝奏/29(享保14/46歳)権大納言/正二位/32例幣上卿/33権大納言辞任、

M2630 **隆経**(たかつね・城じょう、通称;六郎、隆元男)?-? 江後期1781-1854頃久留米藩士/馬術:父門、
藩主有馬頼永の馬術師範、「御馬至尽集」「万統神綱集解」「秘密之巻解」「抜覚集解」著

M2631 **貴恒**(たかつね・中島なかじま/初姓;植木、中島広足の養子)1816-1900?85? 肥前島原比良村の生、
長崎の国学者;長瀬真幸門・中島広足門;養子となる/吉永直雄・平田篤胤・越智千里門、
歌人;歌会を催、諏訪社宮司、歌の門人多数、晩年は長崎県皇典講究所長/諏訪神社宮司、
1847「ぬさの追風」、「さゝくり」著、
[貴恒(;名)の別名/通称/号]別名;広行、 通称;鶴丸/隼太、 号;橿園/筱の舎ささのや

孝恒(たかつね・前田) → *利和*(としよし・前田まえだ、藩主/歌人) Ｔ３１７５
孝彝(たかつね・村上) → *頑山*(がんざん・村上むらかみ/長野、儒者/歌)Ｖ１５９３
隆経(たかつね・油小路) → *隆基*(たかもと・油小路あぶらのこうじ/藤原/広橋、廷臣)Ｖ２６２７
高常(たかつね・佐久間) → *立斎*(りっさい・佐久間さくま、兵学者) Ｂ４９８３
高雅(たかつね・藤井) → *高雅*(たかまさ・藤井、神職/国学/歌) Ｄ２６７４
高経女(たかつねのむすめ・藤原、忠房妻)→ *兵衛*(ひょうえ・兵衛命婦) Ｆ３７０２
高津野々翁(たかつのやおう→こうづのやおう)→ *野坡*(やは・志太、俳人) ４５１２

M2632 **尭連**(たかつら・飯尾いいのお、通称:大和守、兼連男)?-? 室町幕府奉行人、1537周防への使節、
武家故実に精通、1526「筆記」、1539/47「伺事記録」著

M2633 **孝連**(たかつら・前田まえだ) ？－ ？ 江後期前田監物家(寄孝が祖)の当主、
加賀金沢藩士、1650「前田監物系図帳」著
[孝連(;名)の通称] 監物/忠山翁、潤屋(孝央)の父

M2634 **良喬**(たかてる・山村やまむら、別名;良明/良済、良恭男)1759-185092歳 叔父良由の養嗣子;名古屋藩士、
1788良由が名古屋藩家老に抜擢されたためその跡を継ぎ木曽代官、1816致仕隠居、
俳人;美濃派岡崎風廬坊[暮来]門、1815「山の錦」24「水月集」編、「霜の朝」著、
[良喬(たかてる;名)の字/号/通称]字;士遷/子遷、 号;風兆/玉塁/里有/白鶴楼隠人、
通称;忠次郎/甚兵衛/式部/三郎九郎/三郎左衛門/瀛翁、 法号;曹谷院

D2609 **隆璉**(たかてる・榎並えなみ/本姓;源、通称;助之丞)1775-184470 京の国学者・歌学;富士谷御杖門、
1794「清き渚」、「万葉鑰かなふぐし」「雅言通載」「源氏物語麻岱ぬさぶくろ」著、1840「国史類函」編

E2619 **高輝**(隆輝たかてる・高瀬たかせ、別名;美奈和)1793-186068 肥後熊本藩士;玉名郡代、
国学;長瀬眞幸・中島広足門

M2635 **孝錫**(たかてる・前田まえだ、別名;晋、孝保男)1831-? 加賀金沢藩士;1856家督/人持組/常火消役、
小松城番/小松表詰/今石動支配/1864京詰:家老、65洛中若年寄兼帯/69大参事、

1865「京都詰中手留」「京都詰中風説書」、「前田内蔵太家系下帳」著、
[孝錫(;初名)の通称]　内蔵太くらた
高照(たかてる・三井)　→　*高蔭*(たかかげ・三井みつい、商家/国学)　Ｃ２６５９
D2610 **高登**(たかと・三井みつい)　？－　？　江中期歌人、小沢蘆庵[1723-1801]門
高登(たかと・藤堂)　→　*高堅*(たかかた・藤堂、藩主/歌人)　Ｌ２６７３
D2611 **隆任**(たかとう・松平まつだいら/本姓;源、通称;三郎左衛門、富永孫左衛門師勝男)1674-1740*67*　幕臣、
松平隆春の養嗣子/家督嗣;桐間番/近習番/書院番、堂上派歌人;中院家の門人、
石野広通「霞関集」入、義尭よしたか(1717-79)の父、
[たが為にみをつくしてか難波人蘆の篠屋しのやに衣うつらん](霞関;秋522)
[求めなき心ぞ安きかくて世を杉生すぎふの窓も明暮の空](霞関初撰;閑居/杉葺の庵の窓)
M2636 **高任**(たかとう・大島おおしま、周意男)1826-1901*76*　盛岡の蘭学者;1842箕作阮甫・坪井信道門、
砲術・採鉱冶金釜学修得/1853藤田東湖の招聘で水戸那珂湊に反射炉築造;大砲鋳造、
南部藩釜石に鉄山を開発;日本最初の洋式溶鉱炉建造;銑鉄生産、1860幕府蕃書調所教授、
新政府の鉱山行政に関与、「鉄銃製造御用中心覚之概略」著、
[高任(;名)の幼名/通称/法号]幼名;文治、通称;総左衛門/惣左衛門/周禎、法号;大量院
高堅(たかどう・藤堂)→　*高堅*(たかかた・藤堂とうどう、藩主/歌人)　Ｌ２６７３
2612 **高遠**(たかとお・藤原ふじわら、齊敏ただとし男)949-1013*65* 母;藤原尹文女、廷臣;右少将/兵部卿/左兵衛督、
1004大宰大弐/05正三位、1009藤原文信の訴状により罷免;上京、笛;一条天皇の師、
小野宮実頼の孫、小野宮右大臣実資の同母の兄、従兄弟;佐理・公任など、枕草子に逸話、
歌人:966(康保3)閏八月十五夜内裏前栽合参加/977(貞元2)三条左大臣家歌合参加、
986(寛和2)内裏歌合参加、家集「大弐高遠集」、金玉・玄々・後葉・続詞花・万代集など入集、
勅撰27首;拾遺(169)後拾(8首158/215/250以下)詞花(73)新古(69/318/1002/1998)以下、
[相坂あふさかの関の岩門いはかど踏みならし山立ち出づる桐原の駒](拾遺;秋169、
少将の時に駒迎に詠[969-976右少将]/霧と馬の産地信濃桐原を掛る;
毎年八月諸国から献上の馬を馬寮の役人[少将]が逢坂関まで迎えに行く)、
[高遠(;名)の通称]　大弐高遠だいにのたかとお
M2637 **隆遠**(たかとお・鷲尾わしのお/わしお、隆豊男/本姓;藤原)1408-57*50*　室町期廷臣;1548参議/51権大納言,
1553正二位、1432「隆遠卿記抄」著、隆頼の父
M2638 **高遠**(たかとお・八角はっかく、号;杏斎、高儀男)1816-86*71* 陸中盛岡藩医/藩校助教、
「八角高遠日記在京記」著
D2613 **高遠妻**(たかとおのつま/たかとおがめ・平たいら)?-?　平安前期歌人:夫高遠の汚名の左遷を嘆き詠歌;
後撰1334、平高遠については不詳(尊卑分脈にも不載)、
[忘るなと言ふに流るゝ涙河うき名をすゝぐ瀬ともならなん](後撰集;十九;離別1334、
夫が配流のとき「忘るな」と言った)
D2614 **隆時**(たかとき・藤原ふじわら;北家良門流、清綱男)?-1106or1013没? 平安後期廷臣;正四下、
母;平貞盛女、但馬・近江・因幡守、歌人;1095鳥羽殿前栽合;方人として参加、新古今80、
清隆・範隆の父、
[桜花咲かばまづ見むと思ふまに日数ひかず経へにけり春の山里](新古;春80、
白河院が離宮鳥羽殿に滞在時に人々と山家に花を待つという心を詠む)
D2615 **孝言**(たかとき/たかこと/のりとき・惟宗これむね、字;宗智、教親男)1004or1017生?-? 1097存 平安中後期廷臣、
漢学;紀伝道門、大学頭/長門守/掃部頭/伊勢守/伊賀守を歴任/従四上、藤原師通に近侍、
礼記・毛詩・文選・史記・後漢書等を講義/「大唐六典」「金楼子」を献上、詩人、
大江佐国・匡房と万葉集に次点を加える、1071平等院に歌集納める、続文粋入
D2616 **孝時**(たかとき・藤原ふじわら、孝道男)?(1185-99頃生)-1266　代々楽所預/正五下/右馬助、琵琶に精通、
父との不和で出家、隆円「文机談」や橘成季「古今著聞集」に逸話、「三五中録」「三曲秘譜」、
[孝時(;名)の法名]　法深房智西　、孝頼の父、門人;橘成季・隆円
M2639 **高時**(たかとき・北条ほうじょう、貞時男)1303-33自刃*31* 鎌倉14代執権/飲酒に耽り人心離反;
正中・元弘乱が起きる、1333新田義貞による鎌倉陥落;自刃
M2640 **堯言**(たかとき・山科やましな、持言男/本姓;藤原)1686-1751*66* 江前中期廷臣;1718従三位/27参議、
1748権大納言;同年致仕、1751(宝暦元)正二位、

1706-50「山科堯言卿記」1711「山科家答」著、法号;法雲院
M2641 **敬言**(たかとき・山科やましな、頼言よりとき男/本姓;藤原)1742-7837　廷臣;1770参議/72左衛門督兼任、1775権中納言/77従二位、1776「敬言上卿下知案」著、忠言ただときの父
D2617 **高年**(たかとし・菅野すがの)　?-　?　平安初期廷臣;博士/散位従五下、造酒正/図書頭、内匠頭/849因幡介、843宮中で日本書紀講書の読師(;続日本後期入)、839「承和私記」/843-4「日本紀私記」著
D2618 **隆俊**(たかとし・源みなもと、経俊、隆国男/母;源経頼女)1025-7551 母;左大弁源経頼女、廷臣、1059(康平2)参議/太皇太后宮大夫、1065(治暦元)権中納言、1071(延久3)正二位、弟隆綱と共に後三条天皇の近臣、1075(承保2)出家;没、歌人;1049(永承4)内裏歌合参加/51内裏根合右方講師、万代集入、続古今1742、[月見てはなれにし人も恋しきに我をば誰か思ひ出づらむ](続古;雑1742/秋夜対月)
D2619 **隆俊**(たかとし・四条しじょう、隆資たかすけ男/本姓;藤原)?-1374戦死　南朝廷臣;1370従一位内大臣、河内天野行宮で細川氏春と戦闘;討死、歌人:1365内裏和歌「正平廿年点取三百六十首和歌」(於住吉行宮)参加、新葉集20首;16/69/87/133/145/170/215/268/372/408/421/568以下、[千代までの春を摘みてや君がため今日奉る若菜なるらん](新葉;春16、正平廿年[1365]内裏で年中行事題360首歌に献若菜を詠)
D2620 **高俊**(たかとし、姓不祥)　?-　?　連歌、1558「花千句」連衆
V2605 **孝利**(たかとし・青柳あおやぎ、通称;新九郎)?-1703　幕臣;大番、京住、歌人
2713 **喬利**(たかとし・山田やまだ、)1749-181971　近江彦根藩士、国学/歌人;[彦根歌人伝・寿]入、[喬利(;名)の通称/号]　通称;甚五右衛門、号;甚仙
Z2632 **高俊**(たかとし・藤井ふじい、通称;主膳)1767-183367 備中賀陽郡の吉備津神社社家、国学者、高操たかもちの父
Y2640 **高俊**(たかとし・藤堂とうどう、高丈2男)1812-8776　伊勢津藩主の家、国学者、彫刻・製陶に長ず、[高俊(;名)の通称/号]通称;半蔵、号;梅窓/寒香
M2642 **敬敏**(たかとし・広岩ひろいわ、通称;主水もんど)1817-? 1864存 三河渥美郡吉田の神職/平田篤胤門、「文恭院殿御葬送御行列并御町書浄観院殿御葬送御行列」著;(文恭院は徳川家斉1773-1841/浄観院は不明;阿部正識まさつね1764-1803か?)
D2621 **高敏**(たかとし・三井みつい、別名;守謙、高匡たかまさ男)1823-8563 伊勢松坂の商家(松坂南家)、国学;三井高蔭・本居内遠門、詩文、「酔古堂劒掃」(詩文)、[高敏(;名)の字/通称/号]字;功卿、通称;健之助/則右衛門、号;戴星/六師園/潮香/南泉/琴斎/天愚/尚堂/半痴/佶庵/秋風居士/無咎居士むきゅうこじ/三明書楼/三明学人/百研堂、
V2655 **高老**(たかとし・伊能いのう/本姓;大神、)1837-9862　下総佐原の国学者/歌;神山魚貫なつら門、維新後;東京住、「杉廼舎集」著、[高老(;名)の初名/通称/号]初名;景福かげとみ、通称;高之助/仙蔵、号;杉廼舎
Z2600 **隆俊**(たかとし・幡鎌はたかま、幸雄ゆきお長男)1841-191878　遠江周智郡の神職/山名神社社司;父継嗣、国学者/歌人;父門、戊辰戦争に父と討幕軍遠州報国隊結成/参加、[隆俊(;名)の初名/通称]初名;勝寿、通称;主計かずえ

隆俊(りゅうしゅん・幡鎌)　→　*隆俊*(たかとし・幡鎌はたかま、神職/国学)　Ｚ２６００
高俊(たかとし・惟宗これむね)→　*俊阿*(しゅんあ;法諱、廷臣/法師/歌人)　Ｊ２１１５
高俊(たかとし・飯島/佐久良)→　*東雄*(あずまお・飯島/佐久良さくら/桜、国学/歌)１０５０
高俊(たかとし・葛巻)　→　*昌輿*(まさおき・葛巻かずらまき、藩士/歌)　Ｂ４０４９
隆年(たかとし・野呂)　→　*介石*(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師)　Ｂ１５０９
隆利(たかとし・戸川)　→　*安昌*(やすまさ・戸川とがわ/堀、幕臣)　Ｃ４５９５
隆俊女(たかとしのむすめ・源隆子)→　*顕房室*(あきふさのしつ・源、歌人)　１０８１
たかとのの願阿　→　*戒順*(かいじゅん:法諱・二階堂、浄土僧/歌)Ｖ１５３０

M2643 **高富**(たかとみ・三井みつい八郎右衛門[2代]、高利男)1654-170956 伊勢松阪生、母;かね(寿讃)、高平の弟/高治の兄、1668伯父俊次の江戸呉服店に奉公、

1673父が江戸本町1丁目に呉服店開業;その店務を処理、兄高平と事業を推進、
京に拠点;両替商・唐物の仕入を担当、伊皿子家の祖、「宗竺遺書」、
[高富(;名)の幼名/通称/法名]幼名;長五郎、通称;次郎右衛門/八郎兵衛/2代八郎右衛門、
法名;宗栄、法号;霊沼院

Z2602 **高宝**(たかとみ・早雲はやくも、通称;伯耆守)?-1815 阿波徳島の神官、徳島藩士;小性格、
国学・歌;加藤景範門、高古たかふるの父

M2607 **尊福**(たかとみ・千家せんげ、尊澄たかすみ男)1845-1918*74* 出雲杵築の神職:1872出雲大社大宮司、
出雲国造こくぞう職、大教正;神道西部管長、82宮司を致仕/神道大社教を組織;初代管長、
のち司法大臣、母;広橋光成女婦美子、1867「ひなのはつこゑ」、「大道要義」「大道問答」著
[尊福(;名)の幼名/通称]幼名;国麿、通称;杖代彦つえしろひこ

高富(たかとみ・佐々木) → *高行*(たかゆき・佐々木ささき、藩士/国学) Ｘ２６１７

高福(たかとみ・三井) → *高福*(たかよし・三井13代八郎右衛門) Ｎ２６７７

D2622 **隆朝**(たかとも・九条くじょう[:六条藤家]、隆教男/本姓藤原)1290-1355*66* 廷臣;1329侍従/正三位、
1319兵部卿、歌人;1330元徳二年八月御会参加、貞和百首・臨詠集入、1350為世十三忌歌参、
勅撰6首;風雅717/1374新千487/1688/230新拾1657
九条行輔・徽安門院小宰相の父、
[いとはやも晩稲おしね色づく初霜の寒き朝けに山風ぞ吹く](風雅;秋717/百首歌)

徽安門院小宰相→ *小宰相*(こさいしょう・徽安門院、歌人) Ｃ１９５９

M2644 **尊朝**(高朝たかとも・源みなもと)?- ? 連歌作者、1356刊「菟玖波集」3句入、
[咲き初めし枝より花のうつろひて](菟;春163/前句;霞の絶間日こそ見えつれ)

D2623 **孝朝**(たかとも・小田おだ、法号;宝昌院、治久男/本姓源)1337-1414*78* 武将;常陸小田城主、
山田讃岐守、足利尊氏の臣;尊氏に従軍し近畿転戦/鎌倉公方と対立し足利氏満と戦う、
許されて所領保持、歌:尊氏催「五首歌会」参加、頓阿・義堂周信と交流、
勅撰2首;新千載1482/新拾遺1129、
[うとくなる契を中のへだてにてかよひし道も遠ざかりつつ](新千載集;十四恋1482)
(詞書;等持院贈左大臣[尊氏]家にて五首歌よみ侍りけるとき絶恋を)

M2645 **高知**(たかとも・京極きょうごく/羽柴、高吉男)1572-1622*51* 母;浅井祐政女、丹後宮津藩主京極家の祖、
初め秀吉臣/毛利秀頼女と結婚;1593遺領(飯田城)継承/秀吉より羽柴姓;のち旧姓に復す、
秀吉没後は家康臣;関ヶ原で戦功;丹後宮津藩主、母マリアの感化でキリシタンとなる、
「たちのゝしゝう道ゆき」「京極丹後守書状」著、
[高知(;名)の幼名/法号]幼名;長寿、法号;瑞泰院真巌道可

N2614 **隆文**(たかとも・四条しじょう、初名;隆春、隆安男/本姓;藤原)1689-1738*50歳* 江前期廷臣;
1735正三位参議、「近衛家会初」著、法号;信解院、養嗣子;隆叙

N2668 **孝与**(たかとも・稲生いのう、修姓;稲とう、通称;新助、稲生若水男)?-? 加賀の医者/本草学者、
父が加賀前田侯の儒者であったので加賀藩の扶持20人扶持を受ける、
「公余随筆」編、1734「水陸雷鳥ノ説」35「加賀国産物志」37「能州物産志」著、
1734父若水編述の「庶物類纂」補修が計画されそれに参加中業半ばで江戸に客死

Y2681 **隆共**(たかとも・西大路にしのおおじ/本姓;藤原、隆廉たかかど男)1738-99*61* 廷臣;桃園天皇の近習、
左近衛権少将、垂加神道;竹内たけのうち式部(敬持たかもち)門(久我敏通と同門)、
1758宝暦事件(朝権回復運動)に連座;免官、
[隆共(;名)の号] 孤雲(;法号)

M2646 **孝友**(たかとも・前田まえだ、孝昌男)1759-1832*74* 加賀金沢藩士;1777家督嗣/年寄、伊勢守、
1821致仕、「前田家譜」編、
1786「泰雲院様御葬送并御中陰等御法事御用留之内御作法要文」著、
[孝友(;名)の通称/法号]通称;与十郎/大炊おおい/駿河、法号;孝猷院

D2624 **高伴**(たかとも・栗田くりた/藤田/大林、別名;武鞆/隆友/道広、藤田伊勢松男?)1792-1831*40* 遠州歌人、
:石塚龍麿門、栗田家の養子、万葉学に造詣が深い、加納諸平「鰒玉ふくぎょく集」入、
「万葉俚堅間」「万葉勝間集」「なのりそ」「万葉一句類語集」、1817「万葉集中種々考」著、
[高伴(;名)の通称/号]通称;繁吉/三郎兵衛、号;竹の屋

D2625 **高知**(たかとも・平山ひらやま) ? - ? 漢学者;

1829「聖歎外祖(金聖嘆批評)水滸伝」訳;(金聖嘆は明末清初蘇州の批評家)

D2626 **高鞆**(たかとも・鈴木すずき、直道男)1812-60*49歳*　周防佐波郡松坂神社(防府天満宮)祠官、
神道(家学);父門、国学;中島広足・足代広訓門、吉田松陰と交友、広足「橿園随筆」序、
1847「防府天満宮霊験記」51(嘉永4)「類題玉石集」編/57「佐波のあら玉」著、
「蔭正遺稿」編(兼清かねきよ蔭正は1810-39;周防熊毛郡の国学者)、
[高鞆(;名)の通称/号]通称;武雄、号;賢木園さかきのその/玉の室屋たまのむろや
☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入集の[高鞆]と同一?、
[斑鳩いかるがの池にたたへし法の水多くの人のおぼれぬるかな](雑2060/仏道;批判)

M2647 **孝知**(たかとも・永原ながはら[;初姓]/赤座あかざ、通称;甚七郎)1813-73*61*　加賀藩士;大小将組/作事奉行、
1864馬廻組兼聞番/京住;水戸天狗党上洛を阻止の内命を受け加賀藩監軍として指揮、
1867銃隊馬廻頭/姓を赤座に復す;赤座吉家の子孫、「葉原一件覚書」著

Y2668 **孝類**(たかとも・永原ながはら、通称;寛兵衛)?-1871獄中死　出羽庄内藩士;小祐筆/国学者/書・歌に長ず、
家老酒井了繁(右京)に出仕;公武合体派による藩政改革に参画;丁卯の大獄に連座;
永牢/維新後も赦免なく1871(明治4)獄中に没、のち門人関口正右衛門が頌徳碑を建立

D2627 **尊朝**(たかとも・千家せんげ、号;柞舎ははそのや、尊孫たかひこ男/尊澄の弟)1820-40早世*21*　母;渡辺とね子、
出雲杵築の歌人、神童と称された;7歳で詠歌;父門、家集「類題柞舎ははそのや集」著

M2648 **鷹友**(たかとも・狩谷かりや、名;隆平・隆友・厚友・高鞆・**竹鞆**)1822-78*57*　加賀の国学/歌;田中躬之門、
1957加賀藩校明倫堂皇学科訓導/74白山比咩しらやまひめ神社宮司;大講義を兼任、「真弓園集」著、
「村雨乃日記」「続日本後紀考証」「那良乃志乎理」「白山新百首」「真弓園集」「幼学必誦歌」外多、
[鷹友(;字)の通称/号]通称;金作/金吾、号;真弓園/神習館、加藤里路さとみちの師

X2661 **高鞆**(たかとも・城子しろこ、)1827-1903*77*　信濃伊那郡の国学者;平田銕胤門、
飯田の商家大蔵屋(飯田藩御用達)の千葉葛野かどの女の婿、
[高鞆(;名)の通称]仁介/鞆助/長三

M2649 **孝友**(たかとも・前田まえだ、通称;孝次郎、孝享男)1839-?　1871存　加賀金沢藩士、
1846/67「前田兵部系図帳」著

2704 **高鞆**(たかとも・矢野やの、通称;鞆太/市郎兵衛)1838-84*42*　伊予宇和郡舌間したま浦の庄屋、
国学・歌人;清家堅庭・近田八束門、八束の甥、[宇和島大洲百廿番歌合]に宇和島方で参加

D2628 **高鞆**(たかとも・青柳あおやぎ、宗右衛門満平2男/本姓源)1840-92*53*　下総滑川村の国学者・平田鉄胤門、
医:権田直助門、鹿島神宮少宮司、足利尊氏像を梟首;捕縛される/1864「精神一注」著、
1867赦免、明治期;実行教権大教正、歌人、1877-「やまと叢誌」刊行、
[高鞆(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;鼎、別名;義尊/義貫、
通称;建之助/健之助/建麿/六郎、号;鼎斎

孝知(たかとも・太田)　→　*桃後*(とうご・太田、俳人)　Ｄ３１６７
文友(たかとも・日向/坂尾)→　*宗吾*(そうご・坂尾/阪尾/日向、藩士/武術家)Ｈ２５２８
高朝(たかとも・宮後)　→　*朝喬*(ともたか・宮後みやじり/度会、神職)　Ｐ３１６６
高鞆(たかとも・竹尾)　→　*正寛*(まさひろ・竹尾/源、神職)　Ｇ４０９９
隆友(たかとも・藤田/栗田)→　*高伴*(たかとも・栗田/藤田/大林、歌人)　Ｄ２６２４
隆友(高鞆たかとも・狩谷)→　*鷹友*(たかとも・狩谷かりや、国学者/歌人)　Ｍ２６４８
隆友(たかとも・大森)　→　*隆公*(たかきみ・大森おおもり/藤原、神職/国学)Ｗ２６２０
隆朝(たかとも・桑原)　→　*隆朝*(りゅうちょう・桑原初代～4代)

D2629 **隆豊**(たかとよ・七条しちじょう、初名;隆良、隆脩男/本姓;藤原)1640-86*47*　廷臣;1676正三位/81参議、
1683左兵衛督/84致仕、歌人、宗固「雲上歌訓」入、「七条宰相隆豊卿筆蹟」書、
[隆豊(;名)の一字名/法号]一字名;曲、法号;寂照

D2630 **高豊**(たかとよ・日下部くさかべ/今荘/今条)1704-67*64*　江戸の国学者・歌:1742賀茂真淵門、
歌集「山のさち」、「日下部高豊家集」著、本居大平「八十浦の玉」入、
[梓弓春立つらしも武蔵野の小手さし原に霞たなびく](八十浦;上5/1758真淵家宴)、
[高豊(;名)の通称/号]通称;貞右衛門、号;道堅

Y2646 **敬豊**(たかとよ・内藤ないとう、内藤家の養子/通称;文作)1752-182372　肥後熊本藩士;番士/百石、
国学者/歌人

Z2637 **恭豊**(たかとよ・二木ふたき/にき、)1781-1854*74*　飛騨高山の酒造業、国学者・歌人;田中大秀門、

秀幹ひでもと・三綱みつなの父、
[恭豊(;名)の通称/号]通称;長右衛門、 号;守拙

M2650 **高豊**(たかとよ・藤井ふじい、高尚たかなお男/本姓;大中臣)1791-1825*35* 備中賀陽郡吉備津神社宮司、
国典;父門、漢学;間野竹堂門、従五下、1805吉田家より神道裁許状を受、歌人、
「小松の落葉」著、妻;美禰みね(河野家の女/1800-41)/娘;松野(藤井高雅妻/1821-46/*26歳*)、
[高豊(;名)の幼名/通称/号]幼名;忠之丞、 通称;久米之介/但馬守(祖父高久の称)、
号;訥斎、 神号;善言霊神

D2631 **高虎**(たかとら・藤堂とうどう、虎高男)1556-1630*75* 武将;伊勢津藩初代藩主、1570浅井長政家臣;初陣、
阿閉政家・磯野員昌・織田信澄と主を変える/1576木下秀長家臣/96主家絶え高野山で出家、
秀吉家臣;伊予板島(宇和島)城主;文禄慶長役では水軍を率い従軍/家康家臣;関ヶ原戦功、
伊予今治藩主/1608伊勢津藩に転封/大坂の陣で戦功加増/東照宮造営に参画、
秀忠女東福門院入内に尽力、「虎狒こよく雑談」「高山公御留書」1612「御天守土台石垣大積」著、
[高虎(;名)の幼名/通称/号]幼名;与吉、通称;与左衛門/高山公、出家号;白雲、法号;高山院

M2651 **高名**(たかな・白鳥しらとり/長岑ながみね、茂智麻呂の弟)794-857*64* 漢学;紀伝道に修学/814文章生、
廷臣;821式部少録、天長824-348頃白鳥村主から長岑宿禰に改姓/835遣唐准判官、
836従五下/836遣唐使で渡唐;39帰国、山城守/伊勢守/播磨守を歴任/正四下に至る、
詩人;経国集入

W2624 **敬名**(たかな・岡おか、通称;亀太郎、禰宜岡春江長男)?-1848 備前岡山藩士;酒折宮禰宜の家の生、
国学・歌;渡辺重豊門/桂園派の歌人

D2632 **隆直**(たかなお・四条しじょう、法名;**浄喜**、権大納言隆郷男/本姓;藤原)1357-1436*80* 廷臣;1402従三位、
1407(応永14)参議/正三位伊予権守;09参議辞任/10従二位/13(応永20/57歳)権中納言、
1414辞任/17(応永24)正二位、1420(応永27/64歳)権大納言/23(応永30/67歳)出家、
隆盛の父、歌人;1407内裏九十番歌合/1434永享百首参加、新続古今504
[高砂の尾上の月に秋ふけて松風ちかく鹿ぞ鳴くなる](新続古今;秋歌下504)、
[山の端はそことも見えぬ横雲の霞にこもる春の曙](永享百首;87/春曙/浄喜名)

Y2631 **喬直**(たかなお・土屋つちや、利直3男)1666-1725*60* 江戸の幕臣/旗本;
1675兄家督嗣により上総市原の新墾田2千石分与され旗本となる、
1679(延宝7)領地を下総国相馬郡川原代村・常陸国河内郡・茨城郡内に移転、
百人組頭/書院番歴任、1710(宝永7)幕府巡見使;九州各地を回る;河合曾良が随員同行、
土屋直樹・相馬忠胤の弟、安直・縄直ただなお・倫直・三浦明喬室・滝川利章室・小栗正辰室の父、
[喬直(;名)の初名/通称]初名;宗直、 通称;数馬/刑部

M2652 **敬直**(たかなお・加藤かとう)1706-1755*50歳* 播磨姫路の和漢学者/考古学の研究、
印南郡的形村で教育;門弟多数、「播磨古跡便覧」「播磨古拠事伝説」著、
[敬直(;名)の通称/号]通称;文蔵、 号;奇居虫斎/奇虫斎、法号;屠竜

M2653 **喬直**(たかなお・玉置たまき、通称;伴助)?-? 江中期江戸小石川の書家/歌人、玉置茂八もはちの師、
1823刊「奉納詠百首和歌」著、息子も伴助を名乗る

2613 **高尚**(たかなお・藤井ふじい、高久男/本姓;大中臣)1764-1840*77* 母;酒折宮祠官岡為長女の小春、
代々備中吉備津神社社家家頭、吉備津神社宮司/従五下/1799長門守、1825息高豊早世、
1835養嗣高雅に職を譲渡;吉田家より神号を受、
国学;小寺清先門/歌;父高久・栂井一室門/歌学:1793本居宣長門、書;梨木祐為門、
宣長没後は関西の鈴屋派の門弟指導;僧義門・清水宣昭・業合大枝らの師、篤胤と交流、
妻;茂弥しげや(中西家女の繁野/歌人)、高豊の父
1795「山つと」1803「さき草」11「松屋文集」12「浅瀬のしるべ」21「本のしづく」、
1826「三のしるべ」27「松屋文後集」29「松の落葉」30「出雲路日記」36「源平拾遺」、
「高尚歌集」「古今和歌集新釈」「源注問答」「高雄紀行」「きなれ衣」「おくれし雁」外著多数、
[高尚(;名)の通称/号]通称;忠之丞/小膳/長門守、
号;松の舎(屋)まつのや/松斎/竹庵/鶏頭樹園、神号;三寸鏡霊神

D2633 **高直**(たかなお・深沢ふかざわ) 1772-1826*55歳* 播磨赤穂郡西野山村の儒医者/歌人、
1823「賤が歌袋」(:播磨俚謡集)著、高之たかゆきの父、
[おもうてかよへば千里も一里 あはずもどればまた千里](賤が歌袋)

[高直(;名)の通称]通称;良伯、号;菖庵、高之の父
M2654 **孝直**(高直たかなお・曾根/曾禰そね)1775-1832*58* 伊勢飯高郡塚本の国学者:1793本居宣長門、
1817「中子乃比礼なかごのひれ」著、市岡猛彦たけひこと交流、
[孝直(;名)の通称]益次郎
M2655 **生直**(たかなお・山科やましな、生静たかきよ男/本姓紀)1794-1851*58* 廷臣;左兵衛権大尉/1811長門守、
1827正五下、1851「出納代勤中之記」著、生春たかはるの父、代々御蔵小舎人の家
M2656 **隆直**(たかなお・内崎うちざき、通称;武源太)1799-1864*66* 陸前仙台の兵学者;内海成美・成謙門、
北越家兵法を修学、一宮流刀法;松本定矩門、藩主伊達慶邦により証文領主立に任用、
「武門要鑑抄」「要門図解」著
M2657 **高尚**(たかなお・葉山はやま、高行男)?-1876 肥前平戸藩士・1867上京;国事に奔走、奉行職、
1869藩の権大参事、「鎧軒がいけん詩鈔」編(鎧軒は高行の号)
父 → *高行*(たかゆき・葉山、鎧軒/藩士/儒者) Ｎ２６６４
V2682 **貴直**(たかなお・植木うえき、通称;和泉守)1824-1904*81* 肥前高来郡の神職;四面神社大宮司、
島原御領社家示諭方、中島広行(植木貴恒)の甥
V2626 **隆董**(たかなお・油小路あぶらのこうじ、)1839-1908*70* 廷臣;明治天皇に侍従/宮中勤番/1883殿掌、
賀茂葵祭・春日大社・男山八幡宮への勅使/殿掌取締
敬直(たかなお・渋川) → *敬直*(よしなお・渋川、暦学) Ｆ４７１９
M2658 **隆仲**(たかなか・西大路にしおおじ、権中納言隆持男/本姓;藤原)1342-97*56* 北期廷臣;1363従四上左中、
1364蔵人頭/65正四下/67(貞治6)参議/68従三位美濃権守兼任/73正三位/75参議辞任、
1385従二位/90(明徳元)参議に還任/91能登権守兼任/92(明徳3)権中納言/南北朝合一、
1395(応永2)正二位/96(応永3/55歳)権大納言;没、1383「隆仲卿記」著
M2659 **尚中**(たかなか・佐藤さとう/山口/城、藩医山口甫僊ほせん2男)1827-82*56* 下総小見川の医者、
江戸に出て儒;寺門静軒門、1842医;佐藤泰然門/師に従い下総佐倉藩に出仕、
1859泰然の養嗣;家督を相続/60長崎;ポンペ門、外科に精通、佐倉藩に帰藩後;医政改革;
漢方を廃し西洋医学に改革;佐倉養生所開設、維新後大典医/下谷のち湯島に順天堂開設、
1861「肺病論」「内科書」訳/65「外科医法」訳、「外科法範」等多数翻訳、
[尚中(;名)の字/通称/号]字;泰卿、通称;竜太郎/鏐/舜海、号;笠翁/笠鶯、法号;杏雲院
M2660 **隆長**(たかなが・藤原ふじわら、別名;季長/隆輔/季隆、長輔男)1129-90*62* 鎌倉期廷臣;皇太后宮権大夫、
歌;1149家成歌合参加?
D2634 **隆長**(たかなが・吉田よしだ/家名;甘露寺かんろじ・池尻、経長男/本姓;藤原)1277-1350*74* 母;葉室定嗣女、
鎌倉末南北期廷臣;1313後宇多院の高野山参詣に随行/18参議従三位右兵衛督、
大覚寺統近臣、1320権中納言;山門訴訟で解任/阿波配流、召還/1321正三位民部卿、
1325出家(;法名覚源)、
1308「後宇多院御灌頂記」「隆長卿記」、「辨官細細要記」著、「吉口伝」編、
歌人;1302賀茂社御幸続歌会参加/15「花十首寄書」参加/23亀山殿七百首(36首入)出詠、
勅撰5首;続千載(1297)新千載(482/962/1479)新拾遺(1066)、藤葉集2首入、
[たのめてもこぬ人を待つ夕暮に心をつくす入逢の鐘](続千;恋1297)
M2661 **隆永**(たかなが・四条しじょう/本姓;藤原、中御門宣胤2男)1478-1538*61* 母;甘露寺親長女の典侍朝子、
四条隆量たかかずの養嗣子;戦国期廷臣;1505正四下/10従三位右兵衛督/14参議正三位、
1519権中納言/21従二位/22聴直衣・白馬外弁/25善勝寺長者(38没まで)、
1525火事で聞書等焼失/26実父宣胤と死別/26正二位/27(大永7/50歳)権大納言、
1534(天文3)辞任/38従一位;没、「次将装束抄」著
D2636 **隆脩**(たかなが・七条しちじょう、水無瀬みなせ氏成うじなり男)1612-69*58歳* 江前期廷臣;左中将、
歌人:1635烏丸光広「春の曙」(1668刊)入/38[後鳥羽院四百年忌御会]参加、
[契りても人の秋より神山かみやまのあふひてふなぞ身にははるけき](後鳥羽院忌;67/恨、
神掛け契っても相手の心変りから逢う日が遠い/秋に飽き・賀茂の葵と逢ふ日を掛る)
2751 **高融**(たかなが・岩松いわまつ、通称;弥三郎)?-? 江前中期;幕臣?、詩歌人、戸田茂睡と親交、
歌;茂睡[鳥の迹]入、茂睡[紫の一本]の陶々斎(四谷の下級武士/詩人)のモデルとされる、
[来ぬ人をまちそめしよりふりまさる雪に恨みの積る比かな]([鳥の迹]冬485)
M2662 **高長**(たかなが・田中たなか、通称;甚蔵)?-? 江後期和算家、平内廷臣を交流、「曲尺捷逕」校

X2644 **孝長**(たかなが・滋岡しげおか、)1833-1884*52*　　大坂天満宮の社司、国学;敷田年治・
歌学;有賀長隣ちょうりん/ながちか門、
[孝長(;名)の別名/通称]初名;長養、通称;陸奥守
隆長(たかなが・藤原)　→　*清輔*(きよすけ・藤原、歌学)　１６４５
隆永(たかなが・西郷)　→　*隆盛*(たかもり・西郷さいごう、藩士/倒幕)　Ｄ２６９２
崇永(たかなが・すうえい、連歌)→　*氏頼*(うじより・佐々木、歌人)　１２５９
貴長(たかなが・田中/高田)→　*与清*(ともきよ・小山田、国学者)　３１６０

D2635 **尊良親王**(たかながしんのう・たかよししんのう、後醍醐天皇皇子)1311-37自害*27*　母;二条為世女為子、1326元服、
1331一品、父に従い各地転戦、越前金崎城で自害、通称;一品中務卿、
歌人;二条派、1335内裏千首に出詠、「一宮百首」、松花集・臨永集・藤葉集(2首)入集、
続後拾179、弟宗良親王撰「新葉集」44首入、
新葉44首;5/121/139/165/184/257/272/287/370/382/409/4609/480/653/658/699以下、
[花鳥の色にも音にもさきだちて時しるものは霞なりけり](新葉;春5、
建武二年1335内裏千首歌;春天象を)

T2687 **高業**(たかなり・平たいら)　?-　?　連歌:1356成立「菟玖波集」2句入、
[浪のよるゆく月のともぶね](菟;羇旅1632/前句;をくれじと人も旅にや出ぬらん)

M2663 **高成**(たかなり・佐々木ささき/初姓;児島こじま/本姓;源、別名;常静つねきよ)?-?　江中期出雲松江藩士、
故あって隠士;佐々木丹治と改名、神道家;1716-44頃播州広峰神社祠官、歌/有職に通ず、
1731「神道柱妄議」37「辯辯道書」40「天香具山の辨」41「神代巻私語草」、「辨書道書」著、
[高成(;名)の通称/号]通称;三郎/丹治、　号;常静翁じょうせいおう/掌静翁

M2664 **孝成**(たかなり・前田まえだ、通称;対馬守、周防守男)1808-?　上野七日市藩主前田利意男孝興が祖、
幕臣;小納戸/1838父隠居;家督継嗣(3百俵)/1856(安政3)二丸御留守居/62御役御免、
寄合となる、「前田采女孝興家系」著
隆成(たかなり・藤原)　→　*隆成*(たかしげ・藤原、廷臣/歌人)　Ｃ２６８０
高就(たかなり・三井)　→　*牧山*(ぼくざん・三井みつい高就、詩歌人)　Ｇ３９４０
高業(たかなり・三井)　→　*上太郎*(じょうたろう・紀、三井高業、商家/狂歌)２２８７
高惟(たかなり・羽倉)　→　*道員*(みちかず・多賀たが/羽倉、医者)　Ｊ４１５５

J2649 **高庭**(たかにわ・布瑠ふる、姓;宿禰)?-?　平安初期廷臣/詩人、大和石上神社社家の出身?、
805文章生/従八上/石上の神宝の山城移送に関与、
825(天長2)大内記として渤海国使来朝の際の領客使、「日本後記」編纂に参加、
840(承和7)以前に和泉守;従五下、詩;経国集2首入
高庭(たかにわ・倉重/蔵重)→　*高岳*(たかおか・片山/蔵重、藩士/国学)Ｌ２６６３

D2637 **鷹主**(たかぬし・多治比真人たじひのまひと)?-?　奈良期廷臣、万葉四期歌人、
万葉4262(752[天平勝宝4]閏3月入唐副使大伴胡麻呂を寿ほく歌/大伴古慈悲邸)、
757(天平宝字元)橘奈良麿の乱に連座;獄死か配流か不明、
[唐国からくにに行き足らはして帰り来こむますら健男たけをに御酒みき奉る](万葉;4262)

C2655 **隆音**(たかね・細井ほそい/本姓;藤原、杉すぎ宗貞男)1714-72*59*　細井半左衛門政秀の養子、
幕臣;1741家督嗣、1743一橋家の近習番/徒頭/広敷の用人、
歌;有栖川家入門;職仁・識仁門、広通「霞関集」入、「上都紀行」著、
[山はけさ雪気の雲も名残なく晴れてみどりにかすむのどけさ]、
(1798刊広通「霞関集」;春27/山霞)、
[隆音(;名)の通称/法名]通称;幸次郎、法名;夢寂
高根(たかね・中川)　→　*高重*(たかしげ・横地よこぢ、神職/国学)　２７２８
高之助(たかのすけ・伊能)　→　*高老*(たかとし・伊能いのう/大神、国学/歌)Ｖ２６５５
鷹之助(たかのすけ・大伴)　→　*千秋*(ちあき・大伴おおとも/加藤/高師連、神職)Ｍ２８２４
鷹之允(たかのすけ・竹下)　→　*遠明*(とおあき・下野しもの、藩士/攘夷論)　Ｉ３１５７
隆之丞(たかのすけ・松平)　→　*頼該*(よりかね・松平まつだいら、藩士/宗教家)Ｉ４７５４
孝之介(孝之助たかのすけ・姫井)→*栗谷*(りっこく・姫井ひめい/成田、藩儒)Ｂ４９８０
高野天皇(たかのてんのう)　→　*称徳天皇*(しょうとくてんのう、孝謙天皇)　２１９９

D2638 **鷹羽番**(たかのはつがい)　?-　?　狂歌、四方連、徳和歌後万載集1首入、

[いとけなき心に思ふまゝごとの末は人目をかくれん坊かな](後万載;493/稚古をさなごの恋)
高野姫(たかのひめ)　→　*称徳天皇*(しょうとくてんのう、孝謙天皇)　２１９９

2614 **隆信**(たかのぶ・藤原ふじわら、法名;沙彌戒心、為経[寂超]男)1142-1205*64* 母;美福門院加賀(親忠女)、
藤原俊成の養子、廷臣;正四下/上野介/越前守/右馬権頭/右京権大夫/左京大夫、1202出家、
源空に帰依;念仏往生、隆範・信実・順徳院兵衛内侍・猷円らの父、
絵師;最勝光院御堂障子絵(供奉人の面貌画)、似絵:「頼朝像」画?、
「五節淵酔図」「六歌仙絵巻」「業平雙紙絵」「馬医図」「馬図」「弥世継」「うきなみ」画、
歌人;1166中宮亮重家歌合/78別雷社歌合/91若宮社歌合/99御室五十首/1200初度百首参、
1202影供歌合参加、家集「隆信朝臣集」、「神祇五十首和歌」詠、
勅撰69首;千載(7首278/313/407以下)新古(3首)新勅(6首)続後撰(2首)続古(4首)、
続拾(2首)続後撰(6首)玉葉(4首)続千(5首)以下、御裳濯集3首・続詞花・雲葉集3首入、
[出でぬより月見よとこそさえにかれ姨捨山の夕暮の空](千載;秋278/兼実家百首歌に)
[二見浦百首歌中に、
秋風をきくほどしばしひまもがなもの思はでも身にはしむやと](御裳濯集;秋379)

M2666 **尊宣**(たかのぶ・饗庭あえば/大中臣、初名;直宣なおのぶ/のりのぶ、号;命鶴丸/本姓源)1335-? 1366*存* 武将;
足利尊氏近臣、1352武蔵小手指原の合戦で花一揆の総大将/54元服;将監兼弾正少弼/五位、
1366斯波高経の越前没落に同伴、歌人:1346成立「風雅集」1420(大中臣直宣名;12歳)、
「新拾遺集」1057・連歌;莵玖波集5句入、
[雪かかるそともの梅はおそけれどまづ春つぐるうぐいすの声](風雅;1420)

D2640 **孝信**(たかのぶ・狩野かのう、永徳男)1571-1618*48歳* 狩野派御用絵師、妻;佐々成政女?、探幽の父、
1590父没後兄に光信を補佐/1608光信没;遺児貞信を当主とし狩野派の中心となる、
武士階級の支持を受け禁裏絵師となる;右近将監/従六位に叙し絵所預に任じられる、
1613(慶長18)内裏造営の総帥として活躍;その時の「賢聖障子」等は有名(仁和寺蔵)、
織豊・徳川の政権移行期に双方へ狩野派絵師を配置し狩野派生残りを期す、
「後陽成院像賢聖障子」「洛中洛外図屏風」「唐人物図屏風」「牡丹図襖」画、
[孝信(:名)の幼名/法名]幼名;宰相、法名;円大院孝信日養

M2667 **高信**(たかのぶ・三宅みやけ)　?-　?　江前期絵師、
1679山城鳴滝村街道に宅磨勝賀の碑文を建立、
1690(元禄3)「明恵上人絵行状」画(高山寺蔵)

D2641 **高陳**(高延たかのぶ・藤堂とうどう、高堅たかかた男)1701-32早世*32* 伊勢久居藩主;1715家督、従五下主水正、
佐渡・備前守、1723致仕、歌人、「藤堂高陳集」「高延公御集」、
[高陳(;名)の幼名/通称/法号]幼名;富之助/忠助、通称;主水、法号;聖諦院

M2668 **隆叙**(たかのぶ・四条しじょう/本姓;藤原、初名;季栄、正親町おおぎまち公通男)1730-1801*72* 江中期廷臣;
参議四条隆文の養嗣子;四条家20代、1752(宝暦2)正四下右中将/55従三位/62参議正三位、
1764権中納言、明和改元に参与/1765従二位/66春日祭上卿/67(明和4/38歳)権大納言、
1768辞任/69正二位/97従一位、垂加神道;竹内式部門、1748-89「隆叙卿記」、隆師の父

M2669 **高信**(たかのぶ;名・望月もちづき、号;志随軒)?-?　江中期18ct丹波亀山の隠士/講釈師?、
実録「石井明道士」著(:石井兄弟の仇討)

Z2653 **隆暢**(たかのぶ・松井まつい、安運やすゆき長男)1779-1855*77* 筑前遠賀郡蜑住村触大里正;父を嗣、和学、
[隆暢(;名)の初名/通称/号]初名;堯暢、通称;仁三郎/正五郎/仁十郎、号;可右

V2621 **隆信**(たかのぶ・蘆村あしむら、号;蘆舎)?-?　江後期;文政1818-30頃伯耆倉吉の国学者/歌人、
国学・歌;衣川長秋門

M2670 **鷹信**(たかのぶ・近藤こんどう、本姓;藤原)?-?　江後期京寺町五条北の歌人:賀茂季鷹すえたか門、
1838(天保9)「両節拾玉集」編、
[鷹信(;名)の通称/号]通称;健次郎、号;淡水亭

X2689 **孝修**(たかのぶ・田淵たぶち、通称;勇助/儀八郎)?-? 江後期;紀伊和歌山藩士、
国学者・歌人;本居大平(1756-1833)門

Z2678 **高延**(たかのぶ・三井みつい、)1791-1837*47*　伊勢松坂の商家、国学者;本居春庭門
[高延(;名)の通称]宗粛/政貞/政之助/元次郎/三三郎/宗十郎
宗十郎家;高蔭ー高延ー高潔ー高猷

U2678 **教信**(たかのぶ・狩野かのう・洞庭どうてい、狩野言信男)1807-78*72*　絵師;猿屋町代地狩野家分家7代、
神田明神下に塾を開く、「大坂夏の陣図」画、高橋由一(1838-94)・岩橋教章(1835-83)の師、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[波の音磯の松風声たえて浦しづかなる雪の夕暮](大江戸倭歌;冬1296)、
[教信(;名)の法号]本性院洞庭義山教信居士

V2603 **隆延**(たかのぶ・阿部あべ、通称;図書ずしょ)1816-1886*71* 備中窪屋郡の生、神職阿部隆貞の養子、
浅口郡熊野神社祠官;養父を継嗣、神道・国学;藤井高尚門

Y2610 **喬宣**(たかのぶ・竹村たけむら、旧姓;野村)1816-1884*69*　信濃飯田の生/伊那郡の豪族竹村家養子、
歌人;福住清風門
[喬宣(;名)の通称/号]通称;芳右衛門、 号;実長/嵓山がいざん

M2671 **高陳**(たかのぶ・佐々木ささき、通称;道太郎、高房男)?-? 母;佐々木高明女、江後期幕臣;1842代官、
1863勤仕/小普請入、求玄流砲術を修得、「求玄流砲術目録」、1835「風力度量之巻」伝、
1835「棒火矢拵覚留」伝/37「倭戦法論」「放薬製法并灰品シトリ水之巻」「籠城大意之巻」伝

M2672 **孝信**(たかのぶ・前田まえだ、通称;兵五郎)1833-?　1865金沢藩士/寺社奉行支配、「前田兵五郎家系」

W2682 **敬信**(たかのぶ・黒沢くろさわ、)1835-1912*78*　陸奥一関藩士;御留守居書役、国学者、
のち副戸長
[敬信(;名)の別名/通称/号]別名;成親、 通称;信右衛門、
号;翠園/松声園/機山/茂園/松枝

Z2698 **堯敷**(たかのぶ・森もり/本姓;藤原、通称;権十郎)1835-1912*78* 日向佐土原藩士/国学;平田銕胤門

X2640 **高信**(たかのぶ・雀部ささべ、通称;猪之介)?-1894　備前岡山藩士、国学・歌人;儒医上田及淵しきぶち門、
「追遠集」編

節信(たかのぶ・藤原)　→　*節信*(としのぶ・藤原、廷臣/歌人)　Ｎ３１２８
高信(たかのぶ・狩野)　→　*永徳*(2世えいとく・狩野、絵師)　Ｄ１３２４
敬信(たかのぶ・加藤)　→　*敬和*(たかかず・加藤かとう、里正/歌人)　Ｗ２６４０
貴信(たかのぶ・森)　→　*周峰*(しゅうほう・森もり、絵師)　Ｙ２１４０
嵩信(髙信たかのぶ・南部)→　*利謹*(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌)　Ｎ３１３２
多嘉宮(巍宮たかのみや)　→　*雄仁親王*(ゆうにんしんのう、嘉言よしこと、天台修験僧)Ｄ４６５３

2774 **隆範**(たかのり・荒木田あらきだ、忠成男?)?-?　平安鎌倉期;伊勢内宮神職/四禰宜/歌人、
1233刊[御裳濯集]入、
[女郎花わすらるるなをたてとしてきのふの野辺にけふもきにけり](御裳濯集;秋313)

D2644 **孝範**(たかのり・藤原ふじわら、法名;寂尋じゃくじん、利永(俊長)男/永範の猶子)1158-1233*76* 廷臣;文章生、
漢学者;紀伝道に修学、1179御書所衆;内裏策文に参加/上西門院判官代/文章博士/大学頭、
民部少輔/1232出家、詩人;1205元久詩歌合参加、22清涼寺詩会を主催、32「柱史抄」著、
「明文抄」「秀句抄」「孝韻」「恵心僧都銘」著、詩;和漢兼作集・鳩嶺集・本朝文集入、
経範(文章博士/式部大輔/詩人)・宗範・保範らの父

M2673 **隆範**(たかのり・藤原ふじわら、隆信男)?-　?　鎌倉期廷臣;正四下/越前守/民部少輔/左京大夫、
歌:1200俊成判「院当座歌合」に父と参加、母;藤原長重女、信実・順徳院兵衛内侍・猷円の兄弟、
[もみぢ葉は時雨にのみと思ひしに入日の影も色をましけり](院当座歌合;八番右)
参照　→　*信実*(のぶざね・藤原、法名;寂西、絵師/歌人)３５０６

D2642 **隆教**(たかのり・九条くじょう[:六条藤家]、隆博男/本姓;藤原)1269-1348*80* 母;弾正大弼橘行経女、
鎌倉南北期廷臣;左近少将/1300右中将/02従三位/07正三位/08大蔵卿/10従二位、
1319-29(元応元-元徳元)後醍醐天皇時の侍従/1332北朝正二位/33従二位に復す、
1338(暦応元)正二位、1348(貞和4)没、隆朝・隆清の父、
歌道家の重鎮:1292親範勧進[厳島社頭和歌]入(左少将名)93永仁元年内裏御会参;5首、
1319文保百首/45風雅集撰者を希望(園太暦)、臨永集・藤葉集(5首)入、
勅撰41首;新後撰(282/505/1037)玉(650/1019/1365/1699/1857)続後拾(231/941/1087)、
風雅(8首363/449/778/1210/1743/2110/2055/2211)新千(10首)新拾(5首)以下、
[五月雨に岸の青柳枝ひちて木ずゑをわくる淀の川ぶね](風雅;夏363/河五月雨)
[嘉元百首歌奉りける時(現存嘉元百首には不見)、

鳴きぬやとくらせるよひは時鳥ねんかたもなくなほまたれけり](藤葉;夏99)

D2643 **高範**(たかのり・千秋せんしゅう、範世男/本姓;藤原)?-? 母;藤原家季女、廷臣;五位蔵人/三河守、
左衛門大夫、初め北朝出仕/1350観応擾乱で足利直義に従う/51南朝方に走る(園太暦入)、
二条派歌人;頓阿門、1344金剛三昧院奉納歌/50為世十三回忌歌参加、「了俊歌学書」入、
勅撰7首;風雅(1596)新拾遺(1785)新後拾(848/1393)新続古(384/1302/1564)、
[風通ふまがきの萩の冬枯れも色こそかはれ音はかはらず](風雅;雑1596)、
[高範(;名)の通称] 左衛門大夫

D2645 **孝範**(たかのり・木戸きど、小府[範懐]男)1434-? 1502存 上野木部の生/代々関東管領の重臣、
従五下三河守、1439父没/上洛し歌人:冷泉持為門、文明1469-87以後は関東住、
心敬・道灌らと関東歌壇を指導;歌合判者を勤める、1474道灌「武州江戸歌合」参加;3首入、
「孝範集」「自讃歌注釈」「百人一首聞書」著、馴窓「雲玉和歌抄」入集、
[ささのはに霜こそあらめ短夜をいつとみ山の月の下風](武州江戸[城]歌合;十六番右)、
[孝範(;名)の幼名/号]幼名;藤寿丸、号;羅釣翁

M2674 **孝矩**(たかのり・前田まえだ、七日市藩主前田利意男)1676-1712*37* 1687金沢藩士;1711小松城番、
「前田孝矩書状」著

M2675 **孝典**(たかのり・井手いで) ? - ? 江中期和算家;武田清美門、1750「闡微算法」校

W2681 **高矩**(たかのり・京極きょうごく、高或たかもち長男)1718-63*46*(1713生*51歳* 説あり) 江戸の生、
母;光みつ姫[三津](伊達宗利4女)、1724(享保9)父没;家督嗣讃岐丸亀藩4代藩主、
丸亀藩京極家6代、従五下佐渡守、国学修学、1733初めて丸亀入城、
1750(寛延3)飢饉のため丸亀多度津両藩農民6万余人の一揆勃発、
1754藩内弘田郷に雲気神社再興、
正室;松平信祝女得寿子/側室;露木久我子、銕子・熊子・高中・高治・高教・高迢の父、
長男高中が家督嗣、
[高矩(;名)の初名/通称]初名;高定、通称;縫殿助/佐渡守

2732 **尊徳**(たかのり・吉野よしの、号;寿斎、旧姓;村田)1722-87*66* 大坂の国学者

M2676 **貴徳**(たかのり・平たいら、号;九峰)1732-? 1804存 江戸で仕官(44年間);1804致仕後に故郷美濃住、
「丹鉛百珍」/1804「濃中紀行」著

Y2671 **隆紀**(たかのり・長滝ながたき、通称;四郎兵衛)?-1811 伊予宇和島の商家;今蔵屋、国学、
隆善(酒造業/国学/1767-1822)の父

D2646 **隆恕**(たかのり/たかひろ・岩城いわき、隆恭2男)1764-1817*54歳* 出羽亀田藩7代藩主;1782家督嗣、
1784従五下/伊予守/86駿河加番、藩校長善館を開設、在任中重税のため天明百姓一揆発生、
正室;松平乗祐女の勇子ゆうこ(歌人)、隆喜(1791-1854)・前田長粲・山本茂高など5男12女、
国学;塙保己一門/歌人、1814堀田正敦「詠源氏物語和歌」入、
[隆恕(;名)の幼名/通称]幼名;熊吉、通称;左京亮/采女/伊予守

D2647 **敬儀**(たかのり/ゆきのり・田山たやま、敬芳男)1766-1814*49* 伊賀上野の儒者;山崎闇斎に私淑、
伊勢津藩士/歌学;小沢蘆庵門;四天王の1、画を嗜む、
1805「女誡国字解」07「百人一首図絵」08「詞の玉苗」著、
積書堂光英「類題若菜集」(1827刊)入、上田秋成[藤簍冊子つづらぶみ]入、
[呉藍くれなゐの色ゆるされしふかみ草あてなる種にいかで生おひけめ]、
(藤簍冊子/牡丹;深紅ふかきくれなゐ/ふかみ草;牡丹)、
[敬儀(;名)の字/通称/号]字:元良、通称;順吉/従事/潜蔵、恭穆きょうぼく先生、号;淡斎

M2677 **隆徳**(たかのり・加門かもん) ? - ? 江後期備前和気郡香登村の眼科医、
京の柚木太淳門/帰郷し開業、恭輔きょうすけの父、
1818「柚木流眼療秘伝書」、「柚木流眼科秘録」著

D2648 **高典**(たかのり・林はやし) ? - ? 考証学者、
1821-42屋代弘賢「古今要覧稿」編纂参加

X2623 **孝典**(たかのり・佐藤さとう、通称;族、孝徴たかあきら[1754-1832]男)?-? 江後期;陸奥会津藩の神学督、
神道;父孝徴門

M2680 **高璟**(たかのり・遠藤えんどう、玉井貞通2男)1784-1864*81* 遠藤直烈の養嗣子/加賀金沢藩士;測量家、
表小将番頭/御側物頭/馬廻組頭/定番頭;算用場奉行を兼務、天文測量・時計・器械に通ず、

幕命で石黒信由「加越能三州地図」・西村太沖「金沢分間絵図」作製を監督、
金沢竹沢御殿の時鐘の法を改定、「金沢時鐘記」、1796「時規用法記」1807「鸚鵡の囀」、
1823「竹沢御殿測刻御器物用法」27「地球実測」47「弘化四年気暦」49「時規物語」、
1855「方軽人重」58「駅路の鈴」、「地矩之歌」「万邦一晷ばんぽういっき」「三道唯一貫通」外著多数、
[高璟(;名)の字/通称/号]字;子温、通称;猶次郎/数馬/是三、号;紫山

M2681 **敬典**(たかのり・梅沢うめざわ)1797-1859*63歳*　江戸下谷の書家;青蓮院流書道、門人多数、
1846「女雅俗要文」書、52完堂「新撰詩歌合」校訂、「みやこ路」「女今川状」書、
[敬典(;名)の通称/号]通称;和亮わすけ/和助、号;台陽/月林園、法号;随順院

M2678 **良祺**(たかのり・山村やまむら、良喬男)1798-1866*69歳* 山村良熙の養子/名古屋藩木曾代官;1827家督、
儒:古賀穀堂・侗庵・松崎慊堂こうどう門、1843郷学菁莪館創設/木曾32ヶ村に寺子屋設置、
1844隠居、詩・歌・俳諧、「木曾風土記」編、「木曾名跡誌」「木曾考続貂」著/1863「樵唱集」補填、
[良祺(たかのり;名)の字/通称/号]字;公寿、通称;甚兵衛/式部/靱負/三郎九郎/三郎左衛門、
号;城陽/飽靄楼ほうあいろう/拙園/聴雨山房/白翁(;隠居号)、法号;少林院

U2615 **隆徳**(たかのり・九鬼くき、隆国の長男)1801-64*64歳* 母;側室の像、1843(天保14)父隠居;家督継嗣;
摂津三田さんだ藩11代藩主/九鬼家宗家12代;従五下/大和守/長門守、、
正室は蜂須賀治昭女/側室に岡田氏など、息子;九鬼精隆、息女;牧野誠成正室/西貢室、
1854(嘉永7)隠居;精隆が家督継嗣、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(父隆国と共に入集)、
[あたらしき春をよろこぶ世の人の声にこたへて鴬の鳴く](大江戸倭歌;31初春鴬)、
[足引の山もしぐれてかへる手のもみづるまでに秋ふへにけり]、
(大江戸倭歌;秋971/楓紅葉)、
[隆徳(;名)の通称/法号]通称;武三郎/勇五郎/靱負/長門守、法号;楽只院

M2679 **高憲**(たかのり・吉田よしだ、平九郎男)1805-59*55歳* 尾張名古屋藩士;1823家督;馬廻/24寄合組、
本草研究;木曾御岳・駒ヶ岳などで採薬/栽培、尾張嘗百社員、古器・古文書・古書画鑑賞、
「雀巣庵禽譜」「雀巣菴虫譜」「雀巣菌譜」/「虫譜」「魚譜」「水谷虫譜」「蜻蜓譜」「物殊品名」、
「吉田平九郎先生介譜」「諸国名産食品録」「草木写生図」「虫豸類図附獣類図」著、
[高憲(;名)の字/通称/号]字;池岳、通称;平九郎、号;雀巣庵じゃくそうあん、 法号;秋興院

U2658 **高紀**(高記たかのり・京極きょうごく/本姓;源、高聡男)?-? 江後期;幕臣/御小姓、500石、伊予守、
京極高陳たかのぶ(1838-93)の父、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[折るもをしさながら風に散るもうしいかがはすべき宿の桜を]、
(大江戸倭歌;春246/翫花)

M2682 **敬典**(たかのり・小倉おぐら) ? - ? 江後期大阪の郷土史家、1835「浪華奇談」編

M2683 **敬典**(たかのり・川辺かわべ、通称;角次郎)?-? 江後期水戸藩士、儒者;青山佩弦斎延光門、
「追鳥狩記」著(1830年代)

U2625 **敬典**(たかのり・森もり/本姓;源)?-1855 江後期幕臣、尹祥まさよしの孫
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[春といへば常に目なれし松竹もみどり色そふ心地こそすれ](大江戸倭歌;359春植物)、
[敬典(;名)の通称] 政太郎/伝右衛門

U2647 **孝則**(たかのり・岩淵いわぶち) ? - ? 江後期;歌人、1861横山桂子家集「桂の花」序文筆、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[山風にいただく霜をはらはせて冬も老せぬ松の色かな](大江戸倭歌;冬1148)、
[嬉しさも憂きも一つに思ひ出でて忘れ難しや人のおもかげ](現存百人一首;27)

M2684 **敬徳**(たかのり・浅野あさの、通称;少輔しょう)?-? 江後期上総の砲術家、
1854「遠西火攻精選提要」、「西洋火薬便覧」著

M2685 **隆儀**(たかのり・川勝かわかつ) ? - ? 江戸期岩代三春の人、「養蚕扱方」著

M2686 **恭徳**(たかのり・栗田くりた、雅文男)1823-78*56歳* 常陸水戸下市の油商、歌人;
吉田璞堂・久米水屋と唱和、「栗舎歌文集」「詞の束緒」著、
[恭徳(;名)の通称/号]通称;元吉/彦六、号;栗舎くりのや 寛ひろしの兄

Y2645 **高教**(たかのり・内藤ないとう/本姓;藤原、通称;備後介)1829-91*63* 甲斐巨摩郡の富士浅間大明神神主、
国学;平田銕胤門

M2687 **孝済**(たかのり・福岡ふくおか、通称;精馬、孝順男)1830-7647　土佐高知藩士;家督を弟孝弟に譲渡、
学問;1843(14歳)で開塾;子弟教育/1862藩校文武館史学教授/74立志社創設尽力;副社長、
立志学舎主宰;自由民権運動の普及に尽力、1867「皇統略」著、孝弟たかちかの兄

M2688 **隆礼**(たかのり・高野たかの、米峰[迂斎]の弟)1834-8754　越後田尻村平井の代官格の家の生、
和算家;村山保信門、刀法も修得、江戸で詩文・書画を修得、水戸藩宇都宮家に出仕、
のち帰郷;平井で子弟教育、1863「通機算法」校
[隆礼(;名)の字/通称/号]字;有方、 通称;駒蔵、 号;士峰

T2691 **高敬**(たかのり・国分こくぶん) ? -　?　江末期仙台の和算家;
中西流算法;早井巳之助門、「九数例題」「算法初学」編/「算法鉤股比例法」補填

Z2679 **高猷**(たかのり・三井みつい、)1840-187233　伊勢松坂の商家、国学者、
[高猷(;名)の初名/通称]初名;高近、 通称;福之助/六之助/宗之助/宗十郎
☆宗十郎家;高蔭一高延一高潔一高猷

尊宣(たかのり・源)　→　*尊宣*(たかのぶ・源、歌人)　Ｄ２６３９
尊徳(たかのり・二宮)　→　*尊徳*(そんとく/たかのり・二宮にのみや、農政家)Ｆ２５０１
孝憲(たかのり・田能村)　→　*竹田*(ちくでん・田能村たのむら、儒者/詩/画)Ｄ２８５４
孝則(たかのり・板東)　→　*茶雷*(ちゃらい・板東ばんどう、藩士/俳人)　Ｆ２８６２
高教(たかのり・潮田)　→　*又之丞*(またのじょう・潮田うしおだ、赤穂義士)Ｊ４０５２
隆典(たかのり・油小路城)→　*隆典*(たかつね・油小路城あぶらのこうじ/藤原、権大納言)Ｖ２６２５
隆度(たかのり・九鬼くき)　→　*綾麿*(あやまろ・歌垣、綾部藩主、狂歌)　Ｆ１０１５
隆礼(たかのり・稲葉)　→　*蔦蹊*(ちょうけい・稲葉いなば、儒者)　Ｈ２８９８
隆範(たかのり・大森)　→　*隆公*(たかきみ・大森おおもり/藤原、神職/国学)Ｗ２６２０

D2649 **高羽子雄鳥**(たかはごおどり、榎本甚三郎)?-?　江戸牛込狂歌・四方連、1785後万載1首、87「才蔵集」入、
[木綿襷ゆふだすきかけてはたらく飯たきがあしたの米を清め給へや](後万載;859、
寄飯焚神祇/朝の清めと明日の米をとぐを掛る)

D2650 **高橋朝臣**(たかはしのあそん、国足くにたりor子老or老麻呂男?、左注:奉膳かしはでのかみの男)?-?　万葉四期歌人、
481(長歌;亡妻を悲しむ歌)4822-3(反歌)[;天平16(744).7.20の作歌(:左注に奉膳の男)]、
[うつせみの世の事なれば外よそに見し山をや今はよすかと思はむ]
(万葉;482/山は山城の相楽山)

高橋宮(たかはしのみや)　→　*尊守親王*(そんしゅしんのう、妙法院門跡)　Ｆ２５４８
高畠式部(たかばたけしきぶ)　→　*式部*(しきぶ・高畠刀美とみ、歌人/書画)　Ｂ２１５５
多賀八(たがはち・曾我)　→　*祐申*(すけのぶ・曾我そが/岡本、藩士/教育)Ｉ２３７０
孝鳩(たかはと・前田)　→　*矩貫*(のりつら・前田、幕臣)　Ｆ３５１６
高浜屋(たかはまや)　→　*船積*(ふなづみ・田原/俵たわらの、商家/狂歌/戯作)Ｄ３８５５

Z2662 **貴速**(たかはや・松原まつばら、前名;山県九右衛門)1831-191080　長門萩藩士、歌人/俳人、
学問;吉田松陰門、のち神職;広瀬神社宮司/石上神宮宮司/大講義、
[よろこびてみなみの窓をひらきつるあしたのどかにかをる梅かな]([萩の歌人]入)、
[貴速(;名)の通称/号]通称;九右衛門/音三、 号;雪暉(;俳号)/梅香庵

M2689 **孝治**(たかはる・竹内たけのうち、長治男)1586-166075　廷臣;1632従三位/34刑部卿/47従二位、
連歌会・和漢聯句会に参加、1619「元和五年六月何人百韻」;高倉嗣良らと参加

D2651 **孝晴**(たかはる・村松むらまつ) ? -　?　江前期伊勢山田の俳人;杉木望一もいち門?、
望一・利清に続き初期伊勢俳壇の重鎮、1650「伊勢山田俳諧集」入(編纂も?)、
「犬子えのこ集」「伊勢誹諧大発句帳抜書」「伊勢誹諧長帳」など入/1676西鶴「古今誹諧手鑑」入、
[一声は鷲も上見ん郭公](手鑑/諺[上見ぬ鷲])

M2690 **孝治**(たかはる・永原ながはら、赤座あかざ吉家よしいえ男)?-1660　加賀藩士/大坂陣従軍;永原に改姓、
前田利常に随従し小松住;家老並/1649致仕、連歌/書、「永原孝治書翰」、
[孝治(;名)の通称/号]通称;右京/土佐、 号;如閑

M2691 **高治**(たかはる・三井みつい3代八郎右衛門、高利男)1657-172670　母;かね(寿讃)、高富の弟、新町家祖、
京新町通六角下ル西の両替商/1709以後;兄高富と三井家事業興隆に参画、1722「商売記」著、
[高治(;名)の通称/法名]通称;三郎兵衛/三郎助/八郎右衛門3代、 法名;宗印

M2692 **隆春**(たかはる・茂木もぎ、通称;忠八)?-?　江初期磐城白河藩士:記録に通ず、木村毅斎と親交、

1757「戎政茗話」、「肥前国島原一揆始末記」「帯刀通」著

W2652 **誉春**(たかはる・桂かつら、)1704 － 177471　越後蒲原郡新津組大庄屋;桂家3代、
1736(元文元)新発田藩より御用達/41(寛保元)新発田城西門建立の功で庄屋格、
1763(宝暦13)田家山に秋葉神社創建、1766(明和3)新津組22ヶ村の大庄屋、
1774下興野新田に桂原山龍雲寺を建立;葛塚の開発に尽力

2709 **高春**(たかはる・山形やまがた、通称;山形屋宇兵衛/号;雲行)1743-9553　近江彦根の商家、
歌人;香川景柄かげもと(黄中)門、歌;[彦根歌人伝・続寿]入、

Z2629 **孝治**(たかはる・福沢ふくざわ、直治[1738-1807]男)1758-180750　信濃伊那郡の国学者、
歌人;桃沢夢宅門(父と同門)、
[孝治(;名)の通称]　彦四郎/彦右衛門

X2681 **尊晴**(たかはる・千家せんげ、通称;久主、尊之2男)1800-6768　出雲出雲郡の国学者、尊孫たかひこの弟、
国学・歌;千家俊信門/兄千家尊孫門

Z2630 **喬治**(たかはる・福沢ふくざわ、憲治[1796-1847]男)1819?-180953?　母;すは子?、信濃伊那郡の国学者

M2693 **生春**(たかはる・山科やましな、生直たかなお男/本姓;紀)1818-?　1860存　代々御蔵小舎人の家、廷臣;采女佑、
1835筑前守/51正五下、1860「豊明節会賀茂臨時祭出納代記」著

Y2688 **孝治**(たかはる・野路井のじい、)1839-192183　京の愛宕・野宮神社社掌、上嵯峨大門町の国学者

敬治(たかはる・西井)	→	*桂叟*(けいそう・西井にしい、国学者)	Ｇ１８２９
孝玄(たかはる・北島)	→	*孝玄*(のりはる・北島きたじま、神職)	Ｆ３５４３
隆春(たかはる・四条)	→	*隆文*(たかとも・四条、廷臣)	Ｎ２６１４
隆治(たかはる・西尾)	→	*公龍*(きみたつ・西尾にしお、医者/歌人)	Ｋ１６４６
高春(たかはる・佐々木)	→	*高行*(たかゆき・佐々木ささき、藩士/国学)	Ｘ２６１７
尊治(たかはる;名)	→	*後醍醐天皇*(ごだいごてんのう、建武中興/歌)	Ｄ１９２１

M2694 **高彦**(孝彦たかひこ・松木まつき、因彦よりひこ男/本姓;度会わたらい)1686or88-175368or66　伊勢外宮禰宜、
1707外宮十禰宜/49従三位/52外宮一禰宜/53正三位、「神事参勤録」「中臣祓俗解」著、
[高彦(;名)の通称]　勘之助/右京　圭彦・厚彦・貞彦の父、
[外宮禰宜松木信彦家]
信彦-因彦-**高彦**-圭彦-栄彦-範彦-朝彦 ┬美彦
└光彦

2735 **恭彦**(たかひこ・脇坂わきさか、)1747-179953　近江の医者、国学・歌;小原君雄門、
歌;[彦根歌人伝・鶴]入、
[恭彦(;名)の字/通称/号]字;春彦、通称;恭伯、号;常野館

D2652 **高彦**(たかひこ・山道やまみち、山口彦三郎)?-1813　江戸小日向水道端天神(牛天神)下に住・田安家家臣、
狂歌作者:自宅で毎月狂歌会、南畝と交遊、「狂風大人墨叢たいじんぼくそう」編、
1785後万載集8首/才蔵集入、1806南畝「ひともと草」狂文4編入、
[もとよりもいかもののふの腹なれば鉄砲汁の玉はあたらず](後万載集;十雑上)
[山道高彦の別号]　馬蘭亭/巴蘭亭

妻も狂歌作者	→	*葛子*(くずこ・吉野よしの、狂歌)	１７５０

D2653 **尊孫**(たかひこ・千家せんげ、尊之の長男)1794or96-187380or78　出雲出雲郡杵築の神職、
1832出雲大社御杖代・国造職、1869致仕;尊澄に譲渡、歌学;千家俊信・海野遊翁門、
香川景樹らと親交、園芸を嗜む、尊晴・尊昌の兄、尊澄・俊栄としひで・尊朝の父
1838「比那能歌語ひなのうたがたり」40家集「自点真璞じてんしんぼく集」57「花のしつ枝」著、
「類題八雲歌集」編、
[尊孫(;名)の幼名/通称]　国丸、通称;杖代彦つえしろひこ

D2654 **高彦**(たかひこ・小関こせき/おぜき、名;徽猷、仁一郎男)1820-6243　出羽鶴岡の洋学者/叔父小関三英養子、
江戸に住/蘭学;安積艮斎・杉田成卿門、1855幕府天文方・翻訳方、59軍艦操練詰、
晩年江戸下谷で蘭学塾を開設;門人育成、54「山砲略説」訳/55「合衆国小誌」訳、
[高彦(;通称)の字/別通称]字;厳君、別通称;高比子

U2688 **高彦**(たかひこ・秋山あきやま/本姓;源)?-?　江後期;歌人、幕臣or藩士?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[うなゐ子がたらひにかへる鯉の子やきのふの淵を思ひいづらん](大江戸倭歌;雑1801)

2725 **隆彦**(たかひこ・李家りのいえ、本姓;河内山、)1837-1911*75* 長門萩藩主の侍医、歌人、
のち修謙と改称/1872(明治5)京都住、「松のしつく」著/歌集「楽々庵遺稿」、隆介の父、
[嵐山かへらぬ人をしのびねの枕のうへにちるさくらかな]([萩の歌人]入)、
[隆彦(;名)の通称/号]通称;修謙、 号;夢亦清書屋/香雪/楽々庵(;自宅の称)
喬彦(たかひこ・関) → *広喬*(ひろたか・関せき/田代/平、藩士/国学)K３７０１
尊彦(たかひこ;名) → *尊円親王*(そんえんしんのう、天台座主/書・歌)２５３２
貴彦(たかひこ→としひこ・松木)→ *貴彦*(としひこ・松木、神職) Ｎ３１４４
D2655 **高尚**(たかひさ・惟良これよし/これなが)?- ? 平安前期詩人、888?菊花詩:「雑言奉和」入
M2695 **貴久**(たかひさ・島津しまづ、忠良男)1514-71*58歳* 母;島津成久女、戦国期武将、
1526島津本家の勝久の養嗣、45薩摩大隅守護、1550城を伊集院から鹿児島に移す;
1555(天文末年)頃までに薩摩大隅日向の一族内で権威確立;父と共に島津家中興の祖、
1566出家;義久に家督譲渡、士風教化の父作「伊呂波歌」を継承;「伯囿公伊呂波歌」、
[貴久(;名)の通称/号]通称;又三郎/三郎左衛門尉、号;伯囿、 義久・義弘・家久の父
Z2694 **高久**(たかひさ・毛利もうり、豊後森藩主久留島通清3男)1667-1716*50* 豊後佐伯藩主毛利高重の養子、
1682(天和2)養父没;家督継嗣;佐伯藩5代藩主/従五下駿河守、和学修学/歌人、
1884南部行信5女の幕子と結婚;夫婦関係悪く1687幕子は南部家江戸藩邸に逃走;離婚、
1688実弟高定(高慶たかやす)を養子とす/1699(元禄12)隠居;高慶が家督嗣、
[さそひ来て閨の戸ぼそに吹く風の花を枕の春のあけぼの](茂睡[鳥の迹]春117曙花)、
[高久(;名)の通称]靭負/駿河守
D2656 **高尚**(たかひさ・小野おの、武格男/本姓;平)1720-99*80歳* 幕臣;1763家督/65大御番/84致仕、
国学者・歴史に通ず、1741秋山色樹「夏山雑談」筆録、1742「諸国城主記」/60「武林和歌集」編、
1775「新撰松裔譜」編、「温故随筆」「古事記袋」「采覧巷談」「武田信玄年譜」「千代見草」著、
「東武編年要録」外著多数、「夏山雑談」の秋山色樹いろきは高尚か父武格の戯名説がある、
[高尚(;名)の別名/通称/号]別名;直方/高武/高格、通称;忠左衛門/直十郎、
号;竹叢/飯山、佚泰子/南山翁、 高潔たかきよの父
Y2602 **隆古**(たかひさ・高野たかの、号;夫楽)1724-93*70* 京の廷臣;右近衛中将/正四下、桃園天皇に出仕、
神道・国学;竹内たけのうち式部(敬持)門/宝暦事件に連座;免職/出家、1793(寛政5)没
H2698 **高久**(たかひさ・藤井ふじい/本姓:藤原、)1725-1807*83* 備中賀陽郡の代々吉備津神社社家家頭、
吉備津神社宮司、国学者、歌人;春山・栂井とがのい一室・春秋庵(栗山)満光みつてる門、
妻;岡山酒折宮祠官の岡為長女の小春こはる(1731-1802)、高尚たかなお(1764-1840)の父、
[高久(;名)の別名/通称/号]別名;高賢/高忠、 通称;内記/但馬守、 号;静斎/細谷亭
D2657 **高久**(たかひさ・京極きょうごく/本姓:源、京極高庭4男)1729-1808*80* 母;京極高方女、
丹後峰山藩主京極高長養嗣、1765高長隠居;第6代峰山藩主を襲封/従五下備前守、
大坂加番/大番頭/1788若年寄;寛政改革に参与、高備・高有の父、
歌;1780伊達江戸藩邸催「大崎のつつじ」入/広通「霞関集」入、
[春雨の降るとも誰か岩つゝじ花の夕日をわくる山路は]
[暮くるる日のなごりを照す岩つゝじ帰るさ遅き春の山陰やまかげ]、
(大崎のつつじ;夕ゆふべの躑躅/京極備後守高久とある)
[高久(;名)の通称/法号]通称;千之助/右近/主殿、 法号;謙徳院
X2646 **隆壽**(たかひさ・篠沢しのざわ、旧姓:前田)1759-1804*48* 武蔵幡羅郡上奈良村の里正、
国学・歌;石上之綱・香川景樹門、のち京住、
[隆壽(;名)通称] 政次郎/清吉/織部
M2696 **敬久**(たかひさ・堀池ほりいけ、六太夫雄久男)1773-1845*73* 伊勢亀山藩士/関流和算:神谷藍水門、
藩校明倫舎で子弟教育、天文暦数・地理に精通、1806「自約」編/13「諸角中径求一術解」、
1829「大小円罅環円容数個術解」編、39「断連術」「得連術」編、「勾股童子草」「奉納算題」著、
[敬久(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;六郎、 字;子慎、 通称;六太夫/央右衛門なかえもん、
号;衡山こうざん/眷求堂/周空、 法号;敬久軒廓晴月顕居士
登壽(たかひさ・恒川) → *登壽*(としひさ・恒川つねかわ、藩士/歌人) Ｎ３１４６
高尚(たかひさ・藤井) → *高尚*(たかなお・・大中臣/藤井、国学) ２６１３
高寿(たかひさ・米良/斎藤)→ *芝山*(しざん・斎藤/米良、藩士/儒者) Ｄ２１７４

隆久(たかひさ・林)　→　*方斎*(芳斎ほうさい・林はやし、儒者/詩)　３９８３
隆久(たかひさ・堀内)　→　*千班*(せんぱん・堀内ほりうち、俳人)　Ｎ２４６８
隆久(たかひさ・生方)　→　*雨什*(うじゅう・生方うぶかた、俳人/狂歌)　Ｃ１２８０
隆久(たかひさ・高田)　→　*敬輔*(敬甫けいほ・高田たかた、商家/絵師)Ｇ１８１７
たか久(たかひさ・塒出)　→　*塒出たか久*(しでのたかひさ、狂歌)　Ｚ２１８５
高寿(たかひさ・暮松)　→　*高寿*(こうじゅ・暮松くれまつ、俳人/狂歌)　Ｇ１９８３

M2697 **孝秀**(たかひで・藤原ふじわら、孝頼男)?-?　鎌倉中期楽人;代々楽所預/廷臣;正五下木工権頭、刑部権大輔、1287「懸琵琶口伝」89「皇帝破陣楽団乱旋」著、孝時の孫/孝章・孝重の父

D2658 **高秀**(たかひで・佐々木/京極きょうごく、佐々木道誉[高氏]3男/本姓源)1328-91*64* 近江守護/武家、;兄達の没後家督を相続/室町幕府侍所に出仕、従五上/左衛門尉/治部少輔/能登守、大膳大夫、1361楠木正儀の京攻略に足利義詮・後光厳天皇を近江に迎える;父と共に京を奪還;名を挙る、室町幕府引付衆/評定奉行/正五下、高詮・満秀・秀重の父、歌人;頓阿の学統/のち冷泉為秀門;高弟となる、連歌;菟玖波5句入、1387浄阿奉納[隠岐高田明神百首]3首出詠(散位正五下)、勅撰7首;新千載(1311)新拾遺(892/1288)新後拾遺(465/651/755/1426)、[前の世のむくいもかなしうき人に我いかばかりつれなかりけり](新千;恋1311)、[あけやらぬ夜半の寝覚と虫のねといづれかしげきしののめの空](高田明神歌;42)、[高秀(;名)の通称]五郎/五郎左衛門尉
☆藤原高秀と同一?→　*高秀*(たかひで・藤原ふじわら、菟玖波15句入)Ｍ２６９８

2698 **高秀**(たかひで・藤原ふじわら)　？－　？　連歌:1356成立「菟玖波集」15句入、[人を待つたよりなりつる花散りて](菟玖;春138/前句;これさへ身には契りうき春)
源高秀と同一?→　*高秀*(たかひで・佐々木/京極/源、菟玖波5句入)Ｄ２６５８

D2659 **珍秀**(珎秀たかひで・くにひで・はるひで・よしひで・三善みよし)?-?　室町期歌人:1439成立「新続古今集」1956、[なにを世の思ひ出にしてはかなくもおなじ昔を身にしたふらむ](新続古今;十八1956)

X2679 **高英**(たかひで・関屋せきや、) 1701 － 1773*73*　三河吉田藩士;軍学師範、国学者、[高英(;名)の字/通称/号]字;子華、通称;衛、号;一勲

M2699 **隆英**(たかひで・八条はちじょう/本姓;藤原、櫛笥隆賀男)1702-56*55* 八条家の祖、母;平時成女、廷臣、1739参議従三位/47権中納言/56正二位、1749「七夕七遊」、「装束類纂」著、新崇賢門院賀子の弟

N2600 **高英**(たかひで・小林こばやし、須原屋新兵衛男)?-?　江後期日本橋通二丁目の書肆;1787;家業継承、父の代より唐詩選関係の書を刊行、1790「唐詩選和訓」刊/「唐詩選余師」「唐詩選画本」刊、1805「孔子事蹟図解」編/1817「心学俗語」著、[高英(;名)の通称/屋号]通称;4世小林新兵衛、屋号;須原屋/嵩山房

X2684 **敬秀**(たかひで・西沢にしざわ、旧姓;伊香)?-1871　陸奥弘前の国学者;地名考証、園村義観の師、「善知鳥考」著、[敬秀(;名)の通称/号]通称;久蔵、号;素席/五更庵

N2601 **高穎**(たかひで・岡田おかだ、初名;高茂、山名時敏2男)1814-99*86* 岡田泰晟の養嗣/尾張藩士;1858家督、馬廻組、儒;昌平黌に修学/国学;植松茂岳門、1865藩校明倫堂教授、のち国学教授、さらに華頂宮侍講・皇岳教授を務める、「岡田高穎歌集」著、[高穎(;名)の通称]　小次郎
高秀(たかひで・楢林)　→　*栄建*(えいけん・楢林ならばやし、医者;種痘)　Ｃ１３７０
敬秀(たかひで・小山)　→　*敬容*(たかやす・小山こやま、国学者)　Ｎ２６５７
孝標(たかひで・畑中)　→　*青霞*(せいか・畑中はたなか、藩士/詩文)　Ｈ２４５４
尊仁(たかひと)　→　*後三条天皇*(ごさんじょうてんのう、詩歌人)　Ｃ１９７１

D2660 **幟仁親王**(たかひとしんのう・有栖川宮ありすがわのみや、韶仁つなひと親王男)1812-86*75* 1823親王宣下、1847(弘化4)二品中務卿、政治には関与せず、母;島岡俊章女勝子;豊島勝文養女、歌人;雅光門、明治天皇の歌師範、「幟仁親王詠草」、「画舫園十二景詠」著、1848「本覚院宮百五十回忌和歌」著、息子;熾仁たるひと親王・威仁親王、息女;幟子女王(徳川慶篤室)・宜子よしこ女王(井伊直憲室)・利子女王(伏見宮貞愛親王妃)、

[幟仁親王の幼名/名/通称]幼名;八穂宮、名;幟仁/多嘉仁、通称;有栖川宮
法号;顕昭明院宮

D2661 **高比売命**(たかひめのみこと、別名;下光比売命したてるひめ/下照姫、大国主神の娘)?-? 記紀歌謡詠者、
阿遅鉏あぢすき高日子根(高彦根)たかひこねの神の妹、天若日子の妾、
天若日子の死後その父と妻の誤解に兄が怒り乱暴;兄の為に謡う夷振(曲)ひなぶり、
[天なつや 弟棚機おとたなばたの 項うながせる・・・]

D2662 **隆衡**(たかひら・四条しじょう/本姓;藤原、初名;長雅、藤原隆房長男)1172-1254*83* 母;平清盛女、廷臣、
善勝寺長者、1198正四下/99母没/1201蔵人頭/02(建仁2)参議/03伊予権守・従三位、
1205正三位/06右衛門督兼任/07権中納言/11従二位/12(建暦2)中納言/14正二位、
1217太宰権帥/19(建保7/承久元48歳)権大納言/20辞任/22按察使、
1227(安貞元)出家;寂空、隆弁の兄、隆綱・隆親・貞子(実隆室/今林准后)の父、
歌人;1218順徳中殿御会参加/1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勧進)に詩入、
勅撰8首;新勅撰27/1030/1172続後撰1129続古1519/1685続拾1371新後撰66、雲葉集入、
[おしなべてこのめもいまは春風の吹くかた見ゆる青柳の糸](新勅;春歌27)
[隆衡(;名)の号/通称] 号;鷲尾、通称;金仙院/鷲尾大納言/按察使隆衡/入道大納言、

N2602 **高平**(たかひら・三井みつい、初代八郎右衛門、高利男)1653-1737*85* 母;かね(寿讃)、高富・高治の兄、
1667伯父俊次の江戸呉服店に奉公/73父と江戸本町一丁目に呉服店開業(京に仕入れ店開)、
1710大元方(事業統括機関)を創設;三井家の基礎を築く;三井北家の祖、弟達と家憲を作製、
「宗竺遺書」、高房の父、
[高平(;名)の幼名/通称/法名]幼名;長四郎、通称;八郎右衛門初代、法名;宗竺

N2603 **高平**(たかひら・新宮しんぐう/中村)1794-1873*80歳* 駿河浅間社新宮神主、各地を巡り地誌編纂;
1856(安政3)息子高景に家督譲渡、1861(文久元)「駿河志料」、「田子浦清見関地名考」著

Y2611 **孝平**(たかひら・橘たちばな、通称;友章/有昌)?-1871 紀伊田辺の医者、国学;本居内遠(1792-1855)門、
歌人;加納諸平(1806-57)・熊代繁里(1818-76)門

孝衡(たかひら・川合) → *春川*(しゅんせん・川合、儒/詩人) Ｋ２１１４
孝平(たかひら・神田) → *孝平*(こうへい・神田、蘭学) Ｆ１９３８
隆平(たかひら・狩谷) → *鷹友*(たかとも・狩谷かりや、国学者/歌人) Ｍ２６４８
登平(たかひら・源) → *登平*(みちひら・源、歌人) Ｃ４１３４
良啓(たかひら・山村) → *良啓*(よしひろ/たかひら・山村やまむら、代官/和学) Ｐ４７９３

D2664 **隆博**(たかひろ・九条くじょう[;六条藤家]、初名;博家、行家男/本姓藤原)1240?-98*59?* 鎌倉期廷臣;
1290従二位/96大蔵卿、歌道六条家の嫡流、1265「十五夜歌合」75「摂政家月十首歌合」参加、
弘安百首入、1293永仁元年内裏御会参加5首/93勅撰集撰者;中途で没(勅撰は不成立)、
持明院・大覚寺統の歌会に参加、藤葉集4首入、
勅撰62首;続古(466)続拾遺(6首163/449以下)新後撰(10首)玉葉(9首)続千載(9首)下、
[まつとせし風のつてだに絶えはてていな葉の山につもる白雪]、
(続拾遺;六冬449/文永十年[1273]七月内裏七首歌奉りし時)、
[秋をへてなるる枕のきりぎりすしるやいそぢの涙そふとは](藤葉;秋261)

D2665 **高広**(たかひろ・大江おおえ・家名;長井ながい、大江貞重さだしげ男)?-? 南北期廷臣;従五下縫殿頭/左近将監、
1331笠置山戦で捕縛の宗良むねなが親王を預る、歌、為世と親交、1350「為世十三回忌和歌」参、
勅撰6首;続後拾遺(1086)風雅(1147)新千載(474/1081/1362)新拾遺(1869)、
[白波のよるべもしらでいたづらに漕ぎ離れたる和歌の浦舟](続後拾;雑1086)

N2604 **高弘**(たかひろ・永田ながた/本姓;源、通称;備中守)?-? 戦国期近江蒲生郡の豪族/武将、
1523越前より上京中に宗長と連歌会催:「大永三年九月二日宗長高弘等山何百韻」

N2605 **高広**(たかひろ・京極きょうごく、初名;高政、高知たかとも男)1599-1677*79* 丹後宮津藩主;1622襲封、
父遺領の中7万8千石嗣、妻;池田輝政女、徳川秀忠・家光に出仕;将軍参内供奉、1654致仕、
1666息子高国と不仲;幕府より高国の所領没収、高広は浪客となり京東山に隠棲、
「京極丹後守書状」著、
[高広(;名)の通称/法号]通称;采女/采女正うねめのしょう/安智院軒道愚(;致仕後)、法号;安智院

N2606 **崇広**(たかひろ・吉川よしかわ) ? - ? 江中期信州伊那北口の医者/俳人、

1769(明和6)「暦日星明」、「診脈論」著、俳人伯先・鸞岡の父
[崇広(;名)の通称/号]通称;養元/養玄、号;竜水/白紙関

N2607 **高寛**(たかひろ・中田なかた、高清男)1739-1802*64* 越中富山藩士/和算;広瀬吉兵衛・松本武太夫門、藩主前田利与に抜擢され1773江戸随従;山路主住門・藤田貞資門/関流和算家;門弟指導、1770「算学訓蒙」編/84「精要算法解術」、「広益算梯」「雑題」「雑題後編」「分合」編;外著多数、
[高寛(;名)の字/通称/号]字;文敬、通称;文蔵、号;孔卜軒、法号;寛誉院

N2608 **孝寛**(たかひろ・寺門てらかど、通称;与一衛門)1754-1828*75* 常陸水戸藩士/1770(明和7)進仕、「寺門孝寛筆記」「見聞録」著

V2601 **崇広**(たかひろ・阿部あべ)1761 - 1822*62* 陸奥磐井郡の学者/儒;芦野徳林のりしげ(東山)門、歌;内池長宜ながよし門、陸奥陸前仙台住/京の坊城家に出仕、
[崇広(;名)の字/号]字;子徳、号;東岳/梧桐

N2609 **隆都**(たかひろ・九鬼くき、隆郷男/本姓;藤原)1801-82*82* 丹波綾部藩主;兄隆度の養子;1822家督嗣、大隅守/式部少輔、奥平棲遅庵門/三上是庵・山鹿素水を登用;治績をあげる、江戸開城に奔走、維新後;講武所総裁、「鄙衷録」1843「励武闘歌」47「孝経図口義」、1847「九鬼式部少輔建白書」51、「三社尊像再建記」著、
[隆都(;名)の幼名/号/法号]幼名;仙之助、号;桃山/桃翁/貫翁/温斎/敬義斎、法号;大量院

Z2696 **崇広**(たかひろ・本島もとじま、)1821-1887*67* 肥後熊本の国学者、
[崇広(;名)の通称/号]通称;四郎、号;闔境其人こうきょうきじん

N2610 **高広**(たかひろ・国分こくぶん/初姓;佐伯、初名;是広、国分広善の養嗣)1828-96*69* 仙台藩天文学生、垂加流神道/中西流和算;早井巳之助門、維新後家塾で和算教授、「算法求積之解」、「算法象数初問」「算法直差法」「算法約術集」「算法垛術起源」編、「立方掃除」外著多数、
[高広(;名)の通称/号]通称;彦三郎、号;亀水庵/推数堂/生芽/生存

2711 **恭禮**(恭礼たかひろ・山崎やまざき、)1828-60獄死*33* 常陸水戸藩士;郡吏、国学者、尊攘運動家、高橋多一郎の指示で商人に変装;大坂で活動/桜田門外の変後に捕縛、1860(万延元)獄死、
[恭禮(;名)通称/変名]通称;子之吉ねのきち/猟蔵りょうぞう、変名;丹波屋栄介(栄蔵)

N2611 **崇広**(たかひろ・松前まつまえ、章広男)1829-66*38* 蝦夷松前藩主;1849襲封/55函館開港のため廃藩;岩城梁川・羽前東根に転封、西洋砲術奨励/幕府の老中・陸海軍総裁、西洋事情に精通、1865阿部正外と共に英米仏蘭に勅許を得ずして兵庫を開港;老中を罷免謹慎;没、「松前蝦夷地一件」著、養子徳弘のりひろが家督嗣、
[崇広(;名)の幼名/字/号]幼名;盈之助/為吉、字;業甫、号;存斎/霞城/陽甫、法号;崇業院

W2653 **誉恕**(たかひろ・桂かつら/本姓;平、誉重たかしげ男)1838-81*44* 越後蒲原郡新津組大庄屋の生、国学・神道;平田鉄胤・鈴木重胤門、蒲原郡加茂町の青海神社祠官/小講義、
[誉恕(;名)の通称/号]通称;謹吾、号;魯拙/集義館

孝広(たかひろ)	→ *季広*(すえひろ・源、歌人)		Ｂ２３４１
孝綽(たかひろ・山田/津阪)→	*東陽*(とうよう・津阪/菅原/山田、儒者)		Ｈ３１８２
孝寛(たかひろ・沖野)	→ *南溟*(なんめい・沖野おきの、儒者/詩)		Ｊ３２５４
高広(たかひろ・柴内/横沢)→	*兵庫*(ひょうご・横沢よこざわ、家老/画)		Ｆ３７２３
高広(たかひろ・楢林)	→ *重兵衛*(じゅうべえ・楢林、阿蘭陀通詞)		Ｙ２１３５
高寛(たかひろ・久留島/毛利)→	*高慶*(たかやす・毛利もうり、藩主/歌)		Ｎ２６５３
隆弘(たかひろ・松尾)	→ *風悟*(ふうご・松尾/松、藩士/俳人)		３８５６
隆恕(たかひろ・岩城)	→ *隆恕*(たかのり/たかひろ・岩城いわき、藩主/歌)		Ｄ２６４６

D2666 **隆房**(たかふさ・藤原ふじわら;北家善勝寺流、隆季男)1148-1209*62* 母;藤原忠隆女/正室;平清盛女、平家と親交/廷臣;加賀・因幡国司/右・左近中将/蔵人頭/1183参議/84従三位、89権中納言、左兵衛督/1191善勝寺長者/99中納言正二位/1204(元久元)権大納言/06(建永元)出家、笙・琵琶・笛/平家物語に小督との恋、四条隆衡・隆弁の父、平家没落後も建礼門院を庇護、後白河院近臣、歌人;1170建春門院北面/78別雷社/95大納言経房卿家/99御室五十首出詠、1200若宮歌合・後鳥羽院[正治初度百首]参加(前中納言名)、家集「隆房集」、1176「安元御賀日記」「行幸記」、「朗詠百首」著?、「平家公達草紙」作者説あり?、

月詣集・玄玉集・雲葉集等入、
勅撰34首；千載(11/534/695/827/923)新古今(742/1105)新勅(5首)続後撰(3首)以下、
［見渡せばそことしるしの杉もなし霞のうちや三輪の山もと］(千載；春11、
知ると印を掛る/叙景歌)
［隆房(；名)の通称/法名］通称；冷泉大納言/四条大納言、法名；寂恵、
妻；平清盛女(正室)・後鳥羽院女房右衛門佐・高階泰経女・葉室光雅女、
子；四条隆衡(1172-1254)・隆宗(1182-1229)・隆重・隆仲(1183-1245)・季房・
隆弁(1208-1283)・隆憲・松殿師家室・臧子(洞院実雄室)・藤原基範室
☆子孫は羽林家の一つ四条家として繁栄

N2612 **高房**(たかふさ・京極きょうごく、多賀たが宮内常良男)1644-77早世*34* 母：京極伊知子、幼時期父没；
丸亀藩主京極高和の養子、丸亀藩士/1662養父の遺領のうち3千石相続；寄合、
「正負之辨」著、
母；　→　*伊知子*(いちこ・京極/多賀、育児記録「涙草」著)Ｇ１１１６

D2667 **高房**(たかふさ・三井みつい；四代、高平たかひら男)1684-1748*65歳*　江戸の呉服商；1699三井北家の家督嗣、
1716四代目八郎右衛門襲名、長崎貿易、農地抵当貸付、家制整備/同族の綱紀粛正、
1734隠居；号宗清、1728「町人考見録」著(：教訓)、
［町人の盛衰は其の主あるじの守りにあり］(町人考見録)
［高房(；名)の幼名/通称/法名］幼名；元之助、通称；三郎助/八郎右衛門4代、
法名；宗清(崇清)そうせい

N2613 **敬房**(たかふさ・中西なかにし、通称；初世加賀屋卯［宇］兵衛)?-1781　京建仁寺町通の書肆/暦算・天文、
1754「夢卜輯要指南」67「民用晴雨便覧」68「日月交食考」/77「古暦便覧」「風雨賦国字辯」、
1780「怪談見聞実記」「暦学法数原」/94「長暦便覧」95「占夢早考」、
「桜花譜」「懐宝長暦便覧」など著多数、
［敬房(；名)の字/号］字；如環、　号；東嶺/華文軒

Z2672 **高房**(たかふさ・三輪田みわだ、清敏男)1823-1910*88* 伊予久米郡久米村日尾八幡宮神官家の生、儒学、
米山べいざん［常貞］弟/元綱の兄、国学・歌；笹村良昌門、伊予松山藩士；藩主松平定昭の侍講、
藩校明教館教授、維新後；東京住/1873吉田神社宮司
［高房(；名)の初名/字/通称］初名；元統、字；危行、通称；豊次郎/恒次郎

就房(たかふさ・杉岡)　→　*就房*(なりふさ・杉岡、史家)　Ｉ３２０９
孝房(たかふさ・山田)　→　*嘉猷*(えみち・山田、国学/歌人)　Ｅ１３２７
高房(たかふさ・楢林)　→　*宗建*(そうけん・楢林ならばやし、医者；種痘)　Ｂ２５２７
隆房(たかふさ・油小路)　→　*隆貞*(たかさだ・油小路あぶらのこうじ、故実/香)Ｌ２６８８
尊成(たかふさ；親王)　→　*後鳥羽天皇*(ごとばてんのう、承久乱/歌人)１９３７

D2668 **高藤**(たかふじ・藤原ふじわら、通称；勧修寺かんじゅじ内大臣、良門2男)838-900*63* 母；西市正高田沙彌丸女、
平安前期廷臣、播磨権守/894従三位/895(寛平7/58歳)参議/896近江守兼任/897中納言、
正三位/899(昌泰2/62歳)大納言/900内大臣；没、贈正一位太政大臣、
妻；宮道弥益女、定国・定方・胤子いんしの父/因香よるかの父?、良房の甥、
「交野の少将」のモデル説あり、今昔物語巻22第7説話入

D2669 **高文**(たかふみ・藤堂とうどう、高武男)1720-84*65*　伊勢津藩士：1728藤堂出雲家6代を継嗣/国老、
1751退隠、儒：奥田三角門、津藩の正史「宗国史」編、武芸；柔術に秀でた、漢学；詩文、
「論語長箋」「元和先鋒録」「国朝詩源」「孫子長箋」「孫子発揮」「孫子長箋」著、「藤堂家譜」編、
1764「勢伊死事碑」編/67「万歳館詩」著/外編著多数、
［高文(；名)の幼名/字/通称/号］幼名；三郎助、字；子樸/大璞たいはく、通称；出雲、
号；東山/魚目道人、法号；泰応院、津藩主高豊の弟

2615 **幸文**(たかぶみ・木下きのした、前名；義壽/義質/義方、義綿男)1779-1821*43* 備中長尾村の農業、
1794上京、歌人；垂雲軒澄月・吐屑庵慈延門/香川景樹門；熊谷直好と共に桂園派の双璧、
師の景樹に反発すること多く「亮々草紙」刊行にも問題があり師の酷評を受ける、
大坂白子町の亮々舎に没、1791「すかのね」1807「朝三日記」/10「園の植木」「烏帽子岩」、
1815「百千鳥」19「浦のあけぼの」、20随筆「亮々さやさや草紙」「ささのした葉」、
「貧窮百首」「万葉集書留」「小笹の風」「櫛の垢」、1761-1821「木下幸文日記」、

家集「亮々遺稿」(;浅野譲編刊)、「木下幸文家集」外著多数、備中に門弟多数、
[雨のあしなびきて見ゆる雲間より懸け渡したる虹の橋かな](亮々さやさや遺稿;雑1007)、
[幸文(;名)の通称/号]通称;民蔵、号;亮々舎さやさやのや/風漪漁舎、朝三亭/蓼園/ないざの笹屋
法号;無庵

N2615 **高文**(たかふみ・加藤かとう、務男/本姓;中田)1813-1904長寿92歳 母;八重子、播磨揖保郡網干の蔵元、
国学/歌:大国隆正門、中田季文の兄、
1864「地方大概集」、「古事記読本」著、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、
[高文(;名)の通称]次郎兵衛/篤太郎

W2606 **孝文**(たかふみ・大江おおえ、坂平三郎の長男)1827-189367 阿波徳島藩士;1840(14歳)家督継嗣、
藩主蜂須賀斉裕に出仕;禄350石/世子茂韶を補佐、維新後;徳島判事;藩政改革に功績、
1870神祇官に出仕;宣教使となる/額田県権典事/浜松県権典事/学務課長兼庶務課長歴任、
1876致仕;東京住/歌を専らとす

隆文(たかふみ・四条) → *隆文*(たかとも・四条、廷臣) Ｎ２６１４
高文(たかふみ・高丘) → *兼弘*(かねひろ・高丘たかおか、廷臣;詩人) Ｆ１５７３
貴文(たかふみ・坂川) → *暘谷*(ようこく・坂川さかがわ、書家) ４７８５

N2616 **嵩振**(たかふる・牧まき/本姓;石上、)1764-183976歳 豊後岡藩士、国学/歌:加藤千蔭・荷田御風門、
さらに賀茂季鷹門、「石上嵩振翁家集」著、妻;ふじ、
[嵩振(;名)の別名/通称/号]別名;尚古、通称;文助/弾蔵/弾正/主齢、号;石上尚古 、

Z2603 **高古**(たかふる・早雲はやくも、)1802-187170 阿波徳島の富田八幡社祠官/国端井子神社祠官、
早雲高宝たかとみの孫/高廉たかかどの父、国学・歌;永井精古せいこ/あきひさ門
[高古(;名)の通称] 大和守/佐渡守/縑けん

高振(たかふる、葦廼屋) → *高振*(こうしん・葦廼屋、洒落本作者) Ｆ１９１５
隆前(たかまえ→たかちか) → *隆前*(たかちか・油小路、歌人) Ｍ２６２４

D2670 **隆昌**(たかまさ・藤原ふじわら) ? - ? 鎌倉南北期絵師/1352京祇園社の絵師職、摂津守、
1351従覚「慕帰絵詞」(本願寺3世覚如の伝記絵)の画制作(藤原隆章と)、
1356「諏訪大明神演義並祭礼絵」制作に隆章と参加

D2671 **隆昌**(たかまさ・大中臣おおなかとみ)?- ? 南北期南朝方;伊勢神宮祭主、歌人、
新葉1192・1242
[いにしへの跡をのこさばことの葉を吹きも伝へよ和歌の浦風](新葉集;十七1192)

N2617 **孝政**(たかまさ・永原ながはら、通称;左京、孝治たかはるの男)?-1678 加賀藩士/家督嗣;人持組/寺社奉行、
与力裁許、「永原左京書翰」著

2616 **高政**(たかまさ・菅野谷すがのや/惣本持そうほんじ)?-? 江前期;京富小路通錦小路上ル町の俳人:
はじめ貞室系/のち談林;宗因門、京談林派惣本持の中心とし活動;1682宗因没後に隠退?、
1675「誹諧絵合」編(貞室ら貞門直系と宗因など談林系を収む)、
1675「後集絵合こうしゅうえあわせ」(梅翁の作品を中心)、77「後集絵合千百韻」編、
1679「惣本寺誹諧中庸姿つねのすがた」編(;異体句で大論戦/貞談から非難)、
1680「是天道これてんどう」「釈迦汁」81「天朗立ほのぼのだて」編、「江戸躍」(独吟百韻)/「三百韵」著、
1676西鶴「誹諧師手鑑」/82「風黒「高名集」入、
「目にあやし麦藁一把いちは飛ぶ螢」(中庸姿;巻頭独吟百韻発句/揚句;珍重々々珍重の春)、
(麦藁一把;平家物語祇園女御にある承仕法師の頭にかぶった藁に土器の火の輝くさま)
[高政(;名)の通称/号]通称;孫右衛門、号;惣本寺/誹本持/伴天連社ばてれんしゃ

2761 **孝雅**(たかまさ・藤木ふじき、) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]入、
[谷ふかき岩間づたひの忘水思ひいでてもとふ人のなき](麓の塵;恋514)

N2618 **孝政**(たかまさ・佐々木ささき、通称;幹右衛門/号;聞可)1671-174477 儒者:九条家の侍講、詩文に長ず、
のち江戸で朱子学を教授/1706越後村松藩に出仕/29致仕;世子侍講、「授幼問陳」著

Y2614 **高當**(たかまさ・谷たに、初名;高郷/通称;文蔵)?-1795 伊勢松坂の国学者、
本居宣長初期の源氏物語聴講の門人、

D2672 **高備**(たかまさ・京極きょうごく、高久長男)1757-183579 丹後峰山藩主;1808(文化5)家督継嗣;7代襲封、
従五下/周防守、大番頭/1812若年寄;幕政に参与、母;木下利潔女、高寧・高聡・高倍の父、

父の遺志を嗣ぎ讃岐金刀比羅宮の分霊を峰山に祀り小象頭山金刀比羅大権現と称す、
歌・1814堀田正敦催「詠源氏物語和歌」入

D2673 **孝昌**(たかまさ・中島なかじま、別名;茂躬しげみ)1766-1808*43歳* 武蔵川越の里正/俳人;天沼恒庵門、
狂歌作者、1801「三芳野名勝図会」05「文孝冊」編、「三芳起諦」編、
[孝昌(;名)の字/通称/号]字;済美、 通称;与兵衛、
号;其馨/桜曙/桜斎/栗下庵/酔春亭

Y2689 **恭正**(たかまさ・野田のだ、通称;収)1777-1861*85* 筑後久留米の国学者

D2676 **誉正**(たかまさ・桂かつら) 1782 - 1850*69歳* 越後新発田藩の蒲原郡新津町組の大庄屋;桂家6代、
国学者:鈴木重胤[1812-63]門、歌人、妻;東起子ときこ(旧姓;長井)、甥桂誉重たかしげの養父、
1820(文政3)阿賀野川・能代川の洪水時に適切な処理;苗字帯刀を許可、
天保の凶作時に窮民救済に尽力、歌人橘由之(良寛の弟)や国学者飯塚久利と交流、
歌;「桂誉正・とき子・誉重歌集」入(桂尚樹編)、
[誉正(;名)の通称/号]通称;東吾、 号;自来/風月館

N2619 **高匡**(たかまさ・三井みつい、[南家]高行男)1789-1856*68* 伊勢松阪の豪商/国学;本居大平・春庭門、
歌人、絵画を嗜む、「月次会家集」「壬午年月次歌合」「三井高匡和歌帖」著、
[高匡(:名)の字/通称/号]字;退伯、通称;進蔵/新蔵/則右衛門、
号;宗韻/桐糸斎/霞濃(;画号)、 高蔭の甥、高敏たかとし(国学者)の父

N2620 **高雅**(たかまさ・森もり) 1791 - 1864*74* 尾張名古屋の絵師:初め吉川一渓門;狩野派、
南画;中林竹洞門/浮世絵;牧墨僊門、1834土佐光孚門、大和絵風の風俗画、有職故実修学、
「狂歌二十題画像集上之巻」、「裂帛一声」画、名古屋鉄砲町・呉服町・横三ツ蔵などに住、
[高雅(;名)の通称/号]通称;右門/蜂助、 号;玉僊/蝦翁/菊亭/素堂/三光堂/紫川亭

2617 **隆正**(たかまさ・大国おおくに/山本/野之口、今井秀馨[天柱]男)1792-1871*80歳* 石見津和野藩士、
国学・歌学:1807平田篤胤門、儒;昌平黌入;古賀精里門/1809舎長、国学;村田春海門、
1818長崎遊学;西洋理学修得/29脱藩;改姓野之口/35大阪で国学講説/36播磨小野藩で講、
福山・水戸藩で教導/京で家塾報本学舎開設、1851津和野藩復籍;養老館教授、
家集「花なきはな」、1855「本教挙要」57「六句歌体辨」「学統弁論」、「神道要論」「古今雑談集」
「古伝通解」「言葉の種」「活語活法」「玉也集」「如意園雑記」「志のふ草」「真爾園翁歌集」外多、
[隆正(;名)の別名/字/通称/号]初名;秀文/秀清、 字;子蝶、
通称;薫太郎/薫一郎/中司/一造/匠作/仲/総一郎/正助、
号;葵園/眞瓊園/如意園/佐紀乃舎/戴雪/天隠/如意山人/天柱山人/居射室

N2621 **隆道**(たかまさ・油小路あぶらのこうじ/本姓;藤原、山科忠言2男)1794-1834*41* 油小路隆彭たかもりの養子、
廷臣、右近権中将/蔵人頭、1832皇太后宮亮/正四上、
1820「北祭参向留」「北祭使参向作法」著、
1833「徳川斉明贈参議宣下申沙汰誌」、「徳川斉明並徳川斉位贈官宣下記」著

X2682 **尊昌**(たかまさ・千家せんげ、通称;千代麿、尊之たかゆき[1765-1832]3男)?-1866 出雲出雲郡の国学者/歌、
尊孫たかひこ・尊晴たかはる(1800-67)の弟

D2675 **高雅**(たかまさ・尾高おだか/小山、初名;富蔵、堀口満啓男)1812-87*76* 佐渡相川の歌人、小山家養嗣;
佐渡奉行書記/致仕、1842武州川越藩に歌で出仕(尾高姓)、藩主転封に伴い上州前橋移住、
井上文雄の許で同郷の加藤(近藤)正卿まさつぐと歌の唱和、川越前橋藩主松平直克の師、
維新後;前橋藩郡奉行/権参事、歌;清水浜臣・大江広海門、諸芸;書画花茶香道に通ず、
松平直侯なおよし・印東応中まさなかの師、歌;1856文雄「摘英集」入、
1857「櫛の垢の辨」59「つゝみの花」、「かたいさり」「梔園しえん詠草」著
[高雅(;名)の通称/号]通称;俊助/富太郎/市太郎、 号;梔園しえん/群鶴楼主人

X2618 **貴正**(たかまさ・佐々木ささき、)1817?-1887?*70余歳* 近江犬上郡の千代神社社司、
国学;青木千枝(1820-97)門、歌人;[鳰のうみ]入

D2674 **高雅**(たかまさ/**たかつね**・藤井ふじい、別名;高之/高枝/高起、堀家徳政2男)1819-63暗殺*45* 母;幾知子、
堀家家は備中賀陽郡宮内村の吉備津神社社家/1823父没;母幾知子(喜智子)に養育、
養祖父広政にも養育/25社吉備津神社家頭の藤井高豊没;その父藤井高尚の養孫に指名、
藤井家は代々備中吉備津神社社家頭の家、藤井高豊妻の美弥に養育され祭礼祝詞役、
歌;高尚門/国学;業合大枝門/詩;山田方谷門、

1831(天保2)高尚孫娘松野まつの(高豊女/1821-46/*26歳没*)と結婚;高起に改名;
1835(天保6)元服;社司・社家頭を継嗣、
1840(天保11)高尚没;高枝たかえと改名/高尚の松屋社中を継承;後松屋と号す、
[五ヶ条扣]制定し歌合を開催、1845(弘化2)社殿御上葺修造;上棟/従五下/下総守、
吉田家より神道裁許状を受領、1846妻松野没、後妻;若枝わかえ(1829-55/*27歳*/池上家の女)、
1848(嘉永元)家号;**大藤**・名を高雅に改名、海防論研究、1855後妻の若江没、
1861(文久元)隠居;幽叟と号す、大坂湾防衛の海峡閉鎖計画・琵琶湖鴨川間運河の計画、
資金調達中に幕府と通ずる詐欺と誤解され京で1863(文久3)攘夷派浪士に暗殺、
1837「小松落葉亭」、46「類題吉備国歌集」(尚澄が編輯中没;継嗣し校訂完成)、「詠史」著、
「藤井高雅歌集」(藤本正一編)がある、堀家正樹・藤井尚澄・安原玉樹・橋本本資もとつぐの師、
[高雅(;名)の通称/号]通称;光治郎/左衛門佐さえもんのすけ/下総守、号;幽叟/後松屋のちのまつのや

N2623 **高節**(たかまさ・狛こま/辻、狛則賢男)1841-? 楽人、1851正六下左近将曹、「蘇合一具撃物譜」著

V2688 **孝正**(たかまさ・浦野うらの、)1843-1924*82* 三河宝飯郡一宮村西原の国学者・歌;竹尾正久門、
[孝正(;名)の通称/号]通称;三郎左衛門、号;梅廼舎・竹月庵・甫翠

X2610 **貴正**(たかまさ・肥塚こえづか、通称;村山次郎)1844-? 播磨揖東郡の生、国学者、
北海道函館開拓大主典、1882「蝦夷風俗彙纂」編

孝政たかまさ・黒田) → *長輿*(ながおき・黒田、藩主/連歌) Ｄ３２３２
孝政(たかまさ・森) → *江鷁*(こうげき・森もり、商家/俳人) Ｉ１９４７
孝政(たかまさ・庵原/石井)→ *垂穂*(たりほ・石井いしい、藩士/儒/俳諧)Ｎ２６５０
孝昌(たかまさ・白子) → *昌平*(まさひら・白子しらこ、商家/国学者) Ｑ４０２７
高雅(たかまさ・堀川) → *高定*(たかさだ・堀川/藤原、廷臣/歌人) Ｃ２６７７
高政(たかまさ・京極) → *高広*(たかひろ・京極きょうごく、藩主) Ｎ２６０５
奉政(たかまさ・浅井) → *奉政*(ともまさ・浅井、国学) Ｑ３１５４
隆政(たかまさ・池田) → *斉輝*(なりてる・池田いけだ、日記) Ｈ３２６８
隆昌(たかまさ・近藤) → *華渓*(かけい・近藤こんどう、医者) Ｋ１５７２
隆昌(たかまさ・近藤) → *文渓*(ぶんけい・近藤、華渓男/医者) Ｆ３８０７

N2624 **貴強**(たかます・松平まつだいら、親賢2男)1742-99*58* 義兄親房の養嗣子;1771家督;幕臣、小姓組/御使番、
1787大坂町奉行/97長崎町奉行/98勘定奉行兼任;長崎で病没、歌:加藤景範門、
従五下石見守、「崎陽紀行」著
[貴強(;名)の通称] 亀五郎/次郎兵衛/石州

N2625 **隆賢**(たかます・鷲尾わしのお/わしお、隆純たかいと男/本姓藤原)1812-61*50* 兄隆敬の嗣子;廷臣;1842侍従、
1858通商条約勅許の変革要請88人の1/1860親王(明治天皇)家家司/蔵人頭/正四上、
1860「伊勢公卿勅使申沙汰記」著

高松院(たかまついん) → *姝子内親王*(しゅしないしんのう/よしこ-、鳥羽天皇皇女) Ｙ２１８７
高松院右衛門佐(たかまついんうえもんのすけ) → *右衛門佐*(うえもんのすけ、歌人) １２０７

D2677 **高松上**(たかまつのうえ、源みなもと明子あきらけいこ、源高明たかあきらの女)965-1049*85* 盛明親王の養女;
東三条院住、藤原道長の妻、頼宗・長家ら4男2女の母、高松殿に住/従三位、歌人;
勅撰3首;(金葉三奏本130)/詞花309/続古今1267(;堀河右大臣[頼宗]母)、
玄々集２首/続詞花集入、
[深く入りて住まばやと思ふ山の端をいかなる月の出づるなるらん]、
(詞花集;九309/玄々集;14;3句[奥山に])、
[高松上の通称];高松北方たかまつのきたのかた

高松宰相(たかまつのししょう)→ *公定*(きんさだ・藤原、廷臣/歌人) Ｅ１６０３
高松少将(たかまつのしょうしょう)→ *頼常*(よりつね・松平/徳川、藩主/学問) Ｊ４７０８
高松局(たかまつのつぼね) → *績子*(いさこ・中山なかやま、女房/日記) Ｆ１１４９
高松宮(初代たかまつのみや)→ *好仁親王*(よしひとしんのう、連歌) Ｇ４７４７
高松宮(たかまつのみや) → *幸仁親王*(ゆきひとしんのう、有栖川宮/歌人) Ｆ４６４３
高松屋孫兵衛(たかまつやまごべえ)→ *孫兵衛*(まごべえ・高松屋、算用方) ４０８５
高天原広野姫天皇(たかまのはらひろのひめのすめらみこと)→ *持統天皇*(じとうてんのう) ２１２９

X2650 **高麿**(たかまろ・島しま、) 1792 - 1871*80* 信濃飯田の国学者/歌人、

[高麿(;名)の通称/号]通称;喜助、号;月信

R2643 **鷹麿**(たかまろ・古田ふるた、別号;豊斎、亀吉男)1801-7575　信濃伊那親田村代々の庄屋/寺子屋師匠、絵師;葛飾北斎・島高麿門/虎の画が得意、詩歌/俳諧/彫刻、村芝居脚本、1842「婦士鏡湖水浮船」著

D2678 **高美**(たかみ・楢林ならばやし) ? -　?　通詞、1814英和辞書「諳厄利亜語林あんげりあごりん大成」共編;木本正栄・吉雄永保と共編(諳厄利亜は「英国」のラテン語Angliaの漢語)

Z2692 **高見**(たかみ・物集もずめ、高世たかよ男)1847-192882　母;春子/豊後速見郡杵築の神道家・国学者;父門、国学;玉松たままつ操みさお・平田銕胤門、維新後;神祇官/教部省出仕/東京帝国大学教授、妻 ; 柳子りゅうこ(1859-1912/歌人)、
[高見(;名)の通称/号]通称;素太郎/善五郎、号;鶯谷/埋書居士/薫園

高見(たかみ)　→　*棟上高見*(むねあげのたかみ)　Ｂ４２０２

高見山人(たかみさんじん)　→　*忠常*(ただつね・赤井あかい/源、里正/歌)　Ｖ２６０９

D2679 **孝道**(たかみち・源みなもと:清和流、元亮男)?-?1010前没　平安期一条朝頃;大学頭、兄頼光の養子、詩人;本朝麗藻入

D2680 **孝道**(たかみち・藤原ふじわら、法名;儀善房智観、孝定男)1166-123772歳　母;藤原為親女の三位局、平安末鎌倉期廷臣;木工権頭/楽所預、孝博・孝定と続く琵琶・箏の家(孝博流)を継承;隆盛、催馬楽/朗詠に長ず、楽器製作、古今著聞集に逸話、
孝時・播磨局・孝行・七条院讃岐・尾張の父、
「残夜抄」「木師抄」「孝道教訓抄」/1227「雑秘別録」28「新夜鶴抄」29「知国秘鈔」著

D2681 **隆術**(たかみち・四条、隆昌男)1611-4737　廷臣;1624左少将/25左中将/40従三位、1643参議;すぐに致仕;正三位/47(正保4)没、歌、
1635烏丸光広「春の曙の記」入;二条康道に随行し江戸紀行、
[けふ見ればほどもはるけき富士のねもおなじ雲ゐの空としらるゝ]、
(春の曙の記:34/遙かな時をかけやっと今日見たがその頂はなお遙かな空の中)、
[隆術(;名)の法号] 昌誉宗術

D2682 **高通**(たかみち・藤堂とうどう、高次男)1644-9754　母;多羅尾光誠女、伊勢久居藩初代藩主;1669兄の津藩主高久より分与;城主格/1670伊勢一志郡に居城;久居と名付;津の支藩となる、五位下佐渡守、俳人;1671北村季吟門/歌人;1678西山宗因門、足代弘氏の「神風館」の命名者、「袖中和歌集」、1678「久居八百五十韻」79「百番誹諧発句合」編、季吟「続連珠」入、
[太田道灌が別業(べっそう)日暮里にて、
雲晴れて今宵の月をおのづからながめよとての日ぐらしのさと](茂睡[鳥の迹]726)、
[高通(;名)の幼名/号/法号]幼名;学助、号;任口、法号;勝光院

N2626 **高道**(たかみち・山鹿やまが、通称;藤助、高基男)1691-176474　肥前平戸藩士、祖父素行以来の山鹿流兵学者、1744江戸から平戸清水川に移住;積徳堂で教授、山鹿兵馬流兵法学統と平戸学閥を形成、高武・高賀の父、
「武教全書聞書」、「山鹿高道覚書」「高道覚書」「山鹿家門人帳」「会論記」/1756「戦法聞書」著

N2627 **高通**(たかみち・松本まつもと、通称;助兵衛)?-?　江前期羽前米沢の文筆家、「永正以来年表」著

Y2608 **恭通**(たかみち・竹内たけうち、旧姓;古川)1784-185269　伊勢桑名の国学者;本居春庭・大平門、国学・歌;足代弘訓・石川依平門、1843上田秋成[春雨物語]漆山本を書写
[恭通(;名)の初名/通称/号]初名;恭、通称;休太郎/弥左衛門/求左衛門、
号;南淵/藏東しょうとう野人/代北

N2628 **孝道**(たかみち・中村なかむら) ? -　?　江後期周防の国学者/京室町三条北で教授、1832「万葉有名百首」「万葉無名百首」/34「言霊或問」、「言霊聞書」著、
[孝道(;名)の通称/号]通称;主計かずえ、号;産霊舎/産霊舎伝言霊

Y2613 **孝道**(たかみち・谷たに/本姓;源、旧姓;西沢)1803-7371　近江日野河原田町の歌人;浜崎景斎門、国学・歌;香川景樹門、
[たちよればやがて心の底すみてむすぶにあかね若草の水]、
(1866[慶応2] 日野村井横町地蔵堂の[若草清水]での詠/歌碑)、
[孝道(;名)の初名/通称]初名;広景、通称;源右衛門

2700 **貴道**(たかみち・森もり、) 1813 － 1903長寿*91* 美濃加茂郡の神職/名主、国学;神谷道一みちかず門

N2629 **高通**(たかみち・山鹿やまが、通称;伝三郎、高紹男)1845-1910*66* 肥前平戸藩士;1856家督嗣、
山鹿流兵学者、「山鹿高通日記」著

高通(たかみち・中川/藤波)→ *氏養*(うじもり・藤波/荒木田、神職) Ｃ１２７７

高通(たかみち・寺田) → *臨川*(りんせん・寺田/源/田/寺、藩儒) Ｋ４９５８

隆道(たかみち→たかまさ・油小路あぶらのこうじ)→*隆道*(たかまさ・油小路、廷臣)Ｎ２６２１

隆道(たかみち・園村) → *義観*(ぎかん・園村そのむら、僧/国学者) Ｕ１６５６

隆彭(たかみち・油小路) → *隆彭*(たかもり・油小路、廷臣) Ｎ２６４７

孝通(たかみち・村井) → *長堅*(ながかた・村井、藩士/記録) Ｄ３２４４

孝通(たかみち・町田) → *清輿*(きよおき・町田まちだ、儒者/書家) Ｏ１６６４

2618 **高光**(たかみつ・藤原ふじわら、師輔8男)940?-994*55* 母;醍醐天皇皇女雅子内親王、廷臣;960右近少将、
961従五上;叡山に出家;横川で良源門;受戒/妻(藤原師氏女)の悲嘆、
962多武峯に草庵;増賀を招請、「多武峯少将物語」(作者不詳)に出家から草庵までの説話、
歌;家集「高光集」、956右大臣師輔前栽合参加(;侍従名)、966内裏歌合;方人で参加、
閑月集入・後葉集(高光2首・如覚2首)/続詞花集(如覚名)入、36歌仙の1、連歌;菟入、
勅撰23首;拾遺(360/435/1063/1332)新古(6首552/998/1026以下)新勅(3首)以下、
[紫の色には咲くな武蔵野の草のゆかりと人もこそ見れ]、
(拾遺;物名360/さくなむさ:シャクナゲ、古今集の歌を踏まえている/如覚名)、
(古今867よみ人しらず;紫の一本ひともとゆゑに武蔵野の草はみながらあはれとぞ見る)
[高光(;名)の幼名/法諱/道号/通称]幼名;まちをさ君、法諱;如覚にょかく、道号;寂真、
通称;多武峯少将入道、 伊尹・兼通・兼家・為光・公季らの兄弟

妻 → *師氏女*(もろうじのむすめ・藤原、歌人) Ｈ４４０５

D2683 **隆光**(たかみつ・粟田口あわたぐち) ？－ ？ 南北・室町期画家、「石山寺縁起」5巻画

D2684 **隆光**(たかみつ・柳原やなぎはら、均光なおみつ男/本姓藤原、母;安子)1793-1851*59* 廷臣;1831参議/40正二位、
皇太后宮亮/右衛門督/検非違使別当/1848権大納言、歌;1818「大嘗会和歌草案」、
「大嘗会和歌文政元主基方」、「隆光卿記」「神宮雑誌」「賀茂奏事始」「神宮雑誌」外記録多数、
[隆光(;名)の幼名/字/法号]幼名;万丸/五万丸、字;子省、法号;妙智心院

N2630 **孝泉**(たかみつ/こうせん;名・多田ただ)?-? 幕末-明治期江戸の天台僧/上野寒松院・福聚院住/歌、
「釈迦真実録」「説法道話」「慈眼大師御物語」「東叡山御建立旨趣并輪王寺御門室由来」著

N2631 **貴光**(たかみつ・堀ほり、号;和楽堂)?-? 幕末期高槻藩士/歌人、
1856兄重義の追善歌集「月の玉橋」編

隆光(たかみつ・安藤/日野)→ *光信*(こうしん;法諱・源海;号、真宗僧) Ｊ１９８７

D2685 **田上尼**(たがみのあま、姓;蓑田みのだ、名;勝かつ、久米利延の妻)1644-1719*76* 肥前長崎の俳人:蕉門、
夫没後に長崎郊外の田上の地に別業千歳亭を経営;田上尼と称す、実家の甥に蓑田卯七、
1691「猿蓑」/92車庸「己をのが光」/91「猿蓑」/95浪化「有磯海」/98「続猿蓑」入、
去来・魯町の実弟牡年を養子、
[朝顔の蒼つぼみかぞへむ薄月夜うすづきよ](続猿蓑;巻下)

田上道(たがみみち) → *菊舎尼*(きくしゃに、俳人) １６１１

N2632 **高宮城親雲上**(たかみやぎぺーチン)?- ？ 琉歌組踊「花売の縁」作

D2686 **高宮王**(たかみやのおおきみ:伝不詳)?- ？ 万葉四期歌人;巻十六2首:3855-56(戯笑歌?)、
[莵莢ざうけふに延はひおほとれる屎葛くそかづら絶ゆることなく宮仕へせむ](万葉;十六3855)
(莵莢は[皂莢さいかち]、屎葛は[へくそかずら]で触れると悪臭を発す)

2789 **隆宗**(たかむね・藤原のふじわら、参議良基男)1045-1102*58* 母;伊予守平範国女、平安後期廷臣;
1074右近権少将/75(承保2)左近少将;木工頭・民部大輔兼任/1088正四下/木工頭兼河内守、
1095(嘉保元)近江守/1102(康和4)悪瘡を患い没、妻;源義綱女/宗兼・良兼・応源・隆助の父、
袋草紙;1078(承暦2)内裏歌合奏の時に左大将師通に笏を渡す役

D2687 **高宗**(たかむね・平たいら) ？－ ?1359前没 鎌倉末南北期廷臣三河守/五位、歌人;頓阿と親交、
歌合主催:「草庵集」入(高宗追悼歌も入)、勅撰2首;新千載1728・新拾1651、
[数ならぬ太山がくれの遅桜花だに咲かば時すぎぬとも](;新千;雑1728)

2763 **隆宗**(たかむね・佐野さの) ？－ ？ 江前期;上方の武士/歌人、

1670下河辺長流[林葉累塵集]6首入、
[人のもとにつつじにそへてつかはしける、
あかねども心のいろは我もまた岩にかへたるつつじとをしれ](林葉累塵;春212)、
[立ちとまり結ぶとなしに泉川遠きわたりは行きもやられず](同集;雑1086)

N2633 **隆棟**(たかむね・大河平おこびら、初名;隆遊/隆器、隆居長男)1774-1809*36* 薩摩藩士/藩校造士館修学、国学者;藩校都講/吟味役/御徒目付、和漢学に精通/宣長に傾倒、1808秩父太郎の獄に連座、閉門謹慎中に没、「虚木綿」「述懐百首」、1808「三国神社伝記」著、
妻;津留八左右衛門左衛門正表女、後醍院ごだいいん真柱みはしらの父、
[隆棟(;名)の通称/号]通称;孫六/喜左衛門、 号;清慎斎/竹舎たけのや

N2634 **隆膺**(たかむね・楢山ならやま)1798-1867*70歳* 陸中盛岡藩士/国学者、兵法に長ず、歌;漆戸茂喬門/国学・歌;黒河盛隆門、作人館の修文所国学教授心得/和学教官、「楢山隆膺歌集」「隆膺歌集」著、
[隆膺(;名)の通称/号]通称;宇八郎、 号;旭桜、法号;嵐宿旭桜居士

Z2683 **敬宗**(たかむね・宮沢みやざわ、)1833-1893*61* 信濃伊那郡の国学者;平田銕胤門/歌人、宗恒(1832-1917)・宗義(1858-1919)(ともに平田門国学者)の父、
[敬宗(;名)の通称/号]通称;理兵衛/稲実、 号;百山/芳雨

隆宗(たかむね・源) → *兼能*(かねよし・源みなもと、廷臣/歌人) Ｄ１５１７

隆宗(たかむね・和久) → *半左衛門*(はんざえもん・和久わく、藩士/書家)Ｈ３６７０

2619 **篁**(たかむら・小野おの、通称;野宰相やさいしょう/野相公、岑守男)802-852*51* 廷臣;文章生/蔵人/東宮学士、833「令義解」編纂参加/834遣唐副使:大使藤原常嗣と争い乗船せず更に遣唐使派遣を批判、838隠岐に配流、840召喚/847参議/848左大弁/850正四下/852従三位、詩人;白居易の影響、「凌雲集」・「令義解」撰、経国2首・文粋4首入、「西道謡」「謫行吟」(共に散佚)、扶桑集入、歌人、伝説化:「篁集(篁物語)」、説話集入、
勅撰12首;古今(6首335/407/829/845/936/961)新古(1381/1425)以下;篁集より引く、
[わたの原八十島かけてこぎ出でぬと人には告げよあまの釣舟](古今;407)

高邨(たかむら・蔵重/片山)→ *高岳*(たかおか・片山/蔵重、藩士/国学)Ｌ２６６３

D2688 **高望**(たかもち・平、高望王、高見王男)?-? 桓武平氏の祖、889平姓/上総介従五下

N2635 **隆持**(たかもち・西大寺、隆有男/本姓;藤原)1317-83*67* 鎌倉南北期廷臣;1336(建武3)正四下、北朝;1340蔵人頭/41右近中将/42(康永元/26歳)参議/43従三位美濃権守兼任、1349正三位相模権守兼任/50(貞和6/33歳)権中納言/54従二位/57辞任/59正二位、
1342.11.21持明院殿御歌合の[隆持朝臣]は光厳院の変名

隆持朝臣 → *光厳天皇*(こうごんてんのう) Ｂ１９０９

N2636 **高或**(たかもち・京極きょうごく、縫殿ぬい/和風、高豊男)1692-1724早世*33歳* 讃岐丸亀藩主、1719朝鮮使を駿河で饗応、俳人;1720「御座敷」「西瓜」「すずみ床」評

Z2633 **高操**(たかもち・藤井ふじい、高俊[1767-1833]男)?-1838 備中賀陽郡の吉備津神社社家、国学者
[高操(;名)の通称] 丹宮

敬持(たかもち・竹内) → *式部*(しきぶ、竹内たけのうち、垂加神道家) Ｂ２１５４

高茂(たかもち・岡田) → *高穎*(たかひで・岡田、国学者) Ｎ２６０１

D2689 **隆基**(たかもと・大中臣おおなかとみ、隆実男)?-? 南北期神職;安藝守/神祇権大副、南朝臣;従三位、歌人、新葉575、 母;大中臣隆材女
[おきゐつつ君を祈れば神がきに心かよはぬあかつきもなし](新葉集;九575)

N2637 **隆元**(たかもと・毛利もうり、元就長男/本姓;大江)1523-63*41* 母;吉川国経女妙玖、武将;山陽四国守護、人質として大内氏の周防山口で元服/大内麾下で父と共に尼子氏と交戦/1546家督、周防から出雲に転戦中に安藝佐々部で急死、「隆元様御馬書」、元春・隆景の兄、輝元の父、
[ときはなる松に咲きそふ桜花千とせをかぬるさかりとぞ見る](:萩の歌人入)、
[隆元(;名)の通称/一字名/法号]通称;少輔太郎、 一字名;基、 法号;華渓常栄

V2627 **隆基**(たかもと・油小路あぶらのこうじ/本姓;藤原、広橋兼勝男)1595-1655*61* 油小路隆継の養子、廷臣;1644(寛永21)従三位参議;辞任/48正三位/49(慶安2/55歳)権中納言;辞任/55従二位;没
[隆基(;名)の別名]隆良/隆経、 法名;惟聴

N2638 **高基**(たかもと・山鹿やまが、素行男)1666-1737*72* 父の播磨赤穂藩預りのため1675(10歳)まで赤穂住、

山鹿流兵学;父門/1675父赦免のため江戸住、平戸藩主松浦鎮信の庇護/父没後積徳堂継承、平戸藩士/山鹿流兵学本系学統として平戸山鹿流確立;姉婿高恒の津軽山鹿流兵学に対抗、681「奥秘本伝」1721「奥秘本伝」、「偽清論」「笠儀解」「兵法便覧」「高基先生覚書」、高道の父、
[高基(;名)の幼名/通称/号]幼名;万助[万介]、通称;藤助、号;山井堂さんせいどう

N2639 **高本**(たかもと・京極きょうごく、初名;高包、高甫男)1694-1758*65* 幕臣;1713徳川家継に出仕、1729家督、1742奥高家;47桃山天皇即位に使者として上京/48致仕、近江守/従四下、「京極家系図」、
[高本(;名)の通称/法号]通称;寅助/四郎左衛門、法号;清浄院

N2640 **孝始**(たかもと・前田まえだ、前田孝慈の養嗣子)?-? 金沢藩士;1787養父の家督/小松城番/魚津在住、寺社奉行/1811若年寄/18致仕、1794「魚津御用勤方心得書」99「魚津御用留」1811「職事録」、「寺社奉行被仰付誓詞仮留」「諸事覚書」「日々御用留」「前田孝始集記」著、
[孝始(;名)の通称/号]通称;織部/式部、号;誠斎

N2641 **高元**(たかもと・山鹿やまが、通称;万助、高忠男)?-1827 平戸藩士/山鹿流兵学、高満の父、1826「武教全書戦法聞書」、「武教全書聞書」著

N2642 **孝幹**(たかもと・里井さとい、治右衛門男)1799-1866*68* 和泉佐野の廻船問屋(富商);病弱兄に代り家督、里正、儒;内藤慎門/書;松元研斎門/国学歌文;大国隆正門、書画鑑定に長ず、勤王派と交流、「万葉快園私抄」「破鼈集」「快園随筆」「甘庶論」「南中跋渉」「東遊記」「吉野紀行」「点奴論」、
[孝幹(;名)の字/通称/号]字;元礼、通称;治右衛門(父と同じ)、
号;快園/浮丘/浮立/破鼈はべつ/破鼈老人/把香軒/挟芳園/芳海草舎/梅園

Y2633 **孝本**(たかもと・寺尾てらお、)1801-1888*88* 駿河の生/伊豆三島大社教権中講義

N2643 **高基**(たかもと・藤堂とうどう、高謨男)1803-24早世*22歳* 母;藤堂高嶷たかさど女の睦、藤堂高因の養嗣子、藤堂仁衛門家9代;1807(5歳)家督、伊勢津藩士、詩文/兵法、「銘彝遺事」「観瀾亭遺稿」、
[高基(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;久米介、字;業卿、通称;仁右衛門、号:観瀾、
法号;義正院、妻;藤堂高芬女

N2644 **孝本**(たかもと・前田まえだ、初名;孝敬、孝友男)1808-56*49* 加賀金沢藩士;1821家督、従五下美作守、江戸で没、「前田家譜」、「鶴見長十郎切懸之件調書」著、
[孝本(;名)の幼名/通称/法号]幼名;豊之介、通称;弾番/大炊おおい、法号;仏心院

Z2671 **高翰**(たかもと・三宅みやけ、安兵衛高甫長男)1809-1849*41* 備中浅口郡玉島村の商家、高炳たかあきの兄、国学者、
[高翰(;名)の字/通称/号]字;伯鷹、通称;伊十郎、号;碧亭

N2645 **尚志**(たかもと・上野うえの、庄蔵男)1811-84*74歳* 信濃上田藩士/儒;山田篁軒・古賀侗庵門、兵学;佐久間象山門、1839家督相続/会読所頭取/54兵制改革;57謹慎/66赦免、「西洋兵制考」、「藤の下露」「藤の基蔓」「六々日鑑」1867「大統歌諺解」/「勧懲二歩」編、
[尚志(;字)の通称/号]通称;昇吉郎/健蔵、号;士郷/集義堂

V2694 **敬元**(たかもと・榎本えのもと、)1812-1864*53* 紀伊熊野朝来村の医者;和歌山の近藤家入門、帰郷し医を開業/歌人、
[敬元(;名)の字/通称/号]字;士貞、通称;掃部かもん/加門/嘉門、
号;富川/鳴謙/常蔭/鳥来丸/水玉洞、法名;真諦了実居士

Y2694 **天元**(たかもと・野呂のろ、通称;虎丸)1822-87*66* 紀伊和歌山の医者・のち京住
和歌山藩儒の野呂深処しんしょ(公鱗、松廬[1791-1843]男)と同族?

高元(たかもと・二階堂) → *行春*(ゆきはる・二階堂/藤原、武家/歌) Ｆ４６３２
高幹(たかもと・平) → *浄永*(じょうえい;法諱、武将/連歌作者) Ｈ２２１７
高幹(こたかもと・塚原) → *卜伝*(ぼくでん・塚原/平/卜部、剣術家) Ｄ３９７８
高幹(たかもと・富家) → *松浦*(しょうほ・富家ふけ/藤原、神職) Ｌ２２６３
高基(たかもと・内山) → *青藍*(せいらん・内山うちやま、儒者) Ｊ２４７２
孝肇(たかもと・尾藤) → *二洲*(じしゅう・尾藤びとう、商家/儒者) ２１２１
隆元(たかもと・西尾) → *公龍*(きみたつ・西尾にしお、医者/歌人) Ｋ１６４６
隆職(たかもと・藤原) → *隆職*(たかより/たかもと・藤原、廷臣/詩人) Ｎ２６８０

N2646 **隆盛**(たかもり・四条しじょう、隆直男/本姓;藤原)1397-1466*70* 母;西大路隆仲女、善勝寺長者、室町期廷臣;1424(応永31/28歳)従三位/25参議/27参議辞任/28右衛門督/29正三位、1436父没/37参議に復す/38(42歳)権中納言/42従二位善勝寺長者、

1446(文安3/50歳)権大納言;48辞任/49正二位/50-56按察使/59従一位、
連歌;新菟玖波1句入

D2690 **孝盛**(たかもり・杉原すぎはら、長恒男)?-1530　室町幕府奉公衆、伊賀守、歌人;歌会主催、
三条西実隆「着到和歌」参加

D2691 **孝盛**(たかもり・森山もりやま、盛芳2男/本姓;平)1738-1815*78* 母;諏訪頼安女(香楊尼)、旗本/幕臣;
兄盛明(権次郎)の養嗣;1771家督嗣、禄4百石、大番/小普請支配組頭/御徒頭、
1791目付/94先手鉄砲頭を歴任、松平定信に随従;関東巡視、95火付盗賊改役、
1796西丸持弓頭/鎗奉行、1812(文化9)致仕、文人として有名、
母親が教育熱心;幼時より四書五経・三体詩など習熟、国学/歌;冷泉家門:為村・為泰門、
大田南畝を憎み出世を阻んだと伝える、
1798「蜑の焼藻」1802「賤のをだ巻」、「閑窓新語」「闇窓随筆」「賞諷漫録」「自家年譜」著、
「年代通覧」「御加役代々記」編、歌;1798広通「霞関集」入(母の香楊尼と入集)、盛年の父、
[めづらしなまだ里馴れぬ忍びねを山下庵に聞くほととぎす](霞関;夏228/山家郭公)、
[孝盛(;名)の通称/号]初名;盛宥もりひろ、通称;熊五郎/源五郎、号;闇窓、法号;孝盛院

N2647 **隆彭**(たかもり/たかみち・油小路あぶらのこうじ/本姓藤原、隆前たかちか男)1759-92早世*34* 母;高辻家長女、
廷臣;1785(天明5/27歳)正四上参議/左兵衛督兼任/86従三位/石清水放生会参向、
1787東照宮奉幣使/89正三位権中納言/90聴直衣/92(寛政4)従二位;没、
1781「放生会次将参向記」著

N2648 **隆盛**(たかもり・三木みき/本姓;橘、)?-? 1811(文化8)存 江中後期:寛政(1789-1801)頃江戸の国学者,
茶器鑑定/俳人;晋流門、茶の湯(茶人)、
1770「芭蕉翁」/73「松島独行吟」/97「日本州名紀原」、随筆「其昔がたり」「茶徳頌」著、
[隆盛(;名)の字/通称/号]字;衡道、通称;次郎兵衛/治部兵衛、
号;雲南/晋堂/晋亭、剃髪号;摩陀羅毛乾堂

D2692 **隆盛**(たかもり・西郷さいごう、初名;隆永、吉兵衛男/母;椎原満佐子)1827-1877.9自刃*51歳* 薩摩藩士、
1844郡方書役助/藩主斉彬側近;上京暗躍、斉彬死後奄美に流罪2度/召還後禁門変で活躍、
薩長連合結成;倒幕/維新後陸軍大将;朝鮮問題で辞職、西南の役で挙兵敗退;城山で自刃、
1867「後藤象次郎宛書簡」著、
[隆盛(;名)の通称/号/変名]通称;小吉/吉兵衛/吉之介助/吉之助、
号;南洲/止水、変名;菊池源吾/大島三右衛門

N2649 **隆保**(たかやす・藤原ふじわら、隆季[1127-85]男)?-? 平安末鎌倉初期廷臣;左少将/右京大夫、
歌人;1191/1200若宮社/95民部卿経房家歌合参、隆俊(正三位)・隆重・隆玄(天台僧)の父、
[世にふればけふぞまたきく時鳥去年かたらひしなれが忍び音](民部卿家歌合)

D2693 **隆泰**(たかやす・源みなもと)　?-　?　鎌倉期?廷臣;若狭守/五位、
歌:1320成立「続千載集」入;1990、続現葉集入集
[浮世をばいとひぞはてぬあらましの心は山のおくにすめども](続千載;十八1990)

D2694 **隆康**(たかやす・四条しじょう、隆行長男/本姓;藤原)1249-91*43*　鎌倉期廷臣;1266修理大夫/正四下、
1274(文永11/26歳)従三位、77参議/正三位/左兵衛督兼任/79修理大夫・美作権守兼任、
1283正二位/84修理大夫辞任;伊予権守兼任/86参議辞任;正二位/91(正応4).2.24没、
母;宮仕女房式乾門院播磨局(入道河内女)、隆氏の父、
歌人/勅撰5首;続拾遺228玉葉969続千載1317続後拾遺964風雅462、
[年に待つならひぞつらき天の川逢ふせは近きわたりなれども](続拾;秋228)

N2651 **孝康**(たかやす・越智おち)　?-　?　鎌倉末期連歌作者、1356成立「菟玖波集」1句入
[あとは時雨のふるさとのそら](菟玖波集;十七1648)
(前句;末にある山をもいまは越えぬべし)

2620 **隆康**(たかやす・鷲尾わしのお/わしお/本姓藤原、四辻季経2男)1485-1533*49* 1488(長享2)鷲尾隆頼を継嗣、
二条持通斡旋で隆頼没後17年目にして鷲尾家を再興、1514従三位/21(永正18)権中納言、
1527正二位、1533(天文2)没(法名;盛重);以後再び鷲尾家は中断;隆尚(四辻季満)が再興、
「二水記」、1523「大永三年御灌頂記」著、歌人;堂上連歌/和漢百韻、1520草木百韻、
1521・26・28・29和漢聯句(6度)・23新古今集詞百韻・29山何百韻

N2652 **尊閑**(たかやす・役えき、家名;平賀、役尊為たかため男)1651-1737*87*　羽後能代の修験僧、

古典・歌人；1668北村季吟門、1681（天和元）父の跡を受け大光院を継承、
1701引責のため御役御免；男鹿湯本常楽院に閑居、
「一日清和抄」「埋木日蔭草」「源語秘訣」「能代神社縁起」「山ふところ」「埋れ水」著、
「男鹿物語」「羽州男鹿百詠」著、
［尊閑（；名）の号］大光院（父を継嗣）/誘引斎/少蝶庵/里鶯
父　→　*尊為*（たかため・役えき、平賀、修験者/和漢学）Ｍ２６２２

N2653 **高慶**（たかやす・毛利もうり、別名；高定/高寛、久留島くるしま通清男）1675-1743*69* 豊後佐伯藩主、
1688兄毛利高久（佐伯藩主）の養子：99襲封、五人組法・政事条目十五条を制定、文武を奨励、
製炭・製紙の殖産興業/寺社の造営修復/1741致仕、歌：「毛利高慶歌集」「源林公御歌集」著、
［高慶（；名）の通称/法号］通称；助十郎/周防守、諡；源林公、法号；源了院、

N2654 **敬休**（たかやす・恩田おんだ、信州男）1718-83*66*　土佐高知藩士；代々国老深尾家の重臣、
土佐佐川村に住、儒者、経学・兵学；小谷門、初代文武頭取職；経書を講義、「花之通途」著、
［敬休（；名）通称/号］通称；金松/平次/金右衛門/六兵衛/文八、
号；真籬/名潮、法号；月潭無底

C2684 **孝綽**（たかやす・大塚おおつか、初名；良能、嘉保男）1719-92*74* 江戸の儒者/武芸、1748田安家家臣；
大番、近習番/小姓/諸公子の侍読/1764松平定信の師、
1787幕臣/再び田安家出仕；用人・番頭、
「容与園詩稿」、1784宗固「しののは草」漢文跋、柴野栗山・後藤芝山・黒沢雉岡らの師、
［孝綽（；名）の字/通称/号］字；子裕、通称；大助、号；頤亭いてい/容与園

N2656 **高安**（たかやす・佐々木ささき）？－　？　江中期：上州栗須村の神明神社神主、
「庚申待伝来記」著

D2695 **高保**（たかやす・服部はっとり/本姓；藤原、通称；安五郎）1734-93*60* 江戸牛込のち四谷住の幕臣；小吏、
歌学・古学；1765賀茂真淵門、「高保家集」「てつくり物語」「語意考」「考詳万葉集」「語意考」、
「千載集歌評」「物語釈抄」「万葉非選要抄」「雪見紀行」、1775「続冠辞考」92「万葉集大註」著

N2658 **高寧**（たかやす・早川はやかわ/本田、藤田貞資男）?-? 母；相川新兵衛女、早川家の養子、江後期和算家、
筑後久留米藩士、1791「累裁招差従圭垜至乗方垜」、「雑題五十問」「藤田権平親類書」著、
［高寧（；名）の通称］ 嘉三

V2643 **隆安**（たかやす・伊東いとう、）1762-1819*58*　江戸の歌人；生駒熊文くまぶん門
伊豆の祐親の子孫、
［隆安（；名）の別名/法名］別名；当監、法名；道哉どうさい

U2697 **孝廉**（たかやす・たかかど?・たかきよ?・川合/河合/河井かわい、通称；次郎右衛門/与左衛門）?-? 江後期幕臣、
歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1861松平春嶽［古今百人一首］入、
［動きなき大くら山のいや高く久しき世世の数を積むらん］（大江戸倭歌；雑2030）
［谷蔭はまだ白雪も消えなくに早くも山に立つ霞かな］（古今百人一首；90/河井孝廉名）

U2623 **高泰**（たかやす・毛利もうり、高翰長男）1815-69*55*　豊後佐伯藩11代藩主；1832父隠居のため襲封、
従五下安房守/伊勢守、財政再建に尽力；産物方を設置による専売制実施・殖産興業推進、
領内特産海産物の流通統制、1853ペリー来航後；西洋軍制導入/砲術訓練・大砲鋳造、
室；亀井茲尚女、高謙の父、1862家督を高謙に譲り隠居、
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
［風吹けばあすは散らなん山桜花に今宵は宿やからまし］（大江戸倭歌；277山花留人）、
［高泰（；名）の通称/法号］通称；岩之助、法号；泰雲院

N2657 **敬容**（たかやす・小山こやま、彦作男）1835-71切腹*37*　大阪の生；父は剣客/学問；1838（4歳）安藤秋里門、
歌；森寺美郷門/皇典；上田及淵門、岡山藩番頭伊木中哲に出仕/国学：平田鉄胤・加藤千浪門、
1865岡山藩番頭土肥隆平家の家臣；備前上道郡平井村に住/勤王思想を主唱、
維新後；少参事兼大監察/武文館宰；同僚に妬まれ切腹（屠腹）、
1846（12歳）「桂洲詩稿」、「袂の塵」「のもとのましば」著、
［敬容（；名）の別名/字/通称/号］別名；敬秀たかひで、字；伯徳、通称；荘太郎、号；桂洲

高安（たかやす・大原眞人）→　*高安王*（たかやすおう、大原、万葉歌人）　Ｄ２６９６
高安（たかやす・松岡）　→　*隣*（ちかし・松岡まつおか、陪臣/蘭学者）　Ｎ２８５２
高保（たかやす・小宅/清原）→　*文藻*（あやも・小宅おやけ/清原、商人/国学）Ｆ１０１６

高康(たかやす・富永)　→　*燕石*(えんせき・富永、俳人)　Ｂ１３１７

D2696 **高安王**(たかやすおう/たかやすのおおきみ、大原眞人おおはらのまひと高安、川内王男)?-742　長皇子孫?、713従五下、養老初年(717-718)頃紀皇女きのひめみこと密通し伊予守に左降(:万葉集巻十二3098左注)、719按察使(阿波・讃岐・土佐)/摂津大夫/衛門督/739臣籍(賜姓;大原眞人)/742正四下、万葉四期歌人;万葉集;625/1504/3952/577題/1444題/3098左注
[いとまなみ五月をすらに我妹子が花橘を見ずか過ぎなむ](万葉;八1504)

D2697 **高山笑翁**(たかやましょうおう)？－　？　狂歌、1785「後万載集」1首入、
[裏張うらはりのはなれぬ恋の中なれどあはねば心をきつゝみかな](後万載:559、寄小鼓恋/鼓の皮の裏張;合わねば調子が出ない/心置きと鼓を肩に置くを掛る)

N2659 **隆行**(たかゆき・四条しじょう、法名;行乗ぎょうじょう、隆綱男/本姓;藤原)1224-85*62*　鎌倉期廷臣;1252参議、62正二位/90権大納言/91出家、母;源惟義女、隆康の父、1248-72「隆行記」、「後嵯峨院院中元三御幸始部類記」著

N2660 **隆幸**(たかゆき・九鬼くき、綾部藩主九鬼隆常男)1671-91*夭逝21*　丹後綾部藩士/1681将軍綱吉に謁見、父に先立つ;義弟隆直(松平信定男)が家督継承、「志州にて九鬼弐代家物語」編、
[隆幸(;名)の通称/法号]通称;宮内、法号;知勝院

Y2679 **孝行**(たかゆき・二階堂にかいどう、)1718-99*82*　薩摩鹿児島藩士、歌人;日野資枝すけき門、
[孝行(;名)の通称/号]通称;与右衛門、号;鶴翁、藤到ふじゆきの父

Z2690 **高行**(たかゆき・村坂むらさか、)？－1797　伊勢松坂の国学者;本居宣長門、
[高行(;名)の初名/通称]初名;道生、通称:嘉左衛門

N2661 **孝之**(たかゆき・土山つちやま、通称;宗次郎/沾之)1740?-87*死罪48?*　幕臣:勘定組頭/田沼意次の配下、豪遊/横領、平秩東作と交遊、
参考　→　*東作*(とうさく・平秩へづつ、立松、事業家/狂歌)３１１３

X2682 **尊之**(たかゆき・千家せんげ、俊秀男)1765-1832*68*　出雲出雲郡の出雲国造77代、国学者/歌;本居春庭門/千家俊信門、妻;政姫/申姫、尊孫たかひこ・尊晴たかはる・尊昌の父
[尊之(;名)の幼名/通称]幼名;国丸、通称;杖代彦つえしろひこ

E2668 **敬之**(たかゆき・井田いだ)　？－　？　江中期天明1781-89頃の紀伊の書家/篆刻、江戸住;一時伊勢松坂奉行を勤務、印章研究、「古今印要」「官私印章鈕式」「金印図章」著、1785「後漢金印図章」著、
[敬之(;名)の字/通称/号]字;仲嘉、通称;亀之助、号;青峰

X2605 **孝志**(たかゆき・児玉こだま、)？－1814　大坂の歌人;香川景樹門、伏見宮家御内人

D2699 **孝之**(たかゆき・丸林まるばやし)？－　？　国学;1824(文政7)「多武峯少将物語考証」著

N2662 **高之**(たかゆき・大塚おおつか)？－　？　江戸期陸奥白河の人、「白河往昔之伝記」校

N2663 **貴行**(たかゆき・川上かわかみ、通称;三九郎)1777-1861*85*　遠江浜松の和算家:小松恵竜門、「鉤物術」「扇面浅題一ケ条」1859「算法一題」著、1863三回忌に知人門弟が追善「追遠発矇」編

N2664 **高行**(たかゆき・葉山はやま、内高男)1796-1864*69*　肥前平戸藩士;1813近習/儒;1812佐藤一斎門、1822藩校維新館助教/学頭/27家督/31用人/勘定・寺社奉行歴任/60家老格、天保の救荒尽力、吉田松陰など学徳慕う者多数、1855「儲保軌鑑」、「辺備摘要」「建言」著、「鎧軒詩鈔」息高尚編
[高行(;名)の字/通称/号]字;孝卿、通称;万次郎/左内、号;鎧軒がいけん/壺丘こきゅう

U2654 **高之**(たかゆき・水谷みずたに、通称;左門)?-?　江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ものうげに花こそ匂へ春もまだ朝じも氷る庭の梅が枝](大江戸倭歌;春130/朝梅)

N2665 **孝之**(たかゆき・岡部おかべ、春光[市岡猛彦の弟/岡部家を継承]男)1810-84*75歳*　尾張藩士、藩主宗睦の養女維学心院に出仕;京住、歌:城戸千楯・叔父猛彦門、名古屋に帰り徒新組、歌の門人多数、「ろのをふね」著、
[孝之(;名)の通称/法号]通称;定太郎/貞太郎、法号;智浄院

Z2627 **高之**(たかゆき・深沢ふかざわ、高直[1772-1826]男)1811-44*34*　播磨赤穂郡西野山村の医者の家、歌人;父門、国学・歌;長治ながはる祐義門

Z2634 **孝之**(たかゆき・藤田ふじた、)1812-1891*80*　近江甲賀郡の国学者・歌人;藤尾景秀・佐々木弘綱門、歌:[鳰のうみ]入、
[孝之(;名)の通称]増次郎/弥右衛門

N2666 **高猷**(たかゆき・藤堂とうどう、高兌たかさわ男)1813-95*83*　伊勢津藩主;1825襲封/和泉守・左中将/正二位、
国学;佐々木弘綱門、1855諸大名と通商条約反対;公武合体論主唱、軍備海防政策、
学門奨励;朝川善庵を招聘、資治通鑑を校刻、町民のため修文館設立;読書・習字・算術普及、
「和蘭骨牌」「藤堂詢堯じゅんじょう公和歌」著、高潔たかきよの父、
[高猷(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;寿千代、字;道卿、通称;大学、
号;清渚/西岳/観月楼/詢堯斎じゅんじょうさい、　法号;高寿院

N2667 **高行**(たかゆき・斎藤さいとう、完高男)1819-94*76*　磐城相馬藩士;農政家:1845二宮尊徳門、
藩農政に尽力、1851御仕法掛代官席;伯父富田高慶の指導の下に難村復旧に仕法を実践、
尊徳の説を体系化、民間結社興復社・相馬報徳社の設立に尽力、
1854「報徳外記」編、「二宮先生語録」編、
[高行(;名)の通称/法号]通称;粂之助くめのすけ、法号;無能院

X2617 **高行**(たかゆき・佐々木ささき、)1830-1910*81*　土佐吾川郡の土佐藩士、国学/歌;鹿持雅澄門、
維新後;東京住/宮中顧問官/皇典講究所兼国学院長、
[高行(;名)の別名/通称]別名;高富/高春/信頼、通称;弥太郎/松之助/万之助/三四郎

孝行(たかゆき・源)　→　*素寂*(そじゃく、和学者/「紫明抄」著/歌人)Ｄ２５７９
高歩(たかゆき・小野/山岡)→　*鉄舟*(てっしゅう・山岡、幕臣/武道家)　Ｃ３０４３
高之(たかゆき・藤井)　→　*高雅*(たかまさ・藤井ふじい、神職/歌人)　Ｄ２６７４
隆之(たかゆき・小島/滕)　→　*橘洲*(きっしゅう・唐衣からごろも、幕臣/狂歌)１６２２

E2601 **高世**(たかよ・菅野すがの、真道まみち[741-814]男)?-?　平安初期廷臣;820周防守/従五下兵部少輔、
母;秦蓑丸女、歌:古今集81
[枝よりもあだに散りにし花なれば落ちても水の泡あわとこそなれ](古今集;二春下81、
東宮雅院で桜花が御溝水みかわみずに散り流れるのを惜しんで詠んだ)

E2602 **高世**(たかよ・吉田よしだ)　？－　？　軍記作者、1706-13「土佐物語」

E2603 **高世**(たかよ・物集もずめ、金屋善右衛門男)1817/23-1883*61-67歳*　豊後速見郡杵築の豪商の生、
儒;元田竹渓門/国学・歌;定村直好門、1868愚善宇佐学館で皇典を教授/
藩命で杵築藩神官教授方・国学教授、物集姓(先祖が山城物集村出身)、藩士;宣教権少博士、
神道;平田銕胤門/歌学・辞格研究、若宮八幡神社社司、先妻;春子(1851没)/後妻;政子、
1839「類題葎居集」著/1857・60「類題春草集」編/1864「歌学新論」著、
1867「葎廼舎むぐらのや歌集」「行余こうよ集」著、記紀万葉歌撰部類稿」編、「岩崎八幡宮由来記」著、
「本言考」「神学指要」「神学百歌」外著多数、高見たかみ(1847-1928)の父、
[高世(;名)の別名/通称/号]別名;正策/正孝/真風、通称;卯兵衛/丈右衛門、
号;葎生/葎屋むぐらのや主人

孝与(たかよ・稲生)　→　*孝与*(たかとも・稲生いのう、医者/本草)　Ｎ２６６８

E2604 **孝善**(たかよし・藤原ふじわら、称;青衛門、貞孝男)?-?　1093存　母;藤原実政家女房、廷臣;右衛門少尉、
従五下左衛門尉、良暹と親交、歌人;1078(承暦2)内裏歌合/93(寛治7)郁芳門院根合参加、
袋草紙に逸話;住吉神主国基との競争意識・[青衛門](;色青き故)の呼称に反発など、
勅撰10首;後拾遺(77/387/422/1077/1094)金葉(112/129)千載(385/633)新古今(1598)、
続詞花集2首入、
[春霞へだつる山のふもとまで思ひしらずもゆく心かな](後拾遺;春77、
二月に良暹法師を訪ると人々と花見に出たと聞き誘われなかった恨みの歌)
[承暦二年(1078)内裏歌合に、
谷河の音はへだてずまがねふく吉備の中山霞こむれば](続詞花;春20)

E2605 **隆能**(たかよし・藤原ふじわら、清隆男)?-1174?　母;高階為行女、平安後期廷臣;1147主殿頭、
1154三河守/絵所預、絵師;鳥羽院後白河院に重用される、「なよ竹物語絵巻」画、
「源氏物語絵巻」(隆能源氏)筆?(江戸中期住吉広行の説;現在では否定的)

E2606 **隆良**(たかよし・四条しじょう、初名;師保もろやす、隆親男/本姓;藤原)?-1296　鎌倉期廷臣/善勝長者、
1294従二位/95権中納言、京の東山鷲尾に宿所;鷲尾わしのお家の祖、歌人:玉葉集2760、
[神はよも思ひもすてじ葵草あふひぐさかけて再びつかへつる身を](玉葉;神祇2760、
賀茂祭の近衛使・春宮亮・本宮使を歴任し思う詠)
[隆良(;名)の通称]　鷲尾わしのお中納言

E2607 **高能**(たかよし・榎並えなみ) ？－ ？ 連歌:1567「聴言鈔」(連歌伝書)編(;頼久談話)、
1579宗砌流伝書頼久「発句切字註」書写

N2669 **高良**(たかよし・箕浦みのうら、多賀たが秀種男)1600-73*74歳* 箕浦内膳の養子/加賀金沢藩士;
前田利常に出仕、1672「箕浦五郎左衛門聞書」著、
[高良(;名)の通称]五郎左衛門

M2606 **高吉**(たかよし/こうきち・藤田ふじた)?- ？ 江前期広島俳人;貞門系/1662安静「鄙諺集」入、
1674安静「如意宝珠」/79宗臣「詞林金玉集」入

Y2641 **隆義**(たかよし・富塚とみづか、通称;右門)1697-1759*63* 陸奥仙台藩士;藩主伊達吉村に近侍、歌人、
歌;日野資始すけもと編[宮城百人一首]入、
[をしからぬ老の命はながらへて今年も暮れぬあはれ世の中](宮城百人一首:36)

N2670 **高賀**(たかよし・山鹿やまが、通称;源之進、高道男)?-1771 肥前平戸藩士;山鹿流兵学学統を継承、
1764「巴心」/66「城築秘伝書留」69「高基先生御直講奥儀伝」著

X2613 **貴義**(たかよし・佐伯さえき、) ？－ 1805 信濃伊那郡の医者/座光寺家付医師、
歌人;桃沢夢宅門、国学者、
[貴義(;名)の通称] 元冲/玄冲

N2671 **高美**(たかよし・山鹿やまが、通称;八郎左衛門、山鹿高直の養嗣子)?-1810 陸奥弘前藩士、兵学;高直門、
津軽山鹿流の学統を継承、「剣術師教集」「美言残滴」著、高備・高厚の父

N2672 **高好**(たかよし・吉成よしなり、別名;秀林、葛西甚左衛門男)?-1817 讃岐鷲田村の鶴尾八幡社社司;
吉成秀富の養嗣子、1778社職を継承、歌;1802頃鴨祐熙門、釈固浄と親交、「和歌集」著、
吉成好謙よしかた(1800-63)の父

N2673 **隆好**(たかよし・塩しお、通称;七郎右衛門)?-1812 仙台藩士/1805蝦夷派遣:地誌作成(白石信兼と)、
1807「奥北地理分見略記」著

Z2673 **隆恵**(たかよし・水沢みずさわ、殷満男)1759-1811*53* 備中倉敷の富商;井筒屋8代目、国学者、
妻;景山家/後妻;加藤家より、邦綱(9代目)・松野(水沢邦節妻)の父、
[隆恵(;名)の通称]伊左衛門(代々の称)

Y2672 **隆善**(たかよし・長滝ながたき、隆紀たかのり男)1767-1822*56* 伊予宇和島の商家;酒造家/今蔵屋、
国学;本居大平・穂積(鈴木)重麿門、
[隆善(;名)の通称] 四郎兵衛(:父の称)

N2674 **敬義**(甲鵬たかよし・鏡味かがみ、別名;敷典)1782-1853*72* 熱田神宮の神楽座楽人、一絃琴/詩歌/俳諧、
「写静楼雑筆」「熱田神宮御由緒」「柄汐乃日記」著、
[敬義(;名)の通称/号]通称;泰二/泰次/清記/中要/中庸、号;白鵬はくかん/写静楼

Y2654 **孝芳**(たかよし・中田なかた、通称;右門太)1783-1864*82* 備中宮内の国学者、
堀家ほりけ徳政のりまさの兄/大藤高雅の伯父

W2673 **隆善**(たかよし・菊池きくち、通称;若狭守)?-1839 伊予風早(宇和)郡多田村の神官、国学者/歌人、
養子;常磐井安続やすつぐ

X2656 **敬義**(たかよし・下条しもじょう、通称;通春)?-? 信濃松本の医者;松本藩御典医、歌;桃沢夢宅門、
1821千村言志ことゆき(1804-80/竹塢ちくお)を女婿とす/孫の治徳はるのり(秋水)も医者(藩医)

N2675 **孝善**(たかよし・堀ほり) ？－ ？ 江後期加賀金沢藩士/算用者;年寄中席執筆、
1822小頭並/33組外、「堀学之丞書簡等」著、
[孝善(;名)の通称] 鉄三郎/学之丞

W2683 **隆義**(たかよし・九鬼くき、通称;四郎兵衛)?-?安政1854-60頃没 紀伊和歌山藩士、
国学者;本居大平(1756-1833)門

N2676 **孝備**(たかよし・前田まえだ、通称;典膳)?-? 江後期金沢藩士;1836小松城番/50公事場奉行、
1851寺社奉行兼任/54算用場奉行/58若年寄/64家老、1867「前田典膳系図帳」著

N2677 **高福**(たかよし/たかとみ・三井みつい[北家]、13代八郎右衛門、高就男)1808-85*78* 母;列、京の商家、
1835家督嗣;三井家8代当主家督/37八郎右衛門13代を襲名、江戸住、
1859外国奉行所御金御用達;横浜店開店/貿易に参画、
幕末期の朝幕権力の帰趨を直視;新政府への協力;政府金融政策に参画;三井財閥の礎、
円山派絵師;松浦舜挙・国井応文・山本桃谷門、1850「臨池真蹟帖」52「墨字帖」編、「君恩帖」著、
前妻;麗(三井南家5代目当主三井高英女)/後妻;津尾(永坂町家三井高延女/1814-1891)、

子;高朗(9代目当主)・高弘(南家8代/物産社長)・高保(三井室町家10代/銀行社長)・
高棟(10代目当主)・高尚(五丁目家初代/物産社主)・のき(三井新町家高辰の妻)、
[高福(;名)の別名/字/通称/号]別名;高俶、字;子成、
通称;長四郎/次郎右衛門/八郎右衛門13代、
号;宗琢/孩之/憲斎とくさい/聴泉庵(人)/九々斎/愛樹堂/石竜軒/槐月亭/、
担雲閣/和楽園/前後軒/詐善館/詐善亭さぜんてい/呉雪

Y2691 **隆喜**(たかよし・野間のま、通称;烏蔵/焉蔵、孫八郎男)?-? 江後期;尾張名古屋藩の代々御医師、
国学・歌;植松茂岳しげおか(1794-1876)門、1850(嘉永3)宣長50回忌[鈴屋大人追悼会]参加;
[朝さくら露そみたるゝいにしへのわかれをなれもしたふなるらむ](朝花を詠)、
1862(文久2)隠居;息子隆賢(昌蔵/茂岳門歌人)が家督嗣

V2632 **孝鑽**(たかよし・淡川あわかわ、)1811-1857*47* 京の徳大寺家諸大夫、歌人;香川景樹門、
[孝鑽(;名)の通称] 壱岐守/相模守/陸奥守

E2608 **高慶**(たかよし・富田とみた、斎藤嘉隆男)1814-90*77* 磐城中村藩士;江戸で国学;屋代弘賢門、
農政;1839下野桜町の二宮尊徳門、妻;尊徳女ふみ、1845相馬に帰郷;藩財政再建と農政、
中村藩家老、報徳思想の普及と体系化、1877興復社設立;開墾奨励/農村指導、
1850「報徳論」56「報徳記」(;尊徳伝)、「富田高慶日記」著、
[高慶(;名)の字/通称/号]字;弘道、通称;久助、号;任斎、 法号;弘量院

N2678 **隆義**(たかよし・甲斐かい)1815 - 1898*84歳* 熊本藩算学師範;1833家職継承、測器精新儀を製作、
1820「天元術定則之巻」54「当流測量秘鑑」62「算学秘伝蘊奥之巻」著、
「精簡新儀并自在儀写真」著、
[隆義(;名)の通称/号]通称;多喜次/一衛、号;慎軒

Z2644 **敬義**(たかよし・本多ほんだ、菅沼高次男)1815-1906長寿*92* 越後福井藩士の家/家老本多方恭の養子、
1835(天保6)養父隠居;家督2800石継嗣;1849(嘉永2)福井藩家老/高知席本多修理家10代、
藩主松平慶永の藩政改革に参政;軍制改革で功績/安政大獄で慶永隠居後は直廉に出仕、
第1次長州遠征で軍次奉行;小倉まで従軍/維新後;再び慶永(春嶽)に出仕、国学者、
[敬義(;名)の通称/号]通称:鋭次郎/四郎右衛門/修理/大蔵、号;**釣月**ちょうげつ

Y2629 **隆好**(たかよし・辻つじ、紀耕のりただ長男)1819-75*57* 出羽(羽後)仙北郡高野村大町の麹製造・染物業、
祖父平八より厳格な教育/経史;岩屋良兵衛門/1832国学;平田篤胤門、
1852(嘉永5)江戸で各藩有志や西郷隆盛と交流、各地で勤王主唱/討幕運動、
戊辰の役には帰郷;同志と連名建白書を久保田藩主に提出/弟丹兵助・息子と有志隊組織、
キヨ(小杉天外の祖母)の弟、富治(灝洲こうしゅう)・翁助の父、
[隆好(;名)の初名/通称/号]初名;好村、通称;**辰之助**たつのすけ、号;撰葉

W2654 **登吉**(たかよし・門阪かどさか、通称;半五郎、誠愚せいぐ男)1827-97*71* 近江日野の酒造業/国学;父門

Z2622 **恭慶**(たかよし・久郷ひさざと、)1828-1901*74* 近江蒲生郡八幡の伊庭家の被官、歌人、
維新後;滋賀県会議員、歌;[さみだれ集][鳰のうみ]入、
[恭慶(;名)の初名/字/通称/号]初名;敬義、字;直方、通称;東内/東右衛門、
号;有隣/松琴斎/東翁

W2627 **敬喜**(たかよし・岡崎おかざき、)1829-1900*72* 近江蒲生郡の国学者、関越前守領土の代官、
権大講義、歌人;江戸の燕栗園千寿ちほぎ(書肆・狂歌作者/別号;石樹・栗園)門、
「椙の下風すぎのしたかぜ」編、歌;[鳰のうみ]入、
[敬喜(;名)の字/通称/号]字;酒長、通称;邦三郎/僖兵衛/**平太夫**、
号;淡海舎/筱鹿しょうろく吟社/橘月斎一慶

Z2625 **好義**(たかよし・広瀬ひろせ、通称;加作)1829-69*41* 近江信楽の代官多羅尾家の家臣、
歌;[鳰のうみ]入

N2679 **孝允**(たかよし・木戸きど/桂かつら、藩医和田昌景男)1833-77*45* 初姓;和田、桂孝古の養子;長門萩藩士、
儒;吉田松陰門、江戸で剣術;斎藤弥九郎門/造船術・蘭学を修得/江戸藩邸有備館の都講、
反幕活動、藩命で木戸貫治を名乗る/藩政の中枢に参画、薩摩藩と提携し討幕出兵、
五箇条誓文を起草、廃藩置県に参画、維新後;参議/文部卿、
[孝允(;名)の通称/号/変名]通称;小五郎/貫治/準一郎、

号;松菊/木圭/広寒/猫堂/竿鈴/干令/老梅書屋、変名;新堀松輔/広江孝助

W2682 **隆義**(たかよし・九鬼くき、丹波綾部藩主の隆都3男)1837-91*55* 母;側室の佐里、養母;大村純昌女於咸、
1859(安政6)摂津三田藩12代藩主九鬼精隆の急逝により急遽養嗣子となり家督嗣、
第13代三田藩主(九鬼宗家14代)/従五下長門守、藩政改革/下級藩士白洲・小寺を登用、
藩兵の軍備洋式化、1868戊辰戦で鳥羽伏見の直後から新政府に参加/勤王派に転身、
維新後;川本幸民を通じ福澤諭吉と親交;藩士を慶応義塾に入学させる、1869藩知事、
1872神戸に移住;生田川付替えに伴う埋立地の買占め転売で巨利;旧三田藩士救済、
白洲・小寺らと貿易商社[志摩三商会]設立;不動産・金融業に拡大/神戸の都市開発・
女子寄宿学校・神戸ホーム創立に関与、1882宮内省準奏御用掛華族局出仕、
1886吹上・浜両御苑勤務/87キリスト教の洗礼;反対多く仏教に帰信、90貴族院議員、
正室;九鬼精隆3女の於金(金子)/継室;松井松平康爵女・佐藤一昌女
隆輝・隆徳・隆保・好子・憲子・むめ子の父、
[隆義(;名)の幼名]幼名;啓之助、法号;大光院

Z2664 **高吉**(たかよし・松山まつやま、)1847-1935*90* 越後頸城郡糸魚川の国学者;平田銕胤門、
国学;黒川眞頼まより門、平田派神道の立場から反キリスト教目的で変名;神戸英学塾に潜入、
逆にキリスト教信奉;1874摂津第一公会(神戸教会)初代受洗者、牧師(同志社社員)で活動、
新島襄没後の混乱期に指導;旧約新約聖書翻訳・賛美歌編纂に参加、聖公会の堅信礼を受、
[高吉(;名)の別名/通称]別名;篤之、通称;耶須士/一郎

隆義(たかよし・油小路) → *隆前*(たかちか・油小路、歌人) Ｍ２６２４
隆良(たかよし・七条) → *隆豊*(たかとよ・七条しちじょう、廷臣/歌人) Ｄ２６２９
隆良(たかよし・油小路) → *隆基*(たかもと・油小路あぶらのこうじ/藤原/広橋、廷臣)Ｖ２６２７
敬義(たかよし・山崎) → *闇斎*(あんさい・山崎・垂加しでます、神道) １０３７
敬義(たかよし・中井) → *董堂*(とうどう・中井、詩/狂歌) Ｇ３１７８
敬義(たかよし・村井) → *古巌*(こがん・村井/邑井/邨井むらい、書賈/国学)Ｇ１９７５
高義(たかよし・篠崎) → *自閑*(じかん・篠崎しのざき、藩士/文筆家) Ｐ２１９２
高義(たかよし・衣笠) → *明親*(あきちか・衣笠きぬがさ、藩医/詩歌) Ｄ１０５１
高克(たかよし・藤堂) → *高克*(たかかつ・藤堂とうどう、藩家老/教育)Ｙ２６３９
尊良親王(たかよししんのう、後醍醐皇子)→*尊良親王*(たかながしんのう、歌人)Ｄ２６３５

E2609 **隆資**(たかより/たかすけ・藤原ふじわら、別名;隆賢、頼政男orその父安隆男?)?-1099 母;相如女、廷臣;五位、
武蔵・越前守/兵庫頭、1083出家、1041弘徽殿生子歌合/51内裏根合参加、橘為仲と交流、
続詞花・後葉集入、勅撰4首;後拾205/629・金葉75/581、袋草紙に隆資催の四要講の逸話、
[五月雨に日も暮れぬめり道とほみ山田の早苗とりも果てぬに]、
(後拾遺;夏205/永承六[1051]五月殿上根合に早苗を詠む)、
[珍しく鳴きてすぐなる郭公いづくもこれや初音なるらん](続詞花;夏109)、
[隆資(;名)の別名/通称/法名]別名;隆資(;弘徽殿歌合・金葉集)、出家称;武蔵入道観心、
法名;観心

E2610 **隆頼**(たかより・藤原ふじわら) ？－ ？ 平安中期歌人、金葉Ⅲ70、
[桜ばなまたみんこともさだめなきよはひぞ風よこころして吹け]、
(金葉集三奏本;一70)、
藤原隆資(かかより)と同一か → *隆資*(たかより/たかすけ・藤原ふじわら)Ｅ２６０９
千載歌人藤原隆頼とは別人→ *為季*(ためすえ・藤原、改名;隆頼、?-1216)Ｇ２６９０

E2611 **隆頼**(たかより・惟宗これむね) ？－ ？ 平安後期廷臣/六位勧学院学頭/大学頭:1097学生、
詩;中右記部類紙背漢詩集入、歌:、寂超「後葉集」入(藤原隆頼と区別)/詞花集145/146、
[今さらにおのがすみかを立たじとて木の葉の下に鴛鴦をしぞ鳴くなる]、
(詞花;145/後葉集;210、立つは家を離れる意)

N2680 **隆職**(たかより/たかもと・鷲尾わしのお/藤原ふじわら、隆嗣男)1305-47*43歳* 鎌倉南北期廷臣;1311従五下/侍従、
1312従四下/19従四上/21正四下/37左中将/北朝;1340蔵人頭/41(暦応4/37歳)参議、
1342従三位/43備後権守兼任/47権中納言;没、
詩人;1343五十四番詩歌合;詩で参加(6首)
[一対消息告来期 窃拭涙痕画翠眉 鐘韻喚回孤枕夢 始知事事出相思]

(五十四番詩歌合;卅一番左)

N2681 **隆従**(たかより・横山よこやま、隆達男)1758-92*35歳*　加賀金沢藩士;1777家督、隆誨かたことの兄、
1785「横山家譜」著、
[隆従(;名)の通称/法号]通称;大膳/山城/義四郎/殻こく、法号;克己斎義山隆従居士

N2682 **隆従**(たかより・西山にしやま、富塚尚行男)1804-73*70*　西山隆為の養子/陸前仙台藩士、
歌人、仙台百人一首入集、「渚の玉」著、鴫原行雄の師、
[隆従(;名)の別名/通称/号]別名;直人/定亮/道人、通称;源次郎/六右衛門/貞輔、
号;今日庵半夢

N2683 **高聴**(たかより・藤堂とうどう、高邁男)1810-63*54*　伊勢久居藩主;1832高称の隠居により家督・襲封、
藩の救荒策に尽力;1844下河原開墾、儒;佐野竹亭・河原田春江門/武技槍術に長ず、
異国船に対し藩民に洋式訓練をさせる;一色村に砲台を築造、
1853「癸丑辺海事小策」、「和戦につきて」著、
[高聴(;名)の幼名/字/号]幼名;直太郎、字;介甫、号;直斎、法号;浄巌院

孝依(たかより・中沼/喜多川)→ *昭乗*(しょうじょう・松花堂、社僧/書家)Ｔ２２３４
隆頼(たかより・藤原)　→ *為季*(ためすえ・藤原、廷臣/千載歌人)　Ｇ２６９０
隆頼(たかより・佐々木)　→ *隆尭*(りゅうぎょう;法諱、浄土僧)　Ｄ４９３７
隆縁(たかより・藤原)　→ *隆縁*(りゅうえん・叡山僧、平安期歌人)　Ｃ４９８９
多加良(たから・岡井)　→ *蓮亭*(れんてい・岡井おかい、儒者)　Ｂ５１３０
宝田千町(たからだちまち;号)→ *千町*(ちまち・宝田、中川泰重、藩士/合巻)Ｆ２８４２
宝皇女(たからのひめみこ、諱)→ *斉明天皇*(さいめいてんのう)　２００８
田川(かがわ・牛奥)　→ かつ(・牛奥うしおく、藩老女/歌人)　Ｔ１５７７

N2684 **孝事**(たかわざ・前田まえだ)　?-　?　江後期金沢藩士;1845家老、1845/6「日記」著
多記(たき・安東)　→ *仕学斎*(しがくさい・安東あんどう、儒者)　Ｂ２１３３
多喜(たき・下田)　→ *直樹*(なおき・下田しもだ、国学者)　Ｎ３２３４
滝(多喜/多禧たき・高橋)→ *玉蕉*(ぎょくしょう・高橋たかはし、儒者/詩)　Ｐ１６０９
滝(多紀たき・滝野/長野)→ *多紀子*(たきこ・長野ながの/滝野、歌人)　Ｙ２６７２
滝(たき・二川)　→ *瀧子*(たきこ・二川ふたがわ、玉篠/絵師)　Ｚ２６３６

E2612 **朶輝**(だき)　?-　?　江中期俳人、
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集);六々韻入、
[幾手向浜荻の名に花枯れず](しぐれの碑;発句)
滝右衛門(たきえもん・山崎)→ *敬明*(たかあき・山崎やまざき、国学者)　２７１２
瀧雄(たきお・山川)　→ *正宣*(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者)Ｆ４０７９

W2633 **瀧尾子**(たきおこ・岡村おかむら、旧姓;東園)1841-1923*85*　京烏丸中立売の歌人、
1854遠江浜松藩士岡村義理の妻;子女9人、幕末期;夫が約７年間幽閉/その間子女育成、
維新後;夫は東京に仕官;東京住/1906(明治39)夫没後詠歌に専念、
法名;透雲院殿清瀧尾太姉
滝口(たきぐち・山内)　→ *俊温*(としあつ・山内やまのうち、藩士/学制改革)Ｍ３１０４
滝口(たきぐち・河村)　→ *秀俊*(ひでとし・河村、藩士/国学者/詩歌)Ｄ３７３１
滝口入道(たきぐちにゅうどう)→ *時頼*(ときより・齋藤、滝口武士/高野聖)Ｊ３１４６

X2686 **瀧子**(たきこ・田中たなか、旧姓;内山)1788-1840*53*　飛騨高山の歌人、
商家田中大秀(1777-1847/国学者)の妻、寿豊の母

Y2672 **多紀子**(たきこ・長野ながの、名;滝/多紀、旧姓;滝野)?-1859　伊勢飯高郡宮前村本陣の家の生、
兄滝野知雄宅に寓する国学者長野義言(よしこと/よしゆき)と結婚、歌人

Z2636 **瀧子**(たきこ・二川ふたがわ、号;玉篠ぎょくじょう、相近すけちか2女)1805-1865*61*　筑前福岡の歌人;父門、
絵師;梅桜菊の画、鶴子(1796-1869)の異母妹、琴を能くす、
1826野村鉄太郎(1817-58/二川相遠すけとお)と結婚(入婿)、1846幸之進出産(二川家後嗣)、
「雪梅図」「桜花図」「梅花図」画など
父　→ *相近*(すけちか・二川、藩士/書/音楽/歌)　Ｃ２３４１
姉　→ *鶴子*(つるこ・二川、書家/歌人)　Ｇ２９３０
夫　→ *相遠*(すけとお・二川、歌人)　Ｊ２３１９

Z2693 **瀧子**(たきこ・毛内もうない、棟方むなかた貞恒女)?-1885 母;大道寺久繁女の努以、棟方貞敬の姉、
津軽藩士毛内もうない裕胤の後妻、国学/歌人,有之助ありのすけ(新選組隊士)の母
多喜次(たきじ・甲斐) → *隆義*(たかよし・甲斐かい、和算家) Ｎ２６７８
U2682 **多喜女**(たきじょ・久保田くぼた)?- ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[かひなしや思ひの色は木がくれて露のみ袖にもりの下草](大江戸倭歌;恋1559)
滝女(たきじょ・養老舎) → *登幾*(止幾とき・黒沢くろさわ、歌人) Ｉ３１８６
X2660 **滝住**(たきずみ・白糸しらいと) ? - ? 阿波名東郡の国学者;本居内遠(1792-1855)門、
[滝住(;名)の通称/号]通称;藤兵衛、 号;白糸亭
滝蔵(たきぞう・高松) → *明言*(あきのり・高松、国学/歌人) Ｄ１０７
多喜蔵(たきぞう・今田) → *政徳*(まさのり・今田いまだ/岡、文人) Ｎ４０８０
滝園(たきぞの) → *貞起*(さだおき・萩原はぎわら、商家/歌人) Ｆ２０２４
滝園(たきぞの/ろうえん) → *清綱*(きよつな・黒田くろだ/源、藩士/歌人)Ｕ１６２７
N2685 **多吉**(たきち;通称・富村とみむら、号;丁慶)?-? 江中期京の歌舞伎作者;1734京の万太郎座番付、
岩井伊左衛門・中田万助と合作、1734「富館近矢車」番付/36「富市金新万」37「国富栄鉢木」、
1740「飛鳥鳳闕神代巻あすかみやこじんだいのまき」41「けいせい大井川」42「風愛歌水魚五明」著、
多吉(たきち・加藤) → *寛斎*(かんさい・加藤、藩士/地歴/俳人) Ｑ１５５７
多吉(たきち・歌川) → *安秀*(やすひで・歌川うたがわ、絵師) Ｃ４５７７
N2686 **多吉郎**(たきちろう;通称・名村なむら、名村元次郎男)1768-? 阿蘭大通詞;1781稽古通詞、88父継承、
1791小通詞/96大通詞、1796-1814江戸詰、「異国事情」「加模西葛杜加風土事実乃記」著
N2687 **多吉郎**(たきちろう・森山もりやま、名;憲直)1820-71*52* 代々長崎阿蘭通詞/英語;米人ﾗﾅﾙﾄﾞ=ﾏｸﾄﾞﾅﾙﾄﾞ門、
1850小通詞として言語和解世話掛:英和対訳辞書編纂(西成量らと)/53ﾌﾟﾁｬｰﾁﾝ応接通訳、
ﾍﾟﾘｰ・ﾊﾘｽとの交渉通訳/1862遣欧使に随行/兵庫奉行支配組頭、津田仙・福地源一郎等の師、
「エゲレス語辞書和解」「和蘭密書御受取始末附米利幹渡来記」訳、
[多吉郎(;通称)の別通称/号]別通称;栄之助、 号;茶山/子錦
多吉郎(たきちろう・梶山) → *保友*(ほゆう/やすとも・梶山、商家/俳人) Ｅ３９７８
多吉郎(たきちろう・坪井屋/木村)→*巽斎*(そんさい・木村、商家/博物学)Ｅ２５８３
多吉郎(たきちろう・畠山/日野)→ *資施*(すけもち・日野ひの、旗本高家) Ｈ２３９１
N2688 **滝津**(たきつ・黒川くろかわ、盛隆もりたか男)1789-1849*61歳* 陸中盛岡の歌人:父門、
南部桜園と「春乃錦」共編、「柳園黒川滝津」著、南部信也(桜園)と交流、
[滝津(;名)の通称/号]通称;加内、 号;柳園、 法号;玄質義要居士
多橘(たきつ・潮田) → *万李*(ばんり・潮[塩]田しおだ/桑野、俳人)Ｉ３６６２
V2639 **滝人**(たきと/たきんど・井出いで/旧姓;篠原、)?-1892 信濃佐久郡の里正、歌人/俳人、万葉調長歌に長ず
V2622 **滝野**(たきの・跡見あとみ、重敬しげよし女)1840-1926*87歳* 摂津国西成郡木津村の生、書画を修学、
画;禎野楚山門/1856上京;漢学・詩文;宮原節庵門/円山派画;円山応立・中島来章門、
南宗派(文人派)画;日根対山門、1859大坂帰郷;父の私塾「跡見塾」を継承、京に私塾開設、
維新後;女子教育の重要性を認識/東京に私塾開設/1875東京中猿楽町に跡見女学校創設、
日本画家;1871外務省依頼;清国向け画帖(台北に現存;「故画;清花蹊女子冊頁」)、
書家;跡見流書風確立、万里小路通房女の李子を養女;跡見女学校二代目校長にする、
[滝野(;名)の号]木の花/**花蹊**かけい/西成/不言
滝の糸丈(たきのいとたけ) → 一九(2世いっく・十返舎、戯作者) Ｂ１１３７
E2615 **滝野勾当**(たきのこうとう、検校)?- ? 安土桃山期、浄瑠璃節付
滝之助(たきのすけ・滝野) → *知雄*(ともお・滝野たきの/物部、国学) Ｔ３１３１
滝之助(たきのすけ/ろうのすけ・川端)→ *玉章*(ぎょくしょう・川端かわばた、画家) Ｂ１６５４
滝之助(たきのすけ・りゅうのすけ・水野)→*秋彦*(あきひこ・水野みずの、藩士/神職/国学)Ｌ１０５６
多喜之助(多喜助たきのすけ・馬場)→*守信*(もりのぶ・馬場ばば、藩士/国学)Ｋ４４９４
E2613 **多紀皇女**(たきのひめみこ・天武天皇皇女)?-751 母;穴人臣大麻呂女櫛媛娘かじひめのいらつめ、
忍壁皇子おさかべのみこ・泊瀬部皇女はつせべのひめみこと同母、686斎宮、749一品、
志貴皇子の妃か?;万葉四669題詞、
万葉十二3098紀皇女と混同説あり

→ *紀皇女*(きのひめみこ、天武天皇皇女)　Ｂ１６６８
N2689 **瀧廼本千丈**(たきのもとちたけ、姓;江里川えりがわ、名;忠能ただよし)?-1843　幕臣;幕府御勘定所書役、
江戸麻布芋洗坂に住、国学;加藤千蔭門/書家;滝本流/狂歌;鹿都部真顔門、
のち四方側判者;京より宗匠号;台賜宗匠の称、1832「三都廼友会」34「俳諧歌世継百首」編、
1837「狂歌春の晩鐘」編、「俳諧歌」「俳諧歌再会百首」編、
[瀧廼本千丈(;号)の通称/別号]通称;助右衛門/勘解由、別号;台賜宗匠、法号;礼譲院
滝野屋(たきのや、屋号)　→　*門之助*(もんのすけ・初世市川～4世)Ｉ４４３７～Ｉ４４４０
滝の屋(たきのや)　→　*琵琶彦*(びわひこ・便々館、加藤保右、商人/狂歌)３７３１
滝廼舎(たきのや)　→　*実風*(さねかぜ・小原/物部、神職/国学)　Ｋ２０８０
N2690 **滝彦**(たきひこ:通称・竹田たけだ)?-　?　大阪竹本座の浄瑠璃作者:近松半二らと合作、
1757「昔男春日野小町」(近松半二らと合作)/58「敵討崇禅寺馬場」(小出雲らと合作)、
竹土丸(竹田出雲門)と合作に参加、「蛭小島武勇問答」著、
参考　→　*竹土丸*(たけつちまる、浄瑠璃作者)　Ｏ２６４７
滝兵衛(きべえ・米沢)　→　*千稲*(ちしね・米沢よねざわ、戸長/国学/歌)Ｎ２８８１
E2614 **当麻麻呂妻**(たぎまのまろのめ)?-　?　万葉二期歌43・511(重複):
692年持統天皇の伊勢行幸従駕の夫を思慕する歌;
[我が背子はいづく行くらむ沖つ藻の名張の山を今日か越ゆらむ](万葉集;一43)
当麻真人麻呂妻(たぎまのまひとまろのめ:684眞人姓)→　*当麻麻呂妻*(たぎまのまろのめ)Ｅ２６１４
滝麿(たきまろ・吉野屋)　→　*酒楽斎*(しゅらくさい・吉野屋、狂歌)　Ｊ２１１１
滝水(たきみず・四方)　→　*米人*(こめんど・酒月さかづきの、狂歌)　Ｄ１９９５
滝水楼(たきみずろう)　→　*米人*(こめんど・酒月さかづきの、狂歌)　Ｄ１９９５
滝本坊(たきもとぼう)　→　*昭乗*(しょうじょう・松花堂、社僧/書家/茶人)Ｔ２２３４
滝弥(たきや・藤井)　→　*重直*(しげなお・藤井ふじい、神職/国学)　Ｚ２１８３
駝牛(だぎゅう)　→　*可因*(かいん・大葦原/司馬、俳人)　Ｊ１５１７
惰漁(だぎょ・向井)　→　*元成*(げんせい・向井むかい、儒者/医/俳)　Ｅ１８２７
滝人(たきんど・井出)　→　*滝人*(たきと・井出いで/篠原、里正/歌/俳)Ｖ２６３９
I2666 **鐸**(たく・蔡さい、志多伯声亭したはくせいてい)1644-172481　琉球久米村出身の漢学者/三司官、
「歴代宝案」;清との往復文書集、詩;1690「観光堂遊草」著(順則じゅんそく「中山詩文集」に所収)、
1697「中山世譜」(朝秀「中山世鑑」漢訳版)編集の校正官、息;蔡温
E2616 **沢**(たく・河原かわはら)　?-　?　京の儒、歌・噺本作者、政治・語学・刀剣等多方面の著作、
1797噺本「胡盧百轉」、「和歌一得」「逸歌々集」「詩学要訣」「皇朝詩藪」「新刀折衷」外著多数、
[沢(;名)の字/号]字;君潤、号;橘枝堂きっしどう/九疑斎/九疑山人
N2691 **琢**(たく・児玉こだま)　1773 - 182957歳　筑前福岡藩士;免用方、
1810長崎御非番方石火矢台守衛、
1821藩命で青柳種信「続風土記」編纂に参加;28「諸郡并市中及土産考」を青柳氏に提出、
「安楽平古城考」「原田記」著、
[琢(;名)の字/通称]字;成器、通称;文吾/竹助
卓(たく・井沢/志富田)　→　*宜庵*(ぎあん・井沢いざわ、漢学/詩歌)　Ｊ１６５４
卓(たく・村上)　→　*玄水*(げんすい・村上むらかみ、藩士/蘭方医)Ｋ１８２８
卓(たく・河津)　→　*省庵*(せいあん・河津かわづ、蘭医/藩医)　Ｈ２４２９
琢(たく・玉楮)　→　*斯行*(これゆき・玉楮たまかじ、拳石/彫刻師)Ｒ１９０１
鐸(たく・鈴木)　→　*黄軒*(おうけん・鈴木すずき、藩士/武道)　Ｃ１４３８
鐸(たく・関)　→　*海南*(かいなん・関せき、医者/詩人)　Ｊ１５０２
鐸(たく・安田)　→　*放庵*(ほうあん・安田やすだ、儒者/詩人)　３９１２
濁(だく・石川)　→　*滄浪*(そうろう・石川いしかわ、儒者)　Ｄ２５２５
E2617 **託阿**(たくあ・詫阿たあ・託何たくが;法諱、俗姓;矢野)1285-135470歳　上総矢野の時宗僧:
相模無量光寺智得門、京七条の道場金光寺住、
1338越前河井荘往生寺で遊行7代を相続(他阿弥陀仏と改号)、時宗の教義を大成、
「器朴論」「光陰讃」「荘厳讃」「大利讃」「宝蓮讃」「蔡州和伝要」著、
「他阿弥陀仏同行用心大綱註」「条々行儀法則」著、歌・新後拾遺1465、連歌;菟7句入、

［つひに行く道いまはの時なれやひつじのあゆみ身にぞ近づく］(新後拾;雑1465、
摩耶経;屠所に近づく羊の歩み;死期の近づく意)、
［託阿/詫阿/詫何の号］　遊行7世/宿阿弥陀仏/他阿弥陀仏/廿日上人

Y2606 **卓阿**(たくあ;法諱、)　1758 － 1826*69*　遠江見附の時宗・省光寺住職、
国学・歌;石川依平よりひら門

卓阿(たくあ)　→　*洒入*(しゃにゅう・俳人)　Ｗ２１３４
託阿(たくあ・稟蓮社)　→　*法洲*(ほうじゅう:法諱、浄土僧)　Ｂ３９４６

E2618 **沢庵**(たくあん;道号・宗彭そうほう;法諱、秋庭綱典男)1573-1645*73歳*　但馬出石の臨済僧:春屋門、
一凍紹滴門、1609大徳寺153世、1629紫衣事件で羽前上山に流罪/31許され品川東海寺創、
詩歌:「謫居千首」「東海夜話」「玲瓏集」、「沢庵和尚詠草」「沢庵和尚歌集」「東海和歌集」、
「秋津洲」「石山紀行」「木曾路紀行」「帰西日記」「泉南寓居記」「太阿記」「東海道之記」、
「東関記」「蒙童記」「玲瓏随筆」「枕物語」「沢庵噺」「沢庵兵論」「沢庵夢百首」「沢庵千首」外著多、
［沢庵宗彭の初法諱/号］初諱;秀喜、
号;冥子/春翁/東海暮翁/十竹叟、旦過子/無名子/噴嚏子ふんていし/又玄/春雨庵/烏有

沢庵(宅庵たくあん・皆川)→　*良礎*(りょうそ・皆川みながわ、医者/俳人)　Ｉ４９６３
沢庵(たくあん・田中)　→　*有孚*(ありざね・田中たなか、藩医/歌人)　Ｈ１０８４
多宮(たぐう・猨山)　→　*竜池*(りゅうち・猨山さやま、書家)　Ｆ４９１８
多宮(たぐう・石野)　→　*寛氏*(ひろうじ・石野いしの、藩士/記録)　Ｂ３７８６

N2692 **卓盈**(たくえい;号、恒端こうたん;別号)?-?　江中期;下総葛飾の本山派修験僧、
1737「修験道初学辯談」著

N2693 **濯纓**(たくえい;法諱・号;正覚房)?-?　江後期;大阪の真宗本願寺派光宗寺住職;僧鎔門、
1809看護、「無量寿経講録」「文類聚鈔聞書」著

濯纓(たくえい・入江)　→　*樵風*(しょうふう・入江、製塩業/俳人)　Ｂ２２３７
濯纓堂(たくえいどう)　→　*纘明*(つぐあき・上田/宮崎、藩士/教育)　２９６５
濯纓堂主人(たくえいどうしゅじん)→　*佩川*(珮川はいせん・草場、儒者/詩画)Ｂ３６７０
沢益(たくえき)　→　*益*(おおし・沢さわ、歌人)　Ｂ１４８６
宅右衛門(たくえもん・吉岡)→　*鶴群*(たづむら・吉岡よしおか、藩士/国学)　Ｕ２６４６
琢雄(たくお・玉置)　→　*直磋*(なおあき・玉置たまおき、藩士/国学)　Ｎ３２８０
沢翁(たくおう・井口)　→　*機山*(きざん・井口いぐち/青山、儒者)　Ｋ１６６２
沢翁(たくおう・牧野)　→　*貞長*(さだなが・牧野まきの/源、藩主/日記)Ｊ２００７
託何(たくが;法諱)　→　*託阿*(たくあ;法諱、時宗僧/遊行7世)　Ｅ２６１７
託花園(たくかえん)　→　*東北斎飲居*(とうほくさいいんきょ、狂歌)　Ｃ３０５６
琢華堂(たくかどう)　→　*椿山*(ちんざん・椿つばき、幕臣/兵学/絵師)Ｋ２８７４
卓幹(たくかん・巨勢/中井)→　*卓軒*(たくけん・巨勢こせ/中井/巨、儒者)　Ｅ２６２０
卓巌(たくがん;字)　→　*準海*(じゅんかい;法諱、融通念仏僧)　Ｍ２１６１
宅旧(たくきゅう・水沢)　→　*宅旧*(いえふる・水沢みずさわ、神職/国学)　Ｋ１１６９
琢享(たくきょう;号)　→　*光海*(こうかい;法諱、真宗東本願寺16世)Ｈ１９８４

2787 **琢玉**(たくぎょく・姓不詳)　？ －　？　江前中期;江戸の儒者?/詩人、
1728(享保13)宝山企画「諏訪浄光寺八景詩歌」入(利根遠帆とねのえんぱん/歌は京極高門)、
［東関万里利根の流れ　地勢中分ちうぶんす常総州じやうそうしう、
無限の風光描けども尽きず　漁人ぎよじん帰り去る一帆の秋］
(八景詩/利根川は1621-54の改修で江戸への本流を常陸下総の間に流路変更)

琢玉斎(たくぎょくさい)　→　*鶴磯*(かくき・斎藤、儒者)　Ｈ１５２４
琢玉斎(たくぎょくさい)　→　*乗完*(のりさだ・松平、藩主/老中/儒)　Ｅ３５５５
琢卿(たくけい・朝倉)　→　*荊山*(けいざん・朝倉あさくら、儒者)　Ｆ１８７４
沢卿(たくけい・藤堂)　→　*高兌*(たかさわ・藤堂とうどう、藩主/教育)　Ｌ２６９３

E2620 **卓軒**(たくけん・巨勢こせ/中井、修姓;巨、巨瀬正純男)?-1701　京の儒者/詩;熊沢蕃山門、
幕府に出仕、1690「日本歴史略」「本朝歴史略評註」「本朝儒宗伝」、「本朝歌仙伝」「蕃山実録」、
［卓軒(;号)の名/字/別号］名;正徳/卓幹/直幹、　字;子英、　別号;彦仙

卓軒(たくけん・能勢)　→　*直陳*(なおのぶ・能勢のせ、藩士/儒者)　Ｃ３２０４
貞見(たくけん・大石)　→　*千引*(ちびき・大石おおいし、国学者)　２８１６

N2694 **澤彦**(たくげん;道号・宗恩そうおん;法諱)?-157　臨済僧/妙心寺学僧;泰秀宗韓門/諸国遍歴、美濃大宝寺住職/幼少時の信長の養育;以後信長に庇護された;「天下布武」を説く、信長の命により美濃井ノ口を「岐阜」(岐山と曲阜を合す)と命名/平手政秀の政秀寺開山

N2695 **卓玄**(たくげん;法諱・淳亮;字、俗姓;児玉)1633-1704*72* 鹿児島の真言僧;海蔵寺覚有門/1651受戒、両部灌頂;安養寺秀瑜門/大和長谷寺良誉門;無量寿院流を伝受、1684長谷寺能化13世、大伝法会を復活/将軍綱吉・桂昌院の寵遇;江戸城で講筵、「精談」「大疏百条第三重記」

N2696 **琢眼**(たくげん・勝山かつやま、名;仲起、琢舟男/本姓;安倍)1747-1824*78*　春日画所の絵師;父門、法眼、古画の模写が得意、1793「扇之記」画、
[琢眼(;号)の別号]　鶴峯子、　法号;勝南院
琢玄(たくげん)　→　*六枳*(ろくし、俳人)　５２８９
卓彦(たくげん・松木)　→　*卓彦*(つねひこ・松木、神職)　Ｄ２９３１
宅彦(たくげん・松木)　→　*宅彦*(いえひこ・松木、神職/歌/記録)　Ｅ１１９５

W2685 **栲子**(たくこ・工藤くどう、仙台藩儒医工藤球卿女)?-?　母;桑原如璋女、只野眞葛まくずの妹、越前侯の姫に出仕/出家;比丘尼;瑞祥院/**萩の尼**と称される、歌人
姉　→　*眞葛*(まくず・只野ただの、歌人/随筆)　４０６３

N2697 **卓五**(たくご・端山はやま)　？－ 1832　江後期美濃岐阜の代々医者/俳諧;五竹坊門、1770桂花園連を組織/師より文台を受、1782「跡のおもひ」編、
[卓五(;号)の通称/別号]通称;三仲、別号;乙々坊
宅広(たくこう・安達)　→　*清風*(せいふう・安達あだち、藩士/砲術家)　Ｅ２４４３
宅弘(たくこう・金子)　→　*宅弘*(いえひろ・金子、藩士/国学/歌)　Ｅ１１９８
沢江漁人(たくこうぎょじん)　→　*政之助*(まさのすけ・周布すふ、藩政改革)　Ｆ４０４８

N2698 **択斎**(たくさい・中村なかむら、名;忠貞)1776-1830*55* 越後新発田の儒者;1820郷校を創設;子弟教育、「詩経口義」著、丹羽思亭の師、
[択斎(;号)の字/通称]　字;子篤、通称;休五郎

N2699 **卓斎**(たくさい・小林こばやし、名;発、茂秀男)1831-1916*86*　京の滝口官人、書家:貫名海屋門、篆刻、1864近江八幡住/68帰京;開塾、1861「平安名家印譜」編、
[卓斎(;号)の字/通称/別号]字;公秀、通称;監物/卓蔵、別号;大観
琢斎(たくさい・野村)　→　*秋足*(あきたり・野村のむら、藩士/国学)　Ｄ１０５０
琢左衛門(たくざえもん・原)→　*鳳山*(ほうざん・原はら、藩士/兵学者)　Ｃ３９１０
沢山(たくさん・本多)　→　*忠脩*(ただひろ・本多ほんだ、藩主)　Ｑ２６７１

02600 **鐸山**(たくざん・木村きむら、名;荻)1779-1853　金沢藩士;1797家督;六組御歩/書家:市河米庵門、1822藩主前田斉広の墓誌を浄写、諸公子の書道教授、1846「鐸山臨時帖」書
[鐸山(;号)の通称/別号]通称;平六、別号;鋤雲じょうん
鐸山(たくざん・近藤)　→　*幸殖*(ゆきたね・近藤/平巌、藩老/詩文)　Ｅ４６８０

02601 **沢山人沢山**(たくさんじんたくさん・姓;石川)1801-67*67歳*　武蔵栗須村の狂歌:江戸本銀町住、蜀山人に私淑、「古調狂歌合」編、
[沢山人沢山(;号)の通称/別号]通称;嘉平次、別号;稲穂庵とうすいあん
宅嗣(たくし・石上)　→　*宅嗣*(やかつぐ・石上朝臣、大納言/詩歌人)４５０１
宅之(たくし・須田)　→　*無明*(むみょう;法諱・梅天;道号、臨済僧/歌)Ｄ４２０２
濁子(だくし)　→　*濁子*(じょくし・中川なかがわ、藩士/俳人)　Ｃ２２３３

E2621 **諾自**(だくじ)　？－　？　江中期俳人、1732「うぶ祝」編(男児誕生賀集)
琢七(たくしち・千頭)　→　*繁根*(しげね・千頭せんどう/菅原、藩士/歌)Ｐ２１２８

E2622 **沢瀉**(たくしゃ・東ひがし、名;正純、蕃蔵祐利男)1832-91*60* 周防岩国藩士/儒者;二宮錦水門、藩校修学、禅学/1854江戸で儒;佐藤一斎・大橋訥庵門/備中松山の山田方谷門/安藝の吉村秋陽門、1863藩校養老館助教/家塾でも教育;陽明学・致良知説/尊攘を主唱;容れられず1864辞職、剃髪隠居/1866尊王精義隊組織;周防柱島に流刑/維新後釈放、1870沢瀉塾;教育著述に専念、1864「風雅余響」/65「靖献遺言彫題」「翻瀾聴録」/66「証心録」「沢瀉随筆」「沢瀉文約」外多数、

［沢瀉（；号）の字/通称/別号］字；崇一、通称；崇一郎、
別号；白沙/迂怪うかい子/水月道人/鼇邱ごうきゅう主人/陳楼主人、法号；壮快居士、正堂の父
鐸舎（鐸屋たくしゃ→ぬでのや）→ *千楯*（ちたて・城戸・蛭子屋、書肆/国学）２８１３
02602 **卓洲**（たくしゅう：道号・故僊こせん：法諱、大道円鑑禅師、俗姓鈴木）1760-1833*74* 尾張海西郡津島の生、
1774（15歳）臨済宗総見寺の祥鳳禅瑞門・良哉門/諸師に参禅；峨山慈棹の嗣法、
1796総見寺住持/1813京妙心寺住持、総見寺の小院東林寺に隠棲、「卓洲和尚語録」著
沢舟（たくしゅう；法諱）　→　*大通*（だいつう；道号・沢舟、曹洞僧）　Ｋ２６６８
卓重（たくじゅうう・亀田）　→　*末雅*（すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職）Ｆ２３３５
02603 **琢所**（たくしょ・脇田わきた、名；貞基、信親男）1815-58*44歳* 初め医学、儒者；昌谷精渓・野田笛浦てきほ門、
備中松山藩儒/江戸藩邸学問所学頭、「草石楼詩塵」「業余惜陰録」「九経説園」著、
［琢所（；号）の幼名/字/通称］幼名；才佐、字；公固、通称；全三
02604 **択所**（たくしょ・石井いしい、名；文衷）?-1842　武蔵川越藩儒臣/儒；尾藤二洲門、
藩校博喩堂創設に尽力/藩校の学規を制定、「小学摘解」編、「五経訓式定本」著、
［択所（；号）の字/通称］字；子哲/子若、通称；良平
02605 **宅紹**（たくしょう・吉田よしだ、通称；儀右衛門、小幡景豊［吉田盛昭］男）?-? 広島藩甲州流兵法師範、
1766「築城準縄」、「軽卒矢玉隊口決秘書之書」「甲州流軍術小幡氏由緒書」著
琢性（たくしょう；号）　→　*光海*（こうかい；法諱、真宗東本願寺16世）Ｈ１９８４
02607 **琢成**（たくじょう：法諱・義舜ぎしゅん：字、号；温古堂）?-? 1844存　越後真宗大谷派の学匠/高倉学寮入、
1832寮司、1832「真宗仮名聖教関典録」「女人往生聞書壬辰記」/44「真宗仮名聖教御引文」著
02606 **卓丈**（たくじょう・大橋/石橋、名；和俊/和春/貞）?-1865/or63? 金沢藩の茶坊主/上京し俳人；梅室門、
同門の伊勢の十丈を継承、能書家、「栗柿集」「桐の実附合集」「梅暦集」「今人七部集」編、
「卓丈俳諧集」「十丈続筆記」著/1841「方円俳諧集」編/42「北野聖廟奉額」著、
［卓丈（；号）の別号］　十丈園/加茂川十丈/時雨庵/蘆花/半輪庵/青筵居
参照　→　*十丈*（じゅうじょう、俳人）　Ｘ２１５８
卓上人（たくしょうにん）　→　*行円*（ぎょうえん；法諱、天台僧/歌人）　Ｃ１６２５
琢治郎（たくじろう・宮沢）→　*因信*（よりのぶ・宮沢みやざわ/島地、藩士/国学）Ｐ４７４２
02608 **沢水**（たくすい：道号・長茂ちょうも：法諱）?-1740　越後の上杉謙信家臣/臨済僧：抜隊得勝に私淑、
亀庵珠光門；印可を受、江戸本所大往庵住/晩年；甲斐恵林寺住、1740「沢水仮名法語」著
E2624 **濁水**（だくすい）　？－　？　摂津伊丹?俳人、1702轍士「花見車」入
［みな（水無）月や昼の星見る空の色］（花見車；四176）
卓介（たくすけ・船曳）　→　*卓堂*（たくどう・船曳ふなびき、医者）　Ｈ２６７０
02609 **宅清**（たくせい・大橋おおはし）？－　？　江戸前期和算家：宮城清行門、1687「改算記綱目」豊次と共編
宅政（たくせい・堀）　→　*宅政*（いえまさ・堀ほり、藩士/武術家）　Ｋ１１６４
琢成（たくせい・辻葩）　→　*菅陽*（かんよう・辻葩つじはな、藩士/儒者）　Ｒ１５７３
託静（たくせい・託蓮社）　→　*隆円*（りゅうえん；法諱、浄土僧/伝記）　Ｄ４９０１
託静軒（たくせいけん）　→　*蘭台*（らんだい、誠心院従祐、僧/俳人）　Ｃ４８９２
E2625 **琢石**（たくせき・菅原、別号；流木堂）?-?　近江の俳人/京住、1691重徳「花見弁慶」、
1691江水「元禄百人一句」入
［成りぬらむ鮎の行方とほとゝぎす］（元禄百人一句；50）
02610 **卓善**（たくぜん：法諱）　？－　？　越後長岡の浄土宗栄涼寺僧、1767僧の帽子着用論、
1768「仏聴帽子」著
柁善（たくぜん・晒見さいみ?）→　*さん馬*（初世さんば・翁家おうなや、落語家）Ｅ２０６１
択善居（たくぜんきょ）　→　*元良*（元亮げんりょう・平野ひらの、医者）　Ｎ１８０７
択善斎（たくぜんさい）　→　*永隆*（ながたか・喜多山きたやま、国学/兵学）Ｌ３２８５
托善正蔵（沢善正蔵たくぜんじょうぞう）→*正蔵*（2代しょうぞう・林屋、僧侶/噺家）Ｋ２２６０
卓然堂（たくぜんどう）　→　*厚徳*（あつのり・林、歌人）　Ｂ１０３７
択善堂（たくぜんどう）　→　*黄牛*（こうぎゅう・松田まつだ、医者/儒者）　Ｇ１９５２
択善房（たくぜんぼう）　→　*僧朗*（そうろう；法諱、真宗本願寺派僧）　Ｊ２５２３
琢叟（たくそう・生駒）　→　*信億*（のぶのり・生駒いこま、歌人）　Ｈ３５２５
琢叟（たくそう・狩野）　→　*宗朴*（2代そうぼく・狩野かのう、茶人）　Ｋ２５８８

琢蔵(たくぞう・佐藤)　→　*松岡*(まつおか・佐藤さとう、郡吏/国学者)　Ｐ４０８８
卓蔵(たくぞう・小林)　→　*卓斎*(たくさい・小林こばやし、書家)　Ｎ２６９９
卓蔵(たくぞう・大屋)　→　*士由*(しゆう・大屋/沼倉、国学/俳人)　Ｇ２１７０
沢蔵軒宗益(たくぞうけんそうえき)→*宗益*(そうえき・赤沢あかざわ、武将/易占)　Ｇ２５２３

E2626 **卓袋**(たくたい・貝増かいます)1659-1706*48歳*　伊賀上野の紺糸かせいと商、俳人;蕉門、
芭蕉遺髪を愛染院に納める、1691猿蓑/98続猿入、94其角「枯尾花」1704去来ら「渡鳥集」入、
[塗り直す壁のしめりや軒の花](続猿蓑;下)
[卓袋(;号)の通称/別号]通称;市兵衛、別号;如是庵/如是軒

啄々園(たくたくえん)　→　*家義*(いえよし・慶徳けいとく/秦、歌人)　Ｋ１１２４
諾々斎(だくだくさい)　→　*純清*(すみきよ・村むら、文筆家)　Ｄ２３５７
卓太郎(たくたろう・戸田)　→　*氏徳*(うじのり・戸田とだ、幕臣/資料編纂)　Ｂ１２７２
卓太郎(たくたろう・松平)　→　*乗美*(のりよし・松平まつだいら、藩主)　Ｇ３５９３

E2627 **沢雉**(たくち・山内やまうち、通称;善四郎)?-1693　伊賀上野の俳人;蕉門、1691猿蓑・98続猿蓑入、
1695浪化「有磯海」入、「其蔓集」入
[振り落としゆくや広野の鹿の角](続猿蓑:下)

E2628 **卓池**(たくち・鶴田つるた、名;光貞)1768-1846*79*　三河岡崎満性寺町の紺屋業、
俳人;1748頃に暁台門、のち士朗門;1801士朗に従い江戸へ/道彦・成美と唱和、
帰郷後家業を養子光柄に譲渡、岡崎正風を鼓吹;天保四大人の1、俳画を嗜む、
1791「陸奥日記」98「橋日記」編、1810「浜名紀行」12「枇杷園句集後篇」18「たかむろ」編、
1824「弥生日記」27「燕岡集」29「蝉茸集」34「春岐曾免集」38「一鷺集」編、
1841「円満集」「暁台円満忌集」/44「松笛集」45「芭蕉追遠忌」「こぼれ炭集」外編著多数、
[春の雪ゆきの遠山見えて降る]、
追善集;7回忌「青々処句集」(塞馬編)、追善;「夕沢集」「雲明集」「西月夜」「幾あき集」など、
[卓池(;号)の通称/別号]通称;与三右衛門よそうえもん/与惣右衛門/与総右衛門、
別号;藍叟/青々処、柏声舎/青々卓池/燕岡庵えんこうあん

02611 **沢雉**(たくち・関せき)　1821-　1877*57歳*　上州利根郡川場村の人;36か村の名主大惣代、
剣術;直心影流免許皆伝、十手捕縛を預かる/俳諧;鶯斎門/書画、「教語笑草」、「遊日記」著、
[沢雉(;号)の通称]　丑蔵/助左衛門

沢雉(たくち・新田目あらため)→*道茂*(みちしげ・新田目/藤原/橋本、藩士/検地)Ｂ４１６２
沢雉道人(たくちどうじん)　→　*九皐*(きゅうこう・細井ほそい、書家/篆刻)　Ｃ１６００

02612 **卓中**(たくちゅう:法諱・立禅りゅうぜん;号)1764-1829　信州諏訪の浄土僧;1774(10歳)教念寺卓嶺門、
諸国行脚/戒律;芝増上寺玉釧門/沙弥戒;箕輪の立巌門、1827上京;尊超の命で曼荼羅講義、
1812「当麻曼荼羅捜玄疏採摘」、「法席録」、
[卓中の初法諱/通称]初法諱;卓道、通称;曼荼羅和上まんだらわじょう

卓澄(たくちょう・隠岐)　→　*米史*(べいし・隠岐おき、俳人)　２７４７

02613 **琢典**(たくてん:法諱・号;教導/教道)?-1674　紀伊梶取の浄土宗西山派西谷流の総持寺25世、
1664「選択集義解」65「阿弥陀経疏鈔管解」、「統要集」著

02614 **啄同**(たくどう:道号・玄機げんき:法諱、初法諱;玄哲)1768-1837*70*　豊後臨済僧:吉祥寺洞辰門;出家、
鎌倉円覚寺誠拙周樗門/讃岐常徳寺九峰主拙門;嗣法、1792常徳寺住持、「啄洞禅師遺稿」

02615 **卓堂**(たくどう・貫洞ぬきどう、名;長仲)1793-1857*65*　陸中下閉伊郡山田村の俳人;江戸で卓朗門;高弟、
遠野芳形に大梅の句碑を卓朗と建立、「なりはじめ」「日々庵宗匠旅路之記」編、
[卓堂(;号)の通称/別号]通称;後藤兵衛/五斗米ごとべえ、別号;有年庵/方寸庵

02616 **卓堂**(たくどう・木村きむら/本姓;源、名;章)1809-65*57*　薩摩の儒者:1828大塩平八郎/亀田綾瀬門、
信濃で経史を教授/1844上州原町で私塾開、書画/茶/武術に通ず、「門人姓名録」、
[卓堂(;号)の字/通称/別号]字;成卿、通称;文六、別号;象水しょうすい/徽外きがい

H2670 **卓堂**(たくどう・船曳ふなびき、名;修、子錦しきん男)?-?　幕末明治期京の医者;父門/水原三折門、
蘭学;洪庵適々斎塾で修学、1850蘭人プレンキ著「婦人病論」訳(;日本初婦人科書刊行)、
京御幸二条南で西洋科医開業/維新;明治天皇侍医、1855「七子遺稿」編、「窒篤満外科書」、
[卓堂の字/通称/別号]字;徳夫、通称;卓介、別号;長春園

卓堂(たくどう・岸)　→　*岱*(たい・岸きし、岸岱、岸駒男/絵師)　２６００

卓堂(たくどう;初法諱)　→　*卓中*(たくちゅう:法諱・立禅りゅうぜん;号、浄土僧)Ｏ２６１２
卓道(たくどう;名)　→　*了清*(りょうせい;法諱・中川、真言僧/歌)Ｍ４９４１
宅道(たくどう・岩井)　→　*宅道*(やかみち・岩井いわい、神職/皇学)　Ｆ４５３５
沢道(たくどう:号・俊山)　→　*俊山*(しゅんざん;法諱・沢道、浄土西山派僧)Ｋ２１７９
琢堂(たくどう・姫井)　→　*栗谷*(りっこく・姫井ひめい/成田、藩儒)　Ｂ４９８０
E2623 **琢如**(たくにょ:号・光瑛:法諱)?-　?　東本願寺14世/俳人、1672季吟「季吟十会集」入
栲の索綯(たくのなわない)　→　*佩川*(はいせん・草場くさば、儒者/詩/画)　Ｂ３６７０
鐸屋(たくのや/すずのや)　→　*春庭*(はるにわ・本居、国学/歌人)　３６３３
沢父(たくふ・鈴木)　→　*尋思斎*(じんしさい・鈴木すずき、儒者)　Ｏ２２６９
宅平(たくへい・久間)　→　*修文*(ひさふみ・久間くま、和算家)　Ｂ３７８９
宅平(たくへい・三品)　→　*崇*(たかし・三品みしな/高橋、儒者/文教)　Ｗ２６９１
啄峰(たくほう;号)　→　*成実*(じょうじつ;法諱・空外、真言僧)　Ｊ２２４６
啄木庵(初世たくぼくあん・初世茂蘭)→　*日従*(にちじゅう、下総日蓮僧/俳人)Ｃ３３２０
啄木庵(2世たくぼくあん・2世茂蘭)→　*既酔*(きすい;号・寛海;法諱、真言僧/俳人)Ｂ１６３１
卓馬(たくま・柘植)　→　*葛城*(かつじょう・柘植つげ、医者/詩人)　Ｎ１５４５
琢磨(たくま・秋山)　→　*知守*(ともも り・秋山あきやま、神道家)　Ｔ３１９７
琢磨(たくま・森脇)　→　*惟久*(これひさ・森脇/吉川、惟良養子/神道/歌)Ｒ１９２３
託麻僧正(たくまそうじょう)　→　*公朝*(こうちょう;法諱、天台僧/歌人)　Ｂ１９７３
宅麻呂(宅満たくまろ・雪)→　*宅麻呂*(やかまろ・雪連ゆきのむらじ、遣新羅使人/万葉歌人)４５１９
02617 **内匠**(たくみ、木工蔵人もくのくらひと)?-?　平安前期醍醐天皇時代の女蔵人:960/2内裏歌合参、白馬節会で禁制の深紅の出衣を検非違使源中正に咎められ返歌し難を逃れる;新古1745、[大空に照る日の色をいさめても天あめのしたにはたれか住むべき](新古今集;十八1745)
内匠(たくみ・檜垣)　→　*貞盈*(さだみつ・檜垣ひがき/度会、神職)　Ｊ２０８１
内匠(たくみ・土岐)　→　*頼稔*(よりとし・土岐とき、藩主/歌人)　Ｊ４７２０
内匠(たくみ・堀田)　→　*正高*(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家)　Ｄ４０１８
内匠(たくみ・沢崎/朝倉)→　*景実*(かげざね・朝倉あさくら、兵法家)　Ｋ１５８８
内匠(たくみ・南部)　→　*通信*(みちのぶ・南部なんぶ、藩主/歌人)　Ｋ４１０１
内匠(たくみ・八羽)　→　*光尚*(みつひさ・八羽はつば/はちは、和学者)　Ｋ４１１０
内匠(たくみ・八羽)　→　*光当*(みつまさ・八羽/太田、光尚の養子/神道)Ｋ４１１１
内匠(たくみ・山口)　→　*直清*(なおきよ・山口やまぐち/伊達、旗本/国学)Ｐ３２１６
内匠(たくみ・成瀬)　→　*当栄*(まさひで・成瀬なるせ、藩士/記録)　Ｇ４０６５
内匠(たくみ・溝口)　→　*林卿*(りんけい・溝口みぞぐち、大工棟梁)　Ｋ４９０９
内匠(たくみ・安藤)　→　*為実*(ためざね・安藤、国学/歌人)　Ｇ２６８６
内匠(たくみ・井上)　→　*利恭*(としやす・井上いのうえ、幕臣/日記)　Ｎ３１９９
内匠(たくみ・河合)　→　*祐之*(すけゆき・河合かわい、藩士/記録)　Ｈ２３２４
内匠(たくみ・水野)　→　*忠一*(ただかず・道一・水野みずの/源、幕臣)Ｕ２６９４
内匠(たくみ・田中)　→　*定格*(さだただ・田中たなか、幕臣/国学者)　Ｏ２０７９
内匠(たくみ・矢田部)　→　*弘岡*(ひろおか・矢田部やたべ、神職/国学)　Ｉ３７３６
内匠(たくみ・小笠原)　→　*長勝*(ながかつ・小笠原おがさわ/源、藩主/連歌)Ｄ３２４５
内匠(たくみ・藤田)　→　*長孟*(ながたか・藤田ふじた、国学者)　Ｏ３２５９
内匠(たくみ・橋本)　→　*本資*(もとつぐ・橋本はしもと、神職/歌人)　Ｋ４４９７
内匠(たくみ・林)　→　*吉勝*(よしかつ・林はやし、国学者)　Ｏ４７５９
内匠(たくみ・三吉)　→　*周亮*(しゅうすけ・三吉/益田、藩士/砲術)Ｘ２１７８
内匠(たくみ・矢田部)　→　*弘佳*(ひろよし・矢田部やたべ、国学/神職)　Ｍ３７１０
多久美(工たくみ・置初おきそめ)→　*小鯛王*(おだいのおおきみ、万葉歌人)　１４３６
内匠頭(たくみのかみ・交野/西洞院)→　*時久*(ときひさ・交野かたの、廷臣)　Ｊ３１８４
内匠頭(たくみのかみ・稲葉)→　*正往*(まさゆき・稲葉いなば、藩主/老中/茶)Ｎ４０７３
内匠頭(たくみのかみ・安藤)→　*定為*(さだため・安藤あんどう、歌人)　Ｉ２０４９
内匠頭(たくみのかみ・建部)→　*政醇*(まさあつ・建部たけべ、藩主/国学者)　Ｂ４０１７
内匠頭(たくみのかみ・小笠原)→*長勝*(ながかつ・小笠原おがさわ/源、藩主/連歌)Ｄ３２４５

内匠頭(たくみのかみ・松平)→　*乗輿*(のりおき・松平まつだいら、幕臣/和学)　Ｋ３５０４
内匠正(たくみのしょう・児玉)→　*卜胤*(ぼくいん・児玉こだま、神職/俳人)　Ｃ３９８９
内匠助(たくみのすけ・木下)→　*俊清*(としきよ・木下きのした/豊臣、旗本/歌)Ｔ３１７１
内匠助(たくみのすけ・新庄)→　*直政*(なおまさ・新庄しんじょう、幕臣/国学)　Ｎ３２４１

E2629 **内匠はしら**(たくみのはしら)　？－　？　狂歌;四方連、1785「後万載集」8首/87「才蔵集」入、
[もゝとせになりても人は松の下くゞるときはのみどり心ぞ](後万載;16)

沢民(たくみん・鈴木)　→　*石橋*(せっきょう・鈴木、儒家/教育者)　Ｅ２４１４
琢鳴(たくめい・礒村)　→　*吉徳*(よしのり・礒村いそむら、和算家/藩士)Ｆ４７７９

02618 **沢来**(たくらい)　？－　？　江戸俳人、1773馬卯「双猨路談そうえんろだん」入(;3世湖十中心)、
[郭公ほととぎす一寸をき立つ夜明かな](双猨路談)

沢雷酔士(たくらいすいし)　→　*随斎*(ずいさい・塩田、藩士/儒者/詩)　２３５９

E2630 **多倉太伊助**(たくらだいすけ、本名不祥)?-?　桜田治助をもじる、噺本作者、1777「春ぶくろ」著

E2631 **託竜**(たくりゅう:法諱・性雲しょううん:字)1728-61*34*　江中期周防徳山の浄土僧;八正寺騰誉門、
1745江戸増上寺随典門、諸国歴遊/菩薩戒八斎戒;尾張興正寺妙竜門/帰郷;八正寺住、
江戸築地住;念仏布教/三昧境に至る、1761元敞げんしょう「励声念佛感応編」に行業往生伝あり
法名;玉蓮社淵誉

籜竜書屋(たくりゅうしょおく)→　*俊章*(としあき・松木まつき/大神、神職/国学)Ｗ３１０７

02619 **沢良**(たくりょう:法諱・教雲きょううん:字)?-1612　浄土宗西山派西谷流僧:「阿弥陀経伝意抄」、
「選択本本願念仏集伝意鈔」「無量寿経伝意鈔」「観経四帖疏伝意鈔」著

02620 **宅亮**(たくりょう:法諱・信阿しんあ:字)?-?　江中期山城の浄土僧:1762古知谷阿弥陀寺10世、
1767「弾誓上人絵詞伝」編(;阿弥陀寺開山弾誓150回忌記念)、68「厭求上人行状記」補訂

沢了(たくりょう:号)　→　*明空*(みょうくう;法諱・浄土西山派僧)　Ｇ４１３３
たぐる(・車井)　→　*車井たぐる*(くるまいたぐる、江戸狂歌)　Ｂ１７７８
託蓮社調誉(たくれんしゃちょうよ)→　*隆円*(りゅうえん;法諱、浄土僧/伝記)Ｄ４９０１
卓路(たくろ・山本)　→　*友左坊*(ゆうさぼう・山本やまもと、俳人)　Ｂ４６８４

E2632 **卓朗**(たくろう・小森/正阿弥、小森正兵衛男)1798-1866*69*　伊豆三島の俳人:大梅門、江戸両国住、
1832「あとふき集」37「こまかた集」47「大梅居家集」48「笠時計」編、「大梅居士文集」編、
「俳諧道の杖」「発句題林抄」著、追善集「夏書げがきはじめ」、
[露墨や夜更て晴る筑波山]、
[卓郎(;号)の通称/別号]通称;久助、別号;孤山/孤山堂/孤山人、卓堂の師

たけ(・金井)　→　*多計子*(たけこ・金井かない/桑原、植林)　Ｗ２６５５

02621 **武明**(たけあき・大原おおはら、初名;延清、武清たけきよ男)1639-?　越前福井の儒者;1654林羅山門、
1688常陸笠間藩主本庄宗資の家臣、1670「源秀康卿行状並系譜」父と共編、
[武明(;名)の通称/号]通称;喜左衛門、号;道学

E2633 **建顕**(たけあき・田村たむら、宗良男/本姓;坂上)1656-1708*53*　陸奥岩沼藩主;1678襲封、伊達政宗の孫、
従五下/右京大夫、1682陸奥一関に移封、91江戸城奥詰/92江戸城奏者番;建顕たけあきに改名、
1701刃傷事件の浅野長矩を江戸屋敷に預る(;長矩は即日切腹)、武家故実に精通、因幡守、
歌人;日野弘資・中院通茂門、歌書の書写・収集、1708(宝永5)没、1691[若むらさき]6首入、
茂睡「鳥の跡」入、「田村宗永詠百首」「詠五十首」「宗永聞書」「田村右京大夫宗永点取和歌」、
1697「津山道の記」99「続詠十首和歌」、「野坂問答」著、
1701「田村家深川(下屋敷)別業和歌」催、
[さえかへり霞もはてぬ月影にひとり春なる野辺の梅が枝](若むらさき;509/余寒返る)、
[行きかへり雪ふみ分けし跡なれや一すぢもゆる野べの若草](茂睡[鳥の迹]春9)
[建顕(;名)の幼名/初名/通称/法号]幼名;千勝、初名;**宗永**むねなが、通称;内膳/修理しゅり、
法号;徳源院乾峰自明、

2714 **孟明**(たけあき・山田やまだ/一字姓;田、通称;周蔵)1730-69*40*　京綾小路西洞院西へ入町の儒者、
詩人、本居宣長(1730-1801)と交流;[在京日記]入

X2609 **武揚**(たけあき・高良こうら、)1820-1888*69*　薩摩川辺の国学者;平田鉄胤門、
[武揚(;名)の初名/通称]初名;甕和、通称;長門守

Z2687 **武昭**(たけあき・村井むらい/本姓;秦、通称;忠三郎)1831-8757　伊勢度会郡の国学者;橋村正克門

02622 **武明**(たけあき・伊東いとう、旧姓;鈴木)1834-67暗殺34歳　伊東家を嗣/常陸志筑本堂家の家臣、
国学、歌、剣術、新撰組に入/脱退;大久保利通と共感/勤王派;戸田忠至下の山稜衛士頭、
1867「長州再征解兵建白書」、「残し置く言の葉草」著、1867.11.18暗殺された、
[武明(;名)の通称/号]通称;甲子太郎/大蔵、 号;東山/摂津

02623 **武揚**(たけあき・榎本、円兵衛男/本姓;源)1836-190873　江戸下谷の幕臣;昌兵鑾・海軍伝習所修学、
1862-66ｵﾗﾝﾀﾞ留学/帰国後海軍副総裁、維新の時軍艦接収を拒否;蝦夷島政府樹立;降伏、
赦免後;海軍中将兼特命全権公使として日露樺太千島高官条約調印、
詩文/書に長ず、1864「装鉄船紀略」訳
[武揚(;名)の通称/号]通称;釜次郎/鎌二郎、 号;梁川/柳川

02624 **武昭**(たけあき・高瀬たかせ、遊山[1748-1834]の一族)?-?　江後期肥後熊本の文筆家、
高瀬遊山の口述「肥後落穂集(細川重賢の逸話)」筆記/編、「銀台拾遺」
武明(たけあき・飛田)　→　*逸民*(いつみん・飛田とびた、儒者)　Ｈ１１９６
武明(たけあき・平瀬)　→　*一鷗*(いちおう・平瀬ひらせ、藩士/茶人)　Ｋ１１５９
武章(たけあき・今成)　→　*慮呂*(廬呂りょろ・今成、商家/俳人)　Ｊ４９８３

U2648 **武聰**(たけあきら・松平まつだいら、水戸藩主徳川斉昭10男)1842-8241　母;直(山野辺義質女)、
徳川慶喜の異母弟、1847(弘化4)石見浜田藩主松平武成の養嗣;越智松平家;武聰と改名、
浜田藩第4代藩主/藩財政再建に尽力;1853倹約令;不正取締・高津川治水工事、
河鰭監物を登用;石見半紙・養蚕業などの殖産興業化、1854(安政元)従四下侍従/右近将監、
1866第2次長州征伐に参加;藩軍敗退;大村益次郎率いる長州軍が浜田領へ侵攻;
浜田城に火を放ち出雲杵築から松江へ逃亡、1867飛地である美作鶴田に逃れ鶴田藩主、
新政府下で武聰は謹慎を示すが罹病し上京出来ず恭順の証明として家老など4名の切腹、
やっと鶴田藩は加増され存続、正室;寿子(堀田正睦女)/1873隠居;長男武修が家督嗣、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[をし鳥の夢ははかなくさめし夜にむすび初むるは氷なりけり]、
(大江戸倭歌;冬1154/のちの運命を暗示するような歌)、
[武聰(;名)の幼名/別名/法号]幼名;十郎麿、 初名;昭音あきなり、 法号;高徳院
孟卿(たけあきら・近藤)　→　*孟卿*(たかあきら・近藤/藤原、幕臣、歌人)Ｃ２６４７

02625 **孟敦**(たけあつ・喜多川きたがわ/福田/松原)1839-9557歳　加賀大野の和算家、金沢の福田家継嗣、
1867松原一太郎の養子、70加賀藩吏;測量に従事、1862「算法礎」著、「約術雑解」編、
[孟敦(;名)の別名/通称/屋号]別名;一記、 通称;勇松/五郎右衛門、 屋号;根布屋

02626 **武氏**(たけうじ・安部井あべい)?-　?　寛政1789-1801頃会津藩士/和学;関場安行門、
会津藩日新館の和学師範、歌:安田亨意こうい門、
1772「磐梯いわはし和歌集」、1800「莢園集」、亨意「後楽集」編、「角觝草」「水月集」「難忘集」著、
「道辺清水」「猪苗代道の記」「小倉天耳波」「垂竹余言」「関山日記」著、
[武氏(;名)の通称/号]通称;又蔵、 号;水月堂/莢園ていえん
竹内殿(たけうちどの)　→　*覚恕*(かくじょ;法諱、天台僧/歌/連歌)　Ｂ１５５６
武内宿禰(たけうちのすくね)　→　*武内宿禰*(たけのうちのすくね)　Ｅ２６４７
竹内僧正(たけうちのそうじょう)→　*良鎮*(りょうちん;法諱、天台門跡/歌人)Ｉ４９９４
竹内法印(たけうちのほういん)→　*俊誉*(しゅんよ;法諱、真言僧/歌人)　Ｋ２１５６
竹右衛門(たけえもん・岡田)→　*元次*(もとつぐ・岡田おかだ、武将/記録)　Ｂ４４４７
丈右衛門(たけえもん・榊原)→　*日影土竜*(ひかげのもぐら、狂歌)　３７４４
丈右衛門(たけえもん・稲毛)→　*南風*(なんぷう・稲毛いなげ、俳人)　Ｊ３２３８
丈右衛門(たけえもん・金屋/物集)→*高世*(たかよ・物集もずめ、国学者/歌学)Ｅ２６０３
丈右衛門(たけえもん・澤川)→　*弘有*(ひろあり・澤川みおがわ、国学者)　Ｌ３７３７
丈右衛門(たけえもん・安川)→　*行知*(ゆきとも・安川やすかわ、藩船手/国学)Ｈ４６４１

V2634 **武雄**(たけお・五十嵐いがらし、)1603-168583　近江彦根藩士、
若くして上京;大友景方、画を嗜む/のち京住/歌;冷泉為村門、歌と書を能くす、
[武雄(;名)の通称/号]通称;伝六、 号;歌友

02627 **健雄**(たけお・竹内たけうち、通称;孫市/厳稲)?-?　江後期;江戸駿河台の幕臣(御家人)、

国学:平田篤胤(1776-1843)門、吉田家学士/学頭、
1820「古道学辨書」21「神童憑談略記」66「神代紀伝」著

X2676 **武雄**(たけお・関せき、旧姓;樋口)1780-1839*60* 遠江敷知郡連尺れんじゃく町の商家伊勢屋:樋口家の2男、
樋口家は国学者高林方朗の縁戚/1813(文化10)豊田郡掛塚の貴船神社祠官関家の養子、
神道/国学;江戸の平田篤胤門、貴船神社祠官継嗣、1814境内に国学塾[千楯せんじゅん社]開設、
1816国の大祓催す、異国船排除の祈祷、1836(天保7)篤胤の「大扶桑国考」の校正に参加、
[武雄(;名)の通称] 林次郎/**大和**やまと

02628 **建雄**(たけお・浜野はまの)1790 - 1859*70歳* 伊豆賀茂郡和田村の網元、
国学:竹村茂雄・前田夏蔭門、1849?「伊東誌」著、
[建雄(;名)の通称/号]通称;重左衛門/十左衛門、号;月斎/台平

02629 **武雄**(たけお・丸山まるやま、初名;辰政ときまさ、巨宰司こさいじ[小才治]男)?-1859 信州須坂藩士;国家老、
藩の殖産振興/財政再建に尽力したが善光寺大地震などで逼迫;家老職致仕、
歌;1828香川景樹門、茶/香道/作陶を嗜む、「三峰紀聞」「歌林玉屑」「桂園余材」「未茶談」著、
[武雄(;名)の字/通称/号]字;有恒、通称;舎人、
号;三峰/ひゝらぎの舎[比々良木の屋]/杜谷舎/杜谷堂/みのむし庵

U2684 **丈雄**(たけお・太田おおた) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[三日月のほのみし人をたそかれのおぼつかなくも恋ひわたるかな]、
(大江戸倭歌;恋1626)

M2665 **武雄**(たけお・荒木田あらきだ/家名;榎倉えのくら))?-? 江後期伊勢神宮の神職、
歌人;冷泉為恭ためちか[1823-64]門、「雅懐帖」「狂歌五十人一首」編

V2628 **孟雄**(たけお・天津あまつ/旧姓;竹崎)1797-1853*57* 石見邑智郡中野村の賀茂神社の神職、
神道・国学;出雲の千家俊信としざね門、歌文に長ず/弁がたち各地神社で講演、
[孟雄(;名)の初名/通称]初名;常磐/通称;遠江

X2619 **武雄**(たけお・桜井けさくらい、)1814-1869*56* 周防徳山藩士、儒学;春日潜庵門/国学・歌;松田直兄門、
国学者/1851(嘉永4)藩校鳴鳳館助教授/54興譲館(鳴鳳館を改称)教授役取計、
小川官介の兄、藩士佐々木敏雄の師、
[武雄(;名)の字/通称/号]字;子洗、通称;市之助/儂右衛門けんえもん、号;魁園かいえん/秋園

V2600 **武雄**(たけお・足助あすけ/小槻/辻)1828-1900*73* 京の僧;近江栗太郡大宝社別当神応院社僧、
;禅覚名/法橋、還俗;足助武雄を名乗る;大宝社社司(神主)となる、子弟教育、
歌;太田垣蓮月門、神道;白川資訓すけのり・平田鉄胤門、
[武雄(;名)の別名/字/通称/号]別名;光俊、字;君成、通称;梅太郎、号;紅樹庵/楓崖、
法名;禅覚

Y2669 **武雄**(たけお・長尾ながお/本姓;平)1837-1864早世*28* 京の綿商の生/国学者;大国隆正門、
江戸の平田銕胤門、帰京後;勤王派;志士;1863同志と等持院の足利三代木造梟首事件、
密告により捕縛;六角獄舎入牢/1864蛤御門変に伴う獄舎延焼時に幕府役人により斬首、
[梓弓とる身ならねどますらをがひきはかへさじ大和魂](長尾郁三郎石碑歌)
[武雄(;名)の通称/屋号]通称;**郁三郎**、屋号;綿屋

X2624 **武雄**(たけお・佐藤さとう、号;錦霞、旧姓;山口)1846-1915*70* 豊前宇佐郡日足村の里正、
国学・歌;物集高世・海上胤平門

Y2690 **武雄**(たけお・野中のなか、)1848-1902*55* 越中富山の国学者;平田延胤門、神道家、
雅楽;林広継門、加賀の気多神社権宮司、尾張熱田神宮禰宜、権大講義、
教育者;富山・奈良・滋賀の師範学校で音楽・国学を教授

丈雄(たけお・竹田) → *佳孝*(よしたか・竹田たけだ、歌人) Ｎ４７８０
毅夫(たけお・土井) → *篤敬*(とくけい・土井、医者) Ｋ３１６１
武夫(たけお・北畠) → *治房*(はるふさ・北畠、勤王家) Ｇ３６７９
武雄(たけお・鈴木) → *高鞆*(たかとも・鈴木、神職/国学) Ｄ２６２６
武雄(たけお・吉村) → *春樹*(はるき・吉村よしむら、国学/歌人) Ｋ３６９７
建雄(武雄たけお・土岐) → *周輔*(しゅうすけ・土岐/大館・建部/源、僧/国学)Ｘ２１７５

健雄(たけお・飯島/佐久良)→ *東雄*(あずまお・飯島/佐久良さくら/桜、国学/歌)１０５０
竹男(たけお・南;変名) → *任重*(ただしげ・加藤かとう、藩士/勤王家) Ｂ２６７２
武興(たけおき・菊池) → *武朝*(たけとも・菊池きくち、武将/守護) Ｏ２６５３

U2668 **武臣**(たけおみ・一尾いちお/本姓;源)?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[鎌倉のみなせの川に立つ霧のむさしく秋は暮れにけるかな](大江戸倭歌;秋1032)

U2699 **健臣**(たけおみ・安部あべ、惟貞2男)1830-69*40* 長門萩藩士/国学;父門、藩校明倫館国学助教、
[健臣(;名)の別名/通称]別名;泰貞、通称;岩次郎/兵介

02630 **武香**(たけか・根岸ねぎし、別名;信香、信輔[友山]男)1839-1902*64* 武州吉見村胄山の国学者:
平田銕胤・安藤野雁門/儒;寺門静軒門/剣道;千葉周作門、維新頃父と国事奔走、
のち神道国教化を主張、考古学研究家、
1865「万葉新考上木費用記帳」「皇国古印譜」「皇朝泉貨志」著、
[武香(;名)の幼名/通称/号]幼名;新吉、通称;伴七、号;椹園かやぞの

献臣(たけおみ・栗山) → *孝庵*(2世こうあん・栗山くりやま、医者/解剖)Ｈ１９２２
竹垣内(たけがいち) → *重伴*(しげとも・尾古おこ/鈴木、神職/国学)Ｎ２１６９

02631 **武員**(たけかず・門司もじ、能秀よしひで男/本姓藤原)?-? 室町期武将;大内政弘家臣/下総守、
父と同様連歌を愛好;1489宗祇と殿中連歌(執筆)、新菟2句入

02699 **武員**(たけかず・内藤ないとう/本姓藤原)?-? 廷臣;右衛門尉、狂歌;1666行風「古今夷曲集」入、
[近江鮒あふみぶな宇治丸あゆの鮨すしもあれど押されぬ味は鰆さわらなりけり](古今夷曲集;八)、
(鰆の鮨を貰った返事/宇治丸は宇治川産の鰻鮨)

02632 **武員**(たけかず・清原きよはら、初名;興武、通称;神足)1723-72*50* 廷臣;史生/1768大蔵大属/従六下、
1768「東宮御元服記」著

Y2650 **武和**(たけかず・中井なかい、源左衛門男)?-1861 近江日野の商家;中井源左衛門家、のち京に住、
1815(文化12)瀬田の唐橋再建に私財千両・架替費に2千両幕府に寄付、
歌人;浜崎景斎・蓮月尼(1791-1875)門、小沢芦庵門、能書家;和様の書:蓮月尼風、
[武和(;名)の通称]正治右衛門/源左衛門

02633 **武賢**(たけかた・鳴見なるみ/鳴海、通称;平蔵(;代々)、重賢男)?-? 江中期/銭座の鳴見平蔵8代目、
「銭座鳴見平蔵書上」著

武賢(たけかた・菊池) → *黄山*(こうざん・菊池きくち/増田、儒者) Ｊ１９２１

2788 **武勝**(たけかつ・下毛野しもつけ、)?- ? 鎌倉期廷臣官人;近衛府御鷹飼の番長、
正応-嘉元(1288-1306)頃活動/近衛家基の随身、
徒然草66段;岡本関白近衛家平(家基男)の紅梅の枝の雉番えの話;
家平の命に背き花の無い枝に雉一羽付けて差出す;武勝の鳥柴の故実論、
徒然草145段の秦重躬と同時代の官人

02634 **武勝**(たけかつ・三井みつい、通称;郡右衛門、武政男)?-? 1731存 母;藩医依田貞庵女、信州中山村の生、
父は中山竹淵村役所諏訪頼尚家の家老、歌人:主君頼尚門/武者小路実陰門、「更級紀行」著

Y2655 **威克**(たけかつ・中田なかた、) ? - 1864 紀伊田辺藩士、国学;能代繁里門、
[威克(;名)の通称/号]通称;万寿助/源左衛門、号;里杏

2734 **武樹**(たけき・若槻わかつき、)1825-1901*77* 駿河庵原郡中之郷村の里正(名主)/酒造業、
国学者、維新後;植林や富士川沿岸新田開発・小学校設立に尽力、
1889(明治22)富士川村初代村長

彪(たけき・藤田) → *東湖*(とうこ・藤田、儒者/藩士/尊攘論)３１０８
武樹(たけき・菊池) → *東水*(とうすい・菊池、馬医) Ｆ３１８２

E2634 **武清**(たけきよ・大原おおはら、通称;市兵衛)?-? 越前福井の儒者;林羅山門、武明たけあき(儒者)の父、
1657-73頃福井藩本多家の儒臣、実録物作者、1653「四書引蒙略図解」65「新撰豊臣実録」著、
1670「源秀康卿行状並系譜」息武明と共編、「越前朝倉後城主覚書」著

X2616 **武清**(たけきよ・佐草さぐさ、文清ふみきよ男)1843-? 出雲出雲郡の神職/国学;平田鉄胤門、
父は杵築大社きづきたいしゃ(出雲大社)上官、
[武清(;名)の通称]通称;梅之丞

武清(たけきよ・荒木田/榎倉)→*武清*(ぶせい・榎倉えのくら/荒木田、俳人)Ｃ３８８８

E2635 **武珍**(武弥たけくに・荒木田あらきだ)?-? 江前期伊勢外宮神官、俳人、
1659如之じょし「伊勢正直集」に協力、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[野鼠やそれもまぎるゝ片鶉かたうづら](手鑑/片鶉;雌雄離れている鶉)

W2644 **武国**(たけくに・風間かざま)1757-1804*48* 近江彦根藩士、歌人;彦根藩士石尾洋方ひろかた門、
歌;[彦根歌人伝/続寿]入
[武国(;名)の字/通称/号]字;友山、通称;武太夫、号;竹林堂

2736 **武邦**(たけくに・亘理わたり/本姓;藤原、)1773-1832*60* 近江彦根藩士、歌人:[彦根歌人伝・鶴]入、
[武邦(;名)の別名/通称]別名;昌風、通称;茂助

武邦(たけくに・藤原左近)→ *角行*(かくぎょう・長谷川、修験行者) Ｊ１５６８

武隈庵(たけくまあん) → *雙樹*(ふたき・武隈庵、狂歌) Ｄ３８１４

E2636 **たけくまの尼**(武隈尼)? - ? 平安中期歌人、1022法政寺を巡拝:片野尼と贈答、
玉葉2713
[池水にすめるありあけの月を見て西の光を思ひやるかな](玉葉集;十九2713)

竹九郎(たけくろう・高橋) → *盛之*(もりゆき・高橋たかはし、庄屋/歌人) Ｋ４４４１

武九郎(たけくろう・金森) → *頼興*(よりおき・金森かなもり/源、幕臣) Ｉ４７４５

U2610 **武子**(たけこ) ? - ? 江中期尾張藩の大奥の女房、
歌;1798刊石野広通「霞関集」入、
[このまよりもりくる月の霞む夜もおぼろけならず匂ふ梅が香](霞関;春64/夜梅)

W2641 **竹子**(たけこ・加藤かとう、旧姓;氏江)1751-1811*61* 近江犬上郡の生、
犬上郡清水村里正の加藤忠俊ただとし(1737-93)の妻,のち夫と共に京住、
歌人;[彦根歌人伝・寿]入

X2620 **武子**(たけこ・佐竹さたけ、角館城代佐竹義術よしやす女)1817-64*48* 母;佐竹義恭女、
出羽久保田藩大館城代佐竹義茂よししげの妻、歌人、義遵の母

W2674 **竹子**(たけこ・菊池きくち、別名;時子、旧姓;萩原)1832-1899*68* 加賀藩士菊池九右衛門の妻、
歌人;中村良顕よしあき・藤村叡運えうん門、大坂住、侃二(大阪府知事)の母、
「菊池竹子歌集」(1900刊/中村良顕序)

W2655 **多計子**(たけこ・金井かない/旧姓;桑原、初名;たけ)1838－1911*74* 上野新田郡の生、
1856(安政3)佐位郡島村の書家金井之恭ゆきやす(1833-1907)と結婚、
1867(慶応3)夫が討幕を企て投獄後に尊攘派運動家を支援,維新後;夫は貴族院議員、
多計子は植林事業を計画;群馬県碓氷郡に数百haの植林

Z2658 **健子**(たけこ・松平まつだいら、貢姫みつひめ、佐賀藩主鍋島直正女)1839-1918*80* 肥前佐賀の生/歌人、
母;側室の勇(山本頼展女)、1845(7歳)父の正室盛姫により江戸で養育、
1855(安政2)武蔵川越藩主松平直侯なおよし(1839－1862)の正室、1862(文久元)夫病没、
1868(慶応4)肥前武雄で療養/のち佐賀城で生活、
1871(明治4)父直正の葬儀に上京;以後東京住、
[健子(;名)の別名/法号]別名;貢みつ/よし子、法号;慈貞院

Y2660 **竹子**(たけこ・中野なかの、会津藩江戸常詰勘定役中野平内忠順ただのぶ女)1850-69戦死*19* 江戸藩邸の生、
聡明で容姿端麗/持明院流書;父門/文武;藩士赤岡忠良門;養女、経・史書・詩歌を修学、
武術;藩士黒河兼規門/薙刀に秀づ、備中庭瀬藩主夫人の祐筆、戊辰戦争で家族と会津へ、
陸奥会津阿沼郡住;若松城下で婦女子に学問/薙刀を指導、
会津戦争において母こう子らと自主的に婦女隊結成し戦闘;戦死した烈女、
母こう子と妹優子は戦闘後鶴ヶ城に入り山本八重らと合流、
法界寺に竹子慰霊碑[嗚呼壮烈]あり、
辞世[ものゝふの猛きこころにくらぶれば数にも入らぬ我が身ながらも]、
[竹子(;名)の号]号;小竹しょうちく、戒名;美性院芳列筆鏡小竹大姉

竹子(たけこ・和泉/片山)→ *利愛*(としちか・和泉いずみ、竹子の夫)の項を参照;Ｍ３１８４

竹子(たけこ・鈴木/江口)→ *古香*(ひさか・江口/神方/小笹/鈴木、歌人)３７８９

竹子(たけこ・麻田) → *直子*(なおこ・麻田あさだ、土佐の歌人) Ｋ３２８２

威子(たけこ・藤原) → *威子*(いし/たけこ・藤原、後一条院中宮、道長女)Ｅ１１０５

たけ子(たけこ・雲井) → *智貞尼*(ちていに・雲井くもい、国学/歌人) Ｍ２８４５

竹居士(たけこじ)　→　*猿左*(えんさ・戸谷とや、俳人)　Ｂ１３７４
武五郎(たけごろう・安達)　→　*復古*(なおひさ・安達あだち、国学者)　３２５８
武左衛門(たけざえもん・鹿野)→　*武左衛門*(ぶざえもん・鹿野しかの、噺家祖)３８０５
丈左衛門(たけざえもん・大脇)→　*春嶺*(はるみね・大脇おおわき、国学者)　Ｇ３６９８
丈左衛門(たけざえもん・武田/林)→　*単山*((たんざん・林はやし/武田、藩儒)Ｉ２６２０
丈左衛門(たけざえもん・有賀/小林)→　*文康*(ふみやす・小林/有賀、国学)Ｅ３８１０
丈左衛門(たけざえもん・足羽)→　*美生*(びしょう・足羽あすは、藩士/歌人)　Ｍ３７００

02635 **武貞**(たけさだ・土山つちやま、武辰たけとき男/本姓;源)1781-1827*47*　廷臣;近衛府の官人;従五下/駿河守、1809右将監/主膳正、国学:本居大平門、1816「千一言」著、大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[あら玉の　年の始めの　ゐやごとの　吉言申すと　百敷の　大宮人の　とりよそふ
宮出のよそひ　見らくしよしも](八十浦;676/年のはじめに)

Y2624 **雄貞**(たけさだ・樋口ひぐち、通称;平右衛門)1781-1841*61*　信濃伊那郡松島町方大出口の農業、「豊国室百」「白河日記」「勧殖桑養蚕室田」著

X2658 **武貞**(たけさだ・城じょう、)1803 - 1864*62*　筑前福岡藩士、国学者、菊池氏の末裔、後醍醐天皇の倒幕の魁で博多で玉砕の菊池武時の菊池神社内の胴塚の荒廃を嘆き、1831(天保2)藩主黒田斉清に建白し墓碑を建立;翌1832武時没後五百年祭を斎行、
[武貞(;名)の通称/号]通称;亀太郎/武平、号;夏鶯

02636 **武貞**(たけさだ・高野たかの、武治たけはる男)1818-1907*90*　信州松代藩士;物頭使役/郡中横目付/武具奉行、儒/詩文;佐久間象山・山寺常山門、維新後;藩督学、「東鑑鈔」「滔々録」編/「松代附近古城考」、「真田家武功之記」「含章雑鈔」「松代武事関係記」「松代地誌稿」「松代藩史」「川中島戦記」著、
[武貞(;名)の通称/号]通称;車之助くらのすけ、号;莠叟ゆうそう

Z2684 **武定**(たけさだ・宮田みやた、)1841-1887*47*　播磨林田藩士、神道・国学;渡辺重石丸いかりまろ門
武貞(たけさだ・安積あさか)　→　*東海*(とうかい・安積、儒医/尊攘)　Ｂ３１９７
武貞(たけさだ・安部)　→　*勝貞*(かつさだ・安部あべ/山県、藩士)　Ｔ１５３２
武郷(たけさと・飯田)　→　*蓬室*(ほうしつ・飯田、藩士/国学者)　Ｂ３９２６
武郷(たけさと・太秦)　→　*武郷*(ぶきょう・太秦うずまさ、伝記作者)　Ｂ３８４４
竹里(たけさと/たかさと・加藤)→　*景範*(かげのり・加藤、歌学)　Ｂ１５９０
丈三郎(たけさぶろう・堀田/太田)→*資始*(すけもと・太田/堀田、藩主/老中)Ｈ２３２５
竹三郎(たけさぶろう・吉川)→　*従安*(よりやす・吉川よしかわ、幕臣/神道)　Ｌ４７４３
竹三郎(たけさぶろう・林)　→　*孚一*(さねかず・林はやし/石井、商家/歌人)Ｐ２０１６
竹三郎(たけさぶろう・吉原)→　*東海*(はるみ・吉原よしわら、俳人/書家)　Ｋ３６９６
武三郎(たけさぶろう・九鬼)→　*隆徳*(たかのり・九鬼くき、藩主/歌)　Ｕ２６１５
武三郎(たけさぶろう・三好)→　*清房*(きよふさ・三好みよし、藩士;重臣)　Ｖ１６３３
武三郎(たけさぶろう・水野)→　*忠格*(ただのり・水野みずの/松平、藩家老/歌)Ｚ２６７６

02637 **武**(たけし・渡辺わたなべ)　1652 - 1712*61歳*　常陸水戸藩士:1673出仕;藩財政を管掌、職事記録を残す、1710致仕、1703「武器全鑑鈔」/「渡辺与次右衛門筆記」「鎧之巻」著、
[武(;名)の通称/号]通称;伊之介/与次右衛門、　号;恵舟

02638 **孟**(たけし・菅原すがわら/修姓;菅、通称;平明/得平、号;成斎)?-?　江後期尾張?の医者、1819刊「花風得意」著

Z2665 **健**(たけし・的場まとば、字;士彊/号;復斎)1773-1835*63*　備中都宇郡の医者、歌人;香川景樹門、妻;三重子(歌人;同門/?-1857)

Z2610 **健**(たけし・原はら、旧姓;戸田)1783-1854*72*　摂津西宮の医者、国学・歌;黒沢翁満おきなまろ門、
[健(;名)の初名/字/通称/号]初名;強、字;天行、通称;左一郎、号;梅坡/大青/老柳

Y2670 **健**(たけし・長崎ながさき/本姓;橘、通称;言定/号;浩斎)?-?　越中高岡の医者(町医);長崎家5代目、国学・歌;五十嵐篤好(1790?-1860?)門、1850(嘉永3)隠居、息子正国(1826-74)が家督嗣

02639 **武**(たけし・樋口ひぐち、信四郎正虎男)1815-70*56*　土佐幡多郡中村の郷士の家/儒:1833遠近鶴鳴門、諸国遊歴/筑前で亀井鵬州門、剣術;筑後の大石進門/砲術;佐久間象山門、長崎で高島流砲術を修得、帰郷し家塾:門弟千名、18654頃土佐藩士;徒士格、幡多郡の郡方下役/徒士目付/留守居組、尊攘論;門下生を多く土佐勤王党に加盟ささた、「彬斎嚢語ひんさいのうご」「遣倦録」「日新録」著、

[武(;名)の字/通称/号]字;士文/子文、通称;眞吉/慎吉、
号;彬斎ひんさい/斌斎ひんさい/愚庵/南冥/一寸莇簷処いっすんぼうえんしょ、

V2618 **剛**(たけし・赤羽あかばね、旧姓;太田)1850-1902*53* 信濃飯田藩士/歌人;橘道守(1851-1902)門
三輪栖鳳と三浦元規らが発起し新古今を詠じた風越歌会の会員の1
武(たけし・糸井) → 一九(2世いっく・十返舎、戯作者) Ｂ１１３７
武(たけし・諸葛) → *中如*(ちゅうじょ・諸葛もろくず、儒者/詩) Ｇ２８２９
武(たけし・大谷) → *清香*(きよか・大谷おおたに、藩士/国学者) Ｔ１６７５
建(たけし・保母) → *景光*(かげあき・保母ほぼ/井上、藩士/国学)Ｖ１５６１
剛(たけし・川田) → *甕江*(おうこう・川田かわだ、儒者) Ｂ１４６５
多計志(たけし・巨勢) → *建冬*(たけふゆ・巨勢こせ、国学者) Ｅ２６５０
建内宿禰(たけしうちのすくね)→ *武内宿禰*(建内宿禰たけのうちのすくね、記紀の伝説的長老)Ｅ２６４７

2766 **武重**(たけしげ・小原おはら) ？- ？ 江前期;上方の歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、
[とふ人のいかに絶えよと山里の道をつくしてふれる白雪](林葉累塵;冬707/山家雪)

V2620 **武十郎**(たけじゅうろう・蘆野あしの)1832-86*55* 陸奥陸中磐井郡の歌人;鍋島誠(麻古登)・千種有功門
武十郎(たけじゅうろう・稲垣)→ *寒翠*(かんすい・稲垣いながき、儒者) Ｒ１５１３
武十郎(たけじゅうろう・市川)→ *幸四郎*(四世こうしろう・松本、歌舞伎役者)Ｂ１９４０
武十郎(たけじゅうろう・洞貝;変名)→ *養*(よう・津田、医者/俳人) ４７５３
武十郎(たけじゅうろう・安仲)→ *徳昌*(のりまさ・安仲やすなか/樋口、里正/国学)Ｋ３５２３

02640 **竹女**(たけじょ) ？- ？ 江前期;伊勢神宮の禰宜の家に出仕、
下層ながら努力家、歌道を嗜む/俳人;1684西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入、
[大福や神の御国の庭竈にはかまど](女哥仙;35/大福;元日の大服茶、神々の庭竈に始まる、
庭竈;正月三ケ日家族で囲炉裏を囲み飲食する風俗)

E2637 **武女**(たけじょ・鈴木すずき、金左衛門女)1702?-1782;*80歳余* 新吉原の遊女;白拍子小式部、
尾張4代藩主吉通に仕える/通説;7代藩主徳川宗春の側室春日野、国学・歌;荷田春満門、
1720(享保5)「庚子道の記」(30歳頃)著(通説は年齢不合?/吉通没後夫人瑞祥院に出仕か)、
[尾張名古屋二月廿七日の暁深く旅立、
あすも又見つゝをゆかん月ながら此のあかつきは涙おちけり](庚子道の記)、
[玉くしげ箱根の山の糸桜あけなばいかゞよるのみぞ見む](同;三島山中の夜桜)、
[武女(通称)の名/通称]名;春、通称;白拍子小式部/白拍子武女/(春日野/阿春の方)

V2607 **竹女**(たけじょ・青山あおやま、旧姓;栗村、号;千尋園)?-1846 陸奥陸前仙台の歌人、
仙台藩目明し青山銀兵衛の妻/陸奥志田郡住

E2638 **武四郎**(たけしろう・松浦まつうら、名;弘、時春男)1818-88*71歳* 母;中村嘉右衛門女とく子、
伊勢須川村の儒者;1830平松楽斎門、本草学;京の山本亡羊門、1833諸国遍歴、
1838長崎で出家(;文桂名)、44帰郷;還俗/45単身蝦夷・樺太・択捉・国後を探査;
北方防備を水戸の徳川斉昭に進言、1854蝦夷地図と「三航蝦夷日記」を幕府に献上、
1855-59幕府蝦夷地御用掛、歌人、[北海道]の名付親、1869開拓使判官、
北海道の国・郡名の選定/アイヌ政策に反発;致仕、歌を嗜む、
1850「三航蝦夷日誌」56「箱館往来」57「夕張日誌」(石場高門跋)/60「知床日誌」、
1860「納紗布日誌」61「天塩日誌」、1863-4「西蝦夷日誌」、「東西蝦夷山川地理取調図」外多数、
[武四郎(;通称)の字/別通称/号]字;子重、別通称;竹四郎、
号;北海/北海道人/憂北生/多気志楼たけしろう/馬角斎ばかくさい/柳田/柳湖/雲津/雲川、
法名;文桂、法号;教光院
武四郎(たけしろう・塩谷) → *清史*(きよふみ・塩谷/塩治しおのや、藩士/歌)Ｕ１６４６
多気志楼(たけしろう・松浦)→ *武四郎*(たけしろう・松浦、探検家;北海道名付親)Ｅ２６３８
竹二郎(たけじろう・檜垣) → *常倚*(つねより・檜垣/度会、神職/日記) Ｅ２９２９
竹二郎(たけじろう・北村) → *栄弘*(ひでひろ・北村きたむら、医者/国学) Ｊ３７２９
竹次郎(たけじろう・長) → *連愛*(つらよし・長ちょう、藩士) Ｅ２９５３
竹次郎(たけじろう・拝郷) → *蓮茵*(れんいん;法諱、拝郷はいごう、僧/歌) ５１９１
竹次郎(たけじろう・石河) → *正基*(まさもと・石河いしかわ、藩士/歌人) Ｎ４０５８

竹次郎(たけじろう・楠瀬) → *小枝*(さえ・楠瀬くすのせ、医者/歌人) Ｏ２０３４
竹次郎(たけじろう・杉本) → *幹之*(みきゆき・杉本すぎもと/堀川、藩士/歌) Ｊ４１３６
武次郎(たけじろう・松平) → *頼寛*(よりひろ・松平まつだいら、藩主/儒家) Ｊ４７６５
武次郎(たけじろう・芝原) → *春房*(はるふさ・芝原しばはら、国学者) Ｇ３６７８
武次郎(たけじろう・山口) → *素絢*(そけん・山口やまぐち/橘、絵師) Ｄ２５６８
武次郎(たけじろう・新田) → *日信*(にっしん・新田/杉岡、大僧正) Ｈ３３３０
武治郎(たけじろう・福井) → *亨長*(ゆきなが・福井ふくい/杉原、国学/歌) Ｈ４６１９
武治郎左衛門(たけじろうざえもん・鷹橋) → *義武*(よしたけ・鷹橋たかはし、地誌) Ｅ４７１７

02641 **孟弼**(たけすけ・宮川みやがわ、通称;紙屋五平治) 1825-1890*66* 美濃郡上郡八十町の製糸業、和算家、和算;高木允胤みつたね門、国学;河村内郷うちさと門、「重利法」「測量地秘録諺解」「仮字格便覧」著、「算法点竄術軽一百問」校訂
[孟弼(;名)の通称/号]通称;良助/五平治(次)、号;石斎

2715 **武甫**(たけすけ・山田やまだ、幼名;五次郎、旧姓;牛島) 1831-1893*63* 肥後熊本藩士/1830時習館入学、儒学;1850(嘉永3)横井小楠門/陽明学・武術修学,1842(嘉永5)山田家の家督嗣、国学者;佐々木弘綱門、戊辰戦争中;熊本藩会計権判事/少参事、1874敦賀県令に就任、1876帰郷;養蚕家;蚕業会社社長/1890衆議院議員、1893(明治26)病没

竹助(たけすけ・寺町) → *忠利*(ただとし・寺町/越智、藩士/神社記録) Ｑ２６０６
竹助(たけすけ・御供屋) → *信兼*(しんけん・大鳥居/菅原、社僧/連歌) Ｏ２２１１
竹助(たけすけ・児玉) → *琢*(たく・児玉こだま、藩士/地誌) Ｎ２６９１
竹助(たけすけ・安田) → *雷石*(らいせき・安田やすだ/早川、医者/俳) ４８７２
竹介(たけすけ・島川) → *成梁*(せいりょう・島川/二見、国学者) Ｊ２４８４
竹輔(たけすけ・仁木) → *桐栖*(とうせい・仁木にき、俳人/茶道) Ｆ３１９３
武助(たけすけ・菊池) → *桐江*(とうこう・菊池きくち、儒者) Ｄ３１７７
武純(たけずみ・本田) → *四明*(しめい・本田ほんだ、儒者) Ｖ２１８１
武三(たけぞう・野本) → *白巌*(はくがん・野本のもと、儒者/詩) Ｃ３６９０
竹蔵(たけぞう・木内) → *千尋*(ちひろ・木内きうち、理髪/歌人) Ｍ２８３８
竹蔵(たけぞう・松平) → *正広*(まさひろ・松平まつだいら、藩士/国学) Ｓ４０７０
竹蔵(たけぞう・水内) → *千尋*(ちひろ・水内みずうち、国学者) Ｎ２８６１

E2639 **武喬**(たけたか・服部はっとり、盛岡藩留守居役の正秩男) 1735-95*61* 江戸生/盛岡藩士/儒:服部南郭門、語学/詩文/歌人、1790「御国通辞」/91「間人雑記」「姓名考」、「狂歌集」「家伝秘録」著、「新涼故人譚」著、
[武喬(;名)の通称] 宗太郎/此右衛門

2790 **武忠**(たけただ・下毛野、敦季男) ?- ? 平安中期廷臣(官人);藤原師実の随身、のち藤原師通の随身/白河院の随身、府生(六衛府役人)/相撲長、競馬に頻繁に出場、舞人名手(播磨信貞[1058-97]と並称);袋草紙入;公実の長能・道済の歌に喩える逸話

E2640 **武忠**(たけただ・姓不祥) ? - ? 平安期中後期1037頃香椎宮神主、六位大膳、歌:金葉Ⅱ527(長暦元1037頃藤原隆家が再度大宰帥で香椎宮参拝時に杉葉を冠に挿す歌)、[ちはやぶる香椎かしゐの宮の杉の葉をふたゝびかざすわが君ぞきみ](金葉集;九527)

02642 **健尹**(たけただ・伴ばん、外崎正激[飛鶴]男or弟?) ?-1803 伴勘右衛門休養の養子、陸奥弘前藩士、儒;山崎蘭洲門、1772御手廻見習/78小姓組;江戸詰、暦算;平沢元愷門/81昌平黌修学、1790家督/92勘定奉行;藩政改革に参画/96弘前藩校稽古館副督学/1802督学、詩文、「蘭洲先生遺稿」編/「帝範臣軌」校訂/「鶏肋集」著、
[健尹(;名)の字/通称/号]字;元尹、通称;才助、号;松軒

竹田大夫(たけだだゆう) → *禅竹*(ぜんちく・金春、能楽) ２４３４
竹谷上人(たけだにのしょうにん) → *宗源*(そうげん;法諱・乗願房じょうがんぼう/浄土僧) Ｌ２５４２
竹田大夫(たけだのだいぶ) → *国行*(くにゆき・藤原ふじわら、廷臣/歌人) １７２３

E2641 **武種**(たけたね・大原真人おおはらのまひと) ?-? 江前期熱田神宮神官、俳人、1637「熱田万句」勧進

02643 **威胤**(たけたね・国分こくぶ、応胤男) 1746-1809*64* 羽前米沢藩士;藩校興譲館に従学/1785家督、1797米沢藩町奉行/98解任;中之間詰、詩:「兜山とざん詩集」、1802「兜山夜話」著、

「遠山蕪」「松濠文集」「絶倒雑俎」「大政録」「聞見録」「武門要鑑抄註」著、
[威胤(;名)の字/通称/号]字;寛中、通称;沖助/左兵衛、号;松陵/兜山とざん、
02644 **建胤**(たけたね・上原うえはら、通称;作兵衛、号;代耕)?-? 下総の国学者・歌:小山田与清ともきよ門、
1828「松尾先生称号再興記」著
W2623 **武種**(たけたね・太田おおた、通称;仁兵衛)1764-1843*80* 筑後久留米の国学者
W2675 **武胤**(たけたね・菊池きくち、)1830-1883*54* 伊予風早郡喜木村の庄屋、国学者/歌人、
母;三輪子(旧姓清家/歌人)、
[武胤(;名)の別名/通称]別名;忠平/友則、通称;猪惣太/忠兵衛
T2678 **竹田王**(たけだのおおきみ、系譜不詳)?-715 大和期廷臣;681(天武10)帝紀及上古諸事の記定参加、
684兵器検校のため京・畿内へ派遣/689判事/708(和銅元)刑部卿/715散位従四上
丈太夫(たけだゆう・長沼) → *安定*(やすさだ・長沼ながぬま、和算家) Ｂ４５５０
V2683 **雄足**(たけたり・氏家うじいえ、)1820-1881*62* 讃岐多度郡大麻村の国学者;平田家入門、
[雄足(;名)の通称/号]通称;源蔵、号;雄翁
02645 **武元**(たけちか・松平まつだいら、常陸府中藩主松平頼明男)1713or16-1779*64-67*
上州館林藩主松平武雅の養嗣子、1728家督襲封;館林藩主/すぐに磐城棚倉藩に転封、
奏者番・寺社奉行/46西丸老中;旧領館林藩へ転封、1747本丸老中;吉宗・家重・家治3代出仕、
従四下/侍従・主計頭・右近将監、「科条類典」編、
正室;政子まさこ(桑名藩主松平忠雅女/歌人;早世26歳)、
[武元(;名)の幼名/初名/法号]幼名;丹下/源之進、初名;武元たけもと[のち武元たけちか]、
法号;天超院勇山
高市大卿(たけちのおおまえつぎみ)→ *御行*(みゆき・大伴) Ｇ４１０３
高市岡本宮御宇天皇(たけちのおかもとのみやのあめのしたしろしめししすめらみこと)→ *舒明天皇*(じょめいてんのう)２２１２
武之進(たけのしん・石原) → *信吾*(眞吾しんご・那須/浜田、勤王派) Ｏ２２２８
2621 **高市皇子**(たけちのみこ、天武天皇の長男)654-696*43歳* 母;尼子娘あまこのいらつめ(胸形君徳善女)、
672(19歳)壬申乱に指揮官として功績(人麿挽歌に入)、686浄広弐位;草壁・大津に次ぐ、
690草壁皇子没後;太政大臣;後皇子命のちのみこのみことの称(準皇太子扱)、
藤原宮造営、長屋王の父、万葉二期歌人;万葉156-8十市皇女への挽歌、
114題116題(;一時異母妹但馬皇女と同棲)、199題(薨去時;人麿の挽歌)、
[三輪山の山辺まそ木綿ゆふ短木綿みぢかゆふかくのみ故に長くと思ひき](万:反歌157)
E2642 **高市連黒人妻**(たけちのむらじくろひとのつま)?-? 万葉二期、巻三黒人の歌の返歌281、
[白菅しらすげの真野の榛原はりはら行くさ来くさ君こそ見らめ真野の榛原](万;281)、
☆袋草紙に:猿丸太夫集の最先歌としての考察入、
夫 → *黒人*(くろひと・高市連/万葉歌人) １７１３
E2643 **高市麿**(たけちまろ・大神おおみわの朝臣/大三輪朝臣、旧姓;三輪君、利金男)657-706 672壬申乱の功臣、
684賜姓、中納言/長門守/左京大夫/706従四上、忠臣として賞揚された、詩:懐風藻1首入、
農繁期の持統天皇伊勢行幸を冠位を捨てて直諫(霊異記上25話に逸話;万葉巻一44左注)、
万葉九1770題詞「大神大夫」と同一?(1770の作者?)/1772題詞の大神大夫は不詳
参照 → *大神大夫*(おおみわのまえつきみ) Ｄ１４５９
竹千代(たけちよ;幼名・松平)→ *家康*(いえやす・徳川/松平/源、将軍/武家法度)１１０４
竹千代(たけちよ;幼名・松平)→ *秀忠*(ひでただ・徳川、2代将軍/歌) Ｄ３７１４
竹千代(たけちよ;幼名・松平)→ *家光*(いえみつ・徳川、3代将軍/歌/連歌)１１６５
竹杖為軽(たけつえのすがる;狂名)→*良*(ちゅうりょう・森島、万象亭/蘭学/戯作)２８１９
竹塚翁(たけつかおう→たけのつかおう)→*東子*(東紫とうし・竹塚たけのつか、商家/合巻)３１１４
02646 **武次**(たけつぐ・牧まき、尉太夫兼相男)1585-1671*87* 幼少時より丹後の細川忠興家臣;関ヶ原に初陣、
主家転封で肥後熊本藩士;鉄砲添頭/鉄砲三十挺頭、1664「細川忠興軍功記」著、
[武次(;名)の通称] 長三郎/丞太夫じょうだゆう
武次(たけつぐ・堀) → *友明*(ともあき・堀ほり、藩士/神道) Ｐ３１１３
武次(たけつぐ・中村) → *水城*(みずき・中村なかむら、藩士/神職/歌)Ｊ４１７４
全次(たけつぐ・村田) → *全次*(またつぐ・たけつぐ・村田むらた、神道家) Ｔ４０１２
02647 **竹土丸**(たけつちまる) ？－ ？ 大阪の浄瑠璃作者:出雲門、合作(竹田滝彦と参加)、

1757「昔男春日野小町」(近松半二らと合作)/1758「敵討崇禅寺馬場」(小出雲らと合作)
参考　→　*滝彦*(たきひこ:通称・竹田、浄瑠璃作者)Ｎ２６９０
武綱(たけつな・伊藤)　→　*武矩*(たけのり・伊藤、儒者/詩文)　Ｏ２６６１
武綱(たけつな・大河内/松平)→　*輝貞*(てるさだ・大河内/松平、藩主)　Ｃ３０７２
武綱(たけつな・宇都宮)　→　*義路*(よしみち・佐竹さたけ/源、藩士/歌)　Ｋ４７９０

02648 **武庸**(たけつね・堀部ほりべ、別名;応庸、中山弥次右衛門男)1670-1703切腹*34歳* 越後新発田藩士の生、
母;溝口盛政女、1688江戸で剣術;堀内源左衛門正春門;堀内門四天王の1、
1694高田馬場で菅野六郎左衛門決闘に加勢し武名;請われて堀部弥兵衛金丸かなまるの養子、
1697家督;赤穂藩士馬廻/1701藩主浅野長矩の刃傷事件;02吉良邸討入、松山藩江戸屋敷預、
文筆秀で能書家、「堀部武庸筆記」「堀部安兵衛手跡」「堀部武庸尺牘影写」、
[武庸(;名)の通称/変名/法号]通称;安兵衛やすべえ/やすびやうゑ、変名;長江長左衛門、
法号;刃雲輝剣信士
養父弥兵衛→　*金丸*(かなまる・堀部、赤穂浪士/討入)　Ｏ１５３１

02649 **武経**(たけつね・野村のむら)　?-　?　江後期江戸の生:三河一色浦に住、
1853「三河軍記」著

U2633 **武経**(たけつね・浅野あさの)1824-　1899*76歳*　江後期;尾張名古屋藩士;大番頭格、
国学/歌;植松茂岳門、冬青吟社を主宰、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[松蔭の清水に駒を打ち入れて涼しくも聞く蝉の声かな](大江戸倭歌;590馬上聞蝉)、
[あはれあはれ夢のうつつはさもなくてうつつの夢ぞはかなかりける]、
(同;雑2013/子を失ひける頃)、
[武経(;名)の字/通称/号]字;**三竜**みたつ、通称;永十郎/増太郎、号;兎毛/冬青/冬青吟社

U2662 **武連**(たけつら・森田もりた)　?-　?　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[氷室ひむろもる木かげやいかに袖さえて麓の里も夏はおもはず](大江戸倭歌;夏605)

02650 **武人**(たけと・赤根あかね、別名;貞一/文平/幹之丞、松崎三宅男/雅平養子)1838-66刑死　周防柱島生、
儒者;月性・雲浜門、伊保庄南郷校克己堂教授、1862晋作と奇兵隊組織/63総督、
1865調停工作を疑われ出奔/故郷で逮捕、「長防説話」著、[赤根武人の変名]柴屋和平
竹戸(たけと・道工)　→　*彦文*(ひこぶみ・道工どうく、長伯歌人/紀行)３７７０

02651 **武辰**(たけとき・土山つちやま、武匡男/本姓;源)1759-1827*69*　廷臣;近衛府官人/正五下淡路守、
1775右将監/1805右近府年預、1800「土山淡路守日記」著、武貞・小佐治光文の父

U2655 **武辰**(たけとき・岡田おかだ、通称;大助)?-?　江後期;歌人、幕臣?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[河ぞひのしだり柳の枝よわみ皆かたよりに春風ぞ吹く](大江戸倭歌;春145/柳随風)
[重げにもあすのけぶりをになふかな峰の椎柴こりにこりつつ](同;雑1980/樵夫)
武辰(たけとき・野田)　→　*千町*(ちまち・野田のだ、藩士/国学/歌)　Ｆ２８４１

02652 **健寿**(たけとし・津軽つがる、健雄男)1739-?　1796存　医者;父門/兄季詮の養子;家督/幕医;
1775江戸城本丸奥医/79家治の世子家基没のため本丸勤務/81法眼、1797刊「外科精要」著、
[健寿(;名)の通称]　意伯

W2625 **武敏**(たけとし・岡おか、)　1755　-　1821*67*　備中倉敷の商家/国学者・歌人、岡呉継くれつぐの弟、
[武敏(;名)の通称/号]通称;忠左衛門、　号;一水・蓬莱舎、　屋号;俵屋
武敏(たけとし・菊池)　→　*魯斎*(ろさい・菊池きくち、藩儒/家塾)　Ｂ５２５１
武俊(たけとし・阿久沢)　→　*篤行*(あつゆき・阿久沢あくさわ、藩士/歌人)Ｇ１０８４
竹土丸(たけどまる)　→　*竹土丸*(たけつちまる、浄瑠璃作者)　Ｏ２６４７
建富(建福たけとみ・鈴木/乳井)→*貢*(みつぎ・乳井にゅうい、藩士/財政)　Ｄ４１２６

02653 **武朝**(たけとも・菊池きくち、武政男)1363-1407*45*　武将;右京/左京大夫/1374父没;惣領、
懐良親王・良成親王を奉じ九州転戦/1392南北朝合一後は肥後守護、「菊池武朝申状」著、
[武朝(;名)の幼名/初名/通称/法号]幼名;加賀丸、　初名;武興たけおき、　通称;孫二郎、
法号;神徳寺玄徹常朝
武鞆(たけとも・藤田/栗田)→　*高伴*(たかとも・栗田/藤田/大林、歌人)　Ｄ２６２４
武具(たけとも・中野)　→　*武信*(たけのぶ・中野なかの、藩士/歌人)　Ｙ２６６１

竹鞆(たけとも・狩谷)　→　*鷹友*(たかとも・狩谷かりや、国学者/歌人)　Ｍ２６４８
武豊(たけとよ・不破)　→　*遊山*(ゆうざん・高瀬、藩士/文筆)　Ｂ４６９５
E2646 **竹取翁**(たけとりのおきな)　？－　？　万葉歌中人物、巻十六長歌3791-93;女子9人と贈答、
また平安初期最古の作り物語「竹取物語」中の人物
02654 **武直**(たけなお・大原おおはら)　？－　？　江前期元禄1688-1704頃尾張熱田社の社家、
「熱田志料」編、「熱田要録記」著
02655 **剛直**(たけなお・中村なかむら、通称;貞次郎)?-?　安房の儒者;大野貞斎門、「有誠堂雑稿」「学談」著
W2668 **雄直**(たけなお・木村きむら、)　？－　？　江後期讃岐高松の国学者;
高松藩士中村尚輔ひさすけ(1809-79)門、
[雄直(;名)の通称/号]通称;半三郎、号;方斎
竹中(たけなか)　→　*公衡*(きんひら・西園寺、廷臣/歌)　Ｅ１６６１
武仲(たけなか・犬塚)　→　*男内*(だんない・犬塚いぬづか、藩士/儒/砲)　Ｕ２６７１
竹中殿(たけなかどの)　→　*実衡*(さねひら・西園寺、公衡男/歌人)　Ｄ２０５２
02656 **武成**(たけなり・加須屋かすや、通称;左近、助兵衛男)1603-74*72* 紀州藩士、弓術;伴道雪・宮崎権七郎門、
1619-29京の三十三間堂で通射4度、1651会津藩に招聘;持弓頭/道雪派として伝承、
日向延岡藩では糟屋左近派として伝承、「弓村次第」著
W2638 **武成**(たけなり・加須屋かすや、利章としあき[1787-1862]男)?-? 江後期;因幡鳥取藩士、国学者、
[武成(;名)の通称/号]通称;隼之丞、号;静斎
Y2600 **武生**(たけなり・高田たかだ、旧姓;榎倉)1832-1906*75*　伊勢度会郡の神官(御師)、
神道・国学・歌学;足代弘訓ひろのり・御巫みかんなぎ清直門、
[武生(;名)の別名/通称]別名;武周、通称;辰丸/梶助
竹女(たけにょ)　→　*竹女*(たけじょ、歌人/俳人)　Ｏ２６４０
竹の家(たけのいえ)　→　*五鈴*(ごれい・長井ながい、俳人)　Ｏ１９１３
竹内僧正(たけのうちそうじょう)→　*良鎮*(りょうちん、室町期歌僧)　Ｉ４９９４
竹内殿(たけのうちどの)　→　*覚恕*(かくじょ、曼殊院宮、天台座主/歌)Ｂ１５５６
E2647 **武内宿禰**(建内宿禰たけのうちのすくね/たけうちのー/たけしうちのー)?-?(290歳以上?)　父;彦太忍信命(記)、
母;紀伊国造菟道彦うじひこの妹影姫(記)、景行-仁徳天皇期5代に出仕/成務天皇期に大臣、
武(建)は美称/内は大和宇智郡の地;そこを本貫とする鎮魂神事に与る氏族、
伝説化した博学の長老;三韓遠征・謀反者一掃など官人として244年(実は複数の人か)、
記紀歌謡詠3種;①神宮皇宮の摂政下に忍熊王を討つ時の歌(紀に2首)、
②皇太子(応神天皇)の大和への帰郷を祝う酒楽歌、
③日女ひめ島茨田まむたの堤に雁が産卵した時仁徳天皇に答えて詠んだ歌、
竹之丞(たけのじょう・朝山)→　*嘉保*(よしやす・朝山あさやま/勝部、神職/歌)Ｌ４７２５
竹之丞(たけのじょう・渡辺)→　*重蔭*(しげかげ・渡辺わたなべ、神職/国学)　ａ２１１５
竹之丞(たけのじょう・松平)→　*正広*(まさひろ・松平まつだいら、藩士/国学)　Ｓ４０７０
武之丞(たけのじょう・大崎)→　*重樹*(しげき・大崎おおさき、藩士/国学/歌)Ｎ２１７５
武之進(たけのしん・松平)　→　*久長*(ひさなが・松平まつだいら、藩士/記録)　Ｂ３７６６
武之進(たけのしん・相良)　→　*頼徳*(よりのり・相良さがら、藩主/狂歌)　Ｊ４７４６
丈之進(たけのしん・本多)　→　*朴民*(なおたみ・本多ほんだ/水沢、国学者)　Ｏ３２７１
02657 **竹之助**(竹之介たけのすけ・佐野さの、名;光明みつあき、光誠男)1839-60*21* 常陸水戸藩士;1852家督;大番、
1857小姓、居合と砲術に長ず、1859幕府上使と衝突;親類預/脱出江戸へ;
1860桜田門外で井伊大老襲撃に参加;重傷し老中脇坂安宅に自首;同日没、「秘書」著、
[竹之助(;通称)の変名/法号]変名;海野慎八/佐野武兵衛、法号;英仁
T2688 **竹之介**(竹之助たけのすけ・高橋たかはし、名;三寅)1842-1909*68*　越後蒲原郡杉之森の庄屋の家に生、
儒;鈴木文台門/播磨の河野鉄兜門、勤王派/1867上京;沢宣嘉に出仕/戊辰戦で方義隊結成;
越後転戦、東京遷都反対;禁固刑/79赦免;私塾を開;子弟教育、「高橋竹之介北征日史」著、
[竹之介(;通称)の字/別通称/号]字;誠仲、別通称;正庸、号;竹介/蘇門、
変名;北山信/芳賀喜之七
竹之助(たけのすけ・近藤)　→　*南海*(なんかい・近藤こんどう、儒者)　Ｉ３２６２

竹之助(たけのすけ・近藤) → *徳用*(のりもち・近藤、幕臣/文筆家) Ｆ３５９８
竹之助(たけのすけ・石井) → *貞興*(さだおき・石井いしい/櫛山、藩士/歌)Ｎ２０８４
竹之助(たけのすけ・宮下) → *良文*(よしぶみ・宮下みやした、国学/歌) Ｐ４７４４
竹之助(たけのしん・森) → *如柳*(じょりゅう・森/斎藤、国学/歌) Ｖ２２３６
武之助(たけのすけ・星野) → *則臣*(のりおみ・星野ほしの、藩士/文筆) Ｅ３５３３
武之助(たけのすけ・黒岩/中居)→ *剛屏*(ごうへい・中居なかい、商家/蘭学)Ｌ１９０７
武之助(たけのすけ・富永) → *兼章*(かねあき・富永とみなが、藩士/国学) Ｖ１５１５
健之助(たけのすけ・河野/平松)→ *楽斎*(らくさい・平松、民政家/詩) Ｄ４８４０
建之助(健之助たけのすけ・青柳)→ *高鞆*(たかとも・青柳あおやぎ、国学者)Ｄ２６２８
健之助(たけのすけ/けんのすけ・三井)→ *高敏*(たかとし・三井みつい、商家/国学)Ｄ２６２１
竹塚翁(たけのつかおう) → *東子*(東紫とうし・竹塚たけのつか、商家/合巻)３１１４
竹塚東子(たけのつかとうし) → *東子*(東紫とうし・竹塚、商家/合巻) ３１１４
竹廼戸(たけのと・道工) → *彦文*(ひこぶみ・道工どうく、長伯歌人/紀行)３７７０
竹廼門(たけのと) → *山鳥*(さんちょう・岡、滑稽本作者) Ｅ２０５７

Y2661 **武信**(たけのぶ・中野なかの、)1563-1645*83* 近江彦根藩士;井伊直政・直孝の臣、
歌人;[彦根歌人伝・寿]入、
[武信(;名)の別名/通称]別名;武具/武正、 通称;他八郎

02658 **武信**(たけのぶ・竹内たけうち、武直男)1784-1853*70* 信州小県郡山田村の農家/和算家;関輝蕘門、
規矩術;山口清直門/天文暦学;江戸の篠原善富門、上田藩主に招聘;1811御徒士勘定方、
1814中小姓・張元役、「規矩術本伝」、1814「規矩術免許伝来之巻」30「規矩術外伝」著、
1830「規矩術別伝」31「地方畳水錬」48「算法浅問抄解上巻」、「地方学習編」「渾発正義」外著多、
[武信(;名)の字/通称/号]字;子厚、 通称;熊蔵/善吾、
号;城山/尚綱斎/綱斎けいさい 、法号;現徳院

W2621 **武信**(たけのぶ・大森おおもり、通称;七兵衛)?-1857 伊勢度会郡の国学者;本居宣長門
武信(たけのぶ・香山/佐方)→ *乙語*(おつご・佐方さかた、藩士/俳人) Ｄ１４１７
養信(たけのぶ・狩野) → *養信*(おさのぶ/たけのぶ・狩野かのう、絵師/歌)Ｄ１４７２
竹廼門(たけのもん) → *山鳥*(三鳥さんちょう・岡おか、戯作者) Ｅ２０５７
竹の屋(たけのや) → *尚規*(なおのり・竹村、国学/歌人) Ｃ３２０８
竹の屋(たけのや) → *高伴*(たかとも・栗田/藤田/大林、歌人) Ｄ２６２４
竹の屋(たけのや) → *俊彦*(としひこ・中山なかやま、神職/国学) Ｖ３１９４
竹の屋(たけのや) → *重政*(しげまさ・藤井ふじい、神職/国学) Ｚ２１８１
竹舎(たけのや) → *隆棟*(たかむね・大河平おこびら、藩士/国学)Ｎ２６３３
竹舎(たけのや) → *正員*(まさかず・安保あぼ/小野、国学/歌) Ｍ４０９３
竹舎(たけのや) → *惟徳*(これのり・飯田いいだ、歌人) Ｅ１９７３
竹舎(たけのや) → *信基*(のぶもと・池浦いけうら、歌人) Ｈ３５２９
竹舎(たけのや) → *友之*(ともゆき・山口やまぐち/源、国学/歌) Ｗ３１８３
竹の舎(たけのや) → *慶徳*(よしのり・池田いけだ、藩主/歌文) Ｆ４７９７
竹の舎(たけのや) → *正輔*(まさすけ・大堀おおぼり/源、藩士/歌) Ｏ４０４５
竹の舎(たけのや) → *重教*(しげのり・河合かわい、藩士/歌人) Ｏ２１１４
竹の屋(武廼舎たけのや) → *吉輔*(吉介よしすけ・西川にしかわ、国学者) Ｄ４７８０
竹屋(たけのや) → *政壽*(まさひさ・佐分さぶり/佐分利、藩士/歌)Ｇ４０６３
竹廼屋(竹乃屋/多計能屋たけのや)→*義稲*(よしね・中尾、藩士/国学/歌)Ｆ４７５０
竹廼屋(たけのや) → *親愛*(ちかよし・秋保あきほ、藩士/国学/歌)Ｌ２８７６
竹廼屋(たけのや) → *政直*(まさなお・村井むらい、国学者) Ｐ４０７０
竹廼屋(たけのや) → *章*(あきら・渡辺わたなべ、酒造業/歌人) Ｉ１０８４
竹廼舎(たけのや) → *直翁*(ちょくおう・佐藤さとう、藩校教授/儒・歌)Ｍ２８５９
竹廼舎(たけのや) → *晨正*(ときまさ・竹田/武田たけだ、商家/歌)Ｖ３１６９
竹廼舎(たけのや) → *水貫*(みつら・深川ふかがわ、国学/詩歌) Ｋ４１３０
竹廼家(たけのや) → *正義*(まさよし・保坂ほさか、藩家老/国学) Ｓ４０４０
竹廼家(たけのや) → *勇太郎*(ゆうたろう・宮和田みやわだ/平、尊攘)Ｈ４６３３

竹之舎(たけのや)　→　*千尋*(ちひろ・石黒、国学/歌人)　Ｆ２８２３
竹之舎(たけのや)　→　*眞方*(まさかた・竹村たけむら、藩士/歌人)　Ｑ４０８０
Y2643 **竹徳**(たけのり・富本とみもと、旧姓;杉野)1664-1713*50*　肥前佐賀の伊勢神社宮司/歌学者;平間長雅門、
[竹徳(;名)の通称/号]通称;亀蔵/徳太夫/伊右衛門、号;**梅坡**/孤山/亀蔵軒
E2648 **武矩**(武範たけのり・大野おおの/初姓;片島かたしま、別名;久義、大野吉規の養嗣)?-?　築後の砲術家;
自得流砲術;養父大野左五左衛門吉規門、甲州兵学・香西成資門、鳥居流砲術大野派の祖、
延享1744-48頃徳川吉宗に砲術で出仕;持与力、摂津で兵談を講義?/事件に連座;幽閉?
1715「武田三代軍記」17「武備和訓」/18「文芸訓」「明君文武蹟」/19「赤城義臣伝」、
1719「赤城雪心伝」「武家図象伝」編、20「自得流秘伝」36「東西問答」「兵法火箭東西問答」、
1752「明君宝鑑」、「自得流鳥銃」「続東西問答」「火攻発揮」「兵法対策」「赤穂四十六士像賛」著、
[武矩(;初名)の通称/号]通称;宇右衛門、号;深淵子、
Y2699 **建得**(たけのり・畑中はたなか、旧姓;齋藤)1684-1768*85*　陸奥仙台藩士、連歌師、荷沢かたく(盛雄)の父、
1751(寛延4)「両吟千句」著(淡也と荷沢/別名;盛雄初学千句)、藩主綱村公の和歌を編修、
青霞せいか(孝標たかひで)祖父、
[建得(;名)の初名/通称]初名;重辰、通称;十太夫/金也/**淡也**たんや
02659 **武範**(たけのり・津熊つくま)　？-　？　江中期河内交野の文筆家、1753刊「教訓女朝鏡」著
02660 **武矩**(たけのり・小山こやま/おやま、伊小右衛門男)1733-1813*81*　肥後熊本藩士/櫓番、経学修学、
兵法家;北条流奥義を習得、俳人、「まきわら」「今年米」「一穂の稲」「独り歩行」著、公範の父、
[武矩(;名)の通称/号]通称;伊小右衛門(;父と同称)、号;宴長/西山舎
02661 **武矩**(たけのり・伊藤いとう、別名;武綱)1772-1847*76*　伊勢山田の儒者・詩文/歌、1830「陰隲文和解」著、
[武矩(;名)の字/通称/号]字;子直、通称;祥助/藤太郎、号;東河/靖斎
02662 **武則**(たけのり・甲斐かい)1774?-　？ 1823存　豊後岡藩士、軍記「増補大友興廃記」48巻著、
参考　→　*宗重*(むねしげ・杉谷、「大友興廃記」著)　Ｂ４２４０
02663 **武徳**(たけのり・中山なかやま、作三郎武成男)1785-1844*60*　代々長崎阿蘭陀通詞/1798稽古通詞、
1816家督嗣、小通詞助役/1830大通詞、蘭和対訳辞書「ドゥーフ＝ハルマ」編纂に貢献、
フランス語修得、シーボルトに鳴滝の別宅提供;鳴滝塾の基、「万国地名考」編、
「咬嚼吧じゃがたら暦和解」、1829「魯西亜国史」訳(小野寺将順[丹元]と)、
[武徳(;名)の字/通称/法号]字;知雄、通称;得十郎/作三郎、法号;至徳院
W2661 **武則**(たけのり・川崎かわさき)1789-1831*43*　近江彦根の国学者・歌人;小原君雄門、
歌;[彦根歌人伝・寿]入
[武則(;名)の通称/号]通称;平太郎、号;菊亭
W2680 **全孝**(たけのり・北島きたじま、従孝男)1803-86*84*　出雲出雲郡の出雲国造/神職、御杖代/従三位、
大宮司、重孝しげのりの兄、妻;伊予姫(小野尊道女1795-1832)、
後妻;淑子すみこ(権大納言甘露寺国長女1813-1886)、脩孝ながのり・内孝うちのりの父、
[全孝(;名)の別名/通称]幼名;常丸、初名;順孝、通称;神健彦
武徳(たけのり・本田)　→　*四明*(しめい・本田ほんだ、儒者)　Ｖ２１８１
武矩(たけのり・菊池/菊地)→　*高洲*(こうしゅう・菊池/菊地/加藤、儒者)Ｂ１９８８
武記(たけのり?・諏訪すわ)　→　*塘水*(とうすい・諏訪、日々庵、藩士/俳人)Ｆ３１８１
武八郎(たけはちろう・竹内)→　*東白*(とうはく・竹内たけうち、蘭医/兵学)　Ｇ３１９２
Z2691 **武備**(たけはる・村田むらた、通称;左近将曹)1788-1830*43*　京の廷臣;左近衛将曹(主典さかん)、
歌人;香川景樹門
02664 **武治**(たけはる・高野たかの、通称;権右衛門)?-?　江後期松代藩士、「見聞記抜書」著
息子　→　*武貞*(たけさだ・高野たかの1818-1907、儒/地誌)Ｏ２６３６
武春(たけはる・有馬)　→　*喜三太*(喜惣太きそうだ・有馬ありま、絵師)Ｌ１６１３
E2649 **猛彦**(たけひこ・市岡いちおか、初名;孟彦、甚右衛門男)1778-1827*50*　尾張藩士;1800町方吟味物調役、
1805家督;町方吟味役/長囲炉裏番、国学・歌:本居宣長・春庭門、尾張鈴屋学派の中心、
1804「紐鏡うつし辞」07「雅言仮字格」24「類聚」25「新古今もろかづら」、「讃酒歌百首」、
「美濃国喪山考」「歴代正語」「岡の八千くさ稿」「源言梯」「古今選類題」外著多数、
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌を含む3首入、妻;陸子みちこ(旧姓竹中)、和雄にぎおの父、
[思ふどち藤のうら葉のうら安に見つつ語らふ花ざかりかも](八十浦;565/藤花)、

[猛彦(;名)の通称/号]通称;藤太郎とうたろう/東太郎/藤重郎とうじゅうろう、
号;槲園こくえん/椎垣内しいがいち、法号;槲園院、　妻陸子みちこも歌人、和雄にぎお(歌人)の父、
妻　→　*陸子*(みちこ・市岡/竹中、歌人)　Ｂ４１４６

02665 **建彦**(たけひこ・伊奈いな、神主伊奈信成男)1778-1845*68* 肥前長崎の神職;松森神社社司、
1825(文政8)石見守/従五下、国学;本居宣長・大平門、帰郷後;古道を講ず、
同国の中島広足と共に崎陽国学の基底をなす、高山彦九郎を慕い屢々筑後に墓参、
「桜園日抄」「淤曾能梯建」著、
[建彦(;名)の通称/号]通称;帯刀/石見守、号;桜園

Z2655 **武彦**(たけひこ・松木まつき、通称;大隅、恒彦男)1818-71*54* 伊勢度会郡の神職;外宮禰宜、和学者、
偉彦くすひこ(1844-1917/外宮禰宜松木品彦ただひこの養子)の実父
[外宮禰宜松木満彦家]満彦-親彦-条彦-意彦-宅彦-恒彦-**武彦**-偉彦(品彦の養嗣)

V2604 **猛比古**(たけひこ・青木あおき)1831-1867*37*　豊後海部郡堅田郷柏江村の農家の生、
幼時に寺院に預けられ僧;1852(嘉永5)寺を出奔;還俗、尊皇運動に参加/大阪に住、
京の白川伯王家当主の資訓の知遇を得て九州で尊皇宣布活動/京と長州との往復、
1865豊後に帰り楠公会結成/66(慶応2)第二次長州征伐時に長州藩側で小倉城で参戦、
1868上京;幕府側に殺害、
[猛比古(;名)の初名/通称/変名]初名;忠秀/健、通称;茂八郎、変名;柏江茂八郎

Y2653 **健彦**(武彦たけひこ・中島なかじま、喜左衛門男)1843-77戦死*35* 薩摩鹿児島藩士;島津忠義の小姓、国学、
1868戊辰戦争で奥羽転戦/71(明治4)西郷隆盛指揮下の近衛陸軍大尉/陸軍大将副官、
1873征韓論に敗れた隆盛に随行;鹿児島県警部・課長、
1877(明治10)西南戦争;薩軍二番大隊小隊長/振武隊長として出陣/敗戦;
隆盛と共に城山に籠り討死、
[健彦(;名)の初名/通称]初名;広厚、通称;友太郎/喜左衛門(;父の称)

2723 **武彦**(たけひこ・湯本ゆもと、)1846-73早世*28*　因幡鳥取藩士、藩校尚徳館に修学、
儒者;江戸で芳野金陵・加藤桜老門、帰藩後;尚徳館で指導、
[武彦(;名)の通称/号]通称;助之丞、号;正風

竹彦(たけひこ・四方)　→　*梅彦*(めめひこ・四方、戯作者/狂歌)　１２９３

X2677 **武久**(たけひさ・関せき/本姓;藤原、通称;信)1843-79*37* 遠江豊田郡掛塚の貴船神社祠官、国学者、
維新後;権少講義

02666 **豪秀**(たけひで・久保田くぼた)1707-1746*40*　広島藩士;兵法家/三次支藩の執政/軍学師範兼任、
のち本藩帰仕/江戸祇役中に没、「豪秀記」「軍中決外集」著、
[豪秀(;名)の通称]　富三郎/右門/図書ずしょ

W2602 **雄英**(たけひで・小原おはら/本姓;大江、通称;東作)1751-1824*74* 備前吉備郡の生、備中岡田藩に出仕、
駿河御代官元締役;駿河府中住/三河藤川住、国学者;平田篤胤門、穂井田忠友の父

02667 **武英**(たけひで・金谷かなや、通称;多門、健尚男)?-? 江後期1818-54頃加賀藩士;1820学校読師御雇、
助教加入/近習番加入/1836家督;近習番本役/近習御用、「岐蘇紀行」著

V2685 **武秀**(たけひで・内田うちだ、通称;源次郎)1817-92*76*　越前坂井郡の商家;内田惣右衛門家の分家、
歌;内田庸もちう(惣右衛門)門/国学;福田美楯門

02668 **武英**(たけひで・早川はやかわ、泰蔵男/母;律子)1819-83*65*　越前大野藩士;1851西潟の代官兼海防幹理、
藩の蝦夷地開拓に関与;1857内山良隆に随従し樺太幌古谷を踏査;当地で屯田開墾等試行、
1865中止、藩校明倫館教授;藩士に地誌を指導、1868精英技隊頭取/70樺太開拓使権参事、
「唐太日誌」/1863「北地ウシヨロ魯人応接記」著、
[武英(;名)の字/通称/号]字;文雄、通称;弥五左衛門、号;寛斎/楼釣叟、法号;寛一院

02669 **武秀**(たけひで・山内やまうち、通称;弥一郎)?-?　筑前御笠郡原田の庄屋/歌;原田代官上原定賀門、
1868「紫陽百人一首」編

全仁親王(たけひとしんのう)　→　*全仁親王*(まさひとしんのう・常盤井宮、歌)　Ｇ４０８０

V2673 **建平**(たけひら・岩坂いわさか/本姓;大神、)1825-?　豊前宇佐郡宇佐八幡宮祠官、
神道/国学;平田鉄胤門、
[建平(;名)の初名/通称]初名;豊平、通称;連/左衛士

02670 **孟綽**(たけひろ・川名かわな、半蔵男)1732-73*42*　安房の人/江戸の本多因幡守守能の児小姓、

1751すぎ致仕;各地遍歴/読書・詩作;筆耕で生計(筆耕林助と称す)、1762上方の旅、
1766高野山に隠棲/67江戸に戻る、平秩東作・平賀源内・大田南畝と交流、
「大東詩源」「日東名勝集」「萍遊漫稿」「南山詩稿」「選詩礎」著、「嶠園文稿」校訂、
[孟綽(;名)の字/通称/号]字;仲裕、通称;林助/筆耕林助、号;南条山人/独鈷山人/東海狂生
武熙(たけひろ・榎倉/福井)→ *端隠*(たんいん・福井/度会/榎倉、神職/篆刻)Ｔ２６１５
武広(たけひろ・松前)　→　*公広*(きんひろ・松前まつまえ、藩主/連歌)　Ｒ１６７２
武啓(たけひろ?・今成)　→　*慮呂*(廬呂りょろ・今成、商家/俳人)　Ｊ４９８３

02671 **建房**(たけふさ・万里小路までのこうじ、文房男/本姓;藤原)1780-1846*67*　廷臣;1814参議/24権大納言、
賀茂下上社伝奏/右衛門督/使別当/按察使を歴任/1831致仕・35本座を聴される/46従一位、
1800-03「建房卿記」1811「例幣発遣当日備忘」17「賀茂祭当日備忘」30「和歌御会奉行記」著

02672 **孟文**(たけふみ・武田たけだ、号;峨眉山樵)?-?　長崎の洋学者、1813石崎融思「全象活眼」に詩文、
1804「俄羅斯亜雑話」編

V2615 **武文**(たけふみ・白玖はく/しらく、)1791-1861*71*　讃岐那珂郡大麻村大麻おおさ神社の神主、歌人、
詩歌;奈良松荘(広波)門、国学・歌・神道;小寺清先門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
[武文(;名)の別名/字/通称/号]別名;五十橿麿、字;厳敬、通称;大膳/山城正、
号;賢木園/茂林埜

W2676 **武章**(たけふみ・菊池きくち、)？－1883　陸奥盛岡の儒者/国学者、
[武章(;名)の通称/号]通称;仙助、号;長閑

W2646 **武文**(たけふみ・糟谷かすや/加須屋、)1822or23-87*66or65* 伯耆汗入郡の生/因幡鳥取藩士、国学者、
1854(嘉永7)藩命で水戸の福地政次郎に砲術を修学、
1863(文久3)尊攘派同志と黒部権之助ら重臣を殺害/戊辰戦だは新政府軍参加;関東転戦、
維新後;氏殿(名和)神社禰宜、
[武文(;名)の初名/通称/号]初名;末枝ほつえ、通称;右馬允うまのじょう、号;白頭

V2693 **武文**(たけふみ・榎倉えのくら)1839-1890*52*　伊勢度会郡の神職;外宮権禰宜、
国学・歌人、
[武文(;名)の通称]通称;右近

E2650 **建冬**(たけふゆ・巨勢こせ、別名;槇麿)1783-1814*32* 江戸の生/摂津武倉の国学者;本居大平・大秀門、
1812田中大秀おおひでと竹取物語注釈を論議、書;加藤千蔭門、
[建冬(;名)の通称/号]通称;多計志たけし、号;、緑蔭

E2651 **武兵衛**(たけべえ・高橋たかはし)?-　?　浄瑠璃作者、
1785「伽羅先代萩」初世松貫四・吉田角丸と合作

W2600 **武雅**(たけまさ・小野おの、)1651-　1706*56*　江戸の幕臣;大番/国学者、
[武雅(;名)の通称]　源之助/甚右衛門/又右衛門

Z2697 **武眞**(たけまさ・籾木もみき、)1672-1741*70*　日向佐土原藩の儒者;藩儒、
藩命で京の矢野拙斎(1662-1732)門;崎門学修学、帰藩;家塾の教授;実践躬行を旨とす、
1741(寛保元)没、
[武眞(;名)の通称/号]通称;与左衛門、号;常燈軒or常証軒

02673 **孟雅**(たけまさ・臼井、本姓;平)?-　?　江中後期神道家;神祇学頭管領、
1785「神武紀秘解」、1807「神代巻深旨提要」、「日本書紀神代巻講義」「神国群疑辨」著

W2634 **猛雅**(たけまさ・奥おく、)　1732　－　1802*56*　安藝広島藩士、砲術家;代々砲術・火薬製造で出仕、
1747(16歳)騎馬筒20丁制作;銃師として銃器の改良・火薬の研究に専念、
津田自由斎正勝門;津田流を修学し一貫流の祖となる、満雅みつまさの父、
[猛雅(;名)の通称/号]通称;弥兵衛、号;楳明ばいめい/雪中庵

Y2663 **孟政**(たけまさ・中村なかむら、政善男?)1783-1850*78*　備後鞆浦の酒造業;代々保命酒製造/6代目、
歌人;木下幸文門、妻;此子このこ(旧姓;高戸/木下幸文門歌人;同門)、政憲まさのりの父、
[孟政(;名)の通称/号]通称;吉兵衛(代々の称)、号;聴雨/応雅/二時庵/朝宗亭

E2652 **建正**(たけまさ・本居もとおり、大平おおひら男)1788-1819早世*32* 伊勢松坂の国学者;家学修学、
1809父と紀伊和歌山住、1815(28歳)本居春庭の養嗣に内定/医術を修得;志半ばで没、歌人、
「月見のことば」「本居建正家集」「本居建正詠草」「遊巌記」/1809「鈴屋翁随筆抜書」著、
1816「藤のかきつの歌巻のはし詞」著、父の大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌・短歌入、

［花ぐはし 桜の花は 玉ならば あはび白玉 衣ならば きぬの照妙 あやにあやに
うらぐはしもよ 桜の花は］(八十浦;733/桜の花)、
［建正(;名)の幼名/通称］幼名;常松、通称;靱負/万麿/兵衛、清島きよしま・永平ながひらの兄

02674 **武正**(たけまさ・指田さしだ) ？－ ？ 江中期丹後宮津藩士:藩命で府志編纂、
1761「丹後州宮津府志」著

V2633 **武政**(たけまさ・安養寺あんようじ、通称:頼母)1718-92*75* 大和郡山藩士/国学者

02675 **武雅**(たけまさ・森岡もりおか、清兵衛俊清男/本姓;源)?-1816 備中庭瀬藩士/儒者/詩人、
「継志百絶」著(1859刊)、
［武雅(;名)の字/通称/号］字;伯圭、通称;五郎左衛門、号;延璋、法号;義正院

02676 **剛正**(たけまさ・寺田てらだ、別名;剛、寺田総七郎秀雄男)1808-77*70* 高知藩士/仕置役;
藩政推進の中心;藩主山内容堂の側用人/安政大獄で藩主隠居し免職/1862再登用;仕置役、
佐幕派の巨頭として活動/1867討幕計画に連署組を組織し反対運動、1850「耿光遺範」編、
［剛正(:初名)の字/通称/号］字;子兼、通称;左右馬、号;志斎 、典膳の父

Y2686 **武正**(たけまさ・庭山にわやま、)1843-1918*76* 播磨姫路藩士、国学者;好古堂に修学、
国学・歌;秋元安民門/国学・神道;矢野玄道門、射楯兵主いたてひょうず神社祠官、
神社来歴・風土記など古典考証に通ず/子弟教育

武雅(たけまさ・菊池) → *半隠*(はんいん・菊池、儒家、耕斎男) Ｈ３６２２
武正(たけまさ・中野) → *武信*(たけのぶ・中野なかの、藩士/歌人) Ｙ２６６１
武正(たけまさ・大原) → *山清*(さんせい、大原おおはら、神職) Ｍ２０４５
武賢(たけまさ・菊池) → *黄山*(こうざん・菊池きくち/増田、儒者) Ｊ１９２１
猛正(たけまさ・市岡) → *和雄*(にぎお・市岡、儒者/歌人) ３３１３
武俣(たけまた・佐々木) → *蘆臣*(あしおみ・佐々木ささき、藩士/歌人) Ｈ１０６３
武松(たけまつ・有沢) → *師貞*(もろさだ・有沢ありさわ、藩士/軍学) Ｈ４４２１
竹松(たけまつ・御供屋/大鳥居)→*信兼*(しんけん・大鳥居/菅原、社僧/連歌)Ｏ２２１１
竹松(たけまつ・依田) → *正純*(まさずみ・依田よだ、国学/歌人) Ｐ４０５２

02677 **竹丸**(たけまる・青蓮舎、別号;水雲)?-? 江後期詩文・歌・俳人、「忍艸」著

2716 **武麿**(たけまろ・山田やまだ、)1774-1830*57* 陸奥盛岡の神職;三輪家入門、多賀明神別当、
歌人、1830(文政13)没、
［武麿(;名)の初名/通称/号］初名;吉穂、通称;伊豆、号;霞橋/霞雲/桃林亭

V2616 **武麿**(武麻呂たけまろ・小橋こばし)1780-1864*85* 備中下道郡麻佐岐まさき神社の神官、神主の弟、
国学・歌;平賀元義の美作楯之舎塾入門、1857-58大沢深臣「巨勢総社千首」入、
［武麿(;名)の通称/号］通称;虎(甫)三郎/三郎、号;麻佐岐蔓の舎

U2667 **武麿**(武麻呂たけまろ・安藤あんどう)?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
［賤の女は田刈り稲こぎいとまなみあかつきかけて衣打つなり］、
(大江戸倭歌;秋973/暁擣衣)

建麿(たけまろ・青柳) → *高鞆*(たかとも・青柳あおやぎ、国学者) Ｄ２６２８
武麿(武満たけまろ・有馬)→ *正義*(まさよし・有馬/坂木/榊、藩士/勤王)Ｉ４０７０
竹麻呂(たけまろ・奥村) → *栄通*(てるみち・奥村、藩士/文筆) Ｃ３０９６

02678 **武道**(たけみち・杉すぎ、重道男/本姓;平)?-? 室町後期;周防大内氏の家臣、
筑前嘉穂郡長尾の領主、1483頃寺社奉行/99正平版「論語集解」を覆刻、
連歌:1478「文明十年十月十三日暁天夢想百韻」、
［武道(;名)の通称］ 勘解由左衛門尉かげゆさえもんのじょう

E2653 **建通**(たけみち・久我こが/本姓源、関白一条忠良男)1815-1903*89歳* 母;細川治年の女美子、
久我通明の養嗣子、廷臣;1848権大納言/62内大臣、公武合体斡旋奔走、
落飾し隠居/67還俗/賀茂社大宮司、宮内省宸翰御用掛/大教正、歌;千種有功ありこと門、
1851「千種有功卿家集」編/「歌道消息」、「久我家記」「建通公記」「久我大納言建通卿詠草」、
「久我大納言建通卿百首」著、1861松平春嶽「古今百人一首」入、
［池の名の広きをおのが心とや立ちも騒がで遊ぶ芦鴨］(古今百人一首;29)、
［建通の号］ 翁君おうくん/既酔、素堂(;落飾後)、法号;紹徳院

Y2612 **古道**(たけみち・館森たてもり、)1830-1885*56*　陸奥本吉郡赤岩村の郷儒、
国学/歌;本田春雄門/儒・歌;保田光則門、袖海しゅうかい(万平、漢学者)の父、
[古道(;名)の別名/通称/号]初名;守光、通称;与右衛門、号;嵓屋がんおく/臥雲

02679 **武盈**(たけみつ・毛野けの/下毛野、通称;鶴次郎)?-?　播磨赤松家の家臣、台所向用人?、
1574「置塩夜話」著

竹光(たけみつ・柳原)　→　*柳原竹光*(やなぎはらのたけみつ、狂歌)　Ｅ４５５６

02680 **武岑**(たけみね・小山こやま、久野岡右衛門広郷男)1796-1870*75* 小山公範(武矩たけのり男)の養子、
熊本藩士;1831家督;使番/江戸留守居役/郡代/目附/1850奉行本役/52用人/63致仕、
古書筆録:「橘園叢書」編、「橘葉集」「富士日記」「繕写斎諸書抜粋」著、
[武岑(;名)の通称/号]通称;権八郎/門喜、号;閑山、法号;随法院

2622　**竹向**(たけむき、日野ひの資子/名子、日野資名すけな女、西園寺実俊さねとし母)?-1358 鎌倉南北期日記作者、
後伏見院の女房、1331光厳天皇即位の時に褰帳けんちょうの典侍/32光厳天皇の乳母、
1333西園寺公宗きんむねの妻、35公宗が誅殺され隠棲;遺子実俊を出産・養育、西園寺家を守る、
1329-49日記「竹むきが記」、歌;新千載1603、日野時光・宣子の姉妹、
[忘れじよわれだに人の面かげを身にそへてこそかたみともせめ](新千載;恋1603)、
[竹向(;通称)の女房名]　中納言典侍ちゅうなごんのすけ

02681 **武宗**(たけむね・土山つちやま、小佐治光文男)1822-? 土山武辰の孫/土山武錫の養嗣子、
廷臣;近衛府官人/1836右将監/43主膳守/46右近府年預、1845-1868「土山武宗日記」著

02682 **武元**(たけもと・秦はた)　？－　？　室町末戦国期の武将/出羽守、
兵法;大江元綱門/大江家伝兵法を伝受;橘正豊に伝授、「大江元綱家伝兵法」編、
「大江元綱口授兵法末篇兵談」「軍監十書」編、1596頃「一領具足修羅前引付」著、

02683 **武固**(たけもと・荒木田あらきだ)?-　？　江初期;伊勢内宮の権禰宜、
歌人;1683私撰「濁源集」編

02684 **武元**(たけもと・木曽きそ)　？－　?1732以後没 江中期下野那須郡湯津上の郷士史家、文武両道、
晩年岩船の臨川亭に隠棲;那須記の資料蒐集/補遺を作成;1818「那須拾遺記」著、
[武元(;名)の通称/法号]通称;長次郎、法号;浄慧覚連

全故(たけもと・柏木)　→　*素龍*(そりゅう・柏木/藤原、書家/歌/俳)Ｅ２５５０
武元(たけもと・松平)　→　*武元*(たけちか・松平、藩主)　Ｏ２６４５
孟固(たけもと・野村)　→　*重威*(しげたけ・野村のむら、藩士/詩歌)　Ｒ２１２８

T2669 **竹許直也**(たけもとのすぐなり)　？－　？　狂歌;1787「才蔵集」入;434、
[小夜更けていぬかと叩くねやの戸は聞きおぼえたる君が足音](才蔵;434寄犬恋、
居ぬと犬を掛る/聞きおぼえたるは犬が主人の足音を聞き知ることを掛る)

X2608 **彪衛**(たけもり・高坂こうさか、)？－ 1889　信濃伊那郡の国学者;平田鉄胤門

T2670 **竹門直也**(たけもんのすぐなり)　？－　？　狂歌;1787「才蔵集」入;408、
[筆のあや襷たすきかけて廻らねば流しめもとぞ働かれぬる](才蔵;408下女恋、
筆の文と綾襷を掛る/流し目元と流しもと[作業場]を掛る、
;筆力がないので襷掛けし流し目で思いを働かせる)

W2677 **武康**(たけやす・菊池きくち、浅井一政[今木源右衛門]2男)1637-1718*82* 菊池武直の養子;十六郎名、
加賀金沢藩士、前田綱紀に出仕/人持組、禄3千2百石、御算用場奉行/公事場奉行、
江戸留守居役など重職を歴任、氷見菊池一族の出世頭、
国学者/歌、浅井政右(1624-91/歌学/連歌)の弟、
[武康(;名)の通称/号]通称;弥八郎/十六郎、号;秋厓/遠月亭

N2655 **武泰**(たけやす・高田たかだ/本姓;荒木田、亀田末盛男)1765-1833*69歳*　伊勢度会の神職、
高田左門の養嗣子;伊勢内宮権禰宜/正五下、国学;本居春庭門/歌人、
1824「荒木田姓近系」編/「伊勢仮服令指掌」「二宮紀年」著、
[武泰(;名)の別名/通称/号]別名;末博/末晨/末恭、通称;少進、号;豊章

02685 **武保**(たけやす・佐野さの、満武男)?-1835　岩代二本松藩士/17歳で小姓/郡代、
藩命で「世臣伝」編纂;完成後に致仕、
[武保(;名)の通称/号]通称;権之進ごんのしん、号;特叟、法号;玄受院

02686 **武泰**(たけやす・好文堂)　？－　？　江戸期歌人、家集「詠艸」著

B2613 **武保**(たけやす・菊池きくち、)1826-1886*61歳* 伊予宇和郡の生/八幡浜で荒物商/文筆家、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[けさ見れば時雨は晴れて白雲のむらむらかかる葛城かづらきのの峰]、
(大江戸倭歌;冬1046/冬の初め吉野山にて)、
[武保(;名)の通称/号]通称;治右衛門/治平、号;鬼外/楠後亭なんこうてい
武保(たけやす・菊池)　→　*容斎*(ようさい・菊池、武保、幕臣/絵師)　４７９５
竹藪(たけやぶ・坂上)　→*坂上竹藪*(さかのえのたけやぶ、安藤喜兵衛/狂歌)Ｇ２０１８

02687 **孟行**(たけゆき・中口なかぐち、号;美斎)?-?　幕末期紀伊の蘭学者:電気鍍金実験を行う、
「瓦爾華尼鍍金略説」著

X2687 **猛之**(たけゆき・田中たなか、旧姓;山村)?-1877　加賀金沢藩士田中躬之の養子/金沢藩士、
国学;養父躬之門、藩校明倫堂国学講師、
[猛之(;名)の通称/号]通称;外衛/兵庫(養父の称)、号;菊園(養父の称)

Y2604 **武之**(たけゆき・高橋たかはし、本姓;紀)1813-84*72*　京大宮松原北の医者(蘭医)、歌人;八田知紀門?、
[武之(;名)の字/通称/号]字;翠叟、通称;量平、号;日渉園

2795 **竹良**(たけよし/たけら・大伴おおとも、)?-?　奈良後期廷臣/遣唐判官大伴継人つぐひとの兄弟、
785(延暦4)長岡京で藤原種継を大伴継人・佐伯高成らと射殺/竹良らと処刑;斬首、
事件直前に没の大伴家持は首謀者として連座し官籍より除名、のち806赦免

02688 **武慶**(武吉たけよし・村上むらかみ/通称;掃部かもん)1533?-1604*72?* 戦国期武将;水軍一品流の祖、
伊予の能島のしまを本拠、来島・因島の村上一族を統括:船団を形成/元就・隆景の家臣、
1600西軍として伊予を攻める;嫡男元吉の戦死/敗北、屋代島(周防大島)に隠棲、
「伝家海賊古法」(因島吉充・村上景継と共編)、「軍船水学集」著

02689 **武好**(たけよし・大島おおしま、通称;求馬)1641-1710*70* 山城鳥羽の菓子商/官家に出仕;1704左馬少允、
正六上、地誌家、貝原益軒と交流、1705「山城名勝志」著

02690 **孟懿**(たけよし・笠原かさはら)？－　？　江中後期宝暦天明1756-89頃幕臣;幕府与力、
歌人:常陸笠間藩主牧野貞喜邸の歌会に参加、「擣衣」「ならの葉」著、
1788(天明8)幕臣の成島衡山(峰雄)の駿河旅に餞歌;「富士日記」入、1788広通「霞関集」入、
[旅衣さむき折しも富士の根の雪を見んとや思ひ立つらん]、
(富士日記;冒頭歌/雪に裄を掛る/衣・裁つは縁語)、
[小田近く馴れにし鹿も長き夜の明けゆくのちの声ぞはるけき](霞関;秋432/鹿声遙)、
[孟懿(;名)の通称]　長蔵/与惣右衛門

W2639 **武義**(たけよし・加須屋かすや、本姓;岩越)1793-1865*73* 因幡鳥取藩士;目付/側役、
国学者:衣川長秋(きぬがわながあき)門/歌人、
[青うな原浪よりかけてまさこちに夕月かがやく濱坂の里]、
(沖探容画の因幡八景;濱坂夕照)、
[武義(;名)の通称/号]通称;鈴蔵/平允、号;松屋/松斎/松亭/宗州

W2678 **武侯**(たけよし・菊池きくち、藤右衛門武穀男)1795-1839*45* 陸奥盛岡藩士;1821(文政4)出仕、
1829(文政12)家督継嗣、1833(天保4)用人格/37御傍兼帯御用人、国学者/俳人、
1824「鉛温泉浴中之記」著、「扈従衛士録」「古今甲冑威毛目口決考証」著、
[来る秋も水のおもてを行夏も][心するハ温泉に有とても魂祭](;鉛温泉浴中之記)
[武侯(;名)の字/通称/号]字;孟烈、通称;啓作、号;仙斎/四凌堂

C2690 **武美**(たけよし・菊地きくち)　？－　？　江後期仙台藩士、儒;経史;新井滄洲門、景山居合術・
西法院兵法を修得/伊勢家礼式に精通、「続論語」「大学訓義」著、
[武美(;名)の通称/号]通称;久太夫/久太左衛門、号;東渓/東門
武嘉(たけよし・柏木/大塚)→　*丈水*(じょうすい・大塚/柏木、俳人)　Ｋ２２１６

Q2677 **武因**(たけより・荒木田あらきだ/家名;榎倉えのくら、武晴男)1660-1711*52* 伊勢内宮禰宜/正四下、
連歌;里村昌億門/茶;杉本普斎門/能楽を嗜む、「濁源集」編、
[武因(;名)の通称/号]通称;権次郎/靱負、号;白鷗軒/廬庵
竹良(たけら・大伴)　→　*竹良*(たけよし/たけら・大伴おおとも、廷臣/種継乱)２７９５

E2655 **建王**(たけるのみこ、天智天皇皇子)?-658　祖母齊明による挽歌6首(書紀;齊明紀入)

柁軒(だけん・牧野)　→　*成憲*(なりのり・牧野まきの、藩士/奉還論)　Ｉ３２０１
兌健(だけん・岩崎)　→　*兌健*(としたけ・岩崎いわさき/藤原、神職/国学)Ｕ３１２９
太源治(たげんじ・湯沢)　→　*重眞*(しげさね・湯沢ゆさわ、名主/歌人)　ａ２１０５
蛸池天国(たこいけてんごく)　→　*篠野玉湧*(しののたまわく、書肆、狂歌)　Ｆ２１４２
多幸(たこう・大江)　→　*挙周*(たかちか・大江、漢学者/詩人)　Ｃ２６９６
兌孝(だこう・大寄)　→　*兌孝*(ときたか・大寄おおより、農家/富士講)Ｕ３１３８

02691 **它谷**(蛇谷だこく)　？－1792　江中期摂津福原の俳人/兵庫松屋町住;医業?、
1761蕪村「明和辛卯書」入、「松間洞句集」著、嘯山・士川と親交、
[它谷(;号)の通称/別号]通称;元竜、別号;松間堂/松間洞/蛇谷(;再度山蛇谷に因む)
田毎月丸(たごとのつきまる)　→　*月丸*(つきまる・田毎、狂歌)　２９０３
多胡石文(たこのいしぶみ)　→　*老平*(としひら・土屋つちや/武居、歌/史家)Ｖ３１７７

T2667 **凧糸女**(たこのいとめ)　？－　？　狂歌;1787「才蔵集」入、
[初鰹値ねもたかだかとよばふなり脇眼もふらず足をばかりに](才蔵;126、
高値で大声で触れ回りながら売り歩く/足をばかりに;足の及ぶ限りに)
たこ風外(たこふうがい)　→　*本高*(ほんこう;法諱・風外;道号、曹洞僧/絵師)Ｆ３９３３

02692 **太宰**(だざい・河瀬/川瀬かわせ、膳所藩家老戸田資能男)1819-66処刑*48歳*　池田法眼恭雄の養子、
1850池田家の実家河瀬家の姓を名乗る、儒者;黒田梁洲門/養父を継承し聖護院宮に出仕、
尊攘派/膳所藩に建白書を提出;海防の急を主唱、諸藩の志士と交流;妻と同志を匿う、
1864(元治元)禁門の変で敗走の長州藩士への救済助力を画策中に65新撰組に捕縛;
翌年京で斬首、妻の幸こう(幸子)は1865(慶応元)逮捕の時に自刃、
「江州掌図」「日彰表」「辺海築長城議」「近世史略」著、
[太宰(;通称)の幼名/名/字/号]幼名;外也、名;能安/定、字;静甫/子静、
号;狂庵/含秀軒/采釣さいちょう亭、変名;尾川秀軒
太宰(だざい・小野)　→　*顕栄*(あきひで・小野おの、神職/国学)　Ｈ１０１８

E2656 **大宰員外**(だざいのいんがい)　？－　？　万葉歌人・五847・848(故郷を思ふ歌;梅花歌32首の後)
(員外はつまらない歌の意)
[次の３説あり]
→　①*憶良*(おくら)　１４１５
→　②*旅人*(たびと)　２６４７
→　③*陽春*(やす・麻田)　４５０４
大宰帥大伴卿(だざいのそちおおとものきょう)　→　*旅人*(たびと・大伴)　２６４７
大宰帥大伴卿之妻(だざいのそちおおとものきょうのめ)→　*大伴郎女*(おおとものいらつめ)　１４０５

02693 **太左衛門**(たざえもん・小野おの)?-　？　江前期;陸前柴田郡村田の領主の家臣、
「清悦物語」著(;南部叢書入)

E2657 **多左衛門**(たざえもん・初世小川おがわ、名;方淑、本姓;茨城)?-1701　京六角通の書肆、
1685「新編鎌倉志」著

E2658 **多左衛門**(たざえもん・2世小川、名;信清/方道、本姓;茨城)?-?　江中期京六角通の書肆、
益軒の著書を出版し産をなす、「日本三景図」「義公教令」著、1721「吾嬬路記」編、
[2代目多左衛門(;通称)の号/屋号]号;柳枝軒、屋号;小河屋
太左衛門(たざえもん・井上)→　*重成*(しげなり・井上いのうえ、幕臣/連歌)　Ｒ２１８５
太左衛門(たざえもん・田坂屋)→　*正伴*(まさとも・吉井、和漢学/神道)　Ｅ４０７２
太左衛門(たざえもん・清水)→　*宣昭*(のりあき・清水しみず、商人/国学)　Ｅ３５２０
太左衛門(たざえもん・宮崎)→　*荊口*(けいこう・宮崎みやざき、藩士/俳人)　１８５２
太左衛門(たざえもん・宮崎)→　*此筋*(しきん・宮崎、荊口男/藩士/俳人)Ｂ２１６７
太左衛門(たざえもん・堀江)→　*顕斎*(賢斎けんさい・堀江、名主/地誌)　Ｉ１８９９
太左衛門(たざえもん・浅野)→　*栄足*(よしたり・浅野、能楽師/能楽研究)Ｅ４７４３
太左衛門(たざえもん・中村)→　*蔽石*(こうせき・中村なかむら、里正/俳人)　Ｋ１９０７
太左衛門(たざえもん・宮本)→　*李峰*(りほう・宮本/五味/浜中、俳人)　Ｃ４９５２
太左衛門(たざえもん・綿屋)→　*魯白*(ろはく・佐藤さとう、商人/俳人)　Ｃ５２３２
太左衛門(たざえもん・野田)→　*広足*(ひろたり・野田のだ/菅原/大塚、里正/国学)Ｊ３７０２

太左衛門(たざえもん・屋代)→　*大軒*(たいけん・屋代やしろ、藩士/書家)　Ｊ２６８１
太左衛門(たざえもん・吉山)→　*壽安*(じゅあん・吉山/明石、儒者/詩)　Ｗ２１４７
太左衛門(たざえもん・荒巻)→　*方昌*(かたまさ・荒巻あらまき、藩士/歌人)　Ｔ１５４５
太左衛門(たざえもん・吉田)→　*翠屏*(すいへい・吉田よしだ、農業/儒者)　Ｅ２３９５
太左衛門(たざえもん・宮地)→　*厳雄*(いづお・宮地みやぢ/手島、神職/故実)Ｋ１１７１
太左衛門(たざえもん・矢野)→　*昭徳*(あきのり・矢野やの、藩士/国学者)　Ｉ１０５９
太左衛門(たざえもん・湯沢)→　*重眞*(しげさね・湯沢ゆさわ、名主/歌人)　ａ２１０５
多左衛門(たざえもん・黒沢)→　*元重*(もとしげ・黒沢/上曾、藩士/歌)　Ｃ４４６０
多左衛門(たざえもん・加藤)→　*大弐*(だいに・加藤かとう、藩家老/儒者)　Ｂ２６９７
多左衛門(たざえもん・長久保)→ *暘谷*(ようこく・長久保ながくぼ/長、儒者)４７８３
多左衛門(太-たざえもん・奥山)→*正胤*(まさたね・奥山おくやま/藤原、国学者)Ｏ４０６４
太左衛門尉(たざえもんのじょう・井上)→ *重成*(しげなり・井上、幕臣/連歌)Ｒ２１８５
他三郎(たさぶろう・谷口/加藤)→*東郡*(とうぐん・加藤/修姓;滕とう、儒者)Ｄ３１００
他三郎(たさぶろう・松野;変名)→　*松陰*(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育)２１６７
多三郎(たさぶろう・歌川)　→　*国房*(初世くにふさ・歌川うたがわ、絵師)　Ｄ１７１６
多三郎(たさぶろう・升屋、料理店)→　*黄金升成*(こがねますなり、狂歌)　Ｌ１９９３

02694 **他山**(たざん・平尾ひらお、名;信従/順、力丸元右衛門男)1766-1840*75*　平尾家の養子/美濃岩村藩士、1778家督;岩村藩郡奉行;藩領駿河飛地支配、儒者;大田錦城門、儒学月次講釈/藩校教授、詩文に長ず;826「他山近体詩稿」、「本朝二賢伝」「本朝四君子三賢小伝」著、
[他山(;号)の字/通称]字;徳卿、通称;覚之助/鍬蔵、　信左衛門の祖父

E2659 **它山**(たざん・堤/塘つつみ、修姓;唐、名;公愷こうがい)1783-1849*67*　越前大野藩士/致仕;江戸若松町住、儒/詩;大田錦城・佐藤一斎門、1829姫路藩江戸学問所で教授/33藩校支校仁寿山黌で教授、1824「橐駝たくだ考」28「教学辨」著/40錦城「梧窓漫筆」第3篇編集、「它山文草」「稚松沾筆」著、「清画録」「它山詠物詩」「旧聞新識」「評錦繍段」「蒙求啓発」「論語折衷」「它山存稿」外著多数、
[它山(;号)の字/通称/別号]字;公甫、通称;鴻之佐こうのすけ/鴻佐、別号;稚松亭

E2660 **他山**(たざん・工藤くどう、名;貢直/主善/貢士/斐彝、古川儒伯男)1818-89*72*　弘前藩士/工藤家の祖、藩校修学/江戸の朝川善庵門/大阪の篠崎小竹門、1851帰郷;藩校稽古館教授、私塾思斎堂を開塾/のち東奥義塾教授、集太・外崎覚の父、
「他山文鈔」「深山の桜」著、編年史「津軽藩史」編纂、
[他山(;号)の字/通称/別号]字;温克、通称;富太郎、別号;拙斎/坦々斎/思斎堂/梨窓陳人

鮀山(だざん・山村)　→　*良啓*(よしひろ/たかひら・山村やまむら、代官/和学)Ｐ４７９３
他山楼(たざんろう・山口)　→　*石室*(せきしつ・山口やまぐち、篆刻家)　Ｋ２４１３
多子(たし・藤原/二条后)→　*近衛太皇太后宮*(このえのたいこうたいごうぐう、歌)Ｄ１９５０
多二右衛門(たじえもん・川上)→　*文和*(ぶんわ・川上かわかみ、医者/俳人)Ｇ３８８８
太次右衛門(たじえもん・寺山)→ *用英*(もちひで・寺山てらやま、藩士/歌人)Ｋ４４６７
多識堂(たしきどう)　→　*春水*(しゅんすい・福井ふくい、本草家)　Ｌ２１２０
多七(たしち・山田)　→ *近房*(ちかふさ・山田/金子、藩士/郷土史家)Ｂ２８７６
田七(たしち・秋岡)　→　*籬亭*(りてい・秋岡、素菊、本屋/歌人)　Ｃ４９１８

E2662 **丹比大夫**(たじひのたいふ、名不詳)?-　?　万葉歌人3625-26(亡き妻を悽愴する歌)、
[たづが鳴き芦辺をさして飛び渡るあなたづたづし独りさ寝ぬれば](万;3626反歌)

E2661 **丹比真人**(たじひのまひと、真人;姓/名不詳)?-?　万葉歌人226:人麻呂自傷歌への報歌、万葉1609・1726の歌人と同一人か?
[荒浪に寄り来る玉を枕に置き我あれここにありと誰か告げけむ](万;226;
瀕死の人麻呂の心中を察して代って依羅娘子の歌に和す歌)
[宇陀の野の秋萩しのぎ鳴く鹿も妻に恋ふらく我には益さじ](万;1609)
丹比大夫/丹比(多治比)真人については諸説あり

→ *池守*(いけもり、大納言、?-730)　Ｆ１１３９
→ *県守*(あがたもり、太宰大弐/参議、668-737)１０５８
→ *広成*(ひろなり、遣唐大使/中納言、?-739)Ｇ３７６３

→ *広足*(ひろたり、参議/中納言、681-760)　Ｇ３７３１
→ *笠麻呂*(かさまろ、?-?、筑紫在)　１５１５
→ *三宅麻呂*(みやけまろ、721参議、?-?)　Ｆ４１９１
→ *屋主*(やぬし、備前守/池主男、?-760)　Ｄ４５９３
→ *乙麻呂*(おとまろ・屋主男/765従五下?-?)１４９４

E2663 **太次兵衛**(たじべえ・宇出津村うしつむら)?-?　能登鳳至郡宇出津うしつ村の庄屋(肝煎)、
1812「能州宇出鯨猟図絵」著

E2664 **但馬**(たじま・承香殿じょうきょうでん)?- ?　平安前期女房歌人、
醍醐天皇女御承香殿源和子(?-947/光孝天皇皇女)の女房、
歌人、藤原仲文[923-992(or908-978)]との贈答歌(仲文集入)

E2665 **但馬**(たじま・規子内親王家)?-　?　平安前期歌人、
規子きし・のりこ内親王(949-986村上天皇皇女)家女房、
972(天禄3)女四宮[規子内親王家]歌合(野々宮歌合)参加(;但馬の君)、続古379、
[あさぢふの露吹き結ぶこがらしに乱れてもなく虫の声かな](女四宮歌合/続古今379)
☆袋草紙にこの歌に対する逸話入

02695 **但馬**(たじま、藤原能通よしみち女)?- ?　平安後期:藤原範永の妻/藤原良綱の母、
1056(天喜4)四条宮(皇后宮)春秋歌合[女四宮歌合・野宮歌合]参加(;範永妻/夫と参加)、
続詞花集入、
[花ならでをらまほしきは難波江の芦の若葉にふれるしら(あは)雪]、
(天喜4年4月30日四条宮歌合;17)
[浅茅生の露ふきむすぶ木枯にみだれても鳴く虫の声かな](続詞花;秋245/野宮歌合)

02696 **但馬**(たじま、藤原経房家女房)?- ?　平安後期/歌人;1186文治二年経房家歌合参(右方)
[そのかみのながれのすむに川竹のこのきみのよや久しかるべき](経房家歌合;16)

E2666 **但馬**(たじま・藻璧門院、源家長女)1187?-? 1266存　後堀河天皇中宮竴子じゅんし(藻璧門院)の女房、
鎌倉期歌人;1232石清水若宮歌合参、32洞院摂政(教実)家百首、48宝治御百首参加、
勅撰18首;新勅撰(4首103/348/399/915)続後撰(3首)続拾(2首)続千(470)続後拾(845)以下、
父家長も兄弟の家清も歌人,
[たづねばや峰の白雲はれやらでそれとも見えぬ山桜かな](新勅;春103/中宮但馬名)

02697 **多治満**(たじま・村井むらい、名;嘉伝/貞弘、作之允男)1769-1838*70* 熊本藩士;1776家督/番士/歩隊長、
摂船戦法・砲術の師範、1829「村井多治満上書」著、
[多治満(;通称)の法号]　誠心院

但馬(たじま・中宮)　→　*但馬*(たじま・藻璧門院女房)　Ｅ２６６６
但馬(たじま・角田)　→　*忠守*(ただもり・角田つのだ、神職/暦学)　Ｒ２６０４
但馬(たじま・竹尾)　→　*正躬*(まさとも・竹尾/本姓;大江、神職)　Ｅ４０７６
但馬(たじま・桑折)　→　*宗頼*(むねより・桑折こおり/くわおり、家老/歌)Ｄ４２８０
但馬(たじま・青井)　→　*水雄*(みずお・青井あおい、神職)　Ｈ４１９８
但馬(たじま・齋木)　→　*巌*(いわお・齋木さいき/藤原、神職/国学)　Ｋ１１２８
但馬(たじま・菅)　→　*良弼*(よしすけ・菅、良史男/藩士/歌人)　Ｎ４７４３
但馬(たじま・清家)　→　*直光*(なおみつ・清家せいけ、神職/歌人)　Ｎ３２５５
但馬(たじま・平山)　→　*道訓*(みちのり・平山ひらやま、神職/国学)　Ｋ４１２６
但馬(たじま・島田)　→　*久逵*(ひさみち・島田しまだ、国学/歌人)　Ｊ３７８０
但馬(たじま・松尾)　→　*相永*(すけなが・松尾まつお、廷臣/尊攘)　Ｊ２３２６
但馬阿闍梨(たじまのあじゃり)→　*契中*(けいちゅう;法諱・常寂房、天台僧)Ｇ１８３５
但馬守(たじまのかみ・柳生)→　*宗矩*(むねのり・柳生やぎゅう、藩主/剣術)　Ｃ４２１９
但馬守(たじまのかみ・八木)→　*豊信*(とよのぶ・八木やぎ、武将/藩士/歌)　Ｗ３１７４
但馬守(たじまのかみ・浅野)→　*長晟*(ながあきら・浅野あさの、藩主)　Ｋ３２７９
但馬守(たじまのかみ・上田)→　*重秀*(しげひで・上田うえだ、馬術家)　Ｓ２１３９
但馬守(たじまのかみ・藤木)→　*宣直*(のりなお・藤木ふじき、神職)　Ｆ３５２８
但馬守(たじまのかみ・藤井)→　*高久*(たかひさ・藤井ふじい/藤原、神職/歌)Ｈ２６９８
但馬守(たじまのかみ・藤井)→　*高豊*(たかとよ・藤井/大中臣、高久孫/神職/歌)Ｍ２６５０

但馬守(たじまのかみ・布施)→ *吉知*(よしとも・布施ふせ、神職) Ｆ４７０３
但馬守(たじまのかみ・岩城)→ *隆韶*(たかつぐ・岩城いわき/伊達、藩主/学問)Ｖ２６７２
但馬守(たじまのかみ・遠藤)→ *胤統*(たねのり・遠藤えんどう、藩主/幕政参画)Ｕ２６３８
但馬守(たじまのかみ・松平)→ *親貴*(ちかとう・松平まつだいら、藩主/歌人) Ｌ２８５７
但馬守(たじまのかみ・春日)→ *延重*(のぶしげ・春日かすが、神職/国学) Ｈ３５９０
但馬の君(たじまのきみ) → *但馬*(たじま・規子内親王家女房) Ｅ２６６５

2623 **但馬皇女**(たじまのひめみこ、天武天皇皇女)?-708 母;氷上娘ひがみのおとめ(藤原鎌足女)、
万葉二期歌人;114-116(:高市皇子と同棲しながら穂積皇子への恋歌)、巻八1515秋の歌、
[秋の田の穂向きの寄れる片寄りに君に寄りななこちたくありとも](万葉;二114)
(秋の田の稲穂が一方に靡いているようにあなたに寄り添いたい、噂はひどくても)
但馬宮(たじまのみや) → *雅成親王*(まさなりしんのう、配流/歌人) Ｆ４０４６
但馬房(たじまぼう) → *日現*(にちげん;法諱・仏寿院、日蓮僧) Ｂ３３６７

E2667 **田道間守**(多遅摩毛理・たじまもり)?-? 記紀所伝人物、天日槍あめのひぼこの子孫、
垂仁天皇の命で非時香果ときじくのかくのみ(橘)を取りに常世とこよへ行き9年後帰国;
天皇崩御後で陵前で叫哭して死没、万葉4111題(家持の歌)
茶舎(だしゃ) → *杉風*(さんぷう・杉山、俳人) ２０５６
兌聚堂(だしゅうどう) → *田守*(でんしゅ・兌聚堂、俳人) Ｄ３０７３

02698 **多十郎**(太十郎たじゅうろう:通称・若杉わかすぎ)?-? 江中期長崎和算家:京の野間泝流門、田辺成叔門、
1719「勾股致近集」著、平山千里の師
多十郎(たじゅうろう・大城)→ *壺梁*(こりょう・大城おおき、藩士/儒者) Ｄ１９６６
多少(たしょう・花隈) → *図大*(とだい・花隈はなぐま、俳人) Ｏ３１３７
他笑(たしょう・悪文舎) → *悪文舎他他笑*(あくぶんしゃたしょう、滑稽本)Ｅ１０２５
妥彰(だしょう・やすあき?・綾部)→ *剛立*(ごうりゅう・麻田あさだ、天文暦算) Ｃ１９０５
多少菴(たしょうあん・日下部)→ *波静*(はじょう・日下部、俳人) Ｅ３６５３
多少庵(たしょうあん) → *秋瓜*(2世しゅうか・松籟庵3世、俳人) Ｇ２１９３
多少庵(たしょうあん) → *南枝*(なんし・春暁亭、俳人) Ｊ３２１４
太上天皇(だじょうてんのう;新古今)→ *後鳥羽天皇*(ごとばてんのう) １９３７
太上天皇(だじょうてんのう;続後撰)→ *後嵯峨天皇*(ごさがてんのう) Ｃ１９６１
太上天皇(だじょうてんのう;続古今)→ *後嵯峨天皇*(ごさがてんのう) Ｃ１９６１
太上天皇(だじょうてんのう;続拾遺)→ *亀山天皇*(かめやまてんのう) １５７８
太上天皇(だじょうてんのう;新後撰)→ *後宇多天皇*(ごうだてんのう) Ｂ１９６５
太上天皇(だじょうてんのう;風雅集)→ *光厳天皇*(こうごんてんのう) Ｂ１９０９
太上天皇(だじょうてんのう;新後拾)→ *後円融天皇*(ごえんゆうてんのう) Ｃ１９１２
多辱庵(たじょくあん) → *風兎*(ふうと・小倉おぐら、医者/俳人) Ｈ３８０３
多四郎(たしろう・高林) → *信好*(のぶよし・高林たかばやし、書家) Ｇ３５７８
他四郎(たしろう・中村) → *長住*(ながすみ・中村なかむら、国学/歌) Ｏ３２１２
多新次(たしんじ・野口) → *甘谷*(かんこく・野口のぐち、藩士/儒者) Ｑ１５４７
侘心子(だしんし) → *梅盛*(ばいせい・高瀬、俳・狂歌) ３６０６
鶴～(たず～) すべて → *鶴*(たづ～)
田鶴～(たず～) すべて → *田鶴*(たづ～)

W2660 **多豆雄**(たずお・川崎かわさき、旧姓;高原)1828-1900*73* 備前邑久郡の国学者;業合大枝・上田及淵門、
備前一宮の安仁あに神社禰宜、大講義、
[多豆雄の通称/号]通称;豊後、号;桜文/大道/清通/百枝

X2649 **多豆夫**(たずお・島しま/本姓;出雲、重養しげかい男)1842-1922*81* 出雲出雲郡の出雲大社神職、
神道/国学;島重老しげおい(;祖父)門、出雲大社権宮司、「類題正曲集」編、
1882千家尊福講述[大道問答]筆録、
[多豆夫(;名)の別名/通称]別名;重稔、通称;重之允しげのすけ
鶴夫(たずお・長田) → *鶴夫*(たづお・長田おさだ、商人/国学/歌) Ｂ２６４４

P2600 **多豆伎**(たずき・中西なかにし、名;重保/茂保、重孝男)1810-64*55* 河内中河内の国学者;岩崎美隆門、

村田春海・嘉言門、歌/茶堂を嗜む、「中西多豆伎詠草」「月瀬紀行」「熊野日記」著、
［多豆伎(;号)の通称/別号］通称;宗兵衛、別号;橿園
鶴城(たずき・佐々) → *鶴城*(たづき・佐々さっさ、神職/国学) Ｐ２６０１
田鶴樹(たずき・浅見) → *田鶴樹*(たづき・浅見、江霜庵、俳人) ２６３６
多豆廼舎(たずのや) → *重孝*(しげたか・中西、農業/国学、多豆伎の父)Ｒ２１２２
P2602 **弼**(たすく・渡辺わたなべ、通称;次左衛門)?-? 江後期金沢藩士/1793-1830江戸詰;
礼法;小笠原平兵衛門、藩校明倫堂師範方、「武功従見録」「礼法御入門之記」著
W2690 **弼**(たすく・栗原くりはら、) ？ - 1889 周防岩国の国学者・歌;宇都宮孚たかし門
X2632 **多須久**(助たすく・齋藤さいとう、)1835-1893*59* 上野勢多郡の貫前神社禰宜、
国学;宮沢正治・平田鉄胤・権田直助門、大成教会長/大教生、
［多須久(;名)の別名/通称/号］初名;佳比、通称;伊太郎/寛之助/助、号;桃の舎/潘蹊
助(たすく・益田) → *鶴楼*(かくろう・益田、詩) Ｅ１５８４
弼(たすく) → *小竹*(しょうちく・篠崎、漢学) ２１９６
弼(たすく・浦上) → *玉堂*(ぎょくどう・浦上うらがみ、詩/画/琴) Ｄ１６０７
翼(たすく・白根) → *多助*(たすけ、白根しらね/太田、藩士/歌) Ｅ２６７１
棐(たすく・宇和屋/遠近)→ *鶴鳴*(かくめい・遠近とおちか、商家/儒者;小竹門)Ｋ１５４９
棐(たすく・若山) → *滋古*(しげふる・若山わかやま、国学/歌人) ａ２１１２
弼女(たすくのむすめ・源、嵯峨曽孫)→ *大輔*(たいふ、古今歌人) Ｃ２６１０
佃(たづくり・腥[鯉]斎なまぐさい)→*川柳*(5世せんりゅう・緑亭風叟/雑俳点者/草双子)２４４３
P2603 **多助**(たすけ・杉野すぎの、名;盟、杉野善兵衛近方の養子)1749-1838*90* 加賀藩士;1765家督/馬廻奉行、
改作奉行/1824定番頭;同年致仕、「夢中録」著、
［多助(;通称)の別通称/号］別通称;善三郎、号;晩霞
E2670 **太助**(たすけ・森本もりもと、河内屋)?-? 1794(寛政6)創業の大阪の書肆;文金堂経営、
喜兵衛の別家、絵入本を刊行
P2604 **棐**(たすけ・平山ひらやま、土田直行男)1762-1816*55* 1772(安永元)平山貞英の養嗣子、
儒;1773満山みつやま雷夏門、80(安永9)出仕;対馬藩士、81小姓、1800郡奉行、
1806津島来島の幕吏土屋帯刀に随行し実地踏査;地誌編纂を命ぜられる;
1809-10地誌「津島紀事」編(幕府に提出)/1810(文化7)致仕;剃髪(鳥楽名)
［棐(;名)の幼名/字/通称/号］幼名;伊助、字;明允/允明、通称;次郎左衛門[-佐-/-右衛門]、
号;東山/竜首/戯水/鳥楽(;剃髪号)
E2671 **多助**(たすけ、白根しらね、名;翼たすく、太田直猷男)1819-82*64* 周防吉敷郡の白根兼清の養子、
長州藩士;美祢郡宰、大阪藩邸勤務;志士の資金を調達/帰藩後;会計職/藩財政担当、
国学者/歌人、維新後;山口県大属、歌;「梅園余香」、1863-64「白根多助大坂日記」著
［多助(;通称)の号］ 梅園
多助(たすけ・松岡) → *雄淵*(おぶち・松岡、神道) Ｂ１４９１
多助(たすけ・小橋) → *橘陰*(きついん・小橋こばし、儒者) Ｌ１６４０
多助(たすけ・豊原) → *重軌*(しげみち・豊原とよはら、藩士/国学者)Ｓ２１７９
多助(たすけ・松崎) → *蘭谷*(らんこく・松崎まつざき、藩士/儒者) Ｃ４８０８
多助(太助たすけ・村松/紺屋)→ *眞船*(まふね・村松むらまつ、商家/国学)Ｋ４００９
多助(たすけ・手塚) → *躬保*(もとやす・手塚てづか、藩士/農政) Ｅ４４５０
多助(たすけ・三輪) → *秀奏*(ひでのり・三輪みわ、藩士/歌人) Ｄ３７６２
多助(多甫たすけ・松田) → *菘廬*(すうろ・松田まつだ、藩士/儒者/詩) Ｂ２３０６
太助(たすけ・香川/宮庄)→ *親輔*(ちかすけ・宮庄みやしょう、藩家老/歌) Ｂ２８０３
太助(たすけ・西宮) → *三馬*(さんば・式亭、戯作者) ２０５５
太助(たすけ・竹内/さかいや)→ *呑溟*(どんめい・竹内、商人/俳人) Ｓ３１４８
太助(たすけ・油屋) → *逸人*(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) Ｂ１１５１
太助(たすけ・和泉屋) → *橘庵*(きつあん・田宮たみや、戯作者/随筆) Ｉ１６６４
太助(たすけ・加藤) → *景範*(かげのり・加藤かとう、儒/歌学者) Ｂ１５９０
太助(たすけ・石尾) → *洋方*(ひろかた・石尾いしお/荒木、藩士/歌)Ｌ３７１８

田助(たすけ・手島)　→　*寿*(ひさし・手島てじま、農業/里正/詩文)　Ｂ３７０８
田鶴子(たずこ)すべて　→　*田鶴子*(たづこ)
田鶴舎(たずのや→たづのや)　→　*春門*(はるかど・村田、国学)　３６３１
多豆廼舎(たずのや)　→　*重孝*(しげたか・中西、国学)　Ｒ２１２２
多豆廼舎(たずのや)　→　*豊子*(ゆたかこ・水沢みずさわ、歌人)　Ｈ４６３１
多頭廼舎(たずのや)　→　*正養*(まさかい・石河いしこ/越智、国学者)　Ｂ４０６６
田鶴丸(たずまる)　→　*田鶴丸*(たづまろ・蘆辺あしべ、狂歌)　２６３９
匡麿(たずまろ・市川)　→　*鶴鳴*(かくめい・市川、儒者)　Ｂ１５７５
田鶴丸(たずまろ)　→　*田鶴丸*(たづまろ・蘆辺あしべ、狂歌)　２６３９
鶴群(たずむら)　→　*鶴群*(たづむら・吉岡よしおか、藩士/歌人)　Ｕ２６４６
田鶴代(たづよ・井上)　→　*田鶴子*(たづこ・井上いのうえ、歌人)　Ｖ２６３５
它石子(たせきし)　→　*幹*(かん・戸田、文筆家)　Ｐ１５８４

E2672 **多勢子**(たせこ・村田むらた、渡辺荒陽女)1777-1847*71歳* 村田春海の養女/歌:信夫槐軒・村田春海門、国学・歌学、江戸八丁堀地蔵橋に住/越後高田藩に出仕/尼僧(号:芳樹院)、春路の養母、「芳樹歌集」「秋草」「歌苑字類抄」著、1813春海「琴後集」編刊;序文、1816「源氏物語類語」36「伊香保乃日記」著、近世36歌仙の1、
参考 父　→　*荒陽*(こうよう・渡辺之望のぶもち、儒者)　Ｇ１９５３

E2673 **多勢子**(たせこ・松尾まつお、豪農竹村常盈女)1811-94*84歳* 信州伊那山本村の歌人、国学;北原因信門、1829(19歳)伴部村の酒造業松尾佐治右衛門元珍もとよし(淳斎)と結婚、誠まこと・為誠ためまさの母、歌;福住清風/石川依平門、1852岩崎長世・61平田篤胤門/62単身上京;諸公卿や志士と交流;尊攘運動(女参事の称)、1869帰郷し歌を詠み農業に従事、「都のつと」著、
[武士もものふの赤き心をかたりつゝ明くるや惜しき春の夜の夢]
多節(たせつ・吉川)　→　*天浦*(てんぽ・吉川よしかわ、神職)　Ｅ３０２７
多節斎(たせつさい・大江)　→　*宏隆*(ひろたか・大江おおえ、神道家/国学)　Ｇ３７１６

W2650 **多膳**(たぜん・桂かつら、)　1819 - 1889*71*　越後蒲原郡古田新田の名主、国学;鈴木重胤門
多膳(たぜん・柿崎/小池)→　*池水*(ちすい・柿崎/小池、医者/教育)　Ｅ２８５０
多膳(たぜん・中条)　→　*康永*(やすなが・中条ちゅうじょう/分部、藩士;城代)Ｃ４５４１
多善(多膳たぜん・安田)　→　*石牙*(せきが・安田やすだ/早川、医者/俳人)Ｄ２４３６
多善(多膳たぜん・安田)　→　*雷石*(らいせき・安田/早川、医者/俳)４８７２
多善(多膳たぜん・早川)　→　*広海*(ひろみ・早川/安田、雷石男/医者/国学/俳)Ｈ３７２１
妥素(だそ/やすもと?・竹内)→　*楊園*(ようえん・竹内たけうち、儒者/詩人)　４７６５

E2674 **多蔵**(たぞう・亶侯だんこう)　? -　?　江中期浄瑠璃作者、1788司馬芝叟・筒井半平作「花上野誉石碑はなのうえのほまれのいしぶみ」補助
多蔵(たぞう・稲毛)　→　*実*(みのる・稲毛いなげ、国学者/歌)　Ｆ４１６８
多蔵(たぞう・米田)　→　*貞則*(さだのり・米田よねだ、剣術/国学)　Ｐ２０８０
多蔵(たぞう・井上)　→　*淑蔭*(よしかげ・井上、国学/戯作/歌)　４７０５
多惣治(多三二たそうじ・尾張屋)→*有鷹*(ありたか・鱸すずき、宿屋経営/国学)Ｈ１０７８
太惣太(たそうた・恩田)　→　*三省*(さんせい・心応軒しんおうけん、華道家)　Ｍ２０４８
たそがれ少将(たそがれしょうしょう)→　*定信*(さだのぶ・松平、藩主/寛政改革)２０２２

P2605 **多則**(たそく・武田たけだ、別名;真則、真元しんげん男)?-?　江後期大阪の歴算家;父門/和田寧門、陰陽道;土御門家司天台の暦生、1844「真元算法」著
蛇足軒(だそくけん)　→　*山雪*(さんせつ・狩野、絵師)　Ｅ２０５２
蛇足軒(だそくけん)　→　*蕭白*(しょうはく・曾我そが、絵師)　Ｂ２２２０
忠(ただ・源)　→　*恵*(忠ほどこす・源、古今歌人)　Ｅ３９７４
多田(ただ)　→　*頼光*(よりみつ・源みなもと、武将/歌人)　Ｊ４７７９

E2675 **忠顕**(ただあき・安倍あべ、範元[寂恵]男)?-? 1332存　鎌倉期廷臣;権天文博士/五位、関東に伺候、歌人;父より顕昭「日本紀歌注」を相伝、続現葉に入集、続千載1703
[思ひ寝の夢のただぢの郭公さめてもおなじ声をきかばや](続千載;十六1703)

E2676 **忠顕**(ただあき・千種ちくさ/本姓;源、権中納言六条有忠男?)?-1336討死　鎌倉期廷臣;蔵人頭/左中将、

1333従三位参議、右衛門督/1336出家、足利直義叡山攻に南朝方で出陣、討死;贈従二位、
太平記では[三木一草]の一草と称される、歌:新葉560
[みやこ思ふ夢路やいまの寝覚までいく暁のへだてきぬらん](新葉集;八羈旅560)

P2606 **忠秋**(ただあき・阿部あべ、幕臣忠吉2男/本姓;松平)1602-75*74歳*　母;大須賀康高女、幕臣;
1624(寛永元)家督6千石を継嗣/33松平信綱ら5人と将軍家光の幕政の中枢に参画、
1635(寛永12)下野壬生城城主2万5千石;老中就任、39武蔵忍藩主5万石に転封、
1664(寛文4)8万石/66老中辞職/71致仕、「阿部忠秋教訓」「関ヶ原記」著
[忠秋(;名)の別名/通称/号]初名;正秋、通称;小平次/豊後守、号;空煙

E2677 **忠秋**(ただあき・小崎おざき、)？－　？　江前期;上方の武士/歌人、
1670下河辺長流「林葉累塵りんようるいじん集」34首入/長流(大和の小崎家出身)の一族か?
[雪のうちの梅の立枝にくる春も思ひの外のうぐひすの声](林葉累塵;春26)、
[いつの世にたれかは種をまきもくのひばらとれる陰もふりつつ](同集;1308)

P2607 **忠明**(ただあき・大江おおえ、源左衛門広忠男)?-1678　肥後葦北郡の郷士、兵法家;合伝流兵法の祖、
中国兵書;天徳院観密門/真田幸村家臣、大坂落城後帰郷/島原藩主松倉重次の家臣、
1637島原乱に出陣/主家断絶;山城山科に住、
「武学教訓」「合伝流兵書」「先伝巻聞書」「水之形」著、
[忠明(;名)の通称/号]通称;大江兵部/山本兵部、号;伝忠軒蟠竜韜功庵主

W2657 **忠陽**(ただあき・樺山かばやま、通称;助太郎/相馬)?-?1704(宝永2)頃没　薩摩鹿児島藩士、
国学者、歌人、玄佐(武将/歌人)の子孫?、久初ひさはつの父、
[くれぬまに猶色めてむ梅の華やみはあやなき匂ひありとも](宝永2年/石馬集)

W2667 **忠顕**(ただあき・本多ほんだ/本姓;源、)1720-76*57*　近江彦根藩士/国学・歌人;石尾洋方門、
木原茂見の師、歌:1844野津基明編[彦根歌人伝・鶴]入、
[忠顕(;名)の通称]　七右衛門

P2608 **忠昭**(ただあき・葛上くずがみ/つたかみ、源五右衛門忠程男)?-1802　信濃高遠藩の家老;江戸詰御番方筆頭、
御城番年寄、歌人;萩原宗固門/俳諧;四時庵紀逸門、領内の地誌研究;郷土史家、
1779「木之下蔭」編、「高遠雑記」著、
[忠昭(;名)の通称/号]通称;源五兵衛/源之丞/半之丞/勘作/久右衛門、
号;紀流/歳々庵/筆林舎

P2609 **忠堯**(ただあき・藤とう、本姓;藤原?)1740-?　1824存　江後期文筆家:1824「寺院奇談」編

Z2601 **忠顕**(ただあき・早川はやかわ/本姓;源、)1753-1834*82*　江戸の国学者;本居宣長門、
伊勢菰野藩士;江戸年寄役、
[忠顕(;名)の通称/号]通称;豊五郎/岩五郎/盧いおり/庄右衛門、号;蝶庵

X2600 **忠明**(ただあき・小林こばやし、義兄よしえ男)1779-1819*41*　近江彦根藩老印具家の家臣、
国学/歌;小原君雄門、歌;[近江歌人伝;寿]入、
[忠明(;名)の別名/通称]別名;松足、通称;群次

Z2639 **忠章**(ただあき・日置へき、忠辰男)1779-1821*43*　母;今枝直郷女、生年に備前岡山藩家老の父没、
家督は縁戚の池田忠英が養子;継嗣/1782忠栄の養子;忠栄急死;家督を継嗣、歌人、
岡山藩家老・備前金川1万6000石の領主、1796(寛政8)藩主池田斉政が老中に倣い藩改革、
藩政改革派として忠章が仕置家老に就任;藩政主導、
正室;公家石野基憲女、養子;忠弼(加賀藩士今枝直寛の弟)、
[忠章(;名)の通称]　元太郎

P2610 **忠明**(ただあき・内藤ないとう)？－　？　江後期幕臣;1809小姓/小納戸頭取/49長崎奉行、
1852西丸御留守居役/58致仕、1818「紅葉山御宮詣之記」19「和田戸山の記」、「内安録」著、
[忠明(;名)の通称]　庄之助/長十郎

U2618 **忠啓**(ただあき・水野みずの、範明の長男)1795-1848*54歳*　紀伊新宮藩主(紀州藩付家老)家の生、
母;松平正温女、1802(8歳)父没;祖父忠実の嫡孫/1812将軍家斉に拝謁;従五下/対馬守、
1822祖父没;家督継嗣;第8代新宮藩主、35長男忠央に家督譲渡;隠居、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[山里は柴のあみどを明けそめてまづ鶯の声をこそ聞け](大江戸倭歌;春99/山家鶯)、
[忠啓(;名)の幼名/法号]幼名;藤四郎、法号;徳拾院

P2611 **忠晶**(ただあき・河上/川上かわかみ、忠充男/本姓;紀)1795-1862*68*　備前岡山藩士;1821家督嗣;
奥方付/天保初年1830から隔年ごと江戸に赴任、儒;佐藤一斎・大塩中斎門、
数理学;片山金弥門/軍学;滝川睡鷗門、黒住教祖宗忠に心酔;布教活動、
「伝道新篇」「春川記」「道の階立」「作聖篇」「三神契」「道の本己理」「教祖御伝記」著、
[忠晶(;名)の別名/通称/号]初名;忠精ただきよ、通称;市之丞、号:春川

E2678 **忠秋**(ただあき・渡/亘わたり、政舎まさいえ男/本姓;平・鳥居)1811-81*71* 近江高島郡船木村の材木商、
歌人;中江千別・香川景樹門、漢学;伊藤東崖門、三条実美に出仕、
維新後は宮内省勤務/御歌所歌道御用、1849「桂園一枝拾遺」編/58-60「あしの一葉」編、
「桂蔭集」「楊園詠藻」「詠史歌結」「妍哉抄」著、田中仁著[渡忠秋年譜稿]に詳しい、
[忠秋(;名)の字/通称/号]字;在寛/汝栗、通称;新太郎/安雄、号;桂蔭(桂陰)/楊園

P2612 **忠義**(ただあき・酒井さかい、別名;忠禄、小浜藩主酒井忠進男)1813-73*61歳* 酒井忠順の養子;1834家督、
若狭小浜藩主/42寺社奉行/43-62京都所司代;その間安政大獄・和宮降下等公武間の調整、
のち罪を得て蟄居/1868再襲封、1857-62「所司代日記」著、
[忠義(;名)の通称/法号]通称;悠之丞/与七郎、法号;温良院

W2643 **忠顕**(ただあき・垣本かきもと、)? -　?　江後期;紀伊和歌山藩士、
国学者;本居内遠(1792-1855)門、
[忠顕(;名)の通称] 十郎兵衛/市兵衛

P2613 **忠明**(ただあき・村上むらかみ、忠順ただまさ2男)1844-65早世*22歳* 三河碧海郡堤村の歌人;父門、
松本奎堂の塾入学、勤王家;上方の浪士と交流、有栖川宮熾仁親王に出仕;尊攘運動参加;
志半ばで病没、「安斎叢書目録」著、「忠明遺稿」、
姉;登之野としの・小鈴(歌人)八千代やちよ(歌人)、弟;忠浄ただきよ、
[忠明(;名)の字/通称/号]字;明鏡/明卿、通称;明司/蔵人/将監、変名;堤次郎、号:望斎

允亮(ただあき・惟宗・令宗)→	*允亮*(ただすけ・惟宗、明法家)	Ｆ２６１６
尹明(ただあき・藤原) →	*尹明*(まさあき・藤原、歌人)	４０８７
忠明(ただあき・松平) →	*忠明*(ただあきら・松平まつだいら、藩主)	Ｅ２６７９
忠明(ただあき・酒井) →	*忠明*(ただあきら・酒井さかい、藩主)	Ｕ２６０５
忠明(ただあき・酒井) →	*忠挙*(ただたか・酒井さかい、藩主/和学者)	Ｘ２６３６
忠明(ただあき・丹波) →	*樗山*(ちょざん・佚斎、藩士/談義本作者)	Ｋ２８３８
忠明(ただあき・谷) →	*鬼谷*(きこく・谷たに、藩士/儒者/兵学)	Ｋ１６３７
忠明(ただあき・三浦;変名)→	*正樹*(まさき・島崎、庄屋/国学者)	Ｃ４０２９
忠昭(ただあき・梅津) →	*其雫*(きてき・梅津、家老/俳人)	Ｂ１６５５
忠暁(ただあき・水野) →	*忠敬*(ただのり・水野みずの、幕臣/本草)	Ｑ２６４５
忠顕(ただあき・島津) →	*宗信*(むねのぶ・島津しまづ、藩主/弓術)	Ｄ４２８６
直明親王(ただあきしんのう) →	*直明王*(なおあきおう、歌人)	３２６５

E2679 **忠明**(ただあきら・松平まつだいら、初名;清匡、奥平信昌男)1583-1644*62* 家康の外孫、母;家康女亀姫、
1588家康の養子;松平姓/1602三河作手藩主/10伊勢亀山藩に転封、大坂陣に参戦、
1615摂津大坂藩主;市街整備・殖産興業に尽力/19大和郡山転封;幕政参画/39姫路藩移封、
茶道;小堀遠州門、従四下/下総守・侍従、「創業記考異」著、「当代記」著?、
[忠明(;名)の幼名/法号]幼名;鶴松丸、法号;天祥院、忠弘の父

F2644 **忠成**(ただあきら・水野みずの、旗本岡野知暁男)1762-1834*73* 母:奥田忠英女、1778水野忠隣の遺跡嗣、
幕臣;1781小納戸/82将軍世子家斉の小姓、86従五下大和守、87老中水野忠友の婿養子;
1802養家嗣;駿河沼津藩主襲封、将軍家斉の信任;奏者番・寺社奉行・1806若年寄・従四下、
1812西丸側用人/14老中格;侍従兼任、1818(文政元)勝手掛/老中に就任;21一万石加増、
1829さらに一万石加増、貨幣改鋳/商業統制など経済政策断行、藩家老に土方有経を登用、
「御勝手掛日記」著、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[野分のわきせし真萩が上の白露と消えにしこぞをしのばざらめや](大江戸倭歌;雑1888)、
[忠成(;名)の幼名/法号]幼名;午之助/吉太郎、通称;左近将監/出羽守/大和守/侍従、
法号;嶷徳院ぎょくとくいん

Z2674 **忠光**(ただあきら・水野みずの、忠鼎ただかね長男)1771-1814*44* 母;水野忠辰女/江戸の生、1785従五下、
式部少輔、1805(文化2)父隠居;肥前唐津藩3代藩主/忠元系水野家10代、和学、

父採用の家老二本松義廉を罷免;親政を敷き藩政改革着手;効果なく1812(文化9)隠居、
正室;勝子(浅野重晟女)/室;中川恂、芳丸・忠邦・内藤正縄・堀直哉・跡部良弼などの父、
息子2男忠邦が家督嗣、1814(文化11)父忠鼎より先に没、
[忠光(;名)の通称/号]通称;織之助/式部少輔しきぶのしょう、号;玉嶼ぎょくしょ、諡;徳照公

U2605 **忠明**(ただあきら・酒井さかい/本姓;源、忠言の長男)1781-1833*53歳* 母;三浦明次女、
1797越前敦賀城主(鞠山6代藩主)、大番頭/大坂城番、従五下/右京亮/飛騨守、
歌;1798広通「霞関集」入、妻;有馬純養女、土井利玄・酒井忠毗ただますの父、
[忠明(;初名)の別名/通称]別名;忠蓋ただえ、通称;豊之助/右京/右京亮/飛騨守、
[けさよりや春は来ぬらん久方の天の香具山霞みそめけり](霞関;春8)

X2668 **忠篤**(ただあつ・菅すが、)1697-1732*36* 安藝竹原の浜主(塩田経営者)、
儒者、神道家、国学者、神道・国学;玉木正英まさひで門、
[忠篤(;名)の通称/号]通称;文右衛門、号;葵斎、神号;安都之霊神

E2680 **忠篤**(ただあつ・岡田おかだ/本姓;藤原、通称;常阿弥)?-? 江中期;幕臣;同朋頭、
冷泉家門歌人、1756(宝暦6)「千首和歌」催、1798刊広通「霞関集」入、
[和歌の浦や同じ汀に立ちなれてちぎる言葉の千代の友づる](千首和歌;末尾)
[行く末は水のをかけてはるばると霞み渡れる淀の河橋](霞関;春32/橋霞)

P2614 **忠篤**(ただあつ・多おおの、喜多きた行広男)1706-76*71* 楽人/多忠明の養嗣、縫殿助/佐渡守/1775正四下、
「三鼓類集」著

P2615 **忠厚**(ただあつ・滝川たきがわ、通称;長門)?-? 江中期尾張藩士、1769「京都名所記」著、養嗣;忠暁

P2616 **忠篤**(ただあつ・大木おおき)1765- 1827*63* 上総山辺郡北幸谷の里長/儒・稲葉黙斎門;闇斎学、
能書家/書籍謄写、「乙卯従江録」「甲寅従江録」「丹二語録」著、
[忠篤(;名)の通称/法号]通称;丹二/権右衛門、法号;信受院

Z2685 **忠篤**(ただあつ・六人部むとべ、節篤ときあつ長男)1767-1806*40* 山城乙訓郡の向日神社祠官、節香ときかの兄、
歌学;日野資枝すけき門、是香よしか(節香ときかの養子;向日神社祠官を継嗣)の父、
[忠篤(;名)の通称]雅楽うた/大和守

P2617 **忠篤**(ただあつ・市川いちかわ、通称;野右衛門)?-? 江戸後期広島藩士、1813「浅野家譜辨正」著

P2618 **忠篤**(ただあつ・小川おがわ、忠安男)1836-64斬首*29* 加賀鶴来の生/加賀藩士、
医;1849京の太田伊豆守門、儒者;城谷成章門/江戸の幕儒小林栄太郎門、
1860桜田門外の変を聞き上京し勤王を主唱、1864(元治元)越前府中で逮捕・金沢で斬首、
「小川幸三大野木克敏書簡集」著、
[忠篤(;名)の字/通称/号]字;士信、通称;幸三/三義、号;靖斎/後素

P2619 **忠篤**(ただあつ・後藤ごとう) ? - ? 江戸期岩代会津の文筆家、「閑宅謾筆」著

忠敦(ただあつ・松しょう;修姓)→ *松忠敦*(しょうちゅうとん、儒者) Ｏ２１６１
忠敦(ただあつ・高瀬) → *学山*(がくざん・高瀬たかせ、儒者) Ｅ１５６９
忠厚(ただあつ・阿万) → *鉄崖*(てつがい・阿万あまん、儒者) Ｃ３０２１
忠厚(ただあつ・鴇田) → *魯斎*(ろさい・鴇田ときた、藩儒/経史) Ｂ５２５４
忠厚(ただあつ・溝口) → *直静*(ちょくせい・溝口みぞぐち、幕臣/歌人) Ｌ２８６８
忠厚(ただあつ・岸本) → *方忠*(まさただ・岸本きしもと、歌人) Ｐ４０２６
忠温(ただあつ・酒井) → *直道*(なおみち・酒井さかい、藩士/書簡) Ｃ３２６４
忠篤(ただあつ・田阪) → *如淵*(じょえん・田阪、俳人) Ｑ２２４４
忠篤(ただあつ・水野) → *忠徳*(ただのり・水野みずの、幕臣/外交) Ｑ２６４６
忠篤(ただあつ・屋代) → *忠良*(ただかた・屋代/堀田、幕臣/文筆) Ｐ２６３２
忠篤(ただあつ・手島) → *松波*(しょうは・手島てしま、俳人) Ｑ２２４５

E2681 **忠有**(ただあり・藤原ふじわら、親行男?)?- ? 平安後期廷臣;四位、八条院判官代?、
歌:新千載集1347,
[たのめぬをこぬよの数といひなしてわが偽りにまたやかこたむ](新千載;十三恋1347)

忠在(ただあり・新納) → *久元*(ひさもと・島津しまづ/新納、武将/家老) Ｊ３７８２
忠徳(ただあり・酒井) → *忠徳*(ただのり・酒井、藩主、歌人) Ｆ２６６２

P2620 **陀大**(だたい) ? - ? 俳人;蕪村平安系、1774美角「ゑぼし桶」入、
[雪の夜や何を女の歩く声](ゑぼし桶;53)

E2682 **忠家**(ただいえ・藤原ふじわら、小野宮、権大納言長家男/母;源隆雅女懿子いし)1033-91*59* 俊成の祖父、
廷臣;1064正二位、右衛門督・太皇太后宮大夫/1080大納言、90出家、
歌人;1050「延子歌絵合」講師で参加、「三種歌合」書、
勅撰4首;後拾遺(734)千載(965)新古今(1462)新勅撰(1226)、
[契りありて春の夜ふかき手枕をいかがかひなき夢になすべき](千載集;十五恋965、
周防内侍「春の夜の夢ばかりなる」の歌への返歌)

E2683 **忠家**(ただいえ・九条くじょう、教実男/本姓藤原)1229-75*47* 母;二条定季女恩子、廷臣;1239従三位、
1239(延応元)正三位/権中納言/40権大納言/41従二位/正二位/42左大将兼任/43内大臣、
1246(寛元4/18歳)右大臣/52(24歳)辞任、21年間昇進なし、
1273(文永10/45歳)関白・氏長者/従一位/74摂政;辞任;没、忠教の父/師教の祖父、
「後九記」「八幡行幸記」「賀茂行幸記」著、歌人;1263「三十六人大歌合」入5首、
勅撰8首;続後撰(130)・続古今(202/1287/1415/1640)・続拾(1091/1194/1293)、
[咲きぬればかつ散る花と知りながらなほうらめしき春の山風](続後撰;130/右大臣名)、
[忠家(;名)の通称/号]通称;田中殿/一音院摂政、号;一音院

V2674 **忠屋**(ただいえ・岩崎いわさき、通称;源吾)1736-180*469* 伊勢度会郡の神職?/国学;本居宣長門

E2684 **忠家母**(ただいえのはは・藤原ふじわら、名;懿子いし、源高雅女or藤原基貞女?)?-1078 上東門院彰子の女房、
典侍従三位、初め藤原頼明の妻/のち藤原長家の妻;忠家を産む、1038出家(栄花物語入)、
歌人;勅撰2首;後拾遺761/続後撰1292、
[いかばかりおぼつかなさを歎かましこの世のつねと思ひなさずは](後拾遺;十三恋761)、
[藤原忠家母の女房名] 中将君/院典侍いんのすけ

只一(ただいち・村田) → *三蔦*(さんちょう・村田むらた、藩士/俳人) Ｍ２０６１
忠一(ただいち・力石ちからいし)→ *癡々*(ちち・力石ちからいし、篆書家) Ｅ２８７４
忠一(ただいち)外に → *忠一*(ただかず)参照
唯一(ただいち・石井) → *潭香*(たんこう・石井、書家) Ｔ２６４７
惟一(ただいち・平川) → *惟一*(のぶかず・平川ひらかわ、藩士/民権) Ｊ３５８５
只一郎(ただいちろう・本山)→ *竜沢*(りゅうたく・本山もとやま茂任、藩士/神職)Ｍ４９３０
唯一郎(ただいちろう・今泉)→ *有善*(ありよし・今泉いまいずみ/福井、幕臣/国学)Ｈ１００５
直氏(ただうじ・源) → *直氏*(なおうじ・土岐/源、頼清男、歌人) ３２７１
忠蓋(ただえ・酒井) → *忠明*(ただあきら・酒井さかい/源、藩主) Ｕ２６０５
唯右衛門(ただえもん・吉川)→ *信就*(のぶなり・吉川よしかわ、藩士) Ｃ３５６４
唯右衛門(ただえもん・吉川)→ *敬明*(たかあき・吉川よしかわ、信就男/藩士)Ｌ２６４４
唯右衛門(ただえもん・高橋)→ *巾山*(きんざん・高橋たかはし、儒者) Ｒ１６０９
唯右衛門(ただえもん・田中)→ *秋浦*(あきうら・田中/市村、役人/国学)Ｈ１０８３
只右衛門(ただえもん・宮崎)→ *睡鷗*(すいおう・宮崎/野田、藩士/武芸家)Ｅ２３１７

P2621 **忠雄**(ただお/ただかつ/ただたか・小笠原おがさわら、初名;長真、忠真3男)1647-1725*79* 豊前小倉藩主;
1660兄早世のため嫡子/67父の遺領相続/右近将監・遠江守、徳川家宣の紅葉山御霊屋普請、
異国船漂着の処置、小笠原流武家故実;1664父より糾方的伝を伝受、歌・飛鳥井雅章門、
家集「老木拙蘂せつがく集」、「彦山記」著、
[忠雄(;名)の幼名/通称/法号]幼名;万松丸、通称;弾正/遠江守/右近将監、法号;静照院

P2622 **忠雄**(ただお・青山あおやま、初名;忠親、浜松藩主宗俊2男)1651-85*35歳* 信濃小諸の生、
1679遠江浜松藩主;父遺領を襲封;5万石/和泉守、歌;飛鳥井雅章・烏丸資慶・南可法師門、
画;狩野永叔門、書・馬術も修学、「焦桐集」著、
[折々に芳野のおくぞしのばるる世のうき時と花のさかりと](茂睡[鳥の迹]述懐647)、
[忠雄(;名)の幼名/法号]幼名;伊勢千代、法号;広巌紹濶凌松院

P2624 **忠男**(ただお・大伴おおとも、通称;山城)1754-1816*63* 江中後期天明文化1781-1804頃鎌倉の神職、
鎌倉の鶴岡八幡宮神主、1787-88頃江戸城での「柳営連歌」参加、
1813(文化10)幕命で[相模名苑志]調査中に死没、「相模志」著

E2685 **忠雄**(ただお・志筑しづき/しつき、旧姓;中野、初名;盈長)1760-1806*47* 志筑孫次郎の養子/蘭学者、
1776稽古通詞/77辞職、蘭学;本木蘭皐門/西洋の天文学物理学を紹介、蘭語文法を研究、
1803旧姓中野に改姓、1798-1802ニュートン「暦象新書」訳、「和蘭語格」「蘭文法諸時」外著多数、

[忠雄(;名)の字/通称/号]字;季飛/季竜/飛卿、通称;忠次郎、号;柳圃

P2625 **忠雄**(ただお・本多ほんだ、通称;雄之進、磐城泉藩主忠籌ただかず男/本姓;藤原)1765-1816*52* 病身;
1785廃嫡、心学:中沢道二門、「忠雄聞書」著

P2626 **尹雄**(ただお・竹中たけなか、通称;与八)?-? 江後期長州藩士/歌人、1848頃「あまのはつ木」編

V2606 **惟雄**(ただお・青柳あおやぎ、)1819-1871*53* 出雲松江藩与力、
[惟雄(;名)の通称/号]仲之助/彦八、号;一叟

V2666 **忠雄**(ただお・市川いちかわ、)1827-1883*57* 信濃埴科郡の国学者、
[忠雄(;名)の通称/号]通称;友三/友左衛門、号;青霞園

V2675 **忠雄**(ただお・岩崎いわさき、)1840-1910*71* 土佐高岡郡仕出原村の高岡神社宮司/権少教正、
国学・歌;杉山繁斎門、1853(嘉永6)私塾[東雲塾]を開く:和漢学・書を教授、
[忠雄(;名)の号] 橲山翁おくざんおう/橲山樵夫

M2663 **忠雄**(ただお・川村かわむら、旧姓;村田)1849-1912*64* 下総埴生郡の生、
国学者;神山魚貫なつら・伊能穎則ひでのり門、常陸稲敷郡阿波あんば村大杉神社祠官、
[忠雄(;名)の通称] 唯助

忠雄(ただお・臼木) → *忠雄*(ただかつ・臼木、藩士/文筆家) Ｐ２６２３
忠雄(ただお・大高源吾、忠臣蔵義士)→ *子葉*(しよう、俳人) Ｋ２１７４
忠雄(ただお・藤) → *斉長*(まさなが・藤とう、神職/藩士) Ｆ４０３１
忠雄(ただお・長谷川) → *恒忠*(つねただ・長谷川、兵学者) Ｃ２９４２
忠雄(ただお・百瀬) → *政武*(まさたけ・百瀬ももせ、薬商/歌人) Ｔ４０１８
忠雄(ただお・小野) → *顕栄*(あきひで・小野おの、神職/国学) Ｈ１０１８
忠雄(ただお・日下部) → *道堅*(みちかた・日下部くさかべ、国学者) Ｉ４１９４
忠尾(ただお・団井) → *忠穀*(ただよし・団井まるい、藩士/国学) Ｚ２６６６

E2686 **忠興**(ただおき・細川ほそかわ/初姓;長岡/賜姓;羽柴、藤孝[幽斎]長男/本姓;源)1565-1645*83* 京の武将、
母;沼田光兼女の麝香、従三位参議/越中守、将軍足利義輝の命で細川輝経家を継嗣、
1577織田信長の臣;雑賀一揆攻参戦/以後各地に転戦/1580丹後宮津城主、
本能寺の変に岳父光秀に従わず羽柴秀吉につく;賜姓羽柴/92朝鮮出陣/秀吉没後;家康臣、
関ヶ原に戦功;豊前・豊後の一部を領し豊前中津入封/1602豊前小倉藩主に移封、
1620息子忠利に家督譲渡;中津城に隠居/32忠利の肥後熊本移封に伴い八代城へ移住、
妻;ガラシャ(光秀女玉子)、儒学/歌・連歌、茶;千利休門;高弟/三斎流と称す、
陶器;朝鮮の陶工尊楷に命じ豊前田川郡上野に開窯、
「閑事集」「三斎記」「細川三斎家集」「茶道物語」「茶の由来」「忠興公御集」「狂歌集」外著多数、
[忠興の幼名/通称/号]幼名;熊千代、通称;与一郎、号;三斎/宗立、法号;松向寺

X2634 **忠興**(ただおき・酒井さかい、旧姓;戸田)1644-1719*76* 江戸の幕臣;寄合、国学者、
[忠興(;名)の通称] 亀之助/数馬/善左衛門

P2627 **忠興**(ただおき・尾崎おざき、長尚男/本姓;伴・大伴)1663-1739*77* 廷臣;桂宮諸大夫、左衛門少尉、
1716(享保元)従六上、「切韻要略」著

U2626 **忠興**(ただおき・本多ほんだ、通称;万之助、忠和男?)1801-52*52歳* 江後期旗本/幕臣;1812三河西端領主、
対馬守、正室;明石藩主松平直周女の邦/継室;上総鶴牧藩主永野忠実女、
忠寛(1852西端領主:1864藩主)の父?、瑞松院(1825-?、安房勝山藩主酒井忠一室)の父、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[此頃と思ふ桜のいつしかも青葉になりぬ夏や来ぬらん](「大江戸倭歌;夏392/新樹)

忠興(ただおき・梅津) → *忠喬*(ただたか・梅津うめづ、藩校総裁) Ｖ２６８６
忠興(ただおき・村田) → *春道*(はるみち・村田むらた、商人/国学/歌)３６３７
忠起(ただおき・水谷川) → *橘園*(きつえん・水谷川みやがわ/近衛、僧/神職)Ｖ１６３４

P2628 **忠音**(ただおと・多おおの、太秦うずまさ広兼3男)1676-1738*63* 楽人/河内守多忠福[忠喜]の養嗣子、
河内守/三河守/1728正四下、忠充ただみつの父、1735「多忠音日記」、「日次記」著、

2624 **忠臣**(ただおみ・島田/嶋田しまだ、通称;達音、清田男)828-892*65* 平安前期廷臣;869従五下/因幡権介、
大宰大弐、879従五上/881兵部少輔/882美濃介/890典薬頭/伊勢守、漢学・詩人;紀伝道修学、
859渤海国副使周元伯と詩の唱和/883渤海大使裴頲を迎え道真・紀長谷雄らと詩の唱和、
「田氏家集」、「田達音集」、寛平御時后宮歌合/扶桑集・文粋入、娘宣来子のぶきこは菅原道真室

P2629 **忠臣**(直臣ただおむ・菅野すがの、菅原清公きよとも男)?-?　平安前期廷臣;879(元慶3)中宮大進/従五下、886(仁和2)従五上/皇太后亮(三代実録入)、歌人;寛平御時后宮歌合参加/古今集809、[つれなきを今は恋ひじと思へども心弱くも落つる涙か](古今;恋809/后宮歌合)
島田忠臣と同一説あり? →　*忠臣*(ただおみ・島田、詩人)　２６２４

E2688 **正香**(ただか・杉木すぎき、望一もいち[1586-1643]男)?-?　伊勢の俳人、1675「杉本望一33回忌追善千句追加」跋
父　→　*望一*(もいち・もいつ・もういち・杉木、勾当/俳人)４４０１

E2687 **直香**(ただか・なおか・橘本はしもと、初名;靭雄ゆぎお、寛矩男)1807-89*83*　上州山田郡境野村の飛脚問屋の生、機業経営;失敗/40歳余で家産を捨て江戸へ/国学・歌;橘守部・黒川春村門、守部の後継者、赤坂弁天山のち赤坂氷川社側に住;門弟育成、1849「紐鏡とき言」59「万葉集中上野国歌」、1864「復葉集」編、「万葉私抄」「上野歌解かみつけのうたかい」「旋頭歌解」「作者部類伝」「諏訪詣之記」著、[直香(;名)の字/通称/号]字;寛潟かんしゃ、通称;亀松/彦八、号;薫園、屋号;島屋、法号;指月院

T2689 **忠香**(ただか・一条いちじょう、法号;後大勝寺、忠良ただよし男/本姓;藤原)1812-63*52*　母;細川斉茲女富子、廷臣;1858内大臣/59左大臣/60従一位、1858日米通称条約朝議参加;59安政大獄連座、然し左大臣に就任/将軍慶喜と姻戚関係;公武合体論主唱、歌/絵画、1862「忠香公手録」著、「璞記」「実万忠香総長三卿より拝領の墨蹟」著、息女美子は明治天皇皇后(昭憲皇太后)
正香(ただか・生川なるかわ)　→　*春明*(はるあきら・生川なるかわ、国語学・俳諧)３６２９
忠香(ただか・岡村)　→　*菊叟*(きくそう・岡村、家老/砲術/歌人)Ｋ１６１７
忠香(ただか・長井)　→　*利恒*(としつね・長井ながい、幕臣/歌人)　Ｘ３１４６

E2689 **忠景**(ただかげ・惟宗これむね、家名;島津[越前島津]、忠綱男/本姓;源)1241-1300*60*　鎌倉期廷臣/武家、島津忠久の孫、宗尊親王に出仕/五位常陸介、歌:宗尊親王家歌合・二条為氏催歌会に参加、1261宗尊親王百五十番歌合参加、続現葉入集、勅撰17首;続古今(1119/1433)続拾遺(306/924/1184)新後撰(4首)玉葉(2201)以下、[いかさまに寝てあかせとて待つ人の来ぬだにあるを秋風ぞ吹く]、(続古;恋1119/秋夜恋を)

P2630 **忠籌**(ただかず・本多ほんだ、忠如ただゆき男/本姓藤原)1739-1812*74*　磐城泉藩主;1754襲封、藩政改革、財政再建;1787実績を買われ松平定信の若年寄/側用人/1790老中;寛政改革に参画、1799致仕/1800隠居、心学;磐城泉に善教舎設立、俳人、「匡正論」「戻り笠」「こぞの枝折」、[忠籌(;名)の通称/号]通称;雄之進/大蔵、号;水翁/策卿、法号;賢剛院、忠誠・忠雄の父

U2664 **忠和**(ただかず・関根せきね/本姓;平、通称;主水)?-?　江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[きのふ見し同じ雲ゐの月なれど秋来るからに影ぞさびしき](大江戸倭歌;秋700)

U2694 **忠一**(ただかず・道一みちかず/ただかず・水野みずの/本姓;源)?-?　江後期;幕臣、歌人、妻;新庄直規なおのり女、1842-47(天保12-弘化4)大坂東町奉行;東町奉行時;河内玉手村の奥田忠次の墓前で詠歌(;のち石碑に入)、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[君も臣もますら雄草のいさましきほまれしるくもあふがるゝかな](忠次の墓前歌)、[源の清き流れの末汲みて遠つみのりにあふが嬉しさ](大江戸倭歌;雑1919、六孫王[源経基]九百五十年神忌に王孫源氏の人の歌集めたるに、)
[忠一(:名)の通称]　要人/舎人/内匠/若狭守

Z2617 **忠一**(ただかず・日詰ひづめ、)1834-1910*77*　伊予松山藩士/歌人
忠和(ただかず→ただとも・松平)→*忠和*(ただとも・松平、藩主/天文暦学)　Ｑ２６１６
道一(唯一ただかず・二階)→　*道一*(みちかず・二階にかい/白上、藩医/歌)Ｋ４１０２

X2699 **忠風**(ただかぜ・高木たかぎ、)1661-1741*81*　近江彦根藩士、儒・詩歌;沢村琴所きんしょ(維顕)門、歌;[彦根歌人伝・寿]入、[忠風(;名)の通称/号]通称;助七郎、号;林遊/山谷亭

E2690 **忠方**(ただかた・多おおの、資忠男)1085-1135*51歳*　平安後期京の楽人、右近衛将曹、父資忠が山村政連に殺害される;秘曲を伝授されていた堀河天皇により3年間指導を受く、堀河天皇の命で多雅定により[胡飲酒こんじゅ]を伝受、1112右近衛府試楽に古鳥蘇を舞う、忠節ただとき(1110-93、楽人;右近将曹/胡飲酒の伝授者)の父、長秋記に入

E2691 **尹賢**(ただかた・細川ほそかわ/本姓;源、別名;政光、春倶男、典厩家政賢の養嗣)?-1531戦死 戦国武将、
1511養父政賢が細川高国に敗戦死/以後高国の家臣;典厩家の当主を継承、
1526高国重臣香西元盛を讒訴殺害;これを機に細川晴元・三好元長と対峙/27桂川で敗戦、
1528高国を見限り晴元に寝返る/31高国を攻め殺害/直後から晴元と不和;
晴元家臣木沢長政と摂津で戦い敗死、歌:1520実隆「再昌草さいしょうそう」入

P2631 **忠賢**(ただかた・伊奈いな、忠義男)1726-1795*70歳* 兄忠豊の養子:1764家督嗣/幕臣;64御書院番、
1784致仕、「四十六論」著、
[忠賢(;名)の通称] 五郎助/熊蔵

P2632 **忠良**(ただかた・屋代やしろ/本姓;源、堀田正陳男)1747-? 旗本屋代忠国の養子/幕臣;寄合、1770家督、
1773小納戸/83西丸小姓/86本丸御使番/89先手鉄砲頭、江戸麹町貝坂住、「随手録」編
[忠良(;名)の初名/通称]初名;乙之助/忠篤、 通称;隼人/主計かずえ/左門/求馬

Y2678 **忠固**(ただかた・小笠原おがさわら、長為男)1770-1843*74* 父は播磨安志藩主/母;側室すて(田中易信女)、
1794(寛政6)本家豊前小倉藩主忠苗の養子;1804(文化元)養父隠居;豊前小倉藩6代藩主、
従四下・大膳大夫/少将、1807(文化4)朝鮮通信使の正使として接待・小倉城焼失;再建、
藩財政悪化のなか幕府閣僚への志向強く1811(文化8)江戸家老小笠原出雲に要請、
賄賂出費などで藩財政逼迫;出雲と反対派の対立激化(白黒騒動/文化の変);
幕府裁定で出雲は罷免・反対派は処刑・藩主忠固は百日閉門、
財政再建のため年貢増徴;奉行が農民を哀れみ年貢減免し切腹、文政期には村方騒動、
土木工事・倹約令の効果なく1843(天保14)没、正室;富姫(小笠原忠総女)、忠徴の父

P2633 **忠固**(ただかた・大岡おおおか、加納久周男)?-1852 大岡忠正の養子/1816武蔵岩槻藩主;家督、
日光祭礼奉行/奏者番/1836若年寄/44江戸城本丸普請奉行、歌人/名石蒐集、忠利の父、
1849「大岡忠固の長歌」/52「船橋紀行」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[武蔵野に朽ちせぬ人の勲いさをしをはてなくしのぶ秋にも有るかな](大江戸倭歌;雑1906、
太田道灌三百五十回忌追悼に資始朝臣[すけもと・太田/1779-1867]の方にて歌を蒐集)、
[忠固(;名)の通称] 主膳正しゅぜんのしょう

E2692 **忠質**(ただかた/たださだ・近藤こんどう)?- ? 伊予小松の文筆家、
1842-45渋井徳章「責而話草せめてはぐさ(憖遣草)」校正/刊、「責而話草拾遺」刊、「憖遣草附録」著

P2634 **忠質**(ただかた・松平まつだいら/本姓;源、通称;邦之助、信明男)?-? 幕臣;1831火消役/百人組之頭、
1835小姓組番頭、歌人;海野遊翁門、1858歌集「二葉集」(兄本庄道貫と共著)、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[山の井の水もぬるみておぼゆるはこれや春立つ印なるらむ](大江戸倭歌;6山家立春)、
三河吉田藩主松平信順・美濃高富藩主本庄道貫の弟

P2635 **忠質**(ただかた・松平まつだいら/本姓;源、忠徳男)?-1860 幕臣;1839中奥小姓/49新番頭/52遺知相続、
1857大坂定番本多忠隣配下/信濃守、1841「徳川家斉葬送記」著、
[忠質(;名)の通称] 善之進/内膳正ないぜんのしょう

U2698 **忠器**(ただかた・酒井さかい、忠徳の長男)1790-1854*65* 母;佐野屋文四郎女の幸、出羽庄内藩8代藩主、
左衛門尉酒井家10代当主、1805(文化2)父隠居;家督継嗣;従四位下、左衛門尉/少将、
左兵衛督、初め家老の竹内八郎右衛門が藩政主導、のち本間光道を登用し藩財政再建;
養蚕業振興など殖産興業、1832日光廟修復費用3万両を献納;その功で江戸城溜間詰格、
天保飢饉救済に尽力、一時幕命で長岡藩移封の話(三方領知替);中止、
正室;松平信明女の亀代姫、1842(天保13)長男忠発の家督嗣;隠居、
息子;忠発・忠中・増山正修・市橋長和・米津政易・米津政明・忠寛、
息女;内藤信親室・鍾(松平勝善室)・五島盛徳室・松平忠精室・松平勝善継室
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[浪風のしづけき浦の友千鳥八千代を呼ばふ声もつきせじ](大江戸倭歌;雑2050)、
[忠器(;名)の幼名/法号]幼名;千次郎/新太郎、 法号;歓喜院

U2657 **忠賢**(ただかた・神みわ/じん?/本姓;藤原、通称;織部)?-? 江後期;歌人、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[こころさす花はけふさへつれなくて霞になるる春のやまふみ](大江戸倭歌;234尋花)、

[藻塩焼く煙しなくは何をかはみるめの浦の冬枯れの空](同;冬1344)

U2620 **忠粛**(ただかた・鳥居とりい、忠挙ただひらの長男)1834-52夭逝*19歳*　下野壬生藩主の世嗣;上総介、
早逝のため弟忠宝が藩主を嗣、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[降る雨にかきほの草のめぐみえてはやくぞ春の色になりぬる]、
(大江戸倭歌;春162/雨中若草)

忠方(ただかた・島津)　→　*斉彬*(なりあきら・島津しまづ、藩主)　Ｈ３２０５
尹賢(ただかた・宮野)　→　*尹賢*(いんけん;名・宮野みやの、儒者)　Ｉ１１５０
但賢(ただかた・深見)　→　*有隣*(ゆうりん/ありちか・深見、幕臣/儒学)　Ｅ４６０９

P2636 **忠勝**(ただかつ・清水しみず、通称;式部丞)?-?　戦国期武田家家臣/連歌;
1548・59山科言継らの連歌会に参加、1549「天文十八年三月十三日何木百韻」参加

P2637 **忠勝**(ただかつ・本多ほんだ、岡崎城主忠高男/本姓;藤原)1548-1610*63*　三河額田の武将;家康の四天王、
1560家康家臣;武功、90上総大多喜城主/1601伊勢桑名城主、「御金言記」編、「武功吟味集」著、
「本多平八郎忠勝聞書」、「鎗極秘伝書武功紀」「鎗場高名集」「武律」著、「本多遺訓」、
[武士はなるほど武士くさく　味噌はなるほど味噌くさくあれかしとぞ思ふ](平八郎聞書)、
(武士の武士くさきと味噌の味噌くさきとはくらはれぬという諺に対する反駁)、
[忠勝(;名)の幼名/通称/法号]幼名;鍋之助、通称;平八郎、法号;西岸寺長誉良信大居士

P2638 **忠勝**(ただかつ・松平まつだいら、深溝城主松平伊忠男)1557-1609*53*　三河深溝藩国家老兼藩主後見役、
1564徳川家康の小姓/兄の下総小見川藩主松平家忠の戦死後にその子藩主忠利後見役;
藩主移封により三河深溝に移住;国老を兼務、母;鵜殿長持女、忠政(姫路藩主)の父、
「三河記」/1608「松平十郎左衛門忠勝記」「権現様御一代記」著、
[忠勝(;名)の幼名/通称/法号]幼名;於勝/十三郎、通称;十郎左衛門、法号;本覚院卯勝

E2693 **忠勝**(ただかつ・酒井さかい、川越藩主忠利男)1587-1662*76*　母;鈴木重直女(家康妹)、三河西尾の武将、
家康臣;1591下総に3千石、初陣は1600(慶長5)上田合戦、1609五下讃岐守、1620家光付き、
家光の信任;「我が右手は讃岐(酒井忠勝)、我が左手は伊豆(松平信綱)」(;家光の言)　、
1622(元名8)武蔵深谷藩主;1万石/24上総などを加増;老中就任、
1627父没;遺領継嗣;川越2代藩主;8万石/1632(寛永9)加増;10万石/従四下侍従兼讃岐守、
1635若狭小浜藩主;12万3千5百石、1639大老に昇進、/43従四上左近衛権少将兼讃岐守、
天海・隠元を援助、1657致仕;4男忠直が家督嗣/60剃髪、家康四天王の1、家光との逸話多、
正室;松平親能女、忠朝・忠経・青木可一・忠直・建部政長室・長松院・あぐり等の父、
好学/歌人、1656「関ケ原始末記」、「日光法華八講記」著、
[筑波山いたりいたらぬ春なれやこのもかのもに残る白雪](茂睡[鳥の迹]春54)、
[忠勝(;名)の通称/法号]通称;鍋之助/与七郎/藤内、法号;空印寺傑伝長英

P2623 **忠雄**(ただかつ・臼木うすき、通称;覚左衛門/号;古訃)?-?　江前期元禄1688-1704頃の会津藩士、
文筆家;1692「三略為子」、「日暮集」「武士伊呂波歌」著

P2639 **尹勝**(ただかつ・上坂かみさか、通称著屋めどきや勘兵衛/著屋伝兵衛)?-?　江中期京の書肆、
1740「天満宮霊験真書」刊、「午年開帳廻り」「懐法日時計」著、
参考　同族の人　→　*兼勝*(かねかつ・上坂、著屋勘兵衛、書肆)Ｐ２６３９
忠勝(ただかつ・松平)　→　*忠国*(ただくに・松平まつだいら、藩主/歌人)　Ｚ２６５９
忠雄(ただかつ・小笠原)　→　*忠雄*(ただお/ただかつ/ただたか・小笠原、藩主/故実)Ｐ２６２１

E2696 **忠兼**(ただかね・藤原ふじわら、称;肥後大進、隆忠男)?-?　1149存　母;藤原通宗女、廷臣;蔵人/大宰少弐、
1115肥後守、従五下、1149以前に出家、袋草紙に肥後下向時の道真廟の逸話入、
歌人;1121長実家歌合/34顕季家歌合参加、顕季は伯父、隆縁の兄弟、
詞花集編纂時に編者の従兄弟の顕輔を支援(詞花集注入)、1139(保延元)家成歌合参加、
後葉集2首/続詞花集入、勅撰3首;詞花(56/105)新拾遺(1372)、
[ほとゝぎすなく音ねならでは世の中に待つこともなきわが身なりけり]、
(詞花;夏56/後葉89、関白大政大臣中通家にて郭公の歌各々10首詠む)
[くらゐやまおひそふ松のとしをへてたえぬも君がさかゆべきかな]、
(袋草紙;家成歌合[散佚];祝右、位山:飛騨の歌枕/君は生茂る松のように昇進なさる)

E2697 **忠兼**(ただかね/ただかぬ・橘たちばな)?-　?　平安後期廷臣;従七位/内膳司典膳、漢学者、
天養-治承(1144-81)頃補訂を重ね「色葉字類抄」編纂

E2698 **忠兼**(ただかね・藤原ふじわら:道綱流、家名;楊梅、忠行男)?-?　鎌倉中期廷臣;左少将/1251従三位、
1253出家、歌人;1246春日若宮社歌合参加、万代集・現存六帖・秋風集入集、
勅撰12首;続古(1434/1688)続拾(251/396/576/1199/1244)新後撰(2首)玉(2首)新後拾、
[ふぢごろも袖はほすべきひまもなし涙しぐるゝ秋の別れに](続古今;哀傷1434、
宣陽門院[後白河院女の覲子1181-1252]没年の暮秋に伏見に参り詠/藤衣は喪服)

P2640 **忠兼**(ただかね・多おおの、忠秋男)1658-1700*43歳*　楽人、内匠少允/上野介/1693正五下、
「御倉役家領御神楽人家領由緒」著、
多上野介名で「知行所之覚帳」「知行高覚帳」あり;忠高・忠兼・忠豊のいずれかであろう?

P2641 **忠金**(ただかね・田代たしろ、通称;定右衛門)?-1722　江前・中期上州高崎藩士、1697「陪従私記」著

U2608 **忠鼎**(ただかね・水野みずの/本姓;源、広島藩主浅野宗恒2男)1744-1818*75歳*　唐津藩主水野忠任の養子、
1775養父隠居;家督継嗣;肥前唐津藩主、従五下左近将監、奏者番、藩財政改革に着手;
天明飢饉により失敗/1801藩校経誼けいぎ館設置、1805長男忠光ただあきらに家督譲渡、
歌;1798石野広通「霞関集」入、
[此の頃は霜がれはてしまくず原何をうらみの嵐吹くらむ](霞関;冬601/嵐吹寒草)、
[忠鼎(;名)の初名/通称/諡号]初名;長孝、通称;式部/左近将監、諡号;陸亀公

P2642 **忠周**(ただかね・梅津うめづ/本姓;藤原、通称;主馬)1791-?　1841存　秋田の国学者:1841平田篤胤門、
1833「梅津忠周詠草」、「佐竹御氏考」著、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[沖遠くみつき積む船数見えて江戸の湊の月のさやけさ]、
(大江戸倭歌;秋886/調みつきは献上物)

忠周(ただかね・内藤)　→　*忠周*(ただちか・内藤ないとう/藤原、幕臣/歌)Ｕ２６５３
忠兼(ただかねーぬ・藤原)　→　*公蔭*(きんかげ・正親町おうぎまち、歌人)　Ｄ１６８５

Z2675 **忠上**(ただかみ・水野みずの、通称;太郎七郎/善太郎)1825-55*31*　伊予の歌人、松山藩士か?

W2679 **忠樹**(ただき・菊池きくち/本姓;藤原、)1810-59*50*　伊予八幡浜の神職、国学;二宮正禎まさただ門、
[忠樹(;名)の通称]長門

X2635 **忠垠**(ただきし・酒井さかい、小浜藩主忠直男)1663-1707*45*　江戸の幕臣;小普請、忠隆・忠稠の弟、
和学者、
[忠垠(;名)の通称]　卯之助/数馬/織部

唯吉(ただきち・三井)　→　*梅巌*(ばいがん・三井みつい、書家/絵師)　３６９５
只吉(ただきち・入江)　→　*黄山*(こうざん・菊池きくち/増田、儒者)　Ｊ１９２１
只吉(ただきち・江藤)　→　*信行*(のぶゆき・江藤えとう/香月、里正/歌)Ｈ３５５５

E2699 **忠君**(ただきみ・藤原ふじわら、別名;忠尹ただまさ、師輔男/祖父忠平[貞信]の猶子)?-968　母;藤原経邦女、
廷臣;正四下右兵衛督、伊尹・兼通・兼家・高光・為光の兄弟、
歌人;959内裏詩合の方人/960内裏歌合/966内裏前栽合参加、忠平の愛孫(清慎公集入)、
拾遺1181/1258題詞(:源雅信女からの返歌)、定子女房中納言の君の父(枕草子入)、
[ちぢの色の花のくさぐさ月影ににほひぞまさんよろづよの秋]
(内裏前栽合;康保三年八月十五夜催12)

F2600 **忠清**(ただきよ・藤原ふじわら、清綱男)1068-?　1115存　母;高階為行女、平安後期廷臣;正五下刑部大輔、
1104淡路守/1115(永久3)出家*48*、隆時の弟/隆重の兄、歌:詞花集321、続詞花集入
[いかなればおなじ流れの水にしもさのみは月のうつるなるらん](詞花;雑321、
兄隆時と別れた女と関係し別れた;のち弟隆重と交際していると聞き詠、
流れは血筋/月が水に映ると心が移るを掛る、同族を愛した和泉式部や伊勢の例あり)

F2601 **直清**(ただきよ)　？－　？　室町期連歌作者、
1445垂水入道日晟にちせい亭「文安月ぶんあんつき千句」参加;第八何鳥発句

E2669 **忠精**(ただきよ・氏家うじいえ)　？－　？　摂津住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」3首入、
[桜花散りしく庭をはきありく雪踏せったの皮に波ぞかゝれる](夷曲集;71/落花、
掃きと履き/皮と川を掛る、雪踏;面は竹皮裏は牛馬革の下等の草履・ここは庭履用、
本歌;詞花37摂津;桜花散り敷く庭をはらはねば消えせぬ雪となりにけるかな)

F2602 **忠精**(ただきよ・牧野まきの、藩主忠寛男/本姓;紀)1760-1831*72*　母;大岡忠光女、越後長岡9代藩主;

1766襲封、幕府要職;京都所司代など歴任/1801老中(在職16年)/28再任、
1808藩校崇徳館創設、侍従/備前守、
歌;冷泉家入門、画を嗜む、「天覧墨竹図」画/「墨竹要論」/1831「墨竹発蒙」著、
歌;「源氏巻名和歌」・1798広通「霞関集」・蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、忠雅の父、
[岩つつじ咲きそふ頃は秋ならでくれなゐくくる山川の水](霞関;春189/水辺躑躅)、
[その人のありともわかで雨の夜にそのしなじなを語ることの葉]、
(大江戸倭歌;雑1989/源氏物語箒木)、
[忠精(;名)の通称/号]通称;新次郎、号;万亭/乾々斎けんけんさい/云鳳/白甫、法号;竜徳院
牧野長岡藩主;①駿河守忠成ただなり②飛騨守忠成ただなり③駿河守忠辰ただとき④駿河守忠寿ただかず、
⑤土佐守忠周ただちか⑥駿河守忠敬ただたか⑦駿河守忠利ただとし⑧駿河守忠寛ただひろ、
⑨備前守忠精ただきよ⑩備前守忠雅ただまさ⑪備前守忠恭ただゆき⑫駿河守忠訓ただくに⑬忠毅ただかつ

U2679 **忠清**(ただきよ・伊藤いとう) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[神がきにかけて久しきみしめ縄長くも人のなどかつれなき](大江戸倭歌;恋1405)

F2603 **忠精**(ただきよ・水野みずの、初名;忠良/忠経、忠邦ただくに長男)1833-8453 父;遠州浜松藩主・老中、
天保改革後1845父失脚;家督嗣;浜松藩主/直後羽前山形藩に転封、寺社奉行・若年寄歴任、
1862(文久2)老中に就任;在任中横須賀造船所建設を推進、1866長男忠弘に家督譲渡、
国学・村田春野門、「老向山歌集」著、忠広・忠美の父、
[忠精(;名)の通称/号]通称;金五郎/大監物/左近将監/和泉守/出羽守、
号;考向山/考山こうざん

E2644 **忠浄**(ただきよ・村上むらかみ、別名;正賢/鐘、忠順ただまさ男)1847-192276 母;三千代、
三河碧海郡堤村の代々医者;兄の早世で家督嗣、刈谷藩主土井氏に出仕/歌;父門、
「安斎叢書目録」(兄忠明と共編)、登之野としの・小鈴・八千代・忠明の弟、
[忠浄(;名)の通称/号]通称;松貞、号;机斎/清水廼舎

父 → *忠順*(ただまさ・村上むらかみ、医/和漢学/歌)Ｆ２６８６
忠清(ただきよ) → *忠清*(ちゅうせい、俳人) Ｇ２８４９
忠精(ただきよ・河上) → *忠晶*(ただあき・河上/川上、藩士/儒者) Ｐ２６１１

F2604 **忠国**(ただくに・藤原ふじわら、連煎[連並]男orその弟連永男)?-? 平安前期廷臣;従五上、陸奥守、
左大臣実頼家探題歌合に参加、後撰集681/1281(実頼家歌合の歌)、
[漁火いざりびの夜よるはほのかにかくしつゝありへば恋の下したに消けぬべし](後撰集;十恋681)

P2643 **忠国**(ただくに・武内/竹内たけうち、盛国男?)?-? 戦国期;長門豊浦宮(忌宮神社)宮司、弘国の父、
1480.9.8宗祇と「何人百韻」張行(宗祇が筑紫道記の旅で同地訪問;月にみつに一座)、

Z2659 **忠国**(ただくに・松平まつだいら、松平信吉[1580-1620]長男)1597-165963 母;松平信一女(養女?)、
1620(元和6)丹波篠山藩主を継嗣;5万石、父の代から建設中の城下町を完成、
1649(慶安2)播磨明石に転封;7万石、新田開発・掘割開削に尽力、従五下山城守、
茶道・歌・俳諧・文学を嗜む、沢庵宗彭と交流、光源氏・明石入道の碑を建立;自作歌を刻む、
正室;戸田氏鉄女、信久・信之(家督嗣)・忠栄・信重・翠松院・栄昌院らの父
[忠国(;名)の初名/通称]初名;忠勝、通称;千熊/勘四郎/山城守

P2644 **忠国**(ただくに・本多ほんだ/本姓;藤原、松平頼元男)1666-170439 1673郡山藩主本多政長の養子、
1679大和郡山藩主;すぐ岩代福島藩転封;15万石/82播磨姫路藩に転封、従四下/侍従、
幕府への忠誠心篤く藩政にも手腕を発揮、1702「播磨国郷帳」編、
[忠国(;名)の初名/通称/法号]初名;政義/政武、通称;小次郎/平八郎、法号;徳宗院

X2621 **忠邦**(ただくに・佐竹さたけ、)1762-180443 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、
[忠邦(;名)の通称] 吉右衛門

F2605 **忠邦**(ただくに・水野みずの、唐津藩主忠光ただあきら男)1794-185158 母;中川恂、兄芳丸没;世子となる、
1812(文化9)父隠居;肥前唐津藩主;転封工作で1817遠州浜松藩主;
奏者番・寺社奉行兼任、25大坂城代/26京都所司代/侍従、越前守、
1828(文政11)西本丸老中;将軍世子家慶付/34本丸老中;勝手掛/39(天保10)老中主座、
1840(天保11)家慶将軍の下で旧側近を一掃;天保改革を宣言、
幕政改革・幕藩体制強化を図る;改革反発による幕府内での孤立;1843罷免/44再任、

1845辞職;政治責任で領知没収/謹慎、家督は息忠精が継承;山形へ転封、
儒詩;塩谷宕陰門/国学・歌;村田春海門、正室;酒井忠進女(歌人)、
「春雪詩」「浜藻」、家集「常侍集」「黄菊園詠草」、「野泉帖」「閣老紀聞」「城代規格」「愚藻」著、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[動きなき御代の鎮めの山松に千秋をかけて月ぞ宿れる]、
(大江戸倭歌;雑1845/二荒山に月を見し時)、
[忠邦(;名)の通称/号]通称;於菟五郎、 号;松軒/蘭園/菊園、 法号;英烈院

忠国(ただくに・足利) → *直義*(ただよし・足利、武将/歌人) Ｇ２６０４

忠邦(ただくに・本多) → *康桓*(やすたけ・本多ほんだ、藩主/詩歌) Ｇ４５６０

U2616 **忠邦室**(ただくにのしつ・水野みずの、酒井忠進女)?-? 天保改革の老中水野忠邦の妻(正室)、歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[降り積る高ねの梢ゆきはれてけさより春と霞みぬるかな](大江戸倭歌;春56/霞)

U2636 **寔子**(ただこ・近衛このえ/島津、広大院こうだいいん)1773-1844*72歳* 江戸幕府11代将軍徳川家斉の正室、
実父;薩摩藩8代藩主島津重豪/実母;側室の市田氏(お登勢の方[慈光院])、
初名;篤姫/於篤、3歳で一橋治済男豊千代(後の徳川家斉)と婚約;茂姫と改名/江戸住、
1787近衛経熙の養女;寧姫と改名/1789結婚;御台所;近衛寔子ただこと改名、
1796敦之助を出産/御台所の権威を背景に島津重豪および市田家の勢力拡大、
大奥に付上臈歌人;花町・2代花園・佐保子など、
1826浜御殿に奥女中同伴で行く:新見正路「賜蘆拾葉」に紀行文入、
1837年家斉隠退し共に西の丸住;「大御台様」と称される、1841夫没;落飾し広大院と称す、
家斉夫婦の帰依の厚い感応寺には大奥女中の代参多く風紀の乱れ甚だしく公然化、
家斉没後天保改革で感応寺処分;日啓は女犯の罪で捕縛、
大奥筆頭2代花園と家斉の愛妾お美代は押込、広大院用人の山田日向守など御役御免、
1842広大院は従一位;一位様と称される;西丸大奥から本丸大奥に移る;松の御殿と改称、
1844本丸全焼;奥女中に背負れ吹上御殿に非難;花町はじめ奥女中数百人死亡、この年没、
のちに天璋院が広大院にあやかり[篤姫]を名乗る
[寔子(;名)の別名/通称/法名]別名;篤姫/於篤(初名)/茂姫/寧姫、 通称;大御台/一位様、
法名/法号;広大院

W2611 **直子**(ただこ・大久保おおくぼ、旧姓;萩原)1798-1876*79* 京の生/讃岐高松藩老大久保飛騨守の室、
歌人;友安三冬門

U2690 **ただ子**(ただこ・牧野まきの) ？ - ？ 江後期;歌人、牧野路子みちこ(1730?-94)との関係?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[音づれて風なさましそ草枕旅寝の床のふるさとの夢](大江戸倭歌;雑1833/旅宿夢)

P2645 **忠侯**(ただこれ・松平まつだいら、忠馮男)1799-1840*42* 母;井伊直幸女、肥前島原藩主;
1819(文政2)父の遺領襲封、藩校再興・蘭医学振興・農政充実・沿岸防備増強;財政窮乏、
従五下/摂津守/主殿頭とのものかみ、「忠侯公御筆手習帳」書、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[玉くしげ箱根の山の明がたにまだ袖寒き春風ぞ吹く]、
(大江戸倭歌;雑1848/箱根山を越ゆとて)、
[忠侯(;名)の幼名/通称/法号]幼名;秀太郎/又八郎、 通称;主殿頭、 法号;徳巌院

唯五郎(ただごろう・田中) → *佳政*(よしまさ・田中/山野、藩士/和算/神道)Ｈ４７０１

朶々斎(ださい・原口) → *也好*(やこう・原口、俳人) ４５５９

U2631 **忠受**(たださか・西尾にしお、姫路藩主酒井忠実3男)1821-61*41歳* 母;西尾忠移さだゆき女の隆姫、
1842(天保13)母の実家の遠江横須賀藩主6代西尾忠固ただかたの養子;従五下/式部少輔、
1843(天保14)養父隠居;家督嗣;須賀藩7代藩主;隠岐守、46奏者番、藩財政再建を図る、
藩内に茶・樹木栽培奨励、絵画に通ず;華渓と号す、正室;土岐頼布女、忠篤・本多忠恕の父、
1861江戸外桜田屋敷に没;長男忠篤が継嗣、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[短か夜は光流れてゆく月の入江の水に影もとどめず](大江戸倭歌;夏545)、
[忠受(;名)の号]号;華渓、 法号;高俊院

P2646 **忠貞**(たださだ・菅原すがわら、為紀男)?-1040 母;菅原雅規女、平安中期廷臣/漢学;紀伝道門、

対策及第/大内記/兵部権大輔/式部少輔/1032文章博士/信濃守/氏長者/従四上;任地没、
1025藤原実資から道真自筆草書を贈らる/1040信濃没、詩;中右紙背詩集入、続文粋3首入

F2606 **忠定**(たださだ・中山なかやま、初名;忠房、兼宗男/本姓;藤原)1188-1256*69歳* 母;藤原重家女、廷臣;
左近権中将/1218参議;20解任/37正二位/56出家、妻;兵衛内侍、基雅の父、「物具装束抄」著、
歌人;1207内裏百番歌合/15内裏名所百首/18順徳院中殿御会/48宝治百首/56百首歌合参加、
定家懐旧歌・現存和歌六帖・万代集・秋風・雲葉集・秋風抄・続現葉集・続歌仙落書等入集、
勅撰28首;新古今(1109)続後撰(359/779/1030/1071)続古(169/1436/1491/1500)以下、
[思へどもいはで月日は杉の門かどさすがにいかゞしのびはつべき](新古今;恋、
言に出でんと欲する恋の心、過ぎと杉の門を掛る/さすがと門を鎖さすを掛る)

F2607 **忠貞**(たださだ・惟宗これむね/家名;島津)?-? 鎌倉末南北期歌人、廷臣;五位民部大輔、
勅撰3首;風雅(1602)新千載(1111)新拾遺(1167)、
[難波潟みぎはの雪はあともなしたまればかてに浪やかくらん](風雅;雑1602/浦雪)

P2647 **忠定**(たださだ・花山院かざんいん、初名忠俊、通定男/本姓藤原)1379-1416*38* 南北室町期廷臣;
1396従三位/権中納言、1402従二位権大納言;忠定に改名、1403正二位/16兼右大将、
1396「忠定卿記」「御登山記」著、「忠定卿装束抄」「物具装束抄」「年中諸公事装束要抄」著、
歌;1407(応永14)後小松天皇催「内裏九十番歌合」参加、
[ふけぬるかなほ影寒し置く霜の九ここのかさねの冬の夜の月](内裏九十番;十四番左27)

P2648 **忠貞**(たださだ・神村かみむら/初姓;鈴木、神村正鄰まさちかの養嗣子)1740-81*42* 三河碧海郡今岡の生、
儒;名古屋の深田厚斎門/国史律令・神道;神村正鄰門;1772師没後に養嗣となり後継、
故実;京の滋野井公麗門/明経道;伏原宣条門、国学者/故実家/神道家、
1781「忠貞家宝記」、「長久手御陣記」「御即位次第略譜」「内裏立図事書」著、
[忠貞(;名)の字/通称/号]字;篤卿、通称;信九郎、号;鳳嶺

P2649 **忠貞**(たださだ・木村きむら、号;梅年/希言子)?-? 江後期江戸の読本作者、1820「太田道灌雄飛録」著

V2611 **格定**(たださだ・赤川あかがわ、通称;内蔵太くらた、知至ともゆき長男)?-1860 信濃飯田藩士、歌人;父知至門、

V2631 **正詳**(たださだ・有房ありふさ/柳川、)1826-67*42* 讃岐那珂郡の歌人;那珂郡の神職秋山惟恭これやす門、
[正詳(;名)の通称/号]通称;巌二、号;富艸舎由種

忠質(たださだ・近藤) → *忠質*(ただかた・近藤、文筆) Ｅ２６９２
忠定(たださだ・坊城/藤原;続千1934)→*経顕*(つねあき・勧修寺かじゅうじ/坊城、歌人)Ｂ２９４６
忠定(たださだ;初名・多) → *忠行*(ただゆき・多おおの、楽人) Ｒ２６１４
忠定(たださだ・鳥居) → *忠春*(ただはる・鳥居、藩主/乱行) Ｑ２６５１
忠定(たださだ・阿野/清水谷)→*実任*(さねとう・清水谷/藤原/阿野、権大納言/連歌)Ｌ２００２
忠貞(たださだ・立花) → *忠茂*(ただしげ・立花たちばな、藩主/歌人) Ｆ２６１２
忠貞(たださだ・中村) → *択斎*(たくさい・中村、儒者) Ｎ２６９８
忠貞(たださだ・蒔田) → *雁門*(がんもん・蒔田まきた、儒者) Ｒ１５６８
忠貞(たださだ・関口) → *黄山*(こうざん・関口せきぐち、儒者/書家) Ｇ１９３４
忠貞(たださだ・杉辺) → *水谷*(すいこく・杉辺すぎべ、書家) Ｅ２３５３

2754 **忠郷**(たださと・榊原さかきばら/本姓;藤原、館林藩士の正勝(?-1665)男)?-1704 江前期幕臣;
徳川家綱に出仕、禄400石、小笠原流弓馬の礼法;小笠原直経門/新当流、中川重興の師、
歌人;[難波捨草]多数入、妻も歌人、
忠秋(1664-1720)・江原秀隆・広戸正方妻・大島光春妻の父、1704(宝永元)没、
[不尽の麓にて花をながめて、
妙なれや匂ひふかめて山桜花こそふじのしらねなりけり]、
(1688浅井忠能[難波捨草]春41)、
[忠郷(;名)の初名/通称]初名;忠直、通称;七十郎/忠右衛門/忠左衛門、法名;日誠

P2650 **忠郷**(たださと・宇治田うじた、砲術家友次男)1691-1744*54* 紀伊宇治市場の生/和歌山藩士;1718家督、
徒士/藩命で熊野三山御神宝の調査/故実家、
1734「熊野三山紀行草稿」36「本朝軍器考余」著、
[忠郷(;名)の通称] 秀八郎/平左衛門

U2686 **忠恕**(たださと・大久保おおくぼ、ただゆき?・ただよし?・ただひろ?)1833-70*38* 旗本大久保家(5千石)の養子/幕臣;
従五位下豊後守/のち主膳正、中奥小姓/西丸小姓組番頭/書院番頭/御側衆/西丸御側衆、

大番頭/本所深川火事見廻/学問所心得頭取/中川番/目付を歴任、1862(文久2)長崎奉行、
1863(文久3)大目付(兼道中奉行)、1864(元治元)奉行を罷免され甲府勤番頭、
1865(慶応元)京都東町奉行;67王政復古で解任/68陸軍奉行並;鳥羽伏見戦に従軍;
鳥羽街道を進む別軍として大垣藩兵・見廻組等の幕軍を指揮、
松平康國(漢学者)・佐久間信恭(英語学者)の父、豊後守大久保忠模ただひろ(歌人)と同一?、
[忠恕(;名)の通称/号]通称;嘉平次/豊後守、号;樫軒ていけん

V2578 **忠郷**(たださと・鵜飼うがい、) ? - 1871　陸奥三戸の生/八戸藩士;三戸給人、国学者、
[忠郷(;名)の別名/通称/号]別名;秀貞、通称;伝右衛門、号;東岱

V2610 **忠郷**(たださと・赤川あかがわ、玄悦長男)1843-192179　長門萩藩士;藩校明倫館に修学、
藩医学館好生堂に修学、1861から国事に奔走、63下関事件に参加/膺懲隊を組織;64司令、
四国艦隊下関砲撃事件に参戦/1866第二次長州征討では膺懲隊を指揮し安藝原口で戦闘、
1868健武隊が組織され副総督;69藩の軍制改革で解散、
維新後;内政官僚各種歴任、1883秋田県令、1902広田神社・松尾大社宮司/07長田神社宮司
[忠郷(;名)の通称/号]通称;敬三/**贛助**(贛助)こうすけ、号;慶巖

忠郷(たださと・松岡)　→　*内平*(うちひら・松岡、国学者/歌)　Ｄ１２１０
忠郷(たださと・牧野)　→　*忠辰*(ただとき・牧野まきの、藩主/国学)　Ｚ２６４９
忠郷(たださと・中曾根)　→　*宗邡*(そうほう・中曾根なかそね、和算家)　Ｉ２５８９

2755 **忠郷妻**(たださとのつま・榊原さかきばら/本姓;藤原、)?-?　江前期;幕臣の妻、
歌人;1800浅井忠能[難波捨草]入(夫は多数入集)、
[五月五日に雨ふりければあやめに露かかり落つるをながめて、
けふといへば軒にあやめを吹きこえてしのぶも匂ふ雨の雫も](難波捨草;夏170)

2625 **忠実**(ただざね・藤原ふじわら、関白師通男/母;俊家女の全子)1078-116285　父早世;祖父師実の猶子、
廷臣;1099氏長者/1100右大臣/12従一位太政大臣/白河院政期に摂政・関白として実権、
1140出家;隠然と勢力、忠通・頼長の父;忠通を疎んじたため保元乱の一因となる、
故実に精通;故実言談「中外抄」(中原師元筆記)、説話言談「富家語ふけご」(高階仲行筆録)著、
日記「殿暦」、「糸竹譜」「類聚箏譜」「朗詠九十首抄」「乾鈔」「康和以来公卿勅使記」著、
「皇太神宮公卿勅使発遣事」「旧記目録」著、袋草紙に1093郁芳門院根合参加時の逸話入、
妻;源師子(1070-1148)、高陽院泰子かやのいんやすこ(1095-1155/鳥羽天皇皇后)の父、
歌;勅撰7首;新古今(784/1647)新勅(449)続後撰(1343)続拾(735)続千(1145)新千(2325)、
[袖ぬらす萩のうは葉のつゆばかり昔忘れぬ虫の音ねぞする](新古今;哀傷784、
妻師子[久安四年1148/12月14日没79歳]没後に宇治より新少将の許に贈る歌)、
[忠実(;名)の幼名/通称/法名]幼名;牛丸、
通称;知足院殿/知足院入道前太政大臣、富家殿、法名;円理

P2651 **忠眞**(ただざね・小笠原おがさわら、初代松本藩主秀政男)1596-1667　母;松平信康女亀姫(家康の孫)、
1615大坂夏の陣で兄戦死;信州松本藩主襲封/明石移封/1632豊前小倉に転封(藩祖)、
1637島原乱に長崎警護、宮本武蔵を庇護、茶人;古市了和を迎え小笠原茶道古流を興す、
俳諧;西山宗因を招聘

2752 **忠眞**(ただざね・酒井さかい、忠義長男)1671-173161　母;松平輝綱女、出羽庄内藩4代藩主;
1682(天和2/13歳)父没;家督嗣/従四下左衛門尉、酒井佐衛門尉家10代当主、
若年のため幕府より国目付保科正静らが派遣、
1689(元禄2)密姫(細川越中守綱利女/徳川光圀孫)と婚姻;光圀来訪/芭蕉庄内に来遊、
1693側用人、明石藩主本多政利が改易され荘内藩にお預;1702政利乱心;藩の扱い叱責;
忠真は4ヶ月閉門謹慎・多数の家臣も処罰、1704矢島藩との間で鳥海山境界争い;勝訴、
1707鶴岡城西に女中御屋敷建設(御隠殿)、幕命で東海道普請、1720(享保5)大凶作;施粥、
1725侍従/歌人、31(享保16)江戸神田邸で没;養子忠寄(松山藩主酒井忠予2男)が家督嗣、
[水野守矩の追善勧進歌;つの字かしら、雨中懐旧、
常にきく軒端の雨も思ひあれば昔忘れぬ涙とぞなる](茂睡[鳥の迹]哀傷607)、
[忠眞(;名)の幼名/通称]幼名;小五郎、通称;帯刀

Y2685 **忠実**(ただざね・西村にしむら、)1730-179667　駿河府中の商家/国学者、1781(天明元)茶・茶器店創業、

青茶仕立製法導入;[宇治よりもそだちからよし芦久保のちやのめぞ春のはつ鷹の爪]、
国学者、謹節のりときが家督嗣、
[忠実(;名)の通称/号]通称;庄八、 号;有節/竹茗堂ちくめいどう

F2608 **忠以**(ただざね・酒井さかい/本姓源、初名;忠常、忠仰男/忠恭ただずみ孫)1755-90*36* 母;松平乗佑女、
1772;家督;父の死により忠恭の遺領;姫路藩主/従四下侍従/河内守・雅楽頭、歌:冷泉家門、
俳;祇徳門、多芸;画・茶・能楽・故実を嗜む、「海道紀行」「銀鵞公日記」「酒井銀鵞公俳句集」、
「玄武日記」「独吟一夜百句」著、石野広通「大崎のつつじ」「霞関集」入、
[置く露は霜となりゆく冬がれに秋を忘れず匂ふ白菊](霞関;冬584/残菊留秋)、
[忠以(;名)の通称/号]通称;直之助/徳太郎/雅楽頭うたのかみ、
号;宗雅/一得斎/払袖/玉助/銀鵞/月亭、法号;払袖源昭宗院、 酒井抱一ほういつの兄

P2652 **忠孚**(ただざね・幡野はたの、弥五兵衛男)1768-1843*76* 尾張名古屋藩士;藩主徳川宗睦の近侍、
父と確執;廃嫡、国学/俳諧を嗜む/画;住吉慶舟門、「雨夜燈」「和解十八史略」「陳隋軍談」著、
[忠孚(;名)の字/通称/号]字;伯義、通称;弥太郎、号;竜湊りゅうそう/潮音/大路、 法号;少広院

F2609 **忠真**(ただざね・大久保おおくぼ、忠顕男)1781-1837*57* 小田原藩主;1796家督/襲封、寺社奉行/大坂城代、
1815所司代/侍従/18老中、天保以後幕政の中心;米価調整・通貨鋳造等、22藩校集成館創設、
二宮尊徳・間宮林蔵を登用、詩歌人/蘭学、楠流兵書に関心、出雲守/加賀守/出羽守/安藝守、
妻;徳島藩主蜂須賀治昭女、歌;北村季文・賀茂季鷹門、
「小田原拾遺松風の歌」(30首)/「春鶯集」(季文撰;1842刊)、
「小田原侍従忠眞公御示教文」著(1847刊)、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[都の民の夕けぶり冬ものどかに霞立つ見ゆ](仙洞御所で ; 霞の侍従の異名をとる)
[見ぬ世までかわらじものと眺むれば心も霞む春の曙](曙の侍従の異名をとる)
[忠真(;名)の幼名/通称/法号]幼名;秀次郎、通称;新十郎、諡号;楽園/華岳、法号;彰道院、
歌の異名;霞の侍従/曙の侍従/芙蓉の侍従(芙蓉の花を愛した)

P2653 **忠実**(ただざね・野々村ののむら、通称;市之進)1818-? 1860遣欧使節の副使村垣範正の従者、
「航海日録」著

忠実(ただざね・今村) → *活堂*(かつどう・今村いまむら、詩人) Ｎ１５５７
忠実(ただざね・加藤) → *謙斎*(けんさい・加藤かとう、医者/詩文) Ｂ１８８２
忠実(ただざね・小川) → *汶庵*(文菴ぶんあん・小川、幕府医者) Ｅ３８７６
忠真(ただざね・岩沢) → *直真*(なおざね・岩沢いわさわ、藩士/歌人) Ｌ３２２３
忠信女(ただざねのむすめ・宇治)→ *忠信女*(ただのぶのむすめ・宇治) Ｆ２６５８
只三郎(たださぶろう・佐竹/山内)→*心阿*(しんあ・松月堂しょうげつどう、僧/歌人)Ｎ２２２５
只三郎(唯三郎たださぶろう・佐々木)→*泰昌*(やすまさ・佐々木ささき、旗本/剣客)Ｅ４５９０

F2611 **儀**(ただし・小山こやま/本姓;藤原、信房男)1750-74早世*25* 大坂久宝寺町の売薬業、儒;片山北海門、
和漢籍を読破、詩文;混沌社友、1784「竹取物語抄」、「王余魚」「臆説辨」「小山伯鳳詩稿」著、
学川「野史詠」に「瑯環閣遺稿」入、頼春水と交流、小山翔しょう・入江石亭(寿喜ひさよし)の兄、
入江昌喜の再従弟、
[儀(;名)の字/通称/号]字;伯鳳、 通称;作兵衛/半兵衛、 号;養快/瑯環閣ろうかんかく

W2659 **直**(ただし・塚村つかむら、)1758 - 1813*56* 備中浅口郡鴨方村の里正、国学/歌;香川景樹門、
同郡の歌人唐川信存の師、嘉伝太の一族、
[直(;名)の通称/号]通称;敬輔、 号;澹翁

P2654 **忠**(ただし・大道寺だいどうじ、小文治男)1795-1857*63* 備前上道郡楢原村の庄屋、
1833上京/大坂に滞在、諸国巡遊、五達(書・算・地理・和学・茶)と称さる、歌人;香川景樹門、
景樹主催の香川宣阿百回忌参加、桂園派歌会に参加、「大道寺忠歌集」著、
[忠(;名)の字/通称/号]字;貫甫、通称;俊介、号;停雲/翠渠/随処、法号;法橋顕邦道忠居士

X2657 **正**(ただし・白崎しろさき、誠[一恭]長男)1797-1850*54* 出羽酒田の代々蠟燭太物・質商の越前屋の生、
11歳;青原寺金龍門;参禅修行/15歳;米沢藩校興譲館入学;儒;藩儒神保藍室門/左伝会頭、
1818(文政元/21歳)父没;帰郷し家督嗣、町年寄格・惣御町火消世話(総火消世話役)、
文政11;最上川氾濫で水害の窮民を救済、天保2;酒田町医修行列立掛となる;
天保4;佐藤蒿庵宅に医会所[十全堂]を設置し貧民に医療を施す、
天保飢饉には町奉行小河渡大夫・富豪本間光暉と共に救済、

歌人;香川景樹・庭田重嗣門、本間光道・僧魯道・大信寺勝行院しょうこういん(達空妻)と交流、
国学;酒田で窮死の流浪の服部菅雄門;遺命で「千世園旅日記」を贈られる、
養嗣子;鐙谷永ながし(一誠)、
[正(;名)の初名/通称/屋号]初名;以直、通称;五右衛門(代々の称)/**一実**かずさね/直太郎、
屋号;越前屋

X2662 **貞**(ただし・宍道しんじ、楊井やない盛之2男)1799-1858*60* 長門萩藩士;宍道家を嗣/奥番頭格、
儒;経学に通ず/歌人、楊井盛良(三希)の弟、
[憂き身をばいとふか風も袖におく涙の露は吹きぞはらはぬ]([萩之歌人]入)
[貞(;名)の字/通称/号]字;子祥、通称;直記/浪衛/浪江、号;紫丘/芝斎/酔宜

P2655 **直**(ただし・川目かわめ、字;子縄/通称;彦太夫)?-? 江後期1830-44頃江戸の漢学者;蒲阪青荘門、
「校注韓詩外伝」「荀子考」著

Z2605 **貞**(ただし・林はやし、字;士固/通称;松前)1826-66*41* 伊予松山の歌人

2730 **貞**(ただし・吉田よしだ、八郎男)1827-1900*74* 尾張名古屋堀切筋長者町の生、名古屋藩士、
歌人;氷室長翁ながとし・八田知紀門、絵師;渡辺清門;土佐派を修学、
氷室長翁に随行し「吉野紀行」の挿画を画く、鳥羽僧正筆の志貴山縁起三巻を模写、
[貞(;名)の通称/号]通称;喜太郎/喜右衛門、号;**蓼園**りょうえん/南甫/生斎

2722 **直**(ただし・山本やまもと、号;雪渓/海翁)1830-? 周防玖珂郡の国学者/歌人、
歌;朝枝文言ふみのぶ([詠史歌集]著者)・橘道守門/国学;佐々木弘綱門

Z2667 **整**(ただし・三木みき、号;信斎)1832-1895*64* 阿波三好郡白地村の大庄屋、
国学・神道・歌;禰宜近藤忠直門、のち三好郡の医家いけ神社祠官

X2633 **正**(ただし・齋藤さいとう、)1838 - 1899*62* 出羽(羽後)河辺郡豊巻村の修験者、
豊巻村八幡神社祠官、大講義、(明治18)漢学系[修身学会]を主宰、
[正(;名)の別名/通称]別名;清長、通称;実相院勧妙坊智清

正(ただし・古田織部) → *重然*(しげなり・古田、茶道) ２１１１
正(ただし・額田、絶句編集)→ *正三郎*(しょうざぶろう、擁万堂、書肆) Ｍ２１９７
正(ただし・渡邊) → *正*(まさ・渡邊わたなべ、藩士/歌人) Ｕ４０２０
正(ただし・西山) → *拙斎*(せっさい・西山、医儒) Ｅ２４３２
正(ただし・草野) → *石瀬*(せきらい・草野くさの、藩士/儒者) Ｄ２４９４
正(ただし・山本) → *鹿洲*(ろくしゅう・山本やまもと、医者) Ｃ５２７８
直(ただし・妻木) → *陸叟*(りくそう・妻木/石川、藩医/本草) ４９７８
直(ただし・松田) → *聴松*(ちょうしょう・松田まつだ、俳人) Ｎ２８５４
質(ただし・武元) → *登々庵*(とうとうあん・武元たけもと、儒者/書) Ｏ３１５２
質(ただし→まこと・新山にいやま)→ *因是*(いんぜ・葛西かさい、漢学者) Ｉ１１６４
忠(ただし・本間) → *忠*(ちゅう・本間、儒者) Ｆ２８７０
忠(ただし・小宅) → *采菊*(さいきく・小宅おやけ、藩士/儒者) Ｇ２０６２
忠(ただし・新山) → *忠*(ちゅう・新山、儒者) Ｆ２８７１
忠(ただし・梶) → *荘嶽*(そうがく・梶かじ、儒者) Ｇ２５６２
忠(ただし・日置) → *忠尚*(ただひさ・日置へき/池田、藩老/画) Ｚ２６４０
忠(ただし→ほどこす・源) → *恵*(忠ほどこす・源、弼たすく男古今歌人) Ｅ３９７４
忠(ただし・梁田) → *毅斎*(きさい・梁田やなだ/、儒者) Ｆ１６３５
忠(ただし・浅野) → *忠*(ただす・浅野、藩家老) Ｐ２６６４
忠(多陀志ただし・平井/上田)→*及淵*(しきぶち・上田/平井、藩医/国学) Ｑ２１１０
肇(ただし・大槻) → *俊斎*(しゅんさい・大槻おおつき、蘭方医) Ｋ２１７１

P2656 **忠重**(ただしげ・肥田ひだ、忠親男)?-1649 尾張名古屋藩士;徳川義直に出仕/用人/1644城代、
1624「尾張家禁中へ御借し御書籍之覚」著(土林泝洄入)、
[忠重(;名)の通称]孫三郎/孫左衛門

F2612 **忠茂**(ただしげ・立花たちばな、別名;貞之/忠貞/忠之、直次男)1612-75*64* 母;岡道甫女、立花宗茂の養子、
1637家督;筑後柳川藩主/37島原乱に出兵/46藩士のキリスト信者追放/64致仕;黄檗宗帰依、
安東省庵を侍講に登用/歌、「島原陳記」「立花忠茂筆記」、「好雪様御詠歌」「別峯院御詠草」著、
[忠茂(;名)の幼名/号]幼名;千熊丸/大助/左近将監/飛騨守、号;好雪(;剃髪号)、

法号;別峰院

F2613 **直重**(ただしげ、幽山)　？－　？　俳人、1672久也判「奥州名所百番発句合」入

U2603 **忠重**(ただしげ・備前びぜん)　？－　？　江前期の俳人、1678西鶴「物種集」入、
[敵かたきの首をとりは物かな](物種集/前句;約束は更け行く鐘を相図にて、
新古今;1191小侍従;待宵に更けゆく鐘の声聞けばあかぬ別れの鳥はものかは)

P2657 **唯重**(ただしげ・都筑つづき/金丸、都筑重常男)?-1754　江前期和泉岸和田の生/漢学・歌を修得、
浜田藩士都筑家を継承/家老;藩主継嗣争いに関与;1712致仕/金丸に改姓、
石見国内を歴遊/津和野藩に出仕、「道」を布教:京で客死、「石見名所集」著、
[唯重(;名)の通称]通称;助大夫/金丸翁、続重の父、金丸常昭の祖父

W2645 **忠重**(ただしげ・春日かすが、通称;左近)1668-1722*55* 出雲神門郡古志村の比布知神社祠官、国学、
延重の父、忠重-延重のぶしげ-紀重のりしげ-易重やすしげと続く

P2658 **忠重**(ただしげ・竹林たけばやし)？－　？　江後期大阪の和算家:福田金塘門、
「鉤股大全集」編、1836「算学速成」「算法鉤股大全解」編、「算法極数術」著、
[忠重(;名)の通称]　窠之亮まつのすけ/松之助

P2659 **忠成**(ただしげ・山根やまね)　？－ 1860　長門萩藩士/藩領周防玖珂郡高森の治水監督;その記録、
俳人;古萩園４世(三坂美信よしのぶを継承)並びに菖蒲庵5世宗匠、「柳を杖」著、
[忠成(;名)の通称/号]通称;半七、号;素全/雪汀園/六花園

P2660 **忠重**(ただしげ・宇都うつ/本姓;藤原、通称;栄次郎)?-?　江後期江戸の国学者;幻裡庵門、
「詞の玉緒延約」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[我が門をたたく水鶏のよひよひに君しきまさばうれしからまし]、
(大江戸倭歌;恋1590/寄水鶏恋、女の気持)

X2653 **忠茂**(ただしげ・島田しまだ、別名;美雪/通称;栄次郎)?-?　紀伊和歌山藩士、
国学者;本居内遠(1792-1855)門

B2672 **任重**(ただしげ・加藤かとう)1832- 1864自刃*33歳*　筑後久留米藩士/書家;池尻葛覃門、勤王家、
同志としばしば藩庁に建議、1864長州藩士と上京し蛤御門で敗戦;山崎天王山で自刃、
「加藤任重漫録」著、
[任重(;名)の通称]常吉、変名;南竹男

忠成(ただしげ・祝部ほうりべ)→　*忠成*(ただなり・祝部はふりべ、禰宜、歌人)　２６２９
忠成(ただしげ・大江)　→　*忠成*(ただなり/ただしげ・大江、廷臣/歌人)　Ｆ２６４６
忠成(ただしげ・水野)　→　*忠成*(ただあきら・水野、藩主/老中)　Ｆ２６４４
忠重(ただしげ・木下)　→　*順庵*(じゅんあん・木下/平、幕府儒官/教育)２１５４
忠重(ただしげ・太田)　→　*可笛*(鹿笛かてき・太田おおた、俳人)　Ｏ１５１０
忠重(ただしげ・原)　→　*守孝*(もりたか・原はら、陪臣/国学)　Ｌ４４０９
允成(ただしげ・渋江)　→　*道陸*(どうりく・渋江、医者)　Ｉ３１１９
允成(ただしげ・稲垣/渋江)→　*道陸*(どうりく・渋江しぶえ/稲垣、医者)　Ｉ３１１９
任重(ただしげ・岩井)　→　*重遠*(しげとお・岩井/巌井/祝いわい、和算)Ｒ２１６４
忠重女(ただじげのむすめ・源)→　*祐子内親王家紀伊*(ゆうしないしんのうけのきい:一説)　４６０３
只七(ただしち・望月/伴)　→　*東山*(とうざん・伴ばん、漢学者/藩儒)　Ｅ３１６１
只七(ただしち・伴)　→　*侗庵*(とうあん・伴ばん、藩儒/詩人)　３１８４
只七(ただしち・牧原)　→　*直永*(なおなが・牧原まきはら、藩士/儒/兵学)Ｏ３２７６
唯七(ただしち・国沢)　→　*好材*(よしき・国沢くにさわ、藩士/国学者)　Ｍ４７５７

P2661 **唯七郎**(ただしちろう・中条なかじょう、号;東巍)1773-1849*77* 信濃埴科郡森村の学者/医;柏原寿泉門、
和漢学;僧千丈門、寺子屋師匠、謡曲の師匠、1817(文化14)名主役となる、
「見聞集録」「道中記」「本家日記」著

忠四郎(ただしちろう・上州屋)→　*大原ざこね*(おおはらざこね、狂歌)　Ｂ１４７５
忠四郎(ただしちろう・今泉)→　*有善*(ありよし・今泉いまいずみ/福井、幕臣/国学)Ｈ１００５
忠四郎(ただしちろう・富田)→　*定徴*(さだあきら・富田とみた/小寺、役人/国学)Ｏ２０８８
只四郎(ただしろう・長野)　→　*重富*(しげとみ・長野ながの、藩士/文筆家)　Ｒ２１６８
但四郎(ただしろう・若山)　→　*滋古*(しげふる・若山わかやま、国学/歌人)　ａ２１１２

唯四郎(ただしろう・古橋) → *暉児*(てるのり・古橋ふるはし、名主、篤農) Ｆ３０２３
唯次郎(ただじろう・徳丸) → *眞郷*(まさと・徳丸とくまる、歌人) Ｒ４００７
只次郎(ただじろう・牧野) → *半陶*(はんとう・牧野まきの、儒者) Ｉ３６４２
多田新発意(ただしんぼち) → *満仲*(みつなか・源みなもと、武将/廷臣/歌) Ｅ４１１１

P2662 **質**(ただす・渡辺わたなべ、救平男)1777-1848転落死*72* 肥後上益城浜町の医者;1791近藤三折門、1797医学校再春館居寮施薬主、1826郡代直触/26郡医・教導師/従学者3百余、晩年は著述没頭、過って滝に落下、「阿蘇外史」「矢部神社記」「経絡物産一家言」/1840「矢部風土記」著、「巖阿遺稿」、
[質(;名)の別名/字/号]別名;直、字;子文、号;巖阿がんあ

P2663 **質**(ただす・八木やぎ、字;自寛/通称;林平)?-? 上州伊勢崎宮子村の和算家;石田玄圭・藤田貞資門、1810上州八幡村八幡宮に算額奉納、「立円解附容円解」著、「極数辨疑」補

P2664 **忠**(ただす・ちゅう・浅野あさの、初名;忠助/忠厚、修[忠順]男)1819-92*74* 安藝広島藩主重晟の孫、1843義兄忠敬を継嗣;広島藩主席家老;備後三原城3万石を預る、1853建白書を藩主に提出、辻将曹らと藩政改革を企画;失敗/1855藩主浅野長訓に執政更迭と改革派登用を提訴:側近に阻止され失敗;1856病を理由に隠居、三原に帰郷;洋式兵法採用し砲台築造、1862藩命で藩政復帰し政務担当/1868政事堂副総督、廃藩後;1872(明治5)厳島神社の宮司、「密記書抄」著
[忠(;名)の通称/号]通称;大和/遠江/飛騨/主殿とのも/仲之丞なかのすけ/忠公、号;榎蔭、

V2638 **糾**(ただす・井口いぐち、)1843-1905*63* 出羽(羽後)秋田藩士;神祇方権大属、大教正、国学/神道;平田鉄胤門

糺(ただす・宮川) → *経輔*(つねすけ・宮川みやがわ/山部、神職/国学)Ｇ２９５２

F2614 **忠季**(ただすえ・源みなもと、初名;忠房、顕仲[1064-1138]男/母;源俊輔女)?-? 1146存 廷臣;宮内大輔/正五下、笙の名手、有房・待賢門院堀河・上西門院兵衛の兄弟、
歌人:1116永久百首出詠/18忠通歌合参加(;忠房名)、28顕仲西宮歌合/34顕輔歌合参加、
勅撰5首;金葉21/234/327(金解13)・詞花34/67、後葉・続詞花・万代集・夫木抄入集、
[限りありて散りははつとも梅の花香かをば木末こずゑに残せとぞ思ふ](金葉;春21/梅花)、
(本歌;散りぬとも香をだに残せ梅の花こひしき時の思ひ出でにせむ;古今;読人不知)

F2615 **忠季**(ただすえ・正親町おおぎまち、裏築地権大納言、公蔭男/本姓;藤原)1322-66*45* 母;北条久時女、南北期廷臣;左近中将/1342参議/1357権大納言/59正二位、光厳院側臣、琵琶を嗜む、歌人、「大納言忠季卿御記」著、1349「光厳院三十六番歌会」参加、貞和・1357延文両百首参加、
勅撰19首;風雅(9首348/660/785/1118/以下)新千(5首558/710/720以下)新拾(5首)、
[夕月夜ゆふづくよかげろふ窓は涼しくて軒のあやめに風わたる見ゆ](風雅;夏348/百首歌)
[鈴の音はよそにもしるしはし鷹のしらふに雪はふりまがへども]、
(新千;冬720/延文百首;2168/鷹狩)

U2674 **忠季**(ただすえ・戸田とだ/本姓;藤原)?-? 江後期;歌人、藩士or幕臣?、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[夕顔の咲きし垣根も荒れ果ててほのぼの白き霜の初花](大江戸倭歌;冬1123/夕霜)

F2616 **允亮**(ただすけ/すけあき/まさあき/ときすけ・惟宗これむね/改姓:令宗よしむね、惟宗公方男)?-1009? 明法家、明法得業生/明法博士/勘解由次官/1007従四下河内守、
1002-8「政事要略」編、「類聚判集」「宗河記」著、徒然草198段(政事要略の揚名介の事)入

F2617 **忠資**(ただすけ・藤原ふじわら、家名;楊梅、伊忠男)?-? 鎌倉中期廷臣;正四下・左近中将、1266続古今集竟宴で篳篥を奏す;まもなく出家(五帝王物語入)、
歌人;勅撰5首;続拾遺184/新後撰603/1181/1478続千載1947、
[名のみしていは波たかくきこゆなり音なし川の五月雨のころ](続拾;夏184)

F2618 **忠鋤**(忠助ただすけ・平たいらの、井尻又九郎)?-? 漢学、戯文、1482「若気勧進帳」著

P2665 **忠助**(ただすけ・樺山かばやま、初名;助七/忠知、善久男)1540-1609*70* 薩摩武将/島津家の庶流、歌人;父門、「忠助入道紹剣自記」著
[忠助(;名)の通称/号]通称;兵部大輔、入道号;紹剣、法号;大翁忠宏庵主

F2619 **忠相**(ただすけ・大岡おおおか、大岡忠高4男、大岡忠真の養嗣子)1677-1751*75* 幕臣;1700相続/御徒頭、

御使番/御目付/山田奉行/普請奉行、将軍吉宗の時に江戸町奉行、越前守と改名、
1736寺社奉行/48奏者番;1万石の大名、「大岡越前守忠相日記」「印本起源取調書」著、
のちに[大岡政談物]として脚色され伝説化、母;北条氏重女、法号;松運院
[忠相(;名)の幼名/通称/法号]幼名;求馬、通称;市十郎/忠右衛門/能登守/越前守、

P2666 **忠輔**(ただすけ・牧まき) ? - 1813 加賀金沢藩士:兄忠一没後不届につき相続できず、
のち安永1772-81頃相続;2百石/算用場横目/小松番頭/1803物頭並聞番、1810致仕、
1795「浅井縄手之迫合諸記抜書」1806「吉原紀行」、「軍役内考」「浅井戦図覚書」著、
[忠輔(;名)の通称]昌次郎/昌左衛門

忠介(ただすけ・岸本) → *方忠*(まさただ・岸本きしもと、歌人) Ｐ４０２６
忠助(ただすけ・浅野) → *忠*(ただす・浅野、家老/神職) Ｐ２６６４
忠助(ただすけ・原田) → *復初*(ふくしょ・原田はらだ、儒者) Ｂ３８５７
忠助(ただすけ・福井) → *松山*(しょうざん・福井/佐藤、儒者/兵法家) Ｊ２２２２
忠助(ただすけ・十一屋) → *以直*(もちなお・富岡とみおか、商家/心学者) Ｂ４４５１
忠助(ただすけ・弘) → *通光*(みちみつ・弘ひろ、和洋算家/教育) Ｃ４１６４
忠助(ただすけ・岩間) → *清行*(きよゆき・岩間いわま、藩士/歌人) Ｔ１６５５
忠助(ただすけ・岩間) → *宣道*(のりみち・岩間いわま、清行男/藩士/歌) Ｆ３５８６
忠弼(ただすけ・平元) → *梅隣*(ばいりん・平元、儒医/歌人) Ｃ３６２６
忠輔(ただすけ・西園寺) → *公相*(きんすけ・西園寺、太政大臣/歌) Ｅ１６１８
忠輔(ただすけ・酒井) → *仲*(ちゅう・酒井、狂歌/書画) Ｆ２８６８
忠輔(ただすけ・横沢) → *兵庫*(ひょうご・横沢よこざわ/柴内、家老/画) Ｆ３７２３
忠輔(ただすけ・岡村) → *菊叟*(きくそう・岡村、藩士/砲術/国学) Ｋ１６１７
忠甫(ただすけ・岡島) → *安斎*(あんさい・岡島、儒者) Ｄ１０１１
忠佑(ただすけ・金) → *蘭斎*(らんさい・金こん、医/漢学;老荘) Ｃ４８１３
忠佐(ただすけ・山本) → *謙斎*(けんさい・山本やまもと、藩士/儒者) Ｊ１８０１
只助(ただすけ・萩原) → *秋巌*(しゅうがん・萩原はぎわら、書家/詩) Ｗ２１８７
只輔(ただすけ・内海) → *克清*(かつきよ・内海うつみ/田村/本姓;中臣、国学) Ｔ１５７８
唯助(ただすけ・犬塚) → *印南*(いんなん・犬塚いぬづか、儒者) Ｄ１１２８
唯助(ただすけ・足羽) → *美生*(びしょう・足羽あすは、藩士/歌人) Ｍ３７００
唯助(ただすけ・川村) → *忠雄*(ただお・川村かわむら/村田、神職) Ｍ２６６３
唯助(ただすけ・原) → *眞武*(まさたけ・原はら/吉岡、歌人) Ｒ４０９８
匡弼(ただすけ・大江) → *文坡*(ぶんぱ・大江/江、神道/戯作) Ｇ３８３１

2780 **糺の社に参れりける女房**(ただすのやしろにまゐれりけるにょうぼう)?-? 平安期;女房歌人、
1165清輔[続詞花集]入(;戯咲990)、
[糺の社(下鴨神社)に参れりける女房の供なるめの童の 御前にて尿しとをしたりければ、
預あづかり(社務所の人)の嘖さいなみ罵ののしるをききて 女房、
[ちはやぶるただすのかみのみまへにてしとすることのかくれなきかな](続詞花;990)

P2668 **忠恭**(ただすみ・酒井さかい、初名;忠知、敦賀藩主忠菊男)1710-72*63* 母;堀田正休女、兄親本の養子、
1731家督;上野厩橋藩主/40大坂城代/45老中首座、49溜の間詰;姫路藩転封、名君と称さる、
和漢学に精通;歌/俳/画を嗜む、「酒井忠恭日記」、1755「酒井忠恭家訓」、「鷺山公文抄」、
[忠恭(;名)の通称/号]通称;直之助、号;鷺山/岐山、 法号;古岳院

P2669 **忠純**(ただすみ・鬼頭きとう)1821- 1863*43歳* 尾張藩の吏員;1838京藩邸書記、儒:春日潜庵門、
帰藩後側用人参政の田宮如雲の知遇を得る/国事奔走、1858田宮失脚;散職、尊王攘夷主唱、
1862田宮復職;忠純も譜代席/徒格儒者;1863江戸藩邸弘道館に勤務、「明君美事」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[散り浮かぶ花にたぐへて行く春を帰らぬ水の流れにぞ知る](大江戸倭歌;364暮春花)、
[忠純(;名)の字/通称/号]字;子純、通称;忠次郎、号;艮庵

P2667 **忠澄**(ただずみ・加々爪かがづめ、政尚男)1586-1641*56* 幕臣;1599元服/関ヶ原従軍/大坂両度の陣戦功、
1628目付/34町奉行/40大目付;長崎の葡萄牙船を幕命で焼払、民部少輔従五下、
1619「相刀目録」著、
[忠澄(;名)の通称/法号]通称;甚十郎、法号;宗黒

V2640 **忠澄**(ただずみ・伊木いぎ、土倉一静3男)1818-8669　母;側室、備前岡山藩家老の家、伊木家の養子、
1833養家の家督嗣/伊木家14代当主/1839生坂藩主池田政恭女の治重ちえ(のち清)と結婚、
国老/筆頭家老、1842藩主急死;隠密裏に中津藩主奥平昌高2男を藩主池田慶政に据える,
茶人/歌人、知行地の虫明の備前焼偽物事件を受け京の清風与平を招聘;虫明焼を創竈、
1865隠居;家督を息子忠恭に譲る/但し藩政には関与;木戸孝允と備中国諸藩鎮撫を約束、
のち1871岡山県大参事;辞職/城下の下屋敷に荒手茶寮・少林寺に三猿堂を結び茶を嗜む、
辞世[人はみな月雪花をたのしめど我は深山の故計の下露]、
[忠澄(;名)の幼名/通称/号]幼名;菅助作(土倉家慣例;側室の子は菅姓)、
通称;若狭/長門(1864改称)、号;三猿斎(1869より)/竹林隠士
忠純(ただずみ・谷)　→　*勤*(いそし・谷たに、藩士/神職/歌人)　Ｋ１１４２
F2620 **忠隆**(ただたか・藤原ふじわら、改名;資基すけもと、通称;能登大夫、基兼男)?-?　1134存　母;藤原清家女、
廷臣;刑部少輔/斎宮寮頭/従五下、歌人;忠通歌壇の常連、
1115内大臣忠通家歌合・同後度歌合参加、1116(永久4)自ら歌合主催、
1117雲居寺結縁経後宴歌合参加/18・19内大臣忠通家歌合/21長実白河家歌合参加、
1134(長承3)常磐五番歌合参加、金葉集5首(52/175/394/447/677)、御裳濯集2首入
[吉野山峰になみよる白雲と見ゆるは花のこずゑなりけり](金葉;春52)
F2621 **忠高**(ただたか・九条くじょう/本姓;藤原、法名;専信、定高長男)1213-7664　母;藤原親雅女、廷臣;
1236蔵人頭/37正四下/38(嘉禎4)父母没/参議・左大弁・勘解由長官/39従三位、
1241(仁治2)権中納言/42大嘗会御禊装束司長官・正三位/44辞任/46従二位/54正二位、
1256(康元元)民部卿/60(正元2)中納言/61辞任/72(文永9/60歳)出家、
1239「忠高卿記」著
F2622 **忠教**(ただたか・大久保おおくぼ、初名;忠雄、忠員男)1560-163980　三河の武将/幕臣旗本、1575家康臣、
大坂陣の鎗奉行;1625秀忠から采地の朱印状を受/32旗奉行、22-26「三河物語」家康の事蹟、
「三河記脱漏」著、義侠一心太助と結び大久保彦左衛門として戯曲化された、
[電光朝露石火のごとくなる夢の世に何と渡世を送ればとて名にはかへべきか
人は一代名は末代なり](三河物語)
[忠教(;名)の通称/法号]通称;平助/彦左衛門、法号;了眞院日清
X2636 **忠挙**(ただたか・酒井さかい、忠清男)1648-172073　江戸生/5代上野廐橋まやばし城主;のち前橋に改称、
忠清は15万石大老職にあったが将軍綱吉に解任;屋敷没収、
忠挙は藩政に尽力;名君と称される、老中首座となり15万石に戻る、和学者、
[忠挙(;名)の初名/通称]初名;忠明、通称;与四郎/河内守/雅楽頭うたのかみ/勘解由
P2670 **忠隆**(ただたか・松平まつだいら、政善[貞盈]男)1665-173874　母;川田貞則女、幕臣;1695家督/御腰物方、
1708新番/33新番組頭、歌人、1713「真間紀行」、「池上詣」「飛鳥山記」著、
[忠隆(;名)の通称/法号]通称;源五左衛門/次右衛門/勘十郎、法号;深瑞
B2689 **尹隆**(ただたか・勧修寺かじゅうじ、経慶男/本姓藤原)1676-172247　母;水野勝貞女、廷臣;1696参議、
1701正三位権中納言、「公事根源抜書」「小朝拝以下」著
P2671 **忠敬**(ただたか・沖おき、忠如男)?-1739　陸中南部藩士・1690出仕:藩財政再建に尽力、
讒言により失脚;江戸住、のち帰参の命を受けたが病没、儒;北川尚亭門、
「御倹約大小目録」「志戸平温泉記」著
[忠敬(;名)の通称/号]通称;弥市右衛門、号;友庵　、法号;利運院
P2672 **忠敬**(ただたか・多おおの、初名;久任、忠兼男)1686-176378歳　楽人;将監/上野介/1763正四上、
1702-63「多忠敬日記」38「大嘗会節会次第」56「春日神社御神楽記録」、「家記」「留書」著、
「春日神社御神楽記録」「多忠敬日記別記及抜書」「後奈良院殿上神楽歌」著、
「石清水八幡宮御神楽次第書」著
U2661 **忠珍**(ただたか・山路やまぢ、通称;三郎兵衛)1691-175363　近江彦根の国学者/歌人(;彦根歌人伝入)
P2673 **忠崇**(ただたか/-むね・長谷川はせがわ、忠国男)1694-177784　母;小沢正珍(久助)女、旗本/幕臣;
1728家督嗣:飛騨代官/家禄は400俵、美濃国上川辺の出張陣屋を下川辺に置く、
1732(享保14)飛騨・美濃で5万4500石を支配、1738江戸住から高山在住に改訂、
1739家伝の古文書329通を献上;時服・黄金を賜う、飛騨内の史跡維持・啓発に尽力、

史跡・橋梁等に石碑建立、妻；矢部重信女、1745（延享2）病気で辞職、
1752（保暦2）御細工頭；再出仕/57鉄砲箪笥奉行/77（安永6）致仕、
代官の時に将軍吉宗の命で「飛州志」編纂、1744「飛騨雷鳥記」著、
［忠崇（；名）の通称/法名］通称；政右衛門/庄五郎、 法名；忠崇ちゅうそう

P2674 **忠高**（ただたか・青山あおやま、初名；正幸まさよし、宮津藩主青山幸秀男）1734-1816*83* 叔父青山忠朝の養子、
1760丹波篠山藩主；遺領相続、1766藩校振徳堂創設、農業振興に尽力；不作が続き農民一揆、
1781致仕、「青山家系図」著、
［忠高（；名）の通称/号］通称；秀五郎、 号；有斎/左兵衛佐さひょうえのすけ、法号；徳峯院

F2625 **忠敬**（ただたか・伊能いのう、初名；詮興、新保貞恒男/）1745-1818*74歳* 上総小関村の生、
1762（18歳）下総香取郡佐原の豪商伊能長由の婿養子；酒造業/1794隠居、
1795（51歳）天文学；高橋至時よしとき門/地理・測量、1800蝦夷東南海岸地図を幕府に献上、
全国を測量、「日本測量記」「日本地勢提要」「奥州紀行」「地球測遠術問答」「測量日記」著、
「伊能忠敬日記」（1800-16）、最後に「大日本沿海輿地全図」「輿地実測録」編纂中没、外多数、
［忠敬（；名）の幼名/字/通称/号］幼名；三治郎/佐忠太、字；子斉、通称；三郎右衛門/勘解由、
号；東河

V2686 **忠喬**（ただたか・梅津うめづ、初名；忠興、）1755-1827*73* 出羽（羽後）久保田（秋田）藩士；国学者、
久保田藩家老、忠至（ただのり/ただゆき、藩校初代総裁）の父、
［忠喬（；名）の通称/号］通称；富五郎/藤十郎、 号；恕斎

F2623 **忠升**（ただたか・本多ほんだ、膳所藩主本多忠薫男）1791-1859*69歳* 1802本多忠脩ただひろの養子、
1803家督；伊勢神戸藩主、大坂御加番代・一橋御門番/1840病で隠居；剃髪（昧翁名）、
学門に志向/儒：精里門、詩歌/絵画に造詣、「精里集」序、「光徳公文集」「旅の夢」著、
［忠升（；名）の初名/字/通称/号］初名；忠敬ただたか、 字；君積、 通称；説三郎、
号；幽篁斎/有功斎/冬日庵/不老泉隠、竹僊/鹿門/宗些/昧翁、 法号；光徳院、 忠寛の父

P2675 **忠敬**（ただたか・本多ほんだ、忠居男/本姓藤原）1793-1850*58* 播磨山崎藩主；
1812父遺領襲封（1812-34）、病弱；1834隠居、弟忠粛ただちかが嗣、「梁崎侯本多壽斎文集」著、
［忠敬（；名）の通称/号］通称；富之丞、 号；壽斎じゅさい

F2624 **忠敞**（ただたか・戸田とだ、忠之男）1804-55.10.2圧死*52* 水戸藩士；1813家督/小普請組、
1829徳川斉昭の藩主擁立に尽力/36側用人/執政・藤田東湖と天保の改革に参画/致仕、
1853執政に復活；東湖と安政の改革に着手；安政地震のため江戸藩邸で東湖と圧死、
歌；1844「麓の道しるべ」、「蓬軒歌集」（蓬軒詠艸）著、
［忠敞（；名）の幼名/通称/号］幼名；亀之介、 通称；銀次郎/忠太夫、 号；蓬軒ほうけん/清洲

F2610 **忠貴**（ただたか・岡田おかだ） ？－ ？ 江後期大阪の和算家・武田真元門、
1846「摘要算法」著、
［忠貴（；名）の通称/号］通称；太兵衛、 号；眞遊斎

忠高（ただたか・大野） → *久高*（ひさたか・樺山かばやま/大野、武将/家老/歌）Ｊ３７０８
忠高（ただたか・伊奈） → *忠順*（ただのぶ・伊奈いな、代官/河川工事/救民）Ｋ２６４７
忠隆（ただたか・源） → *俊隆*（としたか・源、廷臣/歌人） Ｍ３１６５
忠寛（ただたか・大久保） → *忠恒*（ただつね・大久保おおくぼ、幕臣） Ｐ２６８６
忠雄（ただたか・小笠原） → *忠雄*（ただお/ただかつ/ただたか・小笠原、藩主/故実）Ｐ２６２１

P2677 **忠勇**（ただたけ・多おおの、太秦うずまさ広運男/多忠可の養嗣）1772-? 1818存 楽人；将監/筑前・周防守、
1816従四下/1818病により致仕、1798「鎮魂歌」、「胡飲酒要録」著
惟彊（ただたけ・頼） → *春風*（しゅんぷう・頼らい、儒者/医者/詩） Ｋ２１４２
忠武（ただたけ・青木） → *海嶠*（かいきょう・青木あおき、儒者/詩） Ｉ１５５５
忠武（ただたけ・松平） → *霍山*（かくざん・松平まつだいら、藩士/儒詩） Ｅ１５８７
忠竹（ただたけ・島津） → *吉貴*（よしたか・島津しまづ、藩主） Ｄ４７９７

P2678 **忠任**（ただとう・高木たかぎ、忠興男）1766-1831*66歳* 代々長崎の町年寄などを務めた高木家10代目、
1781家督/幕臣；長崎代官兼浦々俵物糺方唐物抜荷取締御用、のち御薬園支配方代官、
1808フェートン号来航時に長崎及び港外野母の新台場築造、1789「長崎薬園草木覚」著、
［忠任（；名）の通称］ 菊次郎、作右衛門

P2679 **直胤**（ただたね・横川よこかわ）1774-1857*84歳* 陸中盛岡の和算家；志賀吉倫・佐久間光豹門、

胤征たねゆきのおじ、盛岡大慈寺恵観の知遇で21年間寄寓、
嘉永1848-54頃民間史料を発掘記録/狂歌・釣を嗜む、
1807「神壁算法追加」15「算法補闕」、「初学算叢」編/「算法補闕追加」「未済算法」、
「大慈寺寺実矩格抄」「古今賜俸録」「内史略」「飢饉考」「歴世系」「見聞随筆」著、「文書集」編、
[直胤(;名)の幼名/通称/号]幼名;駒吉、通称;良介/良助、
号;川辺気長かわべのきなが(狂歌号)/参殻成/魚縋ぎょつい/逍遥舎/釣友成、法号;寿算院

Z2646 **忠胤**(ただたね・本多ほんだ、三河岡崎4代藩主本多忠考長男)1830-191081 三河岡崎藩の世嗣、
国学;平田銕胤門、妻;里子/忠敬・敏樹の父、
病弱を理由に廃嫡;高松藩より忠民ただもとが養嗣、
[忠胤(;名)の別名/通称]別名;達恵/忠恕、通称;按察使/斎

V2661 **忠胤**(ただたね・石丸いしまる/本姓;藤原)1840-? 伊予温泉郡桑原村畑寺の生/国学;大藤高雅門、
国学・歌;大国隆正・矢野玄道門/神道;常磐井厳戈いかしほこ門;橘家神道修学、
近江犬上郡多賀大社宮司/1899貴船神社宮司/のち阿波忌部神社宮司、
歌人;「越佐歌集」「明治百人一首」編纂、
[忠胤(;名)の号]五十枚(杉)園

W2603 **忠民**(ただたみ・小柳津おやなぎ/旧姓:朝倉)1831-190373 三河渥美郡の国学者;宮地恒雄門
渥美郡上細谷村庄屋朝倉仁左衛門の弟、養蚕研究、「秋蚕四化養法大意」「通俗養蚕入門」著、
[忠民(;名)の通称] 彦右衛門 、友治の父

忠民(ただたみ→ただもと・本多)→ *忠民*(ただもと・本多、藩主/老中) Ｒ２６０１
忠民(ただたみ・大久保) → *忠恒*(ただつね・大久保おおくぼ、幕臣) Ｐ２６８６

2626 **忠親**(ただちか・中山なかやま/家名;堀河/本姓;藤原、藤原忠宗男)1131-9565歳 母;藤原家保女、
中山氏の祖、廷臣;1164参議/67権中納言/右衛門督兼検非違使別当、
平徳子に出仕;建礼門院別当、安徳天皇の皇太子時の春宮大夫/1180正二位/83権大納言、
1185頼朝から議奏公卿に推挙、89大納言/91内大臣/94出家、
故実・法制に精通;後白河院庁別当の1、今鏡・水鏡作者説あり、
「山槐記」「官職難義」「官職秘要抄」「改元記」「改安元為治承」「三条中山口伝」「貴嶺問答」著、
[忠親(;名)の通称/法名]通称;中山内大臣、法名;静如 、兼宗の父

P2680 **忠隣**(忠鄰ただちか・大久保おおくぼ、忠世男)1553-162876 母;近藤幸正女、小田原藩主;徳川家康臣、
1563岡崎城入城;掛川・姉川・三方原・長久手に転戦;軍功、1593秀忠に仕え老職;6万5千石、
幕政重鎮、1613耶蘇宗門排除に失敗;14失職蟄居/16家康没;剃髪/佐和山城下石崎に隠棲、
茶道;古田織部門、治部少輔/相模守/従五下、「大久保忠隣記」著、
[忠隣(;名)の幼名/通称/号]幼名;千丸、通称;新十郎、剃髪号;道白、法号;涼地院

F2626 **身愛**(ただちか・観世かんぜ、初名;照氏/忠親、元尚[左近]男)1566-162661 観世座大夫;観世大夫9世、
1603家康の後援/幕府抱能役者四座の筆頭、梅若座を吸収、1610-11高野山籠居、
謡曲詞章の確定作業;1620-3「元和卯月本全百番」(門弟石田友雪刊)、「樵蘇指南雑話」、
[身愛(;名)の幼名/通称/号]幼名;鬼若、通称;与三郎/左近、号;暮閑、法名;黒雪
服部慰安斎暮閑(;高野参籠中の称)

V2662 **忠愛**(ただちか・泉ずみ、野尻藤兵衛一利男)?-1702 母;亀女、京の生?、熊沢蕃山(1619-91)の弟?、
備前岡山住;藩士?、歌人、
[忠愛(;名)の通称]八右衛門

Z2660 **忠周**(ただちか・松平まつだいら、松平忠晴3男)1661-172868 母;宝樹院、文武両道に通ず、
丹波亀山藩3代藩主;1683(天和3)兄忠昭を継嗣、伊賀守、1685若年寄、
1686武蔵岩槻藩主に転封/将軍綱吉に近侍;側用人;89御役御免;奥詰、
169但馬国出石藩主に転封/1705側用人に再任;忠徳に改名、歌人;歌会に屡々参加、
1706(宝永3)信濃国上田藩初代藩主に転封;5万8千石、従四下伊賀守、侍従、
農村統制を厳格化、1717将軍吉宗のとき京都所司代;忠周に改名/1728(享保13)老中、
1728(享保13)在職のまま江戸に没:3男忠愛が家督嗣、
[忠周(;名)の別名/通称]別名;忠易(初名)/忠徳/忠栄、通称;与十郎/阿波守/伊賀守

P2681 **忠知**(ただちか・横山よこやま、言知男)1683-173654 母;大森頼直の養女、叔父元知の養嗣子、幕臣:
1703家督/29大坂船奉行;布衣許可、和学者/大坂に没、

1710「本本説」/13「神道定準抄」、「瓊矛称辞」著、
[忠知(;名)の通称/法号]通称;数馬/左門、法号;在忠

F2627 **忠親**(ただちか・上野うえの)1684- 1755*72歳* 因幡鳥取藩主池田光仲の側室上野匂の甥、
山城伏見の生、1710上野家を継嗣;鳥取藩士;6百石/1722寄合組/39一揆加担の嫌疑で閉門,
後赦免、学問;史家、武芸;剣・槍・弓術に通ず、
「雪窓夜話」「因伯陟屺いんぱくちょっき語林」/1724「武士言草」52「勝見名跡誌」著、
[忠親(;名)の幼名/通称/号]幼名;小平次/新九郎、通称;小平太、号;木鼠翁

X2678 **忠親**(ただちか・関せき、通称;蔵人くらんど)1778-1844*66* 安藝広島藩執政;1833(天保4)寄上座;藩政改革、
国学者/藩祖浅野長政を祭神とする饒津にぎつ神社創建に自ら造営奉行となり尽力、

P2682 **忠鄰**(ただちか・本多ほんだ、忠居男/本姓藤原)1812-74*63* 兄忠敬の養子/播磨山崎藩主;1834襲封、
1864第一次長州征討に参加;65第二次には軍用金不足で不参加、藩政改革/学問奨励、
書籍収集/1869隠居、1843「大御番頭年中行事」著、
[忠鄰(;名)の通称/法号]通称;貞之助/貞之丞、法号;大誠院

U2653 **忠周**(ただちか・ただかね?・内藤ないとう/本姓;藤原、通称;欽一郎)?-? 江後期幕臣/歌人、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、60鋤柄助之「現存百人一首」入、
[桃さくらなまめく色にくらぶれば梅はををしき花にぞ有りける](大江戸倭歌;春119)
[秋風に乱れし庭をけさ見れば尾花が袖も萩の花ずり](現存百人一首;33)

P2683 **忠親**(ただちか・藤沢ふじさわ、号;晩園)?-? 江後期和算家;久保寺正久門?、
「算法襍輯録」編、1874「算法審書」著

直親(ただちか・藤原) → *直親*(なおちか・藤原、歌人) Ｂ３２６５
忠親(ただちか・観世) → *身愛*(ただちか・観世かんぜ、能楽大夫) Ｆ２６２６
忠親(ただちか・青山) → *忠雄*(ただお・青山、藩主/歌人) Ｐ２６２２
忠親(ただちか・大藪) → *文雄*(あやお・大藪おおやぶ、神職/詩歌) Ｈ１０３０
忠央(ただちか・水野) → *忠央*(ただなか・水野、城主/和漢学) Ｑ２６２８
忠近(ただちか・小田切) → *春江*(しゅんこう・小田切おだぎり、藩士/絵師) Ｊ２１６３
忠周(ただちか→ただかね・梅津)→ *忠周*(ただかね・梅津うめづ/藤原、国学者) Ｐ２６４２
忠千代丸(ただちよまる・石塚)→ *資梁*(すけやな・石塚いしづか、神職/歌人) Ｌ２３４０

2781 **忠継**(ただつぐ・藤原ふじわら、雅継男)?-1277 廷臣;侍従/紀伊守/左近中将/1261蔵人、
1265(文永2)参議/正四下/66従三位;参議辞任/美濃権守本座/68(文永5)出家、
1277(建治3)没、歌人;1259後嵯峨院[正嘉三年北山行幸和歌]・65白河殿七百首参加、
[またれつるけふのみゆきのはなざくらなほいく千代の春をかさねん](行幸歌26)

F2628 **忠嗣**(ただつぐ・松殿まつどの、初名;兼藤、法名;観意、通[道]輔男/本姓;藤原)1297-1377*81* 南北期廷臣、
北朝;昇進せず;1340従三位/46(貞和2/50歳)参議/47正三位/遠江権守兼任/48権中納言、
1351中納言/53従二位/54大嘗会検校/57(延文2/61歳)権大納言/58正二位/59辞任、
1365出家;法名観意、歌人;二条良基邸に出入;歌壇で活躍、
1366年中行事歌合・67新玉津島社歌合参加/自邸でも月次歌会催、1349「松亞記」著、
勅撰2首;風雅1742・新続古今1297、連歌;菟玖波集5句入、
娘(松殿大納言入道女)も歌人(菊葉集入集)、
[鐘のおと鶏とりのね聞かぬ奥山のあかつき知るは寝覚めなりけり](風雅;雑1742)

P2684 **忠嗣**(ただつぐ・近衛このえ、初名;良嗣よしつぐ、摂政兼嗣男/本姓;藤原)1383-1454*72* 廷臣;1390右中将、
1392(10歳)権中納言/94権大納言/99内大臣/1402(20歳)左大臣/従一位、
1408(26歳)関白(改名;忠嗣)、09致仕/12出家、歌;1407後小松天皇催「内裏九十番歌合」参、
[むら雲をはらひつくせる山風になほさえまさる冬の夜の月](内裏九十番;13/左大臣)

W2671 **忠続**(ただつぐ・喜入きいれ、季久4男)1571-1645*75* 母;佐多忠将女、安桃-江前期;薩摩鹿児島藩士、
幼少期;薩摩の浄光明寺入;法名;長阿弥長重、兄達早世のため1589還俗;喜入家を継嗣、
武将として文禄・慶長役に従軍/関ヶ原の戦に出陣、宇喜多秀家の助命の使者;秀忠に謁見、
島津姓を名乗る許諾、1618(元和4)家老、1633致仕/鹿児島永吉から鹿籠に領地替え、歌人、
正室:伊集院久治女、島津忠栄・忠高の父、忠高が家督嗣、
[忠続(;名)の初名/通称/法名]初名;忠政、通称;摂津守、法名;長阿弥長重(出家名)
戒名;快覚忠慶居士

F2630 **忠次**(ただつぐ・榊原、松平[大須賀]忠政男/本姓源)1605-65*61* 侍従/1601遠州横須賀藩主;父遺領、
1615幕命で父実家上州館林藩主榊原家を嗣ぐ/陸奥白河藩主/1649姫路藩主に移封、
宗因を招聘、歌;烏丸光広門、「武家百人一首」「武詠聚玉」編、
「かさねのいろめ」「松平忠次家範」著、
歌学:1646「続作者部類」編(盛徳[元盛]「勅撰作者部類」光之増補をさらに追補完成)、
[入がたの山なうらみそ武蔵のの草にも月の影ぞかくるる](茂睡[鳥の迹]秋350)、
[忠次(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;国千代、字;国児、通称;五郎左衛門/**式部大輔**、
号;百做ひゃくさく、法号;天誉長山浄晃院

U2602 **忠次**(ただつぐ、尼崎) ? - ? 江前期摂津の俳人、
1678西鶴「物種集」入、
[十貫目すはすは動くは此のかねか](物種集/前句;箱に入れたる女の執念、
謡曲「道成寺」;何の恨か有明の撞き鐘こそすはすは動くぞ祈れたゞ)

X2670 **忠世**(ただつぐ・杉田すぎた、通称;市介)1763-1821*59* 近江彦根藩士;江戸詰、国学・歌人;小原君雄門、
歌;[彦根歌人伝・寿]入

F2631 **忠韶**(ただつぐ・塙はなわ、初名;保忠、忠宝ただとみ[保己一4男]男)1832-1918*87* 江戸/東京の国学者;
1862父暗殺後家督/幕臣;和学講談所附/稽古所で国史・律令を教授/維新後;修史局御用掛、
1883隠居/歌・故実に通ず、祖父・父からの「続群書類従」の書目の収集・校訂・浄書、
「官職唐名便覧」「七福神考」「主一雑抄」「扶桑名画伝索引」「扶桑名画伝称号便覧稿」、
[忠韶(;名)の通称] 敬太郎/太郎

X2672 **忠告**(ただつぐ・鈴木すずき/鈴樹、)1849-? 下野都賀郡の国学者;平田銕胤門、
廷臣沢宣嘉のぶよし(1835-73)に出仕、のち神祇官/教部省勤務
[忠告(;名)の通称]慎三郎

直継(ただつぐ・なおつぐ) → *直継*(ただつぐ・なおつぐ、連歌) Ｂ３２６７
忠告(ただつぐ・松平/桜井)→ *亀文*(きぶん、藩主/俳人) Ｂ１６７４
忠告(ただつぐ・山本) → *忠告*(ただのり/ただつぐ・山本/加賀美、神職)Ｑ２６４２
忠嗣女(ただつぐのむすめ・松殿)→*松殿大納言入道女*(まつどのだいなごんにゅうどうのむすめ、歌人)Ｕ４０１１

P2685 **忠綱**(ただつな・進藤しんどう/本姓;藤原)?-? 1518*存* 近衛家家司;近衛政家に出仕/1518従四下、
連歌;新菟玖波集1句(恋)入
[忠綱(;名)の通称] 新左衛門/安藝守

Y2677 **忠綱**(ただつな・楢林ならばやし、)1722-1796*75* 肥前長崎の医者/京で医業、和学者、
[忠綱(;名)の字/号]字;由仙、号;白竜

F2632 **忠常**(ただつね・平たいら、忠頼男/良文孫)975?-1031*57?* 平安中期祖父より武蔵村岡の武将;村岡五郎、
家督相続;常陸上総下房に所領拡大;武蔵押領使、1028安房を襲撃;謀反として朝敵となる、
平忠常乱と呼ばれる;追討使源頼信に敗戦;出家(法名;常安)/京へ護送中美濃野上で病死

F2633 **忠経**(ただつね・花山院かざんいん、左大臣兼雅男/本姓藤原)1173-1229*57歳* 母;平清盛女、廷臣;
1189(文治5)従三位/1201正二位/07(承元元/35歳)右大臣、13(建保元)出家、
「奏箏相承血脈」に名入、歌;1204春日社歌合参加、
勅撰6首;新古今(421/842/1548)続古今(568)玉葉(2334)新千載(1556)、
[秋の夜の長きかひこそなかりけれ待つにふけぬる有明の月](新古今;秋421)
[忠経(;名)の通称] 花山院右大臣/花山院入道 、定雅さだまさ(右大臣/歌人)の父

2750 **忠常**(ただつね・伊奈いな、忠克男)1649-1680*32* 江戸幕府旗本/関東郡代;武蔵国赤山城4千石、
関東郡代として代々の治水工事・新田開発、小貝川堤防工事・千住大橋の架替工事など、
妻;松平重正女、忠篤・忠順の父、1680(延宝8)没、
[忠常(;名)の通称]半十郎(祖父忠治ただはるの称)
☆茂睡[鳥の迹]入集の伊奈半十郎一正と同一?
[したしきもうときもわかず足引の山本遠く花に問ひきて]([鳥の迹]春133)

V2687 **忠経**(ただつね・梅津うめづ、梅津忠貞の長男)1666-1712*47* 出羽(羽後)久保田(秋田)藩士、
古典・歌;中院通村門、久保田藩家老、渋江光重(1667-1743)の兄、
[忠経(:名)の通称]長久/藤十郎(代々の称)/与左衛門

P2686 **忠恒**(ただつね・大久保おおくぼ、忠位男)1689-1745*57* 大久保忠重の養嗣子;妻は忠重女、

1711家督嗣;幕臣、小姓組番/屋敷改役/1725小姓組番頭/31新番頭/42過失で小普請に貶、
「楠公甲記」著、
[忠恒(;名)の別名/通称/法号]別名;忠寛ただとか(;初名)/長救ながすけ/忠民ただたみ、
通称;弥三郎/万之助/右衛門、法号;日任

P2687 **唯恒**(ただつね・高津たかつ/本姓;平)?-? 江中期享保1716-36頃羽前米沢新田藩士、歌人、
儒者;坂静山光淳門、1747上杉勝延の命により「白子社奉納千首題和歌」編、
1731「高津唯恒詠百首和歌」47「奉詠独千首和歌」51「神前詠奉百首和歌」著

2721 **質庸**(ただつね・山本やまもと/本姓:中臣、旧姓;杉本)1793-1864*72* 伊勢度会郡の神職/国学者、
[質庸(;名)の字/通称/号]字;子仲、通称;市郎兵衛/市郎太夫、号;如岡

P2688 **忠恒**(ただつね・酒井さかい、伊勢崎藩主忠寧男)1811-68*58歳* 母;牧野宣成女多加、兄忠良の養嗣、
1831-51上野伊勢崎藩主;藩財政再建に尽力/51隠居;江戸本所に隠棲、茶/俳人、
1865「煎茶図式」編、
[忠恒(;名)の通称/号]通称;謙二郎、号;寸井/培堂/墨水庵

T2602 **忠恒**(ただつね・石田いしだ、字;士久/通称;忠昌ただまさ)?-1887*50歳位で没* 讃岐高松の国学者、
漢学・遊芸にも精通、高松郡方役所の吏員、1852「地方纂要」著

V2609 **忠常**(ただつね・赤井あかい/本姓;源)1832-1924*93* 丹波氷上郡農業;1845家業嗣、武将赤井直正後裔?
上洛時に見た伏見人形を模倣;[稲畑人形]として販売、庄屋・里正・郷長を歴任、
青年期より国典・漢籍を習得/歌・書に長ず、
維新後;学校建設や養蚕など地域文化産業に貢献、
[忠常(;名)の通称/号]通称;若太郎/佐久、号;香陽/梅鏡/高見山人/安楽

忠恒(ただつね・島津) → *家久*(いえひさ・島津しまづ/松平、藩主) Ｅ１１９６
忠常(ただつね・酒井) → *忠以*(ただざね・酒井、姫路藩主/歌・俳) Ｆ２６０８
忠常(ただのり・鳥居) → *忠則*(ただのり・鳥居とりい/平、藩主/歌) ２７５６
忠常(ただつね・梅津) → *白巌*(はくがん・梅津うめづ、儒者) Ｃ３６８９
忠常(ただつね・鷹見) → *泉石*(せんせき・鷹見たかみ、家老/和漢学) Ｍ２４７８

P2689 **忠連**(ただつら・国友くにとも、通称;剛蔵)?-? 江後期文政1818-30頃伊勢久居藩士、
国学:本居春庭・大平・富樫広蔭門、歌;1827「文政十年丁亥月次歌合」

P2690 **忠貫**(ただつら・滝川たきがわ、通称;又左衛門、忠暁男)?-? 江後期尾張藩士;用人/寺社奉行、
1847「尾張志」編纂(;事務担当);1847竟宴を自宅で主催/48褒賞を受、
「御征長供奉記抜萃」著

C2635 **忠行**(ただつら・石井いしい、中潔男)1818-94*77歳* 羽後久保田(秋田)藩士/勘定吟味役、
1860財用奉行、戊辰役では小荷駄奉行/1874隠居、歌;高階貞房門、
「石井忠行日記」「伊頭園茶話」「羽陰人名録」「落穂集」著、
[忠行ただつら(;名)の通称/号]通称;弥五右衛門、号;伊頭園いずえん 、法号;泰安清涼信士

P2691 **忠貫**(ただつら・本多ほんだ/本姓藤原、新庄藩主戸沢正令男)1833-98*66* 伊勢神戸藩主本多忠寛の養嗣、
1857襲封、63山田奉行;伊勢神宮警護/68山田奉行廃止/69神戸藩知事、のち東照宮宮司、
1857「本多忠貫自筆詩稿」著、
[忠貫(;名)の幼名/通称/号]幼名;敬之丞、通称;正進/伊予守/河内守、
号;容膝斎/桃園、法号;揚徳院

P2692 **忠輝**(ただてる・松平まつだいら、徳川家康6男)1592-1683*92* 1599(慶長4)無嗣絶家松平康忠の遺跡継承、
武蔵深谷藩主、1602下総佐倉藩主/03信濃川中島藩主/10越後春日山藩主;55万石、
1614越後高田藩へ移封、従四下上総守/左近少将、
大坂夏の陣後に家康の不興を買い除封;1616(元和元)伊勢朝熊に配流;
1618飛騨高山に配流/26信州諏訪に移動;以後諏訪に滞在、若年より歌人:1200余首現存、
「松平忠輝詠草」著、
[忠輝(;名)の幼名/通称/号]幼名;辰千代、通称;川中島少将/越後少将、
号;寂林公子、法号;寂林院

Y2638 **糾照**(ただてる・百々どど、)1751- 1813*63* 近江彦根藩士/医者、歌人:[彦根歌人伝・鶴]入、
[糾照(;名)の字/通称/号]字;岱其、通称;卜庵、号;年山

糾照(きゅうしょう・百々) → *糾照*(ただてる・百々どど、藩士/医者/歌) Ｙ２６３８

F2634 **忠英**(ただてる・中川なかがわ、忠易5男)1753-183078　旗本幕臣;1767家督/従五下、77小普請支配組頭、
1788目付/95長崎奉行;飛騨守;近藤正斎を採用・唐蘭通事技能試験実施、
1797勘定奉行兼関東郡代、1806大目付/1807蝦夷地派遣/11朝鮮通信使に応接、
1820留守居役/1825旗奉行;没、正室;安藤信尹女、
「長崎記」「舶来書目」「椒庭記」「賓客礼俗式」/「清俗紀聞」編、「柳営譜略」「清俗紀聞」編、
「本朝年鑑」「公武類例」外著多数、1803武蔵栗橋宿に[静女之墳](静御前)の碑を建立
歌;1814「詠源氏和歌」入、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[はからずもけふこそめぐりあふ坂や関のこかげに車とどめて]、
(大江戸倭歌;雑1992/源氏物語の関屋)、
[忠英(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;勘三郎、字;子信/士雄、
通称;重三郎/牛五郎/馬五郎/勘三郎、号;駿台しゅんだい

P2693 **忠韶**(ただてる・水野みずの/本姓藤原、忠見長男)1761-182868　安房北条藩3代藩主;1775父没;襲封、
1779従五下/壱岐守、1784大番頭/87奏者番/1808西丸若年寄/25城主格、
1827(文政10)上総鶴牧に移封、正室;大岡忠喜女/継室;溝口直養女、息女;水野忠篤正室、
「水野壱岐守留記写」著、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[あす越えん山路の月に鳴く鹿を今宵旅寝の枕にぞ聞く]、
(大江戸倭歌;秋773/旅月聞鹿)、
[忠韶(;名)の幼名/法号]幼名;尚三郎、法号;大梁院

P2694 **忠英**(ただてる・筒井つつい、忠嘉男)1762-183877　母;水野保則女、幕臣;1782家督/84西丸御書院番士、
1790本丸勤務/1834(天保5)御書院番、
1811「軍器考踵」26「筒井家系」、「鎧毛図譜」「養実服忌辨疑」著、
[忠英(;名)の通称]　熊次郎/平右衛門

P2695 **忠暉**(ただてる・多おおの、忠職男)1790-184152歳　楽人;右将監/下野守/1840従四上、1807-8「笛譜」、
1808「高麗笛譜」15-31「多忠暉日記」18「大嘗会記」、「大嘗会参勤交名記」「続吟声抄」著、
母;三上常連女、忠寿ただのぶの父

U2696 **忠照**(ただてる・森もり、別名;良嘉よしたか?/よしひろ?)?-?　江後期;歌人、幕臣?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[寒き夜も君が恵の厚ぶすまなほかけそへていをやすく寝ん](大江戸倭歌;雑2021)

忠光(ただてる・日野/柳原)→　*忠光*(ただみつ・柳原/日野、廷臣/歌人)Ｆ２６８８

忠人(ただと・団井)　→　*忠毅*(ただよし・団井まるい、藩士/国学)　Ｚ２６６６

P2696 **忠任**(ただとう・水野みずの、旗本水野守満2男)1736-181176　1751(16歳)水野忠辰の養子、
1752家督嗣;三河岡崎藩主;従五下/織部正/62(宝暦12)肥前唐津転封/藩政改革に着手;
重臣や農民の反発;1771虹の松原一揆勃発/75家督を陽嗣忠鼎に譲渡;隠居、
「唐津公御掟書」著、
[忠任(;名)の幼名/通称/法号]幼名;新十郎、通称;長十郎、法号;寛齢院

忠任(ただとう→ただたね・高木)→　*忠任*(ただたね・高木、長崎代官/薬草)Ｐ２６７８

P2697 **匡遠**(ただとお・小槻おづき・壬生みぶ、小槻于宣男)?-1366　廷臣;1316主殿頭/36左大史/記録書勾当、
修理東大寺大仏長官/正四下、「小槻匡遠記」著、
歌;勅撰3首;新千載952新後拾01新続古1310、
[君が代にまた巡りあふ小車をぐるまの錦ぞ神の手向なりける](新千;952、
貞和元[1345]豊受太神宮遷宮奉行の時、神宝御装束など検知し思ふ歌)

Y2635 **忠寛**(ただとお・戸田とだ、忠余ただみ4男)1738-180164　江戸の生/1754(宝暦4)兄忠盈の嗣子;家督嗣、
田原戸田家9代当主/肥前国島原藩2代藩主/従五下・因幡守、1756初めて城地に赴く、
1770(明和7)奏者番/1774(安永3)下野宇都宮に転封;初代藩主、1776寺社奉行、
1782(天明2)大坂城代、1784京都所司代/侍従;87御所にて御所千度参り発生;致仕、
伏見での市人争訟の処置不十分のため出仕停止/赦免;1798(寛政10)隠居、和学者、
正室;連子(本多正珍女)、忠翰・忠舜の父、
[忠寛(;名)の通称]嘉十郎/因幡守

Z2612 **忠徹**(ただとお・原田はらだ、)1819-188875　信濃伊那郡伊豆木陣屋の旗本小笠原家(千石)の家臣、
歌人;小笠原三千子・桜井春樹門、

[忠徹(;名)の通称/号]通称;志津摩、号;黒犬斎

2777 **忠節**(ただとき・多おおの、忠方男)1110-1193*84* 平安鎌倉期;京都方雅楽家、
1139(保延5)[胡飲酒こんじゅ]を舞い賞賛を受;右近衛将曹、1158(保元3)右近衛将監、
一者いちものを36年間務める、1188(文治4)出家/1193(建久4)没、歌人;1156続詞花集入、
[夏神楽をよめる、
ゆふしではなみにまがひぬ河社さかきぞ神のしるしなりける]、
(続詞花;神祇362/木綿四手は神前に垂らした木綿)

F2635 **忠時**(ただとき・北条ほうじょう、重時男/本姓;平)1249-84早世*36* 武将:鎌倉幕臣/左近将監従五下、
1281引付衆、歌人:続拾遺620、連歌:菟玖波1句入、長時・時茂・義政の弟、
[住みなるる床は草葉のきりぎりす霜に枯れゆくねをや鳴くらん](続拾;雑秋620)、
[忠時(;名)の通称] 坂田十郎/陸奥十郎

F2636 **忠説**(ただとき・日下部くさかべ)?- ? 山名氏の家臣、連歌;宗砌そうぜい門、
連歌学書「砌塵ぜいじん抄」著;折々聞書した師宗砌の説を32条に解説、
1484源氏物語注釈「尋流抄」著、新菟入

P2698 **忠時**(ただとき・斎藤さいとう、通称;五郎兵衛)?-1718 江中期岡山藩士/兵学家:津山藩士木村昌明門、
「きゞす物語」「木村咄」「思出草」著

Z2649 **忠辰**(ただとき・牧野まきの、長岡2代藩主牧野忠成長男)1665-1722*58* 江戸生/1674(延宝2/10歳)父没、
家督嗣;越後長岡3代藩主;少年のため大叔父牧野忠清の補佐、1679従五下駿河守、
1694(元禄7)忠辰に改名/1711・19朝鮮通信使の接待役、文治政治推進、国学;荷田春満門、
諸士法制の改姓・殖産興業・消防制度確立;民政に尽力、将軍の前で講義、江戸城で演能、
大老酒井忠清女との婚約破談;正室置かず側室;1男2女の父、
1721(享保6)隠居;家督は養子本多康慶男忠寿が嗣、
[忠辰(;名)の初名/通称/号]初名;忠郷、通称;老之助/駿河守、隠居号;成喜、
神号;蒼柴霊神(吉田家より贈)

P2699 **忠林**(ただとき・諏訪すわ、幕臣頼篤男)1703-70*68歳* 1721信濃高島藩主諏訪忠虎の婿養嗣/伊勢守、
1731家督嗣;第5代高島藩主/因幡守、33村ごとに諏訪藩主手元絵図を提出させ領内把握、
病弱で読書・詩文を好む、1737城内に八詠楼を設け詩会を主催、1742「明詩韻礎」、
1745「鵞湖詩稿」、「鵞湖印譜」「鵞湖稿」「古今詩書」「正詩韻」「唐明詩韻」「藻林捷見」著、
[忠林(;名)の字/通称/号]字;子瞻、通称;万次郎/織部/修理、号;鵞湖、法号:養賢院

Q2600 **忠言**(ただとき・山科やましな、敬言たかとき男/本姓;藤原)1762-1833*72* 母;冷泉為村女、廷臣;1787従三位、
内蔵頭/91正三位/97(寛政9/36歳)参議/98従二位/99右兵衛督兼任/1800権中納言/使別当、
東照宮奉幣使/1804正二位;文化改元定参仕/12(文化9/51歳)権大納言;12月辞任/15本座、
1833(天保4)従一位;没、
「忠言卿記」「山科忠言卿伝奏記」、1796「言知元服記」外備忘録多数あり、

Q2601 **忠辰**(ただとき・内藤ないとう) ? - ? 江後期江戸の幕臣;納戸方/1854(嘉永7)佐渡奉行、
知行200石/のち普請奉行に転任、和算家:久保寺正久門、1824「三浦氏算題集」編、
[忠辰(;名)の通称]茂之助、初め石尾茂之助昌相まさすけと称す

斉時(ただとき・北条) → *斉時*(としとき・北条/平、武将/歌人) Ｎ３１００

忠暁(ただとき・水野) → *忠敬*(ただのり・水野みずの、幕臣/本草) Ｑ２６４５

F2637 **斉敏**(ただとし・藤原、小野宮おののみや)?-?981前没 廷臣;右衛門督、高遠・懐遠・実資らの父、歌合催、
「小野宮右衛門督歌合;981前度[故斉敏君達謎合]後度[奈曾奈曾歌合]」主催

2792 **忠俊**(ただとし・藤原、中納言良頼男)?-? 母;源経房女、平安中期廷臣;従四下/安藝守、
袋草紙;1056(天喜4)皇后宮寛子四宮春秋歌合の左方に燈台を立てる役(左近少将名)

Q2602 **忠利**(ただとし・酒井さかい、西尾城主正親男)1559-1627*69* 母;石川清兼女、三河岡崎の武将;家康臣、
武蔵川越領主/1601駿河田中藩主/09川越藩主;大留守居/将軍家光の輔佐、
「健康様御物語筆記」著、
[忠利(;名)の通称/法号]通称;与七郎、法号;泰雲建康広徳院

Q2603 **忠利**(ただとし・松平まつだいら、初名;忠俊、家忠男)1582-1632*51* 母;水野忠分女、1600下総小見川藩主、
1601三河深溝藩に転封/12三河吉田藩に移封、幕命の土木普請多し、従五下/主殿頭、
「三河記」、1622-32「忠利公卿日記」著、

連歌;紹巴と交流、1623元和九年何船百韻/寿松院殿御連歌懐紙、
[忠利(;名)の幼名/法号]幼名;猿/又八郎、法号;寿松院

Q2604 **忠利**(ただとし・細川ほそかわ/初姓;長岡、細川忠興3男/本姓源)1586-1641*56* 母;玉子(ガラシア)、
豊前小倉藩主;1620襲封/32肥後熊本に転封、37天草島原乱に出陣、40宮本武蔵を庇護、
連歌;1620;6・8・12月昌琢と百韻を3度、昌琢忠利等百韻、妻;小笠原秀政女千代姫、
[忠利(;名)の幼名/初名/通称/法号]幼名;光/光千代、初名;忠辰、通称;内記、
法号;妙解院 、光尚の父

Q2605 **忠利**(ただとし・小槻おづき・壬生みぶ、孝亮たかすけ男)1600-63*64歳* 母;織田信貞(信長9男)女、廷臣;
1620中務大丞/35左大史/主殿頭・算博士/53正四下、「小槻忠利記」「改元勘文日時定次第」、
「神宮雑記」「伊勢神宮神職諸任料留」「東照大権現記」/1672-3「東照宮社造替雑々記」著

Q2606 **忠利**(ただとし・寺町てらまち、通称;竹助/孫四郎、忠勝男/本姓;越智おち)?-? 江中期尾張藩士;
1716父の禄150石を受け馬廻/21通番/25書院番、「熱田神典記」「熱田神剣記」著、
「熱田神統記」「熱田神宮記」「熱田神宮神地記」「熱田神霊記」著

F2638 **忠利**(ただとし・牧野まきの、常陸笠間藩主牧野貞通男/本姓;源)1734-55早世*22* 日向延岡の生、
兄忠敬の養嗣;1748長岡7代藩主襲封/歌:賀茂真淵門、書画を嗜む、「長岡道の記」著、
[忠利(;名)の字/通称/号]字;明卿、通称;吉五郎、号;観海主人、法号;紹隆院

F2696 **忠俊**(ただとし・加藤かとう)1737- 1793*57歳* 近江犬上郡清水村の里正、
国学/歌人;竜公美きんえ[草廬]門、京住、妻;氏江竹子(歌人)、歌;[彦根歌人伝・寿]入
[忠俊(;名)の字/通称/号]字;伯寿、通称;庄五郎、号;九齢/蓋山人/柳園
妹も歌人 → *智門尼*(ちもんに、竜草廬門歌人) Ｆ２８４９

Q2607 **忠俊**(ただとし・菅原すがわら、別名;公英、号;鶴林翁)?-? 江後期書家:東坊城綱忠門、法橋、
1810「古今書則演義」「菅家書則演義」/11「五松翁児童訓」著

Q2608 **忠敏**(ただとし・松平まつだいら/本姓;源、初名;親年/忠年、親芳男)1818-82*65* 幕臣;兄忠道の養子、
三河宝飯郡長沢領主/1863講武所剣術師範兼新徴組取扱/68清水小普請支配、
維新後;御歌所歌道御用掛、国学/歌:1834平田篤胤門、1865「道のこと草」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[暮れて行く春をば知らで花をのみとく散るものと思ひけるかな]、
(「大江戸倭歌;春365)、
[おろかなる心に身をばまかせじと思ふものからかつそむきつつ]、
(大江戸倭歌;雑1861述懐/現存百人一首;7)、
[忠敏(;名)の通称]春之丞/帯刀/主税之助/上総介

Q2609 **忠利**(ただとし・神保じんぼ) ？- ？ 江戸期越中の兵学者/加賀住、
「武事蒙訓」「制敵軍備論」「三戦一致抄」著、
[忠利(;名)の通称/号]通称;市郎兵衛、剃髪号;勇入道

W2607 **忠利**(ただとし・大岡おおおか、岩槻藩主忠固ただかた[?-1852]男)?-? 江後期;武蔵岩槻藩主家の生、
歌人;香川黄中(景柄/1745-1821)門、溝口得一等と五十番の歌合を催

Y2673 **忠敏**(ただとし・長山ながやま、)1841-1882*42* 伊予宇和島の酒造家、歌人、
半井梧菴判[宇和島大洲百廿番歌合]参加、
[忠敏(;名)の通称/号]通称;大次郎/徳治/惣治、号;樵渓/箕山亭

忠俊(ただとし・花山院) → *忠定*(たださだ・花山院、廷臣/記録/歌) Ｐ２６４７
忠俊(ただとし・小林) → *鶴林*(かくりん・五松いつまつ、書家) Ｂ１５７８
忠俊(ただとし・田中) → *常矩*(つねのり・田中たなか、俳人) ２９１２
忠俊(ただとし・石井) → *如自*(にょじ・石井、俳人) Ｆ３３９２
忠俊女(ただとしのむすめ・藤原)→*安芸*①(あき、*郁芳門院安芸*いくほうもんいんのあき、歌)１０４０①

Q2611 **忠宝**(ただとみ・松平/桜井、幼名;銕丸/銕之丞/与一、忠告ただつぐ男)1770-1829*60* 尼崎藩主;1806襲封、
1813病で致仕、俳諧:素外門、1821「万葉爪印」22「一桜井発句集」著、
[忠宝の号] 亀幸/一桜井、法号;高尚院、忠誨の父/忠栄ただなかの兄

Y2658 **忠富**(ただとみ・中根なかね、)1806-1886*81* 尾張名古屋藩士、国学;植松茂岳しげおか門、
幕末;尾張藩から高須藩家老として出向、維新後;熱田神宮禰宜兼権中講義、歌人、
[ふる雨のおとせぬまてになりにけり谷の楓のみとりなるころ](雨中新橋/短冊)、

[忠富(;名)の初名/通称/号]初名;正富、通称;幸三郎/熊助/勝九郎/熊増/帯刀、
号;桜室

F2639 **忠宝**(ただとみ・塙はなわ/本姓;源、保己一4男)1807-62暗殺*56* 母;渥美イヨ、江戸の国学者;父門、1822父を継承;和学講談所御用掛/主宰、廃帝調査の誤解を招き尊王浪士の反感を買う、1862中坊広伴邸歌会の帰途伊藤博文と山尾庸三により自宅前で加藤甲次郎と共に暗殺、父企画の「続群書類従」編纂継承(:未完)、「温古堂叢書」「集古文書」編、「温古堂詠草」著、忠韶ただつぐの父、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[梅が香をとめてきつればをととしもこぞも尋ねし垣根なりけり]、
(大江戸倭歌;春138/毎年翫梅)、
[なかなかに宵より晴れし影ならばただおほかたの秋の夜の月](現存百人一首;87)、
[忠宝(;名)の別名通称/号]名;瑤/忠瑤、通称;次郎/二郎、号;温古堂2世、法号;紹学院 、

忠富(ただとみ・白川) → *忠富王*(ただとみおう・神祇伯/歌人) Ｆ２６４０

F2640 **忠富王**(ただとみおう、白川雅兼男)1428-1510*83* 室町期:後土御門臣、1490神祇伯/91正二位、1510甥資氏王の男雅業王に譲伯、吉田神道;吉田兼倶門;神道伝受、「忠富王記」、歌、尭恵より「藤川百首注」を受、連歌;新菟玖波6句入、資益王の弟

Q2612 **忠知**(ただとも・小笠原おがさわら、初名;貞政、松本城主秀政男)1599-1663*65* 母;岡崎信康女、徳川秀忠家・家光に出仕、幕臣;1625書院番頭/大番頭/奏者番/36豊後杵築城主、1645三河吉田城に転封;唐津小笠原家の祖、「水小往復」著、
[忠知(;名)の幼名/法号]幼名;虎松丸、法号;天真院

F2652 **忠知**(ただとも・生原いくはら) ? - ? 江前期備後福山俳人;貞門系、1670種寛「俳諧詞友集」入

F2642 **忠知**(ただとも・神野かんの)1623or25-76?切腹*52-54?* 江戸の俳人;井上春清門、「白炭や」の句で有名、1664重頼「佐夜中山集」74安静「如意宝珠」72風虎「奥州名所句合」入、1677風虎「六百番発句合」89「あら(曠)野」2句入、
[白炭しろずみややかぬ昔の雪の枝](佐夜中山集/続俳諧師手鑑)、
[先徳多が中にも宗鑑あり宗因あり白炭の忠知あり](芭蕉「初蝉」)、
[忠知(;名)の通称]長三郎/長左衛門、白炭の忠知と称される

U2601 **忠友**(ただとも・重村しげむら) ? - ? 江前期上方の俳人、1673西鶴「生玉万句」第七新酒脇句入、
[前鑱まへかんなまゝ藤のうら枯れ](前鑱;樽桶を造るに用いる槍がんなの一種、
[発句;池田利清;洩れとまれ新酒流るゝ柳樽)

X2638 **忠知**(ただとも・榊原さかきばら、)1660-1729*70* 江戸の幕臣;御書院番、国学者、
[忠知(;名)の初名/通称]初名;政純、通称;八十郎/十郎兵衛/八兵衛/安藝守

M2606 **忠知**(ただとも・二見ふたみ/本姓;度会、榎倉武晴男)1666-1739*74* 伊勢山田の人/二見忠将の養子、伊勢外宮神職;権禰宜/従四下、連歌/狩野派画、1718「神道開先正名」、「連歌指南」著、
[忠知の通称]舎人/豊後/勘三郎

Q2619 **忠知**(ただとも・豊田とよだ、家老豊田忠村[紹有]男)?-? 江中期肥前平戸藩の茶頭;石川流総帥、1713「幡用法」著、
[忠知(;名)の通称/号]通称;小隼人、号 ; 無関

V2608 **忠朝**(ただとも・青山あおやま、別名;幸堅/忠知、幸督2男)1708-60*53* 丹波亀山2代藩主、従五下/伯耆守、1744奏者番/46因幡守/1748(寛延元)丹波篠山初代藩主に転封;寺社奉行/58従四下、大坂城代、正室;榊原政邦女、跡を養子忠高が継嗣、歌;冷泉家門、
[忠朝(;名)の幼名/通称]幼名七三郎、通称;刑部ぎょうぶ/伯耆守/因幡守、法号;隆興院

Q2614 **忠友**(ただとも・水野みずの、旗本忠穀長男)1731-1802*72* 1739(9歳)徳川竹千代(家治)のお伽、1742(12歳)家督継嗣;旗本/幕臣;家治の小姓/御側御用取次、将軍家治の下で1768奥兼帯の勝手若年寄;三河大浜藩主、1777側用人、転封;駿河沼津藩主;築城を許可される、田沼意次男忠徳の養父、1781老中格勝手掛/侍従、1785勝手掛老中;88田沼意次失脚により老中解任/96(寛政8)老中に再任;家慶付、従四下豊後守/出羽守、「水野忠友日記」著、

[忠友(;名)の通称/法号]通称;卯之助/惣兵衛、法号;修徳院　、養嗣子;忠成ただあきら

Q2615 **忠知**(ただとも・前田まえだ) ？－　？　江中期大阪浄国寺町住の文筆家、
1774「相剣秘記」、1817「相剣必用記」著、
[忠知(;名)の字/号]字;子伍、号;叔文斎

Q2616 **忠和**(ただとも・松平まつだいら、頼徳、紀州藩主徳川宗将むねのぶ9男)1759-1802*44* 兄松平忠功の養嗣子;
1793家督嗣;伊勢桑名藩主、松平定信と親交;その精神を修学;学問奨励/諸法度制定、
理学・蘭学/和算;古川氏清門;天文暦学に通ず、1794藩校基礎を築き好学の風を奨励、
従四下/下総守、「空華集」「恵礼幾天留記」著、「遊心公遺文」、「澹寧斎詩集」徳川治宝はるとみ編、
[忠和(;名)の号] 澹寧斎/無礙むがい居士/鳳翔/鳳翔閣主人/梅花堂主人、法号;遊心院

Q2617 **忠同**(ただとも・多おおの、太秦うずまさ文蔚男)1775-1838*64歳* 母;多忠宣女、多忠之の養嗣子、
楽人、左近将監、美濃守/1829従四上、「冬かれの日記」著、忠以ただもちの父

F2641 **忠輿**(ただとも・青山あおやま/曲淵、別名;景山、忠高ただたか男)1789-1857*69* 父;丹波篠山藩主、幕臣、
忠講ただつぐ・忠裕ただやすの弟、幕臣曲淵景露かげみちの養嗣子;1836-41堺奉行、
甲斐守/和泉守/出羽守、
歌;1815堀田正敦「詠源氏物語和歌」入、
[橘のにほへる里のほととぎす月と風とやさそひ来ぬらん]、
(詠源氏和歌;花散里/青山忠輿名)
[忠輿(;名)の別名/通称]別名;景山/勝次郎、通称;恒之助

2627 **忠友**(忠儔ただとも・穂井田ほいだ/本姓;大江、小原雄英[東作]男)1792-1847*56* 備中下道郡の人、
大阪生玉神社社司穂井田家を継承/国学;1811駿府で平田篤胤門/西洋医学;藤林普山門、
歌;香川景樹門桂門十哲の1、奈良時代の事物考証に専心;[ならや]と称さる、
1830頃幕臣梶野良材の用人;大坂西町奉行に出仕/1831良材の奈良奉行就任;奈良移住、
1833-36正倉院宝庫修理に伴い収蔵品を整理;「正倉院文書」正集45巻を編纂、
「穂井田忠友歌集」「高ねおろし」「万葉地名考」「観古雑帖」「玉襷改竄」「中外銭史」、
「皇朝古印譜」「勝地臆断」「西洋銭譜」「穂井田先生文集」「穂井田忠友答書」外著多数、
[忠友(;名)の別名/通称/号]別名;忠儔/久麿、
通称;靱負/縹助/元次郎/久間次郎/穂北源助、号;蓼莪/桃園

W2628 **忠朝**(ただとも・藤原ふじわら/本姓;岡田、)1820-93*74*　備前上道郡の生;酒屋/薬屋に勤める、
歌人を志す;島岡真心まうら・矢定美菫・加納諸平・業合大枝門、乾魚の行商;子弟に歌を教育、
備前磐梨郡住、遺歌集「高嶺の花」、岡田輔文の師、
[忠朝(;名)の通称/号]通称;寅平/虎平、号;千頴せんえい

Y2636 **忠友**(ただとも・戸田とだ、忠偲長男)1847-1924*78*　母;戸田本家忠翰女、江戸浜町で生、
戸田家分家旗本7千石の家/1862(文久2)将軍家茂の小姓/64安房守、
1865(元治2)本家宇都宮藩主戸田忠恕が天狗党乱鎮圧失敗で強制隠居;忠友が家督嗣;
下野宇都宮藩7代藩主、転封阻止に尽力した家老戸田忠至のため支藩高徳藩を立藩1万石、
1867(慶応3)奏者番・寺社奉行、戊辰戦に藩兵を率い将軍慶喜助命嘆願に上洛途中に抑留、
宇都宮戦争に陣頭指揮できず謹慎、維新後;宇都宮藩知事、のち権中教正、
宇都宮二荒山神宮司、国学者・歌人、
[忠友(;名)の通称/号]通称;鉾太郎そうたろう/求之丞/土佐守、号;芳雪/寒水

忠知(ただとも・樺山)　→　*忠助*(ただすけ・樺山かばやま、武将/歌人)　Ｐ２６６５
忠知(ただとも・横山)　→　*忠知*(ただちか・横山よこやま、幕臣/文筆家)Ｐ２６８１
忠知(ただとも・酒井)　→　*忠恭*(ただすみ・酒井さかい、藩主/和漢学)　Ｐ２６６８
忠知(ただとも・布能)　→　*文谷*(ぶんこく・布能ふの、酒造業/俳人)　Ｆ３８２４
忠朝(ただとも・結城)　→　*直基*(なおもと・松平、藩主/歌人)　Ｃ３２７２

Q2618 **尹豊**(ただとよ・勧修寺かじゅうじ、号;紹可、尚[直]顕男/本姓藤原)1503-94長寿*92* 廷臣;
1532参議/従三位/41権大納言/51従一位/賀茂伝奏、72内大臣/致仕;出家(出家号;紹可)、
書家;尊鎮親王流書法、1592「尹豊九十賀和歌」、「尹豊卿記」「維摩会事」、法号;長寿院

忠豊(ただとよ・多おおの)　→　*忠豊*(ただもり・多、楽人)　Ｒ２６０２
忠豊(ただとよ・鳥居)　→　*忠春*(ただはる・鳥居、藩主/乱行)　Ｑ２６５１

忠豊(ただとよ・梅津うめづ) → *利忠*(としただ・梅津、兵法家)　　Ｍ３１６９

E2645 **忠虎**(ただとら・石井いしい)　？－　？　江中期羽後大館十二所の兵法家、1745「下馬札書法秘訣」、1745「武芸目録覚」52「忍之緒留様秘伝」/65「名乗字摺合」「韻鑑切紙」/66「判形秘決目録」著、[忠虎(;名)の通称/号]通称;采女、号;不水/不光/不識/時康軒

W2608 **忠虎**(ただとら・大久保おおくぼ/本姓;藤原)1770-1824*55*　近江彦根藩士/井伊直中に長く出仕/歌人

忠虎(ただとら・諏訪)　→　*闡幽*(せんゆう・諏訪すわ忠虎、藩主/俳人)Ｇ２４６８

只取(ただとり・二歩;狂歌)→ *椿亭*(ちんてい・鈴木/鈴・鱸、幕臣/儒者)Ｋ２８９１

2628 **斉名**(ただな・まさな・紀き、本姓;田口)957-999*43*　漢学者・詩;橘正通門・紀伝道に修学、廷臣;尾張掾、永延987-89年間に対策に及第;紀に改姓/従五上/式部少輔兼大内記/越中権守、長徳995-999年「扶桑集」編纂;未完で没;1000妻により道長に献上→06一条天皇に献上、「紀斉名集」(散佚)、詩文;本朝文粋・類聚句題抄・和漢朗詠集・新撰朗詠集など入集、同時期の大江以言もちとき・匡衡と共に文名並称、江談抄・十訓抄・袋草紙に逸話

Q2620 **忠直**(ただなお・隈部くまべ、朝豊男)1426-94*69歳*　肥後の武将;兵部大輔、肥後守護菊池重朝の重臣、詩;1476「藤崎宮霊鐘記」入、連歌;1481「万句連歌」第三亭席主、禅;桂庵玄樹門、「蟇双紙」、[忠直(;名)の幼名/法号]幼名;常若丸、法号;義雲慈光

Q2621 **忠直**(ただなお・松平まつだいら、結城[松平]秀康男)1595-165056　母;中川一茂の妹[清涼院]、越前福井藩主:1607襲封/大坂夏冬の陣軍功、幕府への反抗:乱行/越前騒動に発展、1623改易;豊後萩原へ配流/さらに同国津守に配流;剃髪(;法名一伯)、茶/連歌を嗜む、参議/左近権中将、乱行は伝説化、1619元和五年六月昌琢と百韻;「山何百韻」「何路百韻」、[忠直(;名)の幼名/通称/法名/法号]幼名;長吉丸/国若丸、通称;越前宰相、法名;一伯、法号;西巌院

Q2622 **忠直**(ただなお・水野みずの、忠職男)1652-1713*62歳*　母;中川久盛女、信州松本藩主;1668父の遺領襲封、文治政治;法令整備、財政窮乏;凶作時に増税;1686一揆発生、中務少輔/隼人正、1684「水野隼人正覚書」著、[忠直(;名)の幼名/法号]幼名;鍋之助、法号;賢徳院

U2606 **縄直**(ただなお・土屋つちや/本姓;源、初名;孝直、土屋喬直たかなお2男)1698or1700-175457*or55*　幕臣;土屋茂直の養嗣子;1727御書院番、儒学;太宰春台門/歌人;中院家入門、広通「霞関集」入、1739芥川寸艸[飛鳥山十二景詩歌]入(;黒髪山残雪/黒髪山は下野の男体山)、[手向くべき花をば置きて峰遠き雲にはいかで思ひかくらん](霞関;春145、幕臣の柘植知清つげともきよが当座歌で花手向の題を峰雲の題に取り替えたので詠)[山の名はたが黒髪ぞ春来てもまだ掻為かきなさぬ雪寒き空]、(十二景歌;北の遠望/掻為す;髪を櫛けずる)、[縄直(;名)の字/通称/号]字;準夫、通称;宮内/勘解由、号;琴台

☆**飛鳥山十二景** → *榴岡*(りゅうこう・林はやし)　Ｄ４９７８

Z2688 **忠直**(ただなお・村上むらかみ、通称;寿庵)1750-1826*77*　三河碧海郡隄村の医者/歌人、歌;[類題三河歌集]入、忠幹ただもと(1785-1853/刈谷藩医)の父/忠順ただまさの祖父

Q2623 **廉直**(ただなお・土屋つちや、初名;兼直ともなお、守直男)1759-? 1853存　幕臣;1784家督/97徒頭、1807堺奉行/09長崎奉行/14普請・作事奉行/16勘定奉行/32大目付/53(95歳)老衰で致仕、1806「対馬紀事」著、[廉直(;名)の通称]　金三郎/帯刀たてわき/頼母たのも、妻は歌人、温直の父

妻　→　*斐子*(あやこ・土屋清風/三枝、国学/歌)Ｃ１０７６

Q2624 **忠直**(ただなお・高山たかやま、初名;忠道、渥美忠清男)1762-1835*74*　母;太田盛秀女、高山佐信の養嗣子、幕臣;1778家督;1819勘定組頭、和算;古川氏清門、1793「啓蒙算経」、1800-05「算法俳発」編、1805「算闢」編、「算法評論」編、「神壁算法解術」「直線截五円解義」外著多数、[忠直(;名)の字/通称/号]字;圭璋、通称;久次郎/弥十郎、号;有鄰

V2636 **忠直**(ただなお・近藤こんどう、井上)1822-1898*77*　阿波三好郡昼間村羽津神社社司、1874忌部神社禰宜、国学者/歌人;山田豊前介・岡部東平はるひら・伴信友門、県より史誌編纂掛を拝命、隠退後;著述活動、「橘香舎歌集」著[忠直(;名)の通称/号]通称;兵部/与平、号;橘香舎

Q2625 **質直**(ただなお・金井、別名;成允/義郎、允文男)1829-79*51*　出羽庄内藩士、

1855江戸で長沼流兵学;市川十郎門、1866家督/蝦夷地郡代、維新後;農民運動の指導者、
1863「蝦夷地誌御用手扣」著、
［質直(;名)の通称］　源太郎/小一郎/吉平/半之丞/右馬介うまのすけ

U2617 **忠讜**(ただなお・酒井さかい、通称;内蔵助くらのすけ、忠実5男)?-? 旗本、越前敦賀藩に養子;
敦賀(鞠山)藩主/壱岐守/備中守、妻;酒井忠蓋女のひさ子、忠宝ただとみの父、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(妻ひさ子と共に入)、
［春立てば谷間の雪もとけぬらしけさ鶯の初音をぞきく］(大江戸倭歌;春84/初鶯)

2727 **忠直**(ただなお・横井よこい)1845-1916*72* 豊後下毛郡鶴居村の漢学者;1856日田咸宜園入学;
広瀬青邨門/1861(文久元)塾頭、中津で私塾[培養舎]開設、維新後;1869中津藩校教授、
国学;京都の平田銕胤門、京都府庁の権大属/学務課長;府立中学校教師兼任、共学舎設立、
1880(明治13)東京で陸軍省御用掛/参謀本部課僚/84陸軍大学校教授/92陸軍編集;
戦史編集に従事/日清戦争;大本営部付/日露戦争;満州軍総司令部付、広開土王碑文研究、
「征西戦記」「日本戦史」著、軍歌作詞;廣瀬中佐・征露軍歌・討清軍歌など、
[忠直(;名)の通称/号]通称;壽一郎/壽郎、 号;古城/湖上/柵山人/永天翁/鎮西山人

忠因(ただなお・酒井)　→　*抱一*(ほういつ・酒井、絵師/俳人)　３９１３
忠直(ただなお・榊原)　→　*忠郷*(たださと・榊原さかきばら/藤原、幕臣/礼法/歌)２７５４
忠直(ただなお・二見)　→　*直養*(ちょくよう・二見ふたみ、儒者)　Ｈ２８４９
忠尚(ただなお・日置)　→　*忠尚*(ただひさ・ただなお・日置へき/池田、藩老/画)Ｚ２６４０
忠讜妻(ただなおのつま)　→　ひさ子(ひさこ・酒井さかい、酒井壱岐守妻/歌)Ｉ３７４４

T2690 **忠仲**(ただなか・荒木田)　？－　？　鎌倉初期神職;伊勢内宮権禰宜兼宮掌大内人/正四下、
「皇太神宮年中行事」「皇太神宮年中行事要抄」

Q2626 **忠央**(ただなか・山崎やまざき、初名;泉/定規、徳島藩士尊秀男)1660-1734*75* 阿波の生/儒;後藤松軒門、
1684師の推薦で会津藩侍講/1702大目付兼務/12奉行兼任/19猪苗代城代次席/旗奉行、
1633致仕、「原名論」「元陽論」「談叢録」「発聡録」「孔門伝心説」「語孟字義辨」外著多数、
[忠央(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;門平、 字;子列/子冽、 通称;勝蔵、 号;松心、

Q2627 **忠栄**(ただなか・松平まつだいら/桜井、忠告男)1804-69*66* 摂津尼崎藩主;1829松平忠誨(兄忠宝男)の嗣、
1837大塩平八郎の乱には一揆制圧、海岸警備・外国人宿舎の警護、1861致仕、侍従・筑後守、
維新後桜井に改姓、1840「胎厥編」、「孟浪詩稿」「政要令問答」「尼ケ崎侯政要問答」著、
[忠栄(;名)の字/法号]字;君業、 法号;豊安院

Q2628 **忠央**(ただなか/ただちか・水野みずの、忠啓男)1813-64*52* 紀伊新宮の城主/江戸定府の和歌山藩付家老、
1835家督/52前藩主没後に側近を排除し辣腕を振う;産業育成/洋式帆船造船/学問所創設、
井伊直弼と慶福[家茂]を将軍に擁立/1860桜田門外変で謹慎、国学・故実、和漢学修得、
国学/歌;村田春門・高林方朗みちあきら門、1847(弘化4)7月7日自邸で歌合「五番虫合」主催、
「丹鶴叢書」「丹鶴図譜」「丹鶴書院蔵書目録」「千とせのためし」編/「野泉帖後集」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
［長閑のどかなる春の小松を引きそめて年の雅びの初めにぞする］(大江戸倭歌;54子日)、
[忠央(;名)の幼名/通称/号]幼名;鍵吉、 通称;藤四郎/土佐守、
号;丹鶴/鶴峯、黄菊寿園/聚景斎、 法号;鶴峯院

F2643 **忠長**(ただなが・祝部ほうりべ/はふりべ、初名;長忠、国長or国忠男)?-? 鎌倉末期日吉神社禰宜/従四上、
摂津守、歌:祝部行氏ゆきうじと贈答、勅撰4首;新後撰521/755続千1198新千2256、貞長の父

Q2629 **忠長**(ただなが・源みなもと、従四下源兼遠男?)?-?　鎌倉末南北期連歌:1356成立「菟玖波集」3句入

Q2630 **忠長**(ただなが・甘露寺かんろじ、清長男/本姓:藤原)1394?-1436　室町期廷臣;1428蔵人頭/右大弁、
1434正四下、1427「石清水賀茂両社行幸雑事」

Q2631 **忠長**(ただなが・花山院かざんいん、左大臣定熙男/本姓藤原)1588-1662　母;朝倉義景女、廷臣;従四上、
左近少将、1609宮中の風紀紊乱罪で勅勘;蝦夷に流罪/36勅免;落飾/52上京、
歌・絵画を嗜む、1602昌叱と「何路百韻」、
[忠長(;名)の通称/号]通称;野宮ののみや、 出家号;浄屋、 法号;紅雲院了淵

D2663 **忠長**(ただなが・徳川、幼名;国松、秀忠男)1606-1633*自刃*　1616甲府藩主/20元服;忠長と改名、
駿河遠江を加増;駿府藩主/1626従二位権大納言、家光と不和/1631不行跡で甲府蟄居、

1632秀忠没後除封;領国没収され高崎に蟄居:幕命で同地で自刃、通称;駿河大納言、
歌;1626後水尾天皇の二条城歌会;秀忠と参加、母;浅井長政女江、法号;峰巌院、
後世に狂乱・残虐な所業など度を超えた暗君として伝説化、
[しづかなる風の心も万代のこゑなりけりな呉竹のこゑ](二条城歌会;落栗物語入)

Q2632 **忠良**(ただなが・大久保おおくぼ、常信男)1649-1725 大久保忠尚の養子/幕臣;1670家督;小姓組、
1698-1700本所火事場目付/28致仕、「火事場見廻代々記」編、妻;江川英利女、
[忠良(;名)の通称/法号]通称;半之丞/平右衛門、法号;良性

Z2695 **忠栄**(ただなが・元木もとき、号;瓊垣翁)?-1745 出羽平鹿郡の儒者・垂加神道;伴部安崇やすたか門、
国学修学

Q2633 **忠永**(ただなが・本多ほんだ、忠統ただむね男[5男]/本姓藤原)1724-1817*94歳* 伊勢神戸藩主;1750襲封、
一橋御門番/1760隠居/84剃髪;江戸住、兵学;要門流の大家、儒学/茶/歌学/俳諧:旨原門、
「丁々窩発句集」「丁々窩発文集」、1804「恵飛良歌仙」、05「為楽庵雪川発句集」編、
1780「俳諧五つ雁」81「名あらため集」82「冬こもり」97「ひけし壺」1806「名所部類便覧」著、
追善「ひとめぐり」息其香編、忠脩・忠憲(其香)の父、忠興の養父、
[忠永(;名)の通称/号]通称;留之助/富之助/靱負、
号;丁々窩ていていか/清秋せいしゅう/清秋子/長月庵/風雲庵/随翁/宇喜寿老人/老俳仙/閑楽庵、
法号;桂徳院

Q2634 **任長**(ただなが・東坊城ひがしぼうじょう、聡長男/本姓;菅原)1838-86 母;外山光実女照、廷臣;大学頭、
兄夏長の継嗣、1859-「東坊城任長日記」

尹長(ただなが・垣塚) → *東皐*(とうこう・垣塚かきづか、藩士/職制) Ｄ３１８９
忠長(ためなが・藤原) → *定高*(さだたか・藤原、廷臣/連歌/日記) Ｂ２０９４
忠長(ただなが・黒田) → *忠之*(ただゆき・黒田/松平、藩主/連歌) Ｒ２６１２
惟柔(ただなご・頼) → *杏坪*(きょうへい・頼らい、儒者/詩/史家) １６３８

F2645 **忠成**(ただなり・藤原、俊忠男)?- ? 藤原俊成の兄、少納言、1134「為忠家初度百首」入、
[いつしかと子日ねのびのまつをひきつればけふやちとせのはじめなるらん]
(為忠家初度百首;2)

2629 **忠成**(ただなり/ただしげ・祝部ほうりべ/はふりべ、親成or資成男)?-? 1266存 鎌倉期日吉神社禰宜、従四下、
加賀守、歌人;定家邸に出入(明月記入)/頓阿「井蛙抄」に歌の修業法の説を引用/雲葉集入、
勅撰6首;新勅565続後撰1219続古今715/1168続拾520新拾遺1615
[あかつきはいかにちぎりて昔より別れかなしきときとなりけん](続古今;十三恋1168)

F2646 **忠成**(ただなり/ただしげ・大江おおえ、広元男)?-1265 鎌倉期廷臣;左近将監、1240刑部少輔/44従四下、
歌人;勅撰2首;続古今(1217)玉葉(1219)、
[ゆふされば待たれしものと思ふこそ心に残るかたみなりけれ](続古今;十四恋1217)、
[忠成(;名)の号] 海東判官 、忠茂・忠成女の父

F2647 **忠業**(ただなり・日野、瑞雲院贈左大臣)?-? 鎌倉期歌人・
新続古今755(瑞雲院贈左大臣/兼綱の歌か?)、
瑞雲院贈左大臣 → *兼綱*(かねつな・勘解由小路かげゆこうじ・広橋、1315-81) Ｃ１５８６

F2648 **忠成**(ただなり・粟田口あわたぐち/本姓;藤原)?-? 1365存 南朝廷臣;中納言、歌人:
1365南朝後村上院内裏歌合(正平廿年点取三百首和歌)(於住吉行宮)出詠、
新葉集5首;101/192/592/844/858、
[あづさ弓春の日ぐらしみてもなほかへるはをしき花の陰かな](新葉;春101)

U2689 **忠也**(ただなり・伊藤いとう、通称;典膳、小野次郎右衛門忠明男or弟)1603-80 剣術家;一刀斎門、
剣術の奥義を究め忠也ちゅうや流を創始、出仕を嫌い生涯浪人、
門弟;亀井平右衛門忠雄(養嗣となる)・根来八九郎重明(忠雄弟/天心独名流)・
間宮五郎兵衛久也(間宮派祖/広島藩士)など、

Q2635 **忠成**(ただなり・多おおの、忠直男)1638-83*46* 楽人,右兵衛大尉/和泉守、「神代俳優倭歌舞」

F2649 **忠成**(ただなり・春名はるな) ? - ? 江中期播磨佐用郡佐用村の材木商、
歌;岡田光僩みつかど(1696-1774/作用村大庄屋)門、読本作者;吉文字屋より怪異小説出版、
1754「西播怪談実記」61「世説麒麟談」著/「諸国怪談実記」「見聞西遊雑記」著、
[忠成(;名)の通称]那波屋重右衛門/清兵衛/平右衛門

Q2636 **忠成**(ただなり・片桐かたぎり、字；君美、号；朝陽)?-?　江後期1818-44頃米沢藩士；記録方、
1837「盍言篇」、「上杉輝虎家系」「朝陽私史」「三輯一覧」「一床書室雑集」著
Y2674 **忠成**(ただなり・並川なみかわ、旧姓中川)1796-1863*68*　大和葛下郡の国学者、
[忠成(；名)の通称/号]通称；嘉右衛門、　号；知泰
Q2637 **忠震**(ただなり・岩瀬いわせ、別名；愿、設楽しだら貞丈男)1818-61*44*　母；林述斎女、岩瀬忠正の養子、幕臣、
外国奉行/1854老中阿部正弘に抜擢され幕政改革を補佐/開国論；日米条約調印に関与、
幕末三傑(水野忠徳・小栗忠順と)、詩、書、画；椿椿山門、1842-51「蟾洲詩稿」、
1859「瀛環表万国年表」、「続画題詩類」編、「峡鬻課余」「課余雑録」、
[忠震(；名)の字/通称/号]字；百里/善鳴、　通称；篤三郎/忠三郎/修理、
号；蟾洲せんしゅう/鷗処/岐雲、　法号；爽快院
Z2643 **忠成**(ただなり・本庄ほんじょう/本姓；源、)1825-92*68*　近江坂田郡の国学者・歌人；長野義言門、
歌；[鳰のうみ]入、
[忠成(；名)の通称/号]通称；兵衛/庄平、　号；松廼舎
忠成(ただなり・水野)　→　*忠成*(ただあきら・水野、藩主/老中)　Ｆ２６４４
忠成(ただなり・水無瀬)　→　*実徳*(さねのり・園池/藤原/水無瀬、廷臣)Ｌ２０２４
忠成(ただなり・村田)　→　*春野*(はるの・村田むらた、国学者)　Ｇ３６６８
忠成(ただなり・岡部)　→　*尹里*(いんり・岡部おかべ、俳人)　Ｅ１１７１
忠成(ただなり・原)　→　*伍軒*(ごけん・原はら、藩士/儒者/幕臣)　Ｇ１９５１
忠也(ただなり)　→　*忠也*(ちゅうや、俳人)　Ｌ２８３４
忠荷(ただなり・村田)　→　*春郷*(はるさと・村田、国学者/歌)　Ｇ３６３７
F2650 **忠成女**(ただなりのむすめ・大江おおえ、大江頼重の妻)?-?　鎌倉期歌人、
勅撰4首；新後撰1438/玉葉1309/続千載782/続後拾遺741、
[何事にしばしうき身の忘られて思ひなぐさむ心なるらん](新後撰；雑1438)
Y2667 **忠愛**(ただなる・中山なかやま/本姓藤原、准大臣忠能ただよし長男)1832-82*51*　母愛子(平戸藩主松浦清女)、
京の廷臣；右近衛権中将、和漢学、三位局慶子(孝明天皇典侍)・正親町公董・忠光の兄、
忠直・孝麿の父、同母弟の忠光が家督嗣、和漢学、
[忠愛(；名)の字/号]字；子誠、　号；東園
Z2661 **忠根**(ただね・松平まつだいら、)1693-1774*5182*　江戸の幕臣；御書院番、和学者、
[忠根(；名)の通称/法名]通称；熊之助/半右衛門/外記/肥前守、　法名；源水
多田歌人(ただのうたびと)　→　*頼綱*(よりつな・源みなもと、廷臣/歌人)　Ｊ４７０３
2630 **多田爺**(ただのじじい・田舎老人いなかろうじん、丹波屋利[理]兵衛、姓；人見ひとみ)?-1771　江中期大阪の書肆、
1764江戸で書肆；文林堂を経営、俳人；淡々系、1770洒落本「遊子方言」、
[田舎老人多田爺(；号)の別号]　文林堂/南美
忠之丞(ただのじょう・北田)→　*忠之丞*(ちゅうのじょう・北田、藩士/農政)　Ｇ２８７９
忠之助(ただのすけ・座光寺)→*為忠*(ためただ・座光寺ざこうじ/佐久間、領主/歌人)Ｘ２６２７
F2651 **多田人成**(只の人成ただのひとなり、島崎金次[二]郎)?-?　狂歌；四方連、大田南畝実弟、
1785「後万載」5首/87「才蔵集」入；
[かさゝぎのあかつきかけて渡れるは宵にひきかへ憎き口ばし]
Q2638 **董宣**(忠延ただのぶ・菅原すがわら、雅規男)?-?　平安前中期廷臣；紀伊守、菅原文時(899-981)の甥、
菅原孝標たかすえ(?-1032)の叔父、漢学者/歌；972女四宮規子内親王家前栽合参加、
[うゑしうゑばつかのまもなくかるかやを三千代みちよの数をかずふばかりぞ]、
(女四宮歌合；18/大系26/刈萱/うゑしうゑは移植/かるに枯ると刈萱を掛る；祝の歌)
F2653 **忠信**(ただのぶ・桜嶋さくらじま)？－　？　平安期廷臣、962民部少録、986備後介、大隅守、
詩歌人；文粋入/拾遺集564題、宇治拾遺巻九に郡司おきなとの逸話、
参照　→　*おきな*(翁/老人)　Ｃ１４９０
F2654 **忠信**(ただのぶ・藤原ふじわら、初名；信能のぶよし、[坊門]藤原信清男)1187-?1248存　母藤原定能女、
鎌倉期廷臣；1207参議/18権大納言、21承久乱に京方として出陣/捕縛；出家、越後配流、
1225頃帰京(明月記入)、歌人；1216内裏百番/18順徳中殿御会参加、18歌会を主催、
1236遠島御歌合/48宝治百首参加、「忠信卿百首和歌」、万代・現存六帖・秋風・雲葉集入集、
勅撰11首；新勅撰(318/703/804/836/1100)続後撰(203/289)続古今(1593/1900)以下、

［なくなくも行きては来ぬる初雁の涙のいろを知る人ぞなき］(新勅撰;秋318)、
［忠信(;名)の通称/法名］通称;坊門大納言、法名;信覚/道珍

F2655 **直信**(ただのぶ/なおのぶ・三善みよし・祝部はふりべ)?-? 南北期廷臣;五位、歌:1364成立「新拾遺集」1845、
［かくばかり憂きはいかなるむくいぞと身をこそかこて世をば恨みず］、
(新拾遺;十九1845)

W2635 **忠順**(ただのぶ・ただより・奥村おくむら、又十郎易貞男)1677-175074 加賀金沢藩士;父の嗣;禄1700石、
儒者/詩人;室鳩巣(1658-1734)門/室門七才の1、国学・歌人、
奥村成象なりかた(1703-49/加賀藩士)・富田愛あい(1721-90/歌人)の父
［忠順(;名)の字/通称/号］字;履信/伯亮、通称;助六郎/弾正、号;盈進/竹渓

K2647 **忠順**(ただのぶ・伊奈いな、忠常2男)?-1712 代々関東郡代の家、初め稲葉正篤の養子、
兄忠篤の死により兄の養嗣;関東郡代及び武蔵赤山城4千石を継嗣、諸種の工事を実施;
〇深川永代橋架橋/〇深川築地普請/〇利根川を常陸下総に流す改修工事など、
1707(宝永4)富士山噴火による被害に砂除川浚すなよけかわざらい奉行に就任;酒匂川の砂除改修、
さらに独断で駿府の米倉を開き救民活動;幕府に無断行為として罷免/没(切腹か?)、
［忠順(;名)の初名/通称］初名;忠高、通称;半左衛門

F2656 **忠舒**(ただのぶ・大久保、号;巨川)?-? 江戸幕臣、趣味家、1765「大小絵暦交換会」

Y2601 **忠順**(ただのぶ・高戸たかど、通称;吉右衛門、林之丞文茂男)1778-182144 備中浅口郡鴨方の庄屋;商家、
国学者/歌人、妻;高戸忠誠女の普天ふで(1803没)、後妻;児島郡天城邑の中島家の女、
与右衛門忠貞・安次郎忠文らの父、1821(文政4)没;忠貞が家督嗣

Q2639 **忠陳**(ただのぶ・田中たなか、通称;常右衛門)?-? 江後期和歌山藩士/国学;大平門、1816「皇国考」

Y2662 **忠順**(ただのぶ・中野なかの、)1810-187869 陸奥会津藩士;江戸常詰勘定役、持明院流書家、
戊辰戦争で一家で会津へ移住、妻;こう子(孝子)、竹子・優子の父、
妻子は会津戦争に婦女隊を結成し戦闘(竹子は戦死)、

Q2640 **忠壽**(ただのぶ・多おおの、忠暉ただてる男)1816-7358 楽人;左近将監/摂津守/正五下、「暗向神楽之記」、
1841-「多忠壽日記」60「北野社恒例御神楽次第」、「多忠壽遠楽竜笛本譜」「多氏系図」外多数、
忠賀ただますの父

U2680 **忠壽**(ただのぶ・古橋ふるはし) ? - ? 1853存 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
［露深き麓の野辺の夕暮に鹿の音おくる峰の松風］(大江戸倭歌;秋763)、
［かへりてもぬるる袂はきぬぎぬにつらしといひし言の葉の露］(同;恋1447/後朝恋)、
［駒馳せて高田の原に的射するつる音にかよふ千代の松風］(同;雑1935、
嘉永六[1853]年高田の原に流鏑馬を見て)

U2640 **忠誼**(ただのぶ・飯室いいむろ/本姓;源、通称;源左衛門)?-? 江後期;和泉堺の陶工、
1848(嘉永元)銘の入った大形の「浅皿」を制作、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
［しぐれつる松の秋風声すみて尾上の月の影ぞふけゆく］(大江戸倭歌;秋862)
［忠順(;名)の初名/通称/号］初名;豊範、通称;平内、号;磐水

斉信(ただのぶ・藤原) → *齊信*(なりのぶ・藤原、廷臣/詩歌) Ｈ３２９２
直宣(ただのぶ・大中臣) → *直宣*(なおのぶ・大中臣、歌人) Ｂ３２９７
直信(ただのぶ・市橋) → *宗源*(そうげん・市橋/藤原、武家/領主/連歌)Ｈ２５１３
雅信(ただのぶ・狩野) → *勝川*(しょうせん・狩野かのう、木挽町絵師) Ｋ２２３８
忠宣(忠信ただのぶ・大久保)→ *有隣*(ゆうりん・大久保、藩家老/俳人) Ｅ４６１２
忠宣(ただのぶ・西村) → *貞尭*(さだたか・西村にしむら、歌人) Ｉ２０３６
忠陳(ただのぶ・細野) → *要斎*(ようさい・細野/藤原、藩士/儒/地誌)４７９８

F2657 **忠信母**(ただのぶ/ただざねのはは・宇治、高階資長女)?-? 平安期歌人、
後拾遺833(宇治忠信女);忠信母の作説あり

F2658 **忠信女**(ただのぶ/ただざねのむすめ、宇治忠信女)?-? 平安期歌人、後拾遺833;忠信母の作説あり
［月かげの入るを惜しむもくるしきに西には山のなからましかば］(後拾遺;十五833)

格宮(ただのみや) → *室子女王*(しっしじょおう、江戸期歌人) Ｅ２１９２

F2659 **忠教**(ただのり・藤原ふじわら、関白師実男/母;藤原永業女)1076-114166 難波流・飛鳥井家の祖、

廷臣;1130正二位/36大納言/中宮大夫/41病気で出家、師通・経実の弟、教長・頼輔の父、
「戸記」著、歌人;1093郁芳門院根合参加(袋草紙に逸話入)、1102堀河院艶書けそうぶみ歌合参加、
勅撰8首;金葉(182/465)千載(612)新古(1464)新勅(2首)以下
[いづくにも今宵の月を見る人の心やおなじ空にすむらん](翫明月/金葉;秋182)、
[忠教(;名)の通称/法名]通称;四条中納言/四条大納言、法名;覚禅、

2631 **忠度**(ただのり・平たいら、忠盛男)1144-1184(一谷で戦死) 母;白河院女房(or鳥羽院女房)、薩摩守、
源平合戦には大将軍として転戦/一門と都落;一谷で討死、歌人:俊成門、1178別雷歌合参、
建礼門院右京大夫と交渉、都落に際し俊成に自詠の巻物を託す;千載66に入(;平家物語)
「平忠度朝臣集」、言葉集・治承三十六人歌合・月詣集等に入集、
勅撰11首;千載(66;読人知らず)新勅852玉葉163詞花(4首)風雅(2首)新拾遺(2首)、
[さゞ浪や志賀のみやこはあれにしを昔ながらの山桜かな](千載集;一春66)

F2660 **忠教**(ただのり・九条くじょう、忠家男/本姓;藤原)1248-1332 母;三条公房女、廷臣;1262権大納言、
右大臣/1288左大臣/91関白/氏長者/従一位/1309出家;円阿、「忠教公記」著、
歌:1315「詠唯識論和歌」、続拾遺291・新後撰1600、1315京極為兼[詠法華経和歌]出詠、
師教/房実/禖子(ばいし・よしこ)の父、
妻;西園寺公相女(師教の母)・藤原有時女(房実の母)・二条道良女(禖子の母)、
[昔より名に負ふ秋のなかばとて月はこよひぞすみまさりけり](続拾;秋291/右大臣名)、
[忠教(;名)の法名/号]法名;円阿、 号;浄土寺/報恩院

G2606 **忠能**(ただのり・浅井あさい/本姓;橘、橘忠保男)1629-1707*79* 幕臣;大坂御鉄砲奉行/小普請方、
1705致仕、歌人;飛鳥井雅章・竹内惟庸・中院通茂門、葛岡宣慶と交流、娘(忠能女)歌人、
1688「難波捨草なにわのすてぐさ」編(自序跋、上下2巻66名856首)、私撰集「堀江草ほりえぐさ」入、
[播州明石の人丸社へ百首歌よみて奉納しける時、
いづる日は明石の浦の島かけてほのぼの霞む春はきにけり](難波捨草;春4)、
[忠能(;名)の通称/号]通称;伝八郎、 号;不深子

2757 **忠至**(ただのり/ただゆき・源みなもと、)?- ? 江前期;武士/歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]9首入、
[今朝はまだ梢の色も山のはも見えみ見えずみ立つ霞かな](麓の塵;春21)

2756 **忠則**(ただのり・鳥居とりい/本姓;平、忠春男)1646-89*44* 母;三浦正次女、忠辰・忠虎の兄、歌人、
1663父没;家督嗣;信濃高遠藩2代藩主/壬生藩鳥居家4代、従五下/兵部少輔/左京亮、
3万2千石、正室;森長継女/側室;福永家・神谷家、6男3女の父;忠英・忠瞭の父、
藩財政難となり商人から借金;返済を拒否したため商人が幕府に上訴、
1689(元禄2)家臣高坂権兵衛が旗本平岡頼恒家長屋を覗見の罪で逮捕(高坂は自害);
主君忠則は家中不取締で連座/閉門中に急死(自害か?);真相は闇?、
幕府は忠英の相続を認めず所領没収;名門家のため特例で能登に下村藩立藩(1万石)、
1688浅井忠能ただのり「難波捨草]5首入(平忠常名)、
[忠能の菊花に添えた贈歌《君が為折りつる花の枝ごとに千世の色そふ秋の白菊》、
その返歌、
浅からぬ心の色を折りそへてみせぬる人の千世の白菊](難波捨草;秋291/平忠常)、
[春は花秋は紅葉の色々にうつればかはる人のこころを](難波捨草;恋457)、
[忠則(;名)の別名/法号]別名;**忠常**、法号;天高幽渕諦了院

Q2641 **忠告**(ただのり・秦;本姓/家名;加藤、藤原屋長兵衛男)?-? 江中期伊勢の書肆講古堂主人;父を継承、
博聞で諸地探勝、1761「宮川夜話草」66「旅農久婦沙同遺編」、「観曲玉記・同余論」「異物辨」、
[忠告(;名)の屋号] 藤原屋/講古堂

Q2642 **忠告**(ただのり/ただつぐ・山本やまもと/本姓;源、加賀美忠久男)?-1773 甲斐巨摩郡の生、
巨摩郡若宮八幡神主の山本家の養子、家督嗣;若宮八幡宮祠官/従五下摂津守、
上京し神学;烏谷からすだに長庸ながつね門/歌学;姉小路あねがこうじ実紀さねえ門、儒;三宅尚斎門、
勤王家;帰郷して加賀美光章・飯田正紀と皇道復古を主唱、広く子弟を薫化育成、
1744「神代巻白薙伝」、「日本書紀秘伝」「大祓川菜草」「鳴弦秘伝之巻」
[忠告(;名)の字/通称/号]字;元道、 通称;摂津守/玄道、 号;西河

Q2644 **忠儀**(ただのり・藤原ふじわら) ? - ? 江後期江戸日本橋檜町の文筆家、

1801「志武宇地話しぶうちわ」著

F2662 **忠徳**(ただのり/ただあり・酒井さかい/本姓源、忠温男/母;松平継高女為姫)1755-181258 田安宗武の女婿、
1767家督;出羽庄内藩主/従四下/侍従摂津守、藩政再建に尽力/文教:藩校致道館設置、
国学/歌;宮部義正・冷泉為村・日野資枝門/俳諧;石寿観秀国門/心学;中沢道二門、
1810「酒井忠徳公及び其家臣等の歌俳集」、「諸鷹野口飼心持之事」著、1798広通「霞関集」入、
[むめもなおまだきに咲きて浅からず見る人からの春や待ちけむ]、
(霞関;56/梅を折りて贈るとて)、
[忠徳(;名)の通称/号]通称;豊太郎/左衛門尉、
号;春花/春歌亭/梅花園/連寿観/珪徳院/風琴/非山/左瓢、春花園凡兆/凡鳥、
俳号;凡兆[:俳人野沢凡兆とは別人]、法号;珪徳院、
妻;田安宗武の養女脩姫(兼子/歌人)

Z2638 **尹猷**(ただのり・古山ふるやま、勘次男)1765-184379 肥後熊本藩士、父が大坂藩邸勘定頭で大坂住、
幼時より儒者中井竹山門、国学;富士谷御杖/儒・歌;加藤景範門、肥後に帰り諸所の郡代、
富士谷御杖の女婿、故実・歌;竹原惟秋これあき(勘十郎)門、和漢学者/歌人、
門人;中路恒章・吉山直門など、
[尹猷(;名)の通称/号]通称;常助、 号;春栽/春斎

Q2645 **忠敬**(ただのり・水野みずの、別名;忠暁ただとき、旗本の守政男)1767-183468 幕臣;1789家督継嗣、
小普請船越三番、草木栽培技術を修得、
1829「草木錦葉集」/32「小おもと名寄」編/「実生小不老草奇品寄」、
[忠敬(;名)の通称/号]通称;宗次郎、 号;逸斎

F2663 **忠憲**(ただのり・本多ほんだ、神戸藩主忠永[清秋]7男/本姓藤原)1774-182350 江戸の国学者:
屋代弘賢門、歌・俳人;父門、故実;伊勢貞春門、
「谷陰草」、1807「類聚武器和歌」「類聚刀剣和歌」編、「伊勢物目録」「源語物語不払塵」著、
父追善「ひとめぐり」編、「斎瓮図」「競馬考」「狛犬考」外多数、
[忠憲(;名)の字/通称/号]字;心水、通称;甲馬/靱負、
号;其香/閑楽坊/華陽/回芳舎[斎]/松濤庵/清風居/虫臂齋ちゅうひさい、 法号;浄光院

F2661 **忠至**(ただのり/ただゆき・梅津うめづ、忠喬ただたか男/本姓藤原)1786-181530 兄忠融の養子、
1798出羽久保田(秋田)藩主佐竹義和に出仕、国学者;1811藩校明徳館の初代総裁、歌人、
「泉のしつく」、「和歌集」著、
[忠至(;名)の通称/法号]通称;鉄五郎/金治/藤十郎(代々の称)、 法号;優寛忠厚居士

U2693 **忠学**(ただのり・酒井さかい、忠道8男)1808-4437 播磨姫路藩4代藩主忠実の養嗣子;従四位下河内守、
侍従/左近衛少将、1835(天保6)家督嗣;姫路藩5代藩主/雅楽頭系酒井家宗家13代;雅楽頭、
正室;喜代姫(徳川家斉25女)、家督は養子忠宝が嗣、
息女;喜曽姫(酒井忠宝正室)・肆(九条幸経正室)・玲(酒井忠強正室)、房(安部信宝正室)・
鋼姫(戸田忠明正室、松平勝成継室)・文子(酒井忠顕正室、のち酒井家当主)
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[見ぬ世までおもかげうつる今宵かな月は昔の鏡と思ふに](大江戸倭歌;雑1911、
定家卿六百年忌に法印季文のすすめける手向の歌に月を)、
[忠学(;名)の法号]法号;謙光院

Z2676 **忠格**(ただのり・水野みずの、松平頼格2男)1808-8174 讃岐松平家系;伊予松山藩家老、歌人
[忠格(;名)の通称/号]通称;武三郎/甚左衛門/主殿とのも、 号;徹翁

Q2646 **忠徳**(ただのり・水野みずの、初名;忠篤、旗本諏訪すわ頼篤男)1810-6859 幕臣;水野忠長の養嗣:
1836小姓、1838昌平黌入学/西丸目付・使番・先手/浦賀・長崎奉行/54勝手掛勘定奉行、
田安家家老、1858外国奉行/59神奈川奉行兼帯;ロシア士官暗殺事件の問責;西丸留守居、
1860小笠原島開拓御用掛/61外国奉行再任/62公武合体策反対を主唱;左遷/水面下活動、
日英・日仏和親条約交渉の全権/外交諸問題に尽力、「水野忠徳手記」/1861「島民対話書」、
[忠徳(;名)の通称/号]通称;甲子次郎/甲子二郎、 号;痴雲

W2699 **殷教**(ただのり・小河内こごうち、)?-1863 伊勢桑名藩士、国学;富樫広厚(1826-73)門、
[殷教(;名)の通称] 蔵吉/嘉都美かつみ/弥兵衛

Q2647 **忠徳**(ただのり・本多ほんだ、忠知3男/本姓藤原)1818-6043 母;お輝(寺沢氏)、磐城の泉藩主;1836襲封、

従五位下越中守、1838奏者番/41若年寄、正室;柳沢保泰女、養子;弟忠紀、
藩の学門普及;藩校汲深館を創設、文武奨励・藩風の一新・文化の興隆に尽力、
「汲深斎日記」/1852「江戸城中月番置帳」著、
[忠徳(;名)の幼名/通称/号]幼名;治之助/晴之丞はるのじょう、通称;長三郎、号;汲深斎、
法号;憲徳院

U2645 **忠告**(ただのり・伊那いな、遠江守)?-1850　旗本/幕臣;堺町奉行/1843京都町奉行、
1850(嘉永3)勘定奉行;急死、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入(忠吉名)、
[けふまではありとも知らぬ宿ながらあるじゆかしき花ざかりかな]、
(大江戸倭歌:春268)

X2601 **忠則**(ただのり・小林こばやし、通称;嘉十郎)1843-191371　近江犬上郡の歌人、国学;西川吉介門、
歌;服部春樹門、歌;[鳰のうみ]入

忠教(ただのり・大久保)　→　*忠教*(ただたか・大久保彦左衛門)　Ｆ２６２２
忠教(ただのり・島津)　→　*久光*(ひさみつ・島津、領主/藩政実権)　Ｃ３７０１
忠規(ただのり・菅原)　→　*為長*(ためなが・菅原/高辻、廷臣/詩歌)　２６６８
忠規(ただのり・横井)　→　*豊山*(ほうざん・横井、儒者/樺太探索)　Ｂ３９１５
忠矩(ただのり・水野)　→　*守矩*(もりのり・水野みずの、幕臣世子/歌)　Ｌ４４９５
忠矩(ただのり・松平)　→　*茂政*(もちまさ・池田/徳川/松平、藩主)　Ｂ４４６９
忠粛(ただのり・野田、白水郎)→　*忠粛*(ただまさ・野田、国学/歌)　Ｆ２６８５
忠告(ただのり・桜井)　→　*亀文*(きぶん・松平/桜井、城主/俳人)　Ｂ１６７４
忠徳(ただのり・島津)　→　*忠義*(ただよし・島津しまづ、藩主/日記)　Ｒ２６３９
惟得(ただのり/これのり・羽倉)→　*惟得*(いとく・羽倉はくら/荷田、国学/歌)Ｂ１１６９

2753 **忠能女**(ただのりのむすめ・浅井あさい/橘、)?-?　幕臣の家;大坂住、歌人;父門、
1688父編纂の「難波捨草なにわのすてぐさ」10数首入、
[梅の花かをるまがきに鶯の色音をうつす今朝の初こゑ](難波捨草:春31)

忠徳妻(ただのりのつま・酒井)→　*兼子*(かねこ・田安たやす、脩姫、歌)　Ｓ１５８０
只八(ただはち・貝掛)　→　*浜雄*(はまお・貝掛かいがけ、酒造業/国学)　Ｊ３６９０

Q2648 **忠春**(ただはる・多おおの、忠栄男)?-1389　室町期楽人、上総介/正五下、
「舞曲之部」「臨時祭舞人輪作譜」

Q2649 **忠雄**(ただはる・多おおの、忠宗男)1540-1601or3?　安桃期楽人、上野介/1601正五下、
「忠雄自筆」、忠頼ただよりの父

Q2650 **忠晴**(ただはる・松平まつだいら、篠山藩主松平信吉男)1598-1669　母;土浦藩主松平信一女、下総布川生、
1642駿河田中藩主/44遠州掛川藩主/48丹波亀山に移封/67致仕、伊賀守、「金玉集」編、
[忠晴(;名)の幼名/号]幼名;与吉郎、致仕後の号;忠山、法号;善得院

F2664 **忠晴**(ただはる・堀尾ほりお、幼名;三之助、忠氏男/本姓;高階)1599-1633　母;前田玄以女、松江藩主、
;1604父の遺領襲封;幼少のため祖父吉晴が執政、1611松江城完成;入城、大坂両陣で戦功、
嗣子なく家断絶、「長松殿真諦紹大師御辞世」「乗方馬書」編、「江戸百首」

Q2651 **忠春**(ただはる・鳥居とりい、別名;忠定/忠正/忠豊、山形藩主忠政男/本姓;平)1624-63　羽前山形の生、
1636兄忠恒没後一旦除封;改めて信濃高遠藩主に就任/次第に乱行:農民逃散事件発生、
1663大坂城山里丸加番中に侍医松谷寿覚に斬;その傷が原因で没、「鳥居家先祖之覚書」
[忠春(;名)の通称/法号]通称;鶴之助/鶴千代/主膳、法号;清涼院・本光院

F2665 **忠晴**(ただはる・諏訪すわ、2代藩主忠恒男/本姓源)1639-95　信濃諏訪高島3代藩主;1657襲封/因幡守、
1682越後高田領検地/高田城在番/藩内諸制度の整備、詩人、歌/俳諧/絵画/能楽を嗜む、
1676「武林小伝」79「本朝武林伝」「本朝続武林小伝」、母;稲葉典通女、忠虎の父、
[浦かぜに袖もさむけき海士衣日も夕塩に千鳥なくなり](茂睡[鳥の迹]冬465)、
[忠晴(;名)の通称/号]通称;右京、号;露葉/時春/鵞湖子、法号;乾隆院けんりゅういん

2767 **忠治**(ただはる・泉いずみ、)　？-　？　江前期;上方の歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]3首入、
[旅の空わがみひとつに月みればちぢに都の秋ぞ恋しき](林葉累塵;雑1059)

W2642 **忠治**(ただはる・加藤かとう、)　？-　？　江中期;伊勢度会の書肆、
国学・歌;久志本常彰(つねあきら/1675-1752)門

Q2652 **忠昌**(ただはる・酒井さかい、定昌男)?-?　　江中期1718父が乱行;食禄没収;身を安西元春に預、
浪人?、随筆:1751「南向茶屋」、「求涼雑記」著、
[忠昌(;名)の通称/号]通称;弁吉/助之進、号;南向亭
F2666 **忠はる**(ただはる・天野)　?-　?　　歌、1843北村季節文「墨水遊覧記」入
Q2653 **忠春**(ただはる・赤木あかぎ、陶すえ太郎左衛門男)1816-65 美作久米南条郡八出村の生、
中枡村の赤木常五郎の養子/23-4歳頃失明;黒住教入信;黒住宗忠門/視力回復、
布教活動;晩年は異端として教団本部から破門、没後黒住教大教正の称号を贈、
歌人;赤木覚市編の歌文集あり、「黒住教祖七箇条謹解集」著、
[忠春(;名)の通称]　宗一郎
忠治(ただはる・阿野/清水谷)→ *実任*(さねとう・清水谷/藤原/阿野、権大納言/連歌)Ｌ２００２
Q2654 **忠彦**(ただひこ・松木まつき、是彦男/本姓;度会わたらい)?-1572　松木越後家の祖、伊勢外宮禰宜、
1509八禰宜/60二禰宜/63正四下、「永禄記」著
F2667 **忠彦**(ただひこ・飯田いいだ、里見兼門男)1798-1860自刃　周防徳山の人/河内の飯田兼介養子;離縁、
離縁後も飯田を名乗る、史家;大日本史続編の編纂を企画し史料蒐集;
1852「大日本野史」編纂、有栖川宮家・中宮寺宮家に出仕;勤王派、
安政大獄に連座;江戸で投獄/赦免後京に隠棲、桜田門の変関与の嫌疑で捕縛;割腹自殺、
「系図纂要」「毫埃」「国人記伝」「狩野五家譜」編、「野史竟宴詩歌」「桂園翁伝」「大臣次第」著、
「門跡伝」/1857「国史姓名譜」、「飯田忠彦文稿」著、
[忠彦(;名)の字/通称/号]字;子邦、通称;要人/刑部ぎょうぶ/左馬、号;黙叟/夷浜釣叟/環山
Q2655 **品彦**(ただひこ・松木まつき/本姓;度会、檜垣ひがき常始男)1805-45*41* 伊勢久居の人;神職、
伊勢度会郡の外宮禰宜松木算彦かずひこ(1767-1814)の養子、
伊勢外宮禰宜継嗣;1816十禰宜/30正四上/1845(弘化2)五禰宜/越後小千谷で没、
1816「品彦禰宜職引付」45「品彦神主越後入湯日次」著、
養子の偉彦くすひこ(松木武彦男/1844-1917)が幼時で家督嗣、
[品彦(;名)の通称]　監物けんもつ/対馬
唯彦(ただひこ・藤原、洗眼堂)→　*秀根*(ひでね・河村、藩士/国学/歌)　Ｄ３７５４
忠彦(ただひこ・友松)　→　*氏興*(うじおき・友松/佐藤、儒/神道)　１２２３
多田彦(ただひこ・高島)　→　*宣陽*(のぶはる・高島たかしま/沢、代官/歌)　Ｉ３５９４
F2668 **忠久**(ただひさ・賀茂かも、号;後井関神主、経久男)?-?　鎌倉期上賀茂神社の神主、四位、
歌人:玉葉2122、基久の兄弟、定久の父
[しほ風はなぎさの松におとづれて月ぞ波間に入りかかりぬる](玉葉集;十五2122)
F2669 **忠尚**(ただひさ・大久保おおくぼ、忠照男)1825-80*56* 母;漢学者青葉李園(伝八)の女の美禰子、
遠江見付淡海国魂神社社家の生/4歳で父と死別/国学;1837八木美穂よしほ門/石川依平門、
淡国玉神社祠官/私塾誦習庵を開設;子弟教育/生前の父の乱費により家経に尽力、
和漢書を蒐集し磐田文庫創設、幕末期勤皇党遠江報国隊を組織;息子初太郎(春野)出征、
維新後;招魂社祭典取調所/三河裁判所/兵部省/海軍主計大監正六位/1880海軍少書記官、
[忠尚(;名)の通称/号]通称;初太郎/縫殿之助ぬいのすけ/長門、号;菫園とうえん
Q2656 **忠久**(ただひさ・橋本はしもと、通称;伊予守)?-?　江後期石見大森神社の神主、歌人:
「橋本忠久詠草」著(1848-53頃詠)
V2696 **忠旧**(ただひさ・小川おがわ、)1828-1907*80*　江戸の赤坂山王神社の大禰宜、
国学者;1864(元治元)気吹舎入門、
[忠旧(;名)の通称/号]通称;織部、号;琴月園/眠居
Z2640 **忠尚**(ただひさ・ただなお・日置へき、池田政徳2男)1829-1918*90* 母;輝子(池田政孝女)、備前岡山の生、
1854(嘉永7)備前岡山藩国老日置忠弼の養子/56(安政3)家督嗣;
岡山藩家老・金川日置家1万6000石の領主、1863(文久3)藩主池田茂政の下で仕置家老、
1868(慶応4)新政府命で藩兵を率いて西宮警備に進軍;神戸で藩兵がフランス兵に発砲、
この神戸事件で家臣滝善三郎が切腹;忠尚も謹慎,歌人/絵師;長谷川勝厳門/花鳥を得意、
特に鶴の画が評判[雲外さんの鶴]と称される、廃藩後;東京小橋町住;宮内省技芸官、
養子;健太郎、晩年;帰郷吉備郡高松町で画筆専念、
[忠尚(;名)の初名/通称]初名;政信/忠ただし、通称;猪右衛門/鋼之進/数馬/**帯刀**たてわき、

号;雲外
Y2642 **尹久**(ただひさ・富永とみなが、芳久よしひさ[1813-80]男)?-? 江後期;出雲出雲郡の神職/歌人;父門、
[尹久(;名)の通称] 仙之助
忠久(ただひさ・福田/林) → *一烏*(いちう・林/福田、医者) Ｆ１１９６
忠久(ただひさ・佐々木) → *素堂*(3世そどう・佐々木ささき、俳人) Ｋ２５１７
唯寿(ただひさ・宮武) → *正策*(しょうさく・宮武みやたけ、藩医/漢学) Ｖ２２３２
Q2657 **惟久室**(ただひさのしつ・島津しまづ、島津久洪女)?-? 江中期日向佐土原藩主淡路守惟久の継室、
軍書/武芸を嗜む、「女武者百千鳥」「女軍立武事習集」著、忠雅の母
F2670 **忠秀**(ただひで・惟宗これむね/家名;島津、忠宗男)?-? 南北期廷臣/武家;五位常陸介、六波羅に参候、
歌人;二条派、北九州歌壇で活動?、1331成立「臨永集」入、
勅撰2首;続千載1956/続後拾1009、
[いにしへの野中の清水汲まねども思ひ出てぞ袖ぬらしける](続千載;雑1956)、
[忠秀(;名)の通称] 五郎左衛門尉
Q2658 **忠栄**(ただひで・九条くじょう、改名;幸家、兼孝男/本姓;藤原)1586-1665*80* 母;高倉永家女、廷臣;
1599従三位権中納言/1607右大臣/08関白/12左大臣/14従一位/19関白還任、氏長者、
1631幸家と改名、「娘をいためる辞」「立太子次第」、
[忠栄(;初名)の一字名/法号]一字名;匀いん、法号;惟忖院/惟材院/唯村院
W2693 **忠栄**(ただひで・黒沢くろさわ、)? - ? 江中期;宝暦1751-64頃出羽の国学者、
垂加神道;伴部安嵩やすたか(1667-1740)門、
[忠栄(;名)の通称/号]通称;源助、 号;瓊咀翁けいそおう
Q2659 **忠英**(ただひで・山本やまもと) ? - ? 江後期遠州掛川藩士、
藩主太田資順の命で地誌編纂(同僚斎田茂先と);1804-20頃「掛川志稿」編
Q2660 **忠英**(ただひで・松本まつもと、通称;金吾)?-? 江後期播磨竜野藩士;勘定方切所見分役/検見役、
和算家、1823「奉納算法解術」著
U2644 **忠栄**(ただひで・戸塚とつか) ? - ? 江後期旗本/幕臣;1832(天保4)-34大坂東町奉行、
1834(天保4)から米価急上昇;西町奉行矢部定謙と共に米価抑制に尽力;一時下落、
目付/小納戸頭取など歴任、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[暮れ行けばいづことわかぬ秋なれや霜のうへにもあとはとどめず]、
(大江戸倭歌;秋1033/九月尽)、
[忠栄(;名)の通称] 金十郎/吉三郎/豊後守
U2649 **忠英**(ただひで・森田もりた) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[くれ竹の一よのほどに春めきてふしおもしろく鶯の鳴く](大江戸倭歌;春83/初鶯)
Q2661 **忠英**(ただひで・木谷きたに) ? - ? 江後期1818-44頃肥前長崎の和算家;長谷川寛門、
歌人:中島広足門、1842-3「木谷忠英寅卯日記」「続算学小筌解」著、
[忠英(;名)の通称/号]通称;与一右衛門、 号;雪香、 息女沼名子ぬなこ(1810-27)も歌人
Q2662 **忠英**(ただひで・松村まつむら、通称;和助)?-? 江後期大阪の和算家/暦数:福田金塘門、
1841「窺望心計示蒙」45「算法早まなび」編、「貫通斎初学算法教録」著
W2629 **忠栄**(ただひで・岡田おかだ、通称;茂右衛門)1835-1906*72* 常陸久慈郡宮川村大字下野宮の国学/歌人
忠秀(ただひで・青木) → *猛比古*(たけひこ・青木あおき、尊皇運動) Ｖ２６０４
忠仁(ただひと) → *智忠親王*(としただしんのう・八条宮、古典/歌)Ｍ３１７５
正仁(ただひと・有栖川) → *貞建親王*(さだたけしんのう、伏見宮、詩歌人)Ｂ２０９６
Q2663 **正仁親王**(ただひとしんのう・有栖川宮、有栖川宮幸仁親王男)1694-1716早世*23* 1708東山天皇猶子;
太宰帥、1716一品/歌人、1715「播州曾禰社奉納和歌」著
忠姫(ただひめ・土御門) → *照子*(てるこ・安倍あべ/土御門つちみかど/歌)Ｅ３０９９
Q2664 **三成**(ただひら/みつなり・藤原ふじわら、姓;朝臣、藤原真作男)786-830*45* 母;御井氏、平安前期廷臣、
主殿頭/春宮亮/蔵人/越前守を歴任/830従四下、琴の名手、詩:経国集入
F2671 **忠平**(ただひら・藤原ふじわら、基経男)880-949*70* 母;人康親王(仁明天皇皇子)女、兄時平・仲平と三平、
廷臣;900参議/909権中納言/氏長者/914右大臣/924左大臣/932従一位/936太政大臣、
醍醐朱雀村上時代の摂政関白20年間;藤原氏の隆盛に導く、時平の遺業「延喜式」を完成、

日記「貞信公記」著、927「延喜格式」撰、「延喜諸陵寮式」「伊勢太神宮式」著、
歌：勅撰13首；後撰（7首203/1087/1370/1378/1380/1387/1401）拾遺（1128）新古（1443）以下、
［小倉山峰のもみぢ葉心あらば今ひとたびのみゆきまたなむ］（拾遺集；十七秋1128）
［忠平（；名）の通称/諡号］通称；小一条太政大臣/五条殿、諡号；**貞信公**
実頼さねより・師輔もろすけ・師氏・師尹もろまさ/もろただの父

Q2665 **忠衡**（ただひら・和泉いずみ/藤原、泉冠者/泉三郎、藤原秀衡3男）1167-89殺害　平泉武将/泉ヶ城居館、
義経を擁護/兄泰衡に殺害、1187「塩竈燈籠銘」著

Q2666 **忠平**（ただひら・梅津うめづ/本姓；藤原、通称；亥蔵）?-?1843存　秋田の国学者：平田篤胤門、
「神のきらい」著

U2619 **忠挙**（ただひら・鳥居とりい、下野壬生藩主の忠熹4男）1815-57*43歳*　江戸番町に生/1826兄忠威没；
その養嗣子；1829（文政12）下野壬生藩第6代藩主/従五下・丹波守、1837奏者番/51若年寄、
1857病没、息子忠宝が家督嗣、正室；松平康3女の聡子さとこ、忠粛ただかた・忠宝・忠文の父、
歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」（1858刊）入（妻さと子と共に入集）、
［氷りゐし水もぬるみて日影さす南の枝に梅咲きにけり］（大江戸倭歌；春118/梅）、
［忠挙（：名）の幼名/初名/法名/法号］幼名；於喜松/初名；国之助、法号；誠徳院

忠平（ただひら・島津）　→　*義弘*（よしひろ・島津しまづ、武将/記録）　Ｇ４７５５
忠平（ただひら・岡部）　→　*拙斎*（雪斎せっさい・岡部、藩儒/詩人）　Ｅ２４２８
忠平（ただひら・菊池）　→　*武胤*（たけたね・菊池きくち、庄屋/歌人）　Ｗ２６７５
忠衡（ただひら・寺本/斎藤）→　*立軒*（りっけん・寺本/斎藤、医者）　Ｂ４９７０
匡衡（ただひら・大江）　→　*匡衡*（まさひら・大江おおえ、詩歌人）　４０１８
忠挙室（だひらのしつ・鳥居）→　*さと子*（聡子さとこ・鳥居とりい、藩主妻/歌）Ｎ２０３８

F2672 **忠広**（ただひろ・大江おおえ/萩、忠義男）?-?　南北期廷臣：五位左京亮、歌人：新拾遺1684、
［冬枯の眞野のかや原穂に出でし面影見せておける霜かな］（新拾遺；雑1684）

X2654 **忠広**（ただひろ・島津しまづ、藩主島津家久5男）1621-1703*84*　母；鎌田播磨政重女、薩摩藩士；家老、
薩摩鹿児島島津家の分家島津準三男家の祖、初め島津義弘長女の所領を相続、
1677（延宝5）加治木島津家祖で同母兄忠朗を次男家とし三男家に準じた扱い；禄1553石、
国学者、
［忠広（；名）の別名/通称/号］幼名；宝寿、初名；忠弘、通称；市正、号；万山（剃髪号）

Q2667 **忠弘**（ただひろ・松平まつだいら、初名；清良、忠明男）1631-1700*70*　播磨姫路藩主；1644遺領を継嗣、
1648山形藩に/68磐城白河藩に転封、92家臣同士の争い；一時所領没収/赦免；山形藩再封、
下総守、刑部大輔、1646「播磨之国知行高辻郷帳」編、
［忠弘（；名）の幼名/法号］幼名；鶴松丸、法号；楞伽院

Q2668 **忠洪**（ただひろ・森もり、初名；可保、森正典男）1728-1776*49*　森政房の養嗣子/赤穂藩主；1747襲封、
藩政改革；塩業振興/文人登用/1769隠居、俳人：祇徳門（；秋香亭傘路の号）、
1774「秋香亭句集」75「きさらき記行」著、
［忠洪（；名）の幼名/号］幼名；五郎作、号；傘路/秋香亭、法号；大盛院

W2630 **忠寛**（ただひろ・岡田おかだ、）？－1789　播磨佐用郡の作用代官、国学者、
［忠寛（；名）の通称］通称；源太夫/甚兵衛

Q2669 **忠寛**（ただひろ・本多ほんだ、古河藩主忠良3男）?-1811　三河岡崎藩主本多忠粛の叔父、
浜田藩主忠敞の弟、藩政には不参加/俳諧など専ら文事に執着、
1782「福寿草」評、93芭蕉句碑建立記念撰集「旅の日数」編、
［忠寛（；名）の通称/号］通称；弁之助/兵部、号；李喬/三秀亭、

Q2670 **忠恕**（ただひろ・松平まつだいら、島原藩主忠刻男）1740-92過労死*53*　下野宇都宮藩主；1762兄忠祇の遺領、
1774島原藩に転封・財政窮乏・雲仙岳爆発による対策などで激務；急逝、飛騨守/主殿頭、
「救民儲穀法」「肥前国島原山焼ニ付御届」「忠恕日記」著、
［忠恕（；名）の幼名/法号］幼名；八十之助、法号；瑞応院

Q2671 **忠裔**（ただひろ・本多ほんだ、初名；忠京、神戸藩主忠永男）1755-1803*49*　伊勢神戸藩主；兄の忠興の養嗣、
1766襲封、馬場先御門番など御門番歴任/伊予守、1796「吹上上覧乗馬の記」、
［忠裔（；名）の通称/号］通称；駒之助、号；沢山/暮山、法号；源徳院、忠升の養父/忠憲の兄

F2673 **忠礼**（ただひろ・西田にしだ、忠序男）?-　?　江後期歌人・1814「詠源氏和歌」入、

「寛政重修諸家譜」編
V2659 **忠寛**(ただひろ・石尾いしお/本姓;荒木、)1774-1810*37*　近江彦江藩士/歌人、
1844野津基明「彦根歌人伝」鶴ノ巻入
[忠寛(;名)の通称/号]通称;儀太夫、号;真弓/芳花舎
W2694 **田弘**(ただひろ・黒瀬くろせ、)1795-1850*56*　伊勢度会郡の外宮祠官、国学;本居大平・春庭門、
[田弘(;名)の別名/通称/号]別名;氏弘/致弘むねひろ、通称;主馬/大夫だいぶ、号;紫厚
Y2630 **忠恕**(ただひろ・土田つちた、号;北州山人)?-1853　越後蒲原郡の歌人;梅本敏鎌門
V2619 **忠敬**(ただひろ/ただたか・浅野あさの、藤堂信任2男)1801-60*60*　母;浅野忠正女、伊勢津の生、
浅野忠順の養子、1814(文化11/14歳)家督嗣;備後三原城主3万石;広島藩筆頭家老、
1816広島の自邸内に講学所(後に朝陽舘)を設置;湯浅正平を招聘し儒学奨励、
1820三原城に明善堂設置;初代教頭に西山孝恂を招聘/25石井儀右衛門豊州を招聘、
囲碁を嗜む;安田栄斎(後の本因坊秀策)を支援、宝泉寺10世教甫(葆真ほしん)と親交、
1843(天保12)隠居;義弟浅野忠だすに家督譲渡、広島に没、
浅野忠英(敬五)・秀子(池田政昭室)の父、
[忠敬(;名)の幼名/通称]幼名;挺二郎、通称大和/甲斐/筑後/右近/出羽
F2674 **忠熙**(ただひろ・近衛このえ、基前男/本姓;藤原)1808-98長寿*91*　母;徳川宗睦女静子、廷臣;1824内大臣、
1837従一位/47右大臣/57左大臣/59安政大獄で辞任出家/62還俗;関白/氏長者/63致仕、
追贈正一位、歌集「伊東斜久良」「耳順御賀歌」、懐紙「若菜集」、書「紅梅図」、「忠熙公記」著、
[敷島の大和言葉のすがたにも治まる国の風はしるしも](松平春嶽[古今百人一首]入)、
[忠熙(;名)の号]　翠山(;出家号)、法号;後三藐院のちのさんみゃくいん　、忠房の父
U2639 **忠寛**(ただひろ・大久保おおくぼ、忠向男)1817-88*72歳*　幕臣;1830将軍家斉付小納戸;改名;三四郎忠正、
1833家斉の小姓/従五下志摩守/37家斉に随い大御所西丸の小姓/41小納戸肝煎;右近将監、
1842(天保13)父没;家督嗣;改名忠寛、54目付役;海防掛兼帯/1856貿易取調御用兼任、
のち蕃所調所頭取;500石30人扶持、1857西洋式病院構想の意見書提出、駿河奉行に左遷、
1858伊勢守/1859(安政6)京都東町奉行;安政大獄時に京の志士逮捕に反対;
井伊直弼により西丸留守居異動;御役御免/寄合、1961蕃所所頭取再任/外国奉行;越中守、
1862(文久2)大目付;外国奉行兼任/御側御用取次(旗本最高役);献策し講武所に左遷、
さらに京都奉行所時の対応不備の咎で差控謹慎/1864勘定奉行;第二次長州征伐に反対;
御役御免;寄合に戻る、1865(慶応元)隠居剃髪;長男三郎に家督嗣;一翁と称す、
1868会計総裁に抜擢;若年寄/徳川宗家中老/江戸無血開城に貢献;独断で幕府資料焼却;
莫大な積立金を新政府に譲渡;都市整備費用となる、徳川宗家に随い駿府に住、
1869商法会所設立;渋沢栄一を抜擢/駿府を静岡に改称;静岡藩権参事に就く、
1872(明治5)西郷隆盛の要請で東京府知事/正五位、73貧困救済のため上野に養育院設置、
1874渋沢栄一に養育院運営を委託;のちの慈恵会の礎、77元老院議官;従四位/85正四位、
1888従二位;没、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[にぎはへる都にだにもうかりしをなれぬあがたの秋の夕暮](大江戸倭歌;秋828)、
[忠寛(;名)の初名/通称/号]幼名;市三郎/初名;忠正
通称;金之助/三市郎/志摩守/右近将監/伊勢守/越中守、
号;一翁/石泉/桜園/虚堂/明善館/日新館/自由楽地斎
Q2672 **忠寛**(ただひろ・本多ほんだ、初名;忠廉/忠都、忠升男/本姓藤原)1827-85*59*　伊勢神戸藩主;1840襲封、
大坂加番代、伊予守/1857隠居、「吹上上覧乗馬記」著、
[忠寛(;名)の通称/号]通称;駒之助、号;翠桐/崇陵/楽々斎
X2655 **忠寛**(ただひろ・島津しまづ、佐土原藩主忠徹ただゆき2男)1828-96*69*　母;宗家島津斉宣女の随子、
1839(天保10/12歳)父急逝で日向佐土原藩主10代襲封、財政改革・洋式兵制導入、
宗家島津斉彬の薫陶;尊王思想/宗藩と行動を共にす;生麦事件・薩英戦争で交渉役、
戊辰戦で官軍の先鋒;上野・会津・米沢へ転戦、維新後;知藩事/麝香間祗候;東京住/国学、
[忠寛(;名)の通称/号]通称;又之進/徳次郎/佐嘉郎/淡路守、号;蠖堂かくどう
Q2673 **忠寛**(ただひろ・酒井さかい、忠器の13男)1839-62病死*24*　長兄忠発の嗣子早世のため1861庄内藩主、
藩政刷新に着手;麻疹のため早世、石川鳳台「鳳台詩集」入、
[忠寛(;名)の通称/法号]通称;富之進、法号;泰雲院

U2621 **忠嘉**(ただひろ・小笠原おがさわら/本姓:源、貞哲4男)1839-60早世*22歳* 幼名;直之進、
1851(嘉永4)兄没;家督嗣;豊前小倉新田藩(千束藩)7代藩主、
1854(安政元)本家小笠原忠徴の養子;忠嘉と改名/1855従五下伊予守、
1856(安政3)養父没;家督継嗣;豊前小倉藩8代藩主/従四下右近将監、殖産興業推進、
1860早逝;息子なく安志藩主小笠原貞幹が家督嗣、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[住の江の松を霞のたちこめて波よりしらむあけぼのの空]、
(大江戸倭歌;195/名所春曙)

U2672 **忠弘**(ただひろ・水野みずの/本姓;源)?-? 江後期;歌人、山形藩主の[水野忠弘]とは別人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[神無月夕べの空に風立ちて散るや木の葉の音ぞさびしき](大江戸倭歌;冬1087)

U2687 **忠模**(ただひろ・大久保おおくぼ)?- ? 江後期;幕臣;豊後守、歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、豊後守大久保忠恕(たださと)と同一?
[吹きたゆむほどはきこえし滝の音のまた松風に遠ざかり行く](大江戸倭歌;雑1686/)

Q2674 **忠広**(ただひろ・岡田おかだ、通称;式部)?-? 江戸期伊予松山の兵法家、
「見聞拾芥抄」「兵要粋聚」著

U2673 **忠弘**(ただひろ・水野みずの、忠精の長男)1856-1905*50* 出羽国山形藩第3代(最後)の藩主;
1866(慶応2)父隠居;家督継嗣/従三位/和泉守、父と上洛中に国元は奥羽越列藩同盟参加、
山形藩は明治新政府軍に降伏/忠精と共に謹慎・家老水野元宣は処刑、1869赦免、
1870近江国朝日山藩に移封;藩知事、廃藩後慶應義塾入学、1904貴族院子爵議員に選出;没、
正室;水野忠制女(水野忠幹の養女)/継室;伊達宗城女

忠道(ただひろ・酒井) → *忠道*(ただみち/ただひろ・酒井、藩主/詩歌) Ｆ２６８７
忠寛(ただひろ・大久保) → *忠恒*(ただつね・大久保、軍記作者) Ｐ２６８６
忠寛(ただひろ・小原おはら) → *鉄心*(てっしん・小原、藩士/儒詩/兵学) Ｃ３０４８
忠寛(ただひろ・戸田) → *忠寛*(ただとお・戸田とだ、藩主/京所司代)Ｙ２６３５
忠洪(ただひろ・島津) → *重豪*(しげひで・島津/松平、藩主/諸学) Ｃ２１９０
惟寛(惟完ただひろ・頼) → *春水*(しゅんすい・頼らい、儒者/藩儒/詩人)２１６０
駝々広(ただひろ・田原) → *田原駝々広*(たはらのただひろ、狂歌) Ｆ２６９５

C2600 **忠房**(ただふさ・藤原ふじわら;京家、興嗣or是嗣男?)?-928 母;貞元親王女、廷臣;宇多天皇の寵臣、
従四上/播磨少掾/911左少将、蔵人/遣唐判官/925山城守/927右京大夫、宇多法皇の寵臣、
管絃の道、笛「古蝶楽」「武徳楽」を作曲、歌人;貫之・躬恒・忠岑と親交、中古36歌仙の1、
歌人;921(延喜21)京極御息所褒子よしこ(時平女)歌合;判者、万代集入集、
勅撰17首;古今(196/576/914/993)後撰(367/454/601/606/873/874/880)拾遺(6首)
[蟋蟀きりぎりすいたくな鳴きそ秋の夜の長き思ひは我ぞまされる](古今;秋196)

F2675 **尹房**(ただふさ・二条にじょう、尚基男/本姓;藤原)1496-1551客死*56* 戦国期廷臣;1511従三位/15内大臣、
1518関白/22従一位/25関白辞退/28京を逃れ備前へ/36関白再任/38致仕、45周防滞在;
大内氏滅亡の際周防で横死、「尹房公記」、「和歌御会次第」「後大染金剛院御記」著、
[尹房(;名)の号] 紹恵/槿花/後大染金剛院のちのだいせんこうんごういん、晴良・良豊の父

B2684 **忠総**(ただふさ・石川いしかわ、大久保忠隣男)1582-1650*69* 母;石川家成女、家成の養子;1600石川姓、
1610祖父の遺領相続;14父忠隣の事に連座;駿府蟄居/大坂冬の陣で戦功あり赦免、
1616豊後日田6万石を領す/33下総佐倉城主/34近江膳所藩主、「石川忠総日記」、
「日田紀行」「石門公御道の記」「石川忠総聞書」「石川忠総覚書」「石川忠総留書」著、
[忠総(;名)の通称/法号]通称;宗十郎、法号;忠総院日観

V2660 **唯房**(ただふさ・石野いしの、) ? - 1697 江戸幕臣;小普請、国学者、
[唯房(;名)の通称] 新五兵衛/伊兵衛

F2676 **忠房**(ただふさ・松平まつだいら、忠利男)1619-1700*82* 三河吉田藩主;1632遺領継嗣//刈谷藩転封、
1649丹波福知山藩転封/69肥前島原藩転封/98致仕、
儒;林鵞鳳門/神道・国学;伊藤栄治門、
1677「古今集三鳥秘訣」伝授を受、書籍収集(島原文庫)、文武奨励;島原藩教学の礎を築く、
「国史舘詩歌私牋集」「信長記」「本朝三十六対画様」編、
1648「広忠公百回私記」65「破越別記」著、

[忠房(;名)の幼名/法号]幼名;八於国/五郎八、法号;興慶院
F2677 **忠房**(ただふさ・石川いしかわ、伊丹勝興男)1755-1836*82* 石川忠国の養嗣/幕臣;1764家督/73大番組、
1791目付/93(寛政5)蝦夷松前寄港のロシア人と交渉し漂流民を受取る、作事奉行・勘定奉行、
道中奉行を歴任、左近将監、1793「漂民帰国之記」1819「徳業編」著、
歌;1798石野広通「霞関集」入/1814堀田正敦催「詠源氏物語和歌」入、
[こと国の船吹き送れ日の本の民をめぐみの天あまつ神風](霞関;神祇1182、
1793のロシア船との交渉と天候回復を神仏に祈願し和歌を詠じた仔細を記載)、
[忠房(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;岩次郎、字;子良、
通称;太郎右衛門/六右衛門/左近将監、号;道斎/主水正/将監
U2632 **忠房**(ただふさ・江口えぐち) ? - ? 江後期;江戸の国学者/歌人、
1850(嘉永3)「瀬田之記」撰(岡嶋林斎画);9月10-12日太田子徳の招で江戸文人13名集う;
瀬田村名主の長崎長十郎重行の別邸の占勝亭に遊ぶ:大山街道を玉川への紀行日記、
この日記の玉川八景の歌が有名;太田子徳[瀬田黄稲]・岡嶋林斎[登戸宿雁]・
斎田小枝子(重行女)[士峰雪晴]・渡邉高見[大蔵雨夜]・柏木美正[岡本紅葉]・
黒川惟艸[吉沢暁月]・本間游清[川辺夕烟]・江口忠房[二子帰帆]、
のち長崎重行が「高川瀬田邨占勝亭八勝」著(子徳編「江西三十八勝詩歌」に所収)
[夕風を孕んで帰るむしろ帆に月の生まるる二子涼しき](二子帰帆/瀬戸之記入)、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[闇の夜もすだく螢の光にてよりより見ゆる滝の白糸](大江戸倭歌;夏584/滝下螢)
Q2675 **忠房**(ただふさ・近衛このえ、法号;光山、忠熙ただひろ男/本姓;藤原)1836-73*38* 母;島津斉興の養女、
廷臣;1863内大臣/従一位/67左大臣;朝廷の中枢;島津と結び尊王攘夷論を展開、
討幕派優勢で辞任、「春日祭御再興之御歌」「近衛忠房書簡」「忠房公記」、懐紙帖「梅花集」著
忠房(ただふさ・源) → *忠季*(ただすえ・源、顕仲男、歌人) Ｆ２６１４
忠房(ただふさ・中山) → *忠定*(たださだ・中山なかやま、廷臣/歌人) Ｆ２６０６
忠房(ただふさ・湯川/多紀)→ *安貞*(あんてい・湯川ゆかわ、幕府医官) Ｇ１０１６
F2678 **忠房親王**(ただふさしんのう、法名;禅恵、源彦仁男)1285?-1347*63?* 母;関白二条良実女、
外伯父二条兼基の猶子/1301元服;正五位下左近少将/1302従三位左近中将/05正三位、
1306(徳治元)権中納言、1309辞任、1316従二位/18後醍醐天皇が即位;大覚寺統に遷る、
1319(文保3)後宇多天皇の猶子/無品親王;弾正尹/24後宇多法皇崩;出家、47(貞和3)没、
室;二条兼基女・小倉実教女、源彦良・周護・全仁親王室・富明王室の父、称号;大智院宮、
歌人;自邸で歌会催、「忠房親王百首」著、連歌;菟玖波5句入、通称;**弾正親王**、
1320文保百首・23亀山殿七百首(13首)・北野宝前和歌参、続現葉・松花・臨永・藤葉(5首)入、
勅撰21首;玉葉(1430)続千(398/554/647)続後拾(224/265)風(1918)新千(3首)以下、
[いかにして日頃のうさのかぎりをも逢ふ夜のうちに言ひ尽くさまし](玉葉;恋1430)
[二葉よりみそぢにかかるあふひ草かざして神に猶やつかへむ](文保百首;夏22)
F2679 **忠房女**(ただふさのむすめ・藤原ふじわら)?-? 平安中期歌人、[東の方]と称す?(大和物語)、
大納言源清蔭きよかげの妻、拾遺741、
清蔭[住吉の松ならねどもひさしくも君と寝ぬ夜のなりにけるかな](拾;恋740)
返歌[ひさしくも思ほえねども住吉の松やふたたびおひかはるらん](拾;恋741)
参考 → *清蔭*(きよかげ・源、歌人) １６４７
2793 **忠文**(ただふみ・藤原ふじわら、参議枝良3男)873-947*75* 母;息長息継女、藤原式家、廷臣/武官;右近少将、
馬・鷹の名手/926従四下摂津守/丹波守/大和守/937修理大夫/928正四下/939(天慶2)参議、
940(天慶3)平将門乱の右衛門督征夷大将軍;到着前に鎮圧/大納言実頼が嘉賞に反対;
恩賞なし、941(天慶4)藤原純友乱の征西大将軍;軍功無く鎮圧/民部卿、947(天暦元)没;
贈正三位中納言、通称;**宇治民部卿**、藤原慈望・源由道室の父、
☆大将軍で下向時に駿河清見が関にて夜に軍監清原慈藤の[漁舟の火]の詩に涙す;
江談抄・平家物語五・十訓抄・袋草紙などに入
☆没後藤原実頼の娘述子・長男敦敏が死没;忠文怨霊の祟りとの噂;[悪霊民部卿]と呼称、
慰霊のため宇治に末多武利神社創建
Q2676 **董史**(董文ただふみ・田内たうち/本姓;藤原)1800-47*48* 伊予松山味酒社神主の弟、儒;杉山熊台門、

大阪で篆刻・医術を修学/上京;国学・歌;香川景樹門、1838江戸で経学;宮原桐月門、
松山藩江戸邸学問所三省館で教導/1842帰郷;野間一方の立本舎を継承;子弟教育、
1831「田家日記」、「詩稿」著、妻:幸子(;歌人)、
[董史(;名)の字/通称/号]字;文熙ふみひろ、通称;衛門/求馬、号;愛南/烟雨/華陽道人、
妻　→　幸子(さちこ・田内/伴、白苧花、歌人)　Ｋ２０４３

F2680 **忠冬**(ただふゆ・松平まつだいら、忠隆男)1624-1702*79* 母;山岡景以女、家忠の孫、幕臣;1650西丸書院番、
1680町奉行/勘定奉行・側衆/97致仕、
1663「家忠日記増補追加」84「東武実録」、「豊臣通紀」著、
[忠冬(;名)の幼名/通称/法号]幼名;鶴松丸、通称;長八郎/権兵衛/与右衛門/隼人正、
法号;直心院

F2681 **陀々坊**(だだぼう)　?-　?　江戸俳人、橘隣の酔人(自称)、「豆鉄炮」編
多田法眼(ただほうげん)　→　*源賢*(げんけん、歌人、天台叡山僧)　Ｂ１８６６

F2682 **允正**(ただまさ/まさただ/すけまさ・惟宗/令宗これむね)?-1015　平安期明法故実家、

Q2678 **忠雅**(ただまさ・藤原ふじわら、忠宗2男)1124-1193*70* 母;三木(藤原)家保女、平安後期廷臣;1137左中将、
1141蔵人頭/42非参議/45参議/48権中納言/56中納言/59従二位権大納言、
1161正二位大納言/67内大臣、68従一位太政大臣/70致仕;散位/85出家(法名;理覚)、
歌人;1149右衛門督成家家歌合参加、
[我からや月に心のすみぬれば秋の夜なれど程なかりける](家成家歌合:二番3)

F2683 **忠昌**(ただまさ・島津しまづ)1463-　1508*46歳*　室町期武将、1478桂庵玄樹より尚書を講ぜらる

Q2679 **忠将**(ただまさ・島津しまづ、別名;政久、忠良男)1520-61戦死　母;島津重久女、武将/垂水島津家の祖、
1548本多薫親を攻略/その跡を継承;大隅清水領主、57蒲生氏攻略に戦功、
1561大隅一揆を征伐;肝付氏に対する大隅廻城攻めで戦死、「忠将公御記」著、
[忠将(;名)の幼名/通称/法号]幼名;菊寿丸、通称;又四郎/右馬頭、法号;心翁大安居士

U2676 **忠昌**(ただまさ・松平まつだいら/本姓;源、結城秀康2男)1598-1645　母;中川一茂女(岡山/清涼院)、
1607(慶長12)祖父徳川家康・叔父徳川秀忠に謁見;秀忠の側近くで養育される、
家康側室の英勝院の猶子;1607上総姉ヶ崎藩1万石/忠昌名、大坂夏陣に秀忠に随行;戦功、
伊予守/正四位下侍従、常陸下妻藩主/信濃松代藩主/1618(元和4)越後高田25万石の藩主、
1623(元和9)同母兄忠直の代りに越前松平家宗家として越前福井藩主;50万石、
1626正四位下参議、武を好む;槍術・剣術・柔術・弓術・砲術・軍学者を招聘、
刀鍛冶山城守国清を保護;菊紋を許可、江戸で没、
正室;浅野幸長女花姫/継室;広橋兼賢女道姫/側室;幾久(白石氏女)・高照院(浦上氏女)、
息子;昌勝/光通/長松/徳松/昌親、息女;万姫(松平綱隆正室)/
国姫(本多重昭室→飛鳥井雅直室)/千姫(高寿院、毛利綱広正室)/布里姫(土井利直継室)、
[忠昌(;名)の幼名/通称/法号]幼名;虎松/虎之助、法号;隆芳院
☆蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入の[松平忠昌]と同一?、
[旅人のさもこそ雪に悩むらめこもりゐてだに寒き夕べを](大江戸倭歌;冬1255)

F2684 **唯正**(ただまさ・ゆいせい・岸野)? -　?　河内壺井俳人、1667秀政「貝殻集」・元順「寛伍集」入、
「西鶴大矢数」入、狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入

D2639 **忠昌**(ただまさ・蕗ふき)　? -　?　摂津住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」入
[今朝最早とづ坂本のあつごほり山のひえたる夜風故ゆゑかも](古今夷曲集;四冬歌)
(掛詞:とづ;氷が閉づと地名戸津[延暦寺外港]/ひえ;冷えに比叡の山)

Y2647 **忠正**(ただまさ・内藤ないとう、)? - 1675　江戸の幕臣;二条城守衛、和学者、忠盛の父、
[忠正(;名)の通称]金左衛門/八郎左衛門

2760 **忠雅**(ただまさ・河村かわむら、)? -　?　江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]9首入、
[松のかぜ筧の雫鐘の声なれていく夜の夢の枕ぞ](麓の塵;雑588/山居)

F2685 **忠粛**(ただまさ・ただのり・野田のだ、浄有男)1648-1719*72* 摂津今津の名主の家の生、
歌人;葛岡くずおか・かどおか宣慶のぶよし門/1679竹内惟庸門、国学:下河辺長流・契沖門、
索引「万葉類句」編(;霊元院に献上)、「柏伝」編、「古今集類礎」「後撰集類礎」著、
「拾遺集類礎」「千載集類礎」「新古今集類礎」「続後撰類礎」「類礎」「夢想集」著、
「万葉集歌林類聚」編/「津国名所景物和歌集」「津国名所見渡和歌集」編/「野田忠粛集」著、

［忠粛（;名）の通称/号］通称;善兵衛/六次郎、号;白水郎/六［無］児楼むころう/武庫楼むころう、
屋号;松屋　、海北若冲の兄

T2673 **忠政**（ただまさ・大久保/土岐とき、初名;行林/通称;織部、土岐頼晴男）?-?　江前期幕臣、
大久保忠賀の養子:養父死罪;弟土岐頼恭のもとに蟄居、「土岐定政伝」著

Q2680 **忠雅**（ただまさ・松平まつだいら、清照男）1683-1746*64*　母;安西意水女、山形藩主;1692祖父忠弘の養嗣、
1700備後福山藩に転封/10伊勢桑名藩転封;洪水による財政窮乏;新田開発の奨励、
詩/俳諧を嗜む、侍従/左近少将/下総守、1702「福山十巻詩巻」著、
［忠雅（;名）の通称/法号］通称;斎宮/左膳、法号;大梁院

Q2681 **唯政**（ただまさ・馬場ばば、通称;弥五六）?-1743　土佐藩士;国産方勤務/1716-41頃勘定頭役2度、
鉱山開発に尽力;樫尾山製鉄・穴内川改修等、1739「鉄冶水利書」、「馬場氏書」著

Q2682 **弾政**（ただまさ・久野くの、号;神旁館）?-?　江中後期1772-1804頃伊勢の神道家、
1780「三国混雑辨惑図式」1803「神道俗解」著

Q2683 **忠尹**（ただまさ・中山なかやま/本姓;藤原、権大納言愛親なるちか男）1756-1809*54*　母;今城定種女、
廷臣;1779蔵人頭、1781参議、1785権中納言/90正二位/91-97権大納言、
妻;楢君（右大臣三条実顕女）、忠頼・園基茂・尹子の父
1773「中山忠尹賀茂祭使雑記」94「忠尹卿記」著外多、
［忠尹（;名）の法号］　俊巌照空、　忠頼の父

Q2684 **董正**（ただまさ・山内やまのうち）1789-1860*72歳*　幕臣;1843下総真岡代官;二宮尊徳を登用、
荒廃下領内の復興;産業振興・開墾植林を実施、58駿府に転任、1842「増補田園類説」補、
［董正（;名）の字/通称/号］字;治卿、通称;総左衛門/甚五左衛門、号;鴻谷

U2692 **忠雅**（ただまさ・牧野まきの、忠精4男）1799-1858*60*　母;青山忠高女、越後長岡藩の第10代藩主、
牧野家宗家11代、1808兄忠鎮没;牧野家嗣子、31（天保2）父隠居;家督継嗣;
従四位下/玄蕃頭/備前守/侍従、1834奏者番/36寺社奉行兼任/40（天保10）京都所司代、
1843（天保14）老中となり海防掛担当/57致仕;溜詰格、正室;大久保忠真女の逸姫、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
［さやかにも残れるみ名をしのぶかな高ねに匂ふ月をあふぎて］（大江戸倭歌;雑1905、
太田道灌三百五十回忌追悼に資始朝臣［すけもと・太田/1779-1867］の方にて歌を蒐集）、
［忠雅（;名）の通称］鉄蔵/銀蔵

V2668 **忠昌**（ただまさ・糸永いとなが、初名;幸夫）1803-80*78*　豊前宇佐神宮祠官、国学者、茂昌の父

F2686 **忠順**（ただまさ・村上むらかみ、初名;賢次、藩医忠幹ただもと男）1812-84*73*　三河碧海郡堤村の医者/国学者、
国学;秦滄浪・植松茂岳門、1849本居内遠門/歌;渡辺綱光・糟屋磯丸・石川依平門、
医学;加藤敬順門、刈谷藩主侍医、藩内で漢籍・国典・歌の講義・指導、妻;三千代;
深見登之野としの（歌人）・鈴木小鈴（歌人）・八千代（歌人）・忠明（勤王家）・忠浄（医者））の父、
「蓬廬歌談」編、1842「燕子洲叢書」編/44「言乃幸」著、1859・61「類題和歌玉藻集」編、
1862「詠史河藻歌集（文史歌集）」編/「三河の玉藻」「六花集」編/64「名所栞」著、
「類題三河歌集」共編（竹尾正久・寺部宣光・釈公阿・村上忠順・中山繁樹の5名で編纂）、
「千巻舎歌集」「類題菅藻集」「類題落葉集」「千代の古道集」「参河国名所考」外著多数、
［忠順（;名）の字/号］字;承卿しょうきょう、号;蓬廬/蓬廼舎よもぎのや/四方樹/千巻舎ちまきのや、

U2691 **忠誠**（ただまさ・諏訪すわ、忠恕の長男）1821-98*78*　母;烈（清昌院/松平定信女）/従五位下因幡守、
頼図・頼威の兄/1840（天保11）父の隠居;家督継嗣;信濃諏訪高島藩第9代藩主、
1860若年寄/62寺社奉行/64（元治元）老中;従四下、外国御用取扱兼務/侍従/従三位、
1864水戸天狗党の上京阻止のため松本藩と共に和田峠に迎撃するも突破される、
1865（慶応元）将軍家茂の長州征討出陣に強く反対;長岡藩主牧野忠恭と共に老中職罷免、
1868（慶応4）隠居;甥の忠礼が家督嗣、71東京移住;74芝東照宮祠官/78芝大神宮祠官、
1878忠礼没;家督を再嗣、91諏訪神社宮司兼任、98没;娘婿の忠元（溝口直溥14男）が家督嗣
正室:侃（貞鏡院、松平乗寛女）/継室:達（松平康任女）/継々室;雄（瓊芳院、朽木綱条女）
息女;直姫（諏訪忠礼正室）・鳥居成善室・晴子（諏訪忠元正室）、養子;忠礼・忠元、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
［さす炭は灰となりても佛の猶消えやらぬ宿のうづみ火］（大江戸倭歌;雑1898、
小笠原珉山の一めぐりの忌によみておくる）、

[忠誠(;名)の幼名/通称]幼名;鍒太郎、通称;因幡守

U2627 **忠正**(ただまさ・速水はやみ/本姓;藤原、通称;六五郎)?-? 江後期;廷臣?/歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[一声はなかなかつらしほととぎすきかぬよりはと思ひ返せど]、
(大江戸倭歌;夏423/現存百人一首64)

Q2685 **忠順**(ただまさ・小栗おぐり、忠高男)1827-68刑死*42* 幕臣;1855家督/使番/59目付/1860遣米使節随行、
帰国後外国奉行/陸軍奉行;陸軍の軍政改革参加/64勘定奉行;軍艦奉行;横須賀軍港の礎、
製鉄所開設、造船所開設計画、1868将軍慶喜に強硬な抗戦論を主唱;罷免/上野権田村隠棲、
1868閏4月官軍に捕縛;斬首、豊後守/上野介、1867-68「小栗上野介日記」著、
[忠順(;名)の通称/法号]通称;剛太郎/又一/**上野介**こうづけのすけ、法号;陽寿院

W2609 **忠督**(ただまさ・大久保おおくぼ、)1827-1887*61* 近江彦根藩士;直亮・直弼・直憲３代に出仕、
国学・歌人;井上文雄・青木千枝門、諸奉行/御側役/権少参事を歴任、
[忠督(;名)の通称/号]通称;才次郎/輿左衛門よざえもん/権内/鼎、 号;松軒

忠正(ただまさ・鳥居) → *忠春*(ただはる・鳥居、藩主/乱行) Ｑ２６５１
忠正(ただまさ・森) → *為泰*(ためひろ・森、国学者/歌) Ｈ２６３８
忠正(ただまさ・大久保) → *忠寛*(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁/幕臣)Ｕ２６３９
忠尹(ただまさ・藤原) → *忠君*(ただきみ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) Ｅ２６９９
忠昌(ただまさ・酒井) → *忠昌*(ただはる・酒井、随筆家) Ｑ２６５２
忠昌(ただまさ・石田) → *忠恒*(ただつね・石田いしだ、和漢学者) Ｔ２６０２
忠政(ただまさ・黒田) → *忠之*(ただゆき・黒田/松平、藩主/連歌) Ｒ２６１２
忠政(ただまさ・喜入) → *忠続*(ただつぐ・喜入きいれ、武将/家老/歌)Ｗ２６７１
忠政(ただまさ・宇多) → *末景*(すえかげ・宇多うだ、砲術家) Ｆ２３３７
忠誠(ただまさ・松室) → *其鶴*(きかく・松室まつむろ/小倉、国学) Ｖ１６２７

Q2686 **忠増**(ただます・新納にいろ、忠元男/本姓;島津)?-1604 薩摩の武将;島津氏家臣/左京亮、大隅地頭職、
龍造寺との島原合戦や朝鮮・関ヶ原役に参戦、歌、1560「忠増渡海日記」、「朝鮮渡海之記」著、
[忠増(;名)の幼名/通称/法号]幼名;次郎九郎、 通称;弥太右衛門、 法号;鉄翁盛関居士

Q2687 **忠賀**(ただます・多おおの、忠壽ただのぶ男)1841-96*56* 楽人;右近将曹/1851正六下、1870雅楽曲少伶人、
「大嘗会風俗新和歌」、「鎮魂歌」「参勤録」著

忠益(ただます・加藤) → *兄彦*(えひこ・加賀かが/加藤、藩士/神職)Ｕ１３０６
多田満仲(ただまんちゅう) → *満仲*(みつなか・源みなもと、武将/廷臣/歌) Ｅ４１１１
多他見(ただみ・五畳) → *五畳多他見*(ごじょうのただみ、狂歌) Ｆ１９６９

2632 **忠見**(忠実/忠視ただみ・壬生みぶ、忠岑男)?-960? 平安前期廷臣;御厨子所定額膳部/958摂津大目、
953村上菊合/956(天暦10)斎宮女御徽子女王催承香殿歌合に忠見一人で読む(忠見集)、
960天徳内裏歌合参;「恋すてふ」の歌が兼盛「忍ぶれど」に負け悶死?(沙石集)、
家集「忠見集」、三十六歌仙の1、雲葉集2首入、菟玖波1句入、
勅撰38首;後撰(1095)拾遺(14首45/104以下)金葉(Ⅲ142)新古(5首)続後撰(4首)以下、
[恋すてふわが名はまだき立ちにけり人知れずこそ思ひ初めしか]、
(拾遺621;天徳内裏歌合廿番左;袋草紙に右方兼盛の勝とする逸話入)

参考 → *兼盛王*(かねもりおう・平) １５３６
忠見(ただみ・半井) → *悟庵*(梧庵ごあん・半井なからい/平野、医/歌学)１９００
但見(ただみ・山崎) → *茂樹*(しげき・山崎やまざき/藤原、藩士/歌)Ｑ２１９３

2633 **忠通**(ただみち・藤原ふじわら、初名;威徳、忠実男)1097-1164*68* 母;源顕房女の師子、平安後期廷臣;
1115内大臣/21氏長者/22従一位/28太政大臣、鳥羽崇徳近衛後白河4代の摂政/関白、
異母弟頼長を愛する父忠実との不和で一時失脚/1156保元乱で勝利;氏長者の地位回復;
権勢を独占、1162出家、書家;法性寺流の始祖/筆に長ず、
正室;宗子(藤原宗通女/1090-1155従一位/聖子母)、
妻;信子(源国信くにざね女/従二位典侍/近衛基実母)・俊子(松殿基房母)、
妻;俊子(源顕俊女/育子母)、妻;加賀女(家女房/藤原仲光女/九条兼実・兼房・慈円母)、
妻;藤原基信女(恵信[伊豆僧正]母)、妻;五条(家女房/源盛経女/尊忠母)
基実・基房・九条兼実・兼房・慈円・覚忠・皇嘉門院聖子・二条中宮育子などの父、

「楚忽抄」「法性寺関白記」「法性寺殿御消息」「法性寺殿御手本(書)」「続本朝秀句」著、
「大嘗会御記」著、忠通家歌壇を形成;1110-26歌合主催13回、源俊頼・藤原基俊らを庇護、
「類聚歌合」に参画、「本朝無題詩」成立に関与、「法性寺関白集」(田多民治集)、
詩;本朝無題詩・中右記部類紙背漢詩集・和漢兼作集入、歌;後葉・続詞花・月詣・万代集入、
勅撰69首;金葉(15首29/46/77/101/106/153以下)詞(7首48/157/187/248/391/382/413)、
千載(7首47/204/275/619/796/981/982)新古(4首302/386/656/686)新勅(147)以下、
[わたの原漕ぎいでて見ればひさかたの雲ゐにまがふ沖つ白波](詞花集;382/後葉;272、
崇徳天皇のとき海上遠望を詠む)
[忠通(;名)の通称/法名]通称;法性寺殿ほっしょうじどの/法性寺入道前太政大臣、法名;円観、

Y2648 **忠通**(ただみち・内藤ないとう/本姓;平、通称;監物、忠清男)1650-1689*40* 江戸の幕臣、和学者/歌人、
1688浅井忠能ただのり[難波捨草]入、
[とかへりの花も待つらんわが君の代々をときはの松にちぎりて]、
(難波捨草;賀846/十返とかへりの花は松の花の雅称;百年に一度花が咲くとの伝説)

Z2647 **忠道**(ただみち・前野まえの、)1726-1765*40* 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・亀]入、
[忠道(;名)の通称/号]通称;小十郎、号;木通館

F2687 **忠道**(ただみち/-ひろ・酒井さかい、忠以ただざね男)1777-1837*61* 母;松平頼恭女、1790姫路藩主;父遺領襲封、
従四下雅楽頭/主計頭/備前頭、儒;関松窓門/詩人、国/歌:荷田蒼生子門、書/故実/茶、
「酒井忠道ただひろ侯文集」「拾草和歌集」「銭貨譚論」「姫路城隷郡二十四孝廉伝」著、
[忠道(;名)の幼名/寺/号]幼名;徳太郎、字;恕誨、号;白鷺、

Q2688 **度道**(ただみち・武内/竹内たけうち)1780-1840*61* 信州水内郡大倉村の関流和算家:藤田貞資門、
算学・測量術修得;帰郷後多数の門弟指導、1822「武内度道日記」27「関流幼少記」、
「算学致格率」「算法草紙」「善光寺額面評術」「暦数要法記」「武内度道暦術草稿」著、
[度道(:名)の通称] 善五郎/坦/平 度径ただみちの祖父

Q2689 **忠道**(ただみち・中山なかやま) ? - ? 江後期京の本草家;転泉車・選種法の研究、
1839刊「耕作大益伝」著

Q2690 **度径**(ただみち・武内/竹内たけうち、通称;倭三郎)?-? 江後期信州水内郡大倉村の関流和算家:家学、
門弟指導、1865「武内度径日次記」「奉掲医王殿算法一条」著、度道ただみち[1780-1840]の孫

U2670 **忠道**(ただみち・鈴木すずき) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[筑波ねの時雨れわたれる空見れば隅田川原がはらに迷ふ浮雲](大江戸倭歌;冬1070)

Q2691 **忠道**(ただみち・松本まつもと、通称;和助)?-? 江後期下総銚子の和算家;内田五観門、「銚子算草」著

忠道(ただみち・渥美/高山)→ *忠直*(ただなお・高山/渥美、幕臣/和算)Ｑ２６２４
忠道(ただみち・尾崎) → *政信*(まさのぶ・尾崎おざき、歌人) Ｏ４０２３
忠通(ただみち→ただゆき・水野)→ *忠通*(ただゆき・水野、幕臣/歌人) Ｆ２６９９

F2688 **忠光**(ただみつ/ただてる・柳原やなぎはら/初姓;日野、資明[柳原家祖]男/本姓藤原)1334-79*46* 南北期廷臣、
蔵人頭/1361参議/71春日大社神木入京事件で一時放氏/75権大納言/79従一位、
持明院統(後光厳天皇)執権・評定衆、歌人;自邸で頻繁に歌合主催、1356「詩歌御会記」、
1367「新玉津社歌合」/69後光厳天皇催[正安二年内裏和歌]参加、
1375「後円融天皇大嘗会主基方和歌」を詠、「忠光卿記」「改元記」著、
勅撰6首;新後拾(133/481/640/1541)新続古(112/814)、
宗光の弟、資衡すけひら・町資藤すけふじの父、法名;道寂、
[山桜散りていくかぞ踏みわくる跡だに深き花の白雪](新後拾;春133/百首歌;落花)

Y2651 **忠瑗**(ただみつ・中川なかがわ、追諡;閑翁)1704-57*54* 和泉堺の国学者/歌;中倉大雅(堺の歌人)門、
上京;武者小路実陰門;出仕、1757(宝暦7)病没

Q2692 **忠充**(ただみつ・多おおの、忠音ただおと男)1717-75*59* 江中期楽人、右近将監/雅楽助、1775正四下、
「神楽風俗倭舞大歌留」編、1761「親鸞上人五百年忌法事舞楽留」、「史籍抜書」著

Q2693 **忠盈**(ただみつ・高橋たかはし)1769- ? 1841存 羽前米沢の人、1841「佛神儒試験集」著

Q2694 **忠光**(ただみつ;通称・河本かわもと、名;重樹)?-? 天保1830-44頃長門厚狭の国学:足代弘訓ひろのり門、
1835「寛居ゆたい随筆」(寛居は弘訓号)、35「足代翁説随聞録」編、「神依板」「寛居翁講義筆記」編

P2676 **忠光**(ただみつ・岡田おかだ、通称;大炊)?-?　　江戸期江戸の兵法家;軍理・馬術、
「軍要馬術秘伝抄」「大勇目六抄」著

F2689 **忠光**(ただみつ・中山なかやま、変名;森俊斎/秀斎、大納言中山忠能ただやす男)1845-64暗殺*20* 母;愛子、
廷臣;兄の中山忠愛の家督嗣、国学者、勤王派、妻;松浦富子、863天誅組の盟主、
挙兵したが敗戦/長州に逃れるが刺客に斃れる、
姉は慶子よしこ(孝明天皇典侍/明治天皇の生母)、

Y2637 **董盈**(ただみつ・土井どい、)1845-1915*71*　　三河の国学者・歌人;大島為足ためたり門、
[董盈(;名)の初名/通称/号]初名;伯順、通称;艮四郎、号;青塘

忠光(ただみつ・安藤)　→　*千里*(ちさと・安藤あんどう、家老/国学)　Ｍ２８００
忠充(ただみつ・菊池きくち)　→　*桐江*(とうこう・菊池、儒者)　Ｄ３１７７

2634 **忠岑**(忠峯ただみね・壬生みぶ、安綱男)860?-920/965?　平安前期廷臣;六位左近番長/右衛門府生、
摂津権大目、藤原定国の随身(大和物語入)、905「古今和歌集」の撰者の1、忠見ただみの父、
家集「忠岑集」、是貞親王家歌合参/898亭子院女郎花合参加/907大井川行幸に和歌序献上、
「和歌躰十種」(偽作?)、勅撰83首;古今(36首11/157/163/183/194/214/235以下)後撰(10首)、
拾遺(12首:1冒頭歌/23/43/136以下)新古(3首)新勅撰(1首)続後撰(3首)続古今(3首)以下、
雲葉集7首入、袋草紙に宣旨での詠[白雲の]の歌についての逸話・批評入、
[有明のつれなく見えし別れより暁ばかり憂きものはなし](古今625)

T2698 **忠宗**(ただむね・藤原ふじわら、家忠の長男)1087-1133*47*　平安末鎌倉期廷臣;1106左少将/蔵人、
1121右中将、蔵人頭/1123中宮権亮/1130参議/従三位/31権中納言/32中宮権大夫;33没、
後葉集入集447の[ただむね]と同一?
[しめゆひしそのかみならば葵あふひ草よそのかざしを尋ねざらまし](後葉集;雑447、
九条前斎院より祭りのころ葵があるかと尋ねられたので遣わす歌)

F2690 **忠宗**(ただむね・惟宗これむね/家名;島津/本姓;源、惟宗久経or島津忠景男?)1251-1325*75* 薩摩国守護、
島津庄薩摩方総地頭、元寇乱以後九州で鎮西引付衆、1317日向高知尾庄地頭職、歌人、
勅撰2首:新後撰(1085/1412)、忠秀の父、
[浪越ゆる袖のみなとの浮き枕うきてぞひとりねはなかれける](新後撰;恋1085)、
[忠宗(;名)の通称]　五郎左衛門尉

Q2695 **忠宗**(ただむね・田布施たぶせ、通称;源助)?-?　　戦国期天文1532-55頃河内の砲術家;田布施流の祖、
南蛮で鉄砲術修得説or津田自由斎門人説?、「田布施一流炮術眞業録秘書」伝(:1667刊)

Q2696 **忠宗**(ただむね・伊達だて/本姓;藤原、政宗2男)1599-1658*60* 母;正室田村清顕女愛姫(陽徳院)、
仙台2代藩主;1636襲封、従四下陸奥守、刀剣鑑定に精通、
連歌:政宗の百韻に参加;1611何人百韻/16若菜連歌など、
詩歌;「仙台黄門君詩歌稿並大慈院君御詩歌」著、
正室;田輝政女の振姫(孝勝院/1607-59)、
鍋姫・光宗(1627-45)・田村宗良・宗規・綱宗(6男/3代藩主/1640-1711)の父、
[忠宗(;名)の幼名/通称/号]幼名;虎菊丸、通称;総次郎、号;義山、法号;大慈院

Q2697 **忠致**(ただむね・梅津うめづ、初名;忠潔、金忠男/本姓;藤原)1723-84*62* 秋田藩家老、武田流軍学者、
藩主佐竹義敦に出仕、1755「石立口訣」著、66「天英公書簡集」編、「甲陽陣取集」著、
小野寺道維の師、
[忠致(;名)の通称/号]通称;五郎三郎ごろさぶろう/藤馬/東馬とうま、号;柏葉/白葉、

V2691 **忠梁**(ただむね・江見えみ、大五郎男)1834-71*38*　備前岡山藩士;国事用掛、国学/歌人、勤王派、
近衛家侍医物部修逸により京の動静を聞く;牧野権六郎らと同志を糾合、
1862(文久2)国事周旋方として上京/藩主池田慶政の退隠に建議、
1863徳川斉昭男九郎麿(茂政)を迎え勤王を鮮明にする、維新後;政府顧問兼外交方頭取、
執政補/参政/岡山藩権大参事、
[忠梁(;名)の通称]　陽之進/鋭馬

忠宗(ただむね・藤原)　→　*頼隆*(よりたか・藤原ふじわら、廷臣/参議)　Ｉ４７８５
忠宗(ただむね・島津)　→　*道義*(どうぎ;法名、武士/歌人)　Ｃ３１５７
忠崇(ただむね・長谷川)　→　*忠崇*(ただたか・長谷川はせがわ、旗本/代官)Ｐ２６７３
忠統(ただむね・本多)　→　*猗蘭*(いらん、本多忠統、藩主/詩歌人)　Ｂ１１９３

忠村(ただむら・吉田)　→　*忠村*(ちゅうそん・吉田よしだ、俳人)　Ｌ２８２９

Q2698 **忠以**(ただもち・多おおの、忠同ただとも男)1808-? 1852存 楽人;右近将監/1852従四sita/阿波守、
「胡飲酒舞目安案譜」著

I2651 **忠幹**(忠基ただもと・橘たちばな、長盛男)?-955殺害 平安前期廷臣;950頃従五下/駿河守、直幹の弟、
盗賊に殺害された/伊勢物語入、歌人;拾遺470/続古今885、
[忘るなよほどは雲井に成りぬとも空行く月の廻りあふまで](拾遺;雑470、
遠方[駿河赴任か]に行くとき女に贈る歌/空遠くはなれても忘れるなよ)

2775 **忠幹**(ただもと・藤原ふじわら;北家長良流、大納言国経[828-908]男)?-? 母;藤原末並女、
平安期廷臣;正四上、山城守・大和守、中宮亮/勘解由長官、950(天暦4)頃河内権守、
滋幹しげもと(在原棟梁女)は叔父or兄、妻;讃岐守藤原子高女、中宮亮の時摂政兼家邸に通う、
季明・文信のりあきら(鎮守府将軍)・女3人(源宣方妻・藤原兼家の妻・源法職妻)の父、
歌人;雲葉集入、
[都思ふわが心しれ夜半の月ほどは千里の山路こゆとも](雲葉集;羈旅967)

F2691 **忠基**(ただもと・藤原ふじわら、高実男)1230-1263*34* 母;藤原経通女、廷臣;中将、1262参議/従二位、
歌;1256百首歌合参/中院詠草2首入、勅撰4首;続後撰(974)続拾(1103/1309)新続古1140、
[来ぬよひもつらからぬかは月影をあかつきばかりなに恨みけん](続後撰;恋974、
百首歌/寄月恋)

F2692 **忠基**(ただもと・九条くじょう、初名;教平、経教男/本姓;藤原)1345-1397*43* 廷臣;1357従三位、権大納言、
1370右大臣/75関白左大臣/76従一位、「後円融天皇御即位記」「貞治三年除目記」、
「後己心院殿御記」、歌;1367新玉津歌合/永和百首参加、
勅撰5首;新拾遺604/836・新後拾135/216・新続古365、
[狩人の入野の草の霜がれにつかれの鳥やかくれかぬらむ](新拾;冬604/鷹狩)
[忠基(;名)の号]　後己心院のちのこしんいん

F2693 **忠元**(ただもと・新納にいろ、祐久男/本姓;島津)1526or31-1610or13 母;新納久友女、島津氏家臣、
九州各地に転戦/1569薩摩大口の地頭/84島原合戦で竜造寺隆信に勝利、島津が秀吉に敗北、
1587剃髪/94上京、刑部大輔/武蔵守、忠増ただますの父、歌人/連歌、歌:松操集入、独吟百韻、
「上洛日記」、「二才咄格式定目」(;文禄慶長の役頃国元の子弟への訓戒)、
[あぢきなやもろこしまでもおくれじと思ひしことも昔なりけり]、
[忠元(;名)の幼名/号]幼名;安万丸/次郎四郎、号;為舟、拙斎(;出家号)、法号;耆翁良英庵主

Q2699 **忠幹**(ただもと・水野みずの、忠周男)1699-1723早世*25* 母;前田利治女、信州松本藩主;
1718父の遺領襲封、凶作の救恤、1722「信府統記」の編纂命令、
歌;中院通躬門、1716「花有歓色詩歌」著

R2600 **忠職**(ただもと・多おおの、多忠長男/多忠豊ただもりの養嗣)1751-1815*65* 楽人;上野介、
左近将監/左馬権助、1782-1813「多忠職日記」1812「東遊御再興記録」、
1813「石清水臨時祭之記」、「続吟声抄」外著多数

Z2689 **忠幹**(ただもと・村上むらかみ、忠直[1750-1826]男)1785-1853*69* 三河碧海郡堤村の医者;父門、
刈谷藩御典医、歌;父門、忠順(1812-84)の父、忠明の祖父、
[忠幹(;名)の字/通称/号]字;礼卿、通称;玄意/譲敬、 号;鶴亭/松鶴亭/碧海/杏林堂三光

R2601 **忠民**(ただもと・本多ほんだ/本姓;藤原、高松藩主松平頼儀男)1817-83*67* 岡崎藩主本多忠考の養嗣、
忠考の長男忠胤が病弱のため廃嫡;三河岡崎藩主;1835襲封、
三河加茂一揆を鎮圧/奏者番・寺社奉行/1857京都所司代、
1860・64老中;幕政の中心で活動、「所司代日記」著、
[忠民(;名)の字/通称/号]字;子駿、 通称;楷之助かいのすけ、 号;南岡/竜城主人、法号;豊徳院

U2641 **忠幹**(ただもと・水野みずの、忠央ただなか男)1838-1902*65歳* 紀伊新宮藩主;紀州藩附家老の家、
1852(嘉永5)諸大夫;紀州藩政に父と参画、桜田門外変後父失脚;隠居;1860(万延元)家督嗣、
新宮藩10代藩主(正式には紀州藩附家老)、従五下/大炊頭おおいのかみ、紀州藩主徳川茂承を補佐、
策謀家の父と異り謹厳実直・度量広く人望厚い、1866第二次長州征伐に幕府軍の先鋒;
安藝大野町まで進軍;[鬼水野]と畏怖、1868鳥羽伏見戦に幕府敗残兵を紀州藩邸に匿う、
のち嫌疑;上洛し弁明、維新後新宮藩は3万5千石の大名と認定、のち新宮藩知事、
正室:水野忠邦の娘の八重/継室;水野忠精養女の釭/継々室;三宅康直の四女の鈔子、

鎌倉の自邸に没、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[めづらしな日も暮れがたの秋風にさそはれわたる初雁の声](大江戸倭歌;秋920/初雁)、
[忠幹(;名)の通称]通称;真竜麿／藤四郎/大炊頭おおいのかみ、綽名;鬼水野、法号;真篤院
忠元(ただもと・島津) → *光久*(みつひさ・島津しまづ/松平、藩主) Ｅ４１５７
直幹(ただもと・橘) → *直幹*(なおもと・橘、平安期学者/詩歌) Ｃ３２７０

2635 **忠盛**(ただもり・平たいら、正盛男)1096-1153*58* 平安後期武将、白河・鳥羽・崇徳3上皇に出仕、
内蔵頭・右京大夫・皇后宮亮を歴任/伯耆・播磨・備前の国司/1129山陽南海の海賊平定、
正四位上/刑部卿、日宋貿易推進、平家全盛の基礎を築く;清盛・経盛・忠度らの父、
歌人;家集「忠盛集」、久安百首入、後葉集・続詞花集・言葉集・月詣集等に入集、
勅撰17首;金葉Ⅱ(216/238/571/621)[金Ⅲ212/561/613(金解21)]、詞花(275/297)、
千(732)新古(1552)続後撰(844)玉葉(1217/24102768)続後拾(171)風(219)新千(255)、
[有明の月も明石の浦風に波ばかりこそよると見えしか](金葉;秋216/夜と寄るを掛る)

F2694 **忠守**(ただもり・丹波たんば、長有or伯父忠茂男)?-1344(*70余歳*) 廷臣;医者/先祖は後漢霊帝の子孫;
渡来の高貴王の男[志拏直]が丹波で生誕;代々朝廷の医薬を司る、
正二位;典薬頭/施薬院使、宮内卿/左京大夫/院・内昇殿を許さる、徒然草103段;謎解話、
二条派歌人:1318二条家歌合/23亀山殿七百首参加、
1330北野宝前和歌参加、続現葉・松花・臨永・藤葉・新三井集に入集、
勅撰11首;玉葉(2053)続千載(496/826/830/1407;830は忠盛名)続後拾(680/1091)以下、
源氏物語に精通、「増鏡」著者説あり?
[渡べき河瀬や近くなりぬらん霧のあなたに千鳥鳴くなり](玉葉;雑2053)、
[忠守(;名)の法名/通称]法名;寂阿、出家後通称;宮内卿入道

Y2649 **忠盛**(ただもり・内藤ないとう/本姓;藤原、忠正4男)1669-1724*56* 江戸の幕臣/国学/歌;友益春之門
[忠盛(;名)の通称/号]通称;甚兵衛/小左衛門、号;松栄軒/藤之/小隠

R2602 **忠豊**(ただもり・多おおの、忠敬男)1710-87*78* 母;阿倍季逸女、江中期楽人;上野介/1787正四上、
歌人、澄月と親交、1762-82「多忠豊おおのただもり日記」、「御神楽留」「大嘗会参勤交名記」著

R2603 **董守**(ただもり・川島かわしま、通称;栄治郎)?-? 江後期京の歌人;富樫広蔭門、
「古今和歌集略標春之上」著

R2604 **忠守**(ただもり・角田つのだ、信武男)1810-94*85* 信州佐久郡土呂村の神職;父門/国・漢・算学;父門、
江戸で国学;平田銕胤門;篤胤没後門人/徳川斉昭・武田耕雲斎と交流、忠行・信道のぶゆきの父、
信州岩村田藩校教授、近津神社神主・若宮八幡社神主、権中講義、暦学を研究、「眞暦」著、
[忠守(;名)の字/通称]字;信常、通称;但馬
忠盛(ただもり・丹波、続千830)→ *忠守*(ただもり・丹波、廷臣;医者/歌)Ｆ２６９４

R2605 **忠泰**(ただやす・大島おおしま/島津、高城重城男)?-? 1597存 幼時に出家;真言僧/京住、
外祖父の島津忠明・忠次父子の戦死により還俗し継嗣/1558-70頃主命で大島に改姓、
馬越・山野の地頭職/島津義弘の朝鮮渡海に従軍、歌を嗜む、
「大島出羽守忠泰日記及書翰」「古今戦」「忠泰自筆古今戦書抜」著、
[忠泰(;名)の通称/法号]通称;久左衛門/出羽守、法号;空観蓮艸長寿寺殿

W2610 **忠泰**(ただやす・大久保おおくぼ、)1672-1714*6943* 江戸の幕臣;御書院番、国学者、
[忠泰(;名)の通称/号]通称;勝之助/平左衛門、号;忠芳

R2606 **格安**(ただやす・山本やまもと、俳人荷兮かけい男?)?-? 江中期宝暦1751-64頃名古屋の国学者、
国学;天野信景さだかげ門、能書家/歌人、天文/和算に精通、
1731「星座図稿」37「礼物数」41「遺塵算法」43「和漢数学名義集」45「算書要覧」著、
1746「鶏肋算法」47「怪異紀談」49「尾張方言」51「燕石録」、「南柯夢談」著、
「寛斎漫録」「斉東野談」「燈前夜話」/家集「和歌水莚集」外著多数、
[格安(;名)の通称/号]通称;伊兵衛/武平、号;寛斎

R2607 **忠裕**(ただやす・青山あおやま、忠高男)1768-1836*69* 丹波篠山藩主;1785兄忠講の嗣、従五下/下野守、
文武奨励;藩校振徳堂の拡張・学規制定、大坂城代/京所司代/1804老中、35致仕、
1790「青山家系譜」、「青山下野在坂中之留」著、
[忠裕(;名)の通称/号]通称;久之助、号;雲岫斎

E2654 **忠保**(ただやす・岡田おかだ)1770-1843*74*　　信州木曾藪原宿の年寄役、
桂園派歌人;香川景樹・景柄門、
[忠保(;名)の通称/号]通称;五郎治、号;華陽/優游楼/鶴斎、屋号;近江屋
R2608 **忠養**(ただやす・岡田おかだ、通称;利喜次郎)?-?　　幕末期幕臣;1855下田奉行、ハリスと応接、
日露和親条約批准交換に尽力/小普請奉行・製鉄奉行並、備後守/安房守、「外交秘録」著
R2609 **忠能**(ただやす/ただよし・中山なかやま/本姓;藤原、権大納言忠頼男)1809-88*80* 母;正親町三条実同女綱子、
廷臣;右近衛権中将/蔵人頭/1840参議/44権中納言/47権大納言/48正二位/准大臣従一位、
妻;松浦愛子(平戸藩主 松浦清女)、忠愛・三位局慶子・正親町公董・忠光・栄子・康子の父、
1852(嘉永5)孝明天皇典侍の息女**慶子**よしこが祐宮さちのみや(明治天皇)を出産、攘夷論を主張、
幕府の対米策を批判、八十八卿の先頭に立ち朝議の変更を迫る、
公武合体派;皇女和宮降嫁に尽力、1861和宮の下向に随行;尊攘派の激怒で63辞職失脚、
さらに息子**忠光**が尊攘派を率いて天誅組の変を起し長州で暗殺される、
1864長州藩挙兵を支持;禁門の変の失敗で孝明天皇の怒りを買い処罰、66天皇没で赦免、
岩倉具視らと王政復古策、1867倒幕密勅を薩長に下す、王政復古大号令実現;
小御所会議の司会、曾孫の嘉仁親王(大正天皇)の養育を担当、没後;大勲位菊花大綬章、
1845-52「忠能卿記」、「中山忠能手記」「中山忠能尺牘」著
[忠能(;名)の字]字;子固　妻;園基茂の養女愛子、明治天皇の外祖父
X2625 **忠泰**(ただやす・佐藤さとう、)1809-1868*60*　　尾張名古屋藩士;国学者/藩校明倫堂総裁、
国学;植松茂岳門、
[忠泰(;名)の字/通称]字;士岳/芝岳、通称;分之助/弥平次
R2610 **忠安**(ただやす・吉川きっかわ/よしかわ、忠行男)1824-84*61* 出羽秋田久保田藩士/兵法:境目奉行、
古学方用係、砲術所頭取;藩の軍事を統括/西洋砲術家、
明徳館和学方教授/1863勤王派雷風義塾の講師、1866砲術館頭取、
1868藩主に建白書提出;藩を討庄参戦に導く/維新後疑獄事件に連座、
1867「開花策論」、「幸能舎行安集」「後之幸能舎集」著
[忠安(;名)の通称/号]通称;類助、　号;後之幸能屋のちのさちのや
U2656 **忠保**(忠休ただやす・大久保おおくぼ、忠善男)1830-86*57* 幕臣/維新後;諸陵課、江戸の国学者;
平田篤胤門、江戸の俳人:忠善[初世漣々]門:2世漣々、1859(安政6)「漣々小祥忌」編、
「鈴屋翁霊祭歌集」共著(7人;猿渡容盛・根本真苗らと)
[忠保(忠休;名)の通称/号]通称;伊三郎/富三郎、
号;恪堂かくどう/花墻はなかき漣々れんれん/2世漣々/芙蓉庵富水(初世)/畳山居/千茅老人
Z2677 **忠養**(ただやす・水野みずの、)1831-1897*67*　　伊予松山藩士、国学者
忠休(ただやす・大久保)　→　*狭南*(きょうなん・大久保、幕臣/儒者)　Ｏ１６３９
忠保(ただやす・高桑)　→　*闌更*(らんこう・高桑たかくわ、商家/俳人)　４８０３
忠保(ただやす・大久保)　→　*漣々*(2世れんれん・大久保おおくぼ、俳人)　Ｂ５１３６
忠康(ただやす・勧修寺/坊城)→*俊将*(としだ・坊城/藤原/旦、廷臣/茶)Ｍ３１７１
忠廉(ただやす・藤江)　→　*熊陽*((ゆうよう・藤江ふじえ、藩儒/地誌)　Ｄ４６９９
多太夫(ただゆう・加藤)　→　*正従*(まさより・加藤かとう、正識男)　Ｉ４０８４
F2696 **忠行**(ただゆき・藤原ふじわら、有貞男/母;紀名虎女)?-906 平安前期廷臣;890従5下/905刑部大輔、
906若狭守、紀友則と親交、勅撰2首;古今680/後撰432、
[君といへば見まれ見ずまれ富士の嶺ねの珍しげなく燃ゆる我が恋](古今;恋680、
あなたのこととなるともう他人が見ようが見まいが富士のようにいつも燃えている、
恋と火を掛る)
R2611 **忠行**(ただゆき・藤原ふじわら、重季男)1166-1231*66*　鎌倉前期廷臣;1192右近衛権少将、
1210(承元4)従三位/非参議、15兵部卿、16(建保4)正三位、
1219(承久元)兵部卿辞任;息経季が刑部大輔、20恐懼(謹慎);度々行幸に不参加による、
1226(嘉禄2)従二位/1231(寛喜3)中風により出家;半年後に没、
歌人;1200石清水若宮歌合(源通親判)参加、雲葉集入、
[見てもなほあかぬ心によし野山花より雲をたづねつるかな](若宮歌合;十六番左)
F2697 **忠行**(ただゆき・賀茂かも、保憲[917-977]の父)?-?　平安前期陰陽家、「白衣観音法」を修す

F2698 **忠幸**(ただゆき・大江おおえ)　？－　？　廷臣;五位、歌:1364成立「新拾遺集」入(1119)、
[待つ人は今夜もいさや入日さすとよはた雲のゆふぐれの空](新拾遺;十三恋1119)

R2612 **忠之**(ただゆき・黒田くろだ/賜姓;松平、藩主黒田長政男)1602-5453 母;保科正直女大涼院、
福岡藩主;1623襲封/右衛門佐・侍従・筑前守、32家老栗山大膳による黒田騒動;
一時所領召上/赦免、1637島原乱に軍功/41長崎守衛、
連歌:1630「寛永七年千句」42-43「寛永十九年廿年万句」、
1635-43百韻20余度;35寛永十二年九月永遍忠之等夕何百韻・43忠之信岩等何船百韻など、
[忠之(;名)の幼名/初名/法号]幼名;万徳、初名;忠長/忠政、法号;高樹院、
継室;坪坂氏の女 → *忠之継室*(ただゆきのけいしつ・黒田、2代藩主忠之の母/連歌)Ｒ２６２１

R2613 **忠之**(ただゆき・水野みずの、岡崎藩主忠春4男)1669-173163　旗本水野忠近の養子、
のち兄忠盈の養嗣子;1699岡崎藩主/奏者番・若年寄・京所司代/1717老中/22勝手掛老中;
享保改革を推進、幕府財政は好転/社会的不況・米価下落・国元の藩財政悪化;
1730老中辞任/致仕薙髪、「諸陵図会」「陵集」著、
[忠之(;名)の通称/号]通称;斎宮/主水、号;祥岳、法号;高隆院/諡号;高隆公

N2622 **忠運**(ただゆき・石井いしい、庄左衛門[十左衛門]男)1717-？ 1787存　秋田藩士;1722大番入;父を継嗣、
1763本方奉行/江戸・大阪詰/1785致仕、1745-87「石井忠運日記」著、良休の孫、忠敬の父
[忠運(;名)の幼名/通称]幼名;仁吉郎、通称;庄左衛門(父を継承)

F2699 **忠通**(ただゆき・水野みずの)1749－ 182375　幕臣;大坂東町奉行/日光奉行、歌;加藤景範門、
1814堀田正敦主催「詠源氏物語和歌」参加、
[難波なるゑにしも深きみをつくしるべたがはでみるよしもがな](源氏和歌;澪標)、
[忠通(;名)の通称/号]通称;熊三郎/要人/若狭守/主殿頭とのものかみ、号;桂満

R2614 **忠行**(ただゆき・多おおの、初名;忠定、忠篤ただあつ男)1760-180950　楽人;佐渡守/1806従四上、江戸住、
「三鼓譜」編、忠彬ただよしの父

R2615 **忠進**(ただゆき・酒井さかい、敦賀藩主酒井忠香男)1770-182859　母;奥平昌鹿女、1785酒井忠寛の養嗣、
1896家督;若狭小浜藩主、寺社奉行/京都所司代/老中、「酒井忠進ただゆき家訓」著、
「若州小浜侯御意書」「若州小浜侯御誌評」、「寛隆院御年譜」著、
[忠進(;名)の通称/法号]通称;八之助/与七郎/八郎、法号;寛隆院

R2616 **忠行**(ただゆき・近藤こんどう、忠篤男)1785-186278　伊予周布郡新屋敷の庄屋;家督、小松藩御用達、
二字帯刀を許可/1827勘定役/徒士格;藩財政で功績、歌:香川景樹門/桂園派歌人、
1834「波路の日並」著、近藤篤山・松田直兄と交流、
[忠行(;名)の通称/法号]通称;保介やすすけ、法号;宜体院

G2600 **忠行**(ただゆき・吉川きっかわ/よしかわ、忠孝男)1799-186466　出羽秋田久保田藩士;1806(8歳)父没、
1808(10歳)藩主の近侍、20江戸藩邸詰/22明徳館和学方用係:教授/兵具奉行/郡・町奉行、
御側用人、国学/歌学・天文/地理/経史を修得;家塾惟神館を開き子弟教育、
1841平田篤胤門、信玄流砲術修得、蘭書研究;理数学修得/惟神館内に砲術所を設置;
大少砲を鋳造;吉川流兵法を案出、藩命で海防担当;地図を作成し献上;土崎砲台場を築造、
忠安ただやすの父、秋田三偉人(佐藤信淵・平田篤胤と)の1、「作例類語」「幸能舎さちのや集」、
「幸能舎行安集」「雅言集」「雅文類覧」「筆のすさみ」「学砲用語」「火攻火勢」「軍事当我録」著、
[忠行(;名)の通称/号]通称;久治、号;幸屋/幸能舎さちのや、　法号;覚了院

R2617 **忠之**(ただゆき・猪瀬いのせ)　？－　？　江戸後期兵法家;越後流兵法佐久間系の江戸伝;市景当門、
1827「非左祖戎」、「童能竹馬」著、山脇正準まさのりの師

R2618 **忠至**(ただゆき・戸田とだ/木村/間瀬、戸田忠舜男)1809-8375 1818旗本木村内蔵允の養子/29離縁、
1842宇都宮藩士間瀬家継承/44宇都宮藩の家老;藩主戸田忠恕・忠友2代の藩政を掌握、
1862戸田に復姓;山陵奉行/66宇都宮藩より分知;高徳藩成立;藩主となる、
「戸田大和守忠至建白書」「山陵修覆御用書翰」「御陵長守戸名前取調」著、
[忠至(;名)の通称]方之丞/嘉十郎/和三郎

R2619 **忠征**(ただゆき・尾崎おざき、忠夤ちゅういん男)1810-9081　尾張藩士;藩命で京の近衛家出仕/1848帰藩、
藩主徳川慶勝に重用;京留守居役/国事奔走、1858慶勝譴責で蟄居、復職;王政復古密議参加、
二条城請取の副使、「旅雁秘録」、1866-67「尾崎忠征日記」著、
[忠征(;名)の通称]　大之助/八右衛門/八衛

W2622 **忠之**(ただゆき・大森おおもり、通称;勘解由)?-?　　江後期;備前都宇郡の住吉神社祠官、
国学・歌;藤井高尚たかなお(1764-1840)門

U2652 **忠幸**(ただゆき・大岡おおおか/本姓;藤原、通称;卯之助)?-?　　江後期幕臣/歌人、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[山の端は霞みながらに風さえて麓の野辺に沫雪ぞ降る](大江戸倭歌;春110/春雪)

U2624 **忠行**(ただゆき・酒井さかい) ? -　　?　　江後期幕臣;隠岐守、1859外国奉行兼神奈川奉行、
横浜開港建設に尽力/勘定奉行/大目付、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[散るもまた雪とは人のめづれども花にして吹け春の山風](大江戸倭歌;春298/落花)、
[磯枕寝覚めて聞けば海ごしに夜もふか川の鐘ほのかなり](同;雑1939、
内海に異国の船初めてきたりけるころ浜の御園を守りける夜)

W2617 **唯雪**(ただゆき・大津おおつ、村田清風2男)1825-87*63*　長門萩藩士;物頭役/1862(文久2)京都留守居役、
1865(慶応元)諸隊総会計掛/干城隊頭兼任/代官/奉行歴任、1869京都公用人、
国学・歌;近藤芳樹門、
[唯雪(;名)の初名/通称/号]初名;忠之ただゆき、通称;次郎三郎/四郎右衛門、号;酒仏/鱸庵

G2601 **忠行**(ただゆき・角田つのだ、忠守男)1834-1918*85*　信州佐久郡土呂村の神道家;父門、
1855信州岩村田藩を脱藩/江戸で儒・古註学;藤田東湖門/国学;平田鉄胤門、歌人、
1863足利像梟首事件首謀者として幕吏に追及;変名し伊那潜伏/沢為量に出仕、尊王活動、
維新後熱田神宮大宮司、信道の兄、
「伊吹舎歌集」/1863「木首事件」編/64「宝訓文彙」65「神代物語百首」著、
[忠行(;名)の通称/号/変名]通称;由三郎、号;伊吹舎いぶきのや、　変名:米川信濃

R2620 **忠恕**(ただゆき・戸田とだ、藩主忠温男)1847-68早世*22*　宇都宮藩主;1856兄忠明の遺領襲封/越前守、
家老間瀬和三郎(戸田忠至ただゆき)の建言を入れ天皇陵を修復、
水戸天狗党へ対応を非難され隠居、「山陵修補ノ件抜書」「戸田越前守忠恕上書并書簡」著、
[忠恕(;名)の幼名/号]幼名;綏之助、号;葵城、法号;霊光院

忠之(ただゆき・立花)　→　*忠茂*(ただしげ・立花たちばな、藩主/歌人)　Ｆ２６１２
忠之(ただゆき・布施)　→　*守之*(もりゆき・布施ふせ、藩士/兵法家)　Ｇ４４７３
忠如(ただゆき・本多)　→　*壺山*(こざん・本多、藩主/詩人)　Ｇ１９６０
忠恕(ただゆき・渡部)　→　*敬斎*(渓斎けいさい・渡部、神職/俳人)　Ｆ１８６７
忠行(ただゆき・宝田)　→　*蘭陵*(らんりょう・宝田たからだ、藩儒/詩人)　Ｄ４８２６
忠行(ただゆき・関せき)　→　*兎毛*(とも・関せき、藩士/狂歌/詩)　Ｐ３１０３
忠行(ただゆき→ただつら・石井)→　*忠行*(ただつら・石井いしい、藩士/記録)　Ｃ２６３５
忠幸(ただゆき・藤原)　→　*慈寛*(じかん;法諱、法師/歌人)　Ｂ２１４２

R2621 **忠之継室**(ただゆきのけいしつ・黒田くろだ、坪坂十衛門女)?-?　福岡2代藩主黒田忠之[1602-54]の継室、
1628;3代藩主光之を出産/34;2代東蓮寺藩主之勝ゆきかつ(次男)を出産、一時夫に忌避された、
1673「寛文十三年二月廿一日光之信祐等百韻」に参加

R2622 **忠世**(ただよ・内藤ないとう、内藤忠貴の養子)1782-1843*62*　信州高遠藩士;1789養父に従い江戸へ、
1793家督/年寄役/1820家老/35致仕剃髪、武術/俳諧/絵画を嗜む、「七人衆攷」編/外著多数、
[忠世(;名)の通称/号]通称;庄左衛門/蔵人、号;福同/鸞雛らんよう/道佚/蔵六亭

忠世(ただよ・奈古屋)　→　*彰*(あきら・奈古屋なごや、藩士/歌人)　Ｉ１００６

G2602 **忠良**(ただよし・藤原ふじわら/近衛、基実男)1164-1225*62*　母;藤原顕輔女、廷臣;1187正二位権中納言、
1202大納言/04致仕/21出家、歌人:後鳥羽院歌壇で活動;1200俊成判当座歌合参加、
1200院初度百首参加、01人麿影供歌合/老若五十首歌合参加/1201「千五百番歌合」判者、
「釈阿九十賀屏風歌」著、万代集・秋風集・雲葉集(7首)・閑月集・拾遺風体集などに入集、
勅撰69首;千載(834/884/902/922/1111)新古(234/241/269/1128/1477)新勅(6首)以下、
[何とかや忍ぶにはあらでふるさとの軒端に茂る草の名ぞ憂き](千載;恋834、
一度は契ったの女に忘れられたつらさを詠んで贈る/軒端に茂る忘れ草)
[忠良(;名)の通称]　粟田口/鳴滝大納言/前大納言、粟田口基良・衣笠家良の父

G2603 **忠能**(ただよし・星野ほしの、秀茂男/本姓;藤原)?-?　鎌倉後期尾張熱田大宮司の一族;従五下、
三河守/刑部少輔、幕府の推挙で昇殿、歌/勅撰2首;1303成立「新後撰」1474・続千載1769
[年月のへだつるままにこしかたの忘られはせで猶ぞ恋しき](新後撰集;十九1474)

G2604 **直義**(ただよし・足利あしかが、貞氏男/本姓;源)1306-5247 母;上杉頼重女清子、尊氏の同母の弟、
1333兄と建武新政に参画/36兄を補佐し室町幕府を開く/44従三位左兵衛督;贈従二位、
幕府の実権を握る、1349師直により失脚/兄と不和;出家;夢窓の戒師/52鎌倉で没;毒殺か、
歌人;1336尾道浄土寺奉納観音33首和歌/36住吉社法楽歌/44金剛三昧院奉納和歌発起;序、
1346貞和百首参、夢窓と問答「夢中問答集」、46-49自邸和漢会主催、
1345刊[藤葉集]3首入(左兵衛督直義名)、50為世十三回忌和歌参加/連歌;菟句波9句入、
勅撰26首;風雅(10首162/319/676/853/978/1316/1361/1799/1819/1839)新千載(5首)以下、
[花見にと春はむれつつ玉ぼこの道行く人のおほくもあるかな](風雅;春162)、
[虫のねも草木も山はかれそめて都の月に秋ぞ久しき](1336住吉社法楽和歌/左馬頭名)、
[直義(;名)の別名/通称/号]別名;高国(初名)/忠義/忠国、
通称;三条殿/錦小路殿/高倉殿/下御所/大休寺殿、号;慧源/**恵源**、法号大休寺慧源古山

G2605 **忠良**(ただよし・島津しまづ、伊作いざく善久男)1492-156877 戦国期の武将、母;新納にいろ是久女;
母の再嫁に伴い相州家島津運久の家督継嗣/伊作・相州島津の領地(薩摩半島中部)を有す、
1526息貴久たかひさが本家勝久の嗣となり出家、家督争議で実久・勝久を排除し貴久を支援、
薩摩大隅日向を平定し貴久と共に島津中興の祖となる、琉球貿易による経済の充実、
士風教化のため「いろは歌」を作る、「伊呂波歌並単騎要秘」、「日新菩薩記」「日新公記」著、
[忠良(;名)の幼名/通称/号]幼名;菊三郎、通称;三郎左衛門尉、出家号;日新斎、
法号;梅岳寺常潤日新　、貴久・忠将ただまさの父

R2623 **忠義**(ただよし・山内やまのうち/賜姓;松平、康豊男/本姓;藤原)1592-166473 土佐藩主;伯父一豊の養嗣、
1605襲封;財政改革;野中兼山を登用、殖産興業;新田開発/土木事業を推進、
島原乱参戦、1656致仕、「忠義公日記」著、
[忠義の幼名/通称/法号]幼名;国松、通称;伊右衛門、法号;竹厳院

R2624 **忠良**(ただよし・深瀬ふかせ、通称;次郎兵衛)?-?　江前期長門萩藩士;毛利氏世臣の宍戸家に出仕、
主家の軍功を編述して藩主に献上、1648「深瀬次部兵衛覚書」著

R2625 **忠栄**(ただよし・大久保おおくぼ、忠景男)1640-8950 母;鈴木重次女、幕臣;1648家督相続;小普請/大番、
詩文に堪能、「藤忠栄詩」著、
[忠栄(;名)の通称/法号]通称;甚左衛門/甚五左衛門/長三郎、法号;日法

R2626 **忠宴**(ただよし・梅津うめづ、忠国男/本姓;藤原)1643-9553 出羽久保田(秋田)藩士、兵学;今村不僧門、
儒;佃養軒門、1665家老/94国表財用担;藩財政尽力、歌人、京建仁寺堅長老に参禅、
「関原軍記」「五戦図解」「軍法巻註解及附録」「軍法巻附録考証」著、利忠の弟/敬忠よしただ兄、
[忠宴(;名)の通称/号]通称;半蔵/外記/半右衛門、号;奔雄/曲肱庵きょくこうあん、法号;浄運

R2627 **忠福**(ただよし・水野みずの、忠欽男)1697-176468 幕臣:1723家督/24小姓/37西丸出仕/42使番;布衣許、
1745目付/51山田奉行;56伊勢内宮奉幣の際に家臣の不法;出仕停止、61赦免;寄合、
1759「伊勢両宮別宮摂社末社」著、
[忠福(;名)の通称/法号]通称;左門/清六/市正、法号;原忠

G2607 **忠義**(ただよし・新松にいまつ/本姓;源、別名;忠間)?-? 江中期;享保1716-36頃神道家、詩;上野竹渓門
国学;跡部良顕よしあきら門、1723「神道辨草」/24「神風日輪草」「神風恵草」著、
1732「古語拾遺枝折草」、「神風詠草」「神風重波草」著、
[忠義(;名)の号]　主柱翁/守柱翁

R2628 **忠良**(ただよし・源みなもと、号;文会)?-?　江中期神道家;多田南嶺門、1738「元文大祀記」著

X2642 **忠良**(ただよし・永田ながた、)1702-　?　1781(80歳)存　尾張名古屋藩士;同心、俳人、
1781(安永10/80歳)絵師内藤東甫(閑水)主催の金剛山長栄寺尚歯会に参加(9人);詠俳句、
[忠良(;名)の通称/号]通称;古仙、号;鳥集軒

R2629 **忠愛**(ただよし・青地あおち/あおぢ、字;湖静、礼幹のりもと[浚新斎しゅんしんさい]男)1732-1806　加賀藩士;
1744家督、61御納戸奉行、1802致仕、「謙徳公御夜話」編/1769-1800「諸事被仰出日記」著、
[忠愛(;名)の通称]　善次郎/山十郎/権佐

R2630 **忠福**(ただよし・松平まつだいら、忠恒男)1742-9958　上野小幡藩主;1768父の遺領継嗣、奏者番、
1785西丸若年寄/86本丸出仕/88致仕、采女正/玄蕃頭、「鴻臚集」著(没後1821刊)、
[忠福(;名)の幼名/法号]幼名;幸太郎、法号;即是空院

R2631 **忠宜**(ただよし・永田ながた)1746-180560　尾張藩士/水野・上有知代官の小吏、文人、

音律研究、1777「音律惑問」著
[忠宜(;名)の字/通称/号]字;子適/士聰、通称;加兵衛/嘉兵衛、号;泰山/春南、法号;等覚院
X2645 **忠慶**(ただよし・宍戸ししど、通称;八右衛門)?-1821　江中後期;長門萩藩士;町奉行、国学者/歌人、
[なつかしや結びもとめぬ朝露としきりに消し玉の面かげ](萩の歌人)入)
Y2605 **忠善**(ただよし・西尾にしお、常陸笠間藩主牧野貞長4男)1768-1830*63* 1782(天明2)西尾忠移の養子;
忠移は遠江横須賀藩主/1784(天明4)従五下/右衛門佐/90右京亮、
1801(享和元)養父没;横須賀藩5代藩主を継嗣;3万5千石/隠岐守、1806奏者番、
1811(文化8)藩学問所修道館を創設;1845(天保2)国学者八木美穂よしほを招聘;学問奨励、
財政再建;漁法刷新・刀工を支援、1816年貢減免を求め一揆発生、1829隠居;豊後守、
息子忠固が家督嗣、1830(天保元)江戸木挽町屋敷に没
G2608 **忠良**(ただよし・一条いちじょう、輝良男/本姓;藤原)1774-1837*64* 廷臣;1796右大臣/1814左大臣/関白、
氏長者/1823致仕/准三宮、歌学/歌人:歌合催、「近衛忠良百首」「一条忠良詠」など詠草多数、
1788-1824「忠良公記」、「御装束之図」「百人一首訓抄」「礼服御覧次第」著、池田知子の父、
正室;細川冨子、息子;一条実通・一条忠香ただかなど、
息女;知子(池田斉輝室/寛彰院)・通子(松平頼学正室)・秀子(澄心院、徳川家定継室)など、
[忠良(;名)の通称]　一条関白/台岳、法号;大勝寺
U2612 **忠美**(ただよし・村上むらかみ/本姓;源/清水)1775-1832*58歳*　尾張名古屋の医者、
国学;植松有信・本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[少女等をとめらがゑまひに似たる梅の花香さへなつかし散らまくをしも](八十浦;695梅)、
[忠美(;名)の通称/号]吉島屋源蔵/勇義助、号;松蔭
R2632 **忠義**(ただよし・森もり、初名;久徳/篤義、石川久徴ひさもと[桃蹊斎]男)1784-1861*78* 森篤恒の養子、
水戸藩士;1808彰考館入、57致仕、1850「常陸古今城主記」、「経星名考」「弘道館武術伝系」、
「水府歴代備考附録」「森観斎筆記」著、
[忠義(名)の字/通称/号]字;仲仁、通称;藤十郎、号;観斎
R2633 **忠彬**(ただよし・多おおの、忠行ただゆき男)1791-1848*58* 楽人;佐渡守/1835従五下、江戸住、
「団乱旋譜」校訂、「皇帝破陣楽譜」校
2710 **忠栄**(ただよし・山口やなぐち/本姓:大中臣、通称;因幡守)?-? 江後期;下総香取郡の大戸神社神主、
国学;本居大平・平田篤胤門
U2630 **忠義**(ただよし・榊原さかきばら、忠之ただゆき長男)?-1865　旗本;主計頭かずえのかみ3千石、初め宮中出仕、
(父忠之は1832北町奉行時に鼠小僧次郎吉を捕縛したことで有名)、
幕臣となり目付/1843(天保14)勘定奉行兼印旛沼古堀筋普請御用として天保改革に参画、
水野忠邦失脚後;印旛沼掘削開削工事を引継ぐ;1844罷免解任;工事中止、のち寄合、
新潟奉行に就任、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[藻塩汲む伊勢をの海士あまが濡れ衣ほすひまもなく五月雨ぞ降る]、
(大江戸倭歌;夏520/海辺五月雨/伊勢をの;[を]は間投助詞)
R2634 **忠懿**(ただよし・今川いまがわ、号;了所)?-?　江後期文化1804-18頃紀伊の絵師;崖熊野門、
南宋派、「新書画展観目録」編
G2609 **忠美**(ただよし・板原いたはら) ? -　?　儒者/詩人、1836海荘「渓琴山房詩」校訂
R2635 **忠良**(ただよし・小林こばやし、平八男)1796-1871*76* 信州小諸の農業;1817家督;町役人(約40年間)、
1807小諸藩校明倫堂に修学/和算家:白倉松軒・竹内武信門、家業の傍ら和算を門弟指導、
1811「馬柄杓・板橋術解」36「算法瑚璉」51「測地新術」54「算法瑚璉追加一事」、「角法廉術」著、
[忠良(;名)の字/通称/号]字;弼卿、通称;茂吉、号;神山、法号;成誉慈厚悟算居士
U2150 **忠可**(ただよし・建部たけべ/本姓;源、通称;与兵衛)?-?　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[夢もまだなかばながらに鴬の声より覚むる春のあけぼの](大江戸倭歌;春88/曙鴬)
U2675 **忠善**(ただよし・青木あおき/本姓;藤原)?-?　江後期;歌人、藩士?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[月影の曇ると見れば音たてて同じ板間をもるあられかな](大江戸倭歌;冬1234/霰)
W2669 **忠良**(ただよし・木村きむら、)1820-1891*72*　近江蒲生郡八幡町の八幡神社神職、
国学/歌人/歌;[鳰のうみ]入、

[忠良(;名)の通称]泰治郎
R2636 **品美**(ただよし・林はやし、通称;周次郎)1827?-?　江後期尾張名古屋藩士:小納戸詰、
儒;細野要斎[1811-78]門、「律呂りつりょ資講新書注解」著
Z2666 **忠毅**(ただよし・団井まるい、)1830-1901*72*　日向高鍋藩士、国学;名和大年門、
西南戦争では西郷軍に参加;1877(明治10)城山陥落;政府軍に投降、
[忠毅(;名)の別名/通称]別名;忠尾/忠人、通称;保太郎/誠助
R2637 **忠喜**(ただよし・竹林たけばやし)? -　?　江後期大阪和算家:福田金塘門、
「算題雑解後集」「算法諸招差手引」校訂
R2638 **忠義**(ただよし・鈴木すずき、通称;助右衛門)?-?　江後期磐城白河藩士/最上流和算;会田安明門、
「算法古今閲」「算法廓如」著
R2639 **忠義**(ただよし・島津しまづ/賜姓松平、別名;忠徳/茂久、久光男)1840-97*58*　島津斉彬の養嗣子、
薩摩藩主;1859襲封/63薩英戦争;積極的に西洋文明摂取、1867討幕密勅に挙兵上京、
小御所会議参加/1868鳥羽伏見で軍功/率先して版籍奉還/西南戦争では中立を守る、
1860-67「忠義公日記」著

士義(ただよし・森川)　→　*宗円*(そうえん・森川もりかわ/島本、医者)　２５７３
忠義(ただよし・酒井)　→　*忠義*(ただあき・酒井、藩主/日記)　Ｐ２６１２
忠義(ただよし・早野)　→　*巴人*(はじん・早野はやの、俳人)　３６１８
忠良(ただよし・島津)　→　*義久*(よしひさ・島津しまづ/惟宗、武将/連歌)Ｇ４７２７
忠良(ただよし→ただかた・屋代)→　*忠良*(ただかた・屋代/堀田、幕臣/文筆)Ｐ２６３２
忠良(ただよし・三浦)　→　*半左衛門*(はんざえもん・三浦みうら、藩士/歌)Ｋ３６８３
忠良(ただよし・牧島)　→　*忠良*(ちゅうりょう・牧島まきしま、歌人)　Ｌ２８６５
忠良(ただよし・黒田)　→　*綾山*(りょうざん・黒田くろだ、絵師)　Ｅ４９２２
忠由(ただよし・谷/伊賀屋)→　*忠由*(ちゅうゆう・谷たに、商家/俳人)　Ｇ２８８９
忠善(ただよし・大久保)　→　*漣々*(初世れんれん・大久保、俳人)　Ｂ５１３５
忠能(ただよし・中山)　→　*忠能*(ただやす・中山、廷臣/日記)　Ｒ２６０９
忠能(ただよし→ただのり・浅井)→　*忠能*(ただのり・浅井/橘、幕臣/歌人)　Ｇ２６０６
忠能(ただよし・江里川)　→　*瀧廼本千丈*(たきのもとちたけ、幕臣/狂歌)　Ｎ２６８９
忠美(ただよし・貴志きし)　→　*朝暾*(ちょうとん、貴志きし、幕臣/文筆家)　Ｊ２８５８
忠美(ただよし・興津)　→　*清覧*(きよみ・興津おきつ、幕臣/国学者)　Ｔ１６８５
忠喜(ただよし・岩沢)　→　*幸年*(ゆきとし・岩沢いわさわ、藩士/歌人)　Ｇ４６５８

G2610 **忠依**(ただより・平たいら、希世男)?-　? 974存　平安前期;廷臣;954正六下宮内少丞、
従五位下隼人正、
歌:拾遺992(女の許に遣はす歌)、
[逢ふことは心にもあらでほど経ふともさやは契りし忘れはてねと](拾遺;恋992)
G2611 **忠頼**(ただより・賀茂かも、在実男)?-1010　平安期神職;969貴布禰社禰宜/974上賀茂神社正禰宜、
円融～一条天皇三代の禰宜、歌人;和泉式部と連歌;金葉二度本658、
(和泉式部が賀茂にまゐりけるにわらうづに足をくはれて紙をまきたりけるをみて)、
神主忠頼[ちはやぶるかみをば足にまく物か]、
和泉式部[これをぞしものやしろとはいふ]
G2612 **忠頼**(ただより・鷹司たかつかさ/本姓藤原、宗平男)?-? 南北期廷臣/左中将/良基の側近/1387正四下、
歌;1366二条家歌合/年中行事歌合参加/1387浄阿奉納[隠岐高田明神百首]2首出詠、
連歌;1385良基「至徳二年石山百韻」連衆(賦何船;7句、息頼冬よりふゆと)、菟玖波5句入、
[春やまた朝東風あさこち吹きてさえぬらん](石山百韻;二表9/春もまだ浅く寒くなる、
前句;息子頼冬;にほひすくなき梅のうす雪)
[夕日さすとやまの里の薄紅葉時雨のさきに色やそふらむ](高田明神百首;53/里黄葉)
[忘れじよ野宮人のひたひぐしさしも契りしなかの別れは](同;77/寄櫛恋)
R2640 **忠頼**(ただより・多おおの、法号;秀栄、忠雄ただはる男)1561-1635*75*　楽人;下野守/1589正五下、
納蘇利舞の上手、1603「禁裡様御楽人衆」著
V2641 **忠寄**(ただより・伊木いぎ、通称;将監、忠恒男)1667-1720*54*　備前岡山藩士、歌人
R2641 **忠因**(ただより・平賀ひらが、号;酔狂)?-?　江中期;元文-延享1736-48頃陸中盛岡の神道家;

神道・国学;京の大橋広厚門/神道;・大橋広道門、
1740/43「酔狂翁与泥作問答」著

R2642 **忠順**(ただより・高沢たかざわ、勘太夫男)1732-99*68* 加賀金沢藩士:1757家督/御馬廻/80改作奉行、
1785組外番頭/85藩主前田重教に財政意見書提出;幽門/赦免;改作・作事奉行、「高沢録」著、
「金沢事蹟秘録」「改作枢要記録」「鶴鳴記録」「高沢税賦考」「明和記録」「老婆鮒の煮物」著、
[忠順(;名)の初名/通称/号]初名;菊忠、通称;平次右衛門、号;鶴鳴、
法号;鶴鳴斎至誠忠順居士

G2613 **忠寄**(ただより・大久保おおくぼ、比忠ちかただ男)1742-1801*60* 旗本/1791家督;幕臣/西丸書院番、
1794大番、蔵書家;「愛岳麓文庫」著、「徳川九代記」編/1774「本朝武林原始註」編、
1777「管見雑録」、「江都好古記」「葵祭記」「金蛇考」「鳩杖考」「茶道系図」「御十代考」外著多、
[忠寄(;名)の通称/号]通称;保次郎/靱負ゆげい/主水もんど/主計かずえ、 号;酉山ゆうざん、
酉山堂(ゆうさんどう)説あり→ *酉山堂*(ゆうさんどう) Ｃ４６０５

R2644 **忠順**(ただより・永田ながた、西河せいか男)?-? 江後期京の儒者;父門/書家、観鵞の孫、
父西河「詩語砕錦続編」を1815校訂/刊行

R2645 **忠頼**(ただより・中山なかやま、忠尹ただまさ男/本姓;藤原)1778-1825*48* 母;三条実顕女、
廷臣;右近衛権中将/蔵人頭/1798参議、1803権中納言;従二位/07正二位権大納言、
妻;正親町三条綱子つなこ(正親町三条実同女)、忠徳・忠能・園基万・能子の父、
1802「石清水放生会参向参議要」著

U2622 **忠順**(ただより・大久保おおくぼ、大久保忠章[1726-93]男)?-? 旗本大久保忠恒ただつね[1724-1803]の養嗣、
養家の家督継嗣;幕臣1900石/淡路守、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[花の色をさやに見んとて心なく月の朧をうらみけるかな](大江戸倭歌;258月前花)、
[忠順(;名)の通称] 兵九郎/平助・彦左衛門(;養父名)/若狭守/淡路守

直頼(ただより・本郷/赤松/源)→ *直頼*(なおより・本郷、武士/歌人) Ｄ３２０２
忠順(ただより・奥村) → *忠順*(ただのぶ・奥村おくむら、藩士/詩歌) Ｗ２６３５
忠順(ただより・村上) → *忠順*(ただまさ・村上、国学・歌) Ｆ２６８６
忠順(ただより・小栗) → *忠順*(ただまさ・小栗上野介) Ｑ２６８５
忠順(ただより・金子) → *霜山*(そうざん・金子、藩儒/藩政改革) Ｂ２５６２
忠順(ただより・中野) → *忠順*(ただのぶ・中野なかの、藩士/書家) Ｙ２６６２
忠寄(ただより・市原) → *篤焉*(とくえん・市原、郷土史家) Ｋ３１５１
多々良山人(たたらさんじん)→ *貞温*(さだあつ・秋良あきら、藩士/海防) Ｈ２０７２
陀々羅大尽(だだらだいじん)→ *艶二*(えんじ・塩屋しおや、洒落本/狂歌) １３９８
立枝(たちえ→たつえ・佐久間)→ *立枝*(たつえ・佐久間、歌人) Ｒ２６５５
達師(たちし) → *縁達師*(えんだちし、万葉歌人) Ｂ１３２０

R2646 **立祐**(たちすけ・小島/小嶋こじま)?- ? 江中期上方の歌舞伎作者:
1735大坂新九郎座「住吉詣殿下茶屋村」/1740まで京大阪諸座の作者、38「富士太鼓和合調」、
1739「御祝能錦幔」「裾野達紋大磯通」/40「けいせい宇治見山」「天王寺稚児舞台」著

立介(たちすけ・梅園) → *直雨*(ちょくう・梅園うめぞの、儒者/天文家)Ｋ２８２４
立介(たちすけけ・山中) → *秀之*(ひでゆき・山中/秦、医者/救民活動)Ｅ３７０６
立介(たちすけけ・関) → *政方*(まさみち・関せき/関藤、医/国学/歌)４００６
橘(たちばな:一字名) → *植家*(たねいえ・近衛このえ、関白/歌/連歌)２６４１
橘香保留(たちばなかほる、戯作・狂歌) → *薫*(かおる・蘭奢亭) Ｂ１５１６

T2668 **立花裏なり**(たちばなのうらなり)?- ? 狂歌;1787「才蔵集」入
[行く水に数よむばかり落葉してうかむや池のそこらこゝらと](狂歌才蔵集;六255)

橘大后(たちばなのおおきさい) → *嘉智子*(かちこ、嵯峨帝皇后) Ｃ１５３７
橘蔭道(たちばなのかげみち) → *有功*(ありこと・千草、廷臣/歌人) Ｂ１０６８
橘貞風(たちばなのさだかぜ) → *貞風*(さだかぜ・橘、狂歌) Ｂ２０７６
橘三位(たちばなのさんみ) → *井手尼*(いでのあま・平安歌人) Ｅ１１１０
橘典侍(たちばなのすけ) → *井手尼*(いでのあま・平安歌人) Ｅ１１１０

G2614 **橘鈴成**(たちばなのすずなり) ? - ? 狂歌、1765「後万載集」1首入
[さげ帯を見るにつけてもをたふくの衣がへ憂き尻にぞ有ける](後万載集;二128)

橘大夫元家(たちばなのたいふもといえ、狂歌;後万載入)→ *羽左衛門*(9世うざえもん・市村)Ｂ１２８９
橘入道(たちばなのにゅうどう) → *能因*(のういん、法師/歌人) ３５０２
T2671 **橘枝**(たちばなのひとえだ) ？－ ？ 狂歌、1787「才蔵集」入;536
［げに酒は憂ひをはらふ箒はゝきなれどはいては塵にまさる汚さ］
G2615 **橘実副**(たちばなのみぞえ、初号;草屋師鯵くさやのもろあじ、細井八郎治)?-1804 京橋/数寄屋橋狂歌;ｽｷﾔ連、
橘洲門、算木有政の弟、1782若葉/83万載/85後万載/87才蔵集入;
［金にならぬ田舎生まれの鶯は声のなまりのとれぬなるべし］
橘実副(たちばなのみぞえ) → *橘洲*(きっしゅう・唐衣からごろも、幕臣/狂歌)１６２２
立呑鈍人(たちのみどんじん) → *一方*(いっぽう・篠野ささの、医者/狂歌詩) Ｈ１１９２
橘舎(たちばなのや・長谷川)→ *菅緒*(菅雄すがお・長谷川、医/国学/歌)Ｂ２３６２
橘舎(たちばなのや・秋山) → *好頼*(よしより・秋山あきやま/源、藩士/歌) Ｌ４７１４
橘廼屋(たちばなのや) → *豊香*(とよか・森田もりた、歌人) Ｒ３１０７
立花八重淵(たちばなのやえぶち)→ *竹窓*(ちくそう・城じょう、藩士/儒者) Ｄ２８３８
橘八衢(たちばなのやちまた、狂歌・後万載入)→ *千蔭*(ちかげ・加藤/橘、歌)２８０３
橘屋慶純(たちばなやけいじゅん)→ *慶純*(けいじゅん・中村なかむら、連歌) Ｇ１８０７
橘屋治兵衛(たちばなやじへえ)→ *治兵衛*(じへえ・橘屋、書肆) Ｇ２１１３
橘屋忠兵衛(たちばなやちゅうべえ)→ *忠兵衛*(ちゅうべえ・橘屋、書肆) Ｇ２８８５
2706 **太刀彦**(たちひこ・矢幡やわた、)1846-1881*36* 代々豊前上毛郡黒土村の石清水八幡宮宮司、
神道学・国学;渡辺重石丸いかりまろ門、小太郎(1854-1923/黒土村村長)の兄
1875-76越前気比神宮宮司、神道事務局・神宮奉斎会に奉職、
中津市神宮教会所(のち中津大神宮)創建の参加,
［太刀彦(;名)の別名/通称]別名;国勝/清秀、 通称;八郎
R2647 **多仲**(たちゅう・芳村よしむら、通称;浪華堂)?-? 江中期大阪南革屋町の文筆家、
1727「四季用文集」・「童子用文章」書
R2648 **太沖**(たちゅう・西村にしむら、名;篤行、蓑谷みのや長兵衛男)1767-1835*69* 越中砺波郡城端の商家、
1783上京;医を修学/天文暦数:西村遠里門;師没後1787門弟推挙により西村家の継嗣、
1788大阪で西洋流暦学;麻田剛立門、1799金沢藩主前田治脩の招聘で明倫堂の天文師範、
1821前田斉広の招聘で金沢の医者格、1822-30「金沢分間絵図」を遠藤高璟たかのりの下で作成、
「実符暦」「実符暦七曜法」「八位八線表」「符天暦」「気朔暦」「時鐘時割」「金府日時要略」著、
［太沖(;通称)の号］ 審之/得一館、 法号;明達院
R2649 **多翀**(多仲/多沖たちゅう・堀口ほりぐち)?-? 江後期遠州横須賀藩士/蘭学;高森観好門、
1814「野礼機的爾えれきてる全書摘要」著、、
［多翀(号)の字/別号]字;勝易、別号;笠峰りゅうほう
R2650 **太仲**(たちゅう・松村まつむら、医者玄機男)?-1851 萩藩士/蘭学に精通;洋書翻訳掛、久坂玄機と並称、
「扶歇蘭土労瘵篇」訳
多中(太中たちゅう・大場)→ *重光*(しげみつ・大場おおば/藤原、神職/歌)Ｎ２１８１
多仲(たちゅう・松村) → *梅岡*(ばいこう・松村まつむら、儒者/詩人) Ｂ３６１７
多仲(たちゅう・坂上) → *烏涯*(うがい・坂上さかがみ、儒者/詩人) Ｃ１２０７
多仲(たちゅう、太仲/太冲)→ *東海*(とうかい・大竹/浅井/岳、儒者) Ｂ３１８９
多仲(たちゅう・石金) → *瀬浜*(らいひん・石金いしがね/石、農業/漢学)４８９２
多仲(たちゅう・大原) → *山清*(さんせい、大原おおはら、神職) Ｍ２０４５
多仲(たちゅう・関口) → *雪翁*(せつおう・関口せきぐち/関、儒者) Ｋ２４７４
多仲(たちゅう・武岡) → *図南*(となん・劉りゅう/彭城さかき、通事/詩)Ｏ３１５７
多仲(たちゅう・蜂屋) → *宗意*(そうい・蜂屋はちや/菅原、香道家) Ｆ２５９８
多仲(たちゅう・会田) → *素山*(そざん・会田、藩士/御風門俳人) Ｊ２５７８
多忠(たちゅう・畑中) → *荷澤*(かたく・畑中はたなか/はたけなか、藩儒/詩歌)Ｃ１５３２
多忠(たちゅう・南合/駒井)→ *晩翠*(ばんすい・駒井、儒者) Ｉ３６１９
多仲(太忠たちゅう・野村/三河口)→*輝昌*(てるまさ・三河口、幕臣/代官/日記)Ｃ３０９３
多忠二(たちゅうに・竹内) → *千兮*(せんけい・岡崎/竹内、俳人) Ｍ２４１４
兌長老(だちょうろう→たいちょうろう)→*承兌*(じょうたい;法諱・西笑;道号、臨済僧/詩文)Ｕ２２０８

G2616 **龍**(たつ・物部もののべ)　？－　？　755防人、上総国周**淮郡**すえのこおり上丁、万葉廿4358
竜の名は神亀5(728)年戊辰生か(この時28歳か)、
[大君の命みことかしこみ出で来れば我わぬ取り付きて言ひし児こなはも](万葉集;廿4358)

2759 **辰**(たつ・)　？－　？　江前期;京の女流歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]3首入、
河瀬家の娘か?、
[もろともに見しよの床は昔にて面がかりする閨の月影](麓の塵;恋487)

R2651 **たつ**(:姓不詳)　？－　？　三河伊奈の俳人;1689「あら野」入、
[花に来てうつくしくなる心かな](あら野;一)

R2652 **辰**(たつ・小林こばやし)　？－　？　江後期大和五条の医者、1824「楓窓医話」、
「金芝園治験」「儒門事親攷異」「文館詞林考証」「金匱要略考異」「楓窓博採方」「論医絶句」、
「日本医学源流」「傷寒論集説」/1852「海外異伝匡謬」著、
[辰(;名)の字/号]字;伯叔/伯蛟/伯敦、号;道隆どうりゅう/楓窓/辰伯/金芝

辰(たつ・古川)　→　*古松軒*(こしょうけん・古河/古川、地誌家)１９３３
辰(たつ・松下)　→　*烏石*(うせき・松下まつした、書家)　Ｂ１２７７
竜(たつ)　→　*竜*(りゅう)を参照
達(たつ・後藤)　→　*艮山*(こんざん・後藤ごとう、医者)　Ｐ１９２４
達(たつ・辻)　→　*端亭*(たんてい・辻つじ、藩士/儒者)　Ｉ２６５３
達(たつ・辻)　→　*晩庵*(ばんあん・辻/十街、藩士/儒者)　Ｈ３６１９
達(たつ・河野/岡島)　→　*石梁*(せきりょう・岡島/岳/河野、藩儒/詩)Ｄ２４９７
達(たつ・宮沢)　→　*雲山*(うんざん・宮沢みやざわ、儒者/詩人)　Ｂ１２１５
達(たつ・高沢)　→　*菊磵*(きくかん・高沢たかざわ、藩士/儒者)　Ｋ１６０５
達(たつ・長沢)　→　*楽浪*(らくろう・長沢ながさわ、藩儒/詩)　Ｂ４８２９
達(たつ・石川)　→　*元翠*(げんすい・石川いしかわ、蘭方医者)　Ｋ１８２９
達(たつ・広瀬)　→　*竹庵*(ちくあん・広瀬、蘭学/藩校教授)　Ｃ２８４８
達(たつ・小野)　→　*招月*(しょうげつ・小野おの、農業/詩文)　Ｍ２１２４
達(たつ・川島)　→　*蘭洲*(らんしゅう・川島かわしま、農業/書家)　Ｃ４８６４
達(たつ・前野)　→　*良沢*(りょうたく・前野まえの/谷口、蘭学/医)Ｉ４９８１
達(たつ・片山)　→　*冲堂*(ちゅうどう・片山かたやま、儒者/詩文)　Ｇ２８６７
達(たつ・加藤)　→　*達*(すすむ・加藤かとう、藩士;医者/歌)　Ｉ２３２５

W2664 **たづ**(田鶴たづ・河村かわむら、)1837-87*51*　伊勢三重郡の河村政友の妻、歌人;中村良顕門
田鶴(たづ・河合)　→　*象子*(きさこ・河合かわい/山中、国学/歌人)Ｔ１６９９
田鶴(たづ・菊田)　→　*和平*(かずひら・菊田きくた/小笠原、農家/国学/神職)Ｕ１５４８

R2653 **竜秋**(たつあき・豊原とよはら、法名;竜覚、清秋男)1291-1363*73* 祖父豊秋の猶子/楽人:笙の名手;一者、
後光厳天皇・足利尊氏の師、従四下/隠岐守、1360(延文5)出家、兼秋の弟、信秋の父、
1345「豊原竜秋鳳笙譜」「鳳笙呂律秘譜」著、
徒然草219段;四条隆資が竜秋の笛の説を賞賛する逸話入

脱庵(だつあん)　→　*山夕*(2世さんせき・桃井ももい、俳人)　Ｍ２０５１

R2654 **辰一郎**(たついちろう・志筑しづき/しつき、名;利忠、竜太りゅうた男)1832-57早世*26* 長崎の通事;稽古通詞、
1848英語;ﾗﾅﾙﾄﾞ=ﾏｸﾄﾞﾅﾙﾄﾞ門、1850幕命で「エゲレス語辞書和解」編纂(西成量ら6人と)、
「和米始末」訳

R2655 **立枝**(たつえ・佐久間さくま、鈴木/岡田、広江為禎[九隣]女)1814-61*48* 父;下関醤油醸造、
母は父為禎没後に為禎弟の秋水と立枝を連れて再婚、立枝は豊前門司の鈴木健吉の妻、
のち豊前添田の岡田氏と再婚/さらに1840小倉の佐久間果園の妻、歌人/書、
画;田能村竹田/木下逸雲門、豊前八屋で家塾、「呉機」著、
[立枝(;名)の別名/通称/号]別名;閑子/枝折子、通称;かん、号;松琴/小琴、法号;衛照院
再々婚の夫も歌人→　*果園*(かえん・佐久間/名;種、藩士/歌人)Ｂ１５１３

V2617 **竜江**(たつえ・赤沢まあかざわ)1825-1894*70*　讃岐高松の八坂神社祠官、権少教正、
儒・歌;友安三冬(1788-62)門、
[竜江(;名)の通称/号]通称;竜之助、号;竜堂/棗園打丸そうえんうちまる
達栄(達英たつえい・法諱)→　*速満*(そくまん:法諱、真宗本願寺派僧)　Ｊ２５５３

辰栄(たつえい・高松)　→　*貝陵*(ばいりょう・高松たかまつ、儒/易学)　Ｃ３６２４
辰右衛門(たつえもん・皆川)→　*梅翁*(ばいおう・皆川みながわ、藩士/儒者)　３６７０
辰右衛門(たつえもん・松村)→　*芳洲*(ほうしゅう・松村、藩士/儒者/詩人)Ｂ３９３９
辰右衛門(たつえもん・曾我)→　*祐臣*(すけおみ・曾我そが、藩士/神職)　Ｉ２３６９
竜右衛門(たつえもん・新井)→　*玉英*(たまてる・新井あらい、刀匠)　Ｓ２６２５
竜右衛門(たつえもん・伊地知)→　*正治*(まさはる・伊地知いぢち、藩士/兵学)Ｇ４０４５

R2656 **立雄**(たつお・神保じんぼ、通称;磯次郎)1828-81*54*　加賀金沢の国学者;国典に精通、金沢藩皇学教授、白山比咩しらやまひめ神社権宮司、「昌泰己未庚申系図考」著

Z2643 **立雄**(たつお・堀内ほりうち、)　?-　?　江後期;丹波篠山藩士/歌人;井上文雄(1800-71)門、国学・歌;鈴木重峯しげね(1814-98)門、相模藤沢住、藤沢の名主堀内千班せんぱんと同族?、
[立雄(;名)の通称/号]通称;七郎右衛門、号;悠久/篁舎

G2617 **竜雄**(たつお・雲井くもい、本名:中島守善、中島摠右衛門2男)1844-70刑死*27*　米沢藩士、藩校興譲館に修学/1845叔父小島才助の養子;47家督継嗣/61米沢藩江戸詰、儒;安井息軒門;塾頭/藩命で帰国、1867(慶応3)藩命で上京;新政府の貢士に推薦される、薩長の策略に抵抗;朝廷に意見書提出;却下/東北諸藩同盟を企画;官軍に抵抗、1869新政府の集議院議員に就任、1870「討薩檄」を草し政府転覆の疑いで小塚原で斬首、詩人、辞世[死して死を畏れず　生きて生を偸ぬすまず　男児の大節は光かがやき日と争う,
道これ苟いやしも直くんば鼎烹ていほうをも憚らず　渺然たる一身なれど万里の長城たらん]、藤沢周平の小説「雲奔る」のモデル、
[竜雄(;名)の字/通称/号/変名]字;居貞、通称;竜三郎、号;枕月、変名;桂杏逸/遠山翠
達夫(たつお・正木)　→　*梅谷*(ばいこく・正木まさき、藩士/儒者)　Ｂ３６２４
達夫(たつお・黒岩)　→　*雲東*(うんとう・黒岩/黒巌くろいわ、医者/儒)Ｄ１２９９
達夫(たつお・松本)　→　*成徳*(しげのり・松本まつもと、商家/詩)　Ｓ２１０７
達夫(たつお・向井)　→　*滄浪*(そうろう・向井、藩士/儒/詩人)　Ｊ２５２２
達夫(たつお・佐渡)　→　*三良*(さんりょう・佐渡さど、医者/詩人)　Ｍ２０８５
達夫(たつお・楢林)　→　*重兵衛*(じゅうべえ・楢林、阿蘭陀通詞)　Ｙ２１３５
竜夫(たつお・西村/飯沼)→　*慾斎*(よくさい・飯沼いいぬま/西村、医者/本草)Ｂ４７７２
竜夫(たつお・伊達)　→　*宗興*(むねおき・伊達だて/成田、藩士/国学)Ｄ４２９０
竜雄(たつお・中西)　→　*旦斎*(たんさい・中西なかにし、医者、俳人)　Ｉ２６７１
竜雄(たつお・斎藤)　→　*幸孝*(ゆきたか・斎藤さいとう、名主/地誌)　Ｅ４６６３
竜雄(たつお・山本/大高坂)→*南海*(なんかい・大高坂おおたかさか/山本、藩士/儒詩/絵師)Ｏ３２９４
竜雄(たつお・森本)　→　*眞弓*(まゆみ・森本もりもと、商家/国学/歌)Ｐ４０３５
多都雄(たつお・寺井/円山)→　*応立*(おうりゅう・円山まるやま/源、絵師)　Ｃ１４７２

B2644 **鶴夫**(たづお・長田おさだ、名;政和、通称;加島屋作五郎、政堯男)1784-1844*61*　大阪の豪商;加島屋、大坂豪商三歌人の1;殿村茂斎・佐々木春夫と、国学;本居大平門、加納諸平・村上潔夫門、歌;長歌、1849「万葉集五句類語」52「豊栄日軒集」、「長田鶴夫詠草」「大神宮神宝古図」著、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌・短歌入、妻**直子**なおこも歌人、**比等之**ひとしの父、
[ほととぎす来鳴く羽ふれにわが宿の花橘は散りにかるかも](八十浦;787)、
[鶴夫の別号]　丹頂叟/豊栄日軒主/素履居/清音、屋号;加島屋、法号;本量院
鶴雄(たづお・滝村)　→　*鶴雄*(つるお・滝村小太郎、歌人)　Ｅ２９５８

2782 **鶴王**(たづおう・名;頼子、足利尊氏女)?-1353　母;平登子(尊氏正室)、南北期;崇光院后妃、義詮・基氏と同腹、1353(文和2)罹病;医術治療・呪術・祈祷が行われる/効なく没;
1355(文和4))3回忌に従一位追贈:名を頼子・法名霊寿院/贈一品大夫人と称す、
三回忌以前に尊氏の夢に鶴王の歌の告があり禅律の尊宿・高僧に出詠させる;
仮称[夢中和歌]のち[経旨和歌]と称される(文和四年11月3日成立)、
[さりともと世をば守りの鏡にてくもらぬ影をいつまでもみん](夢中和歌/経旨歌冒頭)
辰岡久菊(立岡久菊たつおかきゅうきく)→久七(きゅうしち・天満屋、歌舞伎役/作者)Ｇ１６４２

V2613 **竜臣**(たつおみ・飯田いいだ、秀雄男)1824-45早世*22*　母;汐子、因幡気多郡加知弥神社祠官家の生、国学・歌;本居大平門、秀臣・年平の弟
達音(たつおん・島田/嶋田)→　*忠臣*(ただおみ・島田/嶋田、廷臣/詩人)　２６２４

G2618 **達下**(たっか)　？－　？　俳人、1766也有「蘿葉集」編(;有支・蓑月・文樵らと)
W2666 **手束**(たつか・武藤むとう、)　？－　?1889頃没　備中岡山藩士、国学者;瀬崎久敬・上田及淵門、
神戸浄きよし・浅加忠吉の師、
[手束(;名)の初名/通称/号]初名;正雄、通称;勘左衛門、号;観鳥舎
R2657 **田使**(たづかい・高村たかむら、姓かばね;村主・連・忌寸・宿禰)743-818*76* 平安前期廷臣;806大外記、漢学者、
東宮学士兼文章博士/従四下、詩人:経国集入
辰方(たつかた・松岡)　→　*辰方*(ときかた・松岡、故実家)　Ｊ３１０４
2636 **田鶴樹**(たづき・浅見)　?- 1778　大阪心斎橋の俳人:淡々門、蕪村・雁石らと交遊、雑俳点者、
1740「銀の月」入、40「玉すだれ」48「西海春秋」編、「花月禅」「瓦後抄」著、
「間庭要話」「四方錐」「素然集」著、左逸(;医者/俳人)の父、
[田鶴樹の別号]　江霜庵/句星庵/硯漁夫/元之呼斎/宗樹/姫介叟/朧橘子/糖尊者/糞尊者
蝙鼠居士
P2601 **鶴城**(たづき・佐々さっさ、名;易直/寿忠、正作男)1838-1905*68* 出雲大社者家;出雲杵築大社神職、
歌/国学;鈴木重胤・大国隆正・千家尊孫・千家尊澄・近藤芳樹門、出雲大社主典、
「幽顕私考」「梅舎大人略伝」「皇国名義考」著、
[鶴城の通称/別号]通称;鉄之丞、別号;藤房/藤室/藤壺/五十橿本いつかしがもと
辰清(たつきよ→とききよ・寒川)→　*辰清*(とききよ・寒川さむかわ/かんがわ、儒者)Ｊ３１１０
達郷(たつきょう・山田)　→　*文啓*(ぶんけい・山田やまだ、医者/儒者)　Ｆ３８０８
達空(たっくう;字)　→　*涌蓮*(ようれん;号、真宗高田派僧/歌人)Ｂ４７６４
脱空妙解禅師(だっくうみょうかいぜんじ)→　*如幻*(にょげん・夢庵、臨済僧)　Ｆ３３９１
佃(たつくり・腥斎なまぐさい)　→　*川柳*(せんりゅう・五世・緑亭)　２４４３
達卿(たっけい・近藤)　→　*潜庵*(せんあん・近藤/太田、儒者/医者)　Ｌ２４５６
G2619 **達軒**(たっけん・股野またの、名;景質、長尾崇男)1816-94*79* 播磨竜野藩士/儒;股野順軒門;順軒の養嗣、
藩校敬楽館教授/奉行;藩財政を担当、1866長州戦争で安藝広島に出陣、
1841「観月集」、「詠古詩鈔」「消閑余業」著、
[達軒(;号)の字/別号]字;好義、別号;亡羊子、諡号;諄精先生
達賢(たっけん;号)　→　*慧通*(えつう;法諱、僧/歌人)　Ｔ１３９７
R2658 **達言**(たつげん;法諱・船居ふない;号)?-?　江中期元文1736-41頃河内の真宗本願寺派本覚寺住職、
「選択集光耀辨」著
達元(たつげん;字)　→　*獅絃*(しげん;号・恵明;法諱/真宗僧/詩)Ｔ２１２４
G2620 **たつ子**(たつこ・有馬ありま、丸岡藩主有馬誉純なすみ/しげずみの室、稲葉正弘女)?-? 江後期歌人;
1814「詠源氏和歌」入　の
U2695 **達子**(たつこ・松平まつだいら、浜田藩主松平康任やすとう[1780-1841]の女)?-? 江後期歌人;
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」(父康任と共に入集)、
[うたてなど君手折りけん人しれず咲く夕顔のたそかれの宿](大江戸倭歌;雑1996、
源氏物語の夕顔君を)
達五(たつご・堀)　→　*達之助*(たつのすけ・堀ほり、通事/英語)　Ｇ２６２５
W2658 **田鶴子**(たづこ・上条かみじょう、法号;玉皐院)1701-68*68*　和泉堺の国学/歌人
上条柳廬の妻多鶴(字;子禽、画/書家)とは別人、
U2635 **田鶴子**(たづこ・那須なす)　？－　？　江後期:歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[行く水の流るるままをすがたにて咲けるあさざの花のすずしさ](大江戸倭歌;夏670)、
[夏の夜のふすともあらぬ手枕に見はてぬ夢の惜しくもあるかな](現存百人一首;9)
Y2603 **田鶴子**(鶴子・多豆子たづこ・高橋たかはし、別名;高子)1791-1866*76* 伊予大洲の歌人;香川景樹門、
国学;本居内遠門/歌;本間游清門、高橋重威の妻、
八束編「藤の花ぶさ」上巻10首・中巻2首入、
[おのが名はおもひも出でじ宮人の花見車にこゝろひかれて](藤の花ぶさ入)
V2635 **田鶴子**(たづこ・井上いのうえ、田鶴代)1832-1902*71歳*　母;井上近子ちかこ(歌人)、筑後久留米の歌人、
歌;母近子門/真木和泉・矢野一貞門、国学;母と同じ船曳鉄門かねと門、贈答歌を能くす、
[八千種のさきのさかりの秋の野はわけ行く袖も花すりにして](篠山神社境内の碑文)

田鶴子(たづこ・川喜田) → *三千子*(みちこ・川喜田かわきた、商家妻/国学) Ｉ４１７１
R2659 **達巷**(たっこう・岸きし/修姓;崖、名;守典/通称;常太郎)1768-1820*53* 和歌山藩の儒者/地誌、
「紀伊続風土記」編纂参加、「瓊浦日記」「名草郡産物」著、「西溟聞見録」編、「達巷先生遺稿」
竜駒(たつこま・伊地知) → *正治*(まさはる・伊地知いぢち、藩士/兵学) Ｇ４０４５
G2621 **辰五郎**(たつごろう・淀屋よどや)?- ? 元禄期大阪の豪商、淀屋个庵こあんの曾孫、
闕所事件、「長者機嫌袋」等の題材となる
G2622 **辰五郎**(たつごろう・初代吉田)?- ? 浄瑠璃:人形遣・作者、
1836山田案山子「梅魁茖八総はなのあにつばみのやつふさ」の前下冊共作(吉田金吾・桐竹門蔵と)、
(歌舞伎には同年1836西沢一鳳「花魁茖八総はなのあにつばみのやつふさ」がある)
辰五郎(たつごろう・市岡) → *和雄*(にぎお・市岡、儒者/歌人) ３３１３
辰五郎(たつごろう・松井) → *式部*(しきぶ・巣内/須内すのうち、勤王家/歌)Ｑ２１０９
辰五郎(たつごろう・永島/歌川)→ *芳虎*(よしとら・歌川うたがわ/永島、絵師)Ｆ４７１１
辰五郎(たつごろう・毛内) → *雲林*(うんりん・毛内もうない茂幹、藩士/絵師)Ｅ１２９３
辰五郎(たつごろう・逸見) → *義広*(よしひろ・逸見へんみ、神職) Ｇ４７７１
辰五郎(たつごろう・荒木) → *美蔭*(よしかげ・荒木あらき、神職/歌) Ｃ４７４５
達五郎(たつごろう・川島) → *蘭洲*(らんしゅう・川島かわしま、農業/書家) Ｃ４８６４
竜五郎(たつごろう・柴山) → *景綱*(かげつな・柴山しばやま、藩士) Ｌ１５０２
R2660 **達厳**(たつごん;法諱・号;慈賢/安楽院、錦織寺6世慈達男)1395-1463*69* 近江真宗木辺派錦織寺7世、
広橋兼宣の猶子/法印/権大僧都、「現世利益和讃抄」「浄土和讃現世利益和讃聞書」著
達斎(たつさい・真勢/真瀬ませ)→ *中洲*(ちゅうしゅう・真勢、易学/卜筮家)Ｇ２８２０
達斎(たつさい・市川) → *一学*(いちがく・市川いちかわ、儒者) Ｇ１１１１
達斎(たつさい・呉/五十嵐)→ *竹紗*(ちくさ・五十嵐/修姓;呉、絵師) Ｄ２８０２
達斎(たつさい・泉) → *家胤*(いえたね・泉いずみ、易/国学/神職) Ｊ１１９２
獺斎(だっさい・北川) → *祭魚*(さいぎょ・北川きたがわ、俳人) Ｇ２０６４
辰三郎(たつさぶろう・池田/衣川)→ *長秋*(ながあき・衣川きぬがわ、国学者)Ｄ３２１１
辰三郎(たつさぶろう・木下/円山)→ *応震*(おうしん・円山まるやま/源、絵師)Ｃ１４５５
辰三郎(たつさぶろう・中島)→ *竜雄*(たつお・雲井、藩士/詩人) Ｇ２６１７
辰三郎(たつさぶろう・狩野)→ *宗朴*(初代そうぼく・狩野かのう、茶人/鑑定)Ｋ２５８７
辰三郎(たつさぶろう・山崎)→ *郷孝*(さとたか・山崎やまざき、藩士/捕縄術)Ｋ２０５５
辰三郎(たつさぶろう・前原)→ *美春*(よしはる・前原/横瀬/小野、神職) Ｇ４７１３
辰三郎(たつさぶろう・葛野)→ *美住*(よしずみ・葛野かどの、商家/国学/俳)Ｍ４７２３
辰三郎(たつさぶろう・野村)→ *貞則*(さだのり・野村のむら、藩士/国学/歌)Ｐ２０１０
達三郎(たつさぶろう・永島)→ *芳虎*(よしとら・歌川うたがわ/永島、絵師) Ｆ４７１１
R2669 **達志**(たっし・藤井ふじい)1686 - 1759*74* 備後福山俳人;野坡門、
1752師追善「十三題」;福山連の前書を筆、 [達磨忌や壁は幾世の影の供](「十三題」)
達二(たつじ・浅田) → *佑矣*(すけお・浅田あさだ、藩士/歌人) Ｌ２３２３
辰次(たつじ・山田) → *清広*(きよひろ・山田やまだ/日比、国学者) Ｖ１６５６
辰寿(たつじゅ、富永) → *辰寿*(しんじゅ、富永、歌舞伎脚本/俳人) Ｅ２２４４
R2661 **達秀**(たっしゅう;法諱) ? - ? 江後期真宗大谷派教証寺住職、
1811「大谷年表録」、「教証寺由緒書」著
R2662 **達所**(たっしょ・山本やまもと/本姓;源、名;随/恭随、福井榕亭男)1795-1868*74* 母方法橋山本諦道を嗣、
京の医者;父門/1830典薬寮医師・安房守・大和守/1850大学権助/55典薬大允兼任/大学助、
「典薬寮医学館意見書」著、
[達所(;号)の字/通称/別号]字;有功、通称;従吉、別号;櫪翁れきおう、諡号;道純
咀篠堂(たつじょうどう) → *豊信*(とよのぶ・石川、絵師) Ｒ３１４２
達次郎(たつじろう・南部) → *利義*(としとも・南部なんぶ、藩主) Ｎ３１０６
達次郎(たつじろう・武内) → *兼善*(かねよし・武内たけうち/国方、藩士) Ｕ１５９８
辰次郎(たつじろう・吉松/北原)→ *秦里*(しんり・北原きたはら、藩士/詩/画)Ｑ２２０４
辰次郎(たつじろう・矢部) → *定衡*(さだひら・矢部やべ/藤原、幕臣/歌) Ｍ２００１
辰次郎(たつじろう・玉乃) → *五竜*(ごりゅう・玉乃たまの/枝えだ/桂かつら、儒者)Ｎ１９９６

辰次郎(たつじろう・瀬崎) → 久敬(ひさたか・瀬崎せざき、藩士/国学者) Ｊ３７１５
辰次郎(たつじろう・野村) → 健平(たてひら・野村のむら、国学/詩歌) Ｙ２６９２
辰二郎(たつじろう・矢橋) → 赤水(せきすい・矢橋やばし、詩人) Ｋ２４３０

R2663 **辰輔**(たつすけ・松本まつもと、別名;輔明/輔章すけあき、政輔男)?-? 江中期磐城三春藩士;大目付、
先筒組預/弓組支配/御物頭、系譜収集・編集、「春士秘鑑」著、
[辰輔(;名)の幼名/通称]幼名:二郎助/多太郎、通称;三内、 輔眞の父

R2664 **立助**(たつすけ・深海ふかみ、号;国華散人)?-? 江後期丹波亀山の文筆家、1851刊「神竜車之図説」著
達助(たつすけ・徳永) → 千規(ちのり・徳永とくなが、国学者) Ｆ２８１６
達助(たつすけ・藤本) → 居敬(やすたか・藤本ふじもと、国学者) Ｇ４５５３
辰助(たつすけ・堀) → 政友(まさとも・堀ほり、和算家) ４０７９
達成院(たっせいいん) → 義観(ぎかん・園村そのむら、僧/国学者) Ｕ１６５６
達仙(たっせん;字) → 杲照(こうしょう;法諱、真言僧/歌人) Ｑ１９８８

2769 **達宗**(たっそう;法諱) ？- ？ 江前期;上方の僧/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、
[世をのがれて後豊前国宇佐の社にまうでてよみける、
のがれこし我が身おもへば世の中のうさぞうれしき神のしるべは](林葉累塵;1190)
立造(たつぞう・朝川/片山)→ 述堂(じゅつどう・片山かたやま/朝川、儒者) Ｉ２１９６
辰蔵(たつぞう・溝口) → 直静(ちょくせい・溝口みぞぐち、幕臣/歌人) Ｌ２８６８
辰蔵(たつぞう・小林) → 茂雄(しげお・小林こばやし、藩士/砲術家) Ｎ２１１２
辰蔵(たつぞう・立石) → 好直(よしなお・立石たていし、藩士/歌人) Ｎ４７８６
辰蔵(たつぞう・三宅) → 西浦(せいほ・三宅みやけ、絵師) Ｏ２４５１
達三(たつぞう・日下部;変名)→八郎(はちろう・清河/清川/齋藤、尊攘家)Ｆ３６０１
達蔵(たつぞう・久世) → 安庭(やすにわ・久世くぜ/深田/水原、歌) Ｃ４５５２
達蔵(たつぞう・永田) → 直訓(なおふみ・永田ながた/森、国学/歌) Ｏ３２１４
竜蔵(たつぞう・田中) → 謙斎(けんさい・田中たなか、藩儒者) Ｅ１８９８
竜蔵(たつぞう・田中) → 竜蔵(りゅうぞう・高橋、儒者) Ｆ４９０６

T2604 **竜田**(たつた;組連) ？- ？ 江中期江戸麹町三丁目の川柳の組連、
取次;1762「川柳評万句合」入、
取次例;[虫薬やつての跡でどくをいゝ](1762万句合/前句;しげしげな事々々)、
(仮病に対する嫌み)
竜田(たつた・中野) → 竜田(りょうでん・中野、儒者) Ｋ４９８５

R2665 **立孝**(たつたか・細川ほそかわ、一字名;坊、忠興男/本姓源)1615-45*31* 武将;豊前小倉に生/成長後薙髪、
1637兄忠利と島原乱に出陣、没後に息子行孝が肥後宇土藩初代藩主、「立允翁詠草」著、
[立孝(;名)の号/通称/法号]剃髪号;立允りゅういん、束髪称;中務大輔、法号;泰雲院

G2623 **龍忠**(たつただ) ？- ？ 連歌、1445宗砌「文安雪千句」-49「広柏千句」-52「宝徳千句」入
達太郎(たつたろう・佐渡) → 三良(さんりょう・佐渡さど、医者/詩人) Ｍ２０８５

G2624 **達知**(たっち・興津おきつ・奥津)?- ？ 江中期歌人;宮川松堅門、
1723松堅「倭謌五十人一首」入、
[横雲とともに山をやわかれけむ今朝里に来てなく時鳥](謌五十人一首;47/朝郭公)
達竹(たっちく・逸竹斎) → 逸竹斎達竹(いっちくさいたっちく、読本、馬琴の変名?)Ｈ１１５７
辰千代(たつちよ・松平) → 忠輝(ただてる・松平まつだいら、藩主/歌人) Ｐ２６９２
辰千代(たつちよ・岡本) → 保助(やすすけ・岡本おかもと、神職/歌人) Ｆ４５５７
辰千代(たつちよ・加藤) → 泰候(やすとき・加藤かとう、藩主/焼物/書)Ｆ４５６７

2640 **達智門院**(たっちもんいん;女院号、名;奨子内親王、後宇多天皇皇女)1286-1348*63* 母;談天門院忠子、
後醍醐天皇の姉、1302内親王宣下/06伊勢斎宮/08退下/19皇后宮;院号宣下;同年落飾、
歌;続現葉・臨永・松花・藤葉集入集、新葉集2首;1363/1384、女房歌人;内侍・兵衛督など、
勅撰26首;新後撰(436/839/913)玉葉(1347/2073/2594)続千載(6首)続後拾(3首)以下、
[長月や秋の日数もいまいくか残るこずゑの紅葉をかみん](新後撰;秋436/奨子内親王)
[かはるよのかねてしらるるものならばさのみは人に契らざらまし](藤葉;恋509)
達智門院内侍(たっちもんいんのないし)→ 内侍(ないし・達智門院) ３２５０

達智門院兵衛督(たっちもんいんのひょうえのかみ)→ *兵衛督*(ひょうえのかみ・達智門院) Ｆ３７０７
達道(たつどう;法諱) → *寂本*(じゃくほん;道号・達道、曹洞僧) Ｗ２１２０
達堂(たつどう・石川) → *貫河*(かんが・石川いしかわ、絵師) Ｑ１５０３
辰遠(たつとお・斎藤) → *徳元*(とくげん・斎藤、武将/俳人) Ｋ３１６５
達富(たつとみ・真勢/真瀬ませ)→ *中洲*(ちゅうしゅう・真勢、易学/卜筮) Ｇ２８２０
辰直母(たつなおのはは・萩原)→ *辰直母*(ときなおのはは・萩原はぎわら、歌人) Ｘ３１０４

U2660 **鶴成**(たづなり・吉岡よしおか) ？－ ？ 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、紀州藩江戸国学所肝煎吉岡鶴群たづむらの一族?
[暮れ残る春をいざとや響くらん花をさそひし入あひの鐘](大江戸倭歌;368/暮春鐘)

竜之進(たつのしん・村田) → *氏英*(うじひで・村田、藩士/記録) Ｃ１２６７
竜之進(たつのしん・佐藤) → *延陵*(えんりょう・佐藤さとう、儒者/易学) Ｆ１３５１
辰之進(たつのしん・臼杵) → *渓村*(けいそん・臼杵うすき、儒者/藩士) Ｅ１８７５
達之進(たつのしん・堀内) → *吉啓*(よしひろ・堀内ほりうち、歌人) Ｐ４７００

2637 **辰之助**(たつのすけ・初世水木みずき)1673-1745*73* 元禄期京歌舞伎女方、所作の名手:傾城・猫など

G2625 **達之助**(たつのすけ・堀ほり、名;政徳/徳祉、中山武徳男)1824-94 長崎の通事/堀政信の養子、
蘭学;西吉兵衛門/英学も修得、阿蘭陀通詞、1853ペリーの通訳/和親条約の翻訳、
下田奉行所在勤中の罪を得;1855-59入牢、蕃書調所翻訳方/洋書調所主任、
1862「英和対訳袖珍辞書」編、「和米始末記」著、
[達之助(;通称)の別通称]主水/達之/達五

辰之助(たつのすけ・安田/山県)→ *璣*(たまき・山県、儒者) Ｓ２６２３
辰之助(たつのすけ・南部) → *利雄*(としかつ・南部なんぶ、藩主/風流人) Ｍ３１２６
辰之助(たつのすけ・下郷) → *亀世*(きせい・下郷しもさと/千代倉、造酒業/俳人) Ｂ１６３４
辰之助(たつのすけ・古市) → *正利*(まさとし・古市ふるいち、和算家) Ｌ４０１５
辰之助(辰之輔たつのすけ・古屋)→ *魯山*(ろざん・古家ふるや、詩人) Ｂ５２６０
辰之助(たつのすけ・江口) → *孤月*(こげつ・江口、太白堂６世/俳人) Ｃ１９４４
辰之助(たつのすけ・宍戸) → *大成*(おおなり・宍戸/柿島、藩士/国学) Ｃ１４８１
辰之助(たつのすけ・久保寺)→ *正福*(まさとみ・久保寺、幕臣/和算家) Ｅ４０５８
辰之助(たつのすけ・比留) → *正記*(まさのり・比留ひる/藤原、幕臣/歌) Ｌ４０６０
辰之助(たつのすけ・揚/上野)→ *弘斎*(こうさい・揚あげ/上野あげの、藩士/国学) Ｉ１９９５
辰之助(たつのすけ・鈴木/鱸)→ *透軒*(とうけん・鈴木/鱸すずき、儒者/詩) Ｄ３１３７
辰之助(たつのすけ・鈴木) → *義方*(よしかた・鈴木すずき、商家/儒・歌) Ｎ４７５０
辰之助(たつのすけ・朝野) → *泰彦*(やすひこ・朝野あさの、国学/神職) Ｃ４５７１
辰之助(たつのすけ・永島) → *芳虎*(よしとら・歌川うたがわ/永島、絵師) Ｆ４７１１
辰之助(たつのすけ・辻) → *隆好*(たかよし・辻つじ、商家/国学/勤王) Ｙ２６２９
辰之介(たつのすけ・三上) → *和及*(わきゅう・三上みかみ/高村、俳人) ５３１５
辰之介(たつのすけ・知久) → *頼中*(よりなか・知久ちく、旗本/領主/歌) Ｎ４７９１
辰之允(たつのすけ・引田) → *利亮*(としすけ・引田ひきた、藩士/神職/歌) Ｗ３１１７
辰信(たつのぶ・清原;変名)→ *信処*(のぶさだ・森、儒/国学/記録) Ｂ３５４８
竜廼門(たつのもん) → *檜園梅明*(かいえんうめあき、狂歌) Ｉ１５４２
竜廼屋(たつのや・柴田玉淵子)→ *弘器*(ひろき・竜廼屋、狂歌) Ｆ３７７５
田鶴屋(たづのや) → *橋彦*(橋比古はしひこ・村田、国学者) Ｅ３６３７
田鶴舎(たづのや) → *春門*(はるかど・村田/宮崎、橋彦の養子) ３６３１
田鶴舎(たづのや) → *豊雄*(とよお・豊城とよき、神職/国学) Ｖ３１４６
田鶴舎(たづのや) → *定穀*(さだよし・水沢みずさわ、商家/国学) Ｐ２０５３
田鶴廼舎(多豆能屋/多豆舎たづのや)→*春門*(はるかど・村田、国学/歌) ３６３１
田鶴廼舎(たづのや) → *義胤*(よしたね・善方よしかた、国学者) Ｑ４７１０
多豆廼舎(たづのや) → *豊子*(ゆたかこ・水沢みずさわ、歌人) Ｈ４６３１
田鶴家友臣(たづのやともおみ)→ *友鶴*(ともつる・千歳軒、狂歌) Ｐ３１８９

Z2657 **立敬**(たつのり・松田まつだ、旧姓;種谷)1823-94*72* 能登鹿島郡七尾の儒者/詩・書;篠崎小竹門、
画・歌;浦上春琴門、若くして所ノ口町年寄、維新後;鹿島郡区長/七尾市正、詩歌俳人、

[立敬(;名)の通称/号]通称;喜兵衛・久平(代々の称)、
号;淇洲きしゅう/袖陽しゅうよう/楠涯/橡石しょうせき
達夫(たつふ・木下) → *蘭皐*(らんこう・木下/豊臣/木、藩士/漢学)Ｂ４８９８
達夫(たつふ・百川) → *玉川*(ぎょくせん・百川ももかわ、藩士/儒者) Ｉ１６８８
達富(達夫たつふ・真勢) → *中洲*(ちゅうしゅう・真勢/真瀬ませ、易占家)Ｇ２８２０

G2626 **達布**(たっぷ) ？－ ?1773以前没 京の俳人、1773几董「あけ烏」259;遺吟入
[我が宿の其の又宿や幮(蚊帳)の内](あけ烏;259)
達房(たつぼう・青木) → *茂房*(しげふさ・青木/源/向井、国学者) Ｓ２１５２
辰政(たつまさ→ときまさ) → *武雄*(たけお・丸山、藩家老/歌) Ｏ２６２９
辰政(たつまさ・黒田) → 辰政(ときまさ・黒田くろだ、歌人) Ｔ３１７３
立政(たつまさ・細川) → *斉護*(なりもり・細川ほそかわ、藩主/歌) Ｉ３２３５
辰丸(たつまる) → *能監*(のうかん・桜井) ３５２８
辰丸(たつまる・宇津木) → *静斎*(せいさい・宇津木うつぎ、儒者) Ｉ２４３１
辰丸(たつまる・高田) → *武生*(たけなり・高田たかだ/榎倉、神職/国学)Ｙ２６００
竜丸(たつまる・青山) → *清友*(きよとも・青木あおき、俳人) Ｐ１６９９
竜丸(たつまる・小林) → *眞中*(まなか・小林/度会、神職/狂言) Ｊ４０９７

G2627 **龍麻呂**(たつまろ・丈部はつせつかべ)?－ ？ 万葉443題中人物/廷臣;摂津国班田の史生(書記)、
729難波で班田事務の時自ら縊死(;判官大伴三中の長・反歌443-444の挽歌)

W2636 **竜麿**(たつまろ・印具おしすみ、通称;文庫)1756-1812*47* 近江彦根藩士;藩老、
歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、虎彦の父

2638 **竜麿**(たつまろ・石塚いしづか、司馬右衛門しばえもん男)1764-1823*60* 遠州敷地郡細田村の大庄屋の生、
国学・歌;1786内山真竜門/89本居宣長・春庭門、上代特殊仮名遣研究の先駆者、
1801「古言清濁考」11「科戸風」著/19「鈴屋大人都日記」編、「日本書紀類聚」著、
「歌語うたかたり斥非」「万葉集種々考」「万葉集標柱」「万葉記紀等雑考」「詞玉衣」「児手柏」著、
「花のしら雲」「眞葛葉」「かなづかひおくの山路」「古語拾遺解」「病床漫禄辨」外著多数、
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;10首入、
[四方八面に山はあれども日本の富士の高ねは山の大王](八十浦;441/富士山)、
[竜麿(;名)の別名/通称/屋号]別名;八十右衛門(初名)/矩慶、通称;安右衛門、
屋号;槇舎まきのや
竜麿(たつまろ・内山) → *眞龍*(またつ・内山うちやま、国学者) ４０３０

2639 **田鶴丸**(たづまる・蘆辺あしべ、本姓;岩田いわた、名;致陳よしのぶ)1759-1835海難*77* 名古屋有松紋の藍染屋、
狂歌・唐衣橘州門/尾張酔竹側判者、家業を女婿に譲渡/法体、国学;1792本居宣長門、
上京;西行庵住/村田春海紋/1835長崎より帰途明石沖で遭難死、1792「狂歌早案集」編、
1794「初土産集」1802「狂歌初日集」06「狂歌花の筵」17「狂歌弄花集」29「狂歌五十鈴川」編、
1830「狂歌江戸の花」31「菱花狂歌集」「狂歌蘭亭帖」編、外著多数、1787「才蔵集」入、
[蘆辺田鶴丸(;号)の通称/別号]通称;伝兵衛/次郎兵衛、
別号;春秋亭可蘭/鶴雛人/三蔵楼/橘庵/橘庵田鶴丸、屋号;近江屋
[紅葉する山みな酔へりその中にひとり醒めたる松はすねもの](屈原を掛ける)
巽(たつみ) → *湖十*(こじゅう・２世、俳人) Ｃ１９８３
巽(たつみ・長沼) → *信元*(のぶもと・野沢のざわ/藤原、神職/国学) Ｊ３５５４
巽(たつみ・松平) → *正広*(まさひろ・松平まつだいら、藩士/国学) Ｓ４０７０
巽(たつみ・茂木) → *知利*(ともとし・茂木もてぎ、藩士/国学/歌)Ｗ３１６６

U2646 **鶴群**(たづむら・吉岡よしおか) ？－ ？ 江中後期;紀伊和歌山藩士、
国学者・歌人;本居大平(1756-1833)門、紀州藩江戸国学所肝煎;江戸住、
歌人吉岡鶴成との関係?
[鶴群(;名)の初名/通称]初名;英美、通称;宅右衛門

R2666 **達聞**(達門たつもん;法諱・不説ふせつ;道号)?-1758 金沢曹洞僧;石翁雲補門/嗣法、金沢松月寺8世、
越中富山の光厳寺23世、「松月寺由緒伝説記」著
辰也(たつや・加茂) → *茂庭*(しげにわ・加茂かも、神職/国学) Ｎ２１８９
辰弥(たつや・浜田) → *光顕*(みつあき・田中たなか/浜田、政治家) Ｊ４１４２

竜也(たつや・佐藤)　→　*延陵*(えんりょう・佐藤さとう、儒者/易学)　Ｆ１３５１
達也(たつや・井上)　→　*元春*(もとはる・井上いのうえ、国学者)　Ｊ４４１３

G2628 **裁之**(たつゆき・長井/永井ながい)1785-1864*80*　紀伊和歌山藩士/江戸の生;国学;村田春海門、
のち本居内遠門、1855江戸藩邸古学館で教授/歌人、「万葉長歌并古事歌」「雑録」編、
「杉の落葉」、1860「新猿楽記考」著、
[裁之(;名)の通称/号]通称;四郎左衛門/長橘/長吉/みなもとの裁之、号;杉廼舎

R2667 **立之**(たつゆき・細川ほそかわ、立礼男)1784-1818*35*　母;岩城隆泰女、1787(4歳)肥後宇土藩主、
(父が本藩熊本藩相続)、1800参向公卿の馳走役/03・05桜田門防の代役/07勅使院使馳走役、
新田開発/藩財政再建のため緊縮政策実施、1801「桂源遺稿」編、幼名;与松、斉護(立政)の父

R2668 **辰行**(たつゆき・奥倉おくくら)?-1859　江戸神田多町の青物商、絵師;魚類画、狩谷棭斎に認められた、
1857「水族写眞」、「魚仙水族写眞」「異魚図纂・熱海百鱗」「水族四帖」「本草魚類正譌全図」著、
[辰行(;名)の字/通称/号]字;子園、　通称;甲賀屋長右衛門、号;魚仙ぎょせん、法号;行住院

龍幸(たつゆき・斎藤)　→　*徳元*(とくげん・斎藤、武将/俳人)　Ｋ３１６５
立之(たつゆき・森もり)　→　*枳園*(きえん・森、医者/国学)　Ｆ１６０３
辰行(たつゆき・岩窪/呉)　→　*北渓*(ほっけい・魚屋ととや、魚商/絵師)　Ｅ３９６０
達之(たつゆき・堀)　→　*達之助*(たつのすけ・堀ほり、通事/英語)　Ｇ２６２５

R2670 **立義**(たつよし・竹村たけむら)？-　？　江後期関東の地誌家、紀行文作者/俳人/画、
関東各地を遊歴、1814「江戸諸名家墓所」編/18「川越松山之記」「日光巡拝図誌」、
1813「秩父順巡図絵」25「杉田図会」27「百草紀行」40「秩父三十四観音巡廻記」外著多数、
[立義(;名)の号]　独笑庵/潮橋

F2629 **伊達**(だて)　？-　？　江前期奥州岩代桑折の俳人;1694不角「へらず口」入、
[己おれふんで其方そなたの足は痛まぬか](へらず口/前句;赤面したる人笑止なり)
(自分が過って人の足を踏み謝る前に相手からあなたの足は大丈夫かと言われ赤面)

楯衛門(たてえもん・末田)　→　*眞穂*(まほ・末田すえだ、神職/国学)　Ｑ４０３２

Y2676 **楯雄**(たてお・楢崎ならさき、旧姓;鶴田)1855or51-1876早世*22or26*　肥後熊本の国学者;齋藤雅言門、
敬神党に参加;1876(明治9)神風連の乱で割腹自刃、
辞世[たらちねの植えし小松も年をえて皇御国の御楯とぞなる]

楯雄(たてお・狩野)　→　*養長*(やすなが・狩野かのう/木原、絵師/国学)Ｆ４５７２

R2671 **献臣**(たておみ・宮川みやがわ)1743-1813*71*　近江彦根藩士/歌人、「日和日記」著、
[献臣(;名)の字/通称/号]字;徴卿、通称;五郎兵衛、号;雪舎ゆきのや/伊福

盾臣(たておみ・木原)　→　*藤園*(とうえん・木原、藩士/故実/国学)　Ｂ３１５３
立川菊馬(たてかわきくま)　→　*雀庵*(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆)Ｇ２１０５
立川舎(たてかわしゃ)　→　*焉馬*(初世えんば・烏亭、落語/戯作者)　Ｂ１３３３
楯記(たてき・浦)　→　*保臣*(やすおみ・浦うら/後藤/羽山、藩士/神風連)Ｆ４５４５

X2663 **建眞**(たてざね・須佐すさ、建敏男)1832-1911*80*　出雲飯石郡の須佐神社宮司、国学;鈴木重胤門、
建勲・広主の父、
[建眞(;名)の別名/通称/号]初名;清彦、通称;琴雄、号;養浩

楯太(たてた・木原)　→　*藤園*(とうえん・木原、藩士/国学/故実)　Ｂ３１５３

X2664 **建敏**(たてとし・須佐すさ、)1801-1886*86*　出雲飯石郡の須佐神社宮人、国学者、建真の父

楯足(たてたり)　→　*稲足*(いなたり・土師はにし、万四期)　Ｂ１１７４

X2637 **建直**(たてなお・境さかい、齋藤貞順2男)1836-1900*65*　長門萩土原村生、学問;1850(嘉永3)吉田松陰門、
江戸に遊学;1856(安政3)松下村塾に入門、長門萩藩士境与三兵衛養子;1868境二郎に改称、
長門萩藩士、儒;塩谷しおのや宕陰門、1863(文久3)藩校明倫館文章掛/教授、
毛利元敏(長府藩主)・徳山の毛利元功を指導、維新後;長州藩の権大参事/1878島根県令、
1890松下村塾の建物の保存会創設、
[建直(;名)の字/通称/号]字;子彦、通称;栄蔵(;初称)/**二郎**、号;泉峰/温軒

楯成(たてなり・緒方)　→　*弘国*(ひろくに・緒方おがた、神職/国学)　Ｉ３７７７
伊達入道(だてにゅうどう)　→　*宗紀*(むねただ・伊達だて、藩主/築庭/歌)　Ｄ４２５４
楯舎(たてのや、楯之舎主人)→　*元義*(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人)４４２４
楯乃舎(たてのや)　→　*盛好*(もりよし・山下やました、神職/国学者)Ｌ４４８０

蓼舎(蓼倉/蓼廼舎たでのや)→*良臣*(よしおみ・中村なかむら、国学/歌)　Ｃ４７４１
蓼舎(たでのや)　→　*良顕*(よしあき・中村、良臣の養子/国学/歌)Ｃ４７０２
蓼舎(たでのや)　→　*雪臣*(ゆきおみ・垣本かきもと/菅原、歌/画)　Ｅ４６３７
館林宰相(たてばやしのさいしょう)→　*綱吉*(つなよし・徳川/松平、5代将軍)　Ｂ２９４０
館林参議(たてばやしのさんぎ)→　*綱吉*(つなよし・徳川/松平、5代将軍)　Ｂ２９４０
X2615 **建彦**(たてひこ・佐久間さくま/小池、旧姓;青山)?-?　飛騨高山の国学者;田中大秀おおひで(1777-1847)門、
[建彦(;名)の通称]　治三郎/弥兵衛
楯彦(たてひこ・都甲)　→　*国臣*(くにおみ・平野/大中臣、勤王/歌)　１７０６
Y2692 **健平**(たてひら・野村のむら、碧松齋男)1808-84*77*　飛騨古川の国学者/歌;田中大秀・本居内遠門、
儒/詩人;父門、教育者;私塾[群雀園]開設/[習文館(明治)]主宰、「桃葦遺芳とうきんいほう」共編、
[健平(;名)の通称/号]通称;辰次郎/与三右衛門/清左衛門/信輔、
号;碧桃/王白石/松廼舎/後熊洞山人
蓼生園(たでふのその)　→　*良臣*(よしおみ・中村、国学/歌)　Ｃ４７４１
蓼生園(たでふのその)　→　*良顕*(よしあき・中村、良臣養子/国学/歌)Ｃ４７０２
荘町(たでまち)　→　*雪臣*(ゆきおみ・垣本かきもと/菅原、歌/画)　Ｅ４６３７
建丸(たてまる・大江;変名)→　*年治*(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学)Ｎ３１４３
建通(たてみち・久我)　→　*建通*(けんつう・久我、歌人)　Ｅ１８４０
Z2606 **立守**(たてもり・林はやし、)1830 - 1909*80*　近江彦根の国学者/摂津八部郡長田神社宮司、
元則(1859-1914/湊川社宮司)の父、1884(明治17)「歌詩句集」著、
[立守(;名)の通称/号]通称;六九蔵、 号;昨夢居士/皆無空山人
立之(たてゆき・森)　→　*枳園*(きえん・森、医、書誌)　Ｆ１６０３
楯行(たてゆき・加屋)　→　*霽堅*(はるかた・加屋かや、藩士/神職/神風連)Ｊ３６８８
R2672 **帯刀**(たてわき・中条ちゅうじょう)?-　?　安桃期医者:中条流産科医・金創医、豊臣秀吉家臣、
支倉常長に随行し海外でキリスタンと関係があったという、「中条流金創」著
G2629 **帯刀**(たてわき・三宅みやけ)　? -　?　江前期国学者、1695「官職備考」
[帯刀(;通称)の字/号]字;尚絅、 号;**環翠**かんすい/隠甫/遵生軒じゅんせいけん
R2673 **帯刀**(たてわき・小松こまつ、名;清廉、肝付きもつき兼善男/小松清猷の養子)1835-70*36*　母:島津久貫女、
薩摩藩士;島津久光に従う/家老、京にて薩摩藩を代表し国事;禁門変・薩長同盟に尽力、
大政奉還に関与、維新後;参与兼外国事務掛/総裁局顧問/外国事務局判事、大阪で病没、
1855-56「肝付尚五郎日記」、「小松帯刀日記」著
[帯刀(;通称)の別通称/号]別通称;尚五郎、 号;観瀾
R2674 **帯刀**(たてわき・山本やまもと、名;義路、安田渡男)1845-68刑死*24*　1852山本勘右衛門の養子;
越後長岡藩士;側用人見習/1867家督継嗣;長岡藩執政/家老、
北越戊辰戦争では河合継之助を支援し活躍;会津で官軍に捕縛され断首、
儒;伊藤東岸・東岳門/兵法にも精通、「越後謙信軍法水鑑」著、
[帯刀(;通称)の幼名/号]幼名;堅三郎、 号;竹塘
帯刀(たてわき・野田)　→　*諸成*(もろしげ・狛こま、楽人/国学)　Ｈ４４２９
帯刀(たてわき・伊勢)　→　*貞時*(さだとき・伊勢/平、故実家)　Ｉ２０７６
帯刀(たてわき・曾禰/柳)　→　*淇園*(きえん・柳沢、藩士/詩/絵師)　１６０３
帯刀(たてわき・千葉/臼井)→　*雅胤*(まさたね・臼井/平/千葉、伯家神道)Ｄ４０５７
帯刀(たてわき・福井)　→　*末美*(すえよし・福井/度会/檜垣/久志本、神職)Ｆ２３７６
帯刀(たてわき・酒井)　→　*忠眞*(ただざね・酒井さかい、藩主/歌人)　２７５２
帯刀(たてわき・石出)　→　*吉深*(よしふか・石出いしで、幕臣/国学/歌)Ｇ４７７２
帯刀(たてわき・上田)　→　*仲敏*(なかとし・上田、藩士/砲術/歌)　Ｅ３２７６
帯刀(たてわき・細川)　→　*行孝*(ゆきたか・細川ほそかわ/源、藩主/歌)　４６１８
帯刀(たてわき・小沢)　→　*蘆庵*(ろあん・小沢おざわ/平、歌人)　５２０１
帯刀(たてわき・滝川)　→　*南谷*(なんこく・滝川たきがわ、幕臣/詩人)　Ｊ３２００
帯刀(たてわき・安島/戸田)→　*信立*(のぶたつ・安島あじま、家老/藩政改革)Ｂ３５８７
帯刀(たてわき・松井)　→　*幸隆*(ゆきたか・松井/山田、国学/歌人)　Ｅ４６６０

帯刀(たてわき・出口)　→　*延経*(のぶつね・出口/度会、神職)　Ｃ３５１４
帯刀(たてわき・黒瀬)　→　*可弘*(よしひろ・黒瀬/度会/岡田、神職)　Ｇ４７６３
帯刀(たてわき・菊池)　→　*半隠*(はんいん・菊池、儒家、耕斎男)　Ｈ３６２２
帯刀(たてわき・巌渓)　→　*嵩台*(すうだい・巌渓/巌/岩/嵓、医/儒者)Ｆ２３３１
帯刀(たてわき・中井)　→　*方明*(まさあき・中井なかい、暦算家)　Ｂ４００３
帯刀(たてわき・島)　→　*花隠*(かいん・島しま、幕臣/本草学)　Ｊ１５１８
帯刀(たてわき・長谷川)　→　*安卿*(やすあきら・長谷川、幕臣/歌人)　４５８５
帯刀(たてわき・人見)　→　*雪江*(せっこう・人見、幕臣/儒者/詩)　Ｋ２４８８
帯刀(たてわき・松平)　→　*忠敏*(ただとし・松平、幕臣/歌人)　Ｑ２６０８
帯刀(たてわき・片桐)　→　*宗幽*(そうゆう・片桐かたぎり、幕臣/茶人)　Ｊ２５０３
帯刀(たてわき・松平)　→　*頼起*(よりおき・松平らっだいら、藩主/和学)　Ｐ４７１８
帯刀(たてわき・伊奈)　→　*建彦*(たけひこ・伊奈いな、神職/国学)　Ｏ２６６５
帯刀(たてわき・土屋)　→　*廉直*(ただなお・土屋つちや、幕臣/記録)　Ｑ２６２３
帯刀(たてわき・土屋)　→　*温直*(よしなお・土屋、廉直男/幕臣)　Ｆ４７１８
帯刀(たてわき・井伊/内藤)→　*政義*(まさよし・内藤/井伊、藩主/歌)　Ｉ４０６９
帯刀(たてわき・朽木)　→　*稙元*(たねもと・朽木くつき、藩主/国学)　Ｗ２６８８
帯刀(たてわき・並河)　→　*保敬*(やすたか・小泉/坂上、国学者)　Ｂ４５８４
帯刀(たてわき・榎倉/福井)→　*端隠*(たんいん・福井/度会/榎倉、神職/篆刻)Ｔ２６１５
帯刀(たてわき・千村)　→　*峒陽*(とうよう・千村ちむら/木曾、儒者/詩)Ｈ３１８７
帯刀(たてわき・朝倉)　→　*清泉*(せいせん・上林かんばやし/金森、茶師)　Ｊ２４０９
帯刀(たてわき・目賀田)　→　*守蔭*(もりかげ・目賀田めがた、幕臣/蝦夷検分)Ｆ４４２６
帯刀(たてわき・目賀田)　→　*文村*(ぶんそん・目賀田めがた、絵師)　Ｇ３８０９
帯刀(たてわき・伊高)　→　*重躬*(しげみ・伊高いだか/田部、神職/歌)　Ｎ２１３１
帯刀(たてわき・岩崎)　→　*允健*(としたけ・岩崎いわさき/藤原、神職/国学)Ｕ３１２９
帯刀(たてわき・国本)　→　*道男*(みちお・国本くにもと、神職/国学)　Ｉ４１９７
帯刀(たてわき・宇都宮)　→　*義路*(よしみち・佐竹さたけ/源、藩士/歌)　Ｋ４７９０
帯刀(たてわき・堀)　→　*利邦*(としくに・堀ほり、旗本/幕臣/歌)　Ｔ３１３９
帯刀(たてわき・小泉)　→　*勝善*(かつよし・小泉こいずみ/岸田、神職/国学)Ｓ１５８７
帯刀(たてわき・高木)　→　*重枝*(しげえ・高木たかぎ、藩士/歌人)　Ｎ２１１１
帯刀(たてわき・河野)　→　*通理*(みちまさ・河野こうの、神職/国学)　Ｊ４１１２
帯刀(たてわき・桜井)　→　*貞贇*(さだよし・桜井さくらい/八洲、神職/国学)Ｏ２０５８
帯刀(たてわき・土岐)　→　*頼旨*(よりむね・土岐とき、幕臣/対外交渉)Ｊ４７８２
帯刀(たてわき・曾我部)　→　*則温*(のりあつ・曾我部そがべ/秦/安田、庄屋/歌)Ｉ３５８５
帯刀(たてわき・平川)　→　*昌信*(まさのぶ・平川ひらかわ/平、国学/神職)Ｓ４０１３
帯刀(たてわき・中根)　→　*忠富*(ただとみ・中根なかね、藩士/家老/歌)Ｙ２６５８
帯刀(たてわき・日置)　→　*忠尚*(ただひさ・日置へき/池田、藩老/画)　Ｚ２６４０
帯刀(たてわき・古川)　→　*豊彭*(とよちか・古川ふるかわ/前田、神職)　Ｗ３１２８
帯刀(たてわき・丸岡)　→　*正孝*(まさたか・丸岡まるおか/度会/秦、神職/書家)Ｓ４０７８
帯刀左衛門(たてわきざえもん・斎藤)→*妙椿*(みょうちん;法諱・斎藤さいとう、武将/連歌)４１４２
帯刀左衛門(たてわきざえもん・今井)→*宗薫*(そうくん・今井いまい、商家/茶/俳人)Ｂ２５１４
帯刀允(たてわきのすけ・池田)→　*正能*(まさよし・池田/藤原、豪族/連歌)Ｉ４０４２
多伝園(たでんえん・藍沢)　→　*無満*(むまん・藍沢あいざわ、俳人/教育)　Ｄ４２０１
兌堂(だどう)　→　*冬映*(2世とうえい・雨沢、俳人)　Ｂ３１３０
兌得郎(だとくろう)　→　*淙庵*(そうあん・津村/円、商家/随筆/歌)２５４７
手刀良(たとら)　→　*乎刀良*(おとら・物部、万葉歌人)　１４９７
田中殿(たなかどの)　→　*忠家*(ただいえ・九条くじょう、廷臣/歌人)　Ｅ２６８３
田中法印(たなかほういん→でんちゅうー)→*行清*(ぎょうしょう;法諱、社僧/歌人)Ｃ１６６４
G2630 **田辺史福麿弟**(たなべのふひとさきまろのいろと)?-?　万葉集・1804題中人物(挽歌;田辺福麿の歌)
多二右衛門(たにえもん・川上)→　*文和*(ぶんわ・川上かわかみ、医者/俳人)Ｇ３８８８

檀越(たにおち・碁)　→　*檀越*(だんおち・碁ご、万葉歌人)　Ｈ２６９９
谷金川(たにきんせん)　→　*千町*(ちまち・宝田、中川泰重、藩士/合巻)Ｆ２８４２
谷蟆(谷倶久たにぐく・矢野)→*玄道*(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者)　Ｃ１８８４
谷九郎(たにくろう・矢野)　→　*玄道*(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者)　Ｃ１８８４
谷五郎(たにごろう・木暮)　→　*賢樹*(かたき・木暮こぐれ、医者/国学者)　Ｍ１５９２
谷崎勾当(たにざきこうとう)　→　*永律*(ながのり・谷崎、医/歌人)　Ｆ３２２９
田螺(たにし・太田)　→　*保興*(やすおき・太田おおた/源、教育/歌人)Ｆ４５５４
田にし金魚(たにしきんぎょ)→　*金魚*(きんぎょ、医者/洒落本作者)　Ｄ１６９１
谷助(たにすけ・菅谷)　→　*得峨*(得蛾/得我とくが・菅谷、俳人・絵師)Ｋ３１５２
谷阿闍梨(たにのあじゃり)　→　*皇慶*(こうげい;法諱、天台僧)　Ｉ１９４３
谷阿闍梨(たにのあじゃり)　→　*明賢*(みょうけん;法諱、叡山天台僧)　Ｂ４１１２
谷之坊(たにのぼう)　→　*休甫*(きゅうほ・津田、俳人/狂歌)　Ｃ１６１０

G2631 **谷水音**(たにのみずおと)　？－　？　江中期甲府の絵師;三輪花信斎門?、
狂歌・橘州門(俳優風)、1787「狂歌才蔵集」・新玉集入、
[のぼりなば江戸の作者の一こぶしさぞひしぐらん難波津のはな](才蔵集;七離別309)
(詞書;俳優わざをぎの作者斉せい馬雪ばせつ[歌舞伎作者]が難波にゆくをおくる)

渓廼舎(たにのや)　→　*盛雄*(もりたけ・堤つつみ/荒木田、神職/国学)Ｋ４４６５
多仁丸(たにまる・土屋)　→　*寅直*(とらなお・土屋つちや、藩主)　Ｒ３１７７

R2675 **谷守**(たにもり・羽生はにゅう、名;済通)?-1874　佐渡竹田村の里正/儒;新井精斎・太田熊山門、
書;巻菱湖門、俳人;諸国行脚、江戸の西馬らと交流唱和、「荒海集」著、
[谷守(;号)の字/通称]字;公楫、通称;甚左衛門、鵜飼郁次郎の父

G2632 **丹波大女娘子**(たにわのおおめのおとめ)?- ？　万葉四期歌人、女官、万葉集3首;711-713
[鴨鳥かもとりの遊ぶこの池に木の葉落ちて浮きたるこころ我が思はなくに](万葉;四711)
他人太郎(たにんたろう)　→　*大学*(だいがく・今中いまなか、藩士/日記)　Ｊ２６４８

G2633 **田主**(たぬし・大伴おおとも宿禰すくね、字;仲郎ちゅうろう、安麻呂男)?-? 母;巨勢郎女こせのいらつめ、旅人たびとの弟、
万葉二期歌人;127、126(石川郎女の恨みの歌)の左注;田主は容姿佳艶/風流秀絶とある、
[みやびをに我はありけりやど貸さず帰しし我そみやびをにはある](127;郎女への返歌)

G2634 **楽**(たぬし・たのし・ら・今村いまむら、別名;虎成とらなり、勘兵衛男)1765-1810*46* 土佐高知の和漢学:谷眞潮門、
医者;桑名玄井門:高岡郡で医を開業、1799土佐藩御歩行格で上京/国学;伴蒿蹊・本居宣長門、
1804(文化元)京土佐藩邸小留守居役在任中に同僚の藩金横領罪に連座;本国召還;
幡多郡に追放刑;具同・下茅と村々を転々/大浜村で清水浦庄屋浜田千束や商人の支援あり、
医業と寺子屋で生計;1810(文政7)没、万葉調歌人、門人の浜田千束が墓碑建立、
「今村楽家集(花園集)」、1795「うなひの轉」99「花園日記」1800「卯の花日記」著、
1803「古万葉集」美水と共編、「天路の橋」「土佐日記ほやのつまのいつしの考」「贖日記」著、
「袖介記」「袖貝の記」、狂歌;「虎成集」著、
歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末;祇園祭の長歌1首短歌2首入、
[かぎろひの夕日のくたち大御輿うかみいでけり鴨の川辺に](八十浦;320)、
[そこひなく濁りつくしてかゝみ川みなもと遠く月はすみけり](辞世句;
鏡川は高知の川;土佐藩の政治腐敗を嘆く/月澄むは清水での心境か)
※藩金費消の再調査で無関係と判明;没後赦免;義母の外孫植田右馬之助が家名継嗣、
[楽(;名)の字/通称/号]字;子成、通称;丹次、
狂号;下手的/渋柿蒂成しぶがきのへたなり/名無具同字/仙台通蔵、法号;鏡月玉光居士

X2604 **たね**(種子たねこ・児玉こだま、)1832-1909*78*　三河吉田の国学者/歌;吉田藩士の橋本弘道門
種(たね・佐久間)　→　*果園*(かえん・佐久間、藩士/歌人)　Ｂ１５１３

R2676 **種逢**(たねあい・薬師寺やくしじ、通称;亦次郎/又次郎、種永男)?-? 江前期砲術家、1689「自覚流」
種彰(たねあき・枝吉)　→　*南濠*(なんごう・枝吉えだよし、藩士/儒者)　Ｉ３２９７
胤明(たねあき・千葉)　→　*聖聡*(しょうそう;法諱、浄土僧)　Ｔ２２９７
胤明(たねあき・谷田部/高倉)→　*逸斎*(いっさい・高倉、藩士/考証)　Ｈ１１１５

Z2611 **胤敦**(たねあつ・原はら、通称;半左衛門)1747-1827*81*　甲斐武田家の家臣原胤歳の子孫、
武蔵多摩郡の八王子千人同心頭、対ロシア防衛上幕府支配となった蝦夷地の開拓を申請、

1800(寛政12)弟新介と千人同心百名を率いて蝦夷に渡る;胤敦は白糠・新介は勇払を開拓、
病人や死者が続出し開拓事業中止;多くの者が帰国/1808胤敦も八王子に帰郷、胤広の父、
1813(文化10)幕命で塩野適斎・植田孟縉と共に「新編武蔵風土記稿」の編纂に従事、
1827(文政10)病没;1830(天保元)孫の原胤禄が「新編武蔵風土記稿」を完成

2641 **稙家**(たねいえ・近衛このえ、一字姓;梅/橘、尚通男)1503-66*64* 廷臣;1525関白;氏長者/35准三宮、
1537太政大臣、歌、連歌;宗牧門、古典籍書写、父から古今伝授/息前久や紹巴に伝授、
「伊勢物語恵雲院抄」、1537「伊予千句」68「石山千句」参加、百韻多数;宗牧宗養宗長らと、
[稙家の号] 号;恵雲院、法名;大円、道号;覚天、法号;恵雲院天大円
男 → *前久*(さきひさ・近衛、関白太政大臣) ２０１２
女 → *玉栄*(ぎょくえい・花屋、源氏物語研究者)Ｈ１６１７
胤氏(たねうじ・東/平) → *素純*(そじゅん・東とう/平、僧/歌人) Ｄ２５８５
種雄(たねお・原田) → *復初*(ふくしょ・原田はらだ、儒者) Ｂ３８５７

G2635 **胤臣**(たねおみ・津金つがね、胤忠男)1727-1801自決*75* 尾張藩士;1742家督継嗣;馬廻組/勘定奉行、
錦織奉行、1791熱田奉行・船奉行、陶工;南京焼の磁器指導:瀬戸焼の振興、
新田開発出費の責任で自決、
歌;冷泉為泰門、横井也有を賞賛「夢の蹤」序、「津金胤臣和歌集」「陶器法伝記」「伊瑳々免」著、
[胤臣(;名)の字/通称/号]字;子隣、通称;新丞/新之丞/文左衛門、号;黙斎/鷗洲、
法号;鉄心道肝居士、実行の父/胤貞の養父
種臣(たねおみ・副島) → *蒼海*(そうかい・副島、藩士) ２５８４
種臣(たねおみ・平野) → *国臣*(くにおみ・平野/大中臣/小金丸、国学/勤王/歌)１７０６
胤影(たねかげ・宮和田) → *勇太郎*(ゆうたろう・宮和田みやわだ/平、尊攘)Ｈ４６３３

2642 **種員**(たねかず・柳下亭りゅうかてい、本姓;板倉/坂本)1807-58*52* 江戸の商人;酒屋・小間物商など転業、
浅草今戸町で坂本屋新七を名乗り書肆経営、講釈師;乾坤坊良斎門;2代目紀海音を名乗る、
長編合巻;柳亭種彦門、黙阿弥と親交、1839-「児雷也豪傑譚」12-39編、44「はなし大全」、
1849-「白縫譚」初-38編、1852-「仮名反古一休草紙」初-11編、55-「童謡妙々車」外著多数、
[柳下亭種員(;号)の通称/別号]通称;金次郎/万太郎/坂本屋新七、別号;麓園、
法号;然誉常本居士
酒井弁四郎(上州安中藩士/-1858)と同一説あり?
胤員(たねかず・西坊) → *千影*(せんえい・西坊にしのぼう、坊官/俳人) Ｅ２４８９
胤和(たねかず・遠藤) → *胤将*(たねのぶ・遠藤えんどう、藩主/歌人) Ｇ２６３９

X2651 **種克**(たねかつ・島尾しまお、通称;五郎右衛門)1748-1788*41* 長門萩の国学者/歌人、天明8没、
[改玉のけふを千とせの始にて尚幾春もみ代や栄へん]([萩の歌人]入)
種包(たねかね・桃井) → *保教*(やすのり・桃井もものい、神職/国学) Ｇ４５８８

G2649 **胤材**(種材たねき・大蔵おおくら、別名;胤村たねむら、大蔵種光男)?-? 1019存 平安後期廷臣;
1019女真族[刀伊]来寇のとき参戦;追撃に貢献、1019壱岐守/従五下、歌人;玄々集入、
新続古今集2074(続詞花集;戯咲978/玄々集;91)
[千早振かみもなしとかいふなるをゆふばかりだに残らずや君](新続古今集;十九2074)
(詞書;あひしれりける女の、男に髪切られにたりと聞きて遣はしける)
種樹(たねき・中島) → *豊足*(とよたり・中島なかじま、医/国学者) Ｒ３１２５
種樹(たねき・西原) → *晃樹*(あさき・西原、藩士/国学者) １０４７

G2636 **種清**(たねきよ・柳水亭りゅうすいてい、桜沢茂助男)1823-1907*85* 飛騨高山生?/浅草柴崎の時宗日輪寺僧、
不行跡のため寺を追放、歌舞伎作者;河竹黙阿弥門;1851ー54番付作者(能晋輔名)、
長編合巻作者:柳下亭種員たねかず門、維新後僧に復帰;小田原光福寺住職、「白縫譚」66-90編、
「児雷也豪傑譚」40-43編、「北雪美談時代加賀美」45-49編、1858「風流艶競」「花暦転寝草紙」、
1859「乗初曾我青砥駅」1860-66「不思議塚小説桜」、「日蓮上人一代記」「艶本花車」外著多数、
[種清(;号)の通称/法諱/別号]通称;桜沢堂山、法諱;智俊、別号;(狂言作;)能晋輔のうしんゆう、
(戯作号;)八功舎徳水(;読本)、恋川笑山/淫水亭玉廼門/淫水亭開好

R2677 **種清**(たねきよ・寺井てらい)1826- 1902*77* 大坂天満宮社司、神道・国学;敷田年治門、
歌人;有賀長隣門、維新後;権大教正/従六下、「稽古連歌」著、
[種清(;名)の通称/号]通称;出雲介、号;分種

胤国(たねくに・石塚)　→　*確斎*(かくさい・石塚いしづか、儒者/地理)　Ｈ１５２６
Y2697 **たね子**(たねこ・間人はしうど、)1848-1923*76*　摂津武庫郡の回漕業間人近正(1812-87)の妻、歌人
種子(たねこ・戸塚)　→　*とゑ*(とえ・戸塚とづか種子たねこ、歌人)　Ｔ３１３８
種子(たねこ・児玉)　→　*たね*(種子たねこ・児玉こだま、国学/歌)　Ｘ２６０４
R2678 **胤定**(たねさだ・広橋ひろはし、初名;兼陳かねのぶ/勝陳、伊光男/本姓;藤原)1770-1832*63* 廷臣;1796参議、
1803権大納言/19従一位、「参議要抄」編、「日申御記」「白馬節会次第」「公武御用日記」著、
1787「風俗倭歌」、歌;「広橋胤定詠歌」著、光成・日野資宗の父、法号;後恭徳院
R2679 **胤貞**(たねさだ・津金つがね、胤臣の養嗣子)?-?　江後期1804-30頃尾張藩士/養父の遺志を継承;
瀬戸窯業発展に貢献、胤臣「陶器法伝記」編、
[胤貞(;名)の通称]庄七/庄八/全態
X2611 **胤貞**(たねさだ・国分こくぶ、)1837-1905*69*　出羽(羽後)横手郷社祠官、神道;高橋豊汲門、
国学;平田鉄胤門、
[胤貞(;名)の通称]正左衛門/兵治/須賀
胤禎(たねさだ・杉野)　→　*紫山*(しざん・加治かじ/杉野、儒者/兵法家)Ｄ２１７８
R2680 **胤禄**(たねさち・たねよし・谷口たにぐち/本姓平、久田蘭州男)1768-1826*59* 京の故実家/谷口立直の養嗣子,
廷臣、1808式部省に入、式部少録/式部少丞/1818大嘗会主基行事を遂行/正六下、
「大和鞍考」「車記」「素服勘物」「素服当色勘物」「高御座勘物」「谷口平胤禄類聚」著
種実(たねざね・樋口)　→　*種実*(たねみ・たねざね・樋口ひぐち、商家/国学)Ｓ２６０７
種三郎(たねさぶろう・橋本)→　*長秋*(ながあき・橋本はしもと、商家/和漢学)Ｏ３２３５
胤三郎(たねさぶろう・中野)→　*利治*(としはる・中野なかの、国学者)　Ｖ３１９１
R2681 **種重**(たねしげ・佐枝さえだ、通称;叔三郎、尹重男)?-?　江中期尾張の射術家、1740「矢鏃銘鑑」著
R2682 **種茂**(たねしげ・佐枝さえだ、別名;種武、伝助男)1800-63*64*　尾張藩士;寄合/側用人;城代格/1862致仕、
「佐枝家記」編、
[種茂(;名)の幼名/通称/号]幼名;富三郎、通称;新十郎/将監、号;廓然、法号;聖諦院
種成(たねしげ・和気)　→　*種成*(たねなり・たねしげ・和気、廷臣/医者/歌)Ｇ２６３８
種茂(たねしげ・秋月)　→　*種穎*(たねひで・秋月、藩主/藩校創設)　Ｓ２６００
種次郎(たねじろう・佐久間)→　*果園*(かえん・佐久間、藩士/歌人)　Ｂ１５１３
種次郎(たねじろう・田中/井上)→　*琴水*(きんすい・小野原おのはら、儒者)　Ｒ１６２６
G2637 **種季**(たねすえ・伊庭いば)　？－　？　国学、1717似閑[1657-1723]「万葉緯まんよういう」跋文
胤相(たねすけ・神村)　→　*正鄰*(まさちか・神村かみむら、国学/神道家)Ｄ４０７５
X2614 **種孚**(たねたか・佐伯さえき、通称;新左衛門)?-1805 石見津和野藩士/国学者
R2683 **種喬**(たねたか・白井しらい)　？－　？　江後期文政1818-30頃伊予大洲藩主の家臣、
江戸で医業、「嚼粉方」著(1836刊)
R2684 **胤毅**(たねたけ・布施ふせ、別名;毅、胤致たねよし男)1777-1825*49*　幕臣;1790相続/93表右筆/奥右筆、
1817奥右筆組頭格/19組頭、典故に精通/文籍・琵琶・笙を嗜む、布施胤将の甥、
「城館歴譜」「武家補略官名類聚」「武家補任考異」「武家補任凡例」「武家補任稿」著、
[胤毅(;名)の字/通称]字;叔弘、通称;蔵之丞
種武(たねたけ・佐枝)　→　*種茂*(たねしげ・佐枝さえだ、藩士/城代)　Ｒ２６８２
R2685 **胤忠**(たねただ・遠藤えんどう/本姓;東とう、胤親男)1732-91*60* 近江三上藩主;1760兄胤将たねのぶの養嗣、
1771襲封;3代藩主/遠藤家8代;従五下/下野守/1773日光祭祀奉行、79(安永8)大坂加番、
1779幕府の大番頭;89致仕、歌人;烏丸光栄門、東常縁の子孫、古今伝授切紙を整理、
妻;側室4人、吉次郎・胤壽・娘3人の父、1790(寛政2)家督を養子胤富に譲り隠居、
1755「当家歌道教訓二十五条」、「東家歌道血脈伝」著、
[胤忠(;名)の幼名/通称/号]幼名;竹之助、通称;兵庫、法号;東観院素秋
R2687 **胤親**(たねちか・松本まつもと、胤保男/本姓;千葉)1793-1841*49* 幕臣/儒;塩野適斎門/昌平黌出、
1809幕府素読吟味に合格/組頭役見習/外国地誌・満州語修得、
海防策「献芹微衷」を徳川斉昭に提出、幕府に英船モリソン号打払不可の上書、
浦賀奉行就任直前に病没、1837「献芹微衷」、「秋霞叢書」「臺駝たくだ纂説」「続臺駝纂説」著、
「北海烏舶記」編/「松本氏蔵書目録」編/1838「松本斗機蔵上書」著、
[胤親(;名)の通称/法号]通称;斗機蔵ときぞう、法号;鏡覚院

U2643 **胤親**(たねちか・高樋たかひ/本姓;平)?-? 武士;千葉氏の末裔/大和添上郡高樋村の発祥、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[初瀬山もみぢかかやく入会のかねてしぐれや染めつくしけん](大江戸倭歌;秋994)

V2679 **胤親**(たねちか・上田うえだ、)1839-1911*73* 信濃伊那郡東箕輪村の国学者;平田鉄胤門/歌人、
[胤親(;名)の別名/通称]別名;胤昌/**達昌**みちまさ、通称;門三郎/紋三郎、
種周(たねちか・渡辺/大倉)→ *嘉十郎*(かじゅうろう・大倉、藩士/画) Ｌ１５８６

2791 **種継**(たねつぐ・藤原ふじわら、清成男)741-786*45* 藤原式家、宇合の孫/784(延暦3)正三位中納言、
桓武天皇に政務を委ねられ長岡遷都を推進;造長岡宮使、皇太弟相良親王は遷都に反対、
785(延暦4)長岡京にて大伴継人・大伴竹良・佐伯高成らに射殺、贈太政大臣、
継人・竹良らは処刑;斬首/事件直前没の大伴家持は首謀者として連座し官籍より除名、
春宮坊関係者多数配流;さらに相良親王の配流憤死に至る、
この事件は親王らの怨霊を恐れられて平安京への遷都の原因の一つとされる

Z2680 **胤綱**(たねつな・宮井みやい、通称;孫九郎)?-? 江後期;紀伊和歌山藩士、国学者、
国学;和歌山藩士の本居大平(1756-1833)門
胤綱(たねつな・東とう) → *素明*(そみょう;法師、東とう益之、武将/歌)Ｅ２５３８
胤綱(たねつな・千葉) → *竜卜*(りゅうぼく・千葉ちば、華道家) Ｆ４９６８

Z2663 **種常**(たねつね・松村まつむら、通称;安休)?-1725 下野の江戸幕臣/和学;小笠原定世門、江戸住
種言(たねとき・平野) → *国臣*(くにおみ・平野/大中臣/小金丸、国学/勤王/歌)１７０６
胤年(たねとし・神村) → *正鄰*(まさちか・神村かみむら、国学/神道家)Ｄ４０７５

V2695 **胤富**(たねとみ・遠藤たえんどう、三河吉田藩主松平信復7男)1763-1814*52* 母;小林折江/江戸吉田藩邸生、
1785(天明5)近江三上藩主遠藤胤忠の養嗣子;90養父隠居;家督嗣;三上藩4代藩主、
江戸城竹橋門番/従五下備前守/大番頭;1791幕府の職を辞す、1801左近将監、
1804竹橋門番に再任/1811病で隠居;婿養子胤統に家督譲渡、
正室;堀親長女繁子しげこ(歌人)、恭寿院(遠藤胤統室)の父、
[胤富(;名)の別名/通称/法号]別名;陽五郎(;幼名)/松平復享、通称;主膳、法号;自徳院

R2686 **胤富**(たねとみ・平田ひらた、胤親男)1786-1842*57* 筑前秋月藩士;1809家督/台所奉行/江戸金奉行、
奥頭取/横目役/勘定奉行/1842致仕隠居、1834「望春随筆」著、
[胤富(;名)の通称/号]通称;孫太郎/定之丞/孫右衛門、号;望春

2708 **種友**(たねとも・安原やすはら、)1826-1911*86* 備中浅口郡の商家、
詩歌;小野務門/国学・歌;佐久間果園かえん(種たね)・岡直廬なおり門・黒田清綱門、
[種友(;名)の初名/通称/号]初名;正之、通称;勇蔵/吉兵衛/吉平、
号;多年(師の佐久間果園の号)

W2649 **種知**(たねとも・堅田かただ、)1827-1910*84* 紀伊日高郡南部の須賀神社祠官、
国学・歌;熊代繁里門・志摩厳彦門、漢学;石田漁門・池永碧於亭へきおてい門、和算・易も修学、
詠歌は2万3000首余、
[種知(;名)の通称/号]通称;文太郎/茂右衛門、号;梅渓/梅廼舎/花兄堂

G2698 **種長**(たねなが・菅原すがわら/家名;東坊城ひがしぼうじょう、中御門なかみかど[藤原]宣忠男)?-? 室町後期廷臣、
母;藤原氏直女、権中納言東坊城[菅原]長淳の養子、1549「菅原種長儒業継続之儀申状」著

R2688 **種永**(たねなが・薬師寺やくしじ、通称;宇右衛門、種広男)?-1688 自覚流(薬師寺流)砲術の祖、
砲術;祖父からの家学、父と島原乱で軍功;1673頃長崎防備石火矢預、
1668「自覚流矢倉書」76「自覚流鳥銃家伝」著、種逢たねあいの父

R2689 **胤長**(たねなが・高辻たかつじ、初名;世長、字;延年、家長男/本姓;菅原)1740-1803*64* 廷臣;1782正二位、
1796権大納言、「加茂保暠革命書当否勘申」1800「享和度辛酉革命改元一会」著、福長の父

R2690 **種長**(たねなが・氷室ひむろ/本姓;紀)?-1808 代々尾張津島神社祠官長/神主、
「津島天王社箇条之覚書」著
[種長(;名)の通称] 一学/伯耆守/勘解由 、長翁ながとしの養父
胤永(たねなが・丸山/秋月)→ *韋軒*(いけん・秋月、藩士/儒者/日記) Ｅ１１２２
種長(たねなが・西原) → *晃樹*(あさき・西原、国学) １０４７

G2638 **種成**(たねなり・たねしげ・和気わけ、姓かばね;朝臣、親成男)?-? 鎌倉中期廷臣;医者;典薬助/医博士、
後嵯峨院の侍医;正四下兵庫頭/1268後嵯峨院落飾で出家(;法名仏種)、晩年熊野詣、

とはずがたり入、「大医習業」著、
歌人/勅撰4首：続拾遺(606)玉(2473)風(1560)新続古(2117)、
[松の門との明がた近き山の端に入いらでやすらふ秋の夜の月](続拾；雑606、
松門到暁月徘徊といふことを)

R2691 **胤成**(たねなり・三筆楼さんぴつろう、姓；伊藤)?-? 江後期江戸の狂歌作者、1820刊「山水奇観狂歌集」編
胤之介(たねのすけ・木口) → *訓重*(のりしげ・木口きぐち/垣屋、国学/神職) Ｉ３５０７

G2639 **胤将**(たねのぶ・遠藤えんどう、初名；胤和、胤親男)1712-71*60* 近江三上藩主；1733襲封、初め徳川吉家臣、
1736日光山御祭礼奉行/奏者番、歌、1732-35「落葉艸」、「落葉集」「東胤将侯日光道の記」著、
1760実弟胤忠を養嗣子/1771没；胤忠が家督嗣、
[胤将(；名)の幼名/通称/法号]幼名；吉之助、通称；主膳、法号；大心院素江

R2692 **胤信**(たねのぶ・堀城ほりしろ) ？－ ？ 江中期享保1716-36頃安藝の人・岩室一徳門、
1626「和礼女子訓」著、28「士鑑」注

R2693 **種信**(たねのぶ・青柳あおやぎ、初名；種麿、勝種男)1766-1835*70* 筑前福岡藩士、儒；井土周徳門、
国学；内山真竜・本居宣長門、福岡藩の右筆/伊能忠敬の筑前測量に従事、典故考証に精通、
「吾嬬旅」、1794「さきもり日記」1794「瀛津島防人日記」/1812「後漢金印略考」、「菁藻文苑」、
「霞関集」編、「柳園随筆」「阿満賀都の考」「恵登理乃考」「筑紫官家考」「三器略説」、
「宗像宮略記」「大宰府考」外著多数、
本居大平「八十浦の玉」中巻；宗像の長歌を含み6首入、
[神のますせぶりの山に降る雪はたがおく幣の和幣にぎてなるらむ](八十浦；471/背振岳)
[種信(；名)の通称/号]通称；勝次/克次/大蔵/勝次郎、号；柳園、法号；微妙院

V2690 **胤信**(たねのぶ・江波戸えばと、通称；七良司)1840-1920*81* 下総豊栄村田久保の歌人；
神山魚貫・海上胤平門
種信(たねのぶ・高力こうりき)→ *猿猴庵*(えんこうあん、藩士/随筆作家) Ｂ１３７３
胤信(たねのぶ・原) → *主水*(もんど・原、幕臣/キリシタン) Ｉ４４３４

R2694 **種徳**(たねのり・成瀬なるせ、初名；正喬、正順男)1761-1804*44* 加賀金沢藩士；1768家督/91公事場奉行、
1792御算用奉行/96前田斉弘御部屋付/1803若年寄、「成瀬正喬まさたか集記」「成瀬正喬日記」、
「御算用場諸事御用留帳」「能登国預地方留帳」「小松御城御用方諸事心覚帳」外記録多数、
[種徳(；名)の通称]通称；監物/吉之助/左京/左近

R2695 **種徳**(たねのり・早川はやかわ、助右衛門男)?-1826 備前岡山藩士；1797藩主の近侍/12督学/21致仕、
武芸；射・刀・槍術/及び兵学に通ず、
1805「文武佩刀考」、「仰止録」「佩刀輯要」「旅行須知」「摹古図もこず」著、
[種徳(；名)の字/通称/号]字；伯懐、通称；助右衛門(父を継承)、号；竹所

Z2613 **種徳**(たねのり・原田はらだ、通称；小三郎)?-1850 美濃高須藩士/国学者；本居春庭(1763-1828)門、
歌；富樫広蔭(1793-1873)門、1820眼病により致仕、歌人；1825[二十番歌合]共催。

U2638 **胤統**(たねのり・遠藤えんどう、美濃大垣藩主戸田氏教3男)1793-1870*78歳* 江戸藩邸の生、
1801近江三上藩主遠藤胤富の養子；1811養父隠居；三上5代藩主襲封(三上遠藤家10代)、
従五下/但馬守、1812江戸城田安門番/日光奉行/大坂城青屋口加番など歴任、
1837玉造口定番の時；大塩平八郎の乱起り京橋口定番を兼ね鎮圧に功、将軍家の信頼厚い、
1841(天保12)若年寄に就任/52江戸城御勝手掛兼西丸造営奉行/200石加増；計1万2千石、
幕政に参画；将軍家茂と和宮の婚姻に尽力/1859ロシア総督ムラヴィヨフと交渉、
1860(万延元)城主格；本丸造営御用掛など歴任/1861軍制御用掛/従四下・民部大輔、
1863(71歳)老齢のため隠居；家督は3男胤城嗣/1864中務大輔、
歌；北村季文門、1859蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[風わたる浅茅が露ともろともに涙ももろき秋の夕暮](大江戸倭歌；秋823/秋夕露)
種徳(たねのり・平野) → *国臣*(くにおみ・平野/大中臣/小金丸、国学/勤王/歌) １７０６
胤矩(たねのり・児島) → *員九*(いんく・児島こじま、俳人) Ｄ１１２１

R2696 **胤晴**(たねはる・千葉ちば、通称；内蔵七くらしち)1795-1843*49* 天文家：藤蒼海門、天文生、
「推算貞享暦術書」校訂

R2697 **種春**(たねはる・柳園りゅうえん、姓；小沢おざわ、名；種春、宗清男)1800-71*72* 摂津武庫郡今津の郷士の生、
生後すぐ父と死別/大阪の懐徳堂で修学/上京；東坊城家に修学/諸方遊学；郢曲・剣を修得、

正親町三条家家士、歌；冷泉為則門、伊予宇和島の親戚小沢久右衛門家に寄寓、尊攘で奔走、
1864宇和島藩士、読本作者、1812「色深狭睡夢」25「現過思廼柵いまはむかしおもいのしがらみ」、
1827「葦間月浪華一節」「滑稽笑顔種」「教訓童草」/28「新柳髪物語」「復讎千丈松」、
1830「琴松譚」、1852/55「絵本烈戦功記」/52「繍像復讐えほんかたきうち岩見英雄録」第三編、
1853「国宝大雑書万宝選」外著多数、
[柳園種春(：号)の字/通称/別号]字；子敬、通称；標七、別号；東陽、法号；釈春浄心居士

R2698 **種春**(たねはる・青柳あおやぎ、通称；彦次郎、種信男)1810-6051 筑前福岡藩士；父の家督嗣、
国学・歌人；内山眞竜・本居宣長門、平野国臣の師、
1841「松峡八幡宮起源略草案」著、

2643 **種彦**(たねひこ・柳亭りゅうてい、高屋たかや、名；知久、高屋知義男/本姓；源)1783-1842 旗本；1796家督、
小普請組、狂歌；唐衣橘洲門/読本；烏亭焉馬門/俳諧・川柳・歌舞伎に通ず；4世川柳門、
絵師歌川国貞と組んで1829-42合巻「偐紫田舎源氏」で成功、35浅草堀田原に偐紫楼を建造、
1842天保改革で筆禍；喚問中病没、読本；1807「奴の小まん」08「霜夜星」08-09「総角物語」、
1809「浅間嶽面影草紙」(：出世作)/13「綟手摺昔木偶もじてすりむかしにんぎょう」著、
合巻；1811「鱸庖丁青砥切味」(；合巻処女作)/29-42「偐紫田舎源氏」(；合巻界の地位確保)、
30-31「昔々歌舞伎物語」30-36「誂染遠山鹿子」34-56「邯鄲諸国物語」39「縁結月下菊」著、
随筆；1826「還魂紙料」、1841「用捨箱」、「足薪翁記」「柳亭随筆」「柳亭記」著、外著多数、
妻；加藤宇万伎の孫娘の勝子、弥十郎の養父、
[柳亭種彦(初世；号)の幼名/字/通称/別号]幼名；宇吉/左門、字；啓之、通称；主税/彦四郎、
別号；偐紫楼げんしろう、佐寝彦/佐禰比古/九尻亭きゅうこうてい/足薪翁/愛雀軒、
狂号；浅草閑人/柳風成やなぎのかぜなり/心こころの種俊、川柳号；木卯/木卯居、法号；芳寛院

2644 **種彦**(2世たねひこ・柳亭りゅうてい、姓；高橋たかはし、名；次房/広道)1804-6865 尾張熱田中瀬の人、
質商橘屋弥右衛門(高橋敬義[呂川])の男、手習；磯部政春門/国学；鈴木朖・本居大平門、
画；森高雅門、戯作：1829柳亭種彦門、狂歌；3世浅草庵黒川春村門、1845父の遊蕩で破産；
江戸に出て著作専念；1858自ら柳亭種彦２世を襲名；一門の抗議；梅素亭の仲介で61実現、
1831「合物端歌弾初」、合巻；48-67「犬の草紙」49-55「古今草紙合」50-55「薄紫宇治曙」、
1850-57「堀川唄真実禄」52-59読本「三都妖婦伝」、「雅俗随筆」「小野小町略伝」外著多数、
[柳亭種彦(2世；号)の幼名/字/通称/別号]幼名；亀三郎、字；子由、通称；橘屋弥太郎、
別号；笠亭仙果(初世)、桃の舎/合一堂/古今堂/倉鼠松蘿居士/轍斎/招禄翁/狗々山、
柳亭種秀/玉覧/未如之何也已矣、狂号；4世浅草庵
種彦(3世たねひこ・柳亭、高畠藍泉) → 近代

R2699 **種久**(たねひさ・堀江ほりえ/本姓；藤原、通称；中務丞)?-? 室町期越前朝倉氏家臣、堀江光傅の縁者?、
連歌；新菟玖波集2句入

G2640 **種久**(たねひさ・徳永とくなが、通称；戸右衛門尉)?-? 幕臣；桜井家家臣、1617筑後柳川から京・江戸へ、
1617「徳永種久紀行」/42「あづま物語」/43仮名草子「色音論」、「徳永日記」著

T2699 **胤久**(たねひさ・大須加おおすか)?- ? 江前期大阪在住の武士、俳人、
1675(延宝3)西鶴「一日独吟千句」巻末追善発句入/1673西鶴「生玉万句」；第四更衣脇句入、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[鳴声のうれひや暫時郭公](独吟千句；追善句)、
[馬鹿踊夜も明け白髪しらが頭哉](難波色紙；42/馬鹿踊；盆踊り/白みと白髪を掛る)

2707 **胤久**(たねひさ・谷田部やたべ、通称；三吉)1835-188652 出羽秋田郡の国学者；平田銕胤門
種久(たねひさ・柳煙亭) →*柳煙亭種久*(柳烟亭-りゅうえんていたねひさ・戯作)Ｄ４９０６
胤寿(たねひさ・谷田部) → *彦六*(ひころく・谷田部やたべ、彫工) ３７７８

G2641 **種英**(たねひで・朝江・浅江、通称；小平衛)?-? 江前期儒者・松永昌易門、俳人、種寛しゅかんの兄
1651良徳「崑山集」58梅盛「鸚鵡集」入

S2600 **種穎**(たねひで・秋月あきづき、初名；種茂、種美男)1743-181977 日向高鍋藩主；1760襲封、
山城守/佐渡守、藩校明倫堂創設、1788致仕、「郷閭学規」著、上杉治憲はるのり[鷹山]の兄、
[種穎(；名)の幼名/通称/法号]幼名；黒帽子、通称；兵部/右京亮、法号；清観院

G2642 **胤秀**(たねひで・千葉ちば、通称；雄七、号；流峯)1775-184975 陸中西磐井郡流郷の農家の生、和算家：
一関の梶山主水門・1818江戸の長谷川寛門、帰郷後門弟多数を教育、胤道・胤英の父、

1828一関藩算術師範役、1822「天元定例」編/30「角舘神壁」/30「算法新書」編、「角舘神壁解」、
1836「塩竈社千葉家奉納算額」、「佐野流規矩要領」「一宮奉納算題」著、「天元柱立」編、外多数

Y2622 **胤英**(たねひで・千葉原ちばはら、胤充たねみつ男)1783-185068　信濃伊那郡の松島町方大東の本陣の家;
豪農/歌人;桃沢夢宅門/菊を植えて愛す;菊の栄枯に無常を観ず、養嗣子;礼胤(胤恭兄)、
[かねてよりおもいし時になりにけりはかなや墓の草の下露](封緘の辞世歌)
[胤英(;名)の通称]通称;七郎右衛門、法名;玉胤英暉居士

V2664 **種栄**(たねひで・磯崎いそざき、)1815-1838早世24　近江犬上郡彦根北磯村の歌人;水野士樹門、
代々村の御本陣を勤める/毎年上京;諸家と交流;国学/歌に長じ書画を嗜む、
法縁寺恵搏・宮田重慶と交流、
[種栄(;名)の初名/字/通称/号]初名;保安、字;木山、通称;安次郎/文右衛門、
号;石義庵

X2612 **種秀**(たねひで・権藤ごんどう、通称;平左衛門)1826-9469 筑後久留米の国学者;大隈言道門

W2684 **苗秀**(たねひで・久我くが、)1835- 187945　備中小田郡西浜村の里正、
国学;関政方まさみち(鳧翁きょうおう)門、
[苗秀(;名)の字/通称/号]字;子収、通称;源三郎、号;松韻

種栄(しゅえい・磯崎)　→　*種栄*(たねひで・磯崎いそざき、本陣/歌)　Ｖ２６６４
種秀(たねひで・柳亭)　→　*種彦*(2世たねひこ・柳亭、戯作者)　２６４４
種英(たねひで・原)　→　*白圭*(白珪はくけい・原はら、藩儒/詩人)　Ｃ３６９８
種愷(たねひで・松室)　→　*松峡*(しょうこう・松室まつむろ、神職/白話小説)Ｓ２２１１
胤仁(たねひと)　→　*後伏見天皇*(ごふしみてんのう、歌人)　Ｄ１９６８
胤姫(たねひめ・池田)　→　*暾子*(とんこ・池田いけだ/伊達、藩主室/歌)Ｍ３１３７

G2643 **種平**(たねひら・賀茂かも、幸平男)?- ?　鎌倉中期1225-38頃大田社禰宜/貴布禰社禰宜、
1235上賀茂神社禰宜/四位、歌人:続後撰981、雲葉集入、
[さりともと待つ夜も過ぎぬいたづらに明けゆくとりのねのみなかれて]、
(続後撰;恋981/暁恋といふことを/女の気持ち)
[さみだれの晴れ間を待てばおのづからわれもひをふる旅のそらかな](雲葉;夏324)

T2673 **胤平**(たねひら・海上うながみ/うんじょう、)1829-191688　下総海上郡の生/紀州藩士;剣術指南、
水原県按察使、歌人;加納諸平門、諸平「類題和歌鰒玉ふくぎょく集」入、
[胤平(;名)の初名/通称/号]初名;正胤、通称;六郎、号;椎園

胤平(たねひら・遠藤)　→　*俳狂*(はいきょう・遠藤えんどう、藩士/俳人)　３６９９
胤広(たねひろ・齋藤)　→　*則庸*(のりつね・齋藤さいとう、神職/国学者)Ｉ３５５９
種寛(たねひろ・朝[浅]江)→　*種寛*(しゅかん・朝[浅]江、俳人)　Ｋ２１５７
種博(たねひろ・松室)　→　*松峡*(しょうこう・松室まつむろ、神職/白話小説)Ｓ２２１１

S2601 **稙房**(たねふさ・万里小路までのこうじ、尚房男)1705-6460 母;卜部兼敬女、廷臣;1734参議/43権大納言、
大嘗会検校/右衛門督/賀茂伝奏/神宮上卿を歴任/1748致仕、63従一位、「稙房卿記」、
1720「承秋門院凶事雑記」26「御供養之記」35「中御門天皇御譲位次第」、「例幣発遣次第」著

S2602 **胤英**(たねふさ・千葉ちば、胤秀たねひで男)1819-8365　陸中一関の和算家:父門/1837一関藩士/40士班、
1844数学師範役;検田係、1849江戸の長谷川弘門;皆伝授与、1849「算法鉤垂術」著、
「対換門」「変形門」編、「个数門」「分積門」「羽州角舘神壁算法」、胤道の弟、常一つねかずの父、
[胤英(;名)の幼名/通称/号]幼名;織之進、通称;善右衛門、号;環水

V2658 **胤房**(たねふさ・池尻いけがみ/いけじり/本姓;藤原)1830-7041 京の廷臣:公卿くぎょう;池尻暉房てるふさの孫、歌、
1859(安政6)従三位/1861(文久元)宮内卿/正三位;非参議

G2645 **種藤**(たねふじ)　?-　?　江前期俳人・朝江種寛しゅかん門、
1672種寛「続詞友俳諧集」編纂を援助

G2646 **種文**(たねぶみ・紀き、俊文男or淑氏男)?-? 1365存 南朝廷臣/俊文弟か、歌人、1365「内裏七百首」入、
1365正平廿年点取三百首和歌(於住吉行宮)参加、新葉集2首304・1252、
[難波潟入江も見えず立ちこめて霧より出づる秋のふな人](新葉;秋304)
[置く露も乱れにけりな刈萱の末の野原の秋の夕風](正平三百首;110/原刈萱)

S2603 **種文**(たねぶみ/たねふみ・菅原すがわら)1767-183468　美濃高須藩士/国学者、1834「源語雅言解」著

種文(たねぶみ・松氏)　→　*種文*(しゅぶん・松氏、俳人)　Ｊ２１０１

S2604 **種昌**(たねまさ・高力こうりき、小沢政右衛門男)?-1744　高力信縄の養嗣子/尾張藩士;1707家督、馬廻役/1719松平義孝(四谷家)の用人、「夕日物語」著、
[種昌(;名)の通称/号]通称;八之助/七兵衛、号;一桜

Z2648 **胤昌**(たねまさ・牧まき、通称;仲之允/仲左衛門)?-1746　江前中期;薩摩鹿児島藩士、儒・歌;香川宣阿(1646-1735)門、漢学・歌;中院なかのいん通躬みちみ(1668-1739)門

S2605 **苗雅**(たねまさ・水島みずしま、通称;右近)1684-1755*72*　加賀金沢の神明宮神主/有職故実;庭田重条門、1719(寛保4)金沢藩士に登用される、藩主前田綱紀命で典籍採訪に従事、「水島右近書翰」

S2606 **種正**(たねまさ・長野ながの、青柳あおやぎ種信[1766-1835]男)?-?　江後期福岡の歌人:父門、長野家を継嗣、「千種廼舎集」「博多鴻臚館考」著、青柳種春の兄、
[種正(;名)の通称/号]通称;勝太郎、号;千種廼舎ちぐさのや

V2665 **種正**(種昌たねまさ・磯田いそだ/本姓;源、)1789-1852*64*　京の毘沙門堂門跡宮の諸大夫しょだいぶ、木下秀時の弟、豊前守、歌人;香川景樹門、木下幸文と交流、六十歳の賀歌を景樹が詠、
[種正(;名)の通称/号]通称;一学/近江介/伊勢守/豊前守、号;一日亭

種正(たねまさ・柳泉亭)　→　*柳泉亭種正*(りゅうせんていたねまさ、戯作者)　Ｆ４９０１

子正(たねまさ・中西)　→　*子正*(つぐまさ・中西、剣法家)　２９８６

胤昌(たねまさ・上田)　→　*胤親*(たねちか・上田うえだ、国学/歌人)　Ｖ２６７９

種松(たねまつ・谷森)　→　*善臣*(よしおみ・谷森たにもり/平、国学者)　Ｃ４７４２

G2647 **種麻呂**(たねまろ・高安倉人たかやすのくらひと)?-?　越中えっちゅうの大目だいさかん、万葉集:4247左注:阿部老人あへのおきなの歌を伝誦

G2648 **胤満**(たねまろ・根本ねもと/神服かんはとり/本姓;平、別名;治胤)1691-1764*74*　上総市原郡の生、国学者;荷田春満門、菊間八幡社社司、佳胤よしたねの祖父、
[胤満(;名)の通称/号]通称;大炊頭おおいのかみ、号;日章斎

種麿(たねまろ・青柳)　→　*種信*(たねのぶ・青柳、藩士/国学)　Ｒ２６９３

S2607 **種実**(たねみ・たねざね・樋口ひぐち、四郎右衛門善種男)1794-1864*71*　日向延岡の商家/国学:武石道生門、1826上京/和歌山の本居大平門;帰郷後も文通で教えを受ける、歌人、後藤双烏(俳人)の兄、1842延岡藩より日本史校合の命で国学に精励;1863国学出精の功で俸禄、大種おおたねの父、猿楽の研究・神跡調査実施/土持整信(完治)の協力で「高千穂神跡明細記」「高千穂百首」編、「遠海日記」「古事記私考」「俳諧芋桶」「岡玉乃屋歌集」「言葉の糸口」「思ひ出草」、「高千穂日記」「異見正答」「沼矛一点」「八十八社参詣記」著、
歌;大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[中臣の太祝詞ふとのりとごと天地にいたりとほりて秋風やたつ](八十浦;799)
[種実(;名)の通称/号]通称;清太郎/四郎左衛門/四郎右衛門、号;岡玉乃屋、法号;玉宝院

種見(たねみ・松室)　→　*松峡*(しょうこう・松室まつむろ、神職/白話小説)Ｓ２２１１

2645 **稙通**(たねみち・九条くじょう、尚経男/本姓;藤原)1507-94*88*　母;三条西実隆女保子、廷臣;1522正二位、1528内大臣/33関白/氏長者、和学/歌学;幼時より祖父三条西実隆門;源氏物語研究、1534関白致仕;流浪生活、1555従一位/出家、古典註釈、連歌、1556「称名院右府七十賀記」、1560「源氏物語竟宴記」74「嵯峨記」75「孟津抄」92「伊勢物語聞書」、「沙弥恵空百首」外著多、
[稙通(;名)の一字名/号/法名/法号]一字名;玖、号;玖山/陶化翁/江南漢翁、法名;行空/恵空/九条禅閤、法号;東光院

S2608 **種通**(たねみち・吉雄よしお、猪熊惟一[耕牛の弟]男)1788-1866*79*　吉雄幸載(種徳)の養子、肥前長崎の蘭医:はじめ波止場役/出島蘭館唐館出入り医者/1817長崎施薬院外科、1824-28シーボルト門、門弟指導、「瘍医新書」「吉雄流外科製薬書」「和蘭外科諸膏製薬書」著、
[種通(;名)の通称/号]通称;五兵衛/幸沢/幸載2世、号;素友、圭斎(種文)の父

S2609 **胤道**(たねみち・千葉ちば、胤秀たねひで男)?-?　江末期和算家;家学継承;父門、門弟多数、本朝算鑑抜書解義」編、「因解百好式」「開商点兵算法解義再訂」著、
[胤道(;名)の通称/号]通称;雄七、号;流山/流南、胤英たねふさ(1819-83)の兄、胤規・胤和の父

Y2621 **胤充**(たねみつ・千葉原ちばはら、旧姓;荻原)?-1820　信濃伊那郡松島町方大東の千葉原胤仁の養嗣子、本陣経営/豪農/苗字帯刀御免、歌;桃沢夢宅門/1801(享和元)二条家秘訣手爾葉遣の伝受、胤英(歌人)の父、

［咲きそはゞ今一入の色や見むけふたにうきと萩の花かは］、
［胤充（;名）の通称/号］通称;喜惣治、 号;春松亭、法号;巧胤光徳居士
種光（たねみつ・武者小路）→ *縁光*（よりみつ・武者小路むしゃのこうじ/藤原、権大納言/連歌）Ｊ４７８０
2646 **稙宗**（たねむね・伊達だて、尚宗男）1488-156578 武将:1513陽林寺を開く/22陸奥守護/岩代14代領主、
1532桑折西山城主、1542-58（17年間）息子晴宗と家中二分して争議/陸前丸森に隠居、
歌・連歌;猪苗代兼載より伝受、実隆と交友、1636「塵芥集」著、
［稙宗（:名）の幼名/号］幼名;次郎、 号;直山/受天、 法号;智松院
胤村（たねむら） → *胤材*（たねき、大蔵卿、歌人） Ｇ２６４９
W2688 **稙元**（たねもと・朽木くつき、稙昌長男）1664-172158 母;岡部宣勝女、1708丹波福知山藩2主代藩主、
福知山朽木家3代,従五下/民部少輔、弟の朽木稙治に3000石を分与、藩財政難に苦しむ、
国学、正室:秋元喬知女/側室;貞松院、稙綱の父、
［稙元（;名）の通称/法号］通称;左近/帯刀/民部少輔みんぶのしょう、法号;鏡心院
種守（たねもり・末田） → *道麿*（みちまろ・末田すえだ、書肆/国学者） Ｃ４１６２
胤弥（たねや・千村） → *重琦*（しげかた・千村ちむら、本陣/歌人） Ｑ２１７５
S2610 **胤保**（たねやす・広橋ひろはし、光成男/本姓;藤原）1819-7658 母;久世通理女、廷臣;1859参議、
1865権大納言/正二位、1816祐宮［明治天皇］の習字師範、63政変で攘夷派が追放され議奏、
公武合体派に与す:1867王政復古で免職/68赦免、1866「松尾祭記」「松尾祭御再興記」外著多数、
S2611 **胤保**（たねやす・松森まつもり、長坂ながさか治礼男）1825-9268 出羽鶴岡の生/庄内藩士;1862家督、
1863支藩出羽松山藩の付家老、幕末動乱に戦功/藩主より松守を賜姓;固辞し松森と改姓、
維新後は松嶺藩大参事、儒;藩校致道館で修学/馬術・槍術・博物・物理学・考古学に通ず、
「南登記事」「東走記事」「培植小論」「両羽博物図譜」「北征記事」「物理新論」著、
［胤保（;名）の字/通称/号］字;基伯/白基、 通称;欣之助/右近介/嘉世右衛門、 号;南郊、
Y2623 **胤恭**（たねやす・千葉原ちばはら、）1833-188957 信濃伊那郡の農業/国学;平田銕胤門、
本陣（大東）胤充たねみつの孫、礼胤の弟;礼胤の養子となり家督嗣、医;樋口三益門/眼医、
国学者/伊那の尊王活動の中心、木下箕輪南宮神社の社掌、1876第十七大区学区取締役、
［胤恭（;名）の幼名/通称］幼名;甚松、 通称;廉節/廉三（;維新後の称）
胤保（たねやす・岩淵/蘆野）→ *東山*（とうざん・蘆野あしの、儒者/詩文） Ｅ３１５３
種安（たねやす・柳雨亭） → *柳雨亭種安*（りゅううていたねやす、戯作者） Ｃ４９７９
S2612 **種之**（たねゆき・高橋たかはし、助治男）1800-7071歳 出羽庄内藩士;1814家督/郡代役所実務/1848家中、
1851息種芳と藩の正史編纂に従事、海防記録取調係を兼務/1857隠居、藩の子弟教育尽力、
「仰高篇」「万邦作孚」「君徳」「戦備総論」「耳目篇」「社稷保全段解」、1867「杞憂贅語」著、
［種之（;名）の通称］ 権太郎/勘助/蔵六、種芳の父
S2613 **胤征**（たねゆき・横川よこかわ、通称;末治）1821-7151 陸中盛岡の和算家、直胤なおたね（和算/史家）の甥、
「続々未済算法」著
胤行（たねゆき・東） → *素暹*（そせん・東とう/平、武将/法師/歌/連歌）Ｄ２５９２
胤行（たねゆき・大和田） → *篤胤*（あつたね・平田ひらた、国学/神道） １０２２
G2650 **胤行女**（たねゆきのむすめ・東とう/本姓;平、胤行［素暹そせん1173?-1263?］女）?-? 鎌倉南北期の歌人:
東撰歌六帖入、新続古集1167
［恋ひしなばくやしかるべき後の世と知りながらこそ袖は濡れけれ］（新続古;十二1167）
2768 **種世**（たねよ・望月もちづき、）？－ ？ 江前期;上方の歌人、
1670下河辺長流［林葉累塵集］3首入、
［妻めにおくれて読みける、
妹こひていく夜かぬれど夢にだにみる玉なきの里ぞむなしき］（林葉累塵;雑1101）
S2614 **種義**（たねよし・薬師寺やくしじ、通称;久左衛門、種栄男）1772-183564 肥前長崎の町年寄/砲術;鉄砲預、
1817鉄砲頭師範/29長崎会所調役、1801「自覚流」03「石火矢術法書」11「自覚流五七之巻」著
X2652 **種芳**（たねよし・島尾しまお、通称;五郎右衛門）1795-187682 長門萩の国学者/歌人、明治9没、
妻;わせ子（歌人）、
［わすられし涙とぞ見るふる里にひとりすみれの花の下露］（［萩の歌人］入）
X2666 **種義**（たねよし・諏訪すわ、旧姓;上原）?-1844 讃岐高松藩士、国学者、
［種義（;名）の通称］ 甚兵衛/吉左衛門

Z2641 **胤義**(たねよし・堀井ほりい、初名；**胤吉**)1821-1903*83* 近江滋賀郡石山寺領寺辺村の農具鍛冶の家の生、
鍛冶刀剣；大坂の月山貞吉門/江戸の荘司(大慶)直胤門、刀匠として膳所藩に出仕、
国学・歌・俳人、維新後廃刀令；失職帰農/のち宮内省御用刀工；諸所神社に刀剣奉納、
堀井家初代、島崎藤村と交流(「眼鏡」「刀鍛冶堀井來助」に入)、逸話多、歌；[鳰のうみ]入、
[仰ぎ見し吉備の中山跡たえてとはるる人のなきぞ悲しき](辞世)
1903(明治36)没；後継2代目は堀井胤明

S2615 **種芳**(たねよし・高橋たかはし、種之たねゆき男)1825-76*52* 出羽庄内藩士、長沼流兵学、1851父と藩の正史編、
1856家督相続/60蝦夷地御用取調掛・代官、1866帰国/維新後；北海道虻田郡支配の責任者、
1843「蘭隠筆乗」60「蝦夷日記」63「北蝦夷御警衛の記」、「東斎詩集」「大泉探求誌」、「軍政」編、
「大泉外戚伝」「大泉掌故」「除邑小伝」「諸流始祖記；砲術・兵学・刀術・槍術」「北行御用記」著、
[種芳(；名)の字/通称/号]字；子英、通称；勘助/良蔵、号；東斎

S2616 **種良**(たねよし・松本まつもと、屋号；泉屋、又左衛門男)?-? 江末期筑後久留米藩の記録(；父を継承)、
1865-71「松本日記」著

種好(たねよし・吉村) → *種好*(しゅこう・吉村よしむら、俳人/狂歌) Ｐ２１４２
胤致(たねよし・布施ふせ) → *山手白人*(やまてのしろひと、幕臣/国学/狂歌)Ｅ４５１４
胤禄(たねよし・谷口) → *胤禄*(たねさち・谷口たにぐち/平/久田、廷臣/故実)Ｒ２６８０

Y2675 **胤凭**(たねより・浪合なみあい、)1830-1875*46* 信濃伊那郡浪合の里正、国学；平田銕胤門、
維新後；浪合神社(南朝征夷大将軍尹良これなが/ただなが親王を祭神)の祠官、
[胤凭(；名)の初名/通称/号]初名；繁彦、通称；左源太、号；旭山

多年(たねん・佐久間) → *果園*(かえん・佐久間、藩士/歌人) Ｂ１５１３
多年(たねん・安原) → *種友*(たねとも・安原やすはら、国学/歌人) ２７０８

S2617 **朶年**(だねん・伊藤いとう、名；暁応)1800?-1879 岩代耶麻郡小荒井の商人/俳人：仙台の巣居門、
俳諧宗匠、1847「螢塚集」(；芭蕉の句碑螢塚建立記念)、52「会津俳諧百家集」編、
[朶年(；号)の通称/別号]通称；伝内、別号；螢光庵

惰農子(だのうし) → *南畝*(なんぽ・大田、幕臣/狂歌詩) ３２３３

U2666 **たの子**(たのこ・荒井あらい) ？－ ？ 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[なれもまたうき秋しるや初尾花袖にもあまる野辺の夕露](大江戸倭歌；秋746/薄似袖)

V2642 **予**(たのし・伊沢いざわ、起豊2男)1783-1856*74* 備中淺口郡小坂東村の名主、
儒；西山拙斎門/詩；菅茶山/国学・歌；木下幸文・小野務門、私塾[小近舎]を開設；子弟教育、
[予(；名)の通称/号]通称；石介/予介、号；杉谷/愚谷/麗沢舎/小近舎、屋号；池のもと
法号；愚谷宗賢居士

楽(たのし・今村) → *楽*(たぬし・ら・今村、医/国学/歌) Ｇ２６３４

S2618 **田之助**(2世たのすけ・沢村、3世沢村宗十郎男)1788-1817*30* 京の歌舞伎役者、4世宗十郎の弟、
1793江戸中村座で初舞台/1801上京；田之助を襲名/女方の大立者、「宿の花朝貌物語」作、
[2世沢村田之助(；通称)の別通称/号]別通称；沢村鉄之助、俳号；曙山、屋号；、紀伊国屋

田之助(初世たのすけ・沢村)→*宗十郎*(3世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者)Ｂ２５８９
田之助(たのすけ・島田) → *真恵美*(まえみ・菊廼屋きくのや、商家/狂歌師)４０４４

S2619 **頼**(たのむ/よる・源みなもと、挙こぞる男)?-? 平安中期廷臣；六位/歌人；後撰765、順したごうの弟、
[夢のごとはかなきものなかりけりは何とて人に逢ふと見つらん](後撰；恋765)

2702 **頼**(たのむ・森川もりかわ、)1820 － 1890*71* 尾張名古屋藩の楽人、頼次よりつぐの父
国学/歌学；木村千斎・山田千疇ちうね門
[頼(；名)の通称/号]通称；又兵衛/遷、号；喬斎

G2651 **頼女**(たのむのむすめ・源、挙こぞるの孫)?-? 平安中期歌人、敦慶親王と贈答：後撰547、
[つらしともいかゞ怨みむ郭公ほととぎすわが宿近く鳴く声はせで]、
(後撰；恋547/敦慶親王への贈歌)、
(男があちこちの女に通ううちに女も色好みの評判となり、怨んで贈る歌)、
参照 → *敦慶親王*(あつよししんのう、宇多天皇皇子)Ｂ１０４７

G2652 **頼母**(たのも・竹本) ？－ 1720 竹本義太夫門の浄瑠璃太夫、美声、
1715近松「国姓爺合戦」の大阪竹本座上演で竹本政太夫を助けて要所を語る

S2620 **頼母**(たのも・桜井)　？－　？　大阪浄瑠璃作者：小和泉座・越後掾座の作者、1745「三軍桔梗原」46「唐金茂右衛門東鬘」著

頼母(たのも・小笠原)　→　*持広*(もちひろ・小笠原/杉浦、幕臣/故実)Ｂ４４６０
頼母(たのも・西郷)　→　*近房*(ちかふさ・西郷さいごう、藩家老)　Ｂ２８７５
頼母(たのも・西郷)　→　*近思*(ちかもと・西郷、藩家老/儒/国学)　Ｃ２８０５
頼母(たのも・西郷/保科)→　*近憲*(ちかのり・保科ほしな/西郷、藩家老/神職)Ｂ２８６５
頼母(たのも・芥川)　→　*寸艸*(すんそう・芥川/小野寺、幕臣/歌)　２３２１
頼母(たのも・米倉)　→　*長昌*(ながまさ・米倉よねくら/源、幕臣/歌)　Ｋ３２１３
頼母(たのも・畠中)　→　*胴脈先生*(どうみゃくせんせい、畠中観斎、狂詩)３１２２
頼母(たのも・土屋)　→　*廉直*(ただなお・土屋、幕臣/記録)　Ｑ２６２３
頼母(たのも・新居)　→　*繁勝*(しげかつ・新居あらい、藩士/歌人)　ａ２１１７
頼母(たのも・本多)　→　*政恒*(まさつね・本多ほんだ、藩家老/記録)　Ｅ４００８
頼母(たのも・本多/井戸)→　*九如*(きゅうじょ・井戸/本多/董、幕臣/絵師)Ｍ１６７０
頼母(たのも・孕石)　→　*元政*(もとまさ・孕石はらみいし、家老/日記)　Ｅ４４３０
頼母(たのも・茂木)　→　*知亮*(ともすけ・茂木もてぎ、藩士/歌/俳人)Ｐ３１６０
頼母(たのも・茂木)　→　*知教*(とものり・茂木もてき、藩士/歌人)　Ｑ３１２５
頼母(たのも・松平)　→　*頼寛*(よりひろ・松平まつだいら、藩主/儒家)　Ｊ４７６５
頼母(たのも・淀川)　→　*盛品*(もりただ・淀川よどがわ、藩士/民俗調査)Ｆ４４６２
頼母(たのも・浅井)　→　*図南*(となん・浅井、医者/本草/詩文)　Ｏ３１５６
頼母(たのも・上田)　→　*仲敏*(なかとし・上田、藩士/砲術/歌)　Ｅ３２７６
頼母(たのも・松井)　→　*晟時*(あきとき・松井まつい、藩士/剣術)　Ｄ１０６１
頼母(たのも・都筑/川口)→　*信友*(のぶとも・川口/都筑、幕臣)　Ｃ３５４０
頼母(たのも・菅沼)　→　*斐雄*(あやお・菅沼すがぬま、歌人)　Ｂ１０５８
頼母(たのも・玉井)　→　*勘解由*(かげゆ;通称・玉井たまのい、藩士)　Ｌ１５４２
頼母(たのも・石川)　→　*金谷*(きんこく・石川いしかわ、儒者)　Ｉ１６９７
頼母(たのも・恒遠)　→　*醒窓*(せいそう・恒遠つねとお、儒者/詩)　Ｃ２４５０
頼母(たのも・宍戸)　→　*謙堂*(けんどう・宍戸ししど、易学家)　Ｌ１８７６
頼母(たのも・平田)　→　*止水*(しすい・平田ひらた、絵師)　Ｔ２１９４
頼母(たのも・山崎)　→　*籍侃*(よりただ・山崎やまざき、藩士)　Ｉ４７９７
頼母(たのも・青柳/塩谷)→　*綱誠*(つなのぶ・塩谷しおのや/青柳、武芸者)　Ｂ２９１９
頼母(たのも・稲生)　→　*正房*(まさふさ・稲生いのう、幕臣/国学)　Ｎ４０７７
頼母(たのも・福島)　→　*末晨*(すえあき・福島ふくしま/度会/亀田、神職)Ｊ２３１３
頼母(たのも・福島)　→　*末美*(すえよし・福島ふくしま/谷田、神職)　Ｊ２３１５
頼母(たのも・沢田)　→　*泰綱*(やすつな・沢田/荒木田/薗田、神職)Ｃ４５１０
頼母(たのも・今井)　→　*信惇*(のぶあつ・今井いまい、神職/国学)　Ｈ３５４０
頼母(たのも・藤井)　→　*延近*(のぶちか・藤井ふじい、神職/国学/歌)Ｊ３５８７
頼母(たのも・岡田)　→　*元善*(もとよし・岡田おかだ/源、家老/国学)Ｊ４４５９
頼母(たのも・恩田)　→　*貫実*(つらざね・恩田おんだ、藩家老/国学)　Ｆ２９５２
頼母(たのも・古高)　→　*正順*(まさのぶ/まさより・古高/枡屋、商家/尊攘)Ｓ４０３７
頼母(たのも・昌木)　→　*晴雄*(はるお・昌木まさき/杉山、医/尊皇)　Ｋ３６８０
頼母(たのも・安養寺)　→　*武政*(たけまさ・安養寺あんようじ、藩士/国学)Ｖ２６３３
頼母(たのも・三上)　→　*一彦*(かずひこ・三上みかみ、神職/歌人)　Ｖ１５８２
頼母(たのも・宮路)　→　*吉甫*(よしとし・宮路みやじ、国学者/歌人)　Ｐ４７４３
頼母(たのも・宮西)　→　*邦維*(くにしげ・宮西みやにし/藤原/宇治部、神職/国学)Ｅ１７５６
頼母(たのも・行弘)　→　*正常*(まさつね・行弘ゆきひろ/中原、国学者)Ｔ４０６６
頼母助(たのもすけ・吉田寺/佐久間)→　*景忠*(かげただ・佐久間、兵法家)Ｋ１５９７

G2654 **田畑持麿**(たはたのもちまろ、渡辺源左衛門)?-?　下野栃木の狂歌、1785「後万載」、87「才蔵集」3首入、[門たゝくしほ風寒き小夜中に貰ひちどりのなく赤子かな](貰い乳の母子、才蔵集266)

他八郎(たはちろう・中野)　→　*武信*(たけのぶ・中野なかの、藩士/歌人)　Ｙ２６６１

束(たばね・高野)　→　*束根*(つかね・高野たかの、華道/歌人)　２９４８
たはらの小槌(たわらのこづち)→　*小槌*(こづち・俵の、狂歌)　Ｆ１９８０
田原天皇(たはらのすめらみこと)　→　*志貴皇子*(しきのみこ)　２１０８

G2653 **田原高積**(たはらのたかづみ)　？－　？　甲府の狂歌:1787南畝(四方赤良)「狂歌才蔵集」入、
[ただひとりふすまも寒き冬の夜はひつかけてねる茶碗酒かな](ひつかけは衾の縁語)、
(才蔵集;六285)

F2695 **田原駝々広**(たはらのだだひろ)？－　？　狂歌:1787南畝「狂歌才蔵集」入、
[性しやうわるの君は若菜のかれ葉かなちぎりては捨てちぎりては捨て]
(性しやうわるは浮気者、ちぎるは契る、才蔵集;十一491)

田彦(たひこ・植松)　→　*田彦*(でんげん・植松、俳人)　Ｄ３０７０

2647 **旅人**(多比等/淡等たびと・大伴おおとも宿禰、安麻呂男)665-731*67* 母;巨勢郎女(or石川内命婦人)、
廷臣;710左将軍/727頃大宰帥:憶良らと筑紫歌壇を形成、730大納言/31従二位、
万葉三期歌70首:讃酒歌/梅花宴歌/亡妻思慕歌など、懐風1首入、勅撰13首;新古(901)以下、
田主・宿奈麻呂・坂上郎女らの兄弟、家持・書持の父、
[言はむべせむすべ知らず極まりて貴きものは酒にしあるらし](万葉;三342/讃酒歌)、
[我妹子が見し鞆の浦のむろの木は常世にあれど見し人そなき](万葉;三446/上京途中)、
[我妹子が植ゑし梅の木見るごとに心むせつつ涙し流る](万葉;三453/帰京)

2648 **旅人**(たびと・大伴)**の傔従**(つかひびと)?-?　730(天平2)大伴旅人が大納言となり帰京;
傔従(けんじゅう;従者)達は主人と別路海路で上京するとき悲しんで歌を詠む(10首)、
万葉三期の歌;3890-99(3890の歌は三野連石守、その他は作者名不詳)、
[荒津の海潮干しほひ潮満ち時はあれどいづれの時か我が恋ひざらむ](万葉集:十七3891)

三野連石守　→　*石守*(いそもり・三野連みののむらじ)　Ｂ１１１１
旅麿(たびまろ・畑井)　→　*正英*(まさひで・畑井/暢井はたい/畑屋/度会、国学)Ｇ４０７０
太兵衛(たひょうえ/たへえ・菊舎、田中保教)→　*其成*(きせい・酔庵、俳諧書肆)Ｂ１６３７
田弘(たひろ・黒瀬)　→　*田弘*(ただひろ・黒瀬くろせ、神職/国学)　Ｗ２６９４
田廬(たぶせ)　→　*真幸*(まさき・長瀬、藩士/国学者/歌人)４００８
陀仏(たぶつ・山田)　→　*桂翁*(けいおう・山田、幕臣/巷談作者)　Ｄ１８３７
多武六(たぶろく・尾張屋)→　*有鷹*(ありたか・鱸すずき、宿屋経営/国学)　Ｈ１０７８
多文(たぶん・神河)　→　*眉山*(びざん・神河かみかわ、医者/詩)　Ｃ３７２７
太平(たへい・栗原)　→　*信晃*(のぶあき・栗原くりはら、幕臣/画)　３５８２
太平(たへい・栗山)　→　*篤信*(あつのぶ・栗山、サハリン探検)　Ｅ１０７５
田平(たへい・常盤井)　→　*其堂*(きどう・常盤井ときわい、歌舞伎作者)Ｌ１６５９

2649 **太兵衛**(たへえ;通称・初世西沢にしざわ、名;貞陳さだのぶ)?-?　京の書肆/大阪で正本屋営業、一風の父、
浮世草紙・将棋詰物書を執筆/俳人、1659古浄瑠璃「しこたんの四郎」刊、
1666俳諧「阿波千句」入、87浮世草子「武道一覧」「諸国敵討」著、93「将棊作り物図式」編、
1696「諸象戯図式」1702「武士国土産」著、03「象戯力草宗桂指南抄」編

太兵衛(たへえ・2世西沢、義教)→　*一風*(いっぷう・西沢、書肆/浮世草紙)１１２５
太兵衛(たへえ・4世西沢利助)→　*一鳳軒*(いっぽうけん・西沢、書肆)　１１２６
太兵衛(たへえ・太田)　→　*定時*(さだとき・太田おおた、俳人)　Ｉ２０７７
太兵衛(たへえ・菊舎きくや、田中保教)→　*其成*(きせい・菊舎/酔庵、俳諧書肆)Ｂ１６３７
太兵衛(たへえ・長江屋)　→　*柏奚*(はくけい・喜[寄]老庵、俳人)　Ｃ３６９９
太兵衛(たへえ・河内屋)　→　*河太郎*(かわたろう・河内屋、両替商/奇人)Ｇ１５０４
太兵衛(たへえ・三川屋)　→　*眞清*(ますみ・石川/源、酒造家/国学者)Ｊ４０２８
太兵衛(たへえ・岡村屋)　→　*延寿太夫*(2世えんじゅだゆう・清元、清元節祖)Ｂ１３０６
太兵衛(たへえ・松本)　→　*貞雄*(さだお・松本まつもと、和学者)　Ｐ２０４７
太兵衛(たへえ・増田)　→　*休意*(きゅうい・増田ますだ、農業/文筆家)　Ｍ１６２５
太兵衛(たへえ・岡田)　→　*忠貴*(ただたか・岡田おかだ、和算家)　Ｆ２６１０
太兵衛(たへえ・伊藤)　→　*常香*(つねか・伊藤いとう、国学者/歌)　Ｂ２９８３
太兵衛(たへえ・・吉和)　→　*道保*(みちやす・吉和よしわ、藩士/歌学)　Ｋ４１９５
太兵衛(たへえ・松村)　→　*貞世*(さだよ・松村まつむら、国学者)　Ｐ２０４５

太兵衛(たへえ・猿子)　→　*惟常*(これつね・猿子ましこ、藩士/詩/園芸)Ｏ１９５５
太兵衛(たへえ・藤代屋)→　*眞婆行*(まばゆき・山旭亭さんきょくてい、商家/戯作)Ｋ４００３
太兵衛(たへえ・増田)　→　*正起*(まさおき・増田ますだ、藩士/国学者)　Ｓ４０５７
多兵衛(たへえ・和田)　→　*以悦*(いえつ・和田わだ、儒者/歌人)　　１１４１
田兵衛(たへえ・小林)　→　*歌城*(うたき・小林おばやし、幕臣/国学者)　１２６６
多保(たほ/袁たお・江馬)→　*細香*(さいこう・江馬えま、絵師/詩人)　　２０７５

S2621 **朶峰**(だほう:号・高橋たかはし、別号;無極、古翠男)?-?　江後期羽前米沢の俳人:一具門、
1851一具らと父古翠の追善集「俳諧無門関」編

S2622 **多保子**(たほこ・大槻おおつき、慈光尼、手習師匠吉田忠右衛門女)1768-1837*70*　上州山田郡大間々の生、
陸奥磐井郡蘭医大槻玄沢(1757-1827/名;茂質・号;磐水)の妻、江戸住、叔徳の誉れ高い、
和文に通ず、1824「更衣日記」著

玉(たま・明智/細川)　→　*ガラシャ*(細川/明智あけち、忠興妻/光秀女)Ｆ１５９４
玉(たま・井上)　→　*通女*(つうじょ・井上/三田、侍女/歌人)　２９０１
玉(たま・清水/歌川)　→　*芳玉*(よしたま・歌川うたがわ/清水、絵師)　Ｅ４７４１
たま(・上田/植山)　→　*瑚蓮尼*(これんに、上田秋成の妻/歌文)　Ｅ１９５９
たま(・杉浦)　→　*たま女*(たまじょ・杉浦すぎうら、歌人)　　Ｕ２６８３

Z2668 **玉昭**(たまあき・三島みしま、本姓;越智)1757-1817*61*　伊予越智郡大山祇(積)神社の大宮司;大祝家、
越智氏の三島大祝家による大宮司(長官)は世襲、国学者、
[玉昭(;名)の別名/通称]別名;清見/安敬、通称;大祝おおはうり/式部丞

X2659 **玉井**(たまい・白井しらい、庄内鶴岡藩士白井重固2女)1798-1873*76*　出羽庄内の国学/歌人;父門、
伯父白井矢太夫2男白井重敏(鶴岡藩士)と結婚;3女出産;
末子の千代梅ちようめは歌人・能書家で「胡蝶日記」著

Y2625 **玉条**(たまえだ・茶屋ちゃや、名;玉枝/通称;栄兵衛)1835-? 伊予の歌人、儒学・歌;三上是庵(景雄)門

Z2682 **玉緒**(たまお・宮崎みやざき榊光慶男)1828-1896*69*　近江蒲生郡の医者、京の宮崎家を継嗣;
仁和寺宮(のちの小松宮彰仁あきひと親王に出仕、故実に精通/歌・画(桜画)を嗜む、
[玉緒(;名)の通称/号]通称;大輔/大和介、号;桜戸

玉雄(たまお・山田/久米)→　*千壽*(ちほぎ・燕栗園えんりつえん2世、書肆/狂歌)Ｆ２８３７
玉縵之子(たまかづらのこ)　→　*鬘子*(かづらこ)　　１５６９
玉川常水(たまがわじょうすい)→　*常水*(じょうすい・玉川、洒落本/平秩東作か?)Ｔ２２７１
玉河亭(たまがわてい、号)　→　*与清*(ともきよ・小山田、高田、国学)　　３１６０
玉川阿闍梨(たまがわのあじゃり)→　*日荘*(にっそう;法諱・眞就院、日蓮僧)Ｅ３３９２
玉川漁翁(たまがわのぎょおう)→　*南畝*(なんぽ・大田、幕臣/狂歌詩)　　３２３３

Y2665 **手巻**(たまき・中山なかやま、)1769-1850*82*　上野甘楽郡の国学者/七日市藩に出仕/名主、
[手巻(;名)の別名/号]別名;環/瑛/瑛親、号;莆斎かんさい

V2667 **玉置**(たまき・市川いちかわ、通称;喜重/喜十郎)1788-1813早世*26*　伊豆三島の国学者;竹村茂雄門

K2637 **玉秋**(たまき・磯田いそだ、山守やまもり庄兵衛男)1795-1860*66* 尾張の国学者;本居宣長・加藤有清門、
尾張呼続村の医磯田家の養子;医業、仏教;一如律師門/漢学;伊藤鳳山門、蘭学/歌人、
美濃今尾藩主竹腰正美に従い江戸に出る;藩士、「雅言仮名格」「冠辞便覧」「玉秋聞書」、
「万葉集普通略」「五十音研究図及び五音かなかへし附録」「あうむかへし」著、
[玉秋(;名)の幼名/号]幼名;杏坪、号;荻園あしぞの/平庵、法号;歌翁院

X2673 **環**(たまき・鈴木すずき、)　1800 － 1891長寿*92歳*　常陸久慈郡の医者、国学者

S2623 **璣**(たまき・山県やまがた/宍戸ししど、名;衡/子誠、安田直温男)1829-1901*73*　萩藩士/山県太華養子、
のち1848家老宍戸親基養子、儒:1843松陰門/51艮斎門、54幕吏に従い蝦夷地巡視、
1852-55「山県半蔵日記」54「北陲日誌」、「山口講習堂出勤一件公用掌記」著、
[璣の字/別通称/号]　字;世衡、　別通称;三郎/辰之助/半蔵/備後助、
号;敬宇/潮坪/巽庵/肉生/六々生/巽生/退一/如瓶道人/華陰堂主人

環(たまき・三津)　→　*上太郎*(じょうたろう・紀、浄瑠璃・狂歌)　２１９４
環(たまき・中井)　→　*柚園*(ゆうえん・中井、儒者)　　４６８１
環(たまき・船曳)　→　*磐主*(いわぬし・船曳ふなびき、神職/国学)　Ｂ１１８４

環(たまき・中井)　→　*柚園*(ゆうえん・中井なかい、儒者)　４６８１
環(たまき・中山)　→　*愛徳*(あいとく/よしのり・花山院/藤原/中山、右大臣/詩歌)Ｍ４７１５
環(たまき・満山)　→　*雷夏*(らいか・満山みつやま、藩儒;教育者)　４８２４
環(たまき・竹内/岡崎)　→　*千兮*(せんけい・岡崎/竹内、俳人)　Ｍ２４１４
環(たまき・山浦)　→　*清麿*(きよまろ・山浦やまうら、刀工)　Ｌ１６４４
環(たまき・久津摩)　→　*季敏*(すえとし・久津摩くづま、藩士/国学)　Ｉ２３４４
玉樹(環/多麻喜たまき・上田/中)→*天游*(てんゆう・中なか、医者/蘭学)　Ｅ３０４５
璜(たまき・熊坂)　→　*台洲*(たいしゅう・熊坂くまさか、儒者/教育)　２６０５
珠城(たまき・中村、新名珠城;変名)→　*尚輔*(ひさすけ・中村、藩士/国学)Ｂ３７１７

S2624 **手枕歌種**(たまくらのうたたね、通称;釜屋繁三郎)?-?　下野鹿沼の狂歌作者/戯作、「北里俄十二時」著、
1787「才蔵集」入;[四方山の霞を幕にはるの日や花まつとての支度なるらん]、
[手枕歌種の別号]　手枕のうたたね/永日庵/壺枕楼こちんろう

V2669 **琨子**(たまこ・稲葉いなば、伊達だて吉村6女)1723-47早世*25*　陸奥仙台藩主の娘、歌人、
1741(寛保元)山城淀藩主稲葉内匠頭正益まさよしの正室、佐渡守正弘の母、
[琨子(;名)の別名/法号]別名;鑑子/初名;三保(三保姫)、法号;天祐院
たま子(多満子たまこ・伴)→　*玉女*(たまじょ・伴ばん、歌人)　Ｚ２６１４
瓊子内親王(たまこないしんのう)→　*瓊子内親王*(けいしないしんのう、後醍醐皇女/歌人)１８６７

G2655 **玉子香久女**(たまごのかくじょ)?-　?　狂歌・架空の遊女か?、1786飯盛「吾妻曲狂歌文庫」入
玉五郎(たまごろう・市川)　→　*行英*(ゆきひで・市川いちかわ、和算家)　Ｆ４６４１
玉杓子(たましゃくし)　→　*玄魚*(げんぎょ・梅素亭、絵師/狂歌)　Ｂ１８５４

U2683 **たま女**(たまじょ・杉浦すぎうら)?-　?　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[咲きてとくうつろふ色のつらければ人の心の花は頼まじ](大江戸倭歌;恋1583)
[波の上に浮きてただよふ船のごとよるかたもなき我が思ひかな](同;恋1635)

Z2614 **玉女**(たまじょ・伴ばん、名;たま子/多満子)1823-90*68*　三河額田郡岡崎の伴孫太郎の妻、
歌人;[類題三河歌集]入
タマ女(たまじょ・清水/歌川)→　*芳玉*(よしたま・歌川うたがわ/清水、絵師)Ｅ４７４１

G2656 **玉助**(たますけ・玉屋)　?-　?　歌舞伎作者、1855「若木仇名草」(蘭蝶):先勝軒と合作
玉助(たますけ・中村)　→　*歌右衛門*(うたえもん三世・中村、初世金沢龍玉)１２６４
玉助(たますけ・酒井)　→　*忠以*(ただざね・酒井、藩主/歌・俳人)　Ｆ２６０８
玉輔(たますけ・立川、五明楼)→　*馬生*(ばしょう・２世金原亭、落語)　Ｅ３６５７

T2608 **玉章**(たまずさ・花山麓かざんろく)?-1819?　江戸の雑俳;川柳作者/上野山下住;花屋久治郎と親交、
川柳没後の川柳風再建に尽力;文口堂礫川を柳多留三一編判者に推薦、
川柳評の各地奉納額を書写し1806「誹風柳多留三一篇」入、
1806川柳二世嗣号記念[独選十会]催(柳多留三五篇入)、
[松の内我女房にちつとほれ](柳多留七Ｏ篇)
玉章宿(たまずさのやど)　→　*義暁*(よしあき・錦織にしごり、商家/庄屋/日記)Ｏ４７３６
玉田玉枝(たまだぎょくし)　→　*弘文*(ひろふみ・三矢田、講釈師)　Ｈ３７０８
玉太理(たまたいり・小松原)→　*亘*(わたり・小松原こまつばら/源、国学者/歌)５３８２

2650 **玉槻**(たまつき・対馬の娘子)?-　?　万葉四期作者3704-5(2首)、対馬の遊女?、
対馬竹敷たかしきの浦に停泊中の遣新羅使人と贈答歌、
[もみち葉の散らふ山辺ゆ漕ぐ船のにほひにめでて出でて来にけり](万葉;十五3705)

J2666 **玉つる**(たまつる・遊女)　?-　?　江戸吉原竹屋の遊女、1783燕十「澁都洒美選」入、
狂歌;1785「後万載集」入;[九重を一重ちらせし八重桜けふこの里に匂ひぬるかな]

S2625 **玉英**(たまてる・新井あらい)1791-　1862*72歳*　仙台の刀匠/鉄砲張法:木田定義/刀鍛冶;武広安英門、
仙台藩参政安倍松広の愛顧を受け江戸で風砲甲冑の製法修得;大慶直胤門・国友門氏、
1834-42「和漢刀剣談」著、
[玉英(;名)の通称/号]通称;竜右衛門/万定則、号;雙竜子

V2671 **玉豊**(たまとよ・今村いまむら、市右衛門の長男)1795-1867*73*　信濃伊那郡の絵師、歌人、

高松藩士長谷川峻阜門、岩崎長世・洞岩寺晉城・片桐致真/省庵/雪友・松尾多勢子と交流、
[玉豊(;名)の通称/号]通称;政次郎/市右衛門、号;玉鳳、法号;願行叟亮斉庵主
珠名(たまな・珠名娘子たまなのおとめ)→ *末珠名娘子*(すえのたまなのおとめ、万葉集中の美女)Ｂ２３３６
C2607 **玉成**(たまなり・春苑はるその) ？－ ？ 平安前期陰陽師;838第19次遣唐使船陰陽師に任命、
始め難破:入唐/841「難義」請来;陰陽道の発展/陰陽博士兼陰陽請益
神霊能眞柱大人(たまのみはしらのうし)→*篤胤*(あつたね・平田ひらた、国学/神道)１０２２
玉の室屋(たまのむろや) → *高鞆*(たかとも・鈴木、神職/国学) Ｄ２６２６
玉廼門(たまのもん・淫水亭)→ *種清*(たねきよ・柳水亭、戯作;合巻) Ｇ２６３６
玉の舎(たまのや) → *富延*(とみのぶ・細田ほそだ、国学者) Ｏ３１９１
玉乃舎(たまのや) → *正逸*(まさはや・磯部いそべ、神職/国学) Ｎ４０６７
玉廼舎(たまのや) → *真柱*(みはしら・後醍院ごだいいん/大河平、国学者)Ｆ４１７１
玉廼舎(たまのや) → *義篤*(よしあつ・白幡しろはた/源、国学者) Ｎ４７３７
玉廼舎(たまのや) → *千村*(ちむら・田中たなか、藩士/国学者) Ｍ２８７４
珠の屋(たまのや) → *春彦*(はるひこ・大野おおの、酒造業/国学) Ｊ３６８５
瓊舎(たまのや・素蛾) → *素蛾*(そが・瓊舎、狂歌師) Ｊ２５３４
瓊舎(たまのや) → *眞瑤*(またま・近藤こんどう/関川、国学/歌)Ｐ４０７３
瓊之舎(たまのや) → *資徳*(すけのり・日野ひの、商家/神職) Ｊ２３０２
瓊廼舎(たまのや) → *千座*(ちくら・小原おはら/立石、神職/歌) Ｍ２８１９
瓊斎(たまのや・衣川) → *長秋*(ながあき・衣川きぬがわ、藩士/国学者)Ｄ３２１１
Z2669 **玉温**(たまはる・三島みしま、本姓;越智)1823-1871*49* 伊予越智郡大山祇(積)神社長;大祝家、
越智氏の三島大祝家による大宮司(長官)は世襲、国学者;平田銕胤門、
[玉温(;名)の通称/号]通称;大祝おおはうり、号;玉淵
玉彦(たまひこ・森) → *夏水*(なつみ・森もり、藩絵師/国学/神職)Ｅ３２９５
多満人(たまひと) → *雄亭多満人*(ゆうていたまひと、戯作者) Ｄ４６４４
玉姫(たまひめ・明智/細川)→*ガラシャ*(細川/明智、忠興妻/光秀女)Ｆ１５９４
G2657 **玉淵女**(たまぶちのむすめ・大江おおえ、丹波守大江玉淵女)?-? 朝綱妹、長門守源清邦の母?(尊卑分脈)、
のちに遊女;鳥飼院で宇多院に歌を詠んだ遊女;大和物語146段入、
大和物語145段の江口の遊女白女と同一か?(のちに混同されたか?)、後撰集1103、
[難波潟何にもあらず身をつくし深き心のしるしばかりぞ](後撰集;十五1103)
(詞書;女ともだちのもとに筑紫より挿し櫛をこころざす[心を込めて贈る]とて)、
[あさみどりかひある春にあひぬればかすみならねどたちのぼりけり](大和;146)
→ *白女*(しろめ、古今387) Ｄ２２３７
玉平(たまへい・賀集) → *惟一*(これかず・賀集かしお、製陶/国学) Ｑ１９６１
玉村(たまむら・中山) → *豊村*(とよむら・中山なかやま/多治比、国学)Ｔ３１３０
H2689 **玉よ**(たまよ;組連) ？－ ？ 江戸牛込の雑俳の組連;
取次;1766「錦桂評万句合」入;
取次例;[貫之は猫を追ひ追ひ荷をほどき](66万句合/前句;はたらきにけり々々)
(帰京時土産の鰹節を嗅ぎつけた猫が集まったと穿ち)
V2630 **玉世**(たまよ・新井あらい、)1804- 1866*63* 上野緑野郡藤岡の絹物商、狂歌師、
藤岡狂歌師富田永世門/俳号;玉世とする(繭から採名)、江戸で石川雅望・黒川春村はるむら門、
「神風日記」著、
[玉世(;俳号)の字/通称/別号]字;義述/義方、通称;右市/兵右衛門、
別号;庭葎庵ていりつあん/浅蓬庵せんぽうあん/繭亭まゆてい・けんてい
玉琳(玉林たまりん) → *琳阿*(りんあ、連歌・曲舞作者) Ｊ４９９４
田丸(たまる・書出) → *書出田丸*(かきだしのたまる、狂歌) Ｅ１５５６
2651 **田麻呂**(たまろ・秦はだ) ？－ ？ 736年遣新羅使人、万葉四期十五3681;
肥前松浦郡狛島で船泊の夜の歌、
[帰り来て見むと思ひし我がやどの秋萩すすき散りにけむかも](万葉集;十五3681)
多麻呂(たまろ・丸子連) → *多麻呂*(おおまろ・丸子連まろこのむらじ、防人/万葉歌人)１４６４
玉湧(たまわく・篠野;号) → *篠野玉湧*(しののたまわく、加藤/書肆、狂歌)Ｆ２１４２

W2616 民(多美たみ・大館おおだち/旧姓;服部、)?-1807　尾張海東郡の大館信庸(大館高門の兄)の妻、
国学;本居宣長・本居春庭門、林はやし富とみ(1759-1826/林良元妻)の姉
たみ(・谷)　→　*素塵*(そじん・谷、一陽窓、俳人)　Ｊ２５９６
民衛(たみえ・逸見)　→　*義広*(よしひろ・逸見へんみ、神職)　Ｇ４７７１
蒼生(たみ・米川)　→　*蒼生女*(たみじょ・米川よねかわ、歌人)　Ｕ２６４２
民江(たみえ・小原)　→　*千座*(ちくら・小原おはら/立石、神職/歌)　Ｍ２８１９
民右衛門(たみえもん・馬場)→　*存義*(初世ぞんぎ・馬場ばば、俳人)　Ｅ２５７３
民右衛門(たみえもん・北原)→　*因信*(よりのぶ・北原きたはら、名主/歌人)　Ｊ４７４１
民右衛門(たみえもん・久富)→　*山公*(さんこう・久富ひさとみ、俳人)　Ｍ２０１８
民右衛門(たみえもん・西原)→　*庸信*(つねのぶ・西原にしはら、藩士/歌人)　Ｇ２９１４

Y2682 蒼生雄(民雄たみお・西川にしかわ、)1818-7255　京の商家/国学者、
[蒼生雄(;名)の通称/号]通称;佐保屋得兵衛、号;柞園さくえん

Z2607 民雄(たみお・林はやし、通称;直蔵)1846-191469　長門が気藩士/歌人;近藤芳樹門
「林民雄詠草」(吉田樟堂文庫入)
民夫(たみお・野呂)　→　*道庵*(同庵どうあん・野呂のろ、儒者)　３１９４
民生(たみお・幸田)　→　*光潤*(みつひろ・幸田こうだ/度会、神職/国学)Ｊ４１０８

Y2664 民一(たみかず・中村なかむら、号;退耕)1733-181785　摂津伊丹の歌人;香川景樹門、
紫竹庵梁岳りょうがく・大塚寛柔ひろなり・山本重英・法性寺水月らと桂園派伊丹歌壇を形成
民記(たみき・大松沢)　→　*実敦*(さねあつ・大松沢おおまつざわ、藩士/歌)Ｏ２０１５
民吉(たみきち・太田)　→　*孰中*(もりなか・広田ひろた、藩士/勤王)　Ｌ４４１６

G2658 蒼生子(民子たみこ・荷田かだ、別名;逸/ふり[楓里]、羽倉高惟女)1722-8665　荷田春満あずままろの養女、
京伏見稲荷山稲荷神社の生/兄在満ありまろと江戸住/国学;養父門・歌文に卓越、某氏と結婚、
夫と死別、のち紀伊・高知・姫路藩の子女に教育;1770(49歳)まで、古今集の校正本著、
1783(62歳)罹病、藤江尚志宅にて没、家集「杉のしづ枝え」(門人菱田縫子ぬいこ編)、
「狭美駄麗さみだれ」「荷田蒼生家集」著、
本居大平「八十浦の玉」入、
[三輪山をしかも照らせる月影にかくさふべしや杉立てる門](八十浦;上巻末227)、
[青海原霞みわたりてちはやぶる神代のままの春を見るかな](杉のしづ枝)、
[蒼生子(;名)の通称/法号]通称;於民、法号;蒼生院芳林貞逸大姉

V2623 たみ子(民子たみこ・穴沢あなざわ、)?- 1819　越後沼垂郡の歌人;前波まえば黙軒門
歌集「雪月集」(死後9年刊)

S2626 民子(たみこ・菊池/菊地きくち/大橋、号;倭文舎しづのや、菊池孝古女)1795-186470　下野宇都宮富商の生、
大橋淡雅の妻;夫淡雅は婿に入り1814宇都宮を出て江戸日本橋に出店;富商となる、
元浜町住、歌人;大国隆正・吉田敏成門、巻子(大橋訥庵の妻)・澹如の母、
「江の嶋の記」/1859「倭文舎しずのや集」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[明けぬるか網代のかがりかげ消えて霜のみ白き宇治の川づら]、
(大江戸倭歌;冬1200/網代眺望)、
参考　→　*淡雅*(たんが・菊池/大橋、儒者)　Ｔ２６２１
→　*巻子*(槇子まきこ・大橋、歌人)　４０５９
→　*澹如*(たんじょ・菊池、儒者/詩人)　Ｉ２６８４

2705 民子(たみこ・矢野やの、)1850 - 192576　近江蒲生郡の商家矢野御蔭(1830-1922)の妻、
国学・歌人;夫御蔭みかげ門、
民五郎(たみごろう・跡見)→　*重敬*(しげよし・跡見あとみ、国学者)　Ｎ２１１９
民五郎(たみごろう・上田)→　*公鼎*(こうてい・上田うえだ、眼科医/国学)　Ｋ１９７１
民三郎(たみさぶろう・富士谷)→　*成基*(なりもと・富士谷ふじたに、医者)　Ｉ３２３４
民三郎(たみさぶろう・松井)→　*式部*(しきぶ・巣内/須内すのうち、勤王家/歌)Ｑ２１０９
民治(たみじ・大槻)　→　*平泉*(へいせん・大槻おおつき、藩儒/詩人)　２７６１
民次(たみじ・田村)　→　*宗道*(むねみち・田村たむら/松岡、藩士/神職)Ｄ４２８７

U2642 蒼生女(たみじょ・米川よねかわ)?-　?　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[思ふ事しのびもはてぬ秋の夜にものがなしきの声を聞くかな](大江戸倭歌;秋805/鴫)、
[仙人のかざしの菊はをののえのくちなし色に花も咲きけり](大江戸倭歌;秋962/黄菊)

民子(たみじょ・菊池/菊地)→*民子*(たみこ・菊池/菊地/大橋、倭文舎/歌)Ｓ２６２６
民次郎(たみじろう・新笹屋/小野)→*済*(せい・小野おの、国学・歌人/陶芸)Ｏ２４０２
田水金魚(たみずきんぎょ) → *金魚*(きんぎょ・田螺たにし、医者/洒落本) Ｄ１６９１
民助(たみすけ・工藤) → *艶文*(えんぶん・工藤くどう、儒者) Ｆ１３３４
民助(たみすけ・山本) → *隆林*(たかしげ・山本やまもと、国学者/歌人)２７２０
民助(たみすけ・三宅) → *松庵*(しょうあん・三宅みやけ、儒者/教育) Ｇ２２５９

S2627 **民蔵**(たみぞう;通称・武石たけいし、名;温)?-? 江後期常陸那珂郡勝倉村の庄屋、
1793水戸藩命で蝦夷踏査(木村礼斎と):1793「北行日録」著

民蔵(たみぞう・佐藤) → *鶴城*(かくじょう・佐藤、医者/国学) Ｋ１５０６
民蔵(たみぞう・木下) → *幸文*(たかふみ・木下、農業/歌人) ２６１５
民造(たみぞう・井上) → *頼正*(よりまさ・井上いのうえ/源、医者) Ｊ４７７６
民造(たみぞう・岡) → *信好*(のぶよし・岡おか、国学者) Ｈ３５７８
民造(たみぞう・井上) → *頼正*(よりまさ・井上いのうえ/源、医者) Ｊ４７７６
民太郎(たみたろう・高階) → *春帆*(しゅんぱん・高階たかしな、漢学/詩人) Ｋ２１４１
民親(たみちか・恩田) → *木工*(もく・恩田おんだ、藩士/財政改革) ４４６３
民之丞(たみのじょう・黒神)→ *直民*(なおたみ・黒神くろかみ、神職/国学) Ｂ３２６４
民之丞(たみのじょう・細田)→ *栄之*(えいし・鳥文斎ちょうぶんさい、幕臣/絵師)１３２８
民之助(たみのすけ・井上) → *利恭*(としやす・井上いのうえ、幕臣/日記) Ｎ３１９９
民之助(民之介たみのすけ・速水)→*春暁斎*(2世しゅんぎょうさい・速水、絵師)Ｍ２１７４
民之介(民之助たみのすけ・佐藤)→ *鶴城*(かくじょう・佐藤、医者/国学)Ｋ１５０６
民之輔(たみのすけ・伊藤) → *両村*(りょうそん・伊藤/池田、里正/儒者)Ｉ４９７５

S2628 **民彦**(たみひこ・水谷みずたに、別名;孝明/磐根いわね、日比野行保男)1818-91*74* 名古屋の水谷忠恕の養子、
名古屋の人足問屋(家業)/1835道中改御用/43江戸定日飛脚所の許可、国学;植松茂岳門、
尊攘派;志士を保護、飢饉救済、養蚕振興/茶圃開発、1866隠居、神職/俳・書画・刀剣の趣味、
「幕末道中所見図」画、「尾張国陶墟考」「名古屋安政五年疱病之記」著、
[民彦(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;貞五郎、 字;世篤、 通称;与右衛門、
号;享斎/素桃/弓の舎、 屋号;井沢屋

蒼生彦(たみひこ・臼田) → *正秋*(まさあき・臼田うすだ/鷲見、国学者) Ｎ４０９６
民村(たみむら・小松) → *有隣*(ありちか・小松こまつ、名主/歌人) Ｈ１０５０
民弥(たみや・山田) → *以文*(もちぶみ・山田/藤とう、神職/故実) Ｂ４４６３
多宮(たみや・奥村) → *蒙窩*(もうか・奥村おくむら、藩士/儒家) ４４４６
多宮(たみや・山/横山) → *政礼*(まさのり・横山/山、藩士/文筆家) Ｇ４００３
多宮(たみや・知久) → *幸充*(ゆきみつ・知久ちく、家老/歌人) Ｈ４６０１
多宮(たみや・葦名) → *盛倫*(もりとも・葦名あしな、邑主/国学) Ｊ４４０８
田宮(たみや・青方) → *運善*(ゆきよし・青方あおかた、家老/記録) ４６２８
民之(たみゆき・山田) → *東海*(とうかい・山田、藩士/儒者/国学) Ｂ３１９５
民之(たみゆき・桑原) → *桂叢*(けいそう・桑原くわばら、絵師) Ｇ１８２８

G2659 **田向**(たむけ・振ふる/布留) ？－ ？ 万葉二期歌人、初め連姓・684宿禰姓、筑紫に旅立つ時の歌;
[我妹子は釧くしろにあらなむ左手の我が奥の手に巻きて去いなましを](万葉;九1766)、
(釧は宝石などで作った腕輪、左手は尊い手)

田向神主(たむけのかんぬし) → 久宗(ひさむね・賀茂、神職/歌人) Ｃ３７０２

U2611 **田村**(たむら) ？－ ？ 江中期江戸の一橋家大奥の女房、
歌;1798刊石野広通「霞関集」入、
[年毎にめづるさかりは万代よろづよの春かけて見ん宿の梅むめが枝え](霞関;68/毎年愛梅)

田村御前(たむらごぜん) → *愛姫*(めごひめ・伊達だて/田村、政宗室/歌)４３６１

2652 **田村大嬢**(たむらのおおいらつめ・大伴、毛大嬢、宿奈麻呂すくなまろの女)?-? 万葉四期歌人、平城田村の里に住、
9首756-9/1449/1506/1622-3/1662、586詞/759左注、すべて異母妹坂上大嬢への贈歌、
[我が宿の秋の萩咲く夕影に今も見てしか妹が姿を](万葉集;八1622)

田村皇子(たむらのみこ)　→　*舒明天皇*(じょめいてんのう、万葉歌人)

G2660 **田村麻呂**(たむらまろ・坂上、苅田麿男)758-811*54歳* 平安初期武将、征夷大将軍;蝦夷平定、大納言、京の清水寺建立

Y2634 **屯麿**(たむろまろ・寺部てらべ、)1800-1875*76* 三河の書家、書;屋代弘賢門/国学・歌;橘守部門、江戸浅草で習字の手習師匠;指導厳しく木刀先生と綽名、
[屯麿(;名)の別名/通称/号]別名;麟盟、通称;新兵衛、号;竜川

S2629 **ため**　？－　？　大阪女流俳人;1773几董「明烏」入;
「七種ななくさの花の夜明や渡り鳥」(あけ烏入)

G2661 **為明**(ためあき/ためあきら・源、醍醐天皇皇子)?-?　廷臣;大蔵卿/刑部卿/正四下、平安前期歌人、960天徳四年内裏女房歌合左方人

G2662 **為章**(ためあき・高階たかしな、為家男)1059-1103*45歳* 平安後期廷臣:丹波守/正四下、仲章なかあき(「高階仲章記」著)・信朝(;法橋)の父、妻;藤原時房女

G2663 **為顕**(ためあき/ためあきら・藤原ふじわら、法名;明覚、為家男)1230or40?-? 1295存　母;内侍女、鎌倉期廷臣、兄弟;為氏・為教・為相・為守・源承(為定)、従五下/侍従/1278以前に出家、「竹園抄」、歌人;1263住吉社/玉津島社歌合参加、78弘安百首/92厳島社頭和歌参加、菟玖波集2句入、勅撰17首;続拾遺(1240)新後撰(541/941)玉葉(209/722/885/1854/2004)続千(2首)以下
[いかにわがむすびおきける本結の霜よりさきにかはりはつらん]、
(1278成立[続拾遺;雑1240]/出家の後詠み侍りける)

2653 **為明**(ためあき/ためあきら・二条にじょう、為藤男/本姓;藤原)1295-1364*70* 鎌倉南北期廷臣;大覚寺統近侍、左中将/右兵衛督/1331笠置の陣で捕縛;32土佐配流/33帰洛/47従三位/51南朝参議、のち帰洛;1356北朝参議/59権中納言/60正三位、従兄為定の「新千載集」撰進の連署、将軍足利義詮に重用:歌壇の中心/1363「新拾遺集」撰者;64四季部奏覧;完成前に病没;頓阿父子が完成させた、「古今集為明抄」著、1315祖父為世[花十首寄書]参加、1323亀山殿七百首(20首)/44金剛三昧院奉納歌参加/45刊[藤葉集]6首入、1350為世十三回忌歌出詠/56延文百首参加、為清・為忠の兄、
勅撰45首;続千載(1542)続後拾(104/819)風雅(3首897以下)新千(15首80/215/408以下)・新拾遺(11首93/138/208以下)以下、
[さりともとなほ頼みしは年月をへだてぬほどのつらさなりけり](続千載集;恋1542)、
[元徳三年(1331)三月尽日　内裏にて三首歌仕りけるに/暮春落花、
春もはやくれなばなげの色見えてうつろふ花をさそふ山風](藤葉;春81)、
[身ひとつに四代のわかれを思ふにも秋の心のやむ時ぞなき](為世13回忌歌;34/懐旧)

S2630 **為章**(ためあき・遠山、為実男)1649-1730*82歳*　岩代会津藩士、「土津家訓指帰」編、1698「御家訓指帰」注/99「土津家訓指要」注、
[為章(;名)の通称/号]通称;半二郎、神号;起道彦神

2654 **為章**(ためあき・安藤あんどう、初名;為明、定為男/本姓藤原)1659-1716*58* 丹波桑田郡尾口村生、為実の弟/母;亀子(歌人)、国学;父門/京で伏見宮出仕/致仕、1685光圀に出仕、「礼儀類典」編纂参、水戸彰考館万葉方出仕;契沖の指導を受ける;「釈万葉集」編纂参、「年山打聞」「年山紀聞」「年山筆記」、「紫家七論」「契沖事蹟考」、「千年山集」「明月記」編
[為章の通称/号]通称;外記/泰庵/新介/右平、号;年山、法号;万林庵

X2630 **為明**(ためあき・座光寺ざこうじ、信濃飯田藩主堀親蔵3男)1740?-65早世*26?* 母;勅使河原慈眼院、座光寺為忠の養子、為忠女の久ひさ(1743-65/夫死後4ヶ月後に23歳没/歌人)の婿、信濃伊那郡の旗本(伊那衆)、飯田7代藩主堀親長(1739-1808)の弟、歌人;澄月門(妻と同門)、家督を嗣ぐ前に没;妻も夫の死後4ヶ月後に没、娘のハナの夫為礒ためかたが家督を嗣、
[為明(;名)の通称]　亀弥/主水

T2676 **為章**(ためあき/ためあきら・不破ふわ、不破直廉の養嗣子)1744-1803*60*　金沢藩士;1777家督/定火消、公事場・寺社奉行/1791家老/93若年寄兼任、「御改法後被仰出候品々留帳」、
[為章の通称]　左京/波江/彦三

Z2618 **為秋**(ためあき・肥田ひだ、別名;政児/通称;春達)?-1840　伊豆田方郡の医者、国学・歌;竹村茂雄門、田方郡八幡野村の八幡宮神主、春安の父

V2680 **為璟**(ためあき・上野うえの、為成ためなり男)1828-6033　飛騨高山の国学者;山崎弘泰門、
[為璟(;名)の通称/号]通称;清五郎、 号;花栖かせい

Y2609 **為明**(ためあき・竹内たけうち、旧姓;岩田)1834-191885　信濃伊那郡の浄土宗正縁寺住職、
歌;森辺とせ子門、村沢文庫の収蔵家、
[為明(;名)の号]有石/桜雲居/一円

為章(ためあき・上冷泉、藤原) →　*為章*(ためふみ・上冷泉、歌人)　Ｓ２６７７

為章(ためあき・明石/吉山)→　*壽安*(じゅあん・吉山/明石、儒者/詩)　Ｗ２１４７

為章(ためあき・浜田)　→　*春庵*(しゅんあん・浜田はまだ、儒者)　２１９５

為章(ためあき・杉山)　→　*輪雪*(りんせつ・杉山、商家/俳人)　Ｋ４９５６

為昭(ためあき・山口/稲掛)→　*棟隆*(むねたか・稲掛/山口、商家/国学/歌)Ｂ４２４８

G2664 **為明女**(あめあきらのむすめ・二条にじょう)?-?　権大納言二条為明[1295-1364]女、
南北・室町期歌人、尼の姉を頼り摂津兵庫の称名寺に赴く、新千載786、
[月を見て難波のうさも慰むはこや故郷の秋の面影](新千載;羈旅786、
世を住み侘びて姉の称名寺に赴くとき八月十五日昆陽こやの宿に泊まり月を見る)

G2665 **為敦**(ためあつ・八条はちじょう/本姓;藤原[;長良流]/家名;法性寺、法性寺為量男)1345-140258 廷臣、
1395侍従/従三位、歌人;新後拾遺集の寄人、1367「新玉津島社歌合」参加、永徳壱百首入、
勅撰10首;新後拾遺(4首415/828/1152/1177)新続古今(6首83/419/581/1031/1189/1275)
法性寺為理の孫、為盛ためもりの父/為季ためすえの祖父、
[露はまだ結びもかへぬ月影を草場の霜と虫や鳴くらん](新後拾;秋415、
永和四年1378九月十三夜内裏で十三首歌講ぜられたときに月前虫を詠む)

G2666 **為適**(ためあつ・五条ごじょう/修姓;菅、為経男/本姓菅原)1597-165256 母;大僧正堯恵女、廷臣;漢学者、
1611文章得業生/14文章博士/32従三位/39参議/47従二位/48権中納言、為庸ためのぶの父、
詩:「菅為適詩集」「菅和長為適詩」、「諸道勘文之写」著

S2631 **為篤**(ためあつ・葛山かつらやま/本姓;坂[阪])?-? 江前期陸奥磐城平藩士:藩主内藤義泰(風虎)に出仕、
藩儒/歌学者、1669藩命で「磐城風土記」編纂に着手;88頃完成、
1686藩主の家集「内藤義泰朝臣家集」編纂/「左京大夫家集」「義泰公家集」編、
飯野八幡宮古伝書類「飯野文書」編纂(幕府に献上)、「磐城風土記」編、
1688(貞享5)歌学研究書「続しょく類題集」撰(風虎の命で撰;後水尾院[類題和歌集]未収歌)、
[為篤(;名)の号]号;曲松居士/以得・為得・意得いとく/葛山散人/信濃入道、 貞享末1688頃没

為有(ためあり)　→　*為有*(いゆう、農業/俳人)　Ｉ１１３３

G2667 **為家**(ためいえ・高階たかしな、大宰大弐成章男)1038-110669 母:大弐三位、平安後期廷臣;
備中守/正四下、為賢の父、1078(承暦2)「内裏後番歌合」に母の代詠;
[五月雨のひまなきころは伊勢のあまの藻塩のけぶり絶えやしぬらん](内裏;八番右)

2655 **為家**(ためいえ・藤原/御子左みこひだり、定家男)1198-127578 母;藤原実宗女、鎌倉期廷臣;1226参議、
1236権中納言/38正二位、41権大納言/50民部卿/56病で出家、妻:蓮生(宇都宮頼綱)女、
後妻;安嘉門院四条(阿仏尼)、蹴鞠;後鳥羽・順徳院に近侍、1221承久乱後歌道に専念;
1223「為家卿千首」29自邸で百首歌催、御子左家(和歌師範家)の当主として歌壇を統率、
各種歌合の判者、1251続後撰集・65続古今集を撰進、
1253「定家13回忌追善詩歌(二十八品並九品詩歌)」勧進、「詠歌一体」(八雲口伝)著、
「為家口伝」「古今為家抄」「三秘抄」「為家書札」「和歌口伝」「後撰集正義」著、
「為家集」「為家卿集」、菟35句入、「為家卿一夜百首」「中院詠草」「為家卿藤河題百首」外著多数、
「宝治百首」1262「弘長百首」など出詠、1253-4成立藤原基家撰[雲葉集]10首入、
勅撰333首;新勅(6首101以下)続後撰(11首68以下)続古今(44首5以下)続拾(43首1以下)以下、
[たち残すこずゑも見えず山桜花のあたりにかかる白雲](新勅撰;春101、
前関白九条道家家歌合に雲間花の心を詠)、
[為家(;名)幼名/通称/法名]幼名;三名、 通称;中院禅門/民部卿入道、 法名;融覚/静真

為家女(ためいえのむすめ・藤原)→　*大納言典侍*(だいなごんのすけ・為子)　Ｂ２６９８

2656 **為氏**(ためうじ・二条にじょう/家名;御子左、為家男/本姓藤原)1222-8665 母;宇都宮頼綱女、二条家祖、
廷臣;1251参議/60正二位/67権大納言/85出家、歌学/歌人;1258-59「新和歌集」編纂、

「続拾遺集」撰者(;1278奏覧)、「現葉集」撰者(散佚)、1243河合社歌合/47後嵯峨歌合参加、
1248宝治百首/50仙洞詩歌合/51影供歌合参加、1276住吉建治歌合;判者、
白河殿七百首・弘長百首・弘安百首出詠、雲葉集入、
1270「為氏卿記」、「大納言為氏卿集」「屏風詩歌」「美梁集」「鞠日記」、
勅撰200余首;続後撰(6首41/70以下)続古(17首58/216以下)続拾(21首28/83/129以下)、
新後撰(28首1以下)玉(16首)続千(42首)続後拾(23首)風(8首)新千(25首)新拾(19首)以下、
連歌;菟玖波;25(発句2)句、播磨細川荘の領有をめぐり継母阿仏尼・異母弟為相と争議、
京極為教ためのり・冷泉為相ためすけ・源承らの兄、為世ためよ・為雄ためお・為言ためときらの父、
[人とはば見ずとはいはむ玉津島かすむ入江の春のあけぼの](続後撰;春41、
建長二年1250詩歌合に江上春望)、
[為氏(;名)の幼名/法名]幼名;鶴若、法名;覚阿

為氏(ためうじ・菅/藤野) → *周泰*(しゅうたい・菅すが/藤野/橘、藩士) Ｉ２１４１

S2632 **為徳**(ためえ・五条ごじょう、為俊男/本姓;菅原)1763-1823*61歳* 廷臣;漢学/1786文章博士/
1788御所炎上後松平定信の諮問で再建に尽力/89大内記/92従三位/1813正二位、
1820権大納言/21式部大輔、「亀文亀奏議」「負文亀勘文」「賢聖障子小伝」「浴殿読書」著

為右衛門(ためえもん・荒巻)→ *菊男*(きくお・荒巻あらまき、商家/俳人) Ｋ１６０４

為右衛門(ためえもん・上田)→ *洪亭*(きてい・上田うえだ、儒者/教育) Ｌ１６５４

S2633 **為雄**(ためお・二条にじょう/家名;御子左、為氏男/本姓藤原)1255-? 1317存 廷臣;1300参議/04従二位、
1305亀山上皇崩御を悼み出家/17伏見院追善の一品経供養参加、
歌;1276住吉社三十五番建治歌合参加、
連歌:菟玖波集1句入、為世ためよの弟/為言ためことの兄、
[旅衣あけがたかけて白露を月にぞわくる小野の篠原](住吉社;旅暁月三番左)

S2634 **為緒**(ためお・小槻おづき/大宮、小槻光夏男)?-?1413-28没 廷臣:主殿頭/算博士/1413-28左大史、
正四下、「大嘗会記」

S2635 **為雄**(ためお・進藤しんどう、益郷男)1753-1801*49歳* 京の坊官;栗田青蓮院宮の侍法師/1778従六下、
下野守、「栗田史志」著、為善ためよしの父

為雄(ためお・土屋) → *為雄*(ためかた・土屋、藩士/歌人) Ｇ２６６８

為雄(ためお・葉室) → *定藤*(さだふじ・葉室はむろ/藤原、廷臣) Ｊ２０６１

S2636 **為起**(ためおき・大山おおやま、松本為穀男/本姓;秦)1651-1713*63* 実父;伏見稲荷神社祠官、
京の五条の商人大山正康の養子、実兄の夭折で神職を継祠、
1680山崎闇斎門;道統を継承/養父遺命で神職辞し大山家継承、1687正親町実豊の猶子、
伊予松山藩に招聘され味酒社祠官;神書古典を講読、1711帰京、国学者、私塾葦水軒を開塾、
1680「古語拾遺私考」編/83「葦水草」99「職原抄玉綴」著、
1700「氏族母鑑」編/「神代巻極秘訓」、1701「唯一論」、「稲荷私記」「伊予温故録」外著多数、
[為起(;名)の通称/号]通称;大膳/左兵衛/吉兵衛/七介、秦忌寸、 号;葦水/葦水斎

Y2696 **為興**(ためおき・波多野はたの、正秀男)1729-97*69* 安藝高田郡郡山麓の清すが神社神主、国学者、
「出雲風土記抄」を所蔵;浜田藩小篠敏が書写;伊勢神宮神官蓬莱尚賢を介し本居宣長入手、
この書はさらに宣長一門・神宮関係者から全国へ流布、
[為興(;名)の字/号]字;子躍、 号;平審

2749 **為興**(ためおき・渡わたり、通称;是中)?-1802 江中後期;信濃飯田の歌人;澄月・桃沢夢宅門,
渡豊利とよとし(飯田の医者/歌人)の親族?

為夾(ためおさ・池田) → *為夾*(ためちか・池田、歌人) Ｓ２６５０

為臣(ためおみ・日野) → *所介*(のぶすけ・日野ひの、藩士/地誌) Ｂ３５６９

G2669 **為景**(ためかげ・冷泉[下冷泉]/本姓;藤原、藤原惺窩男)1612-52自害*41* 初め細野姓/1036元服、
廷臣;図書頭、1647叔父冷泉為将の跡を継承;下冷泉家再興、1648左近権中将/50正四下、
漢学;菅得庵門、歌人;家学、林羅山・木下長嘯子・石川丈山と交流、1652(承応元)自害、
家集「為景卿集」、「為景文集」、「惺窩先生倭謌集」編、「九月十三夜詩歌巻」著、
「下冷泉為景詠草」「白鷗文集」「和歌口伝」「八瀬のこと葉」「嵯峨遊覧記」「大原遊覧記」著、
「為景白川紀行」「成元餞別記」外著多数、歌;1638[後鳥羽院四百年忌御会]参加、
[そのかたとさしてやかへりみなせ山近きかた野に急ぐ狩人かりびと](後鳥羽院忌;61鷹狩、

あれが水無瀬山と振返り見るだろう　近くの交野の猟場に急ぐ狩人達は)、
[為景(;名)の一字名/法号]一字名;由/伴/曲、法号;心源院宗誠一伸
為蔭(ためかげ・松尾)　→　*藤平*(とうへい・松尾まつお、庄屋/国学者)　Ｗ３１４６
為景(ためかげ・法性寺ほっしょうじ)→　*為理*(ためのり・ためまさ・法性寺/藤原、鎌倉期歌人)Ｈ２６３１
G2670 **為量**(ためかず・法性寺ほっしょうじ、初名;為春、為理ためのり男/本姓;藤原)?-?　南北期廷臣;正四下少納言、
右馬頭/中務大輔、歌人:1350為世十三回忌和歌参加、
勅撰10首;風雅(1606)新千載(1365/2299)新拾遺(1313)新後拾遺(5首)新続古今(1638)、
[春来ても花を待つべきこずゑかは雪だに残れ谷のむもれ木](風雅;雑1606)、
[為量(;名)の通称]　八条はちじょう　、八条為敦の父
G2671 **為量**(ためかず・大中臣おおなかとみ)?-　?　南朝方;神職?/歌人、新葉集584、
[神代よりながれ久しくつかへきてたえじとぞ思ふいすず川波](新葉集;九584)
S2637 **為員**(ためかず・藤原?)　?-　?　室町期廷臣/歌人;1407内裏90番歌合参(;3首)
2657 **為和**(ためかず・冷泉[上冷泉]、為広男/本姓;藤原)1486-1549*64*　廷臣;左近少将/1528正二位、
1541権大納言兼民部卿/1548出家;駿河で今川氏の庇護を受ける/在地武士に歌の教授、
歌書の書写、歌:1503三十六番歌合参加、「今川為和集」「聖廟法楽和歌」、
作法書「題会庭訓」、「為和記」著、
[枝茂み漏りこぬ月も橘の花やしたてる光みすらむ](三六番歌合;樹蔭夏月12番左)
[為和(;名)の通称/法名]通称;今川為和、法名;静清じょうしょう
Z2615 **為一**(ためかず・日高ひだか、通称;次左衛門)?-1733　江中期;薩摩鹿児島藩士;右筆(筆頭)、
書札に精通、幕命で薩摩藩は琉球の書札礼改訂を要求;
派遣された琉球右筆豊川親方正英に[書札]を指導;「書礼文法要伝の書」を伝授、
正英は帰国後に1761北谷朝騎のもと[中山要案]を完成、
歌人;竹内たけのうち惟庸これつね(1640-1704)門、
[かしこしといふもさらなりたらちねの魂きはる身に恵みある世は];
(得能通昭[石馬集]二集入)
2701 **為壽**(ためかず・森もり、旧姓;袴田)?-1775　遠江山名郡の国学者;杉浦国頭・賀茂真淵門、
浜松の曳馬五社神社神主森暉昌の養子;暉昌女の磐子はんこ(歌人)と結婚、
[為寿(;名)の通称]縫殿ぬい/備前守
為一(ためかず・御薗)　→　*如淵*(じょえん・御薗みその、藩士/国学)　Ｖ２２２９
S2638 **為賢**(ためかた・高階たかしな、為家男)?-1103　平安期廷臣;蔵人/従五下、祖母;大弐三位、
歌人;1102堀河院内裏艶書けそうぶみ合参加、
[人しれぬ恋は年月経ぬれどもうち出づるけふをはじめにやする](堀河院艶書合;46)
G2672 **為方**(ためかた・中御門なかみかど、経任つねとう男/本姓;藤原)1255-1306*52*　母;藤原公雅女、廷臣;蔵人、
右大弁/蔵人頭/1279-84春宮権大進、86参議従三位/88権中納言/93正二位/1300大宰権帥、
1280弘安源氏論議に参加、歌人;1303伏見御所歌会・五首題歌会に参加、
勅撰8首;新後撰(242/404/640)玉葉(982)続千(2首)続後拾(1108)新千載(1582)、
[吹く風に行きかた見えて涼しきは日影へだつる夕だちの雲](新後撰;夏242)
I2664 **為賢**(ためかた・藤谷ふじがやつ、冷泉為満男/本姓;藤原、藤谷家の祖)1593-1653*61*　廷臣;1632非参議、
従三位/1634民部卿;参議/42従二位権中納言/45致仕、歌人、
注釈書「古今鈔」著(;曼殊院良恕親王に授ける)、法号;洞宿宗賢
G2668 **為雄**(ためかた・土屋つちや)1742-　1802*61歳*　陸奥(岩代)会津藩士;兵学に精通/詩歌を嗜む、
1769「嘉利禰能久佐」75「忍金石余響」83「探勝紀行」92「夢路之手須左美」、
1794「忍婦物語」「湖中紀行」「見波氏之夢」/95「中山越」「本寺道之記」、97「桃林和歌集」、
1800「和歌浦波」、「最上紀行」「瞿麦草紙」「卯辰記」「桃林亭漫録」「所女久里」「花実集」著、
[為雄(;名)の字/通称/号]字;伯飛、通称;六蔵、号;柳塘
X2628 **為礒**(ためかた・座光寺ざこうじ、播磨小野城主一柳末栄2男)1750-1805*56*　座光寺為忠の養嗣子;
為忠の初めの養子為明(飯田藩主堀親蔵3男)が1765(28歳)早世のため為礒が婿入;家督嗣、
信濃伊那郡の山吹領主、座光寺家は為時以来交代寄合旗本(伊那衆)、
妻;座光寺為明女のハナ(柳糸/澄月門歌人)、歌人;澄月・桃沢夢宅門、
[為礒(;名)の通称/号]通称;豊之助/采女/中務、号;通祇

☆【座光寺家】
①為時－②為重－③為真(実)－④為治－⑤為勝－⑥為攄－⑦為忠－⑧為礪ためかた－⑨為寿－⑩為将－⑪為巳－⑫為邕－⑬為永

G2673 **為勝**(ためかつ・冷泉れいぜい、為純男/本姓;藤原)1557-78早世*22*　藤原惺窩せいかの兄、冷泉派歌人

2737 **為門**(ためかど・渡辺わたなべ、通称;安平、)1805-73*69*　美濃本巣郡北方の商家;質店経営、国学・歌;富樫広蔭門

2658 **為兼**(ためかね・ためかぬ・京極きょうごく、家名;入江、為教男/本姓藤原)1254-1332*79*　母;三善雅衡女、廷臣、幼少期;祖父為家より従兄為世と共に歌修学/西園寺実兼家に出仕/1280熙仁親王家出仕、東宮熙仁(伏見天皇)その側近に歌の指導:京極派を確立、右近少将/蔵人頭、1289参議/91権中納言/94正二位、伏見天皇践祚後;政治家として活動;皇統迭立にも関与、1298(永仁6)傍輩の讒言で佐渡に配流、1303赦免帰京、10権大納言:伏見院側近、西園寺実兼に出仕、再び政治・歌壇で活躍、勅撰撰者をめぐり二条為世家と論争勝利;1312「玉葉集」奏覧、1313出家後も政界に暗躍;15春日社奉納「正和四年詠法華経和歌」催;院・関白・大臣を迎え盛儀;その僭上が指弾され実兼の忌憚に触れ安東重綱により捕縛;1316安東が守護代の土佐に配流、帰京できず河内で没、朝廷と幕府の対立激化が背景、歌;1293永仁元年内裏御会5首参加/97三十番歌合;判者、1303金玉歌合(伏見院為兼歌合)主催/仙洞五十番参加、「為兼集」「続千載集名字間事」著、「為兼卿折句歌」「為兼卿鹿百首」「為兼卿和歌抄」「為兼卿記」著、勅撰132首;続拾(976/1167)新後撰(9首)玉葉(36首9/83/174以下)風雅(53首)以下、1310[柳風抄]12首入/藤葉集入、[足引の山の白雪消けぬがうへに春てふけふは霞たなびく](風雅集;冒頭歌/春立つ心)、[あさづくひ峰に匂へば山深き木の下闇ものこらざりけり](詠法華経歌;49/静覚名)[木の葉おち草ばしをるる秋の雨にながむるすゑも夕ぐれのくも](柳風抄;秋100)、[為兼(;名)の法名]蓮覚のち静覚　、為子ためこ(歌人)の弟

為兼(ためかね・上井・大神・諏訪)→*覚兼*(かくけん、武将/歌・連歌)　Ｂ１５４４

G2674 **為清**(ためきよ・二条にじょう、為藤男/本姓;藤原)?-?　南北期廷臣;五位/侍従、歌人、1371南朝三百番歌合参加、「古今和歌灌頂巻」に入、新拾遺1051、為明の弟/為忠の兄、[あまのたく藻にすむ虫にあらねどもわれから恋に身をこがすかな](新拾遺;恋1051)

S2639 **為清**(ためきよ・神じん/みわ・諏訪)?-　?　南北期諏訪大社神官?、円忠の同族、連歌:菟玖波集5句入、[烏羽玉うばたまのよるの夢には見えながら](菟玖波集;十恋834)(前句;その黒髪のあかぬかへるさ/烏羽玉のは夜の枕詞)

G2675 **為清**(ためきよ)　?－　?　連歌、1561長慶「飯盛千句」入

W2648 **為清**(ためきよ・片桐かたぎり、)1723-1801*79*　信濃伊那郡の山吹陣屋座光寺家家老、国学・歌人;松井賀元・澄月門、[為清(;名)の字/通称/号]字;子廉、通称;八郎太夫、号;蘭沢/遊山

G2676 **為邦**(ためくに・冷泉れいぜい、初名;為邨/為郡、為秀男/本姓;藤原)?-? 1402存　1364二条為明の猶子、廷臣;正四下左近中将、1371出家、歌人;為明より歌書の相伝を受/五条の和歌所を管理、1366年中行事歌合参加/67新玉津社歌合講師、中殿歌合参加、「為尹卿集」は為邦の家集?、勅撰3首;新拾遺(1746)新続古今(515/760)、為尹の父、法号;光膺/道膺どうよう、[年々としどしに故郷ふるさと出でてくる雁は越路こじぢの秋や住み憂かるらむ](新続古;秋515、新玉津島社三十首歌に)

G2677 **為邦**(ためくに)　?－　?　江戸蔵前の札差、俳人;祇空門、四時観連中の1;1733「四時観しじかん」(祇徳[水光]・祇明[莎鶏]・心祇[魚貫]と共編)、[笛ありて捨つる命や鹿の声](新句兄弟/鹿笛に騙されて命を落とす牝鹿の哀れ)、[為邦(;号)の別号]衣芳(:初号)

G2678 **為邦**(ためくに・木田きだ)　?－　?　江中期能楽研究家:勃海ふかみ保たもつ(茂兵衛)[1704-73]門、1764「謡曲閾言解」著(;茂兵衛[秦曲正名閾言]の訳)

U2614 **為国**(ためくに・久野くの、通称;逸蔵)?-?　江後期;三河吉田藩士、国学;本居大平門、歌:大平撰「八十浦の玉」下巻入、

[けふのごと　面がはりせず照る月のあかざる君は真さきくいませ]、
(八十浦;964/江戸下向する同門の天王社神主鈴木真重ましげ[1808-68]を送る歌)

X2602 **為邦**(ためくに・小林こばやし、号;圭碩)?-?嘉永1848-54頃没*60余歳*　江後期;信濃の医者;京で修学、儒;頼山陽門、歌人;香川景樹(1768-1843)門、帰郷;信濃松本藩典医

G2679 **為子**(ためこ・京極きょうごく、京極為教女)?-?1315存　母;三善雅衡女/為兼の姉、大宮院・伏見院に出仕、永福門院にも出仕/1308花園天皇即位に乳母として褰帳けんちょう典侍を務める、
(褰帳けんちょうは即位礼・朝賀に、高御座たかみくらの御帳を掲げること)、従三位/1314従二位、
歌人;家集「藤大納言典侍集」、1293伏見天皇永仁元年内裏御会5首/97十五夜歌合参加、
1303仙洞歌五十番参加/15春日宝前和歌入、
勅撰180首;続拾遺(403/546/896)新後撰(9首)玉葉(60首6/25/197以下)風雅(39首)以下、
[色みえぬ枯れ野の草のあとまでも露のなごりとむすぶ初霜](続拾遺;冬403)、
[京極為子(;名)の通称]　前右兵衛督為教女/**藤大納言典侍**/大納言三位/大宮院権中納言、従二位為子

G2680 **為子**(ためこ・二条にじょう、権大納言二条為世女)?-1311?　後醍醐天皇妃;尊良親王・宗良親王の母、初め遊義門院(後深草天皇皇女)女房、1304後二条天皇典侍/のち後醍醐天皇女房/妃、
贈従三位、歌人:1302正安四年六月歌合/03乾元二年七月歌合参加、嘉元百首参、藤葉集5首入、
勅撰71首;新後撰(5首125/402/962以下)玉葉(5首)続千(13首)続後拾(12首)新千(17首)以下、
[うしと思ふ風にぞやがて誘はるる散り行く花をしたふ心は](新後撰;春125、
内裏に百首歌奉りし時;落花)、
[二条為子女房名]権大納言(局)、権大納言典侍、遊義門院権大納言、後二条院権大納言典侍、
贈従三位為子、　兄弟;為道・為藤、
妹(尊良親王女の母)→ *権大納言典侍*(ごんだいなごんのすけ、為世女)Ｅ１９７５

U2637 **ため子**(ためこ・蜂屋はちや)？－　？　江後期;旗本幕臣蜂屋七兵衛(「梅花図譜」入)の妻、歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[物思ふ人やかなしとながむらん月待つ秋の夕暮れの空](大江戸倭歌;秋822)

W2631 **為子**(ためこ・沼崎ぬまざき、田窪峰忠女)1796-1844*49*　伊予越智郡朝倉村神職家の生、歌人;飛鳥井雅光門、朝倉村多伎神社神主沼崎誠則のぶのりの妻、鴨重忠の妹、
歌;重忠編「幾子誠則為子和歌集」に83首入/半井忠見(梧庵)編「ひなのてぶり」に4首入、
[散るをだにあはれとともに見し花を今年は君に手向にぞ折る](鄙のてぶり)
父　→　*峰忠*(みねただ・田窪たくぼ/串部、神職/歌)Ｉ４１５９
兄　→　*重忠*(しげただ・鴨かも/田窪、神職/歌人)　Ｎ２１８６
夫　→　*誠則*(のぶのり・沼崎ぬまざき/串部、神職/歌)Ｈ３５８１

Y2657 **為子**(ためこ・中西なかにし、)1841-1870*30*　摂津兎原郡熊内くまち村の庄屋の家、
家に儒者・勤王家が出入、国学・歌;祖父中西芳之・叔母桑樹尼門、黒沢翁満・大国隆正門、
勤王思想を詠歌、京の御所で歌の指導、摂津小町と称されたが1870(明治3)早世、
[砂子山よぎりのはれてちぬの海のなみよりいづる月を見るかな]、
(神戸の熊内八幡神社境内の歌碑;たか子名)、
[為子(;名)の初名/号]初名;たか子/誉子たかこ、号;美津倶利乃舎みつくりのや/香字庵(自邸名)
為子(ためこ・藤原、為家女)→ *大納言典侍*(だいなごんのすけ・後嵯峨院、歌人)Ｂ２６９８
為言(ためこと・菅原)　→　*為言*(ためのぶ・菅原、歌人)　Ｈ２６２６
為五郎(ためごろう・浅野)　→　*長訓*(ながみち・浅野あさの、茂長/藩主)　Ｋ３２８０
為作(ためさく・久保)　→　*篤見*(あつちか・久保、国学者)　Ｅ１０６８

G2681 **為定**(ためさだ・大中臣おおなかとみ、為仲男)1149-1212*64*　平安末鎌倉期神職:正四上神祇権大副、二宮造宮使、1205「大中臣氏文」著、歌人、千載1279、
[治承四年(1180)遷都時　伊勢太神宮に帰り参りて君の御祈り祈念し申し侍りける、
月読の神し照らさばあだ雲のかゝる憂き世も晴れざらめやは](千載;廿神祇1279、
清盛による福原遷都に対し高倉天皇の安寧を伊勢神官として祈る/のち還都)

2659 **為定**(ためさだ・二条にじょう/家名;御子左、為道男/本姓藤原)1293-1360*68*　母;飛鳥井雅有女、廷臣;初め大覚寺統近侍、正四下/左京権中将/美濃介/1323参議/34正二位、
１３36後醍醐天皇吉野潜幸に従わず;京の持明院統に出仕;1346権大納言、55出家;**釈空**、

歌人;父早世;叔父為藤に教育を受;二条歌道家嫡流の継承、蹴鞠継承、為世の孫、
1350「為世十三回忌和歌」勧進/56「為定口伝」、「為定集」「遊庭秘抄」著、
歌;1319文保百首/23亀山殿七百首(35首入/右兵衛督名)参加、
1325「続後拾遺集」59「新千載集」撰者、正中・貞和・1357延文の各百首歌詠進、
続現葉・松花・藤葉集等入集、
勅撰124首;玉葉(1323)続千載(6首46/245以下)続後拾(7首57/181以下)風雅(14首)、
新千(36首81/100/169以下)新拾(18首13/97以下)新後拾(28首1/29以下)新続古(14首)
為親ためちか弟、為遠ためとお/覚家かくけ/為定女らの父、
[よしさらば思ひもよわれよそながらあるかひもなき命ながさは](玉葉;恋1323)、
[そのままにあらばとばかりしのばれて教へし庭の跡ぞかひなし](為世忌歌;54/懐旧)
[為定(;名)の初名/通称/法名]初名;為孝、 通称;御子左みこひだり大納言、 法名;釈空、

T2677 **為貞**(ためさだ・不破ふわ、勝次男)1641-171272 加賀金沢藩士;1651家督/奏者番/寺社・公事場奉行、
江戸留守居/前田吉徳御附/1711致仕、「御領国山伏調帳」著
[為貞(;名)の通称/号]通称;彦三、 号;宗元

Y2626 **為貞**(ためさだ・津軽つがる、信義8男)1649-173183 父は陸奥弘前藩3代藩主、母;与曾子(添田貞成女)、
弘前藩城代、兄信政(藩主)命で高野山入;自性院の住職、1668(寛文8)勝手に帰国;
母に面会、還俗;大蔵を名乗る、信政の怒り;金木村に蟄居/1690赦免、能書家/詩人、
[為貞(;名)の別名/通称/法名]別名;貞経/為経、 通称;数馬/大蔵、 法名;貞栄

W2613 **為員**(ためさだ・大島おおしま、本姓;平)1776-183459 近江彦根藩士、歌人;彦根歌人伝(鶴巻)入、
[為員(;名)の通称]五太夫/堅左衛門/一作

S2640 **為貞**(ためさだ・柳田やなぎだ、滝たき平右衛門牛郷2男)1778-181134 柳田為美の養子/信州飯田藩士、
代々江戸藩邸側用人、歌;加藤千蔭門、村田春海らと親交、「うたのはやし」「くさぐさ」著、
[為貞(;名)の通称/法号]通称;東助/勘兵衛、 法号;俊光院、 末裔に柳田国男

S2641 **為定**(ためさだ・五条ごじょう/本姓;菅原、壬生みぶ家尹男)1804-6259 五条為貴の養嗣子、廷臣;漢学、
1817文章博士/27従二位/30正三位/33式部大輔/51参議/従二位/55権中納言、
1858日米条約反対上書の88卿の1、「菅葉」著

W2637 **為貞**(ためさだ・織戸おりど、通称;善兵衛/七左衛門/忠右衛門)?-? 江後期;伊勢松坂の国学者、
本居春庭・本居大平門

為定(ためさだ・藤原) → *源承*(げんしょう;法諱、天台僧/歌人) Ｃ１８１４
為定(ためさだ・藤原) → *定高*(さだたか・藤原、廷臣/連歌/日記) Ｂ２０９４
為定(ためさだ・潮田) → *為久*(ためひさ・潮田うしおだ、藩士/歌人) Ｖ２６８４
為貞(ためさだ・中島) → *通軒*(つうけん・中島、儒者) ２９２６

G2682 **為定女**(ためさだのむすめ・二条にじょう、号;芳徳庵)?-?1417存(80余歳) 南北室町期歌人、兄弟;為遠/覚家、
伏見宮貞成親王家の歌会に参加、1407内裏九十番歌合参加、新続古今集1792、
[和歌の浦や老木の松に降る雪の積れる年も今ぞかひある](新続古;雑1792、
応永十四年1407内裏三首歌合に浦雪)

S2642 **為訓**(ためさと・冷泉[下冷泉]/本姓;藤原、初名;季韶、風早公雄男)1764-182764 母;加藤明熙女、
冷泉為栄の養子、廷臣;1817正二位/23権大納言、「冷泉為訓卿和歌集」著

G2683 **為眞**(為実ためざね・藤原ふじわら、法名;生西しょうさい、永実男)?-? 1173存 母;藤原惟輔女、清家の孫、
平安後期廷臣;肥前守/従五下、歌人;1118実行歌合/34顕輔歌合/35播磨守家成歌合参加、
66重家家歌合参加、後葉・続詞花・万代集入集、
勅撰3首;金葉713(金葉解4)/詞花288/千載874、
[名にたかき姨捨山も見しかどもこよひばかりの月はなかりき](詞花;288、
父永実の信濃守に随従し上京ののち1134顕輔家歌合に参加)

G2685 **為実**(ためざね・大中臣おおなかとみ、親頼男or為家男)?-1202 神祇権少祐/従五下、永親の父、
歌人、続千載1208、
[あふことはかたののみののまくず原うらみもあへず露ぞこぼるる](続千載集;十二1208)

G2684 **為実**(ためざね・五条ごじょう/藤原/御子左、藤原為氏男)1266-133368 母;藤原重名女の伊予内侍、廷臣、
1288左中将/1309従三位/25参議/28従二位、1333(正慶2)没、
「愚秘抄」編参/「三五記」「和歌密書」の相伝に関与、歌人;1276住吉建治歌合参加、

1292厳島社頭和歌参加、1319文保百首・柳風抄・続現葉・臨詠・藤葉集入集、
勅撰32首；新後撰(866/890)玉(6首176以下)続千(9首)続後拾(3首)風(2首)新千(4首)以下、
[逢ふとみるほどはうつつにかはらぬを覚めて夢ぞと思はずもがな](新後撰；恋866)
[前大納言尊氏(足利)家にて後朝恋のこころを、
おもひやれあしたの床のおもかげは夢にみてだにおきうかりしを](藤葉；恋539)

S2643 **為学**(ためざね・ためのり・五条ごじょう、為親男/本姓；菅原)1472-1543*72* 廷臣；漢学者/1499大内記、
1501文書博士/14従三位/16参議/21大学頭/28正二位/41権大納言、詩/連歌、
「拾芥記」著、1527・30和漢聯句、34「何木百韻」

G2686 **為実**(ためざね・安藤あんどう、別名；為誠、定為男/本姓藤原)1654-1717*64歳* 丹波桑田郡尾口村生、
為章の兄/母；亀子(歌人)、京で儒；仁斎門/伏見宮出仕/致仕、歌；慈光寺冬仲・中院通茂門、
国学/故実、1688-水戸光圀に出仕：「礼儀類典」「扶桑拾葉」編纂参加、水戸彰考館別館総裁、
歌；「雑年愚詠」「抱琴和歌集」、「安藤為実筆記」「安藤為実雑記」「続有職問答」「筑波行記」著、
[為実(；名)の字/通称/号]字；之賓、通称；右兵衛尉/稲津左兵衛/主殿とのも/内匠たくみ、
号；素軒/抱琴園/栗里/一葉、法号；素影庵

為三郎(ためざぶろう・林) → *信海*(のぶみ・林、名主/国学/歌人) Ｄ３５３５
為三郎(ためざぶろう・鈴木) → *其一*(きいつ・鈴木すずき、絵師) Ｅ１６９５
為三郎(ためさぶろう・土屋) → *広丸*(ひろまろ・土屋つちや、国学/神道) Ｋ３７２１
為三郎(ためさぶろう・宮島) → *常信*(つねのぶ・宮島みやじま/林、神職/国学) Ｇ２９５８

2660 **為重**(ためしげ・二条にじょう/御子左、為冬男/本姓；藤原)1325-85殺害*61* 廷臣；右少将、1371従三位、
1376正三位/78参議/81(康暦3)権中納言/82従二位、83辞任、85(至徳2)夜討により殺害、
歌人；1335(11歳)で父没；従兄為定の右筆として歌道精進、為世の孫、
1350新玉津島社歌合/為世十三回忌和歌/57延文百首参加、将軍義満の歌道師範、
二条為遠(従兄為定の男)の没で中断していた「新後拾遺集」を補筆完成；1384奏覧、
1380「為重集」著、「光明真言功徳絵詞」書/「是害坊絵巻」書、
勅撰36首；新千載(671/1552)新拾(1292/1717)新後拾(23首35/98/139以下)新続古(9首)、
[伊勢の海のをののみなとの入潮に流れて遠くなく千鳥かな](新千載；冬671)
[独りぬる霜夜の鐘の響きより秋に深行く契をぞしる]、
(新拾遺；恋1292/延文百首；3290/寄鐘恋)

2703 **為茂**(ためしげ・八木やぎ、)1672-1747*76* 出羽久保田藩士；規式奉行、和学者、
[為茂(；名)の初名/通称]初名；為程、通称；清之丞/作助/備前

X2606 **為栄**(ためしげ・五条ごじょう/本姓；菅原、)1842-1897*56* 京の廷臣；1860大学頭/62侍従/63文章博士、
正三位少納言、国学；平田鉄胤門、1864元治の年号を申請/勤王派；
1864長州と通じ禁門変で参朝停止；67赦免、68征討大将軍嘉彰親王の錦旗奉行、
中四国追討監軍、1869陸軍少将/元老院議官/貴院議員
[為栄(；名)の字/号]字；子耀、号；白華/甲竜山樵

為成(ためしげ・清原) → *為成*(ためなり・清原) Ｈ２６２０
為成(ためしげ・源) → *為成*(ためなり・源) Ｈ２６２１
為成(ためしげ・平) → *為成*(ためなり・平) Ｈ２６２２
為成(ためしげ・藤原) → *為成*(ためなり・藤原、続拾遺歌人) Ｈ２６２３
為成(ためしげ・藤原) → *為成*(ためなり・冷泉、為相男) Ｈ２６２４

G2687 **為十郎**(初世ためじゅうろう・浅尾)1735-1804*70* 大阪歌舞伎俳優、
G2688 **為十郎**(２世ためじゅうろう・浅尾)1779-1806早世*28* 大阪歌舞伎俳優、和事名手
G2689 **為十郎**(３世ためじゅうろう・浅尾)?-1836 大阪歌舞伎俳優、敵役名手

為四郎(ためしろう・早川) → *直温*(なおはる・早川はやかわ、州吏/歌人) Ｏ３２４１
為四郎(ためしろう・山田) → *仲敬*(なかたか・山田やまだ/西巻、商家/儒/歌) Ｐ３２１８
為四郎(ためしろう・山田) → *重秋*(しげあき・山田、仲敬の孫/漢学/大肝煎) ａ２１０２
為四郎(ためしろう・山田) → *重興*(しげおき・山田、重秋男/商/郷士/漢学) ａ２１０３

S2644 **為次郎**(ためじろう・寺田てらだ)?- ? 江中期大阪阿波座衽町の人/書肆寺田思明の縁者か?、
1784「即座謡」作

為次郎(ためじろう・角倉) → *玄寧*(げんねい・角倉すみのくら、商家/幕府代官)Ｍ１８１０
為次郎(ためじろう・稲室/糟屋)→ *足穂*(たりほ・稲室/糟屋、農業/歌) Ｓ２６９９
為次郎(ためじろう・北村) → *松山*(しょうざん・北村きたむら、詩人) Ｊ２２２５
為次郎(ためじろう・高田) → *清年*(きよとし・高田たかだ、商家/国学者) Ｕ１６６４
為治郎(ためじろう・宇津木)→ *久岑*(ひさみね・宇津木うつき/西村、藩士/神職) Ｉ３７５７

G2690 **為季**(ためすえ・藤原/葉室、改名;隆頼、為親男)?-1216 平安後期廷臣;従四上/日向守/左京大夫、
1186/95経房歌合参加、言葉集入集、勅撰;千載465
[真柴ましば刈る小野の細道あとたえて深くも雪のなりにけるかな](千載集;六冬465)

G2691 **為季**(ためすえ・八条はちじょう/本姓;藤原[;長良流]/家名;法性寺、為盛男)1414-74*61* 廷臣;1465侍従、
1468正二位/播磨で没、歌人;1443前摂政一条兼良家歌合/46文安詩歌合参加、
私撰集「為季集」、新続古1247、
[よひよひの我が通ひ路をへだつとも更けてはゆるす関守もがな](新続古;恋1247、
百首歌;寄関恋)

S2645 **為助**(ためすけ・平?) ？－ ？ 平安中期太宰官人?、藤原重尹の帥在任中[1042-]連歌、
「鳩嶺集」の詩人?、歌;金葉二度本655(三奏647)(源国忠と連歌)、
[つれなく立てるしかの島かな](金葉;雑655/筑紫の志賀の島を見て、
国忠;弓張の月のいるにも驚かで;金Ⅲ647)
参照 → *国忠*(くにただ・源みなもと、廷臣) １７７３

2661 **為相**(ためすけ・冷泉れいぜい、初名;為輔、為家男、母;阿仏尼)1263-1328*66* 冷泉家の祖、廷臣;侍従、
左近中将/右兵衛督/1308参議/17権中納言・正二位、父没後異母兄二条為氏と領地争議;
母阿仏尼が鎌倉へ訴訟(;十六夜日記)、為相も鎌倉滞在多く鎌倉歌壇の指導者となる、
京では京極為兼(異母兄為教の男)と交流;京極派の歌合に参加、1303仙洞五十番歌合参加、
1303嘉元百首・為兼家歌合参加、1308頃「拾遺風躰集」10「柳風抄」の撰?、
1315為兼[詠法華経和歌]19文保百首参加、
「為相卿百首」「為相卿千首」、家集「藤谷ふじがやつ集」、
「為相装束抄」「八景詩歌」「古歌抄」著、「解脱上人明恵上人縁起絵巻」書、
勅撰64首;新後撰(270/457/592/1345)玉(14首212以下)続千(5首)続後拾(3首)・
風雅(18首)以下、藤葉集4首入、
異母兄;二条為氏・京極為教、為守の兄、為成・為秀・為相女の父、
[かへるさの袖濡すらし鵲かささぎのよりはにかかる天あまの川波](新後撰;秋270、
百首歌;七夕/[よりは]は鳥が寄合ってすり合わせる羽)、
[昨日まで人にまたれし涼しさをおのれといそぐ秋の初風](藤葉;秋178/文保百首歌)、
[為相(;名)の通称/法号]通称;藤谷ふじがやつ中納言/藤谷殿、法号;月巌寺殿玄国昌久

V2689 **為相**(ためすけ・江島えじま、為信[1635-95]男)1669-1756*88* 伊予今治藩士;重臣、歌人
為輔(ためすけ・冷泉) → *為相*(ためすけ・冷泉れいぜい、廷臣/歌人) ２６６１
為輔(ためすけ・冷泉) → *為成*(ためなり・冷泉、為相男、廷臣/歌人)Ｈ２６２４
為助(ためすけ・亀山) → *兵助*(ひょうすけ・勝、歌舞伎作者/狂言方)Ｆ３７２９
為助(ためすけ・鳥山)→ *啓*(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育)Ｋ３７０４

G2692 **為相女**(ためすけのむすめ・冷泉れいぜい)?-? 鎌倉後期歌人、将軍久明親王の室/1310久良親王の母、
「柳風抄」入集の式部卿家藤大納言と同一?、
勅撰11首;玉葉(6首664/822/1369/1406/1643/2525)風雅(5首227/800/1720/1865/1911)、
[漕ぎ出づる須磨のよ舟の遠近をちこちはさながら月の影の白浪](玉葉;秋664/月歌)

2662 **為純**(ためずみ・冷泉[下冷泉]、為豊男/本姓;藤原)1530-1578戦死*49* 戦国・安桃期廷臣;1576従三位、
1577参議、別所長治が家領播磨細川庄に侵攻;戦死、歌人;「為純百首」、藤原惺窩の父、
[為純(;名)の前名/法号]前名;為房(;初名)/為能/俊右、法号;宗桂

S2646 **為純**(ためずみ・日高ひだか、別名;為常/通称;甚兵衛)?-1749 薩摩藩士/藩の副吏、儒;鳩巣門、
1733「御兵具所稲荷縁起」著
為造(ためぞう・玉楮) → *象谷*(ぞうこく・玉楮たまかじ/藤川、漆工) Ｌ２５０６
為三(ためぞう・山形) → *良近*(よしちか・山形やまがた、国学者) Ｐ４７８１
為蔵(ためぞう・中山) → *美石*(うまし・中山、藩士/国学/歌) １２８６

為蔵(ためぞう・石川)　→　*依平*(よりひら・石川いしかわ、国学/歌人)　４７３５
為蔵(ためぞう・築山)　→　*通明*(みちあき・築山つきやま、藩士/故実家)Ｂ４１０９
為蔵(ためぞう・石崎/河野)→　*守弘*(もりひろ・河野/越智/、国学/史家)Ｇ４４４１
為蔵(ためぞう・村田)　→　*良穂*(よしほ・村田むらた、国学者)　Ｇ４７９１
為蔵(ためぞう・細野)　→　*要斎*(ようさい・細野/藤原、藩士/儒/地誌)４７９８

G2693 **為隆**(ためたか・藤原ふじわら:勧修寺流、坊城左大弁、為房男)1070-113061　母;源頼国女、
平安後期廷臣;甲斐守/中宮権大進/遠江守/蔵人頭/左大弁を歴任/1122参議/28従三位、
1130病で出家;没、日記「永昌記」、「職掌部類」著、法華念仏者として「後拾遺往生伝」入、
子孫は勧修寺流派として吉田・甘露寺・坊城・万里小路・勧修寺などに別れ繁栄

2783 **為高**(ためたか・橘たちばな、)　?－　?　南北期;武家?/歌人、
1375頃細川頼之(1329-92)家奉納[大山祇神社百首]出詠、
[春とても人にとはれぬ山桜我が身ひとつの友とこそみれ](大山祇百首;12/見花)、
[朝霜のかさねてむすぶいろながらまがきの菊の盛りをぞしる](同;48/籬菊)

G2694 **為孝**(ためたか・冷泉[下冷泉]、法名;宗円、政為男)1475-154369　母;中山親通女、室町期廷臣;
左近中将/1518権中納言/26正二位、31播磨で出家、歌人:1503三十六番歌合参加、
「為孝百首」著、連歌;1522大永二年十月五日万葉集詞百韻、
[知らぬ代の遠きを忍ぶ道もあらじあへるを時と君に仰ぎて](三六番歌合;祝言36番右)
為孝(ためたか・二条)　→　*為定*(ためさだ・二条/御子左/藤原、廷臣/歌人)２６５９
為隆(ためたか・藤原為経、為忠男)　→　*寂超*(じゃくちょう、三寂の1)　Ｇ２１３４
為恭(ためたか・冷泉/狩野)→　*為恭*(ためちか・冷泉/狩野、歌/絵師)　Ｓ２６５０

2663 **為尊親王**(ためたかしんのう、冷泉天皇第3皇子)977-1002早世*26歳*　母;超子、弾正宮、敦道親王の兄、
歌:990-995花山院歌合参加、室;藤原伊尹9女、和泉式部と恋(:和泉式部日記に入)、
[五月雨にまだならねどもほととぎすうちとけて鳴け夜半の一声](花山院歌合;郭公左)
[夏草の繁き思ひはまさるともかれなんことはをしくもあるかな](花山院歌合;夏草右)
室(藤原伊尹女)　→　*弾正宮の上*(だんじょうのみやのうえ)

H2649 **為猛**(ためたけ・古川ふるかわ、)1771-183666　京の生/神道・歌;栄名井広聡ひろとし(聡翁)門、
摂津有馬郡の羽束師坐高御産日はづかしにますたかみむすび神社の神主、1827「羽束師はづかし社旧記」著

S2647 **為全**(ためたけ・冷泉[上冷泉]、為則男)1802-4948　母;阿野実紐女、江後期廷臣;1828正三位/40参議、
歌人:「月十五首和謌」、「冷泉為全ためたけ卿御旅中御詠」著、法号;恒徳院

G2695 **為忠**(ためただ・藤原ふじわら、常盤丹後守、知信男)?-1136?　母;藤原有佐女、平安後期廷臣;
白河院・鳥羽院の近臣、左衛門尉/皇后宮権大進、安藝・三河・丹後守/正四下/木工権頭、
常磐に別荘;大原[常磐]三寂(寂念・寂超・寂然)の父、
歌人;1131-34歌合４度主催;「三河守為忠名所歌合」「常磐五番歌合」など催、
1116顕輔卿歌合/実行卿家歌合/21長実家歌合参加、
「為忠朝臣家百首」「為忠家後百首選抜」著、「為忠集」は別人のもの、
言葉集・後葉集・続詞花集4首・月詣集入集、
勅撰9首;金葉(328/692)(金葉解32/46)千載(1018)新古(1730)新勅(741)新続古(4首)、
[みづがきの久しかるべき君が代を天照る神や空にしるらん](金葉;賀328、
1116[永久4]三条実行六条宰相家歌合;祝;十三番左25)
[たちかはる千代のはじめのためしには子のびにあたるけふぞひくべき]、
(為忠家百首;冒頭歌)

G2696 **為忠**(ためただ・二条にじょう、為藤男/本姓;藤原)1309or10-137364or65　廷臣;1350従三位、
1351南朝の参議、のち北朝;1360正三位/63参議/67従二位権中納言、為明・為清の弟、
歌人;1325二条家月次会/39光厳院催[応安二年御会]、貞和百首人数、1353千首歌会参加、
1367新玉津島社歌合参加/新葉集42首(7/61/91/98/131以下)、1345刊[藤葉集]2首入、
勅撰10首;風雅(354/796/1017)新後拾(1185)新続古(6首418/678/770以下)、
[夕日さす山田の原を見渡せば杉の木陰に早苗さなへとるなり](風雅;夏354/百首歌に)、
[宮城野のこの下やみもはれぬらし空行く月のよその光に](藤葉;秋245)

X2627 **為忠**(ためただ・座光寺ざこうじ、佐久間信詮男)1720-178465　江戸の生/座光寺為摠の養嗣子;家督嗣、
信濃伊那郡の山吹領主、座光寺家は為時以来交代寄合旗本(伊那衆)、

歌人;澄月門、妻;兼かね(澄月門歌人)、
養子;為明ためあき(1738-65早世/娘の久ひさの婿)/のち為礒ためかた(為明女ハナの婿)、
[為忠(;名)の名/字/通称/号]初名;義方、字;子良、通称;忠之助/喜兵衛、号;竜山/独翁
☆【座光寺家】
①為時－②為重－③為真(実)－④為治－⑤為勝－⑥為攄－⑦為忠－⑧為礒ためかた－⑨為寿－⑩為将－⑪為巳－⑫為邕－⑬為永

V2677 **為忠**(ためただ・宇都宮うつのみや、)1775-1837*63* 伊予八幡浜の歌人;賀茂季鷹門、
[為忠(;名)の初名/通称]初名;繁、通称;善之丞

2718 **為質**(ためただ・山中やまなか、)1787-1861*75* 伊勢津藩士、国学/歌;松田直兄・富樫広蔭門、
[為質(;名)の通称/号]通称;石見、号;松舎まつのや/幽翁

U2663 **為忠**(ためただ・氷見ひみ/本姓;小野、通称;健次郎)?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ひぐらしの声も涼しき木のもとは暑さ忘るる所なりけり](大江戸倭歌;夏646)

2738 **為忠**(ためただ・渡辺わたなべ、通称;惣之助、為寧ためやす長男)1817-63*47* 美濃本巣郡北方の商家;豪商、
渡辺本家8世/為親の兄、国学・歌;富樫広蔭門

G2697 **為理**(ためただ・冷泉[上冷泉]、為全男/本姓;藤原)1824-85*62* 母;僧正真乗女、廷臣;1859権中納言、
1865正二位/最後の日光例幣使、和歌御会奉行、1868即位大礼に宣命使;即位の詔を宣読、
「和歌御会之事」「冷泉為理詠草」「新内裏清涼殿小御所障子色紙歌」「駅路日記」著、
「百首十題」著、
[難波江も霞み渡りて蘆の屋の里に音せぬ春雨ぞ降る](松平春嶽[古今百人一首]入)

D2612 **為忠**(ためただ・西尾にしお、字;叔諜/叔謀、号;鹿峯ろくほう)1842-1900*59* 京の漢学者;岩垣月洲門、
勤王家;戊辰戦に官軍で戦功、明治期;京都府典事/閑院宮家令、大師流書法に通ず、
「閑院宮家記」著

為尹(ためただ) → *為尹*(ためまさ・冷泉、歌人) Ｈ２６４３
為忠(ためただ・藤原) → *為継*(ためつぐ・藤原、廷臣/歌人) Ｈ２６０１
為忠(ためただ・町田) → *亘*(わたる・町田まちだ、藩士/歌人) ５３８９

2664 **為種**(ためたね・飯尾いいのお/本姓;三善、出家後の通称;永祥/肥前入道)?-1458 室町幕府奉行人、
肥前守、山門奉行/1433延暦寺衆徒の弾劾を受け尾張に逐電/復帰し八幡奉行/関東奉行、
1442頃出家/56四位、歌人/連歌師、1454辞書「撮壌さつじょう集」、新続古今1898;
[なげくぞよわかのうら波代々かけし跡をみるにもおろかなる身を](新続古今;1898)

Y2687 **為胤**(ためたね・根本ねもと/本姓;平、佳胤よしたね・[1742-1795]男)?-1857 上総市原郡の神職、国学者、
代々菊間八幡社神主
[為胤(;名)の通称/号]通称;大弐、号;月之

W2619 **為胤**(ためたね・砂沢すなざわ、定栄さだひで[1760-1831]男)?-? 陸奥(陸前)仙台藩士/国学・歌;父定栄門、
大松沢実敦・中村実敬の歌の師、
[為胤(;名)の通称]三郎兵衛(;父の称を継嗣)

W2615 **為足**(ためたり・大島おおしま、為寵ためちか2男)1851-1915*65* 尾張名古屋藩士、1851家督継嗣、歌;父門、
国学;植松茂岳門/1869京都皇学所入;研鑽/藩六国史校合に参加/熱田神宮権禰宜に就任、
1877東照宮祠官/大講義/権中教正;神宮教愛知本部長、明倫中学国語教師、
歌;・本多俊民・間島冬道門、1882山本正晴・氷室長峰・佐藤美宣らと歌道研究の会設立、
浅野三龍と文会を開く、歌学;冷泉為紀門;歌の古式を修学し連歌振興のため尽力、
「櫻園集」著(遺稿)、
[寒月照梅花　霜白き夜戸出の庭に月照りて梅が香寒し風はなけれど](明治44歌御会)、
[為足(;名)の通称/号]通称;富次郎、号;桜園(父の号を継嗣)

為太郎(ためたろう・藤川) → *冬斎*(とうさい・藤川ふじかわ、藩儒/教育) Ｅ３１３０

S2648 **為親**(ためちか・藤原ふじわら、親隆男/母;藤原為隆女)?-1172? 平安後期廷臣;1146頃六位/蔵人、
中宮亮大進/左衛門権左/右中弁/1172従四上、歌;1167平経盛歌合参加、「右中辨為親記」著、
為季ためすえの父、歌;1165清輔[続詞花集]入、
[身のうさも人のつらさを思ふにもひとかたならずぬるる袖かな](続詞花;恋635)

G2699 **為親**(ためちか・二条にじょう/家名;御子左、為道男/本姓;藤原)?-1341 母;飛鳥井雅有女、廷臣;侍従、

1335従三位/非参議、為定の兄、
歌人:1322亀山殿千首/23亀山殿七百首(20首入)参加/35内裏千首入集、
続現葉・藤葉とうよう集(5首)入、
勅撰15首;続千(1095)続後拾(2首)風(1554)新千(7首)新拾(2首)新後拾(176)新続古(1首)、
[いかにせん袖にあまれる涙河せかぬに淀むならひともがな](続千載;恋1095)

S2649 **為親**(ためちか・冷泉れいぜい、大納言中山親綱男/本姓藤原)1575-1610*36* 廷臣;右近少将/従四下、
歌人/連歌:1594夢想百韻・山何百韻/95何木百韻/97何墻百韻/1600何路百韻外多数
[為親(;名)の号] 中山冷泉、法号;蓮池院

U2600 **為親**(ためちか) ? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第十仏名第三句入、
[芦の葉にかくれみの鷺羽をのして](仏名第三句、鬼ヶ島の宝物隠れ簑に簑鷺を掛る、
脇句常頼;寶の池や目前の雪/池玉社神前の蓮池)

Y2652 **為親**(ためちか・中川なかがわ、)1765-1824*60* 近江彦根の歌人;[彦根歌人伝・亀]入、
[為親(;名)の通称/号]通称;宗七郎、 号;大観堂/来鳳楼

W2614 **為寵**(ためちか・大島おおしま、)1794-1879*86* 尾張名古屋藩士;御書院番頭、為足ためたりの父、
国学;歌;石川雅望門、歌人;村上忠順編[類題和歌玉藻集]入、
[為寵(;名)の通称/号]通称;亀六郎/六右衛門、 号;桜園

S2650 **為夾**(ためちか/ためおさ・池田いけだ、通称;来吉)?-? 江後期天保1830-44頃土佐の歌人、雅文に長ず、
藩中三絶(鹿持雅澄の長歌・安並雅景の短歌・為夾の雅文)の1、「うたろぎ」著

2739 **為親**(ためちか・渡辺わたなべ、為寧ためやす2男)1820-70*51* 美濃本巣郡北方の商家;豪商、為忠の弟、
国学・歌;富樫広蔭門、
[為親(;名)の通称/号]通称;栄三郎/安助、 号;鶯里

H2600 **為恭**(ためちか/ためたか・冷泉れいぜい/岡田おかだ、狩野永泰男)1823-64*42* 京の生/蔵人所衆岡田恭純養子、
絵師;父門/父没後;冷泉三郎為恭と称/式部大掾/1862近江守従五下、大和絵再興、
歌/有職故実、仮名書、酒井忠義と親交;勤王浪士に大和丹波市で殺害、「叡山絵巻」画、
「阿伽井の月物語」、1817「随身庭騎図」43「年中行事図巻」「冷泉為恭十二月絵巻」画、
[為恭(;名)の初名/通称/号]初名;永恭ながちか、 通称;晋三/三郎/式部/近江守、
号;神廉/眞蓮/心蓮/南山隠士/山蔭/吉祥子/田米知佳/卍字吉祥/住阿弥陀仏/光阿、
法号;心蓮坊光阿、

為周(ためちか・進藤) → *千尋*(ちひろ・進藤、坊官/国学) Ｆ２８２６
為周(ためちか・西村) → *次右衛門*(じえもん・西村、家老/日記) Ｐ２１６７
為親(ためちか・林/飯島) → *為仙*(ためのり・飯島/林、名主/歌人) Ｈ２６３３

H2601 **為継**(ためつぐ・藤原ふじわら、初名;為忠、信実[廷臣/絵師/歌]男)1206-65or66?*60or61* 鎌倉期廷臣;
1258従三位中務大輔、絵/歌人;1232石清水若宮社/43河合社/46春日若宮社/48宝治百首、
1251影供歌合/63住吉社歌合参加、藤原道家家秋三十首/万代/秋風/雲葉集入、
伊信・安嘉門院大弐の父、
勅撰18首;続後撰(862/886)続古(1007/1833)続拾(433/628/687)新後撰(3首)風(2首)以下、
[あはれまたいかなる世世のむくひにて憂きにつけても人を恋ふらん](続後撰;恋862)

H2602 **為嗣**(ためつぐ・五条ごじょう/御子左、為実男/本姓;藤原)1291-1355殺害*65* 廷臣;1349従三位/53参議、
1323鎌倉の北条貞時13年忌供養参加、摂津で殺害、1350為世13回忌和歌参加、
続現葉・臨詠集入/藤葉とうよう集2首入、
勅撰8首;続千載(584)続後拾(786)風雅(1931)新千(3首)新拾遺(2首)、
[移り行くははその紅葉人問はばいかにいはたのをのの秋風](続千載;秋584)

S2651 **為続**(ためつぐ・相良さがら、初名;頼元、長続男/本姓;藤原)1447-1500*54* 肥後武将/人吉城主:
1467家督嗣、名和・菊池氏としばしば交戦;一時球磨・八代・蘆北三郡を領す、
1499人吉城に退却、連歌、宗祇と親交;
1495新撰菟玖波集撰集資料として「相良為続連歌草子」を贈る、新菟5句入、
[為続(;名)の通称/号]通称;四郎三郎/二郎三郎/左衛門尉、法名;西華蓮船、号;玉井院

S2652 **為次**(ためつぐ・八島やしま、別名;重隆/為基、通称;平蔵、権左衛門男)1688-1763*76* 加賀金沢藩士、
1735定番馬廻組/能美郡代官、剣術家、1719「諸流兵論」51「格物論」、「剣術諸流詳論」著

為継(ためつぐ・冷泉/今城)→　*定淳*(さだあつ・今城いまき/藤原、権中納言)Ｈ２０７０
為次(ためつぐ・栗原)　→　*鼠劣*(それつ・栗原くりはら、俳人)　２５７４
為嗣(ためつぐ・松尾)　→　*一策*(いっさく・松尾まつお、庄屋/国学者)　Ｋ１１６８
S2653 **為綱**(ためつな・藤原、参議親隆男)1141-75*34歳*　平安後期廷臣;中務大輔、「兵範記」「百錬抄」入
H2603 **為綱**(ためつな・藤原、隆範男/母;季能女)?-?1265存　廷臣;正四下中務大輔/左京大夫/少納言、
歌人;1243河合社/63住吉歌合参加、万代集・現存六帖・雲葉集入集、
勅撰12首;続後撰(1148)続古今(1531/1680)続拾遺(1079/1120/1162)新後撰(3首)以下、
[和歌の浦へだてしあとの藻塩もしほ草かく数ならでまたやくちなん](続後撰;雑1148)
S2654 **為綱**(ためつな・山中やまなか、小西こにし道休男)1613-82*70*　近江坂本生/山中兵助為次の養嗣;1629家督、
伊勢津藩士;1645郡奉行/灌漑用水開削、領内地誌史伝に精通、
1656「勢陽雑記」64「恒産記」著、
[為綱(;名)の幼名/通称/法号]幼名;喜三郎、通称;兵助、法号;徹関玄透居士
H2604 **為綱**(ためつな・冷泉れいぜい[上冷泉]、為清男/本姓;藤原)1664-1722*59*　母;園基音女、江戸期廷臣;
治部卿/1711従二位/13権中納言/21家文庫勅封を解くとの院宣、歌人:
1721霊元院より古今和歌集口伝を授賜される/1690「倭歌庭訓」著、
1706「雲上和歌集」編、「冷泉新三代和歌集」「定家卿筆道」編/「為綱一夜百首」著、
1701(元禄14)田村建顕催[田村家深川別業和歌]に歌を贈る;
[時鳥浦路はるけき一声ひとこゑの渡る時なき月のあけぼの](田村家和歌;郭公一声)、
「為秀為綱為久詠和歌」編、為久の父
2747　**為綱**(ためつな・渡辺わたなべ、通称;新兵衛/号;奇屋)1846-1921*76*　尾張海東郡の国学者
為綱(ためつな・亀山)　→　*梅臣*(ばいしん・亀山、俳人)　Ｂ３６６１
H2605 **為経**(ためつね・惟宗これむね、号;有心判事、行利男)?-?　平安期廷臣:1022刑部少判事、1035従五下、
外記大夫、歌;後拾遺261、
[いにしへの月かゝりせば葛城かづらきの神は夜よるともちぎらざらまし](後拾遺;四261)
(詞書;八月十五夜によめる、葛城神[一言主神]は容貌を恥じ夜のみ働いたという故事)
H2606 **為経**(ためつね・甘露寺かんろじ/藤原、家名;吉田、資経男)1210-56*47*　母;藤原親綱女、廷臣;1236参議、
1244中納言、48正二位/51大宰権帥、1246「御譲記」「寛元四年御幸記」、46「為経卿記」、
「後嵯峨院御幸事」「後嵯峨天皇御幸始記」歌人;1248宝治百首参加、万代/秋風/閑月集入集、
勅撰31首;続後撰(5首234/437/754/858/871)続古(108/523/661)続拾遺(4首)以下、
[夏くるる神なび川の瀬をはやみ禊ぎにかくる波の白露しらつゆ](続後撰;夏234、
百首歌;六月祓)
Y2627 **為経**(ためつね・都筑つづき、松下為定男)1637-1722*86*　江戸の幕臣;御小姓組、和漢学者、
[為経(;名)の通称/号]通称;加右衛門、号;翫雪
H2607 **為経**(ためつね・冷泉れいぜい[下冷泉]/本姓藤原、葉室頼業男)1654-1722*69*　冷泉為元の養子、
廷臣;1715正二位/19権大納言、歌人、1671「為経卿記」、「日次歌集」編、「惺窩先生文集」編
[為経(;名)の前名/法号]前名;頼広/為直、法号;荘文院武林　、藤原惺窩の曽孫
2741　**為常**(ためつね・渡辺わたなべ、為雄男)1753-1817*65*　美濃本巣郡北方の豪商;酒造業等;本家6世、
書画;滝本流/俳諧;美濃派再和派の道統;8世を継嗣;[楽庵]と号す、為寧ためやすの父
為経(ためつね・藤原)　→　*寂超*(じゃくちょう・日想坊、大原三寂/歌)Ｇ２１３４
為経(ためつね・津軽)　→　*為貞*(ためさだ・津軽つがる、能書家/詩人)　Ｙ２６２６
為常(ためつね・日高)　→　*為純*(ためずみ・日高、藩士/歌人)　Ｓ２６４６
H2608 **為連**(ためつら・飯尾いいのお/本姓;三善/三好、通称;左衛門入道)?-?　鎌倉期関東武士;
六波羅探題奉行人?、信快胞子の父、
歌人、臨永・藤葉・松花集入、勅撰8首;続千載(2023)風雅(1500)新千(1765)新拾(1043)以下、
[おどろかで心のままに見るほどは夢もうつつにかはらざりけり](続千;雑2023)
為役(ためつら・稲井)　→　*為役*(ためゆき・稲井いない、医者/歌人)　２７６５
H2609 **為任**(ためとう・藤原ふじわら、済時なりとき男)?-1045射殺　廷臣;正四下/右馬助/少納言/民部大輔、
伊予守、藤原実資の家司?、1026以前に出家、後拾遺993、母;源能正女or源兼忠女、
娍子(せいし三条天皇皇后)の弟、通任の兄弟、1045射殺される(尊卑分脈)、
[心には月見むとしも思はねど憂きには空ぞながめられける](後拾遺;雑993、

世の中に叶わず恨んでいるころ月をながめて詠む/不遇をかこつ述懐歌)、
[為任(;名)の通称]　小一条、伊予入道

S2655 **為任**(ためとう・阿部あべ、櫟斎れきさい男)?-1872獄死　本草家・蘭学者、英語に精通、
新政府公金引負事件に連座;佃島の獄中で没、1867「英学捷径七ツ以呂波」、
[為任(;名)の通称/号]通称;友之進、 号;碧海/巴薺園はせいえん

2665 **為遠**(ためとお・二条にじょう/家名;御子左、為定男/本姓;藤原)1341-81*41*　廷臣;洞院実夏の猶子、
1364参議/1373従二位/78権大納言/大酒怠惰のため閉門、歌人;新千載集の連署の一人、
後葉集入・1357延文百首参加/1359撰者の父の代わりに新千載集を奏覧、
1367新玉津歌合/69応安二年内裏和歌参加、「為遠百首」著、
1375「新後拾遺集」撰集の途中没;二条為重(為世の孫/為冬男)が完成奏覧、
妻;園基隆女の隆子、
勅撰30首;新千載(6首33/208/421/1024/1260/1616)新拾(4首)新後拾(8首)新続古(12首)、
[いつしかも野辺に心のあくがるる春のならひと若菜摘むなり]、
(新千載;春33/延文百首歌;3105/若菜)

2726 **為柔**(ためとお・冷泉れいぜい[下冷泉]/本姓;藤原、通称;侍従)1846-94*49*　京の廷臣、国学者

H2610 **為時**(ためとき・巨勢こせ)　? -　? 993存　平安期漢学者:伝道門、廷臣;993大内記、
詩人:「教家摘句」、文粋入

2666 **為時**(ためとき・藤原ふじわら、雅正男、紫式部父)?-? 1018存　母;藤原定方女、文章生出身:菅原文時門、
廷臣;984式部丞/六位蔵人/花山院退位などに伴い散位期間が長い、
996淡路守;申文提出;越前守/左少弁/1011越後守正五下/1016園城寺(三井寺)で出家、
為頼・為長と兄弟、堤中納言兼輔の孫、詩歌人:
1001東三条院四十賀屏風歌出詠/03左大臣道長七番歌合参加、詩;本朝麗藻/新撰朗詠集入、
勅撰4首;後拾遺(147/639/834)新古今(1501)、玄々集2首入、
[おくれても咲くべき花は咲きにけり身をかぎりとも思ひけるかな](後拾;春147、
粟田右大臣道兼家に人々時期遅れの残りの花を惜しむときに詠む)

H2611 **為時**(ためとき・北条ほうじょう、初名;時定、時村男/本姓;平)1265-86早世*22*　鎌倉期武将;
従五下左近将監、歌人;勅撰2首;新後撰843・玉葉465、熙時・時仲の父、
[身のための思ひとならばきえもせで我がうき名のみ立つけぶりかな](新後撰;恋843)

S2656 **為言**(ためとき/ためゆき・二条にじょう、為氏男/本姓;藤原)?-?　鎌倉後期廷臣;左馬頭、為世・為雄の弟、
歌人:1291北畠師行邸五十番歌合参加、菟玖波集1句入

H2663 **為時**(ためとき・竹内)　? -　?　江前期広島俳人;貞門系、1600季吟「新続犬筑波集」入、
1662安静「鄙諺集」72維舟「時勢粧」74安静「如意宝珠」79宗臣「詞林金玉集」入

為言(ためとき・菅原)　→　*為言*(ためのぶ・菅原、歌人)　Ｈ２６２７
為基(ためとき・大江)　→　*為基*(ためもと・大江、廷臣/歌人)　Ｈ２６５２

S2657 **為俊**(ためとし・五条ごじょう、初名;為璞、為成男/本姓;菅原)1741-83*43*　母;高辻総長女、
廷臣;1764侍従、文章博士/大内記/従三位/1773式部大輔/正三位/82右大弁、
1781「光格天皇御元服賀表写」著

W2662 **為敏**(ためとし・川添かわぞえ、)1755-1805*51*　近江犬上郡の生/彦根藩軍師岡本宣応の家臣、
国学・歌人;小原君雄門、歌;[彦根歌人伝・寿]入、
[為敏(;名)の通称/号]通称;進左衛門、 号;草花堂

2740 **為俊**(ためとし・渡辺わたなべ、)1799-1876　美濃本巣郡北方の商家;縞商、
国学・歌;富樫広蔭門、
[為俊(;名)の通称/号]通称;耕一、 号;伯斎/左山/簑山さざん

2667 **為富**(ためとみ・冷泉れいぜい[上冷泉]、為之男/本姓藤原)1425-97*73*　室町期廷臣;左中将/右兵衛督、
1468権大納言/正二位、1480拾遺集の秘本の書写進上の命を拒否;
後土御門天皇への出仕・小番を停止される、
歌;1446文安詩歌合/松尾百首/50後崇光院仙洞歌合参加、82将軍(義尚)家歌合参加、
家集「為富集」、
[大井川山はあらはに木枯しのさそふ行方ぞ浪にせかるゝ]、
(仙洞歌合;十一番左/大井川;山城の歌枕/紅葉をはだかにしても川浪に堰かれる)、

[為富(;名)の法名/法号]法名;仙空、法号;月海仙空、
☆「為富御詠」は叔父持為の家集→　*持為*(もちため・冷泉[下冷泉]、持和)　４４０８

W2672 **為宝**(ためとみ・三浦みうら、旧姓;内田/菊地)1791-1865*75*　駿河安倍郡の国学者、
妻;菊地いそ子(国学者)、
[為宝(;名)の通称/号]通称;左文次、号;樵翁

為宝(ためとみ・関根)　→　*趙斎*(ちょうさい・関根せきね、書家/歌人)　Ｉ２８３９

2778 **為具**(ためとも・藤原ふじわら、)? -　?　平安後期;廷臣、歌人;1165成立[続詞花集]入、
[はかなしや思へばかりのよの中に恋をのみしてあかしくらすよ](続詞花;恋518)

S2658 **為朝**(ためとも・源、為義8男)1139-1170自殺*32*　平安後期武将/剛勇;弓術家、九州に勢力;
鎮西八郎と称す、保元乱に敗北;伊豆大島に流罪、脚色され伝説化される

為智(ためとも・池田)　→　*治道*(はるみち・池田いけだ/源/松平、藩主)Ｊ３６３６

H2612 **為豊**(ためとよ・冷泉[下冷泉]、名;為名、為孝男)1504-?　廷臣;1517元服;侍従/44左近中将、歌人、
1551-60従三位非参議;侍従、1558播磨に在住/60出家、1536三条西実隆家集「再昌草」3首入

S2659 **為豊**(ためとよ・長沼ながぬま、通称;瀬平)?-?　江中期江戸神田鍛冶屋町の書家;篠田行休門、
1762「青陽帖」、「長沼春陽帖」「長沼書札」著

為豊(ためとよ・清水)　→　*謙山*(けんざん・清水しみず、医者/心学)　Ｊ１８２２

為虎(ためとら・吉分[別]/今田)→　*大魯*(たいろ・吉分、俳人)　Ｃ２６３７

H2613 **為名**(ためな・坊門ぼうもん、為輔男/本姓;藤原)?-1395　廷臣;右中将/1362従三位/63非参議/77正三位、
歌人;1342持明院歌合/43院六首歌合参加、54花園院七回忌法華経要文和歌参加、
勅撰3首;風雅652・1150/新千載1346
[草も木も野分にしをるゆふぐれは空にも雲の乱れてぞゆく](風雅集;七秋歌652)

為名(ためな・冷泉)　→　*為豊*(ためとよ・冷泉[下冷泉]、廷臣/歌)Ｈ２６１２

為直(ためなお・葉室/冷泉)→　*為経*(ためつね・冷泉/葉室、歌人)　Ｈ２６０７

為直(ためなお・恩田)　→　*直高*(なおたか・恩田おんだ、藩士/奉行)　Ｂ３２４８

為直(ためなお・加藤)　→　*枝直*(要南甫えなお・加藤/橘、国学/歌)１３８０

H2614 **為仲**(ためなか・橘たちばな、義通男/母;藤原挙直女)1001?-85*85?* 平安中・後期廷臣;1043淡路守/蔵人、
越後/陸奥守、太皇太后宮亮/正四下、歌人:能因・相模門、和歌6人党の1、後冷泉期に活動、
四条宮下野集入、家集「橘為仲朝臣集」、袋草子・無名抄に陸奥守時の逸話等入、
後葉・続詞花・万代・秋風集入集、資成・義清の兄弟、
勅撰6首;後拾遺(533/980)詞花(121/338)新古(385/930)以下、
[これやこの月見るたびに思ひやる姨捨山をばすてやまの麓なりける](後拾;羇旅533、
越後より上る時の詠)
[みちのくにのすけにてまかりくだりけるにいひつかはしける、
わかれしはきのふばかりと思へどもみちにてとしの暮れにけるかな](続詞花;旅698)

H2615 **為仲**(ためなか・藤原ふじわら・御子左、為顕男、京極為兼の猶子?)?-?　鎌倉期廷臣;従四下左近少将、
1318僧弘融に古今の説を講義;その以前に出家、歌人;玉葉2461/風雅742、
[ぬるがうちの夢ははかなきものといへど思ふ心の末は見えけり](玉葉;雑2461)

H2616 **為仲**(ためなか・五辻いつつじ/本姓源、滋野井しげのい季国男/五辻諸仲猶子)1530-85　戦国安桃期廷臣、
母;滋野井公古女、1568治部卿/83大蔵卿/従二位、歌;内裏歌人、「為仲詠草」著、
「五辻為仲日記」著、法号;宗木

H2617 **為長**(ためなが・藤原ふじわら、雅正まさただ男/母;藤原定方女)?-?999存　平安期廷臣;左衛門尉/検非違使、
陸奥守/従五上、藤原実家家に出入、為頼・為時の兄弟、
歌:拾遺338(兄為頼作/拾遺抄では為長作)、後拾遺1065
[松見れば立ちうきものを住の江のいかなる波かしづ心なき](後拾遺;十八1065/住吉詣)

2668 **為長**(ためなが・菅原すがわら/家名;高辻、長守男)1158-1246*88* 廷臣;1204文章博士/05侍読、
順徳後堀河四条後嵯峨5代天皇の師、1211従三位/40正二位参議/大蔵卿、詩壇の中心、
歌・故実にも精通、詩:1205元久詩歌合/13内裏詩歌合参加、「鳩嶺集」入、「文鳳抄」編、
1212「門葉抄」、「編御記」「門葉抄」「字鏡集」「菅大府記」「国史綱要」「舎利報恩会記」著、
歌;42大嘗会屏風歌参加、勅撰5首;続後撰(1368)続古(1913)続拾(760)新千(988)新続古、
[為長(;名)の別名/通称]別名;忠規、　通称;菅諫議、

［いにしへに名をのみききてもとめけむみ神の山はこれぞその山］(続後撰;二十賀1368)
(仁治三年[1242]悠紀風俗歌/三上山)

H2618 **為永**(ためなが・三善みよし) ? - ? 廷臣;五位、歌人、1384刊新後拾遺803、
［しるべせよわかの浦路うらぢの友千鳥いつ人かずの名をもかけまし］(新後拾:八803)

H2619 **為長**(ためなが・水野みずの、萩原宗固男)1751?-1824 田安家家臣の水野家を継嗣、松平定信の近習、歌人、随筆「よしの冊子ぞうし」1830刊、
［為長(;名)の通称/号]通称;左内/佐内、 号;梅里/苟且堂こうしょどう

H2620 **為成**(ためなり・清原、元輔男)?-1025 平安期廷臣;雅楽頭、清少納言兄、小野宮家家司

H2621 **為成**(ためなり・ためしげ・源みなもと)?- ? 平安期廷臣:五位、金葉二度本340(三奏348);
ただし拾遺347では平兼盛[?-990]の歌とある、
［はるかなるたびのそらにもおくれねばうらやましきは秋のよの月 源公定との惜別歌］

H2622 **為成**(ためなり・平たいら) ? - ? 平安後期?の歌人、五位、
金葉二度本652(連歌;観暹かんせん法師に付句)
［日の入るを見て ひのいるはくれなゐにこそ似たりけれ 観暹かんせん法師
あかねさすともおもひけるかな 平為成］ (金葉集652)

H2623 **為成**(ためなり/ためしげ・藤原、父親3説:為親・為宗・為景男?)?-? 五位、歌:1278成立「続拾遺」1254
［しのぶれどかへらぬものをなにとまた昔を今に思ひいづらん］(続拾遺集;十八1254)

H2624 **為成**(ためなり/ためしげ・冷泉れいぜい、初名;為輔、為相ためすけ男/本姓;藤原)1293頃?-1330 鎌倉後期廷臣;
1328(嘉暦3)従三位右兵衛督/右少将?、為秀の兄、1330(元徳2)没、
歌人:父為相・叔父為守・暁月と「源氏物語和歌」を詠ず、1310為相撰[柳風抄]入、
勅撰9首;玉葉(1979)風雅(668/886/1205)新千載(1628/1724/1950/2086/2235)、
［あづま路の秋の空にぞ思ひいづる都にて見し春夏の月］(玉葉;雑1979)

S2660 **為成**(ためなり・高辻たかつじ、文章博士長宣男/本姓;菅原)?-1364 南北期廷臣;1354従三位/非参議、
文章博士、連歌:菟玖波;恋1句入976、
［つらきをやなほあやにくに慕したふらん］(菟;恋976/前句;うとかれとのみ人は思ふに)

W2632 **為成**(ためなり・岡本おかもと、通称;彦十郎)1675-1731*57* 陸奥仙台藩士、国学/歌人

S2661 **為成**(ためなり・五条ごじょう、為範男/本姓;菅原)1716-59*44* 母;園基勝女、廷臣;漢学者;1735文章博士、
1745従三位/53参議/56従二位/58権中納言、「吟壇詩草」著、 為俊ためとしの父

U2607 **為成**(ためなり・林はやし) 1717 - 1773*57* 幕臣;大番/大番組頭、歌人;武者小路家門、
二条城の守衛中に没、歌;石野広通「霞関集」入、
［為成(;名)の別名/通称]初名;政矩、 通称;金五郎/甚助

V2681 **為成**(ためなり・上野うえの/旧姓;堀、通称;清三郎)1807-80*74* 飛騨高山の国学者;田中大秀門、
為璟ためあきの父

為業(ためなり・藤原) → *寂念*(じゃくねん;法諱、大原三寂/歌) Ｇ２１３６

S2662 **為遂**(ためなる・入江いりえ、為善男)1844-? 江後期廷臣;1854従五下、「御会始申沙汰記」著

2743 **為主**(ためぬし・渡辺わたなべ、)1811-1890*80* 美濃本巣郡北方の豪商渡辺為寧ためやすの娘婿、
紙店を経営、国学・歌;富樫広蔭門、
［為主(;名)の通称/号]通称;惣治郎、 号;楮堂

為之丞(ためのじょう・小谷)→ *古蔭*(ふるかげ/ひさかげ・小谷こだに/おたに、歌人)Ｅ３８６５
為之丞(ためのじょう・新村)→ *秀起*(ひでおき・新村しんむら、国学者/歌) Ｊ３７８８
為之進(ためのしん・宮島)→ *常信*(つねのぶ・宮島みやじま/林、神職/国学)Ｇ２９５８
為之進(ためのすけ・倉地/山本)→ *東籬*(とうり・山本/山、藩士/儒者) Ｉ３１１０

H2626 **為信**(ためのぶ・藤原ふじわら、中納言文範男)935?-?1009頃没 母;藤原正茂女、平安期廷臣;
965(康保2)蔵人、従五上/969越後守、右近衛少将/摂津守/従四下、
983常陸介;辞任中987出家、妻;宮道忠用女、理明・理方・康延・藤原為時妻(紫式部母)の父、
歌人;1009頃家集「為信集」

H2627 **為言**(為信ためのぶ・菅原すがわら、号;菅五、三河守為理男)?-? 平安中期廷臣;1027従五下/散位、
歌人:菅和歌と称される、後葉集・続詞花集入集、勅撰2首;後拾遺90・金葉Ⅲ160(;菅野姓)、
詩人;和漢朗詠集入(為信名)、

[ゆきとまる所ぞ春はなかりける花に心のあかぬかぎりは](後拾遺;春90、
春には花に心が奪われ行き着いて休む所がない)

H2628 **為信**(ためのぶ・法性寺ほっしょうじ/本姓;藤原、初名;為行、藤原伊信男)1248-? 鎌倉期廷臣;左京権大夫、刑部卿/1304従三位/06出家、歌;「為信集」、1278弘安百首入(為行[のち中納言]は別人)、1303嘉元百首・二条院歌合参加、[藤葉集]4首入、勅撰28首;続拾遺(912)新後撰(5首214/952/1041/1378/1436)玉葉(2首)続千(4首)以下、絵師;1274「賀茂祭絵詞」(亀山天皇絵合にて)、「法然上人行状画図」参加、「天子摂関御影」画、
[暮るる夜の夢をぞ今は頼みける人の契りもうつつならねば](続拾;恋912/寄夢恋)、
[おく霜の時雨のさきの下染は千しほをいそぐ紅葉なりけり](嘉元百首;1744/紅葉)、
[為信(;名)の法名] 法名:寂融、法性寺為理ためのり・宗尋(僧)の父

I2665 **為信**(ためのぶ・安部あべ) ? - ? 連歌作者;1356成立「菟玖波集」2句入、
[もしなからへばけふもいにしへ](菟;雑1586/前句;あすまでは頼まざりつる我命)

H2629 **為信**(ためのぶ・飯尾いいのお/本姓;三善)1433-1478*46* 室町期の武士、歌;1473飛鳥井雅康家歌会/75甘露寺親長催「公武歌合」参加、
[みちひなき塩津の浦の秋の夜に影もくもらぬ浪の上の月](公武歌合;六番左)

H2625 **為庸**(ためのぶ・五条ごじょう、為適ためあつ男/本姓;菅原)1619-77 母;福島孝治女、廷臣;1640文章博士、1642大内記/54従三位/55大学頭/73正二位/74式部大輔/77権大納言、「鷹司房輔関白宣下之時献表」著

S2663 **為信**(ためのぶ・江島えじま、為頼男)1635-95*61* 日向飫肥の人/1655故郷出奔;三都を放浪;仮名草子著、1668伊予今治藩主松平定房に招聘;藩士・馬廻役/用人;加判役/家老、道灌流兵法;伊藤玄亀門/俳諧:宗因門、1664「理非鑑」65「古今軍理問答」67「闕疑兵庫記」著、1679「山水十百韻」82「太田道灌兵法秘書」編、「身の鏡」「諸将勲功記」「首実検法式」著、
[為信(;名)の通称/号]通称;長左衛門/(若年頃一時母方の姓;)海老原三左衛門、
号;松風軒/山水/日州漂泊野人、法号;高峰院、為相ためすけの父

V2698 **為信**(ためのぶ・小倉おぐら、通称;弥右衛門)?-1717 伊予松山の酒造業;松山藩御用商河内屋主人、歌人、小倉正信の父

S2664 **為信**(ためのぶ・藤谷ふじがやつ、為茂ためもち男/本姓;藤原)1675-1740*66* 廷臣;1707従三位/23権中納言、1725従二位、1702「仙洞御当座廿首和歌」参加、法号;金光院

為言(ためのぶ・藤原) → *為言*(ためゆき・藤原、為氏男) Ｈ２６６３

為宣(ためのぶ・小島) → *文器*(ぶんき・小島こじま、藩士/俳人) Ｅ３８９５

2779 **為信女**(ためのぶのむすめ・藤原ふじわら)?-? 平安期;常陸介藤原為信の娘、歌人:続詞花集入、藤原為時の妻(紫式部の母)か?、
[物思ひけるころ鞍馬に籠りて、
たればかり尋ねてきなん山里に入りにし人はありやなしやと](続詞花;雑814)

2669 **為憲**(ためのり・源みなもと、字;源澄、忠幹男)940-1011*72* 廷臣;大学寮出身/漢学;源順門、文章生/内記、蔵人/式部丞/三河権守/遠江守/美濃守/996従五下/1009正五下伊賀守;任地で没、詩人;963善秀才宅詩合参加、956勧学会参加、「三宝絵詞」「口遊」「世俗諺文」編、「官職鏡」「空也上人誄」「法華経賦」「円融天皇御受戒記」「為憲集」著、
詩;本朝麗藻(8首)・類聚句題抄・本朝文粋・和漢朗詠・新撰朗詠入、
歌;972女四宮歌合参加(仮名日記入)、1003太政大臣道長殿三十講歌合参加、拾遺集464、玄々集・続詞花集入、
[親と云ひ子と云ふともつひにはみな長く別れなむとすよろづのこと常なし](三宝絵詞)、
[世と共に明石の浦の松原は波をのみこそよると知るらめ](拾遺集;雑464)、
[おぼつかないづくなるらん虫のねをたづねば花のつゆやこぼれん](玄々集73)

H2630 **為紀**(ためのり・菅原すがわら、輔正男)957-1002*46* 廷臣;988大学頭/996右中弁/刑部大輔/民部大輔、従四下/1002頓死(46歳)、本朝文粋;1002(長保4)大江匡衡の上表に記事

2670 **為教**(ためのり・京極きょうごく、為家男/本姓藤原)1227-79 母;宇都宮頼綱[蓮生]女、京極家の祖、1259(正元元)従三位非参議/右・左中将/蔵人/1259右兵衛督/68従二位、同母兄為氏と反目、歌人:弘安百首参、1243河合社歌合/47後嵯峨院歌合/51影供歌合/65亀山五首歌合など参、

菟玖波5句入、
勅撰36首;続後撰(349/979)続古(556/1087/1361)続拾(7首)新後撰(4首)玉(10首)以下、
［ます鏡みぬめのうらは名のみして同じ影なる秋の夜の月］(続後撰;秋349/敏馬の浦)、
[為教(;名)の法名/号]法名;明正みょうしょう/明心みょうしん、号;毘沙門堂、為子・為兼の父

H2631 **為理**(ためのり・ためまさ・法性寺ほっしょうじ、為信男/本姓;藤原)1272?-131645? 鎌倉期廷臣、
少納言/中務大輔、1314(正和3)従三位・非参議、1316(正和5)没、為量ためかずの父、
歌人;「従三位為理集」「七夕七十首」、1302六月歌合/1303後二条院歌合参加、
1315「花十首寄書」参、藤葉集入、勅撰23首;新後撰(119/1103)玉葉(405/798)続千載(4首)、
続後拾遺(2首)風雅(1首)新千載(3首)新拾(4首)新後拾(2首)新続古(4首)、
［心から散るといふ名の惜しければうつろふ花に風もいとはず］(新後撰;春119/落花、
1303成立新後撰;為景名/1312成立の玉葉集からは為理名)
[為理(;名)の別名]為藤(初名)・為景

H2632 **為徳**(ためのり・三善みよし) ? - ? 南北期;今出川公直[1335-96]の家臣、
歌;1394名所百首入/98百首歌参加、1400「菊葉きくよう和歌集」149首入(12/23/28/43以下)
［今朝よりは岩間の氷とけ初めて音羽川にぞ春はきにける］(菊葉;春12)

S2665 **為範**(ためのり・五条ごじょう、為致男/本姓;菅原)1688-175467 兄為房の養嗣/廷臣;1713文章博士、
1724正三位大蔵卿/31正二位権大納言/53剃髪、「為範卿改元記」「為範卿記」著、
「山城国葛野郡田邑郷地蔵院縁起」著、［為範(;名)の号]剃髪号;芳山文清

S2666 **為範**(ためのり・中川なかがわ)?- ? 江中期水戸藩士/有楽流茶人、
「茶道織有伝」編、「茶湯手引草」「御成門之図」「文禄三年前田亭御成記」著、
[為範(;名)の通称/号]通称;源太夫、号;素行軒/不願斎

H2633 **為仙**(ためのり・飯島いいじま、別名;恵時/為親、林はやし恵忠しげただ男/本姓;源)1757-183175 信州伊那郡生、
母;柳子(;歌人)、恵信の弟、1777伊那郡石曾根村名主飯島弥兵衛為忠の養嗣子、為秀の父、
歌:澄月門/桃沢夢宅門;1800古今伝授を受、家集「欸冬園やまぶきその和歌集」、
1822「飯島家訓」、「七十の日記」「吹上亭之記」著、
[為仙(;名)の幼名/通称/号]幼名;亀千代、通称;理作/弥兵衛、
号;欸冬園やまぶきその、法号;鶴林院

H2634 **為則**(ためのり・冷泉れいぜい[上冷泉]、為章男)1777-184872 母;吉田良延女、廷臣;1817正二位/評定衆、
1820権大納言、「十題百首和歌」「禁裏御所御造営御問の歌」著、家集「冷泉為則歌集」、
「冷泉為則詠」「月十五首和謌」著外、法号;後松竜院、為全ためたけの父

S2667 **為則**(ためのり・関谷せきや、通称;平七/号;信陽)?-? 江後期文化1804-18頃信州の和算家;長谷川寛門、
1814「関流綴術捷法」編、「塵劫記図解大全」補訂

H2635 **為則**(ためのり・奥村おくむら) ? - ? 江後期漢学者;
1825富田景周かげちか「燕台風雅」校定(富田景煥かげあきと)

S2668 **集徳**(ためのり・吉目木よしめき)?- ? 江後期陸前涌谷の剣道家;武明流剣道の祖、
伊達安藝の家中、1835「子心鏡智夢物語」著、
[集徳(;名)の通称/号]通称;五郎左衛門、号;子心斎

U2613 **為徳**(ためのり・藤尾ふじお) ? - ? 近江甲賀郡信楽代官多羅尾(氏純)家の家臣、
国学;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻;氏純の供に吉野山の詠歌入、
同家臣の加藤直良・吉住千茂・久松穂積と同行、
［散るまでは見つつ経にしか見よし野の吉野の山の山桜花］(八十浦;753)

S2669 **為憲**(ためのり・真田さなだ) ? - ? 江末期岡山藩士?、安房北条村に駐在;文筆家、
1855「安房風土聞書」著

2746 **為矩**(ためのり・渡辺わたなべ、旧姓;野村)1823-7452 美濃本巣郡北方の商家辺為英ためひでの娘婿、
国学・歌;富樫広蔭門、
[為矩(;名)の通称]庸之助

為宣(ためのり・源) → 為憲(ためのり・源) ２６６９
為義(ためのり・橘) → 為義(ためよし・橘、廷臣/歌人) Ｈ２６６７
為学(ためのり・五条) → 為学(ためざね・五条、詩/連歌) Ｓ２６４３
為教(ためのり・藤谷ふじがやつ)→ 為茂(ためもち・藤谷、廷臣) Ｓ２６８３

為則(ためのり・畠山/吉益)→　*東洞*(とうどう・吉益よします/畠山、医者)　Ｇ３１７６
為則(ためのり・伊東)　→　*華山*(かざん・伊東いとう、儒/医者)　Ｌ１５７１
為教女(ためのりのむすめ・京極)→　*為子*(ためこ、歌人)　Ｇ２６８０
為理女(ためのりのむすめ・源、為理は助理男/光孝源氏で是貞親王流)
①斎院中将 →*中将*(ちゅうじょう・選子内親王家、源為理女)　Ｇ２８３６
②斎院中務 →*中務*(なかつかさ・選子内親王家、源為理女)　３２１０
為八(ためはち・平沢)　→　*太寄*(太奇たいき・平沢、俳/狂歌)　Ｂ２６１９
為八(ためはち・矢部)　→　*騰谷*(とうこく・矢部やべ、儒者/幕府同心)Ｅ３１１２
S2670 **為八郎**(ためはちろう・馬場ばば、名;貞歴、三栖谷敬平男)1769-1838*70* 馬場家の養子;阿蘭陀通詞、
1778稽古通詞/1805小通詞格、09-11幕府天文台蝦夷地御用;蝦夷出張/蛮学世話係、
1818大通詞、26オランダ商館長出府の際に医員シーボルトの通訳/28シ事件連座;永牢、
羽後亀田藩の妙慶寺没、
「暗厄利阿語林大成」編纂参画、「異国事情」「和蘭水戦火器用法記」著、
[為八郎(;通称)の号]　貞斎
為八郎(ためはちろう・矢部)→　*騰谷*(とうこく・矢部やべ、儒者/幕府同心)Ｅ３１１２
2671 **為春**(ためはる・三浦みうら、正木頼忠男)1573-1652*80*　相模の生/母;北条氏隆女/妹お万は家康室、
1598家康家臣/先祖の三浦に復姓;水戸藩主徳川頼宣御付き家臣;国元水戸で政務代行、
1619藩主駿河・遠江移封/大坂夏陣に出陣;19藩主紀州転封;紀州藩家老/1624致仕、
仏教に帰依(法号;日健)/歌・連歌・俳諧を嗜む、仮名草子:「あだ物語」著、連歌:「犬俤」、
俳諧;「汚塵集」「発句集」「七十句附」、1610「大笑記」50「野狂やかん集」、「嘲詠集」著、
[たんぽぽは蕨手わらびでのうつ鼓かな](野狂集、早蕨を小児の手の握り拳に連想)、
[為春(;名)の通称/号]通称;勝兵衛、号;定環、　法号;日健
Z2616 **為春**(ためはる・日高ひだか、通称;曾右衛門)1650-1718*69*　薩摩鹿児島藩士、
漢学・歌;中院なかのいん通躬みちみ門、
[しばしとて晴るる待つまの雨やどり妹がかどとて人やあやめん]([石馬集]二集入)
X2665 **為春**(ためはる・須田すだ、)1669-　1702*34*　江戸の幕臣;御小姓組番士、
国学;友益春之門、歌人、養嗣子;滝川征盛男の資生、
[春雨のふるとは空に見えわかで霞む尾上ぞ遠ざかりぬる](茂睡[鳥の迹]春60)
[為春(;名)の通称/号]通称;右近/与兵衛、号;梅柳軒水之
為春(ためはる・法性寺)　→　*為量*(ためかず・法性寺ほっしょうじ、廷臣/歌)Ｇ２６７０
為春(ためはる・船井)　→　*為春*(いしゅん・法師、僧/歌人)　Ｊ１１５１
為春(ためはる・坪井)　→　*芳州*(ほうしゅう・坪井つぼい/大木、医者)　Ｂ３９５６
為春(ためはる・佐々木/塩田)→*冥々*(めいめい・塩田/佐々木、商家/俳人)４３３８
為治(ためはる・東坊城)　→　*盛長*(もりなが・東坊城/菅原、廷臣/聯句)Ｃ４４５６
S2671 **集彦**(為彦ためひこ・松木まつき/本姓;度会わたらい、故彦男)1601-62*62* 伊勢外宮禰宜/松木幸彦の養子、
1629外宮九禰宜/51四禰宜、「神宮年代記抄」著、
[集彦(;名)の通称]　越後
X2607 **為彦**(ためひこ・上月こうづき、)1808-1874*67*　播磨姫路の神職/姫路総社(射楯兵主神社)神主、
国学者;本居大平門、1870「射楯兵主いたてひょうず神社考」著、
[為彦(;名)の通称]　外記/紀伊守/陸奥守
2672 **為久**(ためひさ・冷泉れいぜい[上冷泉]、法名;了覚、為綱男)1686-1741*56* 廷臣;1736権大納言/40正二位、
武家伝奏、歌人:家集「冷泉為久卿集」、1721「冷泉為久百首」26「伊勢奉納和歌」、
1733「新類題歌集」共編、37「元文二年日記」「新類題集」39「雲上名所和歌集」、「吹上八景」
「つゝ留の疑問」「小倉山歌合」「藤川百首題和歌」「冷泉新三代和歌集」外著多数、為村の父
[眞帆に吹く恵みの風のたよりゆゑ寄る辺まさしき和歌の浦松]、
(松平春嶽[古今百人一首]入)
X2629 **為壽**(ためひさ・座光寺ざこうじ、交代寄合小笠原長孝3男)1756-1802*47* 座光寺為礒の養嗣子;家督嗣、
信濃伊那郡の山吹領主、座光寺家は為時以来交代寄合旗本(伊那衆)、
のち山吹村社社掌、歌人;澄月・桃沢夢宅門、妻;一色定武女の林リン(澄月門歌人)、
[為壽(;名)の通称]　伊織/伊那之助

☆【座光寺家】
①為時－②為重－③為真(実)－④為治－⑤為勝－⑥為攄－⑦為忠－⑧為礪ためかた－⑨為寿－⑩為将－⑪為巳－⑫為邕－⑬為永

V2684 **為久**(ためひさ・潮田うしおだ、八兵衛男)?-1834　信濃飯田藩士、文武;飯田藩村澤権之進門
歌人;加藤千蔭・村田春海門、一柳千古清原雄風・柳田為貞・村沢徳風・三浦元簡よ交流、
潮田藻苅もがり(1806-82)の父、
[為久(;名)の通称/号]通称;喜内、号;為定/清雄、法号;無量院湛然義海居士

2673 **為秀**(ためひで・冷泉れいぜい、為相男/本姓;藤原)1303?-72*70?* 北朝廷臣;右近中将/左兵衛督/60参議、
1366権中納言/71従二位、歌:1336住吉法楽歌/44金剛三昧院奉納歌参加、
1345?藤葉集2首入、延文(1356-61)頃[三百六十首和歌]撰?/66年中行事歌合参加、
「風雅和歌集」選定寄人、67新玉津社歌合読師、69後光厳天皇応安二年内裏和歌参加、
1370-71崇光院仙洞歌合参加など、貞和百首入、
勅撰26首;風雅(10首136/166/424/516/573以下)新拾(8首)新後拾(2首)新続古今(6首)、
[わかるらん名残ならでも春の雁あはれなるべきあけぼのの声](風雅;春136/帰雁)、
[我が袖のぬるるはもとの涙にて草木ばかりや秋の白露](藤葉;秋184)、
[為秀(;名)の道号/法名]　道号;松峰、法名;秀宅、　為成の弟、為邦の父
門人;今川了俊・京極隆秀・梵灯庵など

S2672 **為栄**(ためひで・冷泉れいぜい[下冷泉]、初名;為名、宗家男)1738-82*45*　母;清閑寺熙定女、廷臣;
1775権中納言/79正二位、歌人:「権中納言為栄卿和歌集」、「為栄卿記」著、法号;恭文院

2745 **為英**(ためひで・渡辺わたなべ、)1791-1849*59*　美濃本巣郡北方の商家、国学・歌;富樫広蔭門、
娘婿;野村為矩(渡辺家の養子)、
[為英(;名)の通称/号]通称;助左衛門、号;徐英、屋号;鍋屋

S2673 **為栄**(ためひで・進藤しんどう、為善男/本姓;藤原)1802-23早世*22* 京坊官;粟田青蓮院宮の侍法師、
1816従六下/伊勢介、1820-22「日要之記」著、千尋ちひろの父

V2656 **為秀**(ためひで・飯島いいじま、為仙ためのり男)1796-1858*63* 信州伊那郡の歌人;桃沢夢宅門(父と同門)、
[為秀(;名)の通称/号]通称;作兵衛/与右衛門、号;謙斎

為英(ためひで・松尾)　→　*英珍*(ひでよし・松尾まつお、農業/歌人)　Ｌ３７２５

H2636 **為秀女**(ためひでのむすめ・冷泉れいぜい)?-?　南北期歌人:父[1303?-72]門、
1367新玉津島社歌合参加、新拾遺1033・1213
[よる船のたよりはなくていたづらに我が身こがるるとこの浦波](新拾遺;十二恋1033)

為仁親王(ためひとしんのう)　→　*土御門天皇*(つちみかどてんのう、配流/歌人)２９０９

H2637 **為衡**(ためひら・二条にじょう/家名;御子左みこひだり、為遠男/本姓;藤原)?-?　1409存　母;園基隆女隆子、
廷臣;正四下左権中将/1381後円融天皇の義満室町邸行幸に参仕、歌人;1386仙洞歌会参加、
1409応永十六年八月十五夜内裏歌会参加、新続古464、
[わたのはら沖をふかめて澄む月の光にいづるあまの釣船](十五夜歌会;新続古;四464)

S2674 **為広**(ためひろ・藤原、為賢男/為業[寂念]の孫)?-?　平安後期蔵人/従五上、忠業の父、
歌人;1178顕昭判「廿二番歌合」右方参加(2首入)
[蓬生となり行く庭をかき分けてものあはれなる秋は来にけり](廿二番歌合;四番右)

2674 **為広**(ためひろ・冷泉れいぜい[上冷泉]、為富男/本姓;藤原)1450-1526*77* 廷臣;1501正二位/06権大納言、
1508出家、1526畠山義総を頼り能登七尾に下向;当地で没、歌:1482将軍家歌合参(:父と)、
1502将軍義澄の奏請で和歌師範・和歌所宗匠、1503三十六番歌合;判者、「清玉集」著、
1486/1504-16「為広詠草」、1498家集「為広卿詠」、「為広卿一字題百首」著、新菟6句入
[箒木の影いかならむさらでだにあるにもあらぬ短夜の月]、
(三六番歌合;樹影夏月7番左)、
[為広(;名)の号/法名]号;義竹軒/楽泉軒、法名;宗清

H2638 **為泰**(ためひろ・ためやす・森もり、初名;忠正)1811-75*65* 出雲松江の国学者:中村守臣門/歌;千家尊孫門、
松江藩修道館皇学歌学訓導、藩命で「出雲和歌集」撰述、1871致仕、晩年は歌道に専念、
「出雲琴」「森為泰歌日記」「出雲紀行」「出雲大社詣」、歌集「千竹園集」「森為泰詠草」外著多、
[為泰(;名)の幼名/通称/号]幼名;昌太郎、通称;勘兵衛/左馬之丞、号;竹園/千竹園

H2639 **為房**(ためふさ・藤原ふじわら、隆方男/母;平行親女)1049-1115*67* 平安後期廷臣;遠江守/加賀守、

尾張守、1111参議/大蔵卿/14正三位/15出家、
摂関家の家司(実務者);鳥羽・白河・堀河天皇に近侍、
[本朝博物之士]と称され[前の三房](大江匡房・藤原伊房)と並称、1115(永久3)没、
「為房卿記」「装束抄」、1107「凶事記」「撰集秘記」「貫首抄」外著多数、
歌人;歌合判者、万代集・和漢兼作集に入集、
[為房の通称]　勧修寺かじゅうじ/坊城大蔵卿　、
為隆・顕隆・朝隆・親隆・国隆・寛運・寛信・源恵・寛誉・良恵・覚隆・性修・経実室らの父

S2675 **為房**(ためふさ・飯尾いいお)　?－　?　武士/歌人;1473飛鳥井雅康歌会参加

S2676 **為房**(ためふさ・飯島いいじま/本姓;源、通称;与右衛門尉)?-? 1669存　信州伊那郡晴近庄飯島の住人、
1669「飯島為房遺言状」著

為房(ためふさ・藤原・中御門)→　*為方*(ためかた・中御門、鎌期歌人)　Ｇ２６７２
為房(ためふさ・冷泉)　→　*為純*(ためずみ・冷泉、歌人)　２６６２
為房(ためふさ・冷泉)　→　*為満*(ためみつ・冷泉、廷臣/歌人)　２６７８

2675 **為藤**(ためふじ・二条にじょう/家名;御子左みこひだり・為世男/本姓;藤原)1275-1324*50* 母;賀茂氏久女、
廷臣;初め叔父為雄の猶子/1299兄為道早世により家督/1308参議;13辞職、17正三位、
権中納言/1318後醍醐天皇即位後に政界で活動/23正二位/民部卿、
歌人;父為世を補佐し二条派の重鎮、自邸歌合を主催;1303後二条院歌合/03嘉元百首参、
1315為世[花十首寄書]参加/19文保百首詠、23亀山殿七百首参・「続後拾遺集」撰進中に没、
花園院宸記に伝、続現葉・後葉・藤葉集(13首)に入集、
勅撰116首;新後撰(6首44/160以下)玉葉(5首1008以下)続千載(17首110/243以下)、
続後拾(13首16/160/244/282以下)新千載(23首;うち詞1首)新拾遺(27首1/49以下)以下、
兄弟;為道・為宗・為躬・為冬ら、為明・為清・為忠の父、
[さそはるる人やなからん梅の花にほひはよそのしるべなりとも](新後撰;春44/梅)
[文保三年(1319)百首歌奉(文保百首;春1600)、
　呉竹の夜半のともし火残るまにねぐらあけぬと鶯ぞなく](小倉実教[藤葉集]春6)

為藤(ためふじ・法性寺ほっしょうじ)→　*為理*(ためのり・--まさ・法性寺/藤原、歌人)Ｈ２６３１

S2677 **為章**(ためふみ・冷泉れいぜい[上冷泉]、為泰男)1752-1822*71* 母;今城定種女、歌人/廷臣;1793正二位、
1807権大納言、「禁裏御所御造営御間の歌」/1808「内弁伝授折紙下書」受、法号;得成最院

2676 **為冬**(ためふゆ・二条にじょう、幼名;幸鶴、為世5男/本姓;藤原)?-1335戦死　廷臣;正四下/左中将、
1335(建武2)足利尊氏追討軍に参加;伊豆竹ノ下の合戦で戦死、贈従三位、
歌人;1315為世[花十首寄書]参加/21歌合講師、23亀山殿七百首(16首)・24石清水歌合参加、
藤葉集入、「為冬集」は家集ではなく私撰集(撰者不詳)、
勅撰20首;続後拾(480)新千(570/6121074)新拾(2首)新後拾(13首44以下)新続古(1首)、
兄弟姉妹;為道・為藤・為宗・為躬・為子、為重の父、
[分けゆけば野辺の小篠の上よりも袖にたまらで降る霰かな](続後拾;冬480/野径霰)

H2640 **為政**(ためまさ・慶滋/善滋よししげ、通称;善博士、保章男/本姓;賀茂)?-? 1022存　平安期廷臣;漢学者、
外記/式部少輔/河内守/内蔵権頭/1018文章博士/従四上、
一条天皇に出仕/小野宮実資の家司、1032までに没、
詩;本朝続文粋/本朝麗藻入、泥之草再新・新撰朗詠集・類聚句題抄・和漢兼作集等に入集、
「行幸高陽院応制和歌」序、賀茂忠行の孫/賀茂保憲・慶滋保胤の甥、
歌;1003道長歌合参加/16大嘗会屏風歌参加、玄々集・万代集入集、
勅撰4首;拾遺(1105)後拾遺(832)千載(634)新古今(456)、
[九重の内だに明ぁかき月影に荒れたる宿を思ひこそやれ](拾遺;雑秋1105/玄々;118、
　一条天皇中宮彰子が内裏滞在中月明かき夜の詠)

H2641 **為正**(ためまさ・藤原ふじわら、令門or合間よしちか男)?-?　平安中期廷臣;従五下筑後守、芙幹の孫、
歌:後拾遺469(:3月16日筑紫下向時に選子内親王よりの造花の藤の枝と贈歌への返歌)、
　[祈りつゝ千代をかけたる藤波に生いきの松こそ思ひやらるれ](後拾遺;八別469)

H2642 **為政**(ためまさ・大江おおえ)　?－　?　平安中期歌人、金葉三奏本181;
[ここのへの内さへ照らす月かげにあれたる宿を思ひこそやれ]

H2643 **為尹**(ためまさ・ためただ・冷泉れいぜい、為邦男、祖父為秀の猶子/本姓藤原)1361-1417*57* 廷臣;右近中将、

1414正二位/15権大納言、冷泉家の再興、応永期の宮廷歌壇の指導者、家集「為尹卿集」、
1375永徳百首出詠、1407内裏九十番歌合参加、09「菊亭歌合」判者、
1415(応永22)将軍足利義持下命により「為尹千首」詠進、
勅撰8首;新後拾遺(222/1130)新続古今(6首182/424/647/783/1525/1677)、
[遠近をちこちにはや鳴きふるす時鳥今は聞きても誰たれにかたらん](新後拾;夏222)、
[紀の海や春は長閑にたちかへて今朝声遠しおきつ白浪](為尹千首;春冒頭歌:立春朝)、
[為尹(;名)の法名]大雲又玄　為之・持為の父、 正徹の師、

V2629 **為理**(ためまさ・荒木あらき/旧姓;山岸)1695-1765*71* 摂津池田の国学者/歌人
[為理(;名)の通称/号]通称;与三兵衛よそべえ、号;**秋江**しゅうこう、法号;徳誉恭山宗隆居士

U2681 **為正**(ためまさ・池永いけなが、)?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[うき中は人めの関のしげければ越ゆるに難き逢坂の山](大江戸倭歌;恋1550/寄関恋)

Y2693 **為政**(ためまさ・野矢のや、)1794- 1872*79* 美作津山藩士、国学者、
1856(安政3)津山藩士青木意平一忠の新作能[高徳たかのり]上演の介添役、
[為政(;名)の通称/号]通称;正朔/幸左衛門、号;松斎

S2678 **為政**(ためまさ・神谷かみや)1841- 1875*35* 尾張の国学者・歌人/詩人、1857「伊勢詣の記」、
「火術撮要」「礼服要鈔」「神谷為政詠草」「六雅集」「濃遊記」「鞜鈴鈔」「南尾謾遊詩草」著、
[為政(;名)の字/通称/号]字;子徳、通称;清次郎、号;六雅/松黄園/桂花書屋

S2679 **為政**(ためまさ・田中たなか) ? - ? 江後期1818-44頃上州安中の和算家/歌、
1844「求積極数解」編

Z2654 **為誠**(ためまさ・松尾まつお、元珍もとよし3男)1848-1919*72* 母;多勢子(1811-94/国学者/歌人)、
信濃伊那郡伴部村の豪農・酒造業の家、国学・歌;母門・のち平田銕胤門、誠まことの弟、
戊辰戦争時;北原稲雄と共に中津川から東山道先鋒総督府に従軍;関東を転戦し帰郷、
[為誠(;名)の通称] 三造

為理(ためまさ・法性寺ほっしょうじ)→*為理*(ためのり・法性寺/藤原、廷臣/歌)Ｈ２６３１
為理(ためまさ→ためただ・冷泉)→*為理*(ためただ・冷泉[上冷泉]、廷臣/歌)Ｇ２６９７
為雅(ためまさ・葉室) → *定藤*(さだふじ・葉室はむろ/藤原、廷臣) Ｊ２０６１
為政(ためまさ・小笠原) → *昨雲*(さくうん・小笠原、兵学者) Ｈ２０２２
為政(ためまさ・荏戸) → *政以*(まさもち・荏戸のぞき、藩士/実学) Ｈ４０８２
為政(ためまさ・久米) → *景山*(けいざん・久米くめ、藩士/郡代/歌) Ｎ１８６９
為政(ためまさ・島津/池田)→ *斉敏*(なりとし・池田/島津、藩主/日記) Ｈ３２７４
為政妻(ためまさのつま・藤原;金葉341)→ *共政妻*(ともまさのつま・藤原、肥前) Ｑ３１５８

H2644 **為益**(ためます・冷泉れいぜい[上冷泉]、為和男/本姓藤原)1517?-70*54* 廷臣;1551権中納言/59正二位、
歌人;自邸歌会催、「為益卿文ふみ」、1513「永正十年御会始」/55「和歌雑抄」著、為満の父
法号;照雲院/映養院、明融の弟

S2680 **為益**(ためます・進藤しんどう/本姓;藤原、初名;為直、忠元男)1651-1731*81* 京の坊官;
粟田青蓮院宮の侍法師、1699法橋、1708法印、1714「尊祐親王灌頂記」著

為丸(ためまる・已人亭いじんてい)→ *定丸*(さだまる・紀、幕臣/戯作/狂歌)Ｃ２０４４

S2681 **為麿**(ためまろ・長岡ながおか)1646-1718*73歳* 代々尾張熱田神宮の神職、神道;吉川惟足これたる門、
子弟教育/晩年は愛知郡井戸田に隠棲、「日本書紀神代巻聞書」「六根清浄大祓講義」著、
[為麿(;名)の通称/号]通称;権之進/権之助、号;見晦堂

H2645 **為躬**(ためみ・二条にじょう/家名;御子左、為世男/本姓藤原)?-?*夭逝* 母;津守国助女、鎌倉末期廷臣;
左少将、歌;続千載集1205、兄弟;為道・為藤・為宗・為冬、
[年月のつもるも何かをしまれん人の心のつれなからずは](続千載;十二恋1205)

X2626 **為巳**(ためみ・座光寺ざこうじ、石尾氏紹[主馬]3男)?-1848 江戸の生/座光寺為将の養嗣子;家督嗣、
信濃伊那郡の山吹領主、座光寺家為時以来交代寄合旗本(伊那衆)、歌人、
前妻;花房糸いと(?-1820/片桐源栄門歌人)/後妻;山村列れつ(?-1881/片桐源栄門歌人)、
息女;里さと(1831-66/片桐源栄門歌人)、
[為巳(;名)の初名/通称/号]初名;氏香、通称;伊奈介、号;蘭斎/錦岡
☆【座光寺家】

①為時－②為重－③為真(実)－④為治－⑤為勝－⑥為攄－⑦為忠－⑧為礥ためかた－⑨為寿－⑩為将－⑪為巳－⑫為邕－⑬為永

H2646 **為通**(ためみち、藤原ふじわら:頼宗流、伊通男)1112/15-1154 母;藤原定実女、平安後期廷臣;丹波権守、1150参議、正四下/中宮権大夫、舞を嗜む、歌人;続詞花集・月詣集入集、千載864、
[契りしももろともにこそ契りしか忘れば我も忘れましかば](千載;恋864/続詞花612、契ったことを忘れた女に贈る/背かれた女への未練)

2677 **為道**(為通ためみち、二条にじょう/家名;御子左、為世長男/本姓;藤原)1271-99早世*29* 母;賀茂氏久女、廷臣;左近権中将、1292古今集を書写/93亀山十首参加/歌合主催、関東下向、公朝こうちょうと歌贈答、二条派嫡流として将来を嘱望されつつも早世、藤葉(4首)・後葉集入、勅撰70首;新後撰(7首117/338/407/以下)玉葉(374/2183)続千(15首)続後拾(11首)以下、菟玖波入、「宴曲抄」の「名取河恋」作?、為藤・為宗・為躬・為冬の兄、為親・為定の父、
[桜花よきてと思ふかひもなくこの一もとも春風ぞ吹く](新後撰;春117/花歌)、
[うき雲は風の便にさそはれて猶里遠き夕立の空](藤葉;夏148)、
冷泉羽林は変名か? → *冷泉羽林*(れいぜいうりん) ５１４６

為道女(ためみちのむすめ)＝為世長男の二条為道の子女;次の3人

H2647 ① **二条関白女房大納言局**(にじょうかんぱくにょうぼうのだいなごんのつぼね)?-? 二条道平家女房/後醍醐天皇妃、1332天皇の隠岐遷幸後出家、法仁親王/懐良親王らの母、続千(1172)下5首、
[女房名] 二条関白女房大納言局/大納言局/権大納言三位局/宣旨/中宮宣旨

H2648 ② **三条公秀室**(さんじょうきんひでのしつ) ?- ? 非歌人?

③ **土御門雅長室**(つちみかどまさながのしつ)→ *顕実母*(あきざねのはは・源、新千載歌人) １０６５
①と③とは混同されやすい

H2650 **為光**(ためみつ・藤原ふじわら、師輔男)942-992*51* 母;醍醐天皇皇女雅子内親王、廷臣;970参議、974権中納言/中宮大夫/975中納言/978大納言/按察使/従二位、987従一位、988法住寺を建立/991太政大臣/992贈正一位、日記「法住寺相国記」著、歌人;966閏八月十五夜内裏前栽合参加、975「一条中納言為光歌合」など主催、万代集入、勅撰3首;後拾遺1105/続後拾遺273/新続古今383、
[千々ちぢにつけ思ひぞ出づる昔をばのどけかれとも君ぞ言はまし](後拾遺;雑1105)、
(兄の一条摂政藤原伊尹これまさ没後に孫行成が誕生しその七夜の祝宴に詠む)
[為光(;名)の通称/諡号]法住寺太政大臣/後一条太政大臣、諡号;恒徳公

S2682 **為光**(ためみつ・藤原ふじわら、別名;為良/脩道、清光男)?-? 平安期廷臣;長門守/正五下、歌人;977三条左大臣(頼忠)殿前栽合参加(;東宮大進)
[水の上にさやけく見ゆる秋の月きみが心にかよふなるべし](頼忠前栽合;67)

2678 **為満**(ためみつ・冷泉れいぜい[上冷泉]、初名;為房、為益男)1559-1619*61* 安桃・江戸前期廷臣/歌人、1585山科言継・四条隆昌と勅勘を蒙り和泉堺に隠棲/1600勅免;定家自筆「拾遺愚草」献上、1613従三位/14正三位/18権大納言、1614家康に駿府で古今伝授、「為満卿和歌講談」著、法号;松竜院/松映院、藤谷為賢の父

H2651 **為宗**(ためむね・二条にじょう/家名;御子左みこひだり、為世男/本姓;藤原)?-? 母;菅原公氏女、鎌倉期廷臣、正四下左中将、父の不興を買い出家、歌・新後撰1201、
[かくばかり思ふにまけぬつらさこそ身をしる中もうらみられけれ](新後撰;十六恋1201)

2679 **為村**(ためむら・冷泉れいぜい[上冷泉]、為久男/本姓藤原)1712-74*63歳* 廷臣;民部卿/1758正二位、1759権大納言/70出家、歌人:父為久・霊元院・烏丸光栄・中院通躬門、冷泉家の中興、関東武士中心に門人多、「樵夫しょうふ問答(柴の戸)」/歌学書「義正よしまさ聞書」、「いすかの吟」、「為村卿家集」「冷泉余瀝」「冷泉三代和歌集」「為村卿著述集」「冷泉為村卿菊九十首」、「宵のすさみ」「東日記」「東の紀行」「星七々吟」「和歌夢物語」「冷泉為村卿和歌集」外著多数、
[先ずにほふ光を月の心あてにそなたと向かふ山の端の空](樵夫問答;72)
[為村(;名)の法名/法号]法名;澄覚、法号;止観心院 、為泰の父

S2683 **為茂**(ためもち・藤谷ふじがやつ、初名;為教、為条男/本姓;藤原)1654-1713*60* 廷臣;1685従三位、1701従二位/13権大納言、「定家大明神縁起」著、為信の父、法号;円通院

為用(ためもち・武藤) → *薀賢*(うんけん;法諱・楽阿;号、僧/歌人) Ｂ１２１１

H2652 **為基**(ためもと/ためとき・大江おおえ、斉光男)?-989?　母;桜嶋忠信女、廷臣、定基/成基/尊基の兄、
文章博士/正五下;三河守/摂津守;病で免官、図書権頭に遷任/のち出家;吉野隠棲、
歌人;赤染衛門と贈答/赤染衛門集・安法法師集入、後五十番歌合入、玄々集2首入、
勅撰6首;拾遺(4首434/723/1295/1296)後拾(974)詞花(241)、続詞花集入、
[ながむるに物思ふ事の慰むは月は憂き世の外よりや行く](拾遺;雑434、
妻に先立たれ月を見ての詠/よりは通過場所を示す)

H2653 **為基**(ためもと・紀、伊輔男)? -　?　平安後期廷臣;民部大輔/式部大輔、従四上、頼任の父、
漢学者、詩:教家「教家摘句のりいえてきく(泥之草再新)」入(;式部権少輔の時の作)

H2654 **為基**(ためもと・藤原/御子左/京極、藤原俊言としとき男[祖父二条為言ためとき男説あり])?-?1350存　廷臣、
京極為兼の猶子、正四下内蔵頭/1315為兼主催春日社奉納「正和四年詠法華経和歌」参加;
為兼の僭上が指弾され為兼は失脚;為基は解官、1333出家、花園院・光厳院の信任;
1346風雅集の寄人、43院五首歌合参加/50玄恵追悼詩歌に参加、藤葉集入、
勅撰;風雅集23首(62/109/189/331/506/527/602/665/764/809/1100/1621/1623以下)、
[梅の花にほふ春べの朝戸あけにいつしか聞きつ鶯の声](風雅;春62/春歌とて)、
[為基の法名]　玄哲/玄誓、　息女;今出川公直の母(風雅集歌人)

H2655 **為基**(ためもと・菅原すがわら) ? -　?　南朝歌人、新葉集295・1296
[あふことはかたののみ野の小牡鹿さをしかや淀のわたりの月に鳴くらん](新葉集;四295)

為基(ためもと・宅磨)　→　*勝賀*(証賀しょうが・宅磨/託磨たくま、絵仏師)Ｈ２２５１
為基(ためもと・八島)　→　*為次*(ためつぐ・八島やしま、藩士/剣術家)　Ｓ２６５２
為本(ためもと・竹村)　→　*茂雄*(しげお・竹村たけむら、農業/国学/歌)Ｂ２１９３

H2656 **為守**(ためもり・冷泉れいぜい、法名;**暁月**/教月、為家男/本姓藤原)1265-1328*64*　母;阿仏尼、為相の弟、
鎌倉期廷臣;侍従/正五下、1310前に出家、兄為相の縁で鎌倉将軍久明親王家歌会に参加、
歌:1292藤原親範勧進[厳島社頭和歌]参加/拾遺風躰抄入・柳風集6首入(暁月法師名)、
勅撰7首;玉葉(192/666/2451/2792)風雅(820/1570/1948)、
連歌;菟玖波集;雑体2句入、俳諧歌「暁月坊狂歌酒百首」?、為守女も歌人、
[ことかたもまたゆかしさに山桜同じひと木をしづかにも見ず](玉葉;春192)
[右衛門督為相卿家の歌合;三日月、
有明のすゑにまぢかきなごりとておもかげにたるよひの三か月](柳風抄;秋71)、
☆後世に法名暁月を[暁月坊]と混同され狂歌の祖とされる;
参照　→　*暁月*(ぎょうげつ、狂歌)　Ｊ１６４２

H2657 **為盛**(ためもり・藤原ふじわら、改名;兼綱、想空?、為忠[1136没?]長男)?-?　平安後期蔵人、散位、
常磐三寂(寂念[為業]・寂然[頼業]・寂超[為経])の兄(三寂の同母)、証兼(歌僧)の父、
歌人;為忠家百首(1134初度35後度)に出詠、
[行く人にみやまの峠たうげ知らすとて植ゑし桜の花咲きにけり](為忠家後度百首;6)

H2658 **為盛**(ためもり・八条はちじょう、家名;法性寺ほっしょうじ、為敦ためあつ男/本姓;藤原)1366-?　1443存　廷臣;
1420正三位/25出家、為季ためすえの父、
歌;1407内裏九十番歌合/43前摂政一条兼良家歌合参加、
勅撰5首;新後拾882新続古19/638/917/1543、
[行く末をいそぐにつけて旅衣故郷ふるさと遠くなおへだてつつ](新後拾;羈旅882)、
[為盛(;名)の法名]寂光(寂元)

H2659 **為盛**(ためもり・高橋たかはし) ? -　?　俳人;貞門、和泉大津の住人、
狂歌:1666古今夷曲集1首入、
[はひまはる腰折れ歌を筆にのせて書いて送るははばかりで候そろ](夷曲集;687、
狂歌点取りの奥に書付け貞徳の許へ贈る/腰折れ歌は下手な歌;へりくだった表現、
腰が抜け這回る人を駕籠に乗せ舁かいて送る意をきかせる)

U2685 **為守**(ためもり・山川やまかわ) ? -　?　江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[岩たたく音もとどろに花と散り露と乱るる滝の白玉](大江戸倭歌;雑1685/滝)

2733　**為盛**(ためもり・和田わだ/本姓;平、元安男)1803-65*63*　上総市原郡の神道家;父門、
1839(天保10)島野村の島穴神社神主;父を継嗣、国学者、家塾開設;近隣の子女を教育、

[為盛(;名)の通称]恒五郎/大炊/近江守
為盛(ためもり・広江)　→　*殿峰*(でんぽう・広江ひろえ、商家/詩/篆刻)　Ｅ３０３０
H2660 **為盛女**(ためもりのむすめ・藤原ふじわら、為盛[?-1029;小右記入]女/母;仲文女)?-?1035存　平安中期歌人、
三河守源経相[1039没]の妻/経宗の母?、
1035(長元8)賀陽院かやいん水閣関白頼通歌合;九番祝題の歌入、後拾遺451;
[思ひやれ八十氏人の君がためひとつ心に祈る祈りを]
(後拾遺;七451/水閣歌合主催の頼通への祝意)
H2661 **為守女**(ためもりのむすめ・冷泉れいぜい/藤原、為守[1265-1328]女)?-?　1310存　鎌倉期歌人、
柳風抄・藤葉集入、
勅撰10首;玉葉(397/1264/2157)風雅(7首416/499/1558/1732/1792/1812/1949)、
[闇よりもすくなき夜半の螢かなおのが光を月に消けたれて](玉葉;夏397)
為弥(ためや・中村)　→　*時万*(ときかず・中村なかむら、幕臣/和算)　Ｊ３１００
2680 **為康**(ためやす・三善みよし/初姓;射水、三善為永の養嗣)1049-1139*91*　越中射水郡の在地豪族出身、
1067上京/算学;三善為永門;養子、省試を志すも50代まで学生身分/廷臣;60代で算博士、
諸陵頭兼任、尾張介/上総守/正五上、法制に精通、浄土信仰者、「中右記部類紙背漢詩集」入、
1109「童蒙頌韻」、16「朝野群載」編/「拾遺往生伝」「後拾遺往生伝」「伝教大師伝」外著多数
S2684 **為康**(ためやす・五条ごじょう、為学ためざね男/本姓;菅原)1501-63*63*　廷臣;漢学/1521文章博士/40従三位、
式部大輔/1552権中納言/55兵部卿/56正二位、贈権大納言、
1521「献策記」、1546「小除目小叙位記」、「為康卿記」「周易要事記」著
H2662 **為泰**(ためやす・冷泉れいぜい[上冷泉]、法名;等覚、為村男/本姓藤原)1735-1816　母;藤谷為信女、廷臣、
1776正二位/87権大納言/99出家、歌人、片玉集中に詠草「為泰詠草」「冷泉等覚詠」著、
「三代十百韻」著、法号;冒池院、屋代弘賢の師
2742 **為寧**(ためやす・渡辺わたなべ、為常男)1779-1859*81*　美濃本巣郡北方の商家;渡辺本家7世、酒造業等、
大垣・紀州藩御用金用立てなど北方の豪商、書;御家流/国学・歌;本居春庭・富樫広蔭門、
蹴鞠に長ず;飛鳥井家より免許受、歌学;加藤磯足門、為忠・為親の父/娘婿;為主・為矩、
[為寧(;名)の通称]**惣左衛門**/惣一
為泰(ためやす・森)　→　*為泰*(ためひろ・森、千竹園、国学/歌人)　Ｈ２６３８
H2665 **為行**(ためゆき・中御門なかみかど/本姓;藤原、権中納言為方男)1276-1332*57*　鎌倉期廷臣;
1278従五上和泉守/86正五下右近将監/91右少弁/97従四上/98左中弁/正四下/99右大弁、
1300(正安2)従三位非参議/01造東大寺長官/越後権守/民部卿/03(嘉元元)参議/讃岐権守、
1308花園天皇即位日に遅怠;免官/還任/09正三位・左兵衛督/10(延慶3)権中納言;辞任、
1310従二位/13正二位/32(元弘2)没(病痢)、
歌人、1278弘安百首入(藤原為信[初名;為行]とは別人)、
「新続古今集」(2009;権中納言為行名)、
[跡見えてさすがにたえぬ古里のいた井の清水影もかはらず](新続古;雑2009、
弘安百首歌に/板井;板で囲った井戸)
2681 **為之**(ためゆき・冷泉れいぜい[上冷泉]、為尹男)1393-1439*47*　上冷泉家の祖、室町期廷臣;1426正四下、
左近中将/没後正二位大納言を追贈、歌人:宮中歌会の題者を務める/1434永享百首に出詠、
1435赤松満政母三十三回忌詠法華経序品和歌に参加、勅撰2首;新続古今(695/1252)、
[かきくれてさだかにもなき山の端のはるると見れば積もる雪かな](新続古今;六冬695)
H2664 **為将**(ためゆき・藤原ふじわら、為雅男?)?-?　室町期歌人、為忠の孫、「和歌灌頂次第秘密抄」書写
2765 **為役**(ためゆき・ためつら?、稲井あない、)?-?　江前期;上方の医者/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]2首入、
[朝な朝な置く霜ごとに移り行く秋のひかずも白菊の花](林葉累塵;秋588)
Z2656 **為運**(ためゆき・松下まつした、)1641-1713*73*　筑後久留米藩士、和漢学者、
[為運(;名)の通称/号]通称;又兵衛、号;虚瓢/雪堂/如清
S2685 **為之**(ためゆき・江戸えど)1785 - 1830*46歳*　京の八坂神社神官、国学神道:1815平田篤胤門、
1823「牛頭天王暦神辨」校訂、
[為之(;名)の通称]　丹下たんげ/丹後
S2686 **為幸**(ためゆき・吉田よしだ)1819- 1892*74*　名古屋藩士/和算家:永田有功・敏昌門/梅村玄甫門、

1842「算法浅問抄起源」、「古今通覧起源」「階梯算法問答集」「社盟算譜」「汲水算法」外多数、
[為幸(;名)の字/通称/号]字;成美、通称;専五郎/万作、号;又玄

S2687 **為之**(ためゆき・三沢みさわ、為祥男/本姓;源)1826-50早世*25* 江後期廷臣;1841右近府生/48従六上、
「山口日記」著、為質の養父

為行(ためゆき・法性寺/藤原)→ *為信*(ためのぶ・法性寺ほっしょうじ/藤原、廷臣/歌)Ｈ２６２８

為言(ためゆき・菅原) → *為言*(ためのぶ・菅原、歌人) Ｈ２６２６

為言(ためゆき・藤原) → *為言*(ためとき・二条、為氏男、歌/連歌) Ｓ２６５６

為之(ためゆき・都筑) → *信友*(のぶとも・川口/都筑つづき、幕臣) Ｃ３５４０

H2666 **為世**(ためよ・藤原ふじわら、忠相男)?-? 946存 平安前期廷臣;従五下兵庫介/右兵衛大尉、
忠行の甥、歌人:後撰917、
[逢ふことのかた野へとてぞ我はゆく身を同じ名に思ひなしつゝ](後撰;恋917、
得難い女の家の前を通って交野へ行くのを見ていづこへと問われたので詠む、
逢うことの難いと河内の狩場交野とを並べる)

2682 **為世**(ためよ・二条にじょう/家名;御子左、為氏男/本姓;藤原)1250-1338*89* 母;飛鳥井教定女、
廷臣;1283参議/91正二位/92権大納言/1306民部卿/29出家、大覚寺統に近仕、
歴代天皇の信任を受け勅撰集撰者をめぐり従弟京極為兼と抗争、1276住吉三十五番歌合参、
1293伏見天皇内裏御会参/1302「伊勢新名所絵歌合」判者、03[嘉元百首]出詠;
1303「新後撰集」20「続千載集」を撰進、1324「石清水社歌合」判者、1
1325「飛月集」、私撰「続現葉和歌集」撰、「為世集」「為世卿百首」「和歌庭訓」外著多数、
勅撰177首;続拾遺(6首36/94以下)新後撰(11首24/103151以下)玉葉(10首267/420以下)、
続千載(36首41/57/85以下)続後拾(20首1/17/37以下)風雅(7首)新千(42首)以下、
小倉実教[藤葉集]14首入、連歌;菟玖波集7句入、
[為世(;名)の号/法名]号;藤大納言、法名;明釈、
為雄・為言ためときの兄、為道・為藤・為宗・為躬・為冬・為子・権大納言典侍・公宗母らの父
[たちわたる霞に浪はうづもれて磯辺の松にのこる浦風](続拾遺;春36)、
[和歌の浦や五代かさねて浜千鳥七度ななたびおなじ跡をつけつる](嘉元百首;955/千鳥)、
参照 → *為世女*(ためよのむすめ・二条)

T2695 **為義**(ためよし・藤原ふじわら、元輔[916-975]男)?-? 平安前期廷臣;従五下/能登守、師輔の従兄弟、
歌;956坊城右大臣師輔歌合参加、
[月も日もうつると見れば池のうちの底の心ぞ思ひやらるる](師輔歌合;池左))

H2667 **為義**(ためよし/ためのり・橘たちばな、通[道]文男)?-1017 平安中期廷臣;丹波・伊賀・摂津・但馬守歴任、
文章生/藤原道長・敦康親王の家司、1015正四下、詩歌、1001東三条韻四十賀屏風和歌詠進、
1003(長保5)左大臣家道長歌合参加、玄々集(左衛門佐)・万代集入、詩;本朝麗藻入、能書家、
勅撰5首;後拾遺(307/526)金葉(402)詞花(298)続古(1269)、義通・済通の父、
為仲・資成の祖父、資業母(橘三位9は叔母、源兼澄(955?-1015?)と交流、
[いかにして玉にも貫ぬかむ夕ゆふされば荻の葉は分きに結ぶ白露](後拾;秋307、
寛和元年[985]八月内裏歌合に詠)、
[月の明あかかりける夜 人を待ちかねてつかはしける、
君待つと山の端出でて山の端に入るまで月をながめつるかな](金葉Ⅲ402/玄々94)

H2668 **為善**(ためよし・源みなもと、国盛男)?-1042 母;越前守源致書女、廷臣;文章生/蔵人、
1018道長女威子の立后に際し中宮権大進/三河守/1028従四下備前守、中宮亮/従四上、
歌人:1047賀陽院水閣歌合参加、能因・出羽弁いではのべん・大江公資らと交流、栄花物語入、
別本和漢兼作集入集、後拾遺8首;154/252/285/424/487/857/1046/1102、
[藤の花折りてかざせば濃紫こむらさきわが元結もとゆひの色やそふらん](後拾遺;春154)

S2688 **為義**(ためよし・源みなもと、義親男/母;藤原有綱女)1096-1156斬首*61* 武将;叔父義忠・祖父義家の養子、
1109源義綱を追討;左衛門尉/36辞任、藤原忠通・頼長兄弟の対立で1143頼長に臣従、
1146左衛門大尉・検非違使/従五下、1154子為朝の鎮西での乱行で解官、
保元乱では崇徳天皇方で参戦;敗北/叡山で出家/京船岡で斬首、「六条判官書状」著、
[為義(;名)の通称/法名]通称;六条判官/陸奥判官、法名;義宝/義法、義朝・為朝の父

S2689 **為善**(ためよし・進藤しんどう、法号;為純、為雄男)1782-1849*68* 京の坊官/栗田青蓮院宮の侍法師、

1807左馬少允/10青蓮院諸大夫/11加賀守/14坊官/得度;号為純/30法印、1804「為善日記」、
青蓮院寺誌「華頂要略」編/1815-24「雲霧抄」1815「青蓮院坊官日記」、「感神院新宮縁起」、
「観樹記」「青蓮院御門跡略伝及宝物書籍目録」「青蓮院門跡伝略」外著多数、為栄ためひでの父

V2697 **為美**(ためよし・小川おがわ、弘宣(可進後楽堂)男)1820-1892*73* 京の煎茶人/歌人;冷泉家入門、
[為美(;名)の通称/号]通称;左守、 号;其楽きらく

X2688 **為善**(ためよし・田中たなか、旧姓;桑原)1823-82*60* 周防岩国藩士、国学・歌;熊谷千邦門、
[為善(;名)の通称/号]通称;庸輔/退一郎、 号;皓堂

2744 **為良**(ためよし・渡辺わたなべ、)1823-1882*60* 美濃本巣郡北方の豪商渡辺家の分家;佐左衛門家、
桟留縞を扱い巨利を得る、国学・歌;富樫広蔭門、俳人、
北方の大井神社に「御手洗みだらし」1基贈置、
[為良(;名)の通称/号]通称;雄之助/佐左衛門、 号;何有/瓦全/梅叟

S2690 **為善**(ためよし・日高ひだか、小田切清十郎男)1834-1919*86* 日高弥一郎の養子/幕臣:1853小普請組、
1855徒目付/60遣米使節団目付として渡米;「米行日誌」著、61遣欧使節勘定方として随行、
1866鉄炮製造奉行/大炮組差図役頭取・大炮組頭、72新政府官吏/91致仕、
[為善(;名)の通称] 圭三郎

X2674 **為善**(ためよし・瀬見せみ、善水よしみ長男)1837-62早世*26* 紀伊日高郡江川村の大庄屋の生、
国学者;熊代繁里門、
[為善(;名)の初名/通称]初名;保行、 通称;安松/儀一郎

S2691 **為賀**(ためよし・白井しらい) ? - ? 江後期大阪の陰陽家;易学者、
1854刊「陰陽方位便覧」編、息女は福田金塘(暦算家1807-58)の妻

為宜(ためよし・茅根) → *寒緑*(かんりょく・茅根ちのね、藩士/儒者) Ｒ１５８２
為良(ためよし・藤原) → *為光*(ためみつ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) Ｓ２６８２
為善(為宣ためよし小島) → *文器*(ぶんき・小島こじま、藩士/俳人) Ｅ３８９５
為精(ためよし・片桐) → *源栄*(げんえい・片桐かたぎり、歌人) Ｂ１８２９
為能(ためよし・冷泉) → *為純*(ためずみ・冷泉、歌人) ２６６２

為世女(ためよのむすめ・二条);権大納言二条為世女
①後醍醐天皇妃 → *為子*(ためこ、尊良親王の母・歌人) Ｇ２６８０
②後醍醐院天皇典侍→*権大納言典侍*(ごんだいなごんのすけ、尊良親王女の母)Ｅ１９７５
③西園寺実衡の室→ *公宗母*(きんむねのはは・西園寺、歌人) Ｅ１６７３

為世門の四天王(ためよもんのしてんのう)→ *和歌四天王*(わかしてんのう)

2683 **為頼**(ためより・藤原ふじわら、雅正まさただ男/母;藤原定方女)941?-998*58?* 平安前期廷臣;春宮少進、
従四下、太皇太后大進、歌人;977頼通前栽歌合/後十五番歌合参加、
「為頼朝臣集」、和漢朗詠集入/玄々/秋風/雲葉集入集、
勅撰11首;拾遺(5首178/338/560/561/1299)後拾(2首)千載(1首)以下、
[おぼつかないづこなるらん虫の音ねをたづねば草の露や乱れん](拾遺;秋178、
977[貞元2]廉義公三条左大臣藤原頼忠家前栽歌合で題詠;草むらの夜の虫)

D2612 **為頼**(ためより・冷泉れいぜい、為満男/本姓;藤原)1592-1627*36* 廷臣;1617左近権中将/27参議/従三位、
歌;1626二条城歌会参加、
[末遠くよろづよまでもさかゆかむ竹をしるべに敷島の道](二条城歌会:落栗物語入)

2684 **手持女王**(たもちのおおきみ) ? - ? 万葉二期・藤原宮期歌人、
万葉集;三417-419(:河内王かふちのおほきみへの挽歌)
[豊国の鏡の山の岩戸立て隠りにけらし待てど来まさず](豊前鏡山に葬る/万葉;418)

S2692 **保**(たもつ・渤海ふかみ、信豊男)1704-73*70* 京の糸商/儒/能楽研究;福王流素謡や舞囃子を嗜む、
1756「秦曲うたひ正名閾言ひげん」著、木田為邦の師、
[保(;名)の字/通称/号]字;子亨/子享、 通称;春吾/茂兵衛、 号;北門/北門子

S2693 **保**(たもつ・穂積ほづみ) ? - ? 江後期越後の国学者/書:森尹祥門、屋代弘賢と交流、
1795「熊胆真偽辨」1804「異年号考」著、「能書事蹟」編、鈴木一保と同一説あり、
→ *一保*(かずやす・鈴木[1744-1812]、越後高田藩士/和漢学)Ｍ１５５５

S2694 **保**(たもつ・寺田てらだ、別名;永保)?-? 江後期土佐の国学者:鹿持雅澄[1791-1858]門、
「古義先生著述書目抜抄」編

Z2623 保(たもつ・久山ひさやま、字;理安、慈谿じけい;僧名)1818-9982　近江大津の僧/神道;白川資訓門、信濃水内郡戸隠山顕光寺(神仏習合)最後の66代別当/廃仏毀釈で還俗;久山理安と称す;顕光寺は戸隠神社となりその宮司となる、旧本坊勧修院は久山館と称す

X2648 保(たもつ・篠田しのだ、別名;可保)1827-190175　信濃飯田藩士、国学/歌人;橘道守・松波資之門、[保(;名)の通称]　小十郎

Z2631 保(たもつ・福原ふくはら、旧姓;佐野)1835-9460　近江彦根生の神職;村社篠原神社祠官、歌人;[鳰のうみ]入

保(たもつ・粕谷/半井)　→　*仲庵*(ちゅうあん・半井なからい、藩士/医者)　Ｆ２８７６
保(たもつ・東条)　→　*淡斎*(たんさい・東条とうじょう、儒者)　Ｉ２６７３
保(たもつ・鏡屋/鈴木)　→　*常明*(つねあき・鈴木すずき、国学/医者)　Ｂ２９５４
保(たもつ・園田)　→　*不時宜*(ふじぎ・園田、藩士/儒/教育)　Ｃ３８４３
保(たもつ・原田)　→　*笥斎*(じゅんさい・原田/小森、藩士/儒者)　Ｊ２１７２
保(たもつ・太田)　→　*熊山*(ゆうざん・太田おおた、藩儒/詩人)　Ｃ４６００
保(たもつ・長井)　→　*松堂*(しょうどう・長井/大江、医者/漢学)　Ｌ２２２３
保(たもつ・渡辺)　→　*友水*(ゆうすい・渡辺、役人/砲術/俳人)　Ｃ４６８２
保(たもつ・鈴木)　→　*重愛*(しげちか・鈴木すずき、国学者)　Ｚ２１１０
袂広好(たもとひろよし)　→　*広好*(ひろよし・浅裏庵あさうらあん、藩士/狂歌)Ｈ３７７１

H2669 田守(淡理たもり・小野おのの朝臣)?-?　奈良期廷臣;747従五下/749太宰少弐、753遣新羅大使/54太宰少弐に再任/左少弁/刑部少輔/57遣渤海大使/帰国後従五上、万葉三期歌人;五846(:730年梅花宴歌)、4517題(;渤海大使出発時家持の餞歌)
[霞立つ長き春日をかざせれどいやなつかしき梅の花かも]
(かざしは髪に挿す、万葉集;五846)

S2695 田守(たもり・河村かわむら、通称;源助)1809-5547　越中砺波郡杉木の国学者;賀茂季鷹すえたか門、歌人/「杉の舎集」著

田守(たもり・横井)　→　*千秋*(ちあき・横井、藩士/国学者/歌)　２８０１
田守(たもり・朝野)　→　*泰彦*(やすひこ・朝野あさの、国学/神職)　Ｃ４５７１
多守(たもり・黒須)　→　*教久*(のりひさ・黒須くろす/大竹、藩士/歌)Ｉ３５３２

S2696 多門(たもん・前島まえじま、名;昭辰)?-?　江後期大坂天満臼屋町の文筆家、1790刊「孝子兄弟六人伝」著

多門(たもん・千村)　→　*伯斎*(伯済はくさい・千村ちむら、藩士/儒)　Ｄ３６０７
多門(たもん・渡辺)　→　*成従*(しげつぐ・渡辺/渡部、藩士/書家)　Ｒ２１５１
多門(たもん・渡辺)　→　*成以*(しげもち・渡辺/渡部、成従男/藩士/書家)Ｓ２１９２
多門(たもん・葛巻)　→　*昌興*(まさおき・葛巻かずらまき、藩士/歌)　Ｂ４０４９
多門(たもん・根岸)　→　*鶴亭*(かくてい・根岸ねぎし、藩士/儒者)　Ｋ１５２４
多門(たもん・市川)　→　*鶴鳴*(かくめい・市川、儒者)　Ｂ１５７５
多門(たもん・日尾)　→　*荊山*(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人)　１８０５
多門(たもん・太田)　→　*資愛*(すけよし・太田おおた/源、藩主/老中)Ｄ２３７２
多門(たもん・唐崎)　→　*広陵*((こうりょう・唐崎からさき、儒者/詩人)Ｇ１９４４
多門(たもん・小沢)　→　*蘭江*(らんこう・小沢おざわ、和算家)　Ｃ４８０３
多門(たもん・倉谷)　→　*友于*(ともゆき・倉谷くらたに/藤原、医者/歌)Ｑ３１８６
多門(たもん・生田)　→　*万*(よろづ・生田いくた、藩士/国学/救民)　４７４２
多門(たもん・横山)　→　*政和*(まさかず・横山よこやま、藩家老/文筆)Ｂ４０８１
多門(たもん・横山)　→　*政寛*(まさひろ・横山よこやま、藩士/記録)　Ｇ４０９７
多門(たもん・横山)　→　*政孝*(まさたか・横山よこやま、藩士/詩人)　Ｄ４０２４
多門(たもん・原)　→　*師貞*(もろさだ・原はら、医者/歌人)　Ｌ４４１０
多門(たもん・宮崎)　→　*眞澄*(ますみ・宮崎みやざき、神職/国学者)　Ｊ４０２６
多門(たもん・枝えだ)　→　*五竜*(ごりゅう・玉乃たまの/枝えだ/桂かつら、儒者)Ｎ１９９６
多門(たもん・冢/冢田)　→　*大峯*(たいほう・冢田/塚田/冢、儒者)　Ｃ２６１８
多門(たもん・岩下)　→　*貞融*(さだみち・岩下/滋野、国学者/歌)　Ｃ２０４９
多門(たもん・岡田)　→　*顕忠*(あきただ・岡田おかだ、幕臣/書家/歌)Ｇ１０６３

多門(たもん・黒沢)　→　*道形*(みちかた・黒沢/二階堂、郷土史家)Ｂ４１３４
多門(たもん・金谷)　→　*武英*(たけひで・金谷かなや、藩士/紀行文)　Ｏ２６６７
多門(たもん・岡おか)　→　*久孝*(ひさたか・岡おか、神職/歌人)　Ｌ３７９０
多門(たもん・広見)　→　*正雄*(まさお・広見ひろみ、歌人/教育)　Ｓ４０２２
多門(たもん・布喜川)　→　*親英*(ちかひで・布喜川ふきがわ/永井、庄屋/歌)Ｄ２８５３
多門(たもん・山田)　→　*稲城*(いなき・山田やまだ、神職/歌人)　Ｋ１１７５
多聞(たもん・光明院)　→　*光明院多聞*(こうみょういんのたもん、童/歌)　Ｒ１９６５
多聞(たもん・萱場)　→　*傍斎*(ぼうさい・萱場かやば/菱沼、藩士)　３９９０
多聞(多門たもん・服部)　→　*白貴*(はくひ・服部/中西、儒者)　Ｄ３６８２
多門治(多門治たもんじ・鈴木)→　*春蔭*(はるかげ・鈴木、藩士/国学者)　Ｇ３６０９
多門太(たもんた・秋山)　→　*景山*(けいざん・秋山あきやま、藩士/儒者)　Ｅ１８７１
多門路考(たもんろこう)　→*菊之丞*(5世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者/戯作者)Ｂ１６０３

H2671 **多益須**(多益首/太益須たやす・巨勢こせの朝臣)663-710*48*　大和期廷臣/詩、686大津皇子に連座;捕縛、時に大舎人;赦免/689判事/務大肆/撰善言司/務大参/693直広肆/706式部卿/従四上、708大宰大弐、懐風藻2首(19/20)
田安君殿(たやすのきみどの、川柳;[にしき]に投句)→*宗武*(むねたけ・田安/徳川/松平/源、国学)４２０６
太夫(たゆう・宮地)　→　*益躬*(ますみ・宮地/藤原、神職/国学)　Ｊ４０２５

H2672 **多代女**(たよじょ・市原いちはら、名;たよ・多代、市原壽綱女)1776-1865*90*　岩代須賀川の酒造業家に生、分家の養女;松崎庄三郎有綱を婿養子に迎え結婚;1806死別、俳人:道彦・乙二門、息子蝶二ちょうじ・桃丘とうきゅうも俳人、1823江戸の一具の庵に逗留;多くの風流士と交流、1817「浅香市集」編、「菅笠日記」「的申集」「俳諧晴蔭集」、53「晴霞句集(多代句集)」、[三日月や蘆あしの葉先の一ひとあらし](晴霞句集)/[声こぼしこぼし雁ゆく雲間かな]、
[多代女(;通称)の号]　号;賞月亭/晴霞庵、法号;広教院

S2697 **多羅**(たら・伊藤いとう、山田仙介の4男)1766-1822*57* 越中今立郡粟田部の薬種業、叔父伊藤蟠養子、越前府中(武生)の父の生家の薬舗近江屋を継承/本草学修得、国学;本居宣長門、1796「百雑砕」1804「音韻新書」05「新撰字鏡師説抄」著、「伊吹廼詞」「万葉動植考」「可牟奈我良」著、
[多羅(;号)の幼名/通称/別号]幼名;功介、通称;東四郎、別号;東白、屋号;近江屋
多頼(たらい・中島)　→　*多頼*(おおより・中島なかじま、神職/歌人)　Ｄ１４８０

H2673 **多羅井雨盛**(たらいのあまもり、藤井孫十郎)?-?　江中期小石川白山御殿跡の住人/狂歌作者、1787才蔵集入;556、[大文字を書きしこの手は何人ぞげにも二王の筆のいきほひ]、(狂歌才蔵集;十三556、二王は仁王と王羲之)
多良志比売(たらしひめ)　→　*神功皇后*(じんぐうこうごう)　Ｄ２２８６
多羅尼童子(たらにどうじ)　→　*総持*(そうじ;法諱、真言律尼僧)　Ｈ２５５７
多羅福山人(たらふくさんじん)→　*南陽*(なんよう・菊池、儒者)　３２４４
哆囉哩楼(たらりろう)　→　*三馬*(さんば・式亭、黄表、滑稽本、合巻)２０５５
たらんど(・紀の)　→　*紀のたらんど*(きのたらんど、狂歌作者)　Ｇ１６０９
太理(たり・全/金・神宅)→　*全太理*(まさたり・神宅臣、出雲風土記)Ｄ４０６７
淡理(たり・小野)　→　*田守*(たもり・小野、大使/歌人)　Ｈ２６６９

2748 **条**(たりえ・渡辺わたなべ、)　？－1860　土佐高知藩士;留守居組、儒学・国学:宮地水渓すいけい(仲枝なかえ)門、江戸住、
[条(;名)の通称]熊助/四郎兵衛/柳助/曾源次
タリオ(:洗礼名・宗)　→　*義智*(よしとし・宗そう、藩主/対朝鮮貿易)Ｆ４７４６

H2674 **足国**(たりくに/たるくに・生玉部いくたまべ/生壬部みぶべ)?-?　755年万葉防人歌人、遠江佐野郡さやのこおり・4326
[父母が殿の後しりへのももよ草百代ももよいでませ我が来たるまで](万葉;二十4326)

H2675 **足国**(たりくに/たるくに・中臣部なかとみべ)?-?　755年万葉防人歌人、下野都賀郡つがのこおりの上丁・4378
[月日夜つくひよは過ぐは行けども母父あもししが玉の姿は忘れせなふも]

S2698 **足継**(たりつぐ・池田朝臣)？－　？　万葉四期3840の作者か;但し池田朝臣真枚説が有力、
参考　→　*池田朝臣*(いけだのあそみ)　１１７８
→　*眞枚*(まひら・池田)　Ｋ４００６

N2650 **垂穂**(たりほ・石井いしい、名;孝政、庵原いおはら文芦男、石井家の養子)1769-1840*72* 尾張藩士;1794出仕、
1803家督/250石使番格、儒;細井平洲門/礼法;朝岡家門/俳;横井也有に私淑/狂歌;橘洲門、
祖父楚巾・父文芦と３代にわたる也有の知遇に感激;1823也有[鶉衣]の「続編・拾遺」編纂:
(也有の文章を蒐集した「半掃庵也有翁筆記」を底本に編纂)、
也有「行々子ぎょうぎょうし」を写本(最古)、1817-24「石井垂穂日記」、1823「王子田楽之記」、
「空談大論」「世界空談論」「伊勢往来記」「かのこ染」「杉の村雨」「有翁筆談」「奈良武加」、
「変手古篇」「帳中教語」「樹々の栄」「享元録」「損者三友」「無空」著、
[垂穂(;号)の通称/別号]通称;八郎次/九郎左衛門、
別号;八束軒/怡斎/二亭りゃんてい/同道堂/無空々々道人、庵原楚布の孫

S2699 **足穂**(たりほ・稲室いなむろ/糟屋/糟谷/粕谷かすや)1801-78*78* 大阪天王寺の農業/歌人;村田春門門、
1855「稲室翁の歌輯」著、
[足穂(;名)の通称]為次郎/幸助

2717 **足穂**(たりほ・山田やまだ、初名;篤躬/通称;平馬)1832-88*57* 相模大住郡の神職;大山阿夫利神社祠官、
神道・国学;吉岡信元・平田銕胤門/1857(安政4)権田直助門/直助を継ぎ阿夫利神社祠官

足穂(たりほ・中田) → *憲信*(のりのぶ・中田なかた、神職/国学/司法)Ｆ３５４１
垂穂(たりほ・増田) → *垂穂*(たるほ・増田ますだ、神職/郷土史家)Ｔ２６０５
垂穂(たりほ・前田) → *夏蔭*(なつかげ・前田、国学者) Ｇ３２６６
足穂廼屋(たりほのや) → *千稲*(ちしね・米沢よねざわ、戸長/国学/歌)Ｎ２８８１
足穂家(たりほや) → *秀成*(ひでなり・堀ほり、藩士/国学;音韻) Ｄ３７５２

H2676 **垂麻呂**(たりまろ・刑部おさかべ)?- ? 廷臣;705従五下/万葉二期歌人、
万葉三263(近江より上京の歌)・427(田口広麻呂への挽歌)、
[馬ないたく打ちてな行きそ日並ひならべて見ても我が行く志賀にあらなくに](万葉;263)

H2677 **足麻呂**(たりまろ・丈部はつせべ)?- ? 755防人/駿河国・万葉廿4341
[橘の美袁利みをりの里に父を置きて道の長道ながちは行きかてぬかも](万葉集;廿4341)

Z2645 **足実**(たりみ・本田ほんだ、通称;謙二)1827-1919長寿*93* 筑後久留米の国学者

H2678 **蛇鱗**(だりん・大幡おおはた、別号;松花軒)?-? 江前期上方の談林系俳人、
1682(天保2)「犬の尾」編、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[蜘くもの巣や梢の月をすだれ越し](難波色紙;94/蜘蛛の巣を簾の見立てる)

陀隣軒(だりんけん) → *令徳*(りょうとく・鶏冠井かえでい、俳人) ４９２２
垂井(たるい;号、俗姓;紀)→ *光清*(こうしょう、僧;石清水25世別当) Ｊ１９７２
垂井淡斎(たるいたんさい) → *則恭*(のりやす・黒田、藩士/和漢学) Ｇ３５０５
足国(たるくに・生玉部/生壬部)→ *足国*(たりくに/たるくに・生玉部/生壬部、万葉防人歌人)Ｈ２６７４
足国(たるくに・中臣部) → *足国*(たりくに/たるくに・中臣部、万葉防人歌人)Ｈ２６７５
樽次(たるつぐ・地黄坊) → *春朔*(しゅんさく・茨木/伊原城いばらき、医者/仮名草子)Ｊ２１７５
足彦(たるひこ・河村) → *秀辰*(ひでとき・河村/俵、藩士/国学) Ｄ３７２９

T2603 **垂穎**(たるひで・立石たていし/本姓;藤原、)1702-67*66* 江中期和泉日根郡岡本村の庄屋/国学者、
1749「大耶麻騰沙汰文」58「大日本佐汰文」61「神儒辨疑」著、
[垂穎(;名)の別名/通称]別名;念典、通称;次郎吉/彦兵衛/彦次郎/彦四郎

H2679 **足人**(たるひと・石川朝臣いしかわのあそみ)?-? 奈良期廷臣;724従五下/大宰少弐;旅人の配下/728転任、
万葉三期歌人、万葉六955、549題
[さす竹の大宮人の家と住む佐保の山をば思ふやも君](君は旅人、万葉六955)

2685 **足人**(たるひと・鴨君かものきみ)? - ? 万葉三期歌人、257-260:香具山の詠(長歌・反歌)

H2680 **足人**(たるひと・丈部はせつかべ)? - ? 755防人/下野塩屋郡しおのやのこおり上丁・万葉廿4383

H2681 **足人**(たるひと・大田部おおたのべ)?- ? 755防人、下総千葉郡・万葉廿4387
[千葉の野ぬの児手柏このてかしはの含ほほまれどあやにかなしみ置きて高来たかきぬ](万葉;4387)
(含むは蕾のように苞に包まれている意で娘の初々しさを指す)

足人(たるひと・河村) → *秀辰*(ひでとき・河村/俵、藩士/国学) Ｄ３７２９

T2605 **垂穂**(たるほ・増田ますだ)1802 - 1888*87* 上州利根郡後閑の小高神社社掌、古典/郷土史、
「鏡斎随筆」、「沼田盛衰記」著、
[垂穂(;名)の通称/号]通称;右京、号;鏡斎

T2606 **足穂**(たるほ・日下田くさかだ/小佐野/**遠藤**、朝倉茂右衛門男)1814-90*77* 上州館林の商家の生、幼時;足利の小佐野清七家に奉公/養育、1842下野佐野の呉服商遠藤狭右衛門の養子、歌;小佐野清七門/1835橘守部門、開塾;子弟教育、歌:「稲舎長歌集」著、
[足穂(;号)の通称/別号]通称:嘉平、別号;稲舎いなのや

2731 **足穂**(たるほ・吉田よしだ、通称;半之助/号;蟠竜)1844-1906*63* 筑後久留米藩士;馬廻組、国学者、応変隊に参加;のち隊員5人で久留米滞在の大楽源太郎ほか4人を筑後川河原で惨殺

足穂(たるほ・飯田) → *年平*(としひら・飯田、神職/歌人) Ｎ３１５８
足穂(たるほ・中田) → *憲信*(のりのぶ・中田なかた、神職/国学/司法)Ｆ３５４１
足穂(たるほ・広田) → *正方*(まさかた・広田ひろた/度会/有江、神職/国学)Ｓ４０１９
足穂(たるほ) → *足穂*(たりほ)参照
垂穂(たるほ・前田) → *夏蔭*(なつかげ・前田、国学者) Ｇ３２６６
垂穂(たるほ・石井) → *垂穂*(たりほ・石井いしい、藩士/儒/俳諧) Ｎ２６５０
垂穂(足穂たるほ・武田) → *千穎*(ちかい・武田たけだ/三好、藩士/歌) Ｍ２８８１
足穂廼屋(たりほのや) → *千稲*(ちしね・米沢よねざわ、戸長/国学/歌)Ｎ２８８１
達磨(だるま) → *三箱*(さんはこ・宝玉葊、川柳作者) Ｇ２０２７
達摩堂案山子(だるまどうかがし)→ *案山子*(かがし・達摩堂だるまどう、俳人)Ｂ１５２０
達磨屋佐七(2世だるまやさじち、二三屋)→ *活東子*(かっとうし・岩本/萩原、書肆/伝記)Ｃ１５４８
垂麻呂(たるまろ・刑部) → *垂麻呂*(たりまろ・刑部おさかべ、万葉歌人) Ｈ２６７６

Z2619 **垂水**(たるみ・樋口ひぐち、) ？－ ？ 江後期;伊勢亀山の国学者;本居宣長・春庭(1763-1828)門、富樫広蔭(1793-1873)門、
[垂水(;名)の初名/通称]初名;正之、通称;太郎兵衛/九十九

垂水入道(たるみにゅうどう) → *日晟*(にちせい;法諱、連歌) ３３０５
垂水屋(たるみのや) → *若冲*(じゃくちゅう・海北かいほう、歌/国学) ２１３７
樽屋三右衛門(たるやさんえもん)→*三右衛門*(さんえもん・樽屋、名主/地割役)Ｌ２０８１
田廬(たろ) → *真崎*(まさき・長瀬、国学/歌人) ４００８
田廬庵(たろあん) → *景形*(かげなり・有川ありかわ/源/岩根、商家/歌)Ｔ１５４７
太郎市(たろいち・黒沢) → *翁満*(おきなまろ・黒沢、国学/歌人) １４１２

T2600 **他郎**(たろう) ？－ ？ 名古屋真宗大谷派円明寺僧/俳;暁台門、1772上洛、1768-72暁台「秋の日」5句入

T2601 **太郎**(たろう・川路かわじ、彰常男)1844-1927*84* 幕臣/聖謨としあきらの孫、1646(3歳)父死別、聖謨の下で育つ;1858安政大獄で聖謨が免職;家督継承、語学;箕作阮甫・中浜万次郎門、蕃書調所勤務/1863小納戸/64勤仕並寄合/71大蔵省出仕/72岩倉大使に随従;欧米巡視、外国文書課長、「川路太郎親類書並遠類書」編
[太郎(;通称)の名/号]名;温、号;寛堂

他朗(たろう・久村/岸上/加藤)→ *暁台*(きょうたい・加藤/岸上きしのうえ、俳人)１６３６
大郎(たろう・岸田) → *吟香*(ぎんこう・岸田きしだ、新聞/薬業家) Ｓ１６５２
太郎(たろう・武田) → *信玄*(しんげん・武田、武将/戦国大名) Ｄ２２９８
太郎(多楼たろう・堀川・堀河:狂歌名)→ *丘山*(きゅうざん・岳亭、読本)Ｃ１６０３
太郎(たろう・佐々木) → *春夫*(はるお・佐々木、商家/国学;万葉)Ｇ３６０５
太郎(たろう・中島) → *広足*(ひろたり・中島/越智、藩士/国学者)３７２１
太郎(たろう・安原) → *霖寰*(りんかん・安原やすはら、藩儒) Ｋ４９０７
太郎(たろう・香川/宮庄)→ *親輔*(ちかすけ・宮庄みやしょう、藩家老/歌) Ｂ２８０３
太郎(たろう・岡田) → *明義*(あきよし・松岡まつおか、故実家) Ｅ１０１３
太郎(たろう・池田) → *綱政*(つなまさ・池田、藩主/歌人) Ｂ２９３０
太郎(たろう・柳沢) → *芝陵*(しりょう・柳沢やなぎさわ、儒者) Ｍ２２９９
太郎(たろう・屋代) → *弘賢*(ひろかた・屋代やしろ、幕臣/国学者) ３７１５
太郎(たろう・安藤) → *秋里*(しゅうり・安藤あんどう、儒者/書家) Ｙ２１４9
太郎(たろう・奥田) → *勾堆*(こうたい・奥田おくだ、藩士、詩文) Ｋ１９４７
太郎(たろう・服部) → *惟興*(これおき・熊沢くまざわ、儒者/国学) Ｏ１９１５
太郎(たろう・岩松) → *孝純*(たかずみ・岩松/源、幕臣/文筆) Ｍ２６１２

太郎(たろう・塙)　→　*忠韶*(ただつぐ・塙はなわ、国学者)　Ｆ２６３１
太郎(たろう・丸山)　→　*作楽*(さくら・丸山、藩士/国学/詩歌)　Ｆ２０１３
太郎(たろう・高内)　→　*松陰*(しょういん・高内たかうち、和漢学/武芸)Ｇ２２８３
太郎(たろう・清水)　→　*櫟洲*(れきしゅう・清水、儒/武術/故実)　５１７８
太郎(たろう・石黒)　→　*敬慎*(けいしん・・石黒いしぐろ/藤原、歌人)　Ｎ１８４５
太郎(たろう・成田)　→　*秋佩*(しゅうはい・成田なりた、藩士/儒者)　Ｉ２１２１
太郎(たろう・永井)　→　*青崖*(青厓せいがい・永井、藩士/蘭学者)Ｈ２４７６
太郎(たろう・足達)　→　*儀正*(よしまさ・足達あだち、藩士/歌人)　Ｌ４７０３
太郎(たろう・岩崎)　→　*長世*(ながよ・岩崎いわさき、国学/歌/神職)Ｇ３２３１
太郎(たろう・宇陀)　→　*春邨*(はるむら・宇陀うだ、国学/勤王)　Ｊ３６７５
太郎(たろう・佐伯)　→　*利麿*(としまろ・佐伯さえき、国学/神職)　Ｖ３１２５
太郎(たろう・佐伯)　→　*友光*(ともみつ・佐伯さえき、国学)　Ｖ３１２６
太郎(たろう・関)　→　*広喬*(ひろたか・関せき/田代/平、藩士/国学)Ｋ３７０１
太郎(たろう・桜井)　→　*貞贇*(さだよし・桜井さくらい/八洲、神職/国学)Ｏ２０５８
太郎(たろう・石和)　→　*重孝*(しげたか・中島なかじま、農家/国学/尊攘)Ｚ２１５５
太郎(たろう・町田)　→　*久成*(ひさなり・町田まちだ/藤原、藩士/官僚/儒/僧)Ｌ３７０１
太朗(たろう・江間・西村/長島)→*寿阿弥*(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者)Ｇ２１６５

H2682 **太郎右衛門**(たろうえもん・中村なかむら)?-?　江中期江戸中村座歌伎作者、1754「三浦大助武門寿」、1755「江戸鹿子松竹梅」「信田長者柱」著

太郎右衛門(たろうえもん・塚谷屋)→　*輪雪*(りんせつ・杉山、商家/俳人)Ｋ４９５６
太郎右衛門(たろうえもん・坂本屋)→　*一通*(いっつう・坂本屋、俳人)　Ｈ１１６３
太郎右衛門(たろうえもん・辻尾)→　*意楽*(いらく・辻尾、俳人)　Ｄ１１１８
太郎右衛門(たろうえもん・土肥)→　*黙翁*(もくおう・土肥どひ、儒者/講説業)４４７１
太郎右衛門(たろうえもん・池上)→*幸豊*(ゆきとよ・池上、名主/開墾/殖産)Ｆ４６０９
太郎右衛門(たろうえもん・森)→　*庸軒*(ようけん・森、儒/医者)　４７７５
太郎右衛門(たろうえもん・平田)→　*文明*(ぶんめい・平田、酒造業/俳人)Ｇ３８５２
太郎右衛門(たろうえもん・島屋)→*素檗*(そばく・藤森/島屋、商家/俳人)Ｅ２５２５
太郎右衛門(たろうえもん・古賀)→　*穀堂*(こくどう・古賀、藩士/儒者/詩)Ｃ１９３９
太郎右衛門(たろうえもん・久保木)→　*窓*(ちくそう・久保木、名主/儒者)Ｄ２８３４
太郎右衛門(たろうえもん・入交)→*省斎*(せいさい・入交いりまじり/小川、藩士/国学)Ｉ２４２９
太郎右衛門(たろうえもん・渡)→　*政舎*(まさいえ・渡わたり/平/鳥居、商家/国学)Ｔ４０８７
太郎右衛門(たろうえもん・服部)→　*普成*(ふせい・服部はっとり、商家/俳人)Ｃ３８８７
太郎右衛門(たろうえもん・石川)→　*忠房*(ただふさ・石川/伊丹、幕臣/記録)Ｆ２６７７
太郎右衛門(たろうえもん・大阪屋)→*篤陰*(あつかげ・木村きむら、遊女屋/国学)Ｈ１０４３
太良右衛門(たろうえもん・田上)→　*実禎*(さねただ・田上たがみ、藩士/国学)Ｏ２０７８
太郎三(たろうざ・加藤)　→　*景纘*(かげよし・加藤かとう、儒者/詩画)　Ｌ１５５０

T2609 **太郎左衛門**(たろうざえもん・赤川あかがわ、名；三千秋、忠通男)?-? 1876存　長州萩藩士；1849家督、藩の要職/1876.10月萩の乱に参加；消息不明、「考積抄御賞美先例」著

T2610 **太郎左衛門**(たろうざえもん・沢さわ、名；貞説、太八郎男)1834-98　幕臣；1857長崎海軍伝習所伝習生、蘭学/砲術修得、1858江戸；軍艦操練所手伝；61教授方/62榎本武揚とｵﾗﾝﾀﾞ留学、航海術修得；1867新造の開陽丸艦長；函館停留/69榎本軍降伏；東京檻送/72赦免、開拓使御用掛/海軍教官、1867「大坂航日録」、「幕府軍艦記事」著、[太郎左衛門(；通称)の別通称]　鍥太郎えいたろう

大郎左衛門(たろうざえもん・岸田)→　*吟香*(ぎんこう・岸田きしだ、新聞/薬業家)Ｓ１６５２
太郎左衛門(たろうざえもん・藤原)→　*寂忍*(じゃくにん；法諱、僧/連歌)　Ｇ２１３５
太郎左衛門(たろうざえもん・高野[小田]/藤原)→　*景家*(かげいえ・藤原、武家/歌人)Ｂ１５８３
太郎左衛門(たろうざえもん・長屋)→　*就正*(なりまさ・長屋ながや、武将/記録)Ｉ３２１３
太郎左衛門(たろうざえもん・玉木)→　*吉保*(よしやす・玉木/玉置たまき、武将)Ｈ４７７３
太郎左衛門(たろうざえもん・井坂)→　*徳辰*(あつとき・井坂、神職/歌人)　Ｅ１０７０

太郎左衛門(たろうざえもん・稲田)→ *示植*(しげたね・稲田、武将/城代)　Ｃ２１３５
太郎左衛門(たろうざえもん・山方)→ *泰護*(やすもり・山方/真崎、家老)　Ｄ４５３１
太郎左衛門(たろうざえもん・千村/松平)→ *君山*(くんざん・松平、藩士/儒者)１７２８
太郎左衛門(たろうざえもん・池上)→*幸豊*(ゆきとよ・池上、名主/開墾/殖産)Ｆ４６０９
太郎左衛門(たろうざえもん・中村)→*闇指*(あんし・中村なかむら、藩士/俳人)Ｃ１０３７
太郎左衛門(たろうざえもん・古賀)→ *穀堂*(こくどう・古賀、藩士/儒者/詩)Ｃ１９３９
太郎左衛門(たろうざえもん・田中)→*重好*(しげよし・田中たなか、郷学;教育)Ｔ２１１５
太郎左衛門(たろうざえもん・児島)→ *中山*(ちゅうざん・児島、儒者/詩歌)　Ｇ２８１２
太郎左衛門(たろうざえもん・秋山)→ *弘通*(ひろみち・秋山あきやま、藩儒)　Ｈ３７３０
太郎左衛門(たろうざえもん・河原)→ *正路*(まさみち・河原かわはら、藩士/記録)Ｈ４０４２
太郎左衛門(たろうざえもん・水野)→ *政和*(まさかず・水野、鋳物師/和算家)Ｂ４０７７
太郎左衛門(たろうざえもん・入交)→*省斎*(せいさい・入交いりまじり/小川、藩士/国学)Ｉ２４２９
太郎左衛門(たろうざえもん・筧)→　*重方*(しげかた・筧かけい、幕臣/国学)　Ｘ２１９３
太郎左衛門(たろうざえもん・小田切)→*知義*(ともよし・小田切おだぎり、幕臣/国学)Ｕ３１３９
太郎左衛門(たろうざえもん・八木)→ *美穂*(よしほ・八木やぎ、国学者/和漢学)４７２７
太郎左衛門(たろうざえもん・中出/八木)→ *澧水*(ほうすい・八木/中出、俳人)Ｂ３９９２
太郎左衛門(2世たろうざえもん・西東)→ *さん馬*(初世さんば・翁家おきなや、落語家)Ｅ２０６１
太郎左衛門(たろうざえもん・渡辺)→ *直*(なおし・渡辺、藩国老/歌)　Ｂ３２２６
太郎左衛門(たろうざえもん・江川)→ *担庵*(たんあん・江川、幕臣/砲術)　Ｈ２６９０
太郎左衛門(たろうざえもん・真田)→ *敦寛*(あつひろ・真田さなだ、国学/歌人)Ｈ１０６９
太郎左衛門(たろうざえもん・中田)→ *平山*(へいざん・中田、藩士/儒者/詩)２７４３
太郎左衛門(たろうざえもん・石井)→ *恭信*(よしのぶ・石井いしい、藩士/歌人)Ｌ４７５２
太郎左衛尉門(たろうざえもんのじょう・斎藤)→　*利行*(としゆき・斎藤、武家歌人)Ｏ３１１０

T2611 **太郎次**(たろうじ・津打つうつ/つうち)?- ？　江中期歌舞伎作者:2世津打治兵衛門、1728江戸市村座出勤、1736-37京中村富十郎座に出勤、1728「浦島七世孫」/36「富市金新万」「妻迎奥州源氏」著

太郎次(たろうじ・大和屋)→　*文魚*(ぶんぎょ・吉田、札差/河東節/俳人)Ｅ３８９９
太郎次(たろうじ・堀内)　→　*匡平*(まさひら・堀内、庄屋/国学/勤王)　Ｇ４０８５
太郎太(たろうだ・尾本)　→　*雪斎*(せっさい・尾本おもと/大江、儒者)　Ｌ２４００
太郎太(たろうだ・田代)　→　*清秋*(きよあき・田代たしろ、神職/歌人)　Ｕ１６５８
太郎大夫(たろうだゆう・真野)→ *時綱*(時綱ときつな・真野まの/藤波、神職)Ｊ３１３５
太郎大夫(たろうだゆう・宇仁館)→ *富元*(とみもと・宇仁/宇仁館うにだて、神職/占卜)Ｏ３１９７
太郎太夫(たろうだゆう・裏多/浦田)→ *政定*(まささだ・裏多/浦田、神職)Ｃ４０５３
太郎松(たろうまつ・河野)　→　*通儀*(みちのり・河野こうの、町役/歌人)　Ｊ４１１０
太郎麿(たろうまろ・枝窪)　→　*邦直*(くになお・枝窪えだくぼ、神職/国学)　Ｄ１７９９
太郎吉(たろきち・池永)　→　*豹*(秦良はだら・池永、国学者)　Ｅ３６８０
太郎吉(たろきち・屋代)　→　*弘賢*(ひろかた・屋代やしろ、幕臣/国学者)　３７１５
太郎吉(たろきち・福井)　→　*末盈*(すえみつ・福井ふくい/度会、神職)　Ｆ２３６８
太郎吉(多郎吉たろきち・駒井)→*善政*(よしまさ・駒井こまい、医者/史家)　Ｈ４７０６
太郎吉(たろきち・中村)　→　*重政*(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師)２１１５
太郎吉(たろきち・野城)　→　*白成*(もとなり・野城のしろ、国学者)　Ｖ２２４０
太郎九(たろく・村瀬)　→　*秋水*(しゅうすい・村瀬むらせ、絵師)　Ｘ２１７３
多六(たろく・石野/佐々木)→　*万彦*(まひこ・佐々木、幕臣/歌人)　Ｌ４０００
太郎三郎(たろさぶろう・野村)→　*重威*(しげたけ・野村のむら、藩士/詩歌)　Ｒ２１２８
太郎三郎(たろさぶろう・山名)→　*豊樹*(とよき・山名やまな、藩士/神職/国学)Ｔ３１３５

H2683 **太郎七**(たろしち・増山ますやま)?-　？　江中期1781-89頃歌舞伎作者:初世増山金八門、大坂藤川山吾座で並木翁輔等と合作、1782「けいせい黄金鯱」「倭文字三才図絵」、1783「男哉女鳴神」「ふぢ見月通者墳」/84「隅田川続俤」番付/84「小野お通七段譜」著

太郎七郎(たろしちろう・水野)→ *忠上*(ただかみ・水野みずの、歌人)　Ｚ２６７５
太郎次郎(たろじろう・島津)→　*天錫*(てんしゃく・島津、領主/詩人)　Ｄ３０７０
太郎助(たろすけ・加藤)　→　*景纘*(かげよし・加藤かとう、儒者/詩画)　Ｌ１５５０

太郎助(たろすけ・青地)　→　*兼山*(けんざん・青地あおち/あおぢ、藩士/儒者)Ｂ１８９４
太郎助(たろすけ・袴田)　→　*勝文*(かつふみ・袴田はかまだ、国学者)　Ｖ１５３７
太郎八(たろはち・二ノ宮)→　*一鳳*(いっぽう・二ノ宮にのみや、俳人)　Ｉ１１９１
太郎八(たろはち・諏訪)　→　*頼宝*(よりやす・諏訪すわ、幕臣/詩人)　Ｊ４７９０
太郎八(たろはち・竹中)　→　*和順*(かずより・竹中、藩士/文筆家)　Ｍ１５５９
太郎八郎(たろはちろう・矢沢)→　*賢陶*(まさすえ・矢沢/滋野、庄屋/詩歌)Ｃ４０８４
H2684 **太郎兵衛**(たろべえ・深江屋)?-　?　大阪書肆、西鶴俳書刊、1671「落梅集」刊が最初
H2685 **太郎兵衛**(初世たろべえ・為永ためなが、号;千蝶せんちょう、)?-?　大阪の浄瑠璃作者;2世竹田出雲門、
1737竹本座に師と名を連ねる/のち豊竹座の立作者/1746歌舞伎作者に転ず、
1748千蝶と号し大阪市川竜蔵座で立作者;各座で活動、門人;為永一蝶・為永二三次ら、
1737「太政入道兵庫岬」41「播州皿屋敷」45「久米仙人吉野桜」49「契情けいせい鰭振山」外著多数、
[初世為永太郎兵衛の別通称/号]　竹田正蔵(庄蔵)/豊田正蔵/為永千蝶
T2612 **太郎兵衛**(2世たろべえ・為永ためなが)?-?　江後期1807-42頃歌舞伎作者;初世太郎兵衛[千蝶]門、
合巻作者、1807「万代不易戯場始」42「武烈天皇強悪話」著
T2675 **太郎兵衛**(たろべえ・古屋ふるや、名;**殷阜**たかおか)1786-1855*70*　泉州堺の魚問屋古屋13代目,
新地方勘定役、和漢書読破;詩書/国文/俳諧を嗜む、淡窓・旭荘らと交流、
「清名家文粋」編、魯山の父、
[太郎兵衛(;通称)の号]　魯嶽/足堂/翠雲、仙太郎(;隠居号)、法号;釈円信
太郎兵衛(たろべえ・山田)→　*長久*(ながひさ・山田やまだ、和学者)　Ｐ３２１９
太郎兵衛(たろべえ・津田)→　*光吉*(みつよし・津田、藩士/古書調査)　Ｆ４１１６
太郎兵衛(たろべえ・小泉)→　*安定*(やすさだ・小泉こいずみ、藩士/歌人)　Ｂ４５３８
太郎兵衛(たろべえ・小沢)→　*卜尺*(ぼくせき・小沢おざわ、名主/俳人)　Ｄ３９５４
太郎兵衛(たろべえ・菱川)→　*師重*(もろしげ・古山/長谷川、浮世絵師)Ｈ４４２８
太郎兵衛(たろべえ・林)　→　*風草*(ふうそう・林はやし、商家/俳人)　３８８８
太郎兵衛(たろべえ・篠崎)→　*兼亮*(かねすけ・吉田よしだ/藤原、浪士;討入)Ｗ１５１４
太郎兵衛(たろべえ・赤松)→　*蘭室*(らんしつ・赤松あかまつ、藩儒者/詩)　Ｃ４８４６
太郎兵衛(たろべえ・高瀬)→　*梅盛*(ばいせい・高瀬、俳人/狂歌)　３６０６
太郎兵衛(たろべえ・草川)→　*綱忠*(つなただ・草川、藩士/能書/教育)　Ｂ２９１１
太郎兵衛(たろべえ・栗田屋)→　*茶隠*(さいん・栗田屋、俳人)　Ｎ２００１
太郎兵衛(たろべえ・遠山)→　*信春*(のぶはる・遠山、軍記作者/歌人)　Ｃ３５８１
太郎兵衛(たろべえ・山内)→　*繁樹*(しげき・山内やまうち、酒造業/国学)　Ｃ２１１３
太郎兵衛(たろべえ・山内)→　*繁憲*(しげのり・山内、繁樹男/商家/国学/神職)Ｚ２１９４
太郎兵衛(たろべえ・江沢)→　*講修*(ときなが・江沢えざわ/源、国学/歌)　Ｊ３１６０
太郎兵衛(たろべえ・雨森)→　*城橋*(じょうきょう・雨森あめのもり、藩士/儒者)Ｉ２２０４
太郎兵衛(たろべえ・雨森)→　*炎洲*(えんしゅう・雨森あめのもり、藩士/儒者)Ｅ１３９０
太郎兵衛(たろべえ・簗瀬)→　*昌向*(まさひさ・簗瀬やなせ、藩家老/救荒策)Ｇ４０５８
太郎兵衛(たろべえ・小島)→　*礼重*(敬重よししげ・小島、藩士)　Ｄ４７６２
太郎兵衛(たろべえ・立野)→　*良道*(よしみち・立野たつの、代官/国学者)　Ｈ４７４５
太郎兵衛(たろべえ・舟山)→　*万年*(ばんねん・舟山/船山、郷土史家)　Ｄ３６３３
太郎兵衛(たろべえ・成田)→　*秋佩*(しゅうはい・成田なりた、藩士/儒者)　Ｉ２１２１
太郎兵衛(たろべえ・伊庭)→　*良恭*(よしたか・伊庭いば/大月、国学者)　Ｌ４７４６
太郎兵衛(たろべえ・八木)→　*美庸*(よしつね・八木やぎ、大庄屋/歌人)　Ｐ４７６９
太郎兵衛(たろべえ・筧)　→　*重方*(しげかた・筧かけい、幕臣/国学)　Ｘ２１９３
太郎兵衛(たろべえ・辰巳屋/伊藤)→*和允*(かずみち・伊藤いとう/藤原、藩士/国学)Ｔ１５５５
太郎兵衛(たろべえ・狩野)→　*善久*(よしひさ・狩野かのう、医者/国学)　Ｍ４７１５
太郎兵衛(たろべえ・千原)→　*夕田*(せきでん・千原ちはら、商家/画/書家)Ｄ２４７６
太郎兵衛(たろべえ・犬塚)→　*良重*(よししげ・犬塚いぬづか、幕臣/国学者)Ｌ４７６２
太郎兵衛(たろべえ・小西)→*春村*(はるむら・小西こにし/本居、商家/国学)Ｋ３６１７
太郎兵衛(たろべえ・小西)→*春重*(はるしげ・小西/本居、春村男/商家/国学)Ｋ３６１６
太郎兵衛(たろべえ・中島)→　*重孝*(しげたか・中島なかじま、農家/国学/尊攘)Ｚ２１５５

太郎兵衛(たろべえ・樋口)→　*垂水*(たるみ・樋口ひぐち、国学者)　Ｚ２６１９
俵小槌(たわらのこづち)　→　*小槌*(こづち・俵の、妓楼主人/狂歌)　Ｆ１９８０
俵藤太(田原藤太たわらのとうだ)→　*秀郷*(ひでさと・藤原、武将)　Ｄ３７０５
俵船積(たわらのふなづみ)　→*船積*(ふなづみ・田原/俵たわらの、商家/狂歌/戯作)Ｄ３８５５
丹(たん・山本)　→　*抱中*(ほうちゅう・山本やまもと、医者)　Ｃ３９３１
坦(たん)　→　*一斎*(いっさい・佐藤、儒者)　１１２２
坦(たん・一条)　→　*正直*(まさなお/まなお・一条、藩士/天文)　Ｆ４００５
坦(たん・藤井/吉田/吉)→　*篁墩*(こうとん・吉田/吉/藤井、医/儒者)１９１８
坦(たん・田中/伊王野/青木)→　*浩斎*(こうさい・青木/伊王野いおの、医/蘭学者)Ｉ１９９９
坦(たん・宮永)　→　*菽園*(しゅくえん・宮永みやなが、儒者)　Ｙ２１６３
坦(たん・松島)　→　*北渚*(ほくしょ・松島まつしま、儒/医者)　Ｄ３９４５
坦(たん・武内)　→　*度道*(ただみち・武内/竹内、和算家)　Ｑ２６８８
坦(たん・斎藤)　→　*実村*(さねむら・斎藤さいとう、藩士/日記)　Ｌ２０３８
胆(たん・草刈)　→　*泰彦*(やすひこ・草刈くさかり、藩士/歌人)　Ｃ４５７０
淡(たん・山崎/高)　→　*良斎*(りょうさい・高こう/山崎、蘭医;眼科)Ｈ４９６４
湛(耽たん・橋本)　→　*子琴*(しきん・葛かつ/橋本/葛城、医/詩人)Ｂ２１６９
湛(たん・山田/井上)　→　*南台*(なんだい・井上/山田、幕臣/儒者)　Ｊ３２２７
湛(たん・高橋)　→　*巾山*(きんざん・高橋たかはし、儒者)　Ｒ１６０９
覃(たん→ふかし・大田)　→　*南畝*(なんぽ・大田おおた、幕臣/狂歌詩)　３２３３
覃(たん→ふかし・倉田)　→　*葛三*(かつさん・倉田くらた、俳人)　Ｃ１５４４
端(たん;字・中なか)　→　*伊三郎*(いさぶろう・中屋、蘭学/銅版画)　Ｆ１１５０
端(たん・三浦)　→　*鳩邨*(きゅうそん・三浦みうら、医者/儒者)　Ｍ１６７８
端(たん・武居)　→　*敬斎*(けいさい・武居たけい、儒者)　Ｆ１８６３
端(たん・浅野屋)　→　*秋台*(しゅうだい・浅野屋、畳業/書家)　Ｘ２１９８
旦(たん・松永[松長]/岡西[岳西])→　*惟中*(いちゅう・岡西/松永、歌・俳人)１１１９
旦(たん・吉田)　→　*芳章*(よしあき・吉田よしだ、神職/歌人)　Ｂ４７９７
旦(たん・福原)　→　*揺舟*(ようしゅう・福原ふくはら、絵師/書家)　Ｂ４７１２
旦(たん・武田)　→　*車龍*(しゃりゅう・武田たけだ、歌人)　Ｚ２１３８
澹(たん・小倉/建部)　→　*雲如*(うんじょ・遠山とおやま・建部、詩人)　Ｂ１２１７
澹(たん・石川)　→　*柳渓*(りゅうけい・石川いしかわ、儒者)　Ｄ４９５８
澹(たん・村瀬)　→　*澹*(あわし・村瀬むらせ、製造業/歌人)　Ｈ１０３８
鍛(たん・保坂)　→　*正義*(まさよし・保坂ほさか、藩家老/国学)　Ｓ４０４０
壇(だん;号・田中/紀)　→　*明清*(みょうしょう;法諱、社僧)　Ｈ４１２９
檀(だん・杉山)　→　*熊台*(ゆうだい・杉山すぎやま、藩士/儒者)　Ｄ４６３７
檀(だん・宇治)　→　*延武*(のぶたけ・宇治うじ、藩士/教育)　Ｈ３５４６

H2686 **但阿**(たんあ)　？－　？　連歌、1551義隆「宮島千句」発句入
T2613 **単阿**(たんあ;法諱、別法諱;白誉)?-?　江前中期近江の浄土僧、忍澂と交流、1681「道俗方要」「盂蘭盆経疏新記標指鈔」、「浄土径路集」著
単阿(たんあ;字)　→　*了海*(りょうかい;法諱・単阿、浄土僧)　Ｇ４９７６
丹阿(たんあ・丹治)　→　*恒足軒*(こうそくけん・丹治たじひ、地誌家)　Ｋ１９３９
H2687 **澹庵**(たんあん・三宅みやけ、名;正堅まさかた)?-1659　播磨八幡山城主三宅利元の孫、近江の生、上京/儒者;堀杏庵(正意)門;高弟/杏庵の女婿、歌;木下長嘯子(勝俊)門、1616常陸下妻藩主松平定綱の儒臣/番頭格で藩政参与、藩主遠江掛川・山城淀移封に随従・1633美濃大垣移封/1635桑名移封に随従、桑名藩儒;桑名城内朝日丸に学問所設置;教授,致仕後;京に隠居;長子堅忠が家督嗣、「澹庵歌話」「戒草」「訓戒八条」「ひとこゝろ」「積年雑記」「肉食論」「正鵠図説」著、「積年雑記」著、「澹庵遺稿」、[澹庵(;号)の字/別号]字;子柔、別号;雲木/雪林
2686 **担庵**(担菴たんあん・伊藤いとう、名;宗恕、宗淳男)1623-170886 京の儒者;那波活所門/医;江村専斎門、初め医業/のち儒者;越前福井藩の文学、晩年は京で退隠、村上冬嶺・伊藤仁斎と親交、

「担庵詩集」「担庵文集」「藤担庵集」「不輟斎歌集」「伊藤担庵文稿」「櫻川研銘」「聚遠亭記」著、
「頼朝論」「老人雑話」「老人襍話漢訳」著、東涯「当世詩林」入、祖父宗通は秀吉の被官、
[担庵(;)の字/別号]字:元務、別号;白雲散人/不輟斎/自怡じい堂、　妻は曲直瀬玄理女

H2688 **但安**(たんあん)　　?－　?　　京俳人、1677似船「かくれみの」入

2687 **淡庵**(澹庵たんあん・熊沢くまざわ/のち南条なんじょう/本姓;紀、熊沢大膳男)1629-91*63* 初め肥前平戸藩士、
1648(20歳)で浪人、1649備前岡山藩主池田光政の臣、儒;熊沢蕃山門/蕃山の妹婿/禄3百石、
1690(元禄3)南条権八郎に改姓、正修まさながの父、歌学;中院通茂・飛鳥井雅章門、連歌/俳諧、
1671「淡庵俳句集」、1716「近世武家談叢」、記録「武将感状記」(1716吉田源之丞編)、
「近代正説続砕玉話」編/「近代正説砕玉話脱漏」著、「応兵記」「淡庵訓戒」「淡庵随筆」著、
「淡庵俳句集」「鉄炮茶話」「老人雑話」「秀眞国美論」著、
[淡庵(:号)の名/通称/別号]名;**正興**まさおき、通称;権八郎/猪[伊]太夫、別号;砕玉軒、

H2690 **担庵**(たんあん・江川えがわ、名;英竜、英毅男)1801-55*55*　幕臣;1835父の継嗣;韮山代官/幕府鉄炮方、
勘定吟味格、海防;反射炉築造/大砲鋳造に尽力、砲術;高島秋帆門/書;市河米庵門、
「伊豆七島記」「伊豆大島山焼事実」「大島山火記」「反射炉御取建日記」、1855「担庵詩稿」著、
[担庵(;号)の幼名/字/通称/法号]幼名;芳次郎/邦次郎、字;九淵、通称;太郎左衛門、
法号;修功院
☆担庵(英竜)没後;鈴木重嶺しげねの挽歌;
[伊豆の海の渚の玉は失せてけり光は今もある心地して](大江戸倭歌集;2011)

T2614 **澹庵**(たんあん・畑中はたなか、名;雄)?-?　　江末期京住の詩人/書家、医者奥山金陵に出仕、
1866「伊勢繁昌記」著、
[澹庵(;号)の通称/別号]通称;玄造、別号;金花楼

丹庵(たんあん・堀川)　→　*済*(せい・堀川ほりかわ、医者)　Ｈ２４１０
淡安(たんあん・穎川)　→　*雅之*(まさゆき・穎川えがわ/葉、通事)　Ｉ４０３３
淡庵(たんあん・谷)　→　*三山*(さんざん・谷たに、儒者)　Ｆ２０８５
淡庵(たんあん・清水)　→　*赤城*(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆)Ｄ２４５７
覃庵(たんあん・難波)　→　*周政*(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人)　Ｖ１５２９
澹庵(たんあん・野中)　→　*文友*(ぶんゆう・野中、藩医;傷寒治療)　Ｇ３８５６
澹葊(たんあん・熊谷/熊屋)→　*五右衛門*(4代ごえもん・熊谷/熊屋くまや、商家/藩政)Ｌ１９７４
膽庵(たんあん・大熊)　→　*秦川*(しんせん・大熊おおくま、眼科医/詩人)Ｐ２２１３
男依(だんい/おより・榊原)　→　*峯松風*(みねのまつかぜ、狂歌)　Ｆ４１５３

H2691 **誕一**(丹一たんいち・高山たかやま)?-　?　　平曲音曲者、一方法師堂派、金山奉行事件に連座
端一郎(たんいちろう・昌谷)→　*千里*(せんり・昌谷さかや、藩士/儒者)　Ｇ２４８０
探頤堂(たんいどう)　→　*高潔*(たかきよ・小野、幕臣/国学者)　Ｃ２６６９

T2615 **端隠**(たんいん・福井ふくい/本姓;度会、榎倉武繁男)1801-85*85*　伊勢度会郡の福井帯刀末旨の養嗣、
伊勢外宮権禰宜/正四上、書画・篆刻;小俣蠖庵門、茶;千宗室・藪内紹智門、「雨洗庵印藪」著、
[端隠(;号)の名/字/通称/別号]名;武熙/**末彰**すえあき、字;孔彰、通称;帯刀/皆千代/造酒、
別号;凹隅/雨洗/緑雪書屋、　末経すえつね(水琴)の父

T2616 **淡雲**(たんうん;法諱・佩石はいせき;字、大流男、俗姓;安国寺)1830-1905*76*　筑前真宗本願寺派僧、
1836(17歳)得度;玄雄門/65明蓮寺住職/81本山事務/86本山執行、1867?「筆誅耶蘇」、
[淡雲の号]　清癡せいち/慨癡道人、賜号;安国寺・清浄院

担雲閣(たんうんかく)　→　*高福*(たかよし・三井、商家;財閥の礎)　Ｎ２６７７
潭雲斎(たんうんさい)　→　*伴主*(ともぬし・相沢あいざわ、華道家/画)　Ｑ３１１１

Y2615 **堪恵**(たんえ;法諱)　1791 － 1862*72*　　伊勢津の真宗大谷派光徳寺10世
湛慧(たんえ;字)　→　*信培*(信倍しんばい;法諱・湛慧、浄土僧)Ｐ２２６１

H2692 **湛睿**(たんえい;法諱・本如ほんにょ;号)1271-1346*76*　真言律僧;1300鎌倉浄光寺栄眞門;
栄眞より伝法阿闍梨位を受、華厳教学:1308凝然門/禅爾ぜんに門;和泉久米寺住;華厳教学講義、
1318再度武蔵金沢へ/26称名寺2世剣阿より灌頂印明を受/下総東禅寺住/39称名寺3世、
金沢学校で講義;華厳教学の関東弘通に尽力、「華厳宗信解安心要文集」著、
1316「理護摩次第私記」22「起信論義記教理抄」35「華厳五教章纂釈」43「初心成覚文集」外多数

T2617 **湛奕**(湛益たんえき;法諱・重誉;字)?-1660　武州八王子の浄土宗大善寺10世、上州新田の大光射8世、1640「論註音釈」著
丹右衛門(たんえもん・にえもん?・西依)→ *墨山*(ぼくざん・西依/西、儒者) Ｄ３９２６
丹右衛門(たんえもん・小野)→ *顕駿*(あきとし・小野おの、国学者) Ｈ１０１６
丹右衛門(たんえもん・松井)→ *益江*(ますえ・松井まつい、藩士/本草/歌) Ｓ４０６１
旦右衛門(たんえもん・大塚)→ *亀基*(かめもと・大塚おおつか/真坂、藩士/歌) Ｔ１５９３
淡右衛門(たんえもん・沢辺、談右衛門)→*北溟*(ほくめい・沢辺、藩士/儒者) Ｄ３９９５
団右衛門(だんえもん・渡部/森山)→*富涯*(ふがい・森山/渡部、藩士/兵学者) Ｂ３８３０
団右衛門(だんえもん・島) → *義勇*(よしたけ・島しま、藩士/蝦夷開拓) Ｅ４７２０
団右衛門(だんえもん・蔵知)→ *維新*(これちか・蔵知くらち/薄田/村瀬、藩士/歌人) Ｑ１９６７
団右衛門(だんえもん・児玉)→ *氏光*(うじみつ・児玉こだま、名主/国学) Ｅ１２６８
弾右衛門(だんえもん・丹羽)→ *宗義*(むねよし・丹羽にわ、藩士/儒/歌) Ｄ４２６０

H2695 **澹園**(淡園たんえん・秋元/秋本あきもと、名;以正ゆきまさ、鈴木正生男)1688-1751*64* 本家の秋本家の養子、下野那須の儒者;江戸の林天祥・荻生徂徠門、大内熊耳らの推挙で1738岡崎藩儒、詩文/歌、三河藩主水野忠辰に進講/門弟に漢学指導、「澹園集」(須渓集)著、1711「問槎畸賞」編、「関将軍伝」「明七才子全伝」著、
[澹園(;号)の字/通称/別号]字;子帥、通称;喜内/紀内、別号;淡園/嵎夷/須渓/古毛山人

H2693 **淡淵**(たんえん・中西なかにし/本姓;秋元/修姓;元、福尾荘右衛門維幸男)1709-52*44* 尾張の人、中西曾兵衛昌貞の養嗣/尾張藩老竹腰家家臣、儒者:荻生徂徠・木下蘭皐門、主命で江戸住、芝三島町に「叢桂社(堂)」を創設;講説業、死に際し門人に命じ未定稿を焼却、「淡淵文集」著、
[淡淵(;号)の名/字/通称/別号]名;維寧、字;分邦、通称;曾七郎、別号;須渓、法号;本光院

H2694 **淡園**(たんえん・戸崎とざき/修姓;崎、只衛門男/本姓;源)1724-1806*83* 常陸松川漢学者、1741守山藩士;御徒御番方、儒;平野金華門、守山藩校教授/御用人役/世子傅役/家老、1801致仕、詩文/書を嗜む、「淡園文集」「淡園詩集」、1755「左伝考」64「古今詩雋」、1771「老子道徳経正訓」79「唐詩選余言」89「尺牘彙材」、「古今助字便覧」「列子考」、「申子考」「孔子家語考」「近体楽府苑」「求古印譜」「読呂氏春秋」、「読楽府」編/外著多数、
[淡園(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;養太/丹治、名;計/哲/允明、字;子明/哲夫/希哲、通称;五郎太夫/重太夫/十大夫、別号;淡淵/降雪館/浄巌/浄厳、法号;広閑院

T2618 **澹園**(たんえん・安部井あべい、名;鱗、武敬男)?-?　江中期天明1781-89頃会津藩士/藩儒、「会津藩年略」「澹園文集」著、
[澹園(;号)の字/通称]字;子竜、通称;吉蔵

K2604 **探淵**(たんえん・山本やまもと、名;守紀/守起、別号;湖南)?-?　江後期京寺町五条北の絵師、1797「山本探淵草花画巻」画

T2619 **澹園**(たんえん・賀屋かや、名;敬/字;子恭)1779-1842*64* 長門萩の医者;吉益南涯門、萩藩侍医、藩主側医、藩の初代医学館長、書、1811「続医断」30「河豚談」39「好生緒言」、「澹園随筆」著、
[澹園の通称/別号]通称;恭安、別号;榧陰ひいん、法号;玉山軒野杉松石居士

H2696 **探淵**(たんえん・狩野かのう、名;守真もりまさ、探信守道男)1805-53*49* 幕府奥絵師、鍛冶橋狩野8世/法眼、掛軸「竹に鶴」「梅に鶴」画

淡煙(たんえん・広沢) → *安任*(やすとう・広沢ひろさわ、藩士/牧畜) Ｃ４５２０
堪円(たんえん) → *堪円*(かんえん・平安期僧、歌人) Ｄ１５４６
澹園(たんえん・江嵜) → *通静*(みちきよ・江嵜えばた、儒国学/歌人) Ｉ４１２２
澹淵(たんえん・大田) → *晴斎*(せいさい・大田おおた、儒者) Ｉ２４３６
灘淵(だんえん・加藤) → *磐斎*(ばんさい・加藤、和学/歌学) ３６４１
檀園(だんえん・潮見) → *清靭*(きよとも・潮見しおみ、神職/国学) Ｕ１６４７
檀園綾尚(だんえんりょうしょう)→ *清篤*(きよあつ・糠沢ぬかざわ、商家/歌人) Ｕ１６９８

H2697 **炭翁**(たんおう;号、別号;乞童/乞童人)?-?　江前期元禄1688-1704頃俳人・西鶴門、1704「千句」「俳諧染糸」著

H2698 **担翁**(たんおう・平川ひらかわ、清古、韓水、田中宗恕男)1815-83*69* 熊本藩儒・国学、「海防策」著

坦翁(たんおう・一条)　→　*正直*(まさなお/まなお・一条、藩士/天文)　Ｆ４００５
坦翁(かんすい・平川)　→　*清古*(きよひさ・平川/田中、藩儒/歌)　Ｖ１６０７
湛翁(たんおう)　→　*来山*(らいざん・小西、俳人)　４８０１
蟫翁(たんおう)　→　*梭斎*(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者)　１３０７
澹翁(たんおう・木下)　→　*韓村*(いそん・木下、儒詩)　Ｅ１１１２
澹翁(たんおう・石井)　→　*隆庵*(りゅうあん・石井/山田、藩医/詩)　Ｃ４９６７
澹翁(たんおう・塚村)　→　*直*(ただし・塚村つかむら、里正/歌人)　Ｗ２６５９
端王蓑(たんおうさ)　→　*秋台*(しゅうだい・浅野屋、畳業/書家)　Ｘ２１９８

H2699 **檀越**(だんおち・たにおち・碁ご) ？－　？(人物不祥;檀越は布施する施主)万葉二期?/500題、
基師(万葉1732-33の作者)と同一説あり→　*碁師*(ごし、基師きし)Ｃ１９７３

I2600 **檀越妻**(だんおちのつま・碁ご) ？－　？　万葉二期歌人? 500、
[神風かむかぜの伊勢の浜荻折り伏せて旅寝やすらむ荒き浜辺に]、
(万葉集;四500/夫を伊勢に送る歌)

T2620 **坦窩**(たんか・斎木さいき、名;文弼、伯庵男)1716-86*71* 備後福山藩士;1742側用人/56密書役、
1768大目付格、儒:伊藤東涯門、詩文/書を嗜む、「坦窩集」「坦窩詩稿」「坦窩雑鈔」「燃柴録」著、
[坦窩(;号)の字]　周徳/子鉉

丹霞(たんか・近藤)　→　*芳樹*(よしき・近藤/田中、国学者/歌)　４７０９
淡窩(たんか・津田)　→　*元顧*(もとみ・津田つだ、医者/俳諧)　Ｅ４４３４
耽花(たんか・辻)　→　*守静*(もりきよ・辻/源/三枝、幕臣/歌人)Ｆ４４３６

T2621 **淡雅**(たんが・菊池きくち、名;知良、医者大橋知英[英斎]男)1789-1853*65* 下野下都賀郡粟宮の生、
宇都宮の富商菊池考古の養子/婿入;妻は民子、宇都宮を出て日本橋に出店;巨富を得る、
天保飢饉に難民救済/儒者;宇都宮藩に漢籍数千巻を寄贈/能書家/書画鑑定に長ず、
1859「淡雅雑著」著、菊池澹如たんじょ・大橋巻子の父、
[淡雅(;号)の字/通称/別号]字;温卿、通称;佐野屋孝兵衛/長四郎/良左衛門/大橋淡雅、
別号;享軒/東海/蘊眞堂うんしんどう、法号;東海院

参考　→　*民子*(たみこ・菊池/菊地、倭文舎、歌人)　Ｓ２６２６
→　*巻子*(槇子まきこ・大橋、訥庵の妻/歌人)４０５９
→　*澹如*(たんじょ・菊池、儒者/詩人)　Ｉ２６８４

I2601 **旦海**(たんかい;号、別号;淡斎/一如軒)?-?　伊予松山の俳人/享保1716-36頃姫路藩士、
1701「其木がらし」22「鹿子の渡」編

T2622 **湛海**(たんかい;法諱)　？－　？　京清荒の天台宗神護浄院住僧、1760「山門裏頭冠書」
湛海(たんかい・服部)　→　*直貞*(なおさだ・服部はっとり、兵法家)　Ｂ３２１７
丹解(たんかい・水野)　→　*丹解*(たんげ・水野みずの、藩士/軍学者)　Ｔ２６３１
丹解(たんかい→たんげ・北川)→　*政武*(まさたけ・北川きたがわ、国学者/画)　Ｄ４０４２
淡海(たんかい;号)　→　*大典*(だいてん;号・梅荘顕常、臨済僧)　Ｂ２６９０
淡海(たんかい/おうみ・中村)→　*清旭*(きよあき・中村、藩士/尊王派)　Ｎ１６０４
淡海(たんかい・浅井)　→　*篤太郎*(とくたろう・浅井あさい、漢方医)　Ｔ３１００
淡崖(たんがい)　→　*孝平*(こうへい・たかひら・神田かんだ、蘭学者)　Ｆ１９３８

T2623 **断崖**(だんがい:号・玄初[元初]げんしょ:法諱、別号;万瑛)1641-? 臨済僧、「万瑛初禅師文集」

T2624 **断鎧**(だんがい;法諱)　？－1869　肥後益城坂野の真宗本願寺派善正寺の僧、
長門萩の光明坊12世・1859安居監事/司教、「本典録」「六字釈義」「七祖論題」「往生論註録」著
淡海公(たんかいこう)　→　*不比等*(ふひと・藤原、政治、漢学)　３８１２
淡海公第四子(たんかいこうのだいし)　→　*麿*(まろ・藤原)　４０３５

I2602 **淡海子**(たんかいし)　？－　？　読本作者、1771「操草子みさおぞうし」岷江画
原狂斎説あり　→　*狂斎*(きょうさい・原、儒者)　Ｃ１６４９
臼岡先生と同一?　→　*臼岡先生*(きゅうこうせんせい、洒本:岷江画)Ｇ１６４０
淡海舎(たんかいしゃ)　→　*敬喜*(たかよし・岡崎おかざき、代官/歌人)　Ｗ２６２７

T2625 **湛覚**(たんかく;法諱)　？－　？　平安末期僧/歌人;1186経房家歌合参加(右方)
[妻よりも秋をや鹿はうらむらんをりしもつらくなるにつけても](経房家歌合:98)
丹鶴(たんかく・水野)　→　*忠央*(ただなか/ただちか・水野、国学)　Ｑ２６２８

丹鶴(たんかく・蜂屋)　→　*光世*(みつよ・蜂屋はちや、幕臣/歌人)　Ｆ４１０８
T2626 **丹岳**(たんがく・藤田ふじた、名;逸いつ/字;世逸)?-1841　阿波の医者/儒;豈欺塾開塾;教授、
「聖学概論」「矛盾問答」「論語観意」「論語総論」「論語大意」「読書要訳」「経文詳辨」著
丹岳(たんがく・野/人見)　→　*必大*(ひつだい・人見/野/小野、幕臣医者)Ｃ３７６９
丹岳(たんがく・岡本)　→　*豊彦*(とよひこ・岡本、絵師)　Ｒ３１４９
探花斎(たんかさい)　→　*士由*(しゆう・大屋/沼倉、国学/俳人)　Ｇ２１７０
旦過子(たんかし)　→　*沢庵*(たくあん;道号・宗彭、臨済僧/詩歌)Ｅ２６１８
探花子(たんかし)　→　*探花亭主人*(たんかていしゅじん、洒落本)　Ｉ２６０３
丹亀(たんかめ)→　*亀祐*(かめすけ・欽古堂/丹波屋、陶工)　１５４２
探花亭(たんかてい・羅山)　→　*羅山*(らざん・田中、絵本/咄本作者)　Ｂ４８３５
I2603 **探花亭主人**(たんかていしゅじん、探花子)?-?　洒落本、1747「百花評林」
田中羅山と同一?　→　*羅山*(らざん・田中、絵本/咄本作者)　Ｂ４８３５
澹雅楼(たんがろう)　→　*隆庵*(りゅうあん・石井/山田、藩医/詩)　Ｃ４９６７
T2627 **但観**(たんかん;法諱)　?-　?1753存　下総佐原村の真言宗勝徳寺住職、
下総に88箇所郡遍路を組織、1759「弘法大師年譜和讃」74「興教大師年譜和讃」著
I2604 **探丸**(たんがん/たんまる・藤堂とうどう、蝉吟[良忠]男)1671-1710*40* 伊賀上野藤堂新七郎家3代目当主、
俳人;蕉門(父蝉吟は芭蕉の旧主)、1689「曠野」/91「猿蓑」5句/98「続猿蓑」2句入、
1696史邦「芭蕉庵小文庫」入、[一夜ひとよ一夜寒き姿や釣り干菜ほしな](猿蓑:一)、
[探丸(;号)の幼名/字]幼名;新之助、字;良長
断巌(だんがん・片岡)　→　*眞鉄*(まがね・片岡、儒医/仮名研究)　４０５５
淡閑子(たんかんし・中村)　→　*篁渓*(こうけい・中村なかむら、儒者/詩文)　Ｇ１９２３
I2605 **丹丘**(丹邱たんきゅう・芥川あくたがわ、清範男)1710-85*76* 京の儒;大町敦素・宇野明霞・伊藤東涯門、
江戸で服部南郭門、京に徂徠学を提唱/のち陽明学に転向、華音研究、招聘され鯖江藩儒、
元澄[思堂]の養父、1743「丹丘詩話」/52「菅廟奉献詩一百首」62刊「薔薇館集」(思堂編)、
1771「学範」、「漁談」「芥川養軒手記」「中庸臆」「文家本草」「名山副」「古易鍵」「樵談」外著多、
[丹丘(;号)の名/字/通称/別号]名;煥、字;彦章、通称;清太郎/采女、別号;養軒/薔薇館
T2628 **丹丘**(たんきゅう・三井みつい、名;重諟しげあきら/諟まこと、久英男)1729-1811*83* 伊勢飯高郡丹生の医者、
医・国学・画:谷川士清門、絵師;師士清の肖像を描く;伊勢大雅と称さる、「丹丘画譜」画、
[丹丘(;号)の字/通称/別号/法号]字;伯顧/子幹/文幹、通称;建章/建二/建子、
別号;芝園/自衛斎/雨守家、法号;永昭院
丹邱(たんきゅう・坂/小林)→　*東鴻*(とうこう・小林/坂、幕医/本草)　Ｄ３１８７
丹丘(たんきゅう・国枝)　→　*平斎*(へいさい・国枝くにえだ、俳人)　２７３３
丹丘(たんきゅう・藍沢)　→　*無満*(むまん・藍沢あいざわ、俳人/教育)　Ｄ４２０１
丹宮(たんきゅう・太田)　→　*宗喬*(むねたか・太田おおた、神職/国学)　Ｄ４２６９
丹宮(たんきゅう・小山)　→　*清庸*(きよのぶ・小山こやま/忌部/安倍、国学)Ｕ１６３２
丹宮(たんきゅう・藤井)　→　*高操*(たかもち・藤井ふじい、神職/国学)　Ｚ２６３３
澹休(たんきゅう;初法諱)　→　*大衡*(だいこう;道号・海権、黄檗僧)　Ｊ２６９７
淡久子(たんきゅうし)　→　*玄節*(げんせつ・植田、儒者/垂加神道)　Ｅ１８３１
淡居(たんきょ・久徳)　→　*重恭*(しげやす・久徳きゅうとく、藩士/詩人)　Ｓ２１９６
単況(たんきょう;法諱)　→　*無比*(むひ;道号・単況;法諱、臨済僧)　Ｄ４２４５
耑匡(たんきょう;法諱・大雅)→　*大雅*(たいが;道号・耑匡、臨済僧)　Ｊ２６３８
断橋(だんきょう)　→　*一具*(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人)　Ｂ１１１８
断橋(だんきょう;号)　→　*実外*(じつがい;法諱・格峰、黄檗僧)　Ｕ２１５３
探興斎(たんきょうさい)　→　*周山*(しゅうざん・吉村、絵師/根付)　Ｘ２１４１
弾琴亭(だんきんてい)　→　*美静*(びせい・福羽ふくば、藩士/国学)　Ｃ３７４２
但愚(たんぐ・川喜田)　→　*重盈*(しげみつ・川喜田かわきた、商家/国学)　Ｏ２１１０
I2606 **湛空**(耽空たんくう;法諱、円実男)1176-1253*78*　鎌倉期京の天台学・浄土宗:叡山で源空[法然]門、
徳大寺実能の孫、金戒光明寺3世、師源空流罪に四国まで随侍/嵯峨二尊院住:嵯峨門流の祖、
歌;勅撰3首;続後撰(610)/続古今(1460)/新後撰(636)、
1237「法然上人伝法絵」著の耽空と同一か?、没後二尊院に空公行状碑が建立された、

[六の道いくめぐりしてあひぬらん十こゑ一こゑすてぬちかひに](続後撰;釈教610、発心のはじめ詠む)、
[湛空の別法諱/号]別法諱;公全、号;聖信房/正信房しょうしんぼう

T2629 **澹空**(たんくう;法諱・旭応きょくおう;字)1740-1822*83* 近江山田の浄土僧;瑞空門/のち永観堂上人、本堂再建・中興、詩文/絵画、「往生論註疏」著、
[澹空の号] 嶽陽/玉翁/熙安きあん/蒼蔔叟たんふくそう
澹空(たんくう;法名) → *実万*(さねつむ・三条/転法輪三条、内大臣)Ｋ２０８１
潭空(たんくう・川喜田) → *重盈*(しげみつ・川喜田かわきた、商家/国学) Ｏ２１１０
丹宮(たんぐう・大松沢) → *実敏*(さねとし・大松沢おおまつざわ/藤原、藩士)Ｌ２００４
丹宮(たんぐう・藤井) → *高操*(たかもち・藤井ふじい、神職/国学) Ｚ２６３３
淡空斎(たんくうさい) → *南明*(なんみん・東湖;法諱、臨済僧) Ｊ３２５３

T2630 **丹下**(たんげ・小川おがわ、次郎右衛門男)1783-1873*91*or1784-1872*89* 対馬藩家老;1812家督継嗣;使者番/加判列、年寄中席、1861来航のロシア艦との交渉指揮;退去させた、「丹下手記」著、
[丹下(;通称)の名/別通称/号]名;弥学、別通称;外記、号;拙翁、法号;忠節院

T2631 **丹解**(たんげ・水野みずの、名;重信、重幸男)1788-1838*51* 出羽庄内藩士/1806別家を立てる、甲州流軍学;長坂十太夫門、長沼流軍学;市川一学門;藩内に教授、画;青木南湖門、「遺悶録」著、
[丹解(;号)の字/通称/別号]字;子言、通称;猪助いのすけ、別号;蘭皐
丹下(たんげ・酒井) → *知宜*(ともよし・酒井、文筆家) Ｑ３１９６
丹下(たんげ・太田) → *翠陰*(すいいん・太田おおた、儒者/藩士) ２３２５
丹下(たんげ・三谷) → *宗鎮*(そうちん・三谷みたに、儒者/茶人) Ｉ２５４９
丹下(たんげ・江戸) → *為之*(ためゆき・江戸えど、神職/国学) Ｓ２６８５
丹下(たんげ・吉村) → *光徳*(みつのり・吉村よしむら、里正/国学者)Ｋ４１９４
丹下(たんげ・前島) → *蓬陽*(ほうよう・前島まえじま、俳人) Ｃ３９６４
丹下(たんげ・荒木田) → *斎震*(さいしん・荒木田/福島、神職/詩) Ｇ２０７８
丹下(丹解たんげ・北川) → *政武*(まさたけ・北川きたがわ、国学者/画) Ｄ４０４２
丹下(たんげ・鹿島) → *幹命*(もととし・鹿島かしま/平、神職) Ｊ４４６２
丹下(たんげ・時田) → *光介*(光輔みつすけ・時田しときだ/井上、藩士/実業家)Ｊ４１８５

T2632 **湛契**(たんけい;法諱・義学ぎがく;字、俗名;高向朝臣公輔/初名;桑田麻呂)817-880*64* 天台僧:円仁門、阿闍梨/還俗:廷臣;859従五下/皇太后宮大進/867式部少輔/870次侍従/877従四下、京東山安祥寺の傾斜する諸尊を白杖で正置した奇瑞、「仏眼次第」「仏母曼拏羅念誦要法集」著、
[湛契の通称] 高大夫/高太夫

X2690 **淡渓**(たんけい・田村たむら、)1847-1916*70* 近江甲賀郡の神職田村憲長の養子;田村神社神職、歌人;[鳰のうみ]入
聃卿(たんけい・中川) → *憲斎*(けんさい・中川なかがわ、書家) Ｉ１８９４
丹渓(たんけい・能勢) → *是心軒*(初世ぜしんけん、華道家) Ｋ２４６２
澹兮(たんけい・木沢) → *天童*(てんどう・木沢きざわ、藩儒) Ｅ３００９
歎啓(たんけい・石川) → *丈山*(じょうざん・石川、儒者/詩人) Ｓ２２５７

T2633 **端倪**(たんげい:道号・元弁げんべん:法諱/初法諱;元個)?-1774 駿河の黄檗僧:７歳で出家/鉄梅道香門、1728嗣法、37薩摩荒田村千眼寺住寺/40宇治万福寺華蔵院住持、60伊勢亀山の円福寺住持、1774退隠、「一華五葉」「端倪禅師開堂録」著
断継(だんけい、三原成就寺僧)→ *宗輔*(そうすけ・並木、浄・歌伎作者) ２５１２

T2634 **湛月**(たんげつ:道号・紹円しょうえん:法諱、俗姓;中川)1608-72*65* 奈良臨済僧;1618高槻の竜巌瑞顕門、出家/1636竜巌を継承;京の妙心寺住持/61再任(194世)、和泉住吉竜源寺開山、歌/文章、「般若心経頌鈔」「浮光子集」、「湛月紹円禅師語録」「湛祖翁翰海」著

T2635 **潭月**(たんげつ) ？－ ？ 江中期能登の真宗願成寺住職、1723「愚禿鈔義要」、「大行辨岐」著

W2687 **湛月**(たんげつ・楠くすのき、)1824- 1906*83* 越前吉田郡の生/近江大津の長寿寺住職/国学、

歌;[鳰のうみ]入
潭月(たんげつ・久野)　→　*正頼*(まさより・久野くの、藩士/歌人)　Ｉ４０８５
弾月(だんげつ・沢/酒井)　→　*貞*(さだ;名・沢さわ/酒井さかい、儒/歌人)　Ｈ２０５７
探月庵(たんげつあん)　→　*延貞*(のぶさだ・明星あかぼし、商家/歌人)　Ｈ３５１１

T2636 **探月斎**(たんげつさい)　？－　？　江後期19ct初期大阪の絵師:読本・草双紙の挿絵、「寶抓取ほうそうしゅ」著(享和・文化1801-18頃刊)
端月亭(たんげつてい)　→　*杜厚*(とこう・岩下、俳人)　Ｌ３１６９

T2637 **澹軒**(たんけん・吉田よしだ、名;虎毅/維虎、彦太郎勝任男)1764-1834*71*　筑前秋月藩家老、1790家督、鎗術;鏡智流師範/馬廻頭/中老格用人/1811家老;財用方惣元締・郡筋引切請持/21致仕、1827隠居/33藩主黒田長元に農政・財政の意見書提出、「澹軒漫録」著、
[澹軒(;号)の別名/通称/別号]別名;一美、通称;三之丞/衛士/彦六郎/主礼/主水/久右衛門、別号;従容しょうよう/一翁/白翁
但見(たんけん・人見)　→　*蕉雨*(しょうう/蕉雨斎・人見、藩士/詩文)Ｇ２２９３
但賢(たんけん・深見)　→　*有隣*(ゆうりん/ありちか・深見、幕臣/儒学)　Ｅ４６０９
淡軒(たんけん・堤)　→　*盛雄*(もりたけ・堤つつみ/荒木田、神職/国学)Ｋ４４６５

T2638 **端愿**(たんげん:道号・元珠げんしゅ:法諱、俗姓;野口)1644-? 1697存　武州比企郡松山の僧;1652(９歳)曹洞宗宗源寺の能円門;出家(;南涼慧薫)、1670黄檗宗;鉄眼道光・木庵性瑫門、(木庵から端愿道無名を受/のち鉄眼から雪盤元珠名を受けたが道号は端愿に戻す)、河内吉田村微笑庵住寺/肥後益城の三宝寺住寺/1696近江延命寺住持;宝洲道聡と対立、1697真言宗に改宗/法名;眞亮林堂と称し京に住、「善悪邪命論」著、
[端愿元珠の初道号法諱/法名]初道号;雪盤・初法諱;道無、法名;南涼慧薫/眞亮林堂

T2639 **湛元**(たんげん:道号・自澄じちょう:法諱)?-1699　江前期曹洞僧;逆流禎順門/法嗣、1674越前竜泉寺住持/84長崎皓台寺6世、1693「日域洞上諸祖伝」編

T2640 **探元**(たんげん・木村きむら/本姓;平、名;時員ときかず/**時経**ときつね)1679-1767*89*　薩摩の絵師:坂本元伯門、江戸の狩野探信門、島津侯に出仕/1734上京;大弐法橋を受/京の近衛家熙に出仕/茶・歌、「浦廼浪」「白鷺洲」「三暁庵談話」、1734-35「木村探元日記」52「中山花木図譜」著、
[探元(;号)の通称/別号]通称;村右衛門、別号;静隠/守広/大弐法橋/三暁庵/黔贏けんえい/木邨々子/啜茶翁せっちゃおう/斗山玄鳳/李瞻麟照りせんりんしょう/黄瑞居士、法号;浄徳堂

T2641 **湛元**(たんげん:法諱、通称;百道)?-1855　信濃or甲斐の臨済僧;諏訪慈雲寺で得度、博多聖福寺の仙厓義梵門、1811聖福寺124世、筑前宗像の大島に流罪/1851赦免、筥崎長性寺に退隠、詩文/書画、「噇酒糟漢」「本朝高僧伝撮要韻語」著

T2642 **丹元**(たんげん・小野寺おのでら、名;将順)1800-76*77*　陸中西磐井郡山目村の生/医者;大槻平泉門、医学・蘭語;シーボルト門/ロシア語修得、嘉永1848-54頃仙台で初種痘実施、1856シベリアでペスト流行;予防のため「ペスト論」訳述、幕府蕃所取調所出仕、仙台藩医/医館学頭/府学蘭学局総裁、1829「魯西亜国史」訳(中山武徳と)、「新訳牛奄忽伊斯」訳/「済生一方」訳、
[丹元(;通称)の字/別通称/号]字;匡卿、別通称;主一郎/玄適、号;松洲
湛玄(たんげん・山口)　→　*安斎*(あんさい・山口やまぐち、医者)　Ｇ１００６
澹言(たんげん;号)　→　*温*(おん・蔡さい、琉球三司官/農政/詩)　Ｃ１４２４
探玄子(たんげんし)　→　*良弼*(よしすけ・松永まつなが、和算家/藩士)Ｄ４７７８

W2601 **丹子**(たんこ・小野寺おのでら/旧姓;灰方)1655-1703自害*49*　播磨赤穂藩士灰方藤兵衛の妹、赤穂藩士小野寺秀和ひでかず(十内)の妻、夫の京都留守居役に同行;京住、夫唱婦随、国学者/歌;金勝慶安門(夫と同門)、子なく大高源吾の弟幸右衛門秀富を養子、討入参加の夫と別離;京に残る、討入成功;秀和・秀富父子切腹/京西方寺に一族墓碑建立、二人の後を追い殉死、
夫　→　*十内*(じゅうない・小野寺秀和、義士/歌人)Ｉ２１１８
養子　→　*秀富*(ひでとみ・小野寺/大高、義士/俳人)Ｉ３７７４

T2643 **丹後**(たんご・禖子ばいし内親王[六条斎院、1039-96]家、1056-1058丹波と称す)?-? 平安後期歌人;禖子内親王[六条斎院]家女房、1051-78六条斎院[禖子内親王]歌合に10回参加、
[こほりとけ落ちくる滝のおとにこそ春のたつとは人もしりぬれ]、

(永承六[1051]年一月六条斎院歌合;6;右方)
T2697 **丹後**(たんご・太皇太后宮たいこうたいごうぐう)?-? 平安後期女房歌人;四条宮寛子[1036-1127]女房、歌人;寂超「後葉ごよう集」入、
[萩の葉のそよともすれば待つ人におどろかれぬる秋の初風](後葉集;秋116)
六条斎院家丹後と同一か?
I2607 **丹後**(たんご・宜秋門院ぎしゅうもんいん、源頼行女)?-? 1208存 九条兼実(1186摂政/91関白)家出仕、1190九条兼実女任子[宜秋門院]の入内時にその女房、歌人、1175/9兼家右大臣家歌合参加、1178右大臣家百首参加/90藤原良経家花月百首参加/95民部卿経房家歌合参加、1200正治二年初度百首参加/1201千五百番歌合参加/住吉社歌合参加、02出家;仏道に専心、勅撰45首;千載(898/1114/1229)新古(9首400/593/944以下)新勅(6首)続後撰(2首)以下、雲葉集5首入、
[わすれじな難波の秋の夜半の空異浦ことうらにすむ月はみるとも](新古今集;四400)、
[かくしつつ更け行く身こそかなしけれ年は暮れても立帰るなり](正治百首;2172/冬)、
[宜秋門院丹後(;女房名)の別名]摂政家丹後・関白家丹後、丹後少将、異浦ことうらの丹後
T2644 **丹後**(たんご・) ? - ? 鎌倉前期女房/歌;1205元久詩歌歌合参
宜秋門院丹後と同一? → *丹後*(たんご・宜秋門院) Ｉ２６０７
丹後(たんご・摂政家/関白家、宣秋門院、千・新後拾)→ *丹後*(たんご・宜秋門院) Ｉ２６０７
丹後(たんご・松田/平) → *貞秀*(さだひで・松田/平、室町幕臣/歌) Ｃ２０３５
丹後(たんご・八木) → *豊信*(とよのぶ・八木やぎ、武将/藩士/歌) Ｗ３１７４
丹後(たんご・今中) → *大学*(だいがく・今中いまなか、藩士/日記) Ｊ２６４８
丹後(たんご・江戸) → *為之*(ためゆき・江戸えど、神職/国学) Ｓ２６８５
丹後(たんご・水野) → *正名*(まさな・水野みずの、藩士/藩政改革) Ｅ４０９５
丹後(たんご・摂待) → *盛武*(もりたけ・摂待せったい、藩士/故実家) Ｆ４４６０
丹後(たんご・賀茂) → *保久*(やすひさ・賀茂/加茂、易学者) Ｃ４５７３
丹後(たんご・菱田) → *房明*(ふさあき・菱田ひしだ、幕臣/儒者) Ｉ３８６７
丹後(たんご・宮崎) → *吉偕*(よしとも・宮崎みやざき、神職/国学) Ｐ４７４０
丹後(たんご・宮崎) → *吉輔*(よしすけ・宮崎、吉偕男/神職/国学) Ｐ４７３９
丹後(たんご・二宮) → *守恒*(もりつね・二宮にのみや、神職/国学) Ｆ４４８４
丹後(たんご・山田) → *吉祇*(よしまさ・山田やまだ、神職/国学) Ｐ４７８４
丹後(たんご・山田) → *吉風*(よしかぜ・山田/大江、神職/国学/歌) Ｃ４７６０
丹後(たんご・生駒) → *永言*(ながこと・生駒こま、藩士/歌人) Ｌ３２０７
丹後(たんご・歌田) → *昌保*(まさやす・歌田うただ/藤原、神職/歌) Ｎ４０９７
丹吾(たんご・熊谷) → *直遐*(なおはる・熊谷くまがい、郷土史家) Ｃ３２１３
I2608 **旦藁**(たんこう・杉田すぎた、別号;意水庵)?-?享保末1736頃没 名古屋海老屋町菓子商(屋号ゑびや)、俳人、1686「春の日」18句入/87其角「続虚栗」89「あら野」91「猿蓑」入、91北枝「卯辰集」入、「古渡集」入、鍼術を嗜む、
[奈良坂や畑うつ山の八重桜](春の日;歌仙の発句/3月6日野水亭にて)
T2645 **湛江**(たんこう;道号・衍原えんげん;法諱、初名;東牧衍源、俗姓原)1702-75 美濃小牧の黄檗僧;1711(10歳)加治田村清水寺監事朴玄門;出家/羽生村大梅寺鉄面門:大梅寺住持、京の医徳堂住寺/1764宇治万福寺監事/74江戸瑞聖寺に退隠、天神を信仰;天満宮を勧請、「湛江和尚語録」「湛江和尚仮名法語」「大梅禅寺開堂録」著
I2609 **潭考**(たんこう;号、別号;百斎)?- ? 上州松井田の俳人・潭北門、1756「はいかいさざれ貝」編/60刊「潭北13回忌集」編、「野の菊」編
T2646 **湛好**(たんこう;法諱) ? - 1787 山城深草の浄土宗西山派深草流道澄寺の住僧、「玄義分綱要」「鎮勧用心講要」「浄土名目道信抄」「菩薩戒祖玄談」「選択集講話并玄談」外多数
T2647 **潭香**(たんこう・石井いしい/修姓;韓、名;徽言)1806-70*65* 江戸の生(父は幕臣);父に同行し松前住、1821江戸帰還;父没後御家人株を譲渡、書家;長崎で清人江芸閣門、松前藩士/太政官大禄、「法帖」書、
[潭香(;号)の字/通称/法号]字;子告/士勱しばい、通称;唯一、法号;舒芳院

淡谷(たんこく)　→　*古貫*(こかん;法諱、真宗本願寺派僧)　Ｌ１９９７
探古堂(たんこどう探古室)→　*墨海*(ぼっかい・探古堂、地誌家)　Ｅ３９５５
丹後守(たんごのかみ・本多)→　*重世*(しげよ・本多ほんだ、幕臣/歌人)　Ｄ２１３３
丹後守(たんごのかみ・稲葉)→　*正往*(まさゆき・稲葉いなば、藩主/老中/茶)Ｎ４０７３
丹後守(たんごのかみ・大関)→　*増業*(ますなり・大関/加藤、藩主/国学)　Ｊ４０１１
丹後守(たんごのかみ・大村)→　*純熙*(すみひろ・大村、藩主/兵学)　Ｄ２３９６
丹後守(たんごのかみ・竹矢)→　*信昌*(のぶまさ・竹矢たけや/田辺、神職/歌)Ｊ３５０３
丹後守(たんごのかみ・正岡)→　*主税*(ちから・正岡まさおか/越智、神職/歌)Ｎ２８５１
丹後守(たんごのかみ・三宅)→　*経香*(つねか・三宅みやけ/賀茂県主、神職/書・歌)Ｇ２９４４
丹後守(たんごのかみ・社)　→　*信義*(のぶよし・社やしろ、神職/国学/歌)　Ｋ３５２０
丹後守(たんごのかみ・結城)→　*秀雅*(ひでまさ・結城ゆうき、廷臣/文筆/書)Ｍ３７２６
丹後守(たんごのかみ・宗崎)→　*孝臣*(たかおみ・宗崎むねざき、藩士/国学)　Ｚ２５８６
丹後守妻(たんごのかみのつま・細川)→*行孝室*(ゆきたかのしつ・細川ほそかわ、藩主室/歌人)Ｅ４６６７
丹後掾(たんごのじょう・杉山)→　*七郎左衛門*(しちろうざえもん・杉山、浄瑠璃)Ｅ２１６９
丹後少将(たんごのしょうしょう)　→　*丹後*(たんご・宜秋門院)　Ｉ２６０７
丹後少将(たんごのしょうしょう)→　*丹後*(たんご・宜秋門院ぎしゅうもんいん、歌人)Ｉ２６０７
丹後介(たんごのすけ・斎藤)→　*真蔭*(まかげ・斎藤、庄屋/国学/歌人)　４０４６
丹後入道(たんごのにゅうどう)→　*信寂*(しんじゃく;法諱、高階信平/俊平、廷臣/歌)Ｅ２２４２
丹後屋(たんごや)　→　*鼎丕*(ていひ・古城、俳人)　Ｂ３０５８
談語楼(たんごろう)　→　*銀馬*(ぎんば・立川、噺家/戯作)　Ｉ１６２１

I2610 **担斎**(旦斎たんさい・広田)？－　？　江前期歌学者、忌部神道、山鹿素行[1622-85]の師、
土佐日記注釈書「土佐日記抄」に担斎の説を4か所掲載

I2611 **担斎**(たんさい・広瀬ひろせ・斎部)?-　？　江前期漢学者、石出吉深よしふか[常軒/1615-89]の師

I2614 **澹斎**(たんさい・伊藤/伊東いとう、名;貞、伊藤常樹斎[順静]男)1699-1764　伯父伊藤好義斎の養子、
長門の医者/儒者・室鳩巣門、石見浜田藩主松平周防守の庇護、
1761-63「鳩巣先生文集」編、「鳩巣先生経解類」編/「読雑書論」「節理節要抄」著、
[澹斎(;号)の字/通称]字;知量、通称;貞右衛門/悠哉　、守約もりのぶの養父

I2612 **淡斎**(たんさい・村士すぐり、名;宗恒/宗殖)1700-7273 江戸儒者;三宅尚斎門/程朱学、備後福山藩儒官、
茶人;原田平入門、「茶杓書」「淡斎文集」著、「淡斎遺文集」、玉水ぎょくすいの父、
[淡斎の通称/別号]通称;弥十郎/弥左衛門、別号;不厭庵

I2613 **淡斎**(たんさい・林はやし、字;玄説)1709-179183　河内渋川郡植松村の医:大阪で開業/儒も指導、
「小学俗解」著

T2648 **澹斎**(たんさい・岡おか、名;元鳳)1737-86or8750-51歳 河内の医者/儒;菅甘谷門/、大阪で医業/詩人、
宝暦1761-64頃木村蒹葭堂けんかどう巽斎の詩会に参加/65片山北海の混沌社発起参加、
物産学・本草学に通ず、1777学川「野史詩」16首入、
「香橙窩集」「鞭草筆記」「蘭説海生図品」「離騒名物」「刀圭余録」著、1784「毛詩品物図攷」編、
「澹斎(;号)の字/通称/別号)字;公翼、通称;尚達/元達、
別号;白洲/魯庵ろあん/隔凡所/慈庵

I2615 **淡斎**(たんさい・宇佐美うさみ、名;正平、幾杯男)1749-181668 松山藩士;町奉行、漢学;円光寺明月門、
儒;長野彬々ひんひん・丹波南陵・斎静斎門、浄瑠璃作者、詩、「淡斎漫筆」「鎌倉山星月夜」著、
「出世奴孫子軍配」、1800「四扉遺稿」著、
[淡斎(;号)の字/通称]字;士衡、通称;源兵衛

T2649 **坦斎**(たんさい・上森うわもり、名;茂、字;仲成)1761-184282　備前邑久郡の医者/岡山花畑で医業/儒者、
備前の国老伊木家に出仕、「論語解」著

T2650 **坦斎**(たんさい・手塚てづか、日原ひはら以道、通称小源太、日原可貞男)1762-183473　常陸土浦藩士、
1789表目付/吟味役/勝手掛、儒者;稲葉黙斎門/藩校郁文館教授/藩学振興、隠居号;手塚坦斎、
1789「芸林五談」、「近思録筆記」「学庸筆記」「吾学梯」「困斎漫筆」「日原先生語録/雑記」著、
[坦斎の前号]　坦蕩斎/困学斎/困斎

T2651 **坦斎**(たんさい・三浦みうら、梅園男)1764-181956　豊後国東の儒者;父門、医・天文・暦算に通ず、
能書家、父没後その門弟指導、1792上方に遊学、杵築藩校学習館教授/群奉行、

「坦斎詩文集」「攘夷私論」、1790「三浦安貞行状」「先府君攣山れんざん(三浦梅園)先生行状」著、
[坦斎(;号)の名/字/通称/別号]名;黄鶴、字;修齢、通称;主齢、別号;思堂
父 → *梅園*(ばいえん・三浦みうら、医/儒者) ３６０２

T2652 **坦斎**(担斎たんさい・三谷みたに/本姓;前田、名;導)1767-1848*82* 津軽藩の刀匠;御用研師;父門、
儒詩:山崎蘭洲門、俳諧;笹村友山・益田木鷗・片谷呉江門/前句付が得意、
馬牛の尾・爪・毛の細工物製作、紫根の採取販売業、紫根運上の件で一時弘前から所払い;
津軽賀田の酒造店で働く、のち帰郷、
「坦斎詩集」「坦斎文集」「戯雑俳鯉鱗行」「松島紀行」「大鰐温泉游浴記」「坦斎詩稿」著、
[坦斎(;号)の通称/別号]通称;仁三郎/治平/次平、別号;巣鳩/盤舟、句仏の父

I2618 **澹斎**(たんさい・小西こにし)1769- 1854*86* 播磨竜野藩士;藩校敬楽館教授/1801読書指南役、
1804朝鮮通信使来聘御用掛、儒;青年時大阪の中井竹山の懐徳堂で修学、
1804「藩史撮要」編/11「壱岐対馬府中地図」、「対馬使節旅館図」「対州御出御供立帳」、
「自竜野至対馬道中記並繋船場」「大日本編年史」「肥前名護屋図」「行館監録」著、
[澹斎(;号)の名/字/通称]名;善継/修、字;伯述、通称;尚之助/八十之介/純達/惟冲

T2653 **坦斎**(たんさい・檜山ひやま、名;義慎よしちか)1774-1842*69* 江戸深川六軒堀の書画鑑定業/花押の研究、
茶人;裏千家の千柄菊旦門、渡辺崋山と交流、国学者、
1812「武林拾葉」16「花押譜」編/18「皇朝名画拾彙」/23「本朝往古沿革図説」著、
1832「栄花物語系図/年表」、「新撰花押集」「本朝画遺伝」「皇朝書家伝」「本朝名画舫」著、
[坦斎(;号)の字/通称/別号]字;徳忠、通称;成徳、別号;采秋園/磐松軒

T2655 **淡斎**(たんさい・中田なかた、名;謙)1771-1828*58* 陸前石巻の儒者/仙台で教授、富豪佐野季明の顧問、
1805「大学注」著
[淡斎(;号)の字/通称]字;孔庶、通称;三平

I2616 **淡斎**(たんさい・佐羽さば、名;芳、清右衛門道純男)1772-1825*54* 上州桐生の絹仲買商;豪商、書画、
詩;亀田鵬斎・斎藤天籟門、景勝地に詩碑建立、中央文人達を支援、北山・詩仏・五山と交流、
1812「花濺涙帖」(兄追悼)編、12「宋三代絶句箋解」/14「通俗古今奇観」訳/1802「桐郷風雅集」、
「淡斎詩集」著(菁莪堂集/淡斎百絶/淡斎百律)、竹翁ちくおうの弟、
[淡斎(;号)の字/通称/別号]字;蘭卿、通称;吉右衛門、別号;菁莪堂、
法号;幽誉指月淡斎居士、
参考 兄 → *竹翁*(ちくおう・佐羽さば、商家) Ｃ２８７１

I2668 **旦斎**(たんさい) ？- ？ 江後期江戸の俳人/一時名古屋住:卓池と親交、
1835「保具留万葉」編、「大根葉」著

I2669 **潭斎**(澹斎たんさい・花木はなき、名;鴻/栄)1789-1861*73* 京の儒者:越前福井藩士/のち医業、
儒;皆川淇園門/経書に精通、晩年は木田長慶寺辺で経書を講ず、「潭斎先生詩文稿」、
[潭斎(;号)の通称/法号]通称;馨助、法号;清池院

I2670 **澹斎**(たんさい・桜田さくらだ、名;景行、贅庵ぜいあん男)1795-1864*70* 仙台儒者;父門、頼山陽と交流、
晩年城東に聚勝園を営む、堀田正敦・佐藤一斎・僧南山らと交流;「聚勝園記」編纂、
「書画聞見雑記」「書画談劄記」「諸子手翰目録」著、
[澹斎(;号)の字/通称]字;九徳、通称;春輔/権太夫 、簡斎の兄、虎門こもんの甥
父 → *贅庵*(ぜいあん・桜田景雄、儒者) Ｈ２４３３
弟 → *簡斎*(かんさい・桜田景迪、儒者) Ｑ１５６１
叔父 → *虎門*(こもん・桜田景質、儒者) Ｆ１９９０

I2617 **澹斎**(たんさい・山本やまもと、福富孝節男)1798-1869*72* 母;山本玉岡女、土佐長浜村の儒医、
儒:松田思斎門/医も修得;高岡郡浦ノ内村で医開業、1818山本霞岳嶽の養嗣子;家督、
高知藩国老深尾氏の佐川郷校名教館教授/歴代邑主の侍講、小説・稗史に精通、詩文を嗜む、
「澹泊斎詩鈔」著、「澹泊斎遺稿」
[澹斎(;号)の名/字/通称/別号]名;命助/晋、字;昭徳、通称:仙蔵、別号;澹泊斎、
諡号;澹泊軒昭徳儒士

I2671 **旦斎**(たんさい・中西なかにし、名;竜雄)?-1856 名古屋長島町の医者、俳人、
1849刊「玉笛集」、「旦斎俳諧集」著、
[旦斎(;号)の別号] 知風/長春館、法号;水月院仲峰鷗心

I2619 **淡斎**(たんさい・臼井)　？－　？　江後期漢詩、1849「淡斎遺稿」

I2672 **淡斎**(たんさい・中川なかがわ、善継よしつぐ2男)1838-6629 播磨揖保郡網干余子浜の蘭方眼科医；父門、
1852(15歳)備前閑谷学校に修学、1860(安政7)適々斎塾入門、
1862-65「眼科要略」9巻著、64「西医日用方」著、
1865(慶応元)長崎精得館で蘭医ボードイン門、
帰郷後1866(慶応2)蘭医ハラタマの理化学受講のため長崎に赴く直前に病没、
[淡斎(;号)の名] 哲/哲次

I2673 **淡斎**(たんさい・東条とうじょう、名；保、方庵男)?-?　江末期信州田野口藩儒、1868藩校尚友館督学、
「俗語考」校訂、一堂いっどうの孫、永胤ながたねの兄

W2670 **淡斎**(たんさい・久米くめ、)1834- 1905*72*　伊予松山の儒者/詩歌人、
「淡斎遺稿」(息子の嵓いわお編)；約2千首入、
[淡斎(;号)の名/別号]名；次平、別号；旭川

淡斎(たんさい)　→　*旦海*(たんかい・一如軒、藩士/俳人)　Ｉ２６０１
淡斎(たんさい・中村)　→　*伯先*(はくせん・中村、俳人)　Ｄ３６５４
淡斎(たんさい・谷川)　→　*士清*(ことすが・谷川、国学/神道)　１９３６
淡斎(たんさい・山本)　→　*晴海*(はるみ・山本、砲術家)　Ｇ３６９１
淡斎(たんさい・垂井)　→　*則恭*(のりやす・黒田、藩士/和漢学)　Ｇ３５０５
淡斎(たんさい・中村)　→　*伯先*(はくせん・中村/吉川、医者/俳人)　Ｄ３６５４
淡斎(たんさい・田山)　→　*敬儀*(たかのり・田山たやま、歌人)　Ｄ２６４７
淡斎(たんさい・谷)　→　*三山*(さんざん・谷たに、儒者)　Ｆ２０８５
淡斎(たんさい・竹鼻)　→　*正修*(まさなが・竹鼻たけはな、藩家老/歌人)　Ｐ４０４９
淡斎(たんさい・大塚)　→　*敦臣*(あつおみ・大塚おおつか、藩士/国学)　Ｈ１０２６
丹斎(たんさい・櫛島/島)　→　*高堅*(たかかた・櫛島ぬでしま、藩士/回想録)　Ｌ２６７４
丹斎(たんさい・富田)　→　*維則*(これのり・富田とみた、医者)　Ｏ１９７０
丹斎(たんさい・関藤)　→　*政信*(まさのぶ・関藤せきとう、神職/医者)　Ｆ４０７３
単斎(たんさい・小笠原)　→　*長保*(ながやす・小笠原、幕臣/日記)　Ｇ３２１９
澹斎(たんさい・長沼)　→　*宗敬*(むねよし・長沼/津田、兵学者)　Ｃ４２８５
澹斎(たんさい・藤村)　→　*直弘*(なおひろ・藤村、書画・俳諧)　Ｃ３２３０
澹斎(たんさい・草鹿)　→　*玄泰*(げんたい・草鹿くさか、医者/詩人)　Ｋ１８９１
澹斎(たんさい・水原)　→　*保明*(やすあきら・水原/幸田、幕臣)　４５８６
澹斎(たんさい・大場)　→　*雄淵*(ゆうえん・大場おおば、神職/俳人)　４６８０
澹斎(たんさい・橘)　→　*香*(かおる・橘たちばな/山本、儒者)　Ｖ１５０３
澹斎(たんさい・豊田)　→　*嘉言*(よしこと/よしのぶ・豊田とよだ、国学/歌)　Ｄ４７２９
澹斎(たんさい・山岡)　→　*浚明*(まつあけ・山岡/大伴、幕臣/国学)　Ｊ４０６６
澹斎(たんさい・和田)　→　*重善*(しげよし・和田/湯本、藩士/詩人)　Ｔ２１１６
憺斎(たんさい・河村)　→　*敏貫*(としつら・河村かわむら、歌人)　Ｕ３１８９
坦斎(担斎たんさい・久間)→　*修文*(ひさふみ・久間くま、和算家)　Ｂ３７８９
坦斎(たんさい・小林)　→　*春房*(はるふさ・小林こばやし、鉱山吏/歌人)　Ｋ３６１８
胆斎(たんさい・箕浦)　→　*立斎*(りっさい・箕浦みのうら、藩士/儒者)　Ｂ４９８６
胆斎(たんさい・宮川)　→　*頼安*(よりやす・宮川みやがわ、藩士/国学)　Ｐ４７３８
短斎(たんさい・長野)　→　*芳斎*(ほうさい・長野/月形、藩士/儒者)　３９８４
湛斎(たんさい・鳥海)　→　*酔車*(すいしゃ・鳥海とりうみ、里正/郷土史家)　Ｅ２３６２
堪斎(たんさい・土肥)　→　*黙翁*(もくおう・土肥どひ、儒者/講説業)　４４７１
蟫斎(たんさい・中山)　→　*利質*(としただ・中山、幕臣/正成研究)　Ｍ３１７３
端斎(丹斎たんさい・谷川)→　*士逸*(ことはや・谷川たにがわ、医/国学/歌)　Ｎ１９３３

I2674 **団斎**(だんさい・別号；麦笠庵/掃半路/半路観/月窓/蓬壺)?1711?-1772?；*62?*　江戸俳人；来川門、
1736「やよひ日記」/37「鎌倉紀行菅の笠」編/37「雪の跡」編/37「六浦笠」、「その蓬」著
1734来川「夢物語」跋

男載(だんさい・千賀)　→　*玉斎*(ぎょくさい・千賀ちが/賀が、儒者)　Ｏ１６９４

丹左衛門(たんざえもん・朝比奈)→ *可長*(よしなが・朝比奈あさいな、藩士/武術) Ｆ４７２７
丹左衛門(たんざえもん・大塚)→ *退野*(たいや・大塚おおつか、藩士/儒者) Ｃ２６２４
I2675 **探索**(たんさく・鶴沢つるさわ、名;守熙、鶴沢探鯨の養子)?-1797 京の禁裏御用絵師:鶴沢派を開く、
障壁画が得意、円山応挙の師、「梅花帖」「山水帖」著
短冊天狗(たんざくてんぐ:綽名)→ *有国*(ありくに・浦井、商人/俳人) Ｂ１０６７
短尺堂(たんざく-/たんじゃくどう)→ *艶士*(えんし・横田、壺谷軒、医/俳人) Ｃ１３２３
澹察(たんさつ) → *玄泰*(げんたい・草鹿くさか、医/詩人) Ｋ１８９１
丹三郎(たんざぶろう・毛野村)→ *庭鐘*(ていしょう・都賀、読本作者) Ｂ３０２０
丹三郎(たんざぶろう・谷) → *重遠*(しげとお・谷、秦山/神道/儒・南学) ２１１３
旦三郎(たんざぶろう・中村)→ *滄浪亭*(そうろうてい・中村、藩士/儒者/武芸) Ｄ２５２８
団三郎(だんざぶろう・日置)→ *正次*(まさつぐ・日置へき、弓術家) Ｄ４０８４
団三郎(だんざぶろう・美濃部)→ *茂雅*(しげまさ・美濃部みのべ、藩士/剣術) Ｓ２１６１
T2607 **探山**(たんざん・鶴沢つるさわ)1655-1729*75* 京の狩野派絵師;狩野探幽門/探幽四天王の1、
元禄1688-1704頃禁裏御用絵師(;探山号)、1725頃建造の東宮御殿の障壁画を描く;法眼、
「鉄拐 山水図」画、鶴沢派の祖、
[探山(:号)の名/別号]名;守見/兼信/良信、別号;探川たんせん/探泉/探春、探鯨の父
I2620 **単山**(たんざん・林はやし、名;清憲、武田重侯男)1766-1836*71* 信州埴科郡屋代の人/儒:1796林述斎門、
林清保の養子/1806松代藩主真田幸専の招聘で江戸藩邸で経書を講義/26藩儒、
「単山雑著」「単山詩文集」著、
[単山(;号)の字/通称/別号]字;孔彰、通称;丈左衛門、別号;一重山
I2662 **端山**(たんざん・葛野かどの、葛のや道広)?-? 歌謡作者;地歌(上方歌)三弦、
1828三弦譜「絃曲大榛げんきょくたいしん抄」編(;光崎検校校合)
I2676 **端山**(たんざん・大口おおぐち、名;朝明/**晨**あきら、森本大年男)1812-85*74* 尾張名古屋押切の味噌溜商、
大口に改姓、医;伊藤圭介門/国学;本居大平・本居内遠門/歌;香川景樹門、
陽明学を修得;熊沢蕃山を敬慕、鯛二たいじの祖父、「報国論」「端山詠草」著、
[端山(;号)の幼名/通称/屋号]幼名;安次郎/安二郎/安長、
通称;左一郎/安五郎/保二/右京、屋号;山口屋
I2677 **単山**(たんざん・高齋こうさい、名;有常、滝沢友七男)1818-90*73* 田安家家臣高齋清兵衛の養嗣子、
信州長野村の書家:巻菱湖・萩原秋巌門/江戸住;晋唐諸体を究明;一家を成す、
詩:「三余堂詩鈔」著、門人;徳川家達・高田竹山・アーネスト=サトウら、
[単山(;号)の字/通称/別号]字;子恒、通称;精一、別号;三余堂、
I2678 **坦山**(たんざん・原はら、名;良作、新井あらい勇輔男)1819-92*74* 磐城平藩士/儒;1833昌平黌入/医を修得、
1840出家/曹洞僧:諸国歴訪/55越前永平寺住職、1865?「仏仙論」/仏仙社結成、
多くの著;「坦山和尚全集」に集録
[坦山(;号)の幼名/別号]幼名;逸郎、別号;覚仙/鶴巣
I2621 **端山**(たんざん・楠本くすもと、名;後覚、祇伴男)1828-83*56* 肥前針尾島の生/平戸藩士、儒;佐藤一斎門、
大槻訥庵門、帰藩;平戸藩儒;維新館教授/侍講、月田蒙斎の影響で闇斎派朱子学を奉ず、
勤王論主唱、「学習録」「鞋轍日暦」「松島紀行」「芻蕘巷議」「詩文集」、碩水の兄
[端山(;号)の字/通称/別号]字;伯暁、通称;定大夫/丈大夫/覚蔵/確蔵、別号;悔堂/静復、
I2622 **淡山**(たんざん・武井たけい、名;群司)1836-86*51* 安藝広島藩重臣、儒者;坂井虎山門、新聞界先駆、
「淡山遺稿」
丹山(たんざん・浄勝寺) → *順藝*(じゅんげい;法諱、真宗大谷派僧/歌) Ｊ２１４６
丹山(たんざん・平井) → *庸慎*(ようしん・平井ひらい、医者) Ｂ４７２６
丹山(たんざん・阿部) → *照任*(輝任てるとう・阿部あべ、本草家) Ｅ３０６９
丹山(たんざん・丁野) → *遠影*(とおかげ・丁野ちょうの、藩士/官吏/歌) Ｖ３１７５
淡山(たんざん・蜂屋) → *定章*(さだあき・蜂屋はちや、幕臣/和算家) Ｈ２０６３
淡山(たんざん・土井) → *光華*(みつあき・土井どい、国学/政治家) Ｊ４１８３
胆山(たんざん;字) → *日具*(にちぐ;法諱・竜華院、日蓮僧) Ｂ３３４５
端山(たんざん・三宅) → *観瀾*(かんらん・三宅みやけ、儒者) １５５６
I2679 **檀山**(だんざん・小泉こいずみ、名;**斐**あやる/光定、木村市正男)1766-1854*89* 下野益子の鹿島社社司家の生、

那須温泉神社小和泉家の養子;1816黒羽鎮国社社掌(黒羽藩主より招聘)、画;雲圃門、
円山応挙門、儒;皆川淇園門、頼山陽・篠崎小竹・大窪詩仏と交流、「檀山墨林」「国ふり」編、
「檀山拾葉」「檀森斎石譜」「檀山斐斎小言」1813「見聞録」編/28「河原児紀行」35「温古図」著、
[檀山(;号)の字/通称/別号]字;子章、通称;檀蔵、別号;青鸞/檀森斎/斐道人

単山堂(たんざんどう) → *善武*(よしたけ・唐木からき、国学/歌) Ｍ４７２７
丹山洞雲深処(たんざんとううんしんしょ)→*遠影*(とおかげ・丁野ちょうの、藩士/官吏/歌)Ｖ３１７５
丹三位(たんさんみ) → *親康*(ちかやす・丹波たんば、医者/典薬頭) Ｃ２８１１
探山野人(たんざんやじん) → *熊山*(ゆうざん・鴨井かもい、儒者/詩文) Ｃ４６０１

T2696 **丹糞**(たんし) ？－ ？ 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[妹が臾かほ蚊に吸はせじと寝ぬ夜哉](丁卯集/三蟲;蚊)

I2623 **探志**(探旨・探芝・探柴たんし)?- ？ 近江膳所の俳人:蕉門、1690「あめ子」90「ひさご」入、
1691「猿蓑」・91ノ松「西の雲」・94「炭俵」/93洒堂「深川」入集、1705「宝永二乙酉歳旦帖」入
[たどたどし峰に下駄はく五月闇](猿蓑;六/下駄履で山道を登ってきた;師への挨拶?)

I2624 **丹志**(たんし、別号;竹居ちくきょ)?- ？ 江中期相模小田原の俳人;紀逸系、
1730「東武三千句」54「其飛佐古」編

蜑子(たんし・寺町) → *百庵*(ひゃくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌)Ｅ３７４３
坦之(たんし・木村) → *清蔭*(せいいん・木村きむら、商家/詩歌) Ｈ２４４０
丹次(たんじ・大橋) → *直亮*(なおすけ・大橋、医者・国学/紀行) Ｂ３２３６
丹次(たんじ・今村) → *楽*(たぬし・ら・今村、医/国学/歌) Ｇ２６３４
丹次(たんじ・有元/大岡)→ *春川*(しゅんせん・大岡/藤原/有元、絵師)Ｐ２１２０
丹次(たんじ・黒川) → *通侃*(みちきよ・黒川くろかわ、庄屋/国学) Ｊ４１０１
丹治(たんじ・三宅) → *尚斎*(しょうさい・三宅/平出、儒者) Ｓ２２２９
丹治(たんじ・永井) → *勝則*(かつのり・永井ながい、藩士/日記) Ｎ１５７７
丹治(たんじ・田中/井上)→ *琴水*(きんすい・小野原おのはら、儒者) Ｒ１６２６
丹治(たんじ・高橋) → *義方*(よしかた・高橋たかはし、藩士/地誌) Ｃ４７６８
丹治(たんじ・高杉) → *春樹*(はるき・高杉たかすぎ、藩士/歌人) Ｋ３６３７
丹治(たんじ・椚島/島) → *高堅*(たかかた・椚島ぬでしま、藩士/回想録)Ｌ２６７４
丹治(たんじ・坂本) → *亮春*(りょうしゅん・坂本さかもと、和算家) Ｈ４９９６
丹治(たんじ・児島/佐々木)→ *高成*(たかなり・佐々木/児島/源、神道)Ｍ２６６３
丹治(たんじ・島村) → *昌邦*(まさくに・島村しまむら、武芸;水術) Ｃ４０３８
丹治(たんじ・沢潟) → *常尚*(つねひさ・沢潟おもだか/岡田/坂/荒木田、神職/国学)Ｆ２９５１
丹治(たんじ・西) → *秉常*(もちつぐ・西にし、陪臣/歌人) Ｋ４４９０
丹二(たんじ・たんに・大木) → *忠篤*(ただあつ・大木、里長/儒者) Ｐ２６１６
堪二(たんじ・中村) → *鼎山*(ていざん・中村/前川、書肆・俳人) ３０９３

I2625 **団士**(だんし) ？－ ？ 俳人;団水門、1710「雷盆木すりこぎ」編
弾司(だんし・福田) → *豊前掾*(初世ぶぜんのじょう・富本、浄瑠璃太夫)３８１０

I2626 **段二**(だんじ・松島まつしま、松島松兵衛、2世笠縫かさぬい専助)?-? 江戸の歌舞伎作者、1840笠縫専助襲名、
1858(安政5)「帰る雁」著

断治(だんじ;字・久米) → *訂斎*(ていさい・久米、儒者) ３０８３
断識(だんしき;字) → *介石*(かいせき;法諱・佐田さだ、真宗本願寺派僧)Ｉ１５８２
団七(だんしち・塩谷) → *排*(はい・渡辺わたなべ、商家/歌人/狂歌) Ｋ３６２４
団七(だんしち・中山) → *弘矩*(ひろつね・中山なかやま、藩士/歌人) Ｋ３７４１

I2680 **坦室**(たんしつ・高橋たかはし、名;広備)1771-1823*53* 水戸藩士/儒;長久保赤水門、藤田幽谷と並称、
1786彰考館入/大日本史編纂参加;立原翠軒一派と対立/1807彰考館総裁、08御用調役、
1803「銀海波瀾」、「坦室文録及雑録」「史臣賜宴図詩」「正道訓」著、
[坦室(;号)の字/通称]字;子大、通称;又一郎

淡室(たんしつ・八尾) → *玄長*(げんちょう:通称・八尾やお、医者) Ｌ１８３３

I2627 **団室**(だんしつ) ？－ ？ 伊勢の俳人、1715自邸に滞在の雲鈴と越路の旅;
(雲鈴「笈之若葉」入)

短尺堂(たんじゃくどう) → *艶士*(えんし・横田、壺谷軒、医者/俳人)Ｃ１３２３

弾沙彌(だんしゃみ)　→　*録山人信普*(ろくざんじんしんふ、戯作者)　５２８７

I2628 **湛秀**(たんしゅう;法諱・眞常房)1067-1122*56*　平安後期法相宗興福寺僧:永超門、
1115維摩会講師/已講、宮中・院家の法会に勤仕、「臨終行儀支度」「臨終行儀注記」著、
歌人:1124?「奈良花林院歌合」入/[楢葉集](1237刊)入、
[金光明経の善集品の心、
かくばかり妙なるのりを夢にみて覚めけむほどのをしもあるかな](楢葉;釈教563)

I2629 **但秀**(たんしゅう)　?-　?　京の貞門俳人、1665似船「蘆花集」入

I2681 **丹舟**(たんしゅう)　?-　?　江中期享保1716-36頃江戸雑俳点者・丹水門?、
「伽夕丹舟評万句寄集」著

I2682 **丹洲**(たんしゅう・栗本くりもと、名;昌臧まさよし、田村藍水男)1759-1834*76* 幕医栗本昌友の養嗣子、
幕府医官;1789奥医師/93養父隠居のあと4世瑞見襲名、医学館で本草学講義/1821法印、
博物学:薬品鑑定・動植物研究、1830シーボルトに自作図譜類を提示、「魚貝譜」「百鳥図」、
「丹洲魚譜」「栗氏禽譜」「栗氏虫譜」「異魚図纂」「王余魚図彙」「魚鳥獣草木図譜」「水虎考」、
1797「カラフト草木図」1811「千虫譜」26「巧婦鳥巣説」27「園生の錦」33「薬品会目録」外著多、
[丹洲(;号)の幼名/通称/別号]幼名;新次郎、通称;元東/元格/瑞見4世、別号;瑞仙院

淡洲(たんしゅう・井上)　→　*峨山*(がざん・井上いのうえ、藩士/儒者)　Ｈ１５４７

探秀(たんしゅう・狩野)　→　*祐清*(ゆうせい・狩野:中橋家14世、絵師)Ｃ４６９９

2688 **団十郎**(初世だんじゅうろう・市川、堀越重蔵男)1660-1704殺害*45* 歌舞伎役者;1673-81頃団十郎名、
荒事芸を創始、歌舞伎作者(10余作);1683「女若二河白道」93「不破伴左衛門嶋原狐」、
1695「薄雪右衛門桜」96「小栗袖日記」98「源平雷なるかみ伝記」99「当世小国歌舞伎」、
1700「景政雷問答」01「当世酒呑童子」03「成田山分身不動」「小栗十二段」04「移徙十二段」等、
俳人;才麿門、1704舞台で生島半六に刺殺された、
[初世市川団十郎の別号)市川海老蔵(;初号)/市川段十郎、筆名;三升屋兵庫、
俳名;才牛、屋号;成田屋、法号;円誉入室覚栄信士

2689 **団十郎**(2世だんじゅうろう・市川、堀越、幼名;九蔵、初世団十郎男)1688-1758*71* 1704襲名/歌舞伎名優、
荒事芸を完成/和事、俳諧、1730「父の恩」刊、「栢莚狂句集」「老の楽おいのたのしみ」著、
几董「其雪影」入、屋号;成田屋、
[2世団十郎の別号]市川海老蔵2世(;初号)、号;三升/才牛、俳名;栢莚(栢延はくえん)

I2630 **団十郎**(3世だんじゅうろう・市川、堀越、2世の養子)1721-1742早世*22* 江戸歌舞伎役者、1735襲名

2690 **団十郎**(4世だんじゅうろう・市川、堀越、2世の男)1711-78*68* 初世松本幸四郎の養子、歌舞伎役者:
1754団十郎を襲名、実事/実悪を演技、1776引退;深川木場に修行講を開設;後進指導、
木場の親玉と称される、俳人:1750「旅ごろも」著、
[4世団十郎の別号]2世松本幸四郎、五粒/佰莚、夜雨庵、屋号;成田屋

I2631 **団十郎**(5世だんじゅうろう・市川、堀越、4世の男)1741-1806*66* 歌舞伎役者/屋号;成田屋、1770襲名、
実事/実悪/和事に秀でる、狂歌/俳諧を嗜む、江戸劇壇の第一人者、1795「四方の巴流」画、
1797「狂歌友なし猿」、随筆「徒然吾妻詞」/俳文「独吟独詠徒然文題」、「狂歌猿百首」、
「白猿ひとりごと」「徒然文題」「ますくみ盃」、1804「五百騎虫の評判」焉馬と合作/「此手柏」、
[色かへぬ常着のまゝの紅葉葉は錦にまさる誉れなりけり](真間弘法ぐほう寺で手児名連想)
[5世団十郎の幼名/号]幼名;海丸/幸蔵、初号;3世松本幸四郎、
俳名;梅童/白猿/男女川/三升/反古庵、狂名;花道のつらね(狂歌堺丁連);

I2632 **団十郎**(6世だんじゅうろう・市川、堀越、5世の養子)1778-99早逝*22* 歌舞伎役者、1791襲名

2691 **団十郎**(7世だんじゅうろう・市川、堀越、5世の孫)1791-1859*69* 歌舞伎役者/屋号;成田屋、1800襲名、
広い芸域;実事/和事・世話物、1842幕府の倹約令に触れ江戸追放;地方巡業で全国的高名、
歌舞伎十八番を制定、合巻著作/俳諧/狂歌を嗜む、1814「封文不解庚申」17「五大力海賊」、
1813「一番太鼓春の曙」24「風俗女三国志」25「会席料理世界も吉原」30「江戸紫春乃曙」、
1831「筵猿狂句集」32「白猿三種」33「伽三味線閏爪弾」、「市川家代々隈取之図」外著多数、
[7世団十郎の幼名/号]幼名;小玉/新之助、初号;5世市川海老蔵/幡谷重蔵、
号;三升/白猿/夜雨庵/羈窓/二九にく亭/寿海老人/子福長者

I2633 **団十郎**(8世だんじゅうろう・市川、堀越、7世の男)1823-54自殺*32* 歌舞伎役者/屋号;成田屋、1832襲名、
容姿抜群/時代・世話狂言に秀でる、大阪で32歳で自殺;その死を悼む死絵が流行300余種、

「夜雨庵戯画」作、
[8世団十郎の号]　市川新之助/6世市川海老蔵、号;団栗/三升/夜雨庵
談洲楼(だんじゅうろう・立川たてかわ)→　*焉馬*(えんば・烏亭、狂歌・戯作)　Ｂ１３３３
2771　**湛俊**(たんしゅん;法諱)　？－　？　平安鎌倉期;南都の僧/法師、
1237刊[楢葉集]入、
[わかくさのにひたまくらのゆふつゆに月も宿かる武蔵野のはら](楢葉;羈旅625)
I2634　**探春**(たんしゅん・岩下いわした、名;通亮)1716-1785*70*　肥後の儒者/詩文・秋山玉山門、熊本藩士、
藩校時習館訓導/助教、「探春亭記」「桐子命」「左伝比事文矩」「摘腴」著、「探春園遺稿」、
[探春(;号)の字/通称]字;大雅、通称;吉右衛門
探春(たんしゅん・鶴沢)　→　*探山*(たんざん・鶴沢つるさわ、絵師)　Ｔ２６０７
I2683　**淡所**(たんしょ・横井よこい、名;時住/通称;次太夫)1705-1768*64*　紀伊和歌山藩士、
茶人:如心斎千宗左(原叟/表千家7世)門、「茶話抄」
I2635　**澹所**(たんしょ・平井ひらい、名;業、文輔男)1762-1820*59*　伊勢菰野福村の農家/句読;小沢子紹門、
詩;久保三水門、経学;1780江戸の関松窓門/文辞;平沢旭山門/1782昌平黌入学、
1791聖堂啓事仮役;1800辞職、1800伊勢桑名藩に招聘;02長柄奉行格/05藩儒、
1813藩校進脩館創設に尽力;総督に就任、「四書要解」「韻鏡指揮」著、「澹所遺稿」、
[澹所(;号)の字/通称]字;可大/君敬、通称;直蔵/東之進
澹所(たんしょ・松田)　→　*雪柯*(せっか・松田、神職/儒/書家)　Ｋ２４７７
I2636　**湛助**(たんじょ・てんじょ・とんじょ;法諱、湛誉男)?-?　社僧:南朝に出仕/熊野権別当:法印、
醍醐天皇吉野宮に随行;歌を詠進、新葉集558、
[あくがるる心を月にさきだてて都にかへる道急ぐなり](新葉集;羈旅558、
後醍醐天皇の吉野行宮にて月前旅を)
I2684　**澹如**(たんじょ・菊池きくち、名;教中、淡雅男)1828-62*35*　母;民子(歌人)、江戸の富商佐野屋を継承、
宇都宮藩士に抜擢、殖産/難民救済、詩/書画鑑定、勤王派を支援/1862坂下門外の変で投獄、
赦免出獄後すぐ急死、1858「澹如詩稿」59「淡雅行実」62「幽囚日記」著、
[澹如(;号)の字/通称/別号]字;介石、通称;佐野屋孝兵衛(父と同名)/教兵衛/介之介、
別号;貞軒、別号;義烈院
丹助(たんじょ→にすけ・黒坂)→　*維叙*(これのぶ・黒坂くろさか、幕臣)　Ｏ１９６４
I2637　**湛照**(たんしょう;法諱・東山とうざん:道号)1231-91*61*　備中吉備郡二万村の僧;初め浄土宗を修学、
のち臨済僧;東福寺円爾門;法嗣、京の三聖寺を開/万寿寺住寺、1282東福寺2世、
三聖寺に退隠;三聖寺派の祖、「寶覚禅師語録」著、虎関師錬の師、
[東山湛照の号]　号;十地/尊智上人、諡号;宝覚禅師
I2685　**旦松**(たんしょう・碓井/臼井うすい)?-?　江後期遠江の俳人、1840「新千鳥懸集」編
[旦松(;号)の通称/別号]通称:実蔵、　別号;泉井園/蕉斎
Y2617　**湛浄**(たんじょう;法諱・号;尊超院)1752-1805*54*　伊勢津の真宗大谷派光徳寺の僧、
国学者;本居宣長門
探情(たんじょう;字)　→　*不及*(ふきゅう;法諱・蔡華、真宗本願寺派僧)Ｂ３８４０
I2638　**談笑**(だんしょう・立川たてかわ)?－　?　落語家、1808-9噺会:三馬「落語会刷画帖」入
弾正(だんじょう・春日/高坂)→　*昌信*(まさのぶ・高坂こうさか、武将/軍学)Ｆ４０５３
弾正(だんじょう・日置)　→　*正次*(まさつぐ・日置へき、弓術家)　Ｄ４０８４
弾正(だんじょう・伊達)　→　*敏親*(としちか・伊達、領主/詩歌人)　Ｍ３１８２
弾正(だんじょう・小笠原)→　*忠雄*(ただお/ただかつ/ただたか・小笠原、藩主/故実)Ｐ２６２１
弾正(だんじょう・小笠原)→　*長保*(ながやす・小笠原、幕臣/日記)　Ｇ３２１９
弾正(だんじょう・村上)　→　*景広*(かげひろ・村上むらかみ、武将/城主)　Ｌ１５２８
弾正(だんじょう・沢田/中川)→　*経林*(つねしげ・中川/荒木田/沢田、神職)Ｃ２９２３
弾正(だんじょう・檜垣/橘村)→　*正允*(まさとき・橘村/度会、神職/国学)Ｅ４０３８
弾正(だんじょう・橘村)　→　*淳風*(きよかぜ・橘村、正允男/神職/歌)　Ｏ１６６９
弾正(だんじょう・成瀬)　→　*当栄*(まさひで・成瀬なるせ、藩士/記録)　Ｇ４０６５
弾正(だんじょう・島)　→　*重老*(しげおい・島しま、神職/国学/歌人)　Ｂ２１９４
弾正(だんじょう・力丸)　→　*東山*(とうざん・力丸りきまる、儒者/兵法)　Ｅ３１５６

弾正(だんじょう・松浦)　→　*桂川*(けいせん・松浦まつうら、藩士/儒者)　Ｅ１８７４
弾正(だんじょう・藤田)　→　*安貞*(やすさだ・藤田/北川、藩士/奉行)　Ｂ４５４７
弾正(だんじょう・藤田)　→　*安処*(やすずみ・藤田ふじた、安貞男/藩士)　Ｂ４５８０
弾正(だんじょう・中西)　→　*弘縄*(ひろつな・中西/度会、神職/国学)　Ｇ３７４１
弾正(だんじょう・小国)　→　*重年*(しげとし・小国/鈴木/清原、神職/国学)２１１４
弾正(だんじょう・児玉)　→　*卜胤*(ぼくいん・児玉こだま、神職/俳人)　Ｃ３９８９
弾正(だんじょう・二方)　→　*二方弾正*(ふたかただんじょう、神職)　Ｄ３８１５
弾正(だんじょう・刀禰)　→　*正治*(まさはる・刀禰とね/荒木田、神職)　Ｇ４０４６
弾正(だんじょう・小島)　→　*晴海*(せいかい・小島、藩士/儒者/詩)　Ｈ２４７１
弾正(だんじょう・牧)　→　*嵩振*(たかふる・牧まき、藩士/歌人)　Ｎ２６１６
弾正(だんじょう・黒田)　→　*増熊*(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌)　Ｉ４０９７
弾正(だんじょう・村松)　→　*善政*(よしまさ・村松むらまつ、神職/国学)　Ｐ４７５６
弾正(だんじょう・梅田)　→　*春鷹*(はるたか・梅田うめだ、神職/歌人)　Ｊ３６７９
弾正(だんじょう・奥村)　→　*忠順*(ただのぶ・奥村おくむら、藩士/歌人)　Ｗ２６３５
弾正(だんじょう・中川)　→　*清淵*(きよぶち・中川なかがわ、神職/歌人)　Ｔ１６３７
弾正(だんじょう・隈川)　→　*春雄*(はるお・隈川くまかわ/山口、歌人)　Ｋ３６０１
弾正(だんじょう・奥平)　→　*貞臣*(さだおみ・奥平おくだいら、家老/俳人)　Ｏ２０２１
弾正(だんじょう・斯波:変名)→　*繁実*(しげざね・岡谷おかや、藩士/勤王家)Ｓ２１７５

I2639 **弾松軒**(だんしょうけん)　？－　？　江前期文筆家、1686「諸芸小鏡」著
端祥斎(たんしょうさい)　→　*貞幹*(さだもと・藤原/藤とう、故実家)　２０２７
弾正左衛門(だんじょうざえもん・紀)→*頼弘*(よりひろ・紀/眞継、廷臣/記録)Ｊ４７６３
弾正左衛門(だんじょうざえもん・日置)→　*正次*(まさつぐ・日置へき、弓術家)Ｄ４０８４
弾正左衛門尉(だんじょうざえもんのじょう・尾藤資広)→　*如雄*(にょゆう、法師)Ｇ３３１１
弾正左衛門尉(だんじょうざえもんのじょう・朝倉)→*孝景*(たかかげ・朝倉、武将)Ｌ２６６６
弾正少弼(だんじょうしょうひつ・畠山)→　*政長*(まさなが・畠山/源、管領/連歌)Ｆ４０１７
弾正少弼(だんじょうしょうひつ・河野)→*通直*(みちなお・河野/越智、城主)　Ｃ４１５３
弾正少弼(だんじょうしょうひつ・相馬)→*昌胤*(まさたね・相馬そうま、藩主/歌人)Ｑ４０４３
弾正少弼(だんじょうしょうひつ・小笠原)→*長保*(ながやす・小笠原、幕臣/日記)Ｇ３２１９
弾正親王(だんじょうしんのう)→　*邦省親王*(くにみしんのう、歌人)　１２９４
弾正大弼(だんじょうだいひつ・真田)→*幸専*(ゆきたか・真田/井伊、藩主/歌人)４６１９
弾正大夫入道(だんじょうたいふにゅうどう)→*資連*(すけつら・布施/三善、室町幕臣)Ｃ２３４８
弾正太夫(だんじょうだゆう・岸)→*琴主*(ことぬし・中山/岸、音曲/八雲琴祖)Ｆ１９８１
弾正忠(だんじょうちゅう/だんじょうのじょう)→*利綱*(としつな・斎藤/土岐/藤原、武将/歌)Ｍ３１８８
弾正忠入道(だんじょうちゅうにゅうどう)→　*正次*(まさつぐ・日置へき、弓術家)　Ｄ４０８４
弾正尹邦省親王家少将(だんじょうのかみくにみしんのうけのしょうしょう)
→*少将*(しょうしょう・邦省親王家女房/歌人)　Ｎ２１６６
弾正五宮(だんじょうのごみや)→　*敦固親王*(あつもとしんのう、歌人)　Ｂ１０４２
弾正宮(だんじょうのみや)　→　*為尊親王*(ためたかしんのう、冷泉帝皇子)　２６６３
弾正宮(だんじょうのみや)　→　*忠房親王*(ただふさしんのう)　Ｆ２６７８

2794 **弾正宮の上**(だんじょうのみやのうえ、藤原伊尹9女[924-972])?-?　弾正宮為尊親王(977-1002)の室、歌人;花山法皇東院歌合(正暦990-994年間夏)参加(祝右;袋草紙に祝はざる歌);
[万代もいかでか果てのなかるべき仏に君ははやく成らなん](八雲御抄;是は珍事也)
深勝房(たんじょうぼう)　→　*性禅*(しょうぜん・深勝房、華厳僧)　Ｔ２２９０
断書居士(だんしょこじ)　→　*物外*(ぶつがい・谷川たにがわ、心学者)　Ｄ３８２７
淡如斎(たんじょさい)　→　*淳美*(じゅんび・樋口ひぐち、産科医)　Ｌ２１７９
澹如亭(たんじょてい)　→　*尚方*(なおかた・脇田、藩士/兵学)　３２９６
丹四郎(たんしろう・谷)　→　*垣守*(かきもり・谷たに、藩士/国学者)　Ｂ１５２５
丹四郎(たんしろう・高野)　→　*祇治*(まさはる・高野たかの、藩士/歌人)　Ｑ４０６９
鐔四郎(たんしろう・松井)　→　*直寛*(なおひろ・松井まつい/須田、藩医/歌)Ｏ３２８１

丹次郎(たんじろう・山本) → *若麟*(じゃくりん・山本/河村、絵師) Ｇ２１４１
丹次郎(たんじろう・大友) → *義路*(よしみち・大友おおとも/源/久世、高家旗本/歌)Ｋ４７９９
団四郎(だんしろう・木村) → *勝政*(かつまさ・木村きむら、藩士/兵法家) Ｎ１５８６
団次郎(だんじろう・山口) → *安固*(やすかた・山口やまぐち、藩士/儒者/用人)Ｇ４５９５
団次郎(だんじろう・鵜殿) → *春風*(しゅんぷう・鵜殿うどの、藩士/洋学者)Ｌ２１８２
断二郎(だんじろう・久米) → *訂斎*(ていさい・久米くめ、儒者/性理説) ３０８３

I2686 **探信**(たんしん・狩野かのう、名;守道、守邦男)1785-183551 狩野派絵師;父門/鍛冶狩野家7世、
幕府柳営御用を務める、探信守政とは別人、1832「古今金平録」著、
[探信(;号)の別号/通称]別号;興斎、 通称;守道探信もりみちたんしん

I2640 **儋人**(たんじん/せんじん・横山よこやま、名;樵、尊明男)1784-1810早世27 江戸の儒者;昌平黌出;精里門、
幕臣;幕府学問所儒員、読書家;尊経閣の数万巻の書を渉猟、「芸圃余談」著
[儋人(;字)の通称] 一郎

I2687 **団人**(だんじん、雲母荘) ？- ？ 江中期三河の雑俳点者、1758刊「笠の華」編
男人(だんじん・宇努) → *男人*(おひと・宇努首うののおびと、万葉歌人)Ｂ１４１４
但信院真了(たんしんいんしんりょう)→*普行*(ふぎょう;法諱、但信房、真宗僧)Ｂ３８４２
檀森斎(だんしんさい・小泉)→ *檀山*(だんざん・小泉/木村、神職/儒/画)Ｉ２６７９
但信房普行(たんしんぼうふぎょう)→ *普行*(ふぎょう;法諱、但信房、真宗僧)Ｂ３８４２

I2641 **湛水**(たんすい、俗姓;平岩)？- ？ 父は池田輝政の家士、江前期江戸の臨済宗妙心寺派僧、
母の千草澤女(法林院殿椿窓永春尼首座禅姉)開基の江戸池之端の法林[輪]寺を1630開山、
(法林寺はのち1701平岡衛門が中興し法林山正慶寺となる)、下河辺長流(1625-86)と交友、
歌人、1670長流「林葉累塵集」18首(長歌1首)入、茂睡[鳥の迹](1700刊)入、
[よのつねのみそかにくるるやよひさへけふを惜まで過しやはする]、
(三月小にてくるる春よめりける;[林葉累塵集]春下228)、
[子をうしなひける人に遣しける、
先立ちて消えにし末の露こそは残る袂のしづくとやなる]([鳥の迹]哀傷612)

I2688 **湍水**(たんすい) ？- ？ 江前期尾張の俳人、1689「あら野」9句入、
[それがしも月見る中うちのひとりかな](あら野;一)

I2642 **淡水**(たんすい) ？- ？ 江前期近江膳所の俳人、
1691江水「俳諧百人一句」入

I2643 **丹水**(たんすい) ？- ？ 江前期江戸の雑俳点者;調和門?、宗匠、
1702松葉軒「赤ゑぼし」/「たから船」入、02「小倉附おぐらづけ」/04冠楽堂人編「雪の笠」入

Q2643 **潭水**(たんすい) ？- ？ 水戸小川の俳人;1703不角「広原海わたつうみ」入、
[玄宗もこそぐる貴妃が空そら寝入](広原海/前句;桜とながめ又花と誉め/狸寝の女を起す)

I2689 **淡水**(たんすい・本山) ？- ？ 丹波亀岡の俳人、1719「誹諧盥の魚」編

I2690 **淡水**(たんすい・林はやし、名;通為みちため/字;立節)1701-8282 大阪開業医者/子弟教育、「軍歌辨義」校訂

I2691 **澹翠**(たんすい・坂倉さかくら、名;通貫)?- ？ 江中期1751-81頃大阪詩人、
1755刊「清詩選選」編
[澹翠(;号)の字/通称別号]字;之輔ゆきすけ、 通称;薑堅きょうけん、別号;貊亭ばくてい老人

I2692 **旦水**(たんすい) ？- ？ 江中期越後出雲崎の俳人;暁台門、
1775刊「佐渡日記」著

I2693 **湛水**(たんすい・小淵おぶち、別号;一露庵/竜斎)1778-185275 上州多野郡新町の医者、俳人、
「成蝶八章」著

I2694 **淡水**(たんすい・北脇きたわき、名;鴻/志鴻、字:翔雲)1803-5654 京の儒者/詩人、
1849・56「淡水庵詩鈔」著

淡水(たんすい・千葉) → *常一*(つねかず・千葉、和算家) Ｂ２９８８
淡水(たんすい・加藤) → *均斎*(きんさい・加藤かとう、暦算家) Ｑ１６９７
淡水(たんすい・近藤) → *玄瑞*(げんずい・近藤こんどう、医者) Ｋ１８３３
淡水(たんすい・河野) → *通義*(みちよし・河野、藩士/暦算/武術) Ｃ４１８８
淡水(たんすい・木俣) → *守易*(もりやす・木俣きまた/橘、藩老/楽焼) Ｊ４４７９
淡水(たんすい・国友) → *古照軒*(こしょうけん・国友、藩儒/教育) Ｍ１９８０

淡水(たんすい・稲川)　→ *好徳*(よしのり・稲川いながわ/水野、家老/歌)Ｌ４７５９
淡水(たんすい・水野)　→ *正芳*(まさよし・水野みずの、藩士/国学/歌)Ｓ４０９３
淡水(たんすい・佐久間)　→ *義済*(よしなり・佐久間さくま/赤川/中村、藩士/尊皇)Ｍ４７９７
丹水(たんすい、丹水子)　→ *玄医*(げんい・名古屋/名護屋、医者)　Ｈ１８６８
湛水(たんすい・新渡戸)　→ *維民*(これたみ・新渡戸にとべ、藩士/兵学)　Ｏ１９４８
湛水(たんすい・木全)　→ *雅直*(まさなお・木全きまた、商人/歌人)　Ｆ４０００

2692 **団水**(だんすい・北条/鳳城ほうじょう/山本?、名;義延よしのぶ)1663-1711*49* 大阪・京俳人;西鶴門、
談林系点者、元禄1688-1704頃雑俳点者(笠付・前句付等)、
1694大坂鑓屋町西鶴旧庵入り遺稿整理、自ら浮世草子著、書肆依頼で怪談集・歌謡集出版、
1705大坂誓願時で西鶴13回忌勧修;1706「こころ葉」(西鶴忌歌仙)を編纂、
俳諧;1688俳論「未曾有格」90「特牛ことうし」/90撰集「秋津嶋」91「団袋」92「くやみ草」編、
1702俳論「鳴弦之書」/04撰集「東西集」(秀可と共編)、1691律友「四国猿」入
浮世草子;1687「武道一覧」(新保氏入道名)「好色破邪顕正」(批判書;白眼居士名)、
1687「諸宗宝鑑」「色道大**鏡**」88「正月揃」1709「武道張合大鑑」1707「昼夜用心記」、
1708「野傾色三味線」09「武道張合大鑑」12「一夜船」13「本朝智恵鑑」「日本新永代蔵」、
「怪談諸国物語」「後可笑記」「弥之助」「男女色競馬」外、
西鶴遺稿編纂;1693「西鶴置土産」94「西鶴織留」95「西鶴俗つれづれ」96「万の文反古」刊行、
1699「西鶴名残の友」刊行、
[菜の花を出るや塗笠ぬりがさ菅すげの笠](くやみ草/菜の花に囲まれた街道筋の春景色)
[団水(;号)の別号] 団粋/団酔/橘堂/顕妙/平元/新保氏入道/白眼居士/滑稽堂/西鶴菴2世
団粋(団酔だんすい・北条)→ *団水*(だんすい・北条、俳人/浮世草子)　２６９２
淡水斎(たんすいさい)　→ *朝辰*(ともとき・成田なるた/羽生、占卜家)　Ｐ３１９２
淡水子(たんすいし)　→ *幸雄*(ゆきお・斎藤さいとう、名主/地誌)　Ｅ４６３４
淡水社(たんすいしゃ)　→ *腥湖*(せいこ・淡水社、書肆/俳人)　Ｉ２４０６
淡水舎(たんすいしゃ)　→ *永修*(ながまさ・田谷たや、神職/国学)　Ｎ３２６６
丹穂舎(たんすいしゃ)　→ *芳充*(よしみつ・吉田よしだ、庄屋/尊攘家)　Ｑ４７０６
淡水亭(たんすいてい)　→ *鷹信*(たかのぶ・近藤、歌人)　Ｍ２６７０
淡水亭(たんすいてい)　→ *伸也*(しんや、俳人/季寄)　２２８３
淡水堂(たんすいどう)　→ *貞庸*(さだつね・有沢ありさわ、藩士/記録)　Ｉ２０６５
胆助(たんすけ・案本)　→ *案本肝助*(あんぽんたんすけ、随筆)　Ｇ１０２１
団助(だんすけ・草野)　→ *石瀬*(せきらい・草野くさの、藩士/儒者)　Ｄ２４９４
団助(だんすけ・阿部)　→ *知成*(ともなり・阿部あべ、藩士/国学)　Ｔ３１８９

I2695 **弾誓**(たんせい/たんぜい/だんぜい)1552-1613*62*　尾張海辺村出身の修験者:1560(9歳)で出家、
幡随意ばんずいい上人門、美濃の塚尾観音堂に参籠/武芸の山中で20余年間念仏修行/諸国行脚、
箱根塔の沢阿弥陀寺を開、1601念仏道場として京の古知谷阿弥陀寺建立、
自ら即身仏になったとの伝承、「弾誓教」著
丹青(たんせい・西川)　→ *祐信*(すけのぶ・西川にしかわ、絵師/絵本)　Ｃ２３７４
弾政(だんせい・久野)　→ *弾政*(ただまさ・久野くの、神道家)　Ｑ２６８２
探生堂(5世たんせいどう)　→ *立安*(りゅうあん・山口、医者)　Ｃ４９６６

I2644 **丹青斎**(たんせいさい)　？-　？　狂歌、1785「後万載集」3首/「才蔵」入、1793「狂歌二葉艸」画、
[寄百合恋　ゆりおこしゆり起してもうつぶきて花の顔ばせ見せぬ床の間](後万載;589)
淡井斎(たんせいさい)　→ *風五*(楓呉ふうご・小林、商家/俳人)　３８５７
淡井舎(たんせいしゃ)　→ *風五*(楓呉ふうご・小林、商家/俳人)　３８５７
淡成舎(たんせいしゃ)　→ *休明*(保明やすあきら・鷲見すみ、藩士/歌人)４５８８

I2645 **丹青堂**(たんせいどう)　？-　？　浄瑠璃作者、
1787梅野下風と合作「廓景色雪の茶会」著
丹青堂(たんせいどう)　→ *北洋*(ほくよう・葛飾かつしか、絵師)　Ｅ３９０５
丹精[晴/靖]堂(たんせいどう)→　*長安*(ちょうあん・湊みなと、蘭医)　Ｈ２８１４
探生堂(5世たんせいどう)　→ *立安*(りゅうあん・山口やまぐち、医者/教育)　Ｃ４９６６
旦夕(たんせき)　→ *秋麿*(あきまろ、俳人/国学)　Ｄ１０９１

T2693 **探雪**(たんせつ・狩野かのう、名；守定もりさだ、探幽2男)1655-1714*60* 江前・中期絵師；父門、
1675別家を立つ、朝鮮贈呈屏風・御所障壁画などを制作、山下守範しゅはんの師、
[探雪(；号)の通称/別号]通称；主殿とのも、 別号；松岳/孟隣斎

I2646 **淡節**(たんせつ・内海/桜井、内海多次郎男)1810-74*65* 伊予松山の俳人・梅室門；養子；桜井家相続、
梅室男辰丸(桜井能監)を養育；1870家を嗣がせ自ら内海に復姓、72松山で門人指導、
のち京で活動/花本宗匠、1846-48「このみふくろ」編/48「喜春楽」編、50-62「四時行」編、
[淡節(；号)の通称/別号]通称；愛之丞、 別号；相応軒

I2647 **団雪**(だんせつ・杉井すぎい、鼓腹堂)?-? 江後期俳人；江戸沾徳座点者、
1848沾山7世「俳諧觿はいかいけい」28句入

暖雪楼(だんせつろう) → *東北斎飲居*(とうほくさいいんきょ・狂歌) Ｃ３０５６

I2648 **淡泉**(たんせん・近藤こんどう、名；昌明、点斎男)1774-1852*79* 肥後熊本藩士/医；父門/儒者；辛島塩井門、
初め藩医、藩時習館訓導/郡代/1841教授、「清風堂集」「蕉窓夜話」「史論」著、「淡泉遺稿抄」、
[淡泉(；号)の字/通称]字；子中、 通称；英助

淡泉(たんせん・釜屋) → *小徹*(しょうてつ/こてつ・釜屋かまや/古森、国学/画)Ｕ２２７６
担川(たんせん・千賀) → *信立*(のぶたつ・千賀ちが/せんが、家老/武術)Ｂ３５８８
探川(探泉たんせん・鶴沢)→ *探山*(たんざん・鶴沢つるさわ、絵師) Ｔ２６０７
湛泉(たんせん・新渡戸) → *維民*(これたみ・新渡戸にとべ、藩士/兵学) Ｏ１９４８
潭然(たんぜん；法名) → *定愷*(さだたか・久松/菅原、幕臣/日記) Ｉ２０３４

Q2610 **団扇**(だんせん) ？- ？ 江戸期上州安中の俳人；1695不角「昼礫ひるつぶて」入
丹前舎(たんぜんしゃ) → *山鳥*(三鳥さんちょう・岡おか、戯作者) Ｅ２０５７
探仙叟(たんせんそう) → *周山*(しゅうざん・吉村、絵師/根付) Ｘ２１４１
団扇堂(だんせんどう) → *百合*(ひゃくごう/ゆり・浅田、俳人) Ｅ３７４６

I2649 **儋叟**(たんそう・清田せいた/きよた、名；絢けん、字；元琰げんえん/君錦、伊藤竜洲男)1719-85*67* 京生/明石住/
儒；家学/梁田蛻巌ぜいがん門、古文辞学/朱子学に転向/詩文；皆川淇園富士谷成章と交遊、
1749福井藩儒/京住、「資治通鑑批評」「藝苑談」「五経旁訓」、「三先生一夜百詠」「唐詩府」、
「孔雀楼くじゃくろう筆記」「孔雀楼文集」「孔雀楼詩集」「千秋斎稿」著、「孔雀楼遺稿」、
錦里・江村北海の弟、
[嫉・妬・娼ほうノ三字 倶ニ女ニ従フ(女偏である)
然レドモ婦人ノ妬ムハ 男子ノ最モヨク妬ムニシカズ](孔雀楼筆記)
[儋叟の通称/別号]通称；文興/文平、 別号：孔雀楼主人/千秋斎、 法号；秀誉孝学賢利居士

2693 **淡窓**(たんそう・広瀬ひろせ、名；簡/建、貞恒[桃秋]男)1782-1856*75* 豊後日田儒者：南溟・昭陽門、詩文、
結核で退塾/独学；瞑想による独自の学問/教育；1805開塾/18咸宜かんぎ園創設；全国から門弟、
「遠思楼詩鈔」「淡窓詩話」「苓陽詩稿」、「約言」「析玄」「義府」、「六端紀聞」「淡窓日記」外著多数、
[情欲は我を生かすの物なるも 善くこれを用ひざればまた我を殺す](1828約言)
[淡窓(；号)の字/通称/別号]字；廉卿/子基、 通称；寅之助/内田玄簡/求馬、
別号；青渓/苓陽れいよう/遠思楼主人、諡号；文玄先生、
妹；秋子(あきこ・ときこ、淡窓が重病の時に懸命に看護)、
弟；旭荘きょくそう、養子；青邨せいそん、 門弟；大村益次郎/高野長英など3千人

淡叟(たんそう) → *一肖*(いっしょう・津民、駝岳、八千房4世) Ｃ１１８３
淡叟(たんそう・村垣) → *範正*(のりまさ・村垣むらがき、幕臣/日記) Ｆ３５７８
淡叟(たんそう・中堀) → *直秋*(なおあき・中堀なかぼり、藩士/歌人) Ｏ３２０９
淡叟(たんそう・服部) → *正名*(まさな・服部はっとり、家老/歌人) Ｒ４０８０
単宗(たんそう；黄檗号) → *大機*(だいき・祖全；法諱、臨済僧) Ｊ２６５５
丹噌(たんそう・野崎) → *義也*(よしなり・野崎のざき、名主/国学/歌)Ｏ４７４２
坦蔵(たんぞう・佐々木/藤井)→ *篁墩*(こうとん・吉田/藤井、医/儒者) １９１８
坦蔵(たんぞう・篠原) → *徴余*(澄余ちょうよ・篠原、儒者/書家) Ｋ２８０４
丹蔵(たんぞう・上月) → *専庵*(せんあん・上月こうづき、医者/詩賦) Ｌ２４５０
丹蔵(たんぞう・杉原) → *光基*(みつもと・杉原すぎはら/村井、国学者) Ｊ４１３４
丹蔵(たんぞう・福岡) → *勝準*(かつのり・福岡ふくおか/児玉、藩士/国学)Ｖ１５５３
丹造(たんぞう・佐野) → *千風*(ちかぜ・佐野さの/藤原、神職/国学)Ｍ２８６１

淡三(たんぞう・平井)　→　*綱信*(つなのぶ・平井ひらい、歌人)　Ｇ２９２１
談宗(だんそう;号)　→　*志玉*(しぎょく・総円、華厳入明僧)　Ｑ２１３１

I2650 **団蔵**(だんぞう・市川4世)1745-　1808*64*　歌舞伎役者;名優、「思花街容性」幡髄役、園部「団蔵待受噺」あり

団蔵(だんぞう・勝)　→　*源八*(げんぱち・勝井かつい、歌舞伎作者)　Ｃ１８９３
団蔵(だんぞう・滝川)　→　*万年*(まんねん、臨済僧)　Ｋ４０８０
弾蔵(だんぞう・尾池)　→　*春水*(はるみ・尾池おいけ、藩士/歌人)　Ｇ３６９０
弾蔵(だんぞう・牧)　→　*嵩振*(たかふる・牧まき、藩士/歌人)　Ｎ２６１６
弾蔵(だんぞう・粟屋)　→　*正論*(まさとき・粟屋あわや、藩士/弓術家)　Ｅ４０３６
檀蔵(だんぞう・小泉)　→　*檀山*(だんざん・小泉/木村、神職/儒/画)　Ｉ２６７９
淡村(たんそん・下田)　→　*直樹*(なおき・下田しもだ、国学者)　Ｎ３２３４

2786 **湛泰**(たんたい・円覚院)　？-　？　江中期;僧/歌人:1691了然尼撰[若むらさき]入、あかず見る花の匂ひを墨染の袖にもうつせ庭の春風(若むらさき;14/花のうた)

丹台(たんだい・樋口)　→　*元良*(げんりょう・樋口ひぐち、医者)　Ｎ１８０６
端太夫(たんだゆう/はしだゆう・原田)→　*靛山*(てんざん・原田、漢学)　Ｄ３０６２
暖太郎(だんたろう・日野)　→　*醸泉*(じょうせん・日野/岡田、儒者)　Ｋ２２５０

2694 **淡々**(たんたん・松木まつき、本姓;曲淵まがりぶち/乾いぬい、名;熊之助/伝七)1674-1761*88* 大阪の俳人;1693頃芭蕉門(師より呂国号)/1700頃其角門(渭北号)、06立几/07淡々に改号/08上洛、1716鷲峰山に半時庵創設;俳諧活動旺盛、32門人竿秋に松本姓と点印を譲渡/34大阪移住、1719「花月六百韻」催(大圭・李賦編)、「安達太郎根」編/「鹿島紀行」「ほとゝきす」「柴舟集」、1700「菊の賀集」09「其角一周忌」「誹諧磔山」19「三元吟」編/23「半時庵淡々撰集」、1730「神の苗」33「淡々雑談集」/34「二十歌仙」編/42「淡々文集」45「歳暖集」編、1746「淡々発句集」「同続篇」、1757「蜂媒集」58「紀行誹談」59「玉山記」外多数、1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集);六々韻入、追善集;一周忌追善「帰稲」・三周忌追善「三万日」、[嘶いななくや時雨の裏のあらび馬](淡々発句集/宿裏の荒れ馬の叫び声は自分の気持)

[淡々(;号)の通称/別号]　通称;曲淵宗治(;江戸)/森三楊(;京)、初号;一傘/因角、呂国、渭北いほく、寄傲舎、勃窣ぼっそつ、[庵号]半時庵、法号;高源朝水居士

坦々(たんたん・荒井)　→　*公履*(こうり・荒井あらい、藩士/儒者)　Ｌ１９５５
湛々(たんたん・岩井)　→　*重遠*(しげとお・岩井/巌井/祝いわい、和算)Ｒ２１６４
湛々翁(たんたんおう)　→　*来山*(らいざん・小西、俳人)　４８０１

I2696 **坦々斎**(たんたんさい)　？-　？　江後期名古屋の雑俳点者、1850「すゝしろ集二篇」

坦々斎(たんたんさい)　→　*他山*(たざん・工藤/古川、藩士/儒者)　Ｅ２６６０
淡々子(たんたんし)　→　*玄節*(げんせつ・植田、儒者/垂加神道)　Ｅ１８３１

I2697 **湛智**(たんち;法諱・号;蓮入房)1163-1237?*75?*　京大原の天台宗来迎院僧;智俊門、雅楽理論に基づく天台声明理論の確立に尽力、1231「声明用心集」、「声明口伝集」「長音曲」

旦智(たんち・長瀬)　→　*旦智*(あきとも・長瀬ながせ、歌人)　Ｇ１０７３
断中(だんちゅう・二宮)　→　*桃亭*(とうてい・二宮にのみや、医者/工芸)　Ｇ３１５９

I2652 **湛澄**(たんちょう;法諱・染問せんもん;字)1651-1712*62* 京の浄土僧;関東檀林で修学/京法恩寺14世、道歌、1687「三部仮名鈔諺註」/93法然歌集「空花くうげ和歌集」編、96「秋の初風」、1707「父子送迎要解」/08「桑葉和歌集」編、「説法用歌集」「般若心経鍵随聞記」外著多数、

[湛澄の法名]　信蓮社証誉/染阿/向西子

丹頂庵鶴丸(たんちょうあんつるまる)→　*玉蘭斎*(ぎょくらんさい・橋本貞秀、絵師)Ｄ１６１１
丹頂斎(たんちょうさい)　→　*一声*(いっせい、俳人)　Ｂ１１５３
丹鳥斎(たんちょうさい)　→　*政信*(まさのぶ・奥村、絵師)　Ｆ４０６４
単丁斎(たんちょうさい)　→　*宗薫*(そうくん・今井いまい、商家/茶/俳人)Ｂ２５１４
短長斎(たんちょうさい)　→　*紀逸*(初世きいつ・慶、俳人)　１６０１
丹頂叟(たんちょうそう)　→　*鶴夫*(たづお・長田おさだ、国学/歌)　Ｂ２６４４
丹頂堂(たんちょうどう)　→　*千山*(せんざん・井上、商家/俳人)　Ｆ２４４７
丹頂堂(2世たんちょうどう)　→　*寒瓜*(かんか・井上、千山男、俳人)　Ｄ１５４９

丹頂堂(3世たんちょうどう) → *寒烏*(かんう・井上、寒瓜男、俳人) Ｇ１５０９
丹頂堂(4世たんちょうどう) → *寒鴻*(かんこう・井上、寒烏門、俳人) Ｇ１５２５
丹頂堂(たんちょうどう) → *守三*(もりみつ・葛垣/葛巻、俳人) Ｇ４４６４
丹頂林(たんちょうりん) → *甘谷*(かんこく・坪田つぼた、俳人) Ｑ１５４８
単直水月(たんちょくすいげつ)→ *大玄*(だいげん;法諱・成誉、浄土僧) Ｊ２６９０

I2653 **端亭**(たんてい・辻つじ、名;達、了純男)1624-68*45* 京の儒者;1637江戸で林羅山門/水戸藩儒、藩主徳川頼房命で「東国通鑑」に訓点を施し刊行、「諸家系譜伝」「平氏譜」「端亭集」、「端亭随筆」「思堂先生行状」著、「端亭先生遺稿」、
[端亭(;号)の字/通称]字;思聡、通称;了的/聊適りょうてき

I2654 **談天門院**(だんてんもんいん・名;忠子/法名;蓮花智、辻忠継女)1268-1319*52* 母;平高輔女、後宇多天皇妃、1288尊治親王(後醍醐天皇)の母、98従三位/1301准三宮/03落飾/18院号宣下、亀山天皇の寵を受、
歌人/勅撰8首;続千載(93/1001/1133/1855)続後拾(318/1116)新千載(2013)新続古(1430)
[吉野山まがふ桜の色ならばよそにやみまし嶺の白雲](続千;春93)、

I2698 **談天門院帥**(だんてんもんいんのそち)?- ? 鎌倉後期後宇多天皇妃忠子女房、歌;続千載1823、
[涙にもなにくもるらん世のうきめみえぬ山路の秋の夜よの月](続千:雑1823)

坦蕩斎(たんとうさい) → *蓮成*(れんじょう;法諱、日蓮僧/歌人) Ｂ５１５３

I2699 **湛堂**(たんどう;道号・円澄えんちょう;法諱、俗姓;谷村)?-1704 山城八幡の曹洞僧;8歳で卍室祖价門、卍室の法嗣、尾張万松寺13世、京慈眼寺・大阪太平寺住、1680「曹洞五位抄或問」編

T2656 **湛堂**(たんどう;道号・超然ちょうねん;法諱、俗姓山田)1646-1728*83* 福岡曹洞僧;1660明光寺寂延門・出家、1697卍山道白門/嗣法、98筑前興宗寺開山、筑前東林寺住持、
1699「卍山和尚東林語録」編

Y2618 **湛堂**(たんどう;道号・) ? - 1797 江中期;京の天台僧、歌人;澄月門

T2657 **湛堂**(たんどう;道号・元丈げんじょう;法諱)1740-1806*67* 肥前佐留志村の臨済僧;肥前円通寺の礎山門、1759鎌倉建長寺の通玄元聡門/嗣法、鎌倉建長寺住持、「芝園集」著

V2692 **丹堂**(たんどう・海老原えびはら、)1820-1903*84* 薩摩谿山郡の生/讃岐金比羅神宮宮司/権教正、のち東京住

I2655 **坦堂**(たんどう・高橋たかはし、名;正功まさのり、正直男)1825-65刑死*41* 近江膳所藩士/儒・篠崎小竹門、膳所藩校遵義堂教授、小笠原流礼式;加藤木叟門、勤王;脱藩を企画;1648膳所城事件連座、捕縛され死刑、1864「蠡測篇」著、
[坦堂(;号)の字/通称/法号]字;有命、通称;作也、法号;蓮花院

坦道(たんどう;法諱) → *機外*(きがい;道号・曹洞僧、詩人) １６８５
坦堂(たんどう・富田) → *織部*(おりべ・富田とみた、勤王家) Ｃ１４００
湛堂(たんどう;字) → *慧淑*(えしゅく;法諱・湛堂、真言律僧) Ｄ１３９６
湛堂(たんどう) → *我泉*(がせん・高畑、俳人;素丸門) Ｍ１５７４
潭道(たんどう;初法諱) → *在禅*(ざいぜん;法諱、浄土僧/大僧正) Ｇ２０８８
澹堂(たんどう・石川) → *知新*(ともちか・石川いしかわ、神職/歌人) Ｕ３１１８
短頭翁(たんとうおう) → *貞佐*(ていさ・水原/中川、俳人) ３０７７
坦蕩斎(たんとうさい) → *坦斎*(たんさい・手塚てづか、藩士/儒者) Ｔ２６５０
歎徳沙門(たんとくしゃもん) → *日然*(にちねん;法諱・事妙院、日蓮僧) Ｄ３３１２
単阿(たんな) → *単阿*(たんあ)
丹内(たんない・谷) → *真潮*(ましお・谷/大神、神道/国学/歌) ４０２６

U2671 **男内**(だんない・犬塚いぬづか、名;秀実、男右衛門盛伝2男)1771-1822*52* 出羽庄内藩士;
郡代兼致道館司業大塚祐吉の弟、儒者;加賀山寛猛門、学識を有す;1801(享和元)五人扶持、1805(文化2)藩校致道館設立時に典学兼助教に就任、07幕命で庄内藩が蝦夷警備に出兵;
男内は大筒方並に松前隠密役で渡島、1809藩が松山藩荻野流砲術山本丈右衛門を招聘;
男内は各種火砲を試射の時入門;1814(文化11)免許皆伝;庄内藩荻野流の師範、
万年橋の自宅隣地に矢場を設置;砲術稽古/門弟多数(男内没後は石原末吉が継嗣)、
致道館は男内の恭敬派と白井矢太夫の放逸派対立;男内は家老水野重栄と結び実権把握、

1816男内の首唱で致道館を三の丸の内馬場町十日町口に移転;教育課程を整備、
1818(文政元)致道館司業を兼任;21新知百石、
[男内(;通称)の字/号]字;武仲、 号;東海

檀那院(だんないん) → *長算*(長讃ちょうさん;法諱、天台僧/歌) Ｉ２８４４
檀那院大僧正(だんないんのだいそうじょう)→ *親源*(しんげん;法諱、天台座主) Ｄ２２９５
檀那僧正(たんなそうじょう) → *覚運*(かくうん、天台僧) Ｊ１５４９
檀那房(だんなぼう) → *公誉*(こうよ;法諱、天台僧) Ｂ１９９９
丹二(たんに・大木) → *忠篤*(ただあつ・大木、儒者) Ｐ２６１６
探二(たんに・大久保) → *蔵岳*(ぞうがく・大久保おおくぼ、漢学;詩文) Ｇ２５６４
湛如(たんにょ) → *光啓*(こうけい、真宗西本願寺16世) Ｉ１９４１
湛如(たんにょ;字) → *日応*(にちおう;法諱、日蓮僧) ３３８５
湛如(たんにょ;字) → *日然*(にちねん;法諱・本源院、日蓮僧) Ｄ３３１０
湛慧(たんね;字) → *信培*(信倍しんばい;法諱・湛慧、浄土僧) Ｐ２２６１
澹寧(たんねい・飯岡) → *義斎*(ぎさい・飯岡いのおか/篠田、儒者/心学) Ｋ１６５１
澹寧居(たんねいきょ) → *石斎*(せきさい・上田うえだ、篆刻家) Ｋ２４０５
澹寧斎(たんねいさい) → *忠和*(ただとも・松平、藩主/天文/詩人) Ｑ２６１６

T2658 **湛然**(たんねん;道号・道寂どうじゃく;法諱、東条忠次男)1629-167951 薩摩僧;曹洞宗福昌寺貫和尚門;
1643出家/長福寺住寺、1666宇治黄檗宗万福寺木庵性瑫しょうとう門/74嗣法、曹洞宗の書類返還、
美濃下有知村の松洞院を開創、尾張竜雲寺・清水寺開山に招聘、「祥光開山湛然禅師語録」著

T2659 **湛然**(たんねん;道号・元皓げんこう;法諱、俗姓;東条)1683-176381 河内の黄檗僧;竹巌道貞門;出家、
嵯峨直指庵月潭道澄門/嗣法、大和東光寺住寺/直指庵住持、1747仙台大年寺10世、
「湛然元皓禅師大年禅師語録」著

Y2619 **湛然**(たんねん;法諱・号;玄牧)1758-182972 陸奥松島の僧/出羽久保田(秋田)の応供寺12世、
国学者/菅江真澄(白井秀雄)と親交;1804(文化７)真澄は応供寺を出発し男鹿遊覧に出る

淡然(たんねん・町尻) → *説久*(かねひさ・町尻まちじり/藤原、廷臣/神道) Ｖ１５７１
湛然(たんねん;字) → *乗恩*(じょうおん;法諱・湛然;字、真宗本願寺派僧) Ｈ２２４３
湛然禅師(たんねんぜんじ、定水湛然禅師)→ *大鼎*(たいてい;道号・禅圭、臨済僧) Ｋ２６６９
弾之進(だんのしん・毛利) → *匡琴*(まさこと・毛利もうり/大江、国学/歌) Ｔ４０１７
弾之介(だんのすけ・中村) → *滄浪亭*(そうろうてい・中村、藩士/儒者/武芸) Ｄ２５２８

E2600 **丹波**(たんば) ？－ ？ 平安後期女房歌人;
1149右衛門督家成家歌合参加;3首(女房土佐と参加)、
[黒髪に涙の玉のぬきかくるかずはかりなき恋もするかな](家成家歌合;右66)

I2656 **丹波**(たんば・今岡いまおか) ？－ ？ 講釈師、「徒然草」を読む

丹波(たんば) → *丹後*(たんご、褐子内親王家女房) Ｔ２６４３
丹波(たんば・中西) → *直方*(なおかた・中西、神道) ３２８５
丹波(たんば・大国) → *盛業*(もりなり・大国/荒木田、国学/歌) Ｇ４４１５
丹波(たんば・大国) → *士豊*(しほう・大国おおぐに、絵師) Ｆ２１７１
丹波(たんば・久志本) → *常辰*(つねとき・久志本/度会、神職/医者) Ｃ２９６３
丹波(たんば・小板橋) → *好里*(よしさと・小板橋こいたばし、国学・歌) Ｄ４７４４
丹波(たんば・高橋) → *延実*(のぶざね・高橋たかはし、神職/国学) Ｉ３５９５
丹波(たんば・八幡) → *光保*(みつやす・八幡、光瓊男/神職/国学) Ｋ４１８４
丹波(たんば・水野) → *保豊*(やすとよ・水野みずの/藤原、神職/国学) Ｇ４５８２

2695 **澹泊**(たんぱく・安積あさか、名;覚、希斎男)1656-173782 代々水戸藩士/儒者・朱舜水門、1683彰考館入、
史家、彰考館総裁;大日本史編纂に従事;完成に尽力、「大日本史賛藪」「朱文恭遺事」、
「湖亭渉筆」「舜水朱氏談綺」「西山遺事」「澹泊斎詩集」「澹泊集」「澹泊史論」外著多数、
[澹泊(;号)の字/通称/別号]字;子先、 通称;覚兵衛、
別号;澹泊斎/老圃/常山/老牛居/碧於亭

I2657 **澹泊**(たんぱく・井田いだ、名;均)?-1866 美濃大垣の儒者・菱田毅斎・佐藤一斎・亀田鵬斎門、
大垣藩儒;講官、易経・論語に精通、1859「論語経綸」64「忠経発蒙」著、
[澹泊(;号)の字/通称]字;耕夫、 通称;徹助

澹泊斎(たんぱくさい・山本)→ *澹斎*(たんさい・山本、医者/儒者/詩文) Ｉ２６１７
澹泊斎(たんぱくさい・安積)→ *澹泊*(たんぱく・安積あさか、儒者) ２６９５
丹波元鵬(たんばげんぽう) → *元鵬*(げんぽう・中山なかやま、医者) Ｍ１８３６
丹波太郎(たんばたろう・井坂)→ *徳辰*(あつとき・井坂、神職/歌人) Ｅ１０７０
丹波阿闍梨(たんばのあじゃり)→ *皇慶*(こうげい;法諱、天台僧) Ｉ１９４３
丹波大女娘子(たんばのおおめのおとめ)→ *丹波大女娘子*(たにわのおおめのおとめ、万葉歌人)Ｇ２６３２
丹波守(たんばのかみ・久志本)→*常辰*(つねとき・久志本/度会、神職/医者)Ｃ２９６３
丹波守(たんばのかみ・毛利)→ *正春*(まさはる・毛利、神職/調査記録) Ｇ４０４３
丹波守(たんばのかみ・磯野)→ *政武*(まさたけ・磯野/源/平塚、幕臣/歌)Ｄ４０３５
丹波守(たんばのかみ・青木)→ *永章*(えいしょう・青木、神職/歌人) １３３５
丹波守(たんばのかみ・南部)→ *信誉*(のぶのり・南部なんぶ、藩主/歌) Ｇ３５７６
丹波守(たんばのかみ・鳥居)→ *忠挙*(ただひら・鳥居とりい、藩主/歌) Ｕ２６１９
丹波守(たんばのかみ・山口)→ *直清*(なおきよ・山口やまぐち/伊達、旗本/国学)Ｐ３２１６
丹波守(たんばのかみ・清水 → *吉英*(よしひで・清水しみず、神職/国学) Ｎ４７２７
丹波守(たんばのかみ・浦上)→ *利延*(としのぶ・浦上うらがみ、神職) Ｕ３１３７
丹波守(たんばのかみ・太田)→ *宗喬*(むねたか・太田おおた、神職/国学) Ｄ４２６９

2696 **丹波掾**(たんばのじょう・桜井さくらい、初世和泉太夫)?-? 1704存 金平浄瑠璃、1660北国落、「菅原親王」「頼光跡目論」著

丹波介(たんばのすけ) → *勝信*(かつのぶ・石田いしだ、儒者) Ｎ１５７４
丹波介(たんばのすけ・青木)→ *行忠*(ゆきただ・青木あおき/宗岡、官人/歌) Ｇ４６４４
丹波介(たんばのすけ・青木)→ *永章*(えいしょう・青木、神職/歌人) １３３５
丹波介(たんばのすけ・並河)→ *尚美*(ひさよし・並河なみかわ/平、医者/歌) Ｋ３７４８
丹波中将(たんばのちゅうじょう)→ *雅通*(まさみち・源、廷臣/歌) Ｈ４０３９
丹波中納言(たんばのちゅうなごん)→ *秀秋*(ひであき・小早川/羽柴、武将/城主)Ｈ３７９８

E2694 **丹波乳母**(たんばのめのと・源雅通女)?-? 1045後冷泉天皇即位に出仕:栄花物語入、備前典侍と同一か?
→ *備前典侍*(びぜんのすけ・源兼長妻、後拾遺歌人)Ｃ３７５３

丹波屋亀祐(たんばやかめすけ)→ *亀祐*(かめすけ・土岐/中村、陶工) １５４２
丹波屋五平(たんばやごへい)→ *小道*(こみち・初世柳条亭、商家/狂歌) Ｆ１９８８
丹波屋西左衛門(たんばやせいざいもん)→ *確斎*(かくさい・武内、読本) Ｅ１５６８
丹波屋伝兵衛(たんばやでんべえ)→ *分外*(ぶんがい・梁瀬やなせ、書肆/俳人)Ｅ３８９１
丹波屋利[理]兵衛(たんばやりへえ)→*多田爺*(ただのじじい・田舎老人、姓;人見、書肆/戯作)２６３０
弾番(だんばん・前田) → *孝本*(たかもと・前田まえだ、藩士/記録) Ｎ２６４４
男梶(だんび) → *男梶*(おかじ、俳人) Ｄ１４３７
炭瓢(たんぴょう・大野) → *景山*(けいざん・大野、俳人) １８５８
炭瓢斎(たんぴょうさい) → *秀和*(しゅうわ・大野、武士/俳人) Ｉ２１４８
炭瓢斎(たんぴょうさい・赤沼)→ *節山*(せつざん・赤沼あかぬま、漢学者) Ｅ２４３８
湛夫(たんふ・山口) → *安斎*(あんさい・山口やまぐち、医者) Ｇ１００６

K2603 **丹楓**(たんぷう) ？- ？ 俳人;1698沾圃ら「続猿蓑」入
[明月や声かしましき女中方](続猿蓑:下)

丹楓(たんぷう・辻つじ) → *今道*(いまみち・礪波となみ/辻つじ、漆工/国学者)Ｉ１１２８
丹楓(たんぷう・関) → *鉄之介*(てつのすけ・関、藩士/桜田門外変)Ｃ３０５９
灘風(たんぷう) → *風光*(ふうこう・和知、俳人) ３８５８
蒼蔔叟(たんふくそう) → *澹空*(たんくう;法諱・旭応;字、浄土僧) Ｔ２６２９
団平(だんぺい・土肥) → *教興*(のりおき・土肥どひ、藩士/歌人) Ｊ３５２７

K2605 **湍兵衛**(たんべえ・長瀬ながせ、源左衛門の養子)?-1708 江前期加賀金沢藩士;郡奉行(650石)、1704「石川河北能美郡由来帳」著

団兵衛(だんべえ・原田) → *能興*(よしおき・原田/原、藩士/和算家) Ｃ４７４０
憚甫(たんぽ・伊沢) → *蘭軒*(らんさい・伊沢いさわ、藩医/詩人) Ｂ４８９３
淡圃(たんぽ・原) → *脩斎*(しゅうさい・原はら、儒者/詩人) Ｘ２１３２

旦暮庵(たんぼあん)　→　*野巣*(やそう・小林こばやし、藩士/俳人)　Ｄ４５６６

K2606 **昆峰**(たんぽう;道号・海皓/海顥かいこう;法諱、俗姓;目賀多めかた)1669-1743*75*　近江八幡の黄檗僧:
永源寺南嶺門;出家/京直阿指庵の独照性円門/長崎崇福寺の千呆性俟しょうあん門、
1696師千呆の侍者として宇治万福寺住/1701嗣法、05崇福寺25万福寺住/28近江正明寺住、
1732仙台大年寺住持/42京山科の福聚院退隠、1742「大悲円満国師碑銘」著、
[昆峰海皓の号]　東湖

I2658 **丹峯**(たんぽう;法諱)　？-　？　室町中期臨済僧/和尚、夢想疎石の法孫、仏陀院住、
1372前「新撰遊覚[類従]往来」(遊学往来)著

男房(だんぼう・津田)　→　*典*(てん・津田つだ、国学者/歌)　Ｅ３０９０

探芳庵(たんぽうあん)　→　*柳渓*(りゅうけい・清水しみず、藩の茶人)　Ｄ４９４９

2697 **単朴**(探牧たんぼく・伊藤いとう)1680-1758*79*　江戸石町の医者/正徳1711-16頃八王子青柳に隠棲、
俳人;其角門/教訓談義本作者(1752から5部)、1752「教訓雑長持」、54「銭湯新話」、
没後刊;「教訓差出口」「不断用心記」「楚古良探」著、
[物は郷を離れて貴く　人は郷を離れて賤し](教訓雑長持)
[単朴(;号)の通称/別号]通称;半右衛門、別号;青柳散人/売炭翁/山洞(;俳号)、
法号;心空相観居士

I2659 **潭北**(たんぼく、常盤ときわ/初姓;渡辺、名;貞尚)1677-1744*68*　下野那須烏山の医者、俳人・其角門、
蕪村と親交/1716祇空と奥州行脚;「烏絲欄」、農民教育;1721「民家分量記」34「民家童蒙解」、
俳書;1716「汐越」24「俳諧婦登古呂子」32「誹諧反古拾遺」、1722「今日の月日」「後の月日」著、
「としのみどり」「野総茗話」「野総茗話」著、
13回忌追善集「俳諧さゝれ貝」(潭考編)/33回忌追善「野の菊」、
[我を誉ほむる者は末の仇　我を譏そしる者は当座の師](民家分量記)
[山水の一砂おして野菊かな]
[潭北の字/別号]字;堯民、別号;百華/百華荘/百花斎/新井堯民

端木(たんぼく→はしき・井上)→*常之*(つねゆき・井上/小原、商家/歌人/画)Ｅ２９１５

淡墨斎(たんぼくさい)　→　*鳴門*(めいもん・井川いかわ/橘、書家/絵師)　４３４０

淡墨斎(たんぼくさい)　→　*鳴門*(めいもん・鈴木すずき、藩の絵師)　４３４２

I2660 **旦暮畔道**(たんぼのあぜみち、畑[畠]はたけの畦道、艾屋よもぎや伝衛門)?-?　江戸京橋の商家/狂歌・スキヤ連、
1787才蔵集入、
[あはれなり常なきものとしら露のころりころりをみるにつけても](才蔵集;八338)

探丸(たんまる、藤堂良長)→　*探丸*(たんがん・藤堂良長、俳人)　Ｉ２６０４

潭明(たんめい・西依)　→　*成斎*(せいさい・西依にしより/西、儒者)　Ｂ２４５５

鍛名太郎(たんめいたろう・島崎)→　*正樹*(まさき・島崎、庄屋/国学者)　Ｃ４０２９

2698 **丹野**(たんや・本間ほんま、名;主馬/通称;佐兵衛)?-?　江前期近江膳所の能楽太夫、俳人、
1696長水「桃舐集」入、1698「続猿蓑」芭蕉詞書入、1702轍士「花見車」入

淡也(たんや・畑中)　→　*建得*(たけのり・畑中はたなか/齋藤、藩士/連歌)Ｙ２６９９

I2661 **探幽**(たんゆう・狩野かのう、名;**守信**もりのぶ、孝信男)1602-74*73*　母;佐々成政女、江戸の狩野派絵師;父門、
1617幕府御用絵師/21鍛冶橋門外に屋敷を賜る;鍛冶橋狩野派の祖、江戸城障壁画、
大坂・二条・名古屋の各城および日光東照宮・御所などの障壁画制作、1662宮内卿法印、
書・点茶・歌を嗜む、「東照宮縁起絵巻」「家康公参内絵詞」「鵜飼図」「探幽縮図」外多数、
[探幽(;号)の通称/別号]通称;四郎次郎/采女/宮内卿、別号;探幽斎/筆峯/白蓮子/生明、
法号;玄徳院

探幽四天王・・・探幽門下の四人の優れた絵師
→　*守景*(もりかげ・久隅くすみ、?-?)　Ｆ４４２４
→　*柳栄*(りゅうえい・桃田、1647-1698)　Ｃ４９８３
→　*探山*(たんざん・鶴沢、1655-1729)　Ｔ２６０７
→　*遠沢*(えんたく・加藤、1643-1730)　Ｆ１３６４

T2660 **淡遊**(たんゆう・弭間はずま、名;貞松/貞治/貞次)?-?　江後期出羽庄内藩士/俳人;文二[松童窟]門、
鶴岡住;邸内草庵で門弟指導/1831本鏡寺境内に風草[鶴岡俳人;1689-1761]の句碑建立、
「俳諧百人一集」編、1831「ふくべ集」編、

［淡遊(;号)の通称/別号］通称;五郎右衛門、別号;合漠舎
団友(だんゆう、団友斎) → *凉菟*(りょうと・岩田/神風館3世、俳人) ４９２１
T2661 **探誉**(たんよ;法諱) ? - ? 丹後峰山の浄土宗常立寺住職、
屋代弘賢の諸国調査の答「風俗問状答」編
団誉(だんよ;法名・行蓮社)→ *聞諦*(もんたい;法諱、浄土僧) Ｉ４４３０
檀誉(だんよ;法名・梅蓮社)→ *乗阿*(じょうあ;法諱、浄土僧/増上寺貫主)Ｕ２２９６
X2647 **探容**(たんよう・沖おき、探高男)?-1839 江後期狩野派絵師;
1822(文政5)父の跡継承;鳥取藩御用絵師沖家6代目、江戸詰;20俵5人扶持/10俵加増、
鳥取藩士;10代藩主池田慶行の画の師/1835探沖に改名、児玉渕泉(のち沖一峨)の養父、
「因幡八景図」「花鳥図」「四季山水図屏風」「獅子に文殊図」画、
☆因幡八景図;因幡の美景8つを探容が画に描き鳥取藩士8人が歌を添えている、
①湖山落雁(中島宜門)・②丸山秋月(篠田惟成)・③妨己尾晩鐘(飯田秀雄)・
④賀露帰帆(宮原積)・⑤三嶋夜雨(小林大茂)・⑥濱坂夕照(小林大茂)・
⑦松原晴嵐(小谷古蔭)・⑧鷲峰暮雪(飯門年平)
丹陽斎(たんようさい) → *守俊*(もりとし・水野みずの、藩士/文筆家) Ｆ４４９３
丹陽坊(たんようぼう) → *道寿*(初世どうじゅ・長沢ながさわ、医者) Ｅ３１８６
断楽道人(だんらくどうじん) → *玄透*(げんとう:道号・即中、曹洞僧) Ｂ１７２４
耽楽亭(たんらくてい) → *路玉*(ろぎょく・耽流亭、俳人) ５２７４
淡理(たんり・小野) → *田守*(淡理たもり・小野、大使/歌人) Ｈ２６６９
Y2616 **堪龍**(たんりゅう;法諱) 1727 - 180478 伊勢津の真宗大谷派光徳寺8世
単隆(たんりゅう;字) → *玉竜*(ぎょくりゅう;法諱・恵光、真宗僧) Ｐ１６４３
探竜斎(たんりゅうさい) → *呂圭*(ろけい・中沢なかざわ、文筆家) Ｂ５２２６
耽流亭(たんりゅうてい) → *路玉*(ろぎょく・耽楽亭、俳人) ５２７４
檀林軒(談林軒だんりんけん)→ *松意*(しょうい・田代たしろ、俳人) Ｑ２２８５
檀林皇后(だんりんこうごう) → *嘉智子*(かちこ、橘清友女、嵯峨皇后) Ｃ１５３７
T2662 **丹嶺**(たんれい;道号・祖衷そちゅう;法諱、俗姓田辺)1624-171087 若狭三方郡佐田村の曹洞僧;奪叟門、
1632(9歳)出家/諸国遊歴/加賀金沢宝円寺の月嘯虎白門;嗣法、若狭発心寺・芳春寺住持、
宇治黄檗宗万福寺隠元・木庵に参禅、近江霊水寺・美濃金久寺・三河大沢寺・加賀宝円寺住持、
1695丹波法華寺開山、1668刊「説法明眼論添削鈔」、「発微録訓蒙記」著、
［丹嶺祖衷の初法諱］初法諱;順松
T2663 **単霊**(たんれい;法諱・往誉おうよ;字)?-1780 江中期江戸芝の浄土宗増上寺の僧/1770幡随院住、
1777常陸瓜連の常福寺49世、宗名公称に関し西本願寺弾劾文に反駁、1775「鸞徒顕偽辨」著
T2664 **丹霊**(たんれい・川北かわきた、名;朝弘ともひろ/屋号;阿古屋)?-? 江後期伊勢の商家;阿古屋、
国学者、「諸国名義辨」「言美霊正義」著、
1837「大祓詞考釈論」「大祓祝詞考釈論」/62「伊豆母廼美多麻」(須原屋伊八版)著
T2665 **単嶺**(たんれい;号) ? - ? 江末期信濃埴科郡屋代の俳人:常人門、
「花ほこり」著
丹嶺(たんれい) → *朴庵*(ぼくあん・佐藤、独笑庵、詩/俳人) Ｃ３９８６
I2663 **男鈴**(だんれい) ? - ? 江中期京の俳人・淡々門、1728柳岡「万国燕」入(695)、
［浴衣着て四面目の下出し茶呼ぶ］(万国燕;百韻竟宴第5句/出し茶は煎茶)
(峠の茶屋の眼下の絶景;茶がほしいが人がいない)
檀嶺(だんれい・前嶋) → *由之*(よしゆき・前嶋まえじま、和算家) Ｉ４７０２
端連(たんれん・花房) → *端連*(まさつら・花房はなぶさ/徳田、藩士/歌)Ｒ４０８２
檀蓮社雄誉松風(だんれんしゃゆうよしょうふう)→*霊巌*(れいがん;法諱、浄土僧)５１１７
坦路(たんろ・八木田) → *政徳*(まさのり・八木田やきた、藩士/詩歌俳)Ｔ４０２９
堪露(たんろ・佐藤) → *晩得*(ばんとく・佐藤さとう、藩士/俳人) Ｉ３６４４
蟫廬(たんろ・渋谷) → *惊逸*(そういつ・渋谷しぶや、医者/詩文) Ｆ２５９９
I2667 **潭朗**(たんろう)(人物未詳)? - ? 平安末期大学助、説話集録、「金言類聚抄」撰